

2026
経営学部

SYLLABUS
シラバス

— 授業の内容と計画 —

明 治 大 学

シラバスとは？

シラバス（Syllabus）とは、皆さんが本学部で学習を進めるに当たり、自主的な履修計画の参考として作成しているものです。

この冊子には、本年度に開講する経営学部設置科目の授業の概要・到達目標、授業内容及び成績評価の方法等を記載しています。

皆さんは、この冊子をよく読み、どのような科目を受講するか検討し、履修科目を決定することになります。

本学部の教育目標は、「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成です。そのために教室内での授業だけではなく、実践・実習教育にも力を入れています。「卒業に必要な単位数」は「経営学部便覧」に記載しているとおりですが、定められた単位を修得するだけではなく、自分の目標・目的を定め、それに沿った学習を心がけてください。

多角的にものごとを見る眼を養い、時代の趨勢を読み解き、自分の人生を切り開くきっかけを掴んでください。

記載項目の説明

科目区分／科目ナンバー			
科目名 「メディア授業科目」においては、科目名の最後に〔M〕が付きます。			
担当者名			
単位数	履修開始年次	開講期	開講キャンパス
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉学問分野や学習項目などを統括的に記載しています。 〈到達目標〉科目を習得することによって学生が身につけることができる知識や素養技術を記載しています。			
2. 授業内容 各回の授業内容を記載しています。			
3. 履修上の注意 履修する上での心構えや注意事項、授業の進め方、語学検定試験スコア条件、前提履修及び同時履修が望ましい科目、他に履修することが望ましい科目等の情報を記載しています。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習や復習についての情報、読んでおくべきテキストなどを記載しています。			
5. 教科書 著者名・書名・出版社の情報を記載しています。			
6. 参考書 書籍・文献リストを記載しています。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 試験やレポート等の課題に対するフィードバックの方法について記載しています。			
8. 成績評価の方法 成績評価基準及び方法について記載しています。			
9. その他 履修上必要な学生への情報を記載しています。			

【経営学部ディプロマ・ポリシー】

2026 年 4 月 1 日改正

目指すべき人材像

明治大学経営学部は、高度経済成長を目前に控えた 1953 年に、経営教育の必要性という時代の要請に応え、私学最初の経営学部として創設されました。以来、常に社会を牽引する経営人材を輩出してきました。現在の教育理念は、「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成です。複眼的視点をもって、ローカルからグローバル、営利から非営利にわたる幅広い経営課題を発見・解決し、新しいビジネス環境の開拓から、日常業務の価値を見いだすことに至るまで、組織体をリードできる高い倫理観を持った「個」の強い人材を養成していきます。

経営学科は、予測が難しい環境のなかでも、革新と創造により、企業をはじめとする経営主体の価値向上を探究できる人材を育成します。

会計学科は、会計というグローバルビジネス言語を用いて組織体の社会的価値を創造・評価することができる人材を育成します。

公共経営学科は、行政組織や公共サービスを担う組織を通して、社会課題を発見・解決できる人材を育成します。

そのための具体的到達目標

経営学部では国内から国際社会まで幅広く活躍できる人材育成のため、以下の能力の獲得を目標にします。

- (1) 経営組織の構成と運営の原理に関する学術知・実践知を用いて、多面的な視野から経営課題を発見・分析し、経営主体の使命と価値創出に向けて創造的な解を導き、実践する能力
- (2) 会計の専門知識を用いて組織体の状況や活動を可視化し、人々の円滑なコミュニケーションを図り、組織体の価値創造や価値評価を主導する能力
- (3) 多様化・複雑化する社会の複合的な課題を発見・分析し、諸理論と現場知の往復に基づく柔軟な思考力により持続可能な公共的価値を創造する能力
- (4) 目的達成のためにメンバーと協働できる能力
- (5) 自己の基盤となる文化と異文化とを相対化し、様々な文化的背景を持つ人々と協働する能力
- (6) 情報や考えを他者と共有することの意味を理解し、それぞれの価値や共通する価値を見出すことのできる能力
- (7) 事実やデータに基づいて分析し、論理的に思考できる能力

学部必修科目、教養科目、外国語科目、体育実技科目、基礎専門科目、学科専門科目などを履修し、本学学則に定める期間に在学し、かつ所定の卒業に必要な単位数を満たした者に学士（経営学）の学位を授与します。

【経営学部カリキュラム・ポリシー】

2026 年 4 月 1 日改正

教育課程の理念

経営学部では「グローバル経営人材」と「価値創造人材」の育成という教育目標を実現するために、知識と体験を有機的に組み合わせることで、多様なビジネス環境に対応できる人材や豊かな人間性を育む教育課程を編成します。

教育課程の構成

教育課程は、学部必修科目、教養科目、外国語科目、体育実技科目、基礎専門科目、学科専門科目などにより構成しています。

1・2 年次には広い視野とアカデミック・リテラシーを育成するために、教養分野とリテラシー教育を充実させています。学科には 2 年次より所属し、専門分野を学びます。1 年次には、学部必修科目として、春学期に経営に関する学修を進めるための第一歩となる経営総論を配置し、そして、秋学期に各学科名を冠した経営学、会計学、公共経営学を配置することで、学科選択に資するとともに、各学科での学修を進めるための基礎力を養います。さらに、グローバル経営人材の育成のために英語スキルと英語による専門科目を組み合わせた G R E A T (Global Resources English Applied Track)、価値創造人材育成のために課題発見・解決能力を高める経営総合講義（アクティブラーニング）、公認会計士や税理士などの高度職業会計人を養成する C A P (Course of Accounting Profession)、デジタル経営人材を育成する D I G I T (Digital Insights for Growth and Innovation Track) など、主体的・能動的に学べる科目やトラックを配置し、インパクトの高い初年次教育を行います。

また、フィールドスタディやグローバル・サービ斯拉ーニング等による体験学習も 4 年間を通して履修できるようにして、多様な価値観と実践力を養います。

学部教育の中心的な役割を果たす演習は 2 年次秋学期からの 2 年半タイプと 3 年次からの 2 年タイプを設置しています。授業で学修したことを活用して、調査研究、プレゼンテーションや論文作成など、総合的な能力を養います。

経営学科は、経営理論、経営管理論、経営組織論、企業論、経営科学、人事労務、経営史に関する科目群を設置しています。

会計学科は、世界に通用する会計および経営に関する知識・スキルを環境・社会・ガバナンスの視点から体系的に修得できる科目群を設置しています。

公共経営学科は、行政経営や、国際協力・スポーツ・健康・福祉などの公共サービスのマネジメントを修得できる科目群を設置しています。

教育課程の特長

- (1) 1 年次に学部学科教育の内容を理解して、2 年次から学科に所属します。
- (2) 学科間の垣根は低く、他学科の講義や演習を履修できるなど、ゆるやかな学科制を採用することで、複眼的思考に優れた人材の育成を図ります。
- (3) 教養教育から各学科の専門教育まで、多様な演習教育を実践しています。
- (4) G R E A T や学部独自の段階的留学・海外体験プログラムを用意して、国際化を推進しています。
- (5) 机上における知識だけでなく、体験から学ぶことを重視し、フィールドスタディや経営総合講義、グローバル・サービ斯拉ーニングなどの科目を設置しています。
- (6) 公認会計士や税理士などの高度職業会計人を目指す学生をサポートするトラックとして、C A P を設置しています。

- (7) TOEICやTOEFLの学内実施や日商簿記検定の団体受験など、資格取得を推進しています。
- (8) 短期留学プログラムIBP (International Business Program) 及びISIBM (International Summer Institute of Business Management) を実施しています。
- (9) カナダのヴィクトリア大学とのデュアルディグリー・プログラムを行っています。
- (10) データサイエンス、数理統計、AIなどのデジタル技術を利用・活用してビジネスデータ・ソーシャルデータの分析からインサイトを探索し、新たな社会の在り方やプロセス改革、新製品サービス開発、事業創造などのイノベーションを創造できるデジタル経営人材を育成するためのトラックとして、DIGITを設置しています。

—互いの人権を尊重し、ハラスメントのない学部に向けて—

新入生の皆さん、在校生の皆さん、入学・進級を果たされ、それぞれの新しい生活に向け決意を新たにしていることでしょう。

さて皆さんは明治大学の建学の精神を知っていますか。「権利自由」、「独立自治」です。これらは大学の基本姿勢を表現したものです。本学で学び、本学で働いているすべての人々がお互いに「人格を認め合い」、「個人として尊重される」ことは建学の精神の神髄です。言い換えれば、相手の人格を傷つける行為、蔑む行為、すなわちハラスメント行為は、学ぶ権利を奪うことになり、建学の精神を蝕むことです。こうした観点から、明治大学ではあらゆる形の人権侵害とハラスメント行為とは無縁なキャンパスをめざしています。

しかしこの実現は、「言うは易く行ふは難し」の言葉通り、簡単ではありません。学生と教員、職員と教員、学生同士、教員同士、職員同士、多様で複雑な人間関係のなかで知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまうことがあるのです。とても残念なことです。経営学部もハラスメントと無縁ではありませんでした。教授会はその度に、目を覆うことなく、正面から受け止め、真剣に議論し、必要な対応をするなど毅然たる姿勢をとってきました。しかし、われわれはあらゆる種類のハラスメントを許さないこと、被害者の立場にたって議論を重ねること、そして被害者の救済のために必要な措置をとること、これまで重視してきたこのような三つの態度を、今後とも、いやこれまで以上に堅持していきたいと考えています。

経営学部の学生の皆さん、皆さんは自分の能力を高めるために日々勉学に励んでいることでしょう。しかし同時に、自立した人間として、社会のルールを守り、互いの人権を尊重し、ハラスメントを「しない、させない、許さない」姿勢が求められています。安心して学ぶことができる快適な環境を形成・維持・発展させるために、以下のように行動して下さい。

公共経営学科は、行政経営や、国際協力・スポーツ・健康・福祉などの公共サービスのマネジメントを修得できる科目群を設置しています。

1. 学期初めにキャンパス・ハラスメント対策委員会編『ハラスメントのないキャンパスへ』を配布しますので、ぜひ読んで下さい。明治大学ホームページからも閲覧が可能です。
2. 互いの人権を認め合い、ハラスメントを「しない、させない、許さない」姿勢を持つだけでなく、第三者としてハラスメントに遭遇したら、見て見ぬふりはしないで下さい。
3. ハラスメントに遭遇したら、ハラスメント対策室や学生相談室、教員、事務室などに速やかに相談して下さい。シラバス（Syllabus）とは、皆さんが本学部で学習を進めるに当たり、自主的な履修計画の参考として作成しているものです。

明治大学2026年度学年暦

春 学 期		4 月 1 日 (水) ~ 9 月 1 9 日 (土)
入 学 式		4 月 7 日 (火)
学 習 指 導		4 月 1 日 (水) ~ 4 月 9 日 (木)
授 業 期 間		4 月 1 0 日 (金) ~ 7 月 2 2 日 (水)
	前半集中開講科目 (S1) ※	4 月 1 0 日 (金) ~ 6 月 3 日 (水)
	後半集中開講科目 (S2) ※	6 月 4 日 (木) ~ 7 月 2 2 日 (水)
臨時休業(休講)日		5 月 1 日 (金) ・ 5 月 2 日 (土)
休日授業実施日①		4 月 2 9 日 (水) [昭 和 の 日]
休日授業実施日②		7 月 2 0 日 (月) [海 の 日]
補 講 日	※土曜日の通常時限を利用	5 月 2 3 日 (土) ・ 5 月 3 0 日 (土)
		7 月 1 1 日 (土) ・ 7 月 1 8 日 (土)
定 期 試 験	※予備日を含む	7 月 2 3 日 (木) ~ 7 月 3 1 日 (金)
夏 季 休 業		8 月 1 日 (土) ~ 9 月 1 9 日 (土)
秋 季 卒 業 式		9 月 1 9 日 (土)
秋 学 期		9 月 2 0 日 (日) ~ 3 月 3 1 日 (水)
秋 季 入 学 式		9 月 1 9 日 (土)
学 習 指 導		9 月 1 8 日 (金)
授 業 期 間		9 月 2 0 日 (日) ~ 1 月 2 3 日 (土)
	前半集中開講科目 (F1) ※	9 月 2 0 日 (日) ~ 1 1 月 1 4 日 (土)
	後半集中開講科目 (F2) ※	1 1 月 1 5 日 (日) ~ 1 月 2 3 日 (土)
休日授業実施日①		9 月 2 1 日 (月) [敬 老 の 日]
休日授業実施日②		9 月 2 2 日 (火) [国 民 の 休 日]
休日授業実施日③		1 0 月 1 2 日 (月) [ス ポ ー ツ の 日]
休日授業実施日④		1 1 月 2 3 日 (月) [勤 労 感 謝 の 日]
補 講 日	※土曜日の通常時限を利用	1 0 月 1 7 日 (土) ・ 1 0 月 2 4 日 (土)
	※全日補講のみ実施	1 2 月 2 2 日 (火) ・ 1 月 2 2 日 (金)
大 学 祭 週 間	※当該期間中は全日休講	1 0 月 2 9 日 (木) ~ 1 1 月 3 日 (火)
明 大 祭		1 0 月 3 0 日 (金) ~ 1 1 月 1 日 (日)
生 明 祭		1 0 月 3 0 日 (金) ~ 1 1 月 1 日 (日)
創 立 記 念 祝 日		1 1 月 1 日 (日)
臨時休業(休講)日		1 2 月 2 3 日 (水) ・ 1 2 月 2 4 日 (木)
		1 月 1 6 日 (土)
冬 季 休 業		1 2 月 2 5 日 (金) ~ 1 月 7 日 (木)
創 立 記 念 日		1 月 1 7 日 (日)
定 期 試 験	※予備日を含む	1 月 2 5 日 (月) ~ 2 月 3 日 (水)
春 季 休 業		2 月 4 日 (木) ~ 3 月 3 1 日 (水)
卒 業 式		3 月 2 6 日 (金)

※各学期の前半集中・後半集中開講科目の利用は、一部の授業で7週完結授業を導入する学部に限る。

※大学祭週間中の授業休講措置は全キャンパスに適用する。ただし、大学院、専門職大学院において大学祭週間に授業を実施する場合がある。

明治大学2026年度学年暦

全キャンパス共通

【 春 学 期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
4				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		
5						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				
7				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
8							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19

前半集中開講科目【S1】

後半集中開講科目【S2】

前半集中開講科目【F1】

後半集中開講科目【F2】

授業回数

14 14 14 14 14 14

学習指導日

休日

休日授業実施日

定期試験日(予備日を含む)

大学祭週間

※大学祭週間中は全キャンパス休講

【 秋 学 期 】

曜日	日	月	火	水	木	金	土
9							
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
10					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
12			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
1						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2							
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
3		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

授業回数

14 14 14 14 14 14

臨時休業(休講)日

土曜通常時限使用補講日

完全補講日(秋学期のみ)

明大祭:10月30日(金)~11月1日(日)

生明祭:10月30日(金)~11月1日(日)

経営学部授業科目一覧

科目区分	科目名(正式名称)	科目名(英文科目名称)	英語授業	単位数	履修開始年次	本学履修可能な年次	特記事項
学部必修科目	経営総論	Principles of Business Administration		2	1		2021年度以降入学者
	経営学	Business Management	●	2	1		2021年度以降入学者
	会計学	Accounting	●	2	1		2021年度以降入学者
	公共経営学	Public Management		2	1		2021年度以降入学者
教養科目	近代経済学 A	Modern Economics A	併設	2	1		
	近代経済学 B	Modern Economics B	併設	2	1		
教養科目	言語思想 A	Language and Thought A		2	1		
	言語思想 B	Language and Thought B		2	1		
	社会思想	Social Thought		2	1		
	Social Thought	Social Thought		2	1	●	
	倫理思想 A	Ethical Thought A		2	1		
	倫理思想 B	Ethical Thought B		2	1		
	宗教思想	Religious Thought		2	1	●	
	Religious Thought	Religious Thought		2	1		
	哲学基礎論	Basic Philosophy		2	3		
	哲学	Philosophy		2	3		
	数学 A	Mathematics A		2	1		
	数学 B	Mathematics B		2	1		
	統計学 A	Statistics A		2	1		
	統計学 B	Statistics B		2	1		
	生物学 A	Biology A		2	1		
	生物学 B	Biology B		2	1		
	物理学 A	Physics A		2	1		
	物理学 B	Physics B		2	1		
	化学 A	Chemistry A		2	1		
	化学 B	Chemistry B		2	1		
	自然科学思想史 A	History of Natural Scientific Thought A		2	1		
	自然科学思想史 B	History of Natural Scientific Thought B		2	1		
	自然人類学	Physical Anthropology		2	1	●	
	文化人類学	Cultural Anthropology		2	1		
	生理学 A	Physiology A		2	1		
	生理学 B	Physiology B		2	1		
	健康科学 A	Health Science A		2	1		
	健康科学 B	Health Science B		2	1		
	スポーツ・レジャー・レクリエーション論	Theory of Sports, Leisure and Recreation		2	1		
	現代社会とスポーツ	Modern Society and Sports		2	1		
	トレーニングの科学	Science of Exercise Training		2	1		
	レポート・論文作成法	Academic Writing		2	1		
	言語表現論	Theory of Language Expression		2	1		
	手話コミュニケーション(初級)Ⅰ	Elementary Sign Language Communication I		1	1		
	手話コミュニケーション(初級)Ⅱ	Elementary Sign Language Communication II		1	1		
	手話コミュニケーション(中級)Ⅰ	Intermediate Sign Language Communication I		1	1	●	
	手話コミュニケーション(中級)Ⅱ	Intermediate Sign Language Communication II		1	1	●	
	外国文学(英米)	Foreign Literature(British and American)	●	2	1		
	外国文学(ドイツ)	Foreign Literature(German)		2	1	●	
	外国文学(フランス)	Foreign Literature(French)		2	1	●	
	外国文学(中国)	Foreign Literature(Chinese)		2	1		
	日本語論 A	Japanese Linguistics A		2	1	●	
	日本語論 B	Japanese Linguistics B		2	1	●	
	日本文学 A	Japanese Literature A		2	1		
	日本文学 B	Japanese Literature B		2	1		
	日本文学(現代)	Japanese Literature(Contemporary)		2	3		
	西洋史(総論)	European History(General)		2	1		
	西洋史(各論)	European History(Special Studies)		2	1		
	法学 A	Law A		2	1		
	法学 B	Law B		2	1		
	地理学 A	Geography A		2	1		
	地理学 B	Geography B		2	1		
	政治学 A	Political Science A		2	1		
	政治学 B	Political Science B		2	1		
	社会学 A	Sociology A	併設	2	1		
	社会学 B	Sociology B	併設	2	1		
	Global Issues A	Global Issues A	●	2	1		
	Global Issues B	Global Issues B	●	2	1		
	Global Issues C	Global Issues C	●	2	2		
	Global Issues D	Global Issues D	●	2	2	●	
	心理学	Psychology	●	2	1		
	教養演習 A	Liberal Arts Seminar A		2	1		
	教養演習 B	Liberal Arts Seminar B		2	1		
	外国語教養演習 A / Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	外国語教養演習 B / Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	外国語教養演習 C / Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	外国語教養演習 D / Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	日本事情	Japanese Culture & Society (for international students)	●	2	1	●	原則として、外国人留学生のみ履修可
	経営総合講義 A	Introduction to Business Management A		2	1		
	経営総合講義 B	Introduction to Business Management B		2	1		
外国語科目	英語(初級) A	Elementary English A		1	1		①【コミュニケーション英語】 ②【国際教養英語】
	英語(初級) B	Elementary English B	併設	1	1		①【GREAT:English for Business Studies I A】 ②【GREAT:Academic Reading and Writing A】
	英語(中級) A	Intermediate English A	併設	1	2		①【コミュニケーション英語】 ②【国際教養英語】
	英語(中級) B	Intermediate English B	併設	1	2		【EM Comprehensive English】 ③【GREAT:English for Business Studies II A】 ④【GREAT:Academic Writing II A】
	ドイツ語(初級)Ⅰ	Elementary German I	併設	1	1		a・b
	ドイツ語(初級)Ⅱ	Elementary German II	併設	1	1		a・b

経営学部授業科目一覧

科目区分	科目名(正式名称)	科目名(英文科目名称)	英語授業	単位数	履修開始年次	本学履修可能な年次	特記事項
外国語	ドイツ語(中級) A	Intermediate German A		1	2		指定クラス・選択クラス
	ドイツ語(中級) B	Intermediate German B		1	2		指定クラス・選択クラス
	フランス語(初級) I	Elementary French I		1	1		a・b
	フランス語(初級) II	Elementary French II		1	1		a・b
	フランス語(中級) A	Intermediate French A		1	2		指定クラス・選択クラス
	フランス語(中級) B	Intermediate French B		1	2		指定クラス・選択クラス
	中国語(初級) I	Elementary Chinese I		1	1		a・b
	中国語(初級) II	Elementary Chinese II		1	1		a・b
	中国語(中級) A	Intermediate Chinese A	併設	1	2		指定クラス・選択クラス
	中国語(中級) B	Intermediate Chinese B	併設	1	2		指定クラス・選択クラス
	ロシア語(初級) I	Elementary Russian I		1	1		
	ロシア語(初級) II	Elementary Russian II		1	1		
	ロシア語(中級) A	Intermediate Russian A		1	2		
	ロシア語(中級) B	Intermediate Russian B		1	2		
	韓国語(初級) I	Elementary Korean I		1	1		
	韓国語(初級) II	Elementary Korean II		1	1		
	韓国語(中級) A	Intermediate Korean A		1	2		
	韓国語(中級) B	Intermediate Korean B		1	2		
	日本語(作文・読解) I	Japanese(Composition and Reading) I		1	1		外国人留学生のみ履修可
	日本語(作文・読解) II	Japanese(Composition and Reading) II		1	1		外国人留学生のみ履修可
外国語	日本語(速読・精読) A	Japanese(Rapid Reading and Careful Reading) A		1	2		外国人留学生のみ履修可
	日本語(速読・精読) B	Japanese(Rapid Reading and Careful Reading) B		1	2		外国人留学生のみ履修可
	TOEFL Reading	TOEFL Reading	●	1	1		
	TOEFL Listening	TOEFL Listening	●	1	1		
	TOEFL Speaking	TOEFL Speaking	●	1	1		
	TOEFL Writing	TOEFL Writing	●	1	1		
	TOEFL Preparation A	TOEFL Preparation A	●	1	1		
	TOEFL Preparation B	TOEFL Preparation B	●	1	1		
	English Exam A	English Exam A	●	1	1		
	English Exam B	English Exam B	●	1	1		
	Genres of Writing	Genres of Writing	●	1	1		
	Speech and Debate	Speech & Debate	●	1	1		
	英語スペシャルスタディ A	Special English Study A	●	1	1		
	英語スペシャルスタディ B	Special English Study B	●	1	1		
	英語表現論	English Expression		1	1		
	英語コミュニケーション初級 A	Elementary English Communication A		1	1		
	英語コミュニケーション初級 B	Elementary English Communication B		1	1		
	英語コミュニケーション中級 A	Intermediate English Communication A		1	1		
	英語コミュニケーション中級 B	Intermediate English Communication B		1	1		
	英語コミュニケーション上級 A	Advanced English Communication A		1	1		
外国語	英語コミュニケーション上級 B	Advanced English Communication B		1	1		
	ドイツ語コミュニケーション初級 A	Elementary German Communication A		1	1		
	ドイツ語コミュニケーション初級 B	Elementary German Communication B		1	1		
	ドイツ語コミュニケーション中級 A	Intermediate German Communication A		1	1		
	ドイツ語コミュニケーション中級 B	Intermediate German Communication B		1	1		
	ドイツ語コミュニケーション上級 A	Advanced German Communication A		1	1		
	ドイツ語コミュニケーション上級 B	Advanced German Communication B		1	1		
	フランス語コミュニケーション初級 A	Elementary French Communication A		1	1		
	フランス語コミュニケーション初級 B	Elementary French Communication B		1	1		
	フランス語コミュニケーション中級 A	Intermediate French Communication A		1	1		
	フランス語コミュニケーション中級 B	Intermediate French Communication B		1	1		
	フランス語コミュニケーション上級 A	Advanced French Communication A		1	1		
	フランス語コミュニケーション上級 B	Advanced French Communication B		1	1		
	中国語コミュニケーション初級 A	Elementary Chinese Communication A		1	1		
	中国語コミュニケーション初級 B	Elementary Chinese Communication B		1	1		
	中国語コミュニケーション中級 A	Intermediate Chinese Communication A		1	1		
	中国語コミュニケーション中級 B	Intermediate Chinese Communication B		1	1		
	中国語コミュニケーション上級 A	Advanced Chinese Communication A		1	1		
	中国語コミュニケーション上級 B	Advanced Chinese Communication B		1	1		
実習・関連科目	International Business Program (語学研修) A	International Business Program (Language Training) A	●	1	1	●	International Business Program (実習) A とセット履修
	International Business Program (語学研修) B	International Business Program (Language Training) B	●	1	1		International Business Program (実習) B とセット履修
	体育実技 A	Physical Education A		1	1		
	体育実技 B	Physical Education B		1	1		
	選択体育実技 A	Physical Education Elective A		1	2		
	選択体育実技 B	Physical Education Elective B		1	2		
	学外選択体育実技 A	Outdoor Elective Physical Education A		1	2		
	学外選択体育実技 B	Outdoor Elective Physical Education B		1	2		
	International Business Program (実習) A	International Business Program (Practical) A	●	2	1	●	International Business Program (語学研修) A とセット履修
	International Business Program (実習) B	International Business Program (Practical) B	●	2	1		International Business Program (語学研修) B とセット履修
	グローバル・サービスラーニング A	Global Service Learning A		2	1		
	グローバル・サービスラーニング B	Global Service Learning B		2	1		
	リサーチ・リテラシー A	Research Literacy A	●	2	1		
	リサーチ・リテラシー B	Research Literacy B		2	1	●	
	フィールドスタディ A	Field Study A		2	1		
	フィールドスタディ B	Field Study B		2	1	●	
	フィールドスタディ C	Field Study C		2	2		
	フィールドスタディ D	Field Study D		2	2		
	D I G I T 入門演習 I	DIGIT Introductory Seminar I		2	1		
	D I G I T 入門演習 II	DIGIT Introductory Seminar II		2	1		
	D I G I T 実践演習	DIGIT Practical Seminar		2	3		
ICT	I C T ベーシック	ICT Basic Course	併設	2	1		
	I C T 統計解析入門	ICT Statistical Analysis (Beginner)	併設	2	1		
	I C T 統計解析応用	ICT Statistical Analysis (Applied)	併設	2	1		
	I C T データベース入門	ICT Database (Beginner)	併設	2	1		
	I C T データベース応用	ICT Database (Applied)	併設	2	1		
	I C T 画像編集入門	ICT Image Editing (Beginner)	併設	2	1		
	I C T 画像編集応用	ICT Image Editing (Applied)	併設	2	1		
	I C T 動画編集入門	ICT Video Editing (Beginner)	併設	2	1		
	I C T 動画編集応用	ICT Video Editing (Applied)		2	1		
	I C T 音楽編集入門	ICT Music Editing (Beginner)		2	1		
	I C T 音楽編集応用	ICT Music Editing (Beginner)		2	1		
	I C T プログラミング入門	ICT Programming (Beginner)	併設	2	1		
	I C T プログラミング応用	ICT Programming (Applied)	併設	2	1		
	I C T Web ページ作成	ICT Web Page Creation	併設	2	1		
	I C T e ラーニングデザイン入門	ICT e-Learning Design (Beginner)		2	1		
ICT	I C T e ラーニングデザイン応用	ICT e-Learning Design (Applied)		2	1		
	I C T プレゼンテーション	ICT Presentation	併設	2	1		

経営学部授業科目一覧

科目区分	科目名(正式名称)	科目名(英文科目名称)	英語授業	単位数	履修開始年次	本学履修可能な年次	特記事項
演習科目	演習Ⅰ	SeminarⅠ		2	2		
	演習ⅡA	SeminarⅡA		2	3		
	演習ⅡB	SeminarⅡB		2	3		
	演習ⅢA	SeminarⅢA		2	4		
	演習ⅢB	SeminarⅢB		2	4		
総合学講共通	全学共通総合講座A	Interdepartmental Lecture A	併設	2	1		
	全学共通総合講座B	Interdepartmental Lecture B	併設	2	1		
	全学共通総合講座C	Interdepartmental Lecture C	併設	2	1		
	全学共通総合講座D	Interdepartmental Lecture D	併設	2	1		
各	簿記論Ⅰ	BookkeepingⅠ	併設	2	1		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：学部必修科目
	簿記論Ⅱ	BookkeepingⅡ	併設	2	1		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：学部必修科目
	簿記技能	Bookkeeping Skills		1	1		2021年度以降入学者
	Business Presentation A	Business Presentation A	●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	Business Presentation B	Business Presentation B	●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
学	ビジネス英語A/Business English A	Business English A	●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	ビジネス英語B/Business English B	Business English B	●	2	3		①2021年度以降入学者：学科基礎専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	Fundamentals of Management A	Fundamentals of Management A	●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
	Fundamentals of Management B	Fundamentals of Management B	●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
	Fundamentals of Management C	Fundamentals of Management C	●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
科	Fundamentals of Management D	Fundamentals of Management D	●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
	Transcultural Business Communication A	Transcultural Business Communication A	●	2	2		
	Transcultural Business Communication B	Transcultural Business Communication B	●	2	2	●	
	Strategic Business Communication A	Strategic Business Communication A	●	2	2		
	Strategic Business Communication B	Strategic Business Communication B	●	2	2		
基	経済原論A	Principles of Economics A		2	1		
	経済原論B	Principles of Economics B		2	1		
	ビジネス・エコノミクスA	Business Economics A	●	2	3		
	ビジネス・エコノミクスB	Business Economics B	●	2	3		
	Japanese Economy	Japanese Economy	●	2	1		
礎	経済史A	Economic History A		2	1		
	経済史B	Economic History B		2	1		
	日本経済史A	Japanese Economic History A		2	1		
	日本経済史B	Japanese Economic History B		2	1		
	経営史A	Business History A		2	1		
礎	経営史B	Business History B		2	1		
	経営統計学A	Business Statistics A		2	3		
	経営統計学B	Business Statistics B		2	3		
	経営基礎数学A	Basic Mathematics for Management A		2	1		
	経営基礎数学B	Basic Mathematics for Management B		2	1		
礎	社会調査法	Social Research		2	1		
	経営社会学	Managerial Sociology	●	2	3		
	経営心理学	Managerial Psychology A	●	2	2		
	産業生理学A	Industrial Physiology A		2	3		
	産業生理学B	Industrial Physiology B		2	3		
礎	経営と環境A	Business Management and the Environment A		2	3		
	経営と環境B	Business Management and the Environment B		2	3		
	経済地理学A	Economic Geography A		2	3	●	
	経済地理学B	Economic Geography B		2	3	●	
	マーケティング基礎論	Basic Marketing		2	2		
専	企業の社会的責任論/Corporate Social Responsibility	Corporate Social Responsibility	●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	情報化社会論A	Information Society A		2	1		
	情報化社会論B	Information Society B		2	1		
	ネット・ビジネス論A/Internet Business A	Internet Business A	●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	ネット・ビジネス論B/Internet Business B	Internet Business B	●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
門	コンテンツ・ビジネス論A/Contents Business A	Contents Business A	●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	コンテンツ・ビジネス論B/Contents Business B	Contents Business B	●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	戦略経営情報システム論	Strategic Management Information Systems		2	3		
	ビジネス法	Business Law		2	1		
	会社法A	Corporate Law A		2	3		
門	会社法B	Corporate Law B		2	3		
	手形法・小切手法	Bills and Notes Law and Cheques Law		2	3		
	財産法	Property Law		2	3		
	税法	Tax Law		2	3		
	労働法	Labor Law		2	3		
科	イギリス文化論	British Culture		2	3	●	
	アメリカ文化論/American Culture	American Culture	●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	ドイツ文化論	German Culture		2	3		
	中国文化論	Chinese Culture		2	3	●	
	東南アジア文化論	Southeast Asian Culture		2	3	●	
目	東欧文化論	East European Culture		2	3		
	フランス文化論	French Culture		2	3		
	海外経営事情A	Foreign Business Affairs A		2	1		
	海外経営事情B	Foreign Business Affairs B		2	1		
	海外経営事情C	Foreign Business Affairs C		2	1		
目	海外経営事情D	Foreign Business Affairs D		2	1		
	経営文献研究A	Studies in Business Literature A		2	3	●	
	経営文献研究B	Studies in Business Literature B		2	3	●	
	基礎専門演習A/Core Subjects Seminar A	Core Subjects Seminar A	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門演習B/Core Subjects Seminar B	Core Subjects Seminar B	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
目	基礎専門演習C/Core Subjects Seminar C	Core Subjects Seminar C	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門演習D/Core Subjects Seminar D	Core Subjects Seminar D	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門特別講義A/Core Subjects Special Lectures A	Core Subjects Special Lectures A	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門特別講義B/Core Subjects Special Lectures B	Core Subjects Special Lectures B	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
	基礎専門特別講義C/Core Subjects Special Lectures C	Core Subjects Special Lectures C	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる
目	基礎専門特別講義D/Core Subjects Special Lectures D	Core Subjects Special Lectures D	●	2	1		使用言語により科目名称が異なる

経営学部授業科目一覧

科目区分	科目名(正式名称)	科目名(英文科目名称)	英語授業	単位数	履修開始年次	特記事項
経営管理論	企業論 A	Corporation Theory A		2	2	①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	企業論 B	Corporation Theory B		2	2	①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	経営管理論 A	Management Theory A	併設	2	2	①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	経営管理論 B	Management Theory B	併設	2	2	①2021年度以降入学者：学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
経営哲学	経営哲学 A	Management Philosophy A		2	3	
	経営哲学 B	Management Philosophy B		2	3	
	経営戦略論 A	Management Strategy A		2	3	経営学科・会計学科共同設置
	経営戦略論 B	Management Strategy B		2	3	経営学科・会計学科共同設置
イノベーション・マネジメント	Innovation Strategy in Japan A	Innovation Strategy in Japan A	●	2	3	
	Innovation Strategy in Japan B	Innovation Strategy in Japan B	●	2	3	
	イノベーション・マネジメント A	Innovation Management A		2	3	
	イノベーション・マネジメント B	Innovation Management B		2	3	
イノベーション・システム	イノベーション・システム A	Innovation System A		2	3	
	イノベーション・システム B	Innovation System B		2	3	
	マーケティング・マネジメント A	Marketing Management A		2	3	
	マーケティング・マネジメント B	Marketing Management B		2	3	
グローバル・マーケティング	グローバル・マーケティング論 A	Global Marketing A		2	3	
	グローバル・マーケティング論 B	Global Marketing B		2	3	
	Strategic Marketing A	Strategic Marketing A	●	2	3	
	Strategic Marketing B	Strategic Marketing B	●	2	3	
雇用関係論	雇用関係論	Employment Relations		2	3	
	労使関係論	Industrial Relations		2	3	
	企業内教育論	In-firm Training		2	3	
	能力開発論	Human Resource Development		2	3	
中小企業論	中小企業論 A	Small and Medium-sized Businesses A		2	3	経営学科・公共経営学科共同設置
	中小企業論 B	Small and Medium-sized Businesses B		2	3	経営学科・公共経営学科共同設置
	スタートアップ企業論 A	Startup Enterprise A		2	3	
	スタートアップ企業論 B	Startup Enterprise B		2	3	
経営学史	経営学史 A	History of Management Theories A		2	3	
	経営学史 B	History of Management Theories B		2	3	
国際経営論	国際経営論 A/International Management A	International Management A	●	2	3	経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	国際経営論 B/International Management B	International Management B	●	2	3	経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	経営組織論	Organizational Theory		2	3	●
	組織行動論	Organizational Behavior		2	3	●
財務管理論	財務管理論	Financial Management		2	3	経営学科・会計学科共同設置
	現代コーポレートファイナンス論	Modern Corporate Finance		2	3	経営学科・会計学科共同設置
	生産管理論 A	Production Management A		2	3	
	生産管理論 B	Production Management B		2	3	
人事労務管理論	人事労務管理論 A	Human Resource Management A		2	3	
	人事労務管理論 B	Human Resource Management B		2	3	
	ナレッジ・マネジメント論	Knowledge Management	●	2	3	
	経営技術論	Technology Management		2	3	
技術戦略論	技術戦略論	Technology Strategy		2	3	
	Strategic Analysis of Japanese Companies A	Strategic Analysis of Japanese Companies A	●	2	3	● 経営学科・会計学科共同設置
	Strategic Analysis of Japanese Companies B	Strategic Analysis of Japanese Companies B	●	2	3	● 経営学科・会計学科共同設置
	経営情報論	Information System in Management		2	3	●
リスクマネジメント論	リスクマネジメント論	Risk Management		2	3	●
	経営文化論 A	Business Culture A		2	3	
	経営文化論 B	Business Culture B		2	3	
	国際経営史 A	History of International Business A		2	3	
国際経営史 B	国際経営史 B	History of International Business B		2	3	
	日本経営論 A	Japanese Management A		2	3	
	日本経営論 B	Japanese Management B		2	3	
	日本経営史	Japanese Business History		2	3	
日本企業史	日本企業史	Japanese Entrepreneurial History		2	3	
	Comparative Business Management A	Comparative Business Management A	●	2	3	●
	Comparative Business Management B	Comparative Business Management B	●	2	3	●
	比較経営論 (アメリカ) A	Comparative Management(America) A		2	3	● 経営学科・会計学科共同設置
比較経営論 (アメリカ) B	比較経営論 (アメリカ) B	Comparative Management(America) B		2	3	● 経営学科・会計学科共同設置
	比較経営論 (西欧) A	Comparative Management(Western Europe) A		2	3	
	比較経営論 (西欧) B	Comparative Management(Western Europe) B		2	3	
	比較経営論 (ロシア・東欧) A	Comparative Management(Russia and Eastern Europe) A		2	3	●
比較経営論 (ロシア・東欧) B	比較経営論 (ロシア・東欧) B	Comparative Management(Russia and Eastern Europe) B		2	3	●
	比較経営論 (中国) A	Comparative Management(China) A		2	3	
	比較経営論 (中国) B	Comparative Management(China) B		2	3	
Transcultural Management A	Transcultural Management A	Transcultural Management A	●	2	3	
	Transcultural Management B	Transcultural Management B	●	2	3	
経営学外国語講読 A	経営学外国語講読 A	Business Management Reading in Foreign Languages A	●	2	3	①2021年度以降入学者：経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	経営学外国語講読 B	Business Management Reading in Foreign Languages B	●	2	3	①2021年度以降入学者：経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
経営学特別講義 A/Special Lectures on Business Management A	経営学特別講義 A/Special Lectures on Business Management A	Special Lectures on Business Management A	●	2	1	使用言語により科目名称が異なる
	経営学特別講義 B/Special Lectures on Business Management B	Special Lectures on Business Management B	●	2	1	使用言語により科目名称が異なる
	経営学特別講義 C/Special Lectures on Business Management C	Special Lectures on Business Management C	●	2	3	使用言語により科目名称が異なる
	経営学特別講義 D/Special Lectures on Business Management D	Special Lectures on Business Management D	●	2	3	使用言語により科目名称が異なる
Information Ethics A (GSBA)	Information Ethics A (GSBA)	Information Ethics A (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	Information Ethics B (GSBA)	Information Ethics B (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	Information Science A (GSBA)	Information Science A (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	Information Science B (GSBA)	Information Science B (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
E Commerce A (GSBA)	E Commerce A (GSBA)	E Commerce A (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	E Commerce B (GSBA)	E Commerce B (GSBA)	●	2	3	● 大学院経営学研究科共同設置
	The Future of E Business A (GSBA)	The Future of E Business A (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	The Future of E Business B (GSBA)	The Future of E Business B (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
Organizational Behavior A (GSBA)	Organizational Behavior A (GSBA)	Organizational Behavior A (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	Organizational Behavior B (GSBA)	Organizational Behavior B (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	Strategic Management A (GSBA)	Strategic Management A (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置
	Strategic Management B (GSBA)	Strategic Management B (GSBA)	●	2	3	大学院経営学研究科共同設置

経営学部授業科目一覧

科目区分	科目名(正式名称)	科目名(英文科目名称)	英語授業	単位数	履修開始年次	本学履修可能な科目	特記事項
経営学専攻	Transnational Management A (GSBA)	Transnational Management A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Transnational Management B (GSBA)	Transnational Management B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Human Resource Management A (GSBA)	Human Resource Management A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Human Resource Management B (GSBA)	Human Resource Management B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Family Business A (GSBA)	Family Business A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Family Business B (GSBA)	Family Business B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	International Marketing A (GSBA)	International Marketing A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	International Marketing B (GSBA)	International Marketing B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Service Marketing A (GSBA)	Service Marketing A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Service Marketing B (GSBA)	Service Marketing B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Corporate Finance A (GSBA)	Corporate Finance A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Corporate Finance B (GSBA)	Corporate Finance B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments A (GSBA)	Investments A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments B (GSBA)	Investments B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
会計学専攻	財務会計総論 A	Introduction to Financial Accounting A	併設	2	1	●	①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	財務会計総論 B	Introduction to Financial Accounting B	併設	2	1	●	①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	管理会計総論 A	Introduction to Management Accounting A	●	2	1	●	①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	管理会計総論 B	Introduction to Management Accounting B	●	2	1	●	①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：学科必修科目
	中級簿記論	Intermediate Bookkeeping		2	2		
	上級簿記論	Advanced Bookkeeping		2	2		
	財務諸表論 A	Theory of Financial Statements A		2	3		
	財務諸表論 B	Theory of Financial Statements B		2	3		
	現代会計基準論 A	Accounting Standards A		2	3		
	現代会計基準論 B	Accounting Standards B		2	3		
	監査論 A	Auditing A		2	3		
	監査論 B	Auditing B		2	3		
	国際財務報告論 A	International Financial Reporting Theory A		2	3	●	
	国際財務報告論 B	International Financial Reporting Theory B		2	3	●	
経営学専攻	英文会計	Accounting in English		2	3	●	
	Basic Accounting A	Basic Accounting A	●	2	1		
	Basic Accounting B	Basic Accounting B	●	2	1		
	Financial Accounting A	Financial Accounting A	●	2	3		
	Financial Accounting B	Financial Accounting B	●	2	3		
	原価計算論 I	Cost Accounting I	併設	2	1		
	原価計算論 II	Cost Accounting II	併設	2	1		
	原価管理論 A	Cost Management A		2	3		
	原価管理論 B	Cost Management B		2	3		
	マネジメント・コントロール A	Management Control A		2	3	●	
	マネジメント・コントロール B	Management Control B		2	3	●	
	Management Accounting A	Management Accounting A	●	2	3		
	Management Accounting B	Management Accounting B	●	2	3		
経営学専攻	経営分析論 A	Financial Statement Analysis A		2	3		
	経営分析論 B	Financial Statement Analysis B		2	3		
	環境会計論 A	Environmental Accounting A		2	3		
	環境会計論 B	Environmental Accounting B		2	3		
	税務会計論 A	Accounting for Taxation A		2	3		
	税務会計論 B	Accounting for Taxation B		2	3		
	公会計論	Public Accounting		2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	NPO会計論	NPO Accounting		2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	会計史 A	Accounting History A		2	1		
	会計史 B	Accounting History B		2	1		
	法人税法 A	Corporation Tax Act A		2	3		
	法人税法 B	Corporation Tax Act B		2	3		
	会計学外国語講読 A	Accounting Reading in Foreign Languages A	●	2	3		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	会計学外国語講読 B	Accounting Reading in Foreign Languages B	●	2	3		①2021年度以降入学者：会計学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
経営学専攻	会計プロセシナー A	Professional Seminar on Accounting A		2	1		
	会計プロセシナー B	Professional Seminar on Accounting B		2	1	●	
	会計プロセシナー C	Professional Seminar on Accounting C	●	2	1		
	会計プロセシナー D	Professional Seminar on Accounting D		2	1	●	
	会計学特別講義 A	Special Lectures on Accounting A		2	1		
	会計学特別講義 B	Special Lectures on Accounting B		2	1	●	
	会計学特別講義 C	Special Lectures on Accounting C		2	1	●	
	会計学特別講義 D	Special Lectures on Accounting D		2	1		
	経営戦略論 A	Management Strategy A		2	3		経営学科・会計学科共同設置
	経営戦略論 B	Management Strategy B		2	3		経営学科・会計学科共同設置
経営学専攻	国際経営論 A/International Management A	International Management A	●	2	3		経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	国際経営論 B/International Management B	International Management B	●	2	3		経営学科・会計学科共同設置 使用言語により科目名称が異なる
	財務管理論	Financial Management		2	3		経営学科・会計学科共同設置
	現代コーポレートファイナンス論	Modern Corporate Finance		2	3		経営学科・会計学科共同設置
	Strategic Analysis of Japanese Companies A	Strategic Analysis of Japanese Companies A	●	2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	Strategic Analysis of Japanese Companies B	Strategic Analysis of Japanese Companies B	●	2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	比較経営論 (アメリカ) A	Comparative Management(America) A		2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	比較経営論 (アメリカ) B	Comparative Management(America) B		2	3	●	経営学科・会計学科共同設置
	Corporate Finance A (GSBA)	Corporate Finance A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Corporate Finance B (GSBA)	Corporate Finance B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments A (GSBA)	Investments A (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Investments B (GSBA)	Investments B (GSBA)	●	2	3	●	大学院経営学研究科共同設置
	Advanced Financial Accounting A (GSBA)	Advanced Financial Accounting A (GSBA)	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Advanced Financial Accounting B (GSBA)	Advanced Financial Accounting B (GSBA)	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
経営学専攻	Financial Statement Analysis A (GSBA)	Financial Statement Analysis A (GSBA)	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置
	Financial Statement Analysis B (GSBA)	Financial Statement Analysis B (GSBA)	●	2	3		大学院経営学研究科共同設置

経営学部授業科目一覧

科目区分	科目名(正式名称)	科目名(英文科目名称)	英語授業	単位数	履修開始年次	本学履修可能な科目	特記事項
公共経営学	行政経営論	Administrative Management		2	2		
	行政経営戦略論	Administrative Strategy		2	3		
	Introduction to Public Management	Introduction to Public Management	●	2	3		
	Social Impact Investment	Social Impact Investment	●	2	3		
	Business for Social Impact	Business for Social Impact	●	2	3		
	公共思想論	Public Philosophy		2	2		
	公共歴史論	History of the Public		2	2		
	公共表現行為論	Representation of Publicness		2	2		
	地域文化と伝統産業	Regional Cultures and Traditional Industries		2	2		
	地域公共論	Regional Management and Society		2	2	●	
	現代健康論	Health and Disease		2	2		
	住まいと仕事の地理学	Geography on Housing and Work		2	2	●	
	公共セクター経済論	Public Sector Economics		2	3		
	公共マーケティング論	Public Sector Marketing		2	3		
	社会会計論	Social Accounting		2	3		
	非営利組織論	Nonprofit Organization		2	3		
	社会的企業論	Social Enterprise		2	3		
	中小企業論 A	Small and Medium-sized Businesses A		2	3		経営学科・公共経営学科共同設置
	中小企業論 B	Small and Medium-sized Businesses B		2	3		経営学科・公共経営学科共同設置
	NPO経営戦略論	NPO Management Strategy		2	3		
	ソーシャル・ファイナンス論	Social Finance		2	3		
	サステナブル投資論	Sustainable Investment		2	3		
	NPO会計論	NPO Accounting		2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	協同組合学	Cooperative Associations		4	3		
	公益事業論	Public Utilities		2	3		
	公共ガバナンス論 A	Public Governance A		2	3		
	公共ガバナンス論 B	Public Governance B		2	3		
	行政評価論	Public Sector Evaluation		2	3	●	
公共経営学専攻	公共データ分析論	Public Data Analysis		2	3		
	地方財政論	Local Government Finance		4	3		
	地域活性化論（講義）A	Community Development (Lecture) A		2	2		
	地域活性化論（講義）B	Community Development (Lecture) B		2	2		
	地域活性化論（実習）A	Community Development (Practical) A		2	2		地域活性化論（講義）Aとセット履修
	地域活性化論（実習）B	Community Development (Practical) B		2	2		地域活性化論（講義）Bとセット履修
	公共交通と地域社会	Public Transportation and Communities		2	3		
	観光事業論 A	Tourism Industry A		2	3		
	観光事業論 B	Tourism Industry B		2	3		
	ツーリズム・マネジメント A/Tourism Management A	Tourism Management A	●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
	ツーリズム・マネジメント B/Tourism Management B	Tourism Management B	●	2	2		使用言語により科目名称が異なる
	公会計論	Public Accounting		2	3		会計学科・公共経営学科共同設置
	国際開発論/International Development	International Development	●	2	3		使用言語により科目名称が異なる
	国際協力 NGO 論	NGO's International Cooperation		2	3		
	ライフスタイル・マネジメント論	Life-style Management		2	3		
	福祉マネジメント論	Welfare Management		2	3		
	医療マネジメント論	Medical Management		2	3		
	自治体マネジメント論	Local Government Management		2	3		
	スポーツ・マネジメント論	Sports Management		2	3		
	スポーツマーケティング論	Sports Marketing		2	3		
	アウトドア組織マネジメント論	Outdoor Organization Management		2	3		
	公共経営学外国語講読 A	Public Management Reading in Foreign Languages A	●	2	3		①2021年度以降入学者：公共経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	公共経営学外国語講読 B	Public Management Reading in Foreign Languages B	●	2	3		①2021年度以降入学者：公共経営学科専門科目 ②2020年度以前入学者：外国語専門科目
	公共経営学特別講義 A	Special Lectures on Public Management A		2	1	●	
	公共経営学特別講義 B	Special Lectures on Public Management B		2	1		
	公共経営学特別講義 C	Special Lectures on Public Management C		2	1		
	公共経営学特別講義 D	Special Lectures on Public Management D		2	1	●	
教職専門科目	日本史概論	Introduction to Japanese History		2	1		教職課程履修者対象
	東洋史概論	Introduction to Eastern History		2	1		教職課程履修者対象
	西洋史概論	Introduction to Western History		2	1		教職課程履修者対象
	地誌学概論	Introduction to Topography		2	1		教職課程履修者対象
	人文地理学概論	Introduction to Human Geography		2	1		教職課程履修者対象
	自然地理学概論	Introduction to Physical Geography		2	1		教職課程履修者対象
	法律学概論	Introduction to Law		2	1		教職課程履修者対象
	哲学概論	Introduction to Philosophy		2	1		教職課程履修者対象
	倫理学概論	Introduction to Ethics		2	1		教職課程履修者対象
	職業指導	Vocational Guidance		2	1		教職課程履修者対象
	日本国憲法	The Constitution of Japan		2	1		教職課程履修者対象

【カリキュラムの変更について】

入学年度によって、設置科目や科目名称が異なる場合があります。記載には十分注意してください。

① 科目名称変更

科目区分	2019年度以前入学者	2020年度以降入学者
自由履修科目	基幹科目（異文化理解Ⅰ/Ⅱ）	国際教育プログラム科目（異文化理解Ⅰ/Ⅱ）
	基幹科目（文化・歴史Ⅰ/Ⅱ）	国際教育プログラム科目（文化・歴史Ⅰ/Ⅱ）
	基幹科目（法律・政治Ⅰ/Ⅱ）	国際教育プログラム科目（法律・政治Ⅰ/Ⅱ）
	基幹科目（経済Ⅰ/Ⅱ）	国際教育プログラム科目（経済Ⅰ/Ⅱ）
	国際協力人材育成プログラム科目	グローバル人材育成プログラム科目（※1）
	日本ASEAN相互理解プログラム科目	
	グローバル人材育成プログラム科目	
会計学科 専門科目	Financial Accounting A/B (GSBA)	Advanced Financial Accounting A/B (GSBA)
科目区分	2025年度以前入学者	2026年度以降入学者
経営学科 専門科目	中小企業論	中小企業論A
	ベンチャービジネス論	中小企業論B
公共経営学科 専門科目	生活文化論	地域文化と伝統産業

※1 「国際協力人材育成プログラム科目」「日本ASEAN相互理解プログラム科目」を「グローバル人材育成プログラム科目」に統合。科目の詳細はHPを参照すること。

② 科目名称・科目区分変更

2020年度以前入学者		2021年度以降入学者	
科目区分	科目名称	科目区分	科目名称
学部必修	簿記論Ⅰ/Ⅱ	学科基礎 専門科目	簿記論Ⅰ/Ⅱ
外国語 専門科目	ビジネス英語A/B	学科基礎 専門科目	Business English A/B
外国語 専門科目	ビジネス・プレゼンテーションA/B	学科基礎 専門科目	Business Presentation A/B
外国語 専門科目	外国書講読A/B（経営）	経営学科 専門科目	経営学外国書講読A/B
外国語 専門科目	外国書講読A/B（会計）	会計学科 専門科目	会計学外国書講読A/B
外国語 専門科目	外国書講読A/B（公共経営）	公共経営 学科専門科目	公共経営学外国書講読A/B
経営学科 必修科目	企業論A/B	経営学科 専門科目	企業論A/B
経営学科 必修科目	経営管理論A/B	経営学科 専門科目	経営管理論A/B
会計学科 必修科目	財務会計総論A/B	会計学科 専門科目	財務会計総論A/B
会計学科 必修科目	管理会計総論A/B	会計学科 専門科目	管理会計総論A/B

③ 新規設置科目一覧表

科目 区分	科目名	開講 地区	履修 開始 年次	備 考
学部 必修 科目	経営総論	和泉	1	※2021年度以降入学者対象 ※2020年度以前入学者は履修不可
	経営学	和泉	1	※2021年度以降入学者対象 ※2020年度以前入学者は履修不可
	会計学	和泉	1	※2021年度以降入学者対象 ※2020年度以前入学者は履修不可
	公共経営学	和泉	1	※2021年度以降入学者対象 ※2020年度以前入学者は履修不可
教養 科目	Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A～D	和泉	1	※2014年度以降入学者対象 ※「外国語教養演習A～D」と授業内容は同様のた め相互履修は不可
	心理学	和泉	1	※2022年度以降入学者対象 ※2021年度以前入学者は、「心理学A/B」とも に単位修得している場合は履修不可。 ①心理学Aのみ修得済み ⇒ 履修可 ②心理学A/B未修得 ⇒ 履修可 ③心理学A/B修得済み ⇒ 履修不可
	Global Issues C/D	和泉	2	※2017年度以降入学者対象
	Social Thought	和泉	1	※2014年度以降入学者対象
外国語 科目	Genres of Writing	和泉	1	※2015年度以降入学者対象
実習 関連 科目	DIGIT 入門演習 I・II	和泉	1	※2017年度以降入学者対象
	DIGIT 実践演習	駿河台	3	※2017年度以降入学者対象
学科 基礎 専門 科目	経営心理学	駿河台	2	※2022年度以降入学者対象 ※2021年度以前入学者は「経営心理学A/B」と もに単位修得している場合は履修不可。 ①経営心理学Aのみ修得済み ⇒ 履修可 ②経営心理学A/B未修得 ⇒ 履修可 ③経営心理学A/B修得済み ⇒ 履修不可
	Business English A/B	駿河台	3	※2021年度以降入学者対象 ※2020年度以前入学者の科目区分は「外国語専 門科目」 ※「ビジネス英語A/B」と授業内容は同様のため相 互履修は不可
	Corporate Social Responsibility	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※「企業の社会的責任論」と授業内容は同様のため 相互履修は不可

科目区分	科目名	開講地区	履修開始年次	備 考
	Internet Business A/B	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※「ネット・ビジネス論A/B」と授業内容は同様の ため相互履修は不可
	Contents Business A/B	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※「コンテンツ・ビジネス論A/B」と授業内容は同 様のため相互履修は不可
	American Culture	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※「アメリカ文化論」と授業内容は同様のため相互 履修は不可
	Core Subjects Special Lectures A～D	和泉 駿河台	1	※2014年度以降入学者対象 ※「基礎専門特別講義A～D」と授業内容は同様の ため相互履修は不可
	Core Subjects Seminar A～D	和泉 駿河台	1	※2014年度以降入学者対象 ※「基礎専門演習A～D」と授業内容は同様のため 相互履修は不可
経営 学科 専門 科目	Special Lectures on Business Management A/B	和泉	1	※2014年度以降入学者対象 ※「経営学特別講義A/B」と授業内容は同様のため 相互履修は不可
	Special Lectures on Business Management C/D	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※「経営学特別講義C/D」と授業内容は同様のため 相互履修は不可
	International Management A/B	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※「国際経営論A/B」と授業内容は同様のため相互 履修は不可
会計 学科 専門 科目	会計史A/B	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※「会計史」修得者も履修可能
公共 経営 学科 専門 科目	行政経営論	和泉	2	※2021年度以降入学者対象 ※2020年度以前入学者は履修不可
	行政経営戦略論	駿河台	3	※2021年度以降入学者対象 ※2020年度以前入学者は履修不可
	Social Impact Investment	駿河台	3	※2014年度以降入学者対象 ※隔年開講
	Business for Social Impact	駿河台	3	※2017年度以降入学者対象 ※隔年開講
	公共経営学特別講義C/D	和泉 駿河台	1	※2016年度以降入学者対象
	公共データ分析論	駿河台	2	※2019年度以降入学者対象

※ 科目の詳細（授業内容、配当年次等）は、学部ホームページで公開されるシラバスにてご確認ください。

④ 廃止科目一覧

科目区分	科目名	開講 地区	履修 開始 年次	備 考
学部必修科目	経営学A/B	和泉	1	※2021年度以降廃止
教養科目	心理学A/B	和泉	1	※2022年度以降廃止
実習関連科目	キャリア形成入門	和泉	1	※2025年度以降廃止
学科基礎 専門科目	経営心理学A/B	和泉	1	※2022年度以降廃止
	日本文化論	駿河台	3	※2025年度以降廃止
会計学科 専門科目	会計史	駿河台	3	※2021年度以降廃止
	国際会計論A/B	駿河台	3	※2021年度以降廃止
	会計情報システム論A/B	駿河台	3	※2026年度以降廃止
公共経営学科 必修科目	行政経営論A・B	和泉	2	※2021年度以降廃止
公共経営 学科専門	コミュニティ・ビジネス事情	駿河台	3	※2025年度以降廃止
	Basic Solution Approach to International Public Management	駿河台	1	※2024年度以降廃止
	Applied Solution Approach to International Public Management	駿河台	2	※2024年度以降廃止
	情報公共論	駿河台	3	※2026年度以降廃止
	自治体財政分析論	駿河台	3	※2026年度以降廃止
実習関連 科目	インターンシップ実習	—	—	※2020年度以降廃止
—	基幹科目 国際教育プログラム科目	—	—	※2023年度以降廃止

【経営学部ディプロマ・ポリシー】

- DP (1) 経営組織の構成と運営の原理に関する学術知・実践知を用いて、多面的な視野から経営課題を発見・分析し、経営主体の使命と価値創出に向けて創造的な解を導き、実践する能力
- DP (2) 会計の専門知識を用いて組織体の状況や活動を可視化し、人々の円滑なコミュニケーションを図り、組織体の価値創造や価値評価を主導する能力
- DP (3) 多様化・複雑化する社会の複合的な課題を発見・分析し、諸理論と現場知の往復に基づく柔軟な思考力により持続可能な公共的価値を創造する能力
- DP (4) 目的達成のためにメンバーと協働できる能力
- DP (5) 自己の基盤となる文化と異文化とを相対化し、様々な文化的背景を持つ人々と協働する能力
- DP (6) 情報や考えを他者と共有することの意味を理解し、それぞれの価値や共通する価値を見出すことのできる能力
- DP (7) 事実やデータに基づいて分析し、論理的に思考できる能力

経営学部（○印は必修科目とする。）

経営学科・会計学科・公共経営学科共通

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
学部必修科目								
○経営総論	2	○	○	○				
○経営学	2	◎						
○会計学	2		◎					
○公共経営学	2			◎				
○近代経済学A	2					○		◎
○近代経済学B	2					○		◎
教養科目								
言語思想A	2					◎		
言語思想B	2					◎		
社会思想	2					◎		
Social Thought	2					◎	○	
倫理思想A	2					◎		
倫理思想B	2					◎		
宗教思想	2					◎		
Religious Thought	2					◎	○	
哲学基礎論	2					◎		
哲学	2					◎		
数学A	2							◎
数学B	2							◎
統計学A	2							◎
統計学B	2							◎
生物学A	2					○		◎
生物学B	2					○		◎
物理学A	2					○		◎
物理学B	2					○		◎
化学A	2					○		◎
化学B	2					○		◎
自然科学思想史A	2					○		◎
自然科学思想史B	2					○		◎
自然人類学	2					◎		
文化人類学	2					◎		
生理学A	2					○		◎
生理学B	2					○		◎
健康科学A	2					○		◎
健康科学B	2					○		◎
スポーツ・レジャー・レクリエーション論	2					◎		
現代社会とスポーツ	2					◎		
トレーニングの科学	2					○		◎
レポート・論文作成法	2						◎	
言語表現論	2						◎	
手話コミュニケーション（初級）Ⅰ	1						◎	
手話コミュニケーション（初級）Ⅱ	1						◎	
手話コミュニケーション（中級）Ⅰ	1						◎	

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
手話コミュニケーション（中級）Ⅱ	1						◎	
外国文学（英米）	2					◎		
外国文学（ドイツ）	2					◎		
外国文学（フランス）	2					◎		
外国文学（中国）	2					◎		
日本語論A	2						◎	
日本語論B	2						◎	
日本文学A	2					◎		
日本文学B	2					◎		
日本文学（現代）	2					◎		
西洋史（総論）	2					◎		
西洋史（各論）	2					◎		
法学A	2					◎		
法学B	2					◎		
地理学A	2					◎		
地理学B	2					◎		
政治学A	2					◎		
政治学B	2					◎		
社会学A	2					◎		
社会学B	2					◎		
Global Issues A	2					○	◎	
Global Issues B	2					○	◎	
Global Issues C	2					○	◎	
Global Issues D	2					○	◎	
心理学	2					◎		
教養演習A	2				○	◎		
教養演習B	2				○	◎		
外国語教養演習A	2				○		◎	
外国語教養演習B	2				○		◎	
外国語教養演習C	2				○		◎	
外国語教養演習D	2				○		◎	
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages A	2				○		◎	
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages B	2				○		◎	
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages C	2				○		◎	
Liberal Arts Seminar in Foreign Languages D	2				○		◎	
日本事情	2					◎		
経営総合講義A	2				◎			
経営総合講義B	2				◎			
Overseas Exchange Subjects (Liberal Arts Subject)	1					◎	○	
外国語科目								
○英語（初級）A	1						◎	
○英語（初級）B	1						◎	
英語（中級）A	1						◎	
英語（中級）B	1						◎	
○ドイツ語（初級）Ⅰ	1						◎	
○ドイツ語（初級）Ⅱ	1						◎	
○ドイツ語（中級）A	1						◎	
○ドイツ語（中級）B	1						◎	
○フランス語（初級）Ⅰ	1						◎	
○フランス語（初級）Ⅱ	1						◎	
○フランス語（中級）A	1						◎	
○フランス語（中級）B	1						◎	
○中国語（初級）Ⅰ	1						◎	
○中国語（初級）Ⅱ	1						◎	
○中国語（中級）A	1						◎	
○中国語（中級）B	1						◎	
○ロシア語（初級）Ⅰ	1						◎	

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
○ロシア語（初級）Ⅱ	1						◎	
○ロシア語（中級）A	1						◎	
○ロシア語（中級）B	1						◎	
○韓国語（初級）Ⅰ	1						◎	
○韓国語（初級）Ⅱ	1						◎	
○韓国語（中級）A	1						◎	
○韓国語（中級）B	1						◎	
○日本語（作文・読解）Ⅰ	1						◎	
○日本語（作文・読解）Ⅱ	1						◎	
○日本語（速読・精読）A	1						◎	
○日本語（速読・精読）B	1						◎	
TOEFL Reading	1						◎	
TOEFL Listening	1						◎	
TOEFL Speaking	1						◎	
TOEFL Writing	1						◎	
TOEFL Preparation A	1						◎	
TOEFL Preparation B	1						◎	
English Exams A	1						◎	
English Exams B	1						◎	
Genres of Writing	1						◎	
Speech and Debate	1						◎	
英語スペシャルスタディA	1						◎	
英語スペシャルスタディB	1						◎	
英語表現論	1						◎	
英語コミュニケーション初級A	1						◎	
英語コミュニケーション初級B	1						◎	
英語コミュニケーション中級A	1						◎	
英語コミュニケーション中級B	1						◎	
英語コミュニケーション上級A	1						◎	
英語コミュニケーション上級B	1						◎	
ドイツ語コミュニケーション初級A	1						◎	
ドイツ語コミュニケーション初級B	1						◎	
ドイツ語コミュニケーション中級A	1						◎	
ドイツ語コミュニケーション中級B	1						◎	
ドイツ語コミュニケーション上級A	1						◎	
ドイツ語コミュニケーション上級B	1						◎	
フランス語コミュニケーション初級A	1						◎	
フランス語コミュニケーション初級B	1						◎	
フランス語コミュニケーション中級A	1						◎	
フランス語コミュニケーション中級B	1						◎	
フランス語コミュニケーション上級A	1						◎	
フランス語コミュニケーション上級B	1						◎	
中国語コミュニケーション初級A	1						◎	
中国語コミュニケーション初級B	1						◎	
中国語コミュニケーション中級A	1						◎	
中国語コミュニケーション中級B	1						◎	
中国語コミュニケーション上級A	1						◎	
中国語コミュニケーション上級B	1						◎	
International Business Program（語学研修）A	1						◎	
International Business Program（語学研修）B	1						◎	
認定科目（外国語科目）	1						◎	
Overseas Exchange Subjects（Foreign Languages Subjects）	1						◎	
体育実技科目								
○体育実技A	1				◎			
○体育実技B	1				◎			
選択体育実技A	1				◎			

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
選択体育実技B	1				◎			
学外選択体育実技A	1				◎			
学外選択体育実技B	1				◎			
実習関連科目								
International Business Program(実習)A	2				◎		○	
International Business Program(実習)B	2				◎		○	
グローバル・サービ斯拉ーニングA	2				◎		○	
グローバル・サービ斯拉ーニングB	2				◎		○	
リサーチ・リテラシーA	2				○			◎
リサーチ・リテラシーB	2				○			◎
フィールドスタディA	2				◎	○		
フィールドスタディB	2				◎	○		
フィールドスタディC	2				◎	○		
フィールドスタディD	2				◎	○		
DIGIT 入門演習Ⅰ	2				○			◎
DIGIT 入門演習Ⅱ	2				○			◎
DIGIT 実践演習	2				○			◎
演習科目								
演習Ⅰ	2				◎			
演習ⅡA	2				◎			
演習ⅡB	2				◎			
演習ⅢA	2				◎			
演習ⅢB	2				◎			

経営学科

基礎専門科目								
簿記論Ⅰ	2		◎					
簿記論Ⅱ	2		◎					
簿記技能	1		◎					
Business Presentation A	2						◎	
Business Presentation B	2						◎	
ビジネス英語A	2						◎	
ビジネス英語B	2						◎	
Business English A	2						◎	
Business English B	2						◎	
Fundamentals of Management A	2	◎					○	
Fundamentals of Management B	2	◎					○	
Fundamentals of Management C	2	◎					○	
Fundamentals of Management D	2	◎					○	
Transcultural Business Communication A	2	○					◎	
Transcultural Business Communication B	2	○					◎	
Strategic Business Communication A	2	○					◎	
Strategic Business Communication B	2	○					◎	
経済原論A	2	◎						
経済原論B	2	◎						
ビジネス・エコノミックスA	2	○						◎
ビジネス・エコノミックスB	2	○						◎
Japanese Economy	2	◎					○	
経済史A	2	◎				○		
経済史B	2	◎				○		
日本経済史A	2	◎				○		
日本経済史B	2	◎				○		
経営史A	2	◎				○		
経営史B	2	◎				○		
経営統計学A	2	○						◎
経営統計学B	2	○						◎
経営基礎数学A	2	○						◎

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
経営基礎数学B	2	○						◎
社会調査法	2	○						◎
経営社会学	2	◎				○		
経営心理学	2	◎				○		
産業生理学A	2	◎						○
産業生理学B	2	◎						○
経営と環境A	2	◎						
経営と環境B	2	◎						
経済地理学A	2	◎				○		
経済地理学B	2	◎				○		
マーケティング基礎論	2	◎						
企業の社会的責任論	2			◎				
Corporate Social Responsibility	2			◎			○	
情報化社会論A	2	◎					○	
情報化社会論B	2	◎					○	
ネット・ビジネス論A	2	◎						
ネット・ビジネス論B	2	◎						
Internet Business A	2	◎					○	
Internet Business B	2	◎					○	
コンテンツ・ビジネス論A	2	◎						
コンテンツ・ビジネス論B	2	◎						
Contents Business A	2	◎					○	
Contents Business B	2	◎					○	
戦略経営情報システム論	2	◎						○
ビジネス法	2	◎				○		
会社法A	2	◎				○		
会社法B	2	◎				○		
手形法・小切手法	2	◎				○		
財産法	2	◎				○		
税法	2		◎			○		
労働法	2	◎				○		
イギリス文化論	2					◎		
アメリカ文化論	2					◎		
American Culture	2					◎	○	
ドイツ文化論	2					◎		
中国文化論	2					◎		
東南アジア文化論	2					◎		
東欧文化論	2					◎		
フランス文化論	2					◎		
海外経営事情A	2	◎				○		
海外経営事情B	2	◎				○		
海外経営事情C	2	◎				○		
海外経営事情D	2	◎				○		
経営文献研究A	2				◎			
経営文献研究B	2				◎			
基礎専門演習A	2				◎			
基礎専門演習B	2				◎			
基礎専門演習C	2				◎			
基礎専門演習D	2				◎			
Core Subjects Seminar A	2				◎		○	
Core Subjects Seminar B	2				◎		○	
Core Subjects Seminar C	2				◎		○	
Core Subjects Seminar D	2				◎		○	
基礎専門特別講義A	2				◎			
基礎専門特別講義B	2				◎			
基礎専門特別講義C	2				◎			
基礎専門特別講義D	2				◎			

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
Core Subjects Specialized Lectures A	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures B	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures C	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures D	2				◎		○	
Overseas Exchange Subjects (Business Administration Core Subjects)	1	◎					○	
学科専門科目								
企業論 A	2	◎						
企業論 B	2	◎						
経営管理論 A	2	◎						
経営管理論 B	2	◎						
経営哲学 A	2	◎				○		
経営哲学 B	2	◎				○		
経営戦略論 A	2	◎						
経営戦略論 B	2	◎						
Innovation Strategy in Japan A	2	◎					○	
Innovation Strategy in Japan B	2	◎					○	
イノベーション・マネジメント A	2	◎						
イノベーション・マネジメント B	2	◎						
イノベーション・システム A	2	◎						
イノベーション・システム B	2	◎						
マーケティング・マネジメント A	2	◎						
マーケティング・マネジメント B	2	◎						
グローバル・マーケティング論 A	2	◎						
グローバル・マーケティング論 B	2	◎						
Strategic Marketing A	2	◎					○	
Strategic Marketing B	2	◎					○	
雇用関係論	2	◎				○		
労使関係論	2	◎				○		
企業内教育論	2	◎				○		
能力開発論	2	◎				○		
中小企業論 A	2	◎						
中小企業論 B	2	◎						
スタートアップ企業論 A	2	◎						
スタートアップ企業論 B	2	◎						
経営学史 A	2	◎				○		
経営学史 B	2	◎				○		
国際経営論 A	2	◎						
国際経営論 B	2	◎						
International Management A	2	◎					○	
International Management B	2	◎					○	
経営組織論	2	◎						
組織行動論	2	◎						
財務管理論	2	◎	○					
現代コーポレートファイナンス論	2	◎	○					
生産管理論 A	2	◎						
生産管理論 B	2	◎						
人事労務管理論 A	2	◎						
人事労務管理論 B	2	◎						
ナレッジ・マネジメント論	2	◎						
経営技術論	2	◎						
技術戦略論	2	◎						
Strategic Analysis of Japanese Companies A	2	◎					○	
Strategic Analysis of Japanese Companies B	2	◎					○	
経営情報論	2	◎						○
リスクマネジメント論	2	◎						○
経営文化論 A	2	◎				○		

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
経営文化論 B	2	◎				○		
国際経営史 A	2	◎				○		
国際経営史 B	2	◎				○		
日本経営論 A	2	◎				○		
日本経営論 B	2	◎				○		
日本経営史	2	◎				○		
日本企業者史	2	◎				○		
Comparative Business Management A	2	◎					○	
Comparative Business Management B	2	◎					○	
比較経営論 (アメリカ) A	2	◎				○		
比較経営論 (アメリカ) B	2	◎				○		
比較経営論 (西欧) A	2	◎				○		
比較経営論 (西欧) B	2	◎				○		
比較経営論 (ロシア・東欧) A	2	◎				○		
比較経営論 (ロシア・東欧) B	2	◎				○		
比較経営論 (中国) A	2	◎				○		
比較経営論 (中国) B	2	◎				○		
Transcultural Management A	2	◎					○	
Transcultural Management B	2	◎					○	
経営学外国書講読A	2	◎					○	
経営学外国書講読B	2	◎					○	
経営学特別講義A	2	◎			○			
経営学特別講義B	2	◎			○			
経営学特別講義C	2	◎			○			
経営学特別講義D	2	◎			○			
Special Lectures on Business Management A	2	◎					○	
Special Lectures on Business Management B	2	◎					○	
Special Lectures on Business Management C	2	◎					○	
Special Lectures on Business Management D	2	◎					○	
Information Ethics A (GSBA)	2	◎					○	
Information Ethics B (GSBA)	2	◎					○	
Information Science A (GSBA)	2	◎					○	
Information Science B (GSBA)	2	◎					○	
E Commerce A (GSBA)	2	◎					○	
E Commerce B (GSBA)	2	◎					○	
The Future of E Business A (GSBA)	2	◎					○	
The Future of E Business B (GSBA)	2	◎					○	
Organizational Behavior A (GSBA)	2	◎					○	
Organizational Behavior B (GSBA)	2	◎					○	
Strategic Management A (GSBA)	2	◎					○	
Strategic Management B (GSBA)	2	◎					○	
Transnational Management A (GSBA)	2	◎					○	
Transnational Management B (GSBA)	2	◎					○	
Human Resource Management A (GSBA)	2	◎					○	
Human Resource Management B (GSBA)	2	◎					○	
Family Business A (GSBA)	2	◎					○	
Family Business B (GSBA)	2	◎					○	
International Marketing A (GSBA)	2	◎					○	
International Marketing B (GSBA)	2	◎					○	
Service Marketing A (GSBA)	2	◎					○	
Service Marketing B (GSBA)	2	◎					○	
Corporate Finance A (GSBA)	2	◎	○				○	
Corporate Finance B (GSBA)	2	◎	○				○	
Investments A (GSBA)	2	◎	○				○	
Investments B (GSBA)	2	◎	○				○	
Overseas Exchange Subjects (Business Administration Specialized Subjects)	1	◎					○	

授業科目		単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
会計学科									
基礎専門科目									
簿記論Ⅰ	2		◎						
簿記論Ⅱ	2		◎						
簿記技能	1		◎						
Business Presentation A	2							◎	
Business Presentation B	2							◎	
ビジネス英語A	2							◎	
ビジネス英語B	2							◎	
Business English A	2							◎	
Business English B	2	◎						○	
Fundamentals of Management A	2	◎						○	
Fundamentals of Management B	2	◎						○	
Fundamentals of Management C	2	◎						○	
Fundamentals of Management D	2	◎						○	
Transcultural Business Communication A	2	○						◎	
Transcultural Business Communication B	2	○						◎	
Strategic Business Communication A	2	○						◎	
Strategic Business Communication B	2	○						◎	
経済原論A	2	◎							
経済原論B	2	◎							
ビジネス・エコノミックスA	2	○							◎
ビジネス・エコノミックスB	2	○							◎
Japanese Economy	2	◎						○	
経済史A	2	◎					○		
経済史B	2	◎					○		
日本経済史A	2	◎					○		
日本経済史B	2	◎					○		
経営史A	2	◎					○		
経営史B	2	◎					○		
経営統計学A	2	○							◎
経営統計学B	2	○							◎
経営基礎数学A	2	○							◎
経営基礎数学B	2	○							◎
社会調査法	2	○							◎
経営社会学	2	◎					○		
経営心理学	2	◎					○		
産業生理学A	2	◎							○
産業生理学B	2	◎							○
経営と環境A	2	◎							
経営と環境B	2	◎							
経済地理学A	2	◎					○		
経済地理学B	2	◎					○		
マーケティング基礎論	2	◎							
企業の社会的責任論	2			◎					
Corporate Social Responsibility	2			◎				○	
情報化社会論A	2	◎						○	
情報化社会論B	2	◎						○	
ネット・ビジネス論A	2	◎							
ネット・ビジネス論B	2	◎							
Internet Business A	2	◎						○	
Internet Business B	2	◎						○	
コンテンツ・ビジネス論A	2	◎							
コンテンツ・ビジネス論B	2	◎							
Contents Business A	2	◎						○	
Contents Business B	2	◎						○	

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
戦略経営情報システム論	2	◎						○
ビジネス法	2	◎				○		
会社法A	2	◎				○		
会社法B	2	◎				○		
手形法・小切手法	2	◎				○		
財産法	2	◎				○		
税法	2		◎			○		
労働法	2	◎				○		
イギリス文化論	2					◎		
アメリカ文化論	2					◎		
American Culture	2					◎	○	
ドイツ文化論	2					◎		
中国文化論	2					◎		
東南アジア文化論	2					◎		
東欧文化論	2					◎		
フランス文化論	2					◎		
海外経営事情A	2	◎				○		
海外経営事情B	2	◎				○		
海外経営事情C	2	◎				○		
海外経営事情D	2	◎				○		
経営文献研究A	2				◎			
経営文献研究B	2				◎			
基礎専門演習A	2				◎			
基礎専門演習B	2				◎			
基礎専門演習C	2				◎			
基礎専門演習D	2				◎			
Core Subjects Seminar A	2				◎		○	
Core Subjects Seminar B	2				◎		○	
Core Subjects Seminar C	2				◎		○	
Core Subjects Seminar D	2				◎		○	
基礎専門特別講義A	2				◎			
基礎専門特別講義B	2				◎			
基礎専門特別講義C	2				◎			
基礎専門特別講義D	2				◎			
Core Subjects Specialized Lectures A	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures B	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures C	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures D	2				◎		○	
Overseas Exchange Subjects (Accounting Core Subjects)	1		◎				○	
学科専門科目								
財務会計総論A	2		◎					
財務会計総論B	2		◎					
管理会計総論A	2		◎					
管理会計総論B	2		◎					
中級簿記論	2		◎					
上級簿記論	2		◎					
財務諸表論A	2		◎					
財務諸表論B	2		◎					
現代会計基準論A	2		◎					
現代会計基準論B	2		◎					
監査論A	2		◎					
監査論B	2		◎					
国際財務報告論A	2		◎					
国際財務報告論B	2		◎					
英文会計	2		◎					
Basic Accounting A	2		◎				○	

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
Basic Accounting B	2		◎				○	
Financial Accounting A	2		◎				○	
Financial Accounting B	2		◎				○	
原価計算論Ⅰ	2		◎					
原価計算論Ⅱ	2		◎					
原価管理論A	2		◎					
原価管理論B	2		◎					
マネジメント・コントロールA	2		◎					
マネジメント・コントロールB	2		◎					
Management Accounting A	2		◎				○	
Management Accounting B	2		◎				○	
経営分析論A	2	○	◎					
経営分析論B	2	○	◎					
環境会計論A	2		◎					
環境会計論B	2		◎					
税務会計論A	2		◎					
税務会計論B	2		◎					
公会計論	2		◎	○				
NPO会計論	2		◎	○				
会計史A	2		◎			○		
会計史B	2		◎			○		
法人税法A	2		◎					
法人税法B	2		◎					
会計学外国書講読A	2		◎				○	
会計学外国書講読B	2		◎				○	
会計プロセミナーA	2		◎		○			
会計プロセミナーB	2		◎		○			
会計プロセミナーC	2		◎		○			
会計プロセミナーD	2		◎		○			
会計学特別講義A	2		◎		○			
会計学特別講義B	2		◎		○			
会計学特別講義C	2		◎		○			
会計学特別講義D	2		◎		○			
経営戦略論A	2	◎						
経営戦略論B	2	◎						
国際経営論A	2	◎						
国際経営論B	2	◎						
International Management A	2	◎					○	
International Management B	2	◎					○	
財務管理論	2	◎	○					
現代コーポレートファイナンス論	2	◎	○					
Strategic Analysis of Japanese Companies A	2	◎					○	
Strategic Analysis of Japanese Companies B	2	◎					○	
比較経営論（アメリカ）A	2	◎						
比較経営論（アメリカ）B	2	◎						
Corporate Finance A（GSBA）	2	◎	○				○	
Corporate Finance B（GSBA）	2	◎	○				○	
Investments A（GSBA）	2	◎	○				○	
Investments B（GSBA）	2	◎	○				○	
Advanced Financial Accounting A（GSBA）	2		◎				○	
Advanced Financial Accounting B（GSBA）	2		◎				○	
Financial Statement Analysis A（GSBA）	2		◎				○	
Financial Statement Analysis B（GSBA）	2		◎				○	
Overseas Exchange Subjects（Accounting Specialized Subjects）	1		◎				○	

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
基礎専門科目								
簿記論Ⅰ	2		◎					
簿記論Ⅱ	2		◎					
簿記技能	1		◎					
Business Presentation A	2						◎	
Business Presentation B	2						◎	
ビジネス英語A	2						◎	
ビジネス英語B	2						◎	
Business English A	2						◎	
Business English B	2	◎					○	
Fundamentals of Management A	2	◎					○	
Fundamentals of Management B	2	◎					○	
Fundamentals of Management C	2	◎					○	
Fundamentals of Management D	2	◎					○	
Transcultural Business Communication A	2	○					◎	
Transcultural Business Communication B	2	○					◎	
Strategic Business Communication A	2	○					◎	
Strategic Business Communication B	2	○					◎	
経済原論A	2	◎						
経済原論B	2	◎						
ビジネス・エコノミックスA	2	○						◎
ビジネス・エコノミックスB	2	○						◎
Japanese Economy	2	◎					○	
経済史A	2	◎				○		
経済史B	2	◎				○		
日本経済史A	2	◎				○		
日本経済史B	2	◎				○		
経営史A	2	◎				○		
経営史B	2	◎				○		
経営統計学A	2	○						◎
経営統計学B	2	○						◎
経営基礎数学A	2	○						◎
経営基礎数学B	2	○						◎
社会調査法	2	○						◎
経営社会学	2	◎				○		
経営心理学	2	◎				○		
産業生理学A	2	◎						○
産業生理学B	2	◎						○
経営と環境A	2	◎						
経営と環境B	2	◎						
経済地理学A	2	◎				○		
経済地理学B	2	◎				○		
マーケティング基礎論	2	◎						
企業の社会的責任論	2			◎				
Corporate Social Responsibility	2			◎			○	
情報化社会論A	2	◎					○	
情報化社会論B	2	◎					○	
ネット・ビジネス論A	2	◎						
ネット・ビジネス論B	2	◎						
Internet Business A	2	◎					○	
Internet Business B	2	◎					○	
コンテンツ・ビジネス論A	2	◎						
コンテンツ・ビジネス論B	2	◎						
Contents Business A	2	◎					○	
Contents Business B	2	◎					○	
戦略経営情報システム論	2	◎						○
ビジネス法	2	◎				○		

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
会社法A	2	◎				○		
会社法B	2	◎				○		
手形法・小切手法	2	◎				○		
財産法	2	◎				○		
税法	2		◎			○		
労働法	2	◎				○		
イギリス文化論	2					◎		
アメリカ文化論	2					◎		
American Culture	2					◎	○	
ドイツ文化論	2					◎		
中国文化論	2					◎		
東南アジア文化論	2					◎		
東欧文化論	2					◎		
フランス文化論	2					◎		
海外経営事情A	2	◎				○		
海外経営事情B	2	◎				○		
海外経営事情C	2	◎				○		
海外経営事情D	2	◎				○		
経営文献研究A	2				◎			
経営文献研究B	2				◎			
基礎専門演習A	2				◎			
基礎専門演習B	2				◎			
基礎専門演習C	2				◎			
基礎専門演習D	2				◎			
Core Subjects Seminar A	2				◎		○	
Core Subjects Seminar B	2				◎		○	
Core Subjects Seminar C	2				◎		○	
Core Subjects Seminar D	2				◎		○	
基礎専門特別講義A	2				◎			
基礎専門特別講義B	2				◎			
基礎専門特別講義C	2				◎			
基礎専門特別講義D	2				◎			
Core Subjects Specialized Lectures A	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures B	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures C	2				◎		○	
Core Subjects Specialized Lectures D	2				◎		○	
Overseas Exchange Subjects (Public Management Core Subjects)	1			◎			○	
学科専門科目								
行政経営論	2			◎				
行政経営戦略論	2			◎				
Introduction to Public Management	2			◎			○	
Social Impact Investment	2			◎			○	
Business for Social Impact	2			◎			○	
公共思想論	2			◎		○		
公共歴史論	2			◎		○		
公共表現行為論	2			◎		○		
地域文化と伝統産業	2			◎		○		
地域公共論	2			◎		○		
現代健康論	2			◎		○		
住まいと仕事の地理学	2			◎		○		
公共セクター経済論	2			◎				
公共マーケティング論	2			◎				
社会会計論	2			◎				
非営利組織論	2			◎				
社会的企業論	2			◎				
中小企業論A	2	◎						

2026年度カリキュラム・マップ

授業科目	単位数	DP (1)	DP (2)	DP (3)	DP (4)	DP (5)	DP (6)	DP (7)
中小企業論B	2	◎						
NPO経営戦略論	2			◎				
ソーシャル・ファイナンス論	2			◎				
サステナブル投資論	2			◎				
NPO会計論	2		◎	○				
協同組合学	4			◎				
公益事業論	2			◎				
公共ガバナンス論A	2			◎				
公共ガバナンス論B	2			◎				
行政評価論	2			◎				
公共データ分析論	2			◎				○
地方財政論	4			◎				
地域活性化論（講義）A	2			◎				
地域活性化論（講義）B	2			◎				
地域活性化論（実習）A	2			◎	○			
地域活性化論（実習）B	2			◎	○			
公共交通と地域社会	2			◎				
観光事業論A	2			◎				
観光事業論B	2			◎				
ツーリズム・マネジメントA	2			◎				
ツーリズム・マネジメントB	2			◎				
Tourism Management A	2			◎			○	
Tourism Management B	2			◎			○	
公会計論	2		◎	○				
国際開発論	2			◎				
International Development	2			◎			○	
国際協力NGO論	2			◎				
ライフスタイル・マネジメント論	2			◎				
福祉マネジメント論	2			◎				
医療マネジメント論	2			◎				
自治体マネジメント論	2			◎				
スポーツ・マネジメント論	2			◎				
スポーツマーケティング論	2			◎				
アウトドア組織マネジメント論	2			◎				
公共経営学外国書講読A	2			◎			○	
公共経営学外国書講読B	2			◎			○	
公共経営学特別講義A	2			◎	○			
公共経営学特別講義B	2			◎	○			
公共経営学特別講義C	2			◎	○			
公共経営学特別講義D	2			◎	○			
Overseas Exchange Subjects (Public Management Specialized Subjects)	1			◎			○	

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA) MAN191J	
科目名		経営総論（統一）	
担当者		鳥居 陽介・早川 佐知子・平屋 伸洋	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 経営学・公共経営学・会計学を初めて学ぶ学生に、それぞれの学科領域の基礎的な事項を体系的に概説し、入門的な学習をスタートさせる。 【到達目標】 秋学期の経営学・公共経営学・会計学の学習へと進むための基礎的な知識と学習方法を習得する。			
2. 授業内容 各分野の授業内容は、以下の通りです。クラスによって学習の順番が異なるため、第1回授業で確認すること。 【各分野の授業内容】 経営①経営と企業 経営②革新（イノベーション）と経営戦略 経営③管理（マネジメント） 経営④組織 公共経営①公共経営学の基礎 公共経営②ウェルフェア・ミックス 公共経営③多様なセクターの連携・協働 公共経営④多様な公共経営の分野 会計①会計との歴史 会計②会計とマネジメント 会計③会計とディスクロージャー 会計④会計とファイナンス 【授業計画】 第1回 イントロダクション 第2回～5回 各分野の授業（クラス別） 第6回～9回 各分野の授業（クラス別） 第10回～第13回 各分野の授業（クラス別） 第14回 まとめ 【学習順】 クラスA：経営分野→公共経営分野→会計分野 クラスB：会計分野→経営分野→公共経営分野 クラスC：公共経営分野→会計分野→経営分野			
3. 履修上の注意 この科目は1年生春学期の学部必修科目です。3つの対面クラス（対面授業科目）と1つのオンラインクラス（メディア授業科目）に分かれており、全ての対面クラスの1年生は受講するクラスがあらかじめ指定されています。メディア授業科目の対象者は、再履修学生です。 【質問・相談について】 各クラスには、各分野の授業を担当する授業担当教員と、最終的に成績評価を行うクラス担当教員がありますが、授業内容に関する質問はもちろん、病欠や忌引きなど個別に相談をしたい場合、基本的には授業担当教員に行ってください。 対面クラスでは教室にて直接受け付けます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習を行う必要はありません。毎回の授業に参加し、そこで示される資料を確認しながら授業後に復習し、内容の理解・定着・向上に努めてください。			
5. 教科書 教科書はありません。経営学部教員が作成したオリジナルの教材を用いて授業を進めます。			
6. 参考書 各回の授業で、必要に応じて参考書を示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 対面クラスで出題される課題については、授業内に解説いたします。			

8. 成績評価の方法

各分野 33 点満点（会計分野は 34 点満点）の定期試験 100%で評価します。

* 対面クラスにおいては、分野ごとに定期試験受験の前提となる課題を出題する場合があるので、各分野の教員の説明をしっかりと確認すること。

* 対面クラスの定期試験は対面形式で実施します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA) MAN196J	
科目名		経営総論〔M〕 特設	
担当者		石塚 史樹・早川 佐知子・平屋 伸洋	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 経営学・公共経営学・会計学を初めて学ぶ学生に、それぞれの学科領域の基礎的な事項を体系的に概説し、入門的な学習をスタートさせる。 【到達目標】 秋学期の経営学・公共経営学・会計学の学習へと進むための基礎的な知識と学習方法を習得する。			
2. 授業内容 各分野の授業内容は、以下の通りです。クラスによって学習の順番が異なるため、第1回授業で確認すること。 オンラインクラス（メディア授業科目）は14回全てをオンデマンド型で実施します。 【各分野の授業内容】 経営①経営と企業 経営②革新（イノベーション）と経営戦略 経営③管理（マネジメント） 経営④組織 公共経営①公共経営学の基礎 公共経営②ウェルフェア・ミックス 公共経営③多様なセクターの連携・協働 公共経営④多様な公共経営の分野 会計①会計との歴史 会計②会計とマネジメント 会計③会計とディスクロージャー 会計④会計とファイナンス 【授業計画】 第1回 インTRODakShION〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回～5回 各分野の授業（クラス別）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回～9回 各分野の授業（クラス別）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回～第13回 各分野の授業（クラス別）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 【学習順】 経営分野→公共経営分野→会計分野			
3. 履修上の注意 この科目は1年生春学期の学部必修科目です。 メディア授業科目の対象者は、再履修学生です。これらの学生への毎回の授業資料は、火曜日1限を目途にアップいたしますので、そちらを確認してください。 【質問・相談について】 各クラスには、各分野の授業を担当する授業担当教員と、最終的に成績評価を行うクラス担当教員がありますが、授業内容に関する質問はもちろん、病欠や忌引きなど個別に相談をしたい場合、基本的には授業担当教員に行ってください。 オンラインクラスでは0h-o!Meijiの「アンケート」機能を用いて受け付けます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習を行う必要はありません。毎回の授業に参加し、そこで示される資料を確認しながら授業後に復習し、内容の理解・定着・向上に努めてください。			
5. 教科書 教科書はありません。経営学部教員が作成したオリジナルの教材を用いて授業を進めます。			
6. 参考書 各回の授業で、必要に応じて参考書を示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 オンラインクラスで出題される課題については、0h-o!Meiji上に採点結果を掲示する予定です。			
8. 成績評価の方法 オンラインクラス：各分野で出題される動画に関するクイズやリアクションペーパー等の提出やオンライン試験（経営分野33%，公共経営分野33%，会計分野34%）で評価します。			

* オンラインクラスでの動画に関するクイズやリアクションペーパーは、分野によって出題方法や成績評価対象とするかどうかなど、対応が異なる場合がありますので、各分野担当教員からの説明をしっかりと確認すること。
* オンラインクラスの定期試験はオンラインにて実施します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA) MAN196J		
科目名		経営学（統一）2021 年度以降入学者対象		
担当者		石塚 史樹・一小路 武安・趙 トウ基・古川 裕康・宮田 憲一		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
【授業の概要】 経営学という学問領域は、多様なテーマ領域から構成されていますが、それらは、企業の内部について主に学んでいく経営管理論系と、社会などの外部と企業との関係を中心に考えていく企業論系に大きく分けられます。 経営管理論系とは、経営者が企業や組織をどのように運営していったらいいのかに関わる学問領域です。具体的には、マーケティングや生産管理、人事労務管理、組織行動、財務管理、経営戦略、経営組織などの領域から成り立っています。一方、企業論系とは、経営者や企業が社会において果たす役割に関わる学問領域です。例えば、法律と会社形態、コーポレート・ガバナンス、企業家論、ベンチャー企業や中小企業論、経営史、国際経営、労使関係や CSR といった領域から成りなっています。 この講義では、春学期の初歩的な経営学の学習をふまえて、2 年生以降の専門的な学習に向けて、経営学の主要テーマに関する基礎的な知識を学びます。具体的には、「経営総論」3 パートのうちの「経営」パートで学んだ、4 つの大きなテーマである「経営と企業」、「革新と戦略」、「管理」、「組織」を、それぞれ 3 回に分けて、事例を用いながら、関連する専門領域の基本的な理論や考え方とともにより深く理解していきます。				
【到達目標】 □企業や組織を運営・管理するための体系、および関連する理論と実践課題を理解し、基本的な概念を用いて企業経営や企業活動について論理的に説明することができる。 □各専門領域の基本概念や理論と具体的な事例の関係を理解し、具体と抽象を行き来する思考力を養う。 □2 年生以降のゼミや専門科目を履修するための基本的な知識を身につけ、様々なテーマからなる経営学という学問領域の中で、自分が興味・関心をもつ専門領域を見つける。				
2. 授業内容				
【イントロダクション】 第 01 回：序論と「経営と企業」 [メディア授業（オンデマンド型）] □経営総論の復習、授業全体の目的と概要について解説します。				
【テーマ 1：会社と企業】 第 02 回：企業の性格と種類 [メディア授業（オンデマンド型）] □企業形態（会社の種類）や、そのなかでも代表的な株式会社の特徴について学ぶとともに、「所有と経営」、コーポレート・ガバナンスの基本について解説します。 第 03 回：世界と日本の企業 [メディア授業（オンデマンド型）] □まず、世界の大企業を紹介したうえで、そのなかでの日本の大企業の位置づけを確認します。そのうえで、なぜ企業は大きくなるのか、また進化する中小企業の特徴などについて学びます。				
【テーマ 2：イノベーションと戦略】 第 04 回：経営革新 [メディア授業（オンデマンド型）] □企業が進化する際の必要条件ともいべき革新（イノベーション）の概念や基本的理論を実例とともに学びます。 第 05 回：経営戦略 [メディア授業（オンデマンド型）] □企業が競争優位を獲得するうえで必要な経営戦略について、戦略の体系、戦略の策定・実行の過程、戦略のタイプなどについて学びます。 第 06 回：マーケティング [メディア授業（オンデマンド型）] □市場（消費者）を強く意識した戦略ともいべきマーケティングについて、その定義、4P などの基本的考え方を身近な事例を通じて学びます。				
【テーマ 3：モノとヒトのマネジメント】 第 07 回：モノづくりのマネジメント [メディア授業（オンデマンド型）] □質の良いモノを効率的につくるためには、合理的なマネジメントの手法が必要になります。また、漸次、その手法を向上させてゆく継続的な営みも必要です。そうしたモノづくりの手法に関して学びます。 第 08 回：人事労務管理 [メディア授業（オンデマンド型）] □企業の社会的役割を実際に担っているのは、人間です。そのヒトのマネジメントである人事労務管理の歴史や目的について学びます。 第 09 回：モチベーションと創造性の発揮 [メディア授業（オンデマンド型）] □ヒトが創造的な営みに向かうには「やる気」（モチベーション）が必要です。どのようにしたらモチベーションを高めることができるのか、またヒトが配置される組織が創造性を高めることがなぜ必要なのかについて学びます。				
【テーマ 4：組織のマネジメント】 第 10 回：リーダーシップと組織文化 [メディア授業（オンデマンド型）] □ヒトや組織を一定の目的に向けて導くリーダーシップについて、学びます。また組織の特徴ともいえる組織文化について、その変革の必要性なども含めてまなびます。 第 11 回：組織の基本形態 [メディア授業（オンデマンド型）]				

□ヒトが配置される組織はいかにして成立するのかという根本的な問題から、組織の定義、組織づくりの原則などについて学びます。 第12回：経営組織の構造と変革　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 □組織と外部環境、組織の諸形態、組織変革とその事例などについて説明し、発展的組織のあり方を考察するための基礎を学びます。 【企業の新たな課題（テーマ1の3回目授業）】 第13回：企業と社会　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 □社会的存在としての企業は、自ら関連する社会的問題をどのように捉え取り組んできたのか、またその存在感を増す機関投資家とその行動の変化などについて学びます。 【経営学の総括】〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：「経営学への扉」をひらく：1年生で学んだこと、2年生から学ぶこと □授業全体の総括と経営学部の関連専門科目を紹介します。 ※最新の研究動向をふまえて一部講義内容を変更する場合があります。
3. 履修上の注意 - この講義は、メディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。授業動画は毎週火曜日に Oh-o!Meiji システムを通じて配信し、当該学期の1月末日まで視聴を可能とする予定です（配信曜日を変更する場合は事前にお知らせします）。 - 毎回の授業動画に対する課題や試験等を通じて出席や理解度確認を行い、意見交換の場として Oh-o!Meiji クラスウェブのディスカッション機能、教員への質問・相談窓口としてクラスウェブのアンケート機能を活用する予定です。詳細については、クラスウェブの「シラバスの補足」などで適宜お知らせします。 - この講義は学部必修科目です。あらかじめ指定されたクラスでの受講となりますが、シラバス、講義内容、成績評価などはすべて同一となります。 - 初回の講義に必ず出席（視聴）して、詳しい授業内容や受講のルール、質問方法等について確認してください。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：・事前に配布される講義資料に必ず目を通して授業に臨んで下さい。 - 補足資料がある場合は、必ず資料を確認してから授業を視聴してください。 - 翌授業回の内容が、企業経営における位置や、それまでの授業内容との関係について考えてみて下さい。 復習：・授業後に講義資料やノートをもとに復習してください。 - 理解が不十分な点は、授業動画を再度視聴するなどして授業内容の理解定着・向上に努めてください。 - 不明な部分があれば所定の方法から質問してください。 - データベース（日経テレコン等）を使って、授業内容に関連する新聞雑誌記事やニュースを探してみてください。
5. 教科書 教科書はありません。オリジナルの教材を用いて授業を進めます。
6. 参考書 『経営学への扉　〔第5版〕』明治大学経営学研究会編（白桃書房）2015年。 『考える経営学』中川功一ほか著（有斐閣）2021年。 その他参考書については、各回に必要なに応じて紹介します。
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う
8. 成績評価の方法 オンラインテスト、課題レポート、試験などを合算して総合的に評価します。詳細は、秋学期開始の際に「シラバスの補足」でお知らせします。
9. その他 - 本講義では Oh-o! Meiji システムを頻繁に利用するので、都度クラスウェブを確認するようにしてください。 - なお、本講義の発展的な科目は、2年次に履修できる経営管理論 A・B および企業論 A・B になります。

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA) ACC196J		
科目名		会計学（統一） 2021 年度以降入学者対象		
担当者		浅野 千鶴・石津 寿恵・大槻 晴海・千葉 貴律・長野 史麻・森光 高大		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） この授業では、組織体の経営において会計が果たす役割についての知見を広めるために、会計の二大領域である管理会計と財務会計における特徴的な分野をより具体的に学びます。 管理会計は、組織内部の経営者や管理者、さらには従業員が、組織内外の状況の把握、経営や業務上の問題に対処する判断、経営戦略や経営計画の立案、業務の遂行、業績の把握と評価を行う際に必要とする情報を提供することを目的とする会計の領域です。また、財務会計は、組織外部の利害関係者（投資家、債権者、取引先、国や地方公共団体など）が、組織体の経営状況や活動内容を知るために必要な情報を開示し提供することを目的とする会計の領域です。 この授業は会計学の入門として、これら 2 つの領域に関わる基礎的な知識とスキルを、代表的な事例を題材とした講義と演習によって、理論的かつ実践的に学修します。 （到達目標） この授業での到達目標は、次の 4 つです。 （1）管理会計と財務会計の役割や特徴を理解し、それぞれの領域における基本概念を説明することができる。 （2）財務諸表や統合報告書などの報告書の役割や特徴、関係を理解し、組織体の状況に関する基本的な情報を読み取ることができる。 （3）会計情報を用いた基本的な分析方法を理解し、組織体の現状や問題点を明らかにすることができる。 （4）組織体の経営における財務管理、意思決定、業績評価、情報開示について理解し、それらに会計情報を活用することの有効性を説明することができる。				
2. 授業内容 この授業は毎週水曜日午前 9 時に授業動画が配信されるメディア授業（オンデマンド配信型）で行われます。 第 1 回 イントロダクション [9 月 30 日（水）09：00 配信] 確認テストの受け方、成績評価の方法など、授業の進め方を詳しく説明します。必ず視聴してください。 第 2 回 コストビヘイビアと収益性分析（1） 原価とは何か／オペレーティング・レバレッジの収益性への影響 第 3 回 コストビヘイビアと収益性分析（2） コストビヘイビアによる原価の分類／オペレーティング・レバレッジを活用した戦略の立案 第 4 回 商品開発と会計（1） 商品企画から生産準備までにおける管理会計の役割と手法 第 5 回 商品開発と会計（2） 初歩的な VE（価値工学）の実践と原価企画の活用方法 第 6 回 意思決定と管理会計（1） 経営活動における様々な意思決定／業務的意思決定 第 7 回 意思決定と管理会計（2） 長期的な意思決定と資金管理 第 8 回 制度的ディスクロージャー（1） 意思決定有用性と受託責任の表明／会社法と金商法の情報開示の仕組み 第 9 回 制度的ディスクロージャー（2） 有価証券報告書の入手方法・情報内容／財務諸表の構成と分析手法 第 10 回 非制度的ディスクロージャー（1） 企業の情報開示における非財務情報の重要性／環境報告書、CSR 報告書、統合報告書の内容 第 11 回 非制度的ディスクロージャー（2） 統合報告書等の入手方法・情報内容／統合報告書等の構成と分析・活用手法 第 12 回 非営利組織のディスクロージャー（1） 非営利組織における情報開示の意義・必要性／非営利組織の活動内容・経営状況など 第 13 回 非営利組織のディスクロージャー（2） 非営利組織の会計情報/明治大学の経営成績なども例として 第 14 回 まとめ				
3. 履修上の注意 授業動画は毎週水曜日の午前 9：00 に配信されます。 履修者はオンライン授業を受講するための環境を整えてください。 動画の配信日時：毎週水曜日 午前 9：00 確認テストの回答期限：翌週月曜日 午前 6：00 授業内容に関する質問・問い合わせなどは、該当回の「授業資料」に記載されている連絡先に直接、メールで連絡してください。 ただし、確認テストの未受験に伴う成績評価に関連した問い合わせには一切、応じません。				

初回の授業動画では、成績評価に関する細かな注意事項を説明しますので、第1回目が配信された週に必ず視聴してください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予習を行う必要はありません。各回の授業動画を視聴した後に確認テストに取り組み、授業内容の理解の定着および向上に努めてください。

5. 教科書

教科書はありません。オリジナルの教材を用いて授業を進めます。

6. 参考書

各回の授業で必要に応じて参考書を示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji クラスウェブを通じてフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

【成績評価方法】

(1) 確認テスト（第2回～第13回の各10点×12回）とする

(2) 第1回クイズ（4点）と第14回確認テスト（6点）とする

(3) 第2回以降の奇数回（全6回）で実施されるアンケートの回答に各1点（最大6点）のボーナス点を付与する

＊成績評価における分母は130点、分子はボーナス点を入れた136点とする。

◆成績評価の条件：「確認テスト（第2回～第13回）の全12回中9回以上受験していること」

第2回～第13回の確認テストを4回以上受験しなかった学生は自動的に「T評価（未受験）」となる。

なお、確認テストは何度でも受験できるため、0点は未受験扱いとするので注意すること。

9. その他

9月30日（水）に配信される第1回の授業動画を配信された週に必ず視聴してください。

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA) ACC191J	
科目名		公共経営学（統一）2021 年度以降入学対象	
担当者		塚本 一郎・小関 隆志・石渡 幹夫・生田 孝史・久保 善慎	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：私たちの社会は、気候変動や災害、貧困や飢餓、国際紛争など、深刻な問題を数多く抱え、いずれも早急な対応が求められています。他方、これらの社会問題の解決をすべて政府や国際機関に委ねることは困難であり、民間の企業や非営利組織、地域社会といった社会の構成メンバーがみんな連携・協働しながら、よりよい社会を築くために前進していかなくてはなりません。公共経営学は、個別の企業の利益や発展というよりも、社会全体の利益や発展のためのマネジメントを研究する学問分野です。こうした公共経営学の考え方は、公務、非営利組織、営利企業、いずれの分野でも幅広く役立ちます。 この講義では、春学期の「経営総論」で紹介した、公共経営学に関する内容を少し深めて、公共経営学の基礎的な概念・理論を整理するとともに、講義の後半では各論として、いくつかの分野（スポーツ、医療・福祉、地域活性化、国際協力）に即して、公共経営学の具体像を見ていきます。 到達目標：公共経営学の基礎的な概念・理論を理解するとともに、公共経営学の考え方に即して、社会問題の解決に向けて考察し、議論することができる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション：授業進行・成績評価方法の説明、「経営総論」の復習など 第2回 公共性と公共経営：公共性・公共経営とは何か、公共経営学の基本的な考え方 第3回 社会課題と解決の方法論：公共経営学による社会課題へのアプローチの方法 第4回 民間営利セクター：企業がどのように社会責任を果たし、社会貢献を行うか 第5回 民間非営利セクター：非営利組織や協同組合などの特徴、社会的役割、課題 第6回 公的セクター（1）：行政機関による経営の特徴、守備範囲、多様性、地方自治 第7回 公的セクター（2）：公務員制度、行政への市民参加、行政への監視・情報公開 第8回 官民連携のマネジメント：行政機関と企業、非営利組織との多様な連携のあり方 第9回 地域活性化：地域の課題と、活性化のために社会的企業に期待される役割 第10回 少子高齢化：子育て世帯支援、婚姻制度、養子縁組制度、移民問題など 第11回 公共交通：人口減少社会で地域住民の足を守り、交通体系を維持するには 第12回 スポーツのマネジメント：スポーツ組織におけるマネジメントの必要性和機能 第13回 医療・福祉のマネジメント：医療・福祉制度の持続可能な運営のあり方 第14回 国際開発／まとめ：途上国が抱える諸課題と、開発援助、各主体の取り組み			
3. 履修上の注意 この講義は1年生秋学期の学部必修科目であり、学科選択の参考にするとともに、今後の公共経営学科専門科目につなげるための導入部と位置づけられています。 後半にはグループ・ディスカッションがありますので、積極的に授業に参加してください。 この講義は6つのコマに分かれており、各コマの担当教員はそれぞれ異なりますが、シラバスは共通で、講義内容や成績評価などはすべて同一です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後に資料を振り返り、不明な部分があれば質問してください。また、次の回の内容について資料や参考書に目を通しておいください。			
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。			
6. 参考書 毎回の講義の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o Meiji システムを利用してフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 定期試験（52%）、レポート（30%）、グループ・ディスカッション（18%）の合計で成績評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA)ECN111J	
科目名		近代経済学A（統一）	
担当者		三上 真寛・鶴田 靖人・栗田 健一・山下 裕歩	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） この授業は、初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なミクロ経済学の基礎を解説する。ミクロ経済学は、市場価格を参照する個々の家計や企業の行動から、市場において需要と供給が均衡し、希少資源が効率的に配分されるメカニズムと、それが市場全体にもたらす厚生を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、消費者の効用、企業の利潤と費用構造、市場における競争などの事項に重きをおきながら、市場の失敗についても解説する。 （到達目標） ミクロ経済学が前提とする個人観、家計（消費者）と企業（生産者）の行動様式、価格メカニズムとしての市場像などを中心に、ミクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 ミクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 ミクロ経済学の対象と方法 第2回 市場メカニズムと需要・供給 第3回 家計の行動と需要曲線 第4回 企業の行動と供給曲線 第5回 短期・長期の概念と費用構造 第6回 部分均衡と資源配分 第7回 無差別曲線と予算制約線 第8回 代替効果と所得効果 第9回 等産出量曲線と等費用曲線 第10回 総収入曲線と総費用曲線 第11回 一般均衡と資源配分 第12回 比較優位と国際分業 第13回 独占と独占的競争 第14回 市場の失敗			
3. 履修上の注意 ミクロ経済学は個々の経済主体の行動から市場全体の秩序を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業には毎回必ず出席すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 担当者から指示する。			
6. 参考書 担当者から指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。			
9. その他 特になし。			

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA)ECN111J	
科目名		近代経済学B（統一）	
担当者		三上 真寛・鶴田 靖人・栗田 健一・山下 裕歩	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業は初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なマクロ経済学の基礎を解説する。マクロ経済学は、生産、所得、消費、投資、政府支出、輸出入、貨幣量、利子率、物価、失業率などの経済変数の関係によって、一国全体の経済状況を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、企業部門と家計部門を結ぶマクロ経済循環、セイ法則と有効需要原理、政府による財政金融政策などの事項に重きをおきながら、経済政策の限界についても解説する。 〈到達目標〉 マクロ経済循環における家計・企業・政府・海外部門の関係、財・貨幣・労働市場の需給、経済政策の目的と手段などを中心に、マクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 マクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 マクロ経済学の対象と方法 第2回 国民経済計算とマクロ経済循環 第3回 財・サービス市場における需要と供給 第4回 有効需要原理と乗数メカニズム 第5回 貨幣市場における需要と供給 第6回 信用創造と乗数メカニズム 第7回 IS-LM 分析 第8回 財政金融政策 第9回 労働市場における需要と供給 第10回 AD-AS 分析 第11回 物価水準 第12回 国際収支と為替レート 第13回 経済成長 第14回 経済政策の有効性			
3. 履修上の注意 マクロ経済学は様々な経済変数の関係から一国全体の経済状況を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業には毎回必ず出席すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 担当者から指示する。			
6. 参考書 担当者から指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。			
9. その他 特になし。			

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA) ECN116J	
科目名		近代経済学 A〔M〕	
担当者		三上 真寛	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 ※これは再履修者等を対象とする特設クラスのシラバスです。 (概要) この授業は、初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なミクロ経済学の基礎を解説する。ミクロ経済学は、市場価格を参照する個々の家計や企業の行動から、市場において需要と供給が均衡し、希少資源が効率的に配分されるメカニズムと、それが市場全体にもたらす厚生を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、消費者の効用、企業の利潤と費用構造、市場における競争などの事項に重きをおきながら、市場の失敗についても解説する。 (到達目標) ミクロ経済学が前提とする個人観、家計（消費者）と企業（生産者）の行動様式、価格メカニズムとしての市場像などを中心に、ミクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 ミクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 ミクロ経済学の対象と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 市場メカニズムと需要・供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 家計の行動と需要曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 企業の行動と供給曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 短期・長期の概念と費用構造〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 部分均衡と資源配分〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 無差別曲線と予算制約線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 代替効果と所得効果〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 等産出量曲線と等費用曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 総収入曲線と総費用曲線〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 一般均衡と資源配分〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 比較優位と国際分業〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 独占と独占的競争〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 市場の失敗〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日（水曜日とする）の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 ミクロ経済学は個々の経済主体の行動から市場全体の秩序を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業は毎回必ず受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020 年。			
6. 参考書 『市場競争のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著（学文社）、2022 年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを活用して、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 オンライン試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 特になし。			

科目区分／科目ナンバー		学部必修科目／(BA) ECN116J	
科目名		近代経済学B〔M〕	
担当者		三上 真寛	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 ※これは再履修者等を対象とする特設クラスのシラバスです。 (概要) この授業は、初めて経済学を学ぶ経営学部生を対象として、経営学や現実の経営実践を理解するために必要なマクロ経済学の基礎を解説する。マクロ経済学は、生産、所得、消費、投資、政府支出、輸出入、貨幣量、利子率、物価、失業率などの経済変数の関係によって、一国全体の経済状況を分析する学問分野である。この授業では、特に企業経営との関連が深い、企業部門と家計部門を結ぶマクロ経済循環、セイ法則と有効需要原理、政府による財政金融政策などの事項に重きをおきながら、経済政策の限界についても解説する。 (到達目標) マクロ経済循環における家計・企業・政府・海外部門の関係、財・貨幣・労働市場の需給、経済政策の目的と手段などを中心に、マクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、経営との関連において経済現象を理解・説明できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 マクロ経済学における以下の理論的事項を学修する。ただし、現実の経済事象や経営との関連を併せて説明するため、学修の流れや補足事項は担当教員が変更することがある。 第1回 マクロ経済学の対象と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 国民経済計算とマクロ経済循環〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 財・サービス市場における需要と供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 有効需要原理と乗数メカニズム〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 貨幣市場における需要と供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 信用創造と乗数メカニズム〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 IS-LM 分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 財政金融政策〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 労働市場における需要と供給〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 AD-AS 分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 物価水準〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 国際収支と為替レート〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 経済成長〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 経済政策の有効性〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日（水曜日とする）の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 ミクロ経済学は個々の経済主体の行動から市場全体の秩序を考える分野であるので、その理解には知識や思考の体系的な積み上げが不可欠である。授業は毎回必ず受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容を十分に復習して次の授業に臨むこと。			
5. 教科書 『マクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020 年。			
6. 参考書 『景気把握のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著（学文社）、2022 年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを活用して、適宜、レポート課題または小テスト等に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 オンライン試験（50%）、レポート課題または小テスト等（50%）により、上記目標の達成度を総合的に評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 特になし。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL111J	
科目名		言語思想 A	
担当者		上野 里華	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】「言語思想」は、春学期の A（古代～近世）、秋学期の B（近代～現代）に分かれて開講されます。「言語思想 A」では古代ギリシアの言語思想、すなわち自然本性説と慣習説とを軸に、17 世紀のライプニッツまで各時代の特色ある言語思想を扱います。 【到達目標】各時代の言語思想とその特徴、展開について、歴史的・社会的な要因とともに理解し、説明できる。			
2. 授業内容 授業は以下の予定で進めるが、受講者の関心や進度によって変更がありうる。 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 プラトン『クラテュロス』 第 3 回 アリストテレス 第 4 回 聖書と言語 第 5 回 小括（古典言語の時代） 第 6 回 中世・ルネサンスの言語思想 第 7 回 キヤクストン 第 8 回 小括（世俗語と国語） 第 9 回 ポール・ロワイヤル文法 第 10 回 ホップズ 第 11 回 ジョン・ロック 第 12 回 ライプニッツ 第 13 回 小括（観念、真理、数学と言語）、言語起源論と普遍言語 第 14 回 a. 総括 b. 試験			
3. 履修上の注意 年間を通じて現代までの言語思想を通史的に扱うため、A・B の両方の履修をお勧めする。予備知識などはないが、言葉についての関心をもって受講されたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容の復習（配布資料を読み直して、要点を整理すること）。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 『言語論のランドマーク——ソクラテスからソシュールまで』ロイ・ハリス／タルボット・J・テイラー共著、斎藤伸治／滝沢直宏共訳（大修館書店）。その他、授業内で都度紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内（a モジュール使用スライド、小括回）で質問や感想を取り上げる。月初にアクションペーパー評価を通知するほか、試験実施後にフィードバックを公開する。			
8. 成績評価の方法 リアクションペーパー評価（40%）、試験（60%）。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL111J		
科目名		言語思想 B		
担当者		上野 里華		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】「言語思想」は、春学期の A（古代～近世）、秋学期の B（近代～現代）に分かれて開講されます。「言語思想 B」では、A の講義内容を引き継ぐ形で 18 世紀のコンディヤックから始めて、現代言語学の基礎をなすフンボルトやソシュール、いわゆる言語哲学と呼ばれる文中心の意味の理論、そしてわれわれの知覚、また、コミュニケーションや解釈といった諸行為に関して論じられていく多様な言語論を扱います。 【到達目標】各時代の言語思想とその特徴を理解し、説明できる。それらを手がかりとして、現代における言語の諸問題について考えることができる。				
2. 授業内容 授業は以下の予定で進めるが、受講者の関心や進度によって変更がありうる。 第 1 回 a. イントロダクション b. コンディヤック 第 2 回 フンボルト 第 3 回 ソシュール 第 4 回 小括（言語学の成立） 第 5 回 フレーゲ、ラッセル 第 6 回 ヴィトゲンシュタイン、日常言語学派 第 7 回 フッサール、ハイデッガー、ガダマー 第 8 回 小括（言語哲学、現象学、詩と言語） 第 9 回 メルロ＝ポンティ 第 10 回 レヴィナス、デリダ 第 11 回 ベンヤミン、ローゼンツヴァイク 第 12 回 チョムスキー 第 13 回 小括（言語思想と言語学） 第 14 回 a. 総括 b. 試験				
3. 履修上の注意 年間を通じて現代までの言語思想を通史的に扱うため、A・B の両方の履修をお勧めする。予備知識などは必要ないが、言葉についての関心をもって受講されたい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業内容の復習（配布資料を読み直して、要点を整理すること）。				
5. 教科書 特に定めない。				
6. 参考書 『言語論のランドマーク——ソクラテスからソシュールまで』ロイ・ハリス／タルボット・J・テイラー共著、斎藤伸治／滝沢直宏共訳（大修館書店） 『言語哲学がはじまる』野矢茂樹（岩波書店） 『名前の哲学』村岡晋一（講談社） その他、授業内で都度紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内（a モジュール使用スライド、小括回）で質問や感想を取り上げる。月初にリアクションペーパー評価を通知するほか、試験実施後にフィードバックを公開する。				
8. 成績評価の方法 リアクションペーパー評価（40%）、試験（60%）。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) PHL111J		
科目名		社会思想		
担当者		枝村 祥平		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 社会の現実を把握するための思索，理想的な社会を模索する思索が，古代から現代にいたるまで凝らされています。それらの思索のあとをたどり，現代社会の諸問題についてとらえ直す機会を提供します。 （到達目標） 社会思想の基礎知識を得たうえで，現代社会についての新たな視座を獲得する。				
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：民主主義（古代～近代） 第3回：民主主義（19 世紀以降） 第4回：アナーキズム 第5回：保守主義 第6回：家族 第7回：教育 第8回：表現の自由とメディア 第9回：福祉 第10 回：共有 第11 回：刑罰 第12 回：政教分離 第13 回：国家・文明と繁栄 第14 回：世界市民主義				
3. 履修上の注意 リアクションペーパーが講義各回にあるので，出席は重要です。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体なりで配布した資料に，速読でいいので目を通しておいってください。				
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。				
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た所見を，総括的に講義にてお話しします。				
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 3 x 14 = 42％ ・期末テスト 58％ ・ボーナスポイント課題あり				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL111E	
科目名		Religious Thought	
担当者		EDAMURA SHOHEI	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 In this class, I examine so-called world religions as well as other major religious traditions, including Hinduism and Judaism. I also seek to identify a possible common ground that may be found across these diverse traditions. I begin by introducing the psychological motivations that lead us to pursue religious relationships. I then explore how individuals are driven to approach the Absolute, to seek salvation, or to attain what is understood as the supreme good of human life. In this course, students will learn not only the diversity of religious traditions, but also the essential components underlying them, and their meanings in relation to contemporary life.			
2. 授業内容 1st session: Introduction 2nd session: Suffering and Finitude 3rd session: Infinity and Law 4th session: Pantheism 5th session: Natural Theology 6th session: Revelational Theology I 7th session: Revelational Theology II 8th session: Mystic Experience 9th session: Theravada Buddhism 10th session: Emptiness 11th session: Zen Buddhism 12th session: Pure Land 13th session: Pluralism of Religion I 14th session: Pluralism of Religion II			
3. 履修上の注意 No prerequisites, and no registration requirements			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read provided materials (pdf files) before attending classes.			
5. 教科書 No textbook is required.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedbacks will be provided during classes if necessary.			
8. 成績評価の方法 Reaction Paper 4 x 14 = 56 % Report 29% Special Assignment (usually an oral presentation video) 15 % There are some extra credits.			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL111J		
科目名		倫理思想 A		
担当者		宇田川 尚人		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 科学技術の進歩は「倫理」にどのような影響を与えるのだろうか？ この問いに対して、この授業では、主に応用倫理学の立場から、生命倫理、環境倫理、情報倫理、そして全く新しい「脳神経倫理」からのアプローチを紹介してみたい。 医療現場において加速度的に進化する技術。急激な悪化が懸念される地球環境問題。そしてメディアの中で方位なく氾濫する情報としての知識。こうした状況のもとで崩れゆく古い価値観に直面し、今、倫理学はその本質的な見直しを迫られている。時代や状況に依存することのない人間本来の生き方と、先端技術や経済機構が突き付ける極めて「時代的」な問題状況の狭間で、何が今見直され、新たに問われ、基礎付けられなければならないのか？この授業では、こうした問題に対する様々なアプローチを整理しつつ分かり易く解説し、各自が自ら考えるための素材と知識を提供してゆきたいと考えている。 〈到達目標〉 この授業で学習した倫理的視点に基づき、今日の世界で起こっている様々な問題のいずれに対しても、自分なりの見解を持てるようになること。				
2. 授業内容 以下は暫定案であり、変更する可能性がある。（＊を参照のこと） 1. 情報倫理の諸問題 ― フェイクニュースの時代、「いいね」（評価）を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく人々 2. 何が「本当」なのか？ ― 主観的「現実」と客観的「事実」の間で 3. ネットの中で、SNS で、増殖する「バーチャルな私」 ― 非本来的自己 4. 「現実」を侵食するバーチャルリアリティーと「現実」を拡張するアドバンストリアリティー 5. それでも、バーチャル化され得ないものとして最後に残る「私」のアイデンティティーと「責任」 6. AI と倫理 ― 思考を奪う「Attention Economy」と「生成 AI」 7. 人格なき「チャツピー」に恋する人々と私の「最高の理解者」？（AI）の勧めに従って自殺する人々の「孤独」 8. その背景としてのネット社会での真の「他者」の不在あるいは「他者の喪失」がもたらす「人格形成」の歪み 9. 脳科学と倫理 ― 再生医療と脳科学の衝撃 ― 11. Enhanced Body がもたらす新たな可能性と倫理 12. スマートドラッグによる「記憶」の改竄と「心」の在処 13. 脳科学の解明によって消し去られる「自由」意志 「それでも私は・・・」と叫ぶ脳あるいはゴーストのささやき 14. 私をめぐる諸問題のコアとしての「人格」概念 ＊ 本年度は環境倫理は取り扱わない				
3. 履修上の注意 倫理思想 A と B は、（それぞれ単独でも履修可能ではあるが、）内容的には相補関係にある。このため、基本的には双方を履修することを前提とした講義内容になっている。また通常は、基礎倫理学から応用倫理学へという流れが一般的と思われるが、本講義では敢えて、具体的で分かり易い「応用倫理学」の諸問題の解説（倫理思想 A）から出発し、その後に、それらの根底にある倫理の基礎づけという哲学的問題（倫理思想 B）に取り組んでゆくというスタンスを取っている。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1）自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2）理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、 3）配付資料に書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4）それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。				
5. 教科書 教科書は使用しない。 プリントを必要に応じて、Web (Oh-o! Meiji) 上に UP する。 紙媒体で授業中に配布する場合もある。				
6. 参考書 参考文献は授業の中で紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。				
8. 成績評価の方法 毎回の課題の（Oh-Meiji 上への）提出（40%）と学期末のレポートか試験（60%）で総合的に成績を評価する。 試験かレポートかは学生の希望も考慮するが、受講者人数が 80 人以上になった場合は試験になる可能性が高い。				

3分の2以上の授業への参加と課題の提出を学期末レポート提出および期末試験受験の最低条件とする。

- * 毎回の課題提出は単なる出席調査ではないので、書かれた内容の理解度、適切な質問等の度合いに応じて、
－2～＋2点の間で平常点として加点してゆく。
- * レポートまたは試験いずれでも50点以下は不合格とする。

9. その他

倫理思想Aに関しては、過去に受講希望者が多くプレゼンテーションに適切な教室を使用することが出来ないことがあった。また人数が多くなると毎回の課題のFeed Backに時間を取られる為、講義の進行に影響をきたす可能性もある。そこで人数制限はしないが、安易な気持ちで受講する学生がないように、今年度も採点基準を倫理思想Bより厳しくする。
(当たり前のことだが、このことは、毎回の課題を全て提出し学期末のレポートか試験を受けたとしても、理解度が一定の水準のレベルに達していなければ、不合格とな

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL111J		
科目名		倫理思想B		
担当者		宇田川 尚人		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 悪とは何か？ 倫理とは何か？ 自由とは何か？ これらの問いに対する倫理学者・哲学者の答えの内には、基調底音として一貫して変わらぬ部分と、その時代ごとの価値観により彩られた（いわば主旋律としての）展開部分とが常に混在する。音楽を奏でる時その両者のハーモニーが求められるように、倫理を語るときにも常にこの両者の関係を見失わないようにする必要がある。 この様な観点から、この講義では、近代から現代に至る倫理思想（および哲学・心理学）の多様な流れを解説し、同時にそこに一つの問いが問われ続けていることを明らかにしたい。それは、（たとえ絶対的真理が存在しなくても、いやそれだからこそ？）人は（＝そう、あなたは）この時代と自らの現実をどう生きるかという問いに常に貫かれているという考え方であり、さらには、迷いの中であるいは困難と挫折を経験することを通してしか、人は人間的に成長しないのではないか？という問いである。 そもそも、現代社会において思想史を学ぶことは、多様化する情報と価値の海のただ中で、自らの来し方・行く先を指し示す〈羅針盤〉のひとつを手に入れることを意味する。 テクノロジーのフラット化や世界のグローバリズム志向、それらに対置され孤立化する個人のアイデンティ・ティクライシス、リアリティなき自分探しゲーム等。現代日本および世界が抱える様々な社会現象の光と影、それらすべてを貫いて、あらゆる時代から、哲学および倫理思想は、常に「人間とは何か」という問いを発し続ける。 （到達目標） 講義で紹介される思想の有効射程距離を検証するという＜思考訓練＞を通して、各自が現実の具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係性を論理的に分析し考察する能力、いわば現実分析の〈コツ〉を身につけること。				
2. 授業内容 1. 悪とは「何かが欠けている」ことなのか？ （善の欠如、思いやりの欠如、自制心の欠如、知識の欠如？） 2. カント ― 自由と倫理 3. 悪はすべての人の心の内に？ ― 良心と悪 4. 根源悪とは何か？ 5. 悪への自由と人格の自己実現への自由 6. 人格形成論と機械仕掛けのマリオネット（思考停止する人々＝SNS 時代の「情報に流され自分でものを考えない人々」） 7. フロイト ― 無意識と倫理 8. エス・自我・超自我 ― 無意識の欲動って何？ 9. 偶然と環境が欲動を縫いあわせ人格を作る？ カント vs フロイト 10. 後期タナトス論（自己破壊衝動と攻撃性）が突きつける倫理への課題（何故人はネット社会でより攻撃的になるのか？） 11. レヴィナス ― 他者と倫理 12. 他者理解の限界と（人には解ってもらえない）私の心の「内部性」との非対称性 13. 「同」の暴力と倫理 ― ネット社会における「同調圧力」と「承認欲求」から全体主義的な暴力（戦争）まで― 14. 逆説的な「他者の為に」と私のアイデンティティー				
3. 履修上の注意 倫理思想AとBは、（それぞれ単独でも履修可能ではあるが、）内容的には相補関係にある。 このため、基本的には双方を履修することを前提とした講義内容になっている。また通常は、基礎倫理学から応用倫理学へという流れが一般的と思われるが、本講義では敢えて、具体的で分かり易い「応用倫理学」の諸問題の解説（倫理思想A）から出発し、その後に、それらの根底にある倫理の基礎づけという哲学的問題（倫理思想B）に取り組んでゆくというスタンスを取っている。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1）自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2）理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。また、 3）配付資料に書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4）それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。				
5. 教科書 教科書は使用しない。 プリントを必要に応じて、Web（Oh-o! Meiji）上にUPする。 紙媒体で授業中に配布する場合もある。				
6. 参考書 岩波新書 中島義道「悪について」 三笠書房 鈴木 晶「世界一わかりやすいフロイト教授の精神分析の本」 勁草書房 佐藤義之「レヴィナスの倫理」 その他の参考文献は授業の中で紹介する。				

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対するフィードバック（質問への回答，間違いの指摘，優秀な考察例の紹介等）は，原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。

8. 成績評価の方法

毎回の課題の（0h-Meiji 上への）提出（40%）と学期末のレポートか試験（60%）で総合的に成績を評価する。
試験かレポートかは学生の希望も尊重するが，受講者人数が 70 人以上になった場合は試験になる可能性が高い。

3 分の 2 以上の授業への参加と課題の提出を学期末レポート提出および期末試験受験の最低条件とする。

* 毎回の課題提出は単なる出席調査ではないので，書かれた内容の理解度，適切な質問等の度合いに応じて，
−2〜+2 点の間で平常点として加点または減点してゆく。

9. その他

特になし。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL311J		
科目名		哲学基礎論		
担当者		枝村 祥平		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 哲学は、新しい人間観・世界観を生み出そうとする知の営みであり、古代より現代まで続いています。前期では古代ギリシアでよく論じられ、かつ現代でも重要な基礎的問題を扱います。 （到達目標） 1. 善、幸福、快楽などについて考えることで、個人として生きる指針の手がかりを得る。 2. 政治参加や社会制度などの意義を考え、社会人として生きる指針を模索する。 3. 宗教、教育、芸術を哲学的視点から考える。				
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 講義の概要を伝える 第2回：善く生きるⅠ プラトンの著作を手がかりに、ソクラテスが考えたところの吟味を続ける生き方を学ぶ。 第3回：善く生きるⅡ アリストテレスを手がかりに、幸福と快楽の概念を学ぶ。 第4回：善く生きるⅢ 快楽だけが善いものだとする考え方とその問題点を学ぶ。 第5回：善く生きるⅣ 人生や歴史にストーリーを見出す物語論と、それを超えようとする哲学を学ぶ。 第6回：社会人・市民として生きるⅠ 形式的な道徳と、そうでない道徳を対比して学ぶ。 第7回：社会人・市民として生きるⅡ アリストテレス、ロックなどを通じて政治参加の意義について考える。 第8回：社会人・市民として生きるⅢ プラトン、ロールズなどを通じて理想的な社会制度について考える。 第9回：社会人・市民として生きるⅣ 自然法思想と法実証主義について学ぶ。 第10回：哲学と宗教Ⅰ 哲学者たちが宇宙全体をどう理解してきたかを学ぶ。 第11回：哲学と宗教Ⅱ トマス・アクィナス、スピノザなどを通じ、人格神論と汎神論を学ぶ。 第12回：哲学と宗教Ⅲ 仏典における「宗教」を religion と対比しながら学ぶ。 第13回：哲学と教育 厳格な教育と自由にさせる教育、及びそれらの長所・短所を考える。 第14回：哲学と芸術 プラトン、ライプニッツ、カントなどの美学を学ぶ。				
3. 履修上の注意 リアクションペーパーがあるので、出席は重要です。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体なりで配布した資料に、速読でいいので目を通しておいってください。				
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。				
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た所見を、総括的に講義にてお話しします。				
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 3 x 14 = 42％ ・期末テスト 58％ ・ボーナスポイント課題あり				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL311J	
科目名		哲学	
担当者		枝村 祥平	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 哲学は、新しい人間観・世界観を生み出そうとする知の営みであり、古代より現代まで続いています。後期では近代ヨーロッパから現代まで論じられ続けている重要な問題を扱います。17 世紀に自然科学は大きく発達し、それに伴い科学はどの程度正確な知識をもたらすのか、そもそも知識とは何かが問われました。また国家が肥大化するにつれ、改めて社会や国家のあり方が模索され、国々が織り成す歴史がどのようなものかが問われたりもしました。このクラスを科学技術が発達し複雑化した世の中にいる私たちが生きる指針を得るきっかけにしたいと思います。 (到達目標) 1. 私たちの知識がどのような根拠をもっているのかを考え、意見や学説などを批判的に捉えることができるようになる。 2. 私たち自身について考えをめぐらせることで、自分自身ひいては人間についてより深い理解を得る。 3. 現代大変発達している自然科学を、その根拠に遡って考える。 4. ダイナミックに動いている歴史について、哲学的視点から考える。			
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 講義の概要を伝える 第2回：認識論 I デカルトによる懐疑など、近代認識論の重要事項を学ぶ。 第3回：認識論 II 真理の基礎付け説と整合説を通じて、現代のあるべき認識論を探る。 第4回：自分とは？ I デカルト、ヒューム、カントなどを通じて、近代の自我論を学ぶ。 第5回：自分とは？ II ライブニッツやフロイトなどを通じ、無意識の領域について考える。 第6回：自分とは？ III 現代の心の哲学を手掛かりに心身問題について考える。 第7回：哲学と科学 I 科学を捉える上で重要な二つの立場（科学的实在論と現象主義）を学ぶ。 第8回：哲学と科学 II クーンを手掛かりに、科学の歴史的な発展について考察する。 第9回：哲学と科学 III ハイデggerなどを手掛かりに、科学に対する批判的視点を学ぶ。 第10回：哲学と科学 IV ニーチェ、フーコーの思想、及び彼らの影響を受けた社会構成主義を学ぶ。 第11回：哲学と歴史 I ヘーゲルを手がかりに、歴史や哲学史の流れのつかみ方を考える。 第12回：哲学と歴史 II マルクスやフクヤマを通じて、経済に着目した歴史哲学を学ぶ。 第13回：哲学と歴史 III 戦時中の日本人哲学者による歴史哲学を学ぶ。 第14回：哲学と歴史 IV 戦後の日本人による歴史哲学を学ぶ。			
3. 履修上の注意 リアクションペーパーが講義各回にあるので、出席は重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体なりで配布した資料に、速読でいいので目を通しておいください。			
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。			
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た所見を、総括的に講義にてお話しします。			
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 3 x 14 = 42％ ・期末テスト 58％ ・ボーナスポイント課題あり			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAT151J		
科目名		数学 A		
担当者		高澤 陽太郎		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉経営・経済学の理論を学ぶ際に必要な数学の基礎的な部分を、経営・経済学上の例を通して学ぶ。数学 B と比較して、数学 A では特に論理や数学の基礎的な用語の定義を扱う。 〈到達目標〉経営学やその他周辺分野で登場する数学的内容を自分で調べて理解できるようにするための土台を形成することを目標とする。				
2. 授業内容 1. イントロダクション 2. 集合 3. 命題 4. 述語 5. 集合・直積 6. 2 変数以上の述語 7. 妥当な論証 8. 証明の練習 1 9. 証明の練習 2 10. 写像 1 11. 写像 2 12. 写像 3 13. 数列 1 14. 数列 2				
3. 履修上の注意 数学の初歩から学ぶため、高校数学の理解度が低くても問題はない。ただし、毎回課題があるためそれをこなす必要があることに注意。また、高校数学の「数学 A」で習う内容とは無関係であることに注意。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。				
5. 教科書 『論理と集合から始める数学の基礎』嘉田勝（日本評論社）				
6. 参考書 特になし。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題の解答解説は次の回に行う。				
8. 成績評価の方法 各回の講義内に行うアクティビティ 30% + 各回に出題される講義後の小レポート 70% 期限締切後のレポート提出は原則評価しないことに注意。 4 回以上の欠席者は成績評価対象外になります。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAT151J		
科目名		数学B		
担当者		高澤 陽太郎		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉経営・経済学の理論を学ぶ際に必要な数学の基礎的な部分を，経営・経済学上の例を通して学ぶ。数学Aと比較して，数学Bでは特に経済・経営で必要な必要最小限の数学のツールを学ぶ。 〈到達目標〉経営学やその他周辺分野で登場する数学的内容を自分で調べて理解できるようにするための土台を形成することを目標とする。				
2. 授業内容 1. イントロダクションと1章前半 2. 1章 後半 3. 2章 4. 3章 指数と対数 5. 3章 指数と対数 6. 4章 指数・対数と貯蓄 7. 4章 指数・対数と貯蓄 8. 5章 1変数の微分と利潤最大化 前半 9. 5章 1変数の微分と利潤最大化 後半 10. 6章 ベクトルと予算制約 11. 6章 ベクトルと予算制約（+多変数関数） 12. 最適化問題と線形計画法 13. 回帰分析 14. まとめ				
3. 履修上の注意 数学Aを受講していることが望ましいが、数学Aの内容とは独立しており、数学の初歩から学ぶため高校数学の理解度が低くても問題はない。ただし、毎回課題があるためそれをこなす必要があることに注意。また、高校数学の「数学B」で習う内容とは無関係であることに注意。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。				
5. 教科書 『経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋佑著（日本評論社）				
6. 参考書 特になし。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題のフィードバックは次の回に行う。				
8. 成績評価の方法 各回の講義内に行うアクティビティ 30% + 各回に出題される講義後の小レポート 70% 期限締切後のレポート提出は原則評価しないことに注意。 4回以上の欠席者は成績評価対象外になります。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAT151J		
科目名		数学 A		
担当者		船越 正太		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 経営・経済の理論を学ぶ際に、基礎的な数学の知識は理解を深める上で必要不可欠なものであることはいうまでもない。本講義では、高校での数学とは一味異なり、損益分岐点や線形計画問題を始めとして、経営や経済の問題への応用を重視しながら、文系でもこれからの時代に対応して数量化されたデータを扱う数学的な手法に慣れてもらうことを目指す。				
〈到達目標〉 様々な具体的な例題や演習を通して、経営・経済の理論に必要な数学の基本的な知識や考え方を学ぶことを目標とする。				
2. 授業内容				
第1回：1次関数と損益分岐点 第2回：2次関数と独占市場での価格 第3回：分数関数とドル・コスト平均法 第4回：指数関数…急激に変化する関数 第5回：対数関数…緩慢に変化する関数 第6回：三角関数…周期的に変化する関数 第7回：微分係数と導関数…最も効果的な科学研究の道具 第8回：導関数の計算…複雑な関数を微分する 第9回：経済学での微分…利潤最大化 第10回：数列…預金が倍になるのは何年後か 第11回：漸化式…自然界に現れる数列 第12回：関数の増減と極値問題…山の頂上は平ら 第13回：総合演習 第14回 a：まとめ b：試験 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。				
3. 履修上の注意				
中学高校数学と、大学における発展的な数学を文系数学の立場から見通しよく整理して講義する。数学は理論を積み上げていく教科なので、一度遅刻、欠席するとまったく理解出来なくなることがある。熱意を持って受講することを希望する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
講義資料と参考書を読んで予習した上で受講すること。講義のあったその日のうちに、基本公式などの重要事項について十分に復習するとともに、理解できなかった点を整理し、質問の準備をすること。講義で出題した例題と演習問題は、解答を見ずに再度自分で解いて見ること。想定学修時間：1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。				
5. 教科書				
教科書は使用しない。				
6. 参考書				
『例題と演習で学ぶ 文系のための数学入門 第4版』藤本佳久著（学術図書出版社）2017年 『経済学のための数学の基礎 15講』小林幹著（新世社）2018年 『改訂版 経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐著（日本評論社）2013年				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
演習課題の解答解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。				
8. 成績評価の方法				
定期試験（60％）と平常点（40％）により評価する。出席が授業回数の3分の2に満たない者は単位の認定を受けることができない。遅刻は3分の1回の欠席、30分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。就職活動（企業説明会参加を含む）のための授業欠席は公認欠席としては認めない。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAT151J	
科目名		数学A	
担当者		船越 正太	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 経営・経済の理論を学ぶ際に、基礎的な数学の知識は理解を深める上で必要不可欠なものであることはいうまでもない。本講義では、高校での数学とは一味異なり、損益分岐点や線形計画問題を始めとして、経営や経済の問題への応用を重視しながら、文系でもこれからの時代に対応して数量化されたデータを扱う数学的な手法に慣れてもらうことを目指す。 （到達目標） 様々な具体的な例題や演習を通して、経営・経済の理論に必要な数学の基本的な知識や考え方を学ぶことを目標とする。			
2. 授業内容 第1回：1次関数と損益分岐点 第2回：2次関数と独占市場での価格 第3回：分数関数とドル・コスト平均法 第4回：指数関数…急激に変化する関数 第5回：対数関数…緩慢に変化する関数 第6回：三角関数…周期的に変化する関数 第7回：微分係数と導関数…最も効果的な科学研究の道具 第8回：導関数の計算…複雑な関数を微分する 第9回：経済学での微分…利潤最大化 第10回：数列…預金が倍になるのは何年後か 第11回：漸化式…自然界に現れる数列 第12回：関数の増減と極値問題…山の頂上は平ら 第13回：総合演習 第14回 a：まとめ b：試験 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 中学高校数学と、大学における発展的な数学を文系数学の立場から見通しよく整理して講義する。数学は理論を積み上げていく教科なので、一度遅刻、欠席するとまったく理解出来なくなることがある。熱意を持って受講することを希望する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義資料と参考書を読んで予習した上で受講すること。講義のあったその日のうちに、基本公式などの重要事項について十分に復習するとともに、理解できなかった点を整理し、質問の準備をすること。講義で出題した例題と演習問題は、解答を見ずに再度自分で解いて見ること。想定学修時間：1回の授業につき、予習・復習それぞれ2時間程度。			
5. 教科書 教科書は使用しない。			
6. 参考書 『例題と演習で学ぶ 文系のための数学入門 第4版』藤本佳久著（学術図書出版社）2017 年 『経済学のための数学の基礎 15 講』小林幹著（新世社）2018 年 『改訂版 経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐著（日本評論社）2013 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）と平常点（40％）により評価する。出席が授業回数の3分の2に満たない者は単位の認定を受けることができない。遅刻は3分の1回の欠席、30 分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。就職活動（企業説明会参加を含む）のための授業欠席は公認欠席としては認めない。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAT151J		
科目名		数学B		
担当者		船越 正太		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営・経済の理論を学ぶ際に、基礎的な数学の知識は理解を深める上で必要不可欠なものであることはいうまでもない。本講義では、高校での数学とは一味異なり、損益分岐点や線形計画問題を始めとして、経営や経済の問題への応用を重視しながら、文系でもこれからの時代に対応して数量化されたデータを扱う数学的な手法に慣れてもらうことを目指す。 〈到達目標〉 様々な具体的な例題や演習を通して、経営・経済の理論に必要な数学の基本的な知識や考え方を学ぶことを目標とする。				
2. 授業内容 第1回：行列の定義と加法・減法・実数倍 第2回：行列の乗法 第3回：行列の乗法の性質 第4回：1 次変換 第5回：逆行列 第6回：連立 1 次方程式と行列 第7回：掃き出し法 第8回：掃き出し法による逆行列の求め方 第9回：2 次および 3 次の行列式 第10 回：行列式の展開 第11 回：行列式の性質 第12 回：逆行列の公式とクラメルの公式 第13 回：産業連関問題 第14 回 a：まとめ b：試験 ＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。				
3. 履修上の注意 中学高校数学と、大学における発展的な数学を文系数学の立場から見通しよく整理して講義する。数学は理論を積み上げていく教科なので、一度遅刻、欠席するとまったく理解出来なくなることがある。熱意を持って受講することを希望する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義資料と参考書を読んで予習した上で受講すること。講義のあったその日のうちに、基本公式などの重要事項について十分に復習するとともに、理解できなかった点を整理し、質問の準備をすること。講義で出題した例題と演習問題は、解答を見ずに再度自分で解いて見ること。想定学修時間：1 回の授業につき、予習・復習それぞれ 2 時間程度。				
5. 教科書 教科書は使用しない。				
6. 参考書 『例題と演習で学ぶ 文系のための数学入門 第 4 版』藤本佳久著（学術図書出版社）2017 年 『経済数学 15 講』小林幹・吉田博之著（新世社）2020 年 『改訂版 経済学で出る数学 高校数学からきちんと攻める』尾山大輔・安田洋祐著（日本評論社）2013 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 演習課題の解答解説については、Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。				
8. 成績評価の方法 定期試験（60％）と平常点（40％）により評価する。出席が授業回数の 3 分の 2 に満たない者は単位の認定を受けることができない。遅刻は 3 分の 1 回の欠席、30 分以上の遅刻と早退は欠席扱いとする。就職活動（企業説明会参加を含む）のための授業欠席は公認欠席としては認めない。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) STA111J	
科目名		統計学 A	
担当者		鶴田 靖人	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 現代では、IT 技術の進歩により、データを分析することで有益な知見を効率的に獲得できるようになった。そのため、データ分析を適切に行うための知識は重要である。授業の前半では「データのまとめ方」の方法を学びながら統計的な考え方を身に着ける。後半では、確率論の基礎を学びランダムに発生する現象を説明できるようになることを目指す。多くの統計手法が「確率論を応用してデータの背後にある本質的な構造を推測する」ことを目的としている。そのため、確率論は、統計学 B で学ぶ統計的推論の基礎知識となっている。 ＜到達目標＞ 1. データが持つ特徴を記述統計量と呼ばれる指標を用いて要約しデータの特徴を説明できる。 2. 相関関係を理解し回帰分析手法を身に着けることで、複数のデータの関係性を明らかにできる。 3. 確率論の基礎を理解しランダムな現象を説明することができる。			
2. 授業内容 第 1 回 統計学とは何か?、度数分布表、ヒストグラム 第 2 回 データの位置の指標（1）代表値、算術平均、幾何平均、調和平均 第 3 回 データの散らばりの指標（1）範囲、分散 第 4 回 データの散らばりの指標（2）標準化変量、変異係数 第 5 回 相関関係 相関係数 第 6 回 回帰分析（1）線形回帰、最小 2 乗法 第 7 回 回帰分析（2）決定係数 第 8 回 確率とは何か？ 第 9 回 確率の基礎 加法定理、条件つき確率、乗法定理 第 10 回 ベイズの定理 第 11 回 確率変数と確率分布 第 12 回 2 変数の確率分布 第 13 回 離散分布、二項分布、ポワソン分布 第 14 回 連続分布、正規分布			
3. 履修上の注意 毎回の演習問題では、計算問題を出题するので電卓を必ず持ってくること。電卓は四則演算、%、平方根の計算ができるものが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、講義資料を読み直して講義内容を整理するとともに講義中に出题した計算問題や教科書の章末の練習問題を自分で解いてみること。			
5. 教科書 『基本統計学 第 5 版』宮川公男（有斐閣）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用してフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 期末試験（50%）、レポート(36%)、平常点（14%）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) STA111J	
科目名		統計学B	
担当者		鶴田 靖人	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 統計学Bでは、統計学Aで学んだ確率論などの基礎知識をもとに、統計的推論の基礎的な内容を身に着けることを目指す。統計的推論は、「確率論を応用してデータの背後にある本質的な構造を推測する」ことを目的としている。しかし、実際のデータ分析では、入手できるデータは全体のデータの一部しかないことが多い。しかしながら、統計的推論を用いることで、全体の平均値を推測したり、仮説の妥当性を検証したりすることが可能となる。 ＜到達目標＞ 1. 確率の考え方をを使って、データ全体（母集団）から一部（標本）をランダムに抽出する標本調査の仕組みを説明できる。 2. 標本から母集団の性質を推測する統計的推論（推定、検定）を正しく使用し、自分が立てた仮説の妥当性を検証できる。 3. 回帰分析の統計的な性質を理解した上で回帰係数の統計的推論を行うことができる。			
2. 授業内容 第1回 標本分布（1）母集団と標本 標本統計量 第2回 標本分布（2）大数の法則、中心極限定理 第3回 標本分布（3） χ^2 分布、t分布 第4回 区間推定（1）比率の区間推定 第5回 区間推定（2）平均の区間推定 第6回 区間推定（3）分散の区間推定、標本の大きさの決め方 第7回 点推定 不偏性、最尤推定法 第8回 仮説検定（1）比率の仮説検定 第9回 仮説検定（2）平均の仮説検定 第10回 仮説検定（3）分散の仮説検定、分割表の仮説検定 第11回 仮説検定（4）平均値の差の検定（PC演習） 第12回 回帰の推測統計理論（1）線形回帰に関する回帰係数の標本分布 第13回 回帰の推測統計理論（2）回帰係数の区間推定と仮説検定（PC演習） 第14回 回帰の推測統計理論（3）重回帰分析、自由度調整（PC演習）			
3. 履修上の注意 毎回の演習問題では、計算問題を出題するので電卓を必ず持ってくる。電卓は四則演算、%、平方根の計算ができるものが望ましい。一部の授業ではEXCELなどを用いたデータ分析の演習を行う。該当回ではPCを持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、講義資料を読み直して講義内容を整理するとともに講義中に出题した計算問題や教科書の章末の練習問題を自分で解いてみること。			
5. 教科書 『基本統計学 第5版』宮川公男（有斐閣）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meijiを利用してフィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 期末試験（50%）、課題（36%）、平常点（14%）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)CBI111J	
科目名		生物学 A	
担当者		松下 保彦	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 1. 授業の概要・到達目標 ウイルス、遺伝子組換え食品、クローン生物、iPS 細胞など、現代社会は「生命科学」に関する話題で満ちています。「生物学」に関する基礎知識や考え方を習得していると、これらの話題に対する理解が深まることはもちろんですが、皆さんが専門とする経営学部の学問や社会に出てからの仕事に対して、生物学の考え方・知識を導入して発展させるという可能性もあります。本講義を受講することにより、「生物学」の基礎知識を少しでも習得し、「生物学」の考え方を感じ取っていただけることを願っています。 生物学 A では、生命・生物の共通性に目を向け、ミクロの世界を概説します。生命を作る分子、生命の基本単位である細胞、生命が情報を維持し活用する仕組みを理解し、そのうちのいくつかを説明できるようになることを到達目標とします。			
2. 授業内容 2. 授業内容 第 1 回 生命を学ぶ、生物の多様性と共通性 第 2 回 生命を作る低分子とその化学 第 3 回 生命を作る高分子：タンパク質、糖質、脂質 第 4 回 生命を作る高分子：核酸と生命の起源 第 5 回 細胞：生命の機能単位 第 6 回 細胞膜 第 7 回 細胞の情報伝達と多細胞性 第 8 回 細胞周期と細胞分裂 第 9 回 遺伝：遺伝子と染色体 第 10 回 DNA と遺伝におけるその役割 第 11 回 DNA からタンパク質へ：遺伝子発現 第 12 回 遺伝子変異と分子医学 第 13 回 遺伝子発現の制御 第 14 回 a: まとめ、b: 期末試験			
3. 履修上の注意 3. 履修上の注意 中学校理科の化学及び生物学分野の知識を前提として講義を行います。高校の「基礎生物学」等の履修経験があることが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習シートによる予習、講義資料とレポート課題による復習に取り組んでください。 事前学習シート、講義資料及びレポート課題は、Oh o! Meiji システムのクラスウェブに掲載します。			
5. 教科書 5. 教科書 特に定めません。Oh o! Meiji システムのクラスウェブに掲載する講義資料を利用してください。			
6. 参考書 6. 参考書 『カラー図解 アメリカ版 新・大学生生物学の教科書 第 1 巻 細胞生物学』D. サダヴァ他 著／石崎泰樹，中村千春 監訳／小松佳代子 訳（講談社）ISBN: 9784065137437 『カラー図解 アメリカ版 新・大学生生物学の教科書 第 2 巻 分子遺伝学』D. サダヴァ他 著／石崎泰樹，中村千春 監訳／小松佳代子 訳（講談社）ISBN: 9784065137444			
7. 課題に対するフィードバックの方法 7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh o! Meiji システムのクラスウェブを用いてレポート課題に対するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 8. 成績評価の方法 講義毎のレポート課題 （70%）、期末試験 （ 30%）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)CBI111J	
科目名		生物学B	
担当者		松下 保彦	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 1. 授業の概要・到達目標 ウイルス、遺伝子組換え食品、クローン生物、iPS 細胞など、現代社会は「生命科学」に関する話題で満ちています。「生物学」に関する基礎知識や考え方を習得していると、これらの話題に対する理解が深まることはもちろんですが、皆さんが専門とする経営学部の学問や社会に出てからの仕事に対して、生物学の考え方・知識を導入して発展させるという可能性もあります。本講義を受講することにより、「生物学」の基礎知識を少しでも習得し、「生物学」の考え方を感じ取っていただけることを願っています。 生物学Bでは、生命・生物の共通性と多様性の両方に目を向け、ミクロとマクロの世界を概説します。生命がエネルギーを獲得する仕組み、生物の共通性をバイオテクノロジーとして利用する方法、生物の多様性の捉え方、環境における生物という捉え方を理解し、そのうちのいくつかを説明できるようになることを到達目標とします。			
2. 授業内容 2. 授業内容 第1回 エネルギー、酵素、代謝 第2回 化学エネルギーを獲得する経路 第3回 光合成：日光からのエネルギー 第4回 ゲノム 第5回 組換えDNAとバイオテクノロジー 第6回 遺伝子、発生、進化 第7回 進化のメカニズム 第8回 系統樹、種分化 第9回 地球上の生命の歴史 第10回 動物の進化と多様性 第11回 環境と生物 第12回 個体群、生物種間相互作用 第13回 群落、地球のエコシステム 第14回 a: まとめ、b: 期末試験			
3. 履修上の注意 3. 履修上の注意 中学校理科の化学及び生物学分野の知識を前提として講義を行います。高校の「基礎生物学」等の履修経験があることが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習シートによる予習、講義資料とレポート課題による復習に取り組んでください。 事前学習シート、講義資料及びレポート課題は、Oh o! Meiji システムのクラスウェブに掲載します。			
5. 教科書 5. 教科書 特に定めません。Oh o! Meiji システムのクラスウェブに掲載する講義資料を利用してください。			
6. 参考書 6. 参考書 『カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書 第3巻 生化学・分子生物学』D. サダヴァ他 著／石崎泰樹, 中村千春 監訳／小松佳代子 訳（講談社）ISBN: 9784065137451 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第4巻 進化生物学』D. サダヴァ他 著／石崎泰樹, 斎藤成也 監訳（講談社）ISBN: 9784062578752 『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第5巻 生態学』D. サダヴァ他 著／石崎泰樹, 斎藤成也 監訳（講談社）ISBN: 97840			
7. 課題に対するフィードバックの方法 7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh o! Meiji システムのクラスウェブを用いてレポート課題に対するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 8. 成績評価の方法 講義毎のレポート課題 （70%）、期末試験 （ 30%）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)BPH171J	
科目名		物理学 A	
担当者		奥出 信一郎	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) この世は物質，熱，光，音，電気に満ちており，それらが連綿と絡み合って複雑な現象が起きています。実はこれらは全て例外なく 10 個にも満たない基本的な物理法則に従って生起しているのです。これらの物理法則はいずれも簡潔で美しい数式で表現されています。近年，計算機の性能が飛躍的に向上したため，これらの基本的な数式に基づいて，相当複雑な現象であっても数理的な計算機シミュレーションで理論的に再現できるようになってきました。今まさに産業界ではこの数理科学が大々的に活用されはじめています。特に今，生物学と物理学が地続きになりつつあり，将来的には新しいビジネスモデルが生まれてくるかもしれません。 (達成目標) この様な状況を鳥瞰図的に見る能力をつけるために，物理の基礎を小学校の算数から出発して説明していきます。			
2. 授業内容 第 1 講 新幹線が東京を出て，新橋，品川，武蔵小杉，・・・通過していくとしましょう。何人かで手分けして各地点で通過時刻を時計で測り，隣接する 2 地点の間の距離を地図で調べ，各区間を通過するのにかかった時間を後で集計すれば，区間平均速度（区間距離÷区間通過時間）が計算できます。通過順に平均速度を並べると，平均速度が次第に増加していく（＝加速度）ことも分かります。これが「差分」の考え方です。差分の区間を際限なく細かくしたのが微分です。 第 2 講 方眼紙を使ってデカルト座標を理解しよう。微分の公式を，小学生の算数を用いて導き出そう。 第 3 講 力，速度，加速度，質量，作用と反作用，力のつりあい，を理解しよう。 第 4 講 一定の短い時間区切り， Δt ，の間の平均速度を， v ，とすると， Δt 秒の間に進んだ距離， Δx ，は， $\Delta x = v \cdot \Delta t$ で与えられます。0 秒から T 秒までの間の， Δx たちを足し合わせると，0 秒から T 秒までの間に進んだ距離，X が得られます。 Δt を無限に小さくして Δx を足し合わせる事を，積分と言います。 第 5 講 コンピュータープログラミング 第 6 講 高校の数学 exp 第 7 講 高校の数学 sin cos 第 8 講 重りをつけたバネの振動 単振動 第 9, 10 講 熱力学 1, 2 熱エネルギーと運動エネルギー。石炭を燃やす蒸気機関や，ガソリンを燃やす自動車のエンジンは，熱エネルギーを運動エネルギーに変換する熱機関です。産業革命が起きた時，究極の熱機関を目指す努力の中から，熱力学が生まれました。熱は高温から低温に流れる・気体は高压から低压に流れる・・・これがエントロピー増大の法則です。エントロピー増大の法則を，簡潔な数式で表現してみよう。 第 11 講 電荷を帯びた物体を二つ並べると，それらの物体の間に力が働きます（クーロン力）。「電場が時間変化するとその周りに磁場が発生する（これは基本的な物理法則の一つです）。このようにして生じた磁場が時間変化するとその周りに電場が発生する（これも基本的な物理法則の一つです）。その電場が変化すると・・・」このように電場と磁場の時間変化が際限なく互いが互いの原因となって連綿と連鎖し，空間中を進んでエネルギーを運んでいくのが電磁波です。電磁気学に親しもう。以上の現象は，sin cos を用いるとエレガントな数式で表現できます。 第 12 講 ニュートン力学の限界： 原子核の周りを電子が回っていると言って良いのでしょうか（世界に先駆けた長岡半太郎モデル。オランダ人のボーアの理論）？原子の理解を阻んだ，電磁気学とニュートンの力学のパラドックス。製鉄所の溶鉱炉の中の温度測定のために現場で考案された経験則を，ボルツマンの法則を用いてドイツ人のプランクが完璧に説明した。プランクの大胆仮説によって誕生し，シュレディンガーの波動関数（これも基本的な物理法則の一つです）で定式化された量子力学が，電磁気学とニュートンの力学の間のパラドックスを解決。ここまで理解すると，地球温暖化現象のメカニズムが物理で明瞭に分かります。 第 13 講 量子力学の基礎方程式であるシュレディンガー方程式を，サイン・コサイン・タンジェント・指数関数を用いて表現してみよう。 第 14 講 気体の性質を剛体球でシミュレーションしよう。エネルギー準位をサイコロの目に見立ててモデルを作ると，熱力学の公式を，エレガントな数式で表現できます。これが，統計力学 第 15 講 地球温暖化と，それを解決するための最先端テクノロジー			
3. 履修上の注意 小学生の算数レベルから始めて，順番に，物理学の基礎を解説していくので，極力，リアル対面授業を、欠席しないように頑張って毎回出席してください。出席点をつけます。学習の補助（予習・復習）のためのオンデマンドビデオを準備する予定ですが、基本的にはオンデマンドビデオのみによる学習は、出席にはカウントしません。但し、部活の試合等々でどうしても出席できない場合は、その旨を事前に奥出までメールしていただければ基本的に出席にカウントします、アップしたオンデマンドビデオを抜かさずすべて見て下さい。 質問等等ある方は、以下のメールアドレスまでメールしてください。 okude.tokyokaigyoudaigaku@gmail.com 授業中の質問、メールによる質問は大歓迎。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必要ありません。気になったところがあれば，講義が終わったら，講義ノート、オンデマンドビデオに目を通しましょう。質問歓迎。			

5. 教科書

udemy のビデオ教材

「麻衣と一緒に Excel VBA プログラミング教室」

当分の間

<https://www.udemy.com/course/excel-vba-m/learn/lecture/27126272#overview>

から無料登録できて、無料登録後は自由に無料で視聴できるようになります。

(うまく無料登録できない場合は

okude.tokyokaiyoudaigaku@gmail.com

までメールをください)

6. 参考書

『楽しい高校物理』 Kindle 版 (Amazon) 電子ブック。

奥出 信一郎 (著), 村松 真砂子 (イラスト)

『物理学 I (ニュートン力学) 中学・高校・大学・社会人一貫教育 (UDEMY 動画教材)』

奥出 信一郎 (著), 宮下夏子・村松 真砂子 (イラスト)

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

トータルの成績

= 期末試験の成績 + 毎回の小テストの成績累計 + 出席点

ただし、足し算が 100 点を超えた場合は、上限 100 点とします。

学期末の試験で 90% 決めます。

出席点は 1 講義で 1 点とし、累計をとります

必要に応じて、基本的には各講義の後に、小テストを実施 (各回、5 問、5 点満点) します。小テストの各回の成績の累計は学期末の試験に加算します。

追試が必要な場合は、追試を行いません。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)BPH171J	
科目名		物理学B	
担当者		奥出 信一郎	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標			
（概要） 真空管，電子回路，ラジオ，トランジスタ，レーザー，LED，光通信，スーパーコンピュータ，インターネットなど，産業界における物理学の活用事例をいくつか紹介するとともに，それらが，どうして産業界を激変させ力を持っていたのかを，作動原理に遡って簡単に紹介します。ここで，物理学Aの講義で学んだ物理学の知識があれば，作動原理がサクサク理解できます。また，昨今の，化学と物理学の融合，生物学と物理学の融合の動向と基礎研究の最先端の事例を簡単に紹介して，将来新技術が出現する可能性の一端をご紹介します。もちろん，現時点では物理学は万能ではありません。塩の塩からさを理解するには実際に舐めてみるしかありません。数式をいくら睨んでも塩からさは実感できません。これが現代物理学で扱いきれていない最たるものです。現代物理学の限界と，これからありうる展望を述べます。物理Aで学んだ物理数学が，どのように，就職後の仕事に役立つかのケースを想定して，実例をあげて解説します。 （達成目標） 過去における新技術の出現と，その時の，企業経営者の苦悩と興奮が，物理学の知識によって，よりリアルに理解できるようになる事を目指します。また，将来の新技術出現に注意を払う事が可能となる，最低限の技術的素養を身につける事を目指します。物理Aで習った物理数学が，就職後の仕事で役立つ可能性が高いケースを紹介。			
2. 授業内容			
第1講 金融工学 第2講 カイ二乗法とニューラルネットワーク 第3講 電子回路，真空管，ラジオ，レーダー。電子計算機。第二次世界大戦の勝敗を分けたエレクトロニクス技術。 第4講 レーザー開発物語。白熱灯，蛍光灯。1960年：レーザー物語：え？コヒーレント光？何に使うの？ 第5講 技術革新と事業構造改革。過去の事例報告 第6講 風雲の日本の半導体産業とその凋落 第7講 スーパーコンピュータを用いた光合成メカニズムの理論研究 第8講 スーパーコンピュータの産業利用。最先端のハイテク新素材開発競争の最先端事情 第9講 基礎的な計測技術。シンクロトロン・ラディエーションとspring 8。核磁気共鳴とNMR。赤外分光。超高感度質量分析ほか。 第10講 物理学的手法の経営への応用（経営工学）1 QC七つ道具と散布図 第11講 物理学的手法の経営への応用（経営工学）2 相関と重回帰分析 第12講 物理学的手法の経営への応用（経営工学）3 数学的手法を用いた生産計画の最適化 第13講 物理学的手法の経営への応用（経営工学）4 モコンピュータプログラムを用いた在庫管理 第14講 音の物理学。各地の風鈴の音を，フーリエ変換法を用いて解析 第15講 a試験 b講義全体の振り返りと試験の正答解説			
3. 履修上の注意			
物理学Bは自己完結していて，予備知識は必要とはしませんが，物理学Aを履修していると，物理学Bの講義が何倍にも楽しくなります。是非物理学Aをも受講しておいてください。 物理学Bでは，主に，産業界で物理学が用いられている具体事例を中心に解説します。 出席点をつけます。学習の補助（予習・復習）のためのオンデマンドビデオを準備する予定ですが，基本的にはオンデマンドビデオのみによる学習は，出席にはカウントしません。但し，部活の試合等々でどうしても出席できない場合は，その旨を事前に奥出までメールしていただければ基本的に出席にカウントします，アップしたオンデマンドビデオを抜かさずすべて見て下さい。 質問等等ある方は，以下のメールアドレスまでメールしてください。 okude.tokyokaiyoudaigaku@gmail.com 授業中の質問，メールによる質問は大歓迎。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習は必要ありません。気になったところがあれば，講義が終わったら，講義ノート，オンデマンドビデオに目を通しましょう。質問歓迎。			
5. 教科書			
指定しません。			
6. 参考書			
『楽しい高校物理』Kindle版（Amazon）電子ブック。 奥出 信一郎（著），村松 真砂子（イラスト） 『物理学Ⅰ（ニュートン力学）中学・高校・大学・社会人一貫教育（UDEMY 動画教材）』 奥出 信一郎（著），宮下夏子・村松 真砂子（イラスト）			

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

トータルの成績

＝期末試験の成績 ＋ 毎回の小テストの成績累計 ＋ 出席点

ただし、足し算が 100 点を超えた場合は、上限 100 点とします。

学期末の試験で 90%決めます。

出席点は 1 講義で 1 点とし、累計をとります

必要に応じて、基本的には各講義の後に、小テストを実施（各回、5 問、5 点満点）します。小テストの各回の成績の累計は学期末の試験に加算します。

追試が必要な場合は、追試を行いません。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) BCH191J		
科目名		化学 A		
担当者		久富木 志郎		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 【概要】化学 A では、化学の基礎となる原子や分子の構造やそれらの性質について学ぶ。講義全体を 3 つに分割し、最初の 4 回の講義では、原子と分子について学ぶ、続く中盤の 5 回では化学結合について、さらに、最後の 5 回では無機物質について学ぶ。 【到達目標】化学 A では中学や高校で学んだ、原子や分子に関する内容に立脚し、化学の概念についてさらに詳細な知識を習得する。具体的には次の 3 点を目標とする。 I. 原子の構造や元素の性質を説明できる。 II. 分子を構成する化学結合の様式について説明できる。 III. 無機物質の構造について説明ができる。 上記内容の理解により、これらと経済との結びつき、例えば放射能汚染問題や新素材開発に関するコストの問題の解決につながる広い視野を、履修学生が手に入れる一助とする。				
2. 授業内容 第 1 回：原子と分子（1） a のみ：化学とは 第 2 回：原子と分子（2） 元素：原子・分子 第 3 回：原子と分子（3） 原子量・分子量：元素の周期表 第 4 回：原子と分子（4） 原子の電子構造：放射性元素 第 5 回：化学結合（1） イオン結合：共有結合 第 6 回：化学結合（2） 分子の構造 第 7 回：化学結合（3） 分子間力① 第 8 回：化学結合（4） 分子間力② 第 9 回：化学結合（5） 金属結合 第 10 回：無機物質（1） 元素の分類：非金属単体 第 11 回：無機物質（2） 非金属の水酸化物と酸化物：金属単体 第 12 回：無機物質（3） 金属の化合物 第 13 回：無機物質（4） 錯イオン 第 14 回：無機物質（5） 金属イオンの定性分析				
3. 履修上の注意 教科書に基づいて講義を実施する。他に必要な資料は Oh-o!Meiji に配布する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義回の単元を履修した後、内容理解のため、演習の解答に取り組む。講義の前後で、教科書の演習の解法の予習・復習をしておくことが望ましい。				
5. 教科書 『一般化学（四訂版）』著 長島・富田，（裳華房）				
6. 参考書 『Catch UP 大学の化学講義 -高校化学とのかけはし（改訂版）』著 杉森・富田，（裳華房）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各講義回の次の回に、前回出題分の課題の解説を行う。				
8. 成績評価の方法 各章終了時のレポート(30%)、各章単元に関する小テスト(60%)、受講態度(10%)を合計し成績とする。レポートは、化学に関連した経済についてのトピックを出題する。 各章単元に関する小テストは各講義回の終わりに実施する予定である。				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) BCH191J	
科目名		化学B	
担当者		久富木 志郎	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 【概要】化学Bでは、物質の状態や化学反応および有機化合物について履修する。最初の5回の講義では、物質の状態である、気体、液体、固体の性質について学ぶ。続く5回では、化学反応について学び、さらに最後の4回では有機化学の基礎について理解する。 【到達目標】化学Bでは、中学あるいは高校で学んだ、物質や化学反応に関する内容に立脚し、化学の概念についてさらに詳細な知識を習得する。具体的には次の3点を最終目標とする。 I. 有機化合物の構造について説明できる。 II. 物質の状態や性質について説明できる。 III. 化学反応速度や化学平衡がについて説明できる。 上の内容を理解することで、これらと経済との結びつき、例えば環境汚染や再生可能エネルギー問題解決につながる広い視野を、履修学生が手に入れる一助とする。			
2. 授業内容 第1回：有機化学の基礎（1）有機化合物 第2回：有機化学の基礎（2）有機化合物の化学式 第3回：有機化学の基礎（3）異性体 第4回：有機化学の基礎（4）有機反応 第5回：物質の状態（1）物質の状態：気体 第6回：物質の状態（2）液体・溶液 第7回：物質の状態（3）希薄溶液の性質 第8回：物質の状態（4）コロイド 第9回：物質の状態（5）固体 第10回：化学反応（1）反応速度 第11回：化学反応（2）化学変化とエネルギー 第12回：化学反応（3）化学平衡 第13回：化学反応（4）酸・塩基反応 第14回：化学反応（5）酸化還元反応			
3. 履修上の注意 教科書に基づいて講義を実施する。他に必要な資料はOh-o!Meiji に配布する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義回の単元を履修した後、内容理解のため、演習の解答に取り組む。講義の前後で、教科書の演習の解法の予習・復習をしておくことが望ましい。			
5. 教科書 『一般化学（四訂版）』著 長島・富田，（裳華房）			
6. 参考書 『Catch UP 大学の化学講義 -高校化学とのかけはし（改訂版）』著 杉森・富田，（裳華房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各講義回の次の回に、前回出題分の課題の解説を行う。			
8. 成績評価の方法 各章終了時のレポート(30%)、各章単元に関する小テスト(60%)、受講態度(10%)を合計し成績とする。レポートは、化学に関連した経済についてのトピックを出題する。 各章単元に関する小テストは各講義回の終わりに実施する予定である。			
9. その他 特になし。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL151J		
科目名		自然科学思想史 A		
担当者		河村 豊		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 自然科学の活動は、市民生活や企業経営、国家政策にとって、ますます大きな影響を果たす存在になっている。自然を探究することで手に入れた成果物は、ときには、人々に常識を越える知識を提供することで思想的転換をもたらし、成果の一部を応用することにより新規の生産技術や軍事技術も生み出してきた。さらに近年では、「イノベーション」を目的とした研究開発に大規模な予算・資源を投入するだけでなく、企業戦略や国家政策の重要な対象として、科学研究が取り扱われるようになっており、世界の各企業や各国家が研究開発をめぐる激しく競い合う事態を発生させている。また市民レベルにも影響を及ぼしている。こうした事態を背景に、「科学」についての知識としては、自然法則や実験手法などの内的特徴を学ぶに止まらず、科学の社会的機能を冷静に分析することが強く求められるようになっていく。それゆえ、科学を戦略的に考える経営者、政策的に考える政府官僚の立場からだけでなく、自然科学の影響を受ける人々の立場、利用者の立場、支援者の立場からも、冷静に分析することが求められている。この講義では、「自然科学思想」について、科学の思想的側面も含め、さらに科学の経済的、政治的、社会的、工学的側面などにも触れながら、歴史的に「科学」を分析していく予定である。 〈到達目標〉 「自然科学思想史A」では、歴史的分析の時代範囲としては、古代から18世紀までの時代を取扱い、その時代に自然科学の活動を担った人材層や、サポートをした社会階層、影響を受けた社会階層、さらに、科学的活動に対して抑圧的に対応した社会階層にも注意を向けることにする。こうした歴史的な分析によって、科学活動に関わる、神話、宗教、思想的役割、あるいは知識を手にするための政治的権威、実用的動機などを、具体的に明らかにしてみたい。自然科学研究の進展には、探求者・研究者の個人的な知的好奇心や天賦の才能が不可欠ではあるが、自然科学の歴史は天才の歴史のみでは語れず、彼らを取り巻く社会環境に大きく依存している。資料や遺物を利用した歴史的調査から見えてくることは、自然科学の歴史が、文化史という一領域に制限できないほどの多様な社会的活動の一つであることを確認したい。分析手法としては、「後知恵の誤謬」、「正当化の圧力」を避けるなど、歴史手法の基礎を学ぶことも含む。				
2. 授業内容 ※授業すべてと期末試験は対面授業で行う。ただし、第7回目に中間試験を設定し、この回のみ教室に来ることなく、設定された期間内に Oh-o!Meiji システム上で行われる。 第1回：講義概要について説明〔対面授業〕 講義方法など。科学に関わる現状：科学技術、研究開発、科学技術政策、科学の推進者など 第2回：科学と技術の起源〔対面授業〕 最古の技術、経験的知識、自然認識と技術知、わざと手段、自然観の起源など 第3回：古代文明の科学・技術〔対面授業〕 権力者と知識独占、神話的自然観、ヒッタイトと製鉄法など 第4回：古代ギリシャの科学〔対面授業〕 脱神話的自然観、タレス、ピタゴラス、プラトン、アリストテレスなど 第5回：古代ギリシャ・ローマの科学〔対面授業〕 アレクサンドリア、ムセイオン、アルキメデス、ローマ科学、エピクロス学派 第6回：アラビア語の科学〔対面授業〕 ペルシャ科学、イスラム教、バグダッド、智恵の館、医学、幾何学など 第7回：中間試験〔メディア授業（オンデマンド型）〕 教室に来ることなく、所定の期間内に Oh-o!Meiji 上で受講・解答提出 第6回目までの授業内容を範囲として、中間試験を実施。設定した期間内に解答し終わること。 第8回：西欧・スコラ科学〔対面授業〕 ブラウ、十字軍、12世紀ルネサンス、修道院、大学、仮言的論証など 第9回：イタリア・ルネサンスと科学〔対面授業〕 フィレンツェ公会議、ヒューマニスト、高級職人、ダ・ビンチなど 第10回：スコラ科学改革派〔対面授業〕 コペルニクス、天動説、地動説、科学と宗教、ケプラーなど 第11回：科学革命（1）〔対面授業〕 ガリレイ、アリストテレス自然学、実験と観察、地動説、宗教裁判など 第12回：科学革命（2）〔対面授業〕 F.ベーコン、ニュートン、帰納法、演繹法、力学的自然観、科学制度など 第13回：18世紀啓蒙主義と科学革命〔対面授業〕 科学革命がもたらした社会的影響。ニュートンとフランス啓蒙主義、『百科全書』 第14回：期末試験〔対面授業〕 対面による期末試験				
3. 履修上の注意 ①毎回の講義ごとにリアクション課題やクイズに答えてもらいます。課題は、50字程度の論述で、授業終了時に出席カードとともに回収します。				

②第7回目に中間試験を設定し、こちらは、教室に来ることなく所定の期間 内で、Oh-o!Meiji 上のこの科目の「クラスウェブ」に掲載される中間試験問題に解答してもらいます。試験範囲は第1回から第6回までの予定。 ③最終授業回に実施する期末試験は、教室での対面形式となる予定。試験範囲は第1回から第13回までの予定。 ④講義には、教科書の他、毎回の講義で利用する投影資料の縮小版を「クラスウェブ」に掲載する予定。授業に併せてダウンロードし、授業で利用することがもっとも効果的な受講方法となります。	
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の講義に利用する資料は、「クラスウェブ」に掲載されるので、それを事前にダウンロードしておくことが、事前準備の作業となります。期末試験では、紙媒体資料の持ち込みは許可する予定ですが、電子機器の持ち込みは許可されません。したがって、資料のダウンロードは、紙媒体で行い、それを講義中に持ち込み、その用紙をノートとして利用する、あるいはノートと併用するなどすれば、それを、試験時に持ち込むことができます。 また、不明な点があった場合には、出席カードの裏を利用するなどして、質問をしてください（質問歓迎）。次の講義時に解説するように努力します。その他に、講義後に自分で調べるなどして、不明点を無くすようにしてください。	
5. 教科書 今年度より以下の教科書を利用する 河村豊，小長谷大介，山崎文徳編著『未来を考えるための科学史・技術史入門』北樹出版	
6. 参考書 講義でプロジェクターに利用する PPT 資料は簡易 PDF 版にして、Oh-o!Meiji のクラスウェブに掲載する予定。	
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出をお願いする「リアクション課題」、および中間試験については、それにかかわる情報を、当該科目のクラスウェブ上に掲載する予定である。 1. 「課題」については、次回の講義にて解答例および採点基準について解説します。回収した用紙は返却をしませんので、自己採点のためには、「課題」提出前に、スマホの撮影機能を利用して保存するなどの工夫をしてください。 2. 公欠扱いが認められた場合は、該当回の「課題」を後から提出することができます。(1) 該当回の「課題」を調べ、(2) 提出用紙を教員より入手し、(3)	
8. 成績評価の方法 講義で実施するリアクション課題（出席票を利用する予定）に対して合計 20%，Web 型式の中間試験で 30%，期末試験を 50%として、評価する。	
9. その他 この講義は対面授業で実施するが、同時に Oh-o!Meiji 上の「クラスウェブ」も活用する。上記に説明しているように、授業で利用する資料、提出してもらった課題等、中間試験、期末試験などに関わるアナウンスおよび資料などは、印刷物としては配布せず、すべてデジタルデータで Web に掲載する。したがって、事前にデータをダウンロードするなどして、紙媒体にプリントするか、あるいは電子機器を授業中に持ち込むこともできます。対面形式での授業中には、毎回出題される課題に対応するために、教科書の他、デジタル資料の参照と講義の聴講	

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PHL151J		
科目名		自然科学思想史B		
担当者		河村 豊		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 自然科学の活動は現代社会の中で大きくその役割を変貌させた。「自然科学思想史A」で論じたように、古代科学や近代科学は、その科学的活動によって入手できた自然法則や自然観によって人々の常識に変更を加え、思想的転換をもたらした。さらに新規の工芸技術や生産技術、軍事技術を生みだしてきた。19 世紀以降では、「科学技術」（科学依存型技術：Science based Technology）が登場することで、科学と社会との関わりは、宗教・哲学・思想との関連性よりも、技術・経済・政治との関連性を強めてきた。その大きな原因は、18 世紀末から登場した「ペーコンの科学」にある。近代科学までは主として、天文学、力学、数学、医学、植物学、地理学などが、公認された自然科学部門であった（「ニュートンの科学」と呼んでおく）。こうした近代科学は、植民地経営で世界に進出し始めた西欧においては、国家経営の手段でもあった。それに比べて、「ペーコンの科学」は、静電気、磁気、熱、光、液体、気体などを改良された実験装置（摩擦起電機、方位磁石、熱機関、温度計、レンズ、真空ポンプなど）を利用した物理諸科学となる知識であり、電気通信や漂白工程などへの応用が容易な知識であった。本格的な科学応用技術の時代が訪れることになった。この変化を理解した人々は、科学に対する態度を大きく変化させることになる。応用のために基礎研究を推進しようとする「科学イデオロギー」という現象も発生する。19 世紀以降の「自然科学思想史」は、こうした技術的な関わりを軸にして、「科学と社会」から「科学技術と社会」という関係が生み出され、21 世紀へと変化していく。この講義では、19 世紀から 21 世紀までの科学および科学技術の歴史を扱うことになる。 （到達目標） 「自然科学思想史B」では、技術を介した科学を中心に、科学の社会的活動を扱う。そのためには、18 世紀の「産業革命」における科学と技術の関係性を理解することから始める。17 世紀の近代科学は 18 世紀の産業革命に小さな影響しか与えなかった点を確認してもらう。科学応用技術の誕生を招いた 18 世紀末の「ペーコンの科学」がどのようなものなのか。その後に展開する「古典物理学」などがどのように発展していくか。科学の内的な特徴が変化するだけでなく、大学に実験室や研究所が設置され、新たに「Scientist」（科学者）という名称が登場することにも注目する。さらに、企業による基礎研究の取り組み、国家による基礎研究の支援体制の構築などが、国家間の経済競争や軍事競争、戦争などを背景に進展する。こうした社会背景を考慮することで、現代科学の展開を理解することを予定している。毎回の講義を通して、科学についての「技術化」、「専門化」、「職業化」、「産業化」、「制度化」、「ナショナル化」、「軍事化」、「政治化」、「巨大化」、「政策化」、「軍民両用化」などの現象を理解するようにしたい。				
2. 授業内容 ※授業すべてと期末試験は対面授業で行う。ただし、第 6 回目に中間試験を設定し、この回のみ、教室に来ることなく、設定された期間内に Oh-o!Meiji システム上で行われる。 第 1 回：イギリス産業革命と科学〔対面授業〕 イントロ。産業革命の起源と近代科学、マニュファクチュア、道具から機械へ、発達した機械 第 2 回：産業革命期の科学〔対面授業〕 イギリスとフランス、シビル・エンジニア、エコル・ポリテクニク、ラプラス物理学 第 3 回：第二次科学革命〔対面授業〕 応用可能な物理学、ガルバーニ、ボルタ、多様な現象の発見、古典物理学の誕生 第 4 回：科学依存型技術の登場〔対面授業〕 科学応用産業の登場。化学応用と酸アルカリ工業、物理応用と電信工業 第 5 回：19 世紀ドイツの科学技術〔対面授業〕 科学大国への道、TH、実験研究、ジーメンス社、国際電信、帝国物理工学研究所 第 6 回：中間試験〔メディア授業（オンデマンド型）〕 対面では行わない。所定の期間内に Oh-o!Meiji 上で受講・解答提出 第 5 回目までの授業内容を振り返る。中間試験問題出題。設定した期間内に受験すること。 第 7 回：19 世紀アメリカの科学技術（1）〔対面授業〕 発明大国の形成、アメリカン・システム、エジソン社、電気照明、エジソン・システム 第 8 回：19 世紀アメリカの科学技術（2）〔対面授業〕 電気利用の拡大、技術競争、技術更新、エジソンの失敗、企業内研究所設立 第 9 回：20 世紀初頭イギリスの科学技術〔対面授業〕 マルコーニ社、船舶無線、国際無線、通信主権、イギリスの通信政策、無線と戦争 第 10 回：第一次世界大戦と科学技術〔対面授業〕 科学者と戦争、新兵器、実用電子管、電子管の規格化、航空機用無線電話 第 11 回：第二次大戦と科学技術（1）〔対面授業〕 新兵器開発の国家プロジェクト、物理学者の兵器開発動員の必然性、電波兵器、核兵器 第 12 回：第二次大戦と科学技術（2）〔対面授業〕 日本における戦争と科学技術 第 13 回：冷戦期の科学技術〔対面授業〕 軍産学複合体、アメリカとソビエト、核軍拡と科学、ベトナム戦争と電子戦争、 第 14 回：期末試験〔対面授業〕				

対面型式で実施。

3. 履修上の注意

「自然科学思想史A」の単位取得が望ましい。

- ①毎回の講義ごとにリアクション課題を出題し、出席カードとともに回収する予定。
- ②第6回目に中間試験を設定し、こちらは、教室に来ることなく所定の期間に Oh-o!Meiji 上のこの科目の「クラスウェブ」に掲載される解説等をもとに、Web 上で解答を提出する。
- ③最終授業回に実施する期末試験は、教室での対面形式となる。
- ④この講義では「自然科学思想史 A」で利用した教科書を利用する。
- ⑤講義で利用する投影資料については、簡易的 PDF 版にして、「クラスウェブ」に掲載する。授業開始前までにダウンロードしておくことが望ましい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の講義で扱った「課題」については、採点作業を行うが、受講者への返却は行わない。課題の解答および採点基準については、自己採点ができるように、次回の授業で公表する。したがって、受講生は、課題の提出時に、スマホの撮影機能で保存して、自己採点することが望ましい。また、「課題」は、中間試験や期末試験で何らかの形で利用する予定であるので、見直しができるように準備しておくことを推奨する。

また、講義内容について、不明に思うことを残さずにする努力が大切である。それゆえ、小さな疑問が残っているのならば、毎回の「課題」提出に利用する用紙に、質問やコメントを書くなどして、教育に不明点について知らせるようにしていただきたい（質問歓迎）。次回以降の講義でなるべり返答をするように心がけます。

5. 教科書

今年度より以下の教科書を利用する

河村豊，小長谷大介，山崎文徳編著『未来を考えるための科学史・技術史入門』北樹出版

6. 参考書

講義で利用する（1）講義用参考資料，（2）講義用 PPT 資料（配布は文字のみ）については、Oh-o! Meiji のクラスウェブに PDF や Word データで掲載する。教室での資料配付は行わないので、授業前にダウンロードし、授業に持ち込むようにしてください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に提出をお願いする「課題」、および中間試験については、それにかかわる情報を、当該科目のクラスウェブ上に掲載する予定である。

1. 「課題」については、その問題をクラスウェブになんらかの形で再録する予定である。また、解答および採点基準は、次回の講義にて解説するようにする。回収した「課題」は返却はしないが、次回の講義にて自己採点がかかるのであるので、「課題」提出前に、スマホの撮影機能で保存しておくことをお勧めする。
2. 公欠扱いが認められた場合は、該当回の「課題」を後から提出することができます。（1

8. 成績評価の方法

講義で実施するリアクション課題（出席票を利用する予定）に対して合計 20%，中間試験で 30%，期末試験を 50%として、評価する。

9. その他

この講義は対面授業で実施するが、同時に Oh-o!Meiji 上の「クラスウェブ」も活用する。上記に説明しているように、授業で利用する資料、提出してもらう課題等、中間試験、期末試験などに関わる資料などは、印刷物としては配布せず、すべてデジタルデータで Web に掲載する。したがって、事前にデータをダウンロードするなどして、電子機器を授業中に持ち込むことを推奨する。対面形式での授業中には、毎回出題される課題に対応するために、デジタル資料の参照と講義の聴講の両方をおこなっていただきたい。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) ANT111J	
科目名		文化人類学	
担当者		加原 奈穂子	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 人間には、歴史の流れの中で、また、地域の違いによって、行動や思考のあり方に大きな多様性が見られます。その一方で、人類に共通した普遍性を見出すことも可能です。文化人類学は、人間の「文化」に着目し、それらを比較研究することで、人間とは何かを探究する学問です。また、現場でのフィールドワークによって、様々な文化を実証的に記録し、研究していく点に大きな特色があります。 この講義では、文化人類学の視点、基本概念、研究方法について、言語やコミュニケーションを中心とする身近な話題を取りあげながら考察することで、文化人類学の基本的な考え方を学ぶことを目的とします。文化人類学の概論的紹介にとどまらず、具体的な事例や映像資料をふまえながら、多様な文化が直面している諸問題や文化人類学の動向などについても考えていきます。			
2. 授業内容 〔第1回〕 文化人類学とはなにか 〔第2回〕 「文化」としての食べ物 〔第3回〕 文化人類学の研究方法：フィールドワークについて 〔第4回〕 言語の多様性と危機言語 〔第5回〕 言語と方言、アイデンティティ：沖縄の事例を中心に 〔第6回〕 多言語社会：台湾の事例を中心に 〔第7回〕 言語と認識・分類 〔第8回〕 言語と思考 〔第9回〕 口承文芸 〔第10回〕 口承文芸 〔第11回〕 異文化理解とコミュニケーション 〔第12回〕 非言語コミュニケーション 〔第13回〕 おわりに 〔第14回〕 期末試験			
3. 履修上の注意 出席・理解度の確認のために、毎回の授業でリアクションペーパーを配布し、授業に関する考察や質問などを記入していただきます。 遅刻については、授業開始 20 分以降に入室の場合、遅刻者用のリアクションペーパーを使用していただきます。配慮すべき事情があれば、リアクションペーパーに記入してください。 単位取得には総授業回数 14 回のうちの 3 分の 2 以上出席し、且つ期末試験の成績を総合して合格と判断されることが必要です（出席はリアクションペーパーで管理します）。 欠席の取り扱いについては、 大学の規定では、①学校において予防すべき感染症に罹患した場合、大学に報告をすることで配慮の対象となります。詳しくは大学 HP の「学校において予防すべき感染症に罹患した場合の取り扱い」を確認してください（欠席について配慮対応を希望する場合は、登校が可能になった日から原則として 7 日以内に「学校において予防すべき感染症罹患・治癒証明書」の写しを教員に提出してください。）。 その他、下記の事例についても、この授業では配慮の対象といたします。該当の事情を証明できる書類・写真などを速やかに講師に提示してください。 ②忌引き（対象は 1 親等（親、子）、2 親等（兄弟姉妹、祖母）および配偶者）、③教育実習、④インターンシップや就職活動でやむを得ない場合、⑤学校で予防すべき感染症以外の病気や怪我を負った場合、⑥裁判員制度で対象裁判員候補者に指名された場合などについて配慮を必要とする場合。 上記の①～⑥以外でも何かこまったことがあれば、授業の際に申し出ていただくか、Oh-o! Meiji のメッセージからご連絡ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：授業で扱うテーマは多岐にわたるため、特定の教科書はありません。言語やコミュニケーションを中心的なテーマとして扱いますので、関連の話題をわかりやすく包括しているイギリスの言語学者ディヴィッド・クリスタルの『The Cambridge Encyclopedia of Language』の関連箇所を目を通してみてください。また、各回の授業で参考文献を紹介しますので、その中から関心のあるものを読み、ご自身の視点や関心について考えてみてください。 事後学習：各回のテーマに関連した文献を自身で探して読んでみるとともに、日常生活の中で触れる事象に対して文化人類学を通して培った視点を活かして考える習慣をつけてください。			
5. 教科書 話題が幅広い領域にわたるため、特定の教科書は使用いたしません。毎回、授業のレジュメを配布いたします。			
6. 参考書 The Cambridge Encyclopedia of Language（第3版）Crystal, David（Cambridge University Press）2010 ＊上記の第3版は翻訳がありませんが、初版は翻訳があります。 『言語学百科事典』クリスタル、ディヴィッド（大修館書店）1992 年 このほか、各回、テーマに応じた参考文献をご紹介します。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回リアクションペーパーで授業に関する理解度や考察の確認を行い、次回の授業でフィードバックをいたします。

8. 成績評価の方法

平常点（講義への出席と授業態度、毎回の授業で提出するリアクションペーパーの考察など）50%、期末試験 50%

* 単位取得には総授業回数の 3 分の 2 以上出席し、かつ期末試験の成績を総合して合格と判断されることが必要です。

9. その他

講義の進め方は受講生の関心に応じて多少変更することがあります。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) ANT111J	
科目名		文化人類学	
担当者		加原 奈穂子	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 人間には、歴史の流れの中で、また、地域の違いによって、行動や思考に大きな多様性が見られます。その一方で、人類に共通した普遍性を見出すことも可能です。文化人類学は、人間の「文化」に着目し、それらを比較研究することで、人間とは何かを探究する学問です。また、フィールドワークによって、様々な文化を実証的に記述し、研究していく点に大きな特色があります。 この講義では、文化人類学の視点、基本概念、研究方法などについて説明したうえで、装い、ジェンダー、観光、伝統、多文化社会などの身近な話題を取りあげながら考察することで、文化人類学の基本的な考え方を学ぶことを目的としています。文化人類学の概論的紹介にとどまらず、具体的な事例や映像資料をふまえながら、多様な文化が直面している諸問題や文化人類学の動向などについても考えていきます。			
2. 授業内容 [第1回] 文化人類学とはなにか [第2回] 「文化」としての装い [第3回] 文化人類学の研究方法：フィールドワークとインタビュー調査について [第4回] 文化人類学の研究方法：フィールドワークと観察・記録について [第5回] ジェンダーと関連概念 [第6回] ジェンダーと文化 [第7回] 結婚と家族 [第8回] 観光と伝統の創造 [第9回] 伝統と著作権 [第10回] 民族とエスニシティ [第11回] 多文化社会を考える：アメリカの事例を中心に [第12回] 多文化社会を考える：アメリカの事例を中心に [第13回] おわりに [第14回] 期末試験			
3. 履修上の注意 出席・理解度の確認のために、毎回の授業でリアクションペーパーを配布し、授業に関する考察や質問などを記入していただきます。 遅刻については、授業開始 20 分以降に入室の場合、遅刻者用のリアクションペーパーを使用していただきます。配慮すべき事情があれば、リアクションペーパーに記入してください。 単位取得には総授業回数 14 回のうちの 3 分の 2 以上出席し、かつ期末試験の成績を総合して合格と判断されることが必要です（出席はリアクションペーパーで管理します）。 欠席の取り扱いについては、大学の規定では、①学校において予防すべき感染症に罹患した場合、大学に報告をすることで配慮の対象となります。詳しくは大学 HP の「学校において予防すべき感染症に罹患した場合の取り扱い」を確認してください（欠席について配慮対応を希望する場合は、登校が可能になった日から原則として 7 日以内に「学校において予防すべき感染症罹患・治癒証明書」の写しを教員に提出してください。）。 その他、下記の事例についても、この授業では配慮の対象といたします。該当の事情を証明できる書類・写真などを速やかに講師に提示してください。 ②忌引き（対象は 1 親等（親、子）、2 親等（兄弟姉妹、祖母）および配偶者）、③教育実習、④インターンシップや就職活動でやむを得ない場合、⑤学校で予防すべき感染症以外の病気や怪我を負った場合、⑥裁判員制度で対象裁判員候補者に指名された場合などについて配慮を必要とする場合。 上記の①～⑥以外でも何かこまったことがあれば、授業の際に申し出ていただくか、Oh-o! Meiji のメッセージからご連絡ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習：授業で扱うテーマは多岐にわたるため特定の教科書はありませんが、文化人類学の話題を包括的に概観できる『文化人類学事典』（丸善、2009 年）や、各回の授業で紹介する文献等で学習内容を深めると共に、授業のテーマに対するご自身の視点や関心について考えてみてください。 事後学習：授業の中でご自身で関心をもったテーマについて文献を探して読むと共に、日常生活の中で触れる事象に対して文化人類学を通して培った視点を活かして考える習慣をつけてください。			
5. 教科書 幅広い領域にわたる話題を扱うため、特定の教科書は使用いたしません。各回、授業のレジュメを配布いたします。			
6. 参考書 『文化人類学事典』日本文化人類学会編（丸善）2009 年 『文化人類学事典』石川・梅棹・大林ほか編（弘文堂）1994 年 上記のほかに、各回、テーマに応じた参考文献を紹介します。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回、リアクションペーパーで理解度や考察の確認を行い、次回の授業でフィードバックをいたします。

8. 成績評価の方法

平常点（講義への出席と授業態度、毎回の授業で提出するリアクションペーパーの考察など）50%、期末試験 50%

* 単位取得には授業回数の 3 分の 2 以上出席し、かつ期末試験の成績を総合して合格と判断されることが必要です。

9. その他

講義の進め方は受講生の関心に応じて多少変更することがあります。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) BBI141J	
科目名		生理学A	
担当者		一之瀬 真志	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 私たちの体には生きていくために必要な様々な機能が備わっています。自分の体についての知識を身につけることは健康な生活をおくために非常に重要です。生理学Aでは、まず生理学について概説し、その後、体液と血液、循環、呼吸、体温調節について解説します。また、これらの生理機能が運動時にどのように調節されているのかについても論じます。 （到達目標） 生体の各組織・臓器の機能を学び、さらに生体諸器官が協調して生体機能の維持・調節に関与していることを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 生理学概論〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 体液と血液1〔人体の水分量とその組成〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 体液と血液2〔血液細胞の働き〕 第5回 循環1〔心臓の構造と働き〕 第6回 循環2〔心臓の働きを調節するしくみ〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 循環3〔血管の構造と機能〕 第8回 循環4〔血管系による血流量調節のしくみ〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 循環器疾患1〔心疾患、脳血管疾患〕 第10回 循環器疾患2〔動脈硬化、高血圧〕 第11回 呼吸1〔呼吸器系の構造と呼吸のしくみ〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 呼吸2〔呼吸の調節、組織での酸素の取り込み〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 体温1〔ヒトの体温、体温調節のしくみ、発汗のしくみと汗の働き〕 第14回 体温2〔熱中症が起こるしくみと予防策〕			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 生理学AとBは独立した内容で構成していますが、生理学Aを履修した後に、生理学Bを履修することでより理解が深まります。A、Bの順番で履修することを推奨します。 一部の授業回においてメディア授業を行います（授業内容欄参照）。講義動画は原則毎週月曜日にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は配信開始後2週間視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やリアクションペーパーの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、Oh-o! Meiji クラスウェブの教員とのメッセージ機能を使用します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他、南江堂）、 新訂 目でみるからだのメカニズム（境章 著、医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他、医学書院）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後にOh!-Meiji を通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20％：リアクションペーパーと小テストを含む）と期末試験（80％）により評価します。 ※期末試験は対面形式で実施します。			
9. その他 本講義では、生体機能を日常生活との関連を踏まえながら分かり易く解説します。この講義を通して、「生命現象のしくみ」の面白さを感じてもらおうとともに、健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) BBI141J	
科目名		生理学B	
担当者		一之瀬 真志	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 私たちの体には生きていくために必要な様々な機能が備わっています。自分の体についての知識を身につけることは健康な生活をおくために非常に重要です。生理学Bでは、骨、筋肉、神経、内分泌、エネルギー代謝について解説します。また、これらの生理機能と運動の関連についても論じます。さらに、環境がいかに生理機能に影響を及ぼすかを、宇宙環境での生体機能の変化から解説します。最後に老化が生理機能におよぼす影響についても解説します。 〈到達目標〉 各組織・臓器の機能を学ぶとともに、生体諸器官が協調して生体機能の維持・調節に関与していることを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 骨1〔骨格、骨の働き〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 骨2〔骨粗しょう症が起こるしくみと予防策〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 筋肉1〔筋の分類、骨格筋の構造と収縮のしくみ〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 筋肉2〔筋線維タイプ、筋力を調節するしくみ〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 神経1〔神経系の区分、大脳の構造と働き〕 第7回 神経2〔間脳、小脳、脳幹、脊髄の構造と働き、脳死〕 第8回 神経3〔末梢神経系の構造と働き、神経伝達のしくみ〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 内分泌1〔内分泌腺とホルモン〕 第10回 内分泌2〔性ホルモン〕 第11回 エネルギー代謝1〔食物のエネルギー、基礎代謝〕〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 エネルギー代謝2〔活動時の代謝、肥満の原因と対策〕 第13回 宇宙環境での生理学〔微小重力環境が生体機能に及ぼす影響〕 第14回 生理機能の老化〔加齢の影響、運動トレーニングによる老化予防〕			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 生理学AとBは独立した内容で構成していますが、生理学Aを履修した後に、生理学Bを履修することでより理解が深まります。A、Bの順番で履修することを推奨します。 一部の授業回においてメディア授業を行います（授業内容欄参照）。講義動画は原則毎週月曜日にOh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は配信開始後2週間視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やリアクションペーパーの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、Oh-o! Meiji クラスウェブの教員とのメッセージ機能を使用します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他、南江堂）、 新訂 目でみるからだのメカニズム（境章 著、医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他、医学書院）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後にOh!-Meijiを通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20%：リアクションペーパーと小テストを含む）と期末試験（80%）により評価します。 ※期末試験は対面形式で実施します。			
9. その他 本講義では、生体機能を日常生活との関連を踏まえながら分かり易く解説します。この講義を通して、「生命現象のしくみ」の面白さを感じてもらうとともに、健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)HES131J	
科目名		健康科学 A	
担当者		鈴木 正敏	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 現代の生活環境はたいへん便利になっています。しかし、文明社会ではその便利な生活自体が健康に対するリスクとなっていることを気づく必要があります。自分の健康は自分で守るものであり、より高いレベルに努力して作り上げることがウェルビーイングや健やかな人生を送る原動力になります。健康科学 A ではとくに青年期のライフスタイルに関係する身近なテーマ（アルコール、たばこ、ドラッグ、ストレス、性感染症）を取り上げて解説します。また、最初に 2019 年からパンデミックとなった新型コロナウイルスについても説明します。悪習慣マネジメントでは大学の時期に習慣が形成されやすい飲酒や喫煙について、その生理作用から疾病に至る過程を、他のドラッグ（依存薬物＝麻薬）の作用を含めて解説します。ストレス マネジメントでは、社会におけるストレスの発生からコーピング、ストレスの生理作用について説明します。性感染症では日本や世界ではやっている性感染症について解説し、性行動の問題について考えていきます。これらの内容から現代の日常生活のなかに存在するヘルスリスクを理解することを到達目標とします。			
2. 授業内容 第 1 回：授業のイントロダクション 第 2 回：新型コロナウイルス（COVID-19） 第 3 回：新型コロナウイルス（免疫と運動） 第 4 回：悪習慣マネジメント（アルコールハラスメント） 第 5 回：悪習慣マネジメント（アルコールの急性作用） 第 6 回：悪習慣マネジメント（アルコールの慢性作用） 第 7 回：悪習慣マネジメント（たばこと社会） 第 8 回：悪習慣マネジメント（たばこの生理作用） 第 9 回：悪習慣マネジメント（たばこと疾病） 第 10 回：悪習慣マネジメント（依存とドラッグ） 第 11 回：ストレス マネジメント（ストレス） 第 12 回：ストレス マネジメント（ストレス・マネジメント） 第 13 回：性感染症・HIV/エイズ（性感染症） 第 14 回：性感染症・HIV/エイズ（HIV/エイズ）			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、医学、生物学、化学、生理学、心理学などの理系科目の専門用語も含みます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji に資料をアップしますので、授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払ってください。専門用語は重要ですので、分からないところは質問したり、調べたりして理解するようにしてください。			
5. 教科書 使用しません。Oh-o! Meiji に資料をアップします。			
6. 参考書 スライドの参照に示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の開始時やテーマの終了後にクイズを行い、内容について解説します。			
8. 成績評価の方法 定期試験（100％）により評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)HES131J		
科目名		健康科学B		
担当者		鈴木 正敏		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 健康を支える3大要素である運動、栄養、休養について論じます。健康を単に病気との関係で考えるのではなく、人生を豊かにする要因として、積極的に作り出していくパワーは何であるのかを考えていきます。 運動では競技スポーツと健康を維持・促進する運動の違いを運動の質および量から解説します。また、運動不足と生活習慣病との関連を論じます。栄養ではこれまで明治大学で行ってきた食事調査の結果をもとに食事量、糖・脂肪・蛋白の栄養素バランス（PFC バランス）について解説します。さらに、肥満やそれに関連する疾患、ダイエットの問題を論じます。休養ではオンとオフ、疲労、睡眠についてその内容と機能などを解説します。授業のまとめとして、現代社会における健康の考え方について解説します。自分自身についてウェルビーイングやウェルネス、持続可能な健康、豊かな人生とは何かを考える機会にしてください。 これらの内容から現代の日常生活のなかに存在するヘルスリスクと健康の意味を理解することを到達目標とします。				
2. 授業内容 第1回：授業のイントロダクション、運動（運動とは何か） 第2回：運動（運動不足の影響） 第3回：運動（有酸素運動と無酸素運動） 第4回：運動（適度な運動とは何か） 第5回：栄養（摂取カロリーと PFC バランス） 第6回：栄養（肥満） 第7回：栄養（栄養と疾病） 第8回：栄養（ウエイト コントロール） 第9回：休養（休養の概念） 第10回：休養（疲労とは何か） 第11回：休養（睡眠） 第12回：新しい健康の概念（健康を取り巻く環境） 第13回：新しい健康の概念（病気と健康） 第14回：新しい健康の概念（ウェルネス）				
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、医学、生物学、化学、生理学、心理学などの理系科目の専門用語も含みます。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji に資料をアップしますので、授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払ってください。専門用語は重要ですので、分からないところは質問したり、調べたりして理解するようにしてください。				
5. 教科書 使用しません。Oh-o! Meiji に資料をアップします。				
6. 参考書 スライドの参照に示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の開始時やテーマの終了後にクイズを行い、内容について解説します。				
8. 成績評価の方法 定期試験（100％）により評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)HES191J	
科目名		スポーツ・レジャー・レクリエーション論	
担当者		吉松 梓	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本授業は、現代社会におけるスポーツ・レジャー・レクリエーションの意義と役割について理解することを目的とする。このため、主に前半はスポーツを「する」視点から、子ども時代から生涯にわたって、また多様な個人がどのようにスポーツ・レジャー・レクリエーションに関わっているかについて学ぶ。後半では、スポーツを「支える」立場として考えるべき点について具体的に理解する。そして最後に、地域、自然環境などの社会的な課題に視野を広げ、スポーツ・レジャー・レクリエーションが貢献できることについて事例を通して考えを深める。 〈到達目標〉 1. スポーツ・レジャー・レクリエーションの概念を説明できる。 2. ライフステージや多様な個人にとってのスポーツ・レジャー・レクリエーションの意義と、その支援に必要なソフトスキルを理解できる。 3. 社会におけるスポーツ・レジャー・レクリエーションの価値について自分の言葉で論述できる。			
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン 第2回 スポーツ・レジャー・レクリエーションとは？ 第3回 スポーツの推進と基本計画 第4回 子どもとスポーツ1（心身の発達と遊び） 第5回 子どもとスポーツ2（体力と運動部活動） 第6回 生涯スポーツ1（健康・体力とスポーツ実施） 第7回 生涯スポーツ2（心の健康とスポーツ・セラピー） 第8回 アダプテッドスポーツ（障がい者スポーツからインクルーシブスポーツへ） 第9回 スポーツ・レクリエーションのリスクマネジメント 第10回 スポーツとインテグリティ（不正や暴力の根絶に向けて） 第11回 地域とスポーツ・レジャー・レクリエーション 第12回 自然とスポーツ・レジャー・レクリエーション 第13回 格差とスポーツ・レジャー・レクリエーション 第14回 aのみ：全体のまとめ			
3. 履修上の注意 ペアワークやグループディスカッションなど、インタラクティブな手法を用いて授業を展開する。積極的な姿勢で参加すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業で小テストを行う、授業で配付する資料の予習・復習をすること。また授業の中でスポーツ・レジャー・レクリエーションに関する最近の動向を取り上げるので、新聞やニュースなどを日頃から確認することが望ましい。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。毎回の授業で資料を配付する。			
6. 参考書 『教養としてのスポーツ科学』早稲田大学スポーツ科学学術院編（大修館書店）2011。 『レクリエーション支援の基礎』日本レクリエーション協会（日本レクリエーション協会）2007。 『よくわかるスポーツ文化論』井上俊，菊幸一（ミネルヴァ書房）2020。ほか			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、小テストの解説、リアクションシートの講評を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業のリアクションシート（24%）と小テスト（36%）、試験（40%）を総合的に評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)HES111J	
科目名		現代社会とスポーツ	
担当者		田中 充洋	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 人類が長い歴史の中で作り上げてきたスポーツ文化について多角的に解説していく。 〈到達目標〉 現代社会におけるスポーツの持つ役割や社会への影響、技術としてのスポーツと個人の関わり、若者文化としてのスペクテイタースポーツ等について理解する。			
2. 授業内容 この授業は以下のような内容で進行する。 第1回 インTRODakション 第2回 オリンピックと身体観 第3回 近代スポーツの誕生（フットボールを中心に） 第4回 スポーツと心 第5回 スポーツと技術 第6回 スポーツと体力 第7回 スポーツと倫理（ドーピング問題など） 第8回 スポーツボランティア 第9回 スポーツ文化（学生スポーツを中心に） 第10回 スポーツとメディア 第11回 スポーツツーリズム構想 第12回 スポーツフォーオール 第13回 スポーツ時事問題 第14回 a：試験 b：講義全体の振り返り			
3. 履修上の注意 授業には必ず出席し、意見交換の際には積極的に発言すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回目で講義予定を指示するが、TV/新聞やスポーツ関連雑誌で現状を把握しておく事が望ましい。 また、授業で配布する資料を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。			
5. 教科書 特定のテキストは使用せず、毎回資料を配付して授業を進めます。			
6. 参考書 ホイジンガ著「ホモ・ルーデンス」中公文庫 アリストテレス著「ニコマコス倫理学」岩波文庫			
7. 課題に対するフィードバックの方法 今回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案、レポート等を紹介する。			
8. 成績評価の方法 期末試験（80％）を実施します。また、授業への貢献度（10％）に加え、その時々話題となるスポーツ問題に関するミニレポート（10％）を総合的に評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)HES121J	
科目名		トレーニングの科学	
担当者		一之瀬 真志	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 健康の維持・増進や運動パフォーマンスの向上には運動トレーニングの実施は欠かせません。本講義では、運動生理学を背景としたトレーニングについての科学的基礎、トレーニングに対する生体反応と適応、さらに、トレーニングの種類や具体的なトレーニング内容の決定方法、計画の建て方、効果の評価方法について解説します。 〈到達目標〉 安全で効果的な運動トレーニングを行うために必要となる科学的知識を身につけることを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 a のみ：運動トレーニングの概念と目的 第2回 骨格筋の収縮と筋力の調節〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 レジスタンストレーニングに対する生体反応・適応〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 レジスタンストレーニングプログラムの計画法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 運動とエネルギー代謝 1 第6回 運動とエネルギー代謝 2 第7回 運動と呼吸〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 運動と循環 第9回 持久性トレーニングに対する生体反応・適応〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 持久性トレーニングプログラムの計画法 1 第11回 持久性トレーニングプログラムの計画法 2 第12回 高地トレーニング〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 運動と体温調節 第14回 トレーニングと栄養摂取			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、生理学や化学などの専門用語も含まれます。 一部の授業回においてメディア授業を行います（授業内容欄参照）。講義動画は原則毎週月曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は配信開始後 2 週間視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やリアクションペーパーの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、Oh-o! Meiji クラスウェブの教員とのメッセージ機能を使用します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回の授業において授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 運動生理学（池上晴夫，朝倉書店） 運動生理学概論（浅野勝巳，杏林書院） 運動生理学 20 講（勝田茂，朝倉書店） Physiology of Sports and Exercise (Wilmore JH et al, Human Kinetics) Exercise Physiology (McArdle WD et al, Lippincott Williams & Wilkins)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後に Oh!-Meiji を通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20%：リアクションペーパーと小テストを含む）と期末試験（80%）により評価します。 ※期末試験は対面形式で実施します。			
9. その他 自分の身体の機能に興味がある人、体力・運動能力を高めたい人、スポーツが好きな人、普段あまり運動をしてないけれど運動を始めた人、などには特に受講を勧めます。運動トレーニングを行ったことがない人でも理解できる講義内容です。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) ACD191J		
科目名		レポート・論文作成法 全体概要		
担当者				
2 単位	1 年次	春学期・秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマの設定の仕方や議論の組み立て方、論文形式の文章の書き方など、論文作成法を学びながら、実際に一本のオリジナルな論文を仕上げていきます。このことによって、レポートの書き方も修得できます。 できるだけ多くの学生が、1 年生のうちに履修することが望ましい科目です。				
2. 授業内容 各担当教員のシラバスを参照してください。				
3. 履修上の注意 1 年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は 1 クラスあたり 25 名の受講人数制限があるため、 Web 履修登録において抽選を行います。Web 履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員のシラバスを参照してください。				
5. 教科書				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各担当教員のシラバスを参照してください。				
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点 50% と最後に提出する論文 50% の総合で評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)ACD191J	
科目名		レポート・論文作成法	
担当者		畑中 基紀	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 （到達目標） 4 年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 主として以下の内容を学びながら実際に論文を作成していきます。 ①テーマを決める 論文を書くうえで最も重要なのは、何をどう書くかというテーマの決め方です。図書館やインターネットを効率よく利用してみずからの問題意識を喚起しつつ論文のテーマを絞り込んでいきます。 ②アウトラインを考える テーマ決定の過程であつめた情報の山を、問い→論証→結論という流れに構成してアウトライン、つまり論文のおおまかな設計図をつくる方法を学びます。 ③資料の収集から執筆へ アウトラインにしたがって、必要な資料や参考文献を集め、執筆の材料となるノート（メモ）を作っていきます。この作業の結果、アウトラインを再検討することになるでしょう。その後、たまったノート（メモ）を最終的なアウトラインに合わせて構成していきます。これで自然に下書きができていきます。 ④引用のマナーと方法 レポートや論文を正しく書くためには、高校までに身につけてしまった感覚と意識を大きく変えなければならない点がいくつかあります。その中でもっとも重要なのが、参考文献等、他人が書いた文章の中の情報の取り扱い方です。これには世界共通のルールとマナーがありますので、それをしっかり学ばなければなりません。 ⑤論理的な文章を書くためのトレーニング 上記の内容と並行して学んでいきます。第一歩は、論理的な文章を正確に読むことから。 ⑥口頭発表のしかた、聴き方 ゼミなどで行う口頭発表の準備過程は、上記4あたりまでは、論文作成と共通します。その後の準備の仕方とプレゼンテーションの方法、そして、他人のプレゼンテーションの聴き方について。 第1回 イントロダクション（この授業で学ぶこと） 第2回 論文作成の手順 第3回 事実を説明する 第4回 書き言葉の力を鍛えるⅠ／論文のテーマを決めるⅠ 第5回 論文のテーマを決めるⅡ 第6回 書き言葉の力を鍛えるⅡ 第7回 論文のテーマを決めるⅢ 第8回 パラグラフについての理解を深める 第9回 オリジナリティをつくりだすために 第10回 論理的な文章を書くためにⅠ～論拠 第11回 論理的な文章を書くためにⅡ～批判 第12回 引用のきまり 第13回 執筆と仕上げ 第14回 プレゼンテーションの準備と実際 なお、状況により内容は変更することがあります。			
3. 履修上の注意 1 年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1 クラスあたり 25 名の受講人数制限があるため、 Web 履修登録において抽選を行います。Web 履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。			

5. 教科書

プリントを使用します。

6. 参考書

清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書，1959）、澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫，1977）、教室で多数紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

主として教室で。必要に応じて Oh-o! Meiji でも。

8. 成績評価の方法

演習形式の授業ですから，発表や討論への積極的な参加，課題提出などが求められます。それらの平常点 50% と最後に提出する論文 50% の総合で評価します。

9. その他

授業の進行の詳細は、最初の授業で説明します。また、参考文献の戦略的な検索法などを学ぶための、図書館のシステムを利用した実習も行う予定です。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) ACD191J	
科目名		レポート・論文作成法	
担当者		森田 直美	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 〈到達目標〉 4 年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 第1回：アカデミック・ライティングについて 第2回：学術的文章にふさわしい語彙・文体について 第3回：インターネットリテラシーについて 第4回：官公庁が提供するデータを基にミニレポートを書く 第5回：研究機関が提供するデータを基にミニレポートを書く 第6回：大学図書館、J—STAGE を活用する 第7回：注の付け方、参考文献の挙げ方を学ぶ 第8回：学術論文を読み、ミニレポートを書く① 第9回：学術論文を読み、ミニレポートを書く② 第10回：学術論文を読み、ミニレポートを書く③ 第11回：期末課題のテーマを決める 第12回：期末課題の執筆と添削① 第13回：期末課題の執筆と添削② 第14回：a:半期のまとめ			
3. 履修上の注意 1 年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1 クラスあたり 25 名の受講人数制限があるため、Web 履修登録において抽選を行います。Web 履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。 ※ 森田の担当する「レポート論文作成法」は、毎回 PC を使用し課題文章を作成します。word の基本的な操作技術と MIND 講習を受けていることが必須であることを了承の上、履修登録してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。 理解できなかった点は教員に質問するなどして次回までに解決すること。			
5. 教科書 クラスウェブを通じて授業資料を配信します。			
6. 参考書 石黒圭『論文・レポートの基本』（日本実業出版社、2012 年） 井下千以子『思考を鍛えるレポート論文作成法 第3 版』（慶應義塾大学出版会、2019 年） 購入の必要はありませんが、大学でのレポート執筆に役立つ書籍です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出する課題に対して、次回授業で総評を伝えるか、Oh-o ! Meiji のクラスウェブを通して個別にコメントします。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点 50% と最後に提出する論文 50% の総合で評価します。			
9. その他 ・ 授業の進行の詳細は最初の授業で説明します。必ず第1 回の授業に出席して下さい。 ・ 授業時の私語、居眠り、授業と関係のない電子機器の操作、途中退出は厳に慎むこと。受講態度が目につく場合、その回は欠席扱いとします。 ・ 30 分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ・ 10 分程度までの電車遅延は考慮しません。多少電車が遅れても間に合うように余裕をもって登校すること。 ・ 授業に出席しても、指定した課題を提出しなかった場合は欠席扱いとします。 ・ 履修登録確定前に別の授業を受講し、その後登録を変更して本授			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)ACD191J		
科目名		レポート・論文作成法		
担当者		岡崎 直也		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 （到達目標） 4年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。				
2. 授業内容 単なる事実の羅列や他人の説の要約は論文とはいえません。具体的に根拠を挙げて論理的に仮説を検証する研究論文の書き方の基礎を学びます。 テーマの選定、文献・資料の収集と整理、仮説とアウトラインの設定、口頭発表と質疑応答、論文作成、という一連の作業を受講生に課し、文章の構成、論証の方法、句読点・記号のルール、引用・注のマナー、推敲の注意点などを順次講義する予定です。 第1講 インTRODakション・自己紹介 第2講 テーマの決め方・文献の整理法 第3講 図書館ツアー〔資料収集法の習得〕 第4講 各自のテーマの発表と討論① 第5講 各自のテーマの発表と討論② 第6講 論文の書き方① 第7講 論文の書き方② 第8講 論文要旨〔1200 字〕の発表と討論① 第9講 論文要旨〔1200 字〕の発表と討論② 第10講 論文要旨〔1200 字〕の発表と討論③ 第11講 論文要旨〔1200 字〕の発表と討論④ 第12講 論文要旨〔1200 字〕の発表と討論⑤ 第13講 論文要旨〔1200 字〕の発表と討論⑥ 第14講 論文〔8000～10000 字〕提出と講評 ※上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更があります。				
3. 履修上の注意 1年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1クラスあたり25名の受講人数制限があるため、Web履修登録において抽選を行います。Web履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。 ネット上の情報や生成 AI で作成した文章の引用・参照は必ず該当箇所を明記しなければならず、それらを主にレポートを作成した場合、自身の考察とは認められないため単位の認定はできない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。				
5. 教科書 プリントを使用します。				
6. 参考書 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫、1977） 戸田山和久『論文の教室—レポートから卒論まで』最新版（日本放送出版協会、2022）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的には授業時にコメントしますが、ポータルのレポート・フィードバック欄も使用します。				
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点50%と最後に提出する論文50%の総合で評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)ACD191J	
科目名		レポート・論文作成法	
担当者		高橋 雄生	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 （到達目標） 4 年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 第 1 回 ロジカルシンキング 第 2 回 作文と論文の違い・論文の発想法 第 3 回 テーマの決め方(1) 第 4 回 テーマの決め方(2) テーマを 3 つぐらい考え提出 第 5 回 テーマの決定 第 6 回 資料の収集・整理・分析(1) 第 7 回 資料の収集・整理・分析(2) 第 8 回 資料の収集・整理・分析(3) 参考文献 1 冊目要約提出 第 9 回 論文作成法(1) 第 10 回 論文作成法(2) 第 11 回 論文作成法(3) 第 12 回 目次の完成 第 13 回 プレゼンテーション(1) 第 14 回 プレゼンテーション(2)			
3. 履修上の注意 1 年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は 1 クラスあたり 25 名の受講人数制限があるため、 Web 履修登録において抽選を行います。Web 履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。			
5. 教科書 プリントを使用します。			
6. 参考書 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫、1977） ウンベルト・エコ『論文作法』（而立書房、1991） 神永正博『統計思考力』（日経ビジネス人文庫、2013）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題の提出、フィードバックは、Oh-o!Meiji を活用します。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点 50％と最後に提出する論文 50％の総合で評価します。			
9. その他 授業の進行の詳細は、最初の授業で説明します。また、参考文献の戦略的な検索法などを学ぶための、図書館での実習も時間が取れば行う予定です。 原則対面授業です。 万が一休講した時は、補講をせずに、オンラインで配信します。 プリントの配布やレポートの提出は、Oh-o!Meiji を活用します。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) ACD191J	
科目名		レポート・論文作成法	
担当者		木村 孝太	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 〈到達目標〉 4 年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 第 1 回 レポート・論文とは 第 2 回 文章の構造について 第 3 回 文章を書く準備①テーマを決める 第 4 回 文章を書く準備②資料を集める・まとめる 第 5 回 根拠を示す 第 6 回 小レポートを書く 第 7 回 期末レポートのテーマを決める 第 8 回 参考文献の要旨を書く① 第 9 回 参考文献の要旨を書く② 第 10 回 プレゼンテーション① 第 11 回 プレゼンテーション② 第 12 回 期末レポートの執筆と添削① 第 13 回 期末レポートの執筆と添削② 第 14 回 期末レポートの要旨を書く・半期振り返り			
3. 履修上の注意 1 年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は 1 クラスあたり 25 名の受講人数制限があるため、Web 履修登録において抽選を行います。Web 履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。 ※第 3 回以降授業内で PC を使うので必ず持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。 ・授業内での発見を次回に活かすように取り組むこと。			
5. 教科書 特になし。必要に応じてクラスウェブで配信します。			
6. 参考書 ・『基礎からわかる論文の書き方』小熊英二（講談社現代新書 2022 年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の内容に応じ、全体への総評、あるいはクラスウェブを利用して個別にコメントをします。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点 50% と最後に提出する論文 50% の総合で評価します。			
9. その他 ・授業の進め方、課題提出等の詳細は第 1 回の授業で説明しますので必ず出席すること。 ・第 3 回以降授業内で PC を使うので必ず持参すること。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) ACD191J	
科目名		レポート・論文作成法	
担当者		堂野前 彰子	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 （到達目標） 4 年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。			
2. 授業内容 （授業内容） この授業で学ぶのは、論文の型、資料の収集方法、柔軟かい思考の三つです。その基礎となる、自分なりのものの見方を確立することを目指します。 また、毎回授業を始める前に、『天野祐吉のCM 天気図傑作選』（朝日新聞出版）のコラムなどを取りあげ、そこでなされている表現の工夫やテーマの捉え方、アプローチの仕方について考えたり、話題となった事柄について討論したりするなど、「書く」ための準備運動を行います。 （授業予定） 第1回 論文とは 第2回 テーマと問題意識 第3回 論文の型 第4回 図書館ガイダンスと共通課題レポートの提出 第5回 資料の収集と論文のロジック 第6回 注と参考文献 第7回 アンケートの方法 第8回 論文の構成 第9回 レジюме作成の方法 第10回 効果的なプレゼンテーション（TED 視聴） 第11回 レジюме発表① 第12回 レジюме発表② 第13回 レジюме発表③とと自由課題レポートの提出 第14回 論文作成の方法のまとめ			
3. 履修上の注意 1 年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1 クラスあたり 25 名の受講人数制限があるため、 Web 履修登録において抽選を行います。Web 履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 レポートを作成するにあたり、段階的に課題を課します。課題をこなして授業に臨むようにしてください。			
5. 教科書 レジюмеを用意します。			
6. 参考書 居駒永幸・畑中基紀・斎藤静隆・永野宏志編『レポート論文の Start Line』			
7. 課題に対するフィードバックの方法 この授業では、共通課題レポートと自由課題レポートの二つのレポート提出を課しています。どちらも添削して個別に返却します。それ以外の課題に関しては、授業内で口頭発表していただき、その場でコメントします。			
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点 50％と最後に提出する論文 50％の総合で評価します。			

9. その他

論文には型があります。文章を書くことが苦手でも、その型さえ学べば論文らしくなります。しかし、それだけではよい論文とは言えません。自らが深く思考して、はじめて文章になります。この授業では、そのような独自の視点を持てるよう、自分の感想を持つことから始めます、

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)ACD191J		
科目名		レポート・論文作成法		
担当者		大木 エリカ		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 論文やレポートの作成には論理的思考力が必要です。これは、文章の論理を正確に読み取ること、また、明快な論理によって構成された文章を書くことの訓練によってつちかわれる、論証を適切におこなう能力と言い換えることができます。そうした力を養うための、いわば頭のトレーニングに加えて、テーマの絞り込み方から参考文献リストの作り方までを、発表・討論の方法の習得も視野に入れながら、段階的に、また綿密に教授します。 〈到達目標〉 4 年次に提出する卒業論文制作への基礎づくりとして、論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法を理解し、実践する方法を学ぶことを目標とします。				
2. 授業内容 本授業では、学術的・論理的な文章を読む力を養いながら、情報・資料収集やテーマの設定をはじめ、アウトラインの作成、プレゼンテーション、ディスカッション、論文の執筆を通して、論理的文章を書くための練習を段階的に行います。あわせて、レポート・論文を作成するうえで重要となる、引用・注のルールについても学びます。また、課題や論文については、教員がコメント等を介して、改善点や留意点を具体的に示します。こうしたフィードバックを通して、論理的で読み手に伝わりやすい表現についても理解を深めます。 第1回：イントロダクション 第2回：レポート・論文の型 第3回：情報収集・資料調査の方法 第4回：テーマの設定（1） 第5回：テーマの設定（2） 第6回：先行研究の整理・分析 第7回：アウトラインの作成 第8回：説得力のある論証とは 第9回：パラグラフ・ライティング 第10回：論理的な文章表現について 第11回：引用・注のルール 第12回：論文作成の要点整理 第13回：論文執筆と添削 第14回：プレゼンテーション				
3. 履修上の注意 1 年次で履修することが望ましい。ただし、本授業は1 クラスあたり 25 名の受講人数制限があるため、 Web 履修登録において抽選を行います。Web 履修登録の詳細は「経営学部履修の手引」を参照してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回教室で指示する課題や調査などを確実にこなすこと。				
5. 教科書 プリントを使用します。				
6. 参考書 小熊英二『基礎からわかる論文の書き方（講談社現代新書 2660）』（講談社、2022 年 5 月） 戸田山和久『論文の教室：レポートから卒論まで 最新版（NHK ブックス 1272）』（NHK 出版、2022 年 1 月）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でコメントするほか、Oh-o!Meiji も活用してフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 演習形式の授業ですから、発表や討論への積極的な参加、課題提出などが求められます。それらの平常点 50%と最後に提出する論文 50%の総合で評価します。				
9. その他 授業の進行の詳細については初回に説明します。資料検索・収集の方法を学ぶため、図書館ツアー（実習）も行う予定です。議論にも積極的に参加するようにしてください。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J	
科目名		言語表現論 全体概要	
担当者			
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 「言語表現論」の全クラスに共通する基本的な概要・到達目標は下記のとおりです。 本講義は6クラス設置され、担当教員により授業内容等は異なっていますので、詳細は各教員のシラバスを参照してください。 〈概要〉 多様な形式の言語表現を知ることで、私たちの文化における表現の意義と可能性について考察しましょう。みなさんの人生のあらゆる場面はコミュニケーションという行為によって成立していて、そこには必ず表現（表現すること/表現を読み取ること）が介在しています。 したがって、表現の力を知り、養うことは、たんに学問の基礎としての力のみならず、人生のさまざまな局面で物事を適切に理解し対処するための力を身につけることでもあるのです。 〈到達目標〉 表現に対して自覚的になることの重要性を理解すること。			
2. 授業内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
5. 教科書			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各担当教員のシラバスを参照してください。			
8. 成績評価の方法 各担当教員のシラバスを参照してください。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J	
科目名		言語表現論	
担当者		畑中 基紀	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 書き言葉で伝える、をテーマに実践的に学んでいきます。スポーツや芸能と同じように、文章表現にも基本の型というべきものがあります。この型をしっかりと身につけることが、伝わる表現の技術を習得する秘訣です。この授業では文書による表現の型をいくつか学びながら、同時に、「説明する」「おわびをする」ということを中心に説得の本質について考えていきます。このため、実際に文章を読む、また書く練習をいくつかこなしながら学習することになります。 〈到達目標〉 上記の「型」を理解し、状況に応じて適切な文章表現ができるようになること。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 敬語表現のルールとコツ 第3回 書簡文（手紙）の型を知る 第4回 書簡文の型を崩す 第5回 書簡文の実例 第6回 説明文の落とし穴 第7回 説明における foolproof 第8回 説明の技術Ⅰ 第9回 説明の技術Ⅱ 第10回 説明の技術Ⅲ 第11回 説得力を生むロジック 第12回 〈お詫び〉の成立条件 第13回 釈明と心理 第14回 まとめ （内容は適宜、入れ換えや変更を行うことがあります）			
3. 履修上の注意 講義形式の授業で、人数制限はありません。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修することが望ましい科目です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ふだん目に触れる文章の構成や表現方法を意識することで、言葉に対する感覚を研ぎすますようにしてください。また授業中に配付する資料の該当箇所を振り返り、 不明な部分があれば授業で質問してください。すること。次の回の内容についての参考書を提示する場合は、あらかじめ目を通しておくこと。			
5. 教科書 プリントを使用します。			
6. 参考書 藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術』2020.1，文響社。その他，教室で紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 教室で，または Oh-o! Meiji を利用して。			
8. 成績評価の方法 授業期間内の課題を含む平常点3割，期末レポート7割。			
9. その他 与えられた課題は必ず提出してください。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J		
科目名		言語表現論		
担当者		森田 直美		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義のテーマは、「資源としての古典文学」です。 近年、「古典文学の学習は本当に必要なのか」という議論が盛んですが、現代日本の諸所に、古典文学が大きなメリットを与えているのも事実です。日本文化の独自性を深く知るための教育資源であるのは勿論、国内各地の観光資源ともなり、エンタメの創作源としてもしばしば活用されるなど、地域振興や経済活動への波及効果も決して小さくありません。それを“不要”と見なすことは、自分たちの強みをむざむざ手放す行為と言えるでしょう。 むしろ私たちは、古典文学を“日本にしかない唯一無二の資源”と捉え、これを学び、活用した方が有益ではないでしょうか。この考えのもと、本講義では各回にテーマを設け、古典文学が現代社会に与えているメリットを把握します。さらに、原典とアダプテーション作品（翻訳・翻案・二次創作など）を通して、現代社会の諸問題について考える機会も設けます。そして、将来に向けて「資源としての古典文学」をどう活用できるのか、受講生とともに考えていきたいと思います。 〈到達目標〉 ① 現代における古典文学の活用実態を理解し、自分の言葉で説明できる。 ② 古典文学の原典とアダプテーション作品の比較を通して、現代社会の諸問題について深く考えを巡らせることができる。 ② 「資源としての古典文学」をどのように活用できるか、自分なりに発想・提案できる。				
2. 授業内容 概ね以下の内容で進めますが、受講生の人数や関心に応じて順序や内容を変更する可能性があります。 第1回 導入「もしも古典文学の授業が消えたなら」 第2回 「安倍晴明」の虚像と実像 第3回 ワークショップ：「安倍晴明」を基に現代の問題を考える 第4回 末次由紀『ちはやふる』と『百人一首』 第5回 ワークショップ：『百人一首』の英訳・戻し訳 第6回 スタジオジブリ「かぐや姫の物語」と『竹取物語』 第7回 ワークショップ：「かぐや姫の物語」と『竹取物語』を基に現代の問題を考える 第8回 経済資源・観光資源としての『源氏物語』 第9回 ワークショップ：『源氏物語』の英訳・戻し訳 第10回 ワークショップ：『源氏物語』を基に現代の問題を考える 第11回 和菓子と古典文学による産学連携 PBL の事例 第12回 ワークショップ：和菓子のデザインと菓銘を考案する 第13回 半期のまとめ 第14回 a:期末テスト b:テストの解説				
3. 履修上の注意 (1) 講義形式で、人数制限はありません。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修することが望ましい科目です。 (2) 講義形式ですが、半期に数回のワークショップを実施します。 (3) ワークショップを実施しない回は、コメントカードの提出を課します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の予習：次回扱う作品について、入門書などで下調べしておく。 各回の復習：講義内容で理解できなかった点を復習する。				
5. 教科書 特に指定しません。 必要に応じてファイル配信・プリント配布をします。				
6. 参考書 田中貴子『安倍晴明の一千年』法蔵館、2023 年 末次由紀『ちはやふる 全 50 巻』講談社 ピーター・マクミラン『英語で読む百人一首』文春文庫、2017 年 『ユリイカ 特集=高畑勲「かぐや姫の物語」の世界』2013 年 大和和紀『あさきゆめみし 全 10 巻』講談社 毬矢まりえ・森山恵『レディ・ムラサキのティーパーティー らせん訳「源氏物語」』講談社、2024 年 購入の必要はありませんが、授業を理解する上で有益な書籍です。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業開始時に、前回の成果物への総評をする。				

8. 成績評価の方法

授業への参加態度（ワークショップへの貢献度、提出課題の内容を含む）60％，期末テスト40％を目安として総合的に評価する。

9. その他

- ・ 授業中の私語・居眠り・遅刻・途中退出・授業に関係のない電子機器の使用、その他授業環境を悪くする行為は厳に慎むこと。
- ・ 受講態度が目に残る場合は氏名を確認した上で退室してもらい、その回は欠席扱いとする。
- ・ 30分以上の遅刻は欠席扱いとする。
- ・ 10分程度までの交通遅延は考慮しないため、多少の遅延があっても間に合うように余裕をもって登校すること。
- ・ コメントカード未提出の場合は欠席扱いとする。
- ・ 履修登録確定前に他の授業を履修し、その後に本授業に登録した場合も、それまでの回は欠席扱

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J		
科目名		言語表現論		
担当者		岡崎 直也		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 混迷を深める現代、私たちは人間関係の稀薄化に起因する様々な問題を抱えている。人と人との〈あいだ〉を思考や行動の原点として〈以心伝心〉を尊び、その功罪を問われた日本人の在りようも変容を遂げた。形骸化したそれが相手への過度の依存として残るなかで、現代日本人はコミュニケーションの危機に喘がなければならない。本講義では、こうした状況を踏まえて実用的文章の習熟に努める一方、芸術的文章の文体分析によって日本語の奥行きを見据え、その〈こころ〉に触れる。 〈到達目標〉 日本語表現の常識を修得し、文章の読解力・表現力を養うものとする。				
2. 授業内容 第1～2回 日本語と日本文化 第3～4回 敬語のマナー 第5～6回 日本語の語順 第7～8回 句読点と記号 第9～10回 手紙の書き方 第11～12回 視点の位置 第13～14回 文体とリズム 演習一慣用句・故事成語・ことわざ・四字熟語・同音異義語・同訓異義語・紛らわしい言葉の使い分け ※上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更がある。				
3. 履修上の注意 人数制限はない。ただし演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修する。ネット上の情報や生成AIで作成した文章の引用・参照は該当箇所を必ず明記しなければならない、それらを主にレポートを作成した場合、自身の考察とは認められないため単位の認定はできない。授業内容の理解度は期末試験で評価するため、授業時レポートの提出がない回も出席しなければならない。また授業中の私語は一切許可しない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義形式の授業ではあるが、授業時レポートを数多く課す。				
5. 教科書 特に使用しない。プリントを配付する。				
6. 参考書 居駒 永幸・ほか『レポート論文のStart Line』おうふう。 本多 勝一『日本語の作文技術』朝日文庫。 三浦つとむ『日本語はどういう言語か』講談社学術文庫。 佐藤 信夫『レトリック感覚』講談社学術文庫。 佐藤 信夫『レトリック認識』講談社学術文庫。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 受講者数が多くない場合は、優れた指摘や問題提起をしたレポートに授業でコメントする予定				
8. 成績評価の方法 期末試験〔50％〕期間内の課題を主とする平常点〔50％〕				
9. その他 与えられた課題は必ず提出すること。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) LIN191J	
科目名		言語表現論	
担当者		高橋 雄生	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 近代・現代の随筆・日記等を鑑賞し、それらの文章の構成や表現の分析を通して、すぐれた文章とは何かという問題を考察する。 〈到達目標〉 本授業の目的は、名文に触れるだけでなく、自分の言葉で、自分自身の問題意識や思考したことを、誰にでもわかるように書く、すなわち「自己表現の探究」というところにあります。			
2. 授業内容 1 回 文章論の書き手 2 回 谷崎潤一郎「文章読本」 3 回 三島由紀夫「文章読本」 4 回 丸谷才一「文章読本」 5 回 中村明「名文」井上ひさし「説明文の伝達度」 6 回 森鷗外「独逸日記」 7 回 阿部次郎「三太郎の日記」 大宅壮一「大宅壮一日記」 8 回 宮柊二「青春日記」 寿岳章子「過ぎたれど去らぬ日々」 9 回 文章論に関するレポートの講評 10 回 大庭みな子「幸福な結婚」(随筆) 11 回 大宅歩「詩と反逆と死」高野悦子「二十歳の原点」 12 回 赤木智弘『丸山真男』をひっぱたきたい 13 回 小林秀雄「信じることと知ること」(随筆) 14 回 小林秀雄に関する論文を書く			
3. 履修上の注意 講義形式の授業で、人数制限はありません。レポート・論文作成法の授業とともに、1 年次で履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回講義時に問題提起するので、自ら考え調べてほしい。予習よりも復習に重点をおいて学習してほしい。講義で取り上げる作品の著者について、あらかじめ調べておくこと。			
5. 教科書 プリントを授業時に随時配布する。			
6. 参考書 特になし。毎回講義で紹介いたします。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートの提出やフィードバックは、Oh-o!Meiji を活用します。			
8. 成績評価の方法 平常点 20%。1000 字程度のレポートを 4 回で 60%。300 字程度のレポート 2 回で 20%。			
9. その他 与えられた課題は必ず提出すること。 原則対面授業です。 万が一休講した時は、補講をせずに、オンラインで配信します。 プリントの配布やレポートの提出は、Oh-o!Meiji を活用します。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J	
科目名		言語表現論	
担当者		堂野前 彰子	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 世界のグローバル化が進んだ今日、国際語としての英語やその他外国語の使用の機会が増えていますが、世界認識や自立した思考には母語である日本語の使用能力の向上が必要です。日本語の適切な活用を可能にするために、この授業では言語表現や日本語の特徴について学びます。表記による違いが文章にどのような印象を与えるのか、表現においてどのような工夫がなされているのかなど、言語表現の多様性や可能性、またそのような言葉と国家の関係について、文学作品や広告の表現を例として考えます。 〈到達目標〉 言葉とは世界解釈であり、認識そのものであるという前提を理解し、社会に向け効果的に自己を発信できる言語表現を習得することを目指します。			
2. 授業内容 〈授業予定〉 第1回 言葉とは何か―言語学的な視点から ・TED Conference「初めて言えた時」(デブ・ロイ)を視聴。 第2回 言葉の意味―言葉の二重構造 ・丸山圭三郎『言葉とは何か』を中心に。 第3回 言葉の解体―みうらじゅん ・「最後の講義」(NHK 番組)を視聴。 第4回 日本語の特徴1―擬声語・擬態語と掛詞 ・石川九楊『万葉仮名で読む『万葉集』』・『ひらがなの世界』から。 第5回 ことばと国家1―母語と母国語 ・小説『最後の授業』と『朗読者』から。 第6回 ことばと国家2―ユダヤ人とイデッシュ ・映画『家へかえろう』を視聴。 第7回 日本語の特徴2―四つの表記とその特徴 ・広告のキャッチコピーやマザーグースの詩を例に。 第8回 日本語の特徴3―近代国家と翻訳語 ・柳父彰『翻訳語成立事情』から。 第9回 文章を書く工夫 ・谷崎潤一郎『文章読本』を参考に。 第10回 日本語の特徴5―小説の手法・詩の言葉 ・「彼」という視点と「私」小説。 第11回 「なる」の思想・「はじ」の文化 ・『古事記』や『万葉集』を例として。 第12回 文字とデザイン―本の装丁 ・TED Conference「デザイン万歳」(チップ・キッド)を視聴。 第13回 広告の言葉―クリエイティブ・シンキング ・天野祐吉編『CREATORS TALK』から。 第14回 言葉とは何か再考―映画「婚約者の友人」から ・映画『婚約者の友人』を視聴。			
3. 履修上の注意 講義形式の授業で、人数制限はありません。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できるだけ1年次で履修することが望ましい科目です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 紹介した本や配布したプリントなどに目を通してください。また、授業の内容を自分の言葉でまとめるようにしてください。			
5. 教科書 教科書は使用しません。授業レジュメを毎回 Oh-o!Meiji にアップします。			
6. 参考書 丸山圭三郎『言葉とは何か』(夏目書房) 今井むつみ『ことばと思考』(岩波新書) 山本冴里『複数の言語で生きて死ぬ』(くろしお出版)			

石川九楊『万葉仮名で読む『万葉集』』
石川九柳『ひらがなの世界—文字が生む美意識』(岩波新書)
田中克彦『ことばと国家』(岩波新書)
柳父章『翻訳語成立事情』(岩波新書)
和田誠『ことばの波止場』(中公文庫)
谷崎潤一郎『文章読本』(中公文庫)
ラフカディオ・ハーン (池田雅之翻訳)『小泉八雲東大講義録』(角

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内容を理解しているか確認するために、3回程度、簡単な質問をします。期限内に Oh-o!Meiji のアンケートへ回答してください。皆さんからの回答については、その次の授業時に取り上げます。

8. 成績評価の方法

成績は、平常点：30%と期末レポート（試験代替）：70%によって評価します。

9. その他

日常生活では、言葉とは何か、深く考えることはありませんが、この世界は全て「言葉」によって表現することができます。そのようにとても便利なものが「言葉」です。一方、言葉に表現できないことはこの世界に存在していないとみなされることがあります。便利なようで不便な「言葉」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J	
科目名		言語表現論	
担当者		大木 エリカ	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本授業では、古典文学と深い関わりをもつ泉鏡花（1873-1939）・谷崎潤一郎（1886-1965）・円地文子（1905-1986）の作品を取り上げ、各作品の文体について分析します。あわせて、各作品が発表された時代的背景についても確認しつつ、古典文学が内容・形式面においてどのように取り入れられているのかを検討します。これらの分析を通して、多様な表現を読み取り、活用する力を養うことを目指します。 （到達目標） ①泉鏡花・谷崎潤一郎・円地文子の作品を分析し、その文体や表現を理解する。 ②自分の主張や意見を、他者に的確に伝える文章を書く力を身につける。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：泉鏡花「草迷宮」（1） 第3回：泉鏡花「草迷宮」（2） 第4回：泉鏡花「眉かくしの霊」（1） 第5回：泉鏡花「眉かくしの霊」（2） 第6回：谷崎潤一郎「盲目物語」（1） 第7回：谷崎潤一郎「盲目物語」（2） 第8回：谷崎潤一郎「少将滋幹の母」（1） 第9回：谷崎潤一郎「少将滋幹の母」（2） 第10回：円地文子「女面」（1） 第11回：円地文子「女面」（2） 第12回：円地文子「なまみこ物語」（1） 第13回：円地文子「なまみこ物語」（2） 第14回：a まとめ、b 試験			
3. 履修上の注意 講義形式の授業のため、人数制限はありません。ただし、演習形式の「レポート・論文作成法」とともに、できる限り1年次で履修することが望ましいです。また、毎回の授業時に小課題を出す予定です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、授業で取り上げる作品を読み、その作者についても調べてくることが望ましい。授業後には、配布資料や参考文献を精読し、不明な部分があれば授業で質問すること。			
5. 教科書 特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。			
6. 参考書 福田清人・浜野卓也共編『泉鏡花 新装版（Century Books 人と作品）』（清水書院、2017年9月） 泉鏡花研究会編『論集泉鏡花 第1-7集』（和泉書院、1999年7月-2022年12月） 平山城児著・福田清人編『谷崎潤一郎 新装版（Century Books 人と作品）』（清水書院、2016年8月） 中村ともえ『谷崎潤一郎論：近代小説の条件』（青簡舎、2019年5月） 野口裕子『円地文子：人と文学（日本の作家100人）』（勉誠出版、2010年11月）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で提出する小課題については、翌週の授業の初めにフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 期末試験（50％）＋授業期間内の課題を主とする平常点（50％）。			
9. その他 授業内で指示された課題は、必ず提出してください。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J		
科目名		手話コミュニケーション（初級）Ⅰ		
担当者		吉川 あゆみ・鈴木 なぎ		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 テレビや映画等で手話を取り上げられることが増え、街の中でも手話を使う人を見かけるようになり、「手話」がより身近なものとして認識されつつあります。ここでは、バイト先や街の中でろう者と会った時にとっさに使える手話を身につけると共に、異文化とは何か、聴覚障がい者はどんな生活をしているか等のさまざまな視点から理解を深め、共生の道を模索していきます。 〈到達目標〉 手話コミュニケーション初級Ⅰ～Ⅱを通して、手話での「簡単な自己紹介ができる」「一対一での簡単なやりとりができる」ことをめざします。				
2. 授業内容 〈手話実技〉 第1回 導入 第2回 アイコンタクト、挨拶、名前の表現 第3回 形の表現、数字、指文字 第4回 年齢、ライフステージ 第5回 家族構成 第6回 月日、誕生日 第7回 一日の生活 第8回 学部、学科 第9回 都道府県名、出身地 第10回 地名、住所 第11回 交通手段、通学方法 第12回 店先での会話 第13回 ゲスト交流会 第14回 春学期内容の確認と解説 *手話では視覚ゲームやDVD学習、 ゲスト交流会等を随時取り入れる。 〈講義〉 第1回 聞こえない人に伝えてみよう 第2回 コミュニケーション方法を考える 第3回 聞こえない人とのコミュニケーション 第4回 手話とはどういう言語か 第5回 様々な聴覚障がい者、ろう文化 第6回 聞こえのしくみ 第7回 音のない生活を想像する 第8回 聴覚障がい者の日常生活 第9回 福祉機器・福祉制度 第10回 聴覚障がい者の高等教育 第11回 ノートテイク体験 第12回 災害時の聴覚障がい者 第13回 ゲスト交流会 第14回 春学期筆記試験 *講義では実技、映像、ディスカッションを取り入れながら進める。				
3. 履修上の注意 *手話を全く知らない方を対象としたカリキュラムとなっています。 *定員を超えた場合は抽選が行なわれます。周知されている期日に合わせて申し込みと登録手続きをしてください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 *授業前に、前回の学習内容をおさらいしておくことで習得率が高まり、1年後の手話スキルが格段に上がります。 *授業の進捗によっては自分の手話動画を自撮りして LINE 等で送る場合もあります。				
5. 教科書 *教科書は使用しません。主として講義で配布する資料、レジュメを用います。				

6. 参考書

- * 前川和美他『しくみが身につく手話①入門編』2022（白水社）
- * 岡典江・赤堀仁美『日本手話のしくみ練習帳 DVD 付』2016（大修館書店）
- * 全国手話通訳問題研究会『新・手話通訳がわかる本』2010（中央法規）

7. 課題に対するフィードバックの方法

- * レポート提出後、Oh-o! Meiji 経由でコメントします。

8. 成績評価の方法

- * 平常点 80%＋レポート 10%＋春学期内容の確認 10%
- * 成績評価は出席を重視しています。
- * レポートの提出と確認テストの受験は必須です。

9. その他

- * ろう者と聴者の二人の講師によってすすめます。おもにろう講師からは手話を、おもに聴講師からは聴覚障がい者の生活や聴覚障がい学生の支援について学びます。
- * 身の回りの表現や店先での会話を講師との対話やペアワーク・グループワークを通して身につけていきます。
- * 毎回の出席と積極的な授業参加が求められます。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J	
科目名		手話コミュニケーション（初級）Ⅰ	
担当者		吉川 あゆみ・鈴木 なぎ	
1 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 テレビや映画等で手話を取り上げられることが増え、街の中でも手話を使う人を見かけるようになり、「手話」がより身近なものとして認識されつつあります。ここでは、バイト先や街の中でろう者と会った時にとっさに使える手話を身につけると共に、異文化とは何か、聴覚障がい者はどんな生活をしているか等のさまざまな視点から理解を深め、共生の道を模索していきます。 〈到達目標〉 手話コミュニケーション初級Ⅰ～Ⅱを通して、手話での「簡単な自己紹介ができる」「一対一での簡単なやりとりができる」ことをめざします。			
2. 授業内容 〈手話実技〉 第1回 導入 第2回 アイコンタクト、挨拶、名前の表現 第3回 形の表現、数字、指文字 第4回 年齢、ライフステージ 第5回 家族構成 第6回 月日、誕生日 第7回 一日の生活 第8回 学部、学科 第9回 都道府県名、出身地 第10回 地名、住所 第11回 交通手段、通学方法 第12回 店先での会話 第13回 ゲスト交流会 第14回 春学期内容の確認と解説 *手話では視覚ゲームやDVD学習、 ゲスト交流会等を随時取り入れる。 〈講義〉 第1回 聞こえない人に伝えてみよう 第2回 コミュニケーション方法を考える 第3回 聞こえない人とのコミュニケーション 第4回 手話とはどういう言語か 第5回 様々な聴覚障がい者、ろう文化 第6回 聞こえのしくみ 第7回 音のない生活を想像する 第8回 聴覚障がい者の日常生活 第9回 福祉機器・福祉制度 第10回 聴覚障がい者の高等教育 第11回 ノートテイク体験 第12回 災害時の聴覚障がい者 第13回 ゲスト交流会 第14回 春学期筆記試験 *講義では実技、映像、ディスカッションを取り入れながら進める。			
3. 履修上の注意 *手話を全く知らない方を対象としたカリキュラムとなっています。 *定員を超えた場合は抽選が行なわれます。周知されている期日に合わせて申し込みと登録手続きをしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 *授業前に、前回の学習内容をおさらいしておくことで習得率が高まり、1年後の手話スキルが格段に上がります。 *授業の進捗によっては自分の手話動画を自撮りしてLINE等で送る場合もあります。			
5. 教科書 *教科書は使用しません。主として講義で配布する資料、レジュメを用います。			

6. 参考書

- * 前川和美他『しくみが身につく手話①入門編』2022（白水社）
- * 岡典江・赤堀仁美『日本手話のしくみ練習帳 DVD 付』2016（大修館書店）
- * 全国手話通訳問題研究会『新・手話通訳がわかる本』2010（中央法規）

7. 課題に対するフィードバックの方法

- * レポート提出後、Oh-o! Meiji 経由でコメントします。

8. 成績評価の方法

- * 平常点 80%＋レポート 10%＋春学期内容の確認 10%
- * 成績評価は出席を重視しています。
- * レポートの提出と確認テストの受験は必須です。

9. その他

- * ろう者と聴者の二人の講師によってすすめます。おもにろう講師からは手話を、おもに聴講師からは聴覚障がい者の生活や聴覚障がい学生の支援について学びます。
- * 身の回りの表現や店先での会話を講師との対話やペアワーク・グループワークを通して身につけていきます。
- * 毎回の出席と積極的な授業参加が求められます。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIN191J		
科目名		手話コミュニケーション（初級）Ⅱ		
担当者		吉川 あゆみ・鈴木 なぎ		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 テレビや映画等で手話を取り上げられることが増え、街の中でも手話を使う人を見かけるようになり、「手話」がより身近なものとして認識されつつあります。ここでは、バイト先や街の中でろう者と会った時にとっさに使える手話を身につけると共に、異文化とは何か、聴覚障がい者はどんな生活をしているか等のさまざまな視点から理解を深め、共生の道を模索していきます。 〈到達目標〉 手話コミュニケーション初級Ⅰ～Ⅱを通して、手話での「簡単な自己紹介ができる」「一対一での簡単なやりとりができる」ことをめざします。				
2. 授業内容 〈手話実技〉 第1回 夏休み報告 第2回 校内めぐり 第3回 店名、店頭の会話 第4回 校内案内 第5回 街案内 第6回 教科、科目 第7回 食べ物 第8回 趣味、特技 第9回 職業、アルバイト 第10回 天気 第11回 自由会話発表 第12回 読み取り学習 第13回 ゲスト交流会 第14回 秋学期の内容確認 ＊視覚ゲームやDVD学習、手話交流会等を随時取り入れる。 〈講義〉 第1回 ろう運動（ろう団体、人権） 第2回 ろう運動（法改正） 第3回 ろう教育の歴史 第4回 聴覚障がい児の教育 第5回 教育環境、家族関係を考える 第6回 手話での学校教育 第7回 聴覚障がい者の就労 第8回 高齢ろう者 第9回 盲ろう者 第10回 障害者権利条約と国内法 第11回 教育まとめ 第12回 手話通訳 第13回 ゲスト交流会 第14回 秋学期筆記試験 ＊実技、映像、ディスカッションを取り入れながら進める。				
3. 履修上の注意 ＊手話コミュニケーションⅠを履修した方及び同等の手話力を持つ方を対象としたクラスです。 ＊定員を超えた場合は抽選が行なわれます。周知されている期日に合わせて申し込みと登録手続きをしてください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＊授業前に、前回の学習内容をおさらいしておくことで習得率が高まり、1年後の手話スキルが格段に上がります。 ＊授業の進捗によっては自分の手話動画を自撮りしてLINE等で送る場合もあります。				
5. 教科書 ＊教科書は使用しません。主として講義で配布する資料、レジュメを用います。				

6. 参考書

- * 前川和美他『しくみが身につく手話①入門編』2022（白水社）
- * 岡典江・赤堀仁美『日本手話のしくみ練習帳 DVD 付』2016（大修館書店）
- * 全国手話通訳問題研究会『新・手話通訳がわかる本』2010（中央法規）

7. 課題に対するフィードバックの方法

- * レポート提出後、Oh-o! Meiji 経由でコメントします。

8. 成績評価の方法

- * 平常点 80%＋レポート 10%＋春学期内容の確認 10%
- * 成績評価は出席を重視しています。
- * レポートの提出と確認テストの受験は必須です。

9. その他

- * ろう者と聴者の二人の講師によってすすめます。おもにろう講師からは手話を、おもに聴講師からは聴覚障がい者の生活や聴覚障がい学生の支援について学びます。
- * 身の回りの表現や店先での会話を講師との対話やペアワーク・グループワークを通して身につけていきます。
- * 毎回の出席と積極的な授業参加が求められます。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT126J		
科目名		外国文学（英米）〔M〕		
担当者		辻 昌宏		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 メディア授業です。 〈授業の概要〉 英詩の世界の概観を展望する。 シェイクスピアから 19 世紀、20 世紀にいたる代表的な詩人の作品を理解する。 また、作者の感情の吐露を中心とする抒情詩だけが詩なのではなく、叙事詩や社交的性格をもった詩、遊び心のあふれた詩のあることを知る 〈到達目標〉 英語で書かれた詩は、どこが散文と違うのかを理解する。 英詩の韻律を理解する。 古い英語の文法や言い回しの基礎を学ぶ。 英詩の基本的な構造やジャンル、レトリックを知り味わう。 詩のスタイル（文体・様式）とそれが書かれた時代の政治・経済・文化との関係を考察できるようにする。				
2. 授業内容 メディア授業です。 第 1 回 英詩とは何だろう？ 韻律とは何か？ 第 2 回 シェイクスピアの時代の詩(1) 第 3 回 シェイクスピアの時代の詩(2) 第 4 回 シェイクスピアの時代の詩(3) 第 5 回 形而上詩人とバロック(1) 第 6 回 形而上詩人とバロック(2) 第 7 回 17 世紀の詩 第 8 回 18 世紀の詩(1) 第 9 回 18 世紀の詩(2) 第 10 回 ロマン主義の詩(1) 第 11 回 ロマン主義の詩(2) 第 12 回 20 世紀の詩(1) 第 13 回 20 世紀の詩(2) 第 14 回 総括：近代以降の詩をどう読むか				
3. 履修上の注意 本授業はメディア授業であり、オンデマンド学習を自律的に継続できることを前提とする。安易な気持ちで履修すると、学期途中で学習が破綻する可能性が高い。授業を「見て終わり」にせず、指定された手順を守り、期限内に学習を完了すること。 授業形態：原則オンデマンド形式で実施する。ただし、**第 1 回（4 月 9 日）と期末試験（日時は後日発表）**のみリアルタイム配信を行う。リアルタイム回は出席・受験が必須であり、欠席は成績に直結する。 出席認定（重要）：オンデマンド回は、動画を最初から最後まで視聴し、内容を理解したうえで**小テストに回答してはじめて「出席」**とみなす。途中視聴・つまみ見・小テストのみの受験は出席扱いにならない。 視聴ログ：Panopto には各回の視聴時間（視聴ログ）が記録される。視聴状況の確認に用いるため、視聴ログと提出状況が整合しない場合は、成績評価上不利に扱うことがある。 締切厳守：オンデマンド回の動画および小テストは、動画公開から 1 週間のみ視聴・受験が可能である。締切後は視聴・受験できない（救済措置は原則行わない）ので、計画的に取り組むこと。通信環境や端末不具合などを理由に直前に慌てないよう、早めの受講を強く勧める。 また、本授業で扱う詩（作品）は、日本と異なる文化圏で書かれており、美意識や認識の枠組みが日本と異なる場合がある。理解が一度で「すっと」入らないことは普通であり、むしろ重要なのは、読解中に生じる違和感・もやもやを放置せず、「なぜそう感じたのか」を言語化して考える姿勢である。 言い回しやレトリック（修辞）、語のニュアンスは、詩の理解の核である。授業で紹介する表現は、受け身で聞き流すのではなく、例文を声に出して確かめ、意味・効果・用法を自分の中に蓄積すること。好奇心を全開にして吸収し、疑問点はそのままにせず確認する。授業は「受講した時間」ではなく、「学習を完了し、理解を積み上げた結果」で評価される。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で扱う詩人について、伝記的情報（生没年、出自、宗教・政治状況、主要作品、同時代の文学潮流）**を事前に調べ、作品が書かれた背景を把握しておくこと。あわせて、作品の本文を読み、不明語・固有名詞・神話／聖書典拠を辞書・注釈等で確認しておくこと。 特に 17～18 世紀の作品については、現代英語と異なる文法・語法（語順、助動詞、代名詞、縮約形など）に留意し、意味の取り違えが起きやすい箇所を自分で印をつけておくこと。さらに、押韻（rhyme）と韻律（meter）を意識し、行分け・句読・強勢に注意しながら、授業で学習した詩を音読する。音読では、詩のリズムや響きが意味や感情の効果とどう結びつくかを考え、気づいた点を簡単にメモして授業に臨むこと。				

5. 教科書

教科書は使用しない。必要に応じて、Oh-o! Meiji を通じてプリント（資料）を配布する。

6. 参考書

参考書は授業中に適宜指定する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

受講者に共通して多かった誤りや改善点は、授業動画内の補足、配布資料、掲示（アナウンス）等でまとめて提示する。質問がある場合は Oh-o! Meiji の連絡機能等で受け付け、必要に応じて授業内でも取り上げる。

8. 成績評価の方法

成績は以下の割合で総合的に評価する。

小テスト（動画視聴が前提）：70%

Oh-o! Meiji のディスカッション（質問・意見・感想の表明）：10%（内容の具体性・根拠、授業内容との関連、適切なやり取りを評価）

期末試験（リアルタイム配信で実施）：20%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT141J		
科目名		外国文学（中国）		
担当者		笠見 弥生		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
＜概要＞ 中国文学、といってもその時代や形式は様々です。皆さんもすでに中学や高校の漢文の授業で、漢詩や漢文に触れてきたことでしょう。しかし、中国文学には「漢文」とは異なる文体を使ったジャンルもあります。この授業では、明清時代に流行した、話し言葉で書かれた小説（白話小説）の代表作品を取り上げ、一部を実際に読みながら、その成立過程や背景について解説していきます。 ＜到達目標＞ 白話小説の代表的な作品について、その成立と内容について簡単な説明ができるようになる。 中国の文学について興味を持ち、自分なりの考えを表現できるようになる。				
2. 授業内容				
白話小説の白話小説の長篇作品の代表作品である『三国志演義』、『西遊記』、『水滸伝』、『金瓶梅』、『紅樓夢』を順に紹介し、短篇作品についても概要を紹介します。授業内では、翻訳を通して作品の一部を実際に読む時間を設けます。また、これらの作品は中国のドラマ、アニメ、京劇等でも演じられています。それらの映像も紹介していきます。 第1回：イントロダクション 第2回～第5回：『三国志演義』 第6回～第8回：『西遊記』 第9回～第11回：『水滸伝』 第12回：『金瓶梅』 第13回：『紅樓夢』 第14回：短篇白話小説				
3. 履修上の注意				
中国語が読める必要はありません。 原則として、毎回の授業でリアクションペーパー等の課題の提出を求めます。授業に出席し、授業内容を理解した上で、自分なりの考えを書くことが求められます。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業前：シラバスや授業中の次回予告をもとに、自分で関連資料を探して読んで事前知識を得てください。 授業後：配布資料やノートを見直し、関連資料を読んで理解を深めてください。				
5. 教科書				
なし				
6. 参考書				
『中国の五大小説 上・下』井波律子（岩波書店） そのほか授業中に紹介します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
リアクションペーパー等の毎回の課題については、授業内で適宜解説、講評します。				
8. 成績評価の方法				
授業内で課すリアクションペーパー等の提出物（50％） レポート（50％）				
9. その他				
上記の授業内容は、授業の進行状況や受講生の理解度等によって変更する場合があります。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT111J	
科目名		日本文学 A ・ B全体概要	
担当者			
2 単位	1 年次	春学期 ・ 秋学期	和泉
1. 授業の概要 ・ 到達目標 「日本文学 A ・ B」の全クラスに共通する基本的な概要 ・ 到達目標は下記のとおりです。 本講義は A ・ B それぞれ 3 クラス設置され、担当教員により授業内容等は異なっていますので、詳細は各担当教員のシラバスを参照してください。 〈概要〉 日本文学を学ぶ目的は、日本人の思想や精神世界、あるいは心の営みを深く理解するところにあります。日本文学から日本の伝統的なものの見方や考え方、あるいは人間の生き方や美意識を探っていきます。それは文学言語を通して日本文化を知り、日本人のアイデンティティを探究することにつながります。日本文学についての知識や教養をもつことは、文学表現に対する感性を養い、私たちの生き方を考えることにもなります。 〈到達目標〉 日本文学とその表現の力、また、そこに表れた心と思想について理解を深めること。			
2. 授業内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習 ・ 復習等）の内容 各担当教員のシラバスを参照してください。			
5. 教科書			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各担当教員のシラバスを参照してください。			
8. 成績評価の方法 各担当教員のシラバスを参照してください。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT111J	
科目名		日本文学 A	
担当者		森田 直美	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 本授業では、平安時代に成立した主要な作品（古今集、伊勢物語、枕草子、源氏物語）を取り上げて講義します。単なる印象批評的な読みにとどまらず、日本の文学史における位置づけ、時代背景、表現的特徴などについても解説しつつ味読します。 さらに、本授業で扱う作品は、文学として読み継がれるだけでなく、後代の美術・工芸・服飾といった周辺文化にも多彩な影響を与えてきました。文学と周辺文化の間にうかがえる強い連関性は、他国には類例が乏しく、日本独自の文化的特性とすることができます。これらについても、定期的に講義内容に取り入れます。 (到達目標) ① 平安時代の主要作品について、その概要や表現的特徴、文学史における位置づけなどについて理解できる。 ② 古典文学作品と周辺文化の連関について理解し、自分の言葉で説明できる。			
2. 授業内容 概ね以下の内容で進めますが、受講生の関心に合わせて各回のテーマを変更する可能性があります。 また、適宜ワークショップ（グループワーク）を取り入れたいと考えています。 第1回 導入：平安時代の文学史概観 第2回 『古今集』の基礎知識 第3回 『古今集』と後代の美術・工芸・服飾 第4回 『伊勢物語』の基礎知識 第5回 『伊勢物語』初段の絵画 第6回 『伊勢物語』と後代の美術・工芸・服飾 第7回 『枕草子』の基礎知識 第8回 『枕草子』初段を読み直す 第9回 『源氏物語』の基礎知識 第10回 「紫の物語」としての『源氏物語』 第11回 『源氏物語』に見る『古今集』の影響 第12回 『源氏物語』と後代の絵画・漫画 第13回 半期のまとめ 第14回 a:期末テスト b:テストの解説			
3. 履修上の注意 毎回授業時にワークシートを執筆してもらいます。その内容は成績評価に反映されます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の予習：次回扱う作品について、高校の教科書や入門書などで下調べしておく。 各回の復習：ノートやプリントを整理し直し、不明な箇所は教員に質問するなどして明らかにする。			
5. 教科書 特定のテキストは使用しません。必要に応じてファイル配信・プリント配布をします。			
6. 参考書 秋山虔 編著、三好行雄 編著『原色 新日本文学史【増補版】』文英堂、2016 年 『古今和歌集 ビギナーズ・クラシックス日本の古典』角川ソフィア文庫、2007 年 『伊勢物語 ビギナーズ・クラシックス日本の古典』角川ソフィア文庫、2007 年 『枕草子 ビギナーズ・クラシックス日本の古典』角川ソフィア文庫、2001 年 『源氏物語 ビギナーズ・クラシックス日本の古典』角川ソフィア文庫、2001 年 購入する必要はありませんが、授業をより深く理解するために有益な著書です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出されるワークシートへの総評を、次回授業の冒頭で伝えます。			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度（毎回提出するワークシートの内容を含む）50%，期末テスト 50% 上記を目安として総合的に評価します。			

9. その他

- ・ 授業中の私語・居眠り・遅刻・途中退出・授業に関係のないPC やスマートフォン等の使用、その他授業環境を悪くする行為は厳に慎むこと。
- ・ 受講態度が目には余る場合は氏名を確認した上で退室していただき、その回は欠席扱いとします。
- ・ 授業に出席してもワークシートが未提出の場合、その回は欠席扱いとします。
- ・ 30 分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- ・ 10 分程度までの交通遅延は考慮しないため、多少の遅延があっても間に合うように余裕をもって登校すること。
- ・ 履修登録確定前に他の授業を履修し、その後

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT111J		
科目名		日本文学 A		
担当者		高橋 雄生		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 人は何故に自己表出を為すのだろうか。その深部に多少なりとも近づくこと、それが、本講義の第一のねらいである。 具体的な作品としては、平安時代の日記文学である「土佐日記」を取り上げるが、あわせて、平安時代の文学に対する理解を深める。 これが、第二のねらいである。 〈到達目標〉 日本の古典文学を学ぶことで、日本文化全般にわたる教養の一端を身につけることを目標とする。				
2. 授業内容 第1回 平安女流文学概説 第2～3回 漢文日記から日記文学へ 第4回 私家集から日記文学へ 第5回 歌物語と日記文学 第6回 日記文学の本質 第7回 「土佐日記」の形成、日記文学の始発としての意義 第8回 「土佐日記」概説 第9～10回 都鄙の文化論 第11～12回 和歌宣揚の意識 第13～14回 亡児追懐の意味				
3. 履修上の注意 毎回講義時に問題を提起するので、講義内容を踏まえ、自ら考え、自ら調べてみるという姿勢が望ましい。その成果を、4回課す、1000字程度のレポートで発揮してもらいたい。定期試験は課さない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の現代語訳はあらかじめ必ず読んでおくこと。				
5. 教科書 『土佐日記（全）』 紀貫之・西山秀人編 （角川ソフィア文庫ービキナーズ・クラシックス）				
6. 参考書 『中古日本文学史』 木村正中編 （有斐閣双書）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートの提出やフィードバックは、オー明治を活用します。				
8. 成績評価の方法 レポート1回20点。4回のレポートを課すので、合計80点。授業への参加度20点。合計100点満点で評価する。				
9. その他 古典文法や古語の知識がなくても、講義内容は十分理解できるので、安心して履修してください。 原則、対面授業です。 万が一休講した時は、補講をせずに、オンラインで配信します。 レポートの提出やプリントの配布はオー明治を活用します。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT111J		
科目名		日本文学 A		
担当者		木村 孝太		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 『百人一首』は広く親しまれている作品ながら、なおも根幹を見直す新見解が提示されています。本授業では『百人一首』を題材として「和歌」に込められた情趣や思いを読みとり、言葉から日本の伝統的な思考や価値観を学びます。さらに日本古典文学の基礎研究の一端である、くずし字の解読や本文校訂についても解説し、「書物」や「書」に見られる美意識にも注目します。 『百人一首』は他の文学作品や周辺の日本文化にも影響を与えました。時代背景や作品享受に目を向け、教養としての日本文化史に視野を広げる機会としてください。 〈到達目標〉 ・日本古典文学を読むための基礎知識を理解する。 ・『百人一首』の和歌について説明できる。 ・モノとしての古典文学をの意義を理解する。				
2. 授業内容 第1回 ガイダンス・『百人一首』の全体像 第2回 『百人一首』の成立 第3回 『百人一首』の享受（1）室町時代 第4回 『百人一首』の享受（2）江戸時代 第5回 『百人一首』をくずし字で読む 第6回 『百人一首』の諸本と本文 第7～9回 『百人一首』を読み味わう（1）四季歌 第10～11回 『百人一首』を読み味わう（2）恋歌 第12回 『百人一首』を読み味わう（3）雑歌・旅歌・離別歌 第13回 半期のまとめ 第14回 a:期末テスト b:テストの解説				
3. 履修上の注意 毎授業でコメントシートの記入・提出を求めます。提出を求めたものは成績評価に反映します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・教科書に設定する書籍を読んでくる。（予習） ・理解できなかった点をまとめておき、次回授業までに調べて来る。（復習）				
5. 教科書 『百人一首（全）』谷知子（角川ソフィア文庫 ビギナーズクラシックス日本の古典，2010 年）				
6. 参考書 有吉保『百人一首全訳注』（講談社学術文庫，1983 年） 鈴木日出男『百人一首』（ちくま文庫，1990 年） 久保田淳校注『百人一首』（岩波文庫，2025 年） 渡辺泰明編著『和歌のルール』（笠間書院，2014 年）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回提出されるコメントシートへの総評を，次回授業の冒頭で伝えます。				
8. 成績評価の方法 授業への参加態度及びコメントシート等の内容 50%，期末テスト 50％ 上記を目安として総合的に評価します。				
9. その他 ・第1回の授業で進め方等の説明をするので必ず出席すること。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT111J		
科目名		日本文学B		
担当者		畑中 基紀		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 たんに文学を「読む」だけではなく、そのときに私たちがどう「解釈」を行っているかを考えます。そのうえで、「批評」という行為について学ぶことで、言葉を読む感覚と書く感覚を研ぎすましていくことが、この授業の目的です。 私たちは、ページ上に並ぶ文字記号から、いったいどのようにして作品世界のイメージを頭のなかにつくりあげているのでしょうか。さらにはそこに、私たちの日々の経験と同じような日常生活が描かれていると感じたりできるのはなぜでしょうか。このような疑問を基本テーマに、文学テキストが表現する意味について考えていきます。ストーリーの構築だけでなく、日常性の表象、あるいは「意味」そのものが生成される「しくみ」を分析することによって、読むこと、解釈すること、そして批評することについて、さまざまな作品を読み、また時には映像を分析的に観たり、音に耳を傾けたりしながら考えてみましょう。 〈到達目標〉 皆さん自身が批評を書くことを試みることで、今後、文学以外のあらゆる対象についても、つまり、世の中のあれこれを批判的に捉えて判断できるための基礎づくりとなることが最終目標です。				
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 身近な言葉の文学性 第3回 身近な言葉とレトリック 第4回 文学の言語と音楽性 第5回 音楽と言語のただならぬ関係 第6回 声とイメージ 第7回 感覚表現の力 第8回 形式と解釈 第9回 解釈の試み 第10回 意味としての身体 第11回 対立が意味を生成する 第12回 解釈から批評へ 第13回 批評の参考例を分析するⅠ 第14回 批評の参考例Ⅱ (状況により変更、入れ替えを行うこともあります)				
3. 履修上の注意 「当たり前だ」と思っていることの裏側にある〈しくみ〉をねばり強く追究し発見する喜びを感じることのできる、知的好奇心のある人に向いています。なお、作家や文学史に関する知識は、図書館等で調べれば簡単に得られるものですので、この授業では重視しません。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の他にも、いくつかの作品を取り扱いますが、それらはプリントで配布します。どちらも熟読しておくこと。また、他にも教室で紹介する文献（関連する作品や参考書）を読み、不明な部分があれば授業で質問すること。次の回の内容についての参考書を提示する場合は、あらかじめ目を通しておくこと。				
5. 教科書 夏目漱石『坊っちゃん』、『門』。どちらも新潮文庫。 この他にはプリントを使用します。				
6. 参考書 川本茂雄『ことばとイメージ』岩波新書、他には教室で適宜指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 教室で、または Oh-o! Meiji を利用して。				
8. 成績評価の方法 期末レポート（70%）＋平常点（30%。授業時間内に、その日の内容に関連した小さな課題を提示して小論文を書いていただくなど、受講者自身が考える機会を設けながら進めていく予定です)				
9. その他 事前に夏目漱石の『それから』も読み、さらに森田芳光監督の映画「それから」を観ておくことが望ましい。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT111J	
科目名		日本文学B	
担当者		岡崎 直也	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 急激な科学の進歩と社会の合理化とによって精神を蝕まれ、国家間の対立や世界的な大恐慌などの危機を経験した人々は〈現実〉に不信を抱き、既成の価値観は転倒した。ために客観小説を支える文学観も崩壊し、二十世紀文学は〈小説とは何か〉という問いを私たちに鋭く突きつけることになる。本講義では、そうした状況下で関東大震災の衝撃をも受けて出発した昭和文学の様々な表現を短編小説の具体的な読解のなかで検討したい。 （到達目標） 昭和文学が探究した現代的問題を考察し、私たちの生きる時代を問い直す。合わせて文学の精読のトレーニングで、多角的思考を養うものとする。			
2. 授業内容 講読形式の授業を想定しているが、授業時にも受講者に意見を求める。 第1～2回 明治・大正文学から昭和文学へ 第3～4回 横光利一「蠅」 第5～6回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 第7～8回 梶井基次郎「闇の絵巻」 第9～11回 堀 辰雄「聖家族」 第12～14回 太宰 治「ヴィヨンの妻」 ＊上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更がある。			
3. 履修上の注意 ネット上の情報や生成 AI で作成した文章の引用・参照は必ず該当箇所を明記しなければならず、それらを主にレポートを作成した場合、自身の考察とは認められないため単位の認定はできない。 各作品ごとの授業時レポートは出題1週間後を提出期限とし、遅延レポートは一切受け付けない。 授業内容の理解度は期末試験で評価するため、授業時レポートの提出がない回も出席しなければならない。また授業中の私語は一切許可しない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は作品の予習に努め、常に問題意識をもって授業に臨まなければならない。			
5. 教科書 基本的にはプリントを配付する予定である。他に文庫本などを使用する場合もある。			
6. 参考書 奥野健男『日本文学史—近代から現代へ—』（中央公論新社・新書）、デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社）、廣野由美子『批評理論入門—「フランケンシュタイン」解剖講義』（中央公論新社・新書）、日本近代文学会〔編〕『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』（ひつじ書房）、三好行雄・ほか〔編〕『日本現代文学大事典』（明治書院）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 受講者数が多くない場合は、優れたレポートに対して授業時にコメントする予定			
8. 成績評価の方法 授業内容の理解度を試す期末試験〔50％〕、授業時レポートや質疑応答などの授業への取り組み方〔50％〕。			
9. その他 受講生の自由で活発な発言を何よりも期待する。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT111J		
科目名		日本文学B		
担当者		大木 エリカ		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 19 世紀末以降の近代日本文学は、新聞、写真、映画、ラジオをはじめとするマスメディアと密接に関わりながら発展してきました。この授業では、作家・谷崎潤一郎（1886-1965 年）に注目し、近代日本文学の歩みをたどるとともに、谷崎の初期から後期に至る作品と、それらの作品が誕生した背景にあるマスメディアの問題について学びます。あわせて、授業では挿絵・発表媒体の問題や、アダプテーションの問題なども取り上げます。 （到達目標） ①マスメディアとの関係性から、近代日本文学の歴史や谷崎潤一郎の文学作品への理解を深める。 ②文化的／社会的背景を学びながら、作品を分析する方法を身につける。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：谷崎潤一郎「人面疽」（1） 第3回：谷崎潤一郎「人面疽」（2） 第4回：谷崎潤一郎「友田と松永の話」（1） 第5回：谷崎潤一郎「友田と松永の話」（2） 第6回：谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」（1） 第7回：谷崎潤一郎「蓼喰ふ虫」（2） 第8回：谷崎潤一郎「春琴抄」（1） 第9回：谷崎潤一郎「春琴抄」（2） 第10回：谷崎潤一郎「春琴抄」（3） 第11回：谷崎潤一郎「細雪」（1） 第12回：谷崎潤一郎「細雪」（2） 第13回：谷崎潤一郎「細雪」（3） 第14回：a まとめ、b 試験				
3. 履修上の注意 毎回の授業時に、小課題を出します。小課題の内容も成績評価に関わりますので、必ず提出するようにしてください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、授業で取り上げる作品を読み、その作者についても調べてくれることが望ましい。授業後には、配布資料や参考文献を精読し、各作品に対する理解を深める。また、不明な部分があれば授業で質問すること。				
5. 教科書 特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する。				
6. 参考書 安藤宏『日本近代小説史 新装版（中公選書 110）』（中央公論新社、2020 年 8 月） 五味渕典嗣・日高佳紀編『谷崎潤一郎読本』（翰林書房、2016 年 12 月）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で提出する小課題については、翌週の授業の初めにフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 期末試験（50％）＋授業期間内の課題を主とする平常点（50％）				
9. その他 これまで谷崎潤一郎の作品を読んだことがない方にも十分理解できる内容なので、興味のある方はぜひ受講してください。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LIT311J		
科目名		日本文学（現代）		
担当者		岡崎 直也		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 『ノルウェイの森』によって国民的なベストセラー作家となり、海外においても日本を代表する小説家となった村上春樹は、常に時代の変遷を敏感に感受し、文体や方法を変革してきた。本講義では、現代の〈喪失〉をナイーブに描いて二つの物語を交響させる出発期の村上春樹文学の代表作を具体的な分析のなかで鑑賞する。				
〈到達目標〉 私たちが生きる社会や文化の問題を同時代の作品の精読によって考察し、合わせて多角的思考を養うものとする。				
2. 授業内容				
第1～3回 現代日本文学史と村上春樹 第4回 『風の歌を聴け』 1 第5回 『風の歌を聴け』 2 第6回 『風の歌を聴け』 3 第7回 『風の歌を聴け』 4 第8回 『風の歌を聴け』 5 第9回 『風の歌を聴け』 6 第10回 『1973 年のピンボール』 1 第11回 『1973 年のピンボール』 2 第12回 『1973 年のピンボール』 3 第13回 『1973 年のピンボール』 4 第14回 『1973 年のピンボール』 5 ＊上記はあくまでも予定であり、授業の進行によっては変更がある。				
3. 履修上の注意				
期末試験を受験するほか、授業時小レポートを忘れずに提出しなければならない。ネット上の情報や生成 AI で作成した文章の引用・参照は必ず該当箇所を明記しなければならず、それらを主にレポートを作成した場合、自身の考察とは認められないため単位の認定はできない。また授業中の私語は一切許可しない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
受講者は作品の予習に努め、常に問題意識をもって授業に臨まなければならない。				
5. 教科書				
村上春樹『風の歌を聴け』（講談社文庫）、村上春樹『1973 年のピンボール』（講談社文庫）				
6. 参考書				
村上春樹研究会〔編〕『村上春樹作品研究事典』増補版（鼎書房）、柘植光彦〔編〕『村上春樹一テーマ・装置・キャラクター』『国文学解釈と鑑賞』別冊（至文堂）、栗坪良樹・柘植光彦〔編〕『村上春樹スタディーズ』01（若草書房）、加藤典洋『村上春樹イエローページ』1（幻冬社文庫）、廣野由美子『批評理論入門―「フランケンシュタイン」解剖講義』（中央公論新社・新書）、デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社）、日本近代文学会〔編〕『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』（ひつじ書房）				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
履修者数が多くない場合は、優れた指摘をしたレポートに対してポータルのレポート・フィードバック欄に記入したり、授業時にコメントしたりする予定。				
8. 成績評価の方法				
学期末試験〔50％〕・授業時小レポートや質疑応答などの授業への取り組み方〔50％〕				
9. その他				
受講生の自由で活発な発言を何よりも期待する。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)HIS131J	
科目名		西洋史（総論）	
担当者		薩摩 秀登	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 主に近代以降のヨーロッパ史の流れをたどりながら、近代的な社会の形成について理解を深める。宗教も含めたヨーロッパ特有の文明をもとに、絶対主義時代に主権国家の概念が徐々に姿を現し、また近代的な産業社会や国家体制が形成されて、それがしだいに世界各地へも波及していったと通常は考えられている。しかし近・現代の民主主義社会においては、逆に階層間の格差は拡大し、少数者が排除されるなどの問題が生じており、地域間・国家間の紛争も多発している。近代社会とは人類の歴史の中でどのように位置づけられるのか、西洋史を題材に考察する。			
〈到達目標〉 歴史的視点から現代世界について考察する能力を身につける。			
2. 授業内容			
近世から現代まで、ほぼ時代順に、毎回一つずつテーマをとりあげる。現在我々が当然のごとく用いている「国民」や「国家」という概念が、近代の歴史的状況の中で生み出されていく過程、近代市民社会の中で生じた特有の問題、そして人々がこれにどのように対処していったかなどが全体を通したテーマとなる。			
第1回 歴史研究の課題			
第2回 ヨーロッパ史における宗教と社会 1 ―キリスト教社会とは何か―			
第3回 ヨーロッパ史における宗教と社会 2 ―教会と国家の関係をめぐって―			
第4回 「公的な国家権力」の形成過程 ―ヨーロッパにおける君主権―			
第5回 議会を作るといふ発想 ―ヨーロッパ社会と身分制―			
第6回 近代社会が求める人間像 ―啓蒙と規律―			
第7回 国家が軍隊を備えるまで			
第8回 フランス革命 ―どのような転換だったのか―			
第9回 「自由・平等の国民社会」はありうるか			
第10回 「自由・平等の市民社会」と性差			
第11回 近代社会とナショナリズム			
第12回 移動する人々への視線 ―近代社会と移民―			
第13回 補論① 文明としてのイスラーム			
第14回 補論② ジェンダーと歴史学			
3. 履修上の注意			
「世界史探求」程度の予備知識があることが望ましいが、そうでない人の受講も歓迎する。大学入学までに世界史を詳しく学んでこなかった人には、参考文献などで事前に学習しておくことを勧める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業でとりあげられるのはいずれも現代社会と深くかかわるテーマである。普段から国際問題や社会問題に関する情報に注目し、理解を深めておくことが重要である。			
5. 教科書			
教科書は使用しない。			
6. 参考書			
長谷川輝夫、大久保桂子、土肥恒之『ヨーロッパ近世の開花』（世界の歴史 17）、中央公論社、2009 年 五十嵐武士、福井憲彦『アメリカとフランスの革命』（世界の歴史 21）、中央公論社、2008 年 谷川稔、北原敦、鈴木健夫『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（世界の歴史 22）、中央公論社、2009 年 木村靖二、柴宜弘、長沼秀世『世界大戦と現代文化の開幕』（世界の歴史 26）、中央公論社、2009 年 服部良久他編『新しく学ぶ西洋の歴史』、ミネルヴァ書房、2016 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
その次の回の授業において行う。			
8. 成績評価の方法			
授業で出される課題：70％ 期末試験あるいは期末レポート：30％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)HIS131J	
科目名		西洋史（各論）	
担当者		薩摩 秀登	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 「都市からみたヨーロッパ史」をテーマに、各時代、各地域ごとの典型的な都市をとりあげながら、ヨーロッパの社会や文化の展開に光をあてていく。都市は多様な人びとが集まって生活する場であり、多くの機能が集中している。そこでは、都市に特有の公共的な課題に対応しつつ、それぞれの時代に適応した新しい制度や、生活のあり方が模索されてきた。さらに都市の建築や空間の構造には、それぞれの時代の政治、社会、文化が反映されている。実際にヨーロッパの歴史が展開した場を個別事例としてとりあげることで、その時代の具体的な様相を明らかにする。 〈到達目標〉 文書史料、都市構造や建築などさまざまな題材を通して、人々がたどってきた歴史を考察する能力を身につける。			
2. 授業内容 ヨーロッパの都市にかかわる主要なテーマを毎回取り上げ、その考察にふさわしい都市に焦点をあてて論じていく。 第1回 総論：ヨーロッパ史のなかの都市 第2回 ローマ帝国時代 ―古代の都市生活を維持したもの― 第3回 古代から中世へ ―生活や心性の変化を読み取る― 第4回 中世都市の形成 ―都市の中に近代が生み出された？― 第5回 前近代の都市における生活保障システム ―兄弟団という組織― 第6回 儀礼・紛争・コミュニケーション ―都市の祝祭を事例として― 第7回 自治都市と大学 ―「ヨーロッパ近代の学問」が生まれた場― 第8回 首都の都市計画 ―政治都市パリ、宗教都市ローマ― 第9回 自治都市から自治体へ ―パリの住民生活からみた絶対王政― 第10回 宮廷・軍事・バロック ―絶対王政時代の都市― 第11回 「警察」誕生以前 ―都市の安全をどう守るか― 第12回 余暇と都市空間 ―「都市における快適さ」にみる近代― 第13回 補論：イスラーム圏の歴史に見る都市 ―イスラーム世界の形成と都市― 第14回 補論：イスラーム圏の歴史にみる都市 ―寄進制度について―			
3. 履修上の注意 「世界史探求」程度の予備知識があることが望ましいが、そうでない人の受講も歓迎する。大学入学までに世界史を詳しく学んでいなかった人には、参考文献などで事前に学習しておくことを勧める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業でとりあげられるのはいずれも現代にも通じるテーマである。普段から国際問題や社会問題に関する情報に注目し、理解を深めておくことが重要である。			
5. 教科書 教科書は使用しない。			
6. 参考書 桜井万里子、本村凌二『ギリシアとローマ』（世界の歴史5）、中央公論社、2010年 佐藤彰一、池上俊一『西ヨーロッパ世界の形成』（世界の歴史10）、中央公論社、2008年 長谷川輝夫、大久保桂子、土肥恒之『ヨーロッパ近世の開花』（世界の歴史17）、中央公論社、2009年 谷川稔、北原敦、鈴木健夫『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（世界の歴史22）、中央公論社、2009年 服部良久他編『新しく学ぶ西洋の歴史』、ミネルヴァ書房、2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 その次の回の授業において行う。			
8. 成績評価の方法 授業で出される課題：70％ 期末試験あるいは期末レポート：30％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LAW111J		
科目名		法学A		
担当者		古島 靖也		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
授業の概要 本講義では法ないし法律についての基本的な知識と考え方、および憲法・民法・刑法を中心とする基本的な法律に関する知識と考え方を学習することができる。 近代以降の国家社会は「法治国家」だといわれている。そこでは、憲法・民法・刑法などの法規を含む法体系が存在し、これを根拠に、そしてその範囲内で国家社会は機能し、また国民個人の生活も営まれている。したがって、我々の日常生活は出生から死亡まで法により規律されている。受講生には、そのような社会で強かに生きるための法的なものの見方、そのための基礎知識を身につけてもらう。また、本講義では常識的・一般的知識を有する国民が陥りがちな法・法律（学）やこれに関する事情への誤解を払拭することも取り組まれる。 到達目標 法ないし法律についての基本的な知識と考え方、および憲法・民法・刑法を中心とする基本的な法律に関する知識と考え方を身につけること、社会的な規範が働く場面における、論理的・批判的思考能力を身につけること、実社会における法的な問題に対し、問題状況を理解し、自分なりの妥当な解決策を提示できることが目標である。さらなる究極的な目的としては、受講生が、法に満ち溢れる社会において、この社会に対する十分な知識と思想を持ち、独立した人格として思考・判断をなして力強く生き抜く能力を養うことが目指される。				
2. 授業内容				
第1回：イントロダクション 法学の意義、法学を学ぶ意義 - 「法律とは無縁の生活」？ 第2回：法と法律の基礎知識(1) 法分野、民事と刑事、紛争の処理 第3回：法と法律の基礎知識(2) 司法制度 第4回：法と法律の基礎知識(3) 法源、法解釈 - 「それってあなたの解釈ですよ」 第5回：法と法律の基礎知識(4) 法解釈、法と規範 第6回：法と法律の基礎知識(5) 日常・現代社会と法 第7回：法律の読み方(1) 条文の読み方 第8回：法律の読み方(2) わかりにくい・間違っって使われる法律用語・表現 - 「言葉は正しく使いましょう」 第9回：法律の読み方(3) わかりにくい・間違っって使われる法律用語・表現・コメント返し 第10回：憲法(1) 憲法とは何か 第11回：憲法(2) 国民主権、平和主義 第12回：憲法(3) 人権の考え方、基本 第13回：憲法(4) 個別の人権規定 第14回：授業のまとめ・コメント返し				
3. 履修上の注意				
教員が各回のレジュメ・資料等を用意し、講義を行う。レジュメ等は各回の講義前に Web 上にアップロードする予定である。受講者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加すること。(印刷をして持参してもよいし、電子機器にダウンロードするのもよい。) 六法を持参するか、スマートフォン・PC 等の電子機器を持参し、授業中に法律を参照することができるようにすること。 各回の講義で取り扱う内容は上記の通りであるが、あくまで予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合がある。 受講生に対し発言を求めることがある。 毎回、またはときおり、講義へのリアクションを含む簡易な課題を提示し、受講生に提出してもらう。課題類は電子データで提出してもらうことがある。その際、特に簡易なレポート形式の課題に際しては PC で当該課題を作成することが望ましいので、PC を扱えるようにするか、仮にスマートフォン・タブレット等で作成せざるを得ないとしても、PC で作成したものと見分けがつかないほどのものを提出できるように機器の扱いに習熟しておくこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
予習 レジュメや参考書類の講義該当箇所を少しでも読み、理解できないところを明確にしておくこと さらに当日扱うテーマについて、他の資料があれば目を通しておくこと 復習 講義資料、ノート等の見直し・整理、参考書類の理解確認を早期に行うこと				
5. 教科書				
教科書は指定しない。ただし、下記の「法学」関係参考書類から 1 冊は選択し、所持して持参することが望ましい。各自の電子機器類で電子書籍を参照するのもよい。 版の古いものは推奨しない。				
6. 参考書				
『ウォーミングアップ法学』石山文彦ほか編（ナカニシヤ出版） -やや高価、厚めだがとても簡単。講義資料や講義の進行はこの本に基づく部分が多くなる予定。 『法学入門』穴戸常寿、石川博康編（有斐閣） 永井和之、森光編『法学入門』（中央経済社）				

-やや安価で薄め。
『ゼロからはじめる法学入門』 木俣由美（法律文化社）
-おもしろいので一人で読み進められる。はじめから見直したいときに。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に、採点後の講評またはいわゆる「コメント返し」の形で行うか、提出物に対する添削・コメントの形で行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 90%、リアクション等課題 10%

ただし授業への貢献度や追加の課題によってさらに加点することがある。

9. その他

kojis4ar@gmail.com

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)LAW111J		
科目名		法学B		
担当者		古島 靖也		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 本講義では法ないし法律についての基本的な知識と考え方、および憲法・民法・刑法を中心とする基本的な法律に関する知識と考え方を学習することができる。 近代以降の国家社会は「法治国家」だといわれている。そこでは、憲法・民法・刑法などの法規を含む法体系が存在し、これを根拠に、そしてその範囲内で国家社会は機能し、また国民個人の生活も営まれている。したがって、我々の日常生活は出生から死亡まで法により規律されている。受講生には、そのような社会で強かに生きるための法的なものの見方、そのための基礎知識を身につけてもらう。また、本講義では常識的・一般的知識を有する国民が陥りがちな法・法律（学）やこれに関する事情への誤解を払拭することも取り組まれる。 到達目標 憲法・民法・刑法を中心とする基本的な法律に関する知識と考え方を身につけること、社会的な規範が働く場面における、論理的・批判的思考能力を身につけること、実社会における法的な問題に対し、問題状況を理解し、自分なりの妥当な解決策を提示できることが目標である。さらなる究極的な目的としては、受講生が、法に満ち溢れる社会において、この社会に対する十分な知識と思想を持ち、独立した人格として思考・判断をなして力強く生き抜く能力を養うことが目指される。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 法分野、六法 第2回：憲法(1) 個別の人権規定 第3回：憲法(2) 個別の人権規定、憲法の判例 第4回：憲法(3) 統治機構 第5回：憲法(4)統治機構、憲法の判例 第6回：刑法(1) 刑法とは何か、刑事手続概観 第7回：刑法(2) 刑法の基本原則 第8回：刑法(3) 犯罪の成立要件 第9回：刑法(4) 犯罪の成立要件 第10回：民法(1) 民法とは何か、民事手続概観 第11回：民法(2) 人と物、法律行為 第12回：民法(3) 総則、物権、債権 第13回：その他の法 生活に密接にかかわる法分野 第14回：授業のまとめ・コメント返し				
3. 履修上の注意 教員が各回のレジュメ・資料等を用意し、講義を行う。レジュメ等は各回の講義前に Web 上にアップロードする予定である。受講者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加すること。（印刷をして持参してもよいし、電子機器にダウンロードするのもよい。） 六法を持参するか、スマートフォン・PC 等の電子機器を持参し、授業中に法律を参照することができるようにすること。 各回の講義で取り扱う内容は上記の通りであるが、あくまで予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合がある。 受講生に対し発言を求めることがある。 毎回、またはときおり、講義へのリアクションを含む簡易な課題を提示し、受講生に提出してもらう。課題類は電子データで提出してもらうことがある。その際、特に簡易なレポート形式の課題に際しては PC で当該課題を作成することが望ましいので、PC を扱えるようにするか、仮にスマートフォン・タブレット等で作成せざるを得ないとしても、PC で作成したものと見分けがつかないほどのものを提出できるように機器の扱いに習熟しておくこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 レジュメや参考書類の講義該当箇所を少しでも読み、理解できないところを明確にしておくこと さらに当日扱うテーマについて、他の資料があれば目を通しておくこと 復習 講義資料、ノート等の見直し・整理、参考書類の理解確認を早期に行うこと				
5. 教科書 教科書は指定しない。ただし、下記の「法学」関係参考書類のうち 1 冊は所持して持参することが望ましい。各自の電子機器類で電子書籍を参照するのもよい。 版の古いものは推奨しない。				
6. 参考書 『ウォーミングアップ法学』石山文彦ほか編（ナカニシヤ出版） ーやや高価、厚めだがとても簡単。 『法学入門』宋戸常寿、石川博康編（有斐閣）				

永井和之、森光編『法学入門』（中央経済社）

-やや安価で薄め。

『ゼロからはじめる法学入門』木俣由美（法律文化社）

-おもしろいので一人で読み進められる。はじめから見直したいときに。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に、採点後の講評またはいわゆる「コメント返し」の形で行うか、提出物に対する添削・コメントの形で行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 90%、リアクション等課題 10%

ただし授業への貢献度や追加の課題によってさらに加点することがある。

9. その他

kojis4ar@gmail.com

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)GE0111J	
科目名		地理学 A	
担当者		松宮 邑子	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 地理学とはすべての学問に結びつく「総合的な学問」であり、「生きられた経験の総体」である。 本授業では、地理学の基礎的な知識を獲得し、地理学的なものの見方を養うことを目指す。地表面上でおこる自然・人文社会的な様々な現象について地理学的に読み解くこと、またそれによって自身の生活を振り返ることで、「教養人」としての基礎を育む。			
2. 授業内容 1. イントロダクション：地理学を学ぶ意義 2. 学史 3. 空間・場所・地域 4. 境界 5. 地図の歴史 6. 一般図と主題図 7. 立地論Ⅰ 8. 立地論Ⅱ 9. 人口の把握Ⅰ 10. 人口の把握Ⅱ 11. ジェンダー 12. 時間 13. エスニック・エンクレーヴ 14. まとめ ※授業内容については、履修学生の状況や時勢を受けて変更する場合がある。 ※学期内に 1～2 回、オンデマンド型の授業回を設ける場合がある。			
3. 履修上の注意 授業資料については前日までに Oh-o ! Meiji にて掲載する。授業中に紙での配布は行わない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前準備としては、授業前に配布するレジュメに目を通し、受講前にわからない部分を明確にしておくこと。 事後作業としては、授業時に配布するレジュメと自らのノートの見返しを通じて疑問点を洗い出すこと、わからない点については自身で参考書等を紐解いてみること。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 授業内で適宜提示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で講評する。			
8. 成績評価の方法 授業内で出す課題の提出および取り組み状況（40%）と学期末試験（60%）から総合的に判断する。 なお、授業では毎回簡単なコメントの提出を求める。コメントの提出が 10 回に満たない者は成績評価の対象としない。 また中間課題（2～3 回を予定）の未提出者についても、成績評価の対象としない。			
9. その他 特になし			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)GE0111J	
科目名		地理学B	
担当者		小山 拓志	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 本科目は、地理学的な物事や事象をただ暗記するのではなく、日本の多様で美しい自然景観や、全国各地の独自の文化や産業を、「なぜ？」に着目しながら地理学視点、とりわけ自然地理学の視点で捉えていく。毎時間、日本各地の自然景観や文化・産業などを取り上げ、写真や自作の地図を多用しながら解説する。また、自然災害のメカニズムやそれに伴う地理的な事象を取り上げ、防災・減災についても学ぶ。本講義の最終到達目標は、地理学的な見方・考え方を身に付けると共に、日本各地の景観や文化・産業などの背景を考察できる能力をつけることにある。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクションー地理学とは何かー 第2回：イントロダクションー地理学的見方・考え方と景観分析ー 第3回：東北地方の自然環境と農業ー日本有数の米と果樹の産地（気候的アプローチ）ー 第4回：東北地方の自然環境と農業ー日本有数の米と果樹の産地（地形的アプローチ）ー 第5回：中国・四国地方の自然環境と産業ー広島 of 自然環境と歴史ー 第6回：中国・四国地方の自然環境と産業ー自然災害を読み解くー 第7回：関東地方の自然環境ー大都市圏の地形と交通（高低差を読む）ー 第8回：関東地方の自然環境ー大都市圏の地形と交通（車窓地理学）ー 第9回：近畿地方の歴史と食文化を地理学的視点で読み解く（活断層を知る） 第10回：近畿地方の歴史と食文化を地理学的視点で読み解く（和食と自然） 第11回：九州地方の自然環境と産業（火山を知る） 第12回：地理学の視点で大分県を観るー景観と産業ー 第13回：地理学の視点で別府市を観るー景観と観光ー 第14回：美しき日本を知る			
3. 履修上の注意 高校で地理（地理総合・地理探求）を選択（受講）していなくても問題ありません。それよりも、大学で様々なことを「学びたい」と強く思っている学生の受講を希望します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義中に作成した自分なりのノートを見直し、十分に復習する必要があります。また、景観（景色）を読み解いていく癖を付けてほしいと思います。			
5. 教科書 教科書は使用しません			
6. 参考書 参考書は使用しません			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーによる「質問・感想」を毎時間求めます。質問への解答は、次講義の冒頭に行います。			
8. 成績評価の方法 平常点 20％、定期試験 80％（持ち込み不可） 平常点は、リアクションペーパーや講義態度等で評価します。			
9. その他 ・証明書の出せない欠席、大幅な遅刻、長時間の退室に関しては全て欠席扱いです。 ・受講態度（平常点）は厳しく評価します（携帯電話の利用など）。十分注意して下さい。 ・試験は持ち込み不可です。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)POL111J		
科目名		政治学 A		
担当者		小川 天		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本科目は、政治学および現代政治についての基礎的な知識の習得を目的とするものであり、特に、政治の制度や思想に関することがらを扱う。各回のテーマとして抽象的な事項を掲げてはいるが、なるべく具体的な出来事に関連付けて説明していきたい。 「到達目標」 現実社会にある政治的なものごとについて、理論的な把握ができるようになることを到達目標とする。すなわち、事実をありのままに視るのみならず、それを他の抽象的・具体的なものごとと関連付けて理解できるようになることを目標とする。				
2. 授業内容 第 1 回目 はじめに(政治とは) 第 2 回目 政治と経済 第 3 回目 自由と自由主義 第 4 回目 福祉国家 第 5 回目 国家と権力 第 6 回目 社会と国家 第 7 回目 a レポート等の書き方 b 国際関係 第 8 回目 国際関係における安全保障 第 9 回目 国際関係における経済 第 1 0 回目 議会 第 1 1 回目 行政 第 1 2 回目 官僚制 第 1 3 回目 中央地方関係 第 1 4 回目 各回のまとめ				
3. 履修上の注意 秋学期の「政治学 B」と内容の関連がある。併せて受講することが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回で取り扱う事項について、関連する文献やニュースなどをチェックしておくのが望ましい。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の講義で質問等に回答する。Oh-0! Meiji 等を用いて個別に回答する場合もある。中間レポートも同様。				
8. 成績評価の方法 リアクションペーパーを含む授業への参加(40%)、中間レポート(30%)、期末試験(30%)。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)POL111J		
科目名		政治学B		
担当者		小川 天		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本科目は、政治学および現代政治についての基礎的な知識の習得を目的とするものであり、特に、政治の過程や実践に関することがらを扱う。各回のテーマとして抽象的な事項を掲げてはいるが、なるべく具体的な出来事に関連付けて説明していきたい。 「到達目標」 現実社会にある政治的なものごとについて、理論的な把握ができるようになることを到達目標とする。すなわち、事実をありのままに視るのみならず、それを他の抽象的・具体的なものごとと関連付けて理解できるようになることを目標とする。				
2. 授業内容 第 1 回目 はじめに(政治と政策) 第 2 回目 政策過程 第 3 回目 対外政策 第 4 回目 国際制度 第 5 回目 制度と政策 第 6 回目 デモクラシー 第 7 回目 世論とメディア 第 8 回目 a レポート等の書き方 b 政治の心理 第 9 回目 選挙 第 1 0 回目 投票行動 第 1 1 回目 政治参加 第 1 2 回目 利益団体 第 1 3 回目 政党 第 1 4 回目 各回のまとめ				
3. 履修上の注意 春学期の「政治学 A」と内容の関連がある。併せて受講することが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回で取り扱う事項について、関連する文献やニュースなどをチェックしておくのが望ましい。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義の終了時にリアクションペーパーの提出を求め、次回の講義で質問等に回答する。Oh-0! Meiji 等を用いて個別に回答する場合もある。中間レポートも同様。				
8. 成績評価の方法 リアクションペーパーを含む授業への参加(40%)、中間レポート(30%)、期末試験(30%)。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)SOC111J		
科目名		社会学 A		
担当者		山下 充		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはっきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した 19 世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずです。 〈到達目標〉 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはっきり見えてくるような授業にしたいと思います。				
2. 授業内容 【授業内容】 第 1 回 インTRODakション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、社会学は社会をどう理解するか、科学としての社会学 ――家族―― 第 2 回 家族のイメージ、家族形態の多様性、複婚家族（一夫多妻制）、恋愛結婚の普及 第 3 回 恋愛結婚で配偶者はどう選ばれるか、婚姻を左右する条件とは、文化資本がの結婚への影響 第 4 回 社会階層による愛好文化の違い、文化資本がもたらす学歴の不平等、結婚の恋愛化と離婚の増加、 第 5 回 再婚の増加、LGBT と同性婚の社会的承認、価値観の対立、結婚の形が多様になる社会的理由 ――逸脱―― 第 6 回 逸脱と犯罪の違い、国によって異なる規範（ルール）、マートンの逸脱論、逸脱者への社会的評価の転換 第 7 回 犯罪の「必要性」、社会的規範の力、社会が逸脱者をつくりだす、規範をつくる人々 第 8 回 ホワイトカラーの犯罪、逸脱を管理する時代、犯罪抑止政策の問題点、社会にとって逸脱とは何か ――社会化―― 第 9 回 なぜ子どもを研究するのか、なぜ子どもを「かわいい」と感じるか、ヒトの発達の特徴、ピアジェの発達段階理論、社会化と教育の必要性 第 10 回 相手の気持ちは本当に分かるのか、ミードの社会的自己概念、人間が社会性を持つ仕組み 第 11 回 社会学が考えるアイデンティティとは何か、他者にとってのアイデンティティ、アイデンティティとヘイトクライム ――リスク社会と対立の時代―― 第 12 回 なぜリスク社会を考えるのか、現代の新しい危険性、新しい感染症、地球温暖化、リスクをめぐる社会的対立 第 13 回 トランプ現象、ポピュリズムとは何か、ポピュリストとカリスマ、ポピュリズムを支持する社会変動と人々の意識 ――まとめ―― 第 14 回 現代社会を生きる（第 14 回はメディア授業で実施、対面授業はなし）				
3. 履修上の注意 社会学の授業は、「対面授業」と「メディア授業」では、学ぶテーマは同じですが、学び方、事例、評価の方法などが異なりますので、対面授業を履修予定の方は、対面授業の初回に参加するようにお願い致します。社会学 A の対面授業では、メディア授業形式でおこなう回以外では動画の配信はありません。毎回 Oh!-Meiji で課題提出をすることになりますので、十分に理解した上で履修してください。なお課題提出において授業と無関係な一般的解答、生成 AI 作成のものは評価の対象外とします。 対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!Meiji で配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。				
5. 教科書 教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。				

6. 参考書

アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスがとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入の必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji および授業ノートを通して行います。

8. 成績評価の方法

毎回出題する理解度確認テスト（半期合計 48 点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13 回分を 52 点換算）としますので、この授業は定期試験は起こしません。

9. その他

課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC111J	
科目名		社会学 B	
担当者		山下 充	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはつきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した 19 世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずでです。 （到達目標） 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはつきり見えてくるような授業にしたいと思います。			
2. 授業内容 第 1 回 イン트로ダクション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、秋学期の大きな 4 つのテーマについて、社会の変化を捉えるには ——社会的相互行為—— 第 2 回 相互行為とコミュニケーション、コミュニケーションの基本構造、コミュニケーションの不安定性 第 3 回 相互行為の連鎖、ゴフマンのドラマツルギー論、 第 4 回 現代社会と社会的役割、役割葛藤、役割距離、記憶喪失した者は相互行為を理解できるか ——携帯電話・インターネット—— 第 5 回 なぜ携帯が不可欠になったのか、音声コミュニケーションの特徴、固定電話の変化と携帯への進化、 第 6 回 インターネットで気分が落ち込む、インターネット依存、SNS とライフスタイル 第 7 回 インターネット依存を回避するには、CMC（コンピュータを介したコミュニケーション）の特徴、なぜ炎上が起きるのか、インターネットとプライバシー ——マスメディア—— 第 8 回 マスメディア論はなぜ政治を扱うのか、メディアの権力とは、マスメディアとナチス政権 第 9 回 マスメディアよりも影響力のあるものとは、限定効果説について、 第 10 回 マスメディアと世論、アクティブオーディエンス、ひとはなぜフェイクニュースを信じるのか ——現代社会論—— 第 11 回 社会の変化はどのように捉えるのか、社会変動とは、ダニエルベルの脱工業化社会論 第 12 回 リッツアのマクドナルド化理論、「客を働かせる」、サービス産業におけるテイラー・フォード主義とは 第 13 回 量で質を代替するとは、なぜ毎年同じような映画がヒットしているのか、マクドナルド化は世界をどのように変えているのか、 ——まとめ—— 第 14 回 現代社会を生きる、秋学期で学んだ事（第 14 回はメディア授業で実施。対面授業はなし。）			
3. 履修上の注意 社会学の授業は、「対面授業」と「メディア授業」では、学ぶテーマは同じですが、学び方、事例、評価の方法などが異なりますので、対面授業を履修予定の方は、対面授業の初回に参加するようにお願い致します。社会学 B の対面授業では、メディア授業形式でおこなう第 1 4 回以外では動画の配信はありません。毎回 Oh!-Meiji で課題提出をすることになりますので、十分に理解した上で履修してください。なお課題提出において授業と無関係な一般的解答、生成 AI 作成のものは評価の対象外とします。 対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!Meiji で配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			
5. 教科書 教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。			

6. 参考書

アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスがとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入は必要ありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji および授業ノートを通して行います。

8. 成績評価の方法

毎回出題する理解度確認テスト（半期合計 48 点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13 回分を 52 点換算）としますので、この授業は定期試験は起こないません。

9. その他

課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC116J		
科目名		社会学 A〔M〕 メディア授業科目クラス		
担当者		山下 充		
2 単位	1 年次	春学期		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはつきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した 19 世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずです。 〈到達目標〉 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはつきり見えてくるような授業にしたいと思います。				
2. 授業内容 全回メディア授業（オンデマンド）で実施 第 1 回 インTRODakション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、社会学は社会をどう理解するか、科学としての社会学 ——家族—— 第 2 回 家族のイメージ、家族形態の多様性、複婚家族（一夫多妻制）、恋愛結婚の普及 第 3 回 恋愛結婚で配偶者はどう選ばれるか、婚姻を左右する条件とは、文化資本がの結婚への影響 第 4 回 社会階層による愛好文化の違い、文化資本がもたらす学歴の不平等、結婚の恋愛化と離婚の増加、 第 5 回 再婚の増加、LGBT と同性婚の社会的承認、価値観の対立、結婚の形が多様になる社会的理由 ——逸脱—— 第 6 回 逸脱と犯罪の違い、国によって異なる規範（ルール）、マートンの逸脱論、逸脱者への社会的評価の転換 第 7 回 犯罪の「必要性」、社会的規範の力、社会が逸脱者をつくりだす、規範をつくる人々 第 8 回 ホワイトカラーの犯罪、逸脱を管理する時代、犯罪抑止政策の問題点、社会にとって逸脱とは何か ——社会化—— 第 9 回 なぜ子どもを研究するのか、なぜ子どもを「かわいい」と感じるか、ヒトの発達の特徴、ピアジェの発達段階理論、社会化と教育の必要性 第 10 回 相手の気持ちは本当に分かるのか、ミードの社会的自己概念、人間が社会性を持つ仕組み 第 11 回 社会学が考えるアイデンティティとは何か、他者にとってのアイデンティティ、アイデンティティとヘイトクライム ——リスク社会と対立の時代—— 第 12 回 なぜリスク社会を考えるのか、現代の新しい危険性、新しい感染症、地球温暖化、リスクをめぐる社会的対立 第 13 回 トランプ現象、ポピュリズムとは何か、ポピュリストとカリスマ、ポピュリズムを支持する社会変動と人々の意識 ——まとめ—— 第 14 回 現代社会を生きる				
3. 履修上の注意 授業動画配信は原則として授業の週の木曜日の午後 14:00 頃に行う予定です。対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。毎回 Oh!-Meiji で課題提出をすることになりますので、十分に理解した上で履修してください。なお課題提出において授業と無関係な一般的解答、生成 AI 作成のものは評価の対象外とします。 対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!Meiji で配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。				
5. 教科書 教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。				

6. 参考書

アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスがとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入の必要はありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji および授業ノートを通して行います。

8. 成績評価の方法

毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。

9. その他

課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)SOC116J	
科目名		社会学B〔M〕 メディア授業科目クラス	
担当者		山下 充	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) あなたは現代社会に生きていて、自信を持って「現代はこんな時代だ」、「今の社会はこうなっている」と言うことができるでしょうか。これから現代で数十年生きていく者として、どんな備えをすれば良いか、何を基準にどう判断しながら生きていけば良いかを、自分の言葉で、しっかりとした根拠にもとづいてはつきりと言えるでしょうか。社会学は近代という激動の時代、つまり「常に変化し続ける世の中」が誕生した 19 世紀に構想されました。変化は人々に多くの利益をもたらします。そして同時に、耐えがたい混乱をも人々にもたらします。近代のこの特徴に注目し、それを正面から考える学問が社会学です。 社会学の知見は、みなさんに生きる上で重要な指針を提供します。もちろん、人によっては社会学の知見があまり参考にならないと感じるかも知れません。しかし、多くの人にとっては「現代社会はこんな仕組みでできあがっている」という知識は、複雑で変化の激しい近代社会を賢明に生きる上で大きなプラスとなるはずです。 (到達目標) 授業で学ぶ個々の領域ごとに、現代の社会がこのような仕組みで動いている、ということを理解できるように設計しています。この授業を受けることで、家族や友人の間で起きていること、メディアやインターネットで伝えられていること、身の回りで起きていることが「こういうことだったのか」とはつきり見えてくるような授業にしたいと思います。			
2. 授業内容 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施 第 1 回 イントロダクション、対面・メディア授業の違い、授業の評価方法と授業課題課題、秋学期の大きな 4 つのテーマについて、社会の変化を捉えるには ——社会的相互行為—— 第 2 回 相互行為とコミュニケーション、コミュニケーションの基本構造、コミュニケーションの不安定性 第 3 回 相互行為の連鎖、ゴフマンのドラマツルギー論、 第 4 回 現代社会と社会的役割、役割葛藤、役割距離、記憶喪失した者は相互行為を理解できるか ——携帯電話・インターネット—— 第 5 回 なぜ携帯が不可欠になったのか、音声コミュニケーションの特徴、固定電話の変化と携帯への進化、 第 6 回 インターネットで気分が落ち込む、インターネット依存、SNS とライフスタイル 第 7 回 インターネット依存を回避するには、CMC（コンピュータを介したコミュニケーション）の特徴、なぜ炎上が起きるのか、インターネットとプライバシー ——マスメディア—— 第 8 回 マスメディア論はなぜ政治を扱うのか、メディアの権力とは、マスメディアとナチス政権 第 9 回 マスメディアよりも影響力のあるものとは、限定効果説について、 第 10 回 マスメディアと世論、アクティブオーディエンス、ひとはなぜフェイクニュースを信じるのか ——現代社会論—— 第 11 回 社会の変化はどのように捉えるのか、社会変動とは、ダニエルベルの脱工業化社会論 第 12 回 リッツアのマクドナルド化理論、「客を働かせる」、サービス産業におけるテイラー・フォード主義とは 第 13 回 量で質を代替するとは、なぜ毎年同じような映画がヒットしているのか、マクドナルド化は世界をどのように変えているのか、 ——まとめ—— 第 14 回 現代社会を生きる、秋学期で学んだ事			
3. 履修上の注意 授業動画配信は原則として授業の週の木曜日の午後 14:00 頃に行う予定です。対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。毎回 Oh!-Meiji で課題提出をすることになりますので、十分に理解した上で履修してください。なお課題提出において授業と無関係な一般的解答、生成 AI 作成のものは評価の対象外とします。 対面・オンデマンド授業のどちらも課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o!Meiji で配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			

5. 教科書

教科書の指定はありません。授業回ごとに授業ノートと回の内容に必要な資料を提供します。

6. 参考書

アンソニーギデンズ『社会学』而立書房。社会学のなかで最も定評があり、また、内容的に非常にバランスがとれた教科書です。邦訳は最新版ではありませんが、授業では英語版の最新の内容を含めて講義します。購入は必要ありません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji および授業ノートを通して行います。

8. 成績評価の方法

毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。

9. その他

課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E	
科目名		Global Issues A G R E A T	
担当者		BERNINGER, GEORGE	
2 単位	Year:1	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students' English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues			
2. 授業内容 Part 1: Introduction / needs survey / reading skills Part 2: Not your typical 9-to-5 job Part 3: Job interview types Part 4: Female virus writer packs punch Part 5: Into the heart of a family in Casablanca Part 6: Travel for good Part 7: A Kenyan safari Part 8: Midterm presentation on travel Part 9: An interview with J.K. Rowling Part 10: Emotional intelligence Part 11: Left brains and right brains Part 12: The vanishing hitchhikers Part 13: Final mystery presentations Part 14: Final mystery presentations			
3. 履修上の注意 Be able to discuss issues in English			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook articles. Students will do vocabulary exercises. Students will make a summary of some readings. Students will prepare for two presentations.			
5. 教科書 Active Skills for Reading 4 by Neil J. Anderson (Heinle Cengage Learning/ National Geographic)			
6. 参考書 Have a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback to students in class.			
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (15%) Quizzes/ summaries (10%) Active daily participation (25%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)			

9. その他

This class will be taught in English. Students will be expected to do about one hour of homework each week on average.

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E		
科目名		Global Issues B G R E A T		
担当者		BERNINGER, GEORGE		
2 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students' English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues				
2. 授業内容 Part 1: Introduction / needs survey / The Mediterranean Diet (homework) Part 2: Healthy living (3 exceptional longevity areas) Part 3: Genetically modified food Part 4: Beyond Planet Earth/ Solar storms Part 5: Star struck (Astronomy) Part 6: Language and Life / The exodus of languages Part 7: Life with the Tarahumaras Part 8: Midterm presentation on endangered languages Part 9: Unearthing the Past (archaeology) / The Search for Cleopatra Part 10: Wildlife Conservation (zoology) / The race to rescue koalas Part 11: Rhino wars Part 12: Living on the edge (zoology/ ecology) Part 13: Final endangered animal presentations Part 14: Final endangered animal presentations				
3. 履修上の注意 Be able to discuss issues in English.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook articles. Students will do vocabulary exercises. Students will make a summary of some readings. Students will prepare for two presentations.				
5. 教科書 Active Skills for Reading 4 by Neil J. Anderson (Heinle Cengage Learning/ National Geographic)				
6. 参考書 Have a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback to students in class.				
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (15%) Quizzes/ summaries (10%) Active daily participation (25%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)				

9. その他

This class will be taught in English. Students will be expected to do about one hour of homework each week on average.

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E	
科目名		Global Issues A G R E A T	
担当者		DUPLICE, JOHN	
2 単位	Year:1	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 The aim of this course is to give you practice in using English to examine academic issues. This course will focus on Global Issues. Global Issues A will introduce students to international organizations, specific interests, and some of the issues affecting the world. After completing this course you should be able to: ・ understand the major functions of international organizations ・ gain knowledge of how these organizations work with nations and affect the world ・ take part in discussions on global issues			
2. 授業内容 Week 1 : What are global issues? Week 2 : The United Nations and its role in the world Week 3 : Topics within the United Nations Week 4 : Maintaining peace: armaments and the balance of power Week 5 : Maintaining peace: the importance of justice; international organizations Week 6 : Human rights; women’s rights Week 7 : Human rights: children’s rights Week 8 : Deep dive into current topic Week 9 : Mock debate/comparison presentation of current controversial issue Week 10 : The environment as a global issue Week 11 : The environment as a global issue continued Week 12 : Deep dive into group project Week 13 : Poster Presentations Week 14 : Course Review+Exam			
3. 履修上の注意 Registration Requirements: This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). GREAT will only be available to students with adequate English test scores. International exchange students may also apply to attend this course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary—this may be either electronic or paper-based.			
5. 教科書 Gratz, A. (2017). Refugee. Scholastic Press.			
6. 参考書 Handouts, the Internet, O-oh Meiji! system			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day of classes. All papers will be submitted on Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Grading and Evaluation Attendance and class participation: 30% Homework 15%In-class quizzes 15%Final presentation and written report 40% (NOTE: More than 3 unexcused absences will result in a fail (3 lates=1 absence))			
9. その他 This course aims to help you use English more fluently and to engage in academic discussions. The issues are issues that affect us all and ones that we all need to talk about.			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E	
科目名		Global Issues B G R E A T	
担当者		DUPLICE, JOHN	
2 単位	Year:1	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 The aim of this course is to give you practice in using English to examine academic issues. This course will focus on Global Issues around trade and commerce building upon what was learned in the spring semester. Global Issues B will introduce students to the world of business and global exchange as a global issue. After completing this course you should be able to: ・ understand the major functions of trade and commerce in the world ・ gain knowledge of how trade affects nations and the world ・ take part in discussions on global issues			
2. 授業内容 Week 1 : Review of Global Issues topics discussed in spring semester Week 2 : Trade and commerce overview Week 3 : The role of global business Week 4 : Free trade and tariffs Week 5 : Trade topic deep dive Week 6 : Mock debate on a controversial current global topic around trade and commerce Week 7 : The environment and trade (part 1) Week 8 : The environment and trade (part 2) Week 9 : Mid-term quiz and introduction to transportation in global trade Week 10 : Global issues around shipping of goods Week 11 : The role of energy in trade and commerce Week 12 : Deep dive into poster project Week 13 : Poster Presentations Week 14 : Course Review+Exam			
3. 履修上の注意 Registration Requirements: This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). GREAT will only be available to students with adequate English test scores. International exchange students may also apply to attend this course. Preparation and Review			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary—this may be either electronic or paper-based. You will also need to have access to a computer regularly to watch lectures and short videos on subject to be covered.			
5. 教科書 none			
6. 参考書 Handouts, the Internet, O-oh Meiji! system			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day and the final presentation will be held on the second to last class. Papers will be submitted on Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Attendance and class participation: 30% Homework 15%In-class quizzes 15%Final presentation and written report 40% (NOTE: More than 3 unexcused absences will result in a fail (3 lates=1 absence))			
9. その他 This course aims to help you use English more fluently and to engage in academic discussions. The issues are issues that affect us all and ones that we all need to talk about.			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E	
科目名		Global Issues A G R E A T	
担当者		MOREAU, ROBERT	
2 単位	Year:1	春学期	和泉

1. 授業の概要・到達目標

<summary>

In this course we will focus on discussing, researching and critically understanding various global issues facing the world and the role of different global organizations in dealing with them in the 21st century. Students will be able to choose issues to research global issues such as poverty, gender, health, education, human rights, environmental, as well as issues connected to labor. Students will research and share information about various issues in class discussions, and will create blogs individually, and websites as a group project, based on the information that they have researched.

<objectives>

In this course, students will gain knowledge of important global issues while at the same time develop and practice specific English skills, such as listening, writing, and discussion. The course will assist students in developing their vocabulary for talking about global issues, as well as various academic skills including note-taking, pair and small group discussion, and presentation skills. In addition, it is a goal of this course to help students develop their research skills, and critical thinking skills.

2. 授業内容

Week 1. Introduction to the course focusing on topics and expectations.

Week 2. Watching videos and discussing global issue topics. Choosing a global issue to research.

Week 3. Weekly discussions and in-class notes. Begin group research project 1: background information

Week 4. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project 1: Details on where and who is affected

Week 5. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project 1: Details on organizations that are helping

Week 6. Mid-term test, based on weekly discussions, and notes taken in class. Discussing research and outlining for research project #1

Week 7. Presentation and peer review of research project #1

Week 8. Weekly discussions and in-class notes. Begin group research project #2. Initial mind-mapping and group discussions. Begin researching background information.

Week 9. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on where and who is affected

Week 10. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on who is helping

Week 11. Weekly discussions. Continue research project 2: Details local issues connected to the project

Week 12. Sharing project information. Working on outlines for project #2

Week 13. Peer review of group projects and discussions

Week 14. a. Final Test b. Course Wrap-up

3. 履修上の注意

This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). Non-GREAT students cannot take this course. International exchange students may also apply to attend this course.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Each week you will be assigned homework for reading, writing, or looking for information outside of class. Before and after classes, review what you have learned. Prepare notes reflecting what you researched. You will need an A4 size notebook for this class to prepare notes, which will enable you to join group/class discussions. You will need to spend at least one hour for the review of the class and to prepare the assigned homework every week. Each week, you will have discussions with other students, based on the information you have read for homework.

5. 教科書

There is no textbook. Materials will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts and all the other study materials for this course.

6. 参考書

None

7. 課題に対するフィードバックの方法

The midterm exam will be held in week-6, and the explanation will also be held on the same day.

The final exam will be held on the last day of classes, and the explanation will also be held on the same day.

Student papers, notes, outlines, and other mat

8. 成績評価の方法

Class Participation, discussions, reflection writing, and worksheets	30%
Project #1 research notes and presentation	25%

Project #2 research notes and presentation 25%

Midterm test 10%

Final test 10%

Attendance and participation are very important. Missing more than 3 classes will automatically result in a failure of the course. (2 late comings =1 absence). If you must be absent:

A) Send the teacher an email, preferably before the class starts with the reason for the absence

B) Provide the teacher with any necessary documentation to show why you were absent

9. その他

None

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E		
科目名		Global Issues B G R E A T		
担当者		MOREAU, ROBERT		
2 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 ＜summary＞ In this course we will continue building students’ research, presentation, and discussion skills as we focus on critically understanding the various global issues facing the world and the role of business and various global organizations in dealing with them in the 21st century. Global issue topics that students may research and discuss include: climate change, war and terrorism, gender issues, health, education, human rights, and global issues connected to business. Students will research and share information about issues in class discussions, and will give presentations based on the information that they have researched. ＜objectives＞ In addition to the research projects the students will work on, class time will be used to continue to develop and practice specific English skills, such as listening, writing and discussion, using a variety of sources dealing with global issue topics. The course will help students develop their vocabulary for talking about global issues, as well as improve various academic skills including note-taking, pair and small group discussion and presentation. In addition, activities will be included that help to develop students’ critical thinking skills.				
2. 授業内容 Week 1. Introduction to the course focusing on topics and expectations, first discussions on global issues Week 2. Watching videos and discussing global issue topics. Choosing a global issue to research. Week 3. Weekly discussions and in-class notes. Begin group research project 1: background information Week 4. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project 1: Details on where and who is affected Week 5. Weekly discussions and in-class notes. Continue research project 1: Details on organizations that are helping Week 6. Mid-term test, based on weekly discussions, and notes taken in class. Discussing research and outlining and practice for the presentation Week 7. Group presentations and discussions Week 8. Weekly discussions and in-class notes. Begin individual research project #2. Initial mind-mapping and group discussions. Begin researching background information. Week 9. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on where and who is affected Week 10. Weekly discussions. Continue research project 2: Details on who is helping Week 11. Weekly discussions. Continue research project 2: Details about local issues Week 12. Sharing project information. Working on outlines for project #2 Week 13. Peer review and discussions about project #2 Week 14. a. Final Test b. Course Wrap-up				
3. 履修上の注意 This course is a required course for students on the Global Resources English Applied Track (GREAT). Non-GREAT students cannot take this course. International exchange students may also apply to attend this course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each week you will be assigned homework for reading, writing, or looking for information outside of class. Before and after classes, review what you have learned. Prepare notes reflecting what you researched. You will need an A4 size notebook for this class to prepare notes, which will enable you to join group/class discussions. You will need to spend at least one hour for the review of the class and to prepare the assigned homework every week. Each week, you will have discussions with other students, based on the information you have read for homework.				
5. 教科書 There is no textbook. Materials will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts and all the other study materials for this course.				
6. 参考書 None				
7. 課題に対するフィードバックの方法 The midterm exam will be held in week-6, and the explanation will also be held on the same day. The final exam will be held on the last day of classes, and the explanation will also be held on the same day. Student papers, notes, outlines, and other mat				

8. 成績評価の方法

Class Participation, discussions, reflection writing, and worksheets 30%

Project #1 research notes and presentation 25%

Project #2 research notes and presentation 25%

Midterm test 10%

Final test 10%

Attendance and participation are very important. Missing more than 3 classes will automatically result in a failure of the course. (2 late comings = 1 absence). If you must be absent:

A) Send the teacher an email, preferably before the class starts with the reason for the absence

B) Provide the teacher with any necessary documentation to show why you were absent

9. その他

None

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E		
科目名		Global Issues A G R E A T		
担当者		WASH, IAN		
2 単位	Year:1	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course outline Global Issues is an advanced-level English course that focuses on our increasingly globalised world. The course is designed to enhance students’ understanding of major issues and trends associated with globalisation. It also raises awareness of how events and experiences at the local level affect those on a global level and vice versa. Ultimately, this course hopes to bring its students to a higher level of consciousness and responsibility as citizens of a global world. Learning objectives One objective is to familiarise students with key global issues through English by completing relevant reading and listening assignments inside and outside of class. Another goal is to enable students to critically formulate and express their own thoughts in English through collaborative tasks and activities.				
2. 授業内容 Part 1: Introduction and course outline. Part 2: Article and discussion (Gender) Part 3: Student article share (Gender) Part 4: Documentary and fluency-building (Gender) Part 5: Student article share (Gender) Part 6: Article and discussion (Crime) Part 7: Student article share (Crime) Part 8: Documentary and fluency-building (Crime) Part 9: Student article share (Crime) Part 10: Article and discussion (Food Ethics) Part 11: Student article share (Food Ethics) Part 12: Documentary and fluency-building (Food Ethics) Part 13: Student article share (Food Ethics) Part 14: Review and discussion				
3. 履修上の注意 Who is this course for? Global Issues A is a mandatory course for 1st year students in the GREAT (Global Resources English Applied Track) program in the School of Business Administration, based at Izumi campus. The typical Global Issues A student has recently entered university and their English language level is around the intermediate level. Exchange students and other students from higher grades (2nd, 3rd year) with more advanced levels of English language ability are welcome to take the course. Having a culturally diverse classroom can be beneficial to the global nature of the course. This works best when they can support the English education of regular GREAT students and offer insights on topics from their own cultural perspective. Students from outside the GREAT program are expected to adapt to the pace and level of the GREAT students, who are the primary users of this Global Issues A course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Overview of activities • Reading assignments using authentic texts • Multi-media listening activities using authentic broadcasts • Summarising and reporting in oral and written forms • Mini-presentations • Group discussions • Fluency-building • Collaborative learning tasks				
5. 教科書 No textbook				
6. 参考書 No textbook				

7. 課題に対するフィードバックの方法

On lecture slides

8. 成績評価の方法

- Active participation: 30%
- Classwork and homework (mini-presentations, discussions, reflection papers, etc): 40%
- Student article share worksheets: 30%

9. その他

Homework policy

Being absent from class is not a valid excuse for not completing homework assignments. Even if you are absent, you are expected to come fully prepared for the next class with the necessary materials. Failure to do this may result in pena

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) SOC191E		
科目名		Global Issues B G R E A T		
担当者		WASH, IAN		
2 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course outline Global Issues is an advanced-level English course that focuses on our increasingly globalised world. The course is designed to enhance students’ understanding of major issues and trends associated with globalisation. It also raises awareness of how events and experiences at the local level affect those on a global level and vice versa. Ultimately, this course hopes to bring its students to a higher level of consciousness and responsibility as citizens of a global world. Learning objectives One objective is to familiarise students with key global issues through English by completing relevant reading and listening assignments inside and outside of class. Another goal is to enable students to critically formulate and express their own thoughts in English through collaborative tasks and activities.				
2. 授業内容 Part 1: Introduction and course outline. Part 2: Article and discussion (Migration) Part 3: Student article share (Migration) Part 4: Documentary and fluency-building (Migration) Part 5: Student article share (Migration) Part 6: Article and discussion (Public health) Part 7: Student article share (Public health) Part 8: Documentary and fluency-building (Public health) Part 9: Student article share (Public health) Part 10: Article and discussion (Celebrity) Part 11: Student article share (Celebrity) Part 12: Documentary and fluency-building (Celebrity) Part 13: Student article share (Celebrity) Part 14: Review and discussion				
3. 履修上の注意 Who is this course for? Global Issues B is a mandatory course for 1st year students in the GREAT (Global Resources English Applied Track) program in the School of Business Administration, based at Izumi campus. The typical Global Issues B student has recently entered university and their English language level is around the intermediate level. The majority of students took Global Issues A in the spring semester and this course builds on the skills development last semester. Exchange students from higher grades (2nd, 3rd year) with more advanced levels of English language ability are welcome to take the course. Having a culturally diverse classroom can be beneficial to the global nature of the course. This works best when they can support the English education of regular GREAT students and offer insights on topics from their own cultural perspective. Students from outside the GREAT program are expected to adapt to the pace and level of the GREAT students, who are the primary users of this Global Issues B course. A degree of patience will be required for this to work.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Overview of activities • Reading assignments using authentic texts • Multi-media listening activities using authentic broadcasts • Summarising and reporting in oral and written forms • Mini-presentations • Group discussions • Fluency-building • Collaborative learning tasks				
5. 教科書 No textbook				
6. 参考書 No textbook				

7. 課題に対するフィードバックの方法

On lecture slides

8. 成績評価の方法

- Active participation: 30%
- Classwork and homework (e.g. mini-presentations, discussions, reflection papers): 40%
- Student article share worksheets: 30%

9. その他

Homework policy

Being absent from class is not a valid excuse for not completing homework assignments. Even if you are absent, you are expected to come fully prepared for the next class with the necessary materials. Failure to do this may result in pena

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)SOC191E	
科目名		Global Issues C	
担当者		WASH, IAN	
2 単位	Year:2	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Course title Introduction to International Cooperation and Development: Approaches and Actors Course outline This course introduces students to the multidisciplinary field of international development. The course allows students to explore a range of critical debates and discussions connected to doing development and tackling poverty in less prosperous parts of the world, and is divided into two parts. The first part of the course focuses on theories and approaches by examining how the understanding of development has evolved from the colonial period up to contemporary theories of what constitutes a developed society. Part two looks at key actors in the field of development including the state, national development agencies, global financial institutions. In addition to the acquisition of content knowledge, students will develop their English academic communication skills in the following areas: listening comprehension; notetaking skills; critical thinking, discussion, intensive and extensive reading, summary writing, research, and presentation. Learning objectives One objective is to familiarise students of business with the field of development studies by exploring competing theoretical approaches and a range of different stakeholders. Another goal is to further develop academic communication skills necessary to engage fully in courses in which English is the language of instruction.			
2. 授業内容 Part 1: Course introduction. What is development? Part 2: Theory 1: Colonialism and imperialism 1 Part 3: Theory 1: Colonialism and imperialism 2 Part 4: Theory 2: Modernisation and developmentalism 1 Part 5: Theory 2: Modernisation and developmentalism 2 Part 6: Theory 3: Dependency and underdevelopment 1 Part 7: Theory 3: Dependency and underdevelopment 2 Part 8: Actors 1: The nation state 1 Part 9: Actors 1: The nation state 2 Part 10: Actors 2: National development agencies 1 Part 11: Actors 2: National development agencies 2 Part 12: Actors 3: International financial institutions 1 Part 13: Actors 3: International financial institutions 2 Part 14: Final presentations			
3. 履修上の注意 Who is this course for? Global Issues C is primarily for 2nd, 3rd and 4th year students in the GREAT (Global Resources English Applied Track) program in the School of Business Administration. Students should have, at the very least, successfully completed courses in the 1st year of the GREAT program. Their English ability should be around the intermediate to upper-intermediate level. As a guide, students should have a TOEIC score of at least 700 to access this course. Exchange students and other 2nd/3rd/4th grade students at the university are welcome to take the course provided their English level is equal to or higher than that of students in the GREAT program. This course is also suitable for advanced level users of English. Demands of the course Global Issues C is a very challenging course and therefore students are expected to spend at least 3 - 4 hours on homework per week to fully prepare for each lesson.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Advice to students ・ Pre-read the chapter of the textbook before the lecture. Listen to the lectures carefully and take notes effectively. ・ Preparation for reflection and discussion lessons is key. Beforehand make sure you do the following: o Do any required pre-readings o Complete all parts of the Preparation Worksheets for homework o When researching your answers to questions, consider the credibility of your sources. Newspaper articles, book chapters and journal articles provide better quality material than blogs and webpages with no identifiable author. o Optional: Do additional reading around concepts and key thinkers covered in the lecture			

- ・ Use reflection and discussion lessons as an opportunity to make sense of and internalise the material from the lectures and pre-readings. Continually refer your lecture notes, research notes and pre-readings during discussions.
- ・ Be patient and respectful of others when discussing challenging ideas.
- ・ After class, review the ideas covered in your discussions. Return to your pre-readings and lecture notes to clarify points raised during the reflection and discussion sessions.

Demands of the course

Global Issues C is a very challenging course and therefore students are expected to spend at least 3 - 4 hours on homework per week to fully prepare for each lesson.

5. 教科書

Haslam, P. A., Schafer, J, & Beaudet, P. (2021). Introduction to International Development: Approaches, Actors, Issues, and Practice. Oxford: Oxford University Press. ISBN: 0199036438

(The Izumi library holds several copies of this text)

6. 参考書

Recommended supplementary reading

- ・ Desai, V. & Potter, R. B. (2014) The Companion to Development Studies. Third Edition. London: Routledge

An essential one-stop reference book for undergraduate students of international development.

- ・ Sachs, W. (2010)

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

- ・ Active participation: 30%
- ・ Classwork and homework (Preparation worksheets, classroom discussions, etc): 50%
- ・ Final presentation: 20%

9. その他

Homework policy

Being absent from class is not a valid excuse for failing to complete homework assignments. Even if you are absent from class, you are expected to come fully prepared for the next class with the necessary materials. Failure to do this may

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PSY196J	
科目名		心理学〔M〕	
担当者		中西 晶	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 心理学は、現在『こころの科学』として多方面に展開している。その一方であまりにもポピュラーになりすぎため、基礎的な知識を持たないままに理解したつもりになっている場合も多い。 そこで本講義では、現代の心理学におけるさまざまな議論を紹介し、心理学とはなにかについて正しい理解を得ることを目的とした講義を行い、できるだけ身近な事例や実験なども交えながら授業を進める。 (到達目標) 前半は主として『こころと適応』という観点から心理学の基本を紹介する。本講義を通して、人間、とくに自分自身を知る機会とし、豊かな学生生活を送るきっかけとなることを期待したい。後半では、主として『こころのメカニズム』について考える。身近な事例や簡単な実験も紹介しながら、認知、学習、対人的相互作用、社会現象などを心理学的見地から解説する。個人の内的過程から全体社会の構成まで一貫した目で見える視点を養いたい。また、近年進歩の著しい脳科学の成果が心理学に与えた影響も理解する。			
2. 授業内容 主として、以下のようなテーマで講義する。進捗等により若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 第1回：心理学を学ぶということ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：心理学の歴史と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：発達とライフサイクル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：動機付けと情動〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：性格と知能〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：メンタルヘルスとカウンセリング〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：中間まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：感覚と知覚〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：記憶のしくみ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：学習と思考〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：脳と心の関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：人間社会と人間心理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：経営学と心理学〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：全体まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施するので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日に Oh-o!Meiji にアップする。 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報情報を削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 経営心理学や社会学及び経営社会学、文化人類学、産業生理学等、人間に関する講義もあわせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要としないが、日常生活において常に問題意識を持ち、情報を探索・収集して、自分なりの考えをまとめていく姿勢が求められる。			
5. 教科書 長谷川寿一他著、『はじめて出会う心理学（第3版）』、有斐閣アルマ、2020 年			
6. 参考書 https://psychmuseum.jp/ 日本心理学会「心理学ミュージアム」			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報情報を削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-o!Meiji のアンケート機能を使用予定）各回 5 点×13 回＝65 点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-o!Meiji の小テスト機能を使用予定）35 点 合計 100 点満点で評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)PSY196J	
科目名		心理学〔M〕	
担当者		中西 晶	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 心理学は、現在『こころの科学』として多方面に展開している。その一方であまりにもポピュラーになりすぎため、基礎的な知識を持たないままに理解したつもりになっている場合も多い。 そこで本講義では、現代の心理学におけるさまざまな議論を紹介し、心理学とはなにかについて正しい理解を得ることを目的とした講義を行い、できるだけ身近な事例や実験なども交えながら授業を進める。 (到達目標) 前半は主として『こころと適応』という観点から心理学の基本を紹介する。本講義を通して、人間、とくに自分自身を知る機会とし、豊かな学生生活を送るきっかけとなることを期待したい。後半では、主として『こころのメカニズム』について考える。身近な事例や簡単な実験も紹介しながら、認知、学習、対人的相互作用、社会現象などを心理学的見地から解説する。個人の内的過程から全体社会の構成まで一貫した目で見える視点を養いたい。また、近年進歩の著しい脳科学の成果が心理学に与えた影響も理解する。			
2. 授業内容 主として、以下のようなテーマで講義する。進捗等により若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 第1回：心理学を学ぶということ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：心理学の歴史と方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：発達とライフサイクル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：動機付けと情動〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：性格と知能〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：メンタルヘルスとカウンセリング〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：中間まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：感覚と知覚〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：記憶のしくみ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：学習と思考〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：脳と心の関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：人間社会と人間心理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：経営学と心理学〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：全体まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施するので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日に Oh-o!Meiji にアップする。 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報情報を削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 経営心理学や社会学及び経営社会学，文化人類学，産業生理学等，人間に関する講義もあわせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要としないが、日常生活において常に問題意識を持ち、情報を探索・収集して、自分なりの考えをまとめていく姿勢が求められる。			
5. 教科書 長谷川寿一他著、『はじめて出会う心理学（第3版）』，有斐閣アルマ，2020 年			
6. 参考書 https://psychmuseum.jp/ 日本心理学会「心理学ミュージアム」			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報情報を削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-o!Meiji のアンケート機能を使用予定）各回 5 点×13 回＝65 点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-o!Meiji の小テスト機能を使用予定）35 点 合計 100 点満点で評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J	
科目名		教養演習 A	
担当者		一之瀬 真志	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：スポーツ生理学 〈概要〉 この演習では運動に対する身体の反応を実験・測定を通して学びます。運動時の生体反応は、個人の運動能力やフィットネスレベル、健康状態などと密接に関係しています。自分の身体に関する知識を客観的指標の測定と分析により身につけていきます。 〈到達目標〉 運動に対する生体反応とそのしくみについての基礎的知識を身につけるとともに、測定データを読み解き、考察し、議論するために必要な論理的思考力を高めることを目的とします。			
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回～3回 運動時の循環調節のしくみ 第4回～5回 安静時および運動時の血圧、心拍数の測定実習 第6～7回 血圧、心拍数のデータ解析 第8回 運動時の呼吸調節のしくみ 第9回 運動時のエネルギー代謝のしくみ 第10～11回 安静時および運動時の呼吸反応、酸素摂取量の測定 第12～13回 呼吸反応、酸素摂取量のデータ解析 第14回 測定データの発表、まとめ			
3. 履修上の注意 データの分析にはエクセルを使用します。また、発表にはパワーポイントを用います。エクセルとパワーポイントの使い方は基本から解説しますので、使ったことのない人でも大丈夫です。測定を行うため、履修希望者が多い場合は抽選となります。履修人数に応じて測定の内容を変える場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 運動生理学（池上晴夫，朝倉書店） 運動生理学概論（浅野勝巳，杏林書院） 運動生理学 20 講（勝田 茂，朝倉書店） Physiology of Sports and Exercise (Wilmore JH et al, Human Kinetics) Exercise Physiology (McArdle WD et al, Lippincott Williams & Wilkins)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後に Oh!-Meiji を通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（30％），発表（15％），討論への参加（25％），レポート（30％）。			
9. その他 自分の身体の機能に興味がある人，体力・運動能力を高めたい人，スポーツが好きな人，普段あまり運動をしてないけれど運動を始めたい人などの人，などには特に受講を勧めます。 ※履修希望者は第1回の授業に必ず出席してください。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 A		
担当者		折方　のぞみ		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ サン＝テグジュペリ『星の王子さま』を読み解く 概要 20 世紀フランスの作家、アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ(1900-1944)の代表作『星の王子さま』(1943) を、その英訳版を使って丁寧に読み解きます。第二次世界大戦の只中に出版された同書は当時の文脈の中で読み解かれることもある一方で、時代を超えて普遍的な「たいせつなこと」を伝えてくれる大人のための童話として、今なお世界中で読み継がれています。作品の内容を詳しく知らなくても、作者自身による可愛らしいイラストを見たことがないひとは少ないでしょう。実は『星の王子さま』は、小さな言語まで含めると 600 を超える国と地域の言語で翻訳されています。数多の作品がある中で、『星の王子さま』はなぜこんなにも世界中で愛され、翻訳されているのでしょうか。授業では、より原語のニュアンスに近い英訳版を使用しながら丁寧に読み解き、作品の魅力とメッセージをみなさんとともに（再）発見していきたいと思います。 到達目標 サン＝テグジュペリの人生とその思想について理解する。 『星の王子さま』の内容について深く理解する。 自分たちなりの切り口から作者や作品についてのグループ発表を行う。				
2. 授業内容 授業は主に、少人数のグループを作っての演習形式で行います。作品は少しずつ精読方式で読み進めますので、進行に合わせてグループごとに担当者を決め、まず担当者が担当箇所についてのレジュメを作成して発表を行います。その後、それぞれのグループで作品理解を深めるためのディスカッションを行い、最後にその日の各グループの成果発表を行います。数回に一回の割合で、教員による作品解説や補足情報の提供を行い、理解を深めます。最終的にはグループごとにテーマを設定し、プレゼンを行います。個人では、授業で得られたことについての簡単な小レポートの提出が求められます。 授業は大まかに、下記のスケジュールで進められます。 第 1 回　オリエンテーション、作者と作品について 第 2 回　「献辞」と扉絵、挿絵について 第 3 回　グループワーク (1)　I～IV 第 4 回　グループワーク (2)　V～VIII 第 5 回　作品解説 (1)　I～VIII 第 6 回　グループワーク (3)　IX～XIII 第 7 回　グループワーク (4)　XIV～XVIII 第 8 回　作品解説 (2)　IX～XVIII 第 9 回　グループワーク (5)　XIX～XXIV 第 10 回　グループワーク (6)　XXV～XXVII+あとがき 第 11 回　作品解説 (3)　XIX～XXVII（+あとがき） 第 12 回　グループワーク (7)　発表準備 第 13 回　グループ発表 (1) 第 14 回　グループ発表 (2) 上記は目安で、履修者の人数や顔ぶれ、関心の所在などによって変化する可能性があります。				
3. 履修上の注意 この授業はグループ学習という性質上、出席と参加が強く求められます。正当な理由なく欠席したり、コピペや生成系 AI などのツールでレジュメなどを作成していることが判明した場合には即単位取得資格を失います。 特に発表当日の欠席は絶対にしないようにしてください。体調不良などの理由で自分の発表担当日にやむをえず出席できなくなった場合にはグループの他のひとに代読してもらるか事前に担当変更をしておくこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業では予習に重きを置いています。 発表担当者は前日の夜 23 時半までに発表担当箇所のレジュメを作成してクラスウェブに提出のこと。 発表担当者以外の人も必ずその日の範囲を読み、疑問点やわからなかったこと、気づいたことなどをメモした上で出席すること。 また、授業後は毎回アクションペーパーを提出してもらいます。				
5. 教科書 Antoine de Saint-Exupéry, The Little Prince, translated by Richard Howard, KODANSHA, 2004(2017). 〔サン＝テグジュペリ『星の王子さま』(リチャード・ハワード訳) 講談社英語文庫 (KEL178) 〕				
6. 参考書 『星の王子さま』の和訳本を一冊 （ネット上の翻訳ではなく、「文庫本になっているもの」を各自一冊準備すること。				

ネット上の翻訳は完成度や信頼性に問題があるものも多いため。) 和訳本も教室で使用します。 解説本についても多く出ていますが、特に指定しません。

7. 課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて教室内でコメントや助言を行う。

8. 成績評価の方法

*出席・参加 30%
*担当箇所レジュメ&毎回のリアクションペーパー 30 %
*グループ発表&最終小レポート 40%
上記は目安で、総合的に判断されます。

9. その他

一冊の本を共同作業で読むという経験を通して、作品の深さと広がりを感じ、それぞれの「世界に一つだけの」解釈を発見できたと思います。また、和訳本を補助的に利用しながら英訳本で読んでいくことで、より原文の世界観を理解するとともに、楽しみながら英語力の向上を目指します。

「楽しい」授業にしたいと考えていますが、必ずしも「楽」をして単位を取れる授業ではありません（とはいえ特段厳しいわけでもありません）！きちんと作品の世界を楽しみ、積極的に授業に参加できるみなさんを募集します。

*この授業の参加にフラ

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J	
科目名		教養演習 A	
担当者		金子 敦子	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 ビジネス・コミュニケーション：Evidence を用いて「判断」を支援する 授業概要 本演習では、ビジネス・コミュニケーションを「情報をわかりやすく伝える技術」ではなく、データや証拠（Evidence）をどのように設計すれば、他者の理解や判断に貢献できるのかという観点から学ぶ。 学生は、身近な社会・学生データを対象に、質問紙調査を設計・分析し、その結果を用いて判断を支援するプレゼンテーションを行う。 授業は日本語で実施し、思考過程の言語化と批評を重視する。 到達目標 ビジネス・コミュニケーションにおける「判断支援」という考え方を説明できる 目的・受け手・場面に応じて Evidence を設計する視点（EBCD）を身につける データを用いて、他者の判断に配慮した視覚資料と口頭説明を構成できる 協働的に調査・分析・発表を行い、思考過程を振り返る態度を示す 主要成果物 共同調査プレゼンテーション（動画提出） 視覚資料（スライド） 調査設計・分析に関する補足資料 事前・事後測定、リフレクション			
2. 授業内容 授業計画（14 回） 【Phase 1】Evidence と Judgment（理論重視）第 1 回～第 4 回 第 1 回 ビジネス・コミュニケーションとは何か ― 情報ではなく「判断」を設計する 判断できないグラフを用いた導入 情報提供と判断支援の違い EBCD の基本的な考え方 事前測定 第 2 回 数字はなぜ説得力を持つのか ― 数字・比較・文脈 数字が人を納得させてしまう理由 比較軸と文脈の設計 判断を誤らせる数字の例 第 3 回 グラフは「見せるもの」ではなく「選ばせるもの」 良い／悪い可視化の原理 判断を助けるグラフ設計 グラフの批評演習 第 4 回 Evidence を用いた短い判断提示（個人） 1 スライド・1 分発表 内容よりも「なぜその設計か」を説明 相互コメント 【Phase 2】Primary Data as Designed Evidence 第 5 回～第 10 回 第 5 回 質問紙調査とは何か ― 測りたいものは何か 概念・変数・質問項目 モデルケース分析 グループ編成 第 6 回 質問項目の設計 ― バイアスと選択肢 よくある設計ミス 判断につながる質問とは グループでの設計検討 第 7 回 調査プロポーザル発表 判断目的の明確化 設計理由の説明 フィードバック 第 8 回 質問紙調査の実施と振り返り データ収集 設計上の課題の確認 第 9 回 データ分析① ― 数字は何を語っていないか			

クロス集計 読みすぎ・読まなさすぎ 第 10 回 データ分析② ― 有意差より意味 統計的検定の位置づけ 判断に使う／使わないの判断 【Phase 3】From Data to Judgment 第 11 回～第 14 回 第 11 回 考察とは何か ― 事実・解釈・含意 飛躍しない考察 判断へのつなげ方 第 12 回 モデルプレゼンテーション分析 EBCD の視点で読む 構成・Evidence・言語の関係 第 13 回 学生によるプレゼンテーション① 第 14 回 学生によるプレゼンテーション②／事後測定／振り返り 判断支援としての発表の振り返り 学習成果の言語化
3. 履修上の注意
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週、授業中の議論の準備と授業の振り返りを Oho! Meiji のディスカッションで共有してください。 Students are expected to read before each class the parts of the textbook and prepare for class discussions. As a review of the session, post your reflection to Oho! Meiji discussion.
5. 教科書
6. 参考書 Peter Cardon. (2024) . Business Communication: Developing Leaders for a Networked World 5th Edition. McGraw Hill
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oho! Meiji のディスカッションおよび授業内にフィードバックを行う。 Provide feedback through Oho! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.
8. 成績評価の方法 レポート・プレゼンテーション: 40% 課題・小テスト: 40% 授業貢献: 20% 出席: 14 回の授業のうち、3 回を超える欠席がある場合、単位取得はできない。遅刻は 3 回で欠席 1 回とする。
9. その他 授業言語は主に日本語で、英語を併用する。データ分析には主に Excel を使用する。留学生および留学を検討中の学生の履修を歓迎する。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 A		
担当者		薩摩 秀登		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：英語で日本史を読む 〈概要〉 英語による日本史の概説書を読む。どのような地域の歴史もそれぞれ固有の言語世界で展開しており、日本史を日本語以外で語るとは難しい。しかし、異なる言語で捉えてみることで、日本史に固有の概念や事象について、新たなコンテキストで理解し、新たな発見に結びつくこともある。授業では、英文で読むことにより、日本語との意味の違いなどを考えながら、日本史についての理解を深めていく。 この授業では、古代から中世にかけての歴史を対象とする。 〈到達目標〉 英文の正確な読解力を身につける。 そのうえで、英語で読むことにより、広い視野から日本史を捉える力を身につける。				
2. 授業内容 テキストとしては、主に R.H.P. Mason & J.G. Caiger, A History of Japan、および John Whitney Hall, Japan, From Prehistory to Modern Times を予定しており、主に古代から中世をとりあげる。 第1回 授業の概要説明 第2回 国家成立期 国の統一過程 第3回 国家成立期 統一政権 第4回 国家成立期 奈良時代（政治） 第5回 国家成立期 奈良時代（文化・社会） 第6回 平安時代 初期の政治 第7回 平安時代 政治の展開 第8回 平安時代 社会・文化 第9回 武士階層の成立 第10回 武家政権の成立 第11回 鎌倉時代の社会・文化 第12回 室町政権 第13回 室町時代の政治 第14回 室町時代の社会・文化 必要に応じて、適宜、小テストを実施する。				
3. 履修上の注意 テーマは日本史であるが、必ずしも日本史の詳しい知識が要求されるわけではない。 歴史に関するスタンダードな英文を読みたいと思う人、これまで日本史をあまり勉強してこなかったがここで理解を深めてみたいと思う人、あるいは広く歴史全体に関心のある人なども歓迎する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストをしっかり予習し、いつでも訳せるようにしておくこと。背景となる事柄についても調べてくれることが望ましい。				
5. 教科書 教科書は使用しない。				
6. 参考書 宮地正人編『日本史』山川出版社、2008 年 五味文彦、鳥海靖編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 通常の授業において行う。				
8. 成績評価の方法 平常点（授業に対する態度）100％ 小テストを実施した場合は、30％を小テストにあてる。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 A		
担当者		鈴井 正敏		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：自分のエネルギー消費能力を測ろう 人間は個人によって持っているエンジンの大きさが異なります。エンジンの大きさはエネルギー（カロリー）の消費能力であり、それは酸素の摂取能力から計算することができます。この授業では自分がどのくらいのエネルギー（カロリー）消費能力があるか、またどのくらい脂肪消費能力があるのかを実験により調べます。 実験では各自の最大酸素摂取量を測定します。その結果から、エネルギー（カロリー）の最大消費能力、心拍数に対応したカロリー消費量、脂肪燃焼能力と脂肪燃焼に適した運動強度、トレーニングの目的別運動強度を推定します。実験で得られた測定結果は表計算ソフトエクセル用いて解析します。また、データのまとめはパワーポイントで行います。エクセルとパワーポイントは基本から解説しますので、使ったことがない人でも大丈夫です。 自分の体力プロフィールを理解するとともに、トレーニングやダイエットに最適な運動強度を判断できるようになることが到達目標です。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：最大酸素摂取量の意味 第 3 回：人体のエネルギー代謝 第 4 回：測定手順と準備 第 5 回：最大酸素摂取量の測定 第 7 回：データ解析（最大酸素摂取量の決定） 第 8 回：データ解析（乳酸の蓄積ポイントの決定） 第 9 回：データ解析（心拍数とカロリー） 第 10 回：データ解析（脂肪消費能力） 第 11 回：食事調査（一日のカロリー摂取） 第 12 回：エネルギー出納 第 13 回：パワーポイント（データの表し方） 第 14 回：パワーポイント（まとめ）				
3. 履修上の注意 実験を行うので、WEB による事前受付となります。 実験は最大努力で行う自転車運動です。身体負担があることを理解してください。実験前は体調管理に注意してください。 実験後、データ処理の授業は大学の PC を使用しますが、課題も出しますので、PC の所持を前提としています。 データ解析以降では毎回の授業の終わりにデータファイルをレポートとして Oh-o! Meiji にアップします。 欠席すると測定や調査ができなかったり、データ解析の内容が分からなくなるので、注意してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 トレーニングやダイエットなど、得られたデータが自分にどのように役立てられるのか考えてください。 データ解析はやり方だけでなく、解析によって得られた結果の意味を理解してください。				
5. 教科書 使用しません。				
6. 参考書 とくに定めません。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業のなかで課題や問題点については常にディスカッションを行うとともに解説します。				
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（60%）、レポート（40%）により評価します。				
9. その他 履修希望者は第 1 回目の授業に必ず出席すること。 本授業は、受講人数制限があるため、履修に際しては、WEB による事前受付を実施します。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 A		
担当者		田中 充洋		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ラグビーフットボール文化論 〈概要〉 ラグビーフットボールは、12 世紀から 17 世紀、国家・地方官憲の度重なる禁止令に屈せず、英国国民の情熱によって継承されてきた。そして、それは、パブリックスクールの教育政策とイギリスの植民地政策とともに世界中に普及していった。とりわけオーストラリア・ニュージーランド・南アフリカでは、その国民性や風土に合致し、現在最もラグビーの盛んな大国として世界に知られている。 そこで、この講義ではラグビーボールに触れながら、そのゲームの基本的な構造やルールを学ぶ。さらに、南半球のプロラグビーを中心に、各国の強化システム・コーチング・PR 活動などを検証する。 〈到達目標〉 ラグビーフットボールのルールと基本スキルを学ぶ。また、世界各国のラグビー事情を紐解きながら現地の文化を理解する。				
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：フットボールの発展史（ラグビーフットボールの誕生と世界展開） 第2回：ラグビーゲームを学ぶ1（ルール解説1：これだけは知っておきたいルール） 第3回：ラグビーゲームを学ぶ2（ルール解説2：更にラグビーを楽しむ為のルール） 第4回：ラグビーゲームを学ぶ3（実技1：個人スキルa） 第5回：ラグビーゲームを学ぶ4（実技2：個人スキルb） 第6回：ラグビーゲームを学ぶ4（実技3：ユニットスキルとゲーム） 第7回：世界のラグビー事情1 オーストラリア：アボリジニ文化、学校体育、AIS、リーグ&オーグルールズ 第8回：世界のラグビー事情2 ニュージーランドのラグビー：マオリ文化、オールブラックス 第9回：世界のラグビー事情3 南アフリカのラグビー：アパルトヘイト、スプリングボクス 第10回：世界のラグビー事情4 北半球のラグビー：6 Nations、ラグビーユニオン 第11回：世界のラグビー事情5 日本のラグビー（TOP LEAGUE、大学、高校、ジュニア、7s） 第12回：世界のラグビー事情6 2019 年/2023 年ラグビーWC の検証と今後の展望 第13回：世界のラグビー事情7 ラグビーの精神（ノーサイド・キャプテンシーなど） 第14回 a：ラグビーゲームを学ぶ5（実技4：7 人制） b：まとめと振り返り				
3. 履修上の注意 ラグビーフットボールに興味を持つ学生対象 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。（希望者多数の場合、第1回目授業内での抽選となります。）				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業では、タックルやスクラムなどのコンタクトは行いません。 ただし、タッチなど簡易ルールによるゲーム（実技）を予定しています。 ボールゲームができる程度の準備（体力・服装）をしておくこと。				
5. 教科書 随時資料を提示します。				
6. 参考書 2023 年度ルールブック				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業終了後、全体的な講評、模範例などを紹介する。				
8. 成績評価の方法 平常点（出席状況、授業への貢献度：80％）と、数回行われるミニレポート（20％）により評価します。				
9. その他 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 A		
担当者		松野 裕		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：調査・研究の基礎（多様な調査・研究方法の学習） 〈概要〉 ・調査や研究のための知識・情報の収集・分析の方法の学習。 〈到達目標〉 ・調査や研究のための知識・情報の収集・分析の方法の基礎を獲得すること。				
2. 授業内容 第1講 イントロダクション。 第2講 新聞記事通時検索。 第3講 新聞記事四紙比較。 第4講 学術論文検索要約。 第5講 歴史的事実の文献による確認。 第6講 時系列データ分析。 第7講 2 集団の比較。 第8講 クロスセクションデータ。散布図の作成。 第9講 生成 AI の活用。 第10講 実験。 第11講 アンケート調査。 第12講 現地調査。 第13講 聞き取り調査。 第14講 まとめ。 授業の中で、各調査の結果の発表、質疑を行う。				
3. 履修上の注意 ・新しいことに挑戦したい、と思っている人向きと思われる。 ・課題の量は少なくはない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・宿題があるので、丁寧に取り組むことを要する。				
5. 教科書 特になし。				
6. 参考書 特になし。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で課題を発表する時等にコメントする。				
8. 成績評価の方法 ほぼ 100%の出席を単位取得の前提とする。 課題の提出状況の状況 90%，その他の活動状況 10%，の割合で成績を評価する。				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 A		
担当者		吉松 梓		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ネイチャー・ベースド・カウンセリング（自然・他者・自己とのつながりを取り戻す） 〈概要〉 都市化・情報化が進む現代社会において、人と自然とのつながりは減少している。実際に先進国の成人では、1 日の 95％を屋内で過ごしているというデータもある。このような自然と人との断絶は、不安や肥満など心身の問題の増加と関連していると言われている。一方で自然の中で過ごすことは、うつ症状の軽減や精神的な疲労からの回復など、人の心身の健康や well-being に貢献することが明らかになっている。そこで本授業は、自然を感じるプログラム、ロゲイニング、プロジェクト・アドベンチャー、和泉キャンパス自然体験マップづくり、などのキャンパス周辺で実施できる自然体験活動を展開し、自然・他者・自己とのつながりを取り戻すことねらいとする。 〈到達目標〉 1. グループでの活動を通して、自己理解・他者理解を深めることができる。 2. 地域の自然の特性を理解し、自然環境に配慮した行動をすることができる。 3. 体験から得た学びの意義をふりかえり、言語的・視覚的な情報で伝えることができる。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション／描画法 第2回 アイスブレイク／グループづくり 第3回 自然を感じるプログラム 1（導入） 第4回 自然を感じるプログラム 2（展開） 第5回 自然を感じるプログラム 3（発展） 第6回 ロゲイニング 1（地図とコンパス） 第7回 ロゲイニング 2（地域探索） 第8回 ロゲイニング 3（地域発見） 第9回 プロジェクト・アドベンチャー1（コミュニケーション） 第10回 プロジェクト・アドベンチャー2（イニシアティブ） 第11回 和泉キャンパス自然体験マップづくり 1（素材集め） 第12回 和泉キャンパス自然体験マップづくり 2（制作） 第13回 和泉キャンパス自然体験マップづくり 3（発表） 第14回 全体ふりかえり／描画法				
3. 履修上の注意 毎回の授業は、体験的な内容となるため運動に適した服装と靴を準備すること。グループワークを中心に実施するため、主体的・協働的な姿勢で参加すること。 ※履修希望者は第1回目授業に必ず出席すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から自分の心身の状態に気を配り、身近な自然に気づく視点を持つこと。				
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。				
6. 参考書 『アウトドアセラピーズ 実践入門 その可能性とまなざし』吉松梓・土方圭 監訳）Nevin J. Harper and Will W. Dobud 編）（晃洋書房）2025.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、ふりかえりシートのコメントをフィードバックする。				
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（55％）、ふりかえりシート（30％）、期末レポート（15％）を総合的に評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 A		
担当者		山下 佳江		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 *This course will be given in English only. この授業は英語で行われます。テーマは「ディスカッション」です。 This course aims to equip students with discussion skills in English. The discussion topics will be selected from various fields and students will work on one topic every week. The first half of the weeks will be based on more familiar topics: food, movies, vacations, travel, sleeping, and habits. For the second half, students will deal with topics that may need some preparations before the class such as socials and danger. Occasionally, students will be asked to write a reaction report or present their ideas at the end of the class. No exams will be given.				
2. 授業内容 Week 1 Introduction Week 2 Orientation, Food Week 3 Movies Week 4 Vacations Week 5 Travel Week 6 Sleeping (Zzz) Week 7 Habits Week 8 Socials Week 9 Image Week 10 Danger Week 11 Google Week 12 You Week 13 News Week 14 Review				
3. 履修上の注意				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For some of the topics, students need to prepare before the class. Also, students will occasionally write a short report as homework.				
5. 教科書 Discussions, Volume 2: An AZ resource book of short texts and questions for ESL/EFL courses By Adrian Wallwork with James Lawson. SEFL publishing ISIBM: 9781093490152				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given through grades or comments, or both.				
8. 成績評価の方法 Attendance and class work 80 Reports 20 *There will be no quizzes or exams.				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 B		
担当者		薩摩 秀登		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：英語で日本史を読む 〈概要〉 英語による日本史の概説書を読む。どのような地域の歴史もそれぞれ固有の言語世界で展開しており、日本史を日本語以外で語るのは難しい。しかし、異なる言語で捉えてみることで、日本史に固有の概念や事象について、新たなコンテキストで理解し、新たな発見に結びつくこともある。授業では、英文で読むことにより、日本語との意味の違いなどを考えながら、日本史についての理解を深めていく。 この授業では、近世・近代から現代にかけての歴史を対象とする。 〈到達目標〉 英文の正確な読解力を身につける。 英語で読むことにより、広い視野から日本史を捉える力を身につける。				
2. 授業内容 テキストとしては、主に R.H.P. Mason & J.G. Caiger, A History of Japan、および John Whitney Hall, Japan, From Prehistory to Modern Times を予定しており、主に近世から現代をとりあげる。 第 1 回 幕藩体制成立期の政治 第 2 回 幕藩体制成立期の社会 第 3 回 近世の政治 第 4 回 近世の社会 第 5 回 近世の文化 第 6 回 幕末・維新期の政治 第 7 回 幕末・維新期の社会 第 8 回 明治初期の政治 第 9 回 明治維新と近代化過程 第 10 回 明治期の社会 第 11 回 明治期の文化 第 12 回 第一次大戦後の政治 第 13 回 第一次大戦後の社会・文化 第 14 回 昭和初期 必要に応じて、適宜、小テストを実施する。				
3. 履修上の注意 テーマは日本史であるが、必ずしも日本史の詳しい知識が要求されるわけではない。 歴史に関するスタンダードな英文を読みたいと思う人、これまで日本史をあまり勉強してこなかったがここで理解を深めてみたいと思う人、あるいは広く歴史全体に関心のある人なども歓迎する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストをしっかり予習し、いつでも訳せるようにしておくこと。背景となることがらについても、調べてくることが望ましい。				
5. 教科書 教科書は使用しない。				
6. 参考書 宮地正人編『日本史』山川出版社、2008 年 五味文彦、鳥海靖編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 通常の授業において行う。				
8. 成績評価の方法 平常点（授業に対する態度）100％ 小テストを実施した場合は、30％を小テストにあてる。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J	
科目名		教養演習B	
担当者		真継 左和子	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：アカデミックリスニングとノートテイキング 〈概要〉 In this class, students will view authentic lectures using digital materials, take notes on the lecture content, and use their notes for discussion and other activities. The topics from the textbook are arranged into units that match up with core academic content areas such as sociology, linguistics, business, psychology, public health and so forth. Simultaneously, students will review and improve presentation skills, leading to a formal presentation as the final evaluation. 〈到達目標〉 The purpose of this class is to develop students’ academic language skills in the following areas: listening, note-taking, discussion, and presentation skills. Students explore a variety of topics derived from academic lecture content, building their note-taking and academic discussion skills, and later review how to construct and give a formal presentation.			
2. 授業内容 第1回：Introduction to the course 第2回：Unit 1 Sociology: Names 第3回：Unit 1 & quiz 第4回：Unit 2 Linguistics: Global English 第5回：Unit 2 & quiz 第6回：Unit 4 Business: Success in the global economy/mini-presentation 1 第7回：Unit 4 & quiz 第8回：Unit 7 Social psychology: Sports fans 第9回：Unit 7 & quiz 第10回：Unit 9 Public health: Global epidemic/mini-presentation 2 第11回：Unit 9 & quiz 第12回：Unit 10 Urban planning:21st century cities 第13回：Unit 10 & quiz/(mini-presentation 3) 第14回：Final presentations			
3. 履修上の注意 Active participation is required. Train delay slips（遅延証明） indicating a delay of only a few minutes will not be accepted. Missing 4 or more classes will automatically result in a failure of the course（except for reasons of family emergency and infections such as covid-19/flu）. Tardy（遅刻）： up to 30 minutes, 3 tardies=1 absence. If you wish to take this class, you MUST come to the first lesson.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For each unit, we will have discussions related to the topic. Therefore, it is essential that you learn about the topics and develop your own opinions.			
5. 教科書 『Contemporary Topics 2: Academic listening and note-taking skills.（4th ed.）』 by Ellen Kisslinger & Michael Rost.（Pearson Longman） You must buy a new textbook above. Used textbooks/photocopying are not allowed in this class.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given for each in-class presentation. Students will receive part scores as well as written comments.			
8. 成績評価の方法 Class participation（30%） Quizzes, homework, and mini-presentations（40%） Final Presentation（30%）			

9. その他

The class will be conducted mainly in English. Students who wish to study overseas have been taking this class to prepare themselves to study in a foreign country.

Having a TOEIC score of at least 550 is probably necessary to take this class.

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112J		
科目名		教養演習 B		
担当者		松野 裕		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：調査・研究の基礎の活用（多様な調査・研究方法を用いた論文の作成） 〈概要〉 ・特定のテーマを決め、各種の知識・情報の収集・分析方法を用いて調査・研究を行う。 〈到達目標〉 ・特定のテーマについて短い論文を作成する。				
2. 授業内容 第1講 イン트로ダクション 第2～13 講 各自が研究テーマを決め、各種文献（新聞、雑誌、書籍等）の検索や読解、時系列データの分析、クロスセクションデータの分析、アンケート調査、現地調査、聞き取り調査、などの方法を用いて、調査・研究を行ない、短い論文にまとめる。授業の中で、各調査の結果の発表、質疑を行う。 第14 講 まとめ				
3. 履修上の注意 ・教養演習 A とあわせて履修することが望ましい。（ただし、必須ではなく、調査・研究の方法論についての指導は適宜行われる。） ・調査・研究というものをやってみよう、と思っている人向きである。 ・課題の量は少なくはない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・実際に自らが興味をもつテーマについて授業外で調べたり、考えたり、書いたり、することが求められる。				
5. 教科書 特になし。				
6. 参考書 特になし。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で課題を発表する時等にコメントする。				
8. 成績評価の方法 ほぼ 100%の出席を単位取得の前提とする。 課題の提出状況の状況 90%、その他の活動状況 10%、の割合で成績を評価する。				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112E	
科目名		LA Seminar in Foreign Languages A 統一	
担当者		KIERNAN, PATRICK・DUPLICE, JOHN・MOREAU, ROBERT・BERNINGER, GEROGÉ	
2 単位	Year:1	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary This course aims to provide students with guidance on how to develop effective study habits and to effectively approach study at university. It includes time management skills and strategies and techniques needed to accomplish core academic tasks. The style of the class will also help to prepare students for English discussion-based classes as it will be taught in English and include pair-work, group work and informal feedback presentations. Students will also write a CV (Curriculum Vitae) and a personal statement which will become the basis for their first-year portfolio in the fall. In addition, students will have practice in notetaking and in listening to academic English. Toward the end of the semester, there will be a separate English lecture given by a guest speaker. Students will attend, take notes, and write up a summary and response. During Week 13 students will give a presentation to the class. There will be mid-term and final tests. Objectives By the end of this course students should be able to: (1) communicate effectively with a partner or in group discussion (2) give an in-class individual presentation on a prepared topic (3) write a CV and personal statement in English (4) understand effective strategies and be able to manage study at university effectively (5) be able to put study strategies into practice			
2. 授業内容 Week1 Introduction, Part A Self-efficacy: Managing your Success as a Student, Chapter 1 Success as a student: Take charge of your success Week2 Chapter 1 Success as a student Week3 Chapter 2 Gaining the most from your course: Engage, Enjoy, Excel Week4 Chapter 2 Gaining the most from your course: Engage, Enjoy, Excel Week5 Chapter 3 Employability and preparing for your future Week6 Chapter 3 Employability and preparing for your future Week7 Chapter 4 Successful study: Intelligence, strategy and personalized learning Week8 Mid-term listening test, Chapter 4 Successful study: Intelligence, strategy and personalized learning Week9 Chapter 5 The CREAM strategy for learning Week10 Chapter 5 The CREAM strategy for learning Week11 Chapter 6 Time management as a student Week12 Chapter 6 Time management as a student, Chapter 7 Managing stress and well-being Week13 Individual presentation Week14 a. Review b. Final Test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT1 年次必修科目です。GREAT 対象者以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 A copy of the textbook should be purchased from the university bookstore and brought to every class. Students should prepare for all classes by reviewing the content of the previous class and previewing the material in the next part of the textbook. Any supplementary materials provided during class or through Oh-o! Meiji should also be previewed and reviewed to maximize learning. In addition, specific preparation or review tasks will be announced during class and/or on Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 The Study Skills Handbook, 6th Edition, by Stella Cottrell, Macmillan Study Skills			
6. 参考書 Reference to other recommended study materials or sources will be given during class and/or posted on Oh-o! Meiji. You should keep a file of digital and/or paper copies of all materials.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The specific method of feedback may vary according to the teacher and assignment but will generally be either in class or through Oh-o! Meiji. All written assignments will receive written feedback. For presentations, students will submit the visuals and t			

8. 成績評価の方法

Class participation: 30%

CV and personal statement: 15%

MSBA Lecture summary/response: 10%

MT Test 5%

Presentation 15%

Final Test: 25%

S=90-100%; A=80-89%; B=70-79%; C=60-69% F= less than 60% T= absent from course

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112E		
科目名		LA Seminar in Foreign Languages B 統一		
担当者		KIERNAN, PATRICK・DUPLICE, JOHN・MOREAU, ROBERT・BERNINGER, GEROGE		
2 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary This course aims to provide students with guidance on how to develop effective study habits and to effectively approach study at university. It includes time management skills and strategies and techniques needed to accomplish core academic tasks. The style of the class will also help to prepare students for English discussion-based classes as it will be taught in English and include pair-work, group work and informal feedback presentations. At the beginning of the semester, there will be a listening test. Students will create a portfolio that includes an updated CV, a personal statement, and future prospects. In addition, students will have practice in notetaking and in listening to academic English. Toward the end of the semester, there will be a separate English lecture given by a guest speaker. Students will attend, take notes, and write up a summary and response. During Week 13 students will give a presentation to the class. There will be mid-term and final tests. Objectives By the end of this course students should be able to: (1) manage and communicate effectively in group discussions (2) work effectively with a group (3) present with confidence either individually or as part of a group (4) prepare a professional style portfolio (at a student level) (5) understand the principles of cultural competence and ability to put them into practice (6) take and make effective notes (7) understand and be able to apply critical thinking skills				
2. 授業内容 Week1 Introduction Chapter 7 Managing Stress and well-being Week2 After-summer listening test, Chapter 7 managing Stress and well-being Week3 Chapter 8 Working with others: Collaborative study Week4 Chapter 8 Working with others: Collaborative study Week5 Chapter 9 Developing cultural competence: Learning in diverse and international contexts Week6 Chapter 9 Developing cultural competence: Learning in diverse and international contexts Week7 Chapter 10 Effective reading and note-making Week8 Mid-term test, Chapter 10 Effective reading and note-making Week9 Chapter 10 Effective reading and note-making, Chapter 11 Researching and managing information for study Week10 Chapter 11 Researching and managing information for study Week11 Chapter 12 Critical thinking Week12 Chapter 12 Critical thinking Week13 Group presentation Week14 a. Review b. Final Test				
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT1 年次必修科目です。GREAT 対象者以外の学生は履修できません。)				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 A copy of the textbook should be purchased from the university bookstore and brought to every class. Students should prepare for all classes by reviewing the content of the previous class and previewing the material in the next part of the textbook. Any supplementary materials provided during class or through Oh-o! Meiji should also be previewed and reviewed to maximize learning. In addition, specific preparation or review tasks will be announced during class and/or on Oh-o! Meiji.				
5. 教科書 The Study Skills Handbook, 6th edition, by Stella Cottrell, Macmillan Study Skills				
6. 参考書 Reference to other recommended study materials or sources will be given during class and/or posted on Oh-o! Meiji. You should keep a file of digital and/or paper copies of all materials.				
7. 課題に対するフィードバックの方法				

The specific method of feedback may vary according to the teacher and assignment but will generally be either in class or through Oh-o! Meiji. All written assignments will receive written feedback. For presentations, students will submit the visuals and t

8. 成績評価の方法

Attendance & Class participation: 30%

MSBA English lecture summary & response: 10%

1st year-Portfolio: 15%

Group presentation: 15%

Mid-term test (incl. listening test): 10%

Final test (incl. listening test): 20%

S=90-100%; A=80-89%; B=70-79%; C=60-69% F= less than 60% T= absent from course

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112E		
科目名		LA Seminar in Foreign Languages C		
担当者		EDAMURA SHOHEI		
2 単位	Year:1	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 THEME: What' s The Good Thing To Do? This course aims to provide students with opportunities to discuss specific cases from real or fiction stories and form their own views based on their values. It includes presentations by students to introduce stories they want others to consider and evaluate. These stories may be taken from their own experiences, but they can also be picked from novels, cartoons, movies, animations, and others. Original fiction stories are welcome. Students will also write reaction papers after sessions.				
2. 授業内容 Week1 Introduction to the Course Week2 Personal Stories with Relatives and Friends I Week3 Personal Stories with Relatives and Friends II Week4 Personal Stories with Relatives and Friends III Week5 Personal Stories within Communities I Week6 Personal Stories within Communities II Week7 Personal Stories within Communities III Week8 Stories of the Current Politics I Week9 Stories of the Current Politics II Week10 Stories of the Current Politics III Week11 Stories of Historical Figures I Week12 Stories of Historical Figures II Week13 Stories of Historical Figures III Week14 Review				
3. 履修上の注意 All classes will be conducted in English and will be highly interactive. Students are expected to be prepared to discuss their beliefs and feelings about sensitive topics with others in the class. Reading, writing, and speaking in English inside and outside the classroom are highly recommended.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will be asked to pre-read the materials that the presenters provided in Oh-o! Meiji.				
5. 教科書 Resources will be provided as pdf files in Oh-o! Meiji.				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback for reaction papers will be provided in sessions.				
8. 成績評価の方法 Attendance & Class participation 42 Reaction Paper 28 Individual Presentation 30 100				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112E		
科目名		LA Seminar in Foreign Languages D		
担当者		EDAMURA SHOHEI		
2 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 THEME: Introduction to Philosophy This course aims to provide students with opportunities to read and discuss philosophical texts. It includes presentations by students to explain and interpret the contents of philosophical texts. Students will choose philosophical materials that they would like to read, and we are going to cover them in Week 12 and 14. Students will also write reaction papers after sessions.				
2. 授業内容 Week1 Introduction to the Course Week2 Apology and Crito (Plato) Week3 Republic I (Plato) Week4 Republic II (Plato) Week5 Nicomachean Ethics I (Aristotle) Week6 Nicomachean Ethics II (Aristotle) Week7 Discourse on the Method (Descartes) Week8 Meditations (Descartes) Week9 Thus Spoke Zarathustra (Nietzsche) Week10 Anarchy, State, and Utopia (Nozick) Week11 Mind: A Brief Introduction (Searle) Week12 Selected Text I Week13 Selected Text II Week14 Review				
3. 履修上の注意 All classes will be conducted in English and will be highly interactive. Students are expected to be prepared to discuss their beliefs and feelings about sensitive topics with others in the class. Reading, writing, and speaking in English inside and outside the classroom are highly recommended.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will be asked to pre-read the assigned texts and the materials that the presenters provided in Oh-o! Meiji.				
5. 教科書 Resources will be provided as pdf files in Oh-o! Meiji.				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback for reaction papers will be provided in sessions.				
8. 成績評価の方法 Attendance & Class participation 42 Reaction Paper 28 Individual Presentation 30 100				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112E		
科目名		LA Seminar in Foreign Languages C		
担当者		NAGAI HIROHISA		
2 単位	Year:1	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 In today’ s global and uncertain business environment, future professionals are required not only to acquire knowledge, but also to understand themselves, adapt to diverse contexts, and make independent, well-informed decisions. Students will learn strategic learning methods that foster self-awareness—such as clarifying personal values, strengths, interests, and aspirations—and examine how these elements can be aligned with long-term global career paths. Particular emphasis is placed on developing a global mindset, cross-cultural awareness, and the ability to reflect on one’ s role in multicultural and international settings. Active learning—“Learning by Doing” —is at the core of this class. Through proactive participation in discussions, group work, and projects conducted entirely in English, students will engage with peers from diverse backgrounds, integrate reflection with action, and strengthen essential competencies for global collaboration and communication. The ultimate goal of the course is for students to view themselves as the CEO of their own life and career. By conceptualizing themselves as a “company,” students will design a personalized blueprint called Company ME, which integrates self-analysis, strategic thinking, and global career planning. This process enables students to take ownership of their professional development and prepare for dynamic and complex global career environments where adaptability, responsibility, and self-directed learning are essential.				
2. 授業内容 Week 1 - Course Orientation (Mandatory to receive credit) Review course expectations, grading criteria, and the overall structure of Company ME. Complete a short self-introduction exercise and submit a Student Information Sheet. Attendance is mandatory to receive course credit. Week 2 - Self-Improvement and Vision Setting Write a short personal vision statement and identify current strengths and weaknesses. Map available resources (skills, networks, experiences) and discuss how to use them more strategically. Conclude with a written personal improvement goal for the semester. Week 3 - Career Exploration and Personality Tools Complete a personality assessment. Analyze the results and compare them with possible career paths and working styles. Reflect on whether the findings align with personal goals. Week 4 - Critical Thinking and Problem-Solving Work on a short case requiring structured problem-solving. Identify assumptions, generate alternatives, and choose solutions with logical reasoning. Strengthen analytical thinking for personal and professional decisions. Week 5 - Communication Strategies Practice structured speaking exercises to express ideas clearly. Apply persuasive techniques in short mini-presentations. Receive peer feedback on clarity, logic, and confidence. Week 6 - Conflict Management Analyze a conflict case and identify underlying interests of each party. Role-play a negotiation and attempt to reach a constructive agreement. Focus on listening skills and collaborative solutions. Week 7 - Interim Feedback and Self-Assessment Review participation and progress in the first half of the course. Complete a short self-evaluation and receive feedback. Set one concrete improvement goal for the second half. Week 8 - Collaboration and Teamwork Complete a timed collaborative task in small teams. Examine group roles, communication patterns, and decision-making styles. Reflect on how individual differences influence team performance. Week 9 - Meeting Skills and Idea Generation Simulate a structured team meeting with assigned roles. Practice agenda setting, time management, and idea facilitation. Reflect on how diverse perspectives enhance innovation. Week 10 - Role Model Research Select one role model and analyze their career path, key decisions, and global experiences. Present a summary and identify one concrete action applicable to personal development. Move from admiration to practical learning. Week 11 - Drafting Company ME Write the first full draft of Company ME, including mission, strengths, target industry/region, and a 3-5 year direction. Exchange drafts in pairs and respond to critical questions. Produce a structured and realistic strategy document.				

Week 12 - Action Plan and Strategic Refinement Convert the strategy into a concrete action plan with specific timelines. Eliminate vague goals and strengthen feasibility. Complete the final written Company ME blueprint. Week 13 - Presentation Rehearsal and Leadership Framing Transform the written strategy into a 10-minute CEO-style presentation. Practice delivery and prepare responses to critical questions. Refine clarity, confidence, and strategic storytelling. Week 14 - Final CEO Presentation Deliver the formal CEO presentation of Company ME. Present mission, competitive strengths, global positioning, and action roadmap. Respond to questions demonstrating strategic consistency and leadership stance.
3. 履修上の注意 English proficiency Students are required to use spoken English in the classroom. A minimum TOEFL iBT score of 65 is required. Enrollment Limit For exchange students, registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period. Attendance Policy Attendance at the first orientation session is mandatory for all students. Absences due to unavoidable and legitimate reasons will be considered only if official supporting documentation is submitted. Students who are absent from the first orientation session without such documentation will have their course registration canceled. As this is an experiential and participation-based course, students are required to attend at least 10 out of 14 classes (approximately 70%), including the orientation session to earn course credit. In addition, from the perspective of professional time management, late arrivals will result in point deductions.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.
5. 教科書 No textbook is required. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or distributed in class.
6. 参考書
7. 課題に対するフィードバックの方法 The first half of the course progress will be reviewed in Week 7. Feedback on other activities and exercises will be handed out or posted via Oh-o! Meiji.
8. 成績評価の方法 Class Engagement and Performance: 80% Quality of participation in discussions (clarity, logic, initiative): 40% Preparation and readiness for class (evidence of advance thinking and task completion): 20% Written work and Company ME development process (drafts, revisions, action plan): 20% Final CEO Presentation (Company ME): 20%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA) IND112E	
科目名		LA Seminar in Foreign Languages D	
担当者		NAGAI HIROHISA	
2 単位	Year:1	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course provides a practical and experiential introduction to sustainability management and the Sustainable Development Goals (SDGs). Students move beyond conceptual learning to explore how sustainability challenges can be identified, analyzed, and addressed in real contexts. Through a combination of campus-based fieldwork, team collaboration, and creative problem-solving, students examine sustainability issues at personal, organizational, and institutional levels. The course integrates key frameworks such as the Triple Bottom Line and emphasizes balanced decision-making through the Bearable, Equitable, and Viable perspectives. Interactive methods, including SDG action games and LEGO® Serious Play®, are used to support systems thinking, root-cause analysis, and the design of practical solutions. The course culminates in a final project in which students propose original “New SDGs” supported by evidence, concrete actions, and expected outcomes, integrating learning from theory, fieldwork, and reflective activities.			
2. 授業内容 Week1. Course Orientation (Mandatory for Course Credit) Unit 1: Foundations of Sustainability Management (Weeks 2-3) Students learn the basic concepts of sustainability management, including the SDGs and the Triple Bottom Line (TBL). The unit introduces the Bearable, Equitable, and Viable connectors as analytical tools for understanding balanced decision-making. Unit 2: Personal and Local Sustainability Perspectives (Week 4) Students reflect on sustainability issues related to their own homes or hometowns, linking global SDGs with personal and local contexts through peer sharing. Unit 3: Campus-Based Fieldwork and Best Practices (Weeks 5-7) Working in teams, students plan and conduct fieldwork on campus to identify SDG-related practices and challenges. Findings are presented and compared with best practices from PRME Champion universities. Unit 4: Creative SDG Action Design (Week 8) Through an SDG card-based game, students experience collaborative and creative approaches to generating sustainability solutions. Unit 5: Problem Analysis Using LEGO® Serious Play® (Weeks 9-10) Students use LEGO® Serious Play® to model sustainability problems, identify root causes, and develop proposals for original “New SDGs” based on team insights. Unit 6: Testing and Refining Sustainability Solutions (Weeks 11-13) Teams conduct a second round of fieldwork to test and improve their New SDG ideas, followed by action modeling using LEGO® Serious Play®. Unit 7: Integration and Final Presentation (Week 14) Students present revised New SDG proposals with evidence, concrete actions, and expected outcomes, integrating learning from theory, fieldwork, and LSP activities.			
3. 履修上の注意 Course Style Rather than a traditional lecture-based format, it adopts an interactive, participant-centered, active learning approach, including class discussions, in-class activities, individual and group projects, and presentations. In addition, this course is offered as an international collaborative learning class in which students from more than ten countries participate each year. Enrollment Limit For exchange students, registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period. Attendance Policy Attendance at the first orientation session is mandatory for all students. Absences due to unavoidable and legitimate reasons will be considered only if official supporting documentation is submitted. Students who are absent from the first orientation session without such documentation will have their course registration canceled. As this is an experiential and participation-based course, students are required to attend at least 10 out of 14 classes (approximately 70%), including the orientation session to earn course credit. In addition, from the perspective of professional time management, late arrivals will result in point deductions.			

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.

5. 教科書

No textbook is required. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or distributed in class.

6. 参考書**7. 課題に対するフィードバックの方法**

Feedback on other activities and exercises will be handed out or posted via Oh-o! Meiji.

8. 成績評価の方法

Class Participation and Engagement (40%)

Assessment is based on students' preparation for class, contribution to discussions and activities, and constructive involvement in team work throughout the course.

Fieldwork and Interim Presentations (30%)

Students are evaluated on team-based campus fieldwork and interim presentations, focusing on the quality of observation, analysis, and application of sustainability frameworks.

Final Presentation (30%)

The final team presentation is evaluated based on the clarity, originality, and feasibility of proposed "New SDGs," as well as the integration of insights from fieldwork and class activities.

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教養科目／ (C0) POL192J	
科目名		日本事情	
担当者		森永 由紀	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 この授業は、留学生およびこれから留学を希望している学生（こちらは政治経済学部に限る）を対象としています。日本の歴史や文化から政治や経済にいたるまで、日本に関するさまざまなテーマについて、政治経済学部ならではの多彩な講師陣によって展開されます。留学生にとっては、日本に関する多様な知識を得る機会となるとともに、海外留学を希望する一般の学生にとっても、留学先で日本を紹介するために有用な知識の獲得につながることでしょう。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション（兼子歩） 第2回 高校国語教科書の「定番」・「小説の神様」志賀直哉『城の崎にて』を読む（冨澤成實） 第3回 日本の伝統遊戯を学ぶ（後藤光将） 第4回 日本のゲーム業界について（ヨーク、ジェームズ） 第5回 日本語の丁寧表現に対する社会言語学的な視点（ジョージ、ジョニー E） 第6回 世界における日本人の政治意識と行動（加藤言人） 第7回 天皇と政治（相原耕作） 第8回 日本の人口と家族（鎌田健司） 第9回 データで見る日本経済（関根篤史） 第10回 日本の会社（日向祥子） 第11回 日本の環境問題：現在と過去（大森正之） 第12回 日本財政の現状（星野泉） 第13回 日本の老舗と地域産業（奥山雅之） 第14回 日本の中小企業の経営特質（森下正）			
3. 履修上の注意 定員は100名で、上記のように留学生と留学を希望する学生のための授業なので、次のような履修条件が設定されています。留学生は、春学期に履修登録を行う場合、優先的に登録されます。一般の学生は秋学期の抽選期間にエントリーを行うことができます。ただし「留学を希望する学生」を対象としているため、一般の学生は、短期留学派遣最低基準の TOEIC スコア 550 点以上を取得している必要があります。なお、留学生でも、秋学期に登録を行う場合には、一般の学生と同様の期間と条件になりますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予め Oh-o! Meiji を通じて予習課題が指定された場合は、必ず予習を行ってください。また回によっては意見の発表や、グループワークが課される場合もあるので、そのような場合には積極的に参加するように心がけてください。復習課題が課される場合も同様に、丹念に復習を行い、提出課題がある場合には必ず期限内に提出するようにしてください。			
5. 教科書 特になし。			
6. 参考書 授業中に適宜紹介の予定。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題等の講評を Oh-o! Meiji 等で行う。			
8. 成績評価の方法 各授業後に課題が課せられます。授業中にリアクションペーパーを記入し授業終了時に提出する場合や指定期限までに Oh-o! Meiji システム等で提出する場合があります。各回のリアクションペーパーが担当教員によって採点され、最終的に集計された結果が期末評価となります。			
9. その他 特になし			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(ST)ARS111J		
科目名		日本事情 A[留学生のみ]		
担当者		倉石 信乃		
2 単位	1 年次	春学期	生田	
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、現代日本人の意識や思考を反映する、大衆文化について考える。そのための素材として、また日本について知るための基礎的な教養としてアニメーション映画を取り上げる。 ジャパニメーション(日本型アニメーション映画)が確立・普及していった 1980 年代から現在の 2020 年代まで、それぞれの時代に生まれた代表的な作品数本を授業の中で鑑賞し、受講生それぞれの感想をクラス内で持ち寄り、発表し、みんなでディスカッションする。その発表のために各作品についての感想ノートを作成・提出してもらい、最終日にまとめの感想を提出する。 現代日本を代表するアニメ作品とそれを通してみる日本文化について、基礎的な知識を身に付けることが、本授業の到達目標となる。				
2. 授業内容 [第 1 回] イン트로ダクション： [第 2～5 回] 1980 年代のアニメーション映画 [第 6～9 回] 1990 年代のアニメーション映画 [第 10～13 回] 2000 年代以降のアニメーション映画 [第 14 回] まとめ：全体のふりかえり				
3. 履修上の注意 本授業で扱う映画はエンターテインメントとして創作された劇なので、楽しんで見てもらうことが何より大事である。積極的な授業参加を心掛けてほしい。 授業で扱う映画について毎回「感想ノート」の提出を求め、その提出をもって理解度の確認を行う。 「感想ノート」は返却しないので、必ずコピーをとっておくこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本授業では事前・事後にインターネットなどを通じて、授業で紹介する映画についての情報を把握しておくこと。				
5. 教科書 特に指定しません。				
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問等についての回答は Oh-o! Meiji にアップするか、次の授業内で行う。				
8. 成績評価の方法 授業参加の態度・感想ノート 80%、まとめの感想ノート 20%、合計 100%を満点とする。 注意事項：[u]「感想ノート」の作成に際し、生成 AI(Gemini、ChatGPT、Bing チャット等)を利用を禁じる。[/u] また、WEB 等にある文献から引用・参照を行う場合は、引用・参照部分を明示し、自身の「感想」に係わる記述と分けて記述すること。拙くとも、自分自身の見解を書くことが求められているのであり、そちらの方を積極的に評価する。また文章の「量」も多ければそれだけ、高評価となりうる。 以 上				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(ST)ARS111J	
科目名		日本事情 B[留学生のみ]	
担当者		加原 奈穂子	
2 単位	1 年次	秋学期	生田
1. 授業の概要・到達目標 この講義では、日本を知るうえで重要であるとともに、留学生の皆さんにとって比較的身近な言語やコミュニケーション、ジェンダーなどの話題を取り上げます。 まず、日本語の方言の多様性や方言をめぐる社会状況、外来語、先住民族の言語などを見ていくことを通して、単一文化の国として扱われがちな日本の多様性に目を向けていきます。次に、コミュニケーションにおける非言語的要素の働きや文化差の問題をとりあげて、日常的な異文化理解の問題について考えます。最後に、ジェンダーの視点を切り口として、教育、労働、結婚、家族といった身近な話題から日本の社会が直面している問題について考察を深めていきます。			
2. 授業内容 〔第 1 回〕言語の多様性と危機言語 〔第 2 回〕言語と方言 〔第 3 回〕沖縄のことばと文化 〔第 4 回〕沖縄の歴史と社会 〔第 5 回〕アイヌ民族の歴史と文化 〔第 6 回〕アイヌ民族とアイヌ語 〔第 7 回〕言語の変化と外来語 〔第 8 回〕言語と社会 〔第 9 回〕コミュニケーションと異文化理解 〔第 9 回〕非言語コミュニケーションと文化 〔第 11 回〕ジェンダーと関連概念 〔第 12 回〕ジェンダーと労働・結婚 〔第 13 回〕おわりに 〔第 14 回〕期末試験			
3. 履修上の注意 出席・理解度の確認のために、毎回の授業でリアクションペーパーを配布し、授業に関する考察や質問などを記入していただきます。遅刻については、授業開始 20 分以降に入室の場合、遅刻者用のリアクションペーパーを使用していただきます。配慮すべき事情があれば、リアクションペーパーに記入してください。 単位取得には総授業回数 14 回のうちの 3 分の 2 以上出席し、かつ期末試験の成績を総合して合格と判断されることが必要です。欠席の取り扱いについては、大学の規定では、①学校において予防すべき感染症に罹患した場合、大学に報告をすることで配慮の対象となります。詳しくは大学 HP の「学校において予防すべき感染症に罹患した場合の取り扱い」([url]https://www.meiji.ac.jp/certificate/mkmht0000007ha97.html[/url])をご確認ください(欠席について配慮対応を希望する場合は、登校が可能になった日から原則として 7 日以内に「学校において予防すべき感染症罹患・治癒証明書」の写しを教員に提出してください)。 その他、下記の事例についても、この授業では配慮の対象といたします。該当の事情を証明できる書類・写真などを速やかに講師に提示してください。 ②忌引き(対象は 1 親等(親、子)、2 親等(兄弟姉妹、祖母)および配偶者)、③教育実習、④インターンシップや就職活動でやむを得ない場合、⑤学校で予防すべき感染症以外の病気や怪我を負った場合、⑥裁判員制度で対象裁判員候補者に指名された場合などについて配慮を必要とする場合。 上記の①～⑥以外でも何かこまったことがあれば、授業の際に申し出ていただくか、Oh-o! Meiji のメッセージからご連絡ください。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 事前学習：授業で取り上げるテーマに関して、どのような知識や関心があるかを自身で整理してみてください。また、関連の新聞記事などにも積極的に目を通して、時事的な動きにも関心を持つようにしてください。 事後学習：授業で配布する資料を読むとともに、各回の授業で紹介した文献などをご自身で積極的に調べてみてください。不明な点などがあれば、ぜひ授業の際に質問をしてください。			
5. 教科書 幅広い領域にわたる話題を扱うため、特定の教科書は使用いたしません。各回、授業のレジュメを配布いたします。			

6. 参考書

各回、関連の参考文献を紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回、リアクションペーパーで理解度や考察の確認を行い、次回の授業でフィードバックをいたします。

8. 成績評価の方法

平常点（講義への出席と授業態度、毎回の授業で提出するコメントシートの考察など）60%、期末試験 40%

*単位取得には授業回数の3分の2以上出席し、かつ期末試験の成績を総合して合格と判断されることが必要です。

9. その他

講義の進め方は受講生の関心に応じて多少変更することがあります。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J	
科目名		経営総合講義 A	
担当者		高木 俊雄	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。この授業は, 以上の3点を目的として, 企業の方々と経営学部教員によって行なわれます。授業で扱う課題は, 協力企業(2社を予定)の現場で取り組まれている実際の課題です。みなさんは「リアルな企業事例」と格闘することを通して, 社会で求められている能力と, 自分の現在の力とのギャップを理解できるはずで す。 なお, この授業は, グループワークを基本としています。これは大学や企業において, さまざまな課題に取り組む基本的なスタイルで す。グループワークを通して, コミュニケーション能力を培って下さい。 〈到達目標〉 (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakShION (講座の目的) とマインドセツト 第2回 将来企業で働くことを Future Skills として意識した大学生としての学び方 (学生時代に身に付けたい考え方, グループワークとグループ分け) 第3回 企業テーマへの取り組み方 (目的の確認, 計画化, 研究成果の整理, プレゼン) 第4回 テーマ A (No. 1) 企業 A のゲストスピーカーからのヒアリング 第5回 テーマ A (No. 2) グループワーク (研究テーマの設定) 第6回 テーマ A (No. 3) 企業 A のゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第7回 テーマ A (No. 4) グループワーク (研究成果発表準備) 第8回 テーマ A (No. 5) 研究成果の発表と企業 A のゲストスピーカーからの講評 第9回 テーマ A の発表を踏まえて, テーマ B に向けてのリセット 第10回 テーマ B (No. 1) 企業 B のゲストスピーカーからのヒアリング 第11回 テーマ B (No. 2) グループワーク (研究テーマの設定) 第12回 テーマ B (No. 3) 企業 B のゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第13回 テーマ B (No. 4) グループワーク (研究成果発表準備) 第14回 テーマ B (No. 5) 研究成果の発表と企業 B のゲストスピーカーからの講評			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので, 前回までの授業の理解が不可欠です。 問題意識を持って, 積極的に授業に参加し, 不明確な点は授業中にしっかり確認すると共に, 十分な復習や事前準備を心がけることが 重要です。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 個人ごと, ならびに, グループワークのグループごとに, 復習と事前準備をマネジメントしてもらいます。			
5. 教科書 毎回講義資料を配布します。教科書は特に指定しません。 指定のテキストを初回授業時に頒布するほか, 随時講義資料を配布します。			
6. 参考書 必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 実践形式の授業であることから, 日々の授業への取り組みを重視し, 授業内でのディスカッション等での成果やレポートをもとに評価 します。授業への取り組み・参加 40 点, 報告内容 30 点, レポート 30 点。			
9. その他 この科目は内容により 1 年次のみ履修を認めます。 この講義の定員は 1 クラス 36 名とします。授業では, 6 人×6 グループを編成して進行します。 履修方法等については, 新入生ガイダンス期間に行う「経営総合講義 A (フューチャースキル講座)」の説明会で web での履修登録方法 について説明します。応募者多数の場合, 抽選となります。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J	
科目名		経営総合講義 A	
担当者		高木 俊雄	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。この授業は, 以上の 3 点を目的として, 企業の方々と経営学部教員によって行なわれます。授業で扱う課題は, 協力企業 (2 社を予定) の現場で取り組まれている実際の課題です。みなさんは「リアルな企業事例」と格闘することを通して, 社会で求められている能力と, 自分の現在の力とのギャップを理解できるはずで す。 なお, この授業は, グループワークを基本としています。これは大学や企業において, さまざまな課題に取り組む基本的なスタイルで す。グループワークを通して, コミュニケーション能力を培って下さい。 〈到達目標〉 (1) 主体性を身につける, (2) 社会に興味を持つ, (3) 社会で求められる力を理解する。			
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakShION (講座の目的) とマインドセッT 第 2 回 将来企業で働くことをFuture Skills として意識した大学生としての学び方 (学生時代に身に付けたい考え方, グループワークとグループ分け) 第 3 回 企業テーマへの取り組み方 (目的の確認, 計画化, 研究成果の整理, プレゼン) 第 4 回 テーマ A (No. 1) 企業 A のゲストスピーカーからのヒアリング 第 5 回 テーマ A (No. 2) グループワーク (研究テーマの設定) 第 6 回 テーマ A (No. 3) 企業 A のゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第 7 回 テーマ A (No. 4) グループワーク (研究成果発表準備) 第 8 回 テーマ A (No. 5) 研究成果の発表と企業 A のゲストスピーカーからの講評 第 9 回 テーマ A の発表を踏まえて, テーマ B に向けてのリセット 第 10 回 テーマ B (No. 1) 企業 B のゲストスピーカーからのヒアリング 第 11 回 テーマ B (No. 2) グループワーク (研究テーマの設定) 第 12 回 テーマ B (No. 3) 企業 B のゲストスピーカーとのディスカッション 研究成果の中間発表とゲストスピーカーとのディスカッション 第 13 回 テーマ B (No. 4) グループワーク (研究成果発表準備) 第 14 回 テーマ B (No. 5) 研究成果の発表と企業 B のゲストスピーカーからの講評			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので, 前回までの授業の理解が不可欠です。 問題意識を持って, 積極的に授業に参加し, 不明確な点は授業中にしっかり確認すると共に, 十分な復習や事前準備を心がけることが 重要です。			
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 個人ごと, ならびに, グループワークのグループごとに, 復習と事前準備をマネジメントしてもらいます。			
5. 教科書 毎回講義資料を配布します。教科書は特に指定しません。 指定のテキストを初回授業時に頒布するほか, 随時講義資料を配布します。			
6. 参考書 必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 実践形式の授業であることから, 日々の授業への取り組みを重視し, 授業内でのディスカッション等での成果やレポートをもとに評価 します。授業への取り組み・参加 40 点, 報告内容 30 点, レポート 30 点。			
9. その他 この科目は内容により 1 年次のみ履修を認めます。 この講義の定員は 1 クラス 36 名とします。授業では, 6 人×6 グループを編成して進行します。 履修方法等については, 新入生ガイダンス期間に行う「経営総合講義 A (フューチャースキル講座)」の説明会で web での履修登録方法 について説明します。応募者多数の場合, 抽選となります。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J		
科目名		経営総合講義 A		
担当者		中西 晶		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （1）主体性を身につける、（2）社会に興味を持ち、社会を知る、（3）現状の力を認識し、社会で求められる力を理解し、これからの学びを構築する。以上の3点を目的として、企業の方々と経営学部教員によって行われます。授業で扱う課題は、協力企業（2社を予定）の現場で取り組まれている実際の課題です。みなさんは「リアルな企業事例」と格闘することを通して、社会で求められている能力と、自分の現在の力とのギャップを理解できるはずです。 なお、この授業は、グループワークを基本としています。これは大学や企業において、さまざまな課題に取り組む基本的なスタイルです。グループワークを通して、コミュニケーション能力も培って下さい。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション（講座の目的）とマインドセット 第2回 将来企業で働くことを意識した大学生としての学び方 （学生時代に身に付けたい考え方、グループワークとグループ分け、課題への取り組み方） 第3回 （テーマA）企業Aのゲストスピーカーからのヒアリング 第4回 （テーマA）グループワーク（研究テーマの設定） 第5回 （テーマA）研究成果の中間発表と企業Aのゲストスピーカーとのディスカッション 第6回 （テーマA）グループワーク（研究成果発表準備） 第7回 （テーマA）研究成果の発表と企業Aのゲストスピーカーからの講評 第8回 テーマAの発表を踏まえて、テーマBに向けてのリセット 第9回 （テーマB）企業Bのゲストスピーカーからのヒアリング 第10回 （テーマB）グループワーク（研究テーマの設定） 第11回 （テーマB）研究成果の中間発表と企業Bのゲストスピーカーとのディスカッション 第12回 （テーマB）グループワーク（研究成果発表準備） 第13回 （テーマB）研究成果の発表と企業Bのゲストスピーカーからの講評 第14回 本授業のまとめ（振り返りを含め、今後の学びへの気づきを図る） ※なお、支援企業との日程調整を理由として、上記の授業計画は若干の変更が入る予定があります。				
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業の理解が不可欠です。 問題意識を持って積極的に授業へ参加し、不明確な点は授業中にしっかり確認するように心がけてください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業は、グループワークを円滑に進めるための十分な復習や事前準備が不可欠です。				
5. 教科書 初回の授業次に、必要に応じて指示します。また、随時講義資料を配布します。				
6. 参考書 必要に応じて指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji クラスウェブを通じてフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 実践形式の授業であることから、日々の授業への取り組みを重視し、授業内でのディスカッション等での成果やレポートをもとに評価します。授業への取り組み・チームへの貢献度 40 点、報告内容 30 点、レポート 30 点。				
9. その他 1 年次のみ、履修を認めます。 この講義の定員は、1 クラス 30 名程度とします。 履修方法等については、新入生ガイダンス期間に行う「経営総合講義 A」の説明会で web での履修登録方法について説明します。応募者多数の場合、抽選となります。				

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J	
科目名		経営総合講義 A	
担当者		岡田 天太	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （1）主体性を身につける、（2）社会に興味を持ち、社会を知る、（3）現状の力を認識し、社会で求められる力を理解し、これからの学びを構築する。以上の3点を目的として、企業の方々と経営学部教員によって行われます。授業で扱う課題は、協力企業（2社を予定）の現場で取り組まれている実際の課題です。みなさんは「リアルな企業事例」と格闘することを通して、社会で求められている能力と、自分の現在の力とのギャップを理解できるはずです。なお、この授業は、グループワークを基本としています。これは大学や企業において、さまざまな課題に取り組む基本的なスタイルです。グループワークを通して、コミュニケーション能力も培ってください。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（講座の目的）とマインドセット 第2回 将来企業で働くこと/起業する等の多様な進路を意識した大学生としての学び方（学生時代に身に付けたい考え方、グループワークとグループ分け、課題への取り組み方） 第3回 （テーマA）企業Aのゲストスピーカーからのヒアリング 第4回 （テーマA）グループワーク（研究テーマの設定） 第5回 （テーマA）研究成果の中間発表と企業Aのゲストスピーカーとのディスカッション 第6回 （テーマA）グループワーク（研究成果発表準備） 第7回 （テーマA）研究成果の発表と企業Aのゲストスピーカーからの講評 第8回 テーマAの発表を踏まえて、テーマBに向けてのリセット 第9回 （テーマB）企業Bのゲストスピーカーからのヒアリング 第10回 （テーマB）グループワーク（研究テーマの設定） 第11回 （テーマB）研究成果の中間発表と企業Bのゲストスピーカーとのディスカッション 第12回 （テーマB）グループワーク（研究成果発表準備） 第13回 （テーマB）研究成果の発表と企業Bのゲストスピーカーからの講評 第14回 本授業のまとめ（振り返りを含め、今後の学びへの気づきを図る） ※なお、支援企業との日程調整を理由として、上記の授業計画は若干の変更が入る予定があります。			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業の理解が不可欠です。問題意識を持って積極的に授業へ参加し、不明確な点は授業中にしっかり確認するように心がけてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 初回の授業次に、必要に応じて指示します。また、随時講義資料を配布します。			
5. 教科書 初回の授業次に、必要に応じて指示します。また、随時講義資料を配布します。			
6. 参考書 必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内のグループワークや Oh-o!Meiji クラスウェブ、メール等を通じてフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 実践形式の授業であることから、日々の授業への取り組みを重視し、授業内でのディスカッション等での成果やレポートをもとに評価します。授業への取り組み・チームへの貢献度 40 点、報告内容 30 点、レポート 30 点。			
9. その他 1 年次のみ、履修を認めます。この講義の定員は、1 クラス 30 名程度とします。履修方法等については、新入生ガイダンス期間に行う「経営総合講義 A」の説明会で web での履修登録方法について説明します。応募者多数の場合、抽選となります。			

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J	
科目名		経営総合講義 B	
担当者		高木 俊雄	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 現在、企業活動を展開している協力企業 1 社と学生の自発的・主体的なグループワーク、講師のファシリテーションを基本とする授業科目である。授業で扱うテーマは、協力企業の現場で実際に発生している重要課題であり、そうした企業のリアルな事例の問題解決に対する挑戦を通して、実社会で求められている能力と自分の現在の力とのギャップを理解し、ギャップの克服を目指してもらう。 同時に、経営組織における様々な問題解決に取り組むための基本的な取り組み方法であるグループワークを通して、コミュニケーション能力（企業との質疑応答や講師とのメールのやり取り等のコミュニケーションを含む）、情報収集能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を学習・強化していく。企業のゲストスピーカーからの課題提示とヒアリング、多面的な情報収集、各グループでのディスカッション、自主的な調査・フィールドワーク等を行い、最終的に協力企業に対して研究成果のプレゼンテーションを行い、企業からの評価を受ける。本講義は、以下の 4 点を到達目標とする。 （１）グループワークや協力企業とのやり取りを通じて、主体性と協調性を身につける。 （２）現実の企業活動を体験することによって、社会に対する知識・関与を深める。 （３）以上の諸活動を通じて、社会で実際に求められる様々な能力・スキルを理解する。 （４）グループで問題解決に取り組む成果を出したという成功体験をメンバー間で共有する。 ※必要に応じて、マーケティング、マネジメントの必要知識、管理会計の基本的知識、業界情報、アンケートを始めとする調査技法等、問題解決のフレームワークや必要情報を示唆・提供するが、与えられるのではなく自ら自発的・主体的に掘み取っていく姿勢が求められる。			
2. 授業内容 第 1 回 授業イントロダクション（講座の目的、内容、進め方、マインドセット）と将来企業で働くことを Future Skills として意識した大学生としての学び方（学生時代に身につけたい考え方、グループ分けと最初のグループワーク）の説明と共有 第 2 回 グループワークに必要な基本的知識・スキル（マーケティング、経営学、調査手法等）の習得 第 3 回 企業テーマへの取り組み方の理解（目的の確認、計画化、研究成果の整理、プレゼン） 第 4 回 [1] 企業のゲストスピーカーからの課題提示と質疑応答 第 5 回 [2] グループワーク（アイデア出し、方向性の共有） 第 6 回 [3] グループワーク（情報収集、中間報告の準備、簡易リハーサル） 第 7 回 [4] 企業に対する研究成果の中間報告とゲストスピーカーの評価・ディスカッション 第 8 回 [5] グループワーク（中間報告の反省と方向性のリセット） 第 9 回 [6] グループワーク（最終報告の準備 1） 第 10 回 [7] グループワーク（最終報告の準備 2） 第 11 回 [8] グループワーク（最終報告の準備 3） 第 12 回 [9] グループワーク（最終調整とリハーサル） 第 13 回 [10] 企業に対する最終報告とゲストスピーカーのコメント、順位発表 第 14 回 [11] 授業の総括（反省と今後の展望） ※進捗状況によって各回の内容・順番の微調整を行うことがある。 ※第 4 回、第 7 回、第 13 回は協力企業が参加する予定。			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業内容の理解が不可欠であり、受け身ではなく自ら主体的に授業に参加するスタンスが求められる。原則として、欠席・遅刻は許可しないので、全回出席できる条件と意志が求められる（病気、事故、弔事等正当な理由がある場合の欠席・遅刻は配慮する）。 授業中のグループワークが基本となるが、授業時間外の作業やフィールドワーク、メンバーとのコミュニケーション等が不可欠である。授業時間外は、必ずしも全メンバーが参加できるわけではないので、チーム内での合意と調整が必要になる。 各チーム（履修者数によってチーム数は変動）は 5 名～6 名で構成し、リーダーを一人選出する。リーダーはチーム内の調整を行うとともに、ファイルのやり取りや企業とのコミュニケーションを先頭に立って実行する。メンバーもリーダー任せにはせず、自らもリーダーであるという自覚を持ち、積極的・自発的にチームの運営に協力してもらいたい。 納期厳守等、ビジネス上必要不可欠なルール・マナーを遵守すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要に応じて提供される情報の内容で、特にグループワークに資すると思われる部分には必ず目を通しておくこと。また、グループワークに資すると思われる知識・情報に関しては、可能な限り積極的・多面的に収集・整理しておくこと。 「Oh 明治」の「授業お知らせ管理」で授業内容のアナウンスをするので、履修期間中必ず目と通しておくこと。			
5. 教科書 教科書は使用しない。必要に応じて資料や情報を提供するが、学生の主体的・自発的な情報収集を重視する。			

6. 参考書

必要に応じて授業中に指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終報告の内容・評価に対するフィードバックは、第一義的には最終報告時に協力企業の担当者が行う。それをふまえて、中間報告終了時、最終報告終了時および最終授業で講師がフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

試験は実施しない。授業への参加度 30%，授業への貢献度 20%，最終報告内容 50%。

9. その他

この科目は1年次生及び2年次生のみ履修を認める。定員は1クラス約36名，授業は5～6人×5～6グループの編成で進行する。

中間報告や最終報告にあたっては，グループとして授業時間以外の作業時間が不可欠であり，講師とのメールを通じてのコミュニケーションが求められる。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J		
科目名		経営総合講義B		
担当者		高木 俊雄		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 現在、企業活動を展開している協力企業1社と学生の自発的・主体的なグループワーク、講師のファシリテーションを基本とする授業科目である。授業で扱うテーマは、協力企業の現場で実際に発生している重要課題であり、そうした企業のリアルな事例の問題解決に対する挑戦を通して、実社会で求められている能力と自分の現在の力とのギャップを理解し、ギャップの克服を目指してもらう。 同時に、経営組織における様々な問題解決に取り組むための基本的な取り組み方法であるグループワークを通して、コミュニケーション能力（企業との質疑応答や講師とのメールのやり取り等のコミュニケーションを含む）、情報収集能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を学習・強化していく。企業のゲストスピーカーからの課題提示とヒアリング、多面的な情報収集、各グループでのディスカッション、自主的な調査・フィールドワーク等を行い、最終的に協力企業に対して研究成果のプレゼンテーションを行い、企業からの評価を受ける。本講義は、以下の4点を到達目標とする。 （１）グループワークや協力企業とのやり取りを通じて、主体性と協調性を身につける。 （２）現実の企業活動を体験することによって、社会に対する知識・関与を深める。 （３）以上の諸活動を通じて、社会で実際に求められる様々な能力・スキルを理解する。 （４）グループで問題解決に取り組む成果を出したという成功体験をメンバー間で共有する。 ※必要に応じて、マーケティング、マネジメントの必要知識、管理会計の基本的知識、業界情報、アンケートを始めとする調査技法等、問題解決のフレームワークや必要情報を示唆・提供するが、与えられるのではなく自ら自発的・主体的に掘み取っていく姿勢が求められる。				
2. 授業内容 第1回 授業イントロダクション（講座の目的、内容、進め方、マインドセット）と将来企業で働くことをFuture Skillsとして意識した大学生としての学び方（学生時代に身につけたい考え方、グループ分けと最初のグループワーク）の説明と共有 第2回 グループワークに必要な基本的知識・スキル（マーケティング、経営学、調査手法等）の習得 第3回 企業テーマへの取り組み方の理解（目的の確認、計画化、研究成果の整理、プレゼン） 第4回 [1]企業のゲストスピーカーからの課題提示と質疑応答 第5回 [2]グループワーク（アイデア出し、方向性の共有） 第6回 [3]グループワーク（情報収集、中間報告の準備、簡易リハーサル） 第7回 [4]企業に対する研究成果の中間報告とゲストスピーカーの評価・ディスカッション 第8回 [5]グループワーク（中間報告の反省と方向性のリセット） 第9回 [6]グループワーク（最終報告の準備1） 第10回 [7]グループワーク（最終報告の準備2） 第11回 [8]グループワーク（最終報告の準備3） 第12回 [9]グループワーク（最終調整とリハーサル） 第13回 [10]企業に対する最終報告とゲストスピーカーのコメント、順位発表 第14回 [11]授業の総括（反省と今後の展望） ※進捗状況によって各回の内容・順番の微調整を行うことがある。 ※第4回、第7回、第13回は協力企業が参加する予定。				
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業内容の理解が不可欠であり、受け身ではなく自ら主体的に授業に参加するスタンスが求められる。原則として、欠席・遅刻は許可しないので、全回出席できる条件と意志が求められる（病気、事故、弔事等正当な理由がある場合の欠席・遅刻は配慮する）。 授業中のグループワークが基本となるが、授業時間外の作業やフィールドワーク、メンバーとのコミュニケーション等が不可欠である。授業時間外は、必ずしも全メンバーが参加できるわけではないので、チーム内での合意と調整が必要になる。 各チーム（履修者数によってチーム数は変動）は5名～6名で構成し、リーダーを一人選出する。リーダーはチーム内の調整を行うとともに、ファイルのやり取りや企業とのコミュニケーションを先頭に立って実行する。メンバーもリーダー任せにはせず、自らもリーダーであるという自覚を持ち、積極的・自発的にチームの運営に協力してもらいたい。 納期厳守等、ビジネス上必要不可欠なルール・マナーを遵守すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要に応じて提供される情報の内容で、特にグループワークに資すると思われる部分には必ず目を通しておくこと。また、グループワークに資すると思われる知識・情報に関しては、可能な限り積極的・多面的に収集・整理しておくこと。 「Oh 明治」の「授業お知らせ管理」で授業内容のアナウンスをするので、履修期間中必ず目を通しておくこと。				
5. 教科書 教科書は使用しない。必要に応じて資料や情報を提供するが、学生の主体的・自発的な情報収集を重視する。				

6. 参考書

必要に応じて授業中に指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終報告の内容・評価に対するフィードバックは、第一義的には最終報告時に協力企業の担当者が行う。それをふまえて、中間報告終了時、最終報告終了時および最終授業で講師がフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

試験は実施しない。授業への参加度 30%，授業への貢献度 20%，最終報告内容 50%。

9. その他

この科目は1年次生及び2年次生のみ履修を認める。定員は1クラス約36名，授業は5～6人×5～6グループの編成で進行する。

中間報告や最終報告にあたっては，グループとして授業時間以外の作業時間が不可欠であり，講師とのメールを通じてのコミュニケーションが求められる。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J	
科目名		経営総合講義B	
担当者		中西 晶	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 現在、企業活動を展開している協力企業1社と学生の自発的・主体的なグループワーク、講師のファシリテーションを基本とする授業科目である。授業で扱うテーマは、協力企業の現場で実際に発生している重要課題であり、そうした企業のリアルな事例の問題解決に対する挑戦を通して、実社会で求められている能力と自分の現在の力とのギャップを理解し、ギャップの克服を目指してもらう。 同時に、経営組織における様々な問題解決に取り組むための基本的な取り組み方法であるグループワークを通して、コミュニケーション能力（企業との質疑応答や講師とのメールのやり取り等のコミュニケーションを含む）、情報収集能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を学習・強化していく。企業のゲストスピーカーからの課題提示とヒアリング、多面的な情報収集、各グループでのディスカッション、自主的な調査・フィールドワーク等を行い、最終的に協力企業に対して研究成果のプレゼンテーションを行い、企業からの評価を受ける。本講義は、以下の4点を到達目標とする。 （１）グループワークや協力企業とのやり取りを通じて、主体性と協調性を身につける。 （２）現実の企業活動を体験することによって、社会に対する知識・関与を深める。 （３）以上の諸活動を通じて、社会で実際に求められる様々な能力・スキルを理解する。 （４）グループで問題解決に取り組む成果を出したという成功体験をメンバー間で共有する。 ※必要に応じて、マーケティング、マネジメントの必要知識、管理会計の基本的知識、業界情報、アンケートを始めとする調査技法等、問題解決のフレームワークや必要情報を示唆・提供するが、与えられるのではなく自ら自発的・主体的に掘み取っていく姿勢が求められる。			
2. 授業内容 第1回 授業イントロダクション（講座の目的、内容、進め方、マインドセット）と将来企業で働くことをFuture Skillsとして意識した大学生としての学び方（学生時代に身につけたい考え方、グループ分けと最初のグループワーク）の説明と共有 第2回 グループワークに必要な基本的知識・スキル（マーケティング、経営学、調査手法等）の習得 第3回 企業テーマへの取り組み方の理解（目的の確認、計画化、研究成果の整理、プレゼン） 第4回 [1]企業のゲストスピーカーからの課題提示と質疑応答 第5回 [2]グループワーク（アイデア出し、方向性の共有） 第6回 [3]グループワーク（情報収集、中間報告の準備、簡易リハーサル） 第7回 [4]企業に対する研究成果の中間報告とゲストスピーカーの評価・ディスカッション 第8回 [5]グループワーク（中間報告の反省と方向性のリセット） 第9回 [6]グループワーク（最終報告の準備1） 第10回 [7]グループワーク（最終報告の準備2） 第11回 [8]グループワーク（最終報告の準備3） 第12回 [9]グループワーク（最終調整とリハーサル） 第13回 [10]企業に対する最終報告とゲストスピーカーのコメント、順位発表 第14回 [11]授業の総括（反省と今後の展望） ※進捗状況によって各回の内容・順番の微調整を行うことがある。 ※第4回、第7回、第13回は協力企業が参加する予定。			
3. 履修上の注意 連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業内容の理解が不可欠であり、受け身ではなく自ら主体的に授業に参加するスタンスが求められる。原則として、欠席・遅刻は許可しないので、全回出席できる条件と意志が求められる（病気、事故、弔事等正当な理由がある場合の欠席・遅刻は配慮する）。 授業中のグループワークが基本となるが、授業時間外の作業やフィールドワーク、メンバーとのコミュニケーション等が不可欠である。授業時間外は、必ずしも全メンバーが参加できるわけではないので、チーム内での合意と調整が必要になる。 各チーム（履修者数によってチーム数は変動）は5名～6名で構成し、リーダーを一人選出する。リーダーはチーム内の調整を行うとともに、ファイルのやり取りや企業とのコミュニケーションを先頭に立って実行する。メンバーもリーダー任せにはせず、自らもリーダーであるという自覚を持ち、積極的・自発的にチームの運営に協力してもらいたい。 納期厳守等、ビジネス上必要不可欠なルール・マナーを遵守すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必要に応じて提供される情報の内容で、特にグループワークに資すると思われる部分には必ず目を通しておくこと。また、グループワークに資すると思われる知識・情報に関しては、可能な限り積極的・多面的に収集・整理しておくこと。 「Oh 明治」の「授業お知らせ管理」で授業内容のアナウンスをするので、履修期間中必ず目と通しておくこと。			

5. 教科書

教科書は使用しない。必要に応じて資料や情報を提供するが、学生の主体的・自発的な情報収集を重視する。

6. 参考書

必要に応じて授業中に指示する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終報告の内容・評価に対するフィードバックは、第一義的には最終報告時に協力企業の担当者が行う。それをふまえて、中間報告終了時、最終報告終了時および最終授業で講師がフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

試験は実施しない。授業への参加度 30%，授業への貢献度 20%，最終報告内容 50%。

9. その他

この科目は 1 年次生及び 2 年次生のみ履修を認める。定員は 1 クラス約 36 名，授業は 5～6 人×5～6 グループの編成で進行する。

中間報告や最終報告にあたっては、グループとして授業時間以外の作業時間が不可欠であり、講師とのメールを通じてのコミュニケーションが求められる。

科目区分／科目ナンバー		教養科目／(BA)MAN191J	
科目名		経営総合講義 B	
担当者		岡田 天太	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 本講義は、協力企業 1 社と学生の自発的・主体的なグループワーク、講師のファシリテーションを基本とする授業科目です。授業で扱うテーマは、協力企業の現場で実際に発生している重要課題であり、そうした企業のリアルな事例の問題解決に対する挑戦を通して、実社会で求められている能力と自分の現在の力とのギャップを理解し、ギャップの克服を目指します。また、経営組織における様々な問題解決に取り組むため、グループワークを通して、コミュニケーション能力（企業との質疑応答や講師とのメールのやり取り等のコミュニケーションを含む）、情報収集能力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を学習・強化していきます。企業のゲストスピーカーからの課題提示とヒアリング、多面的な情報収集、各グループでのディスカッション、自主的な調査・フィールドワーク等を行い、最終的に協力企業に対して研究成果のプレゼンテーションを行い、企業からの評価を受けます。 本講義は、以下の 4 点を到達目標とします。（１）グループワークや協力企業とのやり取りを通じて、主体性と協調性を身につける。（２）現実の企業活動を体験することによって、社会に対する知識・関与を深める。（３）以上の諸活動を通じて、社会で実際に求められる様々な能力・スキルを理解する。（４）グループで問題解決に取り組み成果を出したという成功体験をメンバー間で共有する。 ※必要に応じて、マーケティング、マネジメントの必要知識、管理会計の基本的知識、業界情報、アンケートを始めとする調査技法等、問題解決のフレームワークや必要情報を示唆・提供しますが、受け身ではなく自発的・主体的に掘み取っていく姿勢を求めます。			
2. 授業内容 第 1 回 授業イントロダクション（講座の目的、内容、進め方、マインドセット）と将来企業で働く/起業することといった多様な進路を意識した大学生としての学び方（学生時代に身につけたい考え方、グループ分けと最初のグループワーク）の説明と共有 第 2 回 グループワークに必要な基本的知識・スキル（マーケティング、経営学、調査手法等）の習得 第 3 回 企業テーマへの取り組み方の理解（目的の確認、計画化、研究成果の整理、プレゼン） 第 4 回 [1]企業のゲストスピーカーからの課題提示と質疑応答 第 5 回 [2]グループワーク（アイデア出し、方向性の共有） 第 6 回 [3]グループワーク（情報収集、中間報告の準備、簡易リハーサル） 第 7 回 [4]企業に対する研究成果の中間報告とゲストスピーカーの評価・ディスカッション 第 8 回 [5]グループワーク（中間報告の反省と方向性のリセット） 第 9 回 [6]グループワーク（最終報告の準備 1） 第 10 回 [7]グループワーク（最終報告の準備 2） 第 11 回 [8]グループワーク（最終報告の準備 3） 第 12 回 [9]グループワーク（最終調整とリハーサル） 第 13 回 [10]企業に対する最終報告とゲストスピーカーのコメント、順位発表 第 14 回 [11]授業の総括（反省と今後の展望） ※進捗状況によって各回の内容・順番の微調整を行うことがある。 ※第 4 回、第 7 回、第 13 回は協力企業が参加する予定。			
3. 履修上の注意 ・連続性のあるテーマをグループで扱うので、前回までの授業内容の理解が不可欠であり、受け身ではなく自ら主体的に授業に参加するスタンスを求めます。原則として、欠席・遅刻は許可しないので、全回出席できる条件と意志が求められます（病気、事故、弔事等正当な理由がある場合の欠席・遅刻は配慮する）。 ・授業中のグループワークが基本となりますが、必要に応じて授業時間外の作業やフィールドワーク、メンバーとのコミュニケーション等が不可欠となります。授業時間外は、必ずしも全メンバーが参加できるわけではないので、チーム内での調整を求めます。 ・各チーム（履修者数によってチーム数は変動）は 5 名～6 名で構成し、リーダーを一人選出します。リーダーはチーム内の調整を行うとともに、ファイルのやり取りや企業とのコミュニケーションを先頭に立って実行していきます。メンバーもリーダー任せにはせず、自らもリーダーであるという自覚を持ち、積極的・自発的にチームの運営に協力をお願いします。 ・資料提出の納期厳守等、ビジネス上必要不可欠なルール・マナーの遵守をお願いします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で伝達される情報の内容で、特にグループワークに必要なと思われる部分には必ず目を通してください。また、課題に取り組む上で必要と思われる知識・情報に関しては、積極的に収集・整理することを求めます。Oh-o!Meiji の「授業お知らせ管理」で授業内容のアナウンスをするので、履修期間中必ず目を通しておくようにしてください。			
5. 教科書 教科書は使用しません。必要に応じて資料や情報を提供しますが、学生の主体的・自発的な情報収集を重視します。			

6. 参考書

必要に応じて授業中に指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終報告の内容・評価に対するフィードバックは、第一義的には最終報告時に協力企業の担当者が行います。それをふまえて、中間報告終了時、最終報告終了時および最終授業で講師がフィードバックを行います。

8. 成績評価の方法

試験は実施しません。授業への参加度 30%、授業への貢献度 20%、最終報告内容 50%。

9. その他

この科目は1年次及び2年次のみ履修を認めます。定員は1クラス約36名、授業は5～6人×5～6グループの編成で進行していきます。中間報告や最終報告にあたっては、グループとして授業時間以外の作業時間が不可欠であり、講師とのメールを通じてのコミュニケーションが求められます。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語（初級） A（統一） 通常クラス E1	
担当者			
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 新入生必修の英語コミュニケーションクラス。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをコミュニカティブに学べる英語のテキストを使用し、基本的に英語で授業を行う。しかし、必要に応じて日本語を使用することもある。コミュニケーション活動を可能にし、学生一人一人に最大限の注意を払うため、クラスの人数は 30 人程度までの少人数制とする。そのため、学生は授業中に積極的に行動することが求められます。 授業はコミュニカティブ英語教育行われ、生徒は教室や宿題で様々な方法で英語を使う。4 技能コースなので、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングが含まれる。ただし、ペアワークやグループワークを通して、ディスカッションやプレゼンテーションを含むスピーキングの機会を優先する。 授業の目標 本授業を受講することにより、以下のことができるようになる： (1) すべて英語で行われる授業に積極的に参加できる。 (2) 読む、書く、話す、聴くといったコミュニケーションにおける英語の使い方に慣れている。 (3) 個人的な話題や身近な話題について、短い会話に参加するための英語に慣れている。 (4) 準備した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。 (5) 身近な話題について英語で書かれた中級レベルの資料を読み、理解することができる。 (6) E メールなどの文章によるコミュニケーションができる。 また、将来、グローバルな組織で働くために必要な英語力を身につけるために、将来、英語で行われる授業や短期留学で英語を使うための基礎を養う可能性を持っていること。			
2. 授業内容 このコースでは、英語で書かれた教科書を使用し、文化的なトピック、時事問題、グローバルな問題、ビジネスのトピックなど、個人的かつ一般的なトピックを扱います。講師は、教科書の内容を補足するために、インターネットを利用したリーディングやリスニング、プリント（サマリーライティング付き）を使用することがあります。また、リーディングを基に口頭でのレポートやプレゼンテーション、クラス内でのディスカッションを行います。E メールライティングのセッションも含まれる。副教材として、E メールライティング、TOEIC、その他の英語資格試験の教材を使用することもある。授業概要に記載されたスケジュールに従い、毎週教科書・副教材の新しい部分を取り上げます。また、前回の復習や次週の予習も行います。具体的な授業内容は、授業中に紹介されるか、または授業担当教員が提供するシラバスの補足に記入されます。			
3. 履修上の注意 GREAT プログラム受講生を除く新入生全員の必修科目です。履修クラスは、事務局が運営するシステムに従い、指定されたクラスに振り分けられるか、または空いているクラスから選択することができます。新入生オリエンテーションの際に、クラス選択・割り当てのシステムを紹介します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 すべての授業において、前回の授業内容を復習し、教科書の次のパートの内容を予習しておくことが望ましい。授業中や Oh-o! Meiji を通して提供される補助教材も、予習・復習を行い、学習効果を最大限に高めるようにする。また、予習や復習のための具体的な課題は、授業中や Oh-o! Meiji で発表し、シラバスの補足に記載する。			
5. 教科書 教科書は、シラバスの補足および初回の授業で担当教員が紹介し、大学の書店で購入できる。すべての学生は、指定された教科書を一冊購入する必要がある。			
6. 参考書 その他の推奨される学習資料や情報源は、授業中に提供されるか、または Oh-o!Meiji に掲載される。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックの具体的な方法は、担当教員や課題によって異なりますが、通常、授業中または Oh-o! Meiji を通じて行われ、シラバスの補足に記載されます。			
8. 成績評価の方法 学期中の課題に割り当てられる具体的な割合は、シラバスの補足、最初の授業中に発表されるか、または最初の授業中に配布されるプリントに示される。典型的なパターンは以下の通りである： 授業への参加度 40 宿題 30 プレゼンテーション/特別課題 30			

9. その他

すべての生徒は時間厳守で登校し、すべての授業に出席しなければなりません。病気やその他のやむを得ない事情による欠席は、可能な限り教師に直接連絡し、その証拠を提出すること。ただし、やむを得ない遅刻や欠席であっても、全体的な成績に影響する場合があります。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語（初級）B（統一）通常クラス E1	
担当者			
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 新入生必修の英語コミュニケーションクラス。初級英語 A のスキルを発展させ、より高い自信と習熟度を身につける。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングをコミュニケーションに学べるようデザインされた英語のテキストを使用し、基本的に英語で授業を行う。低レベルのクラスでは日本語を使用することもあります。コミュニケーション活動を可能にし、学生一人ひとりに最大限の注意を払うため、クラスの人数は通常 30 人程度までの少人数制とする。そのため、学生は授業中に積極的に行動することが求められます。授業はコミュニケーションなアプローチで行われ、生徒は教室や宿題で様々な方法で英語を使います。4 技能コースなので、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングが含まれる。ただし、ペアワークやグループワークを通して、ディスカッションやプレゼンテーションを含むスピーキングの機会を優先する。 授業の目標 本授業を受講することにより、以下のことができるようになる： (1) 全て英語で行われる授業に自信を持って積極的に参加できる。 (2) 読む、書く、話す、聞くなどのコミュニケーションに自信を持って英語を使うことができる。 (3) 日常会話に参加するために、個人的で身近な話題について自信を持って英語を使うことができる、 (4) 準備した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。 (5) 様々なトピックについて英語で書かれた中級レベルの本格的な教材を読み、理解することができる。 (6) E メールなどの文章を通して、明確なコミュニケーションができる。 また、将来、グローバルな組織で働くために必要な英語力を身につけるため、将来、英語で行われる授業や短期留学で英語を使うための基礎を身につける。			
2. 授業内容 このコースでは、英語で書かれた教科書を使用し、文化的なトピック、時事問題、グローバルな問題、ビジネスのトピックなど、個人的かつ一般的なトピックを扱います。講師は、教科書の内容を補足するために、インターネットを利用したリーディングやリスニング、プリント（サマリーライティング付き）を使用することがあります。また、リーディングを基に口頭でのレポートやプレゼンテーション、クラス内でのディスカッションを行います。E メールライティングのセッションも含まれる。副教材として、E メールライティング、TOEIC、その他の英語資格試験の教材を使用することもある。授業概要に記載されたスケジュールに従い、毎週教科書・副教材の新しい部分を取り上げます。また、前回の復習や次週の予習も行います。具体的な授業内容は、授業中に紹介されるか、または授業担当教員が提供するシラバスの補足に記入されます			
3. 履修上の注意 GREAT プログラム受講生を除く新入生全員の必修科目です。履修クラスは、事務局が運営するシステムに従い、指定されたクラスに振り分けられるか、または空いているクラスから選択することができます。新入生オリエンテーションの際に、クラス選択・割り当てのシステムを紹介します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 すべての授業において、前回の授業内容を復習し、教科書の次のパートの内容を予習しておくことが望ましい。授業中や Oh-o! Meiji を通して提供される補助教材も、予習・復習を行い、学習効果を最大限に高めるようにする。また、予習や復習のための具体的な課題は、授業中や Oh-o! Meiji で発表し、シラバスの補足に記載する。			
5. 教科書 教科書は、シラバスの補足および初回の授業で担当教員が紹介し、大学の書店で購入できる。すべての学生は、指定された教科書を一冊購入する必要がある。			
6. 参考書 その他の推奨教材や情報源については、授業中または Oh-o! Meiji に掲載します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックの具体的な方法は、担当教員や課題によって異なりますが、通常、授業中または Oh-o! Meiji を通じて行われ、シラバスの補足に記載されます。			
8. 成績評価の方法 学期中の課題に割り当てられる具体的な割合は、初回の授業中に発表され、初回授業中に配布されるプリントに示される。典型的なパターンは以下の通りである： 授業への参加度 40 宿題 30 プレゼンテーション／特別課題 30			

9. その他

すべての生徒は時間厳守で登校し、すべての授業に出席しなければなりません。病気やその他のやむを得ない事情による欠席は、可能な限り教師に直接連絡し、その証拠を提出すること。ただし、やむを得ない遅刻や欠席であっても、全体的な成績に影響する場合があります。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語（初級） A（統一） 通常クラス E2		
担当者				
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 「概要」 大学入学までに学習した英語をもとに、4 技能（Listening, Speaking, Reading, Writing）を満遍なく発達させることを目標とする。具体的には、テキストや動画、映画等その他教材を利用しながら英語を読む・聞く、その内容を正確に理解・まとめる・発表することを扱う。卒業後を踏まえて、TOEIC 対策も兼ねてビジネスや日常で使うフレーズや単語の学習、academic English も適宜扱う。ペアワークやグループワークを通して、学生同士積極的に英語を使う。 「到達目標」 テキスト等教材の内容を正確に理解する。 自分の考えを口頭で、もしくは書いて発表する。 クラスの内容とレベルに沿った語彙を習得し、自信を持って使う。 状況や内容に応じたフレーズや単語に注意して聞き取る。 他者の考えを尊重しつつ、適切に自分の意見を表現する。				
2. 授業内容 授業の詳細（教科書を含む）は、シラバスの補足を参照すること。				
3. 履修上の注意 初回の授業でオリエンテーションを実施予定。よって履修希望者は必ず出席すること。 単位取得のための欠席回数、遅刻の扱い等の詳細は担当教員の指示に従うこと。 辞書等は担当教員の指示に従うこと。 連絡事項等の確認のため、定期的に Oh-o! Meiji をチェックすること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従うこと。				
5. 教科書 担当教員の指示に従うこと。 教科書を購入しなければならない場合は、早めにキャンパス指定の教科書販売場所にて購入すること（販売期間が終了した後は通常返品される）。教科書を購入せず、クラスメートの教科書をコピーしたり、写真を撮影して利用する等の行為は固く禁止する。				
6. 参考書 担当教員の説明を聞くこと。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当教員の説明を聞くこと。				
8. 成績評価の方法 担当教員の説明を聞くこと。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語（初級） B（統一） 通常クラス E2		
担当者				
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 「概要」 秋学期も引き続き、4 技能（Listening, Speaking, Reading, Writing)を満遍なく発達させることを目標とする。具体的には、テキストや動画、映画等その他教材を利用しながら英語を読む・聞く、その内容を正確に理解・まとめる・発表することを扱う。卒業後を踏まえて、TOEIC 対策も兼ねてビジネスや日常で使うフレーズや単語の学習、academic English も適宜扱う。ペアワークやグループワークを通して、学生同士積極的に英語を使う。 「到達目標」 テキスト等教材の内容を正確に理解する。 自分の考えを口頭で、もしくは書いて発表する。 クラスの内容とレベルに沿った語彙を習得し、自信を持って使う。 状況や内容に応じたフレーズや単語に注意して聞き取る。 他者の考えを尊重しつつ、適切に自分の意見を表現する。				
2. 授業内容 授業の詳細（教科書を含む）は、シラバスの補足を参照すること。				
3. 履修上の注意 初回の授業でオリエンテーションを実施予定。よって履修希望者は必ず出席すること。 単位取得のための欠席回数、遅刻の扱い等の詳細は担当教員の指示に従うこと。 辞書等は担当教員の指示に従うこと。 連絡事項等の確認のため、定期的に Oh-o Meiji!をチェックすること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従うこと。				
5. 教科書 担当教員の指示に従うこと。 教科書を購入しなければいけない場合は、早めにキャンパス指定の教科書販売場所にて購入すること（販売期間が終了した後は通常返品される）。教科書を購入せず、クラスメートの教科書をコピーしたり、写真を撮影して利用する等の行為は固く禁止する。				
6. 参考書 担当教員の説明を聞くこと。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当教員の説明を聞くこと。				
8. 成績評価の方法 担当教員の説明を聞くこと。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語（初級） A E1 コミュニケーション英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）		
担当者		河内山 晶子		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbook chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion. （概要） 英語コミュニケーション（特に会話）の優れたお手本は、名作映画のシナリオにちりばめられており、心に残る英語のフレーズは、名曲の中に豊かに謳いあげられています。映画と歌という「英語表現の宝庫」を活用して、「心豊かな英語学習」をしていきます。名作を教材化したものを使っていただく予定です。長く誰にも愛され続けてきた「オズの魔法使い」、映画史上興行成績トップの「風と共に去りぬ」、日本人が平成 30 年間で最も印象深い洋画としてあげている「タイタニック」等といった作品において、まず全体像をとらえた上で、クライマックスシーンにおける登場人物の発話を深く掘り下げます。十分な理解がなされた上で、表情豊かに発話して、表現を身につけます。さらにそれを活用して自分自身の気持ちも表するという創造性も発揮していただきます。本授業が目指すのは、4 技能のバランスのとれた学習を通しての「コミュニケーション力の鍛錬」です。 さらに本授業では、映画や歌の活用だけに終わらず、ネットで入手できる無尽蔵の情報を自ら選んで収集する「多読多聴」も取り入れます。今後の国際社会ではネット上の膨大な情報から必要なものを選び、そのポイントを押さえて大意を把握する力が求められます。授業では、学んだ映画や歌に関連する分野はもちろんですが、皆さん各々にとっての「本当に知りたいこと」をトピックにして調べていただく機会を提供します。意欲的に読み、聞き、それを参考にして自分で考えたことを、お互いにシェアしましょう。この楽しい体験を積み重ねることを通して、「英語を楽しむ態度を身につけ、英語を更に好きになる」ことが、国際的視野での生涯にわたる自己教育の土台となることでしょう。 ◆なお、シラバス欄に示しているのは、開講前に考案した「予定」であり、実際の授業では、履修の状況や履修者の意向等の様々な点から鑑みて、内容や進度が、建設的な意味で変更されることがありますのでご了承ください。 （到達目標） ・英語学習への関心・意欲が高まる ・名作に触れて聴解力・読解力が高まる ・発話練習で身に着けた英語表現で自身を表現でき、自身の見解も表現できる ・関心あることについて情報を収集し理解して自分の見解が言え、相互で意見交換できる				
2. 授業内容 1 回目：オリエンテーション（英語力、学習方法について考える。受講方法の説明など） 2 回目：作品 1 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 3 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 4 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 5 回目：内容の十分な理解をふまえたテーマの探求： ①様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 6 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 7 回目：作品 2 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 8 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 9 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 10 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10 回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 11 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 12 回目：作品 3 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 13 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10 回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する				

②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう

14 回目：評価のための課題・活動

15 回目：これからの英語学習に向けての議論

3. 履修上の注意

初回にオリエンテーション（重要）をしますので必ず出席して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

〈事前〉

映像を視聴し、教材で指定された映像の部分の聴き取り課題に取り組む

〈事後〉

教室で深めた理解をもとに表情豊かにセリフを反復して英語表現を身につけるとともに、自分に関心の高いテーマに関する必要な情報を収集して多読多聴し大意を掴んだうえで、自分の見解を述べ合う。

5. 教科書

初回に指示します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

試験 50% 平常点（小テスト・課題提出を含む）50%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語（初級） B E1 コミュニケーション英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）		
担当者		河内山 晶子		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbook chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion. （概要） 英語コミュニケーション（特に会話）の優れたお手本は、名作映画のシナリオにちりばめられており、心に残る英語のフレーズは、名曲の中に豊かに謳いあげられています。映画と歌という「英語表現の宝庫」を活用して、「心豊かな英語学習」をしていきます。名作を教材化したものを使っていただく予定です。長く誰にも愛され続けてきた「オズの魔法使い」、映画史上興行成績トップの「風と共に去りぬ」、日本人が平成 30 年間で最も印象深い洋画としてあげている「タイタニック」等といった作品において、まず全体像をとらえた上で、クライマックスシーンにおける登場人物の発話を深く掘り下げます。十分な理解がなされた上で、表情豊かに発話して、表現を身につけます。さらにそれを活用して自分自身の気持ちも表するという創造性も発揮していただきます。本授業が目指すのは、4 技能のバランスのとれた学習を通しての「コミュニケーション力の鍛錬」です。 さらに本授業では、映画や歌の活用だけに終わらず、ネットで入手できる無尽蔵の情報を自ら選んで収集する「多読多聴」も取り入れます。今後の国際社会ではネット上の膨大な情報から必要なものを選び、そのポイントを押さえて大意を把握する力が求められます。授業では、学んだ映画や歌に関連する分野はもちろんですが、皆さん各々にとっての「本当に知りたいこと」をトピックにして調べていただく機会を提供します。意欲的に読み、聞き、それを参考にして自分で考えたことを、お互いにシェアしましょう。この楽しい体験を積み重ねることを通して、「英語を楽しむ態度を身につけ、英語を更に好きになる」ことが、国際的視野での生涯にわたる自己教育の土台となることでしょう。 ◆なお、シラバス欄に示しているのは、開講前に考案した「予定」であり、実際の授業では、履修の状況や履修者の意向等の様々な点から鑑みて、内容や進度が、建設的な意味で変更されることがありますのでご了承ください。 （到達目標） ・英語学習への関心・意欲が高まる ・名作に触れて聴解力・読解力が高まる ・発話練習で身に着けた英語表現で自身を表現でき、自身の見解も表現できる ・関心あることについて情報を収集し理解して自分の見解が言え、相互で意見交換できる				
2. 授業内容 1 回目：オリエンテーション（英語力、学習方法について考える。受講方法の説明など） 2 回目：作品 1 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 3 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 4 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 5 回目：内容の十分な理解をふまえたテーマの探求： ①様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 6 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 7 回目：作品 2 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 8 回目：クライマックスシーン（2）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（3）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 9 回目：クライマックスシーン（4）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 クライマックスシーン（5）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 10 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10 回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する ②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう 11 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求：前回の続き 12 回目：作品 3 の全体的把握 クライマックスシーン（1）語彙/表現/発音/正誤問題/聴解/ロールプレイ/要約 13 回目：内容理解を踏まえたテーマの探求： ①10 回目：様々な意見（教員や友人）を受け止め、よく理解する				

②自分自身でネットリサーチして考察を深めそれをシェアしあう

14 回目：評価のための課題・活動

15 回目：これからの英語学習に向けての議論

3. 履修上の注意

初回にオリエンテーション（重要）をしますので必ず出席して下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

〈事前〉

映像を視聴し、教材で指定された映像の部分の聴き取り課題に取り組む

〈事後〉

教室で深めた理解をもとに表情豊かにセリフを反復して英語表現を身につけるとともに、自分に関心の高いテーマに関する必要な情報を収集して多読多聴し大意を掴んだうえで、自分の見解を述べ合う。

5. 教科書

初回に指示します。

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

試験 50% 平常点（小テスト・課題提出を含む）50%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語（初級） A E1 コミュニケーション英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）	
担当者		宮下 いづみ	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbooks chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion.			
2. 授業内容 1 What Makes a Good Call? 2 Making a Video Call 3 Getting Through 4 Opening a Call 5 Messages 6 Structuring a Call 7 Transferring Information 8 Communication Difficulties 9 Calling Back 10 Making Appointments 11 Complaints 12 Closing a Call 13 Calls in Different Cultures/ Final Exam, review 14 Business Tips for Calls			
3. 履修上の注意 英語①A Communication のクラスから1つ選び、WEB 登録すること。 【重要】TOEIC スコア 300 点程度の学生を対象としているクラスです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習： ユニットの左にある単語をチェックし、テキストに目を通しておくこと。 復習： 右ページにある Dialog を聞いて、何度もシャドーイングし表現に慣れておくこと。			
5. 教科書 『Communicating in Business English』（Compass Publishing） Second Edition Student Book 1 9781640156227			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 個々のフィードバックは授業内に行います。それを生かして次の課題に取り組んでください。			
8. 成績評価の方法 Active participation: 20, Written assignments:15, Presentation: 15, Final exam 50			
9. その他 This will be an active class. Please feel free to ask questions after the class. To enhance your fluency, extensive reading is highly recommended.			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語（初級） B E1 コミュニケーション英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）		
担当者		宮下 いづみ		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with all the four skills (listening, speaking, reading, writing) necessary in order to become an effective communicator in English. Especially, the aspect of oral English is emphasized in this course. Integrating the four skills using appropriate textbooks chosen by the instructor, students will become accustomed to using English as means of obtaining information (through listening and reading) and communicating their thoughts (through discussion and writing). Instructors may supplement the textbook material with Internet reading or handouts (with summary writing) for extra reading and also using the reading as a basis for oral reports and presentations of in class discussion.				
2. 授業内容 1 What Makes a Good Presentation？ 2 Presentation Types 3 Equipment& Environment 4 Starting a Presentation 5 Signposting 6 Highlighting& Emphasizing 7 Engaging Your Audience 8 Visuals 9 Body Language & Persuasion 10 Communication Styles 11 Closing a Presentation 12 Handling Questions 13 Presentations in Different Cultures/ Final Exam, Review 14 Business Tips for Presenting				
3. 履修上の注意 英語①A Communication のクラスから1つ選び、WEB 登録すること。 【重要】TOEIC スコア 300 点程度の学生を対象としているクラスです。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：各ユニットの左ページの語彙をチェックし、テキストに目を通しておくこと。 復習：Dialog の部分を音声聞きながらシャドーイングし、設問を解いておくこと。				
5. 教科書 『Communicating in Business English Second Edition 1』（Compass Publishing） 9781640156227				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で行います。				
8. 成績評価の方法 Active participation: 20, Written assignments:15, Presentation: 15, Final exam 50				
9. その他 This will be an active class. Please feel free to ask questions after the class. To enhance your fluency, extensive reading is highly recommended.				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語（初級） A E2 国際教養英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）	
担当者		岩崎 永一	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 教科書を読んだり、DVD 教材が付いている場合は DVD を見て、英問英答等で内容確認をする。 (2) 本文の内容をエクササイズや和訳を通じて確認する。 (3) ヴォキャブラリー練習を行う。 (4) また、教科書以外のアップデートな記事等を用いるのにネットを利用することがある。 〈到達目標〉 教科書の内容を適切な速度で読んで理解できる。クラスのレベルにあった自然な速さの英語を聴いて意味が把握できる。詳細は第一回目の授業で説明する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 1 William’ s Notting Hill & ‘She’ 第3回：Unit 2 Surreal, But Nice 第4回：Unit 3 A Goddess Is A Movie Star 第5回：Unit 4 Birthday Party 第6回：Unit 5 A Date With Anna 第7回：Unit 6 She’ s Gone 第8回：Unit 7 She’ s Back 第9回：Unit 8 Rude Awakening — Ain’ t No Sunshine 第10回：Unit 9 Like me Again 第11回：Unit 10 The Right Decision — The Meaning of My Life Is She 第12回：総復習および Summary Writing, Comments, Discussion (1) 第13回：総復習および Summary Writing, Comments, Discussion (2) 第14回 a：まとめ b：試験 ※上記の一部は教科書の目次を転載			
3. 履修上の注意 映画総合教材の教科書（松柏社）を用いて、リスニングの練習を通じて自然な英語の音に慣れることと英国の文化を学ぶことを主な目的とします。そのため、前期と後期で合計2冊の教科書を使用することにご留意ください。教科書についている映画のスク립トの全文音読や（もし可能でしたら）ペアーやグループ等での簡単なディスカッションも行いますので、積極的に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また、小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。			
5. 教科書 映画総合教材『ノッティング・ヒルの恋人』（新装版）松柏社 旧版ではなく、新装版ですので、注意してください。			
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○小テストの結果を踏まえて解説致します。 ○Oh!Meiji の掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。			
8. 成績評価の方法 ①期末試験（語彙とリスニングを主とした基礎的問題）50% ②参加 25% ③授業内小テスト 25% ※期末試験は基礎的な問題が多く、普段からきちんと行っていれば心配ありません。			
9. その他 毎回、主な内容やストーリーリーをキャッチする練習をします。その後、細部の情報を聴き取る練習や部分的なディクテーションを行います。毎回の継続的な参加により英語力を高めてください。また、この授業を通じて膨大なインプット量の確保・口語表現の拡充を目指してください。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語（初級） B E2 国際教養英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）	
担当者		岩崎 永一	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 教科書を読んだり、DVD 教材が付いている場合は DVD を見て、英問英答等で内容確認をする。 (2) 本文の内容をエクササイズや和訳を通じて確認する。 (3) ヴォキャブラリー練習を行う。 (4) また、教科書以外のアップデートな記事等を用いるのにネットを利用することがある。 〈到達目標〉 教科書の内容を適切な速度で読んで理解できる。クラスのレベルにあった自然な速さの英語を聴いて意味が把握できる。詳細は第一回目の授業で説明する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：Unit 1 ふたりの男子 第3回：Unit 2 ウィル SPAT に入会 第4回：Unit 3 支えが要るんだ 第5回：Unit 4 ウィルとマーカスの奇妙な友情 第6回：Unit 5 マーカスを変身させよう 第7回：Unit 6 初めての本物のクリスマス 第8回：Unit 7 ふたりが同時に恋をした 第9回：Unit 8 「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」 第10回：Unit 9 お母さんへの贈り物 第11回：Unit 10 人は孤島ではない 第12回：総復習および Summary Writing, Comments, Discussion (1) 第13回：総復習および Summary Writing, Comments, Discussion (2) 第14回 a：まとめ b：試験 ※上記の一部は教科書の目次を転載			
3. 履修上の注意 映画総合教材の教科書（松柏社）を用いて、リスニングの練習を通じて自然な英語の音に慣れることと英国の文化を学ぶことを主な目的とします。そのため、前期と後期で合計2冊の教科書を使用することにご留意ください。教科書についている映画のスク립トの全文音読や（もし可能でしたら）ペアーやグループ等での簡単なディスカッションも行いますので、積極的に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また、小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。			
5. 教科書 映画総合教材『アバウト・ア・ボーイ』松柏社			
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○小テストの結果を踏まえて解説致します。 ○Oh!Meiji の掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。			
8. 成績評価の方法 ①期末試験（語彙とリスニングを主とした基礎的問題）50% ②参加 25% ③授業内小テスト 25% ※期末試験は基礎的な問題が多く、普段からきちんと行っていれば心配ありません。			
9. その他 毎回、主な内容やストーリーリーをキャッチする練習をします。その後、細部の情報を聴き取る練習や部分的なディクテーションを行います。毎回の継続的な参加により英語力を高めてください。また、この授業を通じて膨大なインプット量の確保・口語表現の拡充を目指してください。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語（初級） A E2 国際教養英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）		
担当者		廣田 美玲		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、アメリカの学生向けニュース番組 CNN Student News をもとに作成された教科書を使用し、英語によるニュース理解力および発信力の基礎を養う。具体的には、以下の学習活動を通して、語彙力・リスニング力・要約力・プレゼンテーション力の向上を目指す。 1. ニュース理解に必要な重要語彙を学び、それらを用いて短文を作成する。 2. DVD 教材を用いてニュース映像を視聴し、スクリプトの内容を確認・整理する。 3. 正誤問題等に取り組み、ニュース内容の理解を深める。 4. ニュースの要点を整理し、簡潔な要約を作成する。 5. ニューストピックに関するグループ（あるいは個人）プレゼンテーションを行い、情報を英語で発信する。 【到達目標】 本授業の履修を通して、受講者は以下の能力を身につけることを目標とする。 ・ニュースで頻出する基本語彙を理解し、適切に使用できる。 ・時事的なトピックについて、英語で内容を理解し、自分の言葉で表現できる。 ・英語の音声を正確に聞き取り、基本的な発音・イントネーションを意識して発話できる。 ・グループ活動を通して、協働的に情報を整理し、簡単なプレゼンテーションを行うことができる。				
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション、教科書説明など 第2回：Unit 1 Nintendo Museum 第3回：Unit 1 続き、 第4回：Unit 2 Smallest Rubik’ s Cube 第5回：Unit 2 続き 第6回：Unit 3 Disconnecting in Australia 第7回：Unit 3 続き 第8回：Unit 4 Pets as Family in China 第9回：Unit 4 続き 第10回：Unit 5 Influencers for Trade Jobs 第11回：Unit 5 続き 第12回：グループ（個人）プレゼンテーション説明・準備 第13回：グループ（個人）プレゼンテーション 第14回：春学期のまとめ / 期末試験				
3. 履修上の注意 本授業は、TOEIC スコア 300 点程度の英語力を一つの目安として設定しているクラスである。履修にあたっては、自身の英語力や学習状況を踏まえ、授業内容および設定レベルを確認したうえで受講すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習）小テストに向けて、指定された語彙を学習し、授業で指定された範囲を事前に読んでくること。 （復習）授業内容を振り返り、重要語彙や表現を確認しながら、理解が不十分な点を整理すること。				
5. 教科書 Sekido, Fuyuhiko, et al.CNN 10 Vol.14—Student News—. Asahi Press: Tokyo, 2026.				
6. 参考書 必要に応じて、授業内で関連資料・参考文献を適宜紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて、授業内で口頭による解説・フィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 プレゼンテーション（グループまたは個人）：20％ 期末試験：50％ 小テスト：30％				
9. その他 1）授業総数の3分の2以上の出席がない場合は、原則として期末試験を受験することができない。遅刻3回は欠席1回として取り扱う。出席管理は厳格に行う。				

- 2) 教科書は必ず購入し、毎回の授業に持参すること。教科書を持参せずに授業に参加した場合は、原則として欠席として扱う。
- 3) 質問は、授業後またはメールにて受け付ける。メールアドレスは授業内で周知する。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語（初級） B E2 国際教養英語（TOEIC300 点程度対象者クラス）	
担当者		廣田 美玲	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本授業では、アメリカの学生向けニュース番組 CNN Student News をもとに作成された教科書を使用し、英語によるニュース理解力および発信力の基礎を養う。具体的には、以下の学習活動を通して、語彙力・リスニング力・要約力・プレゼンテーション力の向上を目指す。 1. ニュース理解に必要な重要語彙を学び、それらを用いて短文を作成する。 2. DVD 教材を用いてニュース映像を視聴し、スクリプトの内容を確認・整理する。 3. 正誤問題等に取り組み、ニュース内容の理解を深める。 4. ニュースの要点を整理し、簡潔な要約を作成する。 5. ニューストピックに関するグループ（あるいは個人）プレゼンテーションを行い、情報を英語で発信する。 【到達目標】 本授業の履修を通して、受講者は以下の能力を身につけることを目標とする。 ・ニュースで頻出する基本語彙を理解し、適切に使用できる。 ・時事的なトピックについて、英語で内容を理解し、自分の言葉で表現できる。 ・英語の音声を正確に聞き取り、基本的な発音・イントネーションを意識して発話できる。 ・グループ活動を通して、協働的に情報を整理し、簡単なプレゼンテーションを行うことができる。			
2. 授業内容 第1回：オリエンテーション、春学期フィードバックなど 第2回：Unit 6 Endangered Koalas 第3回：Unit 6 続き、 第4回：Unit 7 Instagram for Teens 第5回：Unit 7 続き 第6回：Unit 8 Sustainable T-shirt Business 第7回：Unit 8 続き 第8回：Unit 9 Giant Panda Exchange 第9回：Unit 9 続き 第10回：Unit 10 Windmills in India 第11回：Unit 11 続き 第12回：グループ（個人）プレゼンテーション説明・準備 第13回：グループ（個人）プレゼンテーション 第14回：秋学期のまとめ / 期末試験			
3. 履修上の注意 本授業は、TOEIC スコア 300 点程度の英語力を一つの目安として設定しているクラスである。履修にあたっては、自身の英語力や学習状況を踏まえ、授業内容および設定レベルを確認したうえで受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習）小テストに向けて、指定された語彙を学習し、授業で指定された範囲を事前に読んでくること。 （復習）授業内容を振り返り、重要語彙や表現を確認しながら、理解が不十分な点を整理すること。			
5. 教科書 Sekido, Fuyuhiko, et al.CNN 10 Vol.14—Student News—. Asahi Press: Tokyo, 2026.			
6. 参考書 必要に応じて、授業内で関連資料・参考文献を適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて、授業内で口頭による解説・フィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 プレゼンテーション（グループまたは個人）：20％ 期末試験：50％ 小テスト：30％			
9. その他 1）授業総数の3分の2以上の出席がない場合は、原則として期末試験を受験することができない。遅刻3回は欠席1回として取り扱う。出席管理は厳格に行う。			

- 2) 教科書は必ず購入し、毎回の授業に持参すること。教科書を持参せずに授業に参加した場合は、原則として欠席として扱う。
- 3) 質問は、授業後またはメールにて受け付ける。メールアドレスは授業内で周知する。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語（初級）A（統一） GREAT:English for Business Studies (EBS) IA	
担当者		金子 敦子・神藤 理恵・デュプリス, ジョン・マークー, ジェイソ・リンズクーグ, アレン	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to equip students with essential English skills and foundational knowledge needed to understand and discuss key concepts in business and economics. In EBS IA, students will learn the basic concepts and core vocabulary related to areas such as management, work and motivation, company structures, cross-cultural management, recruitment, women in business, and major sectors of the economy. By the end of the course, students will be able to understand key business concepts and discuss basic business-related issues in English, using appropriate terminology and simple analytical perspectives. Intended Learning Outcomes (ILOs) By the end of this course, students will be able to: ILO 1 Business Concepts & Vocabulary Understand and explain basic business and economics concepts in English, including management, motivation, company structures, cross-cultural management, recruitment, diversity, and major business sectors, using appropriate foundational terminology. ILO 2 Discussion & Interpretation Participate in simple discussions on basic business issues, demonstrating the ability to interpret information, express opinions, and respond to others’ ideas in English with clarity and coherence. ILO 3 Business Communication (Reports & Presentations) Deliver short reports and presentations on business-related topics, such as companies, management practices, and diversity issues, using basic business English conventions and structured communication. These learning outcomes are designed to provide a foundation for subsequent GREAT courses by integrating business knowledge, English communication skills, and basic analytical thinking.			
2. 授業内容 Week 1: Introduction; Management in General (1) Week 2: Management in General (2) Week 3: Work and Motivation (1) Week 4: Work and Motivation (2) Week 5: Company Structure (1) Week 6: Company Structure (2) Week 7: Reports and Presentations (1) Week 8: Managing Across Cultures (1) Week 9: Managing Across Cultures (2) Week 10: Recruitment Week 11: Women in Business Week 12: Reports and Presentations (2) Week 13: The Different Sectors of Business Week 14: Review and Final Exam			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT 1 年次必修科目です。GREAT 対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read the assigned sections of the textbook before each class and complete relevant exercises as instructed. As part of review, students should read aloud key passages covered in class to reinforce understanding and internalize newly learned vocabulary. Weekly quizzes or homework assignments may be given.			
5. 教科書 Ian MacKenzie, English for Business Studies, 3rd Edition, Cambridge University Press			
6. 参考書 Additional references and resources will be provided through handouts or links on Oh-o! Meiji (LMS). Students are expected to keep a file of all handouts distributed in class.			

7. 課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as through in-class discussions and comments.

8. 成績評価の方法

Assignments and quizzes: 40%

Reports and presentations: 20%

Final exam: 20%

Class participation: 20%

Students who miss more than three classes will receive a fail grade.

(Three late arrivals count as one absence. Late arrival means arriving within 30 minutes from the start of class.)

9. その他

This course aims to develop students' English proficiency for business studies and future business careers.

The class will be conducted entirely in English. Students are encouraged to actively participate and make the most of this learning opportunity.

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA)LAN111J	
科目名		英語（初級）B（統一） GREAT:English for Business Studies(EBS) IB	
担当者		金子 敦子・デュプリス, ジョン・神藤 理恵・マーカー, ジェイソン・リンズクーグ, アレン	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to further develop students’ English communication skills and business knowledge introduced in EBS IA, enabling them to understand and discuss business operations and market-oriented topics in English. In EBS IB, students will learn key concepts and core vocabulary related to production, logistics, product quality, products, marketing, and advertising. Building on the foundation established in EBS IA, the course places greater emphasis on applying concepts, interpreting business issues, and communicating ideas through reports and presentations. By the end of the course, students will be able to understand essential business concepts and discuss basic operational and marketing issues in English, using appropriate terminology and structured communication. Intended Learning Outcomes (ILOs) – EBS IB By the end of this course, students will be able to: ILO 1 Applied Business Concepts & Vocabulary Apply core business concepts and terminology in English related to production, logistics, quality management, products, marketing, and advertising, in order to explain operational and market-oriented business issues. ILO 2 Discussion, Interpretation & Reasoning Participate in extended discussions on business-related topics, demonstrating the ability to interpret information, provide simple reasons, and respond constructively to others’ ideas in English. ILO 3 Structured Business Communication Produce structured reports and presentations on operational and marketing topics, such as supply chain risks, product concepts, and marketing plans, using basic business communication conventions. While EBS IA focuses on foundational understanding and basic communication, EBS IB emphasizes application, interpretation, and structured business communication in operational and marketing contexts.			
2. 授業内容 Week 1: Introduction; Production (1) Week 2: Production (2) Week 3: Logistics (1) Week 4: Logistics (2) Week 5: Reports and Presentations (1) (Global supply chain risks) Week 6: Quality (1) Week 7: Quality (2) Week 8: Products (1) Week 9: Products (2) Week 10: Marketing (1) Week 11: Marketing (2) Week 12: Reports and Presentations (2) (A product concept and a marketing plan) Week 13: Advertising Week 14: Review and Final Test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT 1 年次必修科目です。GREAT 対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read the assigned sections of the textbook before each class and complete relevant exercises. As part of review, students should read aloud key passages covered in class to reinforce understanding and internalize newly learned vocabulary. Weekly quizzes or homework assignments may be given.			
5. 教科書 Ian MacKenzie, English for Business Studies, 3rd Edition, Cambridge University Press			
6. 参考書 Additional references and resources will be provided through handouts or links on Oh-o! Meiji (LMS). Students are expected to keep a file of all handouts distributed in class.			

7. 課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as through in-class discussions and comments.

8. 成績評価の方法

Assignments and quizzes: 40%

Reports and presentations: 20%

Final exam: 20%

Class participation: 20%

Students who miss more than three classes will receive a fail grade.

(Three late arrivals count as one absence. Late arrival means arriving within 30 minutes from the start of class.)

9. その他

This course aims to develop students' English proficiency and business communication skills that will support their business studies and future careers.

The class will be conducted entirely in English, and students are expected to actively participate i

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）A EM Comprehensive English	
担当者		辻 昌宏	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業では、イギリスの BBC ニュース（映像教材）を用いて、英語のリスニング能力と内容理解力を段階的に養成する。ニュース特有の話速、語彙、固有名詞、数字・統計、引用（発言の間接話法）、多様な話者（記者・インタビュー・専門家）などに慣れながら、要点把握（gist）と詳細理解（details）の両面を訓練する。 授業では、視聴前に背景知識や重要語句を確認し、視聴中はメモ取りを行い、視聴後に内容を整理して要約・確認問題に取り組む。必要に応じて字幕／スクリプトを併用し、聞き取れなかった箇所の原因（発音変化・連結・弱形・語彙不足など）を特定して復習する。あわせて、ニュースの構成（見出し→要約→詳細→背景→今後）や論点の立て方を学び、情報を批判的に読み解く姿勢も培う。 《到達目標》 BBC で放送される自然な英語（話速・発音・アクセントの違いを含む）を聞き取り、話題・結論・根拠を把握できる。 ニュース中の重要情報（5W1H、因果関係、対立する見解、数字・固有名詞）を整理し、内容を正確に理解できる。 視聴内容を日本語または英語で簡潔に要約し、要点を説明できる（口頭／短い文章）。 聞き取りの弱点を自己点検し、スクリプト確認・反復視聴・シャドーイング等を用いて、自律的に復習できる。 ニュースの情報を鵜呑みにせず、根拠や前提を意識して、批評的に内容を捉えることができる。			
2. 授業内容 本授業では、BBC のニュース放送を映像（ビデオ）教材として視聴し、教科書に付随する設問に取り組むことを通じて、英語のリスニング力と内容理解力を体系的に伸ばしていく。ニュース英語は話速が速く、固有名詞・数字・専門語彙が多い一方で、見出し→要点→背景→詳細という一定の構成をもつため、聞き取りの「型」を身につけることで理解が大きく安定する。授業ではその特性を活かし、単に聞き流すのではなく、どこで何が語られているかを意識しながら視聴し、情報を整理する訓練を行う。 具体的には、視聴前にトピックの背景や重要語句を確認し、見出しから内容を予測したうえで映像を視聴する。視聴中は要点（誰が・何を・いつ・どこで・なぜ・どうした）をメモし、視聴後に教科書の問題（要点把握、詳細理解、語彙確認、要約・言い換え等）を解いて理解を定着させる。必要に応じて同一ニュースを複数回視聴し、聞き取れなかった箇所はスクリプトや字幕で確認し、音の連結・弱形・強勢など発音上の特徴や、語彙・表現の不足といった原因を分析して復習する。こうした反復と検証を通じて、BBC で放送される生の英語を聞き取り、内容を正確に把握し、自分の言葉で説明できる力を養う。			
3. 履修上の注意 本授業は、BBC ニュースの映像教材を用いてリスニングと内容理解を鍛える授業である。授業では毎回ニュース映像を視聴し、教科書の設問（要点把握・詳細理解・語彙確認等）に取り組むため、欠席や遅刻は理解の積み重ねに直接影響する。やむを得ず欠席した場合は、次回までに該当回の映像を視聴し、教科書の問題に取り組んだうえで授業に参加すること。 ニュース英語には固有名詞・数字・専門語彙が多く含まれる。視聴前にトピックの背景や重要語句を確認し、視聴中はメモを取り、視聴後に内容を要約して確認するなど、予習・復習を前提として受講すること。聞き取れなかった箇所は、スクリプト／字幕で確認し、同じ箇所を繰り返し聞き直して原因（語彙不足、音の連結、話速など）を自分で特定する姿勢が求められる。 また、授業内で扱うニュースは時事的内容を含むため、扱う回によってテーマが大きく変わる。日頃から BBC 等の英語ニュースに触れる習慣をつけ、授業で扱った表現や語彙を復習して次回に備えること。授業の進め方や課題・小テスト等の指示がある場合は、指定された期限を厳守すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（視聴前） 次回扱うニュースのテーマに関する基礎知識を、英語／日本語の信頼できるニュースや解説（見出し程度でも可）で確認し、主要な固有名詞（人名・地名・組織名）を把握しておく。 教科書の該当ユニットを開き、設問の種類（要点・詳細・語彙など）を確認する。 視聴（授業に備えて） ニュースを1回通して視聴し、5W1H（誰が・何を・いつ・どこで・なぜ・どう）をメモする。 数字（年号・金額・割合）やキーワードを聞き取れた範囲で書き留める。 語彙・表現の確認 聞き取りに影響する語（専門語・頻出語・句動詞・言い換え表現）を10語程度ピックアップし、意味と用法を辞書で確認する。 発音が分かりにくかった語は発音記号や音声辞書で確認し、口に出して練習する。 復習（授業後も含む） 授業で扱ったニュースを再度視聴し、聞き取れなかった箇所をスクリプト／字幕で確認してから、もう一度音声だけで聞き直す。 教科書の問題を解き、間違えた設問は「どこを聞き落としたか／なぜ誤解したか」をメモして次回に活かす。 可能であれば、重要文を数文選び、シャドーイングまたはディクテーション（短い範囲）を行う。 （目安：各回30～60分程度。慣れてきたら自主的に増やしてよい。）			
5. 教科書 授業で使用する教科書は以下のとおりである。毎回必ず授業に持参すること（教科書を参照しながらニュース映像の視聴内容の確認、設問への取り組み、語彙・表現の確認を行うため）。			

Timothy Knowles／田中みんね／中村美帆子／馬上紗矢香（編著）『British News Update 8（BBC）-映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 8』金星堂，2026 年．B5 判・108 頁・全 15 章．定価 3,300 円（税込）．ISBN：978-4-7647-4241-3．（plus+Media 対応）
6. 参考書
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を通じてフィードバックする。
8. 成績評価の方法 リアクションペーパー（対面授業） 70％ 各回の授業内容（BBC ニュース映像の視聴・解説等）にもとづき、「今日、理解できたこと」を中心にリアクションペーパーを提出する。 要点の把握（ニュースの概要・重要情報）、理解の正確さ（何がどのように理解できたか）、根拠の提示（具体的な語句・数字・発言内容への言及）、および自分の課題の自覚（聞き取れなかった点・次回の改善点）などを総合して評価する。 Oh-o! Meiji のディスカッション参加 10％ ディスカッション機能を通じて、授業内容に関する質問・意見表明を行う。ニュースの具体（キーワード、数字、引用、結論と根拠等）に触れつつ、根拠を示して発言する姿勢を評価する。 学期末試験（対面で実施） 20％ 学期末に対面で試験を実施し、授業で扱ったニュース英語の聞き取りと内容理解（要点把握・詳細理解・語彙／表現）を評価する。試験の実施要領（範囲・形式・日時等）は授業内および Oh-o! Meiji で周知する。 必要なら、リアクションペーパーの分量（例：200～300 字／箇条書き可）や提出方法（授業内回収／Oh-o!提出）も一文で追加できます。
9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		辻 昌宏	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業はメディア授業として、イギリス BBC のニュース放送を映像教材として視聴し、教科書の設問に取り組みながら、英語のリスニング能力と内容理解力を段階的に養成する。ニュース英語特有の話速、固有名詞・数字・専門語彙、引用（インタビューやコメント）などに慣れつつ、要点把握と詳細理解（details）をバランスよく訓練する。 秋学期は、これまで学んだ学習手順（予測→視聴→確認→復習）を再確認したうえで、単なる聞き取りにとどまらず、ニュースの構成（見出し→要点→背景→詳細）や論点の立て方にも注意し、聞き取った情報を整理して説明できる力につなげる。必要に応じて字幕／スクリプト等を併用し、聞き取れなかった箇所の原因（語彙不足、音の連結、強勢、情報量など）を特定して復習する。 《到達目標》 BBC で放送される自然な英語を聞き取り、話題・要点・結論を把握できる。 ニュース中の重要情報（5W1H、因果関係、対立する見解、数字・固有名詞）を整理し、内容を正確に理解できる。 聞き取った内容を、要点を落とさずに簡潔に要約し、口頭または短い文章で説明できる。 聞き取りにくい箇所について、スクリプト確認・反復視聴等を通じて原因を分析し、自律的に復習できる。 ニュースの表現や構成を踏まえ、根拠を意識して内容を捉え、批評的に語る姿勢を身につける。			
2. 授業内容 本授業では、BBC のニュース放送を映像（ビデオ）教材として視聴し、教科書に付随する設問に取り組むことを通じて、英語のリスニング力と内容理解力を段階的に伸ばしていく。ニュース英語は話速が速く、固有名詞・数字・専門語彙が多い一方で、見出し→要点→背景→詳細という一定の構成をもつ。そこで授業では、聞き取りの「型」（どこに何が出てくるか）を意識して視聴し、情報を整理しながら理解を深める訓練を行う。単に聞き流すのではなく、話者（キャスター、記者、インタビュー）の役割や、引用・対立する見解の提示などにも注意を向け、ニュースがどのように組み立てられているかもあわせて学ぶ。 具体的には、視聴前にトピックの背景や重要語句を確認し、見出しから内容を予測したうえで映像を視聴する。視聴中は要点（誰が・何を・いつ・どこで・なぜ・どうした）をメモし、数字や固有名詞、キーワードを押さえる。視聴後は教科書の問題（要点把握、詳細理解、語彙確認、要約・言い換え等）を解き、必要に応じて自分の言葉で短く要約して理解を定着させる。聞き取れなかった箇所については、スクリプト／字幕で確認したうえで再視聴し、音の連結・弱形・強勢など発音上の特徴、あるいは語彙・表現の不足といった原因を特定して復習する。こうした反復と検証を通じて、BBC で放送される自然な英語を聞き取り、内容を正確に把握し、要点を整理して説明できる力を養う。			
3. 履修上の注意 本授業は、BBC ニュースの映像教材を用いてリスニングと内容理解を鍛える授業である。授業では毎回ニュース映像を視聴し、教科書の設問（要点把握・詳細理解・語彙確認等）に取り組むため、教科書を必ず持参すること。また、欠席や遅刻は理解の積み重ねに直接影響する。やむを得ず欠席した場合は、次回までに該当回の映像を視聴し、教科書の問題に取り組んだうえで授業に参加すること。 ニュース英語には固有名詞・数字・専門語彙が多く含まれる。視聴前にトピックの背景や重要語句を確認し、視聴中はメモを取り、視聴後に内容を要約して確認するなど、予習・復習を前提として受講すること。聞き取れなかった箇所は、スクリプト／字幕で確認し、同じ箇所を繰り返し聞き直して原因（語彙不足、音の連結、話速など）を自分で特定する姿勢が求められる。 また、授業内で扱うニュースは時事的内容を含むため、扱う回によってテーマが大きく変わる。日頃から BBC 等の英語ニュースに触れる習慣をつけ、授業で扱った表現や語彙を復習して次回に備えること。授業の進め方や課題・小テスト等の指示がある場合は、指定された期限を厳守すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習（視聴前） 次回扱うニュースのテーマについて、見出しや短い解説（日本語／英語いずれでも可）に目を通し、背景と主要な固有名詞（人名・地名・組織名）を把握しておく。 教科書の該当ユニットを確認し、設問の種類（要点・詳細・語彙・言い換え等）を見て、何を聞き取るべきかを意識しておく。 視聴の準備（メモ取り） 視聴時にメモする観点（5W1H、数字、キーワード、引用・意見の違い）を決め、簡単なメモ欄を作って授業に臨む。 語彙・表現の確認 ニュース理解に重要と思われる語句を事前に数語選び、意味・用法・発音を辞書等で確認する（固有名詞や数字の読み方も含む）。 復習（授業後） 授業で扱ったニュースを振り返り、聞き取れなかった箇所はスクリプト／字幕で確認してから再度聞き直す。 教科書の問題で誤った箇所は、原因（語彙不足／音の連結／聞き落とし等）を一言メモし、次回の視聴に活かす。 可能であれば重要文を数文選び、短い範囲でシャドーイングを行う。			
5. 教科書 授業で使用する教科書は以下のとおりである。毎回必ず授業に持参すること（教科書を参照しながらニュース映像の視聴内容の確認、設問への取り組み、語彙・表現の確認を行うため）。			

Timothy Knowles／田中みんね／中村美帆子／馬上紗矢香（編著）『British News Update 8（BBC）-映像で学ぶ イギリス公共放送の最新ニュース 8』金星堂，2026 年．B5 判・108 頁・全 15 章．定価 3,300 円（税込）．ISBN：978-4-7647-4241-3．（plus+Media 対応）

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

リアクションペーパー（対面授業） 70％

各回の授業内容（BBC ニュース映像の視聴・解説等）にもとづき、「今日、理解できたこと」を中心にリアクションペーパーを提出する。要点の把握（ニュースの概要・重要情報）、理解の正確さ（何がどのように理解できたか）、根拠の提示（具体的な語句・数字・発言内容への言及）、および自分の課題の自覚（聞き取れなかった点・次回の改善点）などを総合して評価する。

Oh-o! Meiji のディスカッション参加 10％

ディスカッション機能を通じて、授業内容に関する質問・意見表明を行う。ニュースの具体（キーワード、数字、引用、結論と根拠等）に触れつつ、根拠を示して発言する姿勢を評価する。

学期末試験（対面で実施） 20％

学期末に対面で試験を実施し、授業で扱ったニュース英語の聞き取りと内容理解（要点把握・詳細理解・語彙／表現）を評価する。試験の実施要領（範囲・形式・日時等）は授業内および Oh-o! Meiji で周知する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		デュプリス, ジョン	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This is the first of a two-semester intermediate English course. The course will focus on speaking and listening skills but will include reading and writing activities. Students will conduct many group and poster presentations on topics related to those covered in the textbook. The course will also include a mid-term and final exam. Participation in English is required as this course will be conducted entirely in English.			
2. 授業内容 Week 1 Introductions, Overview of the class, and beginning of first unit A Sense of Place Week 2 A Sense of Place continued Week 3 A Sense of Place completed and reviewed Week 4 Something Borrowed Week 5 Something Borrowed continued Week 6 Something Borrowed completed and reviewed Week 7 Midterm Exam Week 8 Poster presentations and discussions Week 9 Poster presentations and discussions Week 10 Poster presentations and discussions Week 11 The Language of Symbols Week 12 The Language of Symbols continued Week 13 Review of all course content and final exap prep Week 14 Final Exam			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary—this may be either electronic or paper-based.			
5. 教科書 Textbook(s) Dummet, P. (2021) Reflect Listening & Speaking 4 with the Spark platform. National Geographic Learning 978-0357449202			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day of classes. All papers will be submitted on Oh-o! Meiji system.			
8. 成績評価の方法 Grading and EvaluationAttendance and participation in class work 40% Midterm 20% Poster presentation 20% Final Exam 20%			
9. その他 This course aims to help you use English more fluently and to engage in academic discussions.			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） B		
担当者		デュプリス, ジョン		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This is the second of a two-semester intermediate English course. The course will focus on speaking and listening skills but will include reading and writing activities. Students will conduct many group and poster presentations on topics related to those covered in the textbook. The course will also include a mid-term and final exam. Participation in English is required as this course will be conducted entirely in English.				
2. 授業内容 Week 1 Science or Science Fiction Week 2 A Science or Science Fiction continued Week 3 Science or Science Fiction completed and reviewed Week 4 The Plastic Age Week 5 The Plastic Age continued Week 6 The Plastic Age completed and reviewed Week 7 Midterm Exam Week 8 Poster presentations and discussions Week 9 Poster presentations and discussions Week 10 Poster presentations and discussions Week 11 Business With a Heart Week 12 Business With a Heart Week 13 Review of all course content and final exap prep Week 14 Final Exam				
3. 履修上の注意				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary—this may be either electronic or paper-based.				
5. 教科書 None				
6. 参考書 Dummet, P. (2021) Reflect Listening & Speaking 4 with the Spark platform. National Geographic Learning 978-0357449202				
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day of classes. All papers will be submitted on Oh-o! Meiji system.				
8. 成績評価の方法 Grading Attendance and participation in class work 40% Midterm 20% Poster presentation 20% Final Exam 20%				
9. その他 This course aims to help you use English more fluently and to engage in academic discussions.				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		荒井 貴和	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course is a comprehensive 4 skill-based English course which aims to further develop students’ English knowledge and skills through using the appropriate textbook and through integrating the skills of listening, speaking, reading and writing. Depending on the instructor, certain aspects of language may be more focused than others. For both obtaining information (through listening and reading) and communicating thoughts (through discussion and writing), supplemental material with Internet reading or prints (with summary writing) may be used.			
2. 授業内容 Week 1. 授業の紹介、ウォーム・アップ、学習のヒントと目標設定、スピーチの作り方 Week 2. 自己紹介スピーチ(1) 、グループ活動 Week 3. 自己紹介スピーチ(2)) 、グループ活動 Week 4. テキスト Unit 1: 1A What’ s your major? Week 5. Unit 1: 1B A better me Week 6. Unit 1: 1C Skills for Speaking and Writing/ Workbook Week 7. Group change/ Unit 2: 2A Tell me what he’ s like Week 8. Unit 2: 2B She’ s my role model/ 2C Skills for Speaking and Writing Week 9. Unit 3: 3A I know that feeling/ Presentation skills Week 10. Unit 3: 3B Memories of long ago/ Presentation skills Week 11. Unit 3: 3C Skills for Speaking and Writing/ Presentation skills Week 12. プレゼンテーション：Individual Presentations (1)：speech and interview test Week 13. プレゼンテーション：Individual Presentations (2)：speech and interview test Week 14. プレゼンテーション：Individual Presentations (3)：speech and interview test 、プレゼンテーションのフィードバック、全体の振り返りとまとめ			
3. 履修上の注意 授業は原則として英語で進めます。ペアやグループで積極的に英語を使ってコミュニケーションすることが毎回の授業で求められます。学期初めに短いスピーチを、学期最後に授業で学んだことを活用してプレゼンテーションをしてもらいます。 また、教科書に付随する workbook 課題に各自で取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で活用する語彙や必要な内容をあらかじめ予習してください（具体的に指示します）。 授業で学んだことを振り返って復習してください。			
5. 教科書 サーパス・ローズ SURPASS [Rose] CEFR B1 (1) (Lisa Young, Jeffrey Cahak、三修社)			
6. 参考書 なし。 必要に応じて英和・和英辞書を持参すること			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出する課題はコメントやフィードバックを書いて基本的に次の授業で返却します。			
8. 成績評価の方法 ペア・グループ活動を含む授業への積極的参加 30% 個々の課題や提出物 35% スピーチ、プレゼンテーションと評価 35%			
9. その他 授業にはテキスト（教科書）が必要です。必ず教科書を入手して授業に持参すること。 受講者数や状況によって授業の進行に変更が生じる可能性があります。 *なお原則として授業中にスマートフォンやタブレット、PCなどの機器は利用できません。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		相馬 美明	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して、より複雑な内容を理解できるようにする。リスニング能力の増強のために、穴埋めや書き取り、要約などの練習を行う。基本的に授業は毎回、三本立てとして進められ、TOEFL・TOEIC などのリスニング/ディクテーション問題、TRUE or FALSE Question、映画などさまざまなトピックを用い、リスニングのコツを身につけていく。さまざまなコンテンツを通し、楽しみながら英語の能力を高めてもらいたい。 (1) イントロダクション、年間計画、諸注意など (2) TOEFL Exercise 1 PART A, 〈True or False questions〉, Film 1 (3) Film 1-2, Your Song 〈Background of the singer〉, Questions (4) TOEFL Exercise 2 PART B, Chimpanzee, 〈True or False questions〉, Film 3 (5) TOEFL Exercise 3 PART C, Film 3-4 (6) Film 4-5, Top of the world 〈Background of the singer〉, Questions (7) TOEFL Exercise 4 PART A, Halloween 〈True or False questions〉, Film 5-6 (8) TOEFL Exercise 5 PART B, A, certain story 〈True or False questions〉, Film 7 (9) TOEFL Exercise 6 PART C, Film ⑧, レポート内容説明、指示 (10) TOEFL Exercise 7 PART A, The sound of silence 〈Background of the singer〉, Film 8-9 (11) TOEFL Exercise 8 PART B, Film 9 (12) TOEFL Exercise 9 PART C, Film 9-10 (13) Film まとめ、リスニングの最終確認、レポート提出 (14) a：期末試験 b：正答解説			
3. 履修上の注意 リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要である。授業中の練習に加えて教室外でも練習を行うことを心がける。指示された課題は必ずこなし、予習も必須である。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。 春学期、秋学期ともに受講することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。			
6. 参考書 必要に応じ適宜、紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じ Oh-o!Meiji に掲載、対応したい。 欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。 学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）：出席については、基本的に全出席を期待している。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。 学期末試験（40％）：必ず受験すること。 レポート（20％）：授業中に指示する内容にそって提出すること。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		荒井 貴和	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course is a comprehensive 4 skill-based English course which aims to further develop students' English knowledge and skills through using the appropriate textbook and through integrating the skills of listening, speaking, reading and writing. Depending on the instructor, certain aspects of language may be more focused than others. For both obtaining information (through listening and reading) and communicating thoughts (through discussion and writing), supplemental material with Internet reading or prints (with summary writing) may be used.			
2. 授業内容 Week 1. 授業の紹介、ウォーム・アップ、学習のヒントと目標設定 Week 2. スピーチ (1) (夏期休暇の振り返りと秋学期予定について)、グループ活動 Week 3. スピーチ (2)、グループ活動 Week 4. テキスト Unit 1: 1A Spending and saving Week 5. Unit 1: 1B The best product ever Week 6. Unit 1: 1C Skills for Speaking and Writing/ Workbook Week 7. Group change/ Unit 2: 2A Eat well, live well Week 8. Unit 2: 2B It's my comfort food/ 2C Skills for Speaking and Writing Week 9. Unit 3: 3A Before the journey/ Presentation skills Week 10. Unit 3: 3B When travel goes wrong/ Presentation skills Week 11. Unit 3: 3C Skills for Speaking and Writing/ Presentation skills Week 12. プレゼンテーション: Individual Presentations (1): speech and interview test Week 13. プレゼンテーション: Individual Presentations (2): speech and interview test Week 14. プレゼンテーション: Individual Presentations (3): speech and interview test 、プレゼンテーションのフィードバック、全体の振り返りとまとめ			
3. 履修上の注意 授業は原則として英語で進めます。ペアやグループで積極的に英語を使ってコミュニケーションすることが毎回の授業で求められます。学期初めに短いスピーチを、学期最後に授業で学んだことを活用してプレゼンテーションをしてもらいます。 また、教科書に付随する workbook 課題に各自で取り組むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で活用する語彙や必要な内容をあらかじめ予習してください（具体的に指示します）。 授業で学んだことを振り返って復習してください。			
5. 教科書 サーパス・レッド SURPASS [Red] CEFR B1 (2) (Lisa Young, Jeffrey Cahak、三修社)			
6. 参考書 なし。 必要に応じて英和・和英辞書を持参すること			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に提出する課題はコメントやフィードバックを書いて基本的に次の授業で返却します。			
8. 成績評価の方法 ペア・グループ活動を含む授業への積極的参加 30% 個々の課題や提出物 35% スピーチ、プレゼンテーションと評価 35%			
9. その他 授業にはテキスト（教科書）が必要です。必ず教科書を入手して授業に持参すること。 受講者数や状況によって授業の進行に変更が生じる可能性があります。 ※なお原則として授業中にスマートフォンやタブレット、PC などの機器は利用できません。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English		
担当者		石井 千春		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 英米のポップスを教材とし、リスニング、イデオム、英語と日本語の表現の違いを学ぶ。 短い英文を読解する。				
2. 授業内容 第一講：ガイダンス 第二講～第十三講：各ユニットを二コマで終える予定。 第十四講：試験				
3. 履修上の注意 最初の授業から連続して三回欠席した学生は履修できない。体育会系の学生も同一基準で評価する。 授業中の課題を集中して行ってほしい。辞書は必ず持参する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の要点をつかんで、次週に生かしてほしい。				
5. 教科書 Learn English through Jazz and Pops（金星堂 2 3 0 0 円）				
6. 参考書 プリント教材				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 授業集中度を三割、試験を七割。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） B EM Comprehensive English		
担当者		石井 千春		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 英米のポップスを教材とし、リスニング、イデオム、英語と日本語の表現の違いを学ぶ。 短い英文を読解する。				
2. 授業内容 第一講：ガイダンス 第二講～第十三講：各ユニットを二コマで終える予定。 第十四講：試験				
3. 履修上の注意 最初の授業から連続して三回欠席した学生は履修できない。体育会系の学生も同一基準で評価する。 授業中の課題を集中して行ってほしい。辞書は必ず持参する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の要点をつかんで、次週に生かしてほしい。				
5. 教科書 Learn English through Jazz and Pops（金星堂 2 3 0 0 円）				
6. 参考書 プリント教材				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 授業集中度を三割、試験を七割。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級）A EM Comprehensive English		
担当者		石塚 あおい		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。				
2. 授業内容 Week 1： Introduction Week 2： Part 1: Unit 1 / New Vocabulary in Your Reading Part 2: Unit 1 / Making Good Use of the Dictionary Part 4: Reading Faster Week 3： Part 1: Unit 1 / New Vocabulary in Your Reading Part 2: Unit 1 / Making Good Use of the Dictionary Part 4: Reading Faster Week 4： Part 1: Unit 2 / Fiction and Nonfiction Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 5： Part 1: Unit 2: Fiction and Nonfiction Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 6： Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 7： Part 2: Unit 3 / Guessing Meaning from Context Part 4: Reading Faster Week 8： Mid-term Exam / Side Reader Week 9： Part 2: Unit 4 / Word Parts Part 4: Reading Faster Week 10：Part 2: Unit 4 / Word Parts Part 4: Reading Faster Week 11：Part 2: Unit 4 / Word Parts Part 4: Reading Faster Week 12：Part 2: Unit 5 / Collocations Part 4: Reading Faster Week 13：Part 2: Unit 5 / Collocations Part 4: Reading Faster Week 14：a. Final Exam； b. Review				
3. 履修上の注意 この授業はリーディングに重点を置き、母国語の本を読むように英書を読みこなすことを目標としています。一般的なリーディングの授業とはかなり異なり、テキストの理解に至るまでのリーディング・プロセスに焦点を当てた内容で、速読・多読の要素が含まれます。使用する教科書のレベルは TOEIC 500～600 程度。また、指定したサイドリーダーを 1 冊読んで頂き、どの程度内容を理解しているかをみる記述式テストを実施します。 様々なスキルを身につけるためには、春・秋学期ともに受講して頂くのが望ましいと思います。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 練習問題で間違った箇所は必ず見直し、不明な点や納得できない点があれば次回の授業で質問すること。				
5. 教科書 More Reading Power 3, 3rd ed. (Pearson) One Title from Pearson English Readers (Pearson)				
6. 参考書				

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題・テストへのフィードバックは授業内で行います。

8. 成績評価の方法

毎回、授業の初めに Timed Reading を実施します (10 点満点の全 10 回)。この合計点の 20%と、サイドリーダーの記述式テスト 25%、教科書の復習テスト 35%、そして授業貢献度 20%の割合で最終評価をします。

9. その他

春学期受講者へ： Week 2 から教科書 (More Reading Power 3, 3rd ed.) を使用しますので、それまでに各自購入しておいて下さい。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） B EM Comprehensive English		
担当者		石塚 あおい		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。				
2. 授業内容 Week 1： Introduction Week 2： Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 3： Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 4： Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 5： Part 3: Unit 1 / Scanning and Previewing; Unit 2 / Making Inferences Part 4: Reading Faster Week 6： Part 3: Unit 3 / Understanding Paragraphs; Unit 4 / Identifying the Pattern Part 4: Reading Faster Week 7： Part 3: Unit 3 / Understanding Paragraphs; Unit 4 / Identifying the Pattern Part 4: Reading Faster Week 8： Mid-term Exam / Side Reader Week 9： Part 3: Unit 3 / Understanding Paragraphs; Unit 4 / Identifying the Pattern Part 4: Reading Faster Week 10：Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 11：Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 12：Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 13：Part 3: Unit 5 / Reading Longer Passages; Unit 6 / Skimming Part 4: Reading Faster Week 14： a. Final Exam； b. Review				
3. 履修上の注意 この授業はリーディングに重点を置き、母国語の本を読むように英書を読みこなすことを目標としています。一般的なリーディングの授業とはかなり異なり、テキストの理解に至るまでのリーディング・プロセスに焦点を当てた内容で、速読・多読の要素が含まれます。 使用する教科書のレベルは TOEIC 500～600 程度。また、指定したサイドリーダーを 1 冊読んで頂き、どの程度内容を理解しているかをみる記述式テストを実施します。 様々なスキルを身につけるためには、春・秋学期ともに受講して頂くのが望ましいと思います。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 練習問題で間違った箇所は必ず見直し、不明な点や納得できない点があれば次回の授業で質問すること。				
5. 教科書 More Reading Power 3, 3rd ed. (Pearson) One Title from Pearson English Readers (Pearson)				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題・テストへのフィードバックは授業内で行います。				

8. 成績評価の方法

毎回、授業の初めに Timed Reading を実施します (10 点満点の全 10 回)。この合計点の 20%と、サイドリーダーの記述式テスト 25%、教科書の復習テスト 35%、そして授業貢献度 20%の割合で最終評価をします。

9. その他

秋学期のみの受講者へ： Week 2 から教科書 (More Reading Power 3, 3rd ed.) を使用しますので、それまでに各自必ず購入しておいて下さい。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English		
担当者		岩崎 永一		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み，英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て，読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。				
2. 授業内容 第1回： イントロダクション 第2回： Chapter 1 The Country of Diversity （指定教科書に負っています。以下，同様。） ， 英国研究入門 第3回： Chapter 2 England, Wales, Scotland, and Northern Ireland, 英国の成り立ち 第4回： Chapter 4 The Birth of Cultural Studies in the UK, 文化研究の意義 第5回： Chapter 5 The Languages of the UK, 言語・英語の多様性 第6回： Chapter 6 The Development of Journalism in the UK, ジャーナリズムの役割・本質 第7回： Chapter 7 The Vessel of Worldwide Art and Culture, Chapter 4 の文化研究を引き継ぎ，英国の文化の研究 第8回： Chapter 9 The History of British Democracy, 民主主義がいかにして勝ち取られたという根本の理解 第9回： Chapter 10 The British Debate about the Economy, アダム・スミスおよびケインズの経済思想 第10回： Chapter 11 The Development of the Natural Sciences, 自然科学と思想の関わり 第11回： Chapter 12 The Country of Satire, 民主主義における風刺の役割と意義 第12回： Chapter 13 Nature and British People, 英国の人々の自然観 第13回： Chapter 14 Education （Cambridge and Oxford） ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の教育制度とその卓越性・素晴らしさから学べること 第14回 a： 試験 b： まとめ ※上記の一部は教科書の目次を転載致しております。				
3. 履修上の注意 英国研究（Area Studies）の授業となります。優れた英国研究の教科書を用いて，英国の文化・社会・芸術等を読み解いていきます。内容の大まかな理解を確認・促進する True or False の問題，内容の詳細を確認する問題，さらに，要約問題等を用いて理解力を確認した後，その他の内容を深める，あるいは，知識事項を練習するための補充的な活動も行っていきます。読解においては，できるだけ辞書に頼らず大まかな内容をつかむ訓練や特定の詳細の情報をキャッチする訓練も行います。同時に，辞書を丁寧に引く練習もして頂き，語彙の確認も丁寧にいきます。教科書本文の全文音読や（もし可能でしたら）ペアーやグループ等での簡単なディスカッションも行いますので，積極的に参加してください。 前期と後期で 2 冊の教科書を使用することにご留意ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また，小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。復習として教科書のスクリプトの音読をお勧めします。				
5. 教科書 Aspects of British Culture Academic Approaches 『真実のイギリス 文化，社会，芸術そして科学』 （原田範行 / Andrew Houwen / 森田彰 著，金星堂）				
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○小テストの結果を踏まえて解説致します。 ○Oh!Meiji の掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。				
8. 成績評価の方法 ①期末試験 50% ②参加 25%				

③授業内小テスト 25%

9. その他

毎回の継続的な参加により英語力を高めてください。また、この授業を通じて英国の文化・社会・歴史に対する理解を深め、また、深い洞察力・思考力を養ってください。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		岩崎 永一	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：教科書 Week 1 Prologue—Wedding 1 第3回：教科書 Week 2 Reception 第4回：教科書 Week 3 After the reception 第5回：教科書 Week 4 Wedding 2 第6回：教科書 Week 5 Reception 第7回：教科書 Week 6 A day off 第8回：教科書 Week 7 Wedding 3 第9回：教科書 Week 8 Funeral 第10回：教科書 Week 9 Wedding 4（1） 第11回：教科書 Week 10 Wedding 4（2）—Epilogue 第12回：復習と Summary Writing, Opinion Paragraph / Essay, Discussion 第13回：復習とコミュニケーション理論概説等 第14回 a：まとめ b：試験 ※上記の一部は教科書の目次を転載致しております。			
3. 履修上の注意 映画総合教材の教科書（松柏社）を用いて、後期はリーディング重視の総合学習を行います。ストーリーを理解する力、文脈を正確に理解する力、そして、多くの idiom に触れて知識を拡充することを目的とします。そのため、前期と後期で2冊の教科書を使用することにご留意ください。毎回、単語と慣用表現等の確認も丁寧に行います。教科書についている映画のスク립トの全文音読も行いますので、積極的に参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回のユニットの語彙を各自の必要に応じて確認しておいてください。また、小テストの前には教科書の既習事項の確認の勉強をして頂きます。復習として教科書のスク립トの音読をお勧めします。			
5. 教科書 総合英語教材「フォー・ウェディング」松柏社			
6. 参考書 各自の使いやすい各種の辞書（英和・英英）を毎回持参してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			

8. 成績評価の方法

- ① 期末試験 50%
- ② 参加 25%
- ③ 授業内小テスト 25%

9. その他

毎回の継続的な参加によりインプット量を増し、英語力を高めてください。また、この授業を通じて膨大なインプット量の確保・口語表現の拡充を目指してください。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		大塚 あゆみ	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 （到達目標） 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション，1A Profiles 第2回：1B Life maps 第3回：1C What next? 第4回：1D English in action 第5回：2A What happened? 第6回：2B Memories 第7回：2C Culture shock 第8回：2D English in action 第9回：3A Bucket lists 第10回：4A The internet generation 第11回：4C Favorite films 第12回：5A How does it look? 第13回：5C Eating well 第14回 a：講義全体のふりかえりとまとめ			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		大塚 あゆみ	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション, 6A Life without... 第 2 回：6B A difficult choice 第 3 回：6C Take action! 第 4 回：6D English in action 第 5 回：7A New skills 第 6 回：7B Life events 第 7 回：7C Trip of a lifetime 第 8 回：7D English in action 第 9 回：8A Changong rules 第 10 回：8C Natural world 第 11 回：9A Shopping 第 12 回：10A Education 第 13 回：10C What’s in a job? 第 14 回 a：講義全体のふりかえりとまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 ・紙媒体でも電子辞書でもよいので必ず辞書を授業に持ってくること。 ・その他は授業中に指定する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週の教科内容を復習し、不明な部分があれば授業で質問すること。 次の回の内容に目を通し、準備をすること。リスニングは授業内で行うので、文法問題、単語についての予習を 1 時間すること。			
5. 教科書 『ROADMAP B1』 Heather Jones, Monica Berlis (Pearson)			
6. 参考書 授業中に指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は、Oh-o! Meiji の「課題フォーム」にて提出された課題を採点し、コメントと解説を添付する。			
8. 成績評価の方法 授業への参加度，平常点 60%，期末試験 40％で評価する。			
9. その他 授業参加を重視するので必ず出席すること。やむを得ず欠席する場合は教員に連絡し，その指示に従って課題等の埋め合わせをすること。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		生越 秀子	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） この授業は TOEIC Listening Test 対策の問題演習を通じて、リスニングスキルの向上と TOEIC Listening Test のスコアを集中的に伸ばすことを意図します。 TOEIC テストの素材は、実際の日常生活やビジネス場面で用いられる生の英語で、学生の皆さんが今後英語圏で生活したりビジネスで英語を使用する時のベースとなる基本的な文法・語法・語彙をしっかりと学ぶのに適しています。授業では問題演習を中心に進めますが、指定されたテキスト音源を課外でシャドーイング練習することにより、リスニングとスピーキングの基礎を身に付けることができます。 （到達目標） TOEIC Listening Test で用いられる会話やトークをリアルタイムで理解する力を身に付け、スピーキング力の土台を培うこと、及び TOEIC Listening Test で目標スコアを獲得することが、本講座の到達目標です。			
2. 授業内容 第1回 Introduction, Practice Test Practice Test は今期の目標設定のための現有得点力を測るテストです。受講希望者は必ず受けてください 第2回 Lesson 1（Part 1 対策） 第3回 Lesson 2（Part 2 対策） ① 第4回 Lesson 2 ② 第5回 Lesson 2 ③ 第6回 Lesson 2 ④ + Lesson 3（Part 3 対策） ① 第7回 Lesson 3 ② 第8回 Lesson 3 ③ 第9回 Lesson 3 ④ 第10回 Lesson 3 ⑤ + Lesson 4（Part 4 対策） ① 第11回 Lesson 4 ② 第12回 Lesson 4 ③ 第13回 Lesson 4 ④ 第14回 期末試験 ※上記は実際の進行によって前後することがあります。			
3. 履修上の注意 1 限の授業ということもあり、TOEIC Listening テストのスコア対策に真剣に取り組める方のみ受講してください。 また、以下をよく読んで理解したうえで受講してください。 1. テキスト購入後、お知らせするウェブサイトから mp3 音源を全てダウンロードしてください（無料）。 2. 基本的に毎週指定範囲の問題をすべて予習してきてください。 （詳しい毎週の学習範囲は第1回授業時に配布、及びクラスウェブ授業資料にアップします） 3. 授業はみなさんの予習を前提として、問題の解答を皆さんに答えていただきながら、解説を行っていきます。 4. テストスコアアップの秘訣は、自分が間違えた問題を「なぜ・何を間違えたか」、1 問 1 問誤答分析することです。間違えた問題はすべて誤答分析してください。そのうち 1 問だけ、毎週クラスウェブの Discussion に投稿していただきます。 5. リスニング問題の英文スクリプトは全て授業時に配布します。 6. テキストは全て英語で書かれており、それなりにチャレンジングな内容です。また、市販の TOEIC 参考書や問題集と異なり、このテキストには解答や解説は付いていません。解答は授業内で全て確認してください。著作権上、解答の配布は行えませんので、注意してください。 *やむをえず欠席した方は、翌週教員に申し出て、欠席した授業時に配布されたスクリプトを受け取って解答を確認してください。 7. 欠席 4 回で単位取得不可能。遅刻(30 分まで)3 回で欠席 1 回にカウントします。 遅延証明書は 3 回まで受け付けますが、4 回目以降は、通常の遅刻としてカウントします。 8. 教科書を持参しない場合や授業に積極的に参加していない場合は、欠席扱いになりますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習： 基本的に毎週指定範囲の問題をすべて予習してきてください。 （詳しい毎週の学習範囲は第1回授業時に配布、及びクラスウェブ授業資料にアップします） 復習： 1. 授業で解答を確認しつつ間違えた問題はすべて誤答分析を行ってください。 2. Lesson 1～Lesson 2 の音源は、毎週の授業で配布されるスクリプトを活用しながら、リピーティング練習を行ってください。 3. Lesson 3～Lesson 4 の音源は、毎週の授業で配布されるスクリプトを活用しながら、シャドーイング練習を行ってください。 課題： 復習 1 の誤答分析の一部（1 問）をディスカッションに投稿してください。			

5. 教科書

Complete Guide to the TOEIC TEST 4th edition
(Cengage Learning 社)

ISBN 978 1337396530

*このテキストには今期に使用しないリーディングパートが半分以上含まれています。
(同教員による同講座B[秋学期] で使用します)[b]

*また解答・解説はテキストに付いていません。[/b]

6. 参考書

TOEIC L&R テストこの1冊で650点(コスモピア)
ISBN 978-4-86454-107-7

TOEIC L&R テストこの1冊で750点(コスモピア)
ISBN 978-4-86454-137-4

以上2冊は教員の著書ですが、授業では使用しませんので必ずしも購入する必要はありません。
日本語で各パートの特徴や対策を知りたい方はご覧ください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブのDiscussion に投稿された誤答分析については、適宜授業中にフィードバックします。

8. 成績評価の方法

平常点 68% (授業参加度, 課題提出, スコアレポート等)

テスト 32% (ただし、第1回のPractice Test は成績に算入しません。Practice Test は今期の目標設定のための現有得点力を測るテストです。受講希望者は必ず受けてください)

9. その他

教員は、出版社勤務経験があり、現在も英語教材の企画制作、英検・TOEIC 関連の通信講座やアプリの開発、参考書の執筆などに携わっています。プライベートでは、フットボールが好きで主にイングランドのプレミアリーグを見ています。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		押上 玲奈	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Unit 2 Descriptions 第 3 回：Unit 2 第 4 回：Unit 1 My interests 第 5 回：Unit 1 第 6 回：Presentation 第 7 回：Unit 4 Life at home 第 8 回：Unit 4 第 9 回：Feedback 第 10 回：Presentation 第 11 回：Unit 3 Rain or shine 第 12 回：Unit 6 What’s on TV? 第 13 回：Feedback 第 14 回：Final presentation			
3. 履修上の注意 教科書・辞書（電子辞書可）・配布物は必ず毎回持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回ある簡単な復習課題は Oh-o ! Meiji 上もしくはメールにてすべて提出し、フィードバックコメントに応じて再提出等を行う事。その他、学期に 3 回ほどのお出しする大きな課題については、一度提出し返却された後、Feedback を参考にしっかりと修正を行い、Presentation のための準備を十分に行う事。			
5. 教科書 Jack C. Richards, and David Bohlke “Four Corners” 2nd edition, Level 2, Split A, Cambridge University Press and Assessment.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則的に Oh-o ! Meiji 上、必要に応じてメールでいたします。			
8. 成績評価の方法 出席（30％）〈単位修得には 80％以上の出席を必要とする〉：平常点（30％）〈授業への貢献度〉：課題（40％）（特に presentation を伴う 3 つの課題は全ての提出が必須）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） B EM Comprehensive English	
担当者		押上 玲奈	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 （到達目標） 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Unit 8 Fun in the city 第 3 回：Unit 8 第 4 回：Unit 8 第 5 回：Presentation 第 6 回：Unit 9 People 第 7 回：Unit 9 第 8 回：Feedback 第 9 回：Presentation 第 10 回：Movie day 第 11 回：Unit 10 In a restaurant 第 12 回：Unit 10 第 13 回：Feedback 第 14 回：Final presentation			
3. 履修上の注意 教科書・辞書（電子辞書可）・配布物は必ず毎回持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回ある簡単な復習課題は Oh-o ! Meiji 上もしくはメールにてすべて提出し、フィードバックコメントに応じて再提出等を行う事。その他、学期に 3 回ほどのお出しする大きな課題については、一度提出し返却された後、Feedback を参考にしっかりと修正を行い、Presentation のための準備を十分に行う事。			
5. 教科書 Jack C. Richards, and David Bohlke "Four Corners" 2nd edition, Level 2, Split B, Cambridge University Press and Assessment.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則的に Oh-o ! Meiji 上、必要に応じてメールでいたします。			
8. 成績評価の方法 出席（30％）〈単位修得には 80％以上の出席を必要とする〉：平常点（30％）〈授業への貢献度〉：課題（40％）（特に presentation を伴う 3 つの課題は全ての提出が必須）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English		
担当者		熊倉 麻名		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 a. テキストブック以外の学習 (1) プレゼンテーションを行う (2) 質疑・応答を行う (3) 評価を書く b. テキスト学習：各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。				
2. 授業内容 第 1 回：a:英語でインタビュー① b. 英文履歴書 第 2 回：a:英語でインタビュー② b 応募の手紙 第 3 回：a:グループ発表① b. 1. 目的を告げる 第 4 回：a:グループ発表② b. 2. 初対面 第 5 回：a:グループ発表③ b. 3. 名刺を渡す 第 6 回：a. 最終プレゼン説明 b. 4. 電話 第 7 回：a. 最終プレゼンと Q&A b 5. 電話トラブル 第 8 回：a. 最終プレゼンと Q&A b 6. 空港で 第 9 回：a. 最終プレゼンと Q&A b 7. 依頼 第 10 回：a:最終プレゼンと Q&A b 8. 伝言 第 11 回：a:最終プレゼンと Q&A b 9 問い合わせ 第 12 回：a:最終プレゼンと Q&A b 10 アポをとる 第 13 回：a: プレゼンの振返り b: テキスト学習振返り 第 14 回：筆記試験、試験の振返り 注) 1. a. プレゼンの学習（主に授業前半） b. テキスト学習（主に授業後半） 2. 履修生の人数や事情により、日程が前後または変更される可能性があります。				
3. 履修上の注意 1. 感染症対策のための大学の指針に沿って授業を行います。 （大学からの指示等により、授業内容・スケジュールを多少変更する場合があります。） 2. 授業では辞書が必要です。 3. 火曜日 2, 3, 4 限は同じ授業のため複数履修は出来ません。ご注意ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＜主に授業時間の前半＞ a-1: Writing は書く力を伸ばすために自分自身で進め、チェックを受けたら推敲して復習しましょう。 a-2: より良いプレゼンを目指して、発表前に原稿とパワポのスライドを使って自分自身でリハーサルを行いましょう。 終了後はクラスメートからのメッセージカードを読みながら反省点を確認しましょう。 [b] ＜主に授業時間の後半＞ [/b] b: テキスト学習では予習と復習によってビジネス定型文を習得しましょう。				
5. 教科書 English for Business Communication（和名：『ビジネスコミュニケーション』） 南雲堂				
6. 参考書 準備・購入不要 （授業で必要な参考資料については、適宜、授業内で配布または Oh-o ! Meiji のお知らせや授業資料に出します。）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出物への教員書き込みによるフィードバック。 2. メールでのフィードバック（原稿やパワーポイントスライドの修正依頼と修正、修正後のやり取り）。				

3. 発表後の振り返り（学生記入）に対するフィードバック。

8. 成績評価の方法

- a. プレゼン（原稿&パワポ・発表・Q&A、評価表記載）50%
- b. テキスト学習（授業貢献、筆記試験）50%

9. その他

諸処の事情によりスケジュールは変更されることがあります。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		熊倉 麻名	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 a. テキストブック以外の学習 (1) プレゼンテーションを行う (2) 質疑・応答を行う (3) 評価を書く b. テキスト学習：各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという4技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：a: プレゼン概要説明&トピック選択 b: 慶弔文①（プリント学習） 第 2 回：a: プレゼントピックにかかわる会話形式ベアスピーチ b: 慶弔文②（プリント学習） 第 3 回：a. 英語でアンケート&回答 b. 11 要求 第 4 回：a: 英語でアンケート&回答 b: 12 詫びる 第 5 回：a: 英語でアンケート&回答 b. 13 アポをとる 第 6 回：a: 英語でアンケート&回答 b: 14 不在の知らせ 第 7 回：a: 英語でアンケート&回答 b: 15 確認 第 8 回：a. 最終プレゼンと Q&A b. 16 添付 第 9 回：a: 最終プレゼンと Q&A b: 17 求人 第 10 回：a: 最終プレゼンと Q&A b: 18 提案 第 11 回：a: 最終プレゼンと Q&A b: 19 異動 第 12 回：a: 最終プレゼンと Q&A b: 20 お別れ 第 13 回：a: プレゼンの振り返り b. テキスト学習まとめ 第 14 回：b. 期末筆記試験と試験の振り返り 注) a. 主に授業の前半にプレゼン学習を行います。 b. 主に授業の後半にテキスト学習（ビジネスコミュニケーション）を行います。			
3. 履修上の注意 1. 感染症対策： 大学の指針に沿って授業を行います。その際には、授業内容・スケジュールを多少変更する場合があります。 2. 授業では辞書が必要です。 3. 火曜 2, 3, 4 限は同じ授業のため、復習履修は出来ませんのでご注意ください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <主に授業の前半> a-1: プレゼンのための Writing は書く力を伸ばすために自分自身で進め、チェックを受けたら推敲して復習しましょう。 a-2: より良いプレゼンを目指して、発表前に原稿とパワポのスライドを使って自分自身でリハーサルを行いましょう。 プレゼン終了後は自己採点をしましょう。クラスメートからの評価&メッセージカードを読みながら反省点を確認しましょう。 <主に授業の後半> b: テキスト学習は予習と復習によってビジネス定型文を習得しましょう。			
5. 教科書 English for Business Communication 和名：『ビジネスコミュニケーション』（南雲堂）			
6. 参考書 不要 （授業で必要な参考資料は授業中に配布、または Oh-o! Meiji のお知らせや授業資料に出します。）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 1. 提出物への教員書き込みによるフィードバック。 2. メールでのフィードバック（原稿やパワーポイントスライドの修正依頼と修正、修正後のやり取り）。 3. 発表後の振り返り（学生記入）に対するフィードバック。			

8. 成績評価の方法

- a. Writing/Presentation（原稿&パワポ作成・発表，質疑応答、評価表記入）50%
- b. テキスト学習（授業貢献，筆記試験）50%

9. その他

諸処の事情によりスケジュールは変更されることがあります。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		小池 知之	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 （到達目標） 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：英文 reading へのイントロダクション 機能語，内容語を中心に 第 2 回：分詞構文と Reading 第 3 回：単文構造と節について 第 4 回：重文構造と等位接続し 第 5 回：副文構造と従属接続し 第 6 回：主語と同格構造 第 7 回：関係詞節と速読 第 8 回：副詞節と速読 第 9 回：名詞節の注意点 第 10 回：形容詞節の注意点 第 11 回：reading と writing の相関性 1 第 12 回：reading と writing の相関性 2 第 13 回：reading と listening の相関性 第 14 回 a：試験 b：講義のふりかえりと試験の解説			
3. 履修上の注意 基本英文法の構築が多方済んでいることが望まれる。また指定教科書が JapanTimes 紙よりの引用なので英文自体は native による native 対象の物になり高度であるので日頃より多方面にわたる英文を読んでいることが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定してある教科書の予習においては構文構造の確認に重点をおいて，また復習においては構文の再構築に基づく速読を意識して行つて欲しい。reading を日常の習慣にしてもらいたい。			
5. 教科書 Amazing Japan Christopher Valvona 朝日出版社			
6. 参考書 英語で話す日本経済 講談社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題内容に適した方法、添削、コメント等。			
8. 成績評価の方法 隔週で演習を課しレポート提出を求める。これらを 20％，授業への貢献度 10％，期末試験を 70％で評価する。			
9. その他 質問等は毎授業時ないで即座にして欲しい。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English		
担当者		小池 知之		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 （到達目標） 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。				
2. 授業内容 第 1 回：writing へのイントロダクション 5 文型を中心に 第 2 回：機能語と writing 第 3 回：内容語と writing 第 4 回：節と句の違いと writing 第 5 回：名詞節と writing 第 6 回：副詞節と writing 第 7 回：形容詞節と writing 第 8 回：topic sentence の書き方 第 9 回：support sentence の書き方 第 10 回：conclusion の書き方 第 11 回：パラグラフとエッセイ 1 第 12 回：パラグラフとエッセイ 2 第 13 回：writing における誤りの例 第 14 回 a：試験 b：講義のふりかえりと試験の解説				
3. 履修上の注意 基本英文法の構築が多方済んでいることが望まれる。また指定教科書が JapanTimes 紙よりの引用なので英文自体は native による native 対象の物になり高度であるので日頃より多方面にわたる英文を読んでいることが望まれる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定してある教科書の予習においては構文構造の確認に重点をおいて、また復習においては構文の再構築に基づく速読を意識して行つて欲しい。reading を日常の習慣にしてもらいたい。				
5. 教科書 Amazing Japan Christopher Valvona 朝日出版社				
6. 参考書 英語で話す日本経済 講談社				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題内容に適した方法、添削、コメント等。				
8. 成績評価の方法 隔週で演習を課しレポート提出を求める。これらを 20％、授業への貢献度 10％、期末試験を 70％で評価する。				
9. その他 質問等は毎授業時ないで即座にして欲しい。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） B EM Comprehensive English	
担当者		相馬 美明	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （１）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （２）リスニングとスピーキング練習を行う。 （３）ライティング練習を行う。 （４）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 （到達目標） 読む・書く・聞く・話すという４技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 いろいろな場面において使われるネイティブ・スピーカーの英語に充分慣れる。多くの練習問題を通して、より複雑な内容を理解できるようにする。リスニング能力の増強のために、穴埋めや書き取り、要約などの練習を行う。加えて、プレゼンテーションの練習も行う。 （１）秋学期予定確認、TOEFL Exercise 13 PART A, Wedding Ceremonies Expenses, We’ re All Alone （２）TOEFL Exercise 14 PART B, Excellent power of memory, Film 1 （３）TOEFL Exercise 16 PART C, Coin changer, Film 1 （４）TOEFL Exercise 17 PART A, Diplomacy, Film 1 - 2 （５）TOEFL Exercise 18 PART B, プレゼンテーションについて指示、説明 （６）TOEFL Exercise 19 PART C, Film 2, She’ s got a way. （７）TOEFL Exercise 20 PART A, Film 2 - 3 （８）TOEFL Exercise 21 PART B, Film 3, The Story of O-TEI （９）TOEFL Exercise 22 PART C, Film 3 - 4 （10）TOEFL Exercise PART A - C, まとめ、力だめし （11）プレゼンテーション 1 （12）プレゼンテーション 2 （13）プレゼンテーション 3 （14）a：期末試験 b：正答解説			
3. 履修上の注意 リスニング・スピーキングの上達には毎日の練習が必要である。授業中の練習に加えて教室外でも練習を行うことを心がける。指示された課題は必ずこなし、予習も必須である。学生は、自らの可能性を信じ、真剣に授業に臨むこと。 春学期、秋学期ともに受講することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で学習した表現の反復練習のみならず、授業外では英語でニュースを聞いたり、また字幕なしで映画を見るなど、普段の生活においても意識的に英語に触れ、関心を深めてもらいたい。またそのことを通じ、自信をつけてもらいたいと考える。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず、毎回プリントを使用する。			
6. 参考書 必要に応じ適宜、紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じ Oh-o!Meiji に掲載、対応したい。 欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。 学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）：出席については、基本的に全出席を原則とする。きちんと出席し、真剣に取り組む姿勢を評価したい。 学期末試験（40％）：必ず受験すること。 プレゼンテーション（20％）：積極的に話し、聞き、発表することを評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English		
担当者		高梨 絵梨沙		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。				
〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。				
2. 授業内容				
第 1 回：春学期ガイダンス， ショートスピーチ 第 2 回：Unit 1 ① 第 3 回：Unit 1 ② 第 4 回：Unit 1 ③ 第 5 回：Unit 3 ① 第 6 回：Unit 3 ② 第 7 回：Unit 3 ③ 第 8 回：Unit 4 ① 第 9 回：Unit 4 ② 第 10 回：Unit 4 ③， 英語プレゼンテーション 第 11 回：Unit 4 ④ 第 12 回：Unit 5 ① 第 13 回：Unit 5 ② 第 14 回 a：試験 b：春学期のまとめ				
3. 履修上の注意				
授業参加を重視するので、必ず出席し、 クラスのアクティビティーに積極的に参加すること。 ※火曜日 4 時限 高梨担当の「英語(中級)A」は、この授業と同内容の授業となります。(毎回の授業で学習するテキストの範囲も同じです。) その為、3、4 時限 2 時間続けて両方履修することはできません。3 時限もしくは 4 時限どちらかの履修をお願いします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
前の週に指示する課題を中心に、 次回の準備をすること。				
5. 教科書				
『Roadmap B1 Students’ Book & Interactive eBook with digital resources & mobile app』 Pearson (Monica Berlis, Heather Jones 著、2024 年)				
6. 参考書				
英和（和英）辞書，および英々辞書。電子辞書でもよいので必ず毎回授業に 持参すること。 （授業中に、教室でスマートフォンを辞書の代わりに使用するのは不可とします。）				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
○プレゼンテーション原稿等の提出物は、教員が書き込みをし、授業時に返却を行います。 ○授業中に行う小テストに関しては採点后、授業時に返却、解説を行います。				
8. 成績評価の方法				
平常点：60％、定期テスト：40％ 詳細は、 第一回目の授業で説明する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English		
担当者		高梨 絵梨沙		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 （1）課題を読み，英問英答等で内容確認をする。 （2）リスニングとスピーキング練習を行う。 （3）ライティング練習を行う。 （4）ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て，読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。				
2. 授業内容 第1回：秋学期ガイダンス，ショートスピーチ 第2回：Unit 6 ① 第3回：Unit 6 ② 第4回：Unit 6 ③ 第5回：Unit 7 ① 第6回：Unit 7 ② 第7回：Unit 7 ③ 第8回：Unit 7 ④，英語プレゼンテーション 第9回：Unit 8 ① 第10回：Unit 8 ② 第11回：Unit 8 ③ 第12回：Unit 9 ① 第13回：Unit 9 ② 第14回 a：試験 b：秋学期のまとめ				
3. 履修上の注意 授業参加を重視するので，必ず出席し，クラスのアクティビティーに積極的に参加すること。 ※火曜日 4 時限 高梨担当の「英語(中級)B」はこの授業と同内容の授業となります。（毎回の授業で学習するテキストの範囲も同じです。）その為、3、4 時限 2 時間続けて両方履修することはできません。3 時限もしくは 4 時限どちらかの履修をお願いします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前の週に指示する課題を中心に，次回の準備をすること。				
5. 教科書 『Roadmap B1 Students’ Book & Interactive eBook with digital resources & mobile app』 Pearson （Monica Berlis, Heather Jones 著、2024 年）				
6. 参考書 英和（和英）辞書および英々辞書。電子辞書でもよいので必ず毎回授業に持参すること。 （授業中に、教室でスマートフォンを辞書の代わりに使用するのは不可とします。）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 ○プレゼンテーション原稿等の提出物は、教員が書き込みをし、授業時に返却を行います。 ○授業中に行う小テストに関しては採点后、授業時に返却、解説を行います。				
8. 成績評価の方法 平常点：60％、定期テスト：40％ 詳細は，第一回目の授業で説明する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		戸田 博之	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 皆さんは「金融」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか？例えば皆さんの持っている普通預金、クレジットカード、そしてスマホに入っている電子マネー。また学生ローンや奨学金といった制度を利用して大学に通っている人もいるかと思います。さらには株式、債券、不動産、仮想通貨などというものに興味を持っている人もいるでしょう。これらはすべて金融商品と呼ばれるものです。これらを提供する業界を金融業界といいますが、その中には銀行、証券会社、保険会社、クレジットカード会社などがあります。これらに共通する「金融」のエッセンスはなんなのでしょうか？この講座では、英語で提供されている金融に関わる情報・資料を教材として、金融とは何か、金融と皆さんはどう関わっているのか、そして金融商品という商品を消費者として購入する際に、賢い買い方・使い方をするために身につけておくべき知識の獲得を目指します。併せて、英語で金融を理解する、英語で金融概念を伝える力をつけることをも目指します。 〈Overview〉 What comes to mind when you hear the word "finance"? Perhaps you think of your savings account, credit cards, or electronic money stored on your smartphone. Some of you may be attending university with the help of student loans or scholarships. Others might be interested in stocks, bonds, real estate, or cryptocurrencies. All of these are referred to as financial products. The industry that provides these products is called the financial industry, which includes banks, securities firms, insurance companies, and credit card companies. But what is the essence of "finance" that ties all of these together? In this course, using materials and resources related to finance that are available in English, we will explore what finance is, how it connects to you, and the knowledge you need to become a wise consumer when purchasing or using financial products. Additionally, the course aims to develop your ability to understand finance in English and communicate financial concepts in English. 〈到達目標〉 1. ファイナンスの本質的な意味、その社会における役割、そして私たちとのつながりを説明することができる。 2. 賢い消費者としてお金を扱うために必要なファイナンスの基本的な知識（金融リテラシー）を説明することができる。 3. 上記を英語で説明することができる。 〈Learning Objectives〉 1. Be able to explain the essential meaning of finance, its role in society, and its connection to us. 2. Be able to explain the basic knowledge of finance (financial literacy) necessary to manage money as a wise consumer. 3. Be able to explain the above concepts in English.			
2. 授業内容 Week 1 Course orientation (コースガイダンス) Economic Trend 景気 Week 2 Economic Trend 景気 Week 3 Interest Rate 金利 Week 4 Interest Rate 金利 Week 5 Government Bonds 国債 Week 6 Government Bonds 国債 Week 7 Mid-term Exam 中間テスト Week 8 Currency Exchange 為替 Week 9 Currency Exchange 為替 Week 10 Financial Business 金融機関 Week 11 Financial Business 金融機関 Week 12 The Central Bank 中央銀行 Week 13 The Central Bank 中央銀行 Week 14 Final Exam 期末テスト			
3. 履修上の注意 講師が国際金融に長年携わってきた経験を踏まえて、春学期は企業がその活動をする上でどのようにお金を扱っているか、また、個人とお金はどのように関わっているかという2つの側面から、「英語で金融を学ぶ」をモットーにコースの運営を行う。この期には、英語で金融に関する概観的知識を整理しながら獲得して行くことを目指す。 秋学期には、春学期で身につけた金融の切り口を踏まえて、現在の企業経営環境を捉える観点から、ケーススタディ方式でホット 이슈を多く採り上げ、ディスカッションの材料とする。いわば、「英語で企業経営の課題を探る」ことを目指す。半期履修の場合も通年履修の場合も、積極的に授業内容を吸収し、授業に参加することが求められるので、欠席は極力しないよう努力して欲しい。 Building on the instructor's extensive experience in international finance, this course is structured around the theme of "learning finance in English." The spring semester will focus on two aspects: how companies manage money in their operations and how individuals interact with money. The goal is to acquire a broad understanding of finance in English while organizing and expanding knowledge on the subject.			

In the fall semester, building on the financial perspectives developed in the spring, the course will shift to examining the current corporate management environment. Using a case study approach, the focus will be on exploring hot issues and using them as material for discussions. The aim will be to “explore corporate management challenges in English.” Whether students take the course for one semester or the entire academic year, they are expected to absorb the course content and participate in class actively. Efforts should be made to minimize absences as much as possible.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

予め読解課題を指定するので、授業に出席する前に読み、疑問点を整理して来ること。また、その疑問を授業の場で実際に質問の形で講師および他の学生に投げかける姿勢で臨んで欲しい。（ただし、事前読解の時間が取れない場合でも、予習をしていないことで気後れして欠席することはせず、授業にはしっかり出席し、その場での議論に積極的に参加して欲しい）適宜範囲を指定して小テストを行うので、しっかり準備して臨むこと。中間テストと期末テストを実施する。

Reading assignments will be specified in advance, so read them before class and organize any questions or areas of confusion. Students are encouraged to actively participate by posing these questions to the instructor and other classmates during the lessons. (However, even if you are unable to set aside time for pre-reading, do not let the lack of preparation prevent you from attending class. Instead, make an effort to attend and engage actively in the discussions.)

Short quizzes will be administered as needed on specific sections, so prepare thoroughly for these. Midterm and final exams will also be conducted.

5. 教科書

First Time Economics

Learning about Money and Finance in English

総合英語で学ぶ 大学生のための経済とお金のきほん

戸田博之 / Charles LeBeau 著

金星堂

6. 参考書

適宜指示する。インターネット上の映像など、オーディオビジュアル教材を事前の視聴なども随時指示する。

Instructions will be given as necessary. Students may also be directed to watch audiovisual materials, such as videos available online, in advance.

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席および授業への参画・貢献（毎回の課題として「振り返りシート」を提出。特に質問の多さを高く評価する）：20%

小テスト、宿題：20%

期末テスト：60%

Grading Breakdown:

Attendance and Participation/Contribution (including submission of a “Reflection Sheet” for each class; active questioning is especially highly evaluated): 20%

Quizzes and Homework: 20%

Final Exam: 60%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		戸田 博之	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 皆さんは「金融」という言葉を聞いて何を思い浮かべますか？例えば皆さんの持っている普通預金、クレジットカード、そしてスマホに入っている電子マネー。また学生ローンや奨学金といった制度を利用して大学に通っている人もいるかと思います。さらには株式、債券、不動産、仮想通貨などというものに興味を持っている人もいるでしょう。これらはすべて金融商品と呼ばれるものです。これらを提供する業界を金融業界といいますが、その中には銀行、証券会社、保険会社、クレジットカード会社などがあります。これらに共通する「金融」のエッセンスはなんなのでしょうか？この講座では、英語で提供されている金融に関わる情報・資料を教材として、金融とは何か、金融と皆さんはどう関わっているのか、そして金融商品という商品を消費者として購入する際に、賢い買い方・使い方をするために身につけておくべき知識の獲得を目指します。併せて、英語で金融を理解する、英語で金融概念を伝える力をつけることをも目指します。 〈Overview〉 What comes to mind when you hear the word "finance"? Perhaps you think of your savings account, credit cards, or electronic money stored on your smartphone. Some of you may be attending university with the help of student loans or scholarships. Others might be interested in stocks, bonds, real estate, or cryptocurrencies. All of these are referred to as financial products. The industry that provides these products is called the financial industry, which includes banks, securities firms, insurance companies, and credit card companies. But what is the essence of "finance" that ties all of these together? In this course, using materials and resources related to finance that are available in English, we will explore what finance is, how it connects to you, and the knowledge you need to become a wise consumer when purchasing or using financial products. Additionally, the course aims to develop your ability to understand finance in English and communicate financial concepts in English. 〈到達目標〉 1. ファイナンスの本質的な意味、その社会における役割、そして私たちとのつながりを説明することができる。 2. 賢い消費者としてお金を扱うために必要なファイナンスの基本的な知識（金融リテラシー）を説明することができる。 3. 上記を英語で説明することができる。 〈Learning Objectives〉 1. Be able to explain the essential meaning of finance, its role in society, and its connection to us. 2. Be able to explain the basic knowledge of finance (financial literacy) necessary to manage money as a wise consumer. 3. Be able to explain the above concepts in English.			
2. 授業内容 Week 1 Course orientation (コースガイダンス) Foreign Trade 貿易 Week 2 Foreign Trade 貿易 Week 3 Japanese Industry 日本の産業 Week 4 Japanese Industry 日本の産業 Week 5 Starting a Business 起業と就職 Week 6 Starting a Business 起業と就職 Week 7 Mid-term Exam 中間テスト Week 8 Social Security 社会保険 Week 9 Social Security 社会保険 Week 10 Declining Birthrate and Aging Population 少子高齢化と経済 Week 11 Declining Birthrate and Aging Population 少子高齢化と経済 Week 12 Stock Investment 株式投資 Week 13 Stock Investment 株式投資 Week 14 Final Exam 期末テスト			
3. 履修上の注意 本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予め読解課題を指定するので、授業に出席する前に読み、疑問点を整理して来ること。また、その疑問を授業の場で実際に質問の形で講師および他の学生に投げかける姿勢で臨んで欲しい。（ただし、事前読解の時間が取れない場合でも、予習をしていないことで気後れて欠席することはせず、授業にはしっかり出席し、その場での議論に積極的に参加して欲しい） 適宜範囲を指定して小テストを行うので、しっかり準備して臨むこと。中間テストと期末テストを実施する。 Reading assignments will be specified in advance, so read them before class and organize any questions or areas of confusion. Students are encouraged to actively participate by posing these questions to the instructor and other classmates during the			

lessons. (However, even if you are unable to set aside time for pre-reading, do not let the lack of preparation prevent you from attending class. Instead, make an effort to attend and engage actively in the discussions.)

Short quizzes will be administered as needed on specific sections, so prepare thoroughly for these. Midterm and final exams will also be conducted.

5. 教科書

First Time Economics

Learning about Money and Finance in English

総合英語で学ぶ 大学生のための経済とお金のきほん

戸田博之 / Charles LeBeau 著

金星堂

6. 参考書

適宜指示する。インターネット上の映像など、オーディオビジュアル教材を事前の視聴なども随時指示する。

Instructions will be given as necessary. Students may also be directed to watch audiovisual materials, such as videos available online, in advance.

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

出席および授業への参画・貢献（毎回の課題として「振り返りシート」を提出。特に質問の多さを高く評価する）：20%

小テスト、宿題：20%

期末テスト：60%

Grading Breakdown:

Attendance and Participation/Contribution (including submission of a "Reflection Sheet" for each class; active questioning is especially highly evaluated): 20%

Quizzes and Homework: 20%

Final Exam: 60%

9. その他

講師が国際金融に長年携わってきた経験を踏まえて、春学期は企業がその活動をする上でどのようにお金を扱っているか、また、個人とお金はどのように関わっているかという2つの側面から、「英語で金融を学ぶ」をモットーにコースの運営を行う。この期には、英語で金融に関する概観的知識を整理しながら獲得して行くことを目指す。秋学期には、春学期で身につけた金融の切り口を踏まえて、現在の企業経営環境を捉える観点から、ケーススタディ方式でホットイシューを多く採り上げ、ディスカッションの材料とする。いわば、「英語で企業経営の課題を探

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		中村 美帆子	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 （到達目標） 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Voice 3 (Saving Children in Poverty Through Music) 1 第 3 回：Voice 3-2 第 4 回：Voice 4 (The Matcha Business: A Maverick Spirit) 1 第 5 回：Voice 4-2 第 6 回：小テスト 1、まとめ 第 7 回：Voice 5 (French Refugee Integration) 1 第 8 回：Voice 5-2 第 9 回：Voice 10 (The Danish Recipe for Happiness) 1 第 10 回：Voice 10-2 第 11 回：小テスト 2、まとめ 第 12 回：Voice 11 (Knitting the Future by Hand) 1 第 13 回：Voice 11-2 第 14 回：a. 試験、b. まとめ			
3. 履修上の注意 1. NHK の英語インタビュー番組を収録した教科書から 5 つの voice を選んで使用する。 2. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 3. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。			
5. 教科書 『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk / NHK Direct Talk 世界を変える声を聞く』、Megumi Kobayashi 他著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。			
6. 参考書 資料を適宜配布する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。			
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%			
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		中村 美帆子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 （到達目標） 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：Voice 2 (Bringing Medicine to the African Backcountry) 1 第 3 回：Voice 2-2 第 4 回：Voice 7 (Farming Is the Future) 1 第 5 回：Voice 7-2 第 6 回：小テスト 1、まとめ 第 7 回：Voice 9 (Helping the Socially Vulnerable) 1 第 8 回：Voice 9-2 第 9 回：Voice 12 (Towards a Zero-Waste Future) 1 第 10 回：Voice 12-2 第 11 回：小テスト 2、まとめ 第 12 回：Voice 13 (The Healing Power of Dogs) 1 第 13 回：Voice 13-2 第 14 回：a. 試験、b. まとめ			
3. 履修上の注意 1. NHK の英語インタビュー番組を収録した教科書から 5 つの voice を選んで使用する。 2. 毎回の授業には、必ず辞書を持参すること（英和、和英）。 3. 5 回以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻・早退は 3 回で 1 回の欠席とみなす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：単語や表現を辞書で調べ、練習問題を解く（1 時間）。 復習：内容や語彙を確認し、小テストと試験に備える（1 時間）。			
5. 教科書 『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk / NHK Direct Talk 世界を変える声を聞く』、Megumi Kobayashi 他著（金星堂） ※大学の書店で必ず購入すること。			
6. 参考書 資料を適宜配布する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストの解答・解説は、授業内に直接または Oh-o!Meiji を通じて示す。			
8. 成績評価の方法 期末試験 50%、小テスト 30%、授業への参加度 20%			
9. その他 連絡先：最初の講義で示す。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		バーニンガー, ジョ	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students’ English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues			
2. 授業内容 Part 1: Introduction/ Friendships Part 2: Family harmony extra Part 3: Special qualifications Part 4: Spending money Part 5: Ways of succeeding Part 6: Good habits Part 7: Special topic Part 8: Midterm in group on an important issue Part 9: For the sake of the children Part 10: Cult influence Part 11: A new change. Part 12: Special current event Part 13: Special current event. Part 14: Final issue presentations to the class			
3. 履修上の注意 Be able to discuss difficult social issues in English.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook dialogues. Students will learn vocabulary. Students will express their opinions and use requests for clarification, requests for confirmation and other conversation tools. Students will prepare for presentations.			
5. 教科書 Impact Issues 2 (3rd. Ed.) by Richard Day, Joseph Schaules and Junko Yamanaka (Longman Publisher)			
6. 参考書 Bring a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback directly to students.			
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (20%) Active daily participation (30%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)			
9. その他 This class will be taught in English. Students will be expected to do about 45-60 min. of homework each week.			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） B EM Comprehensive English		
担当者		バーニンガー, ジョ		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Outline English has become a language of global communication. At the university level we will use English to look at some important issues on the global level. Global Issues A aims to develop students' English ability while introducing issues in the world today and encouraging further exploration. Learning how to discuss topics effectively will also be a goal for this course. Students will learn from the teacher as well as from each other. Objectives To develop a detailed awareness of global issues To be able to discuss global issues in English To become familiar with and practice a range of reading skills To acquire key vocabulary associated with global issues To be able to participate effectively in an in group presentation To be able to present in front of a class on important issues				
2. 授業内容 Course Contents Part 1: Introduction / needs survey / useful class expressions Part 2: Why learn English (Why learn any 2nd language) Part 3: Forever single Part 4: What's for dinner ? Part 5: Last chance Part 6: Take the money and run Part 7: Traffic jam Part 8: Midterm in group on an important issue Part 9: For the sake of the children Part 10: Family harmony Part 11: Family values Part 12: Taking care of mother Part 13: A reward or a bribe ? Part 14: Final issue presentations to the class				
3. 履修上の注意 Be able to discuss difficult social issues in English.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will read textbook dialogues. Students will learn vocabulary. Students will express their opinions and use requests for clarification, requests for confirmation and other conversation tools. Students will prepare for presentations.				
5. 教科書 Impact Issues 2 (3rd. Ed.) by Richard Day, Joseph Schaules and Junko Yamanaka (Longman Publisher)				
6. 参考書 Bring a good English English or Japanese English dictionary (including electronic dictionary).				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Teacher will provide feedback to students directly.				
8. 成績評価の方法 Evaluation will be made up of the following: Homework from textbook (20%) Active daily participation (30%) Midterm presentation (25%) Final presentation (25%)				

9. その他

This class will be taught in English. Students will be expected to do about 45-60 min. of homework each week.

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English		
担当者		廣瀬 絵美		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本科目は、基本的な語彙力の習得と文法や文構造の理解を深め、実践的な英語運用能力向上の素地となる基礎固めを確実に行う。教材は TOEIC の試験問題を積極的に取り入れ、英語・資格試験に対応できる実践力を養成する。 「到達目標」 1. 英語コミュニケーション力の基礎となる語彙や文法を理解し、使うことができる。 2. 身近な話題から社会問題やビジネスに関連した内容の英語を聞いて理解できる。 3. 自分自身や身近な話題について英語で表現できる。 4. TOEIC 等の英語試験対策を考慮しながら、発展的な英語表現を学び理解できる。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：TOEIC Listening and Reading (Travel) 第3回：TOEIC Listening and Reading (Travel) 第4回：TOEIC Listening and Reading (Customer Services) 第5回：TOEIC Listening and Reading (Customer Services) 第6回：TOEIC Listening and Reading (Media) 第7回：TOEIC Listening and Reading (Media) 第8回：TOEIC Listening and Reading (Entertainment) 第9回：TOEIC Listening and Reading (Entertainment) 第10回：TOEIC Listening and Reading (Purchasing) 第11回：TOEIC Listening and Reading (Purchasing) 第12回：TOEIC Listening and Reading (Events) 第13回：TOEIC Listening and Reading (Events) 第14回：まとめ				
3. 履修上の注意 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業は、予習・復習各 30 時間の計 90 時間の学修を必要とする。 「準備学習」 （予習）リーディング教材を前もって読み、わからない単語は調べておくこと。TOEIC などの英語資格関連の教材を解いてみる。 （復習）間違えた箇所を確認し、語彙ノートを作成、暗記に努める。リスニングの会話スクリプトは音声ファイルを参考に音読練習をする。				
5. 教科書 SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST: ADVANCED レベル別 TOEIC® L&R テスト実力養成コース：上級編 早川幸治 / 岩重理香 著、金星堂 978-4-7647-4249-9 税込 ¥2,970				
6. 参考書 『キクタン TOEIC (R) L&R テスト SCORE 800』一杉武史（アルク出版）				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 提出課題 20%, 授業への貢献度 20%, 定期試験 60%				
9. その他 授業前後に相談を受け付けます。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		廣瀬 絵美	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本科目は、基本的な語彙力の習得と文法や文構造の理解を深め、実践的な英語運用能力向上の素地となる基礎固めを確実に行う。教材は TOEIC の試験問題を積極的に取り入れ、英語・資格試験に対応できる実践力を養成する。 「到達目標」 1. 英語コミュニケーション力の基礎となる語彙や文法を理解し、使うことができる。 2. 身近な話題から社会問題やビジネスに関連した内容の英語を聞いて理解できる。 3. 自分自身や身近な話題について英語で表現できる。 4. TOEIC 等の英語試験対策を考慮しながら、発展的な英語表現を学び理解できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：TOEIC Listening and Reading (Personnel & Recruiting) 第3回：TOEIC Listening and Reading (Personnel & Recruiting) 第4回：TOEIC Listening and Reading (Advertising) 第5回：TOEIC Listening and Reading (Advertising) 第6回：TOEIC Listening and Reading (Meetings) 第7回：TOEIC Listening and Reading (Meetings) 第8回：TOEIC Listening and Reading (Clients) 第9回：TOEIC Listening and Reading (Clients) 第10回：TOEIC Listening and Reading (Work Environment) 第11回：TOEIC Listening and Reading (Work Environment) 第12回：TOEIC Listening and Reading (Finance &Economy) 第13回：TOEIC Listening and Reading (Finance & Economy) 第14回：TOEIC Listening and Reading (Technology) 第15回：Summary			
3. 履修上の注意 新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業は、予習・復習各 30 時間の計 90 時間の学修を必要とする。 「準備学習」 （予習）リーディング教材を前もって読み、わからない単語は調べておくこと。TOEIC などの英語資格関連の教材を解いてみる。 （復習）間違えた箇所を確認し、語彙ノートを作成、暗記に努める。リスニングの会話スクリプトは音声ファイルを参考に音読練習をする。			
5. 教科書 SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST: ADVANCED レベル別 TOEIC® L&R テスト実力養成コース：上級編 早川幸治 / 岩重理香 著、金星堂 978-4-7647-4249-9 税込 ¥2,970			
6. 参考書 『キクタン TOEIC (R) L&R テスト SCORE 800』一杉武史（アルク出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 提出課題 20％、授業への貢献度 20％、定期試験 60％			
9. その他 授業前後に相談を受け付けます。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		古川 恵美	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業では、TED Talks を扱う教科書を使用してユニットごとのテーマに沿って英語の 4 技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）をバランスよく鍛えます。各ユニットのテーマに沿って、語彙の練習、ディクテーションを含むリスニングの練習、リーディング、および文法事項の確認を行ったあとに、実際の TED Talks の映像を見て内容や表現法について分析します。 それぞれの学習過程において適宜ペアワークやグループワークを行うことで、学習内容の理解を深めたり、自分なりの意見を交換し合う機会を設けます。また、各ユニットが終了するごとに小テストを行って学習内容の定着を確認します。 教科書は Perspectives シリーズの Level 3 を使用しますが、クラス全体の理解度に合わせてスピードや扱う範囲を変更する場合があります。 <到達目標> - 自然な速さの英語を聞いて内容やメッセージを聞き取るとともに、英語の発音やイントネーションの特徴に対する理解を深める - 適切な速さでリーディングを行い、必要な情報を読み取る - テーマに関連した語彙や文法事項を身につける - 英語のプレゼンテーションにおける話し手の工夫を分析し、優れたプレゼンテーションスキルを学ぶ - 各ユニットで提起される社会や文化に関するテーマについて考察し、自分なりに考えたことを人に伝える - ペアワークやグループワークを通して多様な価値観や観点を共有し、学習内容に対する理解の幅を広げる			
2. 授業内容 第 1 回：Introduction 第 2 回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ① 第 3 回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ② 第 4 回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ③ 第 5 回：Unit 1 Travel, Trust, and Tourism ④ 第 6 回：Unit 2 The Business of Technology ① 第 7 回：Unit 2 The Business of Technology ② 第 8 回：Unit 2 The Business of Technology ③ 第 9 回：Unit 2 The Business of Technology ④ 第 10 回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ① 第 11 回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ② 第 12 回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ③ 第 13 回：Unit 3 Faster, Higher, Stronger ④ 第 14 回：Review ※上記予定は進行度合いなどにより変更される場合があります。			
3. 履修上の注意 - 世界の人々が優れたアイディアを発信する TED Talks の映像を扱った教科書を使用します。第 2 回目以降の授業には、必ず教科書を手元に準備して参加してください。 - 授業活動（提出物・発表・ペアワーク・グループワーク等）への積極的な取り組みを重視します。授業には毎回出席してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前学習> - 指定された予習範囲に取り組み、疑問点や分からない点を明確にしてから授業に参加してください。 <事後学習> - 授業で扱った範囲を復習し、小テストに備えましょう。 - 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。			
5. 教科書 『Perspectives 3: Student Book with Spark Access』(Cengage)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。			

8. 成績評価の方法

平常点(授業への参加・貢献度) 30%, 課題(提出物・発表) 30%, 小テスト 30%, 学期末レポート 10%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		古川 恵美	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業では、TED Talks を扱う教科書を使用してユニットごとのテーマに沿って英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）をバランスよく鍛えます。各ユニットのテーマに沿って、語彙の練習、ディクテーションを含むリスニングの練習、リーディング、および文法事項の確認を行ったあとに、実際の TED Talks の映像を見て内容や表現法について分析します。 それぞれの学習過程において適宜ペアワークやグループワークを行うことで、学習内容の理解を深めたり、自分なりの意見を交換し合う機会を設けます。また、各ユニットが終了するごとに小テストを行って学習内容の定着を確認します。 教科書は Perspectives シリーズの Level 3 を使用しますが、クラス全体の理解度に合わせてスピードや扱う範囲を変更する場合があります。 <到達目標> - 自然な速さの英語を聞いて内容やメッセージを聞き取るとともに、英語の発音やイントネーションの特徴に対する理解を深める - 適切な速さでリーディングを行い、必要な情報を読み取る - テーマに関連した語彙や文法事項を身につける - 英語のプレゼンテーションにおける話し手の工夫を分析し、優れたプレゼンテーションスキルを学ぶ - 各ユニットで提起される社会や文化に関するテーマについて考察し、自分なりに考えたことを人に伝える - ペアワークやグループワークを通して多様な価値観や観点を共有し、学習内容に対する理解の幅を広げる			
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Unit 4 Cultural Transformation ① 第3回：Unit 4 Cultural Transformation ② 第4回：Unit 4 Cultural Transformation ③ 第5回：Unit 4 Cultural Transformation ④ 第6回：Unit 5 It's Not Rocket Science ① 第7回：Unit 5 It's Not Rocket Science ② 第8回：Unit 5 It's Not Rocket Science ③ 第9回：Unit 5 It's Not Rocket Science ④ 第10回：Unit 6 Adapt to Survive ① 第11回：Unit 6 Adapt to Survive ② 第12回：Unit 6 Adapt to Survive ③ 第13回：Unit 6 Adapt to Survive ④ 第14回：Review ※上記予定は進行度合いなどにより変更される場合があります。			
3. 履修上の注意 - 世界の人々が優れたアイディアを発信する TED Talks の映像を扱った教科書を使用します。第2回目以降の授業には、必ず教科書を手元に準備して参加してください。 - 授業活動（提出物・発表・ペアワーク・グループワーク等）への積極的な取り組みを重視します。授業には毎回出席してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 <事前学習> - 指定された予習範囲に取り組み、疑問点や分からない点を明確にしてから授業に参加してください。 <事後学習> - 授業で扱った範囲を復習し、小テストに備えましょう。 - 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。			
5. 教科書 『Perspectives 3: Student Book with Spark Access』(Cengage)			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。			

8. 成績評価の方法

平常点(授業への参加・貢献度) 30%, 課題(提出物・発表) 30%, 小テスト 30%, 学期末レポート 10%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		吉田 えりか	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション（授業の進行方法，成績評価方法，教科書，注意事項等の説明，座席指定，自己紹介） 第 2 回：Unit 1 Art Therapy Part 1 Reading and Vocabulary Building 第 3 回：Unit 1 Art Therapy Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第 4 回：Unit 2 From Sci-Fi to Reality Part 1 Reading and Vocabulary Building 第 5 回：Unit 2 From Sci-Fi to Reality Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第 6 回：Unit 3 Exporting Labor Part 1 Reading and Vocabulary Building 第 7 回：Unit 3 Exporting Labor Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第 8 回：Unit 4 Celebrating the Earth Part 1 Reading and Vocabulary Building 第 9 回：Unit 5 Virtual Lives Part 1 Reading and Vocabulary Building 第 10 回：Unit 5 Virtual Lives Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第 11 回：Unit 6 Kidults Part 1 Reading and Vocabulary Building 第 12 回：Unit 7 Genetically Modified Foods Part 1 Reading and Vocabulary Building 第 13 回：Unit 7 Genetically Modified Foods Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第 14 回：a：試験 b：講義全体のふりかえりと試験の解説			
3. 履修上の注意 予習は必須で，予習がしてあることを前提として授業は進みます。テキストは文化・科学・ビジネス・政治などに関するトピックを扱っています。様々なトピックの英文読解を通じて，読解力の向上・新しい知識の獲得・批判的思考力を養うべく，積極的に授業に参加してください。また，テキストにある TOEIC 形式のリスニング・リーディング問題練習で，TOEIC のスコア Up も目指します。 Unit が終わったところで Vocabulary Quiz を行いますので，しっかり復習して語彙力向上を目指してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習）は，①テキストの単語問題 Vocabulary Warm-up を解く②本文を，辞書・注なしで読んで大体の内容を把握する③知らない単語を辞書で調べ，Notes で確認して精読する④内容把握問題を解くことです。 （復習）は，①内容を理解したうえでよく音読すること②小テストに向けて学んだ単語や表現を覚えることです。			
5. 教科書 Andrew E. Bennett, Reading Fusion 2 Second edition 南雲堂 ISBN978-4-523-17973-3 2640 円			
6. 参考書 特にありませんが，英和辞書や英英辞書は必ず必要です。詳細は最初の授業で説明します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 期末試験 60%，小テスト 20%，授業中の取り組み（毎回十分に予習を行って授業に臨み，授業中は熱心に取り組み発表できること）20%を合計して評価する。4 分の 3 以上の出席が単位取得の必須条件です。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		吉田 えりか	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 教科書の各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 読む・書く・聞く・話すという 4 技能に焦点を当て、読解能力に重点を置きつつ総合的英語コミュニケーション能力を養成する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション（授業の進行方法，成績評価方法，教科書，注意事項等の説明，座席指定，自己紹介） 第2回：Unit 8 Empires of the Stars Part 1 Reading and Vocabulary Building 第3回：Unit 8 Empires of the Stars Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第4回：Unit 9 Destination: Mars Part 1 Reading and Vocabulary Building 第5回：Unit 9 Destination: Mars Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第6回：Unit 10 Cross-Cultural Friendships Part 1 Reading and Vocabulary Building 第7回：Unit 11 Muscle Memory Part 1 Reading and Vocabulary Building 第8回：Unit 11 Muscle Memory Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第9回：Unit 12 Maritime Piracy Part 1 Reading and Vocabulary Building 第10回：Unit 12 Maritime Piracy Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第11回：Unit 13 The Science of Love Part 1 Reading and Vocabulary Building 第12回：Unit 15 A World Currency? Part 1 Reading and Vocabulary Building 第13回：Unit 15 A World Currency? Part 2 Word parts, Grammar, Listening 第14回 a：試験 b：講義全体の振り返りと試験の解説			
3. 履修上の注意 予習は必須で，予習がしてあることを前提として授業は進みます。テキストは文化・科学・ビジネス・政治などに関するトピックを扱っています。様々なトピックの英文読解を通じて，読解力の向上・新しい知識の獲得・批判的思考力を養うべく，積極的に授業に参加してください。また，テキストにある TOEIC 形式のリスニング・リーディング問題練習で，TOEIC のスコア Up も目指します。 Unit が終わったところで Vocabulary Quiz を行いますので，しっかり復習して語彙力向上を目指してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習）は，①テキストの単語問題 Vocabulary Warm-up を解く②本文を，辞書・注なしで読んで大体の内容を把握する③知らない単語を辞書で調べ，Notes で確認して精読する④内容把握問題を解くことです。 （復習）は，①内容を理解したうえでよく音読すること②小テストに向けて学んだ単語や表現を覚えることです。			
5. 教科書 Andrew E. Bennett, Reading Fusion 2 Second Edition 南雲堂 ISBN978-4-523-17973-3 2640 円			
6. 参考書 特にありませんが，英和辞書か英英辞書は必ず必要です。詳細は最初の授業で説明します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 期末試験 60%，小テスト 20%，授業中の取り組み（毎回十分に予習を行って授業に臨み，授業中は熱心に取り組み発表できること）20%を合計して評価する。4 分の 3 以上の出席が単位取得の必須条件です。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A EM Comprehensive English	
担当者		依田 里花	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 「書く・読む・聞く・話す」の4技能をバランスよく総合的に力をつけることが目標です。また、 周りと比べることなく、「今の自分の力をどれだけ伸ばせるか」という点も各自の到達目標になります。 <概要> 授業では、原書の英文テキストと並行して、映像の場면을描写する “Narrative Writing” に焦点を当てます。 授業外の課題として、毎週、原書テキストの音読・録音課題があります。			
2. 授業内容 第1回 a: Introduction b: Scene 1 第2回: Scene 1 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第3回: Scene 1 & 2 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第4回: Scene 2 & 3 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第5回: Scene 3 & 4 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第6回: Scene 4 & 5 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第7回: Scene 5 & 6 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第8回: Scene 6 & 7 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第9回: Scene 7 & 8 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第10回: Scene 8 & 9 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第11回: Scene 9 & 10 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第12回: Scene 10 & 11 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第13回: ファイル提出／試験準備 第14回 a: まとめ b: 試験 ＊このシラバスは受講生と相談の上、変更されることがあります。			
3. 履修上の注意 毎週、授業時の作業も授業外の課題も多い内容です。特に、体育会所属の学生は注意して履修して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【Listening & Speaking】 ・授業で扱った場면을テキストで確認（4 頁前後）：音読練習・シャドーイング→録音→Oh-o! Meiji 「レポート」に提出（授業外） ・授業で完成させたワークシートの英文を音読練習・録音 → Oh-o! Meiji 「レポート」に提出（授業内） 【Reading】 ・テキストの確認：授業で扱う場面がテキストではどのように描かれているのかを確認する 【Writing】 ・授業時に配布されるワークシート。[b]欠席した場合は、Oh-o! Meiji 「授業内容・資料」 から自分でダウンロード・印刷して次の授業までに仕上げて持参[/b]のこと（行った場合のみ評価）			
5. 教科書 Harry Potter and the Chamber of Secrets（英語・ペーパーバック）J.K. Rowling（著）1998（2002 年映画化） ＊シリーズ第2 巻です ＊版が多様で間違えやすいため、大学の書店で購入することをお勧めします。 ＊春学期は前半部分を、秋学期は後半部分を扱います（春・秋別内容）			
6. 参考書 翻訳『ハリー・ポッターと秘密の部屋』松岡佑子訳 静山社			

7. 課題に対するフィードバックの方法

1. 録音課題：授業内でコメント
2. ワークシート：毎授業時にチェック → 各自、各場面ごとにファイル → 定期試験前に全てのプリントを提出

8. 成績評価の方法

- ・70%：授業への取り組み、課題、毎時間の提出物（内容・質を重視）
- ・30%：学期末試験（S→90%以上，A→80%以上，B→70%以上，C→60%以上）

[b] 【注意】

単位取得には、授業数の1/3回までの欠席（遅刻3回で1欠席。遅延証明書は2回まで有効）が条件[/b]となります。

9. その他

Enjoy yourself with Harry and his friends!

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B EM Comprehensive English	
担当者		依田 里花	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 各ユニットで次のことを行う。 (1) 課題を読み、英問英答等で内容確認をする。 (2) リスニングとスピーキング練習を行う。 (3) ライティング練習を行う。 (4) ケーススタディを通じて応用能力を養う。 〈到達目標〉 「書く・読む・聞く・話す」の4技能をバランスよく総合的に力をつけることが目標です。また、周りと比べることなく、「今の自分の力をどれだけ伸ばせるか」という点も各自の到達目標になります。 <概要> 授業では、原書の英文テキストと並行して、映像の場면을描写する“Narrative Writing”に焦点を当てます。授業外の課題として、毎週、原書テキストの音読・録音課題があります。			
2. 授業内容 第1回 a: Introduction b: Scene 1 第2回: Scene 1 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第3回: Scene 1 & 2 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第4回: Scene 2 & 3 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第5回: Scene 3 & 4 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第6回: Scene 4 & 5 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第7回: Scene 5 & 6 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第8回: Scene 6 & 7 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第9回: Scene 7 & 8 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第10回: Scene 8 & 9 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第11回: Scene 9 & 10 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第12回: Scene 10 & 11 (Listening / Writing / Reading / Speaking) 第13回: ファイル提出／試験準備 第14回 a: まとめ b: 試験 ＊このシラバスは受講生と相談の上、変更されることがあります。			
3. 履修上の注意 毎週、授業時の作業も課題も多い内容です。特に、体育会所属の学生は注意して履修して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【Listening & Speaking】 ・授業で扱った場면을テキストで確認（4 頁前後）：音読練習・シャドーイング→録音→Oh-o! Meiji「レポート」に提出（授業外） ・授業で完成させたワークシートの英文を音読練習・録音 → Oh-o! Meiji「レポート」に提出（授業内） 【Reading】 ・テキストの確認：授業で扱う場面がテキストではどのように描かれているのかを確認する 【Writing】 ・授業時に配布されるワークシート。[b]欠席した場合は、Oh-o! Meiji「授業内容・資料」から自分でダウンロード・印刷して次の授業までに仕上げて持参[/b]のこと（行った場合のみ評価）			
5. 教科書 Harry Potter and the Chamber of Secrets（英語・ペーパーバック）J.K. Rowling（著）1998（2002 年映画化） ＊シリーズ第2 巻です ＊版が多様で間違えやすいため、大学の書店で購入することをお勧めします。 ＊春学期は前半部分を、秋学期は後半部分を扱います（春・秋別内容）			
6. 参考書 翻訳『ハリー・ポッターと秘密の部屋』松岡佑子訳 静山社			

7. 課題に対するフィードバックの方法

1. 録音課題：授業内でコメント
2. ワークシート：毎授業時にチェック → 各自、各場面ごとにファイル → 定期試験前に全てのプリントを提出

8. 成績評価の方法

- ・70%：授業への取り組み、課題、毎時間の提出物（内容・質を重視）
- ・30%：学期末試験（S→90%以上，A→80%以上，B→70%以上，C→60%以上）

[b] 【注意】

単位取得には、授業数の1/3回までの欠席（遅刻3回で1欠席。遅延証明書は2回まで有効）が条件[/b]となります。

9. その他

Enjoy yourself with Harry and his friends!

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級） A（統一） GREAT:English for Business Studies (EBS) II A	
担当者		金子 敦子・デュプリス, ジョン・マーキー, ジェイソ・宮田 理奈子	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to further develop students’ English communication skills and business knowledge required to understand and discuss financial and market-related concepts in business and economics. In EBS IIA, students will learn key concepts and core vocabulary related to banking, venture capital financing, bonds, stocks, accounting and financial statements, as well as market structure and competition. Building on the foundation established in EBS I (IA/IB), this course places greater emphasis on interpreting financial information, explaining mechanisms and relationships, and communicating ideas clearly in English. By the end of the course, students will be able to understand essential financial and market concepts and discuss basic issues in these areas in English, using appropriate terminology and structured explanations. Intended Learning Outcomes (ILOs) – EBS IIA By the end of this course, students will be able to: ILO 1 Financial & Market Concepts and Vocabulary Understand and explain key financial and market-related concepts in English, including banking, venture capital financing, bonds, stocks, accounting and financial statements, and market structure and competition, using appropriate terminology. ILO 2 Interpretation of Financial Information Interpret basic financial information and mechanisms, such as funding structures, financial statements, and market competition, and discuss their implications using clear and simple English. ILO 3 Financial Business Communication Deliver structured reports and presentations on financial and market topics, such as investment, firm financing, or competition, using appropriate business English conventions and logical organization. While EBS I focuses on foundational business concepts and communication skills, EBS IIA develops students’ ability to interpret and explain financial and market mechanisms in English.			
2. 授業内容 Week 1: Introduction: Banking (1) Week 2: Banking (2) Week 3: Venture Capital Financing (1) Week 4: Venture Capital Financing (2) Week 5: Bonds Week 6: Reports and Presentations (1) Week 7: Stocks and Shares (1) Week 8: Stocks and Shares (2) Week 9: Accounting and Financial Statements (1) Week 10: Accounting and Financial Statements (2) Week 11: Market Structure and Competition (1) Week 12: Reports and Presentations (2) Week 13: Market Structure and Competition (2) Week 14: Review and Final Test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT 2 年次必修科目です。GREAT 対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read the assigned sections of the textbook before each class and complete relevant exercises. As part of review, students should read aloud key passages covered in class to reinforce understanding and internalize newly learned vocabulary. Weekly quizzes or homework assignments may be given.			
5. 教科書 Ian MacKenzie, English for Business Studies, 3rd Edition, Cambridge University Press			
6. 参考書			

7. 課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as through in-class discussions and comments.

8. 成績評価の方法

Assignments and quizzes: 40%

Reports and presentations: 20%

Exam: 20%

Class participation: 20%

Students who miss more than three classes will receive a fail grade.

(Three late arrivals count as one absence. Late arrival means arriving within 30 minutes from the start of class.)

9. その他

This course aims to develop students' English proficiency and financial literacy that will support their business studies and future careers.

The class will be conducted entirely in English, and students are expected to actively participate and engage w

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語（中級）B（統一） GREAT:English for Business Studies (EBS) IIB	
担当者		金子 敦子・デュプリス, ジョン・マーキー, ジェイソ・宮田 理奈子	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to further develop students’ English communication skills and conceptual understanding of macroeconomic, governmental, and global business issues. In EBS IIB, students will learn key concepts and core vocabulary related to government and taxation, the business cycle, corporate social responsibility (CSR), efficiency and employment, exchange rates, international trade, and the relationship between economics and ecology. Building on the financial and market-focused perspectives developed in EBS IIA, this course emphasizes interpreting economic systems, understanding policy and social contexts, and discussing global economic issues in English. By the end of the course, students will be able to understand essential economic and policy-related concepts and discuss basic issues in these areas in English, using appropriate terminology and structured explanations. Intended Learning Outcomes (ILOs) By the end of this course, students will be able to: ILO 1 Economic, Policy, and Global Concepts Understand and explain key economic and policy-related concepts in English, including government and taxation, the business cycle, corporate social responsibility (CSR), efficiency and employment, exchange rates, international trade, and the relationship between economics and ecology, using appropriate terminology. ILO 2 Interpretation of Economic Systems and Impacts Interpret basic economic systems and policy impacts, such as taxation, trade, employment, and environmental issues, and discuss their implications for firms and society using clear and simple English. ILO 3 Global Business Communication Deliver structured reports and presentations on economic, policy, and global business topics, such as CSR, international trade, or sustainability, using appropriate business English conventions and logical organization.			
2. 授業内容 Week 1: Introduction; Government and Taxation (1) Week 2: Government and Taxation (2) Week 3: The Business Cycle (1) Week 4: The Business Cycle (2) Week 5: Corporate Social Responsibility Week 6: Reports and Presentations (1) Week 7: Efficiency and Employment Week 8: Recruitment Review; 2nd-Year Portfolio Week 9: Exchange Rates Week 10: International Trade Week 11: Economics and Ecology (1) Week 12: Reports and Presentations (2) Week 13: Economics and Ecology (2) Week 14: Review and Final Test			
3. 履修上の注意 This is a required course for GREAT (Global Resources English Applied Track) students. (GREAT 2 年次必修科目です。GREAT 対象以外の学生は履修できません。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read the assigned sections of the textbook before each class and complete relevant exercises. As part of review, students should read aloud key passages covered in class to reinforce understanding and internalize newly learned vocabulary. Weekly quizzes or homework assignments may be given.			
5. 教科書 Ian MacKenzie, English for Business Studies, 3rd Edition, Cambridge University Press			
6. 参考書			

7. 課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be provided through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as through in-class discussions and comments.

8. 成績評価の方法

Assignments and quizzes: 40%

Reports and presentations: 10%

2nd-year portfolio: 10%

Exam: 20%

Class participation: 20%

Students who miss more than three classes will receive a fail grade.

(Three late arrivals count as one absence. Late arrival means arriving within 30 minutes from the start of class.)

9. その他

This course aims to develop students' English proficiency and global economic literacy, supporting their ability to understand public policy, sustainability, and international economic issues in business contexts.

The class will be conducted entirely in

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN121J	
科目名		ドイツ語（初級） I a（統一）	
担当者		ゲスナー， ゲジーネ	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） ドイツ語を初めて学ぶ人を対象に、ネイティブの教員により、「聞く・話す・読む・書く」こと全般について、ドイツ語の入門的な運用能力を養成します。 （到達目標） ドイツ語の音や響きに慣れ、独検 5 級程度の運用能力を身につける。			
2. 授業内容 教科書に沿って、おおむね以下のテーマについて練習します。 第 1 回：挨拶，自己紹介 第 2 回：ヨーロッパの国と言語 第 3 回：電話する 第 4 回：他人の紹介 第 5 回：家族 第 6 回：数字 第 7 回：聴く練習 第 8 回：はがきを書く 第 9 回：食習慣 第 10 回：食品と値段 第 11 回：買い物する 第 12 回：レストランで注文する 第 13 回：聴く練習 第 14 回 a: まとめ b: 試験 （以上のスケジュールは、授業の進度によって変更されることもあります。）			
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。この単位を落とすと、秋学期の初級Ⅱa を受講できなくなるので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。			
5. 教科書 担当教員が指示します。			
6. 参考書 参考書、問題集などは担当教員が必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度，課題の発表，小テストなど）40%，定期試験 60%を予定しています（ただし進度によって割合等に変更の可能性がありますので、各担当教員からの説明をよく聞いてください）。			
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても、ぜひ参加を検討してみてください。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN121J		
科目名		ドイツ語（初級）Ⅱa（統一）		
担当者		ゲスナー， ゲジーネ		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 春学期開講の「ドイツ語（初級）Ⅰa」を引きつぎ、ネイティブの教員により、「聞く・話す・読む・書く」こと全般について、ドイツ語の実践的な運用能力を養成します。 。 （到達目標） ドイツ語でのやりとりに慣れ、独検 4 級程度（もしくは国際検定試験「スタートドイツ語 1（SD1）」の準備を開始できる程度）の運用能力を身につける。				
2. 授業内容 教科書に沿って、おおむね以下のテーマについて練習します。 第 1 回：挨拶 第 2 回：住まいについて 第 3 回：家具 第 4 回：住まいの広告 第 5 回：テキストを読む 第 6 回：聴く練習 第 7 回：一日の経過 第 8 回：時刻 第 9 回：一週間のスケジュール 第 10 回：約束する 第 11 回：聴く練習 第 12 回：趣味 第 13 回：メールを書く 第 14 回 a: まとめ b: 試験 この他に、国際検定試験「スタートドイツ語 1（SD1）」の「聞く」「話す」に対応する内容も扱います。 また以上のスケジュールは、授業の進度によって変更されることもあります。				
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。				
5. 教科書 担当教員が指示します。				
6. 参考書 参考書、問題集などは担当教員が必要に応じて指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度、課題の発表、小テストなど）40％、定期試験 60％の予定です（進度等によって割合に変更の可能性がありますので、各担当教員からの説明をよく聞いてください）。				
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し、ぜひ参加を検討してみてください。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN121J		
科目名		ドイツ語（初級） I b（統一）		
担当者		大類 京子・小松 真帆・松澤 智子・松島 渉		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） ドイツ語を初めて学ぶ人を対象に、各クラスの担当教員が選んだ教科書を使って、初級文法の基礎とその運用を学びます。 （到達目標） ドイツ語初級文法の土台となる最も基本的な知識を身につける。				
2. 授業内容 各担当教員が選んだ教科書に沿って、おおむね以下の文法事項を学習します。 第1回：イントロダクション 第2回：発音の規則 第3回：動詞の現在人称変化 （1） 規則動詞 第4回：名詞の性・数・格，定冠詞・不定冠詞の格変化 第5回：動詞の現在人称変化 （2） 不規則動詞 第6回：前置詞 第7回：定冠詞類の格変化 第8回：不定冠詞類の格変化 第9回：分離動詞・非分離動詞 第10回：人称代名詞，命令形 第11回：話法の助動詞，未来形 第12回：接続詞，副文 第13回：春学期の復習 第14回：a：まとめ b：期末試験 〔ただし以上のスケジュールは，授業の進度によって変更されることもあります。〕				
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。 この単位を落とすと，秋学期の初級Ⅱbを受講できなくなるので注意してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員の指示に従い，予習・復習を行うこと。				
5. 教科書 各担当教員が指示します。				
6. 参考書 各担当教員が必要に応じて指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度，課題の発表，小テストなど）40％，定期試験 60％の予定です（進捗等によって変更の可能性がありますので，各担当教員からの説明をよく聞いてください）。				
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し，ぜひ参加を検討してみてください。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN121J		
科目名		ドイツ語（初級）Ⅱb（統一）		
担当者		大類 京子・小松 真帆・松澤 智子・松島 渉		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期開講の「ドイツ語（初級）Ⅰb」を引きつぎ、初級文法の主要部分とその運用を学びます。 〈到達目標〉 ドイツ語初級文法の基本的知識の大部分を身につける。				
2. 授業内容 各担当教員が選んだ教科書に沿って、おおむね以下の文法事項を学習します。 第1回：春学期の復習 第2回：非人称動詞，再帰代名詞・再帰動詞 第3回：形容詞の用法，格変化，名詞化 第4回：zu 不定詞（句） 第5回：動詞の3基本形，過去形 第6回：現在完了形 第7回：過去完了形 第8回：形容詞・副詞の比較表現 第9回：指示代名詞，関係代名詞（1） 定関係代名詞 第10回：関係代名詞（2） 不定関係代名詞，関係副詞 第11回：受動態（1） 現在形 第12回：受動態（2） 過去形，現在完了形，状態受動 第13回：秋学期の復習 第14回：a：まとめ b：期末試験 〔ただし以上のスケジュールは，授業の進度によって変更されることもあります。〕				
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 まずはドイツ語に慣れることを主眼とした春学期のⅠbとは異なり，このⅡbでは授業のスピードが速くなるので，予習を欠かさないこと。その他の予習・復習については各担当教員の指示に従ってください。				
5. 教科書 春学期に各担当教員が選んだ教科書を引き続き使用します。				
6. 参考書 各担当教員が必要に応じて指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度，課題の発表，小テストなど）40％，定期試験 60％の予定です（進捗等によって変更の可能性がありますので，各担当教員からの説明をよく聞いてください）。				
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し，ぜひ参加を検討してみてください。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語（中級） A 指定（統一）指定クラス		
担当者		大類 京子・小松 真帆・松澤 智子・松島 渉		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 2 学期程度のドイツ語既修者を対象に、各クラスの担当教員が選んだ教科書に沿って中級レベルのテキストを扱い、それを通して初級文法の復習をし、その定着を図ります。 （到達目標） 秋学期開講の「ドイツ語（中級）B 指定クラス」とあわせ、ドイツ語初級文法の全般的知識を身につけ、それらを運用することができるようになる。				
2. 授業内容 各クラスの担当教員が選んだ教科書によってテーマは異なりますが、そのテーマのテキストを使って、一年次に学んだ初級文法のうちまだ十分に定着していないと思われる項目を復習します。（なお「接続法」はどのクラスも一年次には学習していませんので、この授業で初めて扱います。） 復習する文法事項やその順序も教科書によって多少違いがありますが、おおむね以下のような項目を取り上げます。 第 1 回～第 4 回 1 年時の復習 第 5 回・第 6 回 過去形 第 7 回 中間試験 第 8 回～第 10 回 形容詞の用法 第 11 回・第 12 回 比較級と最上級 第 13 回 春学期の復習 第 14 回 a まとめ b 期末試験 （各クラスの教科書や進度等によって上記スケジュールは変更になる可能性があります）				
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。				
5. 教科書 各担当教員が必要に応じて指示します。				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度）30％，小テストや中間・期末試験 70％の予定です（各クラスの進度等によって変更の可能性がありますので、各担当教員からの説明をよく聞いてください）。				
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し、ぜひ参加を検討してみてください。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語（中級）B 指定（統一）指定クラス		
担当者		大類 京子・小松 真帆・松澤 智子・松島 渉		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期開講の「ドイツ語（中級）A 指定クラス」を引き継ぎ、各クラスの担当教員が選んだ教科書に沿って中級レベルのテキストを扱い、それを通して初級文法を復習し、その定着を図ります。 〈到達目標〉 ドイツ語初級文法の全般的知識を身につけ、それらを運用することができるようになる。				
2. 授業内容 各クラスの担当教員が選んだ教科書によってテーマは異なりますが、そのテーマのテキストを使って、一年次に学んだ初級文法のうちまだ十分に定着していないと思われる項目を復習します。（なお「接続法」はどのクラスも一年次には学習していませんので、この授業で初めて扱います。） 復習する文法事項やその順序も教科書によって多少違いがありますが、おおむね以下のような項目を取り上げます。 第1回・第2回 春学期の復習 第3回・第4回 接続法 第5回・第6回 関係副詞 第7回・第8回 受動態 第9回・第10回 形容詞の用法 第11回・第12回 zu 不定詞 第13回 秋学期の復習 第14回 a まとめ b 期末試験 （各クラスの教科書や進度等によって上記スケジュールは変更になる可能性があります）				
3. 履修上の注意 指定されたクラスで受講すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各担当教員の指示に従い、予習・復習を行うこと。				
5. 教科書 各担当教員が指示します。				
6. 参考書 各担当教員が必要に応じて指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 平常点（授業への参加度）30％，小テストや中間・期末試験 70％の予定です（各クラスの進度等によって変更の可能性がありますので、各担当教員からの説明をよく聞いてください）。				
9. その他 「選択外国語」の項目に記載されている「ドイツ語コミュニケーション」の授業についても参照し、ぜひ参加を検討してみてください。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語（中級） A 選択クラス		
担当者		畑 一成		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、適宜ドイツのニュース等を紹介し、ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深める。 【到達目標】 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。				
2. 授業内容 EU は世界の政治・経済のルール作りにおいて主導的な役割を果たしている。その EU がどのようなルール作りをしようとしているのかを分析できるようになるため、EU で最大であるドイツ語圏の政治、経済、研究の動向をリサーチする技能と語学力を習得する。本年度は、自動車もしくはエネルギー、デジタル、基礎研究関連のどれかのテキストを読解する予定。 第 1 回 授業方法や評価基準の説明。ドイツ語圏の情報リサーチするときに必要となる知識と方法論を概説。 第 2 ～13 回 講師が選んだテキストを読み解きながら、文法を再確認し、様々な文章表現を学ぶ。 第 14 回 a. 試験 b. 正答解説				
3. 履修上の注意 本授業は1 クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業後、読解した文章の意味や文法を再確認する。 ・次回の授業で読む文章を自力で翻訳し、文法的に説明できるように予習する。				
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。読解する文章は講師が用意する。手元にある文法書と辞書を毎授業持参すること。				
6. 参考書 『ドイツ語学への誘い』河崎靖（現代書館） 『ハンドブックヨーロッパ外交史』岩間陽子、君塚直隆、細谷雄一（ミネルヴァ書房）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回のb モジュールで、試験の正答解説と講評を行う。				
8. 成績評価の方法 期末試験：60％（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40％（課題や発表、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。				
9. その他 ・格や品詞等の文法を一語一語確認しながら読み進める「精読」のスタイルをとる。意識が得意な AI 翻訳とは相性が悪く、学習者のドイツ語能力を歪めてしまうため、機械翻訳を使用しないこと。 ・実践的なリサーチを通じてドイツ語能力の向上を目指す。リサーチをするためには、広い視野が必要であり、普段から気になることを調べる習慣を身に着けることが望ましい。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J	
科目名		ドイツ語（中級）B 選択クラス	
担当者		畑 一成	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、適宜ドイツのニュース等を紹介し、ドイツ語圏の社会や文化についての理解も深める。 【到達目標】 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。			
2. 授業内容 EU は世界の政治・経済のルール作りにおいて主導的な役割を果たしている。その EU がどのようなルール作りをしようとしているのかを分析できるようになるため、EU で最大であるドイツ語圏の政治、経済、研究の動向をリサーチする技能と語学力を習得する。本年度は、自動車もしくはエネルギー、デジタル、基礎研究関連のどれかのテキストを読解する予定。 第 1 回 授業方法や評価基準の説明。ドイツ語圏の情報リサーチするときに必要となる知識と方法論を概説。 第 2 ～13 回 講師が選んだテキストを読み解きながら、文法を再確認し、様々な文章表現を学ぶ。 第 14 回 a. 試験 b. 正答解説			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業後、読解した文章の意味や文法を再確認する。 ・次回の授業で読む文章を自力で翻訳し、文法的に説明できるように予習する。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。読解する文章は講師が用意する。手持ちの文法書と辞書を毎授業持参すること。			
6. 参考書 『ドイツ語学への誘い』河崎靖（現代書館） 『ハンドブックヨーロッパ外交史』岩間陽子、君塚直隆、細谷雄一（ミネルヴァ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回の b モジュールで、試験の正答解説と講評を行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40%（課題や発表、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他 ・格や品詞等の文法を一語一語確認しながら読み進める「精読」のスタイルをとる。意識が得意な AI 翻訳とは相性が悪く、学習者のドイツ語能力を歪めてしまうため、機械翻訳を使用しないこと。 ・実践的なリサーチを通じてドイツ語能力の向上を目指す。リサーチをするためには、広い視野が必要であり、普段から気になることを調べる習慣を身に着けることが望ましい。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語（中級） A 選択クラス		
担当者		石原 竹彦		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 この講座では、1 年生のときに学習した文法事項の復習をメインにし、さらに表現の幅を高めることを目標にします。ここでいう表現の幅とは主に「読む力」、「書く力」のことです。読本テキストとしては、ドイツの地理・社会・文化について書かれた比較的読みやすいものを用意します。レベルはドイツ語技能検定 3 級相当です。 文法事項の復習としては、3 基本形、過去形、現在完了形あたりから丁寧に見直していき、じっくりと比較表現、受動態、関係詞、接続法と進めていきます。				
2. 授業内容 第 1 回 過去分詞と現在完了形 第 2 回 ge のつかない過去分詞と現在完了形 第 3 回 読本 1－1 第 4 回 読本 1－1 第 5 回 受動態 第 6 回 読本 2－ 1 第 7 回 読本 2－ 2 第 8 回 形容詞の格語尾 分詞の用法 第 9 回 読本 3－1 第 1 0 回 読本 3－1 第 1 1 回 前置詞 第 1 2 回 読本 4－ 1 第 1 3 回 読本 4－ 2 第 1 4 回 a：試験 b：正答解説				
3. 履修上の注意 文法事項を確認できるように 1 年次に使用した教科書を持参してください。 連続して休まないようにしましょう。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。				
5. 教科書 プリントを配布します。				
6. 参考書 和独辞書 1 年生のときに使用した文法の教科書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meiji を用いることもあります。				
8. 成績評価の方法 授業への貢献度 40％、試験 60％ 3 分の 2 以上の出席が期末試験を受験する条件です。授業中に寝ている、宿題をやっていない、などの場合、出席と認めません。 出席の条件をクリアしたうえで、試験、授業への貢献度から総合的に評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J	
科目名		ドイツ語（中級） B 選択クラス	
担当者		石原 竹彦	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 この講座では、1年生のときに学習した文法事項をさらに深めていきます。具体的には話法の助動詞の現在完了形、過去完了形、分詞の用法、不定関係代名詞などを扱い、随時、ドイツ語技能検定2級レベルの文法問題に触れていきます。これと並行して読本のテキストとしては、ドイツの地理・社会・文化について書かれた比較的読みやすいものを用意します。レベルはドイツ語技能検定3級から2級相当です。具体的にどのようなものを読むかは、履修者の希望に沿う形で決定したいと思います。			
2. 授業内容 第1回 読本1-2 「レストランでの支払い方法」 第2回 読本1-2 「レストランでの支払い方法」 第3回 読本2-1 「ドイツ人の食事」 第4回 読本2-2 「ドイツ人の食事」 第5回 独検の文法問題 接続法 第6回 読本3-1 「ドイツ人の時間感覚」 第7回 読本3-2 「ドイツ人の時間間隔」 第8回 独検の文法問題 日本語にしにくい表現 第9回 読本4-1 ドイツ語を読む「グリム童話抜粋」 第10回 読本4-2 「グリム童話抜粋」 第11回 独検の文法問題 前置詞をとまなう熟語 第12回 読本5-1 「クリスマス」 第13回 読本5-2 「クリスマス」 第14回 a：試験 b：正答解説			
3. 履修上の注意 文法事項を確認できるように1年次に使用した教科書を持参してください。 連続して休まないようにしましょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。			
5. 教科書 プリントを配布します。			
6. 参考書 和独辞書 1年生のときに使用した文法の教科書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meiji を用いることもあります。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度 40％、試験 60％ 3分の2以上の出席が期末試験を受験する条件です。授業中に寝ている、宿題をやっていない、などの場合、出席と認めません。 出席の条件をクリアしたうえで、試験、授業への貢献度から総合的に評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J	
科目名		ドイツ語（中級） A 選択クラス	
担当者		大類 京子	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解を深める。 (到達目標) 中級レベルのドイツ語を理解することができ、ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。「ヨーロッパ級数参照枠」のA1レベルの修了試験「Start Detusch1」に対応できるドイツ語運用能力を身につける。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：自己紹介 第2回 Kennenlernen（人と知り合う） (1) 第3回 Freizeit（自由時間） (1) 第4回 Freizeit（自由時間） (2) 第5回 Freizeit（自由時間） (3) 第6回 Tagesablauf（一日の行動） (1) 第7回 Tagesablauf（一日の行動） (2) 第8回 Tagesablauf（一日の行動） (3) 第9回 Wohnen（住まい） (1) 第10回 Wohnen（住まい） (2) 第11回 Essen und Trinken（食事） (1) 第12回 Essen und Trinken（食事） (2) 第13回 Essen und Trinken（食事） (3) 第14回 a：まとめ b：試験 [上記のスケジュールは、場合によっては変更されることもあり得ます。]			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定された箇所の予習をすること。また授業内で単語テストがあるため、地道かつ継続的な努力が求められる。			
5. 教科書 藤原三枝子/ 桂木 忍 / 本河裕子/ 野村幸宏/ Anja Poller/ Rita Toussaint 著 『スタート! 1 ノイ ー コミュニケーション活動で学ぶドイツ語ー』 三修社 *こちらは、2025年初版のA4版の教科書です。同じようなタイトルの姉妹教科書があるので、間違えないよう気をつけてください。			
6. 参考書 授業内で指示したインターネット上のサイトを適宜利用すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答や補足について言及します。場合によっては、クラスウェブの掲示板等を使うこともあります。			
8. 成績評価の方法 【平常点 40：学期末試験 60】 平常点は、課題や授業参加態度・貢献度、単語テスト、ヒアリング小テストなどによります。 遅刻・欠席が一定回数を超えた場合、平常点分は評価の対象となりません。			
9. その他 この授業は、検定試験「スタートドイツ語1」対応のクラスです。「スタートドイツ語1」は、欧州評議会が定めた語学力評価基準の最初のレベル、A1レベルを証明する検定試験です。その資格は日本国内を対象とした独検とは異なり、ヨーロッパをはじめ世界中で通用します。「世界統一基準の資格試験」といわれると敷居が高い印象があるかもしれませんが、その心配はありません。試験の内容や形式、必要語彙は、ドイツの日常や身近な話題にふれた親近感の持てるものです。1年次に学習した初級文法の知識、表現力があれば十分合格できる試験ですから			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J	
科目名		ドイツ語（中級）B 選択クラス	
担当者		大類 京子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解を深める。 (到達目標) 中級レベルのドイツ語を理解することができ、ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。「ヨーロッパ級数参照枠」のA1レベルの修了試験「Start Detusch1」に対応できるドイツ語運用能力を身につける。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：Einkaufen（買い物）（1） 第2回 Einkaufen（買い物）（2） 第3回 Einkaufen（買い物）（3） 第4回 Familie（家族）（1） 第5回 Familie（家族）（2） 第6回 Reisen（旅行）（1） 第7回 Reisen（旅行）（2） 第8回 In der Stadt（街角で）（1） 第9回 In der Stadt（街角で）（2） 第10回 スタートドイツ語1 模擬練習（1） 第11回 スタートドイツ語1 模擬練習（2） 第12回 ドイツ文化に触れる（1） 第13回 ドイツ文化に触れる（2） 第14回 a：まとめ b：試験 [上記のスケジュールは、スタートドイツ語の試験実施日によって、多少変更がありえます。]			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定された箇所の予習をすること。特に語彙は、授業中に行われる課題に大きく関係するため、各自必ず調べて授業に臨むこと。			
5. 教科書 藤原三枝子/ 桂木 忍 / 本河裕子/ 野村幸宏/ Anja Poller/ Rita Toussaint 著 『スタート! 1 ノイ ーコミュニケーション活動で学ぶドイツ語ー』 三修社 *この教科書は2025年初版のA4サイズのもので。同じようなタイトルの姉妹教科書があるので、間違えないよう気をつけてください。			
6. 参考書 授業内で指示したインターネット上のサイトを適宜利用すること。 12月からの授業では、辞書を必ず携帯すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答や補足について言及します。場合によっては、クラスウェブの掲示板等を使うこともあります。			
8. 成績評価の方法 【平常点40：学期末試験：60】 平常点は、課題や授業参加態度・貢献度、単語テスト、ヒアリング小テスト、模擬テストなどによります。 欠席・遅刻、辞書不携帯は、授業参加態度への評価に大きく影響します。 遅刻・欠席が一定回数を超えた場合、平常点分は評価の対象となりません。 SD1の受験は義務ではありませんが、受験そのもので平常点への「加算」があります。 また、SD1の点数を学期末試験の代替物とすることも可能です。			
9. その他 ゲーテインスティチュートで行われる「スタートドイツ語」の試験日程や申し込みに関しては、春学期に0-meijiにて情報が公開されます。希望者はお知らせに従って、各自申し込み手続きを行って下さい。 申し込みの際の払込の証明になる原本や助成金の振込先に指定する口座の通帳コピーなどは、助成金申請時に必要です。			

大学への助成金の申請締め切りが、合格発表より前のことがあります。その際の対応の仕方も、春学期に大学から発表される情報のページや、0-meiji 内の経営学部助成金に関する記事を参考にし

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語（中級） A 選択クラス		
担当者		小松 真帆		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、ドイツ語圏の音楽家とその作品について書かれたテキストを「ドイツ語で読む」授業です。初級文法の知識を確認しながらドイツ語のテキストをじっくりと読み進めますので、積極的な取り組みが求められます。 積極的に取り組むことによって中級レベルのドイツ語能力を身につけること、そしてドイツ語圏の歴史や文化についての造詣を深めることを目標とします。				
2. 授業内容 第1回：初級ドイツ語の復習、講読方法の説明・注意 第2回：モーツァルトの生きた時代 第3回：モーツァルトの人生（ザルツブルク時代） 第4回：『後宮からの誘拐』（前半） 第5回：『後宮からの誘拐』（後半） 第6回：モーツァルトの人生（ウィーン時代） 第7回：『フィガロの結婚』（前半） 第8回：『フィガロの結婚』（後半） 第9回：モーツァルトの死 第10回：『魔笛』（人物） 第11回：『魔笛』（アリア） 第12回：『魔笛』（あらすじ） 第13回：重要な文法事項、講読のまとめ 第14回：a. 定期試験、b. 解説				
3. 履修上の注意 ・辞書は毎回必ず持参すること。辞書を持参しない場合には出席と認められません。 ・授業回数の3分の1以上を欠席した場合は原則として期末試験を受けることができません（単位取得できません）。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・テキストのドイツ語に取り組むさいには単語の意味を調べるだけでなく、自分の力で日本語の文章に移し替えてみること。 ・人物や作品についてはもちろん、時代背景や政治状況などについても各自理解を深めるように。 ・分からないところがあればその都度質問すること。				
5. 教科書 コピーを配布				
6. 参考書 ・辞書（持っていない場合には授業開始までに用意し、毎回必ず持参すること） ・初級ドイツ語の教科書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・課題については授業内もしくはポータル経由で講評を行う。 ・テスト・試験については試験後に解答・解説を行う。				
8. 成績評価の方法 ・授業への参加度・課題等 40％、試験（複数回）60％を目安とします。 ・出席は予習を前提とし、その他にも課題やアクションペーパーを指示します。				
9. その他 特になし				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J	
科目名		ドイツ語（中級）B 選択クラス	
担当者		小松 真帆	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、ドイツ語圏の音楽家とその作品について書かれたテキストを「ドイツ語で読む」授業です。初級文法の知識を確認しながらドイツ語のテキストをじっくりと読み進めますので、積極的な取り組みが求められます。 積極的に取り組むことによって中級レベルのドイツ語能力を身につけること、そしてドイツ語圏の歴史や文化についての造詣を深めることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回：復習と確認 第2回：ベートーヴェンの生きた時代 第3回：ベートーヴェンの人生（ボン時代） 第4回：ベートーヴェンの人生（ウィーン時代） 第5回：ベートーヴェンの人生（病と創作） 第6回：古典主義とロマン主義の音楽 第7回：交響曲（第五番） 第8回：「歓喜の歌」（前半） 第9回：「歓喜の歌」（後半） 第10回：交響曲（第九番） 第11回：今日の「第九」 第12回：ベートーヴェンとウィーンの芸術 第13回：重要な文法事項，講読のまとめ 第14回：a. 定期試験，b. 解説			
3. 履修上の注意 ・辞書は毎回必ず持参すること。辞書を持参しない場合には出席と認められません。 ・授業回数の3分の1以上を欠席した場合は原則として期末試験を受けることができません（単位取得できません）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・テキストのドイツ語に取り組むさいには、単語の意味を調べるだけでなく、自分の力で日本語の文章に移し替えてみること。 ・人物や作品についてはもちろん、時代背景や政治状況などについても各自理解を深めるように。 ・分からないところがあれば、その都度質問すること。			
5. 教科書 コピーを配布			
6. 参考書 ・辞書（持っていない場合には授業開始までに用意し、毎回必ず持参すること） ・初級ドイツ語の教科書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・課題については授業内もしくはポータル経由で講評を行う。 ・テスト・試験については試験後に解答・解説を行う。			
8. 成績評価の方法 ・授業への参加度・課題等 40%，試験（複数回）60%を目安とします。 ・出席は予習を前提とし、その他にも課題やリアクションペーパーを指示します。			
9. その他 特になし			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語（中級） A 選択クラス		
担当者		松島 渉		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
概要 「ドイツ語（中級）A」には「指定クラス」と「選択クラス」があるが、「指定クラス」で初級文法の学習を完結させるのに対して、この「選択クラス」では、受講者各自の関心に従い、6つの異なるテーマのクラスのなかから1つを選択して受講する。既習の文法事項を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や文化についての理解を深める。				
到達目標 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、ある程度の知識と持続的な関心を有する。				
2. 授業内容				
本授業では、和訳、作文練習を通して既習の文法事項を捉えなおし、よりいっそうの理解を深める。教科書に従い授業を進めるが、受講者の学習レベルに応じて変更する可能性がある。辞書必携。				
第1回 導入、既習事項の確認				
第2回 主語と定動詞、動詞の位置				
第3回 自己紹介の文（1）				
第4回 ドイツ語らしい語順				
第5回 自己紹介の文（2）				
第6回 否定文				
第7回 好き嫌いを言う				
第8回 冠詞の使い方				
第9回 身体の調子を伝える				
第10回 情報の流れを考える				
第11回 過去の事を書く				
第12回 空間の位置関係の表し方				
第13回 道案内の表現				
第14回 a：試験 b：解説				
3. 履修上の注意				
本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は「経営学部履修の手引」を参照のこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
毎回、予習範囲を指定し、課題を与えるのでやってくこと。初級で学んだことは既習事項として扱うので、自学自習を怠らないこと。一年次に使用した基礎文法教科書を見直すとよい。				
5. 教科書				
清野智明『ドイツ語を書いてみよう！』[改訂版] 白水社、2016年				
6. 参考書				
1年次に使用した文法の教科書を参考にすること。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
提出課題は添削して返却する。				
8. 成績評価の方法				
平常点 50 点、期末試験 50 点。 平常点とは出席のみで得られるものではない。事前に指定された問題をやっていなかったり、指名されて問題を答える際に思考の跡がないなどが減点の対象である。期間中作文課題を提出する機会がある。課題提出の有無、その内容も平常点に含まれる。				
9. その他				
何か一定の内容を外国語の文章で伝えるとき、それは一通りであるとは限らない。文法のルールや定型を覚えることは大事だが、ただ作文の模範解答を暗記するだけということにならないよう注意すること。 昨今人工知能の発達等により機械翻訳の精度が飛躍的に上がっているが、機械翻訳を通したものをただ書き写したとしてもそれはあなたの学習ではない。仮に機械翻訳を使うとしても、それが使用者の能力向上に役立てられないのならば外国語学習において意味は薄い。テクノロジーとの付き合い方をよく考えること。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語（中級）B 選択クラス		
担当者		松島 渉		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
概要 秋学期開講の「ドイツ語（中級）B（選択クラス）」では、春学期開講の「ドイツ語（中級）A（選択クラス）」で受講者各自が選択したの と同一テーマのクラスを、原則として受講する。初級文法全般を応用し、中級レベルのドイツ語教材に取り組むと共に、ドイツ語圏の社会や 文化についての理解をいっそう深める。				
到達目標 中級レベルのドイツ語を理解することができる。ドイツ語圏の社会や文化について、春学期以上の知識と持続的な関心を有する。				
2. 授業内容				
春学期に引き続き、和訳、作文を通して文法事項の理解を深め、より高度なドイツ語の文章を理解、作文できるようにする。最終的に は短文だけでなく、ある程度まとまった文章を理解、作文できるようになるよう努力が求められる。以下の予定に従い授業を進めるが、受 講者の学習レベルに応じて変更する可能性がある。辞書必携。				
第1回 前置詞を使いこなす 第2回 時間に関する表現、予定を伝える 第3回 視点の取り方 第4回 時刻の言い方、一日の生活を表現する 第5回 人と物の表し方 第6回 自分の意見を述べる 第7回 話法でニュアンスを付け加える 第8回 いつ何をするか（複合的な表現） 第9回 名詞化する 第10回 論理的な文章を書く 第11回 ドイツ語らしい論理展開を心がける 第12回 論理展開のある文で意見を述べる 第13回 既習事項を使った作文練習 第14回 a：試験 b：解説				
3. 履修上の注意				
本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は、「経営学部履修の手引」を 参照のこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
毎回、予習範囲を指定し、課題を与えるのでやってくこと。初級で学んだことは既習事項として扱うので、自学自習を怠らないこと。 Aで学んだ内容も既習事項とみなすのでBから受講する学生は努力すること。				
5. 教科書				
清野智明『ドイツ語を書いてみよう！』[改訂版] 白水社、2016 年				
6. 参考書				
指定クラスで使用している文法の教科書を参考にすること。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
提出課題は添削して返却する				
8. 成績評価の方法				
平常点 50 点、期末試験 50 点。 平常点とは出席のみで得られるものではない。事前に指定された問題をやっていなかったり、指名された問題を答える際に思考の跡が 見られない場合は減点の対象になる。期間中 2 回ほど作文課題を提出する機会がある。課題提出の有無、その内容も平常点に含まれる。				
9. その他				
何か一定の内容を外国語の文章で伝えるとき、それは一通りであるとは限らない。文法のルールや定型を覚えることは大事だが、ただ作 文の模範解答を暗記するだけということにならないよう注意すること。 昨今人工知能の発達等により機械翻訳の精度が飛躍的に上がっているが、機械翻訳を通したものをただ書き写したとしてもそれはあな たの学習ではない。仮に機械翻訳を使うとしても、それが使用者の能力向上に役立てられないのならば外国語学習において意味は薄い。テ クノロジーとの付き合い方をよく考えること。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN131J	
科目名		フランス語（初級） I a（統一） コミュニケーション	
担当者		折方 のぞみ・佐々木 匠・中村 美緒・南 玲子	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） この授業は「聞く、話す、読む、書く」こと全般について、初歩的なフランス語の運用能力を習得することを目的とする授業です。「フランス語（初級） I（b）」と対をなしています。この授業では、ひとまず日本語のことは忘れ、フランス語の「音」や「響き」に慣れることに重点をおいています。つまり、文字中心というよりは音声中心の学習であり、説明よりは練習中心の学習内容となっています。学習を通してフランス語を直感的に身につけることを特にめざしています。 （到達目標） この科目が修了した時点でフランス語検定 5 級に合格できる程度の語学力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第 1 回 イン트로ダクション 第 2 回 Leçon 1：自分のことを伝えよう(1) 前半 第 3 回 Leçon 1：自分のことを伝えよう(1) 後半 第 4 回 Leçon 2：自分のことを伝えよう(2) 前半 第 5 回 Leçon 2：自分のことを伝えよう(2) 後半 第 6 回 Leçon 3：家族は友人を紹介しよう 前半 第 7 回 Leçon 3：家族は友人を紹介しよう 後半 第 8 回 Leçon 4：趣味や好みを紹介しよう 前半 第 9 回 Leçon 4：趣味や好みを紹介しよう 後半 第 10 回 Leçon 5：道案内をしよう 前半 第 11 回 Leçon 5：道案内をしよう 後半 第 12 回 Leçon 6：行動について話そう 前半 第 13 回 Leçon 6：行動について話そう 後半 第 14 回（a） まとめ (b) 試験 上記は目安で、小テスト、中間テスト、補足的アクティビティの実施などによって進捗が変わる場合があります。			
3. 履修上の注意 入学手続きでみなさんが各自希望した外国語選択に基づいて学籍クラスで指定されているので、指定されたクラスの授業を履修すること。春学期に実施される「フランス語（初級） I」が不合格の学生は秋学期、同一曜日同一時間に開講の「フランス語（初級） II」が履修できないので注意すること。 また、フランス語で受験した学生、フランス語既習者には「特別フランス語」のクラスを設置しています。 「特別フランス語」の履修を希望する者は、事務室および担当教員に申し出ること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 『アクティヴ』1 白水社			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。辞書などについては授業の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削や教室での模範解答提示などを行います。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリの授業内利用可否については担当教員の指示に従うこと）。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN131J		
科目名		フランス語（初級）Ⅱa(統一) コミュニケーション		
担当者		折方 のぞみ・佐々木 匠・中村 美緒・南 玲子		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 「フランス語（初級）Ⅰ（a）」に続く科目で、基礎文法の習得を目的とする「フランス語（初級）Ⅱ（b）」と対をなす授業です。入門的な段階を脱して実践的なフランス語の運用能力全般の養成をめざします。 （到達目標） この科目を修了した時点でフランス語検定４級に合格できる程度のフランス語力を身につけることが到達目標です。				
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第１回 春学期の復習 第２回 Leçon 7 習慣について話そう 前半 第３回 Leçon 7 習慣について話そう 後半 第４回 Leçon 8 過去の経験を伝えよう 前半 第５回 Leçon 8 過去の経験を伝えよう 後半 第６回 Leçon 9 過去の自分について話そう 前半 第７回 Leçon 9 過去の自分について話そう 後半 第８回 Leçon 10 インターネットを使おう 前半 第９回 Leçon 10 インターネットを使おう 後半 第１０回 Leçon 11 未来について語ろう 前半 第１１回 Leçon 11 未来について語ろう 後半 第１２回 Leçon 12 インタビューをしよう 前半 第１３回 Leçon 12 インタビューをしよう 後半 第１４回 （a） まとめ (b) 試験 上記は目安で、小テスト、中間テスト、補足的アクティビティの実施などによって進捗が変わる場合があります。				
3. 履修上の注意 「フランス語（初級）Ⅰ（a）」に合格していない者はこの科目は履修できないので注意すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習，復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。				
5. 教科書 『アクティヴ』１ 白水社				
6. 参考書 特に指定しません。必要に応じて，授業の際に随時紹介します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削，教室での模範解答提示など。				
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題，小テスト，中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。				
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリの教室内での利用については担当教員の指示に従うこと）。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN131J	
科目名		フランス語（初級） I b（統一） 文法	
担当者		荒原 由紀子・加藤 三和・永倉 千夏子・南 玲子	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業はとくにフランス語の基本的な文法を学びながら初歩的なフランス語の運用能力を習得することを目的とする授業です。「フランス語（初級） I（a）」と対をなしています。この授業では、実際に話され書かれる生きたフランス語について、文法的知識を習得し、練習問題を通してフランス語を直感的に身につけることを特にめざしています。 〈到達目標〉 この科目が修了した時点でフランス語検定 5 級に合格できる程度の語学力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第 1 回 インTRODakション 第 2 回 Leçon 1 前半 名詞・冠詞 第 3 回 Leçon 1 後半 名詞・冠詞 第 4 回 Leçon 2 前半 動詞 être と avoir 第 5 回 Leçon 2 後半 動詞 être と avoir 、Leçon 3 前半 -er 動詞 第 6 回 Leçon 3 後半 否定形・疑問形 第 7 回 Leçon 4 前半 形容詞 第 8 回 Leçon 4 後半 形容詞 第 9 回 Leçon 5 前半 指示形容詞・所有形容詞 第 10 回 Leçon 5 後半 強勢形、-ir 動詞 第 11 回 Leçon 6 前半 動詞 aller と venir 第 12 回 Leçon 6 後半 定冠詞の縮約、命令法 第 13 回 Leçon 7 前半 動詞 prendre と faire 第 14 回（a） まとめ （b） 試験 上記は目安で、小テスト、中間テスト、補足的アクティビティの実施などによって進捗が前後する場合があります。 また、I (a) との対応関係を重視して、扱う文法事項の順番を変更することがあります。			
3. 履修上の注意 入学手続きでみなさんが各自希望した外国語選択に基づいて学籍クラスで指定されているので、指定されたクラスの授業を履修すること。春学期に実施される「フランス語（初級） I」が不合格の学生は秋学期、同一曜日同一時間に開講の「フランス語（初級） II」が履修できないので注意すること。 また、フランス語で受験した学生、フランス語既習者には「特別フランス語」のクラスを設置しています。 「特別フランス語」の履修を希望する者は、事務室と担当教員に申し出ること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 『〈プティ〉 シェリーとフランス語』 三修社			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。辞書などについては授業の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、教室での模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリの教室内での使用については担当教員の指示に従うこと）。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN131J	
科目名		フランス語（初級）Ⅱb（統一） 文法	
担当者		荒原 由紀子・加藤 三和・永倉 千夏子・南 玲子	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業は「フランス語（初級）Ⅰ（b）」に続く授業で、「フランス語（初級）Ⅰ（b）」が履修できていない学生は履修できません。引続きフランス語の基本的な文法を学びながら初歩的なフランス語の運用能力を習得することを目的とする授業です。「フランス語（初級）Ⅱ（a）」と対をなしています。この授業では、実際に話され書かれる生きたフランス語について、文法的知識を習得し、練習問題を通してフランス語を直感的に身につけることを特にめざしています。 〈到達目標〉 この科目が修了した時点でフランス語検定4級に合格できる程度の語学力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 大体の進路と内容は以下の通り。 第1回 春学期の復習、Leçon 7 後半 非人称構文、疑問形容詞 第2回 Leçon 8 疑問代名詞、疑問副詞 第3回 Leçon 9 前半 動詞 vouloir と pouvoir と devoir 第4回 Leçon 9 後半 補語人称代名詞 第5回 Leçon 10 前半 比較表現 第6回 Leçon 10 後半 現在分詞とジェロンディフ、Leçon 11 前半 動詞 savoir と connaître 第7回 Leçon 11 後半 中性代名詞 第8回 Leçon 12 複合過去 第9回 Leçon 13 前半 関係代名詞 第10回 Leçon 13 後半 指示代名詞、受動態、強調構文 第11回 Leçon 14 代名動詞 第12回 Leçon 15 前半 半過去 第13回 Leçon 15 後半 単純未来 第14回 (a) まとめ (b) 試験 上記は目安で、小テスト、中間テスト、補足的アクティビティの実施などによって進捗が前後する場合があります。 また、Ⅱ(a)との対応関係を重視して、扱う文法事項の順番を変更することがあります。			
3. 履修上の注意 入学手続きでみなさんが各自希望した外国語選択に基づいて学籍クラスで指定されているので、指定されたクラスの授業を履修すること。春学期に実施される「フランス語（初級）Ⅰ」が不合格の学生は秋学期、同一曜日同一時間に開講の「フランス語（初級）Ⅱ」が履修できないので注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習、復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 『〈プティ〉シェリーとフランス語』 三修社			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。辞書などについては授業の際に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削、教室での模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題、小テスト、中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリの教室内での使用については担当教員の指示に従うこと）。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J		
科目名		フランス語（中級）A 指定（統一） 習熟度別指定クラス		
担当者		加藤 三和・レット，フランソワ・中村 美緒・ベルテ，ディディエ		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 「フランス語（初級）」での学習の成果を受けて，各自の習熟度別に設定されたクラスで総合的にフランス語を学ぶ「指定クラス」と，自分の関心，目的に見合ったテーマを選択する「選択クラス」を受講します。「指定クラス」は1年次の「初級」の成績にしたがって2段階に分けられています。基本的に1年次で習得した内容を前提として，その習熟度に合わせて「話す」「聞く」「読む」「書く」を総合的に学習する「総合フランス語」クラスになっています。 （到達目標） この科目（A/B）を修了した時点でフランス語検定3級に合格できる程度のフランス語力を身につけることが到達目標です。				
2. 授業内容 進路と内容は以下のとおり。 1）第1課 2）第1課 3）第2課 4）第2課 5）第3課 6）第3課 7）第4課 8）第4課 9）第5課 10）第5課 11）第6課 12）第6課 13）復習、ふりかえり 14）（a）まとめ （b）試験				
3. 履修上の注意 履修手続きにあたっては掲示に注意すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習，復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。				
5. 教科書 教科書は担当講師によって異なります。 学年初めの掲示に注意してください。 ハイレベル A/B ベルテ：Interaction 3（Clé international） レット：Interaction 3（Clé international） スタンダード A/B 中村：Liaison 2（白水社） 加藤：En contexte grammaire A1-2（Hachette）				
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介していきます。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削，教員による模範解答提示など。				
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題，小テスト，中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。				

9. その他

辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンアプリの授業内使用については担当教員の指示に従うこと）。
一年次の文法教科書もあると便利です。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級）B指定（統一） 習熟度別指定クラス	
担当者		加藤 三和・レット，フランソワ・中村 美緒・ベルテ，ディディエ	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 「フランス語（中級）A」に続いて，総合的にフランス語を学ぶ「指定クラス」と，前期に選択した「選択クラス」を受講します。「指定クラス」は同水準の複数の教科書をクラスごとに使用し，総合的なフランス語力の向上をめざします。 〈到達目標〉 この科目（A/B）を修了した時点でフランス語検定3級に合格できる程度のフランス語力を身につけることが到達目標です。			
2. 授業内容 「指定クラス」は基本的に前期の内容を継続して履修，「話す」「聞く」「読む」「書く」をさらに総合的に学習し，とくに文法の知識の習得とコミュニケーション能力の展開を目指します。 大体の内容は以下のとおり。 1）第7 課 2）第7 課 3）第8 課 4）第8 課 5）第9 課 6）第9 課 7）第10 課 8）第10 課 9）第11 課 10）第11 課 11）第12 課 12）第12 課 13）復習、ふりかえり 14）（a） まとめ (b) 試験			
3. 履修上の注意 履修手続きにあたっては掲示に注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の予習，復習は必ず行うこと。特に次の回の範囲の意味内容は辞書などを使ってきちんと調べてノートなどに各自書き出してから授業にのぞむこと。			
5. 教科書 教科書は担当講師によって異なります。 基本的には「フランス語（中級）A」で使用した教科書を使用しますが，そうでない場合もあるので担当講師の指示に従ってください。			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削，教室内での模範解答提示など。			
8. 成績評価の方法 平常点（40％）と期末試験（60％）を目安とします。 課題，小テスト，中間テストなどの含め方については教員によって割合が変動する可能性があります。			
9. その他 辞書を一冊必ず毎回授業に持参すること（スマートフォンの教室内での使用については担当教員の指示に従うこと）。 一年次の文法教科書もあると便利です。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J		
科目名		フランス語（中級）A 選択クラス		
担当者		折方 のぞみ		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「文化交流のためのフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「文化交流のためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。日本とフランスの文化や社会に関する各課2つのスキットと内容理解問題、語彙力強化問題、そして関連文法問題を通して読む、書く、話す、聞くの4技能を強化し、音声素材や関連映像資料の視聴を通して応用力を強化します。 〈到達目標〉 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。				
2. 授業内容 この選択授業のテーマは「文化交流のためのフランス語」です。実際のコミュニケーションの場面を想定した各課2つのスキットや関連資料によってフランスの文化や社会についての知識を日本との比較を通して学びつつ、そこで使われている文法や表現を自ら「使える」ようにトレーニングしていきます。教科書だけでなく、関連するテーマやホットトピックに関するフランスのニュース番組などのコンテンツも副教材として取り入れ、楽しみながらフランス語を学び、実力をつけることを目指します。多様な種類の問題で基礎力を定着させつつ実践的な応用力をつけると同時に、聞き取り・書き取りを意識したトレーニングも行いますので、仏検などの資格取得を考えている学生にも適しています。 春学期のおおまかなスケジュールは以下の通りです。 第1回 復習，発音，オリエンテーション 第2～3回 Leçon 1 季節・行事 第4～5回 Leçon 2 飲食・お菓子 第6～7回 Leçon 3 住まい・生活習慣 第8～9回 Leçon 4 生活・買い物 第10～11回 Leçon 5 結婚・カップル事情 第12～13回 Leçon 6 外国人・移民 第14回 a：試験 b：まとめ・振り返り 上記はあくまでも予定であり，小テストや中間課題，補足的アクティビティの実施によって授業の進捗は前後する場合があります。				
3. 履修上の注意 平常点は授業に「出席」すれば自動的につくものではありません。きちんと授業に「参加」しているかどうかを重視します。 各自辞書を必ず一冊準備し，授業にも持参すること。 （電子辞書可。スマートフォンアプリの場合は授業内の使用については許可された時間以外は不可。） 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため，履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業では自宅学習にも重点を置いています。特に復習はしっかりと行うようにしましょう。宿題は必ず自分で言い提出すること。一年次の文法の復習もおきましょう。				
5. 教科書 『あなたの国では？ フランス語で文化交流』 近江屋志穂，折方のぞみ，南玲子著，三修社。				
6. 参考書 特に指定しませんが，二年次の教科書の文法説明は網羅的ではないので，一年生の文法の教科書など，初級文法を網羅しているものを一冊準備しておくといでしょう。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削や授業内での模範解答提示による指導を行います。				
8. 成績評価の方法 ・平常点（出席，授業参加）25％ 授業への出席は大前提となります。3回以上の欠席をした者には単位を与えません（公欠や病欠は日付入り証明書があれば考慮）。その上で，教室内での発言や発表など積極的に授業に参加する姿勢が評価対象となります。 ・小テスト・課題提出 25％ ・オーラル発表 10％（受講人数によりますが，各自が調べた課題コンテンツの発表を予定） ・学期末試験 40％ （上記は目安で総合的に評価されます。）				

9. その他

実際の会話に近いシチュエーションを想定した教材でフランス語を学びながらフランス語で日本について紹介する力を育てるとともに、フランスの文化や社会についての知識も得られる授業です。語学学習はスポーツのトレーニングと同様で、「楽しんで上達」することは難しいですが「楽しみながら上達」出来る授業にしたいと思っています。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級）B 選択クラス	
担当者		折方 のぞみ	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「文化交流のためのフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「文化交流のためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。日本とフランスの文化や社会に関する各課2つのスキットと内容理解問題、語彙力強化問題、そして関連文法問題を通して、「読む、書く、話す、聞く」の4技能を強化し、さらに、音声素材や関連映像資料の視聴を通して応用力を強化します。 〈到達目標〉 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 この選択授業のテーマは「文化交流のためのフランス語」です。実際のコミュニケーションの場面を想定した各課2つのスキットや関連資料によってフランスの文化や社会についての知識を日本との比較を通して学びつつ、そこで使われている文法や表現を自ら「使える」ようにトレーニングしていきます。教科書だけでなく、関連するテーマやホットトピックに関するフランスのニュース番組などのコンテンツも副教材として取り入れ、楽しみながらフランス語を学び、実力をつけることを目指します。多様な種類の問題で基礎力を定着させつつ実践的な応用力をつけると同時に、聞き取り・書き取りを意識したトレーニングも行いますので、仏検などの資格取得を考えている学生にも適しています。 秋学期のおおまかなスケジュールは以下の通りです。 第1~2回 春学期の復習, Leçon 7 大学入試・パカロレア 第3~4回 Leçon 8 俳句・詩 第5~6回 Leçon 9 宗教 第7~8回 Leçon 10 スポーツ 第9~10回 Leçon 11 映画・演劇 第11~12回 Leçon 12 マング・B.D. 第13回 復習, まとめ 第14回 a: 試験 b: 振り返り 上記はあくまでも予定であり、小テストや中間課題、補足的アクティビティの実施によって授業の進捗は前後する場合があります。			
3. 履修上の注意 平常点は授業に「出席」すれば自動的につくものではありません。きちんと授業に「参加」しているかどうかを重視します。各自辞書を必ず一冊準備し、授業にも持参すること。 （電子辞書可。スマートフォンアプリの場合は授業内の使用については許可された時間以外は不可。） 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 この授業では自宅学習にも重点を置いています。特に復習はしっかりと行うようにしましょう。宿題は必ず自分で言い提出すること。一年次の文法の復習もおきましょう。			
5. 教科書 『あなたの国では？ フランス語で文化交流』 近江屋志穂，折方のぞみ，南玲子著，三修社。			
6. 参考書 特に指定しませんが、二年次の教科書の文法説明は網羅的ではないので、一年生の文法の教科書など、初級文法を網羅しているものを一冊準備しておくといでしょう。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 必要に応じて添削や授業内での模範解答提示による指導を行います。			
8. 成績評価の方法 ・平常点（出席，授業参加）25% 授業への出席は大前提となります。3回以上の欠席をした者には単位を与えません（公欠や病欠は日付入り証明書があれば考慮）。その上で、教室内での発言や発表など積極的に授業に参加する姿勢が評価対象となります。 ・小テスト・課題提出 25% ・オーラル発表 10%（受講人数によりますが、各自が調べた課題コンテンツの発表を予定） ・学期末試験 40% （上記は目安で総合的に評価されます。）			

9. その他

実際の会話に近いシチュエーションを想定した教材でフランス語を学びながらフランス語で日本について紹介する力を育てるとともに、フランスの文化や社会についての知識も得られる授業です。語学学習はスポーツのトレーニングと同様で、「楽しんで上達」することは難しいですが「楽しみながら上達」出来る授業にしたいと思っています。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級） A 選択クラス	
担当者		佐々木 匠	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「文化交流のためのフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」、「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスを知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。比較的やさしいフランス語のテキストを題材に、音声聞いて情報をおおまかにつかむ練習と、辞書を用いながら正確に文意を読み解く練習の両方をセットで行います。 〈到達目標〉 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 初回到授業に関する簡単な説明を行い、2回目の授業からは以下の2つを柱に据えて学習を進めます。 【偶数週】「聴く視る編」 2分程度の比較的やさしいフランス語の音声・映像を聞き取り、内容を把握する練習をします。初めのうちはおそらくスピードについていくことすら難しいと思うので、子ども向けに作られた音声・映像を扱い、受講者の様子を見ながら、学期の後半はより一般的な音声・映像に切り替えていこうと考えています。授業では、たとえば、最初はヒントなしで、次は内容理解の問題を解きながら、最後は辞書で単語を調べる時間を取ったあとで、というように、時間の許す限り繰り返し、しつこく何度も聞きます。すべてを理解するというよりは、大枠や必要な情報を捉えることを目標とします。 【奇数週】「読む編」 「聴く視る編」で扱ったテキストの読解を行います。音声で聴いていたときにはつかめなかった細かな部分も確認しましょう。辞書や文法の教科書を参照しながら、必ず事前学習をしたうえで授業にのぞんでください。また、テキストの内容に関するフランスやフランス語圏の文化についても調べて発言してもらう機会を設けます。 第1回：学習方法の説明など 第2回：聞く視る編1 第3回：読む編1 第4回：聞く視る編2 第5回：読む編2 第6回：聞く視る編3 第7回：読む編3 第8回：聞く視る編4 第9回：読む編4 第10回：聞く視る編5 第11回：読む編5 第12回：聞く視る編6 第13回：読む編6 第14回：a：全体のまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 音声や映像での内容理解はかなり難しいので、覚悟はしておいてください。 授業ではこちらから指名して答えてもらうこともあります。手をあげて発言してもらう場面はそれ以上に多くあります。主体的に学べる人だけ受講してください。何もせずに座っているだけという方には単位はあげられません。 また、初級から中級へと語学力をステップアップさせるためには、辞書と仲良くなる必要があります。必ず電子辞書か紙の仏和辞典を手に入れて、授業にも持参してください。授業内で単語を近くの方と手分けして調べてもらう時間を作る予定です。「読む編」は予習も必須です。文法事項の復習、確認などのために、初級の授業で使ったフランス語の教科書もおおいに役立ててください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「聴く視る編」では、授業内で辞書を使って単語を調べる時間を設けます。 「読む編」は予習が必須です。事前に丁寧に辞書を引き、文意をとってから授業に臨んでください。予習でわからなかった箇所や説明が必要な箇所がある場合には、授業中に積極的に質問してください。			
5. 教科書 特定の教科書は用いず、プリントを配布する予定です。			
6. 参考書 辞書と一年生で使った教科書			

7. 課題に対するフィードバックの方法

教場で添削指導を行います。

8. 成績評価の方法

当然ですが出席は大前提です。

期末試験の点数（50%）と、授業への積極的な参加、授業態度、事前学習の成果など（50%）を合わせて評価します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級）B 選択クラス	
担当者		佐々木 匠	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「文化交流のためのフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」、「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスを知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。比較的やさしいフランス語のテキストを題材に、音声聞いて情報をおおまかにつかむ練習と、辞書を用いながら正確に文意を読み解く練習の両方をセットで行います。 〈到達目標〉 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 初回到授業に関する簡単な説明を行い、2回目の授業からは以下の2つを柱に据えて学習を進めます。 【偶数週】「聴く視る編」 2分程度の比較的やさしいフランス語の音声・映像を聞き取り、内容を把握する練習をします。初めのうちはおそらくスピードについていくことすら難しいと思うので、子ども向けに作られた音声・映像を扱い、受講者の様子を見ながら、学期の後半はより一般的な音声・映像に切り替えていこうと考えています。授業では、たとえば、最初はヒントなしで、次は内容理解の問題を解きながら、最後は辞書で単語を調べる時間を取ったあとで、というように、時間の許す限り繰り返し、しつこく何度も聞きます。すべてを理解するというよりは、大枠や必要な情報を捉えることを目標とします。 【奇数週】「読む編」 「聴く視る編」で扱ったテキストの読解を行います。音声で聴いていたときにはつかめなかった細かな部分も確認しましょう。辞書や文法の教科書を参照しながら、必ず事前学習をしたうえで授業にのぞんでください。また、テキストの内容に関するフランスやフランス語圏の文化についても調べて発言してもらう機会を設けます。 第1回：学習方法の説明など 第2回：聞く視る編1 第3回：読む編1 第4回：聞く視る編2 第5回：読む編2 第6回：聞く視る編3 第7回：読む編3 第8回：聞く視る編4 第9回：読む編4 第10回：聞く視る編5 第11回：読む編5 第12回：聞く視る編6 第13回：読む編6 第14回：a：全体のまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 音声や映像での内容理解はかなり難しいので、覚悟はしておいてください。 授業ではこちらから指名して答えてもらうこともあります。手をあげて発言してもらう場面はそれ以上に多くあります。主体的に学べる人だけ受講してください。何もせずに座っているだけという方には単位はあげられません。 また、初級から中級へと語学力をステップアップさせるためには、辞書と仲良くなる必要があります。必ず電子辞書か紙の仏和辞典を手に入れて、授業にも持参してください。授業内で単語を近くの方と手分けして調べてもらう時間を作る予定です。「読む編」は予習も必須です。文法事項の復習、確認などのために、初級の授業で使ったフランス語の教科書もおおいに役立ててください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「聴く視る編」では、授業内で辞書を使って単語を調べる時間を設けます。 「読む編」は予習が必須です。事前に丁寧に辞書を引き、文意をとってから授業に臨んでください。予習でわからなかった箇所や説明が必要な箇所がある場合には、授業中に積極的に質問してください。			
5. 教科書 特定の教科書は用いず、プリントを配布する予定です。			
6. 参考書 辞書と一年生で使った教科書			

7. 課題に対するフィードバックの方法

教場で添削指導を行います。

8. 成績評価の方法

当然ですが出席は大前提です。

期末試験の点数（50％）と、授業への積極的な参加、授業態度、事前学習の成果など（50％）を合わせて評価します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級） A 選択クラス	
担当者		荒原 由紀子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」「映像と音で学ぶフランス語」「フランスに行くためのフランス語」「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスに行くためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。平易なフランス語を読み、書き、聞き、話す実用的な能力を総合的に身につけることを目指します。 〈到達目標〉 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 この選択授業のテーマは、「フランスに行くためのフランス語」です。海外の国や地域へ旅に出るには、どんな知識が必要でしょうか。この授業では、フランス語圏に行って少しでもフランス語を使ってみたいという人の実用的なフランス語能力をさらに伸ばし、また主として現代のフランスの生活習慣や社会の仕組みについての基礎的な知識を身につけることを目指します。 使用する教科書は、フランスの社会や文化をさまざまなトピック別に紹介した1ページのテキスト（たとえば第1課は「フランスにおけるスポーツ」）、そしてその文章に基づいた課題（発音や文法の練習問題：合計3ページ）という構成になっています。各課を2回の授業で学習するというペースを目安に、授業を進めていきたいと思います。 また、授業では毎回小テストを実施するとともに（文法・語彙など）、1学期につき数回、フランスの社会や文化の特定のテーマに関するレポートを出題します。 1. イントロダクション：授業の紹介 2. 第1課・テキスト 3. 第1課・課題 4. 第2課・テキスト 5. 第2課・課題 6. 第3課・テキスト 7. 第3課・課題 8. 第4課・テキスト 9. 第4課・課題 10. 第5課・テキスト 11. 第5課・課題 12. 第6課・テキスト 13. 第6課・課題 14. a：まとめ b：試験			
3. 履修上の注意 各自辞書を必ず準備し、毎回の授業に持参してください。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 外国語能力を習得するためには、授業外の学習が不可欠です。教科書の予習・復習を各自必ず行ってください。それを前提として授業を進めます。			
5. 教科書 リリアンヌ・ラタンジオ、澤田直『ヴレマン？文法を深めながら発見するフランス14章（第2版）』、三修社。			
6. 参考書 1年次に使用した教科書、特にフランス語初級（文法）の教科書を必要に応じて参照してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回教室で実施する小テストを採点し、コメントをつけて返却します。レポートなどの提出物についても、同様です。クラスウェブ上の提出物については、コメント欄でフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 成績評価の基準は、平常点（40%）と学期末の試験（60%）を目安とします。平常点は具体的には、授業への参加状況（教室内での発言・発表）、毎回の小テスト、レポートや課題などの提出物を評価の対象とします。「出席」するだけでは平常点は付きませんので、注意してください。			

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級）B 選択クラス	
担当者		荒原 由紀子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」「映像と音で学ぶフランス語」「フランスに行くためのフランス語」「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランスに行くためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。平易なフランス語を読み、書き、聞き、話す実用的な能力を総合的に身につけることを目指します。 （到達目標） 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 この選択授業のテーマは、「フランスに行くためのフランス語」です。海外の国や地域へ旅に出るには、どんな知識が必要でしょうか。この授業では、フランス語圏に行って少しでもフランス語を使ってみたいという人の実用的なフランス語能力をさらに伸ばし、また主として現代のフランスの生活習慣や社会の仕組みについての基礎的な知識を身につけることを目指します。 使用する教科書は、フランスの社会や文化をさまざまなトピック別に紹介した1ページのテキスト（たとえば第1課は「フランスにおけるスポーツ」）、そしてその文章に基づいた課題（発音や文法の練習問題：合計3ページ）という構成になっています。各課を2回の授業で学習するというペースを目安に、授業を進めていきたいと思います。 また、授業では毎回小テストを実施するとともに（文法・語彙など）、1学期につき数回、フランスの社会や文化の特定のテーマに関するレポートを出題します。 1. 春学期の復習 2. 第7課・テキスト 3. 第7課・課題 4. 第8課・テキスト 5. 第8課・課題 6. 第9課・テキスト 7. 第9課・課題 8. 第10課・テキスト 9. 第10課・課題 10. 第11課・テキスト 11. 第11課・課題 12. 第12課・テキスト 13. 第12課・課題 14. a：まとめ b：試験			
3. 履修上の注意 各自辞書を必ず準備し、毎回の授業に持参してください。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 外国語能力を習得するためには、授業外の学習が不可欠です。教科書の予習・復習を各自必ず行ってください。それを前提として授業を進めます。			
5. 教科書 リリアンヌ・ラタンジオ、澤田直『ヴレマン？文法を深めながら発見するフランス14章（第2版）』、三修社。			
6. 参考書 1年次に使用した教科書、特にフランス語初級（文法）の教科書を必要に応じて参照してください。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回教室で実施する小テストを採点し、コメントをつけて返却します。レポートなどの提出物についても、同様です。クラスウェブ上の提出物については、コメント欄でフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 成績評価の基準は、平常点（40％）と学期末の試験（60％）を目安とします。平常点は具体的には、授業への参加状況（教室内での発言・発表）、毎回の小テスト、レポートや課題などの提出物を評価の対象とします。「出席」するだけでは平常点は付きませんので、注意してください。			

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J		
科目名		フランス語（中級） A 選択クラス		
担当者		加藤 三和		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランス語を知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。フランスの社会や文化に関する短い文章とその音声教材をベースに内容理解力と聞き取り能力を強化し、関連映像やその他の音声素材の視聴を通して表現力を強化します。 【目標】 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。				
2. 授業内容 第1回：これまでの復習と力試し 第2回：Fromages 1 第3回：Fromages 2 第4回：Vins et Eaux 1 第5回：Vins et Eaux 2 第6回：La Concierge 1 第7回：La Concierge 2 第8回：Jeanne d'Arc 1 第9回：Jeanne d'Arc 2 第10回：Astérix et Obélix 1 第11回：Astérix et Obélix 2 第12回：Marianne 1 第13回：Marianne 2 第14回：まとめのテスト				
3. 履修上の注意 教科書・辞書（紙または電子辞書）を毎回必ず自習すること				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回の授業時にはテキストの語彙・初出の表現をあらかじめ調べ、予習して臨むこと				
5. 教科書 『Clés pour la France フランスを読み解く鍵 第2巻 改訂版』、Denis C. Meyer、アシェット・ジャポン、2022年（ISBN：9784991017254）				
6. 参考書 特に指定しないが文法書を一冊用意しておくことが望ましい				
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、学内 LMS にてフィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 課題・小テスト 30%、期末試験 70%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J		
科目名		フランス語（中級） B 選択クラス		
担当者		加藤 三和		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「映像と音で学ぶフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「フランス語を知るためのフランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。フランスの社会や文化に関する短い文章とその音声教材をベースに内容理解力と聞き取り能力を強化し、関連映像やその他の音声素材の視聴を通して表現力を強化します。 【目標】 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。				
2. 授業内容 第1回：前期の復習 第2回：Yves Saint Laurent 1 第3回：Yves Saint Laurent 2 第4回：Amélie Poulin 1 第5回：Amélie Poulin 2 第6回：Tour Eiffel 1 第7回：Tour Eiffel 2 第8回：Vuitton 1 第9回：Vuitton 2 第10回：Tour de France 1 第11回：Tour de France 2 第12回：Rentrée 1 第13回：Rentrée 2 第14回：まとめのテスト				
3. 履修上の注意 毎回の授業時には教科書・辞書（紙または電子辞書）を持参すること 携帯電話の翻訳機能の使用は認めない				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次の授業時までに進出の語彙・表現を調べて予習しておくこと。				
5. 教科書 『Clés pour la France フランスを読み解く鍵 第2巻 改訂版』、Denis C. Meyer、アシェット・ジャポン、2022年 (ISBN：9784991017254)				
6. 参考書 特に指定しない				
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業時に期末試験を行い、学内 LMS にてフィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 課題・小テスト 30%、最終テス 70%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級） A 選択クラス	
担当者		南 玲子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「文化交流のためのフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「時事フランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。ある程度の長さの文章を正確に読む力を養うとともに、インタビュー動画を通してフランスの同世代の声に耳を傾けながら、複雑で多様な現代世界を生きる人間としての知見を広めることを目指します。 （到達目標） 実用的なフランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の4級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 主にフランス語の文章の読解を通して、フランスおよびフランス語圏の現在に触れる授業です。 「時事」という言葉を聞くと、まずは政治・社会関連のニュースを思い浮かべることでしょう。この「時事フランス語」でも、もちろんフランスおよびフランス語圏の政治情勢や折々のニュースを紹介します。しかしこの授業では、むしろ「現代の社会事象」という意味での「時事」を中核に据え、具体的な名前と背景をもつフランス人の若者たちが生きる日常を通して、異文化社会の現在を知る機会を提供します。 教科書は前半の1～5課を扱います。SNS、住宅事情、エコロジー、オーディオ・ビジュアル、お財布事情といった「今のフランス」を映し出す多様なテーマに沿って、課ごとに①インタビュー動画、②テキスト（25行程度）、③文法練習問題、④最初の動画を使った振り返るコーナーの4種類が用意されています。授業は文法事項の学習とテキストの読解を中心に構成されます。 この授業におけるテキスト読解とは、（翻訳アプリを使えば済むような）単なる和訳チェックではなく、単語・熟語はもちろんのこと、文章の構造や動詞を丁寧に確認しながら正確に文意を把握することを意味します。 また教科書のインタビュー動画はかなり早口に感じると思いますが、綴りと発音の関係を身に着けながら、年齢や職業などに狙いを定めて単語を聞き取るところから少しずつ耳を慣らしていきましょう。 教科書に関しては、原則として、以下のような順番・内容で授業を進める予定です。（クラスの様子によって変動する可能性があります。） 第1回 イントロダクション・フランスの現在 / 基本の綴りと動詞の復習 第2回 疑問文・代名動詞のまとめ / Leçon1 ソーシャル・ネットワーク（前） / 基本的な聞き取り練習 第3回 疑問文・代名動詞文法問題 / Leçon1 ソーシャル・ネットワーク（後） / Leçon1 インタビュー 第4回 Leçon1 インタビュー振り返り問題 / 複合過去・半過去のまとめ / Leçon5 お財布事情（前） 第5回 複合過去・半過去文法問題 / Leçon5 お財布事情（後） / Leçon5 インタビュー 第6回 Leçon5 振り返り問題 / 関係代名詞のまとめ / Leçon2 住宅事情（前） 第7回 関係代名詞文法問題 / Leçon2 住宅事情（中） / Leçon2 インタビュー 第8回 Leçon2 住宅事情（後） / Leçon2 振り返り問題 /比較級・最上級のまとめ 第9回 比較級・最上級文法問題 / Leçon3 エコロジー（前） / Leçon3 インタビュー 第10回 Leçon3 エコロジー（後） / Leçon3 振り返り問題 /代名詞のまとめ(1) 直接・間接目的 第11回 Leçon4 オーディオ・ビジュアル（前） / 代名詞のまとめ(2) en, y / Leçon4 インタビュー 第12回 代名詞文法問題 / Leçon4 オーディオ・ビジュアル（後） / 映画 第13回 Leçon4 振り返り問題 / 映画 第14回 a：学期末試験 b：講義全体のふりかえりと試験解説 教科書以外にも、新聞・雑誌、動画、音楽といった各種資料を活用しながら、折々のニュースや文化・社会事情やその背景となる歴史等を紹介し、フランス（語圏）そのものを身近に感じる機会を提供します。 フランス語で生きた情報を読み取る楽しさを味わいましょう。			
3. 履修上の注意 ・本授業には1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。 ・履修者には、フランス語で書かれた長めの文章を正確に読むということに、興味・意欲を持つことが望まれます。授業では読解にける時間が長くなるので、集中力を保つ必要があります。授業や課題に前向きに取り組めるのであれば、もしフランス語が（まだ）得意でないとしても問題はありません。 ・時事情報に関しては、初級の授業とはちがって多少特殊な語彙が出てきます。自分で仏和辞典を引いて単語を調べる習慣をつけましょう。（スマートフォンを使ったネット辞書閲覧は不可。信頼における電子辞書・アプリは可。）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 フランス語初級で習った文法事項を適宜復習しておきましょう。また普段から、フランス（語圏）を扱ったニュースを読んだり視聴したりするように心がけましょう。 〔予習〕最低一度は次回の範囲のテキストを音読し、SVをひとつとおりチェックしましょう。できるだけ次回の範囲の単語チェックもおきましょう。 〔復習〕毎回の授業後には、その回に学んだ事項を復習するとともに、再度音読して綴りと発音を確認しましょう。			

5. 教科書

『クワ・ドゥ・ヌフ？ 2 世代のリアル・フランス』 レナ・ジュンタ，清岡 智比古，オリヴィア・ボワセル著（白水社）

6. 参考書

必修（フランス語初級，中級）の授業の文法教科書を適宜参照してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

原則として，課題は授業中に紙で提出します。それにコメントをつけ，その次の授業で返却します。

8. 成績評価の方法

- ・平常点 4 割，学期末試験 6 割を目安とします。正当な理由が証明できない遅刻や欠席は平常点から減点します。
- ・当然，教室に「いる」だけでは「出席」とは見なされません。受講者には，きちんと準備をして授業に臨み，主体的に授業に参加することが望まれます。
- ・平常点の評価対象に含まれるのは，授業の参加状況，毎回出される課題の完成度（提出期限の順守を含む），教室で参照した資料についての感想・意見等です。

9. その他

フランスおよびフランス語圏の現在に敏感になることは，「日本語や英語をベースに発信されている情報とは別の切り口から世界を知る」ことにつながります。フランス（語）というフィルターを通して世界を見ると，自分が当たり前だと思っていた価値観を客観的に問い直すことができるからです。こうした知的活動は，物事に対する広い視野を獲得していく際に大いに役に立つことでしょう。本授業が皆さんにとって、フランス語の上達に役立つばかりではなく、貴重な知的経験にもなることを期待しています。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語（中級）B 選択クラス	
担当者		南 玲子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 初級フランス語に続く選択必修の授業です。選択クラスではテーマ別に以下のコースを設置しています。各自の興味や学習目的に従って、「時事フランス語」、「文化交流のためのフランス語」、「フランスに行くためのフランス語」、「フランス語を知るためのフランス語」「フランスを知るためのフランス語」から選択します。本講義はそのなかで「時事フランス語」をテーマにしてフランス語を学びます。ある程度の長さの文章を正確に読む力を養うとともに、インタビュー動画を通してフランスの同世代の声に耳を傾けながら、複雑で多様な現代世界を生きる人間としての知見を広めることを目指します。 （到達目標） 実用フランス語の運用能力の養成を目的とします。具体的には、実用フランス語技能検定試験の3級に合格する程度の力の習得。			
2. 授業内容 主にフランス語の文章の読解を通して、フランスおよびフランス語圏の現在に触れる授業です。 「時事」という言葉を聞くと、まずは政治・社会関連のニュースを思い浮かべることでしょう。この「時事フランス語」でも、もちろんフランスおよびフランス語圏の政治情勢や折々のニュースを紹介します。しかしこの授業では、むしろ「現代の社会事象」という意味での「時事」を中核に据え、具体的な名前と背景をもつフランス人の若者たちが生きる日常を通して、異文化社会の現在を知る機会を提供します。 教科書は後半の6～10課を扱います。差別、余暇、ファッション、恋愛事情、仕事探しといった「今のフランス」を映し出す多様なテーマに沿って、課ごとに①インタビュー動画、②テキスト（25行程度）、③文法練習問題、④最初の動画を使った振り返りのコーナーの4種類が用意されています。授業は文法事項の学習とテキストの読解を中心に構成されます。 この授業におけるテキスト読解とは、（翻訳アプリを使えば済むような）単なる和訳チェックではなく、単語・熟語はもちろんのこと、文章の構造や動詞を丁寧に確認しながら正確に文意を把握することを意味します。 また教科書のインタビュー動画はかなり早口に感じることと思いますが、綴りと発音の関係を身に着けながら、年齢や職業などに狙いを定めて単語を聞き取るところから少しずつ耳を慣らしていきましょう。 教科書に関しては、原則として、以下のような順番・内容で授業を進める予定です。（クラスの様子によって変動する可能性があります。） 第1回 受動態のまとめ / Leçon6 差別（前） / Leçon6 インタビュー 第2回 受動態文法問題 / Leçon6 差別（後） / Leçon6 インタビュー振り返り問題 第3回 現在分詞・ジェロンディフのまとめ / Leçon7 余暇（前） / Leçon7 インタビュー 第4回 現在分詞・ジェロンディフ文法問題 / 「移民系」フランス人の現在 / 映画 第5回 単純未来形のまとめ / Leçon7 余暇（後） / Leçon7 インタビュー振り返り問題 第6回 強調構文のまとめ / Leçon8 ファッション（前） / Leçon8 インタビュー 第7回 単純未来形・強調構文文法問題 / Leçon8 ファッション（後） / Leçon8 振り返り問題 / 第8回 条件法現在・中性代名詞のまとめ / Leçon9 恋愛事情（前） / Leçon9 インタビュー 第9回 Leçon9 恋愛事情（中） / 条件法現在・中性代名詞の文法問題 / 映画 第10回 Leçon9 恋愛（後） / Leçon9 振り返り問題 /指示代名詞のまとめ 第11回 Leçon10 仕事探し（前） / 接続法現在のまとめ / Leçon10 インタビュー 第12回 指示代名詞・接続法現在文法問題 / Leçon10 仕事探し（後） / Leçon10 音楽 第13回 Leçon10 振り返り問題 / 音楽 第14回 a：学期末試験 b：講義全体のふりかえりと試験解説 教科書以外にも、新聞・雑誌、動画、音楽といった各種資料を活用しながら、折々のニュースや文化・社会事情やその背景となる歴史等を紹介し、フランス（語圏）そのものを身近に感じる機会を提供します。 フランス語で生きた情報を読み取る楽しさを味わいましょう。			
3. 履修上の注意 ・本授業には1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は「経営学部履修の手引き」を参照してください。 ・履修者には、フランス語で書かれた長めの文章を正確に読むということに、興味・意欲を持つことが望まれます。授業では読解にける時間が長くなるので、集中力を保つ必要があります。授業や課題に前向きに取り組めるのであれば、もしフランス語が（まだ）得意でないとしても問題はありません。 ・時事情報に関しては、初級の授業とはちがって多少特殊な語彙が出てきます。自分で仏和辞典を引いて単語を調べる習慣をつけましょう。（スマートフォンを使ったネット辞書閲覧は不可。信頼における電子辞書・アプリは可。）			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 フランス語初級・中級（春学期）で習った文法事項を適宜復習しましょう。また普段から、フランス（語圏）を扱ったニュースを読んだり視聴したりするように心がけましょう。 〔予習〕最低一度は次回の範囲のテキストを音読し、SVをひとつおとりチェックしましょう。できるだけ次回の範囲の単語チェックもおきましょう。 〔復習〕毎回の授業後には、その回に学んだ事項を復習するとともに、再度音読して綴りと発音を確認しましょう。			

5. 教科書

『クワ・ドゥ・ヌフ？ 2 世代のリアル・フランス』 レナ・ジュンタ，清岡 智比古，オリヴィア・ボワセル著（白水社）

6. 参考書

必修（フランス語初級，中級）の授業の文法教科書を適宜参照してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

原則として，課題は授業中に紙で提出します。それにコメントをつけ，その次の授業で返却します。

8. 成績評価の方法

- ・平常点 4 割，学期末試験 6 割を目安とします。正当な理由が証明できない遅刻や欠席は平常点から減点します。
- ・当然，教室に「いる」だけでは「出席」とは見なされません。受講者には，きちんと準備をして授業に臨み，主体的に授業に参加することが望まれます。
- ・平常点の評価対象に含まれるのは，授業の参加状況，毎回出される課題の完成度（提出期限の順守を含む），教室で参照した資料についての感想・意見等です。

9. その他

フランスおよびフランス語圏の現在に敏感になることは，「日本語や英語をベースに発信されている情報とは別の切り口から世界を知る」ことにつながります。フランス（語）というフィルターを通して世界を見ると，自分が当たり前だと思っていた価値観を客観的に問い直すことができるからです。こうした知的活動は，物事に対する広い視野を獲得していく際に大いに役に立つことでしょう。本授業が皆さんにとって、フランス語の上達に役立つばかりではなく、貴重な知的経験にもなることを期待しています。

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN161J	
科目名		中国語（初級） I a（統一） 文法・読解	
担当者		石野 智大・笠見 弥生・工藤 早恵・小林 光考・蔡 娟・笹倉 一広・高橋 美千子・野田 寛達・費 燕	
1 単位	1 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 概要） 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、初級レベルの短い文の読解、文法事項、簡体字の習得をめざす。 （到達目標） 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、書ける、初級レベルの短文を中国語らしく音読でき、読解できる、文法項目を理解する、簡体字を認識できて書けることを目標とする。			
2. 授業内容 中国語（初級） I（a）は、文法事項の理解と運用、読解力の養成に重点をおく。年次春学期の授業は、1 コマ 100 分×約 14 週で、おおよそ約 23 時間の学習時間となる。この時間で中国語の発音のしかた、文字表記のシステム、約 500 語の単語、基本的な文法事項について学ぶ。やさしいあいさつに始まり、有用な日常会話ができ、基礎的な文が読める能力を養成することをめざす。 （1） 第一段階（4・5 月）：中国語の発音のシステムを説明し、正しい発音の習得をめざす。漢字の読み方を記すローマ字の綴り方・読み方を説明し、正しく読めて書けるようする。さまざまなあいさつ、自己紹介のしかた、中国・日本の人名・地名を中国語でどう言うかを学ぶ。“是”述語文、“有”述語文、動詞述語文について基本・応用を解説する。 （2） 第二段階（6・7 月）：中国語の基本構造である各種のフレーズについて学ぶ。動詞と目的語、形容詞述語文、量詞、助動詞、および各種の疑問文について基本と応用を解説し、理解力を養成する。 両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）の習熟、簡体字、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強をはかる。また辞典や参考書の活用法についても説明する。			
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2 版』小学館または『中日辞典第3 版』講談社 ネットの「Weblio 中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される筆記試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は筆記試験 80％、発音・小テストが 20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。年度により成績の評価方法は異なる可能性があるため、詳細は授業内で説明する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN161J		
科目名		中国語（初級）Ⅱa(統一) 文法・読解		
担当者		石野 智大・笠見 弥生・工藤 早恵・小林 光考・蔡 娟・笹倉 一広・高橋 美千子・野田 寛達・費 燕		
1 単位	1 年次		和泉	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、初級レベルの短い文の読解、文法事項、簡体字の習得をめざす。 (到達目標) 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、書ける、初級レベルの短文を中国語らしく音読でき、読解できる、文法項目を理解する、簡体字を認識できて書けることを目標とする。				
2. 授業内容 1 年次秋学期の授業は、1 コマ 100 分×約 14 週で、おおよそ約 23 時間の学習時間となる。この時間で中国語の発音のしかた、文字表記のシステム、約 500 語の単語、基本的な文法事項について学ぶ。やさしいあいさつに始まり、有用な日常会話ができ、基礎的な文が読める能力を養成することをめざし、中国語（初級）Ⅰ（a）は、文法事項の理解と運用、読解力の養成に重点をおく。 (1) 第一段階（9・10・11 月）：中国語の重要な文法事項の中でも日本人学習者にとって難度の高いアスペクト、補語について説明し、これらを含む基本的な中国語を理解できる能力の養成をめざす。 (2) 第二段階（12・1 月）：受け身文、使役文、処置文、比較文の基礎を説明し、内容のある文章を正確に理解できる力を養成する。 両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）および簡体字の習熟、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強を行う。両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）の習熟、簡体字、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強をはかる。				
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと				
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第 2 版』小学館または『中日辞典第 3 版』講談社を推奨する。 ネットの、「Weblio 中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。				
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される筆記試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は筆記試験 80%、発音・小テストが 20%。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。評価方法は年により異なることがある。詳細は授業内で説明する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN161J			
科目名		中国語（初級） I b（統一）		聴取・表現	
担当者		阿部 沙織・遠藤 絢・小路口 ゆみ・蔡 娟・高柳 浩平・野田 寛達・花井 みわ・李 旭・李 小捷			
1 単位	1 年次			和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、初級レベルの短い文の読解、文法事項、簡体字の習得をめざす。 （到達目標） 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、書ける、初級レベルの短文を中国語らしく音読でき、読解できる、文法項目を理解する、簡体字を認識できて書けることを目標とする。					
2. 授業内容 中国語（初級） I（b）は、発音や実際の運用に関するスキルの養成を重点的に行う。1年次春学期の授業は、1コマ100分×約14週で、おおよそ約23時間の学習時間となる。この時間で中国語の発音のしかた、文字表記のシステム、約500語の単語、基本的な文法事項について学ぶ。やさしいあいさつに始まり、有用な日常会話ができ、基礎的な文が読める能力を養成することをめざす。 （1）第一段階（4・5月）：中国語の発音のシステムを説明し、正しい発音の習得をめざす。漢字の読み方を記すローマ字の綴り方・読み方を説明し、正しく読めて書けるようする。さまざまなあいさつ、自己紹介のしかた、中国・日本の人名・地名を中国語でどう言うかを学ぶ。“是”述語文、“有”述語文、動詞述語文について基本・応用を解説する。 （2）第二段階（6・7月）：中国語の基本構造である各種のフレーズについて学ぶ。動詞と目的語、形容詞述語文、量詞、助動詞、および各種の疑問文について基本と応用を解説し、理解力を養成する。 両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）の習熟、簡体字、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強をはかる。また辞典や参考書の活用法についても説明する。					
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。					
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。					
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと					
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社 ネットの「Weblio 中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。					
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。					
8. 成績評価の方法 出席態度や小テスト、定期テストなどを総合的に判断して成績をつける。 平常点50％（出席態度、小テスト） 定期テスト50％（中間、期末） 実際の成績はこれと異なる可能性もある。授業中に説明する。					
9. その他					

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN161J		
科目名		中国語（初級）Ⅱ b（統一） 聴取・表現		
担当者		阿部 沙織・遠藤 絢・小路口 ゆみ・蔡 娟・高柳 浩平・野田 寛達・花井 みわ・李 旭・李 小捷		
1 単位	1 年次		和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた、中国語の音節構造、ピンインの読み方・書き方、初級レベルの短い文の読解、文法事項、簡体字の習得をめざす。 （到達目標） 中国語を正しく発音できる、ピンインを正しく読め、書ける、初級レベルの短文を中国語らしく音読でき、読解できる、文法項目を理解する、簡体字を認識できて書けることを目標とする。				
2. 授業内容 1 年次秋学期の授業は、1 コマ 100 分×約 14 週で、おおよそ約 23 時間の学習時間となる。この時間で中国語の発音のしかた、文字表記のシステム、約 500 語の単語、基本的な文法事項について学ぶ。やさしいあいさつに始まり、有用な日常会話ができ、基礎的な文が読める能力を養成することをめざし、中国語（初級）Ⅰ（a）は、文法事項の理解と運用、読解力の養成に重点をおく。 （1） 第一段階（9・10・11 月）：中国語の重要な文法事項の中でも日本人学習者にとって難度の高いアスペクト、補語について説明し、これらを含む基本的な中国語を理解できる能力の養成をめざす。 （2） 第二段階（12・1 月）：受け身文、使役文、処置文、比較文の基礎を説明し、内容のある文章を正確に理解できる力を養成する。 両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）および簡体字の習熟、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強を行う。両段階を通じ、発音の習得、ピンイン（＝ローマ字表記）の習熟、簡体字、ヒアリングとスピーキングの反復練習、単語力の増強をはかる。				
3. 履修上の注意 必修科目なので単位修得は必須義務である。一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと				
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第 2 版』小学館または『中日辞典第 3 版』講談社を推奨する。 ネットの、「Weblio 中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。				
8. 成績評価の方法 基本的には、秋学期最終授業時に実施される筆記試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は筆記試験 80％、発音・小テストが 20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。評価方法は年により異なることがある。詳細は授業内で説明する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級） A 指定（統一）指定クラス	
担当者		石野 智大・遠藤 絢・笠見 弥生・小林 光考・蔡 娟・野田 寛達・花井 みわ・平井 徹・李 旭	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。1 年時よりもデ ンス、アスペクト、ヴォイスなどに関して複雑な表現を学び、表現の幅を広げる。同時に実際の運用を念頭に日常会話において常用される 語彙やイディオム、コロケーション、成語、ことわざなどを幅広く教授する。言語使用状況は時代の変化とともに変化するものなので、そ の点も念頭に置いた内容とする。 （到達目標） 中級レベルの中国語を聞けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の 3 級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 1 年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために、中級レベルに必要な文型・語 彙・文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 （1）第一段階（4～5 月）：一年次の学習内容を復習したうえで、教科書の本文（会話文）を利用して、会話文の音読と内容理解を進め、 あわせて練習問題に取り組んでゆく。 （2）第二段階（6～7 月）：第一段階の内容を継続しつつ、さらなる文法理解の定着を図る。日常会話で常用される成語やことわざなどにも 触れていく。			
3. 履修上の注意 語学の習得には日々の継続的な学習が重要な意味を持つ。そのため、受講生は必ず予習・復習を行って授業に臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習）教科書付属の CD を活用して、各課の本文を複数回音読する。また、新出単語の字形・発音・意味を覚えてくること。 （復習）授業で習った文法事項や新出単語を見直し、理解を定着させる。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第 2 版』小学館または『中日辞典第 3 版』講談社 を推奨する。 ネットの、「Weblio 中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題を採点したのちに、誤りなどに関して解説を行う。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験 80％。平常点が 20 パーセント。授業出席が前提である。クラスごとに成績をつける方法が異なる場合があるので、授業中に説明する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級）B 指定（統一）指定クラス	
担当者		石野 智大・遠藤 絢・笠見 弥生・小林 光考・蔡 娟・野田 寛達・花井 みわ・平井 徹・李 旭	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を聞けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。1 年時よりもテ ンス、アスペクト、ヴォイスなどに関して複雑な表現を学び、表現の幅を広げる。同時に実際の運用を念頭に日常会話において常用される 語彙やイディオム、コロケーション、成語、ことわざなどを幅広く教授する。言語使用状況は時代の変化とともに変化するものなので、そ の点も念頭に置いた内容とする。 （到達目標） 中級レベルの中国語を聞けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の 3 級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容 1 年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために、中級レベルに必要な文型・語 彙・文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 （1）第一段階（9～11 月）：春学期の学習内容を復習したうえで、教科書の本文（会話文）を利用して、会話文の音読と内容理解を進め、 あわせて練習問題に取り組んでゆく。 （2）第二段階（12～1 月）：第一段階の内容を継続しつつ、さらなる文法理解の定着を図る。日常会話で常用する成語やことわざなどに 関しても教授する。			
3. 履修上の注意 語学の習得には日々の継続的な学習が重要な意味を持つ。そのため、受講生は必ず予習・復習を行って授業に臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習）教科書付属の CD を活用して、各課の本文を複数回音読する。また、新出単語の字形・発音・意味を覚えてくること。 （復習）授業で習った文法事項や新出単語を見直し、理解を定着させる。 さい。			
5. 教科書 詳細は、明大サポートで公開される一覧表を参照のこと			
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第 2 版』小学館または『中日辞典第 3 版』講談社 を推奨する。 ネットの、「Weblio 中日辞典」は、便利である。 また「オンラインで使える中国語音節表」など、ネット上には便利な参考資料がある。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は 試験 80％。平常点が 20 パーセント。授業出席が前提である。			
8. 成績評価の方法 基本的には、春学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試 験 80％。平常点が 20 パーセント。授業出席が前提である。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級） A 選択クラス	
担当者		笠見 弥生	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 初級レベルを習得済みの学習者を対象とし、より複雑な文章を自力で読めるようになることを目指します。＜到達目標＞ 辞書等を使って、ピンイン付きの中国語の長文を読解することができる。 中級レベルの文法項目を理解し、それを使った会話や読み書きができるようになる。			
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、初級文法の復習 第2回～第3回 第1課 第3回～第4回 第2課 第5回～第6回 第3課 第7回～第8回 第4課 第9回～第10回 第5課 第11回～第12回 第6課 第13回 復習 第14回 a：試験、b：正答解説			
3. 履修上の注意 授業は輪読形式で進めます。原文を中国語で音読してから日本語訳してもらい、その内容を皆で検討しますので、予習をしてきてください。また、授業中に参照できるよう、辞書を用意してください（PC・スマホ利用可、詳細は初回授業で説明します）。 進度に応じて随時宿題を課します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前：次回の授業内容を予告しますので、教科書を音読する、わからない単語を調べる、訳語を作る、練習問題を解く等準備してください。授業後：授業範囲について、教科書を音読して暗唱する、単語や文法項目を覚える等習熟してください。			
5. 教科書 『知っておきたい中国事情（三訂版）』吉田泰謙ほか著（白水社）			
6. 参考書 『中日辞典』『日中辞典』（小学館）等の中国語辞書 『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』相原茂他（同学社） その他、授業中に随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点 50％（授業への参加度、宿題の提出状況）、期末試験 50％			
9. その他 上記の授業内容は、授業の進行状況や受講生の理解度等によって変更する場合があります。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J		
科目名		中国語（中級） B 選択クラス		
担当者		笠見 弥生		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 初級レベルを習得済みの学習者を対象とし、より複雑な文章を自力で読めるようになることを目指します。＜到達目標＞ 辞書等を使って、ピンイン付きの中国語の長文を読解することができる。 中級レベルの文法項目を理解し、それを使った会話や読み書きができるようになる。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション、初級文法の復習 第2回～第3回 第1課 第3回～第4回 第2課 第5回～第6回 第3課 第7回～第8回 第4課 第9回～第10回 第5課 第11回～第12回 第6課 第13回 復習 第14回 a：試験、b：正答解説				
3. 履修上の注意 授業は輪読形式で進めます。原文を中国語で音読してから日本語訳してもらい、その内容を皆で検討しますので、予習をしてきてください。また、授業中に参照できるよう、辞書を用意してください（PC・スマホ利用可、詳細は初回授業で説明します）。 進度に応じて随時宿題を課します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前：次回の授業内容を予告しますので、教科書を音読する、わからない単語を調べる、試訳を作る、練習問題を解く等準備してください。授業後：授業範囲について、教科書を音読して暗唱する、単語や文法項目を覚える等習熟してください。				
5. 教科書 『知っておきたい中国事情（三訂版）』吉田泰謙ほか著（白水社）				
6. 参考書 『中日辞典』『日中辞典』（小学館）等の中国語辞書 『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書』相原茂他（同学社） その他、授業中に随時紹介します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に解説を行います。				
8. 成績評価の方法 平常点 50％（授業への参加度、宿題の提出状況）、期末試験 50％				
9. その他 上記の授業内容は、授業の進行状況や受講生の理解度等によって変更する場合があります。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J		
科目名		中国語（中級） A 選択クラス		
担当者		小路口 ゆみ		
1 単位	2 年次		和泉	
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] 本授業は、一年次習得した中国語の基礎文法を踏まえ、中国語の学習を通じて背景知識となる中国の現代事情を学ぶ。短文読解・作文・発音練習などをバランスよく取り入れ、「聞く・話す・読む・書く」の四技能を総合的に練習する。 [到達目標] 本授業を修了した学生は、以下の能力を身につけることを目標とする。 1 中国語と中国文化に対する理解を深める。 2 中国語の多様な表現を中級に近いレベルまで習得する。 3 中国語能力の向上を通じて、中国語検定試験 3 級への合格を目指す。				
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakShION 第 2 回～第 4 回 第 1 課 小留学生 第 5 回～第 7 回 第 2 課 他的退休生活 第 8 回～第 10 回 第 3 課 旅游 第 11 回～第 13 回 第 4 課 手机支付 第 14 回 まとめ				
3. 履修上の注意 初回の授業には必ず参加すること。 授業中に発表する際は、大きな声ではっきりと発言すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [事前学習] 次回の学習内容（本文・文法ポイント・練習）を予習し、新しい表現方法や理解しにくい箇所を確認する。新出単語及び本文の意味を確認する。必要学習時間：週 2 時間以上 [事後学習]学習内容再度確認したうえ、習った単語を暗記し、文法ポイントを理解し、中国語で例文を作成できるよう復習すること。必要学習時間：週 2 時間以上				
5. 教科書 『上を目指す実践中級中国語』王学群など ISBN9784863986398 白帝社 2600 円				
6. 参考書 『中検 3 級問題集 2025 年版』白帝社 『中検 3 級問題集 2025 年版』白帝社				
7. 課題に対するフィードバックの方法 テストや課題等の実施後、添削を行ったうえで正解を公表し、解説を行う。				
8. 成績評価の方法 原則として、平常点（授業態度・小テスト・課題など）を 30%、期末テストを 70%として評価する。欠席が授業回数全体の 3 分の 1 を超えた場合は、成績評価の対象外とする。なお、欠席および遅刻は減点の対象とする。				
9. その他 学生の理解度や進度に応じて、授業内容を若干変更することがある。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J		
科目名		中国語（中級） B 選択クラス		
担当者		小路口 ゆみ		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] 本授業は、一年次習得した中国語の基礎文法を踏まえ、中国語の学習を通じて背景知識となる中国の現代事情を学ぶ。短文読解・作文・発音練習などをバランスよく取り入れ、「聞く・話す・読む・書く」の四技能を総合的に練習する。 [到達目標] 本授業を修了した学生は、以下の能力を身につけることを目標とする。 1 中国語と中国文化に対する理解を深める。 2 中国語の多様な表現を中級に近いレベルまで習得する。 3 中国語能力の向上を通じて、中国語検定試験 3 級への合格を目指す。				
2. 授業内容 第 1 回 本授業の説明と前期の復習 第 2 回～第 4 回 第 5 課 中国的茶馆文化 第 5 回～第 7 回 第 6 課 中国城市的公共交通 第 8 回～第 10 回 第 7 課 旅游 第 11 回～第 13 回 第 8 課 手机支付 第 14 回 まとめ				
3. 履修上の注意 初回の授業には必ず参加すること。 授業中に発表する際は、大きな声ではっきりと発言すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 [事前学習] 今回の学習内容（本文・文法ポイント・練習）を予習し、新しい表現方法や理解しにくい箇所を確認する。新出単語及び本文の意味を確認する。必要学習時間：週 2 時間以上 [事後学習]学習内容再度確認したうえ、習った単語を暗記し、文法ポイントを理解し、中国語で例文を作成できるよう復習すること。必要学習時間：週 2 時間以上				
5. 教科書 『上を目指す実践中級中国語』王学群など ISBN9784863986398 白帝社 2600 円				
6. 参考書 『中検 4 級問題集 2025 年版』白帝社 『中検 3 級問題集 2025 年版』白帝社				
7. 課題に対するフィードバックの方法 テストや課題等の実施後、添削を行ったうえで正解を公表し、解説を行う。				
8. 成績評価の方法 原則として、平常点（授業態度・小テスト・課題など）を 30%、期末テストを 70%として評価する。欠席が授業回数全体の 3 分の 1 を超えた場合は、成績評価の対象外とする。なお、欠席および遅刻は減点の対象とする。				
9. その他 学生の理解度や進度に応じて、授業内容を若干変更することがある。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級） A 選択クラス	
担当者		大西 陽子	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 長文読解を通して中国語の読解能力を習得し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。授業はテキストに従って進行し、概ね2回の授業でそれぞれ各課の課文編および読読編を1課分ずつ進行する予定です。 各課の内容は中国の現代社会に焦点を当てたテーマを概括した文章であり、現代中国を理解するうえでも使用頻度の高い語彙や表現が豊富に盛り込まれています。 授業では音読を重視し、また内容の理解に有用と思われる映像資料なども活用しながら、語学力アップだけでなく、中国の風習や文化などの理解も深めていきたいと考えています。 〈到達目標〉 1年間で中国語検定試験3～2級、HSK3～4級レベル合格相当の文法知識と読解力をつけることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンスおよび初級文法のおさらい 第2回 課文編・第1課「小留学生」および文法のポイント 第3回 課文編・第1課「小留学生」および練習問題 第4回 読読編・第1課 「国外留学」（＋リスニング編・第1課） 第5回 課文編・第2課 課文編「她的退休生活」および文法のポイント・練習問題 第6回 読読編・第2課 練習問題および読読編「退休后的父母」（＋リスニング編・第2課） 第7回 課文編・第3課 課文編「旅游」および文法のポイン・練習問題 第8回 読読編・第3課 練習問題および読読編「走进云南」読解および練習問題（＋リスニング編・第3課） 第9回 課文編・第4課 課文編「手机支付」および文法のポイント・練習問題 第10回 読読編・第4課 練習問題および読読編「叫外卖」（＋リスニング編・第4課） 第11回 課文編・第5課 課文編「中国茶馆文化」および文法のポイント・練習問題 第12回 読読編・第5課 練習問題および読読編「茶馆」（＋リスニング編・第5課） 第13回 総復習 第14回 a: まとめ b: 試験			
3. 履修上の注意 ※座席は固定席にするので、自分の席に座ること。 ※やむを得ない場合を除いて全体の4分の3以上は出席することが前提。 ※正当な理由がない遅刻は3回で欠席1回分と見なします。30分以上の遅刻は欠席と同等の扱いとします。 ※隔週で単語小テストを行う予定です。（詳細は授業時に説明します） ※授業時には中日辞典（電子辞書でも可）を持参すること。但し携帯アプリの辞書は不可。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・必ず授業進度分の予習をして授業に臨むこと。 ・予習内容は以下のとおりです（詳細については授業時に指示します） ①音読練習（かならず最低でも1回以上は本文の音読練習をしてくること） ②単語の意味確認（知らない単語や表現などは辞書をひいて確認すること） ③本文の内容把握（自分なりに訳出して内容を把握しておくこと） ④ポイント練習問題の予習など（隔週で単語小テストを行う予定です） 〈復習〉 ・授業で履修した箇所の内容、文法などがきちんと理解できたかを復習して確認すること。 ・学習した文章を繰り返し音読練習して、スムーズな発音ができるようにすること。			
5. 教科書 『上を目指す実践中級中国語』 王学群・金満生 監修 綾部武彦・安明姫・高麗貞・小路口ゆみ・蔡娟・佐々木俊雄・新田小雨子・李旭・劉紅 著 白帝社 ISBN978-4-86398-639-8 C3087 ￥2600＋税 各課は「課文編」「リスニング編」「読読編」の構成ですが、 授業では「課文編」および「読読編」をメインに行い、必要に応じて「リスニング編」も扱います 比較的ハイレベルな文章ですが、音読を重視して徐々に長文読解に慣れていくことを目指します			

6. 参考書

- ・相原茂他『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）
- ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社）

詳細は授業時に指示します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

ワークシートや練習問題を提出したものに対して添削して返却します。

質問等があればその都度できるかぎり丁寧に回答します。

Oh-o!Meiji を活用し相互の連絡が可能な体系を設定します。

8. 成績評価の方法

定期試験の成績（70％）および授業への参加度・提出課題等の平常点（30％）を基準として総合評価します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級）B 選択クラス	
担当者		大西 陽子	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期にひきつづき教科書の後半部分を継続的に学習します。 長文読解を通して中国語の読解能力を習得し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。授業はテキストに従って進行し、概ね2回の授業でそれぞれ各課の課文編および読読編を1課分ずつ進行する予定です。 各課の内容は中国の現代社会に焦点を当てたテーマを概括した文章であり、現代中国を理解するうえでも使用頻度の高い語彙や表現が豊富に盛り込まれています。 授業では音読を重視し、また内容の理解に有用と思われる映像資料なども活用しながら、語学力アップだけでなく、中国の風習や文化などの理解も深めていきたいと考えています。 〈到達目標〉 1年間で中国語検定試験3～2級、HSK3～4級レベル合格相当の文法知識と読解力をつけることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 課文編・第6課「中国城市的公共交通」および文法のポイント・練習問題 第2回 第6課・練習問題および読読編・第6課「中国的高鉄」（＋リスニング編・第6課） 第3回 課文編・第7課「网购生活」および文法のポイント・練習問題 第4回 第7課・練習問題および読読編・第7課「“双十一”购物逛欢节」（＋リスニング編・第7課） 第5回 課文編・第8課「养儿未必能防老」課文および文法のポイント・練習問題 第6回 第8課・練習問題および読読編・第8課「老龄化」（＋リスニング編・第8課） 第7回 課文編・第9課「春节」課文および文法のポイント・練習問題 第8回 第9課・練習問題および読読編・第9課「年夜饭」（＋リスニング編・第9課） 第9回 課文編・第10課「高考」課文および文法のポイント・練習問題 第10回 第10課・練習問題および読読編・第10課「换赛道」（＋リスニング編・第10課） 第11回 課文編・第11課「大学生的就业问题」課文および文法のポイント・練習問題 第12回 第11課・練習問題および読読編・第11課「当代大学生的理想职业」（＋リスニング編・第11課） 第13回 総復習 第14回 a: まとめ b: 試験			
3. 履修上の注意 ※座席は固定席にするので、自分の席に座ること。 ※やむを得ない場合を除いて全体の4分の3以上は出席することが前提。 ※正当な理由がない遅刻は3回で欠席1回分と見なします。30分以上の遅刻は欠席と同等の扱いとします。 ※隔週で単語小テストを行う予定です。（詳細は授業時に説明します） ※授業時には中日辞典（電子辞書でも可）を持参すること。但し携帯アプリの辞書は不可。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 ・必ず授業進度分の予習をして授業に臨むこと ・予習内容は以下のとおりです（詳細については授業時に指示します） ①音読練習（かならず最低でも1回以上は本文の音読練習をしてくること） ②単語の意味確認（知らない単語や表現などは辞書をひいて確認すること） ③本文の内容把握（自分なりに訳出して内容を把握しておくこと） ④ポイント練習問題の予習など(必要に応じて課題および音声録音ファイルの提出) 〈復習〉 ・授業で履修した箇所の内容、文法などがきちんと理解できたかを復習して確認すること ・繰り返し音読練習をして、スムーズな発音ができるようにすること			
5. 教科書 『上を目指す実践中級中国語』 王学群・金満生 監修 綾部武彦・安明姫・高麗貞・小路口ゆみ・蔡娟・佐々木俊雄・新田小雨子・李旭・劉紅 著 白帝社 ISBN978-4-86398-639-8 C3087 ￥2600＋税 各課は「課文編」「リスニング編」「読読編」の構成ですが、 授業では「課文編」および「読読編」をメインに行い、必要に応じて「リスニング編」も扱います 比較的ハイレベルな文章ですが、音読を重視して長文読解に慣れていくことを目指します			

6. 参考書	・相原茂他『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社） ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店） ・小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社）ほか 詳細は授業時に指示します。
7. 課題に対するフィードバックの方法	ワークシートや練習問題を提出したものに対して添削して返却します。 質問等があればその都度できるかぎり丁寧に回答します。 Oh-o!Meiji を活用し相互の連絡が可能な体系を設定します。
8. 成績評価の方法	定期試験の成績（70％） および授業への参加度・提出課題等の平常点（30％）を基準として総合評価します。
9. その他	

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級） A 選択クラス	
担当者		阿部 沙織	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 本授業は、1 年次に習得した基礎文法・語彙を土台に、2 年次相当の中国語運用力（読む・聞く・話す・書く）を総合的に伸ばすことを目的とする。各回は、（１）本文（会話文）の理解と音読（発音・声調・区切り）（２）重要語彙の定着（３）文法ポイントの整理（４）運用練習（文法問題、短い作文、ペアワーク [音読練習、文法事項を使った会話練習]）という流れで進める。 扱う題材は大学生活・日常行動など、既習語彙を活用しつつ中級語彙を拡張できるテーマを中心に、必要に応じて中国語圏の文化・社会の背景理解にも触れる。 〈到達目標〉 （１）HSK3 級／中国語検定 3 級相当の文法事項を、例文作成と運用練習を通して説明・使用できる。 （２）中級レベルの本文を、ピンインに頼りすぎず正確に音読できる。 （３）既習表現を組み合わせ、身近な話題について中国語で短い発話（30 秒～1 分）と簡単な応答ができる。 （４）学習した構文を用い、80～120 字程度の短文（または複数文）を書ける。			
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakション：中級への橋渡し ・到達目標と学習サイクル確認 ・既習重要文型の総点検／発音・声調の確認 第 2 回 第 1 課「進行表現／可能補語①」 第 3 回 第 1 課「可能補語①」 第 4 回 第 2 課「状態補語と可能補語」 第 5 回 第 2 課「比較表現①／②」 第 6 回 第 3 課「状態持続／V 着」 第 7 回 第 3 課「有点儿／怎么／V 着の応用表現」 第 8 回 a：中間試験（第 1～3 課の語彙・文法・読解） b：正答解説と弱点補強（誤りやすい型の整理・言い直し） 第 9 回 第 4 課「把構文①：基本」 第 10 回 第 4 課「把構文②：会話で使う」 第 11 回 第 5 課「名詞の重ね型／“下来”の派生義」 第 12 回 第 5 課「多身文①／可能性の“会”／受身」 第 13 回 総合演習（第 1～5 課）「会話を伸ばす／期末対策」 ・重要文型の総整理（進行／可能補語／比較／V 着／把 等） ・ロールプレイ＋短い口頭要約（総合練習） 第 14 回 a：まとめ（到達目標の確認・総復習） b：期末試験（第 1～5 課：語彙・文法・読解・作文）			
3. 履修上の注意 2 回の授業で教科書 1 課分の内容を学習します。（1 回目授業：各課会話①、2 回目授業：各課会話②の学習） 各回は会話本文の読解、文法事項の学習、練習問題、適宜ペアワーク（音読・会話の練習）という流れで進めます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習：目安 60 分〉 （１）本文音声を 2 回以上聴き、本文を音読（最低 1 回）し、言えない箇所に印を付ける。 （２）新出語彙を辞書で確認して例文作成。 〈復習：目安 60 分〉 （１）授業で解いた練習問題で誤った箇所を確認、正しい理解を定着させる。 （２）本文を再音読し、速度・声調・区切りを改善する。 （３）授業で扱った文型で例文を 2 文作り、ペア練習で使える形にする。			
5. 教科書 『いつでも中国語 2』成田静香 / 藤野真子 / 西村正男 / 田禾 / 韓燕麗 / 大東和重著（朝日出版社） ※同名の教科書で「1」もあるので、間違えないようご注意ください。			
6. 参考書 ・『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則（東方書店） ・『WHY ? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』相原茂他（同学社）			

7. 課題に対するフィードバックの方法

- ・小テスト・中間試験は授業内で正答解説を行い、頻出誤りの修正例を提示する。
- ・文法練習問題は、共通の改善点（文型・語順・語彙選択）を全体講評として共有し、必要に応じて個別コメントを返却する。
- ・Oh-o!Meiji クラスページから補足資料（文法・試験問題の解説、授業配布資料の正答等）を掲示する。

8. 成績評価の方法

- ・中間試験（第 8 回 a）40%
- ・期末試験（第 14 回 b）40%
- ・平常点（小テスト、練習問題への取り組み、授業への参加度）20%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級） B 選択クラス	
担当者		阿部 沙織	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 本授業は、1 年次に習得した基礎文法・語彙を土台に、2 年次相当の中国語運用力（読む・聞く・話す・書く）を総合的に伸ばすことを目的とする。各回は、（1）本文（会話文）の理解と音読（発音・声調・区切り）（2）重要語彙の定着（3）文法ポイントの整理（4）運用練習（文法問題、短い作文、ペアワーク [音読練習、文法事項を使った会話練習]）という流れで進める。 扱う題材は大学生活・日常行動など、既習語彙を活用しつつ中級語彙を拡張できるテーマを中心に、必要に応じて中国語圏の文化・社会の背景理解にも触れる。 〈到達目標〉 （1）HSK3 級／中国語検定 3 級相当の文法事項を、例文作成と運用練習を通して説明・使用できる。 （2）中級レベルの本文を、ピンインに頼りすぎず正確に音読できる。 （3）既習表現を組み合わせ、身近な話題について中国語で短い発話（30 秒～1 分）と簡単な応答ができる。 （4）学習した構文を用い、80～120 字程度の短文（または複数文）を書ける。			
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakション：春学期の総復習と秋の見取り図 ・春学期重要文型の総点検（把／補語／比較など） ・学習サイクル確認 第 2 回 第 6 課「不用＋述語フレーズ／“…的” ①」 第 3 回 第 6 課「有／没（有）＋名詞＋動詞／“…的” ②」 第 4 回 第 7 課「这・那・哪＋量詞／動詞フレーズ＋的」 第 5 回 第 7 課「“起来” の派生義／“起” の用法（導入）」 第 6 回 第 8 課「怪不得／“要” ①（意志・予定）」 第 7 回 第 8 課「“要” ②（提案・必要）／“怪不得” の運用」 第 8 回 a：中間試験（第 6～8 課の語彙・文法・読解） b：正答解説と弱点補強（誤りやすい型の整理・言い直し） 第 9 回 第 9 課「主述述語文／疑問詞＋也・都①」 第 10 回 第 9 課「疑問詞＋也・都②／“是” を用いた強調構文」 第 11 回 第 10 課「就／才①（対比・先後の基本）」 第 12 回 第 10 課「就／才②（条件・焦点化の運用）」 第 13 回 総合演習（第 6～10 課）「説明力を伸ばす／期末対策」 ・重要文型の総整理（不用／的／起来／要／主述述語文／疑問詞＋也・都／就・才 等） ・ロールプレイ＋短い口頭要約（総合練習） 第 14 回 a：まとめ（到達目標の確認・総復習） b：期末試験（第 6～10 課：語彙・文法・読解・作文）			
3. 履修上の注意 2 回の授業で教科書 1 課分の内容を学習します。（1 回目授業：各課会話①、2 回目授業：各課会話②の学習） 各回は会話本文の読解、文法事項の学習、練習問題、適宜ペアワーク（音読・会話の練習）という流れで進めます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習：目安 60 分〉 （1）本文音声 を 2 回以上聴き、本文を音読（最低 1 回）し、言えない箇所に印を付ける。 （2）新出語彙を辞書で確認して例文作成。 〈復習：目安 60 分〉 （1）授業で解いた練習問題で誤った箇所を確認、正しい理解を定着させる。 （2）本文を再音読し、速度・声調・区切りを改善する。 （3）授業で扱った文型で例文を 2 文作り、ペア練習で使える形にする。			
5. 教科書 『いつでも中国語 2』成田静香 / 藤野真子 / 西村正男 / 田禾 / 韓燕麗 / 大東和重著（朝日出版社） ※同名の教科書で「1」もあるので、間違えないようご注意ください。			
6. 参考書 ・『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則（東方書店） ・『WHY ？にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』相原茂他（同学社）			

7. 課題に対するフィードバックの方法

- ・小テスト・中間試験は授業内で正答解説を行い、頻出誤りの修正例を提示する。
- ・文法練習問題は、共通の改善点（文型・語順・語彙選択）を全体講評として共有し、必要に応じて個別コメントを返却する。
- ・Oh-o!Meiji クラスページから補足資料（文法・試験問題の解説、授業配布資料の正答等）を掲示する。

8. 成績評価の方法

- ・中間試験（第 8 回 a）40%
- ・期末試験（第 14 回 b）40%
- ・平常点（小テスト、練習問題への取り組み、授業への参加度）20%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J			
科目名		中国語（中級） A 選択クラス			
担当者		笹倉 一広			
1 単位	2 年次			和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ・長文読解を通して大学2年生として身につけるべき中国語の読解能力を涵養し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。 ・概ね2回強の授業で1課分を進行する予定で、テキスト全12課の1～6課を講義する予定です。 7～12課は秋学期に後継授業で講義する予定です。 ・使用するテキストは課文と語釈・文構造のポイント・語法のポイント・課末問題から構成されています。 ・充分役に立つ読解力を涵養するため、テキスト本文は、平易ではありますが、現代中国小説家の書いた小説原文です。 通行している2年生のために書き下ろした教科書の課文とは違います。実際の小説の長いセンテンスで、修飾関係、節の接続関係を教科書の解説を通じ勉強していきます。 出版社のサイト https://text.asahipress.com/chinese/detail.php?id=1840 で教科書の内容レベルを確認して受講登録をしてください。 ・第1課の課文を例示しておきます。 我每天晚上睡觉前都会习惯性地翻一翻冰箱。我也不知道自己究竟是从什么时候开始养成了这个习惯，按常理来说，翻冰箱是为了找吃的，找吃的是因为肚子饿，但实际上我每次翻冰箱都不觉得饿，而我的冰箱里也从来没有存过任何的食物。 一年前我搬到了这所单身公寓里，因为看见有一个厨房，我便心血来潮地买了一个很大的冰箱，琢磨着从今往后终于可以买点东西扔冰箱里，然后天天在家里自己做饭吃了。但我终归是一个懒散的人，每天下班回家累得半死，连买菜都懒得去，更不用说开火做饭了，于是我还是像以往一样每天下馆子，这个大冰箱也就成了一个奢侈的摆设品，还挺费电。 〈到達目標〉 中国語検定試験3級，HSK3級レベル合格の文法知識と読解力をつけることを目標とします。					
2. 授業内容 ・1年生のほとんどの教科書は対話体の会話の課文だっと思いますが、中国語は日本語以上に書き言葉と話言葉の差がある言語です。 また、中国語は日本語と同じで分かちが書きはしません。漢字ベタで組まれた長いセンテンスの修飾や接続関係を正確に理解することを第一目標にします。 ・基本、当てて音読訳読してもらうので、間違えていてもよいから、予習は必須です。 ・授業では、発音練習にも重点を置いて進めていきます。読む練習もしましょう。 【授業進行予定】 第1回 イントロダクション・予習復習の仕方・初級文法復習 第2回 第1課 「翻冰箱是为了找吃的？」 文構造のポイント・文法のポイント 第3回 第1課 「翻冰箱是为了找吃的？」 文構造のポイント・文法のポイント 第4回 第2課 「喜欢住在冰箱里的企鹅？」 文構造のポイント・文法のポイント 第5回 第2課 「喜欢住在冰箱里的企鹅？」 文構造のポイント・文法のポイント 第6回 第3課 「企鹅是不讲道理的动物？」 文構造のポイント・文法のポイント 第7回 第3課 「企鹅是不讲道理的动物？」 文構造のポイント・文法のポイント 第8回 第4課 「别把我当你的宠物？」 文構造のポイント・文法のポイント 第9回 第4課 「别把我当你的宠物？」 文構造のポイント・文法のポイント 第10回 第5課 「史上最莫名其妙的冰箱？」 文構造のポイント・文法のポイント 第11回 第5課 「史上最莫名其妙的冰箱？」 文構造のポイント・文法のポイント 第12回 第6課 「红烧鱼如此好吃？」 文構造のポイント・文法のポイント 第13回 第6課 「红烧鱼如此好吃？」 文構造のポイント・文法のポイント 第14回 a: まとめ b: 試験					
3. 履修上の注意 ・語学の授業は、毎回の授業の積み重ねが大切です。必ず出席して下さい。 ・欠席は4回までは許容します。5回以上は単位を出しません。欠席には体育会の活動に関わる欠席も含みます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。					
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 ・必ず授業進度分の予習をしてください。 ①音読練習（音声を聴く、何回か本文を音読してみる） ②単語の意味確認（知らない単語は辞書をひく） ③本文・ポイント例文の予習 ※ノートもつくらず、教科書にちょいちょいと書き込んで済ませている者が多いですが、おざりな勉強は身につけません。 本文や例文・問題文を筆写して、訳文などを自分で書き込み、授業で訂正してゆくことは手間ですが、それだけの見返りはあります。					

地道な努力を惜しまないで下さい。

【復習】

- ・語句の修飾関係，節と節の接続関係，文法など理解できたか，疑問点がないか確認。
- ・声に出して読む練習。

5. 教科書

陳謚『冰箱里的企鹅』冷蔵庫にやってきたペンギン

单艾婷 編著/陳謚 原作

ISBN: 978-4-255-45365-1 2,420 円(本体 2,200 円+税)

<https://text.asahipress.com/chinese/detail.php?id=1840>

必ずサンプルページを見て、自分の能力と相談して受講を判断してください。

陳謚の『冰箱里的企鹅』の全文は

https://www.douban.com/group/topic/118654517/?_i=9868159k

6. 参考書

- ・守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・相原茂他『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
- ・小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社）

7. 課題に対するフィードバックの方法

8. 成績評価の方法

- ・定期試験 80%，平常点を 20%とする。平常点にはテキスト音読の成績も含みます。
- ・筆記が A レベルでも、読みがそれに伴わない場合は A はつけません。読みは平常授業中に評価します。
- ・欠席は 4 回までは許容します。5 回以上は単位を出しません。欠席には体育会の活動等に関わる欠席も含みます。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級） B 選択クラス	
担当者		笹倉 一広	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ・長文読解を通して大学2年生として身につけるべき中国語の読解能力を涵養し、かつ文法理解と表現力を高めることを目標とします。 ・概ね2回強の授業で1課分を進行する予定で、春学期に続き、テキスト全12課の7～12課を講義する予定です。 ・使用するテキストは課文と語釈・文構造のポイント・語法のポイント・課末問題から構成されています。 ・充分役に立つ読解力を涵養するため、テキスト本文は、平易ではありますが、現代中国小説家の書いた小説原文です。 通行している2年生のために書き下ろした教科書の課文とは違います。実際の小説の長いセンテンスで、修飾関係、節の接続関係を教科書の解説を通じ勉強していきます。 秋学期から履修する学生は必ず出版社のサイト https://text.asahipress.com/chinese/detail.php?id=1840 で教科書の内容レベルを確認して受講登録をしてください。 ・第1課の課文ですが、例示しておきます。 我每天晚上睡觉前都会习惯性地翻一翻冰箱。我也不知道自己究竟是从什么时候开始养成了这个习惯，按常理来说，翻冰箱是为了找吃的，找吃的是因为肚子饿，但实际上我每次翻冰箱都并不觉得饿，而我的冰箱里也从来没有存过任何的食物。 一年前我搬到了这所单身公寓里，因为看见有一个厨房，我便心血来潮地买了一个很大的冰箱，琢磨着从今后终于可以买点东西扔冰箱里，然后天天在家里自己做饭吃了。但我终归是一个懒散的人，每天下班回家累得半死，连买菜都懒得去，更不用说开火做饭了，于是我还是像以往一样每天下馆子，这个大冰箱也就成了一个奢侈的摆设品，还挺费电。 〈到達目標〉 中国語検定試験3級，HSK3級レベル合格の文法知識と読解力をつけることを目標とします。			
2. 授業内容 ・1年生のほとんどの教科書は対話体の会話の課文だったと思いますが、中国語は日本語以上に書き言葉と話し言葉の差がある言語です。また、中国語は日本語と同じで分がちが書きはしません。漢字ベタで組まれた長いセンテンスの修飾や接続関係を正確に理解することを第一目標にします。 ・基本、当てて音読訳読してもらうので、間違えていてもよいから、予習は必須です。 ・授業では、発音練習にも重点を置いて進めていきます。読む練習もしましょう。 【授業進行予定】 第1回 インTRODakShIONおよび春学期学習内容復習 第2回 第7課 「日子过得可不温不火？」 文構造のポイント・文法のポイント 第3回 第7課 「日子过得可不温不火？」 文構造のポイント・文法のポイント 第4回 第8課 「有客人来了。」 文構造のポイント・文法のポイント 第5回 第8課 「有客人来了。」 文構造のポイント・文法のポイント 第6回 第9課 「今天真是难为她了！」 文構造のポイント・文法のポイント 第7回 第9課 「今天真是难为她了！」 文構造のポイント・文法のポイント 第8回 第10課 「一切都是那么的美好！」 文構造のポイント・文法のポイント 第9回 第10課 「一切都是那么的美好！」 文構造のポイント・文法のポイント 第10回 第11課 「感到前所未有的寒冷。」 文構造のポイント・文法のポイント 第11回 第11課 「感到前所未有的寒冷。」 文構造のポイント・文法のポイント 第12回 第12課 「如果冰箱总是满的…」 文構造のポイント・文法のポイント 第13回 第12課 「如果冰箱总是满的…」 文構造のポイント・文法のポイント 第14回 a: まとめ b: 試験			
3. 履修上の注意 ・語学の授業は、毎回の授業の積み重ねが大切です。必ず出席して下さい。 ・欠席は4回までは許容します。5回以上は単位を出しません。欠席には体育会の活動に関わる欠席も含みます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 ・必ず授業進度分の予習をしてください。 ①音読練習（音声を聴く，何回か本文を音読してみる） ②単語の意味確認（知らない単語は辞書をひく） ③本文・ポイント例文の予習 ※ノートもつくらず，教科書にちょいちょい書き込んで済ませている者が多いですが，おざりな勉強は身につけません。 本文や例文・問題文を筆写して，訳文などを自分で書き込み，授業で訂正してゆくことは手間ですが，それだけの見返りはあります。 地道な努力を惜しまないで下さい。			

【復習】 ・ 語句の修飾関係，節と節の接続関係，文法など理解できたか，疑問点がないか確認。 ・ 声に出して読む練習。
5. 教科書 陳謚『冰箱里的企鵝』冷蔵庫にやってきたペンギン 単艾婷 編著/陳謚 原作 ISBN: 978-4-255-45365-1 2,420 円(本体 2,200 円+税) https://text.asahipress.com/chinese/detail.php?id=1840 必ずサンプルページを見て、自分の能力と相談して受講を判断してください。 陳謚の『冰箱里的企鵝』の全文は https://www.douban.com/group/topic/118654517/?_i=9868159kN
6. 参考書 ・ 守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』（東方書店） ・ 相原茂他『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社） ・ 小川郁夫『中国語文法・完成マニュアル』（白帝社）
7. 課題に対するフィードバックの方法
8. 成績評価の方法 ・ 定期試験 50%，平常点を 50%とする。平常点には小テストの成績も含みます。 ・ 筆記が A レベルでも、読みがそれに伴わない場合は A はつけません。読みは平常授業中に評価します。 ・ 欠席は 4 回までは許容します。5 回以上は単位を出しません。 欠席には体育会の活動等に関わる欠席も含みます。
9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J		
科目名		中国語（中級） A 選択クラス		
担当者		高橋 美千子		
1 単位	2 年次		和泉	
1. 授業の概要・到達目標 基礎的な表現や文法事項を復習しつつ、応用的な表現能力と読解能力をバランス良く身につける。授業では、総合的な能力の養成に重点をおく。 基礎的な会話ができ、まとまった文章を読解できるレベルに到達することを目指す。				
2. 授業内容 1 1 年の復習 疑問詞疑問文を復習します。 2 第 1 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 是・・・的の構文 3 第 1 課 練習 練習問題を通した理解 4 第 2 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 可能の助動詞 5 第 2 課 練習 練習問題を通した理解 前置詞 6 第 3 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 文末の了 7 第 3 課 練習 練習問題を通した理解 8 第 4 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 比較の表現 9 第 4 課 練習 練習問題を通した理解 10 第 5 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 疑問詞の不定用法 11 第 5 課 練習 練習問題を通した理解 12 第 6 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 可能補語 様態補語 13 第 6 課 練習 練習問題を通した理解 14 今学期の内容のまとめ 期末テスト				
3. 履修上の注意 授業中の私語は厳禁であるが、グループワークの際は、積極的に取り組むこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語句の意味は教科書に記載されているが、もし本文で知らない単語があるなら、予め調べておきましょう。 練習問題にはピンインがついていない箇所があるのでの音読で困らないように発音できるように準備しておくこと。				
5. 教科書 『2 年目の伝える中国語 自分のこと日本のこと』 及川淳子著 白水社				
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 （アスク出版 2010） 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 （東方書店 1995） 辞典は：『中日辞典第 2 版』（小学館）または『中日辞典第 3 版』（講談社） を推奨する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh - o!Meiji に解答例を掲示するとともに、授業時に解説。提出物は、訂正して返却する。				
8. 成績評価の方法 試験 50% 平常点 50% 授業中にその日の内容で適宜小テストをする。小テストを平常点とする。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J		
科目名		中国語（中級） B 選択クラス		
担当者		高橋 美千子		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 基礎的な表現や文法事項を復習しつつ、応用的な表現能力と読解能力をバランス良く身につける。授業では、総合的な能力の養成に重点をおく。 基礎的な会話ができ、まとまった文章を読解できるレベルに到達することを目指す。				
2. 授業内容 1 春学期の復習 2 第7 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 3 第7 課 練習問題を通しての理解 4 第8 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 5 第8 課 練習問題を通しての理解 6 第9 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 7 第9 課 練習問題を通しての理解 8 第10 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 9 第10 課 練習問題を通しての理解 10 第11 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 11 第11 課 練習問題を通しての理解 12 第12 課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 13 第12 課 練習問題を通しての理解 14 秋学期の総復習 期末テスト				
3. 履修上の注意 授業中の私語は厳禁であるが、グループワークの際は、積極的に取り組むこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 語句の意味は教科書に記載されているが、もし本文で知らない単語があるなら、予め調べておきましょう。 練習問題にはピンインがついていない箇所があるのでの音読で困らないように発音できるように準備しておくこと。				
5. 教科書 『2 年目の伝える中国語 自分のこと日本のこと』 及川淳子著 白水社				
6. 参考書 『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著（アスク出版 2010） 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 （東方書店 1995） 辞典は：『中日辞典第2 版』（小学館）または『中日辞典第3 版』（講談社）を推奨する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh - o!Meiji に解答例を掲示するとともに、授業時に解説。提出物は、訂正して返却する。				
8. 成績評価の方法 試験 50% 平常点 50% 授業中にその日の内容で適宜小テストをする。小テストを平常点とする。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級） A 選択クラス	
担当者		費 燕	
1 単位	2 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 [授業概要] 中国語を1年間勉強してきた学生を対象としている。今までに学んだ語法知識を復習しながら、リスニングの向上を中心に授業を進める。授業は学んだ内容を復習しながら、新しい単語、文法、表現を無理なく段階を踏んで学習していく。 [到達目標] ・初級レベルよりも幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力とリスニング力の向上を目指す。 ・課文に出た話題は、日中の異文化コミュニケーションを巡っての違いやズレ、衝突を描いているため、言葉だけではなく、日中異文化理解も深める。 ・中国語検定試験で4級に合格することを目標とする。			
2. 授業内容 1 回目 イントロダクション、初級で把握しておきたい文法復習 2 回目 第1課リスニング練習、第1課文法説明、練習 3 回目 第2課リスニング練習、第2課文法説明、練習 4 回目 第3課リスニング練習、第3課文法説明、練習 5 回目 第4課リスニング練習、第4課文法説明、練習 6 回目 第5課リスニング練習、第5課文法説明、練習 7 回目 第6課リスニング練習、第6課文法説明、練習 8 回目 第7課リスニング練習、第7課文法説明、練習 9 回目 第8課リスニング練習、第8課文法説明、練習 10 回目 第9課リスニング練習、第9課文法説明、練習 11 回目 第10課リスニング練習、第10課文法説明、練習 12 回目 中国語検定試験4級② 13 回目 中国語検定試験4級②解釈・これまでの学修内容について総まとめ 14 回目 これまでの学修内容について理解度を確認するための考察テスト ＊授業の進度は、学習者の状況により変更する場合があります。担当者の指示に従ってください。			
3. 履修上の注意 ・授業外の予習・復習を各自必ず行うこと。それを前提として授業を進める。 ・授業中は積極的な授業参加が求められる。 ・中国語はネイティブスピーカー並みの学生には履修を勧めない。 ・やむを得ない場合を除いて全体の3分の2以上は出席することが前提。 ※正当な理由のない遅刻は3回で欠席1回と見なす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 一課入る前、その課の単語を覚える必要がある。 教科書の付属の音源を聞き、本文の音読を練習し、正確な発音で読み、暗唱できるようにする。			
5. 教科書 『マンガ日中いぶこみ劇場』 相原茂等著 （朝日出版社）			
6. 参考書 ・『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂他 （同学社） ・『知りたいことがしっかりわかる実践中国語文法』 三瀧正道著 （朝日出版社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストや課題・宿題、期末テストに対し、基本授業中で解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 期末試験（60％）と平常点（40％）を目安とする。 平常点の内訳：授業への参加状況及び課題・宿題などの提出物は（20％）で、小テストは（20％）である。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語（中級）B 選択クラス	
担当者		費 燕	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 [授業概要] 中国語を1年間勉強してきた学生を対象としている。今までに学んだ語法知識を復習しながら、リスニングの向上を中心に授業を進める。授業は学んだ内容を復習しながら、新しい単語、文法、表現を無理なく段階を踏んで学習していく。 [到達目標] ・初級レベルよりも幅広くより深い中国語のコミュニケーション能力とリスニング力の向上を目指す。 ・課文に出た話題は、日中の異文化コミュニケーションを巡っての違いやズレ、衝突を描いているため、言葉だけではなく、日中異文化理解も深める。 ・中国語検定試験で4級～3級に合格することを目標とする。			
2. 授業内容 1 回目 イントロダクション， 第11 課リスニング練習 2 回目 第11 課文法説明，練習，第12 課リスニング練習 3 回目 第12 課文法説明，練習，第13 課リスニング練習 4 回目 第13 課文法説明，練習，第14 課リスニング練習 5 回目 第14 課文法説明，練習，第15 課リスニング練習 6 回目 第15 課文法説明，練習，第16 課リスニング練習 7 回目 第16 課文法説明，練習，第17 課リスニング練習 8 回目 第17 課文法説明，練習，第18 課リスニング練習 9 回目 第18 課文法説明，練習，第19 課リスニング練習 10 回目 第19 課文法説明，練習，第20 課リスニング練習 11 回目 第20 課文法説明，練習，第21 課リスニング練習 11 回目 第21 課文法説明，練習，中国語検定試験3 級② 12 回目 中国語検定試験3 級②解釈・これまでの学修内容について総まとめ 13 回目 これまでの学修内容について理解度を確認するための考察テスト			
3. 履修上の注意 ・授業外の予習・復習を各自必ず行うこと。それを前提として授業を進める。 ・授業中は積極的な授業参加が求められる。 ・中国語はネイティブスピーカー並みの学生には履修を勧めない。 ・やむを得ない場合を除いて全体の3分の2以上は出席することが前提。 ※正当な理由のない遅刻は3回で欠席1回と見なす。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 一課入る前，その課の単語を覚える必要がある。 教科書の付属の音源を聞き，本文の音読を練習し，正確な発音で読み，暗唱できるようにする。			
5. 教科書 『マンガ日中いぶこみ劇場』 相原茂等著 （朝日出版社）			
6. 参考書 ・『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂他 （同学社） ・『知りたいことがしっかりわかる実践中国語文法』 三瀧正道著 （朝日出版社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストや課題・宿題，期末テストに対し，基本授業中で解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 期末試験（60％）と平常点（40％）を目安とする。 平常点の内訳：授業への参加状況及び課題・宿題などの提出物は（20％）で，小テストは（20％）である。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J		
科目名		中国語（中級） A 選択クラス		
担当者		李 小捷		
1 単位	2 年次		和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
<概要> 本授業は、初級で学んだ文法・語彙を土台に、中級中国語の運用能力の向上を目指すものである。新出単語や文法事項を学びながら、会話・読解・作文などの活動を通して、「聞く・話す・読む・書く」の四技能を総合的に伸ばす。授業では、大学生にとって関心の高い現代中国の生活・社会・文化に関する話題を取り上げ、自分の考えや経験を中国語で伝えられる力を養う。また、歌や中国文化に関する視聴覚資料も活用し、学習意欲を高めるとともに、中国文化および社会への理解を深める。 <到達目標> ・中級レベルの語彙・文法事項を身につけ、中国語の運用力を高める。 ・自分の経験や考え、身近な事柄を中国語で表現できる力の向上を目指す。 ・現代中国の社会・文化に関する基礎的知識を身につけ、中国語を通して異文化理解を深める。				
2. 授業内容				
第1回 インTRODakション・自己紹介表現・基本文法の復習				
第2回 第1課「好久不见」（お久しぶり） 結果補語“完”と動詞句＋“的”＋名詞・会話文				
第3回 第1課「好久不见」（お久しぶり） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第4回 第2課「互相关注」（お互いにフォローする） 疑問詞の不定用法と二重目的語・会話文				
第5回 第2課「互相关注」（お互いにフォローする） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第6回 第3課「点外卖」（出前を注文する） 方向補語・会話文				
第7回 第3課「点外卖」（出前を注文する） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第8回 第4課「去故宫拍照」（故宫に行って写真を撮る） 結果補語“好” “到”と“着”（～している／～したまま）の使い方・会話文				
第9回 第4課「去故宫拍照」（故宫に行って写真を撮る） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第10回 第5課「点赞」（いいね！を押す） 可能性を表す“会”と“被”（～される）の使い方・会話文				
第11回 第5課「点赞」（いいね！を押す） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第12回 第6課「追剧」（ドラマを追う） “应该”（～はずだ）の使い方と可能補語・会話文				
第13回 第6課「追剧」（ドラマを追う） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第14回 a まとめ b 試験				
3. 履修上の注意				
・授業には積極的に参加してください。 ・授業中の私語は、周囲の学習の妨げとなるため禁止します。 ・作文や翻訳課題の作成において AI の使用は禁止します。必ず自分の力で取り組んでください。 ・遅刻は2回で欠席1回分として扱います。欠席が5回以上の場合は、成績評価の対象外とします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
<予習> 各課に入る前に音声聞き、新出単語の発音や意味を確認してください。 文法の解説や例文を読んだうえで、会話文を音読しておいてください。 <復習> 新しい課に入る前に小テスト（会話文の内容確認）を行います。前回の会話文を暗記できるように、よく復習してください。				
5. 教科書				
『中国語への旅立ちⅡ 一中級編一』王振宇 李小捷（朝日出版社）				
6. 参考書				
『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則（東方書店）				
『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』相原茂他（同学社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
小テストや練習問題は授業内で解説します。 読み物の翻訳課題は、Oh-o! Meiji に解答例を掲示するとともに、授業内で解説します。 作文の課題は添削して返却します。				

8. 成績評価の方法

定期試験（70％）および平常点（30％）を基準に総合評価します。

平常点の内訳：授業への参加度及び課題・宿題などの提出物（20％）、小テスト（10％）

欠席・遅刻や授業中の私語は減点の対象になります。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J		
科目名		中国語（中級） B 選択クラス		
担当者		李 小捷		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
<概要> 本授業は、初級で学んだ文法・語彙を土台に、中級中国語の運用能力の向上を目指すものである。新出単語や文法事項を学びながら、会話・読解・作文などの活動を通して、「聞く・話す・読む・書く」の四技能を総合的に伸ばす。授業では、大学生にとって関心の高い現代中国の生活・社会・文化に関する話題を取り上げ、自分の考えや経験を中国語で伝えられる力を養う。また、歌や中国文化に関する視聴覚資料も活用し、学習意欲を高めるとともに、中国文化および社会への理解を深める。 <到達目標> ・中級レベルの語彙・文法事項を身につけ、中国語の運用力を高める。 ・自分の経験や考え、身近な事柄を中国語で表現できる力の向上を目指す。 ・現代中国の社会・文化に関する基礎的知識を身につけ、中国語を通して異文化理解を深める。				
2. 授業内容				
第1回 春学期の復習				
第2回 第7課「中秋节的月饼」（中秋節の月餅） “一边～一边～”（～しながら、～する）と“虽然～但是～”（～だけれども、しかし～）の使い方・会話文				
第3回 第7課「中秋节的月饼」（中秋節の月餅） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第4回 第8課「做麻婆豆腐」（マーボー豆腐を作る） “把”（～を）と“了”（～してから）の使い方・会話文				
第5回 第8課「做麻婆豆腐」（マーボー豆腐を作る） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第6回 第9課「兼职」（アルバイト） “刚”（～したばかりだ）と“一～就～”（～すると、すぐ～）の使い方・会話文				
第7回 第9課「兼职」（アルバイト） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第8回 第10課「梦想成真」（夢がかなう） 動詞＋“给”＋受け手と“应该”（～べきだ）の使い方・会話文				
第9回 第10課「梦想成真」（夢がかなう） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第10回 第11課「传统乐器」（伝統楽器） “A 是 A, ～”（A は A だが、～）と“着”（～している／～してある）の使い方・会話文				
第11回 第11課「传统乐器」（伝統楽器） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第12回 第12課「买礼物」（プレゼントを買う） “让”（～させる／～するように言う）の使い方・可能補語・会話文				
第13回 第12課「买礼物」（プレゼントを買う） 前回の復習・会話文の暗唱・練習問題・読み物				
第14回 a まとめ b 試験				
3. 履修上の注意				
・授業には積極的に参加してください。 ・授業中の私語は、周囲の学習の妨げとなるため禁止します。 ・作文や翻訳課題の作成において AI の使用は禁止します。必ず自分の力で取り組んでください。 ・遅刻は2回で欠席1回分として扱います。欠席が5回以上の場合は、成績評価の対象外とします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
<予習> 各課に入る前に音声聞き、新出単語の発音や意味を確認してください。 文法の解説や例文を読んだうえで、会話文を音読しておいてください。 <復習> 新しい課に入る前に小テスト（会話文の内容確認）を行います。前回の会話文を暗記できるように、よく復習してください。				
5. 教科書				
『中国語への旅立ちⅡ 一中級編一』王振宇 李小捷（朝日出版社）				
6. 参考書				
『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則（東方書店）				
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』相原茂他（同学社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
小テストや練習問題は授業内で解説します。 読み物の翻訳課題は、Oh-o! Meiji に解答例を掲示するとともに、授業内で解説します。 作文の課題は添削して返却します。				

8. 成績評価の方法

定期試験（70％）および平常点（30％）を基準に総合評価します。

平常点の内訳：授業への参加度及び課題・宿題などの提出物（20％）、小テスト（10％）

欠席・遅刻や授業中の私語は減点の対象になります。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN151J		
科目名		ロシア語（初級）Ⅰ		
担当者		恩田 義徳		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 ロシア語を初めて学ぶ人を対象とします。はじめに文字の読み方・書き方を覚え、次に正しい発音を身につけます。 教科書に従って短い文を音読しながら、文法事項を学んでいきます。 また授業の合間に文化や街の様子など、ロシアそのものの紹介も取り入れる予定です。 到達目標 ロシア語の文字（キリル文字）を読んだり書いたりすることができるようになること、ロシア語を正しく発音できるようになることを目標とします。 また学んだ文法事項をしっかりと身につけ秋学期の授業へつなげるようにします。				
2. 授業内容 第1回 ガイダンス、自己紹介 第2回 第1課 文字と発音（1） 第3回 第2課 文字と発音（2）「これは劇場です。」 第4回 第3課 文字と発音（3）「これは日本ですか？」 第5回 第4課「これは何ですか？」 第6回 発音のまとめ 第7回 第5課「これは私の両親です。」 第8回 第6課「今、宿題をしています。」 第9回 第7課「どんな雑誌を読んでいるのですか？」 第10回 第8課「ロシア語が話せますか？」 第11回 第9課「モスクワに住んでいます。」 第12回 第10課「今日何をしましたか？」「明日は何をしますか？」 第13回 春学期のまとめ 第14回 a. 筆記体について b. 試験 ただし受講者の様子で多少前後することがあります。				
3. 履修上の注意 この授業は月曜日のロシア語の授業と関連して行われます。どちらか一方のみ履修する場合には教員に連絡してください。 初回の授業で教科書等の説明を行いますので必ず出席してください。 全回出席を前提とします。やむを得ず欠席する場合は事前に教員に連絡をしてください。 無断欠席は履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。 また練習問題や単語テストの準備など、授業内で指示された課題を行ってください。				
5. 教科書 プリント（電子データ）を配布します。				
6. 参考書 授業中に指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は授業時間内でチェックします。質問なども基本的に授業内で受け付けます。				
8. 成績評価の方法 定期試験（50％）、授業への参加態度（50％） 無断欠席は履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。				
9. その他 辞書はすぐに購入する必要はありません（ある程度文法が分からないと使うことができません）。辞書については授業の中で指示します。 電子辞書、翻訳アプリは学習の妨げになるので使用しないでください。 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金3 ロシア語（要件）」としてください。				

ondayoshinori[AT]gmail.com

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN151J	
科目名		ロシア語（初級）Ⅱ	
担当者		恩田 義徳	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 春学期開講のロシア語（初級）Ⅰの続きとなります。 短文の音読をし、文法事項を学んでいきます。 また授業の合間に文化や街の様子など、ロシアや周辺地域の紹介も取り入れる予定です。 到達目標 基礎的な文法事項を身につけることを目標とします。 また細かい発音上の注意やイントネーションに注意を払い、正しくロシア語が話せるようになることも心がけます。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 春学期の復習 第3回 第11課「これはイワンの車です。」「イワンは車を持っています。」 第4回 第12課「私は本を読みます。」「私は本を読むのが好きです。」 第5回 第13課「どこへ行くのですか?」「大学へ行くところです。」 第6回 第14課「イワンに手紙を書きます。」 第7回 第15課「エフゲニー・オネーギンを読み終えました。」 第8回 第16課「ペンで手紙を書きます。」 第9回 第17課「ロシア語で話してください。」 第10回 第18課「これはあなたのためのプレゼントです。」 第11回 第19課「チケットを五枚持っています」 第12回 第20課「ロシア語を勉強しています。」 第13回 練習問題の答え合わせ、補遺 第14回 a. まとめ b. 試験 授業の進み具合によって多少前後することが考えられます。			
3. 履修上の注意 春学期の授業の続きになります。秋学期から参加する場合、事前に教員に連絡を取り、教科書等の指示を受けてください。 全回出席を前提とします。やむを得ず欠席する場合は事前に教員に連絡をしてください。 無断欠席は履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。 また練習問題や単語テストの準備など、授業内で指示された課題を行ってください。			
5. 教科書 春学期と同じものを使います（プリントを配布します）。			
6. 参考書 授業中に指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題は授業時間内でチェックします。質問なども基本的に授業内で受け付けます。			
8. 成績評価の方法 定期試験（50%）、授業への参加態度（50%）。 無断欠席は履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。			
9. その他 辞書はすぐに購入する必要はありません（ある程度文法が分らないと使うことができません）。辞書については授業の中で指示します。 電子辞書は学習の妨げになるので使用しないでください。 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金3 ロシア語 （要件）」としてください。 ondayoshinori[AT]gmail.com			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN151J		
科目名		ロシア語（初級）Ⅰ		
担当者		井伊 裕子		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 概要：ロシア語を始めて学ぶ方のための講座です。まずはロシア語のアルファベットの読み方、発音を学び、音読を苦としないようになることを目指します。教科書を使って例文や文法事項の練習を繰り返していきます。 到達目標：キリル文字を読める、発音を身に着けること。				
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 ガイダンス 第2回 第1課 文字と発音（1） 第3回 第2課 文字と発音（2）「これは劇場です。」 第4回 第3課 文字と発音（3）「これは日本ですか？」（あいさつ） 第5回 第4課「これは何ですか？」（自己紹介） 第6回 発音のまとめ 第7回 第5課「これは私の両親です。」（ロシア人の名前） 第8回 第6課「今、宿題をしています。」（ロシア語の語順） 第9回 第7課「どんな雑誌を読んでいるのですか？」（国の名称と形容詞） 第10回 第8課「ロシア語が話せますか？」（お礼の表現） 第11回 第9課「モスクワに住んでいます。」 第12回 第10課「今日何をしましたか？」「明日は何をしますか？」 第13回 復習、補講、まとめ 第14回 試験				
3. 履修上の注意 この授業は金曜3限のロシア語の授業と関連して進行します。同時に履修することが望ましいですが、できない場合には自力でフォローする必要があります。授業内では積極的に授業に参加することが期待されます。語学は継続した学習が必要となるため、授業を欠席した場合は次の授業までに欠席分をカバーしておく必要があります。さらに欠席する場合は事前に連絡してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。				
5. 教科書				
6. 参考書 授業内で必要な参考書や辞書について指示します。たとえ辞書が入っていてもスマートフォンの使用は禁止します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。				
8. 成績評価の方法 試験（50％）、授業参加（25％）、小テスト（25％）				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN151J	
科目名		ロシア語（初級）Ⅱ	
担当者		井伊 裕子	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 概要：春学期の続きとなります。格変化を学び、簡単なロシア語の文章を理解できるようになることを目指します。教科書を使い例文や文法事項の練習を繰り返していきます。 到達目標：簡単なロシア語の文章を発音し理解できる。			
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 ガイダンス 第2回 春学期の復習 第3回 第11 課「これはイワンの車です。」「イワンは車を持っています。」 第4回 第12 課「私は本を読みます。」「私は本を読むのが好きです。」（不規則な変化の動詞） 第5回 第13 課「どこへ行くのですか？」「大学へ行くところです。」（曜日の名称） 第6回 第14 課「イワンに手紙を書きます。」（よく使う無人称の述語） 第7回 第15 課「エフゲニー・オネーギンを読み終えました。」（-о в а т ь で終わる動詞） 第8回 第16 課「ペンで手紙を書きます。」（お祝いの表現） 第9回 第17 課「ロシア語で話してください。」 第10回 第18 課「これはあなたのためのプレゼントです。」 第11回 第19 課「チケットを五枚持っています」 第12回 第20 課「ロシア語を勉強しています。」 第13回 復習、補講、まとめ 第14回 試験			
3. 履修上の注意 この授業は金曜3限のロシア語の授業と関連して進行します。同時に履修することが望ましいですが、できない場合には自力でフォローする必要があります。授業内では積極的に授業に参加することが期待されます。語学は継続した学習が必要となるため、授業を欠席した場合は次の授業までに欠席分をカバーしておく必要があります。さらに欠席する場合は事前に連絡してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲の教科書を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。			
5. 教科書			
6. 参考書 辞書については授業中に指示します。それまでは購入を控えてください。電子辞書・スマホアプリについては学習の妨げになるので使用禁止とします。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。			
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業参加（25%）、小テスト（25%）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN251J		
科目名		ロシア語（中級） A		
担当者		恩田 義徳		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 概要 ロシア語の基礎を終えた人を対象とする授業です。 一年次で学んだことを復習しながら、文法の知識を補完します。 目標 ロシア語の基礎的な文法をしっかりと定着させ、ロシア語の表現の幅を広げることを目標とします。 また、日常会話でよく使われる表現をスムーズに発音できるようにします。				
2. 授業内容 第1回 イン트로、授業の進め方の説明、発音の復習 第2回 一年時の復習 第3回 名前の尋ね方・答え方（1） 第4回 名前の尋ね方・答え方（2） 第5回 場所の表現（1） 第6回 場所の表現（2） 第7回 時間の表現（1） 第8回 目的語の表現 第9回 時間の表現（2） 第10回 理由の表現 第11回 比較級 第12回 最上級 第13回 移動の動詞 第14課 a. まとめ b. 試験 なお、授業内容は受講者の様子によって変更になる場合があります。				
3. 履修上の注意 ロシア語の基礎を終えた学生を対象とします。授業開始までにそれまでに学習した内容を復習し、スムーズに授業が始められるように各自準備をしておいてください。 初回の授業で進め方などの説明をするので欠席しないでください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にプリントの練習問題を予習しておいてください。 また、単語を覚える作業は授業時間内には行えないので、各自進めておいてください。				
5. 教科書 プリントを配布				
6. 参考書 博友社「ロシア語辞典」 辞書については授業内で説明をするので急いで買う必要はありません。 学習の妨げになるので、電子辞書、スマホアプリの使用は禁止します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業への参加態度（50%） 無断欠席は履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。				
9. その他 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金4 ロシア語 （要件）」としてください。 ondayoshinori@gmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN251J		
科目名		ロシア語（中級） B		
担当者		恩田 義徳		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 概要 春学期開講のロシア語（中級）A の続きになります。プリントに従い学習を続けます。 目標 ロシア語の高度な文法もある程度理解でき、ロシア語の辞書を使い自分でテキストを調べられるようにします。 また、簡単な日常会話を行えるようにします。				
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 春学期の復習 第3回 接頭辞付き移動動詞 第4回 関係代名詞（1） 第5回 関係代名詞（2） 第6回 関係副詞（3） 第7回 副動詞（1） 第8回 副動詞（2） 第9回 形動詞（1） 第10回 形動詞（2） 第11回 形動詞（3） 第12回 受け身の表現 第13回 仮定法 第14課 a. まとめ b. 試験 なお授業内容は受講者の様子によって変更になる場合があります。				
3. 履修上の注意 春学期からの継続の授業となります。 秋から参加する学生は事前に教員に連絡を取り、春学期の内容を確認してください。 初回の授業で進め方などの説明をするので欠席しないでください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 プリントの練習問題を予習しておいてください。 単語の意味も調べ、例文を訳せる様に準備してください。				
5. 教科書 プリントを配布				
6. 参考書 授業中に指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業への参加態度（50%） 無断欠席は履修放棄とみなし、成績評価の対象としません。				
9. その他 連絡先は以下のアドレスを使ってください。 なお件名は必ず「金4 ロシア語 （要件）」としてください。 ondayoshinori@gmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN251J		
科目名		ロシア語（中級） A		
担当者		井伊 裕子		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 概要：この授業はロシア語の基礎を学んだ人を対象としています。一年時の内容をさらに発展させ、学習していきます。 到達目標：正しいイントネーションで簡単な文を音読、理解できるようになる。簡単な会話ができるようになる。				
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 一年時の復習 第2回 名詞、代名詞 第3回 形容詞 第4回 動詞（1） 第5回 動詞（2） 第6回 動詞（3） 第7回 所有の表現 第8回 動詞（4） 第9回 過去、未来 第10回 生格 第11回 与格 第12回 造格 第13回 完了・不完了 第14回 a. まとめ b. 試験				
3. 履修上の注意 ロシア語の基礎を学んだ人を対象としています。 初回の授業までに一年時の内容を復習しておきましょう。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲の教科書を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。				
5. 教科書 プリント配布 参考書 博友社「ロシア語辞典」				
6. 参考書 授業内で必要な参考書や辞書について指示します。たとえ辞書が入っていてもスマートフォンの使用は禁止します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。				
8. 成績評価の方法 試験（50％）、授業参加（25％）、小テスト（25％）				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN251J		
科目名		ロシア語（中級）B		
担当者		井伊 裕子		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 概要：この授業はロシア語の基礎を学んだ人を対象としています。 春学期の内容をさらに発展させ、学習していきます。 到達目標：正しいイントネーションで簡単な文を音読、理解できるようになる。簡単な会話ができるようになる。				
2. 授業内容 受講生の学習状況で授業内容や進度は変更する可能性があります。また適宜授業内で小テストを実施します。 第1回 春学期の復習 第2回 移動動詞（1） 第3回 移動動詞（2） 第4回 命令形（1） 第5回 命令形（2） 第6回 形容詞短語尾 第7回 比較級（1） 第8回 比較級（2） 第9回 不定人称文、無人称文 第10回 生格 第11回 与格 第12回 造格 第13回 関係代名詞 第14回 a. まとめ b. 試験				
3. 履修上の注意 春学期の授業の続きとなります。 初回の授業までに春学期の内容を復習しておきましょう。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として授業内容範囲の教科書を読んでおき、問題演習を通して復習をしてください。				
5. 教科書 プリント配布 参考書 博友社「ロシア語辞典」				
6. 参考書 授業内で必要な参考書や辞書について指示します。たとえ辞書が入っていてもスマートフォンの使用は禁止します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 練習問題、小テストについては授業内で解説、採点します。期末テストは希望者に答案を返却します。				
8. 成績評価の方法 試験（50%）、授業参加（25%）、小テスト（25%）				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J		
科目名		韓国語（初級） I		
担当者		安 垠姫		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初めて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字、発音、文法の基礎的知識を学習します。また、場面に応じた基本的な口語表現を学び、会話の練習を行います。韓国文化に関する DVD などを鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 〈到達目標〉 文字ハングルの読み書きと発音の仕方を学び、あいさつ表現など簡単な会話表現を学習します。ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目標にします。				
2. 授業内容 1. イントロダクション、ハングルの仕組み 2. 文字と発音①（基本母音） 3. 文字と発音②（基本子音） 4. 文字と発音③（激音、濃音など） 5. 文字と発音④（二重母音） 6. 文字と発音⑤（パッチム） 7. 文字と発音⑥（発音のルール） 8. 私はクマモトマキです。 9. 中間テスト・文化の理解 10. これは何ですか。 11. いつありますか。 12. 誰の歌が好きですか。 13. コーヒーを飲みません。 14. a：まとめ、b：期末テスト				
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
5. 教科書 『グループで楽しく学ぼう！韓国語 1 (2025 年度新刊)』 朴美子・崔相振著、朝日出版社				
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、平常点 30%（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他 連絡先：安垠姫（アンウニ） witkeh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J		
科目名		韓国語（初級）Ⅰ		
担当者		安 垠姫		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 初めて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字、発音、文法の基礎的知識を学習します。また、場面に応じた基本的な口語表現を学び、会話の練習を行います。韓国文化に関する DVD などを鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 （到達目標） 文字ハングルの読み書きと発音の仕方を学び、あいさつ表現など簡単な会話表現を学習します。ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目標にします。				
2. 授業内容 1. イントロダクション、ハングルの仕組み 2. 文字と発音①（基本母音） 3. 文字と発音②（基本子音） 4. 文字と発音③（激音、濃音など） 5. 文字と発音④（二重母音） 6. 文字と発音⑤（パッチム） 7. 文字と発音⑥（発音のルール） 8. 私はクマモトマキです。 9. 中間テスト・文化の理解 10. これは何ですか。 11. いつありますか。 12. 誰の歌が好きですか。 13. コーヒーを飲みません。 14. a：まとめ、b：期末テスト				
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
5. 教科書 『グループで楽しく学ぼう！韓国語 1 (2025 年度新刊)』 朴美子・崔相振著、朝日出版社				
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、平常点 30%（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他 連絡先：安垠姫（アンウニ） witkeh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J		
科目名		韓国語（初級）Ⅱ		
担当者		安 垠姫		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 春学期に学んだ事項を復習し、さらに初級レベルの文法、語彙、表現などを学習します。場面に応じた会話表現を学び、打ち解けた言い方(ヨ体)や数字の表現、希望・願望、逆接、過去形など様々な意思表示を覚えて行きます。日本語との違いや韓国文化にもふれつつ、言語と文化への理解を深めます。 （到達目標） 基本的な文章の読み書き、多様な文末語尾、日常会話の慣用的な表現を学習します。ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目標にします。				
2. 授業内容 1. 基本文法の復習 2. 誕生日はいつですか。 3. 漢数字の表現 4. 郵便局とコーヒーショップがあります。 5. ヨ体、位置名詞 6. 3 個 1 万ウォンです。 7. 固有数字の表現 8. 中間テスト、文化の理解 9. 韓国語の授業は何曜日ですか。 10. 時間・時刻を表す表現 11. 週末に何をしましたか。 12. 過去形、ヨ変則 13. 週末に映画を見に行きませんか。 14. a：まとめ、b：期末テスト				
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
5. 教科書 『グループで楽しく学ぼう！韓国語 1 (2025 年度新刊)』 朴美子・崔相振著、朝日出版社				
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、平常点 30%（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他 連絡先：安垠姫（アンウニ）witheh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J		
科目名		韓国語（初級）Ⅱ		
担当者		安 垠姫		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 春学期に学んだ事項を復習し、さらに初級レベルの文法、語彙、表現などを学習します。場面に応じた会話表現を学び、打ち解けた言い方(ヨ体)や数字の表現、希望・願望、逆接、過去形など様々な意思表示を覚えて行きます。日本語との違いや韓国文化にもふれつつ、言語と文化への理解を深めます。 （到達目標） 基本的な文章の読み書き、多様な文末語尾、日常会話の慣用的な表現を学習します。ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目標にします。				
2. 授業内容 1. 基本文法の復習 2. 誕生日はいつですか。 3. 漢数字の表現 4. 郵便局とコーヒーショップがあります。 5. ヨ体、位置名詞 6. 3 個 1 万ウォンです。 7. 固有数字の表現 8. 中間テスト、文化の理解 9. 韓国語の授業は何曜日ですか。 10. 時間・時刻を表す表現 11. 週末に何をしましたか。 12. 過去形、ヨ変則 13. 週末に映画を見に行きませんか。 14. a：まとめ、b：期末テスト				
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
5. 教科書 『グループで楽しく学ぼう！韓国語 1 (2025 年度新刊)』 朴美子・崔相振著、朝日出版社				
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、平常点 30%（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他 連絡先：安垠姫（アンウニ） witheh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J	
科目名		韓国語（初級）Ⅰ	
担当者		金 任仲	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） この授業では、韓国語を初めて学ぶ学生を対象とします。前半は韓国語初級の要であるハングル（文字）の正確な発音と文字の読み書きを完全に身につけるように練習します。後半は基礎文法・文型を踏まえ初歩的な表現を学びます。会話力を身につけるためには単語や語句、基本文型はとても大事です。具体的には、挨拶、各詞文の叙述・疑問・尊敬・依頼表現・用言の運用形などについて学び、それらについて声を出して読んだり書いてみたり繰り返して練習します。 （到達目標） 確実に韓国の文字が読め、簡単な挨拶および自己紹介ができることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション、韓国語の文字の構造と発音を紹介 第2回 （文字編）第1課 基本母音 第3回 第2課 子音（1） 第4回 第3課 子音（2）激音と濃音 第5回 第4課 複合母音 第6回 第5課 終声（パッチム） 第7回 第6課 発音の変化 第8回 （会話編）第1課 私はイ・トンミンです 第9回 第1課 自己紹介の表現を学ぶ 第10回 第2課 専攻は何ですか 第11回 第2課 名詞文のヘヨ体・否定形の表現を学ぶ 第12回 第3課 図書館の横にあります。 第13回 第3課 指示詞と方向・存在・位置の表現を学ぶ 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （文字編）の第1課～第6課までの文字と発音は、しっかり復習して身に付けましょう。（会話編）の第1課以降は、授業後に単語・表現は自分なりに復習し、理解を深めておきましょう。授業で習ったところは、必要に応じて小テストを実施します。			
5. 教科書 北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』（白帝社）			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 韓国語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中にその内容に対して伝達します。			
8. 成績評価の方法 平常点 30%、小テスト 30%、定期試験 40%にして総合的に評価します。			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J		
科目名		韓国語（初級）Ⅰ		
担当者		金 孝珍		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本授業は初めて韓国語を学ぶ学生を対象とします。前半は表音文字であるハングルの仕組みと発音のルールを習得し、文字の読み書き、正確な発音ができるように練習します。後半は基礎文法・文型を踏まえ初歩的な表現を学びます。会話力をつけるためには単語や語句、基本文型はとても大事です。教科書に出てくる語彙やフレーズなどは丸暗記できるように声を出して繰り返し発音し、自然に言えるように練習します。確実に身につけるためにその都度語彙とフレーズ、文法問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。 〈到達目標〉 確実に韓国の文字が読め、簡単な挨拶および自己紹介ができることを目標とします。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション、朝鮮語・朝鮮半島についての紹介 第2回 文字編 第1課 基本母音 第3回 文字編 第2課 子音（1） 第4回 文字編 第3課 子音（2）激音と濃音 第5回 文字編 第4課 複合母音 第6回 文字編 第5課 終声（パッチム） 第7回 文字編 第6課 発音の変化 第8回 第1課 名詞文（1）、助詞「は」 第9回 第1課 ～と申します、自己紹介表現を学ぶ 第10回 第2課 名詞文（2）、助詞「が」 第11回 第2課 名詞文の否定形 第12回 第3課 指示詞と方向位置を表す表現を学ぶ 第13回 文化に触れるコーナー 第14回 a：講義 b：期末試験				
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。				
5. 教科書 北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』（白帝社）				
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 定期試験 60％、平常点 40％（授業への参加度、小テスト、課題を含む）				
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J	
科目名		韓国語（初級）Ⅱ	
担当者		金 任仲	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 韓国語初級Ⅰで学習した基礎の上に、文法や表現に関する知識を広げ、運用能力を高めることを練習します。この授業の終了時点で、韓国語初級の〈読む・書く・話す〉能力の基本ができていることを目指します。具体的には、授業で学習したところを確実に身につけているのか、文法・会話の問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。 〈到達目標〉 基本的な文の読み書きと簡単な日常会話ができることを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 第4課 土曜日はアルバイトをします 第2回 第4課 用言文のハムニダ体を学ぶ 第3回 第5課 韓国映画が好きですか 第4回 第5課 用言文のへヨ体を学ぶ 第5回 第6課 あまり遠くありません 第6回 第6課 用言文の否定形・名詞の手段・方向を学ぶ 第7回 第7課 誕生日はいつですか 第8回 第7課 漢数詞を使って会話練習 第9回 第8課 7時から9時までです 第10回 第8課 固有数詞を使って会話練習 第11回 第9課 先週の土曜日にコンサートに行きました 第12回 第9課 過去形を用いて作文練習 第13回 第10課 本当にお若くみえますね 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にテキストの指定範囲を読み、新しい単語の意味を調べて整理しておきましょう。授業後に単語・表現は自分なりに復習し、理解を深めておきましょう。授業で習ったところは、必要に応じて小テストを実施します。			
5. 教科書 北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』（白帝社）			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 韓国語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中にその内容に対して伝達します。			
8. 成績評価の方法 平常点 30%、小テスト 30%、定期試験 40%にして総合的に評価します。			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN171J		
科目名		韓国語（初級）Ⅱ		
担当者		金 孝珍		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級Ⅰで学習した基礎を土台として、より豊かな会話表現、文法事項を学習します。習った文法や表現を使って作文をしたり、またはペアワークやグループワークを通じてコミュニケーションを楽しんでみましょう。確実に身につけるためにその都度語彙とフレーズ、文法問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。 〈到達目標〉 基本的な文の読み書きと簡単な日常会話ができることを目標とします。				
2. 授業内容 第1回 第4課 用言文のハムニダ体 第2回 第4課 助詞のまとめ 第3回 第4課 用言文のヘヨ体 第4回 第5課 ハムニダ体とヘヨ体のまとめ 第5回 第5課 用言文の否定形 第6回 第6課 助詞「～で」「～から～まで」「～より」 第7回 第6課 漢数詞 第8回 第7課 漢数詞を使って会話練習 第9回 第7課 固有数詞 第10回 第8課 固有数詞を使って会話練習 第11回 第8課 過去形 第12回 第9課 過去形を用いて作文練習 第13回 文化に触れるコーナー 第14回 a：講義 b：期末試験				
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。				
5. 教科書 北原スマ子監修，金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』（白帝社）				
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 定期試験 60％，平常点 40％（授業への参加度，小テスト，課題を含む）				
9. その他 韓国の文化や習慣,リアルタイムの情報などにも耳を傾けて，韓国社会全般の理解を深めていきましょう。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J		
科目名		韓国語（中級） A 会話		
担当者		安 垠姫		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 「韓国語（初級）Ⅰ・Ⅱ」の履修を終えた学生を対象にします。 既習の学習内容を復習し、さらに発展的な文法事項、会話表現を学びます。 社会・文化的背景や価値観によるコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションを図ることができます。韓国文化に関する DVD など鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 〈到達目標〉 中級前半レベルの読解力・文章力・会話力を向上させ、韓国語らしい表現を身につけることを目指します。ハングル能力検定試験 5 級～4 級レベルの知識を身につけることができます。				
2. 授業内容 1. 初級文法・表現の復習 2. フランスから来ました。(過去形、進行形、仮定形、願望) ① 3. フランスから来ました。(過去形、進行形、仮定形、願望) ② 4. 自己紹介の作文、発表 5. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形、並列、感嘆) ① 6. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形、並列、感嘆) ② 7. 中間テスト、文化の理解 8. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形(ヨ体)、確認、婉曲) ① 9. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形(ヨ体)、確認、婉曲) ② 10. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形、ロ変則、理由、選択意志) ① 11. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形、ロ変則、理由、選択意志) ② 12. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定、意志・推量、現在連体形、目的) ① 13. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定、意志・推量、現在連体形、目的) ② 14. a: まとめ、b: 期末テスト				
3. 履修上の注意 外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
5. 教科書 おはよう韓国語 2 （2024 年度第 2 版） 崔柄珠著、朝日出版社 適宜プリントを配布。				
6. 参考書 授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準韓国語大辞典」 https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法 定期試験 70%、平常点 30%（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他 連絡先：安垠姫（アンウニ） witkeh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J		
科目名		韓国語（中級）A		
担当者		安 垠姫		
1 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 「韓国語（初級）Ⅰ・Ⅱ」の履修を終えた学生を対象にします。 既習の学習内容を復習し、さらに発展的な文法事項、会話表現を学びます。 社会・文化的背景や価値観によるコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションを図ることができます。韓国文化に関する DVD などを鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 〈到達目標〉 中級前半レベルの読解力・文章力・会話力を向上させ、韓国語らしい表現を身につけることを目指します。ハングル能力検定試験 5 級～4 級レベルの知識を身につけることができます。				
2. 授業内容				
1. 初級文法・表現の復習 2. フランスから来ました。(過去形、進行形、仮定形、願望) ① 3. フランスから来ました。(過去形、進行形、仮定形、願望) ② 4. 自己紹介の作文、発表 5. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形、並列、感嘆) ① 6. ご家族は何名でいらっしゃいますか。(尊敬形、並列、感嘆) ② 7. 中間テスト、文化の理解 8. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形(ヨ体)、確認、婉曲) ① 9. 金ミンスさんのお宅でしょうか。(尊敬形(ヨ体)、確認、婉曲) ② 10. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形、ロ変則、理由、選択意志) ① 11. 野菜が多くて体にも良いです。(否定形、ロ変則、理由、選択意志) ② 12. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定、意志・推量、現在連体形、目的) ① 13. 夏休みの時に何をするつもりですか。(予定、意志・推量、現在連体形、目的) ② 14. a: まとめ、b: 期末テスト				
3. 履修上の注意				
外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
5. 教科書				
おはよう韓国語 2 （2024 年度第 2 版） 崔柄珠著、朝日出版社 適宜プリントを配布。				
6. 参考書				
授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準韓国語大辞典」https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法				
定期試験 70%、平常点 30%（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他				
連絡先：安垠姫（アンウニ） witkeh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J		
科目名		韓国語（中級） B 会話		
担当者		安 垠姫		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 「韓国語（初級）Ⅰ・Ⅱ」の履修を終えた学生を対象にします。 既習の学習内容を復習し、さらに発展的な文法事項、会話表現を学びます。 社会・文化的背景や価値観によるコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションを図ることができます。韓国文化に関する DVD などを鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 〈到達目標〉 中級レベルの読解力・文章力・会話力を向上させ、韓国語らしい表現を身につけることを目指します。ハングル能力検定試験 4 級レベルの知識を身につけることができます。				
2. 授業内容				
1. 既習事項の復習 2. どのように行けばいいですか。（許可、変則、尊敬形の過去形、理由）① 3. どのように行けばいいですか。（許可、変則、尊敬形の過去形、理由）② 4. 写真添付しますよ。（可能形、過去連体形、約束意志）① 5. 写真添付しますよ。（可能形、過去連体形、約束意志）② 6. 連体形(現在・過去)のまとめ・練習 7. メール・手紙の書き方 8. 中間テスト、文化の理解 9. みんな一緒に歌いましょう！（意図、決まり、未来連体形、変則）① 10. みんな一緒に歌いましょう！（意図、決まり、未来連体形、変則）② 11. どんなアルバイトをしていますか。（義務、未来の推測、変則、許可）① 12. どんなアルバイトをしていますか。（義務、未来の推測、変則、許可）② 13. どんなアルバイトをしていますか。（義務、未来の推測、変則、許可）③ 14. a：まとめ、b：期末テスト				
3. 履修上の注意				
前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
5. 教科書				
おはよう韓国語 2 （2024 年度第 2 版） 崔柄珠著、朝日出版社 適宜プリントを配布。				
6. 参考書				
授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準国語大辞典」https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法				
定期試験 70％、平常点 30％（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他				
連絡先：安垠姫（アンウニ） witkeh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J		
科目名		韓国語（中級）B		
担当者		安 垠姫		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 「韓国語（初級）Ⅰ・Ⅱ」の履修を終えた学生を対象にします。 既習の学習内容を復習し、さらに発展的な文法事項、会話表現を学びます。 社会・文化的背景や価値観によるコミュニケーションスタイルの違いを理解し、円滑なコミュニケーションを図ることができます。韓国文化に関する DVD など鑑賞し、言語と文化への理解を深めます。 〈到達目標〉 中級レベルの読解力・文章力・会話力を向上させ、韓国語らしい表現を身につけることを目指します。ハングル能力検定試験 4 級レベルの知識を身につけることができます。				
2. 授業内容				
1. 既習事項の復習 2. どのように行けばいいですか。（許可、変則、尊敬形の過去形、理由）① 3. どのように行けばいいですか。（許可、変則、尊敬形の過去形、理由）② 4. 写真添付しますよ。（可能形、過去連体形、約束意志）① 5. 写真添付しますよ。（可能形、過去連体形、約束意志）② 6. 連体形(現在・過去)のまとめ・練習 7. メール・手紙の書き方 8. 中間テスト、文化の理解 9. みんな一緒に歌いましょう！（意図、決まり、未来連体形、変則）① 10. みんな一緒に歌いましょう！（意図、決まり、未来連体形、変則）② 11. どんなアルバイトをしていますか。（義務、未来の推測、変則、許可）① 12. どんなアルバイトをしていますか。（義務、未来の推測、変則、許可）② 13. どんなアルバイトをしていますか。（義務、未来の推測、変則、許可）③ 14. a：まとめ、b：期末テスト				
3. 履修上の注意				
前回までの復習を十分に行う。発音練習に教材の CD を有効に活用する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
外国語の習得には地道な努力を積み重ねるしかありません。予習・復習を怠らないこと。				
5. 教科書				
おはよう韓国語 2 （2024 年度第 2 版） 崔柄珠著、朝日出版社 適宜プリントを配布。				
6. 参考書				
授業の際に適宜紹介する。 NAVER ネット辞書 http://jpdic.naver.com/ ネット版「標準韓国語大辞典」https://stdict.korean.go.kr/main/main.do				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
課題や小テストなどを実施した際には、その答え合わせと解説を行い、学生の質問やコメントに対応しフィードバックします。				
8. 成績評価の方法				
定期試験 70%、平常点 30%（出席、授業態度・参加度、課題、小テストなど）				
9. その他				
連絡先：安垠姫（アンウニ） witkeh@hotmail.com				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J	
科目名		韓国語（中級）A 文法	
担当者		金 任仲	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この授業では韓国語初級で習得した韓国語運用能力を活用し、より複雑な表現・文法を増やして文章の読解や会話を無理なく円滑に行えるようになることを目指します。基礎になる文法をしっかり身につけ、語彙を増やし、それを応用できるようにしましょう。具体的には、用言の変則活用、連用形、現在・過去・未来の連体形、慣用表現などについて学び、それらを使って会話したり作文したりできるように練習します。 〈到達目標〉 中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（序説）、1 年次学習内容の復習（1） 第2回 1 年次学習内容の復習（2） 第3回 第1課 今学期も韓国語の授業を受けています 第4回 第1課 -아/어 주세요/주시겠어요?（依頼）、-（으）르세요（意志・約束）、-고 있다（動作の進行）の文法内容と練習問題 第5回 第2課 頭が痛くて行けそうにありません 第6回 第2課 -아/어서（動作の先行、原因・理由）、으不規則活用、못- / -지 못하다（不可能）の文法内容と練習問題 第7回 第3課 済州島に行ってみましたか 第8回 第3課 -아/어 보다（試み・経験）、-네요（感嘆・驚き）、-기로 하다（約束・決定・決心）の文法内容と練習問題 第9回 第4課 好きな韓国料理ありますか 第10回 第4課 動詞の連体形、存在詞の現在連体形、-（으）ㄴ 적이 있다/없다（経験の有無）の文法内容と練習問題 第11回 第5課 語学研修に行った時会いしました 第12回 第5課 形容詞、指定詞の現在連体形、-（으）ㄴ 거예요 (?)（意志・推量）、-（으）ㄴ 때、-았/었을 때（～時）の文法内容と練習問題 ◇連体形のまとめ 第13回 韓国文化コーナー（韓国ドラマと映画を紹介） 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にテキストの指定範囲を読み、新しい単語の意味を調べて整理しておきましょう。授業後に単語・表現は、自分なりに復習し、理解を深めておきましょう。授業で習ったところは、必要に応じて小テストを実施します。			
5. 教科書 金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』（白帝社、2022 年 3 月） ※2021 年度版ではなく、2022 年度版を用意してください。			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 韓国語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中にその内容に対して伝達します。			
8. 成績評価の方法 平常点 30%、小テスト 30%、定期試験 40%にして総合的に評価します。			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J	
科目名		韓国語（中級）A	
担当者		金 孝珍	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 初級レベルの学習内容を復習しつつ、より複雑な表現・文法を増やして無理なくレベルアップができるように目指します。基礎になる文法をしっかり身につけ、語彙を増やし、それを応用できるようにしましょう。確実に身につけるために1つの課が終わると語彙とフレーズ、文法の問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。 〈到達目標〉 中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、1年次学習内容の復習（1） 第2回 1年次学習内容の復習（1） 第3回 第1課 -아/어 주세요/주시겠어요?（～てください/いただけますか 依頼）、-（으）르세요（～ます、～よ・から 意志・約束）、-고 있다（～ている 動作の進行）の文法内容と練習問題 第4回 第1課 会話文と復習 plus 第5回 第2課 -아/어서（～て、～ので、動作の先行、原因・理由）、으不規則活用、못 - / -지 못하다（～できな・（ら）れない不可能）の文法内容と練習問題 第6回 第2課 会話文と復習 plus 第7回 第3課 -아/어 보다（～てみる 試み・経験）、-네요（～ですね、ますね 感嘆・驚き）、-기로 하다（～ことにする 約束・決定・決心）の文法内容と練習問題 第8回 第3課 会話文と復習 plus 第9回 第4課 動詞の連体形、存在詞の現在連体形、-（으）ㄴ 적이 있다/없다（～たことがある/ない 経験の有無）の文法内容と練習問題 第10回 第4課 会話文と復習 plus、みんなでBINGO ゲーム（1） 第11回 第5課 形容詞、指定詞の現在連体形、-（으）ㄴ 거예요 (?)（～つもりです（か）、～でしょう 意志・推量）、-（으）ㄴ 때、-았/었을 때（～時、～た時）の文法内容と練習問題 第12回 第5課 会話文と復習 plus、◆連体形のまとめ 第13回 韓国文化コーナー（韓国ドラマやKpop、ニュースの聞き取り） 第14回 a：講義 b：期末試験			
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。			
5. 教科書 金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』（白帝社、2022年3月）			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験 60％、平常点 40％（授業への参加度、小テスト、課題を含む）			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J	
科目名		韓国語（中級） B 文法	
担当者		金 任仲	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 中級レベルの文法、会話表現、構文を学習します。しっかり文型を練習した上で、その学習を効果的に行うために会話や読解、作文などを練習します。中級のレベルの〈読む・書く・話す〉の基本的な力をさらに強化します。具体的には、用言の変則活用、連用形、現在・過去・未来の連体形、慣用表現などについて学び、それらを使って会話したり作文したりできるように練習します。 〈到達目標〉 中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。			
2. 授業内容 第1回 第6課 風邪を引きやすいので気をつけてください 第2回 第6課 - (으)니까 (理由・原因)、ㅁ [비읍] 不規則活用、-기 쉽다/어렵다の文法内容と練習問題 第3回 第7課 思ったより値段が高いようですね 第4回 第7課 動詞、存在詞、形容詞、指定詞の連体形+것 같다 (推測)、-아/어 있다 (状態の継続)、-는/ (으)ㄴ 편이다 (傾向)の文法内容と練習問題 第5回 第8課 来週韓国語で発表があるんですが 第6回 第8課 는/ (으)ㄴ데 (前置き)、-다가 (動作の中断、転換)、-아/어도 되다 (許可)の文法内容と練習問題 第7回 第9課 音声ファイルを聞きながら勉強しました 第8回 第9課 ㅁ [디귤] 不規則活用、- (으)면서 (同時進行)、-지 않다 (禁止)の文法内容と練習問題 第9回 第10課 建ててからもう30年にもなりました 第10回 第10課 ㅁ [시옷] 不規則活用、아/어지다 (状態の変化)、-(으)ㄴ 지 (時間の経過) 第11回 第11課 最近物価がとて上がったんですよ 第12回 第11課 ㅁ不規則活用、-거든요 (根拠や状況の説明)、- (으)ㄴ래요 (?) (意志・意向)の文法内容と練習問題 第13回 韓国文化コーナー (韓国ドラマと映画を紹介) 第14回 a: 講義 b: 期末試験			
3. 履修上の注意 全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にテキストの指定範囲を読み、新しい単語の意味を調べて整理しておきましょう。授業後に単語・表現は自分なりに復習し、理解を深めておきましょう。授業で習ったところは、必要に応じて小テストを実施します。			
5. 教科書 金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』（白帝社、2022年3月） ※2021年度版ではなく、2022年度版を用意してください。			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 韓国語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中にその内容に対して伝達します。			
8. 成績評価の方法 平常点 30%、小テスト 30%、定期試験 40%にして総合的に評価します。			
9. その他 韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN271J	
科目名		韓国語（中級）B	
担当者		金 孝珍	
1 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 中級レベルの文法、会話表現、構文を学習します。しっかり文型を練習した上で、その学習を効果的に行うために会話や読解、作文などを練習します。授業では毎回語彙とフレーズの簡単な問題を用意し、確実に覚えられているのか確認しながら進めていきます。 〈到達目標〉 中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。			
2. 授業内容 第1回 第6課 - (으)니까 (～だから、～ので 理由・原因), ㅁ [비읍] 不規則活用, -기 쉽다/어렵다 (～やすい, ～のが簡単だ/～にくい, ～のが難しい) の文法内容と練習問題 第2回 第6課 会話文と復習 plus 第3回 第7課 動詞, 存在詞, 形容詞, 指定詞の連体形+것 같다 (～ようだ 推測), -아/어 있다 (～ている 状態の継続), -는/ (으)ㄴ 편이다 (～なほうだ 傾向) の文法内容と練習問題 第4回 第7課 会話文と復習 plus, 総合練習 (1) 第5回 第8課 -는/ (으)ㄴ데 (～だが, ～けど, ～から, ～のに), -다가 (～ている途中で, ～ているうちに, ～ていて), -아/어도 되다 (～てもいい 許可) の文法内容と練習問題 第6回 第8課 会話文と復習 plus 第7回 第9課 ㅂ [디귤] 不規則活用, - (으)면서 (～ながら), -지 말다 (～しない, ～のをやめる 禁止) の文法内容と練習問題 第8回 第9課 会話文と復習 plus 第9回 第10課 ㄹ不規則活用 第10回 第10課 会話文と復習 plus 第11回 第11課 ㄹ不規則活用, -거든요 (～んですよ, ～ですから 根拠や状況の説明), - (으)는데요 (?) (～ます (か) 意志) の文法内容と練習問題 第12回 第11課 会話文と復習 plus 第13回 韓国文化コーナー (韓国ドラマや Kpop, ニュースの聞き取り) 第14回 a: 講義 b: 期末試験			
3. 履修上の注意 学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、復習を行ってください。授業で習ったことを復習してから必要に応じて小テストを行います。			
5. 教科書 金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』（白帝社、2022年3月）			
6. 参考書 『実用日韓・韓日辞典』（成美堂） 朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 定期試験 60%, 平常点 40% (授業への参加度, 小テスト, 課題を含む)			
9. その他 韓国の文化や習慣, リアルタイムの情報などにも耳を傾けて, 韓国社会全般の理解を深めていきましょう。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E	
科目名		TOEFL Reading	
担当者		YAMATAKA MIWA	
1 単位	Year:1	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: The TOEFL Reading course is designed to engage students with a variety of academic reading passages and comprehension questions covering a wide range of subjects, from art to science. This course is ideal for students planning to pursue undergraduate or graduate studies at English-speaking universities. In addition, it is open to anyone wishing to improve their English language skills in an academic context. Course Objectives ※To be well acquainted with TOEFL reading tasks. ※To build confidence in reading comprehension skills for introductory academic subjects.			
2. 授業内容 Course Content: 第1回：【対面授業】 Introduction to TOEFL Reading 第2回：【対面授業】 TOEFL Question Types (Part 1) 第3回：【対面授業】 TOEFL Question Types (Part 2) 第4回：【対面授業】 Reading: Practice Test 1 (Passage A) 第5回：【対面授業】 Reading: Practice Test 1 (Passage B) 第6回：【対面授業】 Reading: Practice Test 2 (Passage A) 第7回：【対面授業】 Reading: Practice Test 2 (Passage B) 第8回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Reading: Practice Test 3 (Passage A) 第9回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Reading: Practice Test 3 (Passage B) 第10回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Reading: Practice Test 4 (Passage A) 第11回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Reading: Practice Test 4 (Passage B) 第12回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Reading from an External Source (Passage A) 第13回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Reading from an External Source (Passage B) 第14回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 a のみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes via Zoom. 本コースは、春学期前半は Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を実施し、後半は対面授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom 招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【春学期最終授業の特例】 春学期の最終オンライン授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件: 【学習環境】 ※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。 ※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。 ※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。			

4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ※Students should bring their e-textbook, notebook, and all relevant class worksheets uploaded as PDF files on Oh-o! Meiji to class. ※Online assignments will be regularly uploaded to Oh-o! Meiji to assess comprehension of course topics.
5. 教科書 The Official Guide to the TOEFL iBT Test, Seventh Edition 出版社：ETS ISBN: 9781265477318
6. 参考書 During the course, additional worksheets in PDF format will be made available for download on Oh-o! Meiji.
7. 課題に対するフィードバックの方法 Individual feedback will be provided to all students through Oh-o! Meiji after the submission deadline. オンライン課題のフィードバックは、提出期限後に、Oh-o! Meiji のシステムを通じて、各学生に配信します。
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 【評価割合】 授業への貢献度：50% 課題：50% 【試験】 対面形式による試験は実施しません。 【単位取得条件】 単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。 【出席に関する規定】 ※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。 ※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。 ※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。 ※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。 ※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。
9. その他 To prospective students: I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has given me a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you in this course. This course aims to provide students with a solid unders

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E	
科目名		TOEFL Listening	
担当者		DUPLICE, JOHN	
1 単位	Year:1	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This TOEFL listening course is designed for students to become trained in typical listening tasks on a variety of topics that draw on campus-based situations, and a variety of academic subjects ranging from art to science (based on university lectures). We will use TOEFL practice tests and other materials in class to build listening strategies. Students will be required to do out-of-class listening tasks, as well as maintain a listening log/vocabulary notebook. (objectives) To become well equipped with the nature of TOEFL listening tasks and to enhance English listening proficiency. In addition, students will develop their academic vocabulary			
2. 授業内容 Week 1. Introduction to the course and TOEFL Listening Section, practice pre-test Week 2. Preparations and strategies for TOEFL Listening Section Week 3. Listening Question Type 1: Comprehension questions (gist, content, detail) Week 4. Listening Question Type 1: Comprehension questions (gist, content, detail) Week 5. Listening Question Type 2: Pragmatic questions (function, attitude) Week 6. Listening Question Type 3: Connecting information questions Week 7. "Mid-term" mock practice test Week 8. Review of question types and practice Week 9. Listening Practice Test 1 / Class review Week 10. Listening Practice Test 2 / Class review Week 11. Listening Practice Test 3 / Class review Week 12. Listening Practice Test 4 / Class review Week 13. Student review on learning Week 14. a. Final Test b. Course wrap-up			
3. 履修上の注意 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 600.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each week, students will do short reading and listening assignments in English. Students will share summaries of the listening and reading texts they have looked at with other students in the class. Students will also be able to develop their vocabulary through doing these homework assignments. Students may also be required to do some TOEFL test questions as part of their outside-of-class test preparation.			
5. 教科書 A notebook for vocabulary and note taking. Educational Testing Service. (2024). Official Guide to the TOEFL iBT Test, Seventh Edition (Official Guide to the TOEFL Test) (7th ed.). McGraw-Hill Education. ISBN: 978-1265477318			
6. 参考書 None			
7. 課題に対するフィードバックの方法 The final exam will be held on the last day of class, but this exam is focused for practice purposes for you to assess your improvement throughout the course.			
8. 成績評価の方法 Participation (including attendance) and quality of performance in assigned class activities 50% Outside of class activities (e.g., listening and vocabulary logs done for homework) 30% Midterm test 10% Final test 10%			

9. その他

The TOEFL iBT test is designed for students who want to pursue undergraduate or graduate study in English-speaking universities. However, the course is open to any student who is interested to learn and improve the English language skills necessary to suc

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E		
科目名		TOEFL Speaking		
担当者		YAMATAKA MIWA		
1 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: The TOEFL Speaking course is designed to help students develop skills required for typical speaking tasks across a variety of topics. These topics include personal experiences, campus-related situations, and a range of academic subjects such as art and science. This course is ideal for students planning to pursue undergraduate or graduate studies at English-speaking universities. In addition, it is open to anyone wishing to improve their English language skills in an academic context. Course Objectives: ※To be well acquainted with TOEFL speaking tasks. ※To improve English speaking proficiency in both general and academic topics.				
2. 授業内容 Course Content: 第1回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Introduction to TOEFL Speaking 第2回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 TOEFL Question Types (Part 1) 第3回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 TOEFL Question 1: The Independent Task (Selecting Your Preference) 第4回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 TOEFL Question 1: The Independent Task (Giving Your Opinion) 第5回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 TOEFL Question 1: Independent Task Activity 第6回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 TOEFL Question 2: The Integrated Tasks (Part 1) 第7回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 TOEFL Question 2: The Integrated Tasks (Part 2) 第8回：【対面授業】 TOEFL Question 3: General and Specific (Part 1) 第9回：【対面授業】 TOEFL Question 3: General and Specific (Part 2) 第10回：【対面授業】 TOEFL Question 3: General and Specific (Part 3) 第11回：【対面授業】 TOEFL Question 4: Summary (Part 1) 第12回：【対面授業】 TOEFL Question 4: Summary (Part 2) 第13回：【対面授業】 TOEFL Question 4: Summary (Part 3) 第14回：【対面授業】 a のみ : Course Review				
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes on Zoom. 本コースは、秋学期前半は Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を実施し、後半は対面授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom 招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【秋学期最終授業の特例】 秋学期の最終対面授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場合】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件： 【学習環境】 ※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。 ※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。 ※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。				

4. 準備学習（予習・復習等）の内容	※Students should bring their e-textbook, notebook, and all relevant class worksheets uploaded as PDF files on Oh-o! Meiji to class. ※Speaking assignments will be regularly uploaded to Oh-o! Meiji to assess students' speaking performance related to course topics.
5. 教科書	The Official Guide to the TOEFL iBT Test, Seventh Edition 出版社：ETS ISBN：9781265477318
6. 参考書	During the course, additional worksheets in PDF format will be made available for download on Oh-o! Meiji.
7. 課題に対するフィードバックの方法	Individual feedback on speaking assignments will be provided to all students after their presentations. For in-person classes, feedback will be distributed in paper format. For online classes, feedback will be provided in PDF format through Oh-o! Meiji.
8. 成績評価の方法	成績評価の方法 【評価割合】 授業への貢献度：50% 課題：50% 【試験】 対面形式による試験は実施しません。 【単位取得条件】 単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。 【出席に関する規定】 ※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。 ※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。 ※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。 ※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。 ※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。
9. その他	To prospective students: I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has given me a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you in this course. This course aims to provide students with a comprehensiv

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E		
科目名		TOEFL Writing		
担当者		KIERNAN, PATRICK		
1 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course is to prepare students for the writing section of the TOEFL Test. The test format changed in July 2023 to include an Academic Discussion writing task together with the integrated writing task. This course will focus on developing the skills needed to complete both the new task and the integrated one. To begin with, the course will focus on analyzing the test and model answers in order to understand what is required to write successful answers. Practice activities to develop the skills needed will include classroom tasks working and communicating with other students; homework assignments to build the necessary listening, reading, writing, and discussion skills; and practice with the TOEFL writing tasks. The main text for this course is a collection of seven practice writing tests that will be supplemented with other materials in order to enable you to perform effectively on these tasks. Even though this is a course focused on writing, the integrated task means that there will be extended practice in reading and listening. In addition, to help develop the skills for the written discussion section, we will also practice having verbal discussions of the topics. Therefore, this course will be an effective way to develop communicative academic skills in English above and beyond the specific requirements of the writing section of the TOEFL test. Course aims (1) To become familiar with the structure and content of the writing section of TOEFL (2) To develop effective test taking strategies for the writing section of TOEFL (3) To develop the general academic skills needed to succeed in TOEFL (4) To improve the English academic skills needed for study at an overseas university				
2. 授業内容 Week 1 Course introduction Week 2 History PT1 - Integrated Week 3 History PT12- Academic Discussion Week 4 Astronomy PT2- Integrated Week 5 Political Science PT9- Academic Discussion Week 6 Education PT3- Integrated Week 7 Sociology PT10/PT14- Academic Discussion Week 8 Review / Practice Test 1 Week 9 Anthropology PT4- Integrated Week 10 Psychology PT11- Academic Discussion Week 11 Health PT5- Integrated Week 12 Economics PT13- Academic Discussion Week 13 History PT7 - Integrated Week 14 Review / Practice Test 2				
3. 履修上の注意 This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should preview and review the content of all classes and will also be given other assignments to complete at home during the course.				
5. 教科書 Montayre, R. J. G. (2023) TOEFL Writing Practice Test 2023-2024.				
6. 参考書 Practice tests available online at: https://www.ets.org/pdfs/toefl/toefl-ibt-writing-practice-sets.pdf Other resources will be shared through Oh-o! Meiji during the course				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Weekly classwork and assignments will be either submitted during class or through Oh-o! Meiji and feedback will be given in class or on Oh-o! Meiji according to the submission method.				
8. 成績評価の方法 40% Participation and classwork 20% Assignments				

20% MT Test
20% Final Test

9. その他

Stick with the course and try to make what you learn your own so that you can become confident in writing these short timed essays in accordance with the exam format.

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E		
科目名		TOEFL Preparation A		
担当者		YAMASHITA YOSHIE		
1 単位	Year:1	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course focuses on the Reading Section of TOEFL iBT and is designed for advanced students who want to achieve 20 or more in the Reading Section. The various question types found in the Reading Section will be introduced and students will practice each question type. Also, students will learn different types of texts and vocabulary specific to the academic subject areas. There will be a final exam at the end of the term.				
2. 授業内容 WEEK 1: Introduction, Preview test WEEK 2: Chapter 1 Fact Questions WEEK 3: Chapter 2 Negative Fact Questions WEEK 4: Chapter 3 Inference Questions WEEK 5: Chapter 4 Rhetorical Purpose Questions Vocabulary Review WEEK 6: Mini Test 1, Review WEEK 7: Chapter 5 Vocabulary Questions WEEK 8: Chapter 6 Reference Questions WEEK 9: Chapter 7 Sentence Simplification Questions WEEK 10: Chapter 8 Text Insertion Questions, Vocabulary Review, Mini Test 2 WEEK 11: Chapter 9 Prose Summary Questions WEEK 12: Chapter 10 Table/Chart Questions WEEK 13: Vocabulary Review 3, Review WEEK 14: Course review + Final Test				
3. 履修上の注意 『履修のための英語要件』の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 600) cannot register. *This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary. This may be either electronic or paper-based.				
5. 教科書 Building Skills for the TOEFLiBT, 3rd edition, Reading by Paul Edmunds, Nancie McKinnon, Jeff Zeter Compass Publishing, ISBN: 978-1-68591-348-9				
6. 参考書 Handouts, the Internet, O-oh Meiji! system				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given through grades or comments, or both.				
8. 成績評価の方法 Class participation and attendance: 40% Homework/Quizzes: 10% Final examination: 50%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E		
科目名		TOEFL Preparation B		
担当者		YAMASHITA YOSHIE		
1 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course focuses on the Writing Section of the updated TOEFL iBT and is designed for advanced students who want to obtain 20 or more in the section. There are two parts in the Writing Section: Integrated Task and Academic Discussion. Students will learn how to approach one by one and practice with the questions included in the textbook and also from other materials provided in the class. There will be a final exam at the end of the term.				
2. 授業内容 Week 1 Course introduction Week 2 Chapter 1 About the new TOEFL writing section Week 3 Chapter 2 About the integrated task Week 4 Chapter 3 Integrated writing practice questions (1) Week 5 Chapter 3 Integrated writing practice questions (2) Week 6 Chapter 3 Integrated writing practice questions (3) Week 7 Chapter 3 Integrated writing practice questions (4) Week 8 Review / Practice Test 1 Week 9 Chapter 4 About the writing for an academic discussion task (1) Week 10 Chapter 5 About the writing for an academic discussion task (2) Week 11 Chapter 5 About the writing for an academic discussion task (3) Week 12 Chapter 5 Comomon grammar and language use errors Week 13 Chapter 6 Review/Practice Test 2 Week 14 Review / Final Exam				
3. 履修上の注意 『履修のための英語要件』の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 600) cannot register. *This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please have a good learner dictionary. This may be either electronic/web or paper-based.				
5. 教科書 The Test Resources Guide to the New TOEFL iBT® Writing Section By Michael Goodine, 2023/8/23, ISBN 979-8858651208:				
6. 参考書 Handouts, the Internet, Oh-o! Meiji system				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be given through grades or comments, or both.				
8. 成績評価の方法 Participation and classwork 40% Practice Tests 20% Final Test 40%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E		
科目名		English Exams A		
担当者		KIERNAN, PATRICK		
1 単位	Year:1	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course is to prepare students taking English academic exams such as IELTS. Accordingly, it will focus on introducing the question types found in IELTS as well as the strategies needed to perform well on these tests. The main textbook for this course is a general English based on the IELTS test but this will be used in conjunction with the IELTS practice material that will be provide in class or for homework. Both IELTS (and similar tests such as TOEFL) are designed to ensure that the English ability of students studying on English-based programs is adequate. This includes having sufficient academic vocabulary and communication skills to follow lectures, complete reading and writing assignments, and participate in campus life using English. The class will therefore be taught in English with these overall aims in terms of English communication in mind. Each week will focus on a common test topic and specific strategies and skills needed to be successful in such tests as well as academic vocabulary. Practice tests or textbook materials will be provided for extra practice to develop these skills. By the end of the course, students should have a familiarity with both IELTS have acquired effective strategies for taking it and have improved knowledge of the vocabulary and skills targeted by these tests. Although the focus of the course will be on texts the classroom method with focus on communicative activities. (1) (1) To become familiar with the structure and content of academic English exams, particularly IELTS (2) To develop effective test taking strategies (3) To develop a good vocabulary of academic English (4) To improve the practical English skills targeted by the tests and needed for study abroad				
2. 授業内容 Week 1 Course introduction Week 2 The man-made environment Week 3 The man-made environment Week 4 The man-made environment Week 5 Leisure and education Week 6 Leisure and education Week 7 Leisure and education + MT test Week 8 News and media Week 9 News and Media Week 10 News and Media Week 11 Travel and Transport Week 12 Travel and Transport Week 13 Travel and Transport Week 14 Review and final test				
3. 履修上の注意 This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as IELTS and TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should review all classwork. Other assignments will be given as homework to be completed at home depending on the pace of the class and specific goals of the students taking the class. For example, although the main focus of classwork will be on examples from IELTS, those with a main interest in taking TOEFL will have the option to focus on TOEFL rather than IELTS examples.				
5. 教科書 Mindset for IELTS with updated digital pack: Level 2 Student’ s Book with Digital Pack) (March 2023) Cambridge University Press. ISBN: 9781009280303				
6. 参考書 Other class materials, resources, or suggestions for further reading will be shared in class and through Oh-o! Meiji.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback on assignments will be given during class or through Oh-o! Meiji. Written tasks should be submitted to Oh-o! Meiji and feedback, including corrections and suggestions will be provided. Speaking tasks will be followed up with individual oral feedb				

8. 成績評価の方法

Classwork and participation: 40%

Homework: 20%

Test practice: 40%

9. その他

Do your best and keep practicing so that you can get the best possible score when you take IELTS TOEFL or other academic tests and improve your confidence and skill in using English at the same time!

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E	
科目名		English Exams B	
担当者		KIERNAN, PATRICK	
1 単位	Year:1	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Summary This course is to prepare students taking English academic exams such as TOEFL and IELTS. The main textbook for this course is based on the IELTS test so it is ideally suited to students considering taking the IELTS test. It is, however, also a challenging course to help you push up your English skills. Achieving success in IELTS should show that you have sufficient academic vocabulary and communication skills to follow lectures, complete reading and writing assignments, and participate in campus life using English. The class will therefore be taught in English with these overall aims in terms of English communication in mind. Each week will focus on specific strategies and skills needed to be successful in such tests as well as academic vocabulary. Practice tests or textbook materials will be used to practice and develop these skills. By the end of the course, students should have a familiarity with IELTS, have acquired effective strategies for taking academic tests and improved the kind of vocabulary and skills targeted by these tests. As these tests are used to confirm the English ability of students applying for study abroad on exchange programs, I welcome questions or advice on study abroad. Although the focus of the course will be on texts the classroom method with focus on communicative activities. Objectives (1) To become familiar with the structure and content of academic English exams, particularly IELTS (2) To develop effective test taking strategies (3) To develop a good vocabulary of academic English (4) To improve the practical English skills targeted by the tests and needed for study abroad			
2. 授業内容 Week 1 Course introduction (Travel) Week 2 Business and Work - Reading Week 3 Business and Work - Writing/Speaking Week 4 Business and Work - Listening Week 5 The Natural Environment Reading Week 6 The Natural Environment Writing/Speaking Week 7 The Natural Environment Listening Week 8 Review / Practice Test 1 Week 9 Educational Systems Reading Week 10 Educational Systems Writing/Speaking Week 11 Educational Systems Listening Week 12 Festivals and Traditions Reading Week 13 Festivals and traditions Writing/Speaking Week 14 Review / Practice Test 2			
3. 履修上の注意 This course is open to all students with an interest in learning to take or improve scores academic tests such as IELTS and TOEFL. Students should be comfortable with taking a course taught in English and be prepared to use English during class. Students on the GREAT program can take this course as one of the required electives for GREAT.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should review all classwork. Other assignments will be given as homework to be completed at home depending on the pace of the class and specific goals of the students taking the class. For example, although the main focus of classwork will be on examples from IELTS, those with a main interest in taking TOEFL will have the option to focus on TOEFL rather than IELTS examples.			
5. 教科書 Mindset for IELTS with updated digital pack: Level 2 Student’ s Book with Digital Pack) (March 2023) Cambridge University Press. ISBN: 9781009280303			
6. 参考書 Other resources or suggestions for further reading will be shared in class and through Oh-o! Meiji			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback on assignments will be given during class or through Oh-o! Meiji. Written tasks should be submitted to Oh-o! Meiji and feedback, including corrections and suggestions will be provided. Speaking tasks will be followed up with individual oral feedb			

8. 成績評価の方法

Class participation 40%

Homework: 20%

Test practice (20% x2): 40%.

9. その他

Do your best and keep practicing so that you can get the best possible score when you take IELTS TOEFL or other academic tests.

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E	
科目名		Genres of Writing	
担当者		KIERNAN, PATRICK	
1 単位	Year:1	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Summary This is an English reading and writing elective course which focuses on practical English writing through exploring the features of different kinds of writing. These different kinds of writing are called “genres”. The course will focus on reading, analyzing, and imitating some business and other common genres of writing such as business and casual email, social media posts, product/service reviews, and business reports. This will help you acquire and use these writing genres for communication in everyday life and teach you how to recognize and imitate features of other genres that you may encounter in the future. Learning about genre helps overcome the common problem that student writers have with confusing different genres. Confusing genres is common when students do not realize that ways of speaking and writing in one situation are not appropriate in other situations. During the course, you will learn conventional expressions which are frequently used in the genres. Objectives (1) To be able to write clearly in some business and other common genres of English writing (2) To be familiar with common expressions used in some common genres of English writing (3) To be able to identify features of a writing genre (4) To become familiar with the three kinds of meaning involved in communication and how they shape genre			
2. 授業内容 1. Course introduction and overview: What is genre writing and why is it important? 2. Comparing a business and casual email 3. Writing business email 4. Writing Formal and informal email 5. Email – customer-supplier sequence 6. Informal email exchange 7. Preparing a blog and self-introduction 8. Coffee shop comparison 9. Writing a product/service comparison 10. Customer reviews 11. Event reviews 12. Personal narrative 13. Blog rants and farewell blog 14. Review and final test			
3. 履修上の注意 Students should be comfortable with taking a class taught in English and using Word to write assignments. English requirement : TOEIC 600～			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each class will focus on either reading and analyzing examples of particular business writing genres or preparing a written example of the genre. Therefore, homework will generally consist of preparing the readings in advance or completing the writing tasks. Other supplementary readings to help with better understanding the concept of genre may also be assigned.			
5. 教科書 All materials for this class will be provided in class and posted on Oh-o! Meiji.			
6. 参考書 All reference materials for this class will be provided during class and made available on Oh-o! Meiji.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Weekly in class writing assignments will be posted on Oh-o! Meiji and students will submit assignments and receive feedback through Oh-o! Meiji.			
8. 成績評価の方法 attendance/participation: 30% general writing tasks (20%) email tasks (20%); blog tasks (20%);			

Review quiz: 10%.

9. その他

This is a practical English writing course open to students of all levels of English ability and accordingly includes tasks that are adaptable to the student's ability. You can learn practical English skills that may be useful to you at work in and gain

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111E		
科目名		Speech & Debate		
担当者		MOREAU, ROBERT		
1 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈summary〉 In this course, students will prepare and deliver an informative speech, as well as a persuasive speech. Also, students will learn basic debating skills such as constructing effective arguments, and giving refutations. We will cover ways of effectively organizing speeches and debates. In preparing the materials for this class, the students’ discussion, research, and public speaking skills will be developed. Students will actively listen to debates and speeches, make notes, and write summaries and reflection on what they have learned. 〈objectives〉 The main objective of this course is to develop students’ ability to prepare and deliver effective, academic speeches and debates in English. Students will be able to prepare effective visual aids, and speak from well-organized, key point outlines. An additional objective of the course is the development of students’ basic research skills, and ability to make notes in English from written and spoken texts.				
2. 授業内容 Week 1. Introduction to the class, general concepts on public speaking, impromptu speeches Week 2. Impromptu speeches, informative speech, general concepts and preparation Week 3. Informative speeches, preparation and practice Week 4. Informative speech presentations and peer review Week 5. Informative speech presentations and peer review, introduction to persuasive speech Week 6. Persuasive speech general ideas and preparation Week 7. Persuasive Speech preparation and practice Week 8. Persuasive speech presentations and peer review Week 9. Persuasive speech presentations and peer review, introduction to debate Week 10. Debate: general structure and introduction speeches Week 11. Debate: refutations Week 12. Debate: conclusions and practice Week 13. Final debate and peer review Week 14. a. Final debates and peer review b. Class wrap-up				
3. 履修上の注意 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 600.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students will need to do some research outside of class in order to prepare for their speeches and debates. They will also be expected to review any concepts related to speech and debate preparation covered in the class. Students will need to practice their speeches for homework as well.				
5. 教科書 There is no textbook. Materials will be provided as handouts during class or links on Oh-o! Meiji. You should keep a file for handouts and all the other study materials for this course. Students will also be required to do their own online searches for in				
6. 参考書 None				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback for the speeches and debates will be provided in the class. Student papers, notes, outlines, and other materials worked on will be handed in through Oh-o Meiji. General comments on assignments will be published on the Oh-o! Meiji system.				
8. 成績評価の方法 Class participation (notes, discussions, homework, reflections) 25% Informative Speech 25% Persuasive Speech 25% Debate 25% Grades will be based on content, organization, and the overall effectiveness of speeches and debates. Students will submit notes, summaries, self-reflections and other writings about the projects as required. The class participation is based on the effort that people make in class, completion of homework tasks, and having a positive attitude towards the course.				

9. その他

None

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN116J		
科目名		英語スペシャルスタディ A〔M〕		
担当者		辻 昌宏		
1 単位	1 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本授業は、シェイクスピアの時代（16～17 世紀イングランド）と彼の作品を、言語表現（韻律・修辞・語法）／演劇表現（上演・身体・声）／映画表現（映像・編集・音響）という複合的な視点から学ぶメディア科目である。台本（テキスト）を読むだけでなく、当時の劇場文化や観客のあり方を踏まえながら、舞台上演や映画化作品を比較し、「同じ作品が媒体の違いによってどのように意味づけを変えるのか」を検討する。 具体的には、作品の場面読解・音読を行い、セリフのリズムや言い回しが感情表現や人物造形にどう関わるかを確認する。また、代表的な映像化（映画・舞台映像）を部分視聴し、カメラワーク、俳優の演技、字幕・翻訳、音楽や効果音などが解釈に与える影響を分析する。テキスト・舞台・映像という複数の「メディア」を往還しながら、シェイクスピア作品の表現の豊かさを実感し、批評的に読み解く力を養う。 〈到達目標〉 シェイクスピアの生きた時代の政治・宗教・社会状況（王権、宗教対立、検閲、都市文化、劇場制度など）を理解し、作品の背景として説明できる。 初期近代英語の基本的特徴（語彙・語法・修辞・韻律）に留意しながら、重要な場면을精読し、根拠を示して解釈できる。 音読や簡易上演を通して、セリフのリズム、間、強勢、反復などが生む効果を体験し、演劇的表現として味わうことができる。 舞台上演と映画化作品を比較し、演出・演技・映像技法（構図、編集、音響、字幕等）が作品理解をどう方向づけるかを指摘し、メディアの違いを踏まえた分析ができる。 作品の解釈を、背景知識と具体的な言語表現・演出上の根拠にもとづいて整理し、短い文章または口頭発表として論理的に表現できる。				
2. 授業内容 （各回、テキスト精読に加え、適宜、上演映像・映画化作品等を部分視聴し、演劇的表現／映画表現の比較を行う。） 第1回 インTRODakション（授業の進め方／シェイクスピアとメディア：テキスト・舞台・映像）（リアルタイム配信） 第2回 『ジュリアス・シーザー』(1)（時代背景・主要人物／場面の読解と音読） 第3回 『ジュリアス・シーザー』(2)（上演を前提とした台詞の機能：間・強勢・修辞） 第4回 『ジュリアス・シーザー』(3)（場面分析：権力・政治・説得のレトリック） 第5回 『ジュリアス・シーザー』(4)（映像化／舞台映像の比較：演出・演技・字幕） 第6回 『ジュリアス・シーザー』(5)（人物造形と視点：語りの効果、観客への働きかけ） 第7回 『ジュリアス・シーザー』(6)（総合検討：テキスト／舞台／映像の差が解釈をどう変えるか） 第8回 『十二夜』(1)（喜劇の枠組みと語り口／場面の読解と音読） 第9回 『十二夜』(2)（言葉遊び・誤解・ジェンダー表象：台詞の仕掛け） 第10回 『十二夜』(3)（舞台表現：身体・声・空間の使い方） 第11回 『十二夜』(4)（映像化／舞台映像の比較：テンポ、カメラ、音響、字幕） 第12回 『十二夜』(5)（人物関係の整理と解釈：喜劇性とアイロニー） 第13回 『十二夜』(6)（総合検討：複数メディアで読む『十二夜』） 第14回 まとめ（到達目標の確認／全体の振り返り） ※上記予定は、進行状況等により変更される場合がある。				
3. 履修上の注意 本授業はメディア授業であり、オンデマンド授業を中心に実施します。リアルタイム配信（オンライン授業）となるのは、第1回（4月15日）および学期末試験（期末試験。日程は後日発表）のみです。 なお、授業内容・進め方・進度は、状況により変更されることがあります。 オンデマンド授業は、各回の動画を最初から最後まで視聴し、小テストを受験してはじめて出席扱いとなることに注意すること。 Panopto では、各回について受講者が視聴した時間（視聴ログ）が記録されます。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 時代背景の確認 シェイクスピアの時代（16～17 世紀イングランド）の政治・宗教・社会・文化（王権、宗教改革と対立、検閲、劇場の制度、都市文化など）について、ウィキペディア（日本語版・英語版）に加え、文学辞典・歴史概説書等を参照して基礎事項を確認すること。授業で扱う作品・人物に関しては、固有名詞（人物名・地名・事件名）を中心に要点を整理しておくこと。 『ジュリアス・シーザー』の前提知識 古代ローマの政治史（共和政末期）と、ユリウス・カエサル（＝ジュリアス・シーザー）の事績（主な戦役、政治改革、暗殺に至る経緯）を、歴史書や信頼できる概説（ウィキペディアを含む）で確認すること。特に「元老院」「独裁官」「共和政」などの用語は、授業の理解に直結するため意味を押さえること。 テキストの予習（語句・表現） 次回扱う場面を事前に読み、分からない語句や言い回し（比喩・修辞・慣用表現）を辞書で確認しておくこと。必要に応じて、どの箇所が理解しにくい、なぜそう感じるかをメモして授業に臨むこと。				

音読（発声・リズム） 授業中に紹介する英語表現や台詞について、強勢・間・抑揚を意識して朗読すること（短い部分でよい）。同じ台詞でも言い方で印象が変わる点に注意し、可能であれば自分の朗読を録音して聞き返し、改善点を確認すること。
5. 教科書 教科書は使用しない。プリントを Oh-o!Meiji で配布する予定。
6. 参考書 1) ローマ史・カエサル（『ジュリアス・シーザー』の背景） 藤谷道夫『全ての叡智はローマから始まった』（さくら舎） — ローマ世界の発想・制度・文化の輪郭をつかむのに有用。 塩野七生『ローマ人の物語』（新潮文庫）（8）～（13） — 共和政末期～帝政初期の流れを物語形式で把握でき、作品の政治的緊張や権力観の理解に役立つ。 井上浩一（など）『図説 ローマ』（図説シリーズの概説書） — 用語・制度・地理が視覚的に整理され、授業の予習に向く。 Mary Beard, SPQR — ローマ史
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji の機能を利用してコメントを付す。
8. 成績評価の方法 オンデマンド授業の受講状況（小テスト） 70% 各回の動画を最初から最後まで視聴したうえで、小テストを受験する（複数回）。小テストは締切日までに受験すること。 Oh-o! Meiji のディスカッション参加 10% ディスカッション機能を通じて、授業内容に関する質問・意見表明を行う。 学期末試験（リアルタイム配信で実施） 20%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN116J	
科目名		英語スペシャルスタディ B〔M〕	
担当者		辻 昌宏	
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 メディア授業です。 （概要） 本授業はオンライン授業として、シェイクスピア作品にもとづく DVD や関連する映画作品を視聴しながら、言語表現・演出・映画的表现を多角的に学ぶ。映像は鑑賞にとどまらず、場面の構図、カメラワーク、編集、音響、俳優の演技、字幕・翻訳などが解釈に与える影響を具体的に検討し、同一場面が媒体によってどのように意味づけを変えるかを考察する。 言語表現については、適宜、台詞の原文を抜粋して精読し、語彙・語法・修辞・リズム（韻律）に留意しつつ、台詞が人物造形や劇の構造にどのように働くかを確認する。映像（メディア）とテキスト（言語）を往還しながら、作品理解を深める。 （到達目標） シェイクスピア作品における主要な英語表現（語彙・修辞・比喩・リズム）の特徴を理解し、根拠を示して説明できる。 作品の演劇的構造（場面構成、人物関係、対立の配置、喜劇／悲劇の仕組み等）を把握し、要点を整理して述べられる。 映像作品における演出・映画的表现（演技、カメラ、編集、音響、字幕等）を分析し、解釈との関係を批評的に語れる。 テキストと映像を比較し、媒体の違いが作品理解に与える効果を踏まえて、自分の見解をまとめられる。			
2. 授業内容 本授業は原則オンデマンドで実施する。ただし、第 1 回授業および学期末試験（第 14 回）はリアルタイム配信とする。 第 1 回 インTRODクシヨン（授業の進め方／テキスト・舞台・映像の視点） 第 2 回 『ヘンリー五世』(1) 第 3 回 『ヘンリー五世』(2) 第 4 回 『ヘンリー五世』(3) 第 5 回 『ヘンリー五世』(4) 第 6 回 『ヘンリー五世』(5) 第 7 回 『ハムレット』(1) 第 8 回 『ハムレット』(2) 第 9 回 『ハムレット』(3) 第 10 回 『ハムレット』(4) 第 11 回 『ハムレット』(5) 第 12 回 『ハムレット』(6) 第 13 回 『ハムレット』(7) 第 14 回 学期末試験（リアルタイム配信で実施） ※上記予定は、進行状況等により変更される場合がある。			
3. 履修上の注意 原則としてオンデマンド授業であるが、第 1 回授業および学期末試験はリアルタイム配信を実施する。リアルタイム配信の日時・実施方法、ならびにオンデマンド回の視聴方法・小テストの締切等の詳細は、Oh-o! Meiji を通じて周知する。 オンデマンド回の動画配信は、各回の動画を最初から最後まで視聴したうえで、小テストに回答することを前提とする。動画視聴と小テスト受験をもって当該回の受講（出席）として扱う。Panopto では各回について、受講者の視聴時間（視聴ログ）が記録されるため、視聴状況の確認に用いられる。 本授業では、シェイクスピア作品の台詞を扱うにあたり、シェイクスピア時代の英語（語彙・語法・言い回し、比喩や修辞、語のニュアンス）に最大限の注意を払い、原文に慣れていくことが重要である。分からない語句や表現は辞書等で確認し、授業中に示す原文抜粋を繰り返し読み、可能であれば音読して、リズムや強勢、間の取り方も含めて理解を深めること。 さらに「学生向けの注意」を強めたい場合は、最後に 「不明点はディスカッションで質問すること／締切後の受験は原則認めない」なども自然に追加できます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ストーリーについて、インターネットや文学辞典をもちいて確認すること。 授業中紹介する英語表現や台詞を朗読すること。 シェイクスピア時代の英語の文法や言い回しに慣れること。			
5. 教科書 プリント配布			
6. 参考書 河合祥一郎『シェイクスピアー人生劇場の達人』（中公新書） 森祐希子『映画で読むシェイクスピア』（紀伊国屋書店）			

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji の機能を利用してコメントを付す。

8. 成績評価の方法

オンデマンド授業の視聴・小テスト 70%

各回の動画を最初から最後まで視聴したうえで、小テストに回答する。小テストは複数回実施し、締切日までに受験したものを評価対象とする。動画視聴と小テストの達成状況（正答・到達度等）を総合して評価する。

Oh-o! Meiji のディスカッション参加 10%

ディスカッション機能を通じて、授業内容に関する質問や意見表明を行う。単なる感想ではなく、授業で扱った場面・表現・演出に言及しつつ、根拠を示して発言する姿勢を評価する。

学期末試験（対面で実施） 20%

学期末に対面で試験を実施し、授業で扱った作品・表現・論点の理解度を評価する。試験の実施要領（形式・日時等）は Oh-o! Meiji で周知する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語表現論		
担当者		辻 昌宏		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 オスカー・ワイルドやジェイン・オースティンなどの作品（主に小説）を読み、あわせてそれらの映像化作品を DVD／ブルーレイ等で鑑賞する。原作テキストと映像表現の違いに注目し、人物造形、語り（視点）、場面構成、台詞、演出などの観点から表現の特徴を味わいながら理解する。 〈到達目標〉 ワイルドやオースティンらの文章や台詞を読み、声に出して読むことを通じて、印象的な数行を暗唱できるようにする。また、物語の構造や表現技法（語りの視点、時間構成、人物の描写、象徴や皮肉など）を理解し、原作と映像化の差異を根拠を挙げて説明できる力を身につける。さらに、ワイルドやオースティン以外の作品を読む・観る際にも、比較の視点を応用してより深く味わえる能力を獲得する。				
2. 授業内容 オスカー・ワイルドおよびジェイン・オースティンの作品を原文で読み、あわせて映画化作品（DVD／ブルーレイ等）を鑑賞することを並行して行う。名台詞や印象的な一節を精読し、実際に声に出して朗読する。英語のリズムやレトリックを学びながら、英語表現の工夫を少しずつ身につけていく。また、台詞（セリフ）の抑揚や作品全体の流れを確認し、原作と映像表現の違いを考察する。 第1回 イントロダクション 第2回 ワイルドとその時代 第3回～第7回 『まじめが肝心 (The Importance of Being Earnest)』 第8回 オースティンとその時代 第9回～第14回 『高慢と偏見 (Pride and Prejudice)』				
3. 履修上の注意 本授業は基本的に対面授業で行う。ただし、大学の方針等によりオンライン授業となる場合、授業内容・進め方・進度が変更となることがある。 『高慢と偏見』(1813) や『まじめが肝心』(1895) には、現在の英語とは異なる古めかしい表現が見られるが、19 世紀英語の専門的知識を前提とはしない。必要な事項は授業中に丁寧に説明する。わからない点は遠慮せずに質問し、また作品や内容についての意見・感想も積極的に発表してほしい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に板書するワイルドやオースティンの言葉について、単に意味を理解するだけでなく、語の選び方、文の形（語順・構文）、言い回し、表現の型に注目して読むこと。比喻、反復、対句、言葉遊び、皮肉、婉曲表現などのレトリックがどのように効果を生んでいるかを考え、気づいた点を簡単にメモしておくこと。作品中の重要な台詞や印象的な一節については、背景（登場人物の状況、場面の流れ）を確認したうえで、声に出して何度も朗読する。 朗読の際は、発音だけでなく、英語のリズム（強勢・間）、イントネーション、文末の落とし方に注意し、台詞として自然に聞こえるように練習すること。可能であれば、映画化作品の該当箇所を見直し、原文の台詞が映像の中でどのような抑揚・速度・間で話されているかを確認し、自分の朗読と比べてみる。授業では、こうした準備を土台にして、原作テキストと映像表現の違いをより具体的に検討していく。				
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。授業で扱う原文（抜粋）や解説資料、設問等は、担当教員が作成したプリント（配布資料）を用いる。配布資料は授業の進度に合わせて Oh-o! Meiji を通じて適宜配布するので、各自で必ず入手・保存し、授業前後に参照できるようにしておくこと。印刷は必須ではない（PC／タブレット等で授業中に参照できれば可）。ただし、書き込みや精読のために各自の判断で印刷して用いてもよい。				
6. 参考書 授業内容の理解を深めるため、必要に応じて次の文献を参照する。 新井潤美『自負と偏見のイギリス文化——J・オースティンの世界』(岩波新書) 宮崎かすみ『オスカー・ワイルド——「犯罪者」にして芸術家』(中公新書)				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji の機能を利用してコメントを付す。				
8. 成績評価の方法 平常点（課題、リアクションペーパー、小テスト等） 50％ 授業参加（音読、日本語訳、意見表明、コメント等） 20％ 期末試験 30％				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J		
科目名		英語コミュニケーション初級 A		
担当者		戸田 博之		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 今日のビジネス世界では、E メールがコミュニケーション手段として最重要なものとなり、一方で世界共通語としての英語の普及が著しい。このような環境下で、将来国際的ビジネス舞台で活躍を目指す者には、英語でビジネス E メールを書く力をつけることが強く望まれる。この力には、単に言語としての英語の運用力だけではなく、相手を動かし仕事を前に進めるためのさまざまな戦略を用いる力も含まれる。本コースでは、当初は身近な話題を使って、後半では次第に実際のビジネス現場で見られるような場面を想定し実際に E メールを多く書くことを通して、学習者が、英文ビジネス E メールライティングの基礎を築くことを目指す。コースの運営に当たっては、英文ビジネス E メールライティングに限らず、長年金融業界でビジネス実務に携わってきた講師の知識、経験、ノウハウを、学生諸君の求めに応じて提供していく所存である。 〈達成目標〉 1. 英文 E メールライティングの原則的なルールが説明できる。 2. どのような E メールが仕事を実際に前に進めることのできる機能的な E メールであるかを説明できる。 3. さまざまな場面に柔軟に対応しつつ、英文でビジネス E メールを書くことに抵抗がない。 4. ビジネス現場にいる者のマインドセットを理解できる。				
2. 授業内容 Week 1 Course orientation, Introducing yourself (コースガイダンス, 自己紹介) Week 2 Writing about work experience Week 3 Arranging meetings Week 4 Comparing formal and informal writing styles Week 5 Writing about plans Week 6 Making a polite request Week 7 Mid-term review Week 8 Asking for recommendations Week 9 Recommending Week 10 Inviting Week 11 Accepting invitation Week 12 Making an inquiry Week 13 Responding to an inquiry Week 14 a: Final exam b: Review, reflection, and discussions E メールライティングの題材については、適宜上記以外のものを採り上げる可能性がある。				
3. 履修上の注意 本科目は受講人数に制限があり、履修 に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を 参照すること。 This is an English writing course. The class will be conducted in English. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本コースの達成目標実現のためには、実際に多くの英文ビジネス E メールを書くことが肝要となる。多くの課題としてのライティングにも積極的に取組むことで、大きな効果が期待できるため、クラス内外の課題を着実にこなすことがまず求められる。したがって、クラスに出席し、宿題を期限内の提出を着実にを行うことが、評価の最大ポイントとなる。 さらに、ライティング能力を引き上げるために、他の学習者が書いたものを見て評価するという活動が極めて効果的であるため、クラス内で、これを行う相互評価活動や発表に積極的に参加し、発言することも期待する。				
5. 教科書				
6. 参考書 適宜指示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 Attendance : 10% In-class writing and class participation : 40% Homework submission : 40%				

Final exam : 10%

9. その他

The class is taught in English with occasional Japanese use where deemed necessary.
Bring your own PC to the class.

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN111J	
科目名		英語コミュニケーション初級B	
担当者		戸田 博之	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 今日のビジネス世界では、E メールがコミュニケーション手段として最重要なものとなり、一方で世界共通語としての英語の普及が著しい。このような環境下で、将来国際的ビジネス舞台で活躍を目指す者には、英語でビジネス E メールを書く力をつけることが強く望まれる。この力には、単に言語としての英語の運用力だけではなく、相手を動かし仕事を前に進めるためのさまざまな戦略を用いる力も含まれる。本コースでは、当初は身近な話題を使って、後半では次第に実際のビジネス現場で見られるような場面を想定し実際に E メールを多く書くことを通して、学習者が、英文ビジネス E メールライティングの基礎を築くことを目指す。コースの運営に当たっては、英文ビジネス E メールライティングに限らず、長年金融業界でビジネス実務に携わってきた講師の知識、経験、ノウハウを、学生諸君の求めに応じて提供していく所存である。 （達成目標） 1. 英文 E メールライティングの原則的なルールが説明できる。 2. どのような E メールが仕事を実際に前に進めることのできる機能的な E メールであるかを説明できる。 3. さまざまな場面に柔軟に対応しつつ、英文でビジネス E メールを書くことに抵抗がない。 4. ビジネス現場にいる者のマインドセットを理解できる。			
2. 授業内容 Week 1 Course orientation, Introducing yourself（コースガイダンス，自己紹介） Week 2 Writing about work experience Week 3 Arranging meetings Week 4 Comparing formal and informal writing styles Week 5 Writing about plans Week 6 Making a polite request Week 7 Mid-term review Week 8 Asking for recommendations Week 9 Recommending Week 10 Inviting Week 11 Accepting invitation Week 12 Making an inquiry Week 13 Responding to an inquiry Week 14 a: Final exam b: Review, reflection, and discussions E メールライティングの題材については、適宜上記以外のものを採り上げる可能性がある。			
3. 履修上の注意 本科目は受講人数に制限があり、履修 に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を 参照すること。 This is an English writing course. The class will be conducted in English. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本コースの達成目標実現のためには、実際に多くの英文ビジネス E メールを書くことが肝要となる。多くの課題としてのライティングにも積極的に取組むことで、大きな効果が期待できるため、クラス内外の課題を着実にこなすことがまず求められる。したがって、クラスに出席し、宿題を期限内の提出を着実にを行うことが、評価の最大ポイントとなる。 さらに、ライティング能力を引き上げるために、他の学習者が書いたものを見て評価するという活動が極めて効果的であるため、クラス内で、これを行う相互評価活動や発表に積極的に参加し、発言することも期待する。			
5. 教科書			
6. 参考書 適宜指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Attendance：10% In-class writing and class participation：40% Homework submission：40%			

Final exam : 10%

9. その他

The class is taught in English with occasional Japanese use where deemed necessary.
Bring your own PC to the class.

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J		
科目名		英語コミュニケーション中級 A		
担当者		古川 恵美		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 優れたプレゼンテーションを扱った TED Talks の DVD 教材を使用して、英語のリスニングとスピーキングの力を実践的に鍛えるための授業です。各ユニットのテーマに沿って、語彙や文法事項の確認、リスニングおよびスピーキングの練習を行います。最後にテーマに関連した TED Talks を見て、プレゼンテーションスキルを学ぶとともに、内容について意見を交換したり、発表したりします。授業内での意見交換がより円滑に進むよう、適宜配布プリントを使用してコミュニケーションに役立つ語彙や表現を実際に使ってみる機会を設けます。授業全体を通してペアワークやグループワーク活動を多く取り入れる予定です。 （到達目標） 話し手が伝えようとしていることを的確に聞き取って理解する力をつけるとともに、自らも与えられたトピックについて自信を持って話せるようになることを目指します。リスニングとスピーキングに重点をおいて授業を進めますが、語彙力の強化・文法事項の確認・異文化理解の知識なども取り入れながら総合的に英語力を鍛えます。				
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Unit 1 Protectors ① 第3回：Unit 1 Protectors ② 第4回：Unit 1 Protectors ③ 第5回：Unit 2 Family Connections ① 第6回：Unit 2 Family Connections ② 第7回：Unit 2 Family Connections ③ 第8回：Unit 3 Global Stories ① 第9回：Unit 3 Global Stories ② 第10回：Unit 3 Global Stories ③ 第11回：Unit 4 Music ① 第12回：Unit 4 Music ② 第13回：Unit 4 Music ③ 第14回：Review ※上記予定は進行度合いなどにより変更される場合があります。				
3. 履修上の注意 － 「英語コミュニケーション」という授業の特性上、とりわけ授業への出席および参加を重視します。 － 授業には毎回出席し、英語を聴いたり話したりする活動に積極的に取り組むことで、実践的な英語コミュニケーションスキルの向上を目指してください。 － また、TED Talks を通して世界の人々が提起している社会や文化に関する問題に関心を持って授業に臨んでください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＜事前学習＞ － 指定された予習範囲に取り組み、分からない語彙や表現の意味は調べておきましょう。 ＜事後学習＞ － 授業で扱った範囲を復習し、学んだ表現を次の授業で使えるようにするとともに小テストに備えましょう。 － 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。				
5. 教科書 『Keynote 2: Student Book with Spark Access (First edition)』（Cengage） ※First edition であることにご注意ください				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。				
8. 成績評価の方法 平常点(授業への参加・貢献度) 30%，課題(提出物・発表) 30%，小テスト 30%，学期末レポート 10%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN211J	
科目名		英語コミュニケーション中級B	
担当者		古川 恵美	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 優れたプレゼンテーションを扱った TED Talks の DVD 教材を使用して、英語のリスニングとスピーキングの力を実践的に鍛えるための授業です。各ユニットのテーマに沿って、語彙や文法事項の確認、リスニングおよびスピーキングの練習を行います。最後にテーマに関連した TED Talks を見て、プレゼンテーションスキルを学ぶとともに、内容について意見を交換したり、発表したりします。授業内での意見交換がより円滑に進むよう、適宜配布プリントを使用してコミュニケーションに役立つ語彙や表現を実際に使ってみる機会を設けます。授業全体を通してペアワークやグループワーク活動を多く取り入れる予定です。 （到達目標） 話し手が伝えようとしていることを的確に聞き取って理解する力をつけるとともに、自らも与えられたトピックについて自信を持って話せるようになることを目指します。リスニングとスピーキングに重点をおいて授業を進めますが、語彙力の強化・文法事項の確認・異文化理解の知識なども取り入れながら総合的に英語力を鍛えます。			
2. 授業内容 第1回：Introduction 第2回：Unit 5 Good Design ① 第3回：Unit 5 Good Design ② 第4回：Unit 5 Good Design ③ 第5回：Unit 6 Inspiration ① 第6回：Unit 6 Inspiration ② 第7回：Unit 6 Inspiration ③ 第8回：Unit 7 Ethical Choices ① 第9回：Unit 7 Ethical Choices ② 第10回：Unit 7 Ethical Choices ③ 第11回：Unit 8 Better Cities ① 第12回：Unit 8 Better Cities ② 第13回：Unit 8 Better Cities ③ 第14回：Review ※上記予定は進行度合いなどにより変更される場合があります。			
3. 履修上の注意 － 「英語コミュニケーション」という授業の特性上、とりわけ授業への出席および参加を重視します。 － 授業には毎回出席し、英語を聴いたり話したりする活動に積極的に取り組むことで、実践的な英語コミュニケーションスキルの向上を目指してください。 － また、TED Talks を通して世界の人々が提起している社会や文化に関する問題に関心を持って授業に臨んでください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＜事前学習＞ － 指定された予習範囲に取り組み、分からない語彙や表現の意味は調べておきましょう。 ＜事後学習＞ － 授業で扱った範囲を復習し、学んだ表現を次の授業で使えるようにするとともに小テストに備えましょう。 － 授業で配布するプリントやクラスウェブで提示される課題に取り組み、期限を守って提出してください。			
5. 教科書 『Keynote 2: Student Book with Spark Access (First edition)』（Cengage） ※First edition であることにご注意ください			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出物に対する全体講評は適宜授業時に行います。 小テストについては返却後に正解をお知らせするとともに必要に応じて解説を行います。			
8. 成績評価の方法 平常点(授業への参加・貢献度) 30%，課題(提出物・発表) 30%，小テスト 30%，学期末レポート 10%			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN311J		
科目名		英語コミュニケーション上級 A		
担当者		山高 美和		
1 単位	1 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: This course is designed to help students build confidence in expressing themselves effectively in social contexts. Through structured speaking exercises and discussions, students will explore and share a range of relatable and thought-provoking topics about themselves and their lives. Relevant online articles and videos will also be introduced from time to time to enrich the learning experience. The spring semester focuses on developing self-expression skills, encouraging students to share their ideas, life experiences, and values in English. The autumn semester, by contrast, emphasises interactive communication, encouraging students to exchange thoughts and engage in meaningful discussions with others in English. Course Objectives: By the end of this course, students will: ※Enhance their ability to express themselves clearly and confidently in English. ※Develop practical communication skills through targeted activities and exercises. ※Broaden their horizons by communicating with others and fostering intercultural understanding.				
2. 授業内容 Course Content: The course will be conducted primarily in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Introduction to Effective Communication Skills 第2回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Ice-breaking Activities 第3回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Expressing Yourself: Let Me Introduce Myself 第4回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Expressing Yourself: My Upbringing 第5回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Expressing Yourself: My University Life 第6回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Class Short Speech Practice 第7回：【オンライン授業（リアルタイム型）】 Class Short Speech: Let Me Introduce Myself (Part 1) 第8回：【対面授業】 Expressing Yourself: My Passions 第9回：【対面授業】 Expressing Yourself: My Favourite Food 第10回：【対面授業】 Expressing Yourself: My Well-Being (Sports, Healthy Lifestyle, etc.) 第11回：【対面授業】 Expressing Yourself: My Travel Preferences 第12回：【対面授業】 Class Short Speech Practice 第13回：【対面授業】 Class Short Speech: Free topic based on what we studied (Part 2) 第14回：【対面授業】 a のみ : Class Activity and Course Review				
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes via Zoom. 本コースは、春学期前半は Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を実施し、後半は対面授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom 招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【春学期最終授業の特例】 春学期の最終対面授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件： 【学習環境】 ※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。				

※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。 ※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 Oh-o! Meiji のクラスウェブに定期的に投稿される PDF 資料に目を通し、授業内で行うグループ・アクティビティに備えてください。 【復習】 授業後は、使用した教材および PDF 資料を復習し、内容の理解を深めてください。 【課題】 ※これまでに実践したトピックに基づき、短い英文スピーチをクラス内で 2 回（第 7 回および第 13 回）発表します。授業中には、ペアワークやグループ・アクティビティを通してスピーチ練習を行います。特に発表前の週には、ペアワークやグループ活動を中心に、より集中的に練習を行います。
5. 教科書 Oh-o! Meiji のクラスウェブには、授業内容に基づいた PDF 資料が毎週投稿されます。これらの資料を、授業中のテキストとして使用します。
6. 参考書 Oh-o! Meiji のクラスウェブには、補足学習用として、様々な PDF 資料が定期的に投稿されます。これらの資料を参考資料として活用してください。
7. 課題に対するフィードバックの方法 スピーキング課題のフィードバックは、発表後に各学生へ配信します。対面授業の場合は紙媒体にて、オンライン授業の場合は PDF 形式で、Oh-o! Meiji を通じて配布します。
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 【評価割合】 授業への貢献度：50% 課題：50% 【試験】 対面形式による試験は実施しません。 【単位取得条件】 単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。 【出席に関する規定】 ※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。 ※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。 ※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。 ※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。 ※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。
9. その他 To prospective students: I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has provided me with a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you throughout this course. This class is limited to 20 students, cr

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN311J		
科目名		英語コミュニケーション上級B		
担当者		山高 美和		
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: This course is designed to help students build confidence in expressing themselves effectively in social contexts. Through structured speaking exercises and discussions, students will explore and share a range of relatable and thought-provoking topics about themselves and their lives. Relevant online articles and videos will also be introduced from time to time to enrich the learning experience. Whereas the spring semester focuses on developing self-expression skills by helping students articulate their ideas, experiences, and perspectives clearly, the autumn semester emphasises interactive communication, encouraging students to exchange thoughts and engage in meaningful discussions with others in English. In the autumn semester, students also develop attentive listening skills and learn to use emotionally intelligent language to better understand others. Course Objectives: By the end of this course, students will: ※Enhance their ability to interact with others clearly, confidently, and politely in English. ※Develop practical communication skills through targeted activities and exercises. ※Broaden their horizons by communicating with others and fostering intercultural understanding.				
2. 授業内容 Course Content: The course will be conducted primarily in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【対面授業】Introduction to Effective Communication Skills 第2回：【対面授業】Ice-breaking Activities 第3回：【対面授業】Getting to Know Each Other: Asking the Right Questions 第4回：【対面授業】Seasonal Cultural Activity (Part 1) 第5回：【対面授業】How to Show Understanding and Empathy 第6回：【対面授業】Class Short Conversation Practice 第7回：【対面授業】Class Short Conversation: Holding a Polite Conversation with Someone (Part 1) 第8回：【オンライン授業（リアルタイム型）】How to Speak Politely: Asking for Permission and Apologising 第9回：【オンライン授業（リアルタイム型）】How to Thank Someone and Write a Thank-You Note 第10回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Seasonal Cultural Activity (Part 2) 第11回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Communicating at a Restaurant 第12回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Discussing Your Favourite Entertainment 第13回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Holding a Polite Conversation with Someone (Part 2) 第14回：【オンライン授業（リアルタイム型）】aのみ：Class Activity and Course Review				
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes via Zoom. 本コースは、秋学期前半は対面授業を実施し、後半は Zoom によるリアルタイム型オンライン授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom 招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【秋学期最終授業の特例】 秋学期の最終オンライン授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件： 【学習環境】				

※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。 ※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。 ※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習（予習・復習等）の内容 【予習】 Oh-o! Meiji のクラスウェブに定期的に投稿される PDF 資料に目を通し、授業内で行うグループ・アクティビティに備えてください。 【復習】 授業後は、使用した教材および PDF 資料を復習し、内容の理解を深めてください。 【課題】 ※これまでに実践したトピックに基づき、短い英会話をクラス内で、当日指定された学生と 2 回実施します。授業中には、ペアワークやグループ・アクティビティを通して英会話練習を行います。 ※特に第 7 回目の授業での発表に向けて、その前の週には、ペアワークやグループ活動を中心に、より集中的に練習を行います。また、第 13 回目の授業では、当日指定された学生と、これまでに学習した方法を応用しながら、英会話を実践します。
5. 教科書 Oh-o! Meiji のクラスウェブには、授業内容に基づいた PDF 資料が毎週投稿されます。これらの資料を、授業中のテキストとして使用します。
6. 参考書 Oh-o! Meiji のクラスウェブには、補足学習用として、様々な PDF 資料が定期的に投稿されます。これらの資料を参考資料として活用してください。
7. 課題に対するフィードバックの方法 スピーキング課題のフィードバックは、発表後に各学生へ配信します。対面授業の場合は紙媒体にて、オンライン授業の場合は PDF 形式で、Oh-o! Meiji を通じて配布します。
8. 成績評価の方法 成績評価の方法 【評価割合】 授業への貢献度：50% 課題：50% 【試験】 対面形式による試験は実施しません。 【単位取得条件】 単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。 【出席に関する規定】 ※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。 ※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。 ※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。 ※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。 ※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。
9. その他 To prospective students: I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has provided me with a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you throughout this course. This class is limited to 20 students, cr

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN121J	
科目名		ドイツ語コミュニケーション初級 A	
担当者		大類 京子	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 [コース概要] 本コースは、ドイツ語圏での日常的な場面において、基本的な要求や意思を伝えるための基礎的コミュニケーション能力を養う初級ドイツ語科目です。プリントやビデオ教材を活用した実践的な学習を通じて、生活場面で必要となる簡単な表現ややり取りを身につけます。 [到達目標] ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A1 レベルに相当する、基礎的なドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指します。			
2. 授業内容 第 1 回 a：授業方法，成績評価基準の説明 b：アルファベットと発音，あいさつ 第 2 回 自己紹介についての表現 第 3 回 友人知人の紹介についての表現 第 4 回 数字を使った表現 第 5 回 ここまでのまとめ（復習と課題） 第 6 回 趣味についての表現（1） 第 7 回 趣味についての表現（2） 第 8 回 飲食と好みについての表現（1） 第 9 回 飲食と好みについての表現（2） 第 10 回 ここまでのまとめ（復習と課題） 第 11 回 一週間と時間に関する表現 第 12 回 予定と約束に関する表現（1） 第 13 回 予定と約束に関する表現（2） 第 14 回 a. まとめ b. 試験			
3. 履修上の注意 ・秋学期開講の「ドイツ語コミュニケーション初級 B」と合わせて受講することが望ましい。 ・「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため，積極的に受講者同士で対話し，学び合う姿勢が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので，学習した項目を繰り返し発音したり，音声データを何度も聞き返したりして，反復練習を行うこと。 また，授業ごとに復習問題を課す。			
5. 教科書 配布プリント（授業内で適宜使用します） オンライン教材：A1 Nicos Weg（Deutsche Welle の HP，又はアプリ「DW Learn German」）			
6. 参考書 オンラインサイト：A1 Nicos Weg（Deutsche Welle） アプリ：DW Learn German，Seedlang: Learn German Faster			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答や補足について言及します。場合によっては，クラスウェブの掲示板等を使うこともあります。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60％（口頭試験と筆記試験：授業内で行った練習の延長的な形式と内容です） 授業への参加：40％（テスト、課題，発表，ペアワーク，グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を 3 分の 1 以上欠席した場合，評価の対象としない。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN121J	
科目名		ドイツ語コミュニケーション初級B	
担当者		大類 京子	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 [授業の概要] 秋学期の「ドイツ語コミュニケーション初級A」を引き継ぎ、ドイツ語圏での日常的な場面において、基本的な要求や意思を伝えるための基礎的コミュニケーション能力を養う初級ドイツ語科目です。プリントやビデオ教材を活用した実践的な学習を通じて、生活場面で必要となる簡単な表現ややり取りを身につけます。 [到達目標] ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）A1 レベルに相当する、基礎的なドイツ語コミュニケーション能力の習得を目指します。			
2. 授業内容 第 1 回 a: 授業方法, 成績評価基準の説明 b: 春学期の復習 第 2 回 家族についての表現 第 3 回 職業についての表現 第 4 回 性格や性質に関する表現 第 5 回 ここまでのまとめ（復習と課題） 第 6 回 道案内と交通について（1） 第 7 回 道案内と交通について（2） 第 8 回 天気についての表現 第 9 回 ここまでのまとめ（復習と課題） 第 10 回 買い物についての表現（1） 第 11 回 買い物についての表現（2） 第 12 回 日付と贈り物についての表現（1） 第 13 回 日付と贈り物についての表現（2） 第 14 回 a. まとめ b. 試験			
3. 履修上の注意 ・春学期開講の「ドイツ語コミュニケーション初級A」と合わせて受講することが望ましい。 ・「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため、積極的に受講者同士で対話し、学び合う姿勢が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので、学習した項目を繰り返し発音したり、音声データを何度も聞き返したりして、反復練習を行うこと。			
5. 教科書 プリント配布 オンライン教材: A1 Nicos Weg (Deutsche Welle の HP, 又はアプリ「DW Learn German」)			
6. 参考書 オンラインサイト: A1 Nicos Weg (Deutsche Welle), easygerman.org アプリ: DW Learn German, Seedlang: Learn German Faster			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で解答や補足について言及します。場合によっては、クラスウェブの掲示板等を使うこともあります。			
8. 成績評価の方法 期末試験: 60% (口頭試験と筆記試験: 授業内で行った練習の延長的な形式と内容です) 授業への参加: 40% (テスト、課題、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度や達成度を測る) ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を 3 分の 1 以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語コミュニケーション中級 A		
担当者		畑 一成		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 ドイツ語圏の日常生活において簡単な要件であればこなせる運用能力を身につけるため、映像資料を使いながら実践的なトレーニングを行います。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置きます。そのため受講者同士が助け合い・学び合うペアワークやグループワーク中心の授業を進めます。文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行います。また、コミュニケーションの重要な要素であるのにもかかわらず、ほとんど教わることのない「振舞」や「所作」など身体言語についても学びます。 〈到達目標〉 ヨーロッパ言語共通参照枠の A 1 に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力を獲得する。自己紹介や友人との会話、日常的な物事に関する質疑を行うことができる。欧州における国際人としてふさわしい振る舞いができる。				
2. 授業内容 第 1 回 授業方法、成績評価基準、ドイツ語学習の意義を解説する。発音と自己紹介を練習する。 第 2 回 友人の紹介と自分の生活環境についての表現 第 3 回 数字を使った表現 第 4 回 飲食に関する表現 第 5 回 各国の特徴に関する表現 第 6 回 身の回りのものに関する表現 第 7 回 住居に関する表現 第 8 回 一週間と時間に関する表現 第 9 回 約束事に関する表現 第 10 回 職業に関する表現 第 11 回 道や建物、場所に関する表現 第 12 回 余暇に関する表現 第 13 回 食料品の買物に関する表現 第 14 回 a. テスト b. 解説とフィードバック				
3. 履修上の注意 ・秋学期開講の「ドイツ語コミュニケーション中級 B」と合わせて受講することが望ましい。 ・「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため、積極的に受講者同士で対話し、学び合う姿勢が求められる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので、学習した項目を繰り返し発音したり、音声データを何度も聞き返したりして、反復練習を行うこと。また、授業ごとに復習問題を課す。				
5. 教科書 オンライン教材：A1 Nicos Weg (Deutsche Welle の HP, 又はアプリ「DW Learn German」)				
6. 参考書 ドイツ語ラジオ：DLF (Deutschlandfunk) オンラインサイト：A1 Nicos Weg (Deutsche Welle), easygerman.org アプリ：DW Learn German, Seedlang: Learn German Faster				
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回の b モジュールで試験の解説とフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 期末試験：60％（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40％（課題、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を 3 分の 1 以上欠席した場合、評価の対象としない。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN221J		
科目名		ドイツ語コミュニケーション中級B		
担当者		畑 一成		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 秋学期の「ドイツ語コミュニケーション中級A」を引き継ぎ、ドイツ語圏の日常生活において簡単な要件であればこなせる運用能力を身につけるため、さらにトレーニングを多彩化します。春学期と同様に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置き、言語使用から言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行います。また、「振舞」や「所作」など身体言語についても引き続き学びます。 〈到達目標〉 ヨーロッパ言語共通参照枠のA2に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力の獲得を目指す。自分の希望の伝えることや相手の感情表現を読み取ること、より広範な日常的な物事に関する質疑を行うことができる。欧州における国際人としてふさわしい振る舞いができる。				
2. 授業内容 第 1 回 春学期の復習 第 2 回 天気と休暇についての表現 第 3 回 服装に関する表現 第 4 回 家族構成に関する表現 第 5 回 スポーツに関する表現 第 6 回 体調に関する表現 第 7 回 将来のことに関する表現 第 8 回 望まないことに関する表現 第 9 回 お金と銀行に関する表現 第 10 回 家族仲に関する表現 第 11 回 近所付き合いに関する表現 第 12 回 ホテルと鉄道に関する表現 第 13 回 手紙と家賃に関する表現 第 14 回 a. テスト b. 解説とフィードバック				
3. 履修上の注意 ・春学期開講の「ドイツ語コミュニケーション中級A」と合わせて受講することが望ましい。 ・「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため、積極的に受講者同士で対話し、学び合う姿勢が求められる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので、学習した項目を繰り返し発音したり、音声データを何度も聞き返したりして、反復練習を行うこと。また、授業ごとに復習問題を課す。				
5. 教科書 オンライン教材：A1 Nicos Weg (Deutsche Welle のHP, 又はアプリ「DW Learn German」)				
6. 参考書 ドイツ語ラジオ：DLF (Deutschlandfunk) オンラインサイト：A1 Nicos Weg (Deutsche Welle), easygerman.org アプリ：DW Learn German, Seedlang: Learn German Faster				
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回の b モジュールで試験の解説とフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 期末試験：60％（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40％（課題、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN321J	
科目名		ドイツ語コミュニケーション上級 A	
担当者		畑 一成	
1 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (授業の概要) ドイツ語圏の日常生活において幅広い要件をこなす運用能力を身につけるため、映像資料を使いながら実践的なトレーニングを行います。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置きます。文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行います。また、コミュニケーションの重要な要素であるのにもかかわらず、ほとんど教わることのない「振舞」や「所作」など身体言語についても学びます。 これまでの「ドイツ語コミュニケーション」の授業を受講していなくても問題なく履修できる。 (到達目標) ヨーロッパ言語共通参照枠の A 2 に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力を獲得する。限られた領域であれば、簡単な質疑を行うことができる。欧州における国際人としてふさわしい振る舞いができる。			
2. 授業内容 第 1 回 授業方法、成績評価基準、ドイツ語学習の意義を解説する。 第 2 回 将来の予定に関する表現 第 3 回 お金に関する表現 第 4 回 銀行で使う表現 第 5 回 家族に関する表現 第 6 回 性格に関する表現 第 7 回 住居に関する表現 第 8 回 隣人に関する表現 第 9 回 ホテルで使う表現 第 10 回 公共交通機関で使う表現 第 11 回 レジャーに関する表現 第 12 回 休暇に関する表現 第 13 回 社会活動に関する表現 第 14 回 a. テスト b. 解説とフィードバック			
3. 履修上の注意 ・秋学期開講の「ドイツ語コミュニケーション上級 B」と合わせて受講することが望ましい。 ・「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため、積極的に受講者同士で対話し、学び合う姿勢が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので、学習した項目を繰り返し発音したり、音声データを何度も聞き返したりして、反復練習を行うこと。また、授業ごとに復習問題を課す。			
5. 教科書 オンライン教材：A2 Nicos Weg（Deutsche Welle の HP、又はアプリ「DW Learn German」）			
6. 参考書 ドイツ語ラジオ：DLF（Deutschlandfunk） オンラインサイト：A2 Nicos Weg（Deutsche Welle）、easygerman.org アプリ：DW Learn German、Seedlang: Learn German Faster			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回の b モジュールで、試験の解説とフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60％（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40％（テスト、課題、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を 3 分の 1 以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN321J	
科目名		ドイツ語コミュニケーション上級B	
担当者		畑 一成	
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (授業の概要) ドイツ語圏の日常生活において幅広い要件をこなす運用能力を身につけるため、映像資料を使いながら実践的なトレーニングを行います。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置きます。文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行います。また、コミュニケーションの重要な要素であるのにもかかわらず、ほとんど教わることのない「振舞」や「所作」など身体言語についても学びます。 これまでの「ドイツ語コミュニケーション」の授業を受講していなくても問題なく履修できます。 (到達目標) ヨーロッパ言語共通参照枠のA2に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力を獲得する。限られた領域であれば、簡単な質疑を行うことができる。欧州における国際人としてふさわしい振る舞いができる。			
2. 授業内容 第 1 回 授業方法、成績評価基準、ドイツ語学習の意義を解説する。 第 2 回 ネットショッピングに関する表現 第 3 回 返品など問題を伝える表現 第 4 回 レストランで使う表現 第 5 回 注文時に使う表現 第 6 回 パーティ時の表現 第 7 回 友人との会話表現 第 8 回 自国のことを伝える表現 第 9 回 住居の引っ越し時の表現 第10回 昔のことに表現 第11回 ジェンダーに関する表現 第12回 就職に関する表現 第13回 面接時の表現 第14回 a. テスト b. 解説とフィードバック			
3. 履修上の注意 「使用する」ことで言語を習得するアプローチの授業のため、積極的に受講者同士で対話し、学び合う姿勢が求められる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習不要。ただし復習が必須なので、学習した項目を繰り返し発音したり、音声データを何度も聞き返したりして、反復練習を行うこと。また、授業ごとに復習問題を課す。			
5. 教科書 オンライン教材：A2 Nicos Weg（Deutsche Welle のHP、又はアプリ「DW Learn German」）			
6. 参考書 ドイツ語ラジオ：DLF（Deutschlandfunk） オンラインサイト：A2 Nicos Weg（Deutsche Welle）、easygerman.org アプリ：DW Learn German、Seedlang: Learn German Faster			
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回の b モジュールで、試験の解説とフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験：60％（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：40％（テスト、課題、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN131J	
科目名		フランス語コミュニケーション初級 A	
担当者		レット, フランソワ	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Bonjour à tous, この授業の目的は、フランス語とフランス語圏の異文化理解をし、日常会話に使えるフランス語を習得することです。 そのために、コミュニケーションに必要なすべての能力（聞く・読む・話す・書く）を、文法や語彙を勉強しながら、またはグループワークやロールプレイをしながら、身に付けます。 ネイティブスピーカの教員と、本場のフランス語と文化を味わい、楽しくフランス語を勉強しましょう!!!			
2. 授業内容 実践的な会話練習を通して実際にフランス語が話せる力を養成します。円滑なコミュニケーションにより自己表現できることを目指します。 将来の留学や仕事に備えた、フランス語会話を磨きます。 春学期 毎週、授業の始まりはミニ自由な会話です。 1. 授業紹介・簡単な自己紹介 2. 日本でよく使っているフランスの言葉 3. 世界の国籍 4. 数学 5. 家族の紹介 6. 好き・嫌いの表現 7. 月・曜日・誕生日の表見 8. 場所 9. 物と色 10. PARIS 11. 時間 12. 電車に乗る 13. 試験に向けてまとめ（1） 14. 試験			
3. 履修上の注意 DELF A1-A2 レベルを目指す。 フランス語で自由に表現できるように語彙を増やし書く能力も身につけていきます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に積極的に参加すること、つまり、発言すること！ また、宿題などがある場合、それらをちゃんとして来ることや、毎回授業の前に、前回の授業内容を復習して置くこと。			
5. 教科書 教科書を使用しない。			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度と積極性の有無（ロールプレイの発表を含む）： 50％ 期末試験（面接試験）： 50％ 発音 イントネーション			
9. その他 授業形態：対面形式			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN131J	
科目名		フランス語コミュニケーション初級B	
担当者		レット， フランソワ	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Bonjour à tous, この授業の目的は、フランス語とフランス語圏の異文化理解をし、日常会話に使えるフランス語を習得することです。 そのために、コミュニケーションに必要なすべての能力（聞く・読む・話す・書く）を、文法や語彙を勉強しながら、またはグループワークやロールプレイをしながら、身に付けます。 ネイティブスピーカの教員と、本場のフランス語と文化を味わい、楽しくフランス語を勉強しましょう!!!			
2. 授業内容 実践的な会話練習を通して実際にフランス語が話せる力を養成します。円滑なコミュニケーションにより自己表現できることを目指します。将来の留学や仕事に備えた、フランス語会話を磨きます。 秋学期 1. 授業紹介・簡単な自己紹介 2. フランスの料理（1） 3. フランスの料理（2） 4. 買い物（1） 5. 買い物（2） 6. 代名詞（1） 7. 過去形（1） 8. 過去形（2） 9. 代名動詞 10. 過去形（3） 11. 代名詞（2） 12. 未来形 13. 試験に向けてまとめ（1） 14. 試験			
3. 履修上の注意 DELF A1-A2 レベルを目指す。 フランス語で自由に表現できるように語彙を増やし書く能力も身につけていきます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に積極的に参加すること、つまり、発言すること！ また、宿題などがある場合、それらをちゃんとして来ることや、毎回授業の前に、前回の授業内容を復習して置くこと。			
5. 教科書 教科書を使用しない。			
6. 参考書 参考書は特に指定しません。必要に応じて随時紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度と積極性の有無（ロールプレイの発表を含む）： 50％ 期末試験（面接試験）： 50％ 発音 イントネーション			
9. その他 授業形態：対面形式			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J		
科目名		フランス語コミュニケーション中級 A		
担当者		ベルテ, ディディエ		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary (授業の概要) フランス語を楽しみながら聞き、話しましょう。 各回日常会話を通して学びます。スピーチ・アクトや様々な単語を操りながら、効果的な方法でコミュニケーション・スキルを上げます。 コミュニケーションを通して、文化的なことも学びます。フランス文化に関するエンターテイメント的性格を持ったアクティビティ(映画, 音楽, 流行など)を扱うこともあります。 このクラスのために特別に用意した教材を使用します。 Objectives (到達目標) コースの内容は DELF の A2 や仏検 3 級を目指す学習レベルに相当します。 この授業の主要目的は、自分に関連することについて話しながら、フランスについて発見をしていくことです。				
2. 授業内容 第 1 回 前年度の復習・自己紹介 第 2 回 家族について話す 第 3 回 人を描写する 第 4 回 毎日の習慣について話す 第 5 回 科目・勉強について話す 第 6 回 時間の表現を使いながら話す 第 7 回 仕事や希望する職業を言う 第 8 回 就きたい職業を説明する 第 9 回 住んでいる所・街について話す 第 10 回 過去の出来事について話す 第 11 回 休みの間にしたことについて話す 第 12 回 経験したことについて話す 第 13 回 まとめと試験準備 第 14 回 a 期末試験, b 解説				
3. 履修上の注意				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必要ありません。次週のクラスまでに必ず復習をしてください。				
5. 教科書 プリントを渡します。				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 学年末試験 40%, 小テスト 40%, グループワークにおける貢献度 10%, 授業への参加度 10% 7 割以上の出席を必須とします。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN231J	
科目名		フランス語コミュニケーション中級B	
担当者		ベルテ, ディディエ	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary (授業の概要) フランス語を楽しみながら聞き、話しましょう。 各回日常会話を通して学びます。スピーチ・アクトや様々な単語を操りながら、効果的な方法でコミュニケーション・スキルを上げます。 コミュニケーションを通して、文化的なことも学びます。フランス文化に関するエンターテイメント的性格を持ったアクティビティ（映画、音楽、流行など）を扱うこともあります。 このクラスのために特別に用意した教材を使用します。 Objectives (到達目標) コースの内容は DELF の A2 や仏検 3 級を目指す学習レベルに相当します。 この授業の主要目的は、自分に関連することについて話しながら、フランスについて発見をしていくことです。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 過去の習慣について話す 第3回 過去の状況について話す 第4回 食べ物について話す 第5回 レストランで注文する 第6回 未来・するつもりのことについて話す 第7回 計画・近い未来について話す 第8回 未来について話す・仮定する 第9回 助言を求める 第10回 助言を言う 第11回 意見を求める 第12回 意見を言う 第13回 まとめと試験準備 第14回 a 期末試験, b 解説			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習は必要ありません。次週のクラスまでに必ず復習をしてください。			
5. 教科書 プリントを渡します。			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 学年末試験 40％, 小テスト 40％, グループワークにおける貢献度 10％, 授業への参加度 10％ 7 割以上の出席を必須とします。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN331J	
科目名		フランス語コミュニケーション上級 A	
担当者		佐々木 匠	
1 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 原則としてフランス語を 2 年程度学習した人のための少人数クラスの授業です。「上級」と書かれていますが、2 年生の必修フランス語の単位が取れている学生であればどなたでも受講できます。フランス語力をブラッシュアップしたい方はもちろん、そこまで自信はなくてもフランス語の学習をもう少し続けたいと思うすべての方にこの授業は開かれています。駿河台キャンパスでの開講なので、3 年生以上でフランス語の会話表現の上達に興味がある方に適しています。秋学期に開設されている「フランス語コミュニケーション上級 B」と対になっていて、「フランス語コミュニケーション上級 A」はその基礎編です。 (到達目標) この授業を受講する方はそれぞれの目的や目標を持っているはずです。その到達目標（簡単な日常会話をできるようにする、仏検その他の試験の合格、旅行会話の習得、フランス語の映画を楽しめるようになる、留学準備など）に少しでも近づきましょう。			
2. 授業内容 授業では画像、音声、映像なども用います。たとえば、何かしらのシチュエーションでの対話例をベースに、語彙、表現、文法を学び、それを自分のことに置き換えてアウトプットの訓練をすることで、使える表現を身につけていきます。それ以外の練習や問題にも適宜取り組みましょう。 以下はおおまかな予定、というより提案に近いです（ざっくりとした題目を書いています、実際には多様な下位の項目が含まれます）。少人数の授業になると思うので、その利点をいかし、受講者の要望や理解度に応じて内容を大きく変更する可能性があります。 第 1 回：学習方法の説明など／自己紹介をフランス語で 第 2 回：絵や写真をできるだけ描写する 第 3 回：レストランでの表現 第 4 回：服に関する表現 第 5 回：友だちとお出かけする際の表現 第 6 回：理由を述べる 第 7 回：決意や未来について述べる 1 第 8 回：決意や未来について述べる 2 第 9 回：インターネット関連の表現 1 第 10 回：インターネット関連の表現 2 第 11 回：目撃したことを話す 1 第 12 回：目撃したことを話す 2 第 13 回：学期末課題に向けての準備 第 14 回：a：まとめ／b：学期末課題の確認			
3. 履修上の注意 必ず辞書を準備して、授業にも持参してください。電子辞書やアプリなどでも OK です。自分の言いたいことをフランス語に変換する必要があるため、「仏和」だけではなく「和仏」もあるのが望ましいです。 コミュニケーションの授業なので、出席と、何より授業内での発話、発言、積極性を重視します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で学んだ表現を復習し、次の授業までに覚えてきてもらったり、それ以外の課題を出したり、授業外の時間に次の授業に向けた準備をしてもらうことがあります。			
5. 教科書 特定の教科書は用いず、プリントを配布する予定です。			
6. 参考書 辞書、これまでの授業で使った教科書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 教場で添削指導を行います。			
8. 成績評価の方法 少人数の授業なので出席を重視します。その上で以下をおおまかな目安に成績をつけます。 平常点（積極的な授業参加）60% 課題や授業内発表、学期末の到達度確認問題など 40%			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN331J		
科目名		フランス語コミュニケーション上級B		
担当者		佐々木 匠		
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 原則としてフランス語を2年程度学習した人のための少人数クラスの授業です。「上級」と書かれていますが、2年生の必修フランス語の単位が取れている学生であればどなたでも受講できます。フランス語力をブラッシュアップしたい方はもちろん、そこまで自信はなくてもフランス語の学習をもう少し続けたいと思うすべての方にこの授業は開かれています。駿河台キャンパスでの開講なので、3年生以上でフランス語の会話表現の上達に興味がある方に適しています。秋学期に開設されている「フランス語コミュニケーション上級A」と対になって、「フランス語コミュニケーション上級B」はその発展編です。 〈到達目標〉 この授業を受講する方はそれぞれの目的や目標を持っているはずです。その到達目標（簡単な日常会話をできるようにする、仏検その他の試験の合格、旅行会話の習得、フランス語の映画を楽しめるようになる、留学準備など）に少しでも近づきましょう。				
2. 授業内容 授業では画像、音声、映像なども用います。たとえば、何かしらのシチュエーションでの対話例をベースに、語彙、表現、文法を学び、それを自分のことに置き換えてアウトプットの訓練をすることで、使える表現を身につけていきます。それ以外の練習や問題にも適宜取り組みましょう。 以下はおおまかな予定、というより提案に近いです（ざっくりとした題目を書いています、実際には多様な下位の項目が含まれます）。少人数の授業になると思うので、その利点をいかし、受講者の要望や理解度に応じて内容を大きく変更する可能性があります。 第1回：夏休みボケからの回復 第2回：絵や写真をできるだけ描写する 第3回：好きなものについて語る1 第4回：好きなものについて語る2 第5回：自分をアピールする表現1 第6回：自分をアピールする表現2 第7回：希望や意見を伝える1 第8回：希望や意見を伝える2 第9回：人や物を説明する1 第10回：人や物を説明する2 第11回：文化について話す1 第12回：文化について話す2 第13回：学期末課題に向けての準備 第14回：a：まとめ／b：学期末課題の確認				
3. 履修上の注意 必ず辞書を準備して、授業にも持参してください。電子辞書やアプリなどでもOKです。自分の言いたいことをフランス語に変換する必要があるため、「仏和」だけではなく「和仏」もあるのが望ましいです。 コミュニケーションの授業なので、出席と、何より授業内での発話、発言、積極性を重視します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で学んだ表現を復習し、次の授業までに覚えてきてもらったり、それ以外の課題を出したり、授業外の時間に次の授業に向けた準備をしてもらうことがあります。				
5. 教科書 特定の教科書は用いず、プリントを配布する予定です。				
6. 参考書 辞書、これまでの授業で使った教科書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 教場で添削指導を行います。				
8. 成績評価の方法 少人数の授業なので出席を重視します。その上で以下をおおまかな目安に成績をつけます。 平常点（積極的な授業参加）60% 課題や授業内発表、学期末の到達度確認問題など 40%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN161J		
科目名		中国語コミュニケーション初級A		
担当者		遠藤 絢		
1 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を開けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 〈到達目標〉 中級レベルの中国語を開けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。				
2. 授業内容				
1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（4月）：主として初級で学んだ重要語彙・表現・文法項目を復習し、定着を確認する。辞典を活用するためのトレーニングも行う。 (2) 第二段階（5月）：中級レベルの文法項目、語彙を含む課文を暗誦し、開けて書けるようにする。豊富な練習により実践的能力を養う。 (3) 第三段階（6月）：基本的には第二段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。 (4) 第四段階（7月）：基本的には第三段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。				
3. 履修上の注意				
〈履修上の注意〉 一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。 〈準備学習〉 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
5. 教科書				
「詳細は、Oh-o! Meiji システムで公開される一覧表を参照のこと」				
6. 参考書				
『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法				
基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80％、発音・小テストが20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。				
9. その他				
特になし。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN161J		
科目名		中国語コミュニケーション初級B		
担当者		遠藤 絢		
1 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を開けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 〈到達目標〉 中級レベルの中国語を開けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。				
2. 授業内容				
1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（4月）：主として初級で学んだ重要語彙・表現・文法項目を復習し、定着を確認する。辞典を活用するためのトレーニングも行う。 (2) 第二段階（5月）：中級レベルの文法項目、語彙を含む課文を暗誦し、開けて書けるようにする。豊富な練習により実践的能力を養う。 (3) 第三段階（6月）：基本的には第二段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。 (4) 第四段階（7月）：基本的には第三段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。				
3. 履修上の注意				
〈履修上の注意〉 一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。 〈準備学習〉 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
5. 教科書				
「詳細は、Oh-o! Meiji システムで公開される一覧表を参照のこと」				
6. 参考書				
『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法				
基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80％、発音・小テストが20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。				
9. その他				
特になし。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語コミュニケーション中級A	
担当者		野田 寛達	
1 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 会話で常用される中級程度の語彙や表現を学び、使いこなす練習を行います。教科書の1課を2回にわけて学習し、前半6課を学び終えます。授業中に練習を行い、内容への理解を定着させます。また、言語学的な観点から中国語や日本語の興味深い現象の解説なども行います。言語に関して多角的な視点を持つことで言語学習のモチベーションを高めてもらいます。 〈到達目標〉 中国語会話に常用される基礎的な語彙や表現を学び、限られた知識を使って相手に情報を効果的に伝える工夫ができるようになること。多角的な視点で言語を分析できるようになること。			
2. 授業内容 第1週 授業の進め方、評価方法、グループ分け、第1課『自我紹介』の単語、家族の詳しい呼称、常用会話表現（“是～的”，“很会VP”など）、練習 第2週 会話小テスト、第1課本文訳、聞き取り&会話練習（家族や自己紹介） 第3週 会話小テスト、第2課『我的大学』の単語、常用時間表現・地名、常用会話表現（“～，其中～”，“除了～以外”，“从～到～”，“既～又～”，“从～開始～”など）、練習 第4週 会話小テスト、第2課本文訳、聞き取り&会話練習（キャンパスの紹介） 第5週 会話小テスト、第3課『学生』の単語、常用会話表現（“有的～有的”，“不是～就是～”，“比～多”，“～不担～而且”など）、練習 第6週 会話小テスト、第3課本文訳、聞き取り&会話練習（1日の生活の紹介） 第7週 会話小テスト、第4課『好朋友』の単語、常用会話表現（“A比B～”，“差不多”，“（可，但）是～”，“形容詞+得+不得了”，“快～了”）、練習 第8週 会話小テスト、第4課本文訳、聞き取り&会話練習（私の友達） 第9週 会話小テスト、第5課『我的愛好』の単語、常用会話表現（“通過～”，“～+了+時量補語”，“多+形容詞”，“如果～就～”，“～+得（不）了”）、練習 第10週 発表原稿提出日、会話小テスト、第5課本文訳、聞き取り&会話練習（私の旅行経験） 第11週 発表用原稿返却、会話小テスト、第6課『留学計画』の単語、常用会話表現（“怎¥也+否定”，“对～感興趣”，“越来越～”，“越～越～”，“不到～”，“一点儿也+否定”）、練習 第12週 会話小テスト、第6課本文訳、聞き取り&会話練習（中国学習経験） 第13週 動画発表日、発表後フィードバック 第14週 a：まとめ b：期末テスト			
3. 履修上の注意 初中級程度の中国語（ピンイン・声調が読めて、中国語の基本文型を理解し、500語程度の基本語彙）を習得していること。なお教育上の観点からこの授業で扱うレベルの中国語能力を大きく超えている学生に対しては履修をしないことを薦めますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小テストのための復習。			
5. 教科書 『中国語中級テキスト听说説』洪潔清・劉郷英（白帝社）			
6. 参考書 講談社『中日辞典第三版』、『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則（東方書店）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（小テスト、授業態度等）50％、定期テスト50％			
9. その他 なし			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN261J	
科目名		中国語コミュニケーション中級B	
担当者		野田 寛達	
1 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 会話で常用される中級程度の語彙や表現を学び、使いこなす練習を行います。教科書の1課を2回にわけて学習し、後半6課を学び終えます。授業中に練習を行い、内容への理解を定着させます。また、言語学的な観点から中国語や日本語の興味深い現象の解説なども行います。言語に関して多角的な視点を持つことで言語学習のモチベーションを高めてもらいます。 〈到達目標〉 中国語会話に常用される基礎的な語彙や表現を学び、限られた知識を使って相手に情報を効果的に伝える工夫ができるようになること。多角的な視点で言語を分析できるようになること。			
2. 授業内容 第1週 授業の進め方、評価方法、第7課『晨練』の単語、常用会話表現（“有～在～”，“有的～有的～”，“可+形容詞+了”，“然而（却）”など），練習 第2週 会話小テスト、第7課本文訳、聞き取り&会話練習（晨練について） 第3週 会話小テスト、第8課『中国的飯菜』の単語、常用会話表現（“根据～不同，（也）不一樣”，“以～為主”，“形容詞+得多”，“動詞1+来+動詞2+去”，“能～嗎？”），練習 第4週 会話小テスト、第8課本文訳、聞き取り&会話練習（レストランでの注文） 第5週 会話小テスト、第9課『選購生日礼物』の単語、常用会話表現（“不知道～好”，“無論是～，都～”，“場所+動詞+着～”，“使役文の譲+人+動詞”，“会～的”），練習 第6週 会話小テスト、第9課本文訳、聞き取り&会話練習（買い物に関する会話） 第7週 会話小テスト、第10課『節日』の単語、常用会話表現（“～才～”，“正值～”，“听说～”，“其实～”，“只有～才”），練習 第8週 会話小テスト、第10課本文訳、聞き取り&会話練習（日本の祝祭日） 第9週 会話小テスト、第11課『方言』の単語、常用会話表現（“以為～”，“特別是～”，“好+動詞”，“難+動詞”，“～A是A～”），練習 第10週 発表原稿提出日、会話小テスト、第11課本文訳、聞き取り&会話練習（道を尋ねる） 第11週 発表用原稿返却、会話小テスト、第12課『内蒙古之行』の単語、常用会話表現（“从来+否定”，“正如～那Yu00006837”，“靠～”，“不但～而且”，“能～了”），練習 第12週 会話小テスト、第12課本文訳、聞き取り&会話練習（ペアで旅行の会話） 第13週 動画発表日、発表後フィードバック 第14週 a: まとめ b: 期末テスト			
3. 履修上の注意 中級程度の中国語（ピンイン・声調が読めて、中国語の基本文型を理解し、500語程度の基本語彙）を習得していること。なお教育上の観点からこの授業で扱うレベルの中国語能力を大きく超えている学生に対しては履修をしないことを薦めますので注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 小テストのための復習を行うこと			
5. 教科書 『中国語中級テキスト听说説』洪潔清・劉郷英（白帝社）			
6. 参考書 講談社『中日辞典第三版』、『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則（東方書店）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 時に課題を提示し、提出物に対して添削やコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（小テスト、授業態度等）50％，期末テスト50％			
9. その他 なし			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN361J	
科目名		中国語コミュニケーション上級A	
担当者		遠藤 絢	
1 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を開けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 〈到達目標〉 中級レベルの中国語を開けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。			
2. 授業内容			
1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（4月）：主として初級で学んだ重要語彙・表現・文法項目を復習し、定着を確認する。辞典を活用するためのトレーニングも行う。 (2) 第二段階（5月）：中級レベルの文法項目、語彙を含む課文を暗誦し、開けて書けるようにする。豊富な練習により実践的能力を養う。 (3) 第三段階（6月）：基本的には第二段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。 (4) 第四段階（7月）：基本的には第三段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。			
3. 履修上の注意			
〈履修上の注意〉 一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。 〈準備学習〉 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。			
5. 教科書			
「詳細は、Oh-o! Meiji システムで公開される一覧表を参照のこと」			
6. 参考書			
『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法			
基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80％、発音・小テストが20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。			
9. その他			
特になし。			

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN361J		
科目名		中国語コミュニケーション上級B		
担当者		遠藤 絢		
1 単位	1 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 中級レベルの中国語の語彙・文法項目を含むさまざまな中国語を開けて話せて書ける能力を養成するための教育を行う。 〈到達目標〉 中級レベルの中国語を開けて話せて書ける能力を習得し、各種検定試験の3級レベル合格に相当する実力の習得をめざす。				
2. 授業内容				
1年次の授業で学んだ重要事項の復習と定着、中級レベルの読解能力の向上をはかる。その目的のために中級レベルに必要な文型、語彙、文法を学び、同時に言語と不可分の関係にある現代中国の文化・社会などについても学ぶ。 (1) 第一段階（4月）：主として初級で学んだ重要語彙・表現・文法項目を復習し、定着を確認する。辞典を活用するためのトレーニングも行う。 (2) 第二段階（5月）：中級レベルの文法項目、語彙を含む課文を暗誦し、開けて書けるようにする。豊富な練習により実践的能力を養う。 (3) 第三段階（6月）：基本的には第二段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。 (4) 第四段階（7月）：基本的には第三段階と同様。さらなるレベルアップをはかる。				
3. 履修上の注意				
〈履修上の注意〉 一定回数以上の出席が必要である。実力を養成するために積極的な授業への参加が求められる。 〈準備学習〉 授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の前に教科書付属の音源を活用して発音練習をする。本文篇に入ってから辞典を活用して課文および文法要点の例文の意味を調べておく。練習問題の答えをノートに書いておく。				
5. 教科書				
「詳細は、Oh-o! Meiji システムで公開される一覧表を参照のこと」				
6. 参考書				
『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は：『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社を推奨する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法				
基本的には、秋学期最終授業時に実施される試験の点数により成績評価を行う。その他、随時発音テスト・小テストが行われる。比率は試験80％、発音・小テストが20％。欠席・遅刻は減点の対象になり得る。出席点はない。授業出席が前提である。				
9. その他				
特になし。				

科目区分／科目ナンバー		外国語科目／(BA) LAN911E	
科目名		IBP（語学研修）B 4 年次履修不可	
担当者		DUPLICE, JOHN	
1 単位	1 年次	秋学期集中	和泉
1. 授業の概要・到達目標 This is a practical course which provides students with the opportunity to study English and to experience university life and homestay in the USA. Students will study general and business English on a 4-week program at San Jose State University (SJSU). They will also visit local companies and participate in cultural activities. Students will have opportunity to practice their English in authentic settings with other students and their homestay family. The class will meet a total of five times: three times before the study abroad program to prepare students for their time in the USA, and two times for de-briefing and final presentations after the program abroad. Participation will be monitored throughout the program and a final grade will be given after final presentations. Objectives Students who successfully complete this course will: • be able to communicate more effectively with native English speakers • have a basic understanding of U.S. business practices and language • be familiar with U.S. university life and study • have a better understanding of life and culture in the USA			
2. 授業内容 The IBP course has three parts: Part One: Three class meetings to prepare for studying abroad 1) Introductions and orientation to study abroad and U.S. university life 2) The Homestay Experience/Information about final presentation task 3) Life in the USA - host town opportunities and cultural adjustment Part Two: Four weeks of study in the USA. Classes include general and business English. While in the USA, students are required to write Oh-o! Meiji internet postsl about their experiences. Part Three: 1) Group discussions about experiences and preparation for final presentations 2) Final presentations			
3. 履修上の注意 Students participating in the IBP course must have a strong desire to improve their English abilities. They must also have a TOEIC score of 400 or more equivalent.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 In addition to coursework, students will keep a journal (in English) in which they will note their experiences and reflections throughout the IBP process. The journals will be used in preparing the final presentations. Grading and Evaluation The grade will be determined by attendance and participation in the class sessions before the overseas study (10%); by the assessment carried out in the overseas program (70%); and by the journal and final presentation (20%).			
5. 教科書 Materials will be provided during class. Course website.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Students must complete tasks specified by the host institution. Feedback will be provided in person and through Oh-o! Meiji.			

8. 成績評価の方法

The grade will be determined by attendance and participation in the class sessions before the overseas study (10%); by the assessment carried out in the overseas program (70%); and by the journal and final presentation (20%).

9. その他

科目区分／科目ナンバー		体育実技／(BA)HES143J	
科目名		体育実技 A（統一）	
担当者		一之瀬 真志・柏木 悠・後藤 肇・後藤 洋一・佐藤 伸一郎・霜鳥 駿 太・高梨 美奈・田中 充洋・針ヶ谷 雅子・吉松 梓	
1 単位	1 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 体育実技 A は、学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。また、先生やクラス仲間とのコミュニケーションを深めることも同時にねらいとしています。 〈到達目標〉 技術力の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しめる能力を身につけるとともに、文化や科学としてのスポーツを自分自身で享受できる能力を養うことを目標とします。			
2. 授業内容 実施種目は、使用する施設に応じたスポーツ・レクリエーション活動を実施します。 （例）利用施設：グラウンド 実施種目：ソフトボール、サッカーなどの屋外球技 第 1 回：イントロダクション（更衣室など利用施設の説明など） 第 2～4 回：ソフトボール（基礎スキルの習得） 第 5～7 回：ソフトボール（チーム戦術の習得とゲーム） 第 8～10 回：サッカー（基礎スキルの習得） 第 11～13 回：サッカー（チーム戦術の習得とゲーム） 第 14 回：他球技の紹介と授業の振り返り ※毎時間準備運動として、敏捷性・柔軟性・バランス感覚などを養うトレーニングを行います。			
3. 履修上の注意 体育実技は、1 年次必修科目で、指定された曜日・時限に各クラス単位で授業を行ないます。 最初の授業時間に各クラスの実技担当教員による詳細なオリエンテーションが実施されるので、初回の授業にかならず出席すること。なお、運動を禁止されている者、障害者などについては、そのための授業クラスを用意してありますので、入学時の学習指導の時に申し出てください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4 月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診すること。 事故やけがの予防のためにも、前日に十分な睡眠をとり、授業時の準備運動をしっかりと行うようにして下さい。			
5. 教科書 特定のテキストは用いない。			
6. 参考書 最新スポーツルール百科 大修館書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業終了後、全体的な講評・模範例などを紹介する。			
8. 成績評価の方法 授業回数の 2/3 以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。成績は総合的な観点から評価されます（取り組む姿勢等の授業への貢献度 85%、レポート 15%）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		体育実技／(BA)HES143J	
科目名		体育実技B（統一）	
担当者		一之瀬 真志・柏木 悠・後藤 肇・後藤 洋一・佐藤 伸一郎・霜鳥 駿 太・高梨 美奈・田中 充洋・針ヶ谷 雅子・吉松 梓	
1 単位	1 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 体育実技Bは、学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術・身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。また、先生やクラス仲間とのコミュニケーションを深めることも同時にねらいとしています。 （到達目標） 技術力の高低や得意不得意、好き嫌いとらわれず、自分の持っている技術力をいかして、スポーツそのものを楽しめる能力を身につけるとともに、文化や科学としてのスポーツを自分自身で享受できる能力を養うことを目標とします。			
2. 授業内容 実施種目は、使用する施設に応じたスポーツ・レクリエーション活動を実施します。 （例）利用施設：体育館 3F メインホール 実施種目：バレーボール、バスケットボールなどの室内球技 第1回：イントロダクション（更衣室など利用施設の説明など） 第2～4回：バレーボール（基礎スキルの習得） 第5～7回：バレーボール（チーム戦術の習得とゲーム） 第8～10回：バスケットボール（基礎スキルの習得） 第11～13回：バスケットボール（チーム戦術の習得とゲーム） 第14回：他球技の紹介と授業の振り返り ※毎時間準備運動として、敏捷性・柔軟性・バランス感覚などを養うトレーニングを行なう。			
3. 履修上の注意 体育実技は、1年次必修科目で、指定された曜日、時限に各クラス単位で授業を行ないます。 最初の授業時間に各クラスの実技担当教員による詳細なオリエンテーションが実施されるので、初回の授業にかならず出席すること。 なお、運動を禁止されている者、障害者などについては、そのための授業クラスを用意してありますので、入学時の学習指導の時に申し出てください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4月の学習指導時に実施される学内の健康診断を必ず受診すること。 事故やけがの予防のためにも、前日に十分な睡眠をとり、授業時の準備運動をしっかりと行うようにして下さい			
5. 教科書 特定のテキストは用いない。			
6. 参考書 最新スポーツルール百科 大修館書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業終了後、全体的な講評・模範例などを紹介する。			
8. 成績評価の方法 授業回数の2/3以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。成績は総合的な観点から評価されます。（取り組む姿勢等の授業への貢献度 85％、レポート 15％）			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		体育実技／(BA)HES243J	
科目名		選択体育実技 A バスケットボール	
担当者		後藤 肇	
1 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 選択体育実技は、1 年次の体育実技 A・B (必修 2 単位) を修得した者 (2, 3, 4 年次) のみを対象に開講されています。 学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進を図り、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。 また同時に、受講生同士のコミュニケーションを深めることもねらいとしています。 尚、各回の実技は「ウォーミングアップ→スキルアップ練習→ゲーム」を基本とします。 (到達目標) バスケットボールという素晴らしいスポーツの力を借りることを通して、個人スキル、チームスキルを向上させていくだけではなく、皆で力を合わせて練習課題やゲームに真剣に取り組む姿勢と、ルールや規範を遵守した上で楽しさを追求する態度を体得していきます。スポーツ環境の中で、他者の存在を尊重しながらスポーツ環境や集団をマネジメントしていくことの大切さとその方法論を学んでいきます。			
2. 授業内容 第 1 回：授業を通した約束事項と動的→静的→動的ストレッチの学習&実践 チーム分け (体育館講義室にて実施予定) 第 2 回：ゴールへの固執 フリースペースへの移動→ミート→シューティング 第 3 回：コーリング (キャッチボイス) とヒアリングの徹底&ルーティン練習の学習 第 4 回：「Look→Decision→Action!」をベースにプレー！ 第 5 回：チェンジ・オブ・ペースを使ってボールタッチ！ (HALF コート 3 on 3) 第 6 回：左右自在なドリブルワークでハンドリング向上！ (両側性転移の促進) 第 7 回：「パス&ラン」でフロントコートに攻め込む！ (ALL コート 5 on 5) 第 8 回：「切れる」「あがる」の習慣化と「合わせ」の重要性 第 9 回：スクリーンやピック&ロールで組織オフェンスに挑戦！ 第 10 回：アウトナンバー (数的優位) をつくる！生かす！ 第 11 回：「出し」「入れ」活用！ポストプレーと内外の攻撃スペース (インサイド・アウト) 第 12 回：ボールの獲得 (リバウンド) と支配 (ポゼッション) 第 13 回：Transition (攻守の切り替え) での覚醒 第 14 回：ターンオーバーの削減とゲームのペースメイク ～まとめ～			
3. 履修上の注意 この選択体育実技は、2 年生以降 (2～4 年生) の履修が可能な科目です (1 年生は受講できません)。 受講を認められた者は、直前でのキャンセルがないように十分注意して下さい。 初回のガイダンス授業に必ず出席して下さい。 本授業には受講人数制限があります。そのため、経営学部生は履修に際して Web による事前受付を実施します。 詳細については「経営学部履修の手引」を参照して下さい。 バスケットボールは、他のスポーツ種目にもれることなく、常にルールと規範を遵守するとともに、安全の確保と危険の回避に留意することが不可欠な身体活動です。初回のガイダンス授業での約束を守り、スポーツ環境の維持にしっかり協力できることを前提として履修して下さい。尚、授業である以上、身勝手な行動は許されないこと、サークル等の自由な活動とは異なるということ、シラバスやガイダンスの注意事項を受け入れること等を十分認識して履修して欲しいと思います。 各回とも、前日からの睡眠確保等の自己体調管理に努め、体調に違和感のある場合は必ず教員に申し出て下さい。 実技に際しては、スポーツシューズ(屋内専用)、スポーツに適した服装 (ウェア等) を事前に準備し、必ず着用して下さい。 楽しいスポーツ環境には、気持ちの良い挨拶というコミュニケーションの基盤が必要です。実技のスタートに際して自発的に挨拶を交わすことや率先して準備や片付けに関わることができるよう、心の準備をしておきましょう。 履修上の留意点 ・初回授業の教室は、体育館エントランス右脇のインフォメーションボードに掲示されます。早めに確認して移動して下さい。 ・初回のガイダンスの説明内容、資料を十分に把握し、注意事項を守って実技・講義に参加できることを履修条件とします。 ・実技に際しては、無反応を装う等の行為をすることなく、特に危険回避のための注意をしっかり受け入れて下さい。 ・従来、実技ではマスクの着用を推奨はしていませんが、感染症等のリスクを鑑み自己の判断を尊重するので、マスク着用の場合は、呼吸器や循環器に過度の負担を感じる前に、マスクを外して呼吸を整えるように努めましょう。 ・身体の不調や身体的基礎疾患(既往症)、精神的疾患、傷害等がある場合は、必ず事前に担当教員に報告・連絡・相談して下さい。実技中・実技終了後の体調不良についても、担当教員への伝達を絶対に怠らないで下さい。授業中の怪我は、原則的に保険対象となるので、必ず受傷後すぐに担当教員に申し出て下さい。尚、当日の運動が危険であると判断できる際は、授業マネジメントに努めることで出席とします。 ・遅刻はしないようにすることが前提ですが、電車の遅延、部活動の昼休みミーティングをはじめ、遅刻をしてしまった際は、すぐに遅刻の報告をするようにして下さい。また度重なる遅刻は、授業の進行や他の受講生の活動の妨げとなることを認識するようにして下さい。 ・身体接触の見込まれる運動の場合、自分自身や他者を傷つける可能性のある装飾品 (ピアス等) を絶対に外して下さい。			

・各自、ペットボトル等を準備し、こまめに適度な水分（塩分）補給に努めるなど、自らリスク回避に努めて下さい。

・準備や片付け、ウォーミングアップをはじめ、自分の主体性と自主性を大切にして下さい。

・他者を避けるような行動や態度は、履修生の円滑な対人関係や授業進行の妨げになるので絶対に慎みましょう。また、一部の仲の良い関係性だけを許容した授業展開はせず、履修者の皆が分け隔てなく相互に関わることを原則とします。授業に関わるすべての人を尊重し、協力できる姿勢を大切にしましょう。

・運動後は、一時的に体力が著しく低下するので、クーリングダウンの時間が保てない場合は、できるだけ早い段階で自分の健康を守るためのケアを行い、帰宅後も入浴等で心身の疲労回復に努めて下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

本授業のシラバス（講義要項）を熟読するとともに、初回ガイダンス授業（体育館講義室を予定）で配布する資料の内容を十分に把握した上で実技授業に参加するようにして下さい。

第二回目からの実技授業では実践性の高い練習やゲームに入っていくので、自分の身体を事前に動かして、怪我や事故を起こさないよう心身の準備をするように努めてください。また、他の受講学生や授業進行に迷惑をかけることのないよう、円滑かつ安全に集団行動をするためのルールや規律を高く認識しておくことが必要となります。

5. 教科書

特定のテキストは用いない（ガイダンス授業で配布する資料、および Oh-o! Meiji 内の授業資料を参照のこと）。

6. 参考書

「健康・スポーツの心理学」 青木 高 大田壽城 監修 落合 優 編著 建帛社
（※購入の必要はありません）

授業で配布される資料と Oh-o! Meiji に掲載された資料を通じて、しっかり予習・復習（学修）をして下さい。

7. 課題に対するフィードバックの方法

運動技術の習得、運動技能の向上の過程においては、他の教科とは異なり、分習法と全習法を織り交ぜながら、繰り返し反復して練習をする必要があります。提示する運動課題の困難度が徐々に高くなるため、個人差も生まれやすくなります。

バスケットボールの熟練者以外の受講生に対してはアドバイスをを行い、運動技術の習得段階からスキルアップの過程において、本時と次の授業に向けてのフィードフォワードとフィードバックを行います。

主にキーワード法を中心とした言語的指導と板書による記述形式の指導を行い、課題に対する

8. 成績評価の方法

授業回数の 2 / 3 以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。

成績は、授業への参加度 60%、授業への関与姿勢・貢献度・社会性等 30%、技能向上 10% を基本として総合的な観点から評価されます。レポート等の課題を求める場合は、授業への参加度以外の配点内（40%）で評価を行います。

9. その他

- ・経営学部生以外の学部の学生は、定員に余裕がある場合のみ履修可能です。
- ・他者に迷惑をかけることなく皆で運営する授業であるため、履修にあたってはしっかり熟慮し、継続的な出席責任を持って下さい。
- ・抽選方法は、3 月末に Oh-o!Meiji でお知らせします。

科目区分／科目ナンバー		体育実技／(BA)HES243J		
科目名		選択体育実技B バスケットボール		
担当者		後藤 肇		
1 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 選択体育実技は、1 年次の体育実技 A・B（必修 2 単位）を修得した者（2， 3， 4 年次）のみを対象に開講されています。 学生 の身体諸機能の向上ならびに体力の増進を図り、将来の社会生活の活動基盤となる体力および生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身につけることを目的としています。 また同時に、受講生同士のコミュニケーションを深めることもねらいとしています。 尚、各回の実技は「ウォーミングアップ→スキルアップ練習→ゲーム」を基本とします。 〈到達目標〉 バスケットボールという素晴らしいスポーツの力を借りることを通して、春学期からの履修者、秋学期からの履修者という小さな枠にとどまることなく、環境や集団をマネジメントしていく実践力を身につけていくことを目標とします。また、本授業を通じて、社会においても通用する「真のコミュニケーション能力」を体得していきながら、仲間との結束力を高めていくことの楽しさを学んで欲しいと思います。				
2. 授業内容 第 1 回：春学期授業を通した約束事項と動的→静的→動的ストレッチの再確認&実践 チーム分け（体育館講義室にて実施） 第 2 回：クリスクロスからの 3 on 2 (HALF コート) & ルーティン練習の再確認・実践 第 3 回：コートバランスを保つ&崩す (HALF コート 5 on 5) 第 4 回：Transition 覚醒の 3 on 3～3 on 2 (ALL コート) 第 5 回：Transition からの組み立て 5 on 5 (ALL コート 1.5 往復) 第 6 回：ルーティン&シーケンスの重視 第 7 回：組織ディフェンスの決定とポジション役割 第 8 回：自主的マネジメント①（リスク・マネジメント） 第 9 回：自主的マネジメント②（タイム・マネジメント） 第 10 回：自主的マネジメント③（プログラム・マネジメント） 第 11 回：自主的マネジメント④（チーム・ビルディング&マネジメント） 第 12 回：自主的マネジメント⑤（ゲーム・マネジメント） 第 13 回：自主的マネジメント⑥（トータル・マネジメント） 第 14 回：スポーツ環境の運営とバスケットボールを楽しむこと（総括）				
3. 履修上の注意 この選択体育実技は、2 年生以降（2～4 年生）の履修が可能な科目です（1 年生は受講できません）。 受講を認められた者は、直前でのキャンセルがないように十分注意して下さい。 初回のガイダンス授業に必ず出席して下さい。 本授業には受講人数制限があります。そのため、経営学部生は履修に際して Web による事前受付を実施します。 詳細については「経営学部履修の手引」を参照して下さい。 バスケットボールは、他のスポーツ種目にもれることなく、常にルールと規範を遵守するとともに、安全の確保と危険の回避に留意することが不可欠な身体活動です。初回のガイダンス授業での約束を守り、スポーツ環境の維持にしっかり協力できることを前提として履修して下さい。 尚、授業である以上、身勝手な行動は許されないこと、サークル等の自由な活動とは異なるということ、シラバスやガイダンスの注意事項を受け入れること等を十分認識して履修して欲しいと思います。 各回とも、前日からの睡眠確保等の自己体調管理に努め、体調に違和感のある場合は必ず教員に申し出て下さい。 実技に際しては、スポーツシューズ(屋内専用)、スポーツに適した服装（ウェア等）を事前に準備し、必ず着用して下さい。 楽しいスポーツ環境には、気持ちの良い挨拶というコミュニケーションの基盤が必要です。 実技のスタートに際して自発的に挨拶を交わすことや率先して準備や片付けに関わることができるよう、心の準備をしておきましょう。 履修上の留意点 ・初回授業の教室は、体育館エントランス右脇のインフォメーションボードに掲示されます。早めに確認して移動して下さい。 ・初回のガイダンスの説明内容、資料を十分に把握し、注意事項を守って実技・講義に参加できることを履修条件とします。 ・実技に際しては、無反応を装う等の行為をすることなく、特に危険回避のための注意をしっかりと受け入れて下さい。 ・従来、実技ではマスクの着用を推奨はしていませんが、感染症等のリスクを鑑み自己の判断を尊重するので、マスク着用の場合は、呼吸器や循環器に過度の負担を感じる前に、マスクを外して呼吸を整えるように努めましょう。 ・身体の不調や身体的基礎疾患(既往症)、精神的疾患、傷害等がある場合は、必ず事前に担当教員に報告・連絡・相談して下さい。実技中・実技終了後の体調不良についても、担当教員への伝達を絶対に怠らないで下さい。授業中の怪我は、原則的に保険対象となるので、必ず受傷後すぐに担当教員に申し出て下さい。尚、当日の運動が危険であると判断できる際は、授業マネジメントに努めることで出席とします。 ・遅刻はしないようにすることが前提ですが、電車の遅延、部活動の昼休みミーティングをはじめ、遅刻をしてしまった際は、すぐに遅刻の報告をするようにして下さい。また度重なる遅刻は、授業の進行や他の受講生の活動の妨げとなることを認識するようにして下さい。 ・身体接触の見込まれる運動の場合、自分自身や他者を傷つける可能性のある装飾品（ピアス等）を絶対に外して下さい。				

・各自、ペットボトル等を準備し、こまめに適度な水分（塩分）補給に努めるなど、自らリスク回避に努めて下さい。

・準備や片付け、ウォーミングアップをはじめ、自分の主体性と自主性を大切にして下さい。

・他者を避けるような行動や態度は、履修生の円滑な対人関係や授業進行の妨げになるので絶対に慎みましょう。また、一部の仲の良い関係性だけを許容した授業展開はせず、履修者の皆が分け隔てなく相互に関わることを原則とします。授業に関わるすべての人を尊重し、協力できる姿勢を大切にしましょう。

・運動後は、一時的に体力が著しく低下するので、クーリングダウンの時間が保てない場合は、できるだけ早い段階で自分の健康を守るためのケアを行い、帰宅後も入浴等で心身の疲労回復に努めて下さい。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

春学期からの継続履修者、秋学期からの新規履修者の違いに関わらず、本授業のシラバス（講義要項）を熟読するとともに、初回ガイダンス授業（体育館講義室を予定）で配布する資料の内容を十分に把握した上で実技授業に参加するようにして下さい。

第2回目からの実技授業では実践性の高い練習やゲームに入っていくので、自分の身体を事前に動かして、怪我や事故を起こさないよう心身の準備をするように努めてください。また、他の受講学生や授業進行に迷惑をかけることのないよう、円滑かつ安全に集団行動をするためのルールや規律を高く認識しておくことが必要となります。

5. 教科書

特定のテキストは用いない（ガイダンス授業で配布する資料、および Oh-o! Meiji 内の授業資料を参照のこと）。

6. 参考書

「健康・スポーツの心理学」 青木 高 大田壽城 監修 落合 優 編著 建帛社
（※購入の必要はありません）
授業で配布される資料と Oh-o! Meiji に掲載された資料を通じて、しっかり予習・復習（学修）をして下さい。

7. 課題に対するフィードバックの方法

運動技術の習得、運動技能の向上の過程においては、他の教科とは異なり、分習法と全習法を織り交ぜながら、繰り返し反復して練習をする必要があります。提示する運動課題の困難度が徐々に高くなっていくため、個人差も生まれやすくなります。

バスケットボールの熟練者以外の受講生に対してはアドバイスをを行い、運動技術の習得段階からスキルアップの過程において、本時と次の授業に向けてのフィードフォワードとフィードバックを行います。

主にキーワード法を中心とした言語的指導と板書による記述形式の指導を行い、課題に対する意識を

8. 成績評価の方法

授業回数の2/3以上出席し、担当教員の認定を得なければ所定の単位を修得することができません。
成績は、授業への参加度60%、授業への関与姿勢・貢献度・社会性等30%、技能向上10%を基本として総合的な観点から評価されます。
レポート等の課題を求める場合は、授業への参加度以外の配点内（40%）で評価を行います。

9. その他

- ・経営学部生以外の学部の学生は、定員に余裕がある場合のみ履修可能です。
- ・他者に迷惑をかけることなく皆で運営する授業であるため、履修にあたってはしっかり熟慮し、継続的な出席責任を持って下さい。
- ・抽選方法は、3月末に Oh-o!Meiji でお知らせします。

科目区分／科目ナンバー		体育実技／(BA)HES243J	
科目名		学外選択体育実技 A	
担当者		吉松 梓	
1 単位	2 年次	春学期集中	
1. 授業の概要・到達目標 夏期学外集中授業【キャンプベーシック 2 期】 <授業の概要> この授業では、自然環境の中でテント泊と野外炊事をベースにした生活を送りながら、キャンプを楽しむための知識・技術・マナー、野外でのリスクマネジメントや環境への配慮、集団で生活するための組織運営や役割分担の方法について学ぶ。また、こうしたアウトドアライフを基礎にして、サイクリング、トレッキング、カヌー等のアウトドアスポーツを体験する。それによって、将来的に野外活動を安全に楽しむための基礎知識と態度、技術を身につける。煩雑な都会での日常生活を離れ、自然の中でシンプルな生活を送ることで、自然や仲間、そして自分自身について新しい発見をする機会を得ることができる。 <到達目標> 1. 夏期における多様な野外活動を体験し、基本的な知識と技術、安全に活動する方法を習得する。 2. 野外活動におけるフィールドの特性を理解し、自然環境に配慮した行動をすることができる。 3. グループでの活動を通して、自己理解・他者理解を深めることができる。 4. 体験学習サイクルに基づいて、体験をふりかえり、言語化することができる。			
2. 授業内容 <実施場所> 静岡県立朝霧野外活動センター キャンプ場 <実施期間> 2026 年 9 月 15 日（火）～18 日（金） 3 泊 4 日 < 定員 > 42 名（政経学部 21 名まで） < 指導者 > 6 名 < 経費 > 22,000 円程度（キャンプ場利用料、食料費、保険料、交通費など） <事前授業> 5 月中旬、7 月上旬 計 2 回 <実習内容> 1 日目（午後）：現地集合、開講式、野外生活の環境整備、野外炊事、ふりかえり 2 日目（午前）：野外炊事、イニシアティブゲーム 2 日目（午後）：選択プログラム（クラフト、ニュースポーツなど）、野外炊事、ふりかえり 3 日目（全日）：アウトドアスポーツ（ハイキング、サイクリングなど）、野外パーティー、ふりかえり 4 日目（午前）：撤収、実習ふりかえり・まとめ、閉講式、現地解散 <宿泊形態> テント泊 ※天候等の影響により授業内容を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 1. 事前授業および現地実習（3 泊 4 日）に全日程に参加できることを履修の条件とする。 2. 受講希望者は Oh-o!Meiji のアンケート機能から、事前受付期間（4 月初旬）に申し込むこと。定員超過の場合は抽選となる。 3. 事前受付期間（4 月初旬）の昼休みの時間帯に、対面でのガイダンスを実施予定。抽選となった場合は、対面ガイダンス出席者を優先する。 4. 受講を認められた学生は、特別な理由がない限りキャンセル（履修削除）はできない。 5. 登録料および事前納入費（5 月末までに納入）は、特別な理由によるキャンセルの場合も返金できないことがある。 6. 4 月に実施される学内の健康診断を必ず受診すること。 7. この科目の単位は、卒業判定の時期までに付与されない場合がある。したがって、当該 学期末に卒業を予定している学生は十分に注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 日頃から自分の心身の状態に気を配り、実習当日は心身のコンディションを整えた上で参加すること。 2. 生活環境周辺の草花や四季の変化、天候の変化など、身近な自然に気づく視点を持つこと。 3. 日常生活の中で環境に配慮した行動（ゴミの削減、資源の有効活用、環境負荷の低い製品の購入など）に心掛けること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。			
6. 参考書 『野外教育入門シリーズ第 1 巻』星野敏男・金子和正監修（杏林書院）2011。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎日の実習日誌に、コメントをフィードバックする。			

8. 成績評価の方法

事前授業および現地実習（3泊4日）に全日程に参加できることを単位修得の条件とする。

その上で、事前授業と実習中の取り組み状況 60%（主体性と実行力、協働する力）、実習日誌 20%、レポート 20%により総合的に評価する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN975J		
科目名		グローバル・サービスラーニング A		
担当者		小関 隆志		
2 単位	1 年次	春学期集中	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：ビジネスマインドと社会貢献マインドを併せ持つグローバル人材の育成のために開発途上国を含む海外の様々なコミュニティを拠点に実施されるボランティア実習プログラムに参加し、専門家や教員の指導を受けつつ、主体的に具体的な社会課題を解決するための社会貢献活動を行います。 到達目標：経済状況や文化・生活習慣も異なる海外の現場でボランティアを体験することで、社会貢献マインドを醸成し、現地住民・学生との交流やチームワークを通じて語学力やコミュニケーション能力、主体的な課題解決能力を強化します。				
2. 授業内容 (1) 事前学習 派遣先の国・地域（インドネシア共和国）の事情を理解し、現地での活動計画を立てるために、事前学習を実施します。 (2) 現地研修 インドネシア共和国・バリ島にて、孤児院での実態調査・教育活動、現地大学で同世代の人たちとの交流・意識調査、日本語学校（社会人対象）で生徒への日本語指導、バリ島の特徴を知るための調査（文化・歴史・食事など）を行う。時期は8～9月中の約2週間を予定しています。 (3) 事後研修 実習成果報告会に参加し発表を行います。				
3. 履修上の注意 日程及び活動内容の詳細、応募方法については、募集説明会にて示す予定です。 履修者の上限は15名とします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習に参加し、派遣先の国・地域の事情、活動の意義と内容を理解するとともに、現地での活動計画を立てます。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムやLINE を利用してフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 事前学習の参加状況（20%）、現地研修の状況（60%）、実習成果報告会（20%）を総合して評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN975J		
科目名		グローバル・サービスラーニングB		
担当者		小関 隆志		
2 単位	1 年次	秋学期集中	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：ビジネスマインドと社会貢献マインドを併せ持つグローバル人材の育成のために開発途上国を含む海外の様々なコミュニティを拠点に実施されるボランティア実習プログラムに参加し、専門家や教員の指導を受けつつ、主体的に具体的な社会課題を解決するための社会貢献活動を行います。 到達目標：経済状況や文化・生活習慣も異なる海外の現場でボランティアを体験することで、社会貢献マインドを醸成し、現地住民・学生との交流やチームワークを通じて語学力やコミュニケーション能力、主体的な課題解決能力を強化します。				
2. 授業内容 (1) 事前学習 派遣先の国・地域（フィリピン共和国）の事情を理解し、現地での活動計画を立てるために、事前学習を実施します。 (2) 現地研修 フィリピン共和国・セブ島にて、孤児院での支援活動、ストリートチルドレンへの給食配給活動などを行います。時期は2～3 月中の約 2 週間を予定しています。 (3) 事後研修 実習成果報告会に参加し発表を行います。				
3. 履修上の注意 日程及び活動内容の詳細、応募方法については、募集説明会にて示す予定です。 履修者の上限は 15 名とします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習に参加し、派遣先の国・地域の事情、活動の意義と内容を理解するとともに、現地での活動計画を立てます。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムやLINE を利用してフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 事前学習の参加状況（20%）、現地研修の状況（60%）、実習成果報告会（20%）を総合して評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA)ACD316J	
科目名		リサーチ・リテラシーA〔M〕	
担当者		加藤 千恵子	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 情報化社会の進展により、膨大なデータがやりとりされる昨今では、データの収集、分析、活用に関わるデータサイエンスがより一層、重要性を増してきている。このような社会に生きる私たちには、データの利活用に関わるリテラシーを学ぶとともに、データの収集・分析のための実践的な技術を獲得することが求められているといえる。 本講義では、多様なデータ収集の手段となる、量的・質的な調査の実施に必要な知識とスキルの獲得を目指す。講義を通じた知識獲得に加えて、Excel や SPSS 等のソフトウェアを利用した演習課題により、量的・質的なデータ分析等のスキルの獲得を図る。 特に、定量的調査におけるデータ収集・分析手法については、Excel や SPSS 等を用いた分析の方法を映像付きで解説する。そのため、映像を繰り返し視聴しながら、自らソフトウェアを操作して分析のスキルを身に付けることができる。また、講義内容に関して分からないことがある場合等は、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を利用して担当教員への質問、相談ができるようにする。 (到達目標) 量的調査・質的調査に関わる基礎知識や、調査のプロセスと手法、データ収集・分析の手法等、実際に調査を行うために必要な知識・スキルを獲得することを目標とする。具体的には、社会調査の考え方や各種理論、調査の企画から報告書作成までのプロセス等を学び、様々な形式での調査の実施、データの収集、量的・質的なデータ分析と評価のスキルの獲得を目指す。知識・スキルの獲得状況については、各回の課題と、授業期間内に4回出題される演習課題（①Excel・SPSSによる基本統計量の計算、②Excel・SPSSによる量的データの統計解析、③ライフヒストリー法・ケーススタディによる質的データの分析、④Excel・SPSSによる質的データの統計解析）を通じて評価する。			
2. 授業内容 第1回：社会調査とは、文献調査、調査の企画、データの性質、標本抽出〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：量的調査と質的調査〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：量的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：量的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：Excel・SPSSによる基本統計量の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：Excelによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：SPSSによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：質的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：質的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：インタビュー法、面接法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：観察法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：ライフヒストリー法・ケーススタディ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：質的調査における統計的手法の適用／SPSSによる統計解析（カイ二乗検定）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。 なお、毎回の講義動画に対して、講義内容に関連した小課題への回答を求め、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換および講義に関する質問・相談の場を設ける。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ガイダンスにおいて授業予定が示されるので、授業の前後に当該の項目を学習すること。課題に対しては、参考書やWEBなども参考にしながら、完全に理解した上で回答を行うことを望む。			
5. 教科書 ・加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村三智子、鳥谷部達，“失敗しない社会調査法のすべて”，インデックス出版，（2010年）			
6. 参考書 ・石村友二郎，加藤千恵子，劉晨，“SPSSでやさしく学ぶアンケート処理 第5版”，東京図書，（2020年） ・石村貞夫，加藤千恵子，石村友二郎，“SPSSによる臨床心理・精神医学のための統計処理 第2版”，東京図書，（2015年） ・石村友二郎，加藤千恵子，劉晨，“Excelでやさしく学ぶ アンケート調査の統計処理 2019”，東京図書，（2019年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についての解説は、翌週の授業までに Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。			

8. 成績評価の方法

各回の小課題（50%）に加えて，講義内で4回の課題（50%）を出題する。これらの課題の提出状況および内容を踏まえて，成績評価を行う。

9. その他

授業で学ぶ量的・質的調査法は，マーケティングリサーチなどで使われる実践的知識であるので，多くの学生にとって有用な授業内容であると思われる。

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA)ACD316J	
科目名		リサーチ・リテラシーA〔M〕	
担当者		加藤 千恵子	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 情報化社会の進展により、膨大なデータがやりとりされる昨今では、データの収集、分析、活用に関わるデータサイエンスがより一層、重要性を増してきている。このような社会に生きる私たちには、データの利活用に関わるリテラシーを学ぶとともに、データの収集・分析のための実践的な技術を獲得することが求められているといえる。 本講義では、多様なデータ収集の手段となる、量的・質的な調査の実施に必要な知識とスキルの獲得を目指す。講義を通じた知識獲得に加えて、Excel や SPSS 等のソフトウェアを利用した演習課題により、量的・質的なデータ分析等のスキルの獲得を図る。 特に、定量的調査におけるデータ収集・分析手法については、Excel や SPSS 等を用いた分析の方法を映像付きで解説する。そのため、映像を繰り返し視聴しながら、自らソフトウェアを操作して分析のスキルを身に付けることができる。また、講義内容に関して分からないことがある場合等は、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を利用して担当教員への質問、相談ができるようにする。 (到達目標) 量的調査・質的調査に関わる基礎知識や、調査のプロセスと手法、データ収集・分析の手法等、実際に調査を行うために必要な知識・スキルを獲得することを目標とする。具体的には、社会調査の考え方や各種理論、調査の企画から報告書作成までのプロセス等を学び、様々な形式での調査の実施、データの収集、量的・質的なデータ分析と評価のスキルの獲得を目指す。知識・スキルの獲得状況については、各回の課題と、授業期間内に4回出題される演習課題（①Excel・SPSSによる基本統計量の計算、②Excel・SPSSによる量的データの統計解析、③ライフヒストリー法・ケーススタディによる質的データの分析、④Excel・SPSSによる質的データの統計解析）を通じて評価する。			
2. 授業内容 第1回：第1回：社会調査とは、文献調査、調査の企画、データの性質、標本抽出〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：量的調査と質的調査〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：量的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：量的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：Excel・SPSSによる基本統計量の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：Excelによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：SPSSによる統計解析①（t検定・相関分析）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：質的調査の企画と設計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：質的調査のプロセスと手法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：インタビュー法、面接法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：観察法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：ライフヒストリー法・ケーススタディ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：質的調査における統計的手法の適用／SPSSによる統計解析（カイ二乗検定）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。 なお、毎回の講義動画に対して、講義内容に関連した小課題への回答を求め、出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換および講義に関する質問・相談の場を設ける。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ガイダンスにおいて授業予定が示されるので、授業の前後に当該の項目を学習すること。課題に対しては、参考書やWEBなども参考にしながら、完全に理解した上で回答を行うことを望む。			
5. 教科書 ・加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村三智子、鳥谷部達，“失敗しない社会調査法のすべて”，インデックス出版，（2010年）			
6. 参考書 ・石村友二郎，加藤千恵子，劉晨，“SPSSでやさしく学ぶアンケート処理 第5版”，東京図書，（2020年） ・石村貞夫，加藤千恵子，石村友二郎，“SPSSによる臨床心理・精神医学のための統計処理 第2版”，東京図書，（2015年） ・石村友二郎，加藤千恵子，劉晨，“Excelでやさしく学ぶ アンケート調査の統計処理 2019”，東京図書，（2019年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題についての解説は、翌週の授業までに Oh-o! Meiji システムを通じて配信する。			

8. 成績評価の方法

各回の小課題（50%）に加えて，講義内で4回の課題（50%）を出題する。これらの課題の提出状況および内容を踏まえて，成績評価を行う。

9. その他

授業で学ぶ量的・質的調査法は，マーケティングリサーチなどで使われる実践的知識であるので，多くの学生にとって有用な授業内容であると思われる。

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN295J	
科目名		フィールドスタディ A・B 全体概要	
担当者			
2 単位	1 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) フィールドスタディは、フィールドワーク（現地実習）を通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。A・B では、一次資料の収集、とりわけ現地・現場の観察・体験に重点が置かれる。 (到達目標) ①調査対象に即した課題設定ができるようになること。 ②その課題に対する問題意識を深めるために文献等を検索して読めるようになること。 ③フィールドワークを通じて一次資料を収集し、それを分析できること。 ④独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成できること。			
2. 授業内容 事前学習、フィールドワーク、事後学習の 3 つのプロセスからなる。事前学習は、フィールドワークを効果的なものにするために必須である。事後学習においては必ず成果物を提出しなければならない。 フィールドワーク（現地実習・調査、講義・演習）は概略、次のように行われる。 実習日程：各学期の授業開始日から授業終了日までの間に 1－7 日間。複数回の実習が行われることもある。なお、特別な事情により休業期間に実施されること、7 日間を超えることもある。 実習場所：主として国内。海外の場合もある。 募集人員：最大 25 名（最少開講人数 4 名）。 参加費用：交通費・宿泊費等。学部実習費から一部補助が申請した参加者に支給される。 募集方法：WEB（抽選）またはレポート。 科目の性格上、授業内容、授業運営方法について、担当者による多様性が大きいので、担当者の説明をよく聞くこと。			
3. 履修上の注意 フィールドワークは集団で行うので、事前学習、事後学習も含め、規律を守り、他の履修者に迷惑をかけないこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 担当教員による。			
5. 教科書 担当教員による。			
6. 参考書 担当教員による。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各フィールドクラス内で個別、全体いずれかで講評が実施される。			
8. 成績評価の方法 事前学習、フィールドワーク、事後学習の全過程を通じて評価が行われる。			
9. その他 4 月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。 社会情勢・災害・感染症拡大等の理由により、安全が確保できないと学部が判断した場合は、実習を中止する。実習を中止する場合は、「履修取消」を行うことがある。中止の場合の渡航費等キャンセル料について、自己負担が生じる可能性がある。			

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J	
科目名		フィールドスタディC	
担当者		佐々木 聡	
2 単位	2 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：京都企業の歴史と現在 〈概要〉 この授業では、日本の京都やその周辺に事業拠点を置く有力企業や史料館を訪問し、聞き取り調査や現場の見学を実施する。 〈到達目標〉 ① 経営者や従業員への聞き取り調査の方法を、実際に学ぶ。 ② 経営者の経営理念や従業員の仕事の理念やモットーを、聞き手として概念的に再構築する。 ③ 経営者や従業員の企業家的資質（アントルプレヌールシップ）を理解する。 ④ 経営者や従業員の理念や企業家的資質を自らの将来設計の基盤の一部とする。			
2. 授業内容 多様性が尊重される社会のなかでAI の活用と DX が進展する現在, 大企業も中小企業も事業展開の見直しや働き方の改革が進められている。そうしたなかで、従来の事業の強みと特長を活かしながら、日本の伝統や文化を国際的に広く発信したり、新しい構想や技術によって新しいサービスを提供する企業も増えている。また障害者雇用と現場の改善を自主的に進めながら、優良製品を市場に提供する先進的企業もある。この授業では、そうした多くの企業のなかでも、京都企業に注目し、本社や製造現場やその関係部署（企業史料展示館ほか）を訪問し、事業展開の歩みや現在の経営方針、製造現場の特長などについて学ぶ。その際、経営者や現場の主たる従業員への質問を行うことによって、より理解を深める。当該企業の経営発展の歩みと現状を理解することで、企業の来し方の延長線上にある近未来像も展望したい。 【事前・事後学習】 （各 100 分、ZOOM によるオンライン・リアルタイム型授業） 第1回 今年度の予定と準備について 第2回 訪問先の経営史と現状① 第3回 訪問先の経営史と現状② 第4回 訪問先の経営史と現状③ 第5回 事前学習のまとめ 第6回 事後学習（学習の概括と討論） 【実地調査＋講義・演習】（実習：240 分×3 日，講義・演習：200 分×2 日） 実習・現地講義日程：2026 年 7 月上旬の 3 日間（7 月 2 日，3 日，4 日を予定しているが、変更の可能性もあり） 実習場所（予定：変更の可能性もあり）：京都府（川島織物，オムロン京都太陽【障害者雇用製造現場】，オムロンコミュニケーション・プラザ） 募集人数：18 名以内（最少催行人数 4 名） 参加費用：補助額（経営学部から補助あり）と自己負担についてオンライン事前学習時に説明の予定 募集方法：レポートによる選考。Oh-o! Meiji クラスウェブに仮参加のうえ、提出欄からレポートを提出すること。詳細は履修希望者ガイダンスで説明する。			
3. 履修上の注意 現地調査の前には、相当な事前学習が必要であり、グループの一員として責任ある学習姿勢が求められる。事前学習のプレゼンテーションと、調査後の課題レポートは必要条件である。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。WEB 登録となるので、履修を希望する場合、登録期間内に早めに登録し、課題レポートを提出すること。その歳、Oh-o! Meiji クラスウェブに仮参加のうえ、提出欄からレポートを提出すること。履修の可否は、課題レポートの内容によって判定される。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前学習では、訪問先についてのグループ学習とその準備と発表が必要である。講義時間以外にも学習時間が必要である。準備の事前授業は、ZOOM によるリアルタイム型で実施する予定である。春学期の金曜日の 5 時限を予定しているので、必ず時間を確保しておくこと。			
5. 教科書 特に指定しないが、調査対象企業の訪問企業の『会社史』やホームページなどは事前に調べておくこと。			
6. 参考書 特になし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内あるいは Oh-o!Meiji を通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 事前学習＋平常点（20％），調査実習（60％），事後の課題レポート（20％）として総合的に判定する。 したがって、実習に参加できなかった場合は、単位取得不可となる。			

9. その他

4月の初旬にフィールドスタディ履修希望者向けオンラインのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず内容を確認し、登録と課題レポートの提出をすること。

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J	
科目名		フィールドスタディ C	
担当者		清水 一之	
2 単位	2 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （科目テーマ） 本フィールドスタディは、FSC が日本、FSD が欧州において、それぞれ企業・研究機関・関連組織を訪問調査し、イノベーションとテクノロジーが企業ガバナンスや社会構造をどのように変化させているのかを実証的に学ぶことを目的とする。 （科目概要） 本プログラムでは、日本およびヨーロッパの企業を実地に観察し、テクノロジーの進化が企業経営・社会制度・産業構造に与える影響を分析する。 事前講義では、EU の制度的特徴や欧州型経営モデルを理解したうえで、ESG 投資、Industrie 4.0、ブロックチェーンの理論的枠組みを整理する。 現地では、以下の観点を中心に調査を行う。 ・ ESG 経営を実践する企業の取り組み ・ Industrie 4.0 型スマートファクトリー ・ 共同決定制度と企業統治 ・ ブロックチェーンの応用事例 これらのテーマについて問いを持ちながら、理論と現実を結びつけて考察する。 （到達目標） ・ 自ら計画を立て、主体的にテーマを設定し、調査を遂行できるようになること。 ・ 仲間と協力し合い、自らの役割を自覚し、責任を持って全うできるようになること。 ・ 実習で得た知見を、書籍や資料を用いてさらに深く掘り下げ、最終的に「文明開化と異文化交流」という視点からレポートを執筆できるようにすること。			
2. 授業内容 この授業は以下のような内容ですすめられる。 ① 4 月 1 4 日：オリエンテーション（春学期中の事前準備） ② 4 月 2 1 日：研究テーマの事前作業，研究チームの編成 ③ 4 月 2 8 日：フィールドスタディ前の集団討議 ④ 5 月 1 2 日：フィールドスタディ前の集団討議 ⑤ 5 月 1 9 日：フィールドスタディ前の集団討議 ⑥ 7 月 7 日：フィールドスタディ前の集団討議 実習日程：7 月 10～12 日 2 泊 3 日（訪問先企業及び訪問予定大学とのアポイントメントにより変更有） 実習場所：九州地方 募集人数：20 名以内（最少催行人数 4 名） 参加費用：約 5 万円（学部から実習終了後に補助費あり） 募集方法：WEB 履修登録（事前登録期間に注意すること） ⑦ 7 月 2 1 日：フィールドスタディ後の集団討議			
3. 履修上の注意 本実習は、学生主体で事前準備から各種手配、調査先の選定までを行う科目です。そのため、各自が明確な学習テーマを持ち、毎回の活動に積極的かつ主体的に取り組む姿勢が求められます。 本実習の母体は担当教員のゼミですが、ゼミ生以外の履修も可能です。ただし、高いモチベーションを持ち、すべての授業に参加することが前提となります。 準備段階から学生主体で進めるため、授業時間外の準備活動への参加が必要となる場合があります。本実習は旅行ではなく、学術的的目的をもつ調査活動であることを十分理解したうえで履修してください。軽い気持ちでの参加は控えてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 全体での学習に加え、テーマごとにグループを編成し、学生主体で事前学習から成果発表までを行います。そのため、毎回の授業までに各自が資料収集や下調べを行ったうえで授業に参加することが求められます。 また、実習後にはグループごとの成果発表会に向けて、各自での資料作成やレポート準備が必要となります。			
5. 教科書 特にありません。随時プリントなどを配布します。 基本的には事前学習＆事後学習で受講者自身が学習テーマにそった書籍や資料を持ち寄ることが求められます。			
6. 参考書 特にありません。必要に応じて授業内で紹介します。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

事前学習（実習スケジュール作成，各種手配，グループ学習，事前発表会）30%

実習本番（実習態度，責任感，計画性，協調性，役割をきちんと果たしているか）30%

事後学習（学習成果のまとめレポート，グループでの成果発表会）40%

9. その他

4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので，受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については，ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J		
科目名		フィールドスタディC		
担当者		石渡 幹夫		
2 単位	2 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 能登半島地震からの復興 【概要】 2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震は、マグニチュード 7.6 の地震と、それに伴う津波・土砂災害により甚大な被害をもたらした。さらに同年 9 月の豪雨災害が復興途上の被災地を再び襲い、複合災害としての様相を呈している。死者・行方不明者は約 700 名にのぼり、16 万軒以上の住宅が被害を受けた。現在も多くの被災者が仮設住宅での生活を余儀なくされている。 本実習では、能登半島の歴史的・文化的背景と震災前から抱えていた地域課題を理解したうえで、現地調査を通じて復興の現状と課題を学ぶ。被災地が直面する困難は、日本の多くの地方が共通して抱える問題と深く結びついており、復興のあり方を考えることは地域社会の持続可能性を考えることでもある。 【到達目標】 1 能登半島地震の被害状況と復興の進捗について、住宅再建、インフラ復旧、生業再建などの観点から具体的なデータや事例を用いて説明できる 2 能登半島の歴史・文化（祭礼文化、北前船の寄港地としての歴史など）が地域の復興にどのような影響を与えているかを考察し、議論できる 3 過疎化・高齢化が進む地域における災害復興の固有の課題を理解し、復興と地域活性化の関係について自分の考えを述べることができる				
2. 授業内容 初回授業は 2 週目から始めます。 第 1 回 イントロダクション：実習の目的と概要、グループ編成、スケジュール確認、諸手続き 第 2 回 事前学習①：能登半島の歴史と文化（グループ A 発表） 第 3 回 事前学習②：震災前からの地域課題（グループ B 発表） 第 4 回 事前学習③：地域活性化の取組み（グループ C 発表） 第 5 回 事前学習④：総合討論と現地調査の準備質問事項の整理 現地調査実習（約 4 日間） 第 6 回 事後学習：調査結果の整理とグループ討議 第 7 回 最終報告会 実習日程：6 月末を予定。約 4 日間。 実習場所：能登半島（能登町、輪島市、珠洲市） 参加費用：6 万円程度：交通費・宿泊費など。旅費助成あり 参加人数：10 名以内（最小催行人数 4 名） 募集方法：WEB 抽選				
3. 履修上の注意 被災地では、被災地の状況に十分配慮し調査を行うこと。現地の状況により訪問先や日程が変更となる場合がある。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 3 つのグループに分かれ、以下のテーマについて震災の影響と復興のあり方を調査し、発表・討論を行う。 A 能登半島の歴史と文化 B 人口減少、高齢化などの震災前からの地域課題 C 地域活性化の取組み				
5. 教科書				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内あるいは Oh-o!Meiji を通じてフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 ・事前学習・平常点（20％）：グループ発表への貢献、討論への参加 ・現地調査実習（60％）：調査への積極的参加、聞き取りの質 ・事後レポート・発表（20％）：調査結果の分析・考察、到達目標の達成度				

9. その他

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J	
科目名		フィールドスタディ C	
担当者		新宅 純二郎	
2 単位	2 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ものづくり現場の観察 〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワークを通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。フィールドスタディ C では、教員が 3 か所程度の製造業系企業の現場（工場とは限らない）をアレンジするので、見学先の産業や企業について、事前に調査して、どのような観点で現場を見学すればよいかなど、課題設定する。また、現場の見学時には、現場で得られる情報を正確に記録し、事後的にそれらを分析したレポートを作成する。 〈到達目標〉 1. 調査対象について、事前調査のために、適切な文献・資料などを収集整理する能力を身に付けること。 2. 収集した文献・資料をもとに、現場観察につながる課題設定ができること。 3. 現場で聞いたこと、見たことなどを、フィールドノートとして詳細かつ正確な記録を残すこと。 4. 事前学習とフィールドノートをもとにして、適切なレポートを作成できること。			
2. 授業内容 製造業のものづくり現場では、各産業、各企業が置かれた状況のなかで、様々な問題解決が日々実施されている。その問題は、設計、部品材料調達、コスト、品質、納期、労働、環境など様々である。現場で、どのような問題にどのように対処しているかについて、現場観察を通じて学んでいく。3 回の異なる現場観察を前提にして、以下のような構成の学習を 3 ラウンドまわす予定である。実際に訪問する企業は授業開始時に発表する予定である。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 基礎講義、担当企業班分け 【企業 A セッション】 第 3 回 事前調査（グループワーク） 第 4 回 事前調査発表 第 5 回 現場見学調査 第 6 回 まとめセッション 【企業 B セッション】 第 3 回 事前調査（グループワーク） 第 4 回 事前調査発表 第 5 回 現場見学調査 第 6 回 まとめセッション 【企業 C セッション】 第 3 回 事前調査（グループワーク） 第 4 回 事前調査発表 第 5 回 現場見学調査 第 6 回 まとめセッション 募集人数：16 名程度（最少催行人数 4 名） 参加費用：授業開始時に指示。 募集方法：WEB（抽選）			
3. 履修上の注意 製造業に対する問題意識や関心が強いこと、現場でのフィールドノート作成に意欲があることが求められる。現場訪問は学期中の平日（できる限り本授業と同じ曜日）の半日か終日を使うことになるので、その日は必ず現場訪問に参加すること。 3 社のうち 2 社は東京近郊、1 社は地方（一泊）を予定している。 現場訪問ができなかった場合は、評価の対象から外れることになる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生産マネジメントの基礎について学んでおくことが望ましい。			
5. 教科書 とくになし。			
6. 参考書 藤本隆宏『生産マネジメント入門』日本経済新聞社 その他、必要に応じて指示する。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内でフィードバックを行う。

8. 成績評価の方法

事前学習（20%）、調査実習とフィールドノート（60%）、事後のレポートと発表（20%）として総合的に判定する。

9. その他

4 月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J	
科目名		フィールドスタディC	
担当者		古川 裕康	
2 単位	2 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：イタリアの観光マーケティング施策と現地の文化的背景に関する実態調査 ＜概要＞ 本講義の目的は、世界最大の観光資源を有するローマを舞台に、歴史遺産の保存と近現代の観光マーケティングの止揚を実地で学ぶことである。ローマ市が導入する「RoME (Rome Multimedia Experience)」のような ICT を活用した高度な観光体験施策や、AI による観光動線最適化がもたらす UX の変化を多角的に分析する。一方で、深刻化するオーバーツーリズムの現状と、市民の生活圏を守る「ローカルとの共生」の実態について実地調査する。 またイタリア特有の商習慣や「ゆとり」を重視する生活様式、イタリア語という言語障壁が外国人の消費者行動に与える影響を考察し、文化的多様性が国際経営に及ぼす重要性を深く理解する。 日本の観光立国推進において、イタリアの「高付加価値化戦略」と「地域住民との合意形成」は極めて重要な示唆を持つ。本実習を通じ、日本の観光産業の課題を解消するための異文化理解に基づいた戦略的思考力の修得を目指す。 ＜到達目標＞ 海外の現場に赴き、自身の眼や肌で世界の動向について感じてもらう。日本企業や、自治体が実施している努力や課題そして特徴について、海外の動向を調査する事で相対的に理解する。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2～3回 訪問先の提案と担当班分け 第4～6回 視察先アポイントメントとマクロデータの収集・分析 第7～8回 事前研究報告 第9回 出発前、最終確認 第10～13回 現地調査（約7日間） 第14回 最終報告会 実習日程（予定）：9月上旬（約7日間） 参加人数：募集人数20名以内（最小催行人数：4名） 参加費用：約25万円（円安や物価高の進展度合いによって増減する。学部から実習終了後に旅費助成あり）。 募集方法：課題レポートによる選考			
3. 履修上の注意 本科目は海外調査を実施する。海外調査は国内調査以上に想定外の問題が発生しやすく大きなリスクを抱える。この点を十分に認識・理解し、大学が用意した「大学ならびに担当教員の免責条項」に署名・捺印（未成年の場合は保護者のサイン）をすること。 出発前に6か月超有効のパスポート、ならびに査証（ビザ）が必須。 参加者一人一人が十分に貢献しながら創り上げるフィールドスタディである。すべての授業について無断遅刻、無断欠席は認めない。積極的に協働すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 フィールドスタディの充実度合いは事前準備で決まる。そのため訪問都市に関するマクロデータ、そして展開企業に関するマイクロデータの双方について徹底的に事前研究を実施し、仮説を持って海外調査に移る事。事前に構築した疑問点（もしくは仮説）を定性調査によって検証し、最終報告会で報告する事。			
5. 教科書 なし。			
6. 参考書 なし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 メールや下記 URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxjf2656			
8. 成績評価の方法 平常点 30％，貢献度 30％，最終報告 40％			
9. その他 4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は出席する事。履修登録方法について、ガイダンス資料、および「経営学部履修の手引」を参照する事。			

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J	
科目名		フィールドスタディD	
担当者		石津 寿恵	
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 テーマ「様々な組織体によるCSR活動」 （概要） 学生が主体的・能動的に授業に参加し、「自分で考え、適切に行動し、仲間と協力し合う」という、実社会で必要不可欠な能力を身に付けることを目的とする。 具体的手法としては、特定の企業・組織を選択し、事業活動・CSR・財務状況などを調べまとめて、当該企業・組織を訪問してプレゼンテーションを行う。さらに訪問後には報告書を取りまとめる。 グループ学習になりますので、メンバーと協力し合って進めることになります。近年「協働」の機会は減ってきていると思いますが、協力し合う経験は面倒なことではなく、大きな達成感が得られる貴重な機会となり、将来必ず役に立つと思います。 ※参考 前回は福岡県をフィールドに選び下記のように実施しました。 ○10/28-10/30、飯塚市都市建設部建設政策課で「空き家を生かす地方創生ー飯塚市から発信するまちづくりー」、株式会社百笑屋で「ラ一麦が広げる農業観光の可能性」、合同会社エーエスエーで「持続的なインバウンド観光に向けた福岡の観光分散」、ニビシ醤油株式会社で「しょうゆの海外展開に関する現状分析と今後の展望」 （到達目標） 下記①から⑤の in-put と out-put の方法を実践することにより、社会で役立つ力を身に付ける。 ①図書館、インターネット、直接質問など様々な情報収集の手段を取得する。 ②プレゼンテーション資料・報告書作成手法を習得する。 ③企業人の前でプレゼンテーションする。 ④学部プレゼンテーション大会に参加する。 ⑤報告書を作成する。 ★ただし、社会情勢等により現地訪問が実施できない可能性もある。その場合は、Zoom の活用の可能性も念頭に置くが、状況により可変的であることに留意してほしい。			
2. 授業内容 第1回 フィールドスタディの進め方、事前学習のグループ分け 第2回 訪問先企業・組織の事前学習 第3回 訪問先企業・組織の事前学習 第4回 スケジュール確認と諸手続き 第5回 事前研究報告 第6回 実地訪問(社会情勢等により現地に行かれない場合はZoom) 第7回 事後学習、報告書作成 第8回 報告書作成 実習日程：10月末から12月中旬までの中の2泊3日程度予定。 実習場所：関西方面予定 募集人数：15名以内（最少催行人数4名） 参加費用：第1回目の授業で説明します。 募集方法：レポートによる選考。詳細は4月の「当授業の紹介」で説明するので視聴すること。 (なお、ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください)			
3. 履修上の注意 履修希望者は4月の「当授業の紹介」を必ず視聴すること。 (ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください) 授業は秋学期ですが、秋学期が始まってすぐに具体的な活動ができるように、夏休み前にテーマや訪問先を決定します。 このため、春学期中に2回程度、日程調整の上「訪問具体化に関する説明会」を開きます。履修者は参加必須です。 なお、訪問希望企業・組織については、事前に自己事前学習をしておくこと。 履修希望者は、4月の履修登録前に必ず石津宛メールをください。 メールアドレスはtishizu@meiji.ac.jpです。 メールの件名は【FSについて】とし、本文には必ず年組番号氏名を記載してください。 メールがない場合、履修することはできません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4月の「当授業の紹介」を必ず視聴すること。 (ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください) この授業は「学生が主体的に学ぶ授業」です。履修者は、訪問希望地域、企業について必ず検討しておいてください。			

(ただし、グループワークですので自分が行きたいところに必ず行かれるわけではありません。話し合いで決めていきます)

5. 教科書

適宜伝達する。

6. 参考書

適宜伝達する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

事前学習 40 点，フィールドスタディ訪問への貢献度 40 点，事後レポート 20 点(報告書を作成・訪問先に送付します)。

9. その他

4 月の「当授業の紹介」を必ず視聴すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。
(ガイダンスがどのように実施されるかは、学部からのお知らせを良く確認してください)

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J	
科目名		フィールドスタディD	
担当者		清水 一之	
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （科目テーマ） 本フィールドスタディは、FSD が欧州において、それぞれ企業・研究機関・関連組織を訪問調査し、イノベーションとテクノロジーが企業ガバナンスや社会構造をどのように変化させているのかを実証的に学ぶことを目的とする。 （科目概要） 本プログラムでは、日本およびヨーロッパの企業を実地に観察し、テクノロジーの進化が企業経営・社会制度・産業構造に与える影響を分析する。 事前講義では、EU の制度的特徴や欧州型経営モデルを理解したうえで、ESG 投資、Industrie 4.0、ブロックチェーンの理論的枠組みを整理する。 現地では、以下の観点を中心に調査を行う。 ・ ESG 経営を実践する企業の取り組み ・ Industrie 4.0 型スマートファクトリー ・ 共同決定制度と企業統治 ・ ブロックチェーンの応用事例 これらのテーマについて問いを持ちながら、理論と現実を結びつけて考察する。 （到達目標） ・ 自ら計画を立て、主体的にテーマを設定し、調査を遂行できるようになること。 ・ 仲間と協力し合い、自らの役割を自覚し、責任を持って全うできるようになること。 ・ 実習で得た知見を、書籍や資料を用いてさらに深く掘り下げ、最終的に「文明開化と異文化交流」という視点からレポートを執筆できるようにすること。			
2. 授業内容 この授業は以下のような内容ですすめられる。 ① 7 月 2 1 日：オリエンテーション（春学期中の事前準備）←航空券確保と夏季休暇前の確認事項 ② 1 0 月 6 日：研究テーマの事前作業，研究チームの編成 ③ 1 0 月 1 3 日：フィールドスタディ前の集団討議 ④ 1 0 月 2 0 日：フィールドスタディ前の集団討議 ⑤ 1 0 月 2 7 日：フィールドスタディ前の集団討議 ⑥ 1 0 月 2 8 日～1 1 月 4 日：現地調査＊ ⑦ 1 1 月 1 0・1 7 日：フィールドスタディ後の集団討議 実習日程：1 0 月 2 8 日～1 1 月 4 日（訪問先企業及び訪問予定大学とのアポイントメントにより変更有） 実習場所：欧州連合（EU 域内）加盟国 募集人数：20 名以内（最少催行人数 4 名） 参加費用：調査対象企業の所在地による（昼食・その他 諸経費＊FSD 補助有＊） 募集方法：レポートによる選考。Oh-o!Meiji「アンケート」にレポート提出の項を設ける。詳細は履修希望者ガイダンスで説明する。			
3. 履修上の注意 本実習は、学生主体で事前準備から各種手配、調査先の選定までを行う科目です。そのため、各自が明確な学習テーマを持ち、毎回の活動に積極的かつ主体的に取り組む姿勢が求められます。 本実習の母体は担当教員のゼミですが、ゼミ生以外の履修も可能です。ただし、高いモチベーションを持ち、すべての授業に参加することが前提となります。 準備段階から学生主体で進めるため、授業時間外の準備活動への参加が必要となる場合があります。本実習は旅行ではなく、学術的的目的をもつ調査活動であることを十分理解したうえで履修してください。軽い気持ちでの参加は控えてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 全体での学習に加え、テーマごとにグループを編成し、学生主体で事前学習から成果発表までを行います。そのため、毎回の授業までに各自が資料収集や下調べを行ったうえで授業に参加することが求められます。 また、実習後にはグループごとの成果発表会に向けて、各自での資料作成やレポート準備が必要となります。			
5. 教科書 特になし			
6. 参考書 特になし			

7. 課題に対するフィードバックの方法

参加者による議論そして理解・認識の位置付けを確認しつつ状況に応じて調整・対応する。

8. 成績評価の方法

事前学習（実習スケジュール作成，各種手配，グループ学習，事前発表会）30%

実習本番（実習態度，責任感，計画性，協調性，役割をきちんと果たしているか）30%

事後学習（学習成果のまとめレポート，グループでの成果発表会）40%

9. その他

4月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施する。担当教員が詳細を説明するので，受講を考えている者は出席すること。履修登録方法については，ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN395J		
科目名		フィールドスタディD		
担当者		新宅 純二郎		
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：製造業現場のフィールドワーク 〈概要〉 フィールドスタディは、フィールドワークを通じた一次資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目である。フィールドスタディDでは、3か所のフィールドワークを前提にして、見学先の産業や企業について、事前に調査して、どのような観点で現場を見学すればよいかなど、課題設定する。また、現場の見学時には、現場で得られる情報を正確に記録し、事後的にそれらを分析したレポートを作成する。訪問先は、製造業を考えているが、他の産業なども検討中である。 〈到達目標〉 1. 調査対象について、事前調査のために、適切な文献・資料などを収集整理する能力を身に付けること。 2. 収集した文献・資料をもとに、現場観察につながる課題設定ができること。 3. 現場で聞いたこと、見たことなどを、フィールドノートとして詳細かつ正確な記録を残すこと。 4. 事前学習とフィールドノートをもとにして、適切なレポートを作成できること。				
2. 授業内容 現場で、どのような問題にどのように対処しているかについて、現場観察を通じて学んでいく。3回の異なる現場観察を前提にして、以下のような構成の学習を3ラウンドまわす予定である。実際に訪問する企業は授業開始時に発表する予定である。 第1回 ガイダンス 第2回 基礎講義、担当企業班分け 【企業Aセッション】 第3回 事前調査（グループワーク） 第4回 事前調査発表 第5回 現場見学調査 第6回 まとめセッション 【企業Bセッション】 第3回 事前調査（グループワーク） 第4回 事前調査発表 第5回 現場見学調査 第6回 まとめセッション 【企業Cセッション】 第3回 事前調査（グループワーク） 第4回 事前調査発表 第5回 現場見学調査 第6回 まとめセッション 募集人数：16名程度（最少催行人数4名） 参加費用：授業開始時に指示。 募集方法：WEB（抽選）				
3. 履修上の注意 企業経営に対する問題意識や関心が強いこと、現場でのフィールドノート作成に意欲があることが求められる。現場訪問は学期中の平日（できる限り本授業と同じ曜日）の半日か終日を使うことになるので、その日は必ず現場訪問に参加すること。 3社のうち1社は東京近郊、2社は地方（日帰りか一泊）を予定している。 現場訪問ができなかった場合は、評価の対象から外れることになる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 経営学に関する基礎知識をきちんと理解していること、また、日頃から経営の現場に強い関心をもっていることが求められる。				
5. 教科書 とくになし。				
6. 参考書 必要に応じて指示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックを行う。				

8. 成績評価の方法

事前学習（20%）、調査実習とフィールドノート（60%）、事後のレポートと発表（20%）として総合的に判定する。

9. その他

4 月にフィールドスタディ履修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN295J	
科目名		フィールドスタディ A	
担当者		カン ビクトリヤ	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 テーマ 起業家活動による経済社会へのインパクト-岡山県倉敷市を事例として学ぶー ＜概要＞ 倉敷市は、倉敷美観地区や瀬戸大橋に代表される観光都市として知られる一方、水島地区を中心に瀬戸内工業地域の中核を担う西日本有数の工業都市でもある。製造業は市経済の重要な基盤であり、県内でも有数の工業集積を形成している。 同市の近代的な工業化は、倉敷紡績を軸として進展し、地元起業家と企業活動が地域の発展と密接に結びついてきた点に特徴がある。なかでも、大原孫三郎氏による企業活動は、地域経済や社会に大きな影響を与えた事例として、起業家精神や起業家活動の文脈で広く言及されている。 本講義では、倉敷市の歴史・文化・産業構造を背景に、起業家活動が地域の経済社会に及ぼした影響を考察する。フィールドワークを通じた現地調査や一次資料の収集を行い、その成果をもとにレポート作成およびプレゼンテーションを実施することで、実践的な調査・分析能力を養う。 ＜到達目標＞ ①フィールドワークにおける適切な調査課題を設定できること ②設定した課題に関連する文献や資料を収集・精読し、要点を整理できること ③現地調査を通じて一次資料を収集・分析できること ④調査結果に基づき、独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成できること			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 課題の設定（起業家、分野、業種など） 第3～6回 事前学習・学生による報告、実習の準備 第7～11回 現地調査 第12～13回 調査成果の整理 第14回 成果報告会 実習日程：7月3日～5日（2泊3日） 実習場所：岡山県倉敷市および周辺 募集人数：12名以内（最少催行人数4名） 参加費用：約5万円（交通費・宿泊費）、学部から実習終了後に旅費助成あり 履修登録：Web 履修システムによる抽選			
3. 履修上の注意 事前学習を十分に行い、現地調査には主体的かつ責任なる態度で参加こと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ＜予習＞ フィールドスタディに向けて、事前学習を行う。 発表を担当する学生は、該当箇所に関するレジュメを作成し発表を行う。 ＜復習＞ 現地調査や視察の内容をまとめ、成果発表資料を作成する。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 倉敷市の公式ホームページ (https://www.city.kurashiki.okayama.jp/) 日本遺産の紹介・倉敷物語 (https://www.kurashiki-tabi.jp/for/en/nihonisan.html?utm_source=chatgpt.com)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 適宜、受講生の取り組みや発表に対してアドバイスやコメントを行う。			
8. 成績評価の方法 事前研究（20%）、授業への貢献度（30%）、レポート（30%）			
9. その他 4月にフィールドスタディ 屈修希望者向けのガイダンスを実施するので、受講を考えている者は必ず出席すること。履修登録方法については、ガイダンス資料及び「経営学部履修の手引」を参照すること。			

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN152J	
科目名		D I G I T入門演習 I	
担当者		歌代 豊・高澤 陽太朗・鶴田 靖人	
2 単位	1 年次		和泉
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ DIGIT 入門演習 I は、経営学部のデジタル経営人材開発トラック（DIGIT）の必修科目（入門科目群）である。 本科目では、データ分析の一連の流れを、演習を通して経験することによって、データ分析の基礎を学ぶ。演習では、 1. 表計算ソフトおよび分析ツール（Exploratory 等）を用いたデータの集計・可視化 2. 統計手法や機械学習を用いたデータ分析の基礎 を学習する。 また、これらの学習の際にはデータを用いた実践的な課題に取り組み、個人・グループでのプレゼンテーションを複数回行う。 ＜到達目標＞ 以下の3点が本演習の到達目標である。 1. 表計算ソフトに慣れ、データの集計・可視化が行える。 2. データサイエンスの基礎（統計手法・機械学習等）を習得し、分析ツールで主要分析手法が行える。 3. 分析結果を評価・解釈し、報告・プレゼンテーションできる。			
2. 授業内容 第 1 回：導入（DIGIT 概要・科目の目的） 第 2 回：表計算ソフト（基本操作・データ可視化・ピボットテーブル） 第 3 回：量的データの分析（記述統計・データ可視化） 第 4 回：量的データ間の分析（相関係数・データ可視化） 第 5 回：質的データ間の分析（クロス集計・可視化） 第 6 回：量的データ間の分析（回帰分析） 第 7 回：量的データ間の分析（クラスター分析） 第 8 回：量的データ・質的データ間の分析（平均値の差・t 検定） 第 9 回：総合分析演習（1） 第 10 回：総合分析演習（2） 第 11 回：総合分析演習（3） 第 12 回：総合分析演習（4） 第 13 回：総合分析演習（5） 第 14 回：総合分析結果報告とまとめ ※本科目は共通シラバスを用いるが複数名の教員が担当する。 ※担当教員により内容・進捗が多少異なる場合があり、科目ごとの授業内容については、第 1 回で説明する。 ※前半（第 2～8 回）は、説明に加えて授業内に個人演習を行う。 ※後半（第 9～13 回）は、前半で習得した分析手法を用い、特定課題について個人またはグループで総合的な分析作業を行う。			
3. 履修上の注意 ＜履修要件＞ ・基礎科目群 I・II のうち 2 単位を取得済みであること、もしくは DIGIT 関連資格検定試験に合格していること。 ※詳細は、『DIGIT 履修の手引き』を参照のこと。 ※統計学 A、ICT 統計解析入門が履修済であることが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業では事前学習を求めることがある。 また、過去の演習内容を習得した前提で次の演習に進むため、各回で習った内容は次回までには使いこなせるよう復習を必要とする。 また、演習時間内で個人・グループ演習が終わらなかった場合は、時間外にて分析・課題発表等の準備が必要となる。			
5. 教科書 無し			
6. 参考書 授業の中で適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人演習・グループ演習については授業等で適宜レビューを行う。			

8. 成績評価の方法

授業取組（30％）、個人演習レポート（40％）、グループ演習レポート（30％）により総合的に評価する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN152J		
科目名		D I G I T入門演習Ⅱ		
担当者		歌代 豊		
2 単位	1 年次	春学期・秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 DIGIT 入門演習Ⅱは、経営学部のデジタル経営人材開発トラック（DIGIT）の必修科目（入門科目群）である。 「マーケティング施策検討のためのデータ分析」をテーマとした、データ・エビデンスに基づく課題解決型学習（PBL）を行う。 まず、データ分析ツールとして用いる SPSS の演習によりデータ分析スキルを履修者個々人が習得する。 次にそれを基礎として、マーケティング施策検討の応用演習を行う。具体的には、特定の商品企画チームに加わった状況を想定し、現状分析、施策仮説検討、調査設計、実査、基本集計、データ分析、施策提案という一連のプロセスをグループ演習として実施する。その中で、因子分析、クラスター分析を用いた市場セグメンテーション、クロス集計、平均値差分析によるセグメント特徴分析等を試みる。 〈到達目標〉 下記の知識獲得と応用実践力開発を目標とする。 ・マーケティング施策仮説創出 ・調査設計 ・データ分析 ・分析結果の解釈に基づく施策立案				
2. 授業内容				
01. イントロダクション 02. 課題提示 03. 2 次情報調査・仮説設定 04. アンケート調査設計・調査票作成(1) 05. アンケート調査設計・調査票作成(2) 06. 分析手法・ツール基礎演習 （アンケート調査実施） 07. 分析（基礎分析と傾向の確認 1） 08. 分析（基礎分析と傾向の確認 2） 09. 分析（セグメント特徴分析 1） 10. 分析（セグメント特徴分析 2） 11. 中間報告 12. 分析結果に基づく提案検討(1) 13. 分析結果に基づく提案検討(2) 14. 最終プレゼンテーションとまとめ				
3. 履修上の注意				
（1）以下を履修条件とする ・DIGIT 入門演習Ⅰを履修済みであること ・Excel の操作（グラフ作成等）が可能なこと ・「確率や統計」の基礎を理解していること （2）個人演習，グループ演習では分析ツールとして SPSS を用いる。 （3）積上型学習のため，またグループ演習を行うため，全ての回に出席することを前提とする。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
教科書の事前学習，二次情報の事前調査をした上で，授業で個人演習，グループ演習を行う。				
5. 教科書				
無し				
6. 参考書				
伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書。 中室牧子・津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社。 中野崇（2018）『マーケティングリサーチとデータ分析の基本 』すばる舎。 恩蔵直人・富田健司（2022）『1 からのマーケティング分析（第2版）』碩学舎。 ※その他授業で適宜紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
個人演習・グループ演習については授業等で適宜レビューを行う。				

8. 成績評価の方法

授業取組（30%）、個人演習レポート（40%）、グループ演習レポート（30%）により総合的に評価する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN152J		
科目名		D I G I T入門演習 II		
担当者		高澤 陽太郎		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 DIGIT 入門演習 II では、経営の科学であるオペレーションズ・リサーチ（OR）の実践をテーマに、少人数の課題解決型学習（PBL：Project-Based Learning）を行う。 OR 関連の書籍やケーススタディを題材に、各週担当者がゼミ形式で発表を行い、参加者全員で議論を深める。 データ分析ツールとして使用するソフトウェアは、受講生のレベルや興味に応じて決定する。 候補例：Python、Excel など 〈目標〉 * 数理モデル的思考の習得 * データ分析の基礎力の向上 * プレゼンテーションスキルの向上 * 基本的な PC スキルの習得				
2. 授業内容				
1. 導入				
2. Python の基本操作				
3. データ分析個人演習（1）				
4. Python の応用操作				
5. データ分析個人演習（2）				
6. データサイエンス基礎				
7. データ分析個人演習（3）				
8. データサイエンス基礎				
9. データ分析個人演習（4）				
10. データサイエンス応用				
11. データ分析グループ演習（1）				
12. データ分析グループ演習（2）				
13. データ分析グループ演習（3）				
14. 総括				
3. 履修上の注意				
担当の場合、ゼミの発表準備は十分に行うこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
発表担当の場合、ゼミの発表準備はグループでディスカッションし準備すること。				
5. 教科書				
1. 『Excel で学ぶ OR』藤澤克樹・後藤順・安井雄一郎 （オーム社）				
2. 『Python ではじめる数理最適化 ―ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう―』岩永二郎・石原響太・西村直樹・田中一樹（オーム社）				
6. 参考書				
なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
発表時に直接フィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法				
発表 70%				
平常点（質疑応答等） 30%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN352J	
科目名		D I G I T実践演習	
担当者		歌代 豊	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 DIGIT 実践演習は、経営学部のデジタル経営人材開発トラック（DIGIT）の必修科目（応用科目群）である。 「マーケティング施策検討のためのデータ分析」をテーマとした、データ・エビデンスに基づく課題解決型学習（PBL）を行う。 まず、データ分析ツールとして用いる SPSS の演習によりデータ分析スキルを履修者個々人が習得する。 次にそれを基礎として、マーケティング施策検討の応用演習を行う。具体的には、特定の商品企画チームに加わった状況を想定し、現状分析、施策仮説検討、調査設計、実査、基本集計、データ分析、施策提案という一連のプロセスをグループ演習として実施する。その中で、因子分析、クラスター分析を用いた市場セグメンテーション、クロス集計、平均値差分析によるセグメント特徴分析等を試みる。 〈到達目標〉 下記の知識獲得と応用実践力開発を目標とする。 ・マーケティング施策仮説創出 ・調査設計 ・データ分析 ・分析結果の解釈に基づく施策立案			
2. 授業内容 01. イントロダクション 02. 課題提示 03. 2 次情報調査・仮説設定 04. アンケート調査設計・調査票作成(1) 05. アンケート調査設計・調査票作成(2) 06. 分析手法・ツール基礎演習 （アンケート調査実施） 07. 分析（基礎分析と傾向の確認 1） 08. 分析（基礎分析と傾向の確認 2） 09. 分析（セグメント特徴分析 1） 10. 分析（セグメント特徴分析 2） 11. 中間報告 12. 分析結果に基づく提案検討(1) 13. 分析結果に基づく提案検討(2) 14. 最終プレゼンテーションとまとめ			
3. 履修上の注意 （1）以下を履修条件とする ・DIGIT 入門演習 I /II を履修済みであること ・Excel の操作（グラフ作成等）が可能なこと ・「確率や統計」の基礎を理解していること （2）個人演習、グループ演習では分析ツールとして SPSS を用いる。 （3）積上型学習のため、またグループ演習を行うため、全ての回に出席することを前提とする。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の事前学習、二次情報の事前調査をした上で、授業で個人演習、グループ演習を行う。			
5. 教科書 無し			
6. 参考書 伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書。 中室牧子・津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社。 中野崇（2018）『マーケティングリサーチとデータ分析の基本 』すばる舎。 恩蔵直人・富田健司（2022）『1 からのマーケティング分析（第 2 版）』碩学舎。 ※その他授業で適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 個人演習・グループ演習については授業等で適宜レビューを行う。			

8. 成績評価の方法

授業取組（30%）、個人演習レポート（40%）、グループ演習レポート（30%）により総合的に評価する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		実習関連科目／(BA) MAN352J		
科目名		D I G I T実践演習		
担当者		高澤 陽太郎		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ DIGIT 実践演習では、経営の科学であるオペレーションズ・リサーチ（OR）の実践をテーマに、少人数の課題解決型学習（PBL: Project-Based Learning）を行う。 OR 関連のテーマを設定し、最終的に個人・グループにて具体的な成果物や実践的な提言をまとめることを目指す。 データ分析ツールとして使用するソフトウェアは各自が自由に設定可能である。 候補例：Python、Excel など ＜目標＞ － 応用的なデータ分析力の習得 － プレゼンテーションスキルの向上 － 実践的な問題解決能力の養成 － 計画遂行能力の向上 ＜注意＞ 受講には高澤の DIGIT 入門演習 II の単位取得済みである必要がある。				
2. 授業内容 1. 導入 2. Python の基本操作 3. データ分析個人演習（1） 4. Python の応用操作 5. データ分析個人演習（2） 6. データサイエンス基礎 7. データ分析個人演習（3） 8. データサイエンス基礎 9. データ分析個人演習（4） 10. データサイエンス応用 11. データ分析グループ演習（1） 12. データ分析グループ演習（2） 13. データ分析グループ演習（3） 14. 総括				
3. 履修上の注意 担当の場合、ゼミの発表準備は十分に行うこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表担当の場合、ゼミの発表準備はグループでディスカッションし準備すること。				
5. 教科書 1. 『Excel で学ぶ OR』藤澤克樹・後藤順・安井雄一郎（オーム社） 2. 『Python ではじめる数理最適化 ―ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう―』岩永二郎・石原響太・西村直樹・田中一樹（オーム社）				
6. 参考書 なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表時に直接フィードバックを行う。				

8. 成績評価の方法

発表 70%

平常点（質疑応答等） 30%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC111J	
科目名		簿記論Ⅰ（統一）	
担当者		浅野 千鶴・大塚 浩記・大野 智弘・渋谷 謙作・中島 洋行・山浦 裕幸・尹 志煌	
2 単位	1 年次		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録，計算，報告する技術である。簿記を用いることにより，企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく，損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により，企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため，簿記に関する知識は，組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり，経営学部 of 学生は，簿記に関する基本的な知識を確実に修得しておく必要がある。 〈到達目標〉 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について，日商簿記検定 3 級レベル（一部 2 級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 簿記論はある程度確立した学問領域であるので，担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 簿記の目的と種類 第 3 回 簿記の基礎概念 第 4 回 仕訳と転記 第 5 回 決算 第 6 回 損益計算書と貸借対照表 第 7 回 現金，預金 第 8 回 現金過不足，小口現金 第 9 回 商品の売買 第 10 回 商品の払出単価 第 11 回 商品の棚卸と評価 第 12 回 売掛金と買掛金 第 13 回 その他の債権と債務 第 14 回 まとめ			
3. 履修上の注意 簿記の学習は積み重ねが大切である。授業には毎回必ず出席し，授業内容を確実に理解し身につけていくことに努めてもらいたい。また，学習に遅れが生じたら，「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけて欲しい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では，それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって，復習が重要であり，前回までの授業内容に不明な点がないかを，毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 担当者が指示する。			
6. 参考書 担当者が適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が指示する。			
8. 成績評価の方法 基本的には定期試験の成績により評価する。ただし，担当教員により，出席，小テスト，宿題・課題なども評価対象として加味される。その場合，原則として，定期試験 80%，平常点 20% で評価する。定期試験は，すべてのクラスについて，統一問題により同一日時を実施する。授業回数の 1 / 3 以上を欠席した場合は「T」評価とする。			
9. その他 授業には必ず電卓を持参すること。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC111J	
科目名		簿記論Ⅱ（統一）	
担当者		浅野 千鶴・大塚 浩記・大野 智弘・渋谷 謙作・中島 洋行・山浦 裕幸・尹 志煌	
2 単位	1 年次		
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠のものである。そのため、経営学部学生は学科を問わず簿記の基礎的な知識を備えていなければならない。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習する。また、財務諸表の概要についても学ぶ。 〈到達目標〉 簿記論Ⅰに引き続き、商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につける。また、それとともに、損益計算書と貸借対照表の内容が理解できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 簿記論はある程度確立した学問領域であるので、担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第1回 イン트로ダクション 第2回 手形取引、電子記録債権・電子記録債務、債権の譲渡 第3回 有形固定資産の取得と売却 第4回 有形固定資産の減価償却 第5回 有価証券の種類と期末評価 第6回 収益と費用の前受け・前払い・未収・未払い 第7回 貸倒損失と貸倒引当金、各種の引当金 第8回 資本金 第9回 利益剰余金、剰余金の配当 第10回 税金 第11回 伝票会計 第12回 決算修正と8桁精算表 第13回 財務諸表 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 簿記の学習は積み重ねが大切である。授業には毎回必ず出席し、授業内容を確実に理解し身につけていくことに努めてもらいたい。また、学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけて欲しい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことが予習となる。			
5. 教科書 担当者が指示する。			
6. 参考書 担当者が適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が指示する。			
8. 成績評価の方法 基本的には定期試験の成績により評価する。ただし、担当教員により、出席、小テスト、宿題・課題なども評価対象として加味される。その場合、原則として、定期試験 80％、平常点 20％で評価する。定期試験は、すべてのクラスについて、統一問題により同一日時を実施する。授業回数の 1 / 3 以上を欠席した場合は「T」評価とする。			
9. その他 受講にあたっては電卓を持参すること。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC116J	
科目名		簿記論 I 〔M〕 CAP 限定上級 CA 限定上級クラス	
担当者		小俣 光文	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、将来の経済社会で活躍するためには不可欠であり、会計プロフェッションとして活躍できる程度の簿記に関する知識を確実に修得しておく必要がある。 〈到達目標〉 日商簿記検定 2 級程度の知識を身につけ、実際に企業の財務諸表が読めるだけの知識を習得することを目標とする。			
2. 授業内容 第 1 回：簿記 1 巡の復習 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 2 回：貸借対照表と損益計算書の作成 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 3 回：財務諸表の見方 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 4 回：税効果会計 1 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 5 回：税効果会計 2 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 6 回：現金預金の会計処理 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 7 回：銀行勘定調整表 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 8 回：債権債務の会計処理 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 9 回：有価証券の会計処理 1 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 10 回：有価証券の会計処理 2 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 11 回：有形固定資産の会計処理 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 12 回：リース取引の会計処理 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 13 回：株式の発行、剰余金の配当と処分 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 14 回 a のみ：まとめ 〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布する。			
6. 参考書 適宜推薦する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh! Meiji をとおしてコメントするとともに配信する動画において講評を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の小テストの成績によって評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 毎回の問題を実際に解くこと。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC116J	
科目名		簿記論Ⅱ〔M〕CAP 限定上級 CA 限定上級クラス	
担当者		小俣 光文	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記・会計に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、それらは将来必ず必要とされる。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえて、企業集団の財務諸表である連結財務諸表を作成するための簿記上の処理について学習する。 〈到達目標〉 簿記論Ⅰに引き続き、日商簿記検定 2 級から 1 級程度の知識を身につけ、実際に問題が解けるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第 1 回：簿記一巡の復習〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 2 回：税効果会計の復習〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 3 回：精算表と財務諸表の作成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 4 回：連結会計の基礎〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 5 回：投資と資本の相殺消去 1〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 6 回：投資と資本の相殺消去 2〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 7 回：投資と資本の相殺消去 3〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 8 回：未実現利益の消去 1〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 9 回：未実現利益の消去 2〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 10 回：未実現利益の消去 3（税効果）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 11 回：連結キャッシュフロー計算書〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 12 回：M&A の会計処理 1（株式交換）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 13 回：M&A の会計処理 2（株式移転・事業分離）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 14 回 a のみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、それ以前に修得した知識とスキルを前提にして新たな内容が取り上げられていく。したがって、復習が重要であり、簿記論Ⅰの授業内容も含めて前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことこそが予習となる。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布する。			
6. 参考書 適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 毎回の小テストに基づいて評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 毎回の問題を実際に解くこと。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC111J		
科目名		簿記論 I 〔M〕（集中） 特設		
担当者		森光 高大		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録，計算，報告する技術である。簿記を用いることにより，企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく，損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により，企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのために，簿記に関する知識は，組織の管理や活動を担う者にとって，不可欠であり，経営学部の子生は簿記に関する基本的な知識を確実に習得しておく必要がある。 （到達目標） 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について，日商簿記検定 3 級レベル（一部 2 級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。				
2. 授業内容 授業はほぼ次のような内容と進度で進めることを予定している。 第 1 回 簿記の意義と基礎，貸借対照表 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 2 回 損益計算書，貸借対照表と損益計算書の関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 3 回 勘定，取引，仕訳と転記〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 4 回 仕訳帳と元帳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 5 回 決算の意義と手続，6 桁精算書〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 6 回 現金と現金過不足〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 7 回 当座預金と当座借越，その他の預金，小口現金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 8 回 3 分法のあらまし，諸掛と返品〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 9 回 仕入帳と売上帳，商品有高帳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 10 回 売掛金と買掛金，売掛金元帳と買掛金元帳〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 11 回 売掛金明細書と買掛金明細書，クレジット売掛金，前払金と前受金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 12 回 貸付金・借入金，未収入金・未払金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 13 回 立替金・預り金，仮払金・仮受金，受取商品券，差入保証金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 14 回 授業の総括〔メディア授業（オンデマンド型）〕				
3. 履修上の注意 ※本講義は夏季休業期間中（8 月）に実施される。詳細はクラスウェブや履修の手引きを確認すること。 簿記の学習は積み重ねが大切である。授業には必ず出席し，毎回，授業内容を確実に理解し身につけていくことに努めてもらいたい。また，学習で遅れが生じたら，「学習支援室」等を活用して速やかに後れを取り戻すよう心掛けてほしい。 毎回，講義内で設問を用意します。この設問への解答は平常点に反映します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では，毎回，前回までに習得した知識スキルを前提にして新たな内容が説明されていく。したがって，復習が重要であり，前回までの授業内容に不明な点がないかを，毎回の授業前に確認しておくことが予習となる。				
5. 教科書 本講義では，下記の教科書と，理解を深める目的で問題を多く解いてもらうために，下記のワークブックを使用します。講義を視聴する際には必ず 2 冊を用意してください。また，最新版のものを購入してください。 教科書：『検定簿記講義／3 級商業簿記』渡部裕恒，片山 覚，北村敬子編著（中央経済社） ワークブック：『検定簿記ワークブック／3 級商業簿記』渡部裕恒，片山 覚，北村敬子編著（中央経済社）				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内での設問は基本的に講義内で解説を行います。補足説明等を適宜 Oh-o!meiji 経由で公開することもありますので，各自確認してください。				
8. 成績評価の方法 講義内の設問、課題などの平常点 40%、各回講義終了後の理解確認テスト 60%によって総合評価する。				
9. その他 講義を視聴する際には必ず電卓を用意すること。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC111J		
科目名		簿記論Ⅱ〔M〕（集中） 特設		
担当者		森光 高大		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 簿記に関する知識や理解は組織の管理や活動を担う者にとって不可欠なものである。そのため、経営学部の学生は学科を問わず簿記の基礎的な知識を備えていなければならない。簿記論Ⅱでは、簿記論Ⅰを踏まえてより複雑な取引を取り上げ、その簿記上の処理について学習する。また、財務諸表の概要についても学ぶ。 〈到達目標〉 簿記論Ⅰに引き続き、商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定3級レベル（一部2級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につける。また、それとともに、損益計算書と貸借対照表の内容が理解できるようになることを目標とする。				
2. 授業内容 授業は次のような内容と進度で進めることを予定している。 第1回 手形の振出し・受入れ、手形の取立て・支払い〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 受取手形記入帳と支払手形記入帳、手形貸付金と手形借入金、電子記録債権と電子記録債務〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 有形固定資産の取得と売却〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 有形固定資産の減価償却〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 有価証券〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 資本金と引出金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 収益と費用の繰延〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 収益と費用の見越〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 税 金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 伝 票〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 貸倒損失と貸倒引当金〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 決算修正と8桁精算表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 財務諸表〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 授業の総括〔メディア授業（オンデマンド型）〕				
3. 履修上の注意 ※本講義は夏季休業期間中（8月）に実施される。詳細はクラスウェブや履修の手引きを確認すること。 簿記の学習は積み重ねが大切である。授業には必ず出席し、毎回、授業内容を確実に理解し身につけていくことに努めてもらいたい。また、学習で遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに後れを取り戻すよう心掛けてほしい。 毎回、講義内で設問を用意します。この設問への解答は平常点に反映します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の授業では、毎回、前回以前に習得した知識とスキルを前提にして新たな内容が説明されていく。したがって、復習が重要であり、前回までの授業内容に不明な点がないかを、毎回の授業前に確認しておくことが予習となる。				
5. 教科書 本講義では、下記の教科書と、理解を深める目的で問題を多く解いてもらうために、下記のワークブックを使用します。講義を視聴する際は、必ず2冊を用意してください。最新版を購入してください。 教科書：『検定簿記講義／3級商業簿記』渡部裕恒，片山 寛，北村敬子編著（中央経済社） ワークブック：『検定簿記ワークブック／3級商業簿記』渡部裕恒，片山 寛，北村敬子編著（中央経済社）				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内での設問は基本的に講義内で解説を行うが、補足説明等を適宜 Oh-o!meiji 経由で公開することもありますので、各自確認してください。				
8. 成績評価の方法 原則として、講義中の設問および課題等の平常点40％、各回講義終了後の理解度確認テスト60％で総合評価する。				
9. その他 講義を視聴する際には必ず電卓を用意すること。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC111J	
科目名		簿記論Ⅰ 特設	
担当者		千葉 貴律	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録，計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、経営学部 of 学生は、簿記に関する基本的な知識を確実に修得しておく必要がある。 （到達目標） 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定 3 級レベル（一部 2 級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 簿記論は標準的な学習体系が構築されているので、担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 簿記の意義としくみ 第 3 回 簿記の基礎概念 第 4 回 仕訳と転記 第 5 回 仕訳帳と元帳 第 6 回 決算－簿記一巡の手続き 第 7 回 現金、預金（1）：通貨及び通貨代用証券 第 8 回 現金、預金（2）：当座預金 第 9 回 現金過不足、小口現金 第 10 回 商品売買 第 11 回 売上原価の算定 第 12 回 商品有り高帳 第 13 回 売掛金と買掛金 第 14 回 a. 試験 b. 試験内容の解説			
3. 履修上の注意 簿記の学習は積み重ねが大切なので、授業には毎回必ず出席し、授業内容を確実に理解し身につけるようにすること。 学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の学習は、語学の学習と同様に、毎回の授業で学習した知識やスキルをもとに、新しい事柄が少しずつ積み上げられていきます。 したがって、前回までの授業内容をきちんと理解していないと、次の授業の理解に支障が出ます。復習に重点をおいて、学習してください。			
5. 教科書 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著、『検定簿記講義 3 級商業簿記』，中央経済社，最新版。			
6. 参考書 簿記に関する書籍は数多く出版されているので、自分の使いやすそうなものを実際に手に取って確かめてから参照すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、授業の中で解説・コメントします。期末試験については、試験終了後に必要な解説を行います。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間 14 回のうち、10 回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。 また、日商簿記検定試験の合格を理由に単位認定を求めている学生がいますが、ここでいう成績評価はこの授業における評価であるので、簿記検定試験の結果を考慮することはありません。			
9. その他 授業には電卓を持参すること。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ACC111J	
科目名		簿記論Ⅱ 特設	
担当者		千葉 貴律	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録，計算、報告する技術である。簿記を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財政状態を明らかにすることができる。そのため、簿記に関する知識は、組織の管理や活動を担う者にとって不可欠であり、経営学部 of 学生は、簿記に関する基本的な知識を確実に修得しておく必要がある。 （到達目標） 商店や商業を営む中小企業における簿記上の処理について、日商簿記検定 3 級レベル（一部 2 級レベルの内容を含む）の基本的な知識とスキルを身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 簿記論は標準的な学習体系が構築されているので、担当教員による授業内容および進行順序の違いはあまりない。 授業はほぼ次のような内容と進度で進められる。 第 1 回 その他の債権債務 第 2 回 受取手形と支払手形 第 3 回 手形記入帳と電子記録債権 第 4 回 有価証券 第 5 回 有形固定資産 第 6 回 減価償却と固定資産台帳 第 7 回 貸倒損失と貸倒引当金 第 8 回 資本 第 9 回 収益と費用 第 10 回 税金 第 11 回 伝票 第 12 回 決算修正と 8 桁精算表 第 13 回 財務諸表 第 14 回 a. 試験 b. 試験内容の解説			
3. 履修上の注意 簿記の学習は積み重ねが大切なので、授業には毎回必ず出席し、授業内容を確実に理解し身につけるようにすること。 学習に遅れが生じたら、「学習支援室」等を活用して速やかに遅れを取り戻すよう心がけてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論の学習は、語学の学習と同様に、毎回の授業で学習した知識やスキルをもとに、新しい事柄が少しずつ積み上げられていきます。 したがって、前回までの授業内容をきちんと理解していないと、次の授業の理解に支障が出ます。復習に重点をおいて、学習してください。			
5. 教科書 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著、『検定簿記講義 3 級商業簿記』，中央経済社，最新版。			
6. 参考書 簿記に関する書籍は数多く出版されているので、自分の使いやすそうなものを実際に手に取って確かめてから参照すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、授業の中でコメントします。期末試験については、試験終了後に必要な解説を行います。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間 14 回のうち、10 回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。 また、日商簿記検定試験の合格を理由に単位認定を求めている学生がいますが、ここでいう成績評価はこの授業における評価であるので、簿記検定試験の結果を考慮することはありません。			
9. その他 授業には電卓を持参すること。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		ビジネス・プレゼンテーションA・B	
担当者			
2 単位	3 年次	春学期・秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This course aims to equip students with practical business communication skills including giving business presentations. The course offers a variety of discussion topics, interviews with business people, authentic articles on contemporary topics on newspapers and books on business management. Students will develop essential business communication skills such as giving presentations, dealing with questions, taking an active part in meetings, negotiating, networking, as well as using English for a variety of business writing tasks. Students are given opportunities to use those skills in realistic context in case studies. Presentations associated with written reports are the main productions of the course. Goals: 1. To develop practical communication skills for business and management students 2. To develop critical thinking skills through studying business issues and topics 3. To develop collaborative, cooperative, and open study skills			
2. 授業内容 Please refer to each syllabus.			
3. 履修上の注意 Please refer to each syllabus.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please refer to each syllabus.			
5. 教科書 Please refer to each syllabus.			
6. 参考書 Please refer to each syllabus.			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
8. 成績評価の方法 Please refer to each syllabus.			
9. その他 Classroom language is English.			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business Presentation A		
担当者		AZEEZ, HAKEEM		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course goals: This course focuses on honing learners business presentation skills using real-world examples of business practices from major corporations. By the end of this course, learners will be able to: Plan presentations being mindful of their audiences’ needs Create clear-cut objectives for the presentation Assess factors to construct presentations to deliver key ideas Keep audience attention to have an enhanced introduction with attention-grabber techniques Develop efficient slides, visual aids, and handouts. Skill objectives - By the end of this course, learners will be expected to be able to: demonstrate inspired presentation skills create and deliver effective presentations communicate confidently and competently with all types of audiences explore the optimum use of voice and gesture to create a lasting impression as well as a variety of presentation styles, ranging from a formal speech to a casual meeting or contentious conversation				
2. 授業内容 Week 1: Introduction Course orientation. Discussion Activities: What makes a presentation good or bad? Week 2: Building a Brand 1. Discussion activities on building a brand strategies. 2. Group activities on building original brands. Week 3: Building a Brand 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 4: Product Marketing 1. Finding Channels. 2. Discuss marketing options. 3. Group activities on product marketing. Week 5: Product Marketing 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 6: Product Procurement 1. Discuss ordering goods and product order. 2. Confirming product delivery and asking for advice. 3. Group activities on product procurement. Week 7: Product Procurement 1. Presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 8: Mid Semester Quiz Mini-Presentation (Topic to be decided later) Week 9: Sales Presentation 1. Discuss sales meetings 2. Reporting results 3. Group activities on Sales presentation. Week 10: Sales Presentation 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 11: Business Goals 1. Discussing market surveys. 2. Examining market survey results. 3. Group activities on Market surveys. Week 12: Business Goals 1. Group presentations.				

2. Questions and Feed back session. Week 13: Final Test Final In-class Presentation Week 14: Feedback and Review 1. Semester Review Activities. 2. Semester Feed back session.
3. 履修上の注意 As decided by the faculty.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 There will be group or individual presentations every two weeks. Students are expected to prepare very well for these.
5. 教科書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)
6. 参考書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedbacks are provided after every activity on group and individual basis.
8. 成績評価の方法 - Participation and Attendance: 20% - Assignments: 20% - Quizzes/Tests: 30% - Final exam: 30% - Total 100%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business Presentation B		
担当者		AZEEL, HAKEEM		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course goals: This course focuses on honing learners business presentation skills using real-world examples of business practices from major corporations. By the end of this course, learners will be able to: Plan presentations being mindful of their audiences’ needs Create clear-cut objectives for the presentation Assess factors to construct presentations to deliver key ideas Keep audience attention to have an enhanced introduction with attention-grabber techniques Develop efficient slides, visual aids, and handouts. Skill objectives - By the end of this course, learners will be expected to be able to: demonstrate inspired presentation skills create and deliver effective presentations communicate confidently and competently with all types of audiences explore the optimum use of voice and gesture to create a lasting impression as well as a variety of presentation styles, ranging from a formal speech to a casual meeting or contentious conversation				
2. 授業内容 Week 1: Analyze different video presentations. 1. Watch a TED video. 2. Analyze and Discuss the video. 3. Feedback Session on the video. Week 2: Company Basics 1. Discuss various local and international corporate structures. 2. Discuss corporate restructuring. 3. Group activities on corporate structures. Week 3: Company Basics 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 4: Company Performance 1. Discuss alternative sources of revenue. 2. Discuss ways of improving profits. 3. Group activities on company performance. Week 5: Company Performance 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 6: Business Ethics 1. Discuss Corporate Social Responsibility. 2. What are different CSR objectives? 3. Group activities on CSR. Week 7: Business Ethics 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 8: Mid Semester Quiz Mini-Presentation (Topic to be decided later) Week 9: Company Location 1. Discuss Location of a business. 2. Relocation Issues. 3. Group activities on company location. Week 10: Company Location 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 11: Corporate Spirit 1. Discuss various local and international company cultures. 2. Team-building activities. 3. Group activities on corporate spirit.				

Week 12: Corporate Spirit 1. Group presentations. 2. Questions and Feed back session. Week 13: Final Test Final In-class Presentation Week 14: Feedback and Review 1. Semester Review Activities. 2. Semester Feed back session.
3. 履修上の注意 As stipulated by the faculty.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 There will be group or individual presentations every two weeks. Students are expected to prepare properly for these.
5. 教科書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)
6. 参考書 WORK ADVANTAGE 3 by Joseph Henley (Published by Cengage Learning)
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedbacks are provided after every activity on group and individual basis.
8. 成績評価の方法 - Participation and Attendance: 20% - Assignments: 20% - Quizzes/Tests: 30% - Final exam: 30% - Total 100%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business Presentation A		
担当者		VAUGHAN, ROBERT		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 This course is a business presentation course designed to develop communication skills in English. This course will develop students’ preparation and performance of presentations. Students will learn what they need to put into presentations and what should be left out of presentations. Students will be exposed to a range of dynamic presentation techniques and will have chances to try these techniques in class. Course Goals: Students will be able to: Prepare presentations. Effectively open and close presentations. Employ a smooth structure in presentations. Develop voice power. Create and use effective visual aids. Present facts and figures. Develop appropriate body language in presentations.				
2. 授業内容 Week 1. Preparing to present (45 minutes) Module 1A (Opening and closing) Week 2. Module part 1B (Opening and closing) Week 3. Module part 2A (Smooth structure) Week 4 Module part 2B (Smooth structure) Week 5. Module part 3A (Voice power) Week 6. Module part 3B (Voice power) Week 7. Mid-term Student Presentations Week 8. Module part 4A (Visual aids) Week 9. Module part 4B (Visual aids) Week 10. Module part 5A (Facts and figures) Week 11. Module part 5B (Facts and figures) Week 12. Module part 6A (Body language) Week 13. Preparation for final presentations. Week 14. Final Student Presentations				
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare presentations ahead of each class. Students are expected to incorporate skills studied in previous classes in their presentations				
5. 教科書 Textbook— Dynamic Presentations Student’s Book with Audio CDs, by Mark Powell, Cambridge University Press (ISBN 9780521150040).				
6. 参考書 None.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final presentations will be provided in writing. Feedback and grading on weekly short presentations will be provided in class and in writing.				
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term Presentation 20% Short presentations and class assignments 40% Final Presentation 20%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business Presentation B	
担当者		LINDSKOOG, ALLEN	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the analysis and discussion of current international business practices, issues and conflicts throughout the world, for example the technological advancement and its impact on the world economy, the cause of poverty and corruption in business or any other issue you would like to focus on related to business. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do in-depth research, which can be done using the internet, through field work, surveys and interviews. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give initial presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue. And finally we will implement presentation style in which you will do an overall presentation in both an informative and engaging manner.			
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・Attend 80% or more of the classes and arrive on time. ・Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. ・Participate actively in class each week. ・Help each other with English and other activities in class. ・Complete all assignments on time. ・Prepare and present (2) formal presentations per semester			
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material will be provided.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 20% (1) presentation: 40%			

9. その他

If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Business Presentation" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail me

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business Presentation A	
担当者		LINDSKOOG, ALLEN	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the analysis and discussion of current international business practices, issues and conflicts throughout the world, for example technological advancements and the impact on the world economy, the cause of poverty and corruption in business or any other issue you would like to focus on related to business. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do in-depth research, which can be done using the internet, through field work, surveys and interviews. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give initial presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue. And finally we will implement presentation style in which you will do an overall presentation in both an informative and engaging manner.			
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・Attend 80% or more of the classes and arrive on time. ・Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. ・Participate actively in class each week. ・Help each other with English and other activities in class. ・Complete all assignments on time. ・Prepare and present (2) formal presentations per semester			
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material will be provided.			
6. 参考書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 20% (2) presentation: 40%			

9. その他

If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Business Presentation" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail me

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business Presentation B	
担当者		VAUGHAN, ROBERT	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline This course is a business presentation course designed to develop communication skills in English. This course will develop students’ preparation and performance of presentations. Students will learn what they need to put into presentations and what should be left out of presentations. Students will be exposed to a range of dynamic presentation techniques and will have chances to try these techniques in class. Course Goals: Students will be able to: Build rapport. Effectively use various impact techniques in presentations (rhetorical questions, repetition of sounds, groups of three plus one, repetition of words, contrasts and opposites). Effectively use storytelling techniques in presentations. Conduct Question & Answer sessions. Develop appropriate body language in presentations.			
2. 授業内容 Week 1. Preparing to present (45 minutes) Module 7A (Rapport building) Week 2. Module part 7B (Rapport building) Week 3. Module part 8A (Impact techniques) Week 4 Module part 8B (Impact techniques) Week 5. Module part 8C (Impact techniques) Week 6. Module part 8D (Impact techniques) Week 7. Mid-term Student Presentations Week 8. Module part 9A (Storytelling) Week 9. Module part 9B (Storytelling) Week 10. Module part 10A (Q&A sessions) Week 11. Module part 10B (Q&A sessions) Week 12. Module part 6B (Body language) Week 13. Preparation for final presentations. Week 14. Final Student Presentations			
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修 はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 500) cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare presentations ahead of each class. Students are expected to incorporate skills studied in previous classes in their presentations			
5. 教科書 5. Textbook-- Dynamic Presentations Student’s Book with Audio CDs, by Mark Powell, Cambridge University Press (ISBN 9780521150040).			
6. 参考書 None.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final presentations will be provided in writing. Feedback and grading on weekly short presentations will be provided in class and in writing.			
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term Presentation 20% Short presentations and class assignments 40% Final Presentation 20%			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English A		
担当者		ATSUKO KANEKO		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Description This course focuses on how business professionals design, explain, and justify communication strategies in international and professional contexts, rather than on memorizing cultural differences or business terminology in isolation. Business English Advanced is designed for students who already possess upper-intermediate (B2) English proficiency and wish to further develop their ability to communicate complex business ideas fluently, persuasively, and strategically. Using authentic business themes such as innovation, product life cycles, and finance and investment, students will engage in structured discussions, short presentations, and applied communication tasks. The course emphasizes interaction quality, idea development, and strategic language use, rather than rote vocabulary acquisition alone. Small-class dynamics are actively leveraged to create a psychologically safe learning environment, where motivated students can experiment with ideas, challenge perspectives, and refine their professional voice in English. Intended Students This course is recommended for students who: Have an English proficiency level of CEFR B2 or higher Are interested in study abroad, international careers, global projects, or research Enjoy thinking, discussing, and developing ideas, rather than simply demonstrating that they are “good at English.” Intended Learning Outcomes By the end of this course, students will be able to: Explain and discuss complex business topics using appropriate professional English Participate actively in extended discussions, responding critically and constructively to others Deliver short, well-structured presentations supported by clear reasoning and relevant examples Demonstrate strategic awareness of audience, purpose, and stance in spoken business communication Reflect on their own communication mindset and interaction style in professional contexts				
2. 授業内容 1 Course Orientation & Diagnostic Short discussion, expectation setting The impact of technology pp. 8-9 2 Innovation How innovators think pp. 10-11 3 Innovation Pitching an idea for a magazine section pp. 12-13 4 Life Cycle Case-based discussion: Replacing electronic devices pp. 18-19 5 Life Cycle Product life cycles: speaking and writing pp. 20-21 6 Life Cycle Effective meetings pp. 24-26 7 Poster Presentation (1) 8 Finance & Investment How traders work: Explaining numbers in English pp. 28-29 9 Finance & Investment Investor-style mini presentations pp. 30-31 10 Finance & Investment Exploring options: Cosmetics company research project pp. 34-35 11 Disruptors Industry disruptor analysis pp. 38-39 12 Disruptors Finding solutions: Increasing magazine revenue pp. 42-43 13 Poster Presentation (2) 14 Disruptors Job interview: Change management consultancy pp. 44-45				
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。				

Students who do not meet the English requirement cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

To participate effectively in class discussions, students are required to prepare LTD (Learning Through Discussion) notes before each class.

These notes will be used to support meaningful contributions to discussions and reflective learning.

5. 教科書

Dubricka, I., Ronsenberg, M., O'Keeffe, M. Dignen, & B. Hogan, M (2020). Business Partner C1. Pearson

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.

8. 成績評価の方法

Grading Policy

Reports and Presentations (2): 40%

Assignments and Quizzes: 40%

Contribution to Class (Participation & Interaction): 20%

Active participation in discussions and collaborative tasks is essential in this course.

Attendance Policy

Students who miss more than three (3) classes during the 14-week course will receive a failing grade.

Three (3) instances of tardiness—defined as arriving within 30 minutes after the start of class—are considered equivalent to one (1) absence.

9. その他

Classroom language is English.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English B		
担当者		ATSUKO KANEKO		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Description This course focuses on how business professionals design, explain, and justify communication strategies in international and professional contexts, rather than on memorizing cultural differences or business terminology in isolation. Business English Advanced is designed for students who already possess upper-intermediate (B2) English proficiency and wish to further develop their ability to communicate complex business ideas fluently, persuasively, and strategically. Using authentic business themes such as customer engagement, managing conflict, and professional mindset, students will engage in structured discussions, short presentations, and applied communication tasks. The course emphasizes interaction quality, idea development, and strategic language use, rather than rote vocabulary acquisition alone. Small-class dynamics are actively leveraged to create a psychologically safe learning environment, where motivated students can experiment with ideas, challenge perspectives, and refine their professional voice in English. Intended Students This course is recommended for students who: Have an English proficiency level of CEFR B2 or higher Are interested in study abroad, international careers, global projects, or research Enjoy thinking, discussing, and developing ideas, rather than simply demonstrating that they are “good at English.” Intended Learning Outcomes By the end of this course, students will be able to: Explain and discuss complex business topics using appropriate professional English Participate actively in extended discussions, responding critically and constructively to others Deliver short, well-structured presentations supported by clear reasoning and relevant examples Demonstrate strategic awareness of audience, purpose, and stance in spoken business communication Reflect on their own communication mindset and interaction style in professional contexts				
2. 授業内容 1 Re-orientation & Warm-up Discussion reboot; marketing strategies pp. 48-49 2 Customer Engagement Planning a marketing campaign pp. 50-51 3 Customer Engagement Presenting research data pp. 52-53 4 Customer Engagement Negotiation: sale and purchase of high-fashion men’ s shirts pp. 54-55 5 Business of Tourism Industry analysis: the impact of tourism pp. 58-59 6 Business of Tourism Storytelling in presentations pp. 64-65 7 Poster Presentation (1) Mid-course poster presentations 8 Managing Conflict HR survey for managing conflict pp. 68-69 9 Managing Conflict The road to reconciliation pp. 70-71 10 Managing Conflict Role-play: mediating conflict pp. 74-75 11 Mindset The entrepreneurial mindset pp. 78-79 12 Mindset Mindsets pp. 80-81 13 Poster Presentation (2) Final poster presentations 14 Mindset / Review & Reflection Handling a performance review pp. 82-83				

3. 履修上の注意

※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。また、本科目は受講人数に制限があり、履修に際しては事前登録が必要となるので、「経営学部履修の手引き」を参照すること。

Students who do not meet the English requirement cannot take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

To participate effectively in class discussions, students are required to prepare LTD (Learning Through Discussion) notes before each class.

These notes will be used to support meaningful contributions to discussions and reflective learning.

5. 教科書

Dubricka, I., Ronsenberg, M., O'Keeffe, M. Dignen, & B. Hogan, M (2020). Business Partner C1. Pearson

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.

8. 成績評価の方法

Grading Policy

Reports and Presentations (2): 40%

Assignments and Quizzes: 40%

Contribution to Class (Participation & Interaction): 20%

Active participation in discussions and collaborative tasks is essential in this course.

Attendance Policy

Students who miss more than three (3) classes during the 14-week course will receive a failing grade.

Three (3) instances of tardiness—defined as arriving within 30 minutes after the start of class—are considered equivalent to one (1) absence.

9. その他

Classroom language is English.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business English A	
担当者		VAUGHAN, ROBERT	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary: This Business English course develops the communication skills students will need to succeed in business and enlarges students’ knowledge of the business world. Participation in the course will enable students to become more fluent and confident using business language in preparation for their careers. Course Goals: students will be able to: Take part in discussions on international business issues Develop listening skills in a business context Develop reading skills in a business context Develop language and the vocabulary for business Develop business skills Develop business writing			
2. 授業内容 Week 1. Course overview and Unit 1 Brands (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 2. Unit 1 Brands (Skills: taking part in meetings) Week 3. Unit 2 Travel (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 4. Unit 2 (Skills: telephoning and making arrangements) Week 5. Unit 3 Change (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 6. Unit 3 Change continued Skills: managing meetings, writing action minutes) Week 7. Mid-term Exam Week 8. Unit 4 Organization (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 9. Unit 4 Organization (Skills: socialising, introductions and networking) Week 10. Unit 5 Advertising (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 11. Unit 5 Advertising (Skills: starting in structuring a presentation, writing a summary) Week 12. Unit 6 Money (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 13. Unit 6 Money (Skills: with figures, writing an e-mail) Week 14. Final Exam			
3. 履修上の注意 Students who do not meet the minimum English requirement (TOEIC 400) cannot take this course. Note there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to the “Rishuno Tebiki.”			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare for each class by reading the textbook and completing assignments ahead of class for homework. As we are studying textbooks units in order, students should review units covered.			
5. 教科書 Textbook—MARKET LEADER (Intermediate), 3rd Edition Extra, by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, Pearson Publishing (ISBN: 9781292361130).			
6. 参考書 None.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final exams will be provided on the day of the exams . Feedback and grading on any other assignments will be provided in writing by the lecturer.			
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term exam 30% Quizzes, assignments, presentations 20% Final exam 30%			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English B		
担当者		VAUGHAN, ROBERT		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary: This Business English course develops the communication skills students will need to succeed in business and enlarges students’ knowledge of the business world. Participation in the course will enable students to become more fluent and confident using business language in preparation for their careers. Course Goals: students will be able to: Take part in discussions on international business issues Develop listening skills in a business context Develop reading skills in a business context Develop language and the vocabulary for business Develop business skills Develop business writing				
2. 授業内容 Week 1. Course overview and Unit 7 Cultures (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 2. Unit 7 (Skills: social English, writing a report) Week 3. Unit 8 Human Resources (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 4. Unit 8 Human Resources Week 5. Unit 9 International Markets (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 6. Unit 9 International Markets (Skills: negotiating) Week 7. Mid-term Exam Week 8. Unit 10 Ethics (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 9. Unit 10 Ethics (Skills: considering options, writing a report) Week 10. Unit 11 Leadership (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 11. Unit 11 Leadership (Skills: presenting) Week 12. Unit 12 Competition (Skills: discussion, listening, reading, language work) Week 13. Unit 12 Competition (Skills: negotiating, writing an email) Week 14. Final Exam				
3. 履修上の注意 Students who do not meet the minimum English requirement (TOEIC 400) cannot take this course. Note there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to the “Rishuno Tebiki.”				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to prepare for each class by reading the textbook and completing assignments ahead of class for homework. As we are studying textbooks units in order, students should review units covered.				
5. 教科書 Textbook—MARKET LEADER (Intermediate), 3rd Edition Extra, by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent, Pearson Publishing (ISBN: 9781292361130).				
6. 参考書 None.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback and grading of the midterm and final exams will be provided on the day of the exams through software. Feedback and grading on any other assignments will be provided in writing by the lecturer and published on Oh-o! Meiji system.				
8. 成績評価の方法 Active Participation in class activities 20% Mid-term exam 30% Quizzes, assignments, presentations 20% Final exam 30%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English A		
担当者		MASUYAMA TAKASHI		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) The goal of this intermediate class is to assist students to freely utilize both written and oral English. The students will learn how to grab various business models or cases, how to organize their own ideas toward those models or cases in English, and how to deliver their speech effectively in English. The teacher will provide the students with knowledge and skills how to analyze each of those models or cases in a number of real world business settings. Actual presentations may be videotaped or taped, and the students will receive feedbacks from the teacher. (Objectives) The students will be able to judge the assigned business situations, analyze and organize their ideas in English and make impressive reports and/or presentations by utilizing PC software.				
2. 授業内容 1. Introduction 2. Getting started～Listening/Dictation～ 3. Understanding background information ～Luxury brand marketing/Mens & ladies cosmetics & fashion industry business case study～ 4. Analyzing a basic business model ～Marketing basics～ 5. Developing and delivering students’ own ideas 6. Group work 7. Presentation preparation 8. Presentation practice 9. Feedbacks and improvements 10. Analyzing an advanced business model 11. Developing and delivering students’ own ideas 12. PowerPoint～a PC software for visual presentation 13. Presentation preparation & practice 14. Feedbacks and improvements Please note that the above schedule is subject to minor change or change in order.				
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement may not take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki. English requirement : TOEIC 400～				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Assignments are provided every week, and students should prepare those tasks. In addition, students have to review all provided materials after class. At least 100 minute preparation and 100 minute individual review study are required. Students have to purchase the textbook, because both preparation and review process requires the textbook. From time to time, class study will be conducted by utilizing the ZOOM software, therefore students must install Zoom on your PC in advance.				
5. 教科書 In the first class, the teacher will give you instructions on how to purchase a textbook. Please wait to buy, until the teacher gives you instructions. (Sold out at Bookstore) David Cotton and others, Intermediate Market Leader 3rd Edition, Extra wi				
6. 参考書 Anne Freitag, Lawrence, Business Presentations, Longman				
7. 課題に対するフィードバックの方法 In the next class phisically, studnts will be feedbacked directky from the teacher.				
8. 成績評価の方法 (1) Attendance and class participation: 30%, (2) Presentation performance: 40%, (3) Written assignments: 30% No credits will be given for absences of 1/3 or more classes for any reason without exceptions. If the score of either (1), (2), or (3) is below 60% of each category, then, no credits will be given.				

9. その他

Students are recommended to have basic PC software skills, such as Microsoft Word and/or PowerPoint. However this type of skill is not required to register.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English B		
担当者		MASUYAMA TAKASHI		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) The goal of this intermediate class is to assist students to freely utilize both written and oral English. The students will learn how to grab various business models or cases, how to organize their own ideas toward those models or cases in English, and how to deliver their speech effectively in English. The teacher will provide the students with knowledge and skills how to analyze each of those models or cases in a number of real world business settings. Actual student presentations may be taped or videotaped, and the students will receive feedbacks from the teacher. (Objectives) The students will be able to judge the assigned business situations, analyze and organize their ideas in English and report and/or present other people accurately, clearly, and persuasively as much as possible using professional English within given various circumstances and time frames. Also, the student will be able to use presentation software and develop effective visual aids.				
2. 授業内容 1. Introduction 2. Presentation expressions? 3. Understanding and analyzing business situations (1) ～USA TV show business case study～ 4. Analyzing a basic business model ～A televised music singer audifion～ 4. Developing and delivering students’ own ideas (1) 5. Presentation practice (1) 6. Feedbacks and improvements (1) 7. Presentation expressions (2) 8. Understanding and analyzing business situations (2) 9. Developing and delivering students’ own ideas (2) 10. Presentation practice (2) 11. Feedbacks and improvements (2) 12. Presentation expressions (3) 13. Understanding and analyzing business situation, and developing students’ own ideas (3) 14. Presentation practice (3) & feedbacks and improvements (3) Please note that the above schedule is subject to minor change or change in order.				
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement may not take this course. Note that there is a limit of the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki. English requirement : TOEIC 400～				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Assignments are provided every week, and students should prepare those tasks. In addition, students have to review all provided materials after class. At least 100 minute preparation and 100 minute individual review study are required. Students have to purchase the textbook, because both preparation and review process requires the textbook. From time to time, class study will be conducted by utilizing the ZOOM software, therefore students must install Zoom on your PC in advance.				
5. 教科書 In the first class, the teacher will give you instructions on how to purchase a textbook. Please wait to buy, until the teacher gives you instructions. (Sold out at Bookstore) David Cotton and others, Intermediate Market Leader 3rd Edition, Extra wit				
6. 参考書 Anne Freitag, Lawrence, Business Presentations, Longman				
7. 課題に対するフィードバックの方法 In the next class phisically, studnts will be feedbacked directky from the teacher.				

8. 成績評価の方法

(1) Attendance and class participation: 30%, (2) Presentation performance: 40%, (3) Written assignments: 30%

No credits will be given for absences of 1/3 or more classes for any reason without exceptions. If the score of either (1), (2), or (3) is below 60% of each category, then, no credits will be given.

9. その他

Students are recommended to have basic PC software skills, such as Microsoft Word and/or PowerPoint. However this type of skill is not required to register.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English A		
担当者		MIYATA RINAKO		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) This course introduces advanced business English skills as well as business concepts. (Objectives) This course aims to acquire advanced business English skills needed for effective and persuasive English business communication.				
2. 授業内容 This course involves discussion and group work on business case studies. Week 1 Introduction, Innovation Week 2 Innovation-Pitching your Ideas, Engaging presentations Week 3-4 Lifecycle- circular economy, product lifecycles Week 5-6 Lifecycle-Communication skills--Reformulating and clarifying, Effective meetings Week 7-8 Finance and Investment- How traders work, Finance and Investment Week 9 Finance and Investment- Communication skills-Challenging facts politely, Exploring options Week 10-11 Disruptors in business, Finding solutions, Reporting and Planning Week 12-13 Business Workshops, Cases, Review Week 14-Final Presentation or exam				
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 730) cannot take this course. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation for discussions is required.				
5. 教科書 Business Partner, C1 level, Pearson.				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Class participation 40%, Final Exam(written exam or individual presentation) 50%, Homework 10%.				
9. その他 Positive participation preferred.				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English B		
担当者		MIYATA RINAKO		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈Outline〉 This course introduces advanced business English skills and concepts needed for effective and persuasive English business communication. 〈Objectives〉 This course aims to acquire advanced business English skills.				
2. 授業内容 This course involves discussion, negotiation, group work on business case studies, and an individual business presentation. Week 1 Introduction, review of spring semester Week 2 Marketing strategies Week 3-4 Marketing strategies, Persuading, Presenting data Week 5-6 Tourism Business, Business networking, Storytelling in presentations Week 7-9 Managing Conflict in business Week 10-11 Entrepreneurial Mindset, Entrepreneurship, Performance Review, Action learning Week 12-13 Business Cases Week 14-Final Presentation				
3. 履修上の注意 Students who do not meet the English requirement (TOEIC 730) cannot take this course. Note that there is a limit to the number of students per class. To register for this class, refer to Rishuno Tebiki.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation for presentations required.				
5. 教科書 Business Partner, Level C1, Pearson.				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Class participation 40%, Presentation 50% Homework 10%				
9. その他 Positive participation preferred.				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English A		
担当者		YAMATAKA MIWA		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: This course is designed to enhance students’ workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group work. Students will develop confidence in using English effectively in a range of workplace situations, while learning in a supportive and interactive environment. Course Objectives: By the end of this course, students will: ※Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※Develop intercultural awareness, workplace etiquette, and teamwork skills. ※Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.				
2. 授業内容 Course Content: The course will be conducted primarily in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Workplace Scenario A: Show Me the Ropes 第2回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 1: Who Are You? (Part 1) 第3回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 1: Who Are You? (Part 2) 第4回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 2: Anytime, Anywhere (Part 1) 第5回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 2: Anytime, Anywhere (Part 2) 第6回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 4: Survival Skills: Eating Out 第7回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 6: Can You or Can’ t You? (Part 1) 第8回：【対面授業】Unit 6: Can You or Can’ t You? (Part 2) 第9回：【対面授業】Unit 8: Survival Skills: Hotels 第10回：【対面授業】Unit 9: What Happened? (Part 1) 第11回：【対面授業】Unit 9: What Happened? (Part 2) 第12回：【対面授業】Unit 10: Travelling Light (Part 1) 第13回：【対面授業】Unit 10: Travelling Light (Part 2) 第14回：【対面授業】aのみ: Class Activity and Course Review				
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes via Zoom. 本コースは、春学期前半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を実施し、後半は対面授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【春学期最終授業の特例】 春学期の最終対面授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件： 【学習環境】 ※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。 ※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。				

※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】

Oh-o! Meiji のクラスウェブに定期的に投稿される PDF 資料に目を通し、授業内で行うグループ・アクティビティに備えてください。

【復習】

授業後は、使用した教材および PDF 資料を復習し、内容の理解を深めてください。

【課題】

オンライン課題はクラスウェブに提示しますので、指定された期限までに提出してください。

期限後の提出は受け付けませんので、ご注意ください。

5. 教科書

本コースで使用する教材は、前年度より変更しました。

in company 3.0 Elementary Student's Book Pack, A2, Premium

著者：Simon Clarke

出版社：Macmillan

ISBN：978-0-230-45500-9

6. 参考書

Oh-o! Meiji のクラスウェブには、教材で学習した内容に関連する PDF 資料が定期的に投稿されます。これらの資料を参考資料として活用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン課題のフィードバックは、提出期限後に、Oh-o! Meiji のシステムを通じて、各学生に配信します。

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

【評価割合】

授業への貢献度：50%

課題：50%

【試験】

対面形式による試験は実施しません。

【単位取得条件】

単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。

【出席に関する規定】

※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。

※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。

※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。

※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。

※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。

9. その他

To prospective students:

I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has provided me with a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you throughout this course.

Through weekly interactive group activit

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business English B	
担当者		YAMATAKA MIWA	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: This course is designed to enhance students’ workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group work. Students will develop confidence in using English effectively in a range of workplace situations, while learning in a supportive and interactive environment. Course Objectives: By the end of this course, students will: ※Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※Develop intercultural awareness, workplace etiquette, and teamwork skills. ※Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.			
2. 授業内容 Course Content: The course will be conducted primarily in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【対面授業】Unit 11: Weather Watch (Part 1) 第2回：【対面授業】Unit 11: Weather Watch (Part 2) 第3回：【対面授業】Workplace Scenario C: You Can’t Miss It 第4回：【対面授業】Unit 14: Trends (Part 1) 第5回：【対面授業】Unit 14: Trends (Part 2) 第6回：【対面授業】Unit 16: Survival Skills: Up in the Air (Part 1) 第7回：【対面授業】Unit 16: Survival Skills: Up in the Air (Part 2) 第8回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Workplace Scenario D: On Top of Things 第9回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 17: Success and Change (Part 1) 第10回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 17: Success and Change (Part 2) 第11回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 19: Who’s Calling? (Part 1) 第12回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 19: Who’s Calling? (Part 2) 第13回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Workplace Scenario E: Take the Plunge 第14回：【オンライン授業（リアルタイム型）】aのみ：Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes via Zoom. 本コースは、秋学期前半は対面授業を実施し、後半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【秋学期最終授業の特例】 秋学期の最終オンライン授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件： 【学習環境】 ※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。 ※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。			

※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】

Oh-o! Meiji のクラスウェブに定期的に投稿される PDF 資料に目を通し、授業内で行うグループ・アクティビティに備えてください。

【復習】

授業後は、使用した教材および PDF 資料を復習し、内容の理解を深めてください。

【課題】

オンライン課題はクラスウェブに提示しますので、指定された期限までに提出してください。

期限後の提出は受け付けませんので、ご注意ください。

5. 教科書

本コースで使用する教材は、前年度より変更しました。

in company 3.0 Elementary Student's Book Pack, A2, Premium

著者：Simon Clarke

出版社：Macmillan

ISBN：978-0-230-45500-9

6. 参考書

Oh-o! Meiji のクラスウェブには、教材で学習した内容に関連する PDF 資料が定期的に投稿されます。これらの資料を参考資料として活用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン課題のフィードバックは、提出期限後に、Oh-o! Meiji のシステムを通じて、各学生に配信します。

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

【評価割合】

授業への貢献度：50%

課題：50%

【試験】

対面形式による試験は実施しません。

【単位取得条件】

単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。

【出席に関する規定】

※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。

※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。

※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。

※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。

※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。

9. その他

To prospective students:

I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has provided me with a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you throughout this course.

Through weekly interactive group activit

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English A		
担当者		LINDSKOOG, ALLEN		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the research and discussion of current international business practices throughout the world. For example the impact of AI on jobs in the future, technology and globalization. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do research and take notes as well as work on other business related topics such as emailing and product pitches. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue and expand your vocabulary and improve your Business English speaking ability. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue.				
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection				
3. 履修上の注意 • Attend 80% or more of the classes and arrive on time. • Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. • Participate actively in class each week. • Help each other with English and other activities in class. • Complete all assignments on time. • Prepare and present (1) informal presentation per semester English requirement : TOEIC 400～				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.				
5. 教科書 Market Leader Extra - Upper intermediate, David Cotton, Cavid Falvey and Simon Kent / Pearson				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 40% (1) Presentation: 20%				

9. その他

If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Meiji Business English" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail me

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Business English B		
担当者		LINDSKOOG, ALLEN		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to focus on the research and discussion of current international business practices throughout the world. For example the impact of AI on jobs in the future, technology and globalization. During the course you will have an opportunity to work on two research projects and present them to your classmates. Throughout the course you will be asked to do research and take notes as well as work on other business related topics such as emailing and product pitches. Additionally, through the use of pair work and small group discussions you will be able to explore in details your specific issue and expand your vocabulary and improve your business English speaking ability. After the completion of your preparation you will then you will be asked to give presentations in small groups to both demonstrate your knowledge of the topic as well as to inform your listeners of the issue.				
2. 授業内容 Class 1. Introductions (course and personal) Class 2. How to present and preparation process Class 3. Choosing a topic of interest and brainstorming Class 4. Researching, interviews and surveys Class 5. In class small group discussion on your topic Class 6. Notetaking (summarizing and paraphrasing) Class 7. In class discussion on the topic, research and notes Class 8. Writing a speaking outline and presentation preparation Class 9. In-class informal presentation practice Class 10. Presentation style introduction Class 11. Presentation style practice Class 12. Post-presentation Q and A (Question and Answer) introduction and practice Class 13. In-class formal presentation Class 14. Semester class survey and semester reflection				
3. 履修上の注意 • Attend 80% or more of the classes and arrive on time. • Prepare outside of class each week 1 - 3 hours. • Participate actively in class each week. • Help each other with English and other activities in class. • Complete all assignments on time. • Prepare and present (1) formal presentation per semester English requirement : TOEIC 400～				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.				
5. 教科書 Market Leader Extra - Upper intermediate, David Cotton, Cavid Falvey and Simon Kent / Pearson				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
8. 成績評価の方法 Attendance: 15% In class participation: 15% Weekly activities: 10% Mid-term and final: 40% (1) Presentation: 20%				

9. その他

If you need to contact me at anytime please send me (Allen Lindskoog) an e-mail in English - skoog5600@gmail.com and put "Business English" in the subject header. And also please make sure you put your first and last name in English in the e-mail message

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business English A	
担当者		YAMATAKA MIWA	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: This course is designed to enhance students’ workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group work. Students will develop confidence in using English effectively in a range of workplace situations, while learning in a supportive and interactive environment. Course Objectives: By the end of this course, students will: ※ Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※ Develop intercultural awareness, workplace etiquette, and teamwork skills. ※ Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.			
2. 授業内容 Course Content: The course will be conducted primarily in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Workplace Scenario A: Show Me the Ropes 第2回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 1: Who Are You? (Part 1) 第3回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 1: Who Are You? (Part 2) 第4回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 2: Anytime, Anywhere (Part 1) 第5回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 2: Anytime, Anywhere (Part 2) 第6回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 4: Survival Skills: Eating Out 第7回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 6: Can You or Can’ t You? (Part 1) 第8回：【対面授業】Unit 6: Can You or Can’ t You? (Part 2) 第9回：【対面授業】Unit 8: Survival Skills: Hotels 第10回：【対面授業】Unit 9: What Happened? (Part 1) 第11回：【対面授業】Unit 9: What Happened? (Part 2) 第12回：【対面授業】Unit 10: Travelling Light (Part 1) 第13回：【対面授業】Unit 10: Travelling Light (Part 2) 第14回：【対面授業】aのみ: Class Activity and Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes via Zoom. 本コースは、春学期前半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を実施し、後半は対面授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【春学期最終授業の特例】 春学期の最終対面授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件： 【学習環境】 ※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。 ※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。			

※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】

Oh-o! Meiji のクラスウェブに定期的に投稿される PDF 資料に目を通し、授業内で行うグループ・アクティビティに備えてください。

【復習】

授業後は、使用した教材および PDF 資料を復習し、内容の理解を深めてください。

【課題】

オンライン課題はクラスウェブに定期的に提示しますので、指定された期限までに提出してください。

期限後の提出は受け付けませんので、ご注意ください。

5. 教科書

本コースで使用する教材は、前年度より変更しました。

in company 3.0 Elementary Student's Book Pack, A2, Premium

著者：Simon Clarke

出版社：Macmillan

ISBN：978-0-230-45500-9

6. 参考書

Oh-o! Meiji のクラスウェブには、教材で学習した内容に関連する PDF 資料が定期的に投稿されます。これらの資料を参考資料として活用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン課題のフィードバックは、提出期限後に、Oh-o! Meiji のシステムを通じて、各学生に配信します。

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

【評価割合】

授業への貢献度：50%

課題：50%

【試験】

対面形式による試験は実施しません。

【単位取得条件】

単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。

【出席に関する規定】

※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。

※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。

※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。

※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。

※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。

9. その他

To prospective students:

I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has provided me with a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you throughout this course.

Through weekly interactive group activit

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business English B	
担当者		YAMATAKA MIWA	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline: This course is designed to enhance students' workplace listening and speaking skills through engaging weekly activities such as role-playing and group work. Students will develop confidence in using English effectively in a range of workplace situations, while learning in a supportive and interactive environment. Course Objectives: By the end of this course, students will: ※Improve their ability to communicate confidently in workplace settings. ※Develop intercultural awareness, workplace etiquette, and teamwork skills. ※Gain practical experience in handling everyday workplace interactions.			
2. 授業内容 Course Content: The course will be conducted primarily in English, with Japanese used when necessary for clarification. 第1回：【対面授業】Unit 11: Weather Watch (Part 1) 第2回：【対面授業】Unit 11: Weather Watch (Part 2) 第3回：【対面授業】Workplace Scenario C: You Can't Miss It 第4回：【対面授業】Unit 14: Trends (Part 1) 第5回：【対面授業】Unit 14: Trends (Part 2) 第6回：【対面授業】Unit 16: Survival Skills: Up in the Air (Part 1) 第7回：【対面授業】Unit 16: Survival Skills: Up in the Air (Part 2) 第8回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Workplace Scenario D: On Top of Things 第9回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 17: Success and Change (Part 1) 第10回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 17: Success and Change (Part 2) 第11回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 19: Who's Calling? (Part 1) 第12回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Unit 19: Who's Calling? (Part 2) 第13回：【オンライン授業（リアルタイム型）】Workplace Scenario E: Take the Plunge 第14回：【オンライン授業（リアルタイム型）】aのみ: Course Review			
3. 履修上の注意 履修上の注意 This course includes both in-person sessions and live-streamed classes via Zoom. 本コースは、秋学期前半は対面授業を実施し、後半はZoomによるリアルタイム型オンライン授業を行います。 オンライン授業については、以下の方法で実施します： 【Zoom 招待状の配信】 原則として、オンライン授業の前日までに、Oh-o! Meiji のクラスウェブを通じて Zoom 招待状を配信します。授業はリアルタイム配信型（100 分）で行います。 【秋学期最終授業の特例】 秋学期の最終オンライン授業のみ、授業時間は 50 分とします。 【授業の進行】 ※リアルタイム型授業では、授業中に出席確認を行います。また、授業内容に応じて、ブレイクアウトルームを使用したグループ・アクティビティを取り入れて進行します。 ※Zoom のプロフィール名は、必ずフルネーム（実名）で、英語と日本語を併記してください（例：Hanako Meiji 明治花子）。 【意見交換と質問の場】 年度限定のクラス用 SNS グループを活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問や相談については、専用のメールアドレスおよび SNS アカウントを初回授業でお知らせします。 オンライン授業の履修条件： 【学習環境】 ※安定したインターネット接続環境があり、静かで学習に集中できる環境（例：自宅、またはキャンパス内で本コース用に指定された教室）で受講してください。 ※騒音の多い商業施設での受講は禁止します。また、交通機関を利用した移動中の Zoom 参加は、出席として認めません。 【使用デバイス】 ※個人で使用可能なノート PC、またはタブレットの使用を推奨します。ヘッドセットやマイクなどの使用も必要です。			

※スマートフォンでの受講は、PC またはタブレットの接続状況が悪化した場合を除き、推奨しません（画面が小さく、Zoom の操作が制限されるため）。ただし、ロールプレイや PDF 資料の閲覧など、補助的な用途として使用することは可能です。また、授業中に Zoom のチャット以外で緊急連絡を行う際にも、スマートフォンを使用できます。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習（予習・復習等）の内容

【予習】

Oh-o! Meiji のクラスウェブに定期的に投稿される PDF 資料に目を通し、授業内で行うグループ・アクティビティに備えてください。

【復習】

授業後は、使用した教材および PDF 資料を復習し、内容の理解を深めてください。

【課題】

オンライン課題はクラスウェブに提示しますので、指定された期限までに提出してください。

期限後の提出は受け付けませんので、ご注意ください。

5. 教科書

本コースで使用する教材は、前年度より変更しました。

in company 3.0 Elementary Student's Book Pack, A2, Premium

著者：Simon Clarke

出版社：Macmillan

ISBN：978-0-230-45500-9

6. 参考書

Oh-o! Meiji のクラスウェブには、教材で学習した内容に関連する PDF 資料が定期的に投稿されます。これらの資料を参考資料として活用してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

オンライン課題のフィードバックは、提出期限後に、Oh-o! Meiji のシステムを通じて、各学生に配信します。

8. 成績評価の方法

成績評価の方法

【評価割合】

授業への貢献度：50%

課題：50%

【試験】

対面形式による試験は実施しません。

【単位取得条件】

単位を取得するためには、授業への貢献度の総合点および課題の総合点を合計し、60 点以上を取得する必要があります。

【出席に関する規定】

※公的機関が発行した証明書を提出できない欠席が合計 4 回に達した場合、単位取得は不可となります。

※公欠や病欠を除き、欠席は合計 3 回まで認められます。ただし、欠席回数に応じて、授業への貢献度評価が、出席している他の学生より段階的に低くなる可能性がありますので、注意してください。

※公欠または病欠を申請する場合は、公的機関が発行した証明書を提出する必要があります。

※遅刻 3 回は、欠席 1 回分として扱います。

※授業への貢献度が著しく低い場合は、成績評価が下がることがあります。

9. その他

To prospective students:

I am Japanese and grew up and worked in London, UK. This background has provided me with a cross-cultural perspective, which I look forward to sharing with you throughout this course.

Through weekly interactive group activit

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Fundamentals of Management A 2018 年度以前入学者 「Introduction to Management A」		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:2	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing a popular English textbook commonly used in undergraduate business programs at United States universities. The primary goal is to comprehend fundamental concepts and approaches in Management, including the business mindset, business ethics, corporate social responsibility, ownership, issues of corporate governance, and management roles and functions. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Gain an understanding of the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop a foundational business mindset to prepare for future global business careers.				
2. 授業内容 Course Content: 1st Week Course Introduction and assignment of students’ team presentations 2nd Week Developing a Business Mindset 1 3rd Week Developing a Business Mindset 2 4th Week Developing a Business Mindset 3 (Discussion) 5th Week Economics, Money, and Banking 1 6th Week Economics, Money, and Banking 2(Discussion) 7th Week The Global Marketplace 1 8th Week The Global Marketplace 2 9th Week The Global Marketplace 3 (Discussion) 10th Week Business Ethics and Corporate Social Responsibility 1 11th Week Business Ethics and Corporate Social Responsibility 2 12th Week Business Ethics and Corporate Social Responsibility 3 (Discussion) 13th Week TEAM PRESENTATION 1 14th Week TEAM PRESENTATION 2				
3. 履修上の注意 Registration Requirements Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/guidance.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji’s class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.				
5. 教科書 Textbook (s) Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition. Pearson Education Limited: 10th edition.				
6. 参考書 Reference Book (s) References are introduced, if necessary.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				

8. 成績評価の方法

Assessment:

- (1) 10 Quizzes 40%
- (2) Participation to the class (including team presentations and group discussions) : 30%.
- (3) Case Study Question Assignment: 30%. *Case Study Question: TBA

9. その他

You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2025classes.sumi@gmail.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E	
科目名		Fundamentals of Management B 2018 年度以前入学者 「Introduction to Management B」	
担当者		SUMI ATSUSHI	
2 単位	Year:2	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing an English textbook popular in undergraduate business programs at universities in the United States. The primary goal is to understand the basic concepts and approaches in Management, covering areas such as production systems, employee motivation, human resources management. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Understand the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop a foundational business mindset to be ready for future global business careers.			
2. 授業内容 1st Week Course Introduction & Assignment of Students’ Team Presentations 2nd Week Employee Motivation 1 3rd Week Employee Motivation 2 4th Week Employee Motivation 3 5th Week Employee Motivation 4 (Discussion) 6th Week Human Resource Management 1 7th Week Human Resource Management 2 8th Week Human Resource Management 3 9th Week Human Resource Management 4 (Discussion) 10th Week Discussion Week (Discussion Topics TBA) 11th Week TEAM PRESENTATION 1 12th Week TEAM PRESENTATION 2 13th Week TEAM PRESENTATION 3 14th Week TEAM PRESENTATION 4			
3. 履修上の注意 Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/ guidance.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji’s class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.			
5. 教科書 Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition, Pearson Education Limited; 10th edition.			
6. 参考書 References are instructed, if necessary.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 Assessment : (1) 10 Quizzes 40%			

- | |
|---|
| (2) Participation to the class (including team presentations and group discussions) : 30%.
(3) Mini Case Study Report Assignment: 30%. |
|---|

9. その他

You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2025classes.sumi@gmail.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Fundamentals of Management C		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:2	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing a popular English textbook commonly used in undergraduate business programs at United States universities. The primary goal is to comprehend fundamental concepts and approaches in Management, including the business mindset, business ethics, corporate social responsibility, ownership, issues of corporate governance, and management roles and functions. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Gain an understanding of the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop an understanding of the functional areas of Business Management. 3 Develop a foundational business mindset to be ready for future global business careers.				
2. 授業内容 1st Week Course Introduction & Assignment of Individual Presentations 2nd Week Forms of Ownership 1 3rd Week Forms of Ownership 2 (Discussion) 4th Week Forms of Ownership 3 5th Week Forms of Ownership 4 6th Week Entrepreneurship and Small-Business Ownership 1 7th Week Entrepreneurship and Small-Business Ownership 2 (Discussion) 8th Week Entrepreneurship and Small-Business Ownership 3 9th Week Entrepreneurship and Small-Business Ownership 4 10th Week Management Roles, Functions and Skills 1 11th Week Management Roles, Functions and Skills 2 (Discussion) 12th Week Management, Roles, Functions and Skills 3 13th Week Week Management, Roles, Functions and Skills 4 14th Week Discussion and Wrap-up				
3. 履修上の注意 Registration Requirements Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/guidance.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.				
5. 教科書 Textbook Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition. Pearson Education Limited: 10th edition.				
6. 参考書 References are introduced, if necessary.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				

8. 成績評価の方法

Assessment:

(1) 10 Quizzes 40%

(2) Participation to the class (including presentations and group discussions) : 30%.

(3) Case Study Question Assignment: 30%. *Case Study Question: TBA

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E	
科目名		Fundamentals of Management D	
担当者		SUMI ATSUSHI	
2 単位	Year:2	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: This course serves as a general introduction to Management, utilizing a popular English textbook commonly used in undergraduate business programs at United States universities. The primary goal is to comprehend fundamental concepts and approaches in Management, including the business mindset, business ethics, corporate social responsibility, ownership, issues of corporate governance, and management roles and functions. The course is specifically designed for students in the business program who have successfully completed the General Management (経営総論) course in Japanese during the spring semester of their freshman year. In addition, it is desirable that participants have successfully completed Fundamentals of Management A/B during the 2nd year. Lectures are conducted in English. The course is designed to facilitate students understanding of the selected topics by elaborating key issues instead of superficially covering the wide range of topics in business management. Each session includes team presentations by participants, followed by group discussions on the topics featured in the textbook. Goals of the Course: 1 Gain an understanding of the basic concepts and approaches in Management in English. 2 Develop an understanding of the functional areas of Business Management. 3 Develop a foundational business mindset to be ready for future global business careers.			
2. 授業内容 Course Content 1st Week Course Introduction & Assignment of Individual Presentations 2nd Week Week Organization and Teamwork 1 3rd Week Organization and Teamwork 2 4th Week Organization and Teamwork 3 5th Week Organization and Teamwork 4 6th Week Production Systems 1 7th Week Production Systems 2 8th Week Production Systems 3 9th Week Production Systems 4 10th Week Marketing 1 11th Week Marketing 2 12th Week Marketing 3 13th Week Marketing 4 14th Week Discussion and Wrap-Up			
3. 履修上の注意 Registration Requirements Minimum TOEIC score: around 730 Students who wish to enroll in this course must attend the first class on course introduction/guidance.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji’s class web in between classes. 2. All participants are required to read the designated part of the textbook carefully in advance and prepare for presentations and group discussions.			
5. 教科書 Textbook Courtland L. Bovee, John V. Thill (2023) Business in Action, Global Edition. Pearson Education Limited: 10th edition.			
6. 参考書 References are introduced, if necessary.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			

8. 成績評価の方法

Assessment :

(1) 10 Quizzes 40%

(2) Participation to the class (including presentations and group discussions) : 30%.

(3) Mini Case Study Report Assignment: 30%.

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Transcultural Business Communication A		
担当者		ATSUKO KANEKO		
2 単位	Year:2	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Description This course examines business communication in transcultural contexts, focusing not on cultural knowledge itself but on how communicative judgments are made, revised, and shared across differences. Students will learn to slow down decision-making, articulate multiple communicative options, and redesign misunderstandings as communication design problems rather than attributing them solely to cultural differences. Through case analysis, interaction, and project-based work, the course develops students’ ability to contribute to knowledge creation collaboratively in international business settings. Course Learning Outcomes By the end of this course, students will be able to: Articulate multiple communicative options before making decisions in transcultural business situations. Reframe misunderstandings as communication design problems, rather than attributing them solely to cultural differences. Contribute to knowledge creation through interaction with multiple agents, adapting communication to shared goals and constraints. Target Students CEFR B2 以上の英語力を有する学生 将来、留学・外資系企業・国際プロジェクト・研究に関心のある学生 「英語が得意」であることよりも、考えること・判断の理由を説明することに関心のある学生				
2. 授業内容 Phase 1: Articulating Judgment (Individual Focus) Week 1 What is Transcultural Business Communication? Identifying moments of premature judgment Activity: Generating multiple communicative options from one case Week 2 Misunderstanding in international business contexts From “cultural difference” to communication design Activity: Reframing explanations Week 3 Comparing alternative communication designs Language choice, sequencing, and medium Activity: Design A/B comparison Week 4 Mini Poster ① (Individual) How I Reframed a Misunderstanding Peer questions and feedback Phase 2: Redesign through Interaction (Interactive Focus) Week 5 Using others’ judgments as resources Activity: Redesign based on peer interpretations Week 6 Role-based communication (e.g., HQ, local office, client) Activity: Structured role-play Week 7 Communication under constraints (time, information, authority) Activity: Constraint-based redesign Week 8 Mini Poster ② (Individual) How Constraints Changed My Communication Design Q&A-focused session Phase 3: Knowledge Creation (Collective Focus) Week 9 Identifying shared patterns across individual designs				

Activity: Extracting design principles Week 10 Applying emerging principles to new cases Activity: Group-based case response Week 11 Designing an integrated group poster Structure, narrative, and visual logic Week 12 Rehearsal and peer review Reflecting on individual-to-collective transformation Final Presentations Week 13 Individual Poster Presentation Demonstrating personal judgment development Week 14 Group Integrated Poster Presentation Presenting shared knowledge created through collaboration
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFL iBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Active participation is essential, as this course emphasizes judgment, redesign, and interaction rather than the reproduction of correct answers. Students are expected to engage respectfully with diverse perspectives and to view misunderstandings as opportunities for learning and redesign.
5. 教科書
6. 参考書 Peter Cardon (2024). Business Communication: Developing Leaders for a Networked World 5th Edition McGraw-Hill H. Deresky, International Management: Managing Across Borders and Cultures. 9th edition, Global Edition. Pearson.
7. 課題に対するフィードバックの方法 Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.
8. 成績評価の方法 Grading Policy: Presentations (2): 40% (Analytical clarity & intercultural justification) Assignments / quizzes: 40% (Application) Contribution: 20% (Quality of engagement, not quantity) Attendance Policy: Students who miss more than three (3) classes during the 14-week course will receive a failing grade. Three (3) instances of tardiness will be considered equivalent to one (1) absence.
9. その他 Classroom language is English.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Strategic Business Communication A		
担当者		ATSUKO KANEKO		
2 単位	Year:2	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course Description Successful leaders are highly effective communicators. This course serves as a bridge between Organizational Behavior (OB) and Business Communication, focusing on how key OB concepts are enacted through communication in organizational contexts. Drawing on foundational themes in Organizational Behavior—such as personal credibility, emotional intelligence, team communication, psychological safety, inclusion, and cultural intelligence—students examine communication as a central mechanism of organizing, leadership, and collaboration. As a second-year course in the GREAT curriculum, SBCA emphasizes interaction, discussion, and structured expression in English, rather than fully polished professional outputs. SBCA does not aim at producing finalized professional-level outputs. Instead, it focuses on building conceptual understanding and communication readiness. Through guided discussions, short presentations, and applied writing tasks, students develop the ability to think, interact, and analyze organizational issues in English, preparing them for more advanced communication and leadership practice in later years. Learning Objectives By the end of this course, students will be able to: Explain key Organizational Behavior concepts related to leadership, teams, and diversity using appropriate business communication terminology Analyze organizational situations by applying OB theories through a communication-focused perspective Demonstrate how credibility, emotional intelligence, and psychological safety are constructed through interaction Structure and deliver short business messages and presentations informed by OB concepts Participate actively in collaborative discussions and teamwork using English as a working language Main Deliverables Two poster presentations. Students must video-record their presentations and submit the recordings along with their visual aids (posters) for grading.				
2. 授業内容 Course Content / Weekly Schedule 1. Introduction; Establishing Credibility: Competence, Caring, and Character 2. Interpersonal Communication and Emotional Intelligence 3. Team Communication and Psychological Safety 4. Inclusion in a Diverse Workplace 5. Global Communication and Cultural Intelligence 6. Poster Presentations (OB Concepts in Practice) 7. Creating Effective Business Messages 8. Improving Readability with Style and Design 9. Email and Other Traditional Tools for Business Communication 10. Collaboration Tools and Social Media for Business Communication 11. Routine Business Messages 12. Persuasive Messages and Influence 13. Poster Presentations 14. Reflection and Integration of OB and Communication				
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation and Review / Teaching and Learning Methods This course is conducted entirely in English and integrates short lectures, structured discussions, pair and group activities, applied writing tasks, and short presentations. Through these learning activities, students examine how key concepts from Organizational Behavior are enacted through communication in organizational settings. Students are encouraged to reflect on familiar organizational and team experiences and to analyze them using OB concepts through communication-based perspectives. To prepare for each class, students are expected to preview the assigned readings, complete Learning Through Discussion (LTD) notes, and respond to quizzes. Quizzes are designed to support students’ understanding of key concepts introduced in the textbook and to reinforce theoretical foundations for in-class discussion and application.				

In addition, students engage in the development of poster presentations as a means of structuring ideas, integrating evidence, and practicing clear and purposeful communication.

5. 教科書

Peter Cardon (2024). Business Communication: Developing Leaders for a Networked World 5th Edition McGraw-Hill ISBN 978-1-266-15821-6

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.

8. 成績評価の方法

Attendance Policy

Students who miss more than three of the fourteen scheduled classes will not receive course credit.

Three late arrivals (arriving within 30 minutes of the class start time) will be counted as one absence.

Students who arrive more than 30 minutes after the start of class may be recorded as absent.

Assessment

Reports and Presentations (2): 40%

Quizzes and Assignments: 40%

Contribution to Class (Participation and Preparation): 20%

Assessment Criteria

Assessment in this course emphasizes conceptual understanding, structured thinking, and active engagement, rather than the production of fully polished professional outputs.

1. Reports and Presentations (40%)

Reports and presentations in this course are treated primarily as formative assessments.

They are designed to support students' learning by providing opportunities to practice applying Organizational Behavior concepts through communication in English.

Students are evaluated on:

- Clarity and logical organization of ideas
- Appropriate application of relevant OB concepts
- Purposeful communication aligned with the task
- Evidence of reflection and improvement over time

Linguistic accuracy and delivery are considered, but perfection is not required, as the primary focus is on development and learning progress.

2. Quizzes and Assignments (40%)

Quizzes and assignments assess students' understanding of key concepts introduced in the textbook and discussed in class.

These tasks focus on comprehension, conceptual accuracy, and the ability to connect theory to familiar organizational situations.

3. Contribution to Class (20%)

Contribution to class includes consistent preparation, active participation in discussions and activities, and constructive collaboration with peers.

As a second-year course, this component values students' willingness to engage, ask questions, and experiment with using English as a working language.

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Strategic Business Communication B		
担当者		ATSUKO KANEKO		
2 単位	Year:2	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Course Description Successful leaders are highly effective communicators. This course builds on Strategic Business Communication A (SBCA) and focuses on structuring and producing extended business communication outputs based on guided research and analysis. While SBCA emphasizes interaction and conceptual understanding of Organizational Behavior (OB) through communication, SBCB shifts the focus toward early-stage production, helping students organize ideas, integrate evidence, and deliver clear business reports and presentations in English. As a second-year course in the GREAT curriculum, SBCB emphasizes process-oriented learning, allowing students to experience the full communication cycle—from research and analysis to reporting and presentation—while preparing them for more advanced, performance-oriented communication tasks in later years. Learning Objectives By the end of this course, students will be able to: Apply business communication theories to the planning and production of reports and presentations Conduct and evaluate basic primary and secondary business research Organize information logically and integrate evidence to support business messages Design clear and effective visual materials, including charts, tables, and slide decks Deliver structured business presentations with appropriate clarity and credibility Main Deliverables Two poster presentations Students must video-record their presentations and submit the recordings along with their visual aids (posters) for grading.				
2. 授業内容 Course Content / Weekly Schedule 1. Introduction; Creating a Team Charter; Overview of Research-Based Communication 2. Primary Research Methods; Company Selection; Project (1) Kick-off 3. Secondary Research; Model Presentation Analysis 4. Evaluating Charts and Tables in Annual Reports; Data Interpretation 5. Poster Presentation: Evaluating an Annual Report 6. Completing Business Reports; Survey Research; Project (2) Kick-off 7. Precision-Oriented Style and Objective Business Writing (Guest Lecture) 8. Completed Business Reports; Survey Design and Development 9. Planning Business Presentations; Responding to Survey Data 10. Designing Slide Decks; Analyzing and Visualizing Data 11. Delivering Presentations; Establishing Credibility 12. Using Visual Aids and Handouts; Evaluating Corporate Presentations 13. Individual Poster Presentation 14. Reflection and Integration; Post-Course Measurement				
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Teaching and Learning Methods This course is conducted entirely in English and combines short lectures, guided analysis of models and samples, research-based group projects, applied writing tasks, visual design activities, and structured presentations. To prepare for each class, students are expected to preview the assigned readings and complete Learning Through Discussion (LTD) notes. Students work collaboratively on research projects and are guided through each stage of the communication process, with emphasis on clarity, structure, and evidence-based reasoning.				
5. 教科書 Peter Cardon (2024). Business Communication: Developing Leaders for a Networked World 5th Edition McGraw-Hill ISBN 978-1-266-15821-6				

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

Provide feedback through Oh-o! Meiji (LMS) discussions as well as in-class discussions.

8. 成績評価の方法

Assessment

Reports and Presentations (2): 40%

Quizzes and Assignments: 40%

Contribution to Class (Preparation and Participation): 20%

Assessment Criteria

In SBCB, reports and presentations function as transitional assessments, moving from formative toward more summative evaluation.

Students are evaluated on:

Logical structure and organization of ideas

Appropriate use of evidence and data

Clarity and coherence of written and visual materials

Effectiveness of presentation delivery and credibility

While accuracy and professionalism are expected, emphasis remains on learning progression and application, rather than full professional-level perfection.

Attendance Policy

Students who miss more than three of the fourteen scheduled classes will not receive course credit.

Three late arrivals (arriving within 30 minutes of the class start time) will be counted as one absence.

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Strategic Business Communication A		
担当者		MIYATA RINAKO		
2 単位	Year:2	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction to the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development and image care in order to achieve a strategic goal. During the Spring semester, a variety of topics related to business will be introduced to understand the basic methods of how organizations and individuals communicate to a targeted audience. Moreover, principles of interpersonal communication such as strategies for presentations, meetings, negotiations and conversations will be introduced.				
2. 授業内容 Week1. Introduction Week2. What is Strategic Communication and why is it important? The Nature of Communication Week3. Communicating in and beyond Organizations Week4. Communication in a Diverse Society Week5. Cultural Differences in International Business Week6. Cultural Awareness Week7. Strategic Case Week8. Listening strategies Week9. Verbal and Non-verbal Messages, Interpersonal Strategies Week10. Managing conflict Week11. Strategic Case Week12. Communicating in Teams Week13. Practice, Review Week14. a: Review b: Final Exam.				
3. 履修上の注意 Students need to meet the English requirement (TOEIC 730) for this course. 履修のための英語要件の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Positive attitude and preparation for discussions are required.				
5. 教科書 Communicating at Work, 12th edition , McGraw Hill				
6. 参考書 To be introduced in class.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Class Participation 30 % Homework, Papers, 30% Final Exam 40%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Strategic Business Communication B		
担当者		MIYATA RINAKO		
2 単位	Year:2	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction to the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development, and image care to achieve a strategic goal. During the Fall semester, topics related to business will be introduced to understand the basic methods of how organizations and individuals communicate with a targeted audience. Moreover, students will practice strategic communication skills.				
2. 授業内容 Week1 Introduction, Review of Spring Semester Week2 Communicating in Teams Week3 Effective Meetings Week3 Virtual Meetings Week4 Conducting Meetings Week5 Case Week6 Case Week7 Strategic Presentations Week8 Types of Presentations Week9 Functions of the Introduction, Functions of the Conclusion Week10 Informative Presentations Week11 Persuasive Presentations Week12 Research, Review Week13 Presentations Week14 Presentations				
3. 履修上の注意 Students need to meet the English requirement (TOEIC 730) for this course. 履修のための英語要件の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation for discussions and presentations are required.				
5. 教科書 Communicating at Work, 12th edition. McGraw-Hill.				
6. 参考書 To be announced in class.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Participation 30% Homework, Papers 30% Final Presentation 40%				
9. その他 Positive attitude preferred.				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Strategic Business Communication A		
担当者		LINDSKOOG, ALLEN		
2 単位	Year:2	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction to the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development and image care in order to achieve a strategic goal. During the Spring semester, you will be introduced to a variety of topics related to business. Students will understand the basic methods of how organizations communicate to a targeted audience in order to change/strengthen attitudes and behaviors. Students will also be exposed to the principles of interpersonal communication, such as how to persuade/convince the target through presentations, meetings, negotiations and day-to-day conversations from topics chosen that are related to business or industries. This will be achieved in a workshop-like environment in which you will create your own companies from start to finish.				
2. 授業内容 Week 1 : Introduction Week 2 : What is strategic communication (and why is it important)? Week 3 : Companies: Facts, How to do group presentations. Week 4 : Choosing a company. Research Week 5 : Contacts: Group presentations begin Week 6 : Products and Services: Describing a company’ s products and services. Group presentations continue Week 7 : Welcoming visitors: Company structures. Group presentations continue Week 8 : Customer service: Dealing with customers. Week 9 : Employment: Employment procedures, job interview. Week 10 : Presentation production: How to present (Style and content) Week 11 : Travel: Asking for directions, making reservations. Individual presentations begin Week 12 : Orders: Order processes, payments and terms. Individual presentations continue Week 13 : Individual presentations finish. Final exam review and preparation. Week 14 : Final exam.Semester review and Reflections (What did we learn?)				
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.				
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material provided.				
6. 参考書 Other references and resources will be provided as hand-outs during class along with access to our blog site which we will be using weekly.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 • Attendance and In-class participation 25% • (2) presentations - 50% • homework 25%				
9. その他 I will work hard to make this course as valuable as possible for you now and for your future. Classroom learning is You will need to work hard and participate in class and with your classmates. What do you need to do to be successful in this course a				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Strategic Business Communication B		
担当者		LINDSKOOG, ALLEN		
2 単位	Year:2	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 This course is a general introduction and continuation on the practice of Strategic Communication. Strategic Communication is the systematic planning and realization of information flow, communication, media development and image care in order to achieve a strategic goal. During the Fall semester, you will be introduced to a variety of topics related to business. Students will understand the basic methods of how organizations communicate to a targeted audience in order to change/strengthen attitudes and behaviors. Students will also be exposed to the principles of interpersonal communication, such as how to persuade/convince the target through presentations, meetings, negotiations and day-to-day conversations from topics chosen that are related to business or industries. This will be achieved in a workshop-like environment where you will form groups, decide upon a company idea and create the company from start to finish and presenting it to your classmates.				
2. 授業内容 Week 1 : Personal objectives and 2nd semester introductions Week 2 : Selling: Advertising, discussions and meetings Week 3 : Facilitating a meeting: Agenda, leading Q and A. (Make groups for meetings) Week 4 : Facilitating a meeting continued: What makes for an interesting meeting? Plan your group meeting. Week 5 : Environment: Corporate responsibility Week 6 : Entertaining: Hospitality, invitations and offers. First group meeting. Week 7 : Performance: Talking about performance. Group meetings continue. Week 8 : Performance continues: Fine tuning your individual presentations with style. Group meetings continue. Week 9 : Time: Managing your time. Group meetings continue and individual presentations begin. Week 10 : Training: Personal development and training. Final group meetings. Individual presentations continue. Week 11 : Training: Personal development and training continued. Giving advice, and feedback. Individual presentations continue. Week 12 : Email writing: How to write a formal email, introduction and practice. Individual presentations continue. Week 13 : Individual presentations. Week 14 : Semester review and Reflections (What did we learn?)				
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件の基準点（以下のいずれか）」を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (TOEIC 730, TOEFL ITP 500, TOEFLiBT 64, or IELTS 5.5) cannot take this course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 For this course you will need: 1. Be ready to participate in pair and group discussions. 2. Enthusiasm: take advantage of this chance to learn new skills and ideas. 3. Communication: share your ideas, questions, and opinions with the class. 4. Preparation: before each class you need to read and critically think about issues related to business.				
5. 教科書 No textbook will be used in the course. Online worksheets and reading material provided.				
6. 参考書 Other references and resources will be provided as hand-outs during class and access to our blog site which will be used weekly throughout the semester.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 ・ Attendance and In-class participation 25% ・ (2) presentations - 50% ・ homework 25%				
9. その他 You will need to work hard and participate in class and with your classmates. What do you need to do to be successful in this course and prepare for your future?				

- Attend all the classes and arrive on time.
- Prepare outside of class each week 1 - 2 ho

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN221J		
科目名		経済原論 A		
担当者		今井 拓		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
（授業概要） この授業では、 マルクス『資本論』（K. Marx, 1867, Das Kapital）の経済分析の方法と基本的な内容を解説するとともに、現代資本制社会の分析に有用な内容を補充していきます。特に、利潤率の低下法則について、前提条件が異なる為に、近代と現代においてまったく異なるメカニズムで不況が生じて来たこと、そこから、利潤率の回復の為に、近代末期においてはケインズ政策が、現代の 1970 年代以降においては、新自由主義政策とグローバリゼーションが展開されてきた事を明らかにします。また、ローンや不動産の証券化など、現代の銀行資本や不動産資本の利潤獲得の方法や矛盾についても解説します。さらに、バブル経済とその崩壊以降の日本経済の動向と日本の資本制社会の変質（グローバル化と金融資本化）について説明します。 （到達目標） 本講の到達目標は、資本主義の基本的なしくみや社会の構造を理解し、資本家の利潤追求の基本的な戦略とそれが引き起こす矛盾（労働者階級の状態悪化や格差社会の形成、繰り返される不況や利潤率の低下等）について説明できるようになること。また、産業資本、商業資本、銀行資本、不動産資本など異なる資本の役割や機能について理解し、バブル経済期以降の日本経済の動向と今日の日本の資本主義の変質（グローバル化と金融資本化）について説明できるようになることです。				
2. 授業内容				
第 1 講 a のみ：イントロダクション マルクス経済学の特徴・成果と現代的課題：本講の立場				
第 2 講 商品の使用価値と価値、価格―経済社会が豊かさを実現する基本的メカニズムを理解する―				
第 3 講 労働力商品とその基幹的矛盾―資本主義における労働者階級の状態、及び今日の格差社会発生の原因を理解する―				
第 4 講 資本による剰余価値生産―企業の利潤獲得メカニズムを理解し、資本制社会における階級的利害対立の原因を理解する―				
第 5 講 資本主義経済の発展（資本構成の高度化）と利潤率の低下―近代と現代の不況発生メカニズムの違いを理解する―				
第 6 講 a：資本の単純再生産と拡大再生産、b：資本の本源的蓄積―資本主義のグローバル化により生じていることを理解する―				
第 7 講 貨幣と為替相場―不換制への転換と変動相場制への移行の意義を理解する―				
第 8 講 産業資本と商業資本―資本回転数の上昇による利潤率の上昇にも触れて―				
第 9 講 銀行資本と証券資本―金融資本の機能と資本主義を変化させるその役割を理解する―				
第 10 講 土地商品と不動産資本―都市化のメカニズムとそれによる資本主義の変化を理解する―				
第 11 講 今日の日本の資本主義を理解するⅠ. バブル経済とその崩壊―株価・地価上昇の原因とその意味を中心に―				
第 12 講 今日の日本の資本主義を理解するⅡ. ミニバブルの発生と崩壊 ― ローン証券化・不動産証券化のしくみと機能を中心に―				
第 13 講 今日の日本の資本主義を理解するⅢ. アベノミクスバブルの発生と崩壊―アベノミクスの狙いと効果を中心に―				
第 14 講 今日の日本の資本主義を理解するⅣ. まとめ。バブル崩壊以降の資本主義の変容―グローバル化と金融資本化を中心に―				
3. 履修上の注意				
Power Point 資料を用い、講義形式で行います。授業は基礎的な内容から順々にすすめていきます。以前の内容が理解されていれば、その授業の内容は、決して難しく無い筈です。毎回の授業の内容について復習し、よく理解した上で、次の授業に臨むようにして下さい。疑問が残った場合、リアクションペーパーで質問するようにして下さい。次の授業の前には応答するようにします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
リアクションペーパー（①授業で大事だと思ったポイント、②①への貴方のコメント、③質問、疑問、意見、④要望、等）を毎回提出すること。				
5. 教科書				
いわゆる教科書は使用しない。毎回、レジュメと資料をクラスウェブ上に掲載するので、各自ダウンロード、印刷の上、持参して下さい。以下は、参考文献。				
谷田庄三・野田正雄・久留間健編（1992）『現代金融の制度と理論』大月書店				
カール・マルクス（1997）『資本論』新日本出版社				
久留間健（1999）『貨幣・信用論と現代―不換制の理論―』大月書店				
久留間健（2003）『資本主義は存続できるか―成長至上主義の破綻』大月書店				
区画整理・再開発対策全国連絡会議（2008）『都市再生―熱狂から暗				
6. 参考書				
小西一雄（2014）『資本主義の成熟と転換』桜井書店				
田上孝一（2018）『マルクス哲学入門』社会評論社				
小西一雄（2020）『資本主義の成熟と終焉』桜井書店				
Guglielmo Carchedi, 1991, Frontiers of Political Economy, Verso				
Guglielmo Carchedi, 2011, Behind the Crisis: Marx's Dialectics of Value and Knowledge, Haymarket Books				
Mi				

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業後，期限内にリアクションペーパーを提出して下さい。担当者のコメントを付し，受講生全体に共有します。

8. 成績評価の方法

期末試験 70 点と小テスト 30 点を総合して評価する

9. その他

本講では主流派経済学とは異なるマルクス経済学の特徴や優位性を重視して説明をします。受講生はマイクロ経済学など他の講義の内容と対比しつつ，資本制社会についての理解を深めていってください。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN221J	
科目名		経済原論 B	
担当者		今井 拓	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈講義の概要〉 この授業では、マルクスの経済理論をベースに、現代資本制社会の新しい特徴と課題について説明し、検討していきます。現代資本制社会は、近代末期の危機を克服して生じてきました。危機への第1の対応は、大不況をもたらしたマクロ経済の条件（有効需要不足）を克服することでした。それは、福祉資本主義の形成につながりました（授業の第1のテーマ）。そして、福祉資本主義の確立による豊かな社会の形成により、経済のサービス化が進展し、資本主義は、大きく変貌を遂げることになったのです。この変貌の根本には、モノ商品とサービス商品の性質の違いがあり、分析はここから始め、サービス産業資本や企業サービス資本および社会サービスの特徴へとすすめていく必要があります（授業の第2のテーマ）。一方、近代末期の資本主義の危機を克服するもうひとつの方向として、広告宣伝や研究開発により、価格の引き上げを実現し、独占利潤を獲得する戦略が追求されることになりました。そして、広告宣伝や研究開発の機能や役割、さらには、プラットフォーム資本主義を分析する為にも、情報・知識・文化の性質やそれらの商品化、及び、これらを活用して利潤を追求する資本の性質を明らかにすることが必要になります（授業の第3のテーマ）。最後に、有効需要の創出により、近代末期の危機を克服した現代資本主義は、1970 年代に標準利潤率の低下とスタグフレーションという危機に直面することになりました。この現代資本主義の危機への対応として追求されたのが、グローバリゼーションです。その結果、今日、資本主義は、根本的に変化し、グローバル資本主義となったと考えられます（授業の第4のテーマ）。これらを踏まえて、最後に、現代資本制社会の基幹的矛盾や課題、改革の基本方向について、考察します。 到達目標 本講の到達目標は、福祉化、サービス化、情報化・知識化、グローバル化による資本主義の変化について説明することができるようになること。そして、現代資本制社会の矛盾や特徴、また基幹的課題について考察することができるようになることです。			
2. 授業内容 第1講 a のみ：イントロダクション 近代資本主義の矛盾と福祉資本主義の確立——現代資本制社会の誕生—— 第2講 福祉資本主義の4つの世界——Esping-Andersen の福祉資本主義論とその発展—— 第3講 労働力商品の現代的変質——賃金の労働力商品の価値からの乖離・上昇と剰余価値の新しい概念—— 第4講 サービス労働論争——サービス労働は価値を生むか—— 第5講 サービス商品の価値論的特徴とサービス産業資本の範疇——サービスの商品化・資本化が生み出す新たな矛盾—— 第6講 サービス経済の3部門の発展と資本制社会の変容 第7講 a：前半のまとめ：独占資本主義の現代的構造と特徴 b：中間レポート試験課題提示 第8講 情報・知識・文化商品の価値論的特徴 第9講 情報・知識・文化資本の範疇——広告宣伝、ブランド化戦略と研究開発活動を中心に—— 第10講 プラットフォームキャピタリズムと知的独占・知的所有権 第11講 福祉資本主義改革の2大構想—社会投資型福祉国家論とベーシック・インカム論— 第12講 資本主義のグローバル化の歴史的発展と今日の特徴 第13講 現代資本制社会の基幹的矛盾——福祉資本主義と独占資本主義がもたらした成果と課題—— 第14講 a：後半のまとめ：現代資本主義改革の基本方向 b：期末レポート試験課題提示			
3. 履修上の注意 経済原論 A が履修済であることを前提とします。Power Point 資料を用い、講義形式で行います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 リアクションペーパー（①授業で大事だと思ったポイント、② ①への貴方のコメント、③ 質問、疑問、意見、④ 要望 等）を毎回提出して下さい。			
5. 教科書 いわゆる教科書は使用しません。レジュメ・資料を毎回、クラスウェブ上に掲載するので、各自ダウンロード、印刷して持参してください。以下は参考文献。 カール・マルクス（1997）『資本論』新日本出版社 Gosta Esping-Andersen, 1990, Three Worlds of Welfare Capitalism, PRINCETON UNIVERSITY PRESS William Robinson, 2004, A Theory of Global Capitalism: Producti			
6. 参考書 参考文献 続き 今井 拓（2007）「サービス商品の概念とサービス産業資本の範疇の規定の為に」『立教経済学研究』第61巻2号 今井 拓（2008）「サービス商品の価値論的特徴について」『経済理論』第45巻3号 今井 拓（2013）「医療・福祉の民営化・市場化の研究——社会ファンドの縮減による看護労働・介護労働の変質——」高崎健康福祉大学大学院健康福祉学研究科 博士号論文 今井 拓（2018）「労働力商品の価値論的分析——労働力価値の析出と剰余価値の新しい概念——」『政経研究』第111号 Eran			

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業後，一定期間内にリアクションペーパーを提出します。リアクションペーパーは，質問に対して応答する等，担当者のコメントを付し，受講生全体に共有します。

8. 成績評価の方法

期末試験 70 点と小テスト 30 点を総合して評価します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN316J	
科目名		ビジネス・エコノミクスA〔M〕	
担当者		三上 真寛	
2 単位	3 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) この授業は、営利・非営利を問わず経営実践に携わることになる経営学部生を対象として、現実の経済動向の理解や経営意思決定に資する経済学の知識を提供する。 Aは「ミクロ編」であり、ミクロ経済学の知識を応用して、現実の市場の構造と経済主体の行動を理解することを目標とする。授業では、市場の全体像を捉えるための理論的枠組みを確認した上で、市場構造と消費者・企業の行動様式をさまざまなグラフによって可視化しながら学んでいく。 (到達目標) (1) ミクロ経済行動の把握のために必要な、ミクロ経済学の概念と理論を正確に理解する。 (2) ミクロ経済学のモデルに基づいて、市場の構造および消費者・企業の行動様式を理解する。 (3) 消費者や企業について顕示されている情報を用いて、自らの力でミクロ経済行動を説明できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 市場のモデル化〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 需要と消費者行動（1）：1財モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 需要と消費者行動（2）：2財モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 供給と企業行動（1）：1財モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 供給と企業行動（2）：1財2要素モデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 中間まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 参入と退出〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 独占と独占的競争〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 寡占（数量競争）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 寡占（価格競争）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 価格戦略〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 製品戦略〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日（水曜日とする）の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 本科目の内容はミクロ経済学の応用であるため、学部必修科目「近代経済学A」の修得を前提とするが、必要な基礎知識についても適宜確認しながら進行する。 消費者や企業の行動様式を経済学の観点から理解したい者、ミクロ経済学の体系的な理解を深めたい者に履修を推奨する。科目の性質上、日本企業の個別具体的な事例の詳細に踏み込むものではないので注意されたい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ウェブ上の課題には必ず取り組み、各回の授業後は教科書や講義資料を十分に予習・復習して次の授業に臨むこと。経済学は体系性が要の学問であるので、修得するには知識や思考の積み上げが不可欠である。			
5. 教科書 『市場競争のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著（学文社）、2022 年。			
6. 参考書 『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020 年。 その他、「ミクロ経済学」、「ビジネス・エコノミクス」、「経営経済学」、「産業組織論」に関する文献を渉猟するとよい。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを活用して、適宜、ウェブ上の課題に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 ウェブ上の課題（40%）、期末のオンライン試験（60%）により評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 履修予定者は Oh-o!Meiji システムの「授業検索」から本科目を検索の上、「仮参加」登録をして、課題等を確認すること。			

三上演習の学生はこの授業科目を履修することを特に推奨する。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA)ECN316J	
科目名		ビジネス・エコノミクスB〔M〕	
担当者		三上 真寛	
2 単位	3 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) この授業は、営利・非営利を問わず経営実践に携わることになる経営学部生を対象として、現実の経済動向の理解や経営意思決定に資する経済学の知識を提供する。 Bは「マクロ編」であり、マクロ経済学の知識を応用して、現実の日本経済の動向を理解することを目標とする。授業では、マクロ経済の全体像を捉えるための理論的枠組みを確認した上で、日本経済の諸側面をさまざまな経済指標によって可視化しながら学んでいく。 (到達目標) (1) マクロ経済状況の把握のために必要な、マクロ経済学の概念と理論を正確に理解する。 (2) マクロ経済学のモデルに基づいて、現在の日本のマクロ経済状況およびマクロ経済政策を理解する。 (3) 政府等が提供している経済統計を用いて、自らの力でマクロ経済状況を説明できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第2回 経済活動の測定〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第3回 景気循環と景気動向〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第4回 消費と貯蓄の動向〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第5回 生産と投資の動向〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第6回 労働と雇用の動向〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第7回 中間まとめ〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第8回 日本政府と財政政策の行方〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第9回 日本銀行と金融政策の行方〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第10回 インフレ・デフレと物価の動向〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第11回 バブル経済と資産価格の動向〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第12回 国際収支と為替相場の動向〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第13回 経済成長と成長戦略の行方〔メディア授業(オンデマンド型)〕 第14回 まとめ〔メディア授業(オンデマンド型)〕			
3. 履修上の注意 この講義はメディア授業科目として開講され、授業はすべて、授業動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。授業動画は授業実施日(水曜日とする)の前日までに公開し、当該学期中の視聴を可能とする。なお、授業動画についてウェブ上での課題提出を求め、受講および理解度の確認を行う。また、クラスウェブを活用して履修者からの質問や意見を共有し、意見交換を促す。教員への質問・相談窓口のリンクをクラスウェブに掲載する。 本科目の内容はマクロ経済学の応用であるため、学部必修科目「近代経済学B」の修得を前提とするが、必要な基礎知識についても適宜確認しながら進行する。 日本経済の最新の状況について知る術を身につけたい者、マクロ経済学の体系的な理解を深めたい者に履修を推奨する。科目の性質上、日本経済の個別具体的な事象の詳細に踏み込むものではないので注意されたい。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ウェブ上の課題には必ず取り組み、各回の授業後は教科書や講義資料を十分に予習・復習して次の授業に臨むこと。経済学は体系性が必要な学問であるので、修得するには知識や思考の積み上げが不可欠である。			
5. 教科書 『景気把握のためのビジネス・エコノミクス』三上真寛著(学文社)、2022年。			
6. 参考書 『マクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著(学文社)、2020年。 その他、「マクロ経済学」、「日本経済論」、「経済政策論」、「経済指標」に関する文献を渉猟するとよい。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 クラスウェブを活用して、適宜、ウェブ上の課題に関するフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 ウェブ上の課題(40%)、期末のオンライン試験(60%)により評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			
9. その他 履修予定者は Oh-o!Meiji システムの「授業検索」から本科目を検索の上、「仮参加」登録をして、課題等を確認すること。 三上演習の学生はこの授業科目を履修することを特に推奨する。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN291E	
科目名		Japanese Economy	
担当者		NAGANO HIROSHI	
2 単位	Year:1	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) This course is aimed at providing opportunities to understand the characteristics of Japanese economy both in the short- and long-run. Based on publications issued by public organizations, a variety of topics will be discussed. Also, it will be hypothesized where Japanese economy goes from here. Historically, Japan has experienced various changes to affect the maturity of its socio-economic system such as Rapid Economic Growth, Bubble Economy, Lost Decades, and so on. Such changes would reveal relevant factors to create the real world both on demand and supply sides. Recently, new industries have emerged to revitalize Japanese economy; particularly, the development of Information and Communication Technology would open up a new frontier of the economy such as "Digital Economy". ICT also guided existing industries into a new direction with structural changes to overcome inefficiencies. Learning from the history of socio-economic system in Japan, and taking into account of newly emerged factors, such as "Cool Japan" and other local pop cultures, this course will be approaching toward the future of Japanese economy from different perspectives. (Objectives) There are three objectives being accomplished in this course, as below: (1) Understanding the framework of Japanese economy, (2) Finding the factual causation behind actual economic events, and (3) Hypothesizing the future of Japanese economy.			
2. 授業内容 (1) A Gentle Course Introduction: Current Situation of Japanese Economy (2) Overview I: Macroeconomic Profile (3) Overview II: Historical Economic Phenomenon (4) Wrap-up I (5) Macroeconomic Profile I: Demand Side (6) Macroeconomic Profile II: Supply Side (7) Wrap-up II (8) Historical Economic Phenomenon A: Rapid Economic Growth (1950s - 1970s) (9) Historical Economic Phenomenon B: Bubble Economy (1980s - 1990s) (10) Historical Economic Phenomenon C: Lost Decades (1990s - Today) (11) Wrap-up III (12) Outlook I: Industrial Change by Information and Communication Technology (13) Outlook II: Emergence of New Industry (14) Wrap-up IV			
3. 履修上の注意 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 600. Do not hesitate to ask further questions about the course requirements.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Check the scope of the next class and list up discussion issues. Look back and summarize important topics in previous class sessions, in order to prepare for the Final Assingment, which consists of Presentation and Essay. Students will need to actively brush up English capability for reading, speaking, and writing about Japanese economy and other related topics. Students will prepare, at least, one topic for each of the class sessions. It is highly recommended to write even a few sentences as a TIDBIT, a short essay, every single day. Keep on writing TIDBIT will be a big help for Final Assignment. A student will be on the right track, as far as he/she tries to find fun topics being shared with friends in the course.			
5. 教科書 None specified.			
6. 参考書 Reading materials such as white papers, research papers, statistical databooks, and others, will be read, in accordance with the discussion in each of the class sessions.			

7. 課題に対するフィードバックの方法

Basically, general comments on reaction papers will be published weekly on Oh-o! Meiji system.

8. 成績評価の方法

Contribution to the Course (30%); Presentation (30%); Final Essay (40%)

9. その他

Plagiarism will never be accepted in any cases.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN281J	
科目名		経済史 A	
担当者		新川 徳彦	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 現代の資本主義社会はどのように形成されてきたのでしょうか。世界経済は商業や流通を通じてどのように結びついてきたのでしょうか。なぜ世界には豊かな国と貧しい国があるのでしょうか。この講義では、現代経済の仕組みがどのように作り上げられてきたのか、またその原形はどのようなものであったのかについて、15 世紀から現代までの欧米の経済発展を手掛かりとして考えます。 現代社会が抱える諸問題を、歴史的な視点から考えることが出来るようになることが到達目標です。 経済史 A では、主にイギリス産業革命と先進工業国の歴史的展開を扱います。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクションーなぜ豊かな国と貧しい国があるのか 第 2 回：大いなる分岐ー豊かな国と貧しい国のルーツを辿る 第 3 回：西洋の勃興ー最初のグローバル化 第 4 回：ヨーロッパの海外進出 第 5 回：産業革命ーなぜイギリスで始まったのか 第 6 回：イギリス綿業 第 7 回：ヨーロッパにおける陶磁器 第 8 回：蒸気機関と鉄道 第 9 回：インフラストラクチャーの革新がもたらしたもの 第 10 回：工業化の標準モデル 第 11 回：イギリスと砂糖 第 12 回：インドの工業化の挫折 第 13 回：南北アメリカの格差ー北米の植民地経済 第 14 回：南北アメリカの格差ーラテンアメリカの植民地経済／まとめ			
3. 履修上の注意 経済史 B を継続して受講することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義内容を振り返り、不明な用語、事項は講義で指示する参考書や歴史用語辞典等で確認しておくこと。			
5. 教科書 指定しない。レジメを配布する。			
6. 参考書 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版、2012 年。 ロバート・C・アレン『世界史の中の産業革命』名古屋大学出版会、2017 年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義に関する質問と回答は次の回の授業で共有する。			
8. 成績評価の方法 小レポート：30%。 期末試験：70%。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN281J		
科目名		経済史 B		
担当者		新川 徳彦		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 現代の資本主義社会はどのように形成されてきたのでしょうか。世界経済は商業や流通を通じてどのように結びついてきたのでしょうか。なぜ世界には豊かな国と貧しい国があるのでしょうか。この講義では、現代経済の仕組みがどのように作り上げられてきたのか、またその原形はどのようなものであったのかについて、15 世紀から現代までの欧米の経済発展を手掛かりとして考えます。 現代社会が抱える諸問題を、歴史的な視点から考えることが出来るようになることが到達目標です。 経済史 B では、主に後発工業国の歴史的展開を扱います。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション／アメリカ合衆国の独立 第 2 回：ラテンアメリカの独立 第 3 回：アフリカーなぜ貧しいままなのか 第 4 回：歴史的視点から見た現代の貧困 第 5 回：茶の世界史 第 6 回：後発国と標準モデル―帝政ロシア 第 7 回：近代日本の経済発展（1） 第 8 回：近代日本の経済発展（2） 第 9 回：大量生産システムの発展 第 10 回：後発国と標準モデル―ラテンアメリカ 第 11 回：ビッグプッシュ型工業化―ソウイェトの経済発展 第 12 回：戦後日本の経済発展（1） 第 13 回：戦後日本の経済発展（2） 第 14 回：エピローグ／まとめ				
3. 履修上の注意 経済史 A を受講していることが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義内容を振り返り、不明な用語、事項は講義で指示する参考書や歴史用語辞典等で確認しておくこと。				
5. 教科書 指定しない。レジメを配布する。				
6. 参考書 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版、2012 年。 ロバート・C・アレン『世界史の中の産業革命』名古屋大学出版会、2017 年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義に関する質問と回答は次の回の授業で共有する。				
8. 成績評価の方法 小レポート：30%。 期末試験：70%。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN281J		
科目名		日本経済史 A		
担当者		大島 久幸		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 現代社会を取り巻く環境は不確実である。だからこそ変化に対する長期的視点からの因果関係に基づく分析が不可欠であるといえよう。日本経済史 A では、近代日本の経済の展開について歴史的に分析していく。具体的には、幕末の開港から明治末期にかけての日本資本主義経済システムの形成・確立過程を国際的な動向との関係も考慮しながら検討する。 （到達目標） 近代日本の経済の発展について、一応の見通しを得ることを目標とする。				
2. 授業内容 この授業は以下のような内容で進められる。 1 近代日本の経済発展（イントロダクション） 2 幕末開港 3 殖産興業政策 4 地租改正と秩禄処分 5 松方財政 6 産業革命 1 7 産業革命 2 8 産業発展とインフラストラクチャー 9 国際経済関係 10 産業化の光と影 11 財閥資本の形成 12 企業統治 13 専門経営者の登場 14 講義のまとめ				
3. 履修上の注意 昨年度は対面以外にオンラインも併用しましたが今年度の授業ではオンライン授業の実施は確約できませんのでご注意ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で紹介する参考文献を基礎に準備学習を進めること。				
5. 教科書 使用しない。配布レジュメを基礎に講義を行う。				
6. 参考書 武田晴人『日本経済史』有斐閣，2019 年 中西聡編『日本経済の歴史』名古屋大学出版会，2013 年 沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣，2016 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で適宜質問をお受けするとともに Oh-o Meiji 上でも質問できるようにする予定です。				
8. 成績評価の方法 毎回の授業の小テスト（50％）と期末の定期試験（50％）				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ECN281J		
科目名		日本経済史 B		
担当者		大島 久幸		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 現代社会を取り巻く環境は不確実である。だからこそ変化に対する長期的視点からの因果関係に基づく分析が不可欠であるといえよう。日本経済史 B では、欧米へのキャッチアップを目指した近代社会の形成の時期を終えて現代社会へと変容する時期を扱う。具体的には、第一次大戦期から第二次大戦後の高度経済成長期までの日本経済の推移を展望する。 （到達目標） 近代日本の経済の発展について、一応の見通しを得ることを目標とする。				
2. 授業内容 この授業は以下のような内容で進められる。 1 現代日本の経済発展（イントロダクション） 2 第一次大戦ブームと破綻 3 第一次大戦後の経済と社会 4 労働市場の構造と教育体系の整備 5 金融恐慌 6 昭和恐慌 7 1920 年から 30 年代の対外関係 8 高橋財政 9 戦時経済 10 戦後改革と占領政策 11 労使関係の変化と日本型雇用システムの成立 12 国際関係 13 高度経済成長 14 講義のまとめ				
3. 履修上の注意 日本経済史 A の内容を前提とすることが多いので注意すること。また昨年度は対面以外にオンラインも併用しましたが今年度の授業ではオンライン授業の実施は確約できませんのでご注意ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で紹介する参考文献を基礎に準備学習を進めること。				
5. 教科書 使用しない。配布レジュメを基礎に講義を行う。				
6. 参考書 武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019 年 中西聡編『日本経済の歴史』名古屋大学出版会、2013 年 沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で適宜質問をお受けするとともに Oh-o Meiji 上でも質問できるようにする予定です。				
8. 成績評価の方法 毎回の授業の小テスト（50%）と期末のオンライン試験もしくは定期試験（50%）				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN281J	
科目名		経営史 A	
担当者		宮田 憲一	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 経営史の研究は、経済史や経営学に加えて、経済学、社会学や政治学など社会科学の諸分野との関係を通じて学際的に発展しながら、企業者活動ないし企業の経営活動の変化、そして社会や経済発展におけるそれら役割について様々な視点から展開されている。そこでは、経営者や企業の主体的側面をより重視しながら、近現代社会に影響を与えた経営事象、企業行動の生成プロセスやメカニズムの分析を通じて、経営的側面から、私たちのいる現代社会についてより深い理解を与えてくれる。さらに、当時の生産技術と経済的可能性によって設定された経営環境において、企業家、経営者あるいはミドルマネジャー等の人々が直面する挑戦と機会への個々人の反応や意思決定を考えながら、「経営とは何か?」、「企業とは何か?」、「ビジネスとは何か?」を考える基礎を提供している。最近では、経済のグローバル化や IT などの技術革新による経営環境の大きな変化を背景にして、大企業の変化やベンチャー企業の台頭と、その基盤にある制度との関係が大きなテーマの一つとして注目されている。 本講義では、「ビジネス・システムの経営史」と題して、日本を含め各国の企業に影響を与えてきたアメリカ企業を中心に取り上げ、その 19 世紀から現在に至る経営活動の変化を理解していく。そして、ある時代の社会的・経済的な条件の下で、なぜその経営者はその意思決定を下したのかを考えながら、ビジネス・システムの変化の方向と企業経営の今日的課題を考察していく。経営史 A では、19 世から 20 世紀中頃までの現代的な企業システムの形成期・発展期を対象として、大企業の生み出した優位性だけでなく、それが社会や戦争に与えた影響を検討する。 (到達目標) ・現代ビジネス・システムの中核を担っている大企業の形成と発展のメカニズムについて理解した上で、社会における大企業の役割について自ら考察できるようになる。 ・経営学や経営管理論など他科目で学ぶ知識を活用して、特定の経営環境の中で企業家や経営者が独自のビジネスや意思決定にいたる因果関係を総合的に考える力を身につける。 ・専門科目である日本経営史、国際経営史、比較経営論（アメリカ）を履修する上での基礎知識を身につける。			
2. 授業内容 【イントロダクション】 第 01 回 a：現代企業とは何か?：経営史 A で学ぶこと（授業の進め方、評価方法など） 【モダン企業システムの基礎】 第 02 回：19 世紀ベンチャービジネス：ブラウンの総合貿易ビジネス、捕鯨業 第 03 回：企業家活動のスペシャリゼーション：チューダーの氷貿易、コットン取引 第 04 回：19 世紀の“ハイテク”ビジネス：紡織のスレイターとローウェル、小銃のコルト 【モダン企業の形成】 第 05 回：現代的経営の始まりと鉄道：最初のビッグビジネスと J・E・トムソン 第 06 回：大企業のフィクサーと金融ビジネスの発展：J・P・モルガンという存在 第 07 回：大企業の経済性の源泉：カーネギーとロックフェラー 【モダン企業の発展①：生産と組織】 第 08 回：大量生産という革命：フォードの工程革新 第 09 回：現代企業組織の完成：デュボンの経営管理イノベーション 第 10 回：マーケティングと市場細分化の誕生：GM とスローンの企業改革 【モダン企業の発展②：流通と組織】 第 11 回：大量販売という革命：A&P とシアーズ 第 12 回：ブランド・マネジメントの創出：P&G とマッケロイの組織再編 【モダン企業と社会】 第 13 回：非常事態と大企業のパワー：デュボンのネオブレン開発、クラウドスレイ 【春学期の総括】 第 14 回 a：モダン企業システムの成立と中小企業：チャンドラーモデルとスクラントン批判 b：アメリカの企業発展と経済政策：「最小の政府」から「大きな政府」へ ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更がある。			
3. 履修上の注意 ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・経営史 B を合わせて履修することを勧める。 ・また、経済史 A や自然科学思想史 B を履修することで、歴史的な背景知識を得ることができる。 ・本年度は、7 月下旬に国際学会参加のため出張する可能性がある。その場合は、一部講義内容や定期試験の実施方法に変更する。参加が決まった場合は、変更について適宜授業内で連絡する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（3 時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。			

□復習（2時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。 ・各回の講義で中心に議論された企業や経営者の行動の因果関係やビジネス・システムを図式化してまとめる。
5. 教科書 『ケースブック アメリカ経営史 新版』安部悦生ほか著（有斐閣）2020年。 ※テキスト第1-11章が学習範囲となる。
6. 参考書 〈和文献〉 『グラフィック経営史』佐々木聡編（新世社）2022年。 『入門アメリカ経済 Q&A100』坂出健ほか編（中央経済社）2019年。 『経営史』鈴木良隆ほか著（有斐閣）1987年。 『欲望を生み出す社会』スーザン・ストラッサー著（東洋経済新報社）2011年。 〈洋文献〉 American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs 著（Wiley Blackwell）, 2018. The Rise of B
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。
8. 成績評価の方法 授業内課題（20%），期末試験（80%）により評価する。
9. その他 □質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員 HP トップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることできる。 □本講義は、歴史的な内容を扱うが、大学受験での歴史科目のような暗記ではなく、企業経営の変化を経済や社会との関係を踏まえながら時間的な経過の中で考えていく。この講義を通じて、必修科目である「経営学 A・B」あるいは「経営総論」「経営学」で学ぶ様々な知識は、どのような背景の中で生み出されてきたのかを知ってもらうとともに、それら知

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN281J	
科目名		経営史 B	
担当者		宮田 憲一	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営史の研究は、経済史や経営学に加えて、経済学、社会学や政治学など社会科学の諸分野との関係を通じて学際的に発展しながら、企業者活動ないし企業の経営活動の変化、そして社会や経済発展におけるそれら役割について様々な視点から展開されている。そこでは、経営者や企業の主体的側面をより重視しながら、近現代社会に影響を与えた経営事象、企業行動の生成プロセスやメカニズムの分析を通じて、経営的側面から、私たちのいる現代社会についてより深い理解を与えてくれる。さらに、当時の生産技術と経済的可能性によって設定された経営環境において、企業家、経営者あるいはミドルマネジャー等の人々が直面する挑戦と機会への個々人の反応や意思決定を考えながら、「経営とは何か?」、「企業とは何か?」、「ビジネスとは何か?」を考える基礎を提供している。最近では、経済のグローバル化や IT などの技術革新による経営環境の大きな変化を背景にして、大企業の変化やベンチャー企業の台頭と、その基盤にある制度との関係が大きなテーマの一つとして注目されている。 本講義では、「ビジネス・システムの経営史」と題して、日本を含め多くの国の企業に影響を与えてきたアメリカ企業を中心に上げ、その 19 世紀から現在に至る変化を理解していく。そして、ある時代の社会的・経済的な条件の下で、なぜその経営者はその意思決定を下したのかを考えながら、ビジネス・システムの変化の方向と企業経営の今日的課題を考察していく。経営史 B では、第二次世界大戦後から現在までの現代企業システムの変容期を対象とし、大企業の浸透や変化だけでなく、技術や社会の変化とともに出現している企業経営の新たな展開を検討する。 〈到達目標〉 ・現代ビジネス・システムの中心的存在である産業企業の変容と新興企業の発展プロセスを理解した上で、今後の企業経営の動向を展望する洞察力を養うことを目標とする。 ・経営学や企業論など他科目で学ぶ知識を活用して、社会が求める企業の役割に対して企業家や経営者がとった行動や変化を、長期的な視点で位置付けながら考える力を身につける。 ・専門科目である日本経営史、国際経営史、比較経営論（アメリカ）を履修する上での基礎知識を身につける。			
2. 授業内容 【イントロダクション】 第 01 回 a：現代企業の新たな展開とは?：経営史 B で学ぶこと（授業の進め方、評価方法など） 【モダン企業システムの発展と歪み】 第 02 回：反トラスト政策と産業コングロマリットの興隆：LTV と WH（モダンの歪み） 第 03 回：フランチャイズ・システムの発展：コークとマック（モダンの発展） 【モダン企業システムの揺らぎ】 第 04 回：投資銀行の変貌：「ウォール街の帝王」と「ジャンク・ボンド王」（金融の揺らぎ） 第 05 回：事業の「選択と集中」と本社の改革：GE（組織の揺らぎ） 第 06 回：新しいイノベーション・マネジメントの試み：DEC（技術の揺らぎ） 第 07 回：量販店の成長と競争：ウォルマート（揺らぎへの適応） 【拡張するモダン企業】 第 08 回：水平分業と IT 企業：IBM とウィンテル 第 09 回：グローバルなアウトソーシング：シティバンクと Dell 第 10 回：規制緩和とメディア・コングロマリットの誕生：ニュース・コーポレーション 第 11 回：金融の肥大化と金融危機：リーマンブラザーズ 【ネオ・モダン企業の時代】 第 12 回：インターネット・ビジネスの成長：アマゾンと Google 第 13 回：プラットフォームビジネスの台頭：アップル 【秋学期の総括】 第 14 回 a：「モダン」から「ネオ・モダン」への変容と新たなビジネスの息吹：AI の発展 b：アメリカの企業発展と経済政策：「大きな政府」から「小さな政府」へ ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更がある。			
3. 履修上の注意 ・経営史 A の知識を前提に講義は進行するため、経営史 A を合わせて履修することを勧める。 ・初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・ゲスト講師による授業を 1 回程度予定している。 ・また、経済史 B を並行して履修することで、歴史的な背景知識を得ることができる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（3 時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。 □復習（2 時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。			

・各回の講義で中心に議論された企業や経営者の行動の因果関係やビジネス・システムを図式化してまとめる。

5. 教科書

『ケースブック アメリカ経営史 新版』安部悦生ほか著（有斐閣）2020 年。

※テキスト第 10 章および第 12-16 章が学習範囲となる。

6. 参考書

〈和文献〉

『グラフィック経営史』佐々木聡編（新世社）2022 年。

『プラットフォームビジネス』M・A・クスマノ他著（有斐閣）2020 年。

『現代アメリカ政治経済入門』川崎信樹ほか著（ミネルヴァ書房）2021 年。

〈洋文献〉

American Business since 1920, McCraw, Thomas and William Childs 著（Wiley Blackwell）, 2018.

Changing Fortunes, Nohria, Nitin et al. 著

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。

8. 成績評価の方法

授業内課題（20%）、期末試験（80%）により評価する。

9. その他

□質問等の面談希望者は、講義の終了後に直接相談するか、もしくは教員 HP トップページにある「Office hour reservation」からアポイントメントを取ることできる。

□本講義は、歴史的な内容を扱うが、大学受験での歴史科目のような暗記ではなく、企業経営の変化を経済や社会との関係を踏まえながら時間的な経過の中で考えていく。この講義を通じて、必修科目である「経営学 A・B」あるいは「経営総論」「経営学」などで学ぶ様々な知識は、実際の企業活動のなかでどのように関連し合っているのかを考えてもらう機

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN351J		
科目名		経営統計学 A		
担当者		鶴田 靖人		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 実データを用いた実証分析研究では、回帰分析を用いる研究は非常に多くみられる。経営統計学 A では、回帰分析の統計理論を学ぶことで、回帰分析の有効性と限界を理解した上で回帰分析を行えるようになることを目指す。また、因果関係の解明を目指した研究も近年多くあるため、相関関係と因果関係の違いを考察する。さらに、通常の回帰分析手法が適用困難な場合でも使用できるノンパラメトリック回帰を学ぶ。統計ソフト R を用いた実データ分析を行うことで、データの加工・分析方法を習得する。 ＜到達目標＞ 1. 回帰分析の有効性と限界を説明できる。 2. 相関関係と因果関係の違いを説明できる。 3. R を用いて回帰分析を適切に行うことができる。				
2. 授業内容 第 1 回 回帰分析の目的 第 2 回 統計の基礎知識 第 3 回 確率論の基礎（1）確率変数、独立性、期待値 第 4 回 確率論の基礎（2）中心極限定理、信頼区間、繰り返し期待値の法則 第 5 回 回帰分析の基礎（1）単回帰 第 6 回 回帰分析の基礎（2）重回帰 第 7 回 推測統計の基礎（1）平均値の検定 第 8 回 推測統計の基礎（2）回帰係数の推定 第 9 回 相関と因果関係（1）見かけの相関 第 10 回 相関と因果関係（2）ルービンの因果モデル 第 11 回 外生変数と内生変数（1）外生変数と内生変数 第 12 回 外生変数と内生変数（2）因果分析としての回帰分析 第 13 回 ノンパラメトリック回帰（1）理論 第 14 回 ノンパラメトリック回帰（2）演習				
3. 履修上の注意 毎回、R を用いてデータ分析を行うため、PC を持参すること。R のダウンロードについては適宜授業で指示する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、講義資料や教科書を読み直して分析手法の特徴や分析のポイントを確認し、分析結果を適切に解釈できるようにすること。				
5. 教科書 『R による実証分析 第 2 版』星野匡郎、田中久稔、北川梨津著（オーム社）				
6. 参考書 『計量経済学』西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮（有斐閣） 『実証分析のための計量経済学』山本勲（中央経済社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用してフィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 期末試験（50%）、課題（36%）、平常点（14%）				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN351J		
科目名		経営統計学B		
担当者		鶴田 靖人		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 回帰分析を応用した因果分析手法の理論と実例を学ぶことで因果分析の基礎的な知識を身に着けることを目指す。因果分析の中で代表的な手法としてランダム化実験が挙げられる。ランダム化実験は、無作為に処置群と対照群に割り当てて分析する手法であるため、単純で有用な手法である。しかし、社会学系の実証分析では、無作為割り当てが難しい場合も多くある。ランダム化実験が適用困難な場合にも有効となる因果分析手法をいくつか学ぶ。統計ソフト R を用いて因果分析に関する実データの演習を行う。 ＜到達目標＞ 1. それぞれの因果分析手法の有効性と限界を説明することができる。 2. それぞれの因果分析手法の特性を理解した上で適切に分析を行うことができる。				
2. 授業内容 第 1 回 因果分析の基礎 第 2 回 ランダム化実験（1）セレクションバイアスの除去 第 3 回 ランダム化実験（2）ランダム化実験の特徴と注意点 第 4 回 ランダム化実験（3）演習 第 5 回 マッチング法（1）理論 第 6 回 マッチング法（2）演習 第 7 回 不連続回帰デザイン（1）理論 線形回帰 第 8 回 不連続回帰デザイン（2）理論 局所回帰 第 9 回 不連続回帰デザイン（3）演習 第 10 回 操作変数法（1）理論 第 11 回 操作変数法（2）演習 第 12 回 パネルデータ分析（1）固定効果モデル 第 13 回 パネルデータ分析（2）差の差分析 第 14 回 最尤法と 2 値選択モデル				
3. 履修上の注意 毎回、R を用いてデータ分析を行うため、PC を持参すること。R のダウンロードについては適宜授業で指示する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、毎回、教科書の該当部分を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、分析手法の特徴、R による分析の実行方法や分析結果の解釈を説明できるように整理すること。				
5. 教科書 『R による実証分析 第 2 版』星野匡郎、田中久稔、北川梨津著（オーム社）				
6. 参考書 『計量経済学』西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮（有斐閣） 『実証分析のための計量経済学』山本勲（中央経済社） 『R による多変量解析入門』川端一光、岩間徳兼、鈴木雅之（オーム社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用してフィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 期末試験（50%）、課題（36%）、平常点（14%）				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN251J		
科目名		経営基礎数学 A		
担当者		高澤 陽太郎		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営上の意思決定問題を数理モデルとして扱うオペレーションズリサーチの基礎をケーススタディを通して学ぶ。経営数学 B と比較して、経営数学 A では数理最適化のモデリング部分を集中して学ぶ。 〈到達目標〉 さまざまな意思決定問題を最適化問題としてモデリングする力を習得することを目標とする。				
2. 授業内容 1. イントロダクション：数理最適化入門 2. モデリングと定式化 (1) 3. モデリングと定式化 (2) 4. シミュレーション 5. 都市・交通のデザインとネットワーク理論 (1) 6. 都市・交通のデザインとネットワーク理論 (2) 7. 計画、運用のためのモデルとサプライチェーン最適化 (1) 8. 計画、運用のためのモデルとサプライチェーン最適化 (2) 9. 予測・検証・発見のための最適化モデルとデータマイニング (1) 10. 予測・検証・発見のための最適化モデルとデータマイニング (2) 11. 不確実性下の意思決定とファイナンス理論 (1) 12. 不確実性下の意思決定とファイナンス理論 (2) 13. 最終発表準備 14. 最終発表				
3. 履修上の注意 数学 A・B を受講していることが望ましい。 Excel を利用するため、可能であれば Excel がインストールされているノート PC を講義室に持参していただきたい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。 また、最終発表時にはグループ同士の学生で議論して発表をまとめること。				
5. 教科書 『Excel で学ぶ OR』藤澤克樹・後藤順・安井雄一郎 （オーム社）				
6. 参考書 なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各課題の解答解説は次の回に行う。また、最終回に発表会を実施し、教員からフィードバックを直接行う。				
8. 成績評価の方法 小レポート 50%，演習・最終発表 50% 4 回以上の欠席は成績評価対象外になります。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN251J		
科目名		経営基礎数学 B		
担当者		高澤 陽太郎		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営上の意思決定問題を数理モデルとして扱うオペレーションズリサーチの基礎をケーススタディを通して学ぶ。経営数学 A と比較して、経営基礎数学 B では様々な数理モデルを学ぶ。 〈到達目標〉 サプライチェーンマネジメントの基礎を習得することを目標とする。				
2. 授業内容 1. イントロダクション 2. 需要予測 3. 需要が決定的な場合の在庫管理 4. 演習 5. 需要が決定的な場合の在庫管理 6. 演習 7. 動的計画法 8. 不確実な需要に対する在庫 + 発注ルールに関する演習 9. 発注ルールに関する演習 10. 不確実な需要に対する在庫の演習 11. 演習 12. 在庫費用がかからない場合の最適仕入れの方法 13. 需要が不確実な場合の最適仕入れの方法 14. まとめ				
3. 履修上の注意 数学 A・B を受講していることが望ましいが、必須ではない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習の必要はないが、復習として各回の演習課題に取り組むこと。 また、演習時にはグループ同士の学生で議論して発表をまとめること。				
5. 教科書 Snyder, Lawrence V., and Zuo-Jun Max Shen. Fundamentals of supply chain theory. John Wiley & Sons, 2019.				
6. 参考書 なし				
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表会を実施し、教員からフィードバックを直接行う。				
8. 成績評価の方法 小レポート 50%, 講義内の発表 50% 4 回以上の欠席者は成績評価対象外になります。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) SOC291J	
科目名		社会調査法	
担当者		下村 恭広	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) この授業では、社会調査の初歩について、特に社会学における知見に基づいて学びます。学校に通うとか食事をとるといった日々のふるまいから、就職するとか子どもを育てるといった人生の選択に至るまで、私たちの普段の生活は様々な意思決定と行為によってできています。これらは、一見すると個人的で些細なことに思えます。しかし自覚していないだけで、それらの行為は、その人が所属する集団や、その人をとりまく社会関係や制度のありかたに大きな影響を受けています。社会学はこのような人々の行為の社会的要因について明らかにしようと、社会の現実を成り立たせている因果関係を説明するための様々な手法を開発してきました。 まずは現代社会を理解するための問題の捉え方・論じ方の基本的な手順を踏まえたうえで、そこで求められる社会調査の技法について、具体的な研究事例を通じて学びます。最初に取り上げるのは現代日本社会における進学や中退です。こうした場面で、人々がどのように自分の道を選んでいくのか。これに関する研究や社会調査の結果を見てゆきながら、様々な調査手法やデータが存在し、研究目的に応じてそれらを使い分けていくことについて理解を深めます。同時に、社会調査が直面する固有の倫理的問題があることについても考えます。 (到達目標) (1) 社会科学の一般的な研究手順において、社会調査がどのような役割を果たしているか説明できるようになる。 (2) 社会調査の方法について整理し、それぞれの特徴について述べることができる。 (3) 社会調査を進める時に会える固有の倫理的問題について説明できるようになる。			
2. 授業内容 第1回 コースガイダンス：講義の進め方、取り扱うトピックの概要、成績評価の方法 第2回 社会問題とそこでの調査の実例：社会階層と教育 (1) 第3回 社会問題とそこでの調査の実例：社会階層と教育 (2) 第4回 社会問題とそこでの調査の実例：社会階層と教育 (3) 第5回 社会科学における説明 (1)：相関関係と因果関係 第6回 社会科学における説明 (2)：自然科学との違い 第7回 社会調査の技法とその種類：量的調査と質的調査 第8回 中間試験 第9回 アンケートの手法 (1)：その質問は何を測っているか 第10回 アンケートの手法 (2)：標本抽出 第11回 アンケートの手法 (3)：データ分析 第12回 インタビューの手法 (1)：問題の構造化としての調査 第13回 インタビューの手法 (2)：調査対象との関係づくり 第14回 何のために社会の現実を知るのか：社会調査の倫理			
3. 履修上の注意 (準備学習) 授業期間内に複数回、予習のための課題を課します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 指定した文献に関する論述問題を出します。			
5. 教科書 使用しません。			
6. 参考書 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 2016『質的社会調査の方法』有斐閣 高根正昭 1979『創造の方法学』講談社 森岡清志 2007『ガイドブック社会調査』第2版 日本評論社			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは0h-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 授業内課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%で評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN396J	
科目名		経営社会学〔M〕	
担当者		山下 充	
2 単位	3 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 この授業は現代社会における企業組織と働くことについて社会学の観点から考察します。学生時代に、将来の就職に全く不安を感じない人はあまりいないでしょう。大学に入学して間もなくインターンシップの機会があり、3年生になると本格的な就職活動がはじまります。アルバイトに多くの時間を費やす人も少なくありませんし、就職すれば人生の大半の時間が仕事で埋められてしまいます。 みなさんがアルバイトや就職後に経験することや悩みの多くは、純粋に個人的なものというよりも、資本主義のタイプ、雇用システムの構造、職場の相互行為のパターンなどに深く関わっています。この授業では、現代社会の労働場面について「社会学的想像力」を使って、みなさんが将来感じる職場の様々な問題を解き明かし、みなさん自身が職業生活を生きていく上で有用な指針を持てるようになることを目指します。 【到達目標】 この授業では、大きなテーマに即して、①基礎的なデータを通して概況を理解できること、②概念を理解し現象を的確に捉える事、③問題の所在を多面的に理解し、④エビデンスに依拠しながら自分の意見を構築できることを目指します。 本授業の大きなテーマは以下の通りです。【日本の雇用システム】(2～5回)、【職探しと社会的ネットワーク】(6～7回)、【産業の変化と雇用多様化】(8～9回)、【働き方とジェンダー・家族】(10～12回)、【社会の変化と働き方の未来】(13～14回)			
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——日本の雇用システム—— 第2回 産業社会を考察する社会学のアプローチとは？働くことの意味とは？ 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 昇進とトーナメントモデル 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 昇進と賃金。年功賃金は日本だけの特徴か？ 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 資本主義の多様性と昇進・賃金制度の変化 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——職探しと社会的ネットワーク—— 第6回 離職と失業の基本構造 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 失業者の意識、良い転職と社会的ネットワーク 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——産業の変化と雇用多様化—— 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 なぜ雇用多様化が拡大したか？産業社会の変化と対人サービスの特殊性。 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 雇用多様化と家族の関係 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——働き方とジェンダー・家族—— 第10回 ジェンダーと性別職域分離 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 性別役割分業の理論 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 女性の職業選択と男女平等の可能性 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——社会の変化と働き方の未来—— 第13回 人口減少と家族意識 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 これからの働き方 〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 経営社会学は毎週水曜日を授業日として、11:00 までに動画・授業資料をアップします。課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。なお課題について授業と無関係な一般的解答、生成 AI 作成のものは評価の対象外とします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh!-Meiji で配付予定の授業ノート・資料で必要な復習をおこなってください。			
5. 教科書 小川慎一・金野美奈子・山下充・山田信行著『「働くこと」を社会学する産業・労働社会学』有斐閣（2015）。大学で購入できない場合には、オンライン書店で各自購入するか、丸善の電子ブックサービスを利用して下さい（ https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/GuestLogin?1 ）のリンクをクリックして、明治大学の自分の ID でログインするとパソコンなどからオンラインで閲覧できます。詳細は第1回の授業ノートをご覧ください。			
6. 参考書 なお各テーマに応じた資料を随時紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			

8. 成績評価の方法

毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。

9. その他

課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN396J	
科目名		経営社会学〔M〕	
担当者		山下 充	
2 単位	3 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標			
【授業の概要】 この授業は現代社会における企業組織と働くことについて社会学の観点から考察します。学生時代に、将来の就職に全く不安を感じない人はあまりいないでしょう。大学に入学して間もなくインターンシップの機会があり、3年生になると本格的な就職活動がはじまります。アルバイトに多くの時間を費やす人も少なくありませんし、就職すれば人生の大半の時間が仕事で埋められてしまいます。 みなさんがアルバイトや就職後に経験することや悩みの多くは、純粋に個人的なものというよりも、資本主義のタイプ、雇用システムの構造、職場の相互行為のパターンなどに深く関わっています。この授業では、現代社会の労働場面について「社会学的想像力」を使って、みなさんが将来感じる職場の様々な問題を解き明かし、みなさん自身が職業生活を生きていく上で有用な指針を持てるようになることを目指します。			
【到達目標】 この授業では、大きなテーマに即して、①基礎的なデータを通して概況を理解できること、②概念を理解し現象を的確に捉える事、③問題の所在を多面的に理解し、④エビデンスに依拠しながら自分の意見を構築できることを目指します。 本授業の大きなテーマは以下の通りです。【日本の雇用システム】（2～5回）、【職探しと社会的ネットワーク】（6～7回）、【産業の変化と雇用多様化】（8～9回）、【働き方とジェンダー・家族】（10～12回）、【社会の変化と働き方の未来】（13～14回）			
2. 授業内容			
全回メディア授業（オンデマンド型）で実施 第1回 イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——日本の雇用システム—— 第2回 産業社会を考察する社会学のアプローチとは？働くことの意味とは？〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 昇進とトーナメントモデル〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 昇進と賃金。年功賃金は日本だけの特徴か？〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 資本主義の多様性と昇進・賃金制度の変化〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——職探しと社会的ネットワーク—— 第6回 離職と失業の基本構造〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 失業者の意識、良い転職と社会的ネットワーク〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——産業の変化と雇用多様化—— 第8回 なぜ雇用多様化が拡大したか？産業社会の変化と対人サービスの特殊性。〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 雇用多様化と家族の関係〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——働き方とジェンダー・家族—— 第10回 ジェンダーと性別職域分離〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 性別役割分業の理論〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 女性の職業選択と男女平等の可能性〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ——社会の変化と働き方の未来—— 第13回 人口減少と家族意識〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 これからの働き方〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意			
経営社会学は毎週水曜日を授業日として、11:00 までに動画・授業資料をアップします。課題提出は全てパソコンを使用して Oh!-Meiji を通じて提出していただきます。スマートフォンを使用すること、またブラウザの「戻るボタン」を使用することで、Oh!-Meiji への課題提出にエラーが生じる場合がありますが、公平性の観点から提出期限を過ぎた提出は一切認めておりません。毎回課題がありますので、評価の対象となる課題提出の方法を十分理解した上で履修するようにしてください。提出期限に余裕をもって提出するようお願いいたします。詳細は初回授業で示します。なお課題ついて授業と無関係な一般的解答、生成 AI 作成のものは評価の対象外とします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
この授業は、①授業ノート、②動画、③資料（毎回ではない）、の3つが提供されます。基本的にこの全てを活用することで学習が完結することになっています。最初に授業ノートを読んでから、動画を見ても良いですし、動画を見た後で、授業ノートと資料を読んでも OK です。授業を数回受ければ、自分のやり方が分かると思いますので、自分の方法で準備学習をおこなってください。			
5. 教科書			
小川慎一・金野美奈子・山下充・山田信行著『「働くこと」を社会学する産業・労働社会学』有斐閣（2015）。大学で購入できない場合には、オンライン書店で各自購入するか、丸善の電子ブックサービスを利用して下さい（ https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/GuestLogin?1 ）のリンクをクリックして、明治大学の自分の ID でログインするとパソコンなどからオンラインで閲覧できます。詳細は第1回の授業ノートをご覧ください。			
6. 参考書			
なお各テーマに応じた資料を随時紹介する。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

毎回2題程度出題する理解度確認テスト（1問2点で半期合計48点）と、毎回の授業内容に関する記述式課題（13回分を52点換算）としますので、この授業は定期試験はおこないません。

9. その他

課題に対する履修者の回答を、匿名で翌回の授業ノートに掲載することで、授業内容をさらに深めていきます。課題は毎回ありますが、取り組みやすさを重視し、内容理解を促進できるものとします。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN236J	
科目名		経営心理学〔M〕	
担当者		中西 晶	
2 単位	2 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 経営心理学は、経営学と心理学の学際的な結合により、『経営における人間心理』をテーマに理解を深めるものである。経営と関連する分野としては、経営管理論、経営組織論、組織行動論、人的資源管理論、マーケティング論、消費者行動論など多岐にわたる。本講義は、経営学部生として幅広い専門知識を身につけるとともに、企業とは何か、経営とは何かについてのアウトラインを理解することを目的とした講義とする。できるだけ身近な事例なども交えながら授業を進める。 (到達目標) 従業員や管理者、消費者など経営に関連する人間心理のメカニズムや諸現象についての知識を獲得するとともに、学生生活における身近な活動とのつながりを認識し、獲得した知識を活用していくことを目的とする。			
2. 授業内容 以下のような内容を予定している。 授業の進行状況や時事的な話題の提供等で若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 第1回：産業社会と人間心理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：働く人のモチベーション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：リーダーシップ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：チームマネジメント〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：ストレスとメンタルヘルス〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：安全とセキュリティ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：意思決定とその問題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：組織文化と組織社会化〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：学習と人材育成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：キャリア開発と人事管理〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：コンフリクトと交渉〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：流行と消費者行動〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：ステークホルダーとの信頼形成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施する予定なので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日に Oh-o!Meiji にアップする。 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 心理学や社会学、経営社会学等もあわせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要としないが、日常生活において常に問題意識を持ち、情報を探索・収集して、自分なりの考えをまとめていく姿勢が求められる。			
5. 教科書 中西晶著、『マネジメントの心理学【第2版】』，日科技連出版社，2014 年			
6. 参考書 授業内で適宜指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報を削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-o!Meiji のアンケート機能を使用予定）各回 5 点×13 回＝65 点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-o!Meiji の小テスト機能を使用予定）35 点 合計 100 点満点で評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN331J	
科目名		産業生理学 A	
担当者		一之瀬 真志	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 現代社会では、産業と個人の生活・健康は密接に関係しています。自分の体についての知識を身につけるとともに、労働環境や各種の作業による身体的・精神的ストレスが体の機能にどのような影響を及ぼすかを知ることが健康で充実した人生をおくるために非常に重要です。産業生理学 A では、労働者の健康と深く関係する、循環器の生理と疾患、たばこの害、アルコールの功罪、体温調節のしくみと熱中症予防について解説します。さらに、国や企業が各種の問題に対してどのような取り組みを行っているかを紹介します。 （到達目標） 本講座の目的は、健康の維持・増進に必要な生理学的基礎知識を身につけること、また、産業に関連した環境要因・身体活動・精神ストレスなどが生理機能に及ぼす影響を理解することです。			
2. 授業内容 第 1 回 a のみ：イントロダクション 第 2 回 循環器の生理と疾患 1（血圧の調節，高血圧） 第 3 回 循環器の生理と疾患 2（高血圧の原因，高血圧の予防・改善） 第 4 回 循環器の生理と疾患 3（血管の働き，動脈硬化）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 5 回 循環器の生理と疾患 4（心臓の構造と機能） 第 6 回 循環器の生理と疾患 5（虚血性心疾患とその予防）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 7 回 循環器の生理と疾患 6（脳卒中とその後遺症，脳卒中の予防）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 8 回 循環器の生理と疾患 7（腎臓の働き，慢性腎臓病の予防）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 9 回 たばこの害 1（喫煙の状況，喫煙の害，受動喫煙の害） 第 10 回 たばこの害 2（禁煙の必要性，ニコチンの依存性と禁煙）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 11 回 アルコールと健康（飲酒と健康，アルコールの代謝，二日酔い） 第 12 回 体温調節のしくみ（代謝性熱産生，身体と環境間の熱移動）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 13 回 職場での熱中症予防と対策 1（熱中症発生の現状，熱中症のしくみ） 第 14 回 職場での熱中症予防と対策 2（熱中症予防，暑熱順化，応急処置）			
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが，解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 産業生理学 A と B は独立した内容で構成していますが，産業生理学 A を履修した後に B を履修することでより理解が深まります。A，B の順番で履修することを推奨します。 一部の授業回においてメディア授業を行います（授業内容欄参照）。講義動画は原則毎週火曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し，授業動画は配信開始後 2 週間視聴を可能とします。なお，毎回の講義動画に対して，小テストの実施やリアクションペーパーの提出を求め，出席確認及び理解度確認を行います。また，Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し，意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として，Oh-o! Meiji クラスウェブの教員とのメッセージ機能を使用します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第 1 回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので，各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし，不明な点があれば授業で質問してください。			
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。			
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他，南江堂）， 新訂 目でみるからだのメカニズム（境 章，医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他，医学書院） カラー図解人体の正常構造と機能〔全 10 巻縮刷版〕（坂井建雄・河原克雅，日本医事新報社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には，課題提出締め切り後に Oh!-Meiji を通じて解説を配信します。			
8. 成績評価の方法 平常点（20％：リアクションペーパーと小テストを含む）と期末試験（80％）により評価します。 ※期末試験は対面形式で実施します。			
9. その他 本講義では，ストレス社会に生きる現代人に必要な健康管理に関する基礎知識を分かりやすく解説します。この講義を通して，現代社会における産業と健康の関連性を理解し，健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN331J		
科目名		産業生理学B		
担当者		一之瀬 真志		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 現代社会では、産業と個人の生活・健康は密接に関係しています。自分の体についての知識を身につけるとともに、労働環境や各種の作業による身体的・精神的ストレスが体の機能にどのような影響を及ぼすかを知ることが健康で充実した人生をおくるために非常に重要です。産業生理学Bでは、労働者の健康と深く関係する、代謝の生理、肥満と肥満症、糖尿病、メタボリックシンドローム、生活習慣病予防のための身体活動、精神疾患について解説します。さらに、国や企業が各種の問題に対してどのような取り組みを行っているかを紹介します。 〈到達目標〉 本講座の目的は、健康の維持・増進に必要な生理学的基礎知識を身につけること、また、産業に関連した環境要因・身体活動・精神ストレスなどが生理機能に及ぼす影響を理解することです。				
2. 授業内容 第1回 aのみ：イントロダクション 第2回 代謝の生理と疾患1（食物のエネルギー、エネルギー供給系） 第3回 代謝の生理と疾患2（基礎代謝、推定エネルギー必要量）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 肥満・肥満症1（肥満の現状、肥満の判定、BMI、隠れ肥満） 第5回 肥満・肥満症2（肥満症の定義、内臓脂肪型肥満、食事療法）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 肥満・肥満症3（肥満症の運動療法、運動処方） 第7回 肥満・肥満症4（肥満症の行動療法、食行動質問表、グラフ化体重日記）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 糖尿病1（インスリン、糖尿病の現状、合併症、2型糖尿病）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 糖尿病2（2型糖尿病の環境要因） 第10回 糖尿病3（2型糖尿病の遺伝要因、糖尿病の検査法、妊娠糖尿病） 第11回 メタボリックシンドローム（診断基準、現状、予防法）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 生活習慣病予防のための身体活動（健康と身体活動、身体活動量の目標値、健康維持に必要な体力） 第13回 こころの健康1（こころの健康の現状、過労自殺、職場のメンタルヘルス）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 こころの健康2（うつ病の基礎知識、ストレスマネジメント）				
3. 履修上の注意 内容については基本的な事項から説明しますが、解剖学や化学などの専門用語も含まれます。 産業生理学AとBは独立した内容で構成していますが、産業生理学Aを履修した後にBを履修することでより理解が深まります。A、Bの順番で履修することを推奨します。 一部の授業回においてメディア授業を行います（授業内容欄参照）。講義動画は原則毎週火曜日に0h-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は配信開始後2週間視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画に対して、小テストの実施やリアクションペーパーの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、0h-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、0h-o! Meiji クラスウェブの教員とのメッセージ機能を使用します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。				
5. 教科書 教科書は特に定めません。授業中に資料を配布します。				
6. 参考書 シンプル生理学（貴邑富久子 他、南江堂）、 新訂 目でみるからだのメカニズム（境 章、医学書院） 標準生理学（本郷利憲 他、医学書院） カラー図解人体の正常構造と機能[全10巻縮刷版]（坂井建雄・河原克雅、日本医事新報社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後に0h!-Meijiを通じて解説を配信します。				
8. 成績評価の方法 平常点（20％：リアクションペーパーと小テストを含む）と期末試験（80％）により評価します。 ※期末試験は対面形式で実施します。				
9. その他 本講義では、ストレス社会に生きる現代人に必要な健康管理に関する基礎知識を分かりやすく解説します。この講義を通して、現代社会における産業と健康の関連性を理解し、健やかに生きるための知識を獲得してもらいたいと思います。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391J	
科目名		経営と環境 A	
担当者		松野 裕	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ・環境問題と経済社会・企業活動の関係を水俣病，大気汚染問題，廃棄物問題，気候変動問題などの具体的な問題に即して検討する。 〈到達目標〉 ・環境問題と経済との関係に関する基本的な知識と考え方の獲得を目標とする。			
2. 授業内容 第1講 環境と経済社会・企業活動の基本的な関係 第2講 環境問題の歴史（日本，世界） 第3～4講 水俣病 第5～6講 大気汚染問題 第7～8講 廃棄物問題・循環型社会 第9～11講 気候変動問題 第12～13講 エネルギー問題 第14講 まとめ			
3. 履修上の注意 ・経営と環境 B と共に履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・環境問題に関する書籍や新聞・雑誌の記事を積極的に読むことが望ましい。			
5. 教科書 ・特定の教科書は用いず，プリントを配布して授業を行う。			
6. 参考書 『環境経済・政策学の基礎知識』，有斐閣，環境経済・政策学会編 『環境経済学』，岩波書店，植田和弘著 『環境社会学』，岩波書店，飯島伸子編			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・授業でコメントする。			
8. 成績評価の方法 ・成績は、出席点（14 点）とレポート点（42 点）、期末試験点（44 点）の合計により評価する。 ・出席点は授業で質問用紙に質問を記入することで授業 1 回につき 1 点が与えられる（大幅な遅刻は 0.5 点）。ただし、就職活動（インターンを含む）や体育会の試合、病気や怪我など、やむを得ない理由で欠席する場合、それを証明する書類を写真に撮るなどして提出すれば不利にならぬように配慮する（クラスウェブを通じてファイルで提出すること。）。授業動画は対面授業終了後に履修者全員に対し公開され、欠席者も見ることができる。 ・レポート点は各授業のレポートを授業日の翌週水曜午後 11 時まで提出した場合、1 回につき 3 点が与えられる。昨期まで認めていた期限以降の提出は認めない。 ・レポートはワード等で作成したものを、クラスウェブを通じてファイルで提出すること。jpeg 等の画像ファイルは不可。 ・レポートは、授業の内容に対する感想・意見・考察を 300 字以上、書くこと。要約のみとみなされるものは不可。 ・レポートの字数を学生本人が数え、レポートに記入すること。 ・レポートは自分の経験と関係づけたものがより良いものと言える。 ・この授業を含む明治大学経営学部の授業で、生成 AI を用いてレポートを作成することは不正行為にあたる。これに対しては、今学期履修全科目 F 評価プラス停学処分、といった処分がなされる。絶対に行ってはならない。AI に、配布資料を要約させる、レポートの下書きを書かせる、授業の感想・意見・考察等を書かせる、といったことも不正行為とみなす。レポートは長期にわたり保存される。 レポート・論文の盗用等不正行為への注意 https://www.meiji.ac.jp/keiei/6t5h7p00000ivup3-att/6t5h7p00000ivviz.pdf			
9. その他 ・不明な点は、 yu.matsuno@gmail.com に問い合わせられたい。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391J	
科目名		経営と環境 B	
担当者		松野 裕	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 ・企業・経済活動が直面する環境政策をその目標と手段という枠組みでとらえ、その理論と現実を検討する。経営と環境 A と比較すると、こちらの B の方が、理論面に重点をおいた授業である。 〈到達目標〉 ・企業・経済活動が直面する環境政策に関する基本的知識と考え方の獲得を目標とする。			
2. 授業内容 第1講 環境問題と経済社会の関係 第2～3講 環境政策の目標の理論 最適汚染 第4講 環境政策の目標の現実1 人の健康に直接関わる目標 第5講 環境政策の目標の現実2 人の健康に直接関わらない目標 第6講 環境の貨幣評価 第7講 環境政策手段 導入 第8講 環境政策手段 直接規制の理論と実際 第9～10講 環境政策手段 経済的手段の理論と実際（税、排出権取引、補助的措置） 第11～12講 環境政策手段 情報提供手段の理論と実際 第13講 環境政策手段 自発的アプローチの理論と実際 第14講 環境規制と企業活動の相互依存関係			
3. 履修上の注意 ・経営と環境 A と共に履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・環境問題に関する書籍や新聞・雑誌の記事を積極的に読むことが望ましい。			
5. 教科書 特定の教科書は用いず、プリントを配布して授業を行う。			
6. 参考書 『環境経済・政策学の基礎知識』、有斐閣、環境経済・政策学会編 『環境経済学』、岩波書店、植田和弘著 『環境社会学』、岩波書店、飯島伸子編			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-ro!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 ・成績は、出席点（14 点）とレポート点（42 点）、期末試験点（44 点）の合計により評価する。 ・出席点は授業で質問用紙に質問を記入することで授業 1 回につき 1 点が与えられる（大幅な遅刻は 0.5 点）。ただし、就職活動（インターンを含む）や体育会の試合、病気や怪我など、やむを得ない理由で欠席する場合、それを証明する書類を写真に撮るなどして提出すれば不利にならぬように配慮する（クラスウェブを通じてファイルで提出すること。）。授業動画は対面授業終了後に履修者全員に対し公開され、欠席者も見ることができる。 ・レポート点は各授業のレポートを授業日の翌週水曜午後 11 時まで提出した場合、1 回につき 3 点が与えられる。昨期まで認めていた期限以降の提出は認めない。 ・レポートはワード等で作成したものを、クラスウェブを通じてファイルで提出すること。jpeg 等の画像ファイルは不可。 ・レポートは、授業の内容に対する感想・意見・考察を 300 字以上、書くこと。要約のみとみなされるものは不可。 ・レポートの字数を学生本人が数え、レポートに記入すること。 ・レポートは自分の経験と関係づけたものがより良いものと言える。 ・この授業を含む明治大学経営学部の授業で、生成 AI を用いてレポートを作成することは不正行為にあたる。これに対しては、今学期履修全科目 F 評価プラス停学処分、といった処分がなされる。絶対に行ってはならない。AI に、配布資料を要約させる、レポートの下書きを書かせる、授業の感想・意見・考察等を書かせる、といったことも不正行為とみなす。レポートは長期にわたり保存される。 レポート・論文の盗用等不正行為への注意 https://www.meiji.ac.jp/keiei/6t5h7p00000ivup3-att/6t5h7p00000ivviz.pdf			

9. その他

- ・ 不明な点は,
yu.matsuno@gmail.com
に問い合わせられたい。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		企業の社会的責任論	
担当者		生田 孝史	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ この授業では、企業の社会的責任（CSR）に関する基本的な知識を学習する。企業にとって、社会との良好な関係構築は不可欠であり、財務面のパフォーマンスだけではなく、環境・社会問題などのサステナビリティ課題に配慮した経営の実践が重要となっていることについて、総合的な理解を促す。特に、ステークホルダー（利害関係者）と企業との関係を主軸に、リスク管理やビジネス開発、社会インパクト、企業価値評価の考え方について詳しく学習する。さらに、グローバルなビジネス展開の視点から、ESG 投資や SDGs への対応や、様々な最近の事例を取り上げ、ディスカッションを通じて、CSR 経営のあり方への理解を深める。 ＜到達目標＞ 授業を通して、①企業と社会の持続的な関係について、環境・経済・社会の側面から把握できること、②企業と社会の持続的な関係を、ステークホルダーの立場や地域の違いを考慮して理解できること、③企業が CSR 経営を実施・評価するために必要な考え方やツール・分析手法を習得することを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 CSR の基本的考え方 第3回 課題研究：サステナビリティ報告 第4回 CSR 経営戦略の策定 第5回 CSR の内部管理 第6回 ESG 投資と情報開示 第7回 ステークホルダーとのコミュニケーション・エンゲージメント 第8回 ロールプレイング：ステークホルダーマネージメント 第9回 サステナブルサプライチェーン管理 第10回 社会貢献活動 第11回 サステナブルビジネス開発 第12回 社会インパクトと企業価値 第13回 グループワーク：グローバルビジネス 第14回 プレゼンテーション、まとめと発展的議論			
3. 履修上の注意 授業中の演習やグループワークのために PC を持参することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各授業前に、講義資料に目を通しておくこと。			
5. 教科書 教科書は用いない。講義資料を事前共有する。			
6. 参考書 なし。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じてフィードバックを行なう。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（30%）、レポート3回（70%）			
9. その他 履修希望者は第1回授業に出席すること。			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA)CMM212J		
科目名		マーケティング基礎論		
担当者		唐澤 龍也		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 本講義はマーケティングの基本概念、歴史的な発展プロセスを理解し、社会における役割について学ぶことを目的としている。特に、デジタル化とグローバル化の影響に関しては視聴覚教材を活用し紹介する。基本的なマーケティングの概念から具体的な戦略や課題に至るまで、具体的な事例を取り上げてわかりやすい内容を提供する。 （到達目標） 期待される学習成果（ELOs）として、本講義の受講後には、マーケティングに関する主要な理論を理解し、議論ができるようになることを目標としている。将来、多様なビジネス環境に対応できる人材になるために、マーケティングを学ぶことを通して社会システムに対する視座を得ることを目指す。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション（マーケティングとは） 本講義の全体構成、成績評価の方法についてガイダンスを行う。 マーケティングが社会的・経済的効果を生み出す存在であること、またマーケティングにおけるデジタル化やグローバル化を通してそのように社会が変化するかを説明する。 第2回 マーケティングとは何か ・マーケティングの定義と基本概念 ・マーケットとは何か ・マーケティングの役割と重要性 ・マーケティングリサーチの基本 第3回 マーケティング戦略（STP） ・市場の細分化（セグメンテーション） ・対象市場の設定（ターゲティング） ・競合との差別化（ポジショニング） 第4回 マーケティングミックス（4Ps）その1 ・製品戦略（プロダクト）・プロダクトライフサイクル ・価格戦略（プライス） 第5回 マーケティングミックス（4Ps）その2 ・流通戦略（プレイス） ・販売促進・広告戦略（プロモーション） 第6回 ブランドマネジメント ・ブランドの重要性と構築 ・ブランドエクイティ（資産としてのブランド） ・ブランド価値 第7回 マーケティングとデザイン ・デザインの重要性 ・顧客価値とデザイン ・事例（星のやリゾート・アマンリゾート） 第8回 国際マーケティング ・国際マーケティングの定義と基本概念 ・CAGE フレームワーク ・事例 インドネシアのフマキラー（殺虫剤） 第9回 グローバル・マーケティング ・グローバル・マーケティングの定義と基本概念 ・グローバルビジネス環境 ・事例 ネスレ 第10回 サービスマーケティング ・サービスの特徴とマーケティング戦略 ・サービス品質・サービスドミナントロジック ・顧客との価値共創（Co Value Creation） ・事例 スノーピーク（アウトドアブランド） 第11回 マーケティング倫理と社会的責任 ・倫理的なマーケティング行動（ESG） ・持続可能なマーケティング（SDGs） ・ステークホルダーとの関係構築				

・事例：Whole Foods Market（米国） 第12回 マーケティングにおける多様性（ダイバーシティ） ・ジェンダーに関するマーケティング ・マイノリティ（LGBTQ）への対応 ・事例 IKEA・パンテーン・Dove 他 第13回 デジタルマーケティング ・オンライン広告とソーシャルメディア ・シェアリング・エコノミー データドリブン・マーケティング 事例：Uber・Airbnb・トライアル（流通） 第14回 新しいマーケティングの潮流（まとめ） ・第4次産業革命（Industrial Revolution 4.0） ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・新しい見方・価値の再定義（本講義の総括）
3. 履修上の注意 (1) 授業開始後 10 分以上の遅刻者は入室を遠慮してもらう （正当な理由や交通機関の遅延証明書などがある場合は除く） (2) 授業中の私語は周囲の迷惑になるため厳禁とする (3) 質問、要望、教員への連絡事項があれば、講義後またはメールにて対応する
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては各回のテーマについて事前に調べ、質問や意見などを準備しておく。 テキスト『国際マーケティングの補助線』の該当する部分を一読しておいて欲しい。 復習に関しては配布資料の内容について理解しておくことが望ましい。 レジュメの該当箇所を振り返り、不明な点があれば質問をして欲しい。
5. 教科書 『国際マーケティングの補助線』唐沢龍也著 各回の講義レジュメは Oh-Meiji 経由で PDF を配布する。
6. 参考書 古川裕康著（2021）『グローバル・マーケティング論』文眞堂。 大石芳裕編著（2015）『マーケティング零』白桃書房。 大石芳裕編著（2017）『グローバル・マーケティング零』白桃書房。
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題（リアクションペーパー（5 回 x10 点を実施予定）・期末レポート）の提出 リアクションペーパーフィードバックは Oh-Meiji のレポート機能を使用する。 提出後（授業日から一定期間を設定）から翌週の授業までに採点・コメントをフィードバックする。
8. 成績評価の方法 本講義は以下の(1)・(2)を総合的に評価する。 授業への参加度および理解度を示すリアクション・ペーパー50%、期末レポート 50% (1)リアクション・ペーパー（5 回程度実施する予定） Oh-Meiji を使ってリアクション・ペーパーを提出する。 翌週の授業までに各個人へフィードバック（採点・10 点満点）する。 (2)期末レポート 課題の詳細については授業内（12 回以降）に案内する。
9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA)CMM212J		
科目名		マーケティング基礎論		
担当者		唐澤 龍也		
2 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 本講義はマーケティングの基本概念、歴史的な発展プロセスを理解し、社会における役割について学ぶことを目的としている。特に、デジタル化とグローバル化の影響に関しては視聴覚教材を活用し紹介する。基本的なマーケティングの概念から具体的な戦略や課題に至るまで、具体的な事例を取り上げてわかりやすい内容を提供する。 （到達目標） 期待される学習成果（ELOs）として、本講義の受講後には、マーケティングに関する主要な理論を理解し、議論ができるようになることを目標としている。将来、多様なビジネス環境に対応できる人材になるために、マーケティングを学ぶことを通して社会システムに対する視座を得ることを目指す。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション（マーケティングとは） 本講義の全体構成、成績評価の方法についてガイダンスを行う。 マーケティングが社会的・経済的効果を生み出す存在であること、またマーケティングにおけるデジタル化やグローバル化を通してそのように社会が変化するかを説明する。 第2回 マーケティングとは何か ・マーケティングの定義と基本概念 ・マーケットとは何か ・マーケティングの役割と重要性 ・マーケティングリサーチの基本 第3回 マーケティング戦略（STP） ・市場の細分化（セグメンテーション） ・対象市場の設定（ターゲティング） ・競合との差別化（ポジショニング） 第4回 マーケティングミックス（4Ps）その1 ・製品戦略（プロダクト）・プロダクトライフサイクル ・価格戦略（プライス） 第5回 マーケティングミックス（4Ps）その2 ・流通戦略（プレイス） ・販売促進・広告戦略（プロモーション） 第6回 ブランドマネジメント ・ブランドの重要性と構築 ・ブランドエクイティ（資産としてのブランド） ・ブランド価値 第7回 マーケティングとデザイン ・デザインの重要性 ・顧客価値とデザイン ・事例（星のやリゾート・アマンリゾート） 第8回 国際マーケティング ・国際マーケティングの定義と基本概念 ・CAGE フレームワーク ・事例 インドネシアのフマキラー（殺虫剤） 第9回 グローバル・マーケティング ・グローバル・マーケティングの定義と基本概念 ・グローバルビジネス環境 ・事例 ネスレ 第10回 サービスマーケティング ・サービスの特徴とマーケティング戦略 ・サービス品質・サービスドミナントロジック ・顧客との価値共創（Co Value Creation） ・事例 スノーピーク（アウトドアブランド） 第11回 マーケティング倫理と社会的責任 ・倫理的なマーケティング行動（ESG） ・持続可能なマーケティング（SDGs） ・ステークホルダーとの関係構築				

・事例：Whole Foods Market（米国） 第12回 マーケティングにおける多様性（ダイバーシティ） ・ジェンダーに関するマーケティング ・マイノリティ（LGBTQ）への対応 ・事例 IKEA・パンテーン・Dove 他 第13回 デジタルマーケティング ・オンライン広告とソーシャルメディア ・シェアリング・エコノミー データドリブン・マーケティング 事例：Uber・Airbnb・トライアル（流通） 第14回 新しいマーケティングの潮流（まとめ） ・第4次産業革命（Industrial Revolution 4.0） ・DX（デジタル・トランスフォーメーション） ・新しい見方・価値の再定義（本講義の総括）
3. 履修上の注意 (1) 授業開始後 10 分以上の遅刻者は入室を遠慮してもらう （正当な理由や交通機関の遅延証明書などがある場合は除く） (2) 授業中の私語は周囲の迷惑になるため厳禁とする (3) 質問、要望、教員への連絡事項があれば、講義後またはメールにて対応する
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習に関しては各回のテーマについて事前に調べ、質問や意見などを準備しておく。 テキスト『国際マーケティングの補助線』の該当する部分を一読しておいて欲しい。 復習に関しては配布資料の内容について理解しておくことが望ましい。 レジュメの該当箇所を振り返り、不明な点があれば質問をして欲しい。
5. 教科書 『国際マーケティングの補助線』唐沢龍也著 各回の講義レジュメは Oh-Meiji 経由で PDF を配布する。
6. 参考書 古川裕康著（2021）『グローバル・マーケティング論』文眞堂。 大石芳裕編著（2015）『マーケティング零』白桃書房。 大石芳裕編著（2017）『グローバル・マーケティング零』白桃書房。
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題（リアクションペーパー（5 回 x10 点を実施予定）・期末レポート）の提出 リアクションペーパーフィードバックは Oh-Meiji のレポート機能を使用する。 提出後（授業日から一定期間を設定）から翌週の授業までに採点・コメントをフィードバックする。
8. 成績評価の方法 本講義は以下の(1)・(2)を総合的に評価する。 授業への参加度および理解度を示すリアクション・ペーパー50%、期末レポート 50% (1)リアクション・ペーパー（5 回程度実施する予定） Oh-Meiji を使ってリアクション・ペーパーを提出する。 翌週の授業までに各個人へフィードバック（採点・10 点満点）する。 (2)期末レポート 課題の詳細については授業内（12 回以降）に案内する。
9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN371E		
科目名		Corporate Social Responsibility		
担当者		TAKA IWAO		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜Course Outline＞ This course is designed to provide an understanding of the basic knowledge of “Corporate Social Responsibility” (CSR). Students will comprehensively understand that it is essential for companies to build good relationships with society and that management considerate of sustainability issues such as environmental and social issues, as well as financial performance, should lead to an increase in corporate value. In particular, students will learn in detail about risk management, business development, social impact, and corporate evaluation, focusing on the relationship between stakeholders and companies. Furthermore, from the perspective of global business development, such as response to ESG investment, SDGs, and so on, students will deepen understanding of CSR management through various latest case studies and discussion. In addition, this course will mainly focus on the cases of Japanese companies. ＜Objectives＞ Students will be able to (1) understand the sustainable relationship between business and society from the environmental, economic and social aspects, (2) understand the sustainable relationship between business and society, taking into account the perspectives of stakeholders and regional differences, and (3) learn the necessary mindset, tools, and analytical methods for companies to implement and evaluate CSR management.				
2. 授業内容 Week 1. Course Introduction Week 2. Basic Theory of CSR Week 3. Research Assignment: Sustainability Report Week 4. Development of CSR Management Strategy Week 5. Internal CSR Management Week 6. ESG Investment and Disclosure Week 7. Stakeholder Communication and Engagement Week 8. Roleplaying: Stakeholder Management Week 9. Sustainable Supply Chain Management Week 10. Social Contribution Activities Week 11. Sustainable Business Development Week 12. Social Impact and Corporate Value Week 13. Group work: Sustainable Global Business Week 14. Presentation, Wrap-up and Further Discussion				
3. 履修上の注意 Students are recommended to bring their own PC for in-class exercises and group works. Students are required to have sufficient English skills to participate in group discussions and give presentations.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are required to prepare in advance using lecture materials. Reading materials and other assignments will be announced in class.				
5. 教科書 There is no textbook. Lecture materials will be shared in advance.				
6. 参考書 None.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided via Oh-o! Meiji.				
8. 成績評価の方法 The evaluation will be based on contribution to the class (30%) and the report assignments submitted (three times, 70%). Details will be explained in the class of Week 1.				

9. その他

Attend the first lecture and learn about the course details and rules.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291J		
科目名		情報化社会論 A		
担当者		鈴木　みゆき		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 インターネットなどの普及により，高度に情報化された社会においては，従来考えられなかった様々な状況が発生している。情報化の進展に伴い，どのように社会が移り変わっているのかを理解することは重要である。 〈到達目標〉 あふれる情報を役立てる方法を身につけ，情報の本質を考察することを通じて，人間相互のコミュニケーションあるいは，機械とマシンインターフェースの現状を分析しつつ現代社会を考える。				
2. 授業内容 第1 講—第2 講　家庭・個人における情報化の現状 第3 講—第4 講　企業における情報化の現状 第5 講　情報の本質 第6 講　情報の質と量 第7 講　経済と情報 第8 講　情報伝達の科学 第9 講　マーケティングと情報化 第10 講　情報化社会の問題 第11 講　製造業と情報化 第12 講　サービスと情報化 第13 講　統計でみる情報化 第14 講　人間と情報，情報化社会の未来				
3. 履修上の注意 欠席をしないこと				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に関連する事柄をインターネットで検索する。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 必要に応じて提示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 平常点（出席，授業時提出物），試験をそれぞれ 50%，50%の割合で総合的に評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291J		
科目名		情報化社会論B		
担当者		鈴木　みゆき		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 データ通信とコンピュータテクノロジーの結合による情報通信技術の現状を分析することにより，ネットワーク社会について論究する。個人のプライバシー， コンピュータウィルスなどのネットワーク社会における諸問題について考察する。 〈到達目標〉 現代の利便性が内包する非合理性がどのように存在し，如何に解決すべきかについて考察する。高度情報化社会の現状とその未来について論ずる。				
2. 授業内容 第1 講—第2 講　インターネットの技術 第3 講　インターネットの実際 第4 講　広告とインターネット 第5 講　個人情報とインターネット 第6 講—第7 講　情報通信技術の発展 第8 講　ネットワーク社会の技術的側面 第9 講　ソフトウェアとしてのネットワーク社会 第10 講　コンピュータウィルスの科学 第11 講　プライバシーとネットワーク 第12 講　メディアと情報化 第13 講　現代情報化社会と人間 第14 講　未来社会と情報				
3. 履修上の注意 欠席をしないこと				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業に関連する事柄をインターネットで検索する。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 必要に応じて提示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 平常点（出席，授業時提出物），試験をそれぞれ 50%，50% の割合で総合的に評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Internet Business A	
担当者		TAKAHASHI TORU	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) The rise of advanced digital technology and big data is transforming our society and business landscape. In this course, we will explore the latest trends and developments in internet business, with a focus on case studies of successful internet companies. Students will learn about the business models, strategies, and challenges of these companies, as well as the implications for the global economy. The course will be taught by an experienced instructor with extensive work experience in the global media division of an advertising company. The instructor will use a variety of teaching methods, including lectures, case studies, and group discussions. https://gemini.google.com/share/2506bf6fcfd1 https://meiji-univ.ap.panopto.com/Panopto/Pages/Viewer.aspx?id=fd77f991-ec27-4f9a-bc4f-b0fa0020342d (Objectives) By the end of this course, students will be able to: • Understand the basic concepts of internet business • Analyze the business models of successful internet companies • Identify the challenges and opportunities facing internet businesses • Develop the communication skills needed for a career in global business			
2. 授業内容 1. Introduction - The global war for digitally skilled talent is heating up. 2. History of Internet Business 3. Business Model by Internet 4. Internet and Traditional Media 5. Web 2.0 - Long Tail Principle 6. Web 3.0 - The Advent of a New Internet Society 7. Internet Advertising - Evolution of Ad Technology 8. Big Data and Marketing 9. Internet Business and M&A 10. Social Media Network 11. Evolution of Video Streaming 12. Mobile Centric - Evolution of Internet Device 13. Latest Trend of Internet Business 14. Course Review- How to adapt to the digital age and thrive in the future. In this course, in addition to the content mentioned above, we'll share practical and up-to-date knowledge about cutting-edge generative AI that's revolutionizing the business world. As we explore the possibilities and challenges of rapidly evolving AI technology, you'll develop skills directly relevant to your future career. During our classes, we'll dive deep into proper AI usage, ethical considerations, and potential risks. You'll also learn powerful ways to boost your job hunt, such as using AI for company research, creating impressive resumes (entry sheets), and preparing for interviews. By the end of this course, you'll have gained essential skills and knowledge to become a competitive candidate ready to lead in the AI era.			
3. 履修上の注意 ※The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but welcome students who strongly want to improve their English skills even if they do not exceed 700. この授業は、完璧な英語を披露する場ではなく、皆さんの英語に対する抵抗感を取り去って、キャリアの選択肢を増やすための場です。「英語をもっと武器にしたい」という強い意欲を持つ方を歓迎します。その熱意があれば、授業を通じて必ず壁を乗り越えられるはずです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are required to download the lecture handout, which will be uploaded to “Oh-o! Meiji” by the day before each class, and to review its contents prior to the lecture. Additionally, students must complete a questionnaire on the cloud survey site after each weekly lecture.			

5. 教科書

No specific textbook will be assigned for this course. Students are expected to review the lecture handouts prior to class and prepare potential questions in advance.

6. 参考書

No specific reference will be assigned for this course.

7. 課題に対するフィードバックの方法

Students who wish to receive feedback on their final reports will receive it via email.

8. 成績評価の方法

- Contribution to class (including questionnaire responses after each class) 60%
- Final report 40%

9. その他

- * Prerequisite Course
 - No programming or advanced Excel skills are required to take this course. This course is for those who are interested in the potentials and risks of internet technology for future businesses.
- *To make the most out of this cour

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Internet Business B	
担当者		TAKAHASHI TORU	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) This course introduces the latest issues and trends in internet business, with a focus on case studies of successful internet companies. Students will learn about the business models, strategies, and challenges of these companies, as well as the implications for the global economy. The course will be taught by an experienced instructor with extensive work experience in the global media department of an advertising company. The instructor will use a variety of teaching methods, including lectures, case studies, and group discussions. https://g.co/gemini/share/3a033d95eb0c https://meiji-univ.ap.panopto.com/Panopto/Pages/Viewer.aspx?id=fd77f991-ec27-4f9a-bc4f-b0fa0020342d (Objectives) By the end of this course, students will be able to: • Understand the basic concepts of internet business • Analyze the business models of successful internet companies • Identify the challenges and opportunities facing internet businesses • Develop the communication skills needed for a career in global business			
2. 授業内容 1. Introduction - Analytical Method of Case Studies 2. Omnichannel Commerce 3. The Evolution of E-Commerce 4. Electronic Payment / The Evolution of Cryptocurrency 5. The Mechanism and Prospect of Artificial Intelligence 6. [Case Study] Google 7. [Case Study] Apple 8. [Case Study] Facebook (Meta) 9. [Case Study] Amazon 10. [Case Study] The Rise of the Next Generation of Global Tech Giants 11. Cyber Security - The History and Latest Trends of Cyber Attacks 12. Ethics & Law of Internet Business 13. Future of Internet Business / Internet Democracy 14. Course Review - How to Transform Yourself for Your Career Development In this course, in addition to the content mentioned above, we'll share practical and up-to-date knowledge about cutting-edge generative AI that's revolutionizing the business world. As we explore the possibilities and challenges of rapidly evolving AI technology, you'll develop skills directly relevant to your future career. During our classes, we'll dive deep into proper AI usage, ethical considerations, and potential risks. You'll also learn powerful ways to boost your job hunt, such as using AI for company research, creating impressive resumes (entry sheets), and preparing for interviews. By the end of this course, you'll have gained essential skills and knowledge to become a competitive candidate ready to lead in the AI era.			
3. 履修上の注意 ※The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but welcome students who strongly want to improve their English skills even if they do not exceed 700. ※ Students who have not taken "Internet Business A" in the spring semester can also take this course. この授業は、完璧な英語を披露する場ではなく、皆さんの英語に対する抵抗感を取り去って、キャリアの選択肢を増やすための場です。「英語をもっと武器にしたい」という強い意欲を持つ方を歓迎します。その熱意があれば、授業を通じて必ず壁を乗り越えられるはずです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are required to download the lecture handout, which will be uploaded to "Oh-o! Meiji" by the day before each class, and to review its contents prior to the lecture. Additionally, students must complete a questionnaire on the cloud survey site after each weekly lecture.			
5. 教科書 No specific textbook will be assigned for this course. Students are expected to review the lecture handouts prior to class and prepare potential questions in advance.			

6. 参考書

No specific reference will be assigned for this course.

7. 課題に対するフィードバックの方法

Students who wish to receive feedback on their final reports will receive it via email.

8. 成績評価の方法

- Contribution to class (including questionnaire responses after each class) 60%
- Final report 40%

9. その他

- * Prerequisite Course
 - No programming or advanced Excel skills are required to take this course. This course is for those who are interested in the potential and risk of internet technology for future business.
 - "Internet Business A" (Spring Semest

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Contents Business A		
担当者		NAKATANI YASUO		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) The aim of this course help students to learn the features of the content industry, and discuss how representative companies utilize the content to improve their brand and expand their customer base. The class also examines how content businesses have developed since early days to obtain implications for exploring future business model. By discussing business case studies in small groups, students can understand how different parts of the content business should connect to improve current business contexts. (Objectives) Students can have a broad understanding of the content industry, with a perspective on how individual content can be connected in digital platforms. They can improve their negotiation skills in English.				
2. 授業内容 1 Introduction 2 Development of content: History repeats 3 Creating business icons for content 4 Technology driven content 5 The power of Anime: Case study in Vietnam 6 Adopting content in different counties: K-pop and J-pop 7 Implicit or Explicit (1) Japanese culture or Western Culture 8 Implicit or Explicit (2) Negotiating with global clients 9 Creating content for joint-marketing: Case of Dentsu 10 Adoptive Content Theory: Utilizing multiple media 11 Copyright and content business 12 Digital platformer: iTunes 13 Digital platformer: YouTube 14 Review: Content business and digital technologies				
3. 履修上の注意 English capabilities required. Classes will be fully conducted in English, and students will be required to present ideas in English. English requirement : TOEIC 600～				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read news on a daily basis to keep up with new technologies and trends in the content industry.				
5. 教科書 ・Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan. by Nakatani.Y and Smithers. R. Kinseido. ・Using web-based materials and handouts				
6. 参考書 Content Machine: Use Content Marketing to Build a 7-figure Business With Zero Advertising Dan Norris. CreateSpace Independent Publishing Platform.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Class contribution for discussion and assignments:70%. Final report:30%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN391E		
科目名		Contents Business B		
担当者		NAKATANI YASUO		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) In this course students clearly understand the features of the content industry and present how representative companies should utilize the content to improve their brand and expand customer base. Through case study methods, students discuss how different parts of the content business should connect to explore the future business model. (Objectives) Students can have a clear understanding of the content industry, with a perspective on how individual content can be connected in digital platforms. They can improve negotiation skills in upper-level English.				
2. 授業内容 1 Introduction 2 Digital platformers: FaceBook and Instagram 3 Digital platformer: Twitter 4 Cutting-edge content and technology from U.S. 5 Content for sports marketing: Morinaga case 6 Adaptive content theory 1: Coca-Cola case 7 Adaptive content theory 2: MIJI case 8 Adaptive content theory 3: Shiseido 9 Customer-oriented content 10 Japanese traditional culture for new content 11 Content for Counter Innovator’ s Dilemma 12 CSR and content business 13 Future content with SDGs 14 Review: Developing your content business				
3. 履修上の注意 English capabilities required. Classes will be fully conducted in English, and students will be required to present ideas in English. English requirement : TOEIC 600～				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are expected to read news on a daily basis to keep up with new technologies and trends in the content industry.				
5. 教科書 Business Case Studies of Global Leaders 成美堂 Nakatani, Y. & Smithers, R. Seibido. ・Using web-based materials and handouts				
6. 参考書 Content Machine: Use Content Marketing to Build a 7-figure Business With Zero Advertising Dan Norris. CreateSpace Independent Publishing Platform.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくはOh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Class contribution for discussion and assignments: 70%. Final report:30%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) LAW271J		
科目名		ビジネス法		
担当者		柿崎 環		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 学問としての法律学の初学者が多いことから、法とは何か・法体系等から学び始め、近代社会・現代社会における企業取引法（ビジネス法）の意義を理解したうえで、この現代経済社会を支える企業（会社）の経済活動の根拠となり、かつそれを規制する法律としての民法・商法・会社法の基礎を学ぶ。 〈到達目標〉 法律全体におけるビジネス法の意義および企業取引に関わる民法・商法・会社法等の基礎を理解することを目指す。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 私法体系における取引法の位置づけ 第3回 取引法としての民法と商法 第4回 市場経済社会における「法律行為」とは？ 第5回 商法が適用される世界の鳥瞰図 第6回 商人となるには？ 第7回 商人の名前「商号」 第8回 軌道に乗った商売を広げるには？—商行為の代理と委任 第9回 他人の労力を利用する—商業使用人制度・補助商 第10回 商業登記・商業帳簿制度—公示制度の意味 第11回 営業の切り離しは何のため？—営業譲渡 第12回 商行為法の特色とは？ 第13回 商事契約の特則 第14回 具体的な商事売買にみる民法との違い				
3. 履修上の注意 法律の授業は段階的に進められる。途中で欠席すると自学自習で補うことが難しくなるため、授業は休みなく出席することが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、授業の内容となるテキストの該当箇所を読んでおくこと。				
5. 教科書 中村信男・和田宗久『ビジネス法入門（第3版）』中央経済社				
6. 参考書 近藤光男『商法総則・商行為法（最新版）』有斐閣 北居功・高田晴仁編『民法とつながる商法総則・商行為法』商事法務				
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期試験の総評を「授業のお知らせ」機能を使って配信する。				
8. 成績評価の方法 定期試験（またはレポート課題）によって評価する。				
9. その他 ビジネス法の基礎を学ぶことを目的とするが、ビジネス法の中心である「株式会社法」をこの授業で全部網羅することは、この授業では難しい。この授業でも、一部、株式会社法についても取り上げるが、企業社会を規律する法に興味のある者は、あわせて「株式会社法」を学ぶ科目を履修することが望ましい。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) LAW361J		
科目名		会社法 A		
担当者		根本 伸一		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法について講義する。会社法とは、株式会社や合同会社などの会社の組織・運営に関するルールである。現代社会において、会社は経済活動のインフラとして重要な役割を果たしている。例えば、われわれは日々会社から様々な商品・サービスの提供を受け、また会社に従業員として雇われ、給料を受け取っている。さらに、起業をする際に自分で会社を作ってそれを使って事業を行うこともできる。会社法とは、このような会社が、社会において活動するための基本的なルールである。それゆえ、会社法を学ぶということは、最終的には一国の経済社会のあり方としてどのようなものが望ましいかというテーマにアプローチすることでもある。そこで本講義では、会社法の基本的な仕組みを説き起こすことを通して、経済活動のインフラとしての会社の仕組みを明らかにしたい。 本講義の到達目標は、受講生が会社法の基本的な仕組みとその使われ方について理解できるようになることである。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：企業と会社 第3回：会社の法的性質 第4回：会社の設立 1 第5回：会社の設立 2 第6回：株式 1 第7回：株式 2 第8回：機関総論，株主総会 1 第9回：株主総会 2 第10回：取締役，取締役会，代表取締役 第11回：監査役，会計監査人，会計参与 第12回：指名委員会等設置会社，監査等委員会設置会社 第13回：業務執行の適性確保 第14回：総括 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。				
3. 履修上の注意 特に他の法律科目を履修しておくべきということはない。 むしろ企業活動に関する関心や会計学や経営学の知識があった方が，理解が進むと思われる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回，授業の終了時に，次回の範囲，参照文献および注意事項等を告知する。				
5. 教科書 三枝一雄ほか『最新 基本会社法（第2版）』（中央経済社，2021年） また，Oh-o! Meiji 上でレジュメ等を配布する。				
6. 参考書 田中亘『会社法〔第5版〕』（東京大学出版会、2025年） 伊藤靖史ほか『会社法〔第6版〕（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2025年） 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021年）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートや試験の実施後に Oh-o! Meiji 上で解答例を掲載するとともに，Oh-o! Meiji のアンケート機能を使って質問を受け付ける。				
8. 成績評価の方法 中間レポートの提出を前提として定期試験により成績評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) LAW361J		
科目名		会社法 B		
担当者		根本 伸一		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、会社法について講義する。会社法とは、株式会社や合同会社などの会社の組織・運営に関するルールである。現代社会において、会社は経済活動のインフラとして重要な役割を果たしている。例えば、われわれは日々会社から様々な商品・サービスの提供を受け、また会社に従業員として雇われ、給料を受け取っている。さらに、起業をする際に自分で会社を作ってそれを使って事業を行うこともできる。会社法とは、このような会社が、社会において活動するための基本的なルールである。それゆえ、会社法を学ぶということは、最終的には一国の経済社会のあり方としてどのようなものが望ましいかというテーマにアプローチすることでもある。そこで本講義では、会社法の基本的な仕組みを説き起こすことを通して、経済活動のインフラとしての会社の仕組みを明らかにしたい。 本講義の到達目標は、受講生が会社法の基本的な仕組みとその使われ方について理解できるようになることである。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：役員等の損害賠償責任 1 第3回：役員等の損害賠償責任 2 第4回：株主代表訴訟 第5回：会社の計算 1 第6回：会社の計算 2 第7回：企業の資金調達，募集株式の発行等 1 第8回：募集株式の発行等 2 第9回：新株予約権 第10回：社債 第11回：事業譲渡，合併 第12回：株式交換，株式移転 第13回：会社分割 第14回：総括 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。				
3. 履修上の注意 特に他の法律科目を履修しておくべきということはない。 むしろ企業活動に関する関心や会計学や経営学の知識があった方が，理解が進むと思われる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回，授業の終了時に，次回の範囲，参考文献および注意事項等を告知する。				
5. 教科書 三枝一雄ほか『最新 基本会社法（第2版）』（中央経済社，2021年） また，Oh-o! Meiji 上でレジュメ等を配布する。				
6. 参考書 田中亘『会社法〔第5版〕』（東京大学出版会、2025年） 伊藤靖史ほか『会社法〔第6版〕（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2025年） 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2021年）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートや試験の実施後に Oh-o! Meiji 上で解答例を掲載するとともに，Oh-o! Meiji のアンケート機能を使って質問を受け付ける。				
8. 成績評価の方法 中間レポートの提出を前提として定期試験により成績評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) LAW341J		
科目名		手形法・小切手法		
担当者		高木 正則		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈授業の概要〉 手形・小切手は、商取引において支払の用具、信用の用具、送金・取立の用具として大きな役割を担ってきたのであり、とりわけ約束手形が企業決済の手段として重要なものであり続けたが、2027 年 3 月末に我が国においては紙媒体の手形・小切手の廃止が予定されており、電子記録債権への移行が名実ともに本格化することになる。しかし、貿易での送金・取立ての手段として為替手形の利用は残ると考えられるし、民法という法律の中には手形法の規定を読み替えて適用するという規定が存在する。また、電子記録債権法には手形法の制度あるいは原則を受け継いだものがある（善意取得、人的抗弁の切断など）。つまり、国内での企業決済についていえば、従来手形法・小切手法が規律していた部分は電子記録債権法にゆだねられるものの、手形法の理解は依然として重要である（なお、手形法および小切手法はいわゆる条約法であって、紙媒体の手形や小切手の利用がされなくても法律そのものを廃止してしまうということにはならない）。 そこで、本講義では講義期間中は残存する手形・小切手の意義とその役割を概観した後、振出から支払に至る一連の流れについて説明すると同時に、電子記録債権の該当すると考えられる部分について説明する。なお、電子記録債権の実務では、株式会社電子債権ネットワークが大きな役割を果たしていることから、同社が提供するサービスである「でんさいネット」の Web 上の資料等をプロジェクターで示しながら解説する予定である。				
〈授業の到達目標〉 一般的に法学部の授業の場合は、法律科目については判例・学説の詳細な検討に立ち入るのが常であろうが、この授業の受講生は法学部の学生ではないので、そこまでは立ち入らずあくまでも手形法・小切手法および電子記録債権法に関する基本的な理解を得てもらうことを目標にする。				
2. 授業内容				
概ね、下記の順序で講義を進める予定である。 第 1 回 a のみ：イントロダクション 第 2 回 手形・小切手の意義と機能、電子記録債権 第 3 回 手形行為の意義 第 4 回 手形の振出（1） 手形要件、電子記録債権の発生要件 第 5 回 手形の振出（2） 手形上の意思表示、電子記録債権にかかる意思表示 第 6 回 他人による手形行為、他人による電子記録請求行為 第 7 回 手形の偽造、変造 第 8 回 手形の裏書（1） 譲渡裏書、電子記録債権の譲渡 第 9 回 手形の裏書（2） 特殊の裏書 第 10 回 手形の善意取得、電子記録債権の善意取得 第 11 回 手形抗弁、電子記録債権における抗弁事由、手形法および電子記録債権法における人的抗弁の切断 第 12 回 白地手形 第 13 回 支払、電子記録債権の支払 第 14 回 その他 ※講義内容は必要に応じて変更することがある。				
3. 履修上の注意				
本科目ではその性質上民法の財産法（総則・物権・債権）との比較を行うことが多いので、受講生は民法の概論のような授業があれば履修済みであるかまたは履修中であることが大変望ましい。なお、小型のものでよいので必ず令和 8 年版の六法を入手して授業時に持参すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
予習に関しては、手形・小切手法に関する概説書にざっと目を通しておくことをすすめる。復習に関しては、授業で説明したことを配布したプリントと照らし合わせて確認しながら、手形・小切手に関する基本的な概念や法律上の制度のあらましを説明できるようにまとめておくとういと思う。				
5. 教科書				
特に指定しないが、自分で最も読みやすいと思う手形・小切手法の概説書を入手して読むことを勧める。比較的に新しい概説書としては、手形法・小切手法以外の分野も含む支払決済に関する法分野を扱うものとして、田邊宏康『企業決済法講義』（成文堂、2025 年）、小塚莊一郎・森田果共著『支払決済法（第 3 版）』（商事法務、2018 年）がある。なお、授業で適宜プリントを配布する予定である。				
6. 参考書				
神田秀樹・神作裕之編『手形小切手判例百選〔第 7 版〕』（有斐閣、2014 年）				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
授業期間中に適宜、知識確認のための簡単なアンケートを Oh-o! Meiji を使って実施し、その結果について授業内で簡潔に講評を含めてコメントすることを考えている。				

8. 成績評価の方法

定期試験によって評価する予定である。

9. その他

手形や小切手、あるいは電子記録債権は日常生活においては馴染みのないものであるが、これらに関する基本的な法的知識を得ておくことは将来皆さんが社会に出て仕事をする上で決して損ではないと思われる。とくに、銀行など民間企業に就職することを志す人には、これらに関する法的知識はかなり役立つであろう。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) LAW361J		
科目名		財産法		
担当者		神田 英明		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
≪授業の概要≫ 民法は、日常の生活関係を規律する法律であり、私法全体の最も基本的な法律です。物の売買や不動産の賃貸借、借金、契約違反、交通事故など、私たち市民を取り巻く日常生活に関するルールを民法は定めています。 本講義は、民法財産法、すなわち、民法総則、物権法、及び、債権法と呼ばれる法領域（民法典第1～3編）をその考察対象とします。民法の基礎理論および解釈論上問題となっている各種の重要論点について、民法の基本原理を明らかにしながら、問題点の所在とその要点を整理し、法的考察を加えていきます。 ≪授業の到達目標≫ 民法財産法が定める各種の制度の存在意義を一つずつ解明し、民法における「ものの見方・考え方」を修得することを目標とします。民法全体の体系的な理解、及び、法的問題に対処できる法的思考力を身に付けることが、本講義の到達目標です。				
2. 授業内容				
第1回：イントロダクションー「民法財産法」を学ぶにあたって 第2回：民法の仕組みー私法の四大原則・法人格 第3回：民法総則の諸制度（1）制限能力者の保護〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第4回：民法総則の諸制度（2）意思表示と法律行為〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第5回：民法総則の諸制度（3）代理・時効 第6回：物権法の諸制度（1）物権の意義 第7回：物権法の諸制度（2）登記制度（物権変動と公示）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第8回：物権法の諸制度（3）即時取得制度 第9回：担保物権法の諸制度（1）担保の意義 第10回：担保物権法の諸制度（2）抵当権・その他の担保物権〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第11回：債権法の諸制度（1）債権の効力 第12回：債権法の諸制度（2）契約総論（解除） 第13回：債権法の諸制度（3）契約各論（売買・賃貸借）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第14回：債権法の諸制度（4）不法行為・まとめ〔メディア授業（リアルタイム型）〕 *授業内容、及び、リアルタイム Zoom 型の順序は必要に応じて変更することがあります。				
3. 履修上の注意				
原則は対面実施ですが、感染予防、及び、学習効率の向上を狙って 14 回の半期授業のうち 6 回ほどを対面講義ではなくリアルタイム式 zoom オンライン授業として開催することがあります。 なお、毎回コメントシートの提出を求め、出席確認及び理解度確認を行います。また、Oh-o! Meiji クラスウェブ機能を活用し、意見交換の場を設けます。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知します。 意見・質問・感想などを求める受講カード（出席カードとしての機能はありません）を提出してもらい、講義に対話性を持たせることを予定しています。強い問題意識と知的好奇心を持って、積極的に授業に参加することを求めます。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
準備学習の内容 事前に教科書および資料等に目を通して、最低限の知識を得て授業に臨むことが強く望まれます。 復習すべき内容 学習したテーマについて、正確に理解し、しっかりとその成果をまとめておいて下さい。				
5. 教科書				
田中嗣久ほか『民法がわかった 最新版』（法学書院）。 なお、必要に応じてレジュメを配布します。				
6. 参考書				
各人が使用しているもので結構です。特に参考書その他文献について指示する必要があるときは、授業の際に改めて指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
各自が予め検討していた当該課題に対する解説、さらには課題に対する質問や感想に対するコメント返しを、翌週の講義にて毎回行う。				
8. 成績評価の方法				
①学期末試験（70％）、及び、②授業時間中に不定期に複数回実施する簡単な小テスト（30％）にて評価します。定期試験の答案作成にあたっては、基本的な理解が出来ているかどうか、説得力ある論理を自分の考えとして展開しているかどうかを基準に判断します。				
9. その他				

講義では、具体例を多用しながら、分かりやすく解説していきます。民法は私たちの実生活に直結しているため知的好奇心を大いに満たしてくれます。法学は単に知識の詰め込みや、教科書や条文の暗記ではないことを一早く知り、法学の本当の面白さ、すなわち、法律における「考える楽しみ」を是非この講義にて堪能して下さい。

参考のため、過去の授業アンケートを紹介します。「気がつけば 1 番好きな授業になっていました」、「学習することがこんなにも面白いものだの実感できる授業です」、「先生の授業は本当に分かり易くて、毎回と

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) LAW361J		
科目名		税法		
担当者		加藤 友佳		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この講義では、日常生活に深く関わりのある税金について定めている租税法について学び、私たちが納付している税金がどのような法律に基づいて課税されているのかを学びます。課税する側の視点としては不正な課税逃れを見逃さないこと、納付する側からの視点としては余分な税金を納めないこと、この双方の観点を学び、賢い納税者になりましょう。 法律を学んだことない学生を対象として、受講生の理解度を確認しながら講義を進めていきます。 〈到達目標〉 所得税法や租税争訟法を実践的に理解し、その知識を普段の生活に役立てるようになることを目標とします。 (1) 租税法と憲法・私法との関係を理解できるようになる。 (2) 納税者の義務と共に権利を理解できるようになる。 (3) 所得税法と租税手続きの概観を把握し、納税申告書を作成できるようになる。				
2. 授業内容 第1回：国民の生活と租税法 第2回：租税の意義と基本原則 第3回：租税法と私法 第4回：脱税・租税回避・節税 第5回：納税義務と課税単位 第6回：所得概念 第7回：事業所得と給与所得 第8回：中間テスト 第9回：譲渡所得、一時所得、雑所得 第10回：必要経費 第11回：所得控除と税額控除 第12回：相続税法（1） 第13回：相続税法（2） 第14回：a 講義全体のふりかえり b 試験				
3. 履修上の注意 私語厳禁。法律の前提知識がなくてもわかりやすいように、日常生活に結び付けながら租税法を学習していきますが、法的思考を学ぶ姿勢を求めます。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第4版〕』（中央経済社、2025年）の該当箇所を予め一読しておき、前回までの授業内容との関連性を把握してください。				
5. 教科書 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第4版〕』（中央経済社、2025年）				
6. 参考書 授業中に適宜指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストの結果については次回授業の中でコメントします。				
8. 成績評価の方法 中間テスト、期末テストの成績により評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) LAW341J		
科目名		労働法		
担当者		小林 大祐		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ○授業の概要 労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。 今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法（個別的労働法）」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法（集団的労働法）」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法（雇用保障法）」である。 この授業では、雇用関係法を中心に検討し、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。 ○到達目標 ・働くうえで基本的な法ルールを身につける。 ・労働法の特徴と構造を理解する。 ・現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。				
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（労働法の意義と体系） 第2回 労働法における労働者と使用者 第3回 労働契約上の権利と義務 第4回 労働協約と就業規則 第5回 賃金に関する法規制 第6回 労働時間に関する法規制 第7回 労働災害の予防と補償 第8回 雇用における平等と労働者の人権・人格の保護 第9回 労働契約の成立をめぐる法的問題 第10回 人事制度をめぐる法的問題 第11回 服務規律、懲戒制度をめぐる法的問題 第12回 労働契約の終了をめぐる法的問題 第13回 非典型雇用 第14回 a：期末テスト b：期末テストの解説				
3. 履修上の注意				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業前に2時間程度、各回のテーマに関連する教科書や新聞を読むことが望ましい。 授業後に2時間程度、レジュメを見返したり、関連する裁判例や文献を読むなどして、授業内容の理解に努めることが望ましい。				
5. 教科書 『就活生のための労働法入門』 青野覚編著（中央経済社）2024 年				
6. 参考書 【入門書】 『ベーシック労働法（第9版）』 浜村彰他著（有斐閣）2023 年 『ファーストステップ労働法』 藤本茂他編著（エイデル研究所）2020 年 【体系書】 『労働法（第5版）』 荒木尚志（有斐閣）2022 年 『労働法（第3版）』 西谷敏（日本評論社）2020 年				

『労働法（第 12 版）』菅野和夫（弘文堂）2019 年
『労働組合法（第 3 版）』西谷敏（有斐閣）2012 年

【判例集】

『労働判例百選（第 10 版）』村中孝史・荒木尚志編（有斐閣）2022 年

【六法】

・『労働関係法規集』

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題は予定していない。

8. 成績評価の方法

期末テスト 100%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ARS331E		
科目名		American Culture		
担当者		DUPLICE JOHN ANTHONY		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 This course explores the multifaceted nature of American culture through the lens of history, social values, and business ethics. Moving beyond stereotypes, students will analyze the “why” behind American behavioral norms. Since the class is project-based, students function as cultural investigators and consultants. A key aspect of this class is to critically analyze a variety of viewpoints and discuss these differences. Students will investigate topics such as individualistic vs. collectivistic communication, the “American Dream” in a modern corporate context, and the impact of diversity on innovation. By the end of the term, students will have improved the critical thinking and presentation skills necessary to operate effectively in an international business environment.				
2. 授業内容 Weekly Tentative Outline Week 1 Orientation & Cultural Icebreakers Defining “Culture” (The Iceberg Model). Team formation. Week 2 The Foundations of Individualism How the “Frontier Spirit” shapes modern US business risk-taking. Week 3 Communication Styles: High vs. Low Context Directness vs. Politeness; Navigating American “Small Talk.” Week 4 The American Dream & Social Mobility Discussion: Is the Dream still attainable? Impact on work ethic. Week 5 Regionalism: Not Just One America Exploring the cultural differences between NYC, Silicon Valley, and the South. Week 6 Project Workshop 1: Case Studies Mini-Presentation: Analysis of an American brand’ s success/failure. Week 7 Work Culture & Office Politics Flat hierarchies, “At-Will” employment, and the 9-to-5 vs. Hustle Culture. Week 8 Diversity, Equity, & Inclusion (DEI) Understanding the “Melting Pot” vs. “Salad Bowl” and corporate policy. Week 9 Values in Advertising How American commercials appeal to freedom, youth, and rebellion. Week 10 Education & The Innovation Economy The role of US universities in fostering the startup culture. Week 11 Project Workshop 2: Final Prep Peer feedback sessions and slide design refinement. Week 12 Final Project Presentations (Part 1) Team-led deep dives into a chosen cultural-business intersection. Week 13 Final Project Presentations (Part 2) Team-led deep dives and Q&A sessions. Week 14 Course Wrap-up & Reflection Synthesis of learning: How to bridge Japan-US cultural gaps.				

3. 履修上の注意

Prerequisite Criteria

- ・ Minimum English Level: TOEIC 700 (or equivalent).
- ・ Expectation: Students must be comfortable reading case studies in English and engaging in 10-15 minute group discussions without Japanese intervention.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Please have a good learner dictionary—this may be either electronic or paper-based.

5. 教科書

None

6. 参考書

Handouts, the Internet, Oh Meiji! System

7. 課題に対するフィードバックの方法

The final project will be held on the last day of classes. All papers will be submitted on Oh-o! Meiji system.

8. 成績評価の方法

Course Requirements & Grading

As a project-based course, the grading reflects participation and output rather than rote memorization.

- ・ Participation & Discussion (30%): Students are expected to contribute to every session. This includes "Exit Tickets" (short reflections at the end of each class).
- ・ Weekly Mini-Tasks (20%): Short research tasks (e.g., "Find an American news article about a labor strike and explain the cultural motivation").
- ・ Mid-term Team Presentation (20%): A 5-7 minute presentation on a regional sub-culture or a specific American value.
- ・ Final Capstone Project (30%): A 15-minute team presentation where students "consult" for a Japanese company looking to expand to the US, highlighting three major cultural hurdles and solutions.

9. その他

None

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ARS321J		
科目名		ドイツ文化論		
担当者		畑 一成		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ドイツの歴史をたどりながら思想と芸術にふれる 〈授業の概要〉 ドイツといえば哲学と詩と音楽の国ともいわれてきた。本授業では、ドイツの思想と芸術にふれながら、16 世紀から現代までのドイツの文化史を考察します。第 7 回までの前半は、啓蒙主義へと至る道を取り扱い、主に思想を考察する。第 8 回以降は、産業革命以降の社会の変化を取り扱い、主に芸術を考察する。 〈到達目標〉 ドイツにおいて、芸術と哲学と科学がいかに密接に絡み合っているのかを理解する。現代的課題の背景に、どのような個々人の活動の歴史があったのか、またどのような大きな潮流があったのかを理解する。				
2. 授業内容 第 1 回 導入：ドイツを知る 第 2 回 グーテンベルクの活版印刷技術 第 3 回 ライプニッツ：デジタル社会の基礎 第 4 回 三十年戦争と啓蒙主義 第 5 回 カント：国連の理念 第 6 回 ゲーテ：近代人の肖像画 第 7 回 ヘーゲル：世界をとらえる論理 第 8 回 産業革命以降のドイツ文化の変容 第 9 回 ユーゲントシュティール：民芸 第 10 回 ドイツ映画 第 11 回 ドイツ表現主義：モダンダンスや絵画 第 12 回 シェーンベルク：現代音楽 第 13 回 バウハウス：近代デザイン 第 14 回 a. 試験 b. 正答解説				
3. 履修上の注意 受講者数に応じて、授業の進め方や成績評価の方法が変わる可能性がある。その場合、初回の授業で説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎授業終わりに、扱ったテーマについて復習をする。次の授業のテーマについて下調べをし、自分の考えや疑問点をみつめてから授業に臨む。				
5. 教科書 特定の教科書を使用しない。				
6. 参考書 『永遠平和のために/啓蒙とは何か 他 3 編』カント（光文社古典新訳文庫）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 第 14 回の b モジュールで、試験の正答解説と講評を行う。				
8. 成績評価の方法 期末試験：50%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う） 授業への参加：50%（ミニレポート、グループワーク等の参加度や達成度を測る） ※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。 ※授業を 3 分の 1 以上欠席した場合、評価の対象としない。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) ARS321J		
科目名		東欧文化論		
担当者		薩摩 秀登		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 東欧は、ヨーロッパの中でもアジア諸地域と近接し、相互に深く関連しあう地域として国際的にも重要度を高めている。従来、東欧については、凄惨な「民族紛争」や民主化の立ち遅れなど、マイナスの側面もしばしば強調されてきた。他方、西欧とは性格の異なる多彩な文化に触れられる地域としても注目されている。こうした「東側のヨーロッパ」はどのような特色をもつ地域であり、それはどのように形成されてきたのか。授業では、歴史をさかのぼりながらこの東欧の実態に触れ、あわせて各地の生活や文化についても紹介していきたい。 〈到達目標〉 ヨーロッパの周辺部に着目することにより、多彩な生活・文化のあり方について学び、広く現代世界について考察する視野を身につける。				
2. 授業内容 一口に「東欧」といっても広い地域に及び、非常に多様性にあふれており、その範囲も定かではない。こうした地域について知るには、観点を変えつつ、さまざまな角度から考察してみなければならない。授業では、この地域を考えるうえで有効ないくつかのアプローチの方法を紹介しながら、東欧という世界に迫ってみたい。 第1回 東欧という地域概念について 第2回 中欧およびバルカンについて 第3回 東欧に住む人々1 スラヴ人（総論） 第4回 東欧に住む人々2 スラヴ人（各論） 第5回 東欧に住む人々3 ハンガリー人 第6回 東欧に住む人々4 ユダヤ人（中世・近世） 第7回 東欧に住む人々5 ユダヤ人（近代・現代） 第8回 東欧に住む人々6 ロマ 第9回 宗教から見た東欧1 ローマ・カトリックと東方正教会 第10回 宗教から見た東欧2 東西の教会のはざままで（中世） 第11回 宗教から見た東欧3 東西の教会のはざままで（近代・現代） 第12回 宗教から見た東欧4 近代バルカンの宗教事情 第13回 国境線をはさんで 第14回 東欧の都市空間 なお、東欧の多彩な文化の一端に触れるため、東欧各地の音楽を少しずつ紹介してみたいと考えている。				
3. 履修上の注意 地域の特徴や概念について基本的な説明から始めるので、東欧に関する予備知識は特に必要ない。世界各地の社会や文化に関心を持ち、その地域独特の人間生活や社会のあり方について学ぶという姿勢で受講してほしい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 東欧に限らず、ヨーロッパとその周辺の最近の情勢に関して、普段から情報に接し、注目してほしい。				
5. 教科書 使用しない。				
6. 参考書 伊東孝之、井内敏夫、中井和夫編『ポーランド・ウクライナ・バルト史』山川出版社、1999 年 南塚信吾編『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社、1999 年 柴宜弘編『バルカン史』山川出版社、1999 年 渡辺克義編著『ポーランドを知るための 60 章』明石書店、2001 年 羽場久美子編著『ハンガリーを知るための 43 章』明石書店、2002 年 阿部賢一・薩摩秀登編著『チェコを知るための 60 章』明石書店、2024 年 長與進、神原ゆうこ編著『スロヴァキアを知るための 64 章』明石書店、2023 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 授業中に出される課題：70％ 期末レポート：30％				

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA)ARS321J	
科目名		フランス文化論	
担当者		佐々木 匠	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 「フランス文化」という言葉から連想される事柄は非常に豊かです。それは、習俗であれ、芸術であれ、フランス文化がそれぞれの分野で長い歴史と伝統を持っているからにほかなりません。この授業では、そうした多様なフランス文化のうち、いくつかを具体的に挙げていきます。複数の分野をあえて広く扱うことで、そのなかから興味を持てるものを見つけてもらうこともこの授業の目的です。同時にそれは、比較文化論的な視点から、フランスと日本の文化、フランスと別の文化圏との相互の影響関係について理解するための手段にもなるはずです。 授業は基本的に毎回一つの芸術分野、あるいは、その土壌や背景となる思想や宗教、習俗、社会生活などを取り上げて講義します。また、フランスの成り立ちをよりよく知るため、授業内でフランスの各地域の町や文化の簡単な紹介をすることも予定しています。 (到達目標) フランスの芸術・文化の知識を得ること、そして、講義で扱う分野の中から興味を持てるものを見つけ、各自で調査・研究を続けていくための足がかりにすること。			
2. 授業内容 以下はおおまかな計画です。場合によって内容や順番を変更することがあります。 第1回：オリエンテーション——フランスという国について 第2回：フランス的思考とユーモア／ブルターニュ地域圏の紹介 第3回：教育制度と言葉／ノルマンディー地域圏の紹介 第4回：シャンソン、ときどきサブカルチャー／オー＝ド＝フランス地域圏の紹介 第5回：宗教と教会建築／グラン・テスト地域圏の紹介 第6回：アフリカのフランス語圏文化にも目を向けて／イル＝ド＝フランス地域圏の紹介 第7回：フランス人の日本体験記／ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏の紹介 第8回：美術（ジャポニスムの影響を中心に）／オーベルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏の紹介 第9回：フランスの社会生活／プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール地域圏の紹介 第10回：叙事詩と演劇／オクシタニー地域圏の紹介 第11回：フランス語で書かれた近現代の小説／ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏の紹介 第12回：食文化／サントル＝ヴァル・ド・ロワール地域圏の紹介 第13回：イマージュと芸術／ペイ・ド・ラ・ロワール地域圏の紹介 第14回：日本人のフランス体験記／フランス海外県の紹介			
3. 履修上の注意 授業はスライドを用いた講義形式で行う予定です。また、みなさんには毎授業の最後にリアクション・ペーパーを提出してもらいます。リアクション・ペーパーは成績評価に含みます。リアクション・ペーパーに関する具体的な注意事項は初回授業で指示します。学期末にはレポートを課します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特に必要ありません。			
5. 教科書 使用しません。必要に応じて資料を配付します。			
6. 参考書 特にありません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパーに書かれた興味深いコメント、質問は、次の授業の冒頭で紹介、返答をし、全員で共有します。			
8. 成績評価の方法 出席は大前提の上で、以下を目安に成績をつけます。 毎授業終わりのリアクション・ペーパー：40％ 学期末レポート：60％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN261J	
科目名		海外経営事情 A	
担当者		海外経営事情 A	
2 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 本授業では、日本と深い歴史的、経済的つながりを持つ台湾の事例を取り上げながら、アジアの経済・産業発展についての理解を深める。授業の前半（2-5 回）では、教科書を用いて、アジアの産業・企業を理解するうえで鍵となる概念や分析枠組みについても解説する。続いて、世界のハイテク産業のなかでユニークな地位を占め、日本の産業・企業のよき協業・競争相手としても注目を集める台湾に焦点をあて、その歴史、政治動向、産業発展過程の特徴を考察する（6-10 回）。また日本と台湾の産業・企業連携の可能性を探り、日本企業のグローバル化の課題、国際情勢がグローバル経営に与える影響について考える。最後に、受講者による研究発表（11-13 回）を交えて、アジアの産業・企業のグローバル化とその日本企業へのインパクトを考察する。 (到達目標) アジアにおける経済グローバル化の実態、産業・企業発展の特徴についての理解を深める。台湾の事例分析を通じて、東アジアの政治経済発展についての多面的な知識を深める。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション：アジアの経済・経営を学ぶことの意義 第 2 回：アジアの経済発展 1：変貌するアジア 第 3 回：アジアの経済発展 2：中国が変えるアジア 第 4 回：アジアの経済発展 3：産業内分業の発展ダイナミズム 第 5 回：アジアの経済発展 4：アジアのイノベーション 第 6 回：台湾の政治と経済 1：国民党による権威主義体制下の経済発展 第 7 回：台湾の政治と経済 2：民主化、本土化と対中関係の展開 第 8 回：台湾の産業発展と日本 1：パソコン産業 第 9 回：台湾の産業発展と日本 2：フラットパネルディスプレイ産業 第 10 回：台湾の産業発展と日本 3：日本企業の「台湾活用型対中投資」 第 11 回：受講生による研究報告 第 12 回：受講生による研究報告 第 13 回：受講生による研究報告 第 14 回：a まとめ b 試験			
3. 履修上の注意 授業には必ず出席すること。 受講生による研究報告は、日本企業とアジア企業の提携・協力事例に関する MS PowerPoint の資料を作成し、1 人 1 回（15 分程度）報告を行う。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞を読み、台湾についての記事、日本と東アジア企業の競争・提携関係、アジアの国際情勢についての記事を注意深く読むこと。また、適宜、授業内容に関する資料を案内するので、授業の予習・復習に活用すること。			
5. 教科書 ・遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編『現代アジア経済論——「アジアの世紀」を学ぶ』（有斐閣）2018 年。			
6. 参考書 ・薛化元編、永山英樹訳『詳説台湾の歴史 台湾高校歴史教科書』（雄山閣），2020 年。 ・川島真・清水麗・松田康博・楊永明『日台関係史 1945-2020 増補版』（東京大学出版会），2020 年。 ・赤松美和子・若松大祐編著『台湾を知るための 72 章【第 2 版】』（明石書店），2022 年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーについては次回授業で講評する。授業中の研究報告については、報告後に講評する。定期試験については、他の課題に対する評価と合わせた評点としてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験 40％、授業中の研究報告 20％、平常点 40％（授業中のリアクションペーパー）。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN261J	
科目名		海外経営事情B	
担当者		藤田 麻衣	
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本授業は、近年、急速な経済成長と経済構造の転換を遂げ、日本との間にも多面的かつ緊密な経済関係が形成されているベトナムを取り上げ、同国の経済、産業・企業についての理解を深めることを目的とする。 まず、ベトナムの国土・人々・歴史、政治・経済体制、国際関係を概観する（第2回～第4回）。次いで、ベトナムがドイモイと呼ばれる改革路線を採択した1980年代後半以降、企業をめぐる法制度がどのように整備され、企業セクター全体の構造がどのように変化してきたかを、個別企業の事例を交えつつ考察する（第5回～第6回）。また、いくつかの産業の事例を取り上げ、産業全体の構造、および主要企業の戦略や発展プロセスを考察する（第7回～第8回、第10回～第13回）。 （到達目標） ベトナムの経済、産業・企業の特徴や発展過程について、多面的な理解を深める。ベトナムの事例を学ぶことを通じて国際経済への関心を高め、現地事情を理解する視野を養う。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション〔対面授業〕 第2回：国土・人々・歴史〔対面授業〕 第3回：ドイモイ下の政治・経済体制〔対面授業〕 第4回：対外開放から国際経済参入へ〔対面授業〕 第5回：国有企業、民間企業〔対面授業〕 第6回：外資企業〔対面授業〕 第7回：輸出産業〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：内需産業：輸送機械産業〔対面授業〕 第9回：履修生による授業内発表〔対面授業〕 第10回：履修生による授業内発表／サービス業〔対面授業〕 第11回：履修生による授業内発表／デジタル経済〔対面授業〕 第12回：エネルギー・環境〔対面授業〕 第13回：農業・農産物加工〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔対面授業〕 注：第9回-第11回に履修生による授業内発表を予定している。			
3. 履修上の注意 この授業は、対面授業とメディア授業を組み合わせる形式で開講される。 メディア授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。メディア授業の講義動画は、原則毎週木曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。毎回の講義動画視聴後、アンケート機能を用いて設問（記述式）への回答を求める。これによって出席と理解度の確認を行うとともに、講師から総括および個別のフィードバックを行う。 対面授業のうち第9～11回では、履修生による授業内発表（プレゼンテーション）を予定している。 対面授業およびメディア授業に関する質問やコメント、意見などは、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を通じて随時受け付け、議論の場として活用する。また、教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日頃から新聞や雑誌を読み、ベトナムに関する記事に目を通しておくこと。 各回の授業に関連する資料を紹介するので、それらを活用しつつ復習を行うことが望ましい。			
5. 教科書 教科書は特に用いない。			
6. 参考書 岩井美佐紀編著『現代ベトナムを知るための63章』明石書店、2023年。 トラン・ヴァン・トゥ『ベトナム経済発展論』勁草書房、2010年。 藤田麻衣編『ベトナム「発展と幸福」への模索－第13回党大会にみる発展の方向性と課題－』アジア経済研究所、2022年。 その他の資料は授業中に紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 レポートは Oh-o! Meiji システムを通じて、プレゼンテーションは当該授業において、講評を行う。			
8. 成績評価の方法 平常点（授業に対するコメント）30％、レポート30％、授業内のプレゼンテーション40％で評価する。 ※対面形式での試験は行わない。			

9. その他

特になし。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN261J		
科目名		海外経営事情 C		
担当者		齋藤 純		
2 単位	1 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
【概要】中東と聞いて、多くの人は「石油」「砂漠」「紛争」「イスラーム」といったイメージを思い浮かべるだろう。しかし現在の中東、とりわけ湾岸諸国では、石油依存からの脱却を掲げ、経済構造と企業活動が大きく変化している。金融、物流、観光、製造業、テクノロジー分野へと事業領域は広がり、ドバイやアブダビは国際的なビジネス拠点として成長を遂げてきた。 この地域の企業の特徴は、その多様性にある。王族が深く関与する企業や政府系ファンドを中心とした投資主体が存在する一方で、歴史的に形成されてきたファミリービジネスが経済の中核を担っている。また、雇用を支える中小企業や、現地企業と提携しながら活動する外国企業も重要な役割を果たしている。中東の企業環境は、国家、企業、家族、市場が密接に結びついた独特の構造を持つ。 本授業では、中東諸国を「特殊な地域」として扱うのではなく、企業経済学や経営学の基本的な理論を用いて、こうした企業の行動やビジネス環境を分析する。経済の変化と企業の戦略、国家と企業の関係に注目しながら、中東をグローバル経済の中の「ビジネスの現場」として読み解いていく。 <参考>「中東を学ぶ——研究者が語る経験と魅力：中東のビジネス」<リンク> 【到達目標】本授業では、中東諸国の経済と企業活動について、経済理論および企業分析の枠組みを用いて理解することを目標とする。王族系企業や政府系企業、ファミリービジネス、中小企業、外国企業といった多様な企業形態に注目し、それぞれの特徴や役割、ビジネス環境との関係を説明できるようになることを目指す。				
2. 授業内容				
第1回 a： イントロダクション b： 新興経済圏としての中東地域				
第2回 中東地域概観				
第3回 中東諸国の経済1： 石油輸出国				
第4回 中東諸国の経済2： 石油輸入国				
第5回 人口と労働： 出稼ぎ労働と若年層の失業				
第6回 石油産業： 原油・天然ガスの生産と輸出				
第7回 金融部門の発展： 中東諸国の金融システム				
第8回 イスラーム経済： イスラームと経済活動				
第9回 消費市場としての中東諸国				
第10回 現地企業＝ファミリービジネス・国家企業				
第11回 外国企業①： 制度適応型（合弁・日系）				
第12回 外国企業②： グローバル戦略型（多国籍）				
第13回 中東経済の将来展望				
第14回 a： まとめ b： 期末試験				
3. 履修上の注意				
■レポートと課題のテーマと提出期限、および成績評価の詳細については、第1回イントロダクションで説明します（必ず出席してください）。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
■各回の授業内容に関連する参考文献・資料は事前に案内しますので、各自で読んで授業に臨んでください。				
■授業で使用するレジュメは事前に Oh-Meiji! クラスウェブに掲載しますので、目を通しておいってください。				
5. 教科書				
■特に指定しない。				
6. 参考書				
■酒井啓子『〈中東〉の考え方』講談社現代新書 2010 年				
■池内恵『シーア派とスンニ派』新潮選書 2018 年				
■末近浩太『中東政治入門』ちくま新書 2020 年				
■土屋一樹編『中東アラブ企業の海外進出』岩波書店 2013 年				
■松尾昌樹『湾岸産油国： レンティア国家のゆくえ』講談社 2010 年				
■末近浩太・松尾昌樹編『中東を学ぶ人のために』世界思想社 2024 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
■リアクションペーパーのに対する講評は、毎回講義冒頭で行う。				
■最終授業日に期末試験を実施し、解説を Oh-o! Meiji で公開する。				
8. 成績評価の方法				
■定期試験 40%、課題レポート 30%、平常点（授業中の出欠およびリアクションペーパー） 30%で評価する。				

9. その他

■授業内容に関する質問は授業中に受け付けます。その他の質問は、授業後に受け付けます。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN261J		
科目名		海外経営事情D		
担当者		濱田 美紀		
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 日本企業の有望な投資先として注目されるインドネシアの経済について、投資先としてのインドネシアの魅力や課題を理解するために、インドネシア経済の構造や現状ならびに経済の背景となる政治や社会について学ぶことを目的とする。まず、新興国市場としてのインドネシアの全体像を把握し、経済発展の軌跡を確認した上で、インドネシア経済の特徴および産業や政策について知識を深める。 （到達目標） インドネシアを理解することを通じて、海外の経済への関心を高める。日本経済や日本企業を取り巻く国際経済の動きを理解するためには、対象国を様々な視点から理解することが重要であることを学び、広い視野で世界経済を観察することを身につける。				
2. 授業内容 第1回 ガイダンスおよびアジア新興国市場としてのインドネシア 第2回 インドネシア経済概要 第3回 インドネシアの競争力-日系企業の投資 第4回 インドネシアの政治・社会 第5回 インドネシアの社会・文化 第6回 インドネシア経済の特徴（人口大国） 第7回 インドネシア経済の特徴（資源大国） 第8回 インドネシアの企業グループ 第9回 インドネシアの金融部門とイスラム金融 第10回 気候変動とインドネシアの環境政策 第11回 受講生による研究報告 第12回 受講生による研究報告 第13回 受講生による研究報告 第14回 2026年のインドネシア・まとめ				
3. 履修上の注意 ・授業のうち、第11回～第13回は、受講生による研究発表を行い、（その内1回は外部講師による講義になる場合もある）インドネシア経済や産業に関して受講生全員で議論し理解を深める。 ・授業には必ず出席すること。 ・就職活動や公的行事により出席できない場合は、必ず事前にメールで連絡すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 普段から新聞やニュースに目を通して、インドネシアに関する記事（インドネシアの政治経済や日系企業の動きなど）、ASEANに関するニュースに留意しながら、インドネシアを含めたアジアが現在どのように動いているかを把握しておく。				
5. 教科書 教科書はとくに用いない。				
6. 参考書 講義中で使用するものではないが、参考資料として。 『経済大国インドネシア』佐藤百合（中公新書），2011年 『現代インドネシアを知るための60章』村井吉敬他（明石書店），2013年 “Indonesia Economic Prospects”，World Bank ウェブサイトよりダウンロード可。 https://www.worldbank.org/en/country/indonesia/publication/indonesia-economic-prospect				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて、適宜、レポート課題などに関するフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 課題レポート（中間課題 20％，期末課題 30％），研究報告 20％，平常点（授業参加度，受講態度等）30％の割合で評価する。				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN292J		
科目名		基礎専門演習 A		
担当者		一小路 武安		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 近年、生成 AI 等の発達により、さまざまな社会事象の理解の助けとなっている。一方で、人自身に求められるのは AI に頼れない咄嗟の状況理解となることが考えられる。そのため、本演習ではその場での読解と発信を重視し、演習時間に配布された経済や経営に関連する具体的な文献やレポートを読んだうえで発表・議論できるようになることを目的とする。 （到達目標） 1. 馴染みのない内容をその場で自分なりの理解ができる。 2. 自分なりの理解を言葉にして発信できる。 3. 他の人の理解をその人の文脈に従って評価できる。 4. お互いの立場を踏まえて議論し、発展的な解答を導ける。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：グループディスカッション 第 3 回：経営関連記事（1）読解及び発信 第 4 回：経営関連記事（2）読解及び発信 第 5 回：経営関連記事（3）読解及び発信 第 6 回：経営関連報告書（1）読解及び発信 第 7 回：経営関連報告書（2）読解及び発信 第 8 回：経営関連報告書（3）読解及び発信 第 9 回：経営学論文（1）読解及び発信 第 11 回：経営学論文（2）読解及び発信 第 12 回：経営学論文（3）読解及び発信 第 13 回：理解発表 第 14 回：総括				
3. 履修上の注意 通常の形式とは異なる演習であるため、履修を希望する学生は第 1 回授業に必ず出席し、内容を把握すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 演習で取り上げた文献について、読み返して確認し、自分の理解を発展させる。特に、関連内容について各自調べたことについてペーパーを作成する。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 適宜指定する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、発表に対するフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 議論への参加（50％）と課題への取り組み（50％）によって評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN292J		
科目名		基礎専門演習 A		
担当者		早川 佐知子		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：経営学と Well-Being 【講義の概要】 ・「人間にとっての幸せな生とは何か?」「経営学は、人間の幸福にどのように貢献できるのか?」一見、大きく、答えが見えないこのような問いについて議論し、共に考える演習とする。 ・前半は、「人生を分けるもの」をキーワードに、グループワークとプレゼンテーションを行う。そして、そのために経営がなしうることとは何かを追究する。 ・後半では、「ネガティブな出来事がもたらすもの」をキーワードに、さまざまな角度から考える。病気、失業、大切な人との別離など、人生にはさまざまな困難が起こりうる。これらを乗り越えるために経営学が貢献できることとは何か、文献資料を読み、ディスカッションする。 【到達目標】 自分なりの「Well-Being」の答えを見つける。 そのために経営学が貢献できることを探し出し、実践の方法を考える。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：人間と Well-Being 第2回：幸せと不幸って複雑だ (1) 第3回：幸せと不幸って複雑だ (2) 第4回：グループワーク 「人の人生を分けるもの」 第5回：グループワーク 「人の人生を分けるもの」 第6回：グループワーク 「人の人生を分けるもの」 第7回：グループワーク：プレゼンテーション 第8回：人間関係が楽になる? ワーク 第9回：「悲しみの力」(1) 第10回：「悲しみの力」(2) 第11回：「悲しみの力」(3) 第12回：「悲しみの力」(4) 第13回：「悲しみの力」(5) 第14回：まとめ				
3. 履修上の注意 ・履修を希望する学生は、必ず第1回のオリエンテーションに参加すること。履修者数の上限のある科目なので、履修意欲の高い学生を優先したい。 ・この基礎専門演習では、身近な「人生で起こる辛いこと」「そこから希望を持つこと」などについて考えてゆく。重い内容も多々あるので留意すること。単純にポジティブでハッピーな内容ではない。 ・演習科目なので、教員による講義ではなく、受講生のワークやディスカッションが中心となる。「受け身で聞いていれば単位がもらえる科目」ではなく、「メンバーとコミュニケーションをしながら一緒に考えたり学んだりしたい」と希望する人のための科目と捉えてほしい。 ・テキストを読み、そこから発展させて考え、ディスカッションする授業が多くある。本を読みたくないという人は履修しないでほしい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 回によっては、感想文の提出を求める。その上で次週までの1週間、学んだテーマについて自分なりに考え、より深い思考ができるように前進すること。				
5. 教科書 スーザン・ケイン著『悲しみの力』（ディスカバー・トゥエンティワン）				
6. 参考書 スティーブン・M・サウスウィックほか著『レジリエンス:人生の危機を乗り越えるための科学と10の処方箋』（岩崎学術出版社） 玄田有史著『希望のつくり方』（岩波新書） 坂口幸弘著『喪失学 ロス後をどう生きるか』（光文社新書）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 感想文（50％）：毎回、授業の最後を書く時間を設ける ディスカッション、プレゼンテーションへの貢献度（50％）				

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN292J		
科目名		基礎専門演習 A		
担当者		三上 真寛		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ミクロ経済学 〈概要〉 ミクロ経済学は、市場価格を参照する消費者と生産者の行動から、市場において需要と供給が均衡し、希少資源が効率的に配分されるメカニズムを分析する学問分野であり、国内外を問わず経済・経営分野において必要不可欠な知識体系、グローバルスタンダードと見做されている。この演習では、その基礎知識をグローバル社会において応用可能な形で修得するため、英語文献を用いてミクロ経済学を学んでいく。 〈到達目標〉 英語文献の講読を通じて、ミクロ経済学の基本的な視座と概念を修得し、市場経済の仕組みを英語で理解・説明できるようになることを目標とする。				
2. 授業内容 第1回 ミクロ経済学とは／What and why of microeconomics 第2回 消費者／Consumers (1) 第3回 消費者／Consumers (2) 第4回 生産者／Producers (1) 第5回 生産者／Producers (2) 第6回 市場／Markets (1) 第7回 市場／Markets (2) 第8回 市場／Markets (3) 第9回 市場の失敗と政策の失敗／Market and policy failures (1) 第10回 市場の失敗と政策の失敗／Market and policy failures (2) 第11回 市場の失敗と政策の失敗／Market and policy failures (3) 第12回 制度と組織／Institutions and organizations (1) 第13回 制度と組織／Institutions and organizations (2) 第14回 まとめ／What works?				
3. 履修上の注意 この演習はいわゆる「外国書講読」の形式をとるが、その目的は英文読解や英文和訳そのものではない。専門書の理解には英語力だけでなく、抽象度の高い文章を読み解く論理的思考力、専門分野に固有のものの見方・考え方が求められる。教科書は英語で書かれたミクロ経済学の入門書のうち最もコンパクトな部類に入るが、1・2 年次の学生にとっては決して簡単ではない。明確な目的をもって履修すること。 この演習が扱う内容は、学部必修科目「近代経済学A」と補完的關係にある。1 年次に履修すれば近代経済学Aの理解が促されるし、2 年次に履修すれば近代経済学Aの内容を別な角度・言語で学ぶことができるため、相乗効果が期待される。 特に次の者に履修を推奨する。(1) 海外留学を予定しており、留学先での発展的な学習に備えて、英語でミクロ経済学の基礎知識を修得したい者。(2) 経済・経営分野における専門科目の発展的な学習に備えて、グローバルスタンダードとなっているミクロ経済学の基礎知識を修得したい者。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、学習予定の範囲（1 回分 10～20 ページ）を通読した上で参加することが前提となる。テキストを全訳してくる必要はないが、受講者は概要の発表を求められる。予習により理解できた点と理解できなかった点を確認し、議論に参加できるようにしておくこと。				
5. 教科書 Microeconomics: A Very Short Introduction, Avinash Dixit (Oxford University Press) , 2014.				
6. 参考書 『ミクロ経済学：基礎へのアプローチ』三上真寛著（学文社）、2020 年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、随時、発表・課題に対するフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 議論への積極的な参加・発言（60％）と発表・課題への取り組み（40％）によって評価する。				
9. その他 ※履修希望者は、第1回目授業に必ず出席すること。				

本授業は、受講人数制限があるため、履修に際しては、WEB による事前受付を実施する。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN292J		
科目名		基礎専門演習 A		
担当者		森田 広大		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：中小事業者の会計実務 〈授業の概要〉 我が国において、中小事業者の数は多く、その会計実務について理解しておくことは重要である。中小事業者の会計処理を行う上では、企業会計の知識のみならず、関連する諸法令（特に税法）についても考慮する必要がある。また、会計実務といえば株式会社を代表とする法人に焦点が当てられがちであるが、たとえば法人の役員が個人で不動産投資を行って収入を得ている場合も考えられる。この場合、この法人役員については、個人事業者として当該不動産に関連する取引の会計処理を行うことが必要となるため、個人事業者の会計実務に関する知識も重要である。 そこで、本授業は中小事業者の会計実務について、グループワークを交えながら考察を試みることとする。 〈到達目標〉 中小事業者の基礎的な会計処理を行うことができる。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 個人事業者の会計実務①（開業～期中取引の処理） 第3回 個人事業者の会計実務②（決算・青色決算書の作成） 第4回 個人事業者の会計実務③（不動産からの収入がある場合） 第5回 個人事業者の会計実務④（個人事業者特有の会計処理） 第6回 中小法人の会計実務の概要 第7回 個別論点の検討①（現金預金） 第8回 個別論点の検討②（棚卸資産） 第9回 個別論点の検討③（固定資産） 第10回 個別論点の検討④（負債） 第11回 個別論点の検討⑤（純資産） 第12回 個別論点の検討⑥（消費税） 第13回 個別論点の検討⑦（法人税） 第14回 個別論点の検討⑧（収益・費用）、総まとめ				
3. 履修上の注意 ・簿記論Ⅰ・Ⅱの内容（または日本商工会議所主催簿記検定試験3級レベルの内容）を理解しておくこと。また、授業では計算する機会があるので電卓を持参すること。 ・授業では個人での発表のほか、授業内でグループに分かれて、議論・報告を行うことを予定している。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：授業前に事前に提示された事例について簿記書や実務書を調べ、会計上どのような取り扱いになるか自分の考えをまとめる。 復習：授業で扱った内容について振り返り、関連する論点についても専門書で調べる。				
5. 教科書 教科書は特に指定しない。授業内容をまとめたレジュメを配布する。				
6. 参考書 『体系複式簿記（改定版）』百瀬房徳著（森山書店） その他、開講時に紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 報告時に提出された資料について、授業内でコメントする。				
8. 成績評価の方法 授業内での報告・発言 80%、期末課題 20%により、総合的に評価する。				
9. その他 履修者は第1回の授業に必ず出席し、受講のルールについて確認すること。				

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN292J		
科目名		基礎専門演習 B		
担当者		新宅 純二郎		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：生産管理の基礎理論・概念とケース 〈概要〉 製造業は日本が世界をリードする優位な産業であり、その優位性の中心となる生産管理を学ぶことは、文系の学生にとってもきわめて重要なことである。本演習では、生産管理のさまざまな側面について、具体的なケースを中心に学ぶことで、製造業に関する関心を高めることを目的にしている。また、同時に、広く社会経済に関する問題に主体的に問題関心をもち、それについての自分の意見を主張できるようにする。 〈到達目標〉 1. 社会経済に関して主体的な関心をもてるようにすること。 2. テキストを読んで、その内容を理解し、報告できること。 3. 製造業と生産管理の基礎的な理論と概念を理解すること。 4. 自分の意見を説得的に表明できること。 5. 演習でのディスカッションで積極的に発言できること。 履修者は 20 名以内とする。				
2. 授業内容 各回の冒頭 20 分程度は、担当の学生が自分が関心を持つ社会経済問題を取りあげて、その問題の紹介と自身の意見表明をプレゼンテーションする「私の主張」セッション。後半はテキストの輪読セッションとする。輪読は担当者がその章のレジュメを作成して発表する。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 生産管理とは：フォード 第 3 回 品質管理：アサヒビール 第 4 回 原価管理：NEC 第 5 回 納期管理：Zara とユニクロ 第 6 回 設備管理：鉄鋼 第 7 回 労務管理：パナソニック 第 8 回 プラットフォームエコシステムにおける生産計画：ASUS 第 9 回 グローバル納期管理：トヨタ 第 10 回 海外生産：現代自動車 第 11 回 生産委託：ユニクロ 第 12 回 災害マネジメント：アイシン、リケン 第 13 回 生産技術：造船 第 14 回 スマートファクトリー：富士電機				
3. 履修上の注意 輪読、発表、ディスカッションに積極的に取り組むこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、テレビ、雑誌、ネットなどで、社会経済に関するニュースを日頃から主体的に読んで関心を持つ習慣をもつこと。				
5. 教科書 新宅ほか『ケースに学ぶ生産管理』有斐閣、2024 年。				
6. 参考書 必要に応じて指示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 授業への貢献など平常点（20％）、私の主張発表（40％）、輪読発表（40％）として総合的に判定する。 以下が単位修得の要件となります。 ・テキストの担当章の発表が 2 回程度。 ・私の主張セッションの発表（5 分程度）の発表が 3 ～4 回。 ・授業出席率 8 割以上。				

9. その他

参加者は 20 名程度。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN292J		
科目名		基礎専門演習 A		
担当者		新宅 純二郎		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：国際経営の基礎理論・概念とケース 〈概要〉 経済のグローバル化によって、国際経営は重要な経営課題になっている。本演習では、国際経営のさまざまな側面について、具体的なケースを中心に学ぶことで、国際経営に関する関心を高めることを目的にしている。また、同時に、広く社会経済に関する問題に主体的に問題関心をもち、それについての自分の意見を主張できるようにする。 〈到達目標〉 1. 社会経済、国際経営に関して主体的な関心をもてるようにすること。 2. テキストを読んで、その内容を理解し、報告できること。 3. 国際経営の基礎的な理論と概念を理解すること。 4. 自分の意見を説得的に表明できること。 5. 演習でのディスカッションで積極的に発言できること。 履修者は 20 名以内とする。				
2. 授業内容 各回の冒頭 20 分程度は、担当の学生が自分が関心を持つ社会経済問題を取りあげて、その問題の紹介と自身の意見表明をプレゼンテーションする「私の主張」セッション。後半はテキストの輪読セッションとする。輪読は担当者がその章のレジュメを作成して発表する。 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 国際経営とは：味の素のケース 第 3 回 国際経営戦略：トヨタ自動車 第 4 回 国際経営組織：アクセンチュア 第 5 回 国際マーケティング：資生堂 第 6 回 海外生産：シーゲートテクノロジー 第 7 回 国際研究開発とイノベーション：IBM, ネスレ 第 8 回 国際経営の人的資源管理：シーメンス 第 9 回 国際経営財務：ソニー 第 10 回 自動車産業：現代自動車とトヨタ 第 11 回 エレクトロニクス：レノボグループ, ノキア, サムスン 第 12 回 IT：グーグルと IBM 第 13 回 流通：ウォルマート, カルフール, イオン 第 14 回 生活文化財産業：P&G, ユニリーバ, 花王				
3. 履修上の注意 輪読、発表、ディスカッションに積極的に取り組むこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、テレビ、雑誌、ネットなどで、社会経済に関するニュースを日頃から主体的に読んで関心を持つ習慣をもつこと。				
5. 教科書 吉原ほか『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣、2013 年。				
6. 参考書 必要に応じて指示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 授業への出席・発言など平常点（20%）、私の主張発表（40%）、輪読発表（40%）として総合的に判定する。 以下が単位修得の要件となります。 ・テキストの担当章の発表が 2 回程度。 ・私の主張セッションの発表（5 分程度）の発表が 3～4 回。 ・授業出席率 8 割以上。				

9. その他

参加者は 20 名程度。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E		
科目名		Core Subjects Seminar C		
担当者		NAGAI HIROHISA		
2 単位	Year:1	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Research Methods Using Data to Understand Intercultural and Global Issues Course Description This course develops students’ ability to use basic research methods and statistical tools to examine practical intercultural and global issues. Each student independently designs a small-scale research project, constructs a survey instrument, collects original data, analyzes the results using SPSS, and presents clear, data-based conclusions. The course emphasizes applied analytical skills. Rather than focusing on advanced statistical theory, students learn how to use data to support decision-making, evaluate assumptions, and interpret patterns in real-world contexts such as international business, global teamwork, and cross-cultural communication. By the end of the semester, students will have completed the full analytical process—from identifying a practical question to presenting evidence-supported insights—and will gain confidence in using statistics as a professional tool. Learning Outcomes By the end of the course, students will be able to: - Identify a practical, researchable question related to intercultural or global issues - Design a structured survey suitable for real-world data collection - Collect and manage original data responsibly - Use SPSS to conduct basic descriptive and inferential analysis - Interpret statistical results accurately and clearly - Present data-driven insights with practical implications				
2. 授業内容 Weekly Schedule Week 1 Orientation and Analytical Thinking in Practice Overview of course structure, expectations, and evaluation. Discussion of how data is used in business and global organizations. Introduction to the individual semester project. Attendance in Week 1 is mandatory to receive credits. Week 2 From Practical Question to Research Question Distinguishing general interests from actionable research questions. Introduction to key variables and measurable concepts. Students begin developing their individual research focus. Week 3 Planning a Small-Scale Research Project Clarifying objectives and hypotheses. Identifying target respondents. Ensuring feasibility and clarity. Students confirm their working research question. Week 4 Designing an Effective Survey Constructing clear survey items. Using Likert scales appropriately. Avoiding bias and ambiguity. Week 5 Sampling and Ethical Considerations Selecting appropriate respondents. Minimum sample size guideline: at least 20 responses (30 or more recommended). Ensuring voluntary participation and confidentiality. Students finalize their survey and begin data collection. Week 6 Data Collection and Data Preparation Monitoring response quality.				

Managing incomplete or inconsistent responses.

Preparing data for analysis.

Week 7

Midterm Individual Project Presentation

Students present:

- Research objective
- Hypothesis
- Survey design including questions
- Target sample
- Data collection progress

Feedback focuses on clarity and practical relevance.

Week 8

Introduction to SPSS

Data entry procedures.

Variable definition and scale identification.

Checking for input errors.

Week 9

Descriptive Analysis

Frequency distributions.

Measures of central tendency.

Basic graphical presentation.

Students analyze and summarize their own dataset.

Week 10

Comparing Groups

Understanding when and how to compare groups.

Applying appropriate comparison techniques when relevant.

Week 11

Understanding Relationships

Introduction to correlation analysis.

Interpreting direction and strength of relationships.

Week 12

Basic Regression Analysis

Introduction to regression as a practical prediction tool.

Interpreting results in accessible, applied terms.

Week 13

Translating Analysis into Insight

Moving from numbers to conclusions.

Identifying practical implications.

Preparing a clear and professional presentation.

Week 14

Rotating Panel Discussion

3 panels -30 minutes per panel

15 minutes - 3-minute individual presentations

10 minutes - Panel cross-discussion

5 minutes - Floor comments

3. 履修上の注意

Enrollment Limit

Due to the interactive course style and the use of an active learning classroom, enrollment is limited to 20 students (10 Meiji University regular students and 10 exchange students).

For exchange students registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period.

Attendance Policy

Attendance in Week 1 is mandatory.

Students must attend at least 10 of the 14 sessions to receive credit.

Failure to meet the minimum attendance requirement results in automatic failure regardless of assignment performance.

Academic Integrity and Professional Conduct

All data must be original and collected ethically.

Fabrication or falsification of data will result in failure of the assignment and may lead to further disciplinary action.

Students are expected to approach their project with professional responsibility and respect for participants.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading and other assignments will be announced in class.

Assignments should be submitted via the designated sections on Oh-o! Meiji.

5. 教科書

There is no required textbook. Lecture materials will be uploaded to Oh-o! Meiji or distributed in class.

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

Activities and exercises will be reviewed and returned either in class or via Oh-o! Meiji.

8. 成績評価の方法

Assessment

Midterm Research Proposal (Presentation) - 20%

Data Collection and SPSS Analysis Assignment - 20%

Final Panel Presentation - 25%

In-Class Contribution and Professional Conduct - 35%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN291E	
科目名		Core Subjects Seminar D	
担当者		NAGAI HIROHISA	
2 単位	Year:1	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 A business case study is a learning method originally developed at Harvard Business School to train managers to make strategic decisions related to business operations. It requires multiple competencies, including identifying key issues, analyzing underlying causes, developing solution options, and selecting the most appropriate course of action through interactive discussion. This course applies the essential elements of the case method to undergraduate business students to develop advanced business knowledge and managerial decision-making competency. While selected Harvard Business Review cases are used, the course places greater emphasis on movie-based case analysis and self-case development, enabling students to connect managerial decision-making with real-life and personal contexts. In addition, the course incorporates LEGO® Serious Play® (LSP) as an experiential learning method. In the LSP sessions, students will treat their own future career as a case study, visualize challenges and decision points, and receive ideas and advice from classmates through structured discussion. Through repeated cycles of analysis, discussion, and reflection, students integrate theory with practice in both global business and personal career development contexts. Case Method Learning Process Cases and case-like materials will be studied through the following three-step process: Individual Preparation Read, analyze, and prepare ideas before class. Small Group Discussion (In-Class) Exchange perspectives and deepen analysis in small groups. Class Discussion (In-Class) Examine alternative solutions and managerial implications through class-wide discussion.			
2. 授業内容 Session 1: Course Orientation(Mandatory for Course Credit) Introduction to the course, learning objectives, and the case method Sessions 2-3: Experiencing the Case Method (Mini Cases) Practice identifying issues, causes, and solutions using short mini cases Sessions 4-5: Harvard Business Review Short Cases Selected HBR short cases (approximately 3-4 pages) Sessions 6-7: Movie Analysis (Part 1 & Part 2) Movie-based case analysis focusing on leadership, teamwork, motivation, and decision-making Includes role-based discussion and managerial interpretation Session 8: Midterm Quiz - Case Analysis This session is designed to assess students’ understanding and application of the case method learned in the first half of the course. Rather than testing factual knowledge, the midterm quiz focuses on analytical thinking and managerial judgment. Sessions 9-10: Self-Case Development - “My Career as a Case” Students write and analyze their own future career as a managerial case, identifying: a. Key challenges b. Internal and external factors c. Possible solution options d. Followed by peer discussion and feedback Session 11: Class Discussion on Self-Cases Cross-case discussion based on students’ self-cases. Comparison of decision-making patterns and strategies Session 12: Introduction to LEGO® Serious Play® and Career Case Thinking Students learn the basic principles and facilitation rules of LEGO® Serious Play®. Through hands-on exercises, they practice expressing ideas through models and storytelling. Session 13: Construction of Individual Career Development Model Using LSP, students construct an individual career development model by treating their own career as a case study. Session 14: Presentation and Peer Feedback on Individual Career Development Model Based on the individual career development models constructed in Session 13, students give presentations explaining their career life-cycle perspective, key challenges, and future direction.			
3. 履修上の注意 a. Enrollment Limit			

Due to the interactive course style and the use of an active learning classroom, enrollment is limited to 15 students (5 Meiji University regular students and 10 exchange students).

For exchange students registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period.

b. Attendance Policy

Attendance at the first orientation session is mandatory for all students.

Absences due to unavoidable and legitimate reasons will be considered only if official supporting documentation is submitted. Students who are absent from the first orientation session without such documentation will have their course registration canceled.

As this is an experiential and participation-based course, students are required to attend at least 10 out of 14 classes (approximately 70%), including the orientation session to earn course credit. In addition, from the perspective of professional time management, late arrivals will result in point deductions.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.

5. 教科書

There is no textbook. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or handed out in class.

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

Feedbacks of the other activities and exercises will be either handed out or returned by Oh-o! Meiji.

8. 成績評価の方法

Active participation in class discussions and activities: 50%

Midterm Quiz: 20%

Final Presentation: 20%

Final Discussion: 10%

9. その他

Individual preparation for classes by reading and analyzing the cases essential.

Outside of class team activities to prepare for a team presentation is required.

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN991J	
科目名		基礎専門特別講義 A	
担当者		中村 昭裕	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 【テーマ：グローバリゼーションを考える】 国際的なモノ・マネー・人の流れが拡大するグローバリゼーションの急速な進展は、世界経済に大きな恩恵をもたらした一方、富の格差や社会の分断をもたらし、トランプ政権の関税政策など貿易をめぐる対立が激化している。政治面でも、ウクライナや中東をはじめとする紛争が増加し、これまで世界の安定を支えていた国際秩序やルールが大きく揺らぎつつある。こうした状況を踏まえ、本授業では、グローバリゼーションが経済や国際政治に及ぼす影響と政策対応などについて、グループワークを中心に考察する。 コースの前半では、2 回程度、重要トピックについてグループで分担して調べ、他の履修生に対してプレゼンテーションを行う。後半では、議論の分かれるトピックについて、2 回程度ディベートを行い、論点を明らかにしていく。授業では、担当教員の国家公務員としての行政経験も反映させながら、履修生が主体となって議論を進めていく。 この授業を通じ、今起きているグローバルな課題の現状と問題の本質を理解し、将来グローバル社会で活躍していく上で不可欠な知見を得ることを到達目標とする。 なお、履修者はグループワークへの積極的参加が必須であるので、原則全ての回に出席しグループワークに参加できることを履修の条件とする。これが難しい場合は履修はご遠慮下さい。			
2. 授業内容 第1回：授業ガイダンス・イントロダクション 第2回：グローバリゼーションの経済的影響(1) グループワーク 第3回：グローバリゼーションの経済的影響(2) プレゼンテーションその1 第4回：グローバリゼーションの経済的影響(3) プレゼンテーションその2 第5回：グローバリゼーションの政治・社会的影響(1) グループワーク 第6回：グローバリゼーションの政治・社会的影響(2) プレゼンテーションその1 第7回：グローバリゼーションの政治・社会的影響(3) プレゼンテーションその2 第8回：ディベート A (1) グループワーク 第9回：ディベート A (2) グループワーク、ディベートその1 第10回：ディベート A (3) ディベートその2 第11回：ディベート B (1) グループワーク 第12回：ディベート B (2) グループワーク、ディベートその1 第13回：ディベート B (3) ディベートその2 第14回：a. 総復習 b. 期末試験 (注) 上記は暫定的計画であり、履修生の数や世界情勢等に応じ変更・修正がありうる。			
3. 履修上の注意 1. 本授業は、履修生によるグループディスカッション、プレゼン、ディベートが中心となるので、原則全ての回に出席できること、また、やむを得ず欠席する場合は、グループワークに支障が生じないよう、事前に他のグループメンバーに連絡することを履修の条件とする。これが難しい場合、グループワークに支障が生じ、他のメンバーに迷惑をかけることになるので、履修はご遠慮下さい。 2. 授業の進め方等の詳細は第1回で説明するので、履修希望者は必ず第1回に出席して下さい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：指示に従い、予習事項について事前に調べ、提出する。 復習：指示に従い、リフレクションペーパーを提出する。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 戸堂康之『なぜよそ者とつながることが最強なのか』プレジデント社 2020 年 猪俣哲史『グローバル・バリュー・チェーン 新・南北問題へのまなざし』日本経済新聞出版社 2019 年 リチャード・ボールドウィン『世界経済の大いなる収斂 IT がもたらす新次元のグローバリゼーション』日本経済新聞社 2018 年 ブランコ・ミラノビッチ『大不平等 エレファントカーブが予測する未来』みすず書房 2017 年 村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ（新版）』有斐閣 2017 年 その他必			
7. 課題に対するフィードバックの方法 次回の授業の中で必要に応じてフィードバックする。			

8. 成績評価の方法

課題（予習課題、リフレクションペーパー等）：25%

授業への貢献度（プレゼン・ディベートの内容、ディスカッションでの発言等）：50%

期末試験：25%

ただし、単位認定は以下の条件を全て満たすことを前提とする。

- ・無断欠席がないこと。
- ・出席回数が全体の 2/3 以上であること。
- ・期末試験を受験すること。

9. その他

専攻分野や予備知識に関わらず、グローバルな課題に関心のある全ての方の受講を歓迎します。

上記のように、グループワークが主体の授業なので、原則全て出席し、グループワークに責任をもって積極的に参加できること、またその意欲のあることが履修の条件です。それが難しい方はご遠慮下さい。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN996J	
科目名		基礎専門特別講義 B〔M〕	
担当者		鳥居 陽介	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ 「金融リテラシーとライフデザイン」 (概要) この授業では、金融に関する基礎的な知識や実際の知識を学びます。一生涯の収入はどの程度か、「人生の3大費用」とは何か（いくらかかるのか）、社会人になったら「資産形成」にすぐ着手した方がよい理由は何か、そしてその方法とはどのようなものか。こうしたことを学ぶとともに、経済や金融の基本的な仕組みについても学ぶことができます。今や、就職先によっては、社会人1日目から自分の企業年金の拠出金をどう分散して運用するのか（預金や株式、投資信託、海外資産など）、会社側から選択を迫られる時代です。経済や金融の流れ、今後の人生設計におけるお金の活かし方などを広く知ってもらい、社会人となってからの金融面のノウハウを身に付けてもらいます。皆さんの「生きる力」を高めるお手伝いをするのが、この講義の最大の狙いです。 テーマごとに、日本銀行はじめ銀行、証券、保険、フィナンシャルプランナーなど様々な専門分野の実務者や官庁の方々にご登壇頂き、それぞれの実務経験を活かしたお話を頂戴いたします。 (到達目標) この講義では、生活設計におけるお金の活かし方、国民一人ひとりに求められる資産形成に関する認識、金融におけるリスクとリターン、これらに関連する金融や経済の基礎知識を身に付けてもらうことを目標としています。これらの知識をもとに、常にコストとメリットを意識しつつ経済合理的な判断を行う姿勢を身につけてもらうことも目標としています。			
2. 授業内容 この授業は、14回全てをメディア授業（オンデマンド型）で実施いたします。（2025 年 4 月 10 日 更新） 第 1 回 金融経済教育の重要性（イントロダクション） 鳥居 陽介，〔メディア授業（オンデマンド型）〕 金融庁 野村泰蔵 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 村松 祐子 第 2 回 人生とお金 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 山田 圭子 第 3 回 お金を稼ぐ 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 山田 圭子 第 4 回 お金と経済 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 山田 圭子 第 5 回 ライフプランを描く① 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 後藤文恵〔メディア授業（オンデマンド型）〕 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 後藤文恵 → 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 福島 えみ子 第 6 回 お金を借りる① 全国銀行協会 窪田敦子〔メディア授業（オンデマンド型）〕 全国銀行協会 窪田敦子 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 福井 敏雄 第 7 回 お金を借りる② 全国銀行協会 窪田敦子〔メディア授業（オンデマンド型）〕 全国銀行協会 窪田敦子 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 福井 敏雄 第 8 回 お金をふやす① 日本証券協会 高木典子〔メディア授業（オンデマンド型）〕 日本証券協会 高木典子 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 高木典子（所属のみ変更） 第 9 回 お金をふやす② 投資信託協会 上野尚美〔メディア授業（オンデマンド型）〕 投資信託協会 上野尚美 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 高木典子 第 10 回 リスクに備える① 生命保険文化センター 土手隆彰〔メディア授業（オンデマンド型）〕 生命保険文化センター 土手隆彰 → 生命保険文化センター 鈴木 千秋 第 11 回 リスクに備える② 日本損害保険協会 山本真史〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 12 回 トラブルに強くなる 東京都金融広報中央委員会 奥原早苗〔メディア授業（オンデマンド型）〕 東京都金融広報中央委員会 奥原早苗 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 奥原早苗（所属のみ変更） 第 13 回 ライフプランを描く② 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 後藤文恵〔メディア授業（オンデマンド型）〕 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 後藤文恵 → 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 福島 えみ子 第 14 回 全体総括 鳥居陽介，金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭〔メディア授業（オンデマンド型）〕 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 清水秀昭 → 金融経済教育推進機構（J-FLEC） 上原 千華子 *講演者は変更場合があります。 *本講義はメディア授業ですが、毎週水曜日 2 限に資料を更新いたします。			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講されます。授業は全て、講義動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。「授業内容」欄に記載の通り、講義動画は原則毎週水曜日 2 限に Oh-o!Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中のみの視聴が可能です。ただし、成績評価の前提として、各回のアンケート（感想・要望・質問に関するアンケート）に答えることを求めますので、講義動画は毎週必ず確認してください。教員への質問・相談は、この毎回のアンケートに記入してください。 また、補足資料として、e ラーニング講座『マネビタ』を活用します。別途受講登録が必要です。Oh-Meiji にマニュアルが掲載されていますので、ご参照ください。			

本授業を受けるうえで、特段の前提条件や前提知識などはありません。皆さんのこれからの人生に直結する実学的な知識が次々と出てきます。初めて聞く概念や用語も多数あるはずですが、多くの概念が講義前半（概念・概要説明）と後半（より踏み込んだ個別説明）で2回程度触れられますので、焦らずに、じっくりと吸収して取り組んでください。

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

金融リテラシーは幅広い概念であり、多分野にまたがる知識もありますので、配布される講義資料を使って毎回の復習をできるだけ心掛けてください。中間レポートと定期試験に対応するうえでも、復習は重要です。また、「マネビタ」の動画再生時間は10～15分程度なので、講義内容の予習・復習にも役立ててください。

5. 教科書

参考となるパンフレット等が配られる場合もありますが、基本となるのは毎回の講義資料・解説動画です。適宜、「マネビタ」の関連動画で補足して下さい。

6. 参考書

参考となるパンフレット等が配られる場合もありますが、基本となるのは毎回の講義資料です。適宜、「マネビタ」の関連動画で補足してください。

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題としてアンケートを実施いたしますが、感想を求めるものであるため、特段のフィードバックは行いません。質問に対しては、アンケート締切から1～2週間後を目途に、「ディスカッション」欄にて回答いたします。

8. 成績評価の方法

定期試験（択一式試験・80%）と中間レポート（20%）をもとに総合評価します。

ただし、定期試験を受験するための前提条件として、毎回感想の提出を求めます。全14回中10回以上のアンケート回答がない場合は成績評価の対象外とします。また、中間レポート未提出の場合も成績評価の対象外とします。定期試験は、対面ではなくオンラインで、定期試験実施期間中に実施します。試験日時は、7月上旬を目途に Oh-o!Meiji 経由でのお知らせ配信を実施するとともに、シラバスの補足に記載いたしますので、忘れずに確認してください。

9. その他

特にありません。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN991J	
科目名		基礎専門特別講義 C	
担当者		宮田 憲一	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 [b] □大同生命保険株式会社寄付講座 スタートアップ起業家育成講座 1 (M-SET 1) □講義テーマ：「起業のメカニズムを体験する」 [/b] ＜概要＞ 今、活力ある「新しい企業」が求められている。21 世紀に入り 20 年あまりが経過する中で、地球環境、日常生活、そして人々の意識が大きく変化し、持続可能な新たな社会の形や経済のあり方が模索されている。その実現や課題解決には、様々なイノベーションや新しいビジネスモデルが必要であり、それを牽引する存在として新たな価値観や考え方をもったアントレプレナー（起業家）によって創業される「新しい企業」に再び大きな注目が集まっている。それでは、どうすれば「自分のアイデア」を事業化して「新しい企業」をスタートアップ（起業）することができるのだろうか。 本講義は、学術コーディネーターである担当講師（宮田憲一）に加えて、実務コーディネーターとして川野正雄氏（東京コンテンツイノベーションセンター／TCIC）のご協力を仰ぎ、現役の起業家、投資家、アクセラレーター等スタートアップ業界の豊富な実務経験をもつゲスト講師の方々を迎えながら、「起業」プロセスをより実践的に学んでいく。例えば、起業支援の現場で様々な起業家と出会った経験からみる「起業」の魅力、アイデアのビジネスモデルへの落とし込み方、生み出したビジネスモデルを実際に事業化する考え方、資金調達するためのプレゼン方法、企業を作るために必要な登記登録等の手順など、起業からみた「実際のビジネス」をアクティブラーニングで学んでいく。現場でスタートアップに関わる様々なプロフェッショナルの方々に、起業の大変さと面白さ、一度就職した後の起業というキャリアプランなどのお話も頂きながら、学生諸君に「起業する」プロセスを疑似体験してもらう。更に AI、ブロックチェーンという最新のテクノロジーを専門家から学び、起業アイデアを考える機会を創出する。 大学にしながら、本格的なスタートアップの考え方や実践を学べる貴重な講義内容となっている。在学中に起業を考えている学生や明治ビジネスチャレンジに参加希望する学生に加えて、卒業後一度就職したあとの選択肢を増やしたい学生、またビジネスのスキルやプレゼン能力を学びたい学生にも絶好の機会として活用してもらいたい。 ＜到達目標＞ ・ 起業に必要な実践的な知識・技能を身につける。 ・ 最新のテクノロジーなど、講義で学んだ知識を活かして、それらをビジネスモデル、事業計画、マーケットとの関係から応用する能力を養う。 ・ アイデアの出し方、プレゼンの仕方、資料の作り方などビジネススキルを身につける。 ・ 明治ビジネスチャレンジへの応募に向けた事業アイデアを打ち出す。 2. 授業内容 【マインドセット】 第 01 回：「Program オリエンテーション：スタートアップとは？」 □ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 第 02 回：「起業を知る①：起業家の話を聞く（文系からの起業）」 □ゲスト講師：創業手帳株式会社 代表取締役社長 大久保幸世氏（明大 0B） 第 03 回：「起業を知る②：起業家の話を聞く（理系からの起業）」 □ゲスト講師：株式会社リフカム 代表取締役 清水巧氏（明大 0B） 【アイデア創出】 第 04 回：「起業を目指す①：起業アイデア創出」 □ゲスト講師：株式会社ツクリエ 代表取締役 鈴木英樹氏 第 05 回：「起業を目指す②：公的創業支援施設訪問」 第 06 回：「最新テクノロジーを知る①：ブロックチェーン技術」 □ゲスト講師：ブロックチェーン推進協会 エヴァンジェリスト 奥 達男氏 第 07 回：「最新テクノロジーを知る②：AI 技術」 □ゲスト講師：AI HUB 株式会社 代表取締役 CTO 新井モノ氏 【ビジネスモデル構築】 第 08 回：「リーンキャンパスの作り方」 第 09 回：「ビジネスモデルの作り方①：ビジネスモデルとリーンキャンパス」 □ゲスト講師：株式会社ツクリエ 取締役 大藤充彦氏 第 10 回：「ビジネスモデルの作り方②：投資対象としてのビジネスモデル」 □ゲスト講師：株式会社ディーエスアイ 代表取締役 熊谷孝幸氏			

第 11 回：「ビジネスモデルの発表①：CVC 役員の視点から」 ☐ ゲスト講師：松竹ベンチャーズ株式会社 取締役常務執行役員 森川朋彦氏 第 12 回：「ビジネスモデルの発表②」 【ビジネスモデルから起業へのステップ】 第 13 回：「起業シミュレーション：会社登記を作る」 ☐ ゲスト講師：合同事務所ジュリスター・インターナショナル 司法書士 山北悠介氏 第 14 回：「Program まとめ：事業計画発表と提出」 ☐ ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 ※毎回の授業は、実務コーディネーターや学術コーディネーターによって進行していきます。
3. 履修上の注意 ・本講義履修には初回授業内で作成・提出する課題が必要となる。初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・本講義は、「経営学」の単位を取得し（他学部での「経営学」相当科目の取得単位も可）、起業に興味関心がある学生の履修を推奨する。 ・履修希望者が多数に上った場合は、初回授業で提出する課題の内容、「経営学」の単位取得、ビジネスチャレンジの参加経験、起業への熱意などの基準から、履修者数を選抜する。 ・本講義は、その性格から、履修者の積極的かつ主体的な授業への取り組みが求められるため、その点を理解して履修すること。 ・ゲスト講演や課外授業など頻繁に実施するため、遅刻は特別な事情がない限り認めない。 ・課外授業実施時には、都内での公共交通機関を利用する予定である。その際の交通費を負担してもらうことになることを理解しておいてもらいたい。 ・本講義は、2023 年度に「基礎専門特別講義 B」として開講されたものである。同講義を履修したものは本講義を履修できないので注意すること。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ☐ 予習（3 時間） ・ビジネスモデルや事業計画に関する課題がある際は、授業での配布資料だけでなく、参考書などを読み、また自分のビジネスアイデアに関連する情報をできるだけ調査し、受講の準備をすること。 ☐ 復習（2 時間） ・ゲスト講師や施設訪問の際には、授業で学んだことと、実際の話がどのようにつながるのかについて、ノートを作成しながら再確認してもらいたい。
5. 教科書 教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。
6. 参考書 ・『スタートアップの経済学』加藤雅俊著（有斐閣）、2022 年。 ・『アントレプレナーシップ入門 新版』忽那憲治ほか著（有斐閣）、2022 年。 ・『起業の科学：スタートアップサイエンス』田所雅之著（日経 BP）、2017 年。
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でのコメントや講評を通じてフィードバックをおこなう。
8. 成績評価の方法 授業への貢献度 30%，各発表（プレゼン）30%，成果物（事業計画書）40%により評価する。
9. その他 ☐ 1～4 年生まで起業に興味がある学生、明治ビジネスチャレンジに応募を考えている明大生の履修を歓迎する。 ☐ 社会的状況により対面授業の実施が困難になった場合は、対面授業をリアルタイム配信に変更しての実施を予定している。その際は、Oh-o! Meiji のお知らせ機能から連絡するため、確認を忘れないように注意すること（転送設定を推奨）。 ☐ 本講義の単位を取得することで、3・4 年次駿河台キャンパスで開講するスタートアップ起業家育成講座 2（M-SET 2）「経営学特別講義 D：「スタートアップ経営のメカニズムを体

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN996J	
科目名		基礎専門特別講義 D〔M〕	
担当者		加藤 友佳	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：「税金」や税に関わる様々な仕事を理解して将来の選択肢を広げよう！ 〈授業の概要〉 この授業では、税務の世界で活躍されている様々な実務家を講師としてお招きし、租税が私たちの生活にどのようにかかわっているかについて理解を深める。具体的には、納税、徴収、投資等について、経営者、税理士、公認会計士、弁護士、国税局等、様々な立場から、租税の役割を学ぶ。 〈到達目標〉 講師の豊富な経験や考え方、最新の実務ケースを通じて、租税倫理を身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 暮らしの中の税（イントロダクション） 【メディア授業（オンデマンド型）】 明治大学経営学部 加藤友佳 第2回 会計を理解して将来の選択肢を広げよう！ 1 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士、アカウンティングワークス株式会社 代表取締役 花房幸範氏 第3回 会計を理解して将来の選択肢を広げよう！ 2 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士、アカウンティングワークス株式会社 代表取締役 花房幸範氏 第4回 会計を理解して将来の選択肢を広げよう！ 3 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士、アカウンティングワークス株式会社 代表取締役 花房幸範氏 第5回 世界経済と税の世界 【メディア授業（オンデマンド型）】 プレミア国際税務事務所 代表 公認会計士 赤塚孝江氏 第6回 税と仕事～経営者 【メディア授業（オンデマンド型）】 本城直季氏 第7回 日本経済の政策決定と公認会計士 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士 瀧澤裕也氏 第8回 国のお財布事情～公会計と行政評価 【メディア授業（オンデマンド型）】 総務省行政評価局元局長 讃岐建氏 第9回 スポーツと税～会計・税務の面からみたプロスポーツ 【メディア授業（オンデマンド型）】 公認会計士 税理士 村田俊祐氏 第10回 税と仕事～税理士 【メディア授業（オンデマンド型）】 税理士法人山田&パートナーズ パートナー・アドバイザー本部長 宇田川隆氏 第11回 税と仕事～弁護士 【メディア授業（オンデマンド型）】 弁護士法人 Y&P 法律事務所 代表弁護士 平良明久氏 第12回 納税者になったらどうする？～税金のトラブル 【メディア授業（オンデマンド型）】 元国税審判官、松岡吉田法律事務所 弁護士 吉田正毅氏 第13回 税と仕事～国税専門会 【メディア授業（オンデマンド型）】 東京国税局 人事専門官 長谷山信也 第14回 現代社会と税～国税専門官 【メディア授業（オンデマンド型）】 東京国税局 人事専門官 長谷山信也			
3. 履修上の注意 本授業は、メディア授業科目として開講される。この科目の履修者は「基礎専門特別講義 B〔M〕（金融リテラシーとライフデザイン）」とのセット履修を推奨する。授業はオンデマンド配信型で実施され、授業動画は Oh-o! Meiji にアップロードされる。授業動画は原則、毎週火曜日までに公開し、そこから1週間視聴可能である。また、毎回の講義動画視聴後に課されるリアクションペーパーや小テスト等の課題をもとに、出席確認および理解度確認を行う。 なお、リアクションペーパーについては必ず提示されたひな形を用いて提出すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習はとくに必要ないが、授業で取り上げた箇所の復習を1時間程度、丁寧に行うこと。			
5. 教科書 教科書の指定はない。各講師から指示がある。			
6. 参考書 適宜各講義で示されるもの。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

各課題について講師からコメントがある場合には、適宜公表する。

8. 成績評価の方法

成績については以下の基準に従って評価する。

平常点（参加状況、課題）：100%

※対面形式での試験は行わない。

※なお、3分の2以上の出席が確認できない履修者については評価の対象とならない。

9. その他

本授業は原則としてオムニバス形式で開講される。講師は、弁護士、公認会計士、税理士、国税専門官などバラエティに富んでいる。

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN996J	
科目名		基礎専門特別講義 D〔M〕	
担当者		小関 隆志	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：ソーシャルな起業をめざせ！ 授業の概要：日本では、2000 年代後半のソーシャルビジネス流行から間をおいて、近年再びソーシャルビジネスへの注目が高まっている。その時々表現は、ソーシャル・ベンチャー、インパクト企業、ゼブラ企業、インパクト・スタートアップ、SDGs ビジネス、ソーシャルセクターなど多様であるが、社会性と経済性を両立した企業・ビジネスという点では共通している。 日本政府も経済産業省を中心として、ソーシャルビジネスへの支援策を打ち出し、若者に対して社会課題を視野に入れた起業を促す動きも出てきた。 民間でもソーシャルビジネスや社会起業家を支援・育成する組織が活躍し、近年はインパクト・スタートアップ協会も設立されているが、政府・自治体との連携で起業家を育成する流れが強まっている。 国内のソーシャルビジネスは多様であることから、本講義はいくつかの種類に分けて、その主な支援組織と個別企業の事例を取り上げ、実像に迫る。実務家はその実務経験を生かした実践的教育を行う。また、研究者の講義においてはソーシャルな起業の多面的な現状と課題、可能性を体系的に示す。 到達目標：ソーシャルな起業の意義と実態を把握し、関心を強める。			
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション（経営学部教授 小関隆志） 第 2 回 社会的企業の起業（関西大学商学部教授 横山 恵子） 第 3 回 起業家の育成・支援(1) (株)ボーダレス・ジャパンの事例 ((株)ボーダレス・ジャパン ボーダレスアカデミー代表 半澤 節) 第 4 回 起業家の育成・支援(2) うきはの宝株式会社、株式会社上向きの事例 (うきはの宝(株) 代表取締役大熊充／(株)上向き 代表取締役 白坂大作) 第 5 回 社会的企業への資金提供(1) 西武信用金庫の事例 (西武信用金庫理事長 高橋一朗) 第 6 回 社会的企業への資金提供(2)PIAZZA 株式会社の事例 (PIAZZA 株式会社代表取締役 矢野 晃平) 第 7 回 社会的企業への資金提供(3) 認定特定非営利活動法人 Learning for All の事例 (認定特定非営利活動法人 Learning for All シニアマネージャー 高際俊介) 第 8 回 協同での起業(1)労働者協同組合とは (駒澤大学経済学部教授 松本 典子) 第 9 回 協同での起業(2)ワーカーズコープの事例 (一般社団法人協同総合研究所 専務理事 高橋 弘幸) 第 10 回 協同での起業(3)ワーカーズコレクティブの事例 (一般社団法人市民連帯経済つながるかながわ専務理事 井上 浩子) 第 11 回 地域での起業と官民連携(1)京都市ソーシャルイノベーション研究所の事例 (SILK イノベーションコーディネーター 井上良子) 第 12 回 地域での起業と官民連携(2)SILK「これからの 1000 年を紡ぐ企業」の事例 ((株)堤浅吉漆店代表 堤卓也) 第 13 回 全国的な起業と官民連携 インパクト・スタートアップ協会の事例 (一般社団法人インパクト・スタートアップ協会事務局長 小池克典) 第 14 回 社会的企業への公的支援・資金調達 (経営学部教授 小関 隆志)			
3. 履修上の注意 本科目はオンデマンド型授業で、好きな時間に教材動画を視聴できるため、曜日時限が固定されていません。他科目との時間の重複を気にせずに履修できます。 基本的に予備知識不要です。少しでも興味関心があれば、受講してみてください。 教材動画を視聴し、内容把握のための簡単なクイズとアンケートに答えてもらいます。 (オンデマンド動画約 90 分＋クイズ・アンケート約 10 分)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特にありません。			
5. 教科書 特にありません。			
6. 参考書 必要に応じて指示します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムを利用してフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 授業への参加度（100％）で成績評価します。定期試験・レポートはありません。			

9. その他

科目区分／科目ナンバー		基礎専門科目／(BA) MAN991E		
科目名		Core Subjects Special Lectures B		
担当者		TAKAGI TOSHIO		
2 単位	Year:3	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 Theme : “Project Based Learning: Industry-Academia Collaboration Class (English)” (Summary) The purpose of this class is (1)to develop students who can work globally, (2)to use the knowledge of the business management that learned in the basic classes in the university, and (3)to understand what is required in the real business. This class is conducted by practitioners and a professor to achieve the above three points. The task that students will struggle with are the real issues that the companies need to solve today. The practitioners in charge of this class lecture students on their own company management in English, and also students make presentations and discussions in English. This class is based on the group work. You will develop communication skills through the group work. (Goal) (1)to develop students who can work globally, (2)to use the knowledge of the business management that learned in the basic classes in the university, and (3)to understand what is required in the real business				
2. 授業内容 1: Introduction (Purpose of the course) and mindset (Professor) 2: Company 1: Lecture on the company and task (Practitioner) 3: Company 1: Group work (Professor) 4: Company 1: Group work (Professor) 5: Company 1: Interim Presentation and Feedback (Practitioner) 6: Company 1: Group work (Professor) 7: Company 1: Final Presentation (Practitioner) 8: Company 2: Lecture on the company and task (Practitioner) 9: Company 2: Group work (Professor) 10: Company 2: Group work (Professor) 11: Company 2: Interim Presentation and Feedback (Practitioner) 12: Company 2: Group work (Professor) 13: Company 2: Final Presentation (Practitioner) 14: Final Report				
3. 履修上の注意 Students are required to commit actively to their groups and to participate in the meeting outside of the class hours.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Preparation and group work are required.				
5. 教科書 Textbooks are not specified. Practitioner and Professor will prepare materials as needed.				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 Since this class mainly consists of group work and presentations, grade evaluation is based on (1) participation in group work (40%), (2) presentation (30%), and (3) final report (30%).				
9. その他 本講義で使用する言語に関してですが、ゲスト講師は英語となりますが、担当教員（高木俊雄）が必要に応じて日本語で解説を行います。 また学生のプレゼンテーションは英語となります。 なお、英語力は問いません。 担当教員：高木俊雄				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN211J		
科目名		企業論 A		
担当者		牛丸 元		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 企業論 A では、企業とはどのようなものなのか、どのようにして生まれ、成長していくのか、成長していくためにどのような仕組みを構築しているのかについて学びます。 〈到達目標〉 企業のガバナンスに関する仕組みと、企業成長のための多角化や企業合併がどのようなものであるか、基本的知識を修得することを目標としています。				
2. 授業内容 1 回 イントロダクション 2 回 企業形態 3 回 株式会社と企業形態の変遷 4 回 会社の所有と支配 5 回 CSR（リモート授業） 6 回 コーポレートガバナンス 7 回 2 回から 6 回小テスト 1（リモート式） 8 回 企業家と経営者 9 回 ベンチャービジネス 10 回 企業成長と多角化 11 回 M&A 12 回 企業結合と独占 13 回 8 回から 12 回小テスト 2（リモート式） 14 回 親子上場				
3. 履修上の注意 ○図表などについては教科書を参照しますので、教科書は毎回持参してください。 ○5 月 14 日（水）第 5 回目 CSR の授業はリモート授業とします。対面授業ではありません。Oh-Meiji の資料にビデオと資料をアップしておりますので、それで学習してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書に沿って展開しますので、まずは教科書を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。 理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。 〈学習準備〉 1 回分の情報量が非常に多いので、理解不足になりがちです。教科書を中心に復習することを心がけてください。				
5. 教科書 ●牛丸元編著『スタンダード企業論 第三版』 同文館、2025 年。				
6. 参考書 適宜指示				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を通じてフィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 ●小テスト（1 回 20 点×2 回）40 点、定期試験 60 点、合計 100 点とし、本学が定める評価方法に従い評価する。				
9. その他 ●小テストでは、教科書の持ち込みを可とします。しかし、教科書のコピーは禁止します（著作権の問題）。 ○小テストはリモート形式で実施する。Oh-Meiji の「小テスト」にアクセスし、指定された日時と時間帯に解答すること。 ●定期試験では持ち込み不可です。 ○定期試験は通常の期間中試験に対面で実施する。 ●出席をとる場合もありますが、評価には含めません。 ○小テストの範囲には教科書第 6 講「親子上場」は含まれませんが、定期試験では、親子上場を含みます。 ●何らかの事由により授業に出席				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN211J		
科目名		企業論 B		
担当者		牛丸 元		
2 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 企業論 B では、企業の発展に必要な、ネットワーク化とグローバル化について学びます。 〈到達目標〉 企業集団や企業間関係の形成メカニズム、国際企業の行動原理などに関する基礎的知識を修得することを目標としています。				
2. 授業内容 1 回 イントロダクション 2 回 企業集団 3 回 産業集積 4 回 企業間関係 5 回 企業間ネットワーク 6 回 戦略的提携とネットワーク 7 回 小テスト 1 (2 回から 6 回) 8 回 国際化と日本企業 9 回 企業国際化の基礎理論 10 回 国際化と組織構造 11 回 国際企業モデル (1) 12 回 国際企業モデル (2) 13 回 日本企業グローバル化の課題 14 回 小テスト 2 (8 回から 12 回)				
3. 履修上の注意 図表などについては教科書を参照しますので、教科書は毎回持参してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書に沿って展開しますので、まずは教科書を事前に読んでおくこと。また、不明な語句については調べておくこと。 理解できないものについては、授業終了後に質問時間を設けているので、質問すること。 〈学習準備〉 企業論 B は、A よりも高度な内容となっていますので、予習に時間をかけるようにしてください。				
5. 教科書 牛丸元編著『スタンダード企業論 第 3 版』 同文館、2025 年。				
6. 参考書 適宜指示				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を通じてフィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 ●小テスト (1 回 20 点×2 回) 40 点、定期試験 60 点、合計 100 点とし、本学が定める評価方法に従い評価する。				
9. その他 ●小テストでは、教科書の持ち込みを可とします。しかし、教科書のコピーは禁止します（著作権の問題）。 ○小テストは、リモート形式で実施します。Oh-Meiji の「小テスト」にアクセスし、指定された日時、時間帯で解答してください。 ●定期試験では持ち込み不可です。 ●出席をとる場合もありますが、評価には含めません。 ●何らかの事由により授業に出席できない履修者は、ビデオ・オンデマンド形式の授業を視聴してください。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA) MAN211J		
科目名		企業論 A		
担当者		鳥居 陽介		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 経営学の対象となる「企業」とは何かを検討する。春学期では、企業にはどのような形態があるのか、企業はどのように発展していくのか、企業はどのような仕組みとなっているのか、企業の中でも特に株式会社の所有構造の変遷について解説する。 〈到達目標〉 企業の形態や仕組み、成長のためにどのような手法が取られるのかといった、基本的概念と理論を修得することを目標とする。				
2. 授業内容				
第1回 インTRODクシヨン 第2回 企業形態—合名会社、合資会社、合同会社、株式会社 第3回 株主総会の役割／取締役と委員会 第4回 会社の所有と支配 第5回 英米のコーポレート・ガバナンス 第6回 日本のコーポレート・ガバナンス 第7回 中間試験 第8回 経営者報酬／ファミリービジネス 第9回 企業と労働力市場、商品・サービス市場 第10回 企業と資本市場 第11回 独占・寡占価格、系列 第12回 M&A 第13回 業務提携・資本提携／経営統合と持株会社 第14回 まとめ ＊担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。				
3. 履修上の注意				
テキストを毎回持参すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。				
5. 教科書				
鳥居陽介編著『テキスト現代企業論（第5版）』、同文館出版、2024年。				
6. 参考書				
鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
授業内に出题する課題に対してのフィードバックは、授業中に実施する。				
8. 成績評価の方法				
授業内課題 20%、中間試験 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。				
9. その他				
中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN211J		
科目名		企業論B		
担当者		鳥居 陽介		
2 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 春学期に引き続き、経営学の対象となる「企業」とは何かを検討する。秋学期では、中小企業やベンチャー企業、NPO まで範囲を広げ、これら企業や組織における課題やその解決策等について議論する。 〈到達目標〉 中小企業・ベンチャー企業の特徴や違い、企業の様々なステークホルダーとの関わり方についての変化や、現在の企業、特に中小企業の在り方を理解することを目標とする。				
2. 授業内容 1 回 イントロダクション 2 回 企業間関係・企業間ネットワーク 3 回 企業と ESG、SDGs 4 回 株主価値経営から共通価値の創造（CSV）へ 5 回 外部講師による講演（ディスカッション） 6 回 NPO からソーシャルビジネスへ 7 回 ベンチャー企業のビジネスプラン 8 回 中間試験 9 回 企業と地域経済・中小企業の再考 10 回 中小企業と第 2・第 3 創業／中小企業の新たな地域内の産学官連携 11 回 中小企業の経営戦略・海外展開 12 回 中小企業に対する地域金融機関の今後の役割 13 回 企業の知的財産・人的資本経営 14 回 まとめ ＊担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。				
3. 履修上の注意 テキストを毎回持参すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。				
5. 教科書 鳥居陽介編著『テキスト現代企業論（第 5 版）』、同文館出版、2024 年。（＊春学期からの継続）				
6. 参考書 林幸治編、日本中小企業・ベンチャー ビジネスコンソーシアム著『新中小企業論』、文眞堂、2021 年。 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017 年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出席する課題に対してのフィードバックは、授業中に実施する。				
8. 成績評価の方法 授業内課題 20%、中間試験 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。				
9. その他 中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN221J		
科目名		経営管理論 A		
担当者		青木 克生		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義の狙いはテーラー，メイヨー，バーナードといった経営管理についての諸理論を紹介することのみにあるのではない。むしろそれら理論家たちがわれわれに示唆してくれることを現代的な経営管理の実践とのかかわりから検討し，概説することにある。 経営管理は企業活動や諸組織に不可欠な活動であり，これを「ヒト，モノ，カネ，情報」という観点から理解することが大切である 講義では，具体的な事例を多く用いて，現代的な視点から経営管理の理論を見ていく。そのため講義において，まずは特定事例を用いて現代企業において生じている問題をリアルに体感してもらう。それに引き続き，経営管理についての理論を紹介していく 理論とは古典を意味するわけではない。物事を理解するうえでの指針となる考え方を意味する。また管理についてのアメリカの理論のみならず，管理方式の日本的特徴についても紹介していく。 〈到達目標〉 経営管理論の基礎をマスターし，企業実践の理解へと応用できるようになること。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 管理論の歴史1：成り行き管理と科学的管理 第3回 管理論の歴史2：人間関係論 第4回 トップマネジメントの役割：バーナードの組織と個人 その1 第5回 経営管理のプロセスと意思決定 第6回 経営管理と知識・学習：計画と実践のギャップ 第7回 環境変化と経営戦略 第8回 経営戦略1：戦略的意思決定と多角化 第9回 経営戦略2：PPM と競争戦略 第10回 情報化と経営管理：デファクトスタンダードとアウトソーシング 第11回 日本企業の戦略1：コアコンピタンス 第12回 日本企業の戦略2：企業集団 第13回 日本企業の戦略3：企業系列 第14回 総まとめ				
3. 履修上の注意 授業はプリントをベースに行う。プリントの配布は行わない。Oh-Meiji から印刷して各自持参すること http://oh-o.meiji.ac.jp/index.htm 授業最初で行うビデオを用いたケース紹介の後にアンケートを実施する アンケートはOho Meiji を通して行うので，授業にはパソコン，i pad，スマートフォンなどの端末の持参が必要となる またアンケート結果は成績にも反映するので，毎回遅刻なく出席することが受講生には求められる				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で配布したプリントに紹介してある参考書を読み，しっかりと復習すること 試験は持ちなしで実施するので授業で紹介した重要な用語や理論は何も見ずにしっかりと説明できるようにならなければ試験をパスするのは厳しいと考えてください				
5. 教科書 特に使用しない。プリントをベースに授業を進める				
6. 参考書 プリントを通して適宜紹介する				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 定期試験の結果で成績を評価する。持ち込みなしで，用語説明と論述問題を出題する アンケートの結果や小テストあるいはレポートなども成績に反映させる				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA) MAN221J		
科目名		経営管理論B		
担当者		青木 克生		
2 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本講義の狙いは経営管理の基礎となる組織行動や組織構造についての諸理論を紹介することにある。リーダーシップやモチベーションなどの組織行動、事業部制やマトリックス組織などの組織構造について現代企業の実践という観点から理解を促しことを目的としている。 講義では、具体的な事例を多く用いて、現代的な視点から経営管理の理論を見ていく。そのため講義において、まずは特定事例を用いて現代企業において生じている問題をリアルに体感してもらう。それに引き続き、経営管理についての理論を紹介していく また経営管理と組織についての理論を説明するのみならず、トヨタ生産方式、日本的経営といった経営管理・組織の日本の特徴についても紹介していく。 （到達目標） 経営管理論の基礎をマスターし、企業実践の理解へと応用できるようになること。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 モチベーション:欲求5段階説；内発的動機づけ 第3回 リーダーシップ1: 行動科学的アプローチ 第4回 リーダーシップ2: シンボリックリーダーと変革 第5回 組織化1: 職能部制と事業部制組織 第6回 組織化2: ポスト事業部制組織 第7回 環境変化と経営組織 第8回 組織と環境1: コンティンジェンシー理論 第9回 組織と環境2: 情報処理モデル 第10回 経営と文化: 組織文化論；国際比較 第11回 日本の経営1: トヨタはなぜ強いのか? 第12回 日本の経営2: 日本的人的資源管理 第13回 日本の経営3: 今後の日本の経営 第14回 総まとめ				
3. 履修上の注意 授業はプリントをベースに行う。プリントの配布は行わない。Oh-Meiji から印刷して各自持参すること http://oh-o.meiji.ac.jp/index.htm 授業最初で行うビデオを用いたケース紹介の後にアンケートを実施する アンケートはOho Meiji を通して行うので、授業にはパソコン、i pad、スマートフォンなどの端末の持参が必要となる またアンケート結果は成績にも反映するので、毎回遅刻なく出席することが受講生には求められる				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で配布したプリントに紹介してある参考書を読み、しっかりと復習すること 試験は持ちなしで実施するので授業で紹介した重要な用語や理論は何も見ずにしっかりと説明できるようにならなければ試験をパスするのは厳しいと考えてください				
5. 教科書 プリントをベースに講義を行う。				
6. 参考書 講義プリントを通して適宜紹介する				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくはOh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 定期試験の結果で成績を評価する。持ち込みなしで、用語説明と論述問題を出題する アンケートの結果や小テストあるいはレポートなども成績に反映させる				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN221J		
科目名		経営管理論 A		
担当者		福原 康司		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） あらゆる組織を経営する際、その妥当性や正当性は、個人（従業員）の立場で考える場合と組織（管理者や経営者）のような立場から捉える場合とは大きく異なる。例えば、給与が高くなると個人としては嬉しいけれども、人件費が増大するので企業の財務状況は悪くなり、株主から批判され経営者は頭を悩ませてしまう事例からも、このことは明らかである。前者を「個人の視点」、後者を「組織の視点」と呼ぶことにしよう。このように経営には、「個人の視点」と「組織の視点」とに絶えず葛藤がある。しかしながら、持続発展的な経営を熟慮すると、この個人と組織の複眼的視点で眺めることが不可欠となる。 本授業では、両視点のうち、とりわけ「個人の視点」から経営を眺める時に考慮しなければならない要素を主に取り上げ、古典的理論を振り返りながらその現代的な意味を考えていく。 （到達目標） 経営学における諸理論の歴史的な成長・発展の軌跡を理解すると同時に、それらの理論が現代の経営に対してどのように適用できるかについて考える洞察力を養うことを達成目標とする。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：科学的管理法と成果主義（グループワーク） 第3回：科学的管理法と成果主義（理論編） 第4回：管理過程論と管理者行動（グループワーク） 第5回：管理過程論と管理者行動（理論編） 第6回：人間関係論と動機づけ（グループワーク） 第7回：人間関係論と動機づけ（理論編） 第8回：モチベーションの具体的施策（授業内ビジコン準備） 第9回：モチベーションの具体的施策（授業内ビジコン本番） 第10回：グループ・プロセス（グループワーク） 第11回：グループ・プロセス（理論編） 第12回：グループ・プロセス（実践編） 第13回：ソーシャルキャピタル（人脈作り）の意義（理論編） 第14回：まとめ				
3. 履修上の注意 授業はパワーポイントを用いて、適宜タブレット PC や板書に書き込みを行う。パワーポイントのスライドの重要な箇所を空所にした講義ノート授業内で配布し、スライドを見ながら空所補充してもらうスタイルを採用する。また、講義内容に関連するトピックスについて、定期的にグループワークを行ってもらう。したがって、アクティブラーニングを採用するので、受け身で講義に参加すると単位が危ぶまれるのでご注意ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布した講義ノートを基に、教科書の内容と照合して予習や復習を行って欲しい。また、グループワークでは事前に予備知識を持ち寄らないとアイデアが思いつかないトピックスもあり、そうした回はグループワークの内容を事前に提示するので、図書館のデータベースを利用して事前学習をしてもらうことになる。				
5. 教科書 馬場杉夫・蔡仁錫・福原康司他著（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社				
6. 参考書 福原康司著（2022）『企業家的ミドルの探索』同文館出版				
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期的に行うグループワークの内容を電子掲示板にアップロードしてもらうので、その内容についてコメントの付記や口頭でフィードバックを行う。また、素晴らしいアイデアを投稿したグループには加点評価を行う。				
8. 成績評価の方法 授業貢献度（グループワーク）：30～40 点 期末試験：60～70 点 注）期末試験の平均点によって授業貢献度（グループワーク）の評価割合が変わる				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN221J		
科目名		経営管理論B		
担当者		福原 康司		
2 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） あらゆる組織を経営する際、その妥当性や正当性は、個人（従業員）の立場で考える場合と組織（管理者や経営者）のような立場から捉える場合とでは大きく異なる。例えば、給与が高くなると個人としては嬉しいけれども、人件費が増大するので企業の財務状況は悪くなり、株主から批判され経営者は頭を悩ませてしまう事例からも、このことは明らかである。前者を「個人の視点」、後者を「組織の視点」と呼ぶことにしよう。このように経営には、「個人の視点」と「組織の視点」とに絶えず葛藤がある。しかしながら、持続発展的な経営を熟慮すると、この個人と組織の複眼的視点で眺めることが不可欠となる。 本授業では、両視点のうち、とりわけ「組織の視点」から経営を眺める時に考慮しなければならない要素を主に取り上げ、古典的理論を振り返りながらその現代的な意味を考えていく。 （到達目標） 経営学における諸理論の歴史的な成長・発展の軌跡を理解すると同時に、それらの理論が現代の経営に対してどのように適用できるかについて考える洞察力を養うことを達成目標とする。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：近代経営学の生成と組織近郊（グループワーク） 第3回：近代経営学の生成と組織近郊（理論編） 第4回：意思決定論とやり過ぎの効能（グループワーク） 第5回：意思決定論とやり過ぎの効能（理論編） 第6回：環境適応(コンティンジェンシー)理論（グループワーク） 第7回：環境適応(コンティンジェンシー)理論（理論編） 第8回：経営戦略論の系譜（グループワーク） 第9回：経営戦略論の系譜（理論編） 第10回：経営戦略のポジショニング・アプローチ（グループワーク） 第11回：経営戦略のポジショニング・アプローチ（理論編） 第12回：経営戦略の資源アプローチ（グループワーク） 第13回：経営戦略の資源アプローチ（理論編） 第14回：まとめ				
3. 履修上の注意 授業はパワーポイントを用いて、適宜タブレット PC や板書に書き込みを行う。パワーポイントのスライドの重要な箇所を空所にした講義ノートを授業内で配布し、スライドを見ながら空所補充してもらうスタイルを採用する。また、講義内容に関連するトピックスについて、定期的にグループワークを行ってもらう。したがって、アクティブラーニングを採用するので、受け身で講義に参加すると単位が危ぶまれるのでご注意ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に配布した講義ノートを基に、教科書の内容と照合して予習や復習を行って欲しい。また、グループワークでは事前に予備知識を持ち寄らないとアイデアが思いつかないトピックスもあり、そうした回はグループワークの内容を事前に提示するので、図書館のデータベースを利用して事前学習をしてもらうことになる。				
5. 教科書 馬場杉夫・蔡仁錫・福原康司他著（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社				
6. 参考書 福原康司著（2022）『企業家的ミドルの探索』同文館出版				
7. 課題に対するフィードバックの方法 定期的に行うグループワークの内容を電子掲示板にアップロードしてもらうので、その内容についてコメントの付記や口頭でフィードバックを行う。また、素晴らしいアイデアを投稿したグループには加点評価を行う。				
8. 成績評価の方法 授業貢献度（グループワーク）：30～40 点 期末試験：60～70 点 注）期末試験の平均点によって授業貢献度（グループワーク）の評価割合が変わる				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営哲学A		
担当者		佐藤 聡彦		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
「授業の概要」				
経営活動のグローバル化、A I（人工知能）の発達など科学技術の高度化に伴い、経営を「哲学する」ことは、極めて重要な行為となっている。そこで本講は、経営体として取り扱う経営哲学の諸研究を中心に据えていく。なかでも、企業・経営・事業の経営体3要素の枠組みに基づき、企業・経営・事業の各要素について考察していく。さらに3要素に基づき問題の所在が複雑化、複合化しつつある現代の経営について批判的に検討をめざすものである。本講の出発点として経営学のもつ二側面と経営哲学の意義を検討したのち、「学理としての経営学」の根源を古典的理論に求め、3つの科学化（作業の科学化、管理の科学化、組織の科学化）の歴史とし、経営哲学の諸研究を下敷きに批判的に検討する。さらに「経営という実践（および存在）」を「哲学する」にあたり、経営者哲学、社会的責任論を手掛かりとしつつ、現代の経営体の倫理的、価値的、道徳的側面について事例を踏まえながら受講者とともに考えることとしたい。				
「到達目標」				
そもそも哲学とは、論理的な思考に基づき、物事や事象を「疑ってみること」と「本質を問うこと」といえる。その対象として本講では、主に「学理としての経営学」と「経営という実践（および存在）」を取り扱う。そこでは、経営体は協働「生活」体であり、「生きて生きる」協働システムであるという前提のもと、あくまで倫理性は自律的、内生的に立ち上がるべきものとして捉える。これら2つの視点を受講者各位が「腑に落ちる」ものとして身に付けることを本講の到達目標とする。				
2. 授業内容				
第 1 回：プロローグ、経営哲学とは				
第 2 回：経営学を哲学する①古典的系譜と課題：科学的管理法と作業の科学化、意思決定と管理の科学化、官僚制と組織の科学化、個と全体の融和等について解説する。				
第 3 回：経営学を哲学する②古典的系譜：科学的管理法と作業の科学化、意思決定と管理の科学化、官僚制と組織の科学化、個と全体の融和等について解説する。				
第 4 回：経営学を哲学する③古典的系譜：科学的管理法と作業の科学化、意思決定と管理の科学化、官僚制と組織の科学化、個と全体の融和等について解説する。				
第 5 回：経営者哲学①事業経営の理念：渋沢栄一、岩崎弥太郎など産業黎明期においてわが国を代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。				
第 6 回：経営者哲学②事業経営の理念：松下幸之助、小林一三など 戦前・戦後代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。				
第 7 回：経営者哲学③事業経営の理念：盛田昭夫、本田宗一郎など 戦後を代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。				
第 8 回：経営者哲学④事業経営の理念：稲盛和夫、小倉昌男など 20 世紀を代表する経営者の事業に対する理念・思想を考える。				
第 9 回：経営者哲学⑤事業経営の理念：孫正義、柳井正など現代を代表するベンチャーから大企業に成長させた経営者の事業に対する理念・思想を考える。				
第 10 回：経営哲学の方法①科学哲学におけるパラダイムの議論、経営哲学の方法論について概説する。				
第 11 回：経営哲学の方法②科学哲学におけるパラダイムの議論、経営哲学の方法論について概説する。				
第 12 回：経営哲学の方法③科学哲学におけるパラダイムの議論、経営哲学の方法論について概説する。				
第 13 回：学理と実践：C S R 論①企業の社会的責任論、フィランソロフィー論などを踏まえて検討する。				
第 14 回：学理と実践：C S R 論②企業の社会的責任論、フィランソロフィー論などを踏まえて検討する。				
3. 履修上の注意				
この講義は、対面型授業により開講する。事前学習、及び開講時Q＆Aの際に広く求める受講者とのディスカッションによって主に構成されるので、受講者のプロアクティブな関わりを期待する（適宜、外部講師を招く場合もあり得る）。また本講は抽象概念を扱うため、現象面にのみ興味のある向きには退屈かもしれない。同時に受動的にレクチャーを受けようという考えにも馴染まない。なお、資料配布は各回の講義時のみである。事後配布はいかなる理由があろうとも行わないので注意されたい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
準備学習として、1 時間程度、日本経済新聞の経営及び経営者に関する記事（企業不祥事などのコメントも可能）を取り上げ、現代の経営に関する課題を抽出しておくこと。さらに、講義で簡潔に（3分以内で）報告できるよう自らの考えを示しておくこと。講義資料をもとに講義で提示する参考書などによる復習を必要とする（1 時間程度）。				
5. 教科書				
特定の教科書は用いない。随時、配布資料等により講義を進める。				
6. 参考書				
三戸公（1973）『官僚制』未来社、村田晴夫（1984）『管理の哲学』文眞堂、小笠原英司（2004）『経営哲学研究序説：経営学的経営哲学の構想』文眞堂、ほか適宜、講義時に示す。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
提出された課題については、随時、講義中のコメント等をもって受講者へのフィードバックとする計画である。				

8. 成績評価の方法

不定期（対面授業時）あるいは定期に実施する小レポート，および平常時の授業への参加（40%），期末レポート（60%）の合計点により総合的に評価する。「平常時の授業への参加」とは，対面講義時に出席者に問いを発すること があるので，その際に自己の考えを説得的に述べた場合，随時，加点されることを意味する。※対面形式での試験は行わない。

9. その他

問い合わせなどの連絡先は Oh-o! Meiji クラスウェブで公開する。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営哲学B		
担当者		佐藤 聡彦		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 「授業の概要」 本講は春学期に実施した経営哲学Aを基礎とするものであり、その受講を前提とする。経営活動のグローバル化、A I（人工知能）の発達など科学技術の高度化に伴い、経営を「哲学する」ことは、極めて重要な行為となっている。そこで本講は、経営体 として取り扱う経営哲学の諸研究を中心に据えていく。なかでも、企業・経営・事業の経営体3要素の枠組みに基づき、企業・経営・事業の各要素について考察していく。さらに3要素に基づき問題の所在が複雑化、複合化しつつある現代の経営について批判的に検討をめざすものである。本講の出発点として経営哲学Aで履修した内容（ 3つの科学化（作業の科学化、管理の科学化、組織の科学化）の歴史、経営者哲学、方法論、社会的責任論）を手掛かりとしつつ、現代の経営体の倫理的、価値的、道德的側面について、地球環境問題を考察の対象とし、環境思想、環境経営、環境経営の具現化の方法等について事例を踏まえながら受講者とともに考える。このため本講は、「経営という実践（および存在）」を「哲学する」ことに比重をおく。 「到達目標」 そもそも哲学とは、論理的な思考に基づき、物事や事象を「疑ってみること」と「本質を問うこと」といえる。その対象として本講では、主に「学理としての経営学」と「経営という実践（および存在）」を取り扱う。そこでは、経営体は協働「生活」体であり、「生きて生きる」協働システムであるという前提のもと、あくまで倫理性は自律的、内生的に立ち上がるべきものとして捉える。これら2つの視点を受講者各位が「腑に落ちる」ものとして身に着けることを本講の到達目標とする。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション：経営哲学とは 第 2 回 学理と実践・環境思想①：哲学、歴史学、文化人類学、社会学等の幅広い分野での自然と人間に関する所説をもとに現代の地球環境問題の本質を考える。 第 3 回 学理と実践・環境思想②：哲学、歴史学、文化人類学、社会学等の幅広い分野での自然と人間に関する所説をもとに現代の地球環境問題の本質を考える。 第 4 回 社会における実践・環境法令：「規制産業」と言われる環境経営の基礎としての国内法令について概説する。 第 5 回 学理と実践・環境経営論①：経営学、経済学、社会学等で議論されるようになった環境経営について理論と企業の実践としての方向性を示す。 第 6 回 学理と実践・環境経営論②：経営学、経済学、社会学等で議論されるようになった環境経営について理論と企業の実践としての方向性を示す。 第 7 回 環境経営の実践・事業レベル①：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を事業レベルで事例を踏まえながら考える。 第 8 回 環境経営の実践・事業レベル②：地球温暖化対策、資源循環の 2つの柱から企業の実践としての環境経営を事業レベルで事例を踏まえながら考える。 第 9 回 環境経営の実践・製品レベル①：地球温暖化対策、資源循環の 2つの柱から企業の実践としての環境経営を製品レベルで事例を踏まえながら考える。 第10回 環境経営の実践・製品レベル②：地球温暖化対策、資源循環の 2つの柱から企業の実践としての環境経営を製品レベルで事例を踏まえながら考える。 第11回 環境経営の実践・拠点レベル①：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を拠点レベルで事例を踏まえながら考える。 第12回 環境経営の実践・拠点レベル②：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱から企業の実践としての環境経営を拠点レベルで事例を踏まえながら考える。 第13回 地域社会と環境①：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱をもとに、地域社会における実践としての環境保全活動について事例を踏まえながら考える。 第14回 地域社会と環境②：地球温暖化対策、資源循環の2つの柱をもとに、地域社会における実践としての環境保全活動について事例を踏まえながら考える。				
3. 履修上の注意 この講義は、対面型授業により開講する。事前学習、及び開講時Q＆Aの際に広く求める受講者とのディスカッションによって主に構成されるので、受講者のプロアクティブな関わりを期待する（適宜、外部講師を招く場合もあり得る）。また本講は抽象概念を扱うため、現象面のみ興味のある向きには退屈かもしれない。同時に受動的にレクチャーを受けようという考えにも馴染まない。なお、資料配布は各回の講義時のみである。事後配布はいかなる理由があろうとも行わないので注意されたい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 準備学習として、1時間程度、日本経済新聞の環境経営及び環境経営に関する経営者の記事を取り上げ、現代の経営に関する課題を抽出しておくこと。さらに、講義で簡潔に（3分以内で）報告できるよう自らの考えを示しておくこと。講義資料をもとに講義で提示する参考書などによる復習を必要とする（1時間程度）。				

5. 教科書

特定の教科書は用いない。随時、配布資料等により講義を進める。

6. 参考書

三戸公（1973）『官僚制』未来社，村田晴夫（1984）『管理の哲学』文眞堂，小笠原英司（2004）『経営哲学研究序説：経営学的経営哲学の構想』文眞堂，ほか適宜，講義時に示す。

7. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、随時、講義中のコメント等をもって受講者へのフィードバックとする計画である。

8. 成績評価の方法

不定期（対面授業時）あるいは定期に実施する小レポート，および平常時の授業への参加（40%），期末レポート（60%）の合計点により総合的に評価する。「平常時の授業への参加」とは，対面講義時に出席者に問いを発することがあるので，その際に自己の考えを説得的に述べた場合，随時，加点されることを意味する。 ※対面形式での試験は行わない。

9. その他

問い合わせなどの連絡先は Oh-o! Meiji クラスウェブで公開する。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J		
科目名		経営戦略論 A 経営学科・会計学科共同設置		
担当者		歌代 豊		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 経営戦略論 A は、「戦略論の系譜と戦略策定の基礎理論」をサブテーマに経営戦略の基本概念や主要な理論を把握する。 〈到達目標〉 経営戦略の定義，企業戦略策定，ポジショニングアプローチに基づく事業戦略策定，事業システム，水平戦略等に係わる基本概念・理論を理解することを目的とする。				
2. 授業内容				
# 1～2. 経営戦略とは イントロダクション 戦略の定義/戦略の階層と構成要素/ 戦略策定のプロセス，等 # 3～5. 企業戦略の策定 ミッション/ドメイン 成長と多角化の戦略/PPM，等 # 6～10. 事業戦略の策定 事業戦略の基礎理論：規模の経済/経験曲線， PLC/セグメンテーション/ターゲティング/ ポジショニング，等 基本戦略：コストリーダーシップ/差別化/集中 外部環境分析：SCP モデル，業界構造分析（5つの力），等 内部資源分析：価値連鎖分析，等 # 11～13. 企業戦略と事業戦略の境界領域 事業システム，等 水平戦略，等 補完製品戦略，アーキテクチャ戦略，等 # 14. 演習とまとめ				
3. 履修上の注意				
経営戦略論 B とあわせて履修することが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
毎回，次回テーマに関して予習をすること。				
5. 教科書				
吉村孝司編著『経営戦略』学文社，2006 年。				
6. 参考書				
・グロービス・マネジメント・インスティテュート編『MBA 経営戦略』ダイヤモンド社，1999 年。 ・マイケル・ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社，1985 年。 ・ヘンリー・ミンツバーグ『戦略サファリ』東洋経済新報社，1999 年。 ・ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社，2003 年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法				
定期試験（60%），レポート（30%），小テスト・ミニ演習・授業貢献等（10%）により総合的に評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J		
科目名		経営戦略論B 経営学科・会計学科共同設置		
担当者		歌代 豊		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 経営戦略論Bは、「戦略の策定とマネジメントの実践」をサブテーマに経営戦略の実践・応用面に焦点をあてる。まず，戦略と組織・プロセスとの関係を議論する。加えて，戦略を適切に創造・管理するためのシステムとして着目されているバランススコアカードの概要と可能性を検討する。 〈到達目標〉 経営戦略論Aで学んだフレームワーク/手法を事例・演習等をとおして理解を深め，環境分析と戦略思考の能力育成を図る。				
2. 授業内容				
# 1. イントロダクション 戦略の策定とマネジメントの概要 # 2～5. 戦略策定プロセスの実践的側面 ロジカルシンキング 外部環境分析 内部資源分析 SWOT 分析 # 6～10. 戦略マネジメントとバランススコアカード 戦略のセオリーと体系化 マネジメントシステムの課題とバランススコアカード（BSC） 戦略マップ 戦略の組織展開とカスケード BSCの運用（モニタリングと戦略学習ループ）と発展段階，等 # 11～14. 戦略と組織の関係，および新たな戦略論 プロセス型戦略論：創発戦略，等 リソースベーストビュー：見えざる資産/ VRIO 分析/コアコンピタンス，等 ゲームアプローチ：コミットメント/オプション，等				
3. 履修上の注意				
経営戦略論Aを履修していることが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
毎回，次回テーマに関して予習をすること。				
5. 教科書				
6. 参考書				
・小原重信・浅田孝幸・鈴木研一編，『プロジェクト・バランス・スコアカード』，生産性出版，2004 年。 ・バランススコアカードフォーラム編『バランス・スコアカード経営実践マニュアル―効果が上がる BSC プロジェクトの進め方』中央経済社，2004 年。 ・M・トレーシー& F・ウィアセーマ，『ナンバーワン企業の法則』，日経ビジネス人文庫，2003 年。 ・ゲイリー・ハメル& C・K・プラハラード，『コアコンピダンス経営』，日経ビジネス文庫，2001 年。 ・ジェイ・バーニー『企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法				
定期試験（60%），レポート（30%），小テスト・ミニ演習・授業貢献等（10%）を総合的に評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(CO)MAN321E	
科目名		Innovation Strategy in Japan A	
担当者		KONDO HIKARU	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈Course Summary〉 In this course, students will learn about the historical development of management and economic development in Japan from the Edo period to the present. The class will cover many aspects, including the environment surrounding each company, entrepreneurs, personnel, and connections with the government and business organizations. The focus of the analysis will be on entrepreneurship and innovation. This course aims to deepen students’ understanding of Japanese companies by studying the chronological development of Japanese management centered on the innovative activities of entrepreneurs. By examining the activities of corporations and entrepreneurs in detail, students will acquire the ability to think based on basic knowledge of business administration and the thinking skills required of business people. 〈Objectives〉 The objectives of this class are as follows 1. To understand the history of the development of Japanese companies. 2. To understand and be able to explain the innovative activities of entrepreneurs. 3. To be able to consider issues faced by modern Japanese companies.			
2. 授業内容 Part 1: Introduction Part 2: Entrepreneurs in the Edo Period Part 3: Management Innovation by Mitsui Takatoshi and Nakai Genzaemon Part 4: Entrepreneurs from the end of the Edo period to the Russo-Japanese War Part 5: Innovative Actions by Professional Managers and Investors Part 6: Overview from World War I to the 1980s Part 7: Creation of New Industries by Ichizo Kobayashi Part 8: Management innovation by Yasuzaemon Matsunaga Part 9: Sazo Idemitsu and Yataro Nishiyama Part 10: Kiichiro Toyoda and Soichiro Honda Part 11: Innovation in the Home Appliance Industry Part 12: Entrepreneurial activities after the War Part 13: Convenience Store Innovation by Toshifumi Suzuki Part 14: Representative Entrepreneurs of Today and Future Japanese Companies *The content of the study may be changed according to the student’s level of understanding and other factors.			
3. 履修上の注意 Entry time limit 15 minutes after opening lecture. Each class will have assignments related to the course content.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students must download the study material from “Class Web” on “Oh-o! Meiji” and check the contents before the lecture. Review the handouts for each session to deepen your understanding and organize what you have learned.			
5. 教科書 Handout data is delivered from “Oh-o! Meiji” website.			
6. 参考書 Kikkawa, T. (2019) Inobeshon no Rekishi [History of Innovation] Tokyo: Yuhikaku.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided at the next class.			
8. 成績評価の方法 The evaluation will be based on the assignments conducted each time (35%) and the confirmation test conducted at the end of the term (65%).			
9. その他 All the lessons are in English. Students are required to bring Note-PC, smartphone, or tablet with telecommunication capability.			

This class will use "Oh-o! Meiji" for attendance registration.

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(CO)MAN321E		
科目名		Innovation Strategy in Japan B		
担当者		KONDO HIKARU		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Course Summary) In Innovation Strategy in Japan A, we studied the innovation activities of entrepreneurs historically from the past to the present. In Innovation Strategy in Japan B, we will focus on contemporary Japanese companies and learn about innovation mechanisms using corporate innovation and product/service development cases. Although the innovation activities of Japanese companies have stagnated in recent years, some Japanese companies are leading innovative activities in various industries. In this class, students will understand the basic concepts of innovation and acquire practical thinking through case studies of such Japanese companies. (Objectives) The objectives of this class are as follows 1. To understand innovation activities by Japanese companies in recent years. 2. To understand the theory of innovation and to be able to explain it in one's own words. 3. To understand the challenges faced by modern Japanese companies and to be able to consider solutions to these challenges.				
2. 授業内容 Part 1: Introduction / Theory of Innovation Part 2: Innovation in the Electronics Industry 1: Organizational Change Part 3: Innovation in the Electronics Industry 2: Organizational Change Part 4: Innovation in the Beauty Industry1: New Market Development Part 5: Innovation in the Beauty Industry2: New Market Development Part 6: Innovation in the Construction Equipment Industry1: Global Strategy Part 7: Innovation in the Construction Equipment Industry2: Global Strategy Part 8: Innovation in the Retail Industry1: Creating an E-Commerce Business Part 9: Innovation in the Retail Industry2: Globalization and Culture Part 10: Innovation in the Creative Industry 1: The Case of the Animation Business Part 11: Innovation in the Creative Industry 2: The Case of the Animation Business Part 12: Innovation in the Creative Industry 3: The Case of the Video Game Business Part 13: Innovation in the Creative Industry 4: The Case of the Video Game Business Part 14: Summary (Innovation Activities of Japanese Firms) *The content of the study may be changed according to the student's level of understanding and other factors.				
3. 履修上の注意 Entry time limit 15 minutes after opening lecture. Each class will have assignments related to the course content.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students must download the study material from "Class Web" on "Oh-o! Meiji" and check the contents before the lecture. Review the handouts for each session to deepen your understanding and organize what you have learned.				
5. 教科書 Handout data is delivered from "Oh-o! Meiji" website.				
6. 参考書 References will be introduced in each class according to the content.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided at the next class.				
8. 成績評価の方法 The evaluation will be based on the assignments conducted each time (35%) and the confirmation test conducted at the end of the term (65%).				
9. その他 All the lessons are in English. Students are required to bring Note-PC, smartphone, or tablet with telecommunication capability. This class will use "Oh-o! Meiji" for attendance registration.				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		イノベーション・マネジメントA	
担当者		新宅 純二郎	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 今日、IT や通信技術の進歩、半導体、AI などの技術革新の進展を背景にして、様々な産業でイノベーションが進行しつつある。企業経営としてそうしたイノベーションをいかに先導するのか、イノベーションの進行に対していかに対応するのが問われている。その際、イノベーションを遂行するために、どのように戦略と組織をマネジメントするか、また、外部の企業とどのような連携をとっていくか、どのようなエコシステムを構築していくかなど、多様な経営問題がある。本講義では、このような新たな企業経営の課題に応えるイノベーション・マネジメントに関して、事例研究と理論研究の両視点から総合的に論じる。 （到達目標） イノベーション・マネジメントに関わる諸理論の意義と限界を理解すること、および、企業の具体的現場の問題をイノベーション・マネジメントの諸理論を応用して自ら分析できるようにすることを到達目標とする。			
2. 授業内容 テキストに即しながら、以下のような構成で進めます。 各回の授業では、前半で該当章に関わる補足的な講義をし、後半では学生からの質問に答える形式で進行する。 初回 ガイダンス 第1回 イノベーション・マネジメントとは（1 章） 第2回 イノベーションの歴史（2 章） 第3回 イノベーションと企業の栄枯盛衰（3 章） 第4回 産業とイノベーション（4 章） 第5回 イノベーションの測定（5 章） 第6回 イノベーションとアントレプレナーシップ（6 章） 第7回 イノベーションを実現する資源動員と知識創造（7 章） 第8回 新製品開発のマネジメント（8 章） 第9回 イノベーションと企業戦略（9 章） 第10回 イノベーションと企業間システム（10 章） 第11回 イノベーションと政策・制度（11，12 章） 第12回 イノベーション創出のための知的財産権マネジメント（13，14 章） 第13回 イノベーションと規制・制度 第14回 a：試験 b：まとめと試験問題の解説			
3. 履修上の注意 本授業に関連する背景的知識・基礎的知識を有すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回でとりあげるテキストの該当章を事前に読み、基本的な内容についての理解をしたうえで授業に出席すること。授業の前までに質問を書いて提出してもらいます。授業中にその質問を取り上げて、回答します。質問提出の締切や提出方法は、ガイダンスのときに指示します。			
5. 教科書 『イノベーションマネジメント入門 新装版』一橋大学イノベーション研究センター（日本経済新聞社）			
6. 参考書 授業中に各種の文献や論文などを紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 小テストについては、授業中にテスト問題の解説を行う。また、最終テストについても、実施後に解説する。			
8. 成績評価の方法 成績評価は、平常点（50％）と最終試験（50％）で行います。平常点は、毎回の質問カードの提出と授業中の小テスト（1～2 回）で評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		イノベーション・マネジメントB	
担当者		新宅 純二郎	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 今日、イノベーションをいかに先導するのか、イノベーションの進行に対していかに対応するのかが問われている。その際、イノベーションを遂行するために、どのように戦略と組織をマネジメントするか、また、外部の企業とどのような連携をとっていか、どのようなエコシステムを構築していくかなど、多様な経営問題が問われている。本講義では、このような新たな企業経営の課題に応えるイノベーション・マネジメントに関して、重要なトピックとそれに対応する事例を取り上げながら、プロアクティブな学習を進めていく。 〈到達目標〉 イノベーション・マネジメントの諸理論を具体的な問題に応用して、自ら分析してマネジメントとして有益な提案ができるようになることを到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 チーム研究のチーム編成 第3回 脱成熟【講義】&チーム討議 第4回 新興国市場戦略【講義】&チーム討議 第5回 破壊的イノベーション（1）【講義】&チーム討議 第6回 チーム研究 中間発表（1） 第7回 チーム研究 中間発表（2） 第8回 破壊的イノベーション（2）【講義】&チーム討議 第9回 オープン&クローズ戦略（1）【講義】&チーム討議 第10回 オープン&クローズ戦略（2）【講義】&チーム討議 第11回 知財戦略【講義】&チーム討議 第12回 チーム研究発表準備 第13回 チーム研究 最終発表（1） 第14回 チーム研究 最終発表（2）			
3. 履修上の注意 本講義に関連する背景的知識・基礎的知識を有すること。特に、イノベーション・マネジメントAの講義を履修済みであることが強く望まれる。未履修の学生はイノベーションAの教科書についてのレポート提出することが履修要件である。授業は、講義と学生によるチーム研究とで構成するので、チームとして取り上げた課題について、自分たちで調べて発表をすることが求められる。チーム研究は4～8名程度で構成し、特定の産業を取り上げて、その中でのイノベーションについて、イノベーションが求められる背景、イノベーションの内容、イノベーションが普及するためのボトルネックとその解決方法の提案などについてまとめる。昨年度は8チームで、自動車、地熱発電、食品、金融、農業、AI物流、化粧品、エンターテインメントなどが取り上げられた。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 チーム研究の他に、授業中に課題（1～2回）を出すので、自分で調べて分析し、レポートとして提出する。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 天野倫文・新宅純二郎・中川功一・大木清弘（2015）『新興国市場戦略論』有斐閣。 新宅 純二郎（1994）『日本企業の競争戦略－成熟産業の技術転換と企業行動－』有斐閣。 小川紘一（2015）『オープン & クローズ戦略』翔泳社。 Christensen, C. M. （2012）『イノベーションのジレンマ』翔泳社。 新宅純二郎・田中辰雄・柳川範之（2003）『ゲーム産業の経済分析』東洋経済新報社。 その他、授業中に各種の文献や論文などを紹介します。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中に解説を行う。			
8. 成績評価の方法 成績は、授業への出席、授業中の課題提出、チーム研究の発表で評価する。 チーム研究は、発表内容の評点の他、チームの中での個人の貢献度も合わせて評価する。			

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		イノベーション・システムA		
担当者		一小路 武安		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 現代社会の経済発展や企業の成長において、「イノベーション」は重要な役割を果たしている。イノベーション促進のためのシステムを構築するにあたっては、企業・経済・社会・国など多様な対象に対して、パーソン・マネジメント・ポリシーといった様々な視点からの検討が必要となる。本授業ではイノベーションとは何か、その違いが生み出される要因とは何かについて、国による違いを中心に講義する。 ＜到達目標＞ イノベーションについての概念を理解し、環境や組織がもたらす違いについて議論できるようになり、さらに自らの生活とイノベーションとの関わりについて想起できるようになる。				
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 イノベーションとは何か 第 3 回 イノベーションの歴史的位置づけ 第 4 回 イノベーションの測定 第 5 回 イノベーションのパターン 第 6 回 イノベーションを支える制度 第 7 回 国による違い：基本 第 8 回 国による違い：理論（ダイヤモンドモデル） 第 9 回 国による違い：検証① 第 10 回 国による違い：検証② 第 11 回 国による違い：具体例（アバター利用） 第 12 回 産業による違い 第 13 回 企業による違い 第 14 回 まとめ				
3. 履修上の注意 授業内容の一部は、「イノベーション・マネジメントA」と類似するので、理解を深めたい場合には同時履修を推奨する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で質問をすることがあるので、次回テーマに関してインターネット等を通してで構わないので、検索して調べておくこと。				
5. 教科書 『イノベーション』清水洋（有斐閣）				
6. 参考書 『国の競争優位（上）（下）』M・E・ポーター（ダイヤモンド社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に実施する。				
8. 成績評価の方法 期末試験（80%）並びに不定期に実施する小レポート(20%)により、評価する。				
9. その他 学生の理解度や進捗状況に応じて、計画に変更が加わる場合がありますので、あらかじめご承知おきください。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		イノベーション・システムB		
担当者		一小路 武安		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 <授業の概要> 現代社会の経済発展や企業の成長において、「イノベーション」は重要な役割を果たしている。イノベーション促進のためのシステムを構築するにあたっては、企業・経済・社会・国など多様な対象に対して、パーソン・マネジメント・ポリシーといった様々な視点からの検討が必要となる。本授業ではイノベーションとは何か、その違いが生み出される要因とは何かについて、企業と政策を中心に講義する。 <到達目標> イノベーションを促進するためのシステムについて基本的な構造を理解し、企業マネジメントや政策の立場から議論できるようになる。				
2. 授業内容 第 1 回　イントロダクション 第 2 回　イノベーションと企業組織①：企業規模 第 3 回　イノベーションと企業組織②：組織構造 第 4 回　イノベーションとプロジェクト①：チーム 第 5 回　イノベーションとプロジェクト②：個人 第 6 回　イノベーションと企業戦略①：基本 第 7 回　イノベーションと企業戦略②：対象範囲 第 8 回　イノベーションのための政策①：基本 第 9 回　イノベーションのための政策②：日本の科学技術政策 第 10 回　イノベーションのための政策③：具体例（政府系ベンチャーキャピタル） 第 11 回　イノベーションのための政策④：具体例（グランドチャレンジ） 第 12 回　イノベーションと社会①：基本 第 13 回　イノベーションと社会②：社会変化 第 14 回　まとめ				
3. 履修上の注意 授業内容の一部は、「イノベーション・マネジメント A」と類似するので、理解を深めたい場合には事前履修を推奨する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で質問をすることがあるので、次回テーマに関してインターネット等を通してで構わないので、検索して調べておくこと。				
5. 教科書 『イノベーション』清水洋（有斐閣）				
6. 参考書 必要に応じて指示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に実施する。				
8. 成績評価の方法 期末試験（80%）並びに不定期に実施する小レポート（20%）により、評価する。				
9. その他 学生の理解度や進捗状況に応じて、計画に変更が加わることがありますので、あらかじめご承知おきください。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)CMM311J	
科目名		マーケティング・マネジメントA	
担当者		原田 将	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 日本企業は高い技術力を持っているのにも関わらず、欧米企業より利益率が低いことが指摘されている。その原因の一つとしてマーケティングの問題がある。優れた製品開発力などのものづくりにおける優位性だけでなく、それらをいかに収益に結びつけていくのかといったマーケティングにおける優位性が企業の競争優位獲得において重要である。 そこで本講義では、マーケティング・マネジメントの基本概念と現代的問題について講義する。マーケティング・マネジメントに関する問題は幅広いため、講義内容は多岐にわたる。とりわけ、デジタル技術や AI の発展など、マーケティングを取り巻く環境は大きく変化している。そうした、最新の動向も踏まえながら、マーケティング・マネジメントの基本的概念や現代的問題について事例を交えながら説明する。 （到達目標） マーケティング・マネジメントの基礎概念を習得すると同時に、マーケティングの現代的問題についても理解できるようになる。さらには、個人がマーケティング・マインドの重要性をしっかりと認識することも本講義の目標である。			
2. 授業内容 本授業ではマーケティングの現代的問題や新しい概念を中心に説明する。 第1回 イントロダクション（講義の進め方、マーケティングを学ぶ意義） 第2回 マーケティングの歴史と現代の特徴 第3回 外部環境とマーケティング 第4回 マーケティング・リサーチ STP 第5回 消費者行動 第6回 製品政策の現代的問題 第7回 価格政策の現代的問題 第8回 流通政策の現代的問題 第9回 販売促進政策の現代的問題 第10回 サービス・マーケティング 第11回 企業の社会的責任とマーケティング 第12回 DX とマーケティング 第13回 BtoB マーケティング 第14回 総括			
3. 履修上の注意 遅刻厳禁。授業中の私語は認めない。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日ごろから日本経済新聞や日経ビジネスなどを読むこと。			
5. 教科書 毎回、資料を配布する。			
6. 参考書 適宜紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 出席（20 点）、課題レポート（30 点×2 回）、授業中のリアクションペーパー（20 点）で評価。			
9. その他 受講に際して最低限のマナーは厳守すること。特に、講義中のスマートフォンの使用、私語は認めない。また、10 分以上の遅刻も認めない。やむを得ない事情によって欠席する場合、事前連絡があったのみ考慮する。また、校務による休講の場合、事前に連絡する。			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)CMM311J		
科目名		マーケティング・マネジメントB		
担当者		原田 将		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） マーケティング・マネジメントの中心的課題としてブランド構築がある。ブランドが構築されれば、企業は価格競争を回避でき、安定した収益を確保することができる。しかしながら、ブランド構築は容易ではない。ブランド構築のためには、適切な戦略だけでなく適正な組織づくりも必要になる。そこで、本授業では、ブランド構築における戦略から組織に関わる問題まで、幅広い視点でブランド管理の現代の特徴について講義する。 本授業は、大きく2つのパートからなっている。第1パートは「ブランド・エクイティ」、「ブランド・アイデンティティ」といったブランド管理の基本概念のパートである。第2パートはブランド管理の組織問題（管理内容および組織形態）である。毎回、先駆的な事例を交えながら説明する。 （到達目標） ブランド管理の基礎概念を理解すると同時に、ブランド管理の現代的問題についても理解できるようになること。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション（講義の進め方、ブランドの重要性） 第2回 消費者から見るブランド（ブランド・エクイティ） 第3回 企業から見るブランド（ブランド・アイデンティティ） 第4回 ブランド・アイデンティティとブランド・エクイティの関係 第5回 ブランドポートフォリオ（ブランド要素&ブランド体系） 第6回 ブランド管理の歴史的展開 第7回 ブランド管理の現代の特徴 第8回 ブランド価値向上のメカニズムとブランド管理 第9回 ブランド志向組織とインターナル・ブランディング（ブランド価値経営） 第10回 ゲスト講座 第11回 グローバル企業のブランド管理 第12回 ブランド管理の現代的問題：ブランド管理における慣性の問題 第13回 ブランド管理の現代的問題：グローバル・ブランド管理における優先市場の問題 第14回 総括				
3. 履修上の注意 遅刻厳禁。授業中の私語は認めない。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日ごろから日本経済新聞や日経ビジネスなどを読むこと。				
5. 教科書 毎回、資料を配布する。				
6. 参考書 ケビン・レーン・ケラー（2010）『戦略的ブランド・マネジメント（第3版）』東急エージェンシー。 デービッドA・アーカー（2014）『ブランド論』ダイヤモンド社。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内でフィードバックする。				
8. 成績評価の方法 出席（20点）、課題レポート（30点×2回）、授業中のリアクションペーパー（20点）から評価する。				
9. その他 受講に際して最低限のマナーは厳守すること。特に、講義中のスマートフォンの使用、私語は認めない。また、10分以上の遅刻も認めない。やむを得ない事情によって欠席する場合、事前連絡があったのみ考慮する。また、校務による休講の場合、事前に連絡する。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)CMM311J		
科目名		グローバル・マーケティング論A		
担当者		古川 裕康		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 本講義は、グローバル・マーケティングの専門的な知識を養成することを目的とする。本講義では特にグローバル・マーケティングの基礎、そして展開プロセスに焦点を当てる。現在、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を国内市場のみから調達することは難しく、海外の消費者と触れ合う機会も多いのが現状である。この点を踏まえ本講義では ・なぜ企業経営にグローバル・マーケティングの考え方が必要なのか ・いつ、どのように企業はグローバル・マーケティングへと足を踏み入れるのか ・どのようなプロセスを経てグローバル・マーケティングは展開されていくのか というテーマを基に関連する事例やフレームワークを用いて解説する。 本講義ではまず、グローバル・マーケティングとは何か、それはマーケティング・マネジメントとどのように繋がっているのか、日本企業の多くに共通するグローバル・マーケティング上の課題は何かといった点を学習する。その後、海外市場参入のパターンや参入プロセスについての考え方について学ぶ。またケーススタディを通して実際に企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題に触れながら、最終的に各人なりの解決策が提示できるようになることを目標とする。				
〈到達目標〉 この学びを通して、経営学部のディプロマ・ポリシーに掲げられている「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。 更に本講義では以下の具体的な能力を身に着けることを目指す。 1. 身近な企業の事例をグローバル・マーケティングの視点から説明することができる。 2. 日本企業の実施しているグローバル・マーケティングの傾向と課題を説明することができる。 3. グローバル・マーケティングとブランド構築の関係性を説明することができる。 4. グローバル・マーケティングの一般的な発展プロセスを説明することができる。 5. グローバル・マーケティングの観点から市場参入のパターンについて説明することができる。				
2. 授業内容				
第1回 (a) イントロダクション： 本講義の特徴ならびにルールについて説明する。 (b) グローバル・マーケティングとは： グローバル・マーケティングの定義、歴史、発展形態について解説する。 第2回 グローバル・マーケティングの分析枠組み： グローバル・マーケティングの発展段階について解説し、なぜ、そしてどのように企業が国際化するのかについて解説する。 第3回 日本企業の抱える課題： 過剰品質問題の観点から日本企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題について明らかにし、それを克服するための考え方について解説する。 第4回 【Case】最新技術とニーズ、どちらを重視すべきか： 技術を愛する技術者と市場環境を重視するマーケティングの対立をケースとして、第3回で取り扱った内容について議論する。 第5回 EPRG プロファイル： 経営者の意思決定についてのモデルを解説し、グローバル・マーケティングの意思決定プロセスについて明らかにする。 第6回 標準化－適合理化フレームワーク： 標準化－適合理化フレームワークについて解説し、経営者の意思と本フレームワークの関係性について明らかにする。 第7回 ブランド・コンセプトとグローバル・マーケティング構築： コア・コンセプト、サブ・コンセプトから構成されるブランド・コンセプトを基に、どのようにグローバル・マーケティングを構築するかについての考え方を解説する。 第8回 グローバル製品展開：				

モジュラー型・インテグラル型のアーキテクチャー別製品開発をグローバル・マーケティングの観点から展開する際の課題について解説する。 第9回 グローバル価格展開： グローバルの観点から価格マネジメントにおいて考慮しなければならない要素について解説し、シェアリングやダイナミックプライシングの登場による新しいグローバル価格展開の考え方について解説する。 第10回 【Case】セカンドブランドの開発： 商品を各国市場に浸透させるために「低価格なセカンドブランド」を構築すべきか否かについて第8回，第9回の内容を踏まえて議論する。 第11回 新興市場でのイノベーション： 消費市場としては未成熟であっても，イノベーション創出の場として機能する新興市場について解説し，コスト／グッドイナフ／フルーガル／リパース・イノベーションについて説明する。 第12回 国際市場細分化： 海外市場をどのようなパターンで細分化できるのかについて解説し，市場細分化とブルーオーシャン戦略との関係性について検討する。 第13回 市場参入フレームワーク： 第11回と第12回の内容を踏まえ，新市場へ参入を検討する際の企業のモチベーションと市場参入のプロセスについて解説する。 第14回 グローバル・マーケティングの策定プロセス： これまで解説してきた各概念が，どのように関連し合い，最終的にグローバル・マーケティング策定プロセスに影響をもたらすのかについて解説し，本講義の内容を総括する。
3. 履修上の注意 受講学生は単に講義の内容を頭の中に入れるだけでなく，グローバル・マーケティングの論理・フレームワークや企業の抱える諸問題を踏まえ，「自分ならどうするのか」について常に考えながら参加すること。 またケーススタディの際には，事前に配布した資料を熟読し，自らの考えや意見を持った状態でなければ参加できない。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で取り扱った事例について，関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で調べておくこと。
5. 教科書 古川裕康（2021），『グローバル・マーケティング論』，文眞堂。
6. 参考書 大石芳裕編著（2017），『グローバル・マーケティング零』，白桃書房。 井上真里編著（2020），『グラフィック グローバル・ビジネス』，新世社。 古川裕康（2016），『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』，白桃書房。 Ghemawat, P.（2009），『コークの味は国ごとに違うべきか』，文藝春秋。
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムや下記 URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxjf2656
8. 成績評価の方法 平常点 20%，小テスト 30%，最終試験 50%
9. その他 本講義を履修するにあたっては，マーケティング分野の基礎的な知識を有していることが望ましい。そのためマーケティング基礎論，マーケティング・マネジメントの関連講義を併せて受講することを薦める。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)CMM311J		
科目名		グローバル・マーケティング論B		
担当者		古川 裕康		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
（概要） 本講義は、グローバル・マーケティングの専門的な知識を養成することを目的とする。本講義では特にグローバル・マーケティングと市場環境の関係性に焦点を当てる。展開する国が異なれば、当然のことながら文化的背景・制度・気候・経済状況が大きく異なり、各国の市場間をマネジメントするのは容易ではない。本講義では ・何が各国・各地域の差異を決定づけているのか ・なぜ海外市場への適応だけでは成果が得られないのか というテーマを基に関連する事例やフレームワークを用いて解説する。 本講義ではまず Made in ○○といった原産国情報や、カントリー・バイアス、世界に遍在する文化の傾向といった点から、各国・各地域の差異について検討するフレームワークを学習する。その後、これらの差異を考慮しグローバル・マーケティングを展開するための考え方について議論していく。またケーススタディを通して実際に企業が抱えるグローバル・マーケティング上の課題に触れながら、最終的に各人なりの解決策が提示できるようになることを目標とする。				
（到達目標） この学びを通して、経営学部のディプロマ・ポリシーに掲げられている「歴史的・地理的・文化的背景から多様な人間の特性を理解して協働する能力」、「経営に関する理論・知識を理解し、実践する能力」、「多様な環境において課題を発見し、解決する能力」の養成を目指す。 更に本講義では以下の具体的な能力を身に付けることを目指す。 1. 身近な企業の事例をグローバル・マーケティングの視点から説明することができる。 2. 原産国情報やカントリー・バイアスがグローバル・マーケティングに与える影響について説明することができる。 3. 文化の枠組みとグローバル・マーケティングを関係づけることができる。 4. 市場環境とグローバル・マーケティングの相互作用について説明することができる。 5. グローバル・マーケティングにおけるチャネルの重要性を自らの言葉で表現することができる。				
2. 授業内容				
第1回 （a）イントロダクション： 本講義の特徴ならびにルールについて説明する。 （b）グローバル・マーケティングとは： グローバル・マーケティングの定義、歴史、発展形態について解説する。 第2回 カントリー・オブ・オリジン： 手掛かり情報としての原産国（カントリー・オブ・オリジン）がグローバル・マーケティングのプログラム策定にどう影響をもたらすのかについて解説する。 第3回 カントリー・バイアス： 自国で作られた商品を好む消費者と、特定の国で作られた商品を嫌悪する消費者の存在、そして外国製品に対する肯定的な態度について解説する。 第4回 グローバル・マーケティング・リサーチ： グローバル・マーケティングにおけるリサーチの考え方やプロセスについて解説し、各市場の特徴をどのように測定し市場間の差異と共通性を管理するかについて解説する。 第5回 CAGE フレームワーク： 文化、制度、地理、経済の観点から母国市場と展開先市場の差を考える CAGE について解説し、各要素の持つグローバル・マーケティングへの影響を明らかにする。 第6回 【Case】世界標準化プロモーション： 某化粧品メーカーの世界的プロモーションをケースとして、標準化プロモーションの是非について議論する。 第7回 グローバル・プロモーション： 国際的な広告の標準化－適合化について解説し、ポスト・マスメディア時代のグローバル・プロモーションについて説明する。 第8回 文化研究の歴史：				

グローバル・マーケティングに関連する既存の文化研究がこれまでどのように発展してきたのかについて解説する。 第9回 グローバル・チャネル展開： 延期・投機理論について解説し、ブランド・コンセプトに応じて国際的に構築する流通チャネルの形態が異なることを明らかにする。 第10回 グローバル・サプライチェーン・マネジメント： 世界最古のクロスボーダー戦略である裁定戦略について解説し、世界的なバリューチェーンを構築することの意義と課題について解説する。 第11回 コンテンツを用いたグローバル・マーケティング： アニメ、映画、音楽等といったコンテンツは、日本の強みであると共に、製造業主体のグローバル・マーケティングとは様相が異なる。形の無いコンテンツ展開についてグローバル・マーケティングの観点から解説する。 第12回 【Case】キャラクターを用いた製品の海外展開： キャラクターを展開する某企業の事例をケースに、ライセンス管理とグローバル・マーケティングの関係性について議論する。 第13回 サービスの国際化： サービス業においては製造業とは異なるグローバル・マーケティングの考え方が必要となる。サービス業や小売業の国際化を事例としながら、国際的な知識移転とサービス・マーケティングの課題について解説する。 第14回 グローバル・マーケティング： 本講義の内容を総括しながら、グローバル・マーケティングの役割と現代的な意義・課題について解説する。
3. 履修上の注意 受講学生は単に講義の内容を頭の中に入れるだけでなく、グローバル・マーケティングの論理・フレームワークや企業の抱える諸問題を踏まえ、「自分ならどうするのか」について常に考えながら参加すること。 またケーススタディの際には、事前に配布した資料を熟読し、自らの考えや意見を持った状態でなければ参加できない。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義で取り扱った事例について、関連する新聞記事や日経ビジネス等の雑誌記事を各自で調べておくこと。
5. 教科書 古川裕康 （2021）、『グローバル・マーケティング論』、文眞堂。
6. 参考書 大石芳裕編著 （2017）、『グローバル・マーケティング零』、白桃書房。 井上真里編著 （2020）、『グラフィック グローバル・ビジネス』、新世社。 古川裕康 （2016）、『グローバル・ブランド・イメージ戦略：異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る』、白桃書房。 Ghemawat, P. （2009）、『コークの味は国ごとに違うべきか』、文藝春秋。
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムや下記 URL（専用のフォーム）を用いてコミュニケーション&フィードバックを行う。 https://forms.gle/PQgpr5vS1Kxjf2656
8. 成績評価の方法 平常点 20％、小テスト 30％、最終試験 50％
9. その他 本講義を履修するにあたっては、マーケティング分野の基礎的な知識を有していることが望ましい。そのためマーケティング基礎論、マーケティング・マネジメントの関連講義を併せて受講することを薦める。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)CMM311E		
科目名		Strategic Marketing A		
担当者		MATSUURA YOSHITAKA		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈Course Outline〉 The heart of every successful business lies in marketing. Most aspects of any business depends on successful marketing. Welcome to Strategic Marketing A! This interactive class is taught by a marketing executive who is engaged in real business, and aim to give you a good understanding of basic marketing concepts in English. 本授業では、戦略マーケティングに関する講義・ディスカッションを英語で行います。日本にいながら、欧米の授業スタイルを取り入れ、多くの留学生とともに海外留学の疑似体験をしながら、マーケティングについて学ぶことができます。講師は、20 年以上広告会社でマーケティング職として勤務している実務者です。 〈Objectives〉 The goal for students is to acquire basic and practical knowledge of strategic marketing, including trends and issues related to marketing. Students can also improve English presentation skills through individual presentations and group discussions. 本授業の目的は、基本的かつ実践的な戦略マーケティングの知識や最新の潮流を学ぶことです。 学生は、個人プレゼンやグループディスカッションを通じて、英語のプレゼンスキルなどを向上させることができます。				
2. 授業内容 Each class would be designed to have two major sections: lecture (a) and group discussion (b). First half of the class provide the basic knowledge of marketing. Based on the knowledge, students will discuss and share certain topics in the second half of the class. We would have 2-3 guest lectures to broaden your view towards marketing. Week 1 Course Introduction Week 2 Definition of Marketing (a) Group Discussion (b) Week 3 Developing Marketing Strategies and Plans (a) Group Discussion (b) Week 4 Gathering Information and Scanning the Environment (a)Group Discussion (b) Week 5 Conducting Marketing Research (a) Group Discussion (b) Week 6 Individual Presentation: Town Watching (a) Group Discussion (b) Week 7 Individual Presentation: Town Watching (a) Group Discussion (b) Week 8 Analyzing Consumer Markets (a) Group Discussion (b) Week 9 Identifying Market Segments and Targets (a) Group Discussion (b) Week 10 Creating powerful ideas (a) Group Discussion (b) Week 11 Digital Marketing (a) Group Discussion (b) Week 12 Dealing with Competition (a) Group Discussion (b) Week 13 Case Study: Students Presentation Week 14 Case Study: Students Presentation				
3. 履修上の注意 Course preparations: This course will be interactive, so active participation is required.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の履修に必要な英語力の目安は TOEIC 700 点程度であるが、たとえ未達であっても積極的に英語に取り組みたい学生の履修は歓迎する。 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but even if you are not above 700, I welcome students who strongly want to improve their English skills.				
5. 教科書 None. Handouts are given every time.				
6. 参考書 Kotler, P. and Keller, K.L. () Marketing Management, Pearson International Edition 「マーケティング英語の教科書」, 松浦良高, 宣伝会議(For Japanese, non-native English speakers)				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 30% group discussion, 30% case study presentation, 40% individual report				

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)CMM311E		
科目名		Strategic Marketing B		
担当者		MATSUURA YOSHITAKA		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Course Outline) The heart of every successful business lies in marketing. Most aspects of any business depends on successful marketing. Welcome to Strategic Marketing B! This interactive class is taught by a marketing executive who is engaged in real business, and aim to give you a good understanding of basic marketing concepts in English. 本授業では、戦略マーケティングに関する講義・ディスカッションを英語で行います。日本にしながら、欧米の授業スタイルを取り入れ、多くの留学生とともに海外留学の疑似体験をしながら、マーケティングについて学ぶことができます。講師は、20 年以上広告会社でマーケティング職として勤務している実務者です。 (Objectives) The goal for students is to acquire basic and practical knowledge of marketing, including trends and issues related to marketing communications, promotion, PR, advertising, digital, etc. Students can also improve English presentation skills through individual presentations and group discussions. 本授業の目的は、基本的かつ実践的な戦略マーケティングの知識や最新の潮流を学ぶことです。 学生は、個人プレゼンやグループディスカッションを通じて、英語のプレゼンスキルなどを向上させることができます。				
2. 授業内容 Each class would be designed to have two major sections: lecture (a) and group discussion (b). First half of the class provide the basic knowledge of marketing. Based on the knowledge, students will discuss and share certain topics in the second half of the class. We would have 1-2 guest lecture to broaden your view towards marketing. Week 1 Course Introduction Week 2 Understanding about Marketing Communications (a) Group Discussion (b) Week 3 Identifying consumer insights (a) Group Discussion (b) Week 4 Individual Presentation (a) Group Discussion (b) Week 5 Creating a communication brief (a) Group Discussion (b) Week 6 Communication brief casestudy (a) Group Discussion (b) Week 7 Designing and Managing Integrated Marketing Communications (a) Group Discussion (b) Week 8 Managing Mass Media (a) Group Discussion (b) Week 9 Individual Presentation (a) Group Discussion (b) Week 10 Individual Presentation (a) Group Discussion (b) Week 11 Tapping into Global Markets (a) Group Discussion (b) Week 12 Marketing Contributing to Society (a) Group Discussion (b) Week 13 Case Study: Students Presentation Week 14 Case Study: Students Presentation				
3. 履修上の注意 Course preparations: This course will be interactive, so active participation is required.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本科目の履修に必要な英語力の目安は TOEIC 700 点程度であるが、たとえ未達であっても積極的に英語に取り組みたい学生の履修は歓迎する。 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 700, but even if you are not above 700, I welcome students who strongly want to improve their English skills.				
5. 教科書 None. Handouts are given every time.				
6. 参考書 Kotler, P. and Keller, K.L. () Marketing Management, Pearson International Edition 「マーケティング英語の教科書」、松浦良高、宣伝会議(For Japanese, non-native English speakers)				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 30% group discussion, 30% case study presentation, 40% individual report				

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN331J	
科目名		雇用関係論	
担当者		石塚 史樹	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 企業の競争力を決める経営資源のうち最も重要なものは、「ヒト」、つまり従業員である。そのため、企業は一人一人の従業員をよりよくマネジメントし、働く意欲と満足度を高める努力をしている。このような活動は具体的な労務管理手法を通じて行われるが、その前提として、実際の雇用の場となる組織における雇用関係を成立させるための労使間の・非公式の合意が必要となる。このような合意はどのような前提条件で支えられているのかを理論的に正確に理解し、そのうえでいかにして具体的な雇用関係を構築すればよいのかを考えるための基礎を習得することが、本授業の課題である。この授業内では組織論や内部労働市場論に始まる理論的な説明を基礎として、具体的な事例を踏まえつつ、現実に沿った議論を展開することに努める。この上で、持続性のある雇用社会のありかたを参加者とともに考える。 （到達目標） 1. 雇用関係という側面から、組織がいかなる関係によって構成され、機能しているのかを理論的に理解する。 2. この上で、企業組織で人が働く際の条件を、具体的に考えられるようにする 3. 勤務生活を送るうえでの、雇用関係の意味と重要性を理解する。			
2. 授業内容 第一回：講義概要：雇用の場としての組織を成立させる条件 第二回：雇用関係の歴史①：科学的管理法 第三回：雇用関係の歴史②：人間関係論 第四回：雇用関係の歴史③：管理過程論 第五回：生産管理と雇用関係：リーン生産方式① 第六回：生産管理と雇用関係：リーン生産方式と雇用関係で求められる「効率的な働き方」 第七回：企業の競争力と雇用関係 第八回：雇用の場としての組織と個人の関係：組織論に基づき① 第九回：雇用の場としての組織と個人の関係：組織論に基づき②（公式組織の定義） 第十回：雇用の場としての組織と個人の関係：組織論に基づき③（意思決定理論） 第十一回：雇用組織の存続条件①：組織論に基づき（対内的均衡） 第十二回：雇用組織の存続条件②：組織論に基づき（対外的均衡、あるいは企業組織と外部環境との関係） 第十三回：雇用組織の形成①：新制度派経済学に基づき 第十四回：雇用組織の形成②：階層組織か外部市場か			
3. 履修上の注意 経営学に関する基礎科目を履修していることが望ましい。また、この講義で学んだ理論的基礎を用いると、秋学期に開講される、労使関係論をよりよく理解できるため、履修を強く勧める。さらに、人事労務管理論を並行的に履修または履修済みであると、講義への理解がより進むと考えられる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、授業の終了前に予告する次の授業内容に関するキーワードについて、参考書やその他の紹介された文献を通じて調べ、授業の内容をできるだけ把握し得た知識を構図化して簡潔なノート（様式は任意）にまとめて授業に臨むこと。復習として、授業で説明された内容を踏まえ、上記のノートに加筆しつつ理解を深めること。			
5. 教科書 特定の教科書を特に定めず、主には下記の参考書に依拠しつつ（つまり、下記以外も含めて）、講義内容に関係する文献を指示する。			
6. 参考書 今野浩一郎・佐藤博樹（2009）『人事管理入門（第二版）』日本経済新聞出版社。 上林憲雄，逗子直之，森田雅也（2013）『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。 桑田耕太郎・田尾雅夫著（2010）『組織論（補訂版）』有斐閣アルマ。 久本憲夫（2015）『日本の社会政策（改訂版）』ナカニシヤ出版。 ラジャー，エドワード・P.，樋口美雄・清家篤訳（1998）『人事と組織の経済学』日本経済新聞社。 マースデン，D.，宮本光晴・久保克行訳（2007 年）『雇用システムの理論』NTT 出版。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問があれば個別に対応する。			
8. 成績評価の方法 定期試験 100%。			

9. その他

当該講義の内容は理論が中心であり、大変難度が高い。そのため、単位取得のためには、クラスウェブに講義終了後にアップロードされる講義コンテンツを日常的に徹底的に勉強し、長い時間をかけて定期試験に臨む必要があることに注意すること。

また、授業における説明内容が極めて多いため、一つ一つのテーマについて時間をとることが多い。そのため、状況に応じて、上記の授業内容で挙げたテーマの数を調整することもあるので注意すること。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN331J		
科目名		労使関係論		
担当者		石塚 史樹		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 従来の「労使関係」論の講義において支配的であった、マクロレベルでの集团的労使関係における当事者（使用者・被用者の利益代表）の交渉過程に関わる歴史的現実の展開に関するエピソードの紹介・一部労組の活動状況の報告・「日本的労使関係」あるいは「日本的雇用関係」あるいは「日本的雇用システム」の特殊性の強調、それぞれを自己目的とする講義の構築方針を、今年度に関しては試験的に放棄する。 そのうえで、前学期における「雇用関係論」の方針を継承し、ミクロレベルでの雇用関係を支える様々な構成要素（例えば労働契約、個人業績評価システム、上司による部下のマネジメント、モチベーション管理、被用者の組織への統合、雇用関係の編成原理に関する国別の差異を決める要素 etc.）を支える理論的な枠組みを中心に講義を進めたい。 この際、雇用関係を取り扱った社会科学における定量的・定性的な実証研究の作業仮設を組み立てる際に依拠される頻度が多い、世界的に標準的な学説・理論・概念を中心に解説する。 これにより、卒業論文などで雇用・労働に関わる何らかの実証研究を計画している参加者が、本講義内で習った知見に基づいたアイデアに基づき、理論モデルを踏まえた、学術論文としての体裁を持った研究成果をまとめられる可能性を少しでも高めることにつなげたい。 労使関係は雇用関係という全体の側面であるとの認識から、「集团的労使関係」に拘らず雇用関係、および雇用システム全体に注目し、これがいかなる複合的な関係によって構成され、機能しているのかを理論的に追及する。 この上で（つまり、現実を分析する上で不可欠な理論的な枠組みを習得したうえで）、企業組織で個々人が働く際の条件を、具体的に考えられるようにする。 そして、勤務生活を送るうえでの、雇用関係の意味と重要性を理解する。将来的には、ここで学んだことを基礎として、雇用社会全体を改善する方策を考えられるようにする。				
2. 授業内容 第一回：講義概要：従来の「労使関係論」研究の問題点を踏まえつつ 第二回：不完備契約としての雇用契約とその含意 第三回：マネージャーはなぜ雇われるのかー知識マネジメントの観点からの説明ー 第四回：組織とモチベーションの理論① 第五回：組織とモチベーションの理論② 第六回：組織とモチベーションの理論③ 第七回：組織と従業員のコミットメント 第八回：高好業績サイクルモデルと人的資源管理？ 第九回：「組織人」モデル以外のキャリアの可能性 第十回：雇用システムの国際比較の理論① 第十一回：雇用システムの国際比較の理論② 第十二回：雇用システムの国際比較の理論③ 第十三回：現代企業の雇用システムの変化：日独比較 第十四回：Work Life Balance（WLB）の現状ードイツから見えるものー				
3. 履修上の注意 経営学に関する基礎科目を履修していることが望ましい。また、この講義をよりよく理解するための理論的前提を説明することになる、春学期に開講される雇用関係論を併せて受講することを勧める。さらに、人事労務管理論を並行的に履修または履修済みであると、講義への理解がより進むと考えられる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、授業の終了前に予告する次回の授業内容に関するキーワードについて、参考書やその他の紹介された文献を通じて調べ、授業の内容をできるだけ把握し得た知識を構図化して簡潔なノート（様式は任意）にまとめて授業に臨むこと。復習として、授業で説明された内容を踏まえ、上記のノートに加筆しつつ理解を深めること。				
5. 教科書 特定の教科書を特に定めず、主には下記の参考書に依拠しつつ（つまり、下記以外も含めて）、講義内容に関係する文献を指示する。				

6. 参考書

石塚史樹（2008）『現代ドイツ企業の管理層職員の形成と変容』明石書店。
今野浩一郎・佐藤博樹（2009）『人事管理入門（第二版）』日本経済新聞出版社。
佐藤博樹・佐藤厚編（2012）『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣ブックス。
首藤若菜（2017）『グローバル化の中の労使関係―自動車産業の国際的再編への戦略―』ミネルヴァ書房。
仁田道夫・中村圭介・野川忍（2021）『労働組合の基礎：働く人の未来をつくる』日本評論社。
久本憲夫（2015）『日本の社会政策（改訂版）』ナカニシヤ出版。

7. 課題に対するフィードバックの方法

質問は個別に対応する。

8. 成績評価の方法

定期試験 100%。

9. その他

当該講義の内容は理論が中心であり、大変難度が高い。そのため、単位取得のためには、クラスウェブに講義終了後にアップロードされる講義コンテンツを日常的に徹底的に勉強し、長い時間をかけて定期試験に臨む必要があることに注意すること。

また、授業における説明内容が極めて多いため、一つ一つのテーマについて時間をとることが多い。そのため、状況に応じて、上記の授業内容で挙げたテーマの数を調整することもあるので注意すること。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN331J	
科目名		企業内教育論	
担当者		島内 高太	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標			
〈概要〉 この講義では、企業経営において教育訓練が果たす役割と課題について解説する。講義は2つのパートに分かれている。 第1のパートは、日米熟練工養成制度の学習である。熟練工養成は、企業の競争力の重要な要素であると同時に、一国の産業基盤を支えるものである。企業が熟練工養成を内部化することで企業内教育が成立していく過程を学び、企業内教育の役割や課題を検討する。 第2のパートは、現代日本企業における企業内教育制度の学習である。日本的雇用慣行と一体化して展開されてきた企業内教育のあり方や近年におけるその変化を学び、日本企業の教育訓練の特徴と課題を検討する。 〈到達目標〉 企業が自ら人材育成に取り組むことの意義と課題を日米企業の歴史と現状に即して理解し説明できるようになること、これからの企業内教育訓練のあり方について自らの見解を述べられるようになること、の2点を目標とする。			
2. 授業内容			
第1回 企業経営と企業内教育訓練のかかわり 第2回 アメリカにおける企業内教育の成立①（互換性生産と内部請負制） 第3回 アメリカにおける企業内教育の成立②（科学的管理法） 第4回 アメリカにおける企業内教育の成立③（フォードシステム） 第5回 アメリカにおける企業内教育の成立④（大量生産システムと企業内教育の確立） 第6回 日本における企業内教育の成立①（明治期の万能工と親方請負制） 第7回 日本における企業内教育の成立②（重化学工業の発達と養成工制度） 第8回 日本における企業内教育の成立③（戦後量産体制の確立と監督者訓練制度） 第9回 日本における企業内教育の成立④（トヨタ生産方式と「多能工」育成） 第10回 現代日本企業の教育訓練①（日本型雇用慣行） 第11回 現代日本企業の教育訓練②（「新時代の日本的経営」） 第12回 現代日本企業の教育訓練③（メンバーシップ型雇用とジョブ型雇用） 第13回 現代日本企業の教育訓練④（人的資本経営とリスクリング） 第14回 総まとめ			
3. 履修上の注意			
・経営学の基本的科目を学んだ者が、人事労務管理論、雇用関係論、労使関係論、経営管理論あるいは生産管理論と合わせて履修すると学習効果が高まる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
・シラバスや講義資料を参考に、今回の授業のキーワードを下調べして理解しておくこと。 ・講義後は、講義資料とメモを整理し、疑問点を明らかにしておくこと。 ・また、企業・経済にかかわる報道をチェックする場合、製造業の動向や技術革新のあり方についても関心をもって欲しい。			
5. 教科書			
・教科書は使用しません。適宜、講義資料（概要や資料を掲載したもの）を配布します。			
6. 参考書			
①佐藤厚著『日本の人材育成とキャリア形成－日英独の比較』中央経済社、2022年。 ②平沼高・佐々木英一・田中萬年編著『熟練工養成の国際比較－先進工業国における現代の徒弟制度』ミネルヴァ書房、2007年。 ③榎一江・小野塚知二編著『労務管理の生成と終焉』日本経済評論社、2014年。 ④明治大学企業内教育研究会編『人材活用と企業内教育』日本経済評論社、2000年。 ⑤島内高太著『企業内訓練校の教育システム－連携と共有による中核技能者育成』晃洋書房、2022年。 ⑥海老原嗣生著『人事の組み立て－脱日本			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
・講義内で課す感想文等の内容の一部を紹介するなどして、講義内容を理解するためのポイントを提示するとともに受講生の多様な考え方に触れてもらう機会をつくる。			
8. 成績評価の方法			
・期末試験（80％）、平常点（20％） ・なお、本講義において平常点とは、講義内で課す感想文等の提出による。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN331J		
科目名		能力開発論		
担当者		島内 高太		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 この講義では、日本における職業能力開発の制度、実態そして課題について多角的に学ぶ。目まぐるしい社会の変化のなかで、私たちは常に学習していかなければならない。企業も、意欲的に学ぶ者を採用して自社の中核人材として育成し競争力を構築しなければならない。また、そうした職業能力開発のあり方は国によって、時代によって異なっている。私たちの社会を支える職業能力開発を学ぶことで、日本の産業社会のこれからを考える。 〈到達目標〉 日本の職業能力開発の制度、実態、課題について説明できるようになること、そして、今日の社会情勢を踏まえた能力開発のあり方について自らの見解を述べられるようになること、の2点を目標とする。				
2. 授業内容 第1回 職業能力開発の意義 第2回 日本の職業能力開発の全体像（企業内教育、公共職業訓練、民間プロバイダー） 第3回 企業の能力開発①（OJT の制度と実態） 第4回 企業の能力開発②（OJT を支える経験学習論） 第5回 企業の能力開発③（Off-JT の制度と実態） 第6回 企業の能力開発④（Off-JT を支える研修理論） 第7回 企業の能力開発⑤（越境学習への取り組み） 第8回 企業の能力開発⑥（グローバル人材育成） 第9回 職業能力開発と雇用形態の多様化 第10回 職業能力開発と人材の多様化①（女性の活躍） 第11回 職業能力開発と人材の多様化②（高齢者の活躍） 第12回 公共職業訓練の制度・実態・課題 第13回 職業能力開発の国際比較 第14回 総まとめ				
3. 履修上の注意 ・経営学の基本的科目を学んだ者が、人事労務管理論、雇用関係論、労使関係論などと合わせて履修すると学習効果が高まる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・シラバスや講義資料を参考に、次回の授業のキーワードを下調べして理解しておくこと。 ・講義後は、講義資料とメモを整理し、疑問点を明らかにしておくこと。 ・また、経営学部生が日常的にチェックしている企業・経済、就職活動にかかわる報道に加えて、学校教育や生涯学習等に関する情報にも関心をもって欲しい。				
5. 教科書 ・教科書は使用しません。適宜、講義資料（概要や資料を掲載したもの）を配布します。				
6. 参考書 ①松本雄一著『ベーシックテキスト人材開発論 Lite』同文館出版、2023 年。 ②中原淳著『経営学習論（増補新装版）－人材育成を科学する』東京大学出版会、2021 年。 ③中原淳著『職場学習論（新装版）－仕事の学びを科学する』東京大学出版会、2021 年。 ④佐藤厚著『組織のなかで人を育てる』有斐閣、2016 年。 ⑤平沼高・新井吾朗編著『大学だけじゃないもうひとつのキャリア形成－日本と世界の職業教育』職業訓練教材研究会、2008 年。 ⑥田中萬年・大木栄一編著『働く人の「学習」論－生涯職業能力開発論』学				
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・講義内で課す感想文等の内容の一部を紹介するなどして、講義内容を理解するためのポイントを提示するとともに受講生の多様な考え方に触れてもらう機会をつくる。				
8. 成績評価の方法 ・期末試験（80%）、平常点（20%） ・なお、本講義において平常点とは、講義内で課す感想文等の提出による。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN311J	
科目名		中小企業論 A	
担当者		岡田 浩一	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 「中小企業とは何か？」この問いに答えることは難しい。この問いこそが、中小企業研究の出発点であり、到達点であるともいわれている。さらに、この問いは、なぜ中小企業を定義しなければならないのかという問いへもつながっている。規模が小なるがゆえに何らかの問題をもつ存在、そして社会的・経済的弱者としてとらえられる中小企業については、日本資本主義の発展段階にかかわってその問題が顕在化してきたともいえる。 しかし、今日、日本経済の再興に向けては、中小企業の成長発展が必要不可欠であり、そのために中小企業が抱える問題の克服が求められているのである。 この問題克服につなげるべく、中小企業問題の本質について、さまざまな角度から検討していくようにします。 〈到達目標〉 中小企業という研究対象を通じて広く経営経済への興味関心を高めるとともに、中小企業問題の解決に寄与できるようにすることを目指すします。			
2. 授業内容 以下の項目で授業を進めていきます。 第1回 導入 最近の中小企業の動向 第2回 中小企業の定義 第3回 資本主義と中小企業問題 第4回 中小企業の存立形態 第5回 地域経済と中小企業 第6回 中堅企業論の登場 第7回 企業家登壇 第8回 二重構造論 第9回 下請法から取引適正化法 第10回 下請・系列取引の歴史 第11回 日本的取引関係 第12回 中小企業の商業集積 第13回 国際化と中小企業 第14回 まとめとテスト 原則的には上記予定に基づいて講義を進めていきますが、状況に応じて順序を入れ替える場合もあります。また、出来るだけ多くの事例も紹介するとともに、中小企業経営者や支援者から中小企業の実態についてお話しいただく機会を設けたいと思います。			
3. 履修上の注意 授業の内容をより深く理解するために、春学期は全学共通総合講座「明治起業家学」、秋学期は中小企業論 B と経営学特別講義 B の履修をお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、経済雑誌から必要な情報を日常的に収集してください。			
5. 教科書 特に指定しません。			
6. 参考書 岡田編著『中小企業の IT 経営論』同友館 岡田・石川編著『ケースで学ぶまちづくり』創成社 関智宏編集『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房 長山ほか編『地域とつながる中小企業論』有斐閣			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を使っておこないます。			
8. 成績評価の方法 第14回講義日に、期間前試験として論述形式の試験のみで評価します（試験 100％）。			

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN311J	
科目名		中小企業論 B	
担当者		岡田 浩一	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 中小企業論 A が中小企業問題の本質的研究を軸にして、「中小企業とは何か？」という問いに始まり、日本資本主義の特殊性を解明し、中小企業問題の解決策を模索する内容であることに對して、本講義は積極的企業觀にもとづく中小企業研究に比重をおいて展開します。 具体的には、中堅企業研究、ベンチャービジネス研究を背景とした経営論となります。 厳しい経済状況にある日本で、経済活性化に向けて中堅企業やベンチャービジネスなどへの期待は高まっています。それらの経営が従来型中小企業とどのように異なるのかという問題意識をもって講義を進めていきます。 (到達目標) 中小企業の成長発展に向けて必要になるとされる経営学的知識を身につけていくことを目指します。			
2. 授業内容 以下の項目で授業を進めていきます。 第 1 回 導入 積極的企業觀に基づく中小企業研究 第 2 回 積極的企業觀に基づく企業の登場 VB の定義 第 3 回 企業家とベンチャーブーム 第 4 回 日本のベンチャーキャピタル 第 5 回 ベンチャービジネスの資金調達 第 6 回 VB 政策 第 7 回 スタートアップ・地方創生・地域未来戦略 第 8 回 事業承継・M&A 第 9 回 新興企業の経営課題 第 10 回 価値創出と第 2 創業 第 11 回 企業家の取組み 第 12 回 中小企業政策 第 13 回 社会変化とビジネスチャンス 第 14 回 まとめとテスト 原則的には上記予定に基づいて講義を進めていきますが、状況に応じて順序を入れ替える場合もあります。また、出来るだけ多くの事例も紹介するとともに、起業家や支援者によるお話をいただく機会を設けたいと思います。			
3. 履修上の注意 授業の理解を深めるため、春学期の中小企業論 A、全学共通総合講座「明治起業家学」、秋学期の経営学特別講義 B の履修をお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 新聞、経済雑誌から必要な情報を日常的に収集してください。 身近に存在する成長企業について、成長要因がどこにあるのかを探求してみてください。			
5. 教科書 特に指定しません。			
6. 参考書 山田敏夫『ものがたりのあるものづくり』日経 BP 社 松田修一『ベンチャー企業』日経文庫 浜田康行『新版 日本のベンチャーキャピタル』日本経済新聞社 関智宏編集『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を使って通知します。			
8. 成績評価の方法 第 14 回講義日に、期間前試験として実施する論述形式の試験のみで評価します（試験 100%）。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN311J	
科目名		スタートアップ企業論 A	
担当者		カン ビクトリヤ	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標			
<授業の概要> 今日の急速に変化するビジネス環境において、失敗を恐れず新しいことに挑戦するスタートアップ企業は、日本経済の成長と活性化を牽引する存在として注目されています。新規に立ち上がる急成長型のイノベーション企業こそ、「創造的破壊」の担い手であり、次世代の世界経済の原動力として高く評価されている。 本講義では、スタートアップ企業やベンチャー・ビジネスに関する基礎知識を踏まえつつ、経済社会におけるその多様な役割や起業家精神の意義について学びます。特に、近年の優れたスタートアップ事例を検討することで、実践的な経営戦略や新規事業におけるイノベーション戦略といった起業家の必須スキルへの理解を深め、アントレプレナー・マインドを養成することを目指します。 「スタートアップ企業論 A」では、新規開業企業が直面する経営課題や新規事業立ち上げに必要なプロセスをステップバイステップで把握します。特に、起業家による事業機会の探索と識別、革新的なビジネスアイデアの創出プロセス、および持続可能なビジネスモデルの構築に焦点を当て、スタートアップ企業の成功に寄与する要因について様々な角度から共に考察を深めます。 <到達目標> ①スタートアップ企業の概念とその経済における位置づけを批判的に考察し、既存中小企業との相違点を明確に説明できること。 ②現代経済社会におけるスタートアップ企業の役割と貢献について解釈できること。 ③世界のユニコーン企業および日本の優良スタートアップ企業の成功事例と、それらに内在する課題について説明できること。 ④起業家の思考プロセスおよび起業家精神の構成要素を理論的に理解し、その重要性を説明できること。 ⑤ビジネスチャンスの探索、事業機会の創出、および新規事業立ち上げのプロセスを体系的に理解し、ビジネスモデル・キャンパスを用いて基本的なビジネスモデルを設計できること。 ⑥創業者が直面する主要な経営課題を特定し、問題発見能力および問題解決能力を用いて検討できること。 ⑦構築したスタートアップ企業のビジネスモデルについて、経済性および実現可能性の観点から評価・判断できること。			
2. 授業内容			
第 1 回 イン트로ダクション			
世界の優良スタートアップ企業・ユニコーン企業のランキング			
第 2 回 アントレプレナーシップとは？スタートアップ企業と起業家革命の時代、			
コロナ禍に急成長した日本の優良スタートアップ企業 TOP100			
第 3 回 経済社会におけるスタートアップ企業の重要性と役割、			
ベンチャー・ブームの歴史、「産業の突然死」			
第 4 回 創業者・アントレプレナーの特徴、起業家の思考プロセス			
第 5 回 スタートアップ企業によるイノベーション戦略、			
事業機会の認識、アイデアの創出			
第 6 回 ビジネスモデルの構築：価値提案、顧客セグメント、顧客との関係、チャネル			
第 7 回 ビジネスモデルの構築：主要活動、リソース、コスト構造、収益の流れ、パートナー			
第 8 回 スタートアップの企業理念、ビジョン			
第 9 回 事業計画立案のチェックポイント			
第 10 回 デジタル時代のビジネスモデル：スタートアップの事例（メタバース、VR、AR など）			
第 11 回 デジタル時代のビジネスモデル：スタートアップの事例（AI のタイプ、利活用）			
第 12 回 スタートアップ企業のオペレーション・マネジメント			
第 13 回 スタートアップ企業の会計、ビジネスモデルの経済性、実現性			
第 14 回 a. まとめ b. 試験			
※講義の進行状況に応じて、内容および順序を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意			
本講義は、スタートアップ企業に関する深い関心と学習意欲を持つ学生の履修を推奨します。授業中には意見交換やディスカッションを行うこともあるので、学生の積極的な参加が望まれます。			
将来的に創業を考えている学生の履修を特に歓迎します。通常の課題に代えて、学生が独自に構築したビジネスモデルや事業計画書を提出し、これを評価対象とすることが可能です。			
適宜、外部講師を招く場合もあり得ます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習として、スタートアップやアントレプレナーシップに関連する新聞・テレビ等のニュースに日常的に目を通し、スタートアップ企業が直面する経営課題や成功事例について理解を深めてほしいです。			
講義資料の末尾に記載されている参考文献や講義ノートを読んで復習し、不明な点や質問があれば、授業の直前・直後、またはメールにて聞いてください。			
本講義では、個人またはチームでオリジナルアイデアに基づいたビジネスモデルを構築する課題が出ます。各回の配布資料を読み込んで、スタートアップを作るためのビジネスモデルの要素について深く考えてきてほしいです。			

5. 教科書

基本的に特定のテキストは使用しないが、テーマにより（＊）をテキストとして使用することもある。

有用な参考文献は講義にて随時取り上げ紹介し、授業のあらましと資料を配付する。

＊『スタートアップの経済学—新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ』加藤雅俊（有斐閣）2022。

6. 参考書

（日本語）

『ベンチャー白書（2018～2026 年版）』ベンチャーエンタープライズセンター。

『スタートアップとは何か—経済活性化への処方箋』加藤雅俊（岩波書店）2024 年。

『アントレプレナーシップ』清水洋（有斐閣）2022 年。

『ビジネスモデル・ジェネレーション』A. オスターワルダー、Y. ピニユール（翔泳社）2012 年。

『アントレプレナーシップ』W. バイグレイブ、A. ザカラキス（日経 BP 社）2009 年。

『ベンチャー創造の理論と戦略』J.A. ティモンズ（ダイヤモンド社）19

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

リアクションペーパーの全体講評を Oh-o! Meiji を通じて配信する。

8. 成績評価の方法

小テスト／Quiz（10%）、宿題（30%）、試験（50%）、

グループワーク（10%、履修者数により変更する場合がある）を目安として総合的に評価する。

9. その他

本講義では、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、反転授業、グループワーク、ディスカッション、ビジネスモデルのプレゼンテーションなどを実施する場合がある（履修者数により調整する）。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN311J	
科目名		スタートアップ企業論B	
担当者		カン ビクトリヤ	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標			
<授業の概要> 今日の急速に変化するビジネス環境において、失敗を恐れず新しいことに挑戦するスタートアップ企業は、日本経済の成長と活性化を牽引する存在として注目されています。新規に立ち上がる急成長型のイノベーション企業こそ、「創造的破壊」の担い手であり、次世代の世界経済の原動力として高く評価されているのです。 本講義では、スタートアップ企業やベンチャー・ビジネスに関する基礎知識を踏まえつつ、経済社会におけるその多様な役割や起業家精神の意義について学びます。特に、近年の優れたスタートアップ事例を検討することで、実践的な経営戦略や新規事業におけるイノベーション戦略といった起業家の必須スキルへの理解を深め、アントレプレナー・マインドを養成することを目指します。 「スタートアップ企業論 B」では、スタートアップ企業が直面する経営課題を、成長ステージ別および企業タイプ別に検討します。加えて、事業環境の変化への対応戦略、効果的な資金調達手法、ベンチャーキャピタル（VC）の活用、ならびに起業後の成長戦略に焦点を当て、スタートアップ企業の成功秘訣について多角的に共に考察を深めます。 <到達目標> ①スタートアップ企業の概念とその現代経済社会における役割について説明できること。 ②日本のユニコーン企業の成功事例と、それらを支える起業家エコシステムについて説明できること。 ③スタートアップ企業が直面する経営課題を、成長ステージ別および企業タイプ別に整理・特定し、問題発見および問題解決の観点から検討できること。 ④グローバル化や情報化の進展、競争環境の変化といったビジネス環境を把握し、それらがスタートアップ企業のパフォーマンスや成功要因に与える影響について考察・判断できること。 ⑤スタートアップ企業にとって有効な資金調達手法およびベンチャーキャピタル（VC）の役割について、その仕組みと意義を理解し、説明できること。 ⑥日本経済新聞等を読み解きながら、スタートアップ企業の戦略的経営について深掘りし、それに対して提案や解決策を考えることができること。 ⑦研究機関の調査報告書やベンチャー企業白書等を参照し、スタートアップ企業に対する政策的支援のあり方について論理的に説明できること。			
2. 授業内容			
第 1 回 イントロダクション：日本のユニコーン企業			
第 2 回 日本経済における急成長イノベーション企業の重要性			
第 3 回 スタートアップ企業の経営戦略：成長ステージ別のマネジメントと経営課題			
第 4 回 スタートアップ企業の環境要因：PEST 分析、企業家エコシステム、参入障壁など			
第 5 回 大学発スタートアップ企業			
第 6 回 バイオベンチャーのビジネスモデルと経営問題			
第 7 回 IT スタートアップ企業の現状と課題：ベストベンチャー100			
第 8 回 スタートアップ企業の資金調達戦略、ベンチャーファイナンスの現状と問題点			
第 9 回 日米ベンチャーキャピタル投資の比較			
第10回 スタートアップ企業と知的財産権の問題、特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）			
第11回 スタートアップ企業の収益性、安全性、成長性			
第12回 スタートアップ企業の人材マネジメント、組織運営、成長戦略			
第13回 スタートアップ企業向けの公的支援制度、J-StartX、J-Startup など			
第14回 a. まとめ b. 試験			
※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番の変更がある。			
3. 履修上の注意			
本講義は、スタートアップ企業に関する深い関心と学習意欲を持つ学生の履修を推奨します。授業中には意見交換やディスカッションを行うこともあるので、学生の積極的な参加が望まれます。 将来的に創業を考えている学生の履修を特に歓迎します。通常の課題に代えて、学生が独自に構築したビジネスモデルや事業計画書を提出し、これを評価対象とすることが可能です。 適宜、外部講師を招く場合もあり得ます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習として、スタートアップやアントレプレナーシップに関連する新聞・テレビ等のニュースに日常的に目を通し、スタートアップ企業が直面する経営課題や成功事例について理解を深めてほしいです。 講義資料の末尾に記載されている参考文献や講義ノートを読んで復習し、不明な点や質問があれば、授業の直前・直後、またはメールにて聞いてください。 本講義では、個人またはチームでオリジナルアイデアに基づいたビジネスモデルを構築する課題が出ます。各回の配布資料を読み込んで、スタートアップを作るためのビジネスモデルの要素について深く考えてきてほしいです。			

5. 教科書

基本的に特定のテキストは使用しないが、テーマにより（＊）をテキストとして使用することもある。
有用な参考文献は講義にて随時取り上げ紹介し、授業のあらましと資料を配付する。
＊『スタートアップの経済学―新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ』加藤雅俊（有斐閣）2022。

6. 参考書

（日本語）
『ベンチャー白書（2018～2026）』ベンチャーエンタープライズセンター。
『スタートアップとは何か―経済活性化への処方箋』加藤雅俊（岩波書店）2024年。
『アントレプレナーシップ』清水洋（有斐閣）2022年。
『ビジネスモデル・ジェネレーション』A. オスターワルダー、Y. ピニユール（翔泳社）2012年。
『アントレプレナーシップ』W. バイグレイブ、A. ザカラキス（日経BP社）2009年。
『ベンチャー創造の理論と戦略』J. A. ティモンズ（ダイヤモンド社）1997年。
（英語）
『Dis

7. 課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。
リアクションペーパーの全体講評を Oh-o! Meiji を通じて配信する。

8. 成績評価の方法

小テスト／Quiz（10%）、宿題（30%）、試験（50%）、グループワーク（10%、履修者数により変更する場合がある）を目安として総合的に評価する。

9. その他

本講義では、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、反転授業、グループワーク、ディスカッション、ビジネスモデルのプレゼンテーションなどを実施する場合がある（履修者数により調整する）。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学史 A	
担当者		磯山 優	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営学史は、経営学の歴史を学ぶための科目です。経営学の歴史を築いてきた先人がどのような学説を唱えてきたのか、そして、その学説はどのような背景を持って生まれてきたのか、などを中心に講義していきます。経営学史 A では、経営学の誕生から 1950 年代まで、主にアメリカでの経営学説について講義します。 〈到達目標〉 経営学の各学説がどのように生成されてきたのか、そして、それはどのような社会的背景の中で生成されてきたのかを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第 1 回 a：イントロダクション この授業の特徴および成績のつけ方等についてお話しします。 b：本講義で考える経営学の特徴について講義します。 第 2 回 経営学史の特徴について講義します。 第 3 回 アメリカでの経営学誕生前について講義します。 第 4 回 F. Taylor の科学的管理法を中心に講義します。 第 5 回 M. Weber の官僚制に関する議論を中心に講義します。 第 6 回 H. Ford の「管理無用論」を中心に講義します。 第 7 回 a：中間試験を行います。 b：中間試験の解説および学期前半部分を復習します。 第 8 回 E. Mayo らの人間関係論を中心に講義します。 第 9 回 A. Berle and G. Means の経営者支配説を中心に講義します。 第 10 回 C. I. Barnard の組織理論を中心に講義します。 第 11 回 H. Fayol の管理過程論及び管理過程学派について講義します。 第 12 回 A. Maslow や F. Herzberg ら経営心理学の理論を中心に講義します。 第 13 回 まとめとして、春学期全体を振り返ります。 第 14 回 期末試験を行います。			
3. 履修上の注意 出席したら、厳に私語を慎んでください。他人に迷惑をかける学生は退席させます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 各回の最後に次の回の授業のキーワードを発表しますので、それについて自分で調べてみてください。 〈復習〉 毎回配布するプリントを再度読んでください。			
5. 教科書 磯山優（2009）『現代組織の構造と戦略』、創成社、を使用します。また、毎回プリントを配布します。			
6. 参考書 上で挙げた研究者の各著書。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 1. 毎回授業後にオンラインで小テストを行います。（5 点×10 回） 2. 中間試験（50 点）と期末試験（100 点）を行います。 3. 合計して 200 点になるので、所定の点数を超えていれば合格とします。 4. なお、出席は加点の対象とします。			
9. その他 外部講師を招いて受講生に健康に関する講演をしたり、アンケート調査に協力をお願いすることがあります。			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学史 B	
担当者		磯山 優	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経営学史は、経営学の歴史を学ぶための科目です。経営学の歴史を築いてきた先人がどのような学説を唱えてきたのか、そして、その学説はどのような背景を持って生まれてきたのか、などを中心に講義していきます。経営学史 B では、1940 年代から 1980 年代に至るまで、主にアメリカでの経営学説について講義します。 〈到達目標〉 経営学の各学説がどのように生成されてきたのか、そして、それはどのような社会的背景の中で生成されてきたのかを理解することを目的とします。			
2. 授業内容 第 1 回 a: イントロダクション この授業の特徴および成績のつけ方等についてお話しします。 b: 1960 年代までの経営学史について振り返ります。 第 2 回 H. A. Simon の意思決定論を中心に講義します。 第 3 回 J. Woodward および Aston Group などイギリスのコンティンジェンシー理論を中心に講義します。 第 4 回 P. Lawrence and J. Lorsch のコンティンジェンシー理論を中心に講義します。 第 5 回 C. Perrow, L. Greiner らの組織デザイン論を中心に講義します。 第 6 回 H. Ansoff の経営戦略論を中心に講義します。(その 1) 第 7 回 H. Ansoff の経営戦略論を中心に講義します。(その 2) 第 8 回 a: 中間試験を行います。b: 中間試験の解説および学期前半部分を復習します。 第 9 回 J. Pfeffer らの資源依存理論を中心に講義します。 第 10 回 O. Williamson の取引コスト論を中心に講義します。 第 11 回 M. Porter の競争戦略論を中心に講義します。(その 1) 第 12 回 M. Porter の競争戦略論を中心に講義します。(その 2) 第 13 回 1980 年代までの経営学史を総括し、経営学に対する経営学者の貢献と課題について講義します。 第 14 回 期末試験を行います。			
3. 履修上の注意 出席したら、厳に私語を慎んでください。他人に迷惑をかける学生は退席させます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 〈予習〉 各回の最後に次の回の授業のキーワードを発表しますので、それについて自分で調べてみてください。 〈復習〉 毎回配布するプリントを再度読んでください。			
5. 教科書 磯山優（2009）『現代組織の構造と戦略』、創成社、を使用します。また、毎回プリントを配布します。			
6. 参考書 上で挙げた研究者の各著書。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 1. 毎回授業後にオンラインで小テストを行います。(5 点×10 回) 2. 中間試験 (50 点) と期末試験 (100 点) を行います。 3. 合計して 200 点になるので、所定の点数を超えていれば合格とします。 4. なお、出席は加点の対象とします。			
9. その他 外部講師を招いて受講生に健康に関する講演をしたり、アンケート調査に協力をお願いすることがあります。			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(CO)MAN361E		
科目名		International Management A 経営学科・会計学科共同設置		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: Globalization has become a buzzword in the world today even during the times of it passing through a pandemic the end of which is believed to be in sight. From a broader perspective, this globalization can be seen as a vital and critical force that shapes managing multinational enterprises (MNEs) operating in various host countries. MNEs are known to be taking unique approaches to manage their business and operations whilst taking well into consideration historical, social, cultural, environmental, legal, political, and geopolitical factors in their host countries. This course is designed in such a way to provide students with a platform to be knowledgeable of basics of international management with special reference to national differences and the broader environment of international business. At the end of the course, students will be able to: (a) know the uniqueness of managing MNEs when it is compared with the case of home-grown companies (operating in a single country). (b) understand basic concepts, principles, and theories of managing business in international context. (c) apply these concepts, principles, theories to analyze various routine and non-routine issues os managing international business. Learning and teaching methods of this course include largely lectures and interactive discussions. Foreign exchange students are also cordially welcome to take this course. The course facilitator envisages employing face-to-face (in-person) interactions as the primary instruction type for delivering this course. Nevertheless, there is a high possibility of Zoom Video conferencing technology in the case of holding the Guest Speaking Session by a practicing manager from the industry.				
2. 授業内容 Course Content 1st Week Multinational Enterprises (MNEs), international management (IM), and international managers 2nd Week Globalization: Lens for understanding the rationale and significance of IM 3rd Week Environmental Context of MNEs 1 4th Week Environmental Context of MNEs 2 5th Week Culture, differences in culture, and managing across cultures 1 6th Week Culture, differences in culture, and managing across cultures 2 7th Week Ethics, corporate social responsibility, and sustainability (with environmental, social, and governance [ESG] framework) 1 8th Week Ethics, corporate social responsibility, and sustainability (with environmental, social, and governance [ESG] framework) 2 9th Week Foreign Direct Investment (FDI) 1 10th Week Foreign Direct Investment (FDI) 2 11th Week Guest Speaking Session TBA 12th Week Regional Economic Integration 1 13th Week Regional Economic Integration 2 14th Week Reflections and course wrap up				
3. 履修上の注意 Registration Requirements There is no pre-requisite course(s) for International Management A. The course will be delivered in English. It offers students opportunities for improving continuously and confidently their communication skills (speaking, reading, listening, and writing) in English. The test of English for International Communication (TOEIC) level desirable for registering for this course is around 750 points.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. Active participation and engagement in classroom meetings are vital for students to derive maximum benefits from taking this course. Students are also motivated to read at leisure the relevant chapter(s) of the course textbook prior to attending classroom meetings. More details of these chapters will be communicated as delivering of this course progresses through.				
5. 教科書 Textbook (s) Hill.C. W. L. (2021). International business: Competing in the global marketplace (13th ed.) . McGraw-Hil Education. Students can access online this textbook on ProQuest Ebook Central platform of the library of Meiji University.				

For doing
6. 参考書 American Psychological Association (2020) Publication manual of the American psychological association (7th edition). https://psycnet.apa.org/doi/10.1037/0000165-000 Luthans, F., and Doh, J. P. (2018) International management: Culture, strategy, and be
7. 課題に対するフィードバックの方法 How to provide Feedback to assignments Regarding the quizzes, in general, students will be provided with post quiz constructive feedback session during the classroom meetings. This is an addition to viewing correct answers by themselves after the submi
8. 成績評価の方法 Assessment Course assessment comprises three components: (1) 10 Quizzes 40% (2) Final Exam 50% (40-50 Objective multiple choice questions that students must answer in the class web.) (3) Participation and engagement in class discussions 10%
9. その他 You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2026classes.sumi@gmail.

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(CO)MAN361E		
科目名		International Management B 経営学科・会計学科共同設置		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: Globalization has become a buzzword in the world today even during the times of it passing through a pandemic the end of which is believed to be in sight. From a broader perspective, this globalization can be seen as a vital and critical force that shapes managing multinational enterprises (MNEs) operating in various host countries. MNEs are known to be taking unique approaches to manage their business and operations whilst taking well into consideration historical, social, cultural, environmental, legal, political, and geopolitical factors in their host countries. The major foci of this course are on the nature and scope of international management, the strategy and structure of international business, and functional areas of international management such as global production (operations) and supply chain management, global marketing, and global human resource management. At the end of the course, students will be able to: (a) explain why MNEs need to be unique and sensitive in managing their business across borders by paying special attention to their adaptation needs on the "global" and "local" levels. (b) apply these concepts, principles, theories to analyze various routine and non-routine issues os managing international business. (c) identify some key considerations of planning to pursue a managerial career in MNEs or entrepreneurial career I international context. Learning and teaching methods of this course include largely lectures and interactive discussions. Foreign exchange students are also cordially welcome to take this course. The course facilitator envisages employing face-to-face (in-person) interactions as the primary instruction type for delivering this course. Nevertheless, there is a high possibility of Zoom Video conferencing technology in the case of holding the Guest Speaking Session by a practicing manager from the industry.				
2. 授業内容 Course Content: 1st Week Multinational Enterprises (MNEs), international management (IM), and international managers 2nd Week Globalization: Lens for understanding the rationale and significance of IM 3rd Week The strategy of international business 1 4th Week The strategy of international business 2 5th Week The organization of International business 1 6th Week The organization of international business 2 7th Week Global Production and supply chain management 1 8th Week Global production and supply chain management 2 9th Week Global Marketing and business analytics 1 10th Week Global Marketing and business analytics 2 11th Week Guest Speaking Session TBA 12th Week Global Human Resource Management 1 13th Week Global Human Resource Management 2 14th Week Reflections and course wrap up				
3. 履修上の注意 Registration Requirements There is no pre-requisite course(s) for International Management B. Nevertheless, students are advised to be knowledgeable of what is covered in International Management A as its scope entails fundamentals of the subject. The course will be delivered in English. It offers students opportunities for improving continuously and confidently their communication skills (speaking, reading, listening, and writing) in English. The test of English for International Communication (TOEIC) level desirable for registering for this course is around 750 points.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji's class web in between classes. 2. Active participation and engagement in classroom meetings are vital for students to derive maximum benefits from taking this course. Students are also motivated to read at leisure the relevant chapter(s) of the course textbook prior to attending classroom meetings. More details of these chapters will be communicated as delivering of this course progresses through.				

5. 教科書

Textbook (s)

Hill, C. W. L. (2021). International business: Competing in the global marketplace (13th ed.) . McGraw-Hill Education.

Students can access online this textbook on ProQuest Ebook Central platform of the library of Meiji University.

For doing

6. 参考書

American Psychological Association (2020) Publication manual of the American psychological association (7th edition).
<https://psycnet.apa.org/doi/10.1037/0000165-000>

Luthans, F., and Doh, J. P. (2018) International management: Culture, strategy, and be

7. 課題に対するフィードバックの方法

How to provide Feedback to assignments

Regarding the quizzes, in general, students will be provided with post quiz constructive feedback session during the classroom meetings. This is an addition to viewing correct answers by themselves after the submi

8. 成績評価の方法

Assessment

Course assessment comprises three components:

(1) 10 Quizzes 40%

(2) Final Exam 50% (40-50 Objective multiple choice questions that students must answer in the class web.)

(3) Participation and engagement in class discussions 10%

9. その他

You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2026classes.sumi@gmail.

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN361E		
科目名		International Management A（英語要件あり） 経営学科・会計学科 共同設置		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: Globalization has become a buzzword in the world today even during the times of it passing through a pandemic the end of which is believed to be in sight. From a broader perspective, this globalization can be seen as a vital and critical force that shapes managing multinational enterprises (MNEs) operating in various host countries. MNEs are known to be taking unique approaches to manage their business and operations whilst taking well into consideration historical, social, cultural, environmental, legal, political, and geopolitical factors in their host countries. This course is designed in such a way to provide students with a platform to be knowledgeable of basics of international management with special reference to national differences and the broader environment of international business. At the end of the course, students will be able to: (a) know the uniqueness of managing MNEs when it is compared with the case of home-grown companies (operating in a single country). (b) understand basic concepts, principles, and theories of managing business in international context. (c) apply these concepts, principles, theories to analyze various routine and non-routine issues os managing international business. This is an advanced-level introductory international management course. Learning and teaching methods of this course include largely lectures and interactive discussions. Foreign exchange students are also cordially welcome to take this course. The course facilitator envisages employing face-to-face (in-person) interactions as the primary instruction type for delivering this course. Nevertheless, there is a high possibility of Zoom Video conferencing technology in the case of holding the Guest Speaking Session by a practicing manager from the industry.				
2. 授業内容 Course Content 1st Week Multinational Enterprises (MNEs), international management (IM), and international managers 2nd Week Globalization: Lens for understanding the rationale and significance of IM 3rd Week Environmental Context of MNEs 1 4th Week Environmental Context of MNEs 2 5th Week Culture, differences in culture, and managing across cultures 1 6th Week Culture, differences in culture, and managing across cultures 2 7th Week Ethics, corporate social responsibility, and sustainability (with environmental, social, and governance [ESG] framework) 1 8th Week Ethics, corporate social responsibility, and sustainability (with environmental, social, and governance [ESG] framework) 2 9th Week Foreign Direct Investment (FDI) 1 10th Week Foreign Direct Investment (FDI) 2 11th Week Guest Speaking Session TBA 12th Week Regional Economic Integration 1 13th Week Regional Economic Integration 2 14th Week Reflections and course wrap up				
3. 履修上の注意 Registration Requirements There is no pre-requisite course(s) for International Management A. The course will be delivered in English. It offers students opportunities for improving continuously and confidently their communication skills (speaking, reading, listening, and writing) in English. As an advanced-level English-based course, the School of Business Administration (SBA) students participating in the GREAT program and/or the SBA students who are highly motivated to advance their English proficiency have priority to enroll in the class. The test of English for International Communication (TOEIC) level necessary for registering for this course is around 770 points.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji’s class web in between classes. 2. Active participation and engagement in classroom meetings are vital for students to derive maximum benefits from taking this course. Students are also motivated to read at leisure the relevant chapter(s) of the course textbook prior to attending classroom meetings. More details of these chapters will be communicated as delivering of this course progresses through.				

5. 教科書

Textbook (s)

Hill, C. W. L. (2021). International business: Competing in the global marketplace (13th ed.) . McGraw-Hill Education. Students can access online this textbook on ProQuest Ebook Central platform of the library of Meiji University. For doing

6. 参考書

American Psychological Association (2020) Publication manual of the American psychological association (7th edition). <https://psycnet.apa.org/doi/10.1037/0000165-000>

Luthans, F., and Doh, J. P. (2018) International management: Culture, strategy, and be

7. 課題に対するフィードバックの方法

How to provide Feedback to assignments

Regarding the quizzes, in general, students will be provided with post quiz constructive feedback session during the classroom meetings. This is an addition to viewing correct answers by themselves after the submi

8. 成績評価の方法

Assessment

Course assessment comprises three components:

(1) 10 Quizzes 40%

(2) CASE STUDY REPORT ASSIGNMENT 50% (TWO PAGES ANSWER The word limit will be 800-1000 words that excludes the list of references). *CASE STUDY QUESTION:TBA

(3) Participation and engagement in class discussions 10%

No final written examination at the end of the semester.

9. その他

You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2026classes.sumi@gmail.

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN361E		
科目名		International Management B（英語要件あり） 経営学科・会計学科 共同設置		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Outline and Objectives: Globalization has become a buzzword in the world today even during the times of it passing through a pandemic the end of which is believed to be in sight. From a broader perspective, this globalization can be seen as a vital and critical force that shapes managing multinational enterprises (MNEs) operating in various host countries. MNEs are known to be taking unique approaches to manage their business and operations whilst taking well into consideration historical, social, cultural, environmental, legal, political, and geopolitical factors in their host countries. The major foci of this course are on the nature and scope of international management, the strategy and structure of international business, and functional areas of international management such as global production (operations) and supply chain management, global marketing, and global human resource management. At the end of the course, students will be able to: (a) explain why MNEs need to be unique and sensitive in managing their business across borders by paying special attention to their adaptation needs on the “global” and “local” levels. (b) apply these concepts, principles, theories to analyze various routine and non-routine issues os managing international business. (c) identify some key considerations of planning to pursue a managerial career in MNEs or entrepreneurial career I international context. As an advanced-level introductory international management course, learning and teaching methods of this course include largely lectures and interactive discussions. Foreign exchange students are also cordially welcome to take this course. The course facilitator envisages employing face-to-face (in-person) interactions as the primary instruction type for delivering this course. Nevertheless, there is a high possibility of Zoom Video conferencing technology in the case of holding the Guest Speaking Session by a practicing manager from the industry.				
2. 授業内容 Course Content: 1st Week Multinational Enterprises (MNEs), international management (IM), and international managers 2nd Week Globalization: Lens for understanding the rationale and significance of IM 3rd Week The strategy of international business 1 4th Week The strategy of international business 2 5th Week The organization of International business 1 6th Week The organization of international business 2 7th Week Global Production and supply chain management 1 8th Week Global production and supply chain management 2 9th Week Global Marketing and business analytics 1 10th Week Global Marketing and business analytics 2 11th Week Guest Speaking Session TBA 12th Week Global Human Resource Management 1 13th Week Global Human Resource Management 2 14th Week Reflections and course wrap up				
3. 履修上の注意 Registration Requirements There is no pre-requisite course(s) for International Management A. The course will be delivered in English. It offers students opportunities for improving continuously and confidently their communication skills (speaking, reading, listening, and writing) in English. As an advanced-level English-based course, the School of Business Administration (SBA) students participating in the GREAT program and/or the SBA students who are highly motivated to advance their English proficiency have priority to enroll in the class. The test of English for International Communication (TOEIC) level necessary for registering for this course is around 770 points.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Preparations (IMPORTANT) 1. Students are required to answer 10 quizzes in Oh-o! Meiji’s class web in between classes. 2. Active participation and engagement in classroom meetings are vital for students to derive maximum benefits from taking this course. Students are also motivated to read at leisure the relevant chapter(s) of the course textbook prior to attending classroom meetings. More details of these chapters will be communicated as delivering of this course progresses through.				

5. 教科書

Textbook (s)

Hill, C. W. L. (2021). International business: Competing in the global marketplace (13th ed.) . McGraw-Hil Education.

Students can access online this textbook on ProQuest Ebook Central platform of the library of Meiji University.

For doing

6. 参考書

American Psychological Association (2020) Publication manual of the American psychological association (7th edition).

<https://psycnet.apa.org/doi/10.1037/0000165-000>

Luthans, F., and Doh, J. P. (2018) International management: Culture, strategy, and be

7. 課題に対するフィードバックの方法

How to provide Feedback to assignments

Regarding the quizzes, in general, students will be provided with post quiz constructive feedback session during the classroom meetings. This is an addition to viewing correct answers by themselves after the submi

8. 成績評価の方法

Assessment

Course assessment comprises three components:

(1) 10 Quizzes 40%

(2) CASE STUDY REPORT ASSIGNMENT 50% (TWO PAGES ANSWER The word limit will be 800-1000 words that excludes the list of references). *CASE STUDY QUESTION:TBA

(3) Participation and engagement in class discussions 10%

No final written examination at the end of the semester.

9. その他

You are always inspired to share openly ideas and insights during classroom meetings as well as ask freely any number of questions for understanding better the contents covered in this course. The course facilitator is reachable at 2026classes.sumi@gmail.

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN341J		
科目名		財務管理論 経営学科・会計学科共同設置		
担当者		鳥居 陽介		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） なぜ財務管理論を学ぶのか。その背景には、主に以下の要因が挙げられる。 ①今日の株式市場を取り巻く環境の変化 株式会社は資金調達のために株式を発行する。投資家は選択肢の1つとして、株式市場を介して株式を購入し、企業の経営に関与する「議決権」を取得する。このように、株式市場は投資家と企業を結びつける場であり、企業の資金調達の場として認識されているが、企業にとっての株式市場は、「資金調達の場」から、「機関投資家から評価される場」へと変化している。 ②株式所有構造の変化、機関投資家の台頭 株式会社においては、議決権を多数保有する株主が企業に多大な影響を与える。日本企業がどのような経営を行っているか、なぜそのような経営が行われているのかを知るためには、日本企業の主要株主が誰か、それら株主がどのような方針で企業と関わっているのかを知る必要がある。 ③情報革命による産業構造の変化 ITの発展やDXの進展により、金融機関や証券会社を通じて行われるという概念自体が覆されようとしている。人工知能やロボット等によって代替可能とされる金融や経理といった職業・業界はもちろん、企業はこの急激な変化にどのように対応していくべきか。これらの変化に伴い、現代の企業経営はどこを向いているのか、どこに向かっていくのかを「財務」の観点から考察するのが、本講義の目的である。 （到達目標） 企業経営に必要な資金調達方法の変化を知ること（上記①）、企業に影響を与える主要株主を知ること（上記②）、産業構造の変化が与える影響を考察すること（上記③）によって企業経営・企業財務の理解を深めていき、財務管理の基本的知識を身につけていくことを目標とする。				
2. 授業内容 第1回 なぜ財務管理論を学ぶのか（イントロダクション） 第2回 株式所有構造の変遷と主要株主 第3回 株式持ち合いの財務的役割の変化 第4回 なぜROEの向上が求められるのか 第5回 ROE向上策の検討 第6回 資本コストとはどのような概念か 第7回 中間試験 第8回 借入金、社債による資金調達 第9回 財務管理で求められるキャッシュ・フローとは何か 第10回 資金を有効に活用するための投資の意思決定 第11回 現金収支を把握する資金繰り表／運転資本・設備資本管理／ディスクロージャー 第12回 会計数字から会社の将来性を読み解く（1） 第13回 会計数字から会社の将来性を読み解く（2） 第14回 フィンテックは金融業界をどう変えるのか（秋学期「現代コーポレートファイナンス論」の導入） ＊担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。				
3. 履修上の注意 テキストを毎回持参すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。				
5. 教科書 鳥居陽介編，現代財務管理論研究会著『テキスト財務管理論（第6版）』、中央経済社、2022年。				
6. 参考書 坂本恒夫・鳥居陽介編著、『企業財務と証券市場の研究』、中央経済社、2018年。 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017年。 若杉敬明著『【新版】入門ファイナンス』、中央経済社、2011年。 榊原茂樹・岡田克彦著『1からのファイナンス』、碩学会、2012年。 小松章著『経営分析・企業評価』、中央経済社、2009年。				

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業内に出題する課題については、当該授業中に解説を行う。

8. 成績評価の方法

授業内課題 20%、中間試験 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。

9. その他

中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN341J	
科目名		現代コーポレートファイナンス論	経営学科・会計学科共同設置
担当者		鳥居 陽介	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 春学期に実施する財務管理論の応用編として位置づけられるのが、本講義である。春学期「財務管理論」で言及したように、株式市場の変化、株式所有構造の変化、産業構造の変化といった、今日の企業を取り巻く環境が変化し、企業財務の在り方も変革を余儀なくされている。例えばフィンテックは「お金は銀行や証券会社を通じて行われる」という概念自体が覆される可能性を秘めており、クラウドファンディングは個人が世界から資金を調達することを可能にしている。一方で、上場企業の利益剰余金（内部留保）は 2023 年度には 600 兆 9,857 億円と過去最高を記録し、必ずしも銀行を必要としない企業が増加している。このような変化が経営財務や銀行経営にどのような影響を及ぼすのかを理解するのが本講義の目的である。 (到達目標) より深い議論を行い、財務管理の応用的な内容、最新の動向を理解できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 企業を取り巻く環境変化と財務管理（イントロダクション） 第2回 株式市場の歴史と企業の資金調達／株式発行市場・流通市場の役割 第3回 バブル崩壊はなぜ起こったのか 第4回 リーマンショックはなぜ起こったのか 第5回 サステナブルファイナンスの推進と株式所有構造 第6回 M&A の成功と失敗 第7回 中間試験 第8回 上場企業の株主名簿に記載されている「信託口」とは何か 第9回 公的機関投資家の台頭が株式市場にどのような影響を与えるのか 第10回 日銀の ETF 保有が日本企業や株式市場に与える影響 第11回 東京証券取引所による低 PBR 改善要請と日経平均株価 第12回 金融機関に依存しない中小企業経営—少数人数私募債とは何か 第13回 クラウドファンディングはどのように活用されているのか 第14回 これからの財務管理に求められるもの *担当教員の校務の関係で、変更となる場合あり（その際は授業中に周知する）。			
3. 履修上の注意 春学期の「財務管理論」を履修していることが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当箇所を中心に予習をした上で授業に臨むこと。ただ講義を聞くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。			
5. 教科書 鳥居陽介編、現代財務管理論研究会著『テキスト財務管理論（第6版）』、中央経済社、2022年。（*春学期からの継続）			
6. 参考書 坂本恒夫・鳥居陽介編著『企業財務と証券市場の研究』、中央経済社、2018年。 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017年。 リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン著、藤井眞理子、國枝繁樹監訳『コーポレート・ファイナンス（第10版）上・下』、日経BP社、2014年。 マッキンゼー・アンド・カンパニー著『企業価値経営』、ダイヤモンド社、2012年。 若杉敬明著『【新版】入門ファイナンス』、中央経済社、2011年。 榊原茂樹・岡田克彦著			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出席する課題については、当該授業中に解説を行う。			
8. 成績評価の方法 授業内課題 20%、中間試験 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。			
9. その他 中間試験・定期試験ともに持ち込み可とする。			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J	
科目名		生産管理論 A	
担当者		藤原 篤志	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本講義では経営管理の一部門管理であり、製造企業において基幹的な位置づけにある生産管理について体系的に解説する。生産管理は製造企業における生産活動の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素（資材、設備、労働力）を総合的に調整することにより、目標品質の製品を所定の数量と期日に最も経済的に生産することを狙って展開されている。このような管理・活動の特徴や役割を、生産管理全体との関連や位置づけを鑑みながら解説していきたい。 （到達目標） 生産活動の管理上の課題やそれへの対応を学習し、日本の製造業の競争優位の要因を把握することを目標とする。			
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakション（講義の対象とスケジュール）（a のみ） 第 2 回 生産に関する基本的用語・概念（生産管理とは） 第 3 回 生産に関する基本的用語・概念（生産方式の分類） 第 4 回 生産計画（操業度の理論） 第 5 回 生産計画（生産計画の決定要因） 第 6 回 生産統制 第 7 回 品質管理（統計的品質管理） 第 8 回 品質管理（日本的品質管理） 第 9 回 原価管理 第 10 回 設備管理 第 11 回 資材管理（資材管理の対象と特質） 第 12 回 資材管理（ABC 分析と発注方法） 第 13 回 作業管理（動作研究） 第 14 回 作業管理（時間研究）			
3. 履修上の注意 講義はレジメと板書を中心に進められる。これのら与えられた情報だけでなく、キーワードやフレーズ、要点を極力メモして自分の理解に基づいたノートづくりを行うことが望まれる。さらに講義中の私語は厳禁である。講義中の私語は他の受講生への教育サービスの提供の妨害になる。場合によってはその時点で減点もしくは単位取得不可になることもあるので注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 生産に関する基本的用語・概念を学習した後は、日常的に『日本経済新聞』のような経済専門紙で、ものづくりに関わる取り組みや事例を読んで、講義で学習した理論の事例の理解や生産問題への喚起を心がけてもらいたい。			
5. 教科書 教科書は指定しない。レジメと資料で対応する。			
6. 参考書 『経営学を学ぼう』百田義治編著（中央経済社）2013 年 『生産管理』小川英次編著（中央経済社）1985 年 『現代生産管理論』甲斐章人（白桃書房）1986 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の全体的な総評は、Oh-o! Meiji にて、試験終了後、掲載を予定している。			
8. 成績評価の方法 期末試験で評価する（100％）。			
9. その他 本講義はいわば理論の解説であり、内容的に硬いものばかりである。講義の性格上仕方のないことだが、受講生の講義に対する意欲の維持や理解を助けるために、並行的に生産に関する最新の新聞記事を紹介・解説する。内容は生産の「管理」に限らず、広く生産全般に関するもので、製造業で現在問題になっていることや新たな取り組みなどを取り上げる。また解説した生産管理の理論の具体的な実践事例の記事を取り上げ、講義内容の理解の一助としたい。 また生産管理の対象とする領域は、学問的に経営学と経営科学が交わる領域である。それゆえ理論			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J		
科目名		生産管理論B		
担当者		藤原 篤志		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本講義では生産管理論 A の学習をさらに進めて、主として 20 世紀以降企業において導入・展開されてきた各種生産システム（生産方式）について解説する。具体的には、20 世紀初頭アメリカで生まれたテイラー・システム（科学的管理法）、同時代に自動車産業で生まれ大量生産方式として確立したフォード・システム、戦後日本の自動車産業で生まれ効率的な多品種生産を実現したトヨタ生産システムを中心に講義を行う。 （到達目標） 経営環境の変化とともに発展してきた生産システムの到達点の考察を通じて、日本の製造業（特に自動車メーカー）の競争優位の要因を把握することを目標としている。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション（講義の対象とスケジュール）（aのみ） 第2回 テイラー・システム（生成の背景） 第3回 テイラー・システム（課業管理） 第4回 テイラー・システム（科学的成果と問題点） 第5回 フォード・システム（その概要とフォーディズム） 第6回 フォード・システム（移動組立法） 第7回 フォード・システム（生産の標準化） 第8回 フォード・システム（問題点） 第9回 トヨタ生産システム（基本思想） 第10回 トヨタ生産システム（ジャスト・イン・タイム） 第11回 トヨタ生産システム（自動化） 第12回 トヨタ生産システム（少人化） 第13回 トヨタ生産システム（創意工夫） 第14回 トヨタ生産システム（問題点）				
3. 履修上の注意 講義はレジメと板書を中心に進められる。これのら与えられた情報だけでなく、キーワードやフレーズ、要点を極力メモして自分の理解に基づいたノートづくりを行うことが望まれる。さらに講義中の私語は厳禁である。講義中の私語は他の受講生への教育サービスの提供の妨害になる。場合によってはその時点で減点もしくは単位取得不可になることもあるので注意すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者は生産管理論 A を履修しておくことが望ましい。履修していない者は生産に関する基本的用語・概念を事前に学習しておくこと。また授業内容は主に自動車産業をベースとして展開されるため、日常的に『日本経済新聞』のような経済専門紙で当該産業に関する記事を読んでおくこと。				
5. 教科書 特に指定しない。レジメと資料で対応する。				
6. 参考書 『経営学を学ぼう』百田義治編著（中央経済社）2013 年 『トヨタプロダクションシステム』門田安弘（ダイヤモンド社）2006 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 期末試験の全体的な総評は、Oh-o! Meiji にて、試験終了後、掲載を予定している。				
8. 成績評価の方法 期末試験で評価する（100％）。				
9. その他 本講義は自動車産業を中心とした生産システム論となるので、自動車産業の生産・経営を理解するために、当該産業に関連した新聞記事の紹介・解説を並行的に行いたい。 ところで、本講義で扱う生産システム論は作業管理の側面を多く含んでいる。そこで管理や技法の側面だけではなく、その受け手であり生産の担い手である労働者やその労働の側面も同時に考察することにした。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN331J	
科目名		人事労務管理論 A	
担当者		山崎 憲	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 経営において必要な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」のうち、「ヒト」に注目したものが人事労務管理や人的資源管理である。企業や行政機関，NPO などの組織は，ほかの組織との競争に勝つことや，さまざまな環境の変化に対応しながら長期的に存在し続けるために「ヒト」を最大限に活用するということが大きな目的の一つである。働く側にたってみれば，仕事を通じて生きがいを感じ，家族を養うための糧を得るということになる。 人事労務管理論 A はアメリカで発展した人事労務管理の生成と発展，変化，そして現状について学ぶなかで必要な用語や人事労務管理の構造といった基礎的な理解を深める。 (到達目標) 到達目標は，人事労務管理論 B を受講するための基礎固めとともに，人事労務管理論に登場する基本的な概念や用語を理解することにある。			
2. 授業内容 第 1 講 インTRODクシヨン：人事労務管理概観 第 2 講 産業革命とテ－ラーシステム① 第 3 講 産業革命とテ－ラーシステム② 第 4 講 ウェルフェアマネジメント 第 5 講 人間関係管理 第 6 講 フォード生産システム 第 7 講 フォード生産システムと労務管理 第 8 講 ニューディール体制と人事労務管理① 第 9 講 ニューディール体制と人事労務管理② 第 10 講 経営環境と人事労務管理の変化① 第 11 講 経営環境と人事労務管理の変化② 第 12 講 人事労務管理と人的資源管理 第 13 講 企業の国際化の進展と人事労務管理 第 14 講 企業経営と人事労務管理の社会的役割			
3. 履修上の注意 人事労務管理論 B を併せて受講することが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 リアクションペーパーに感想，質問を書けるように毎回の講義後に復習をしておくこと。			
5. 教科書 ・特に定めない			
6. 参考書 ・岡田行正『アメリカ人事管理，人的資源管理史』同文館出版 2008 年 ・黒田兼一・山崎憲『フレキシブル人事の失敗』旬報社 2012 年 ・山崎憲『デトロイトウェイの破綻』旬報社 2010 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 成績評価に加えて，講義内で課題に求められている内容について説明するほか，疑問点等があれば個別に対応する。			
8. 成績評価の方法 レポート 40%，期末試験 60%。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN331J	
科目名		人事労務管理論B	
担当者		山崎 憲	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 将来、企業や行政機関、NPO など働いたり、誰かを雇ったり管理する立場に立つことを考えたときに、いま日本企業の人事労務管理にはどのような課題があるのか、そのなかでどのように生きがいを見つけていけばよいのか。日本企業の人事労務管理は、産業構造の転換、経済のグローバル化と AI、IoT といった新しい科学技術の進展のなかで変化の途上にある。 経営資源の一つである「ヒト」において日本企業が競争力を高めるうえでどのようなことを行ってきたのかということに焦点をあてたうえで、日本企業が国際市場競争力を高めてきた背後で抱えてきたさまざまな課題を考察する。 （到達目標） 本講義の到達目標は、働かせる側、働く側双方の視点で働くことにまつまる課題を考察するための基盤をつくることである。			
2. 授業内容 第1講 イントロダクション：一人ひとりの視点で「働く」を考えてみる 第2講 日本企業の競争力①（日本的経営と人事労務管理、労働組合） 第3講 日本企業の競争力②（デミングと生産性運動） 第4講 労働市場・採用 第5講 報酬と年功賃金 第6講 能力育成、評価、処遇 第7講 福利厚生と社会保障 第8講 日本企業の人事労務管理の課題①（非正規労働と長時間労働、ハラスメント） 第9講 日本企業の人事労務管理の課題②（女性と高齢者、ワークファミリーバランス） 第10講 日本企業の人事労務管理の課題③（中小企業） 第11講 日本企業の人事労務管理の変化①（企業の海外進出と『新時代の日本的経営』） 第12講 日本企業の人事労務管理の変化②（技術革新「AI、IoT」） 第13講 労働行政と人事労務管理（労働基準、安全衛生、紛争解決） 第14講 これからの人事労務管理に求められること（持続可能な経済成長）			
3. 履修上の注意 人事労務管理論 A を受講していることが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 リアクションペーパーに感想、質問を書けるように毎回の講義後に復習をしておくこと。			
5. 教科書 ・特に定めない			
6. 参考書 ・山崎憲『「働くこと」を問い直す』岩波書店 2014 年 ・黒田兼一・山崎憲『フレキシブル人事の失敗』旬報社 2012 年 ・山崎憲『デトロイトウェイの破綻』旬報社 2010 年 ・サンフォード・M. ジャコービィ『日本の人事部・アメリカの人事部』東洋経済新報社 2005 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 成績評価に加えて、講義内で課題に求められている内容について説明するほか、疑問点等があれば個別に対応する。			
8. 成績評価の方法 レポート 40％， 期末試験 60％。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN326J	
科目名		ナレッジ・マネジメント論〔M〕	
担当者		中西 晶	
2 単位	3 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 現代は、知識社会・情報社会と呼ばれる。だからこそ、現代の経営の基盤をなすものとして、知識すなわちナレッジが注目されている。ナレッジ・マネジメントには、人間的側面と技術的側面がある。本講義では、主として、ナレッジ・マネジメントに関するアップ・トゥ・デイトな話題を中心に紹介する。できるだけ現実の企業事例を交えながら授業を進めていく。授業では、プレゼンテーションソフトやインターネットを活用する。本学のナレッジ・マネジメントシステムともいえる『Oh-o! Meiji』を活用する予定である。 (到達目標) 「ナレッジ」の視点から見たときに、現在ビジネスにおいてどのような現象が起きているかを理解することが目標であるが、あわせて3・4年生として社会に出ていく際に持つておかなければならない基礎知識を獲得することも狙いである。			
2. 授業内容 以下のような内容を予定している。 授業の進行状況や時事的な話題の提供等で若干前後することがある。 全回メディア授業（オンデマンド型）で実施する。 1 ナレッジマネジメントの成立〔メディア授業（オンデマンド型）〕 2 ナレッジ・マネジメントの基本(1) 知識社会論〔メディア授業（オンデマンド型）〕 3 ナレッジ・マネジメントの基本(2) 組織的知識創造理論〔メディア授業（オンデマンド型）〕 4 ナレッジ・マネジメントの基本(3) 情報通信技術〔メディア授業（オンデマンド型）〕 5 ナレッジ・マネジメントの2つの側面：事例を見る視点〔メディア授業（オンデマンド型）〕 6 ナレッジ・マネジメントの企業事例(1)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 7 ナレッジ・マネジメントの企業事例(2)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 8 ナレッジ・マネジメントの企業事例(3)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 9 ナレッジ・マネジメントの企業事例(4)〔メディア授業（オンデマンド型）〕 10 ナレッジ・マネジメントと組織学習(1)ストーリーテリングとコミュニティ・オブ・プラクティス〔メディア授業（オンデマンド型）〕 11 ナレッジ・マネジメントと組織学習(2)学習する組織〔メディア授業（オンデマンド型）〕 12 ナレッジ・マネジメントの新たな課題(1)技術的側面〔メディア授業（オンデマンド型）〕 13 ナレッジ・マネジメントの新たな課題(2)人間的側面〔メディア授業（オンデマンド型）〕 14 ナレッジ・マネジメントの将来展望〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 フルオンデマンドで実施するので、十分な情報通信環境を準備すること。 授業資料・課題は毎週金曜日に Oh-o!Meiji にアップする。 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報等を削除して、次回以降の授業で提示する場合がある。 経営戦略論や技術戦略論、戦略経営情報システム論なども合わせて学ぶとより理解が深まるだろう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1, 2 年で学ぶ経営学に関する基礎概念を理解しておくこと。 日頃から、問題意識を持って、ニュースやネットを調べておくこと。			
5. 教科書 特に指定しない。			
6. 参考書 関連する文献・サイトを授業内で紹介する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji に提出された毎回のワークの結果は、個人情報等を削除してとりまとめ、次回以降の授業で総合的なコメントする。 個別の質問・相談にはアンケート機能を利用する。 最終の全体を通した理解度確認テストにおいては、小テスト機能において解答や解説を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業に応じたワークの成果（Oh-o!Meiji のアンケート機能を使用予定）各回 5 点×13 回＝65 点 最終回での全体の理解度確認テスト（Oh-o!Meiji の小テスト機能を使用予定）35 点 合計 100 点満点で評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J	
科目名		経営技術論	
担当者		近藤 光	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標			
【概要】 技術と経営をめぐる研究は、あらゆる技術をマネジメントする上で必要な経営的知識を探索していく、いわば経営と技術についての内在的な研究といえる技術経営論の領域と、ビジネスに関わる各技術の特性を踏まえてマネジメントするために必要な技術的知識を追求していく、外在的な研究領域である経営技術論という二つに大きく分けることができる。前者の研究では、新製品開発やイノベーション創出に向けて、R&D などにおけるコミュニケーション促進や組織設計、あるいはインターフェースや企業間提携のある方など、経営組織的視点により重きをおいた知識が積み重ねられている。一方で後者では、新製品開発やイノベーション創出のために必要な技術的性格の経営的な理解に向けて、ネットワーク外部性が生じる際やドミナント・デザインが形成・変化する際の技術的要因、またはニーズを満たす技術的選択とそのマネジメントのあり方など、技術論的視点を重視した知見が蓄積されている。技術的イノベーションを考えていく上では、この二つの側面から理解していく必要がある。 本講義では、科学・技術の歴史的発展を踏まえながら、技術と経営に対して外在的なアプローチから、技術マネジメントをめぐるイノベーションのプロセスとパターンに関する理論を具体的事例とともに理解していく。そして、企業の競争優位性の獲得における技術的要因は何なのかイノベーションが生じる際には、技術的にどのような点が問題となり、それをどのように経営的に解決していくのかといった技術マネジメントについて考察していく。			
【到達目標】 ・技術マネジメントに関する基本的な議論と理論を理解する。 ・企業の競争優位性の獲得やイノベーションの創出における技術的要因の機能と役割について、学び自ら考察できるようになることを目的とする。			
2. 授業内容			
【経営技術と諸概念】 第 1 回 企業の競争優位性と技術的要因 第 2 回 イノベーションと技術発展：科学活動，技術活動，ビジネス活動 第 3 回 シーズとニーズの相互関係：テクノロジー・プッシュとディマンド・プル 第 4 回 システムとしての製品：ネットワーク外部性と相互補完性 【イノベーションのプロセス】 第 5 回 イノベーション・プロセスのモデル：リニアモデルと連鎖モデル 第 6 回 イノベーション・プロセスの 3 つの関門：魔の川、死の谷、ダーウィンの海 第 7 回 イノベーションの普及プロセスと技術発展の S 字カーブ 第 8 回 イノベーションの普及プロセスとキャズムの克服 【イノベーションのパターン】 第 9 回 A-U モデル(1)市場形成期と製品イノベーション：スマートフォンの成立 第 10 回 A-U モデル(2)ドミナント・デザインの成立と技術要因：PC 産業の発展 第 11 回 A-U モデル(3)市場成熟期と工程イノベーション：ホンダの二輪車と新興国市場 第 12 回 A-U モデル(4)脱成熟とラディカル・イノベーション：テスラ・モーターの革新 第 13 回 技術革新のタイプとマネジメント：アーキテクチャルな革新 【総括】 第 14 回 技術経営における技術的要素の機能			
3. 履修上の注意			
初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動，社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことが重要である。 本講義では Oh-o! Meiji システムを頻繁に利用するので、Oh-o! Meiji のお知らせ転送機能を設定しておくこと。 本講義における公欠は、経営学部が正式に認めている理由に該当する場合に限り認めます。それ以外の理由による欠席については、理由の如何を問わず、公欠としては扱いませんので注意してください。なお、事務室から「教員の判断による」と案内された場合であっても、本講義では通常の欠席として扱います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習：毎回，次回の講義で扱う内容について説明しますので，各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。 復習：知識定着のため，配布資料を見直すなど復習を重視してください。疑問点・分からなかった点はそのままにせず，積極的に質問してください。 ※予習・復習は各 120 分以上を想定しています。			
5. 教科書			
教科書は特に指定せず，必要に応じてプリントを配布します。			

6. 参考書

J. M. アッターバック (1998) 『イノベーション・ダイナミクス：事例から学ぶ技術戦略』有斐閣。
一橋大学イノベーション研究センター編(2022) 『イノベーション・マネジメント入門（新装版）』日本経済新聞社。
丹羽清 (2006) 『技術経営論』東京大学出版会。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

授業への貢献度・授業内課題・少テストなど「平常点：15 点」と「定期試験：85 点」の合計によって評価します。
授業内課題に対しては、授業内および Oh-o! Meiji システムを活用してフィードバックを行います。

9. その他

・「イノベーション・マネジメント A・B」を同時に履修することで、経営と技術をめぐる経営組織論な知識についてより包括的な理解が得られる。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J	
科目名		技術戦略論	
担当者		近藤 光	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 技術と経営をめぐる研究は、あらゆる技術をマネジメントする上で必要な経営的知識を探究していく、いわば経営と技術についての内在的な研究といえる技術経営論の領域と、ビジネスに関わる各技術の特性を踏まえてマネジメントするために必要な技術的知識を追求していく、外在的な研究領域である経営技術論という二つに大きく分けることができる。前者の研究では、新製品開発やイノベーション創出に向けて、R&D などにおけるコミュニケーション促進や組織設計、あるいはインターフェースや企業間提携のあり方など、経営組織的視点により重きをおいた知識が積み重ねられている。一方で後者では、新製品開発やイノベーション創出のために必要な技術的性格の経営的な理解に向けて、ネットワーク外部性が生じる際やドミナント・デザインが形成・変化する際の技術的要件、またはニーズを満たす技術的選択とそのマネジメントのあり方など、技術論的視点を重視した知見が蓄積されている。技術的イノベーションを考えていく上では、この二つの側面から理解していく必要がある。 本講義では、技術と経営に対して外在的なアプローチの視点から、技術選択とイノベーションのマネジメントをめぐる理論モデルを具体的事例とともに理解していく。そして、企業の競争優位性の獲得に向けた技術選択を考える上で何を考慮すべきなのか、技術戦略の成功と失敗の要因はどのようなものに起因するのか、新技術と社会の受容はどのように関係するのかといった技術に関する戦略的マネジメントについて考察していく。 【到達目標】 ・技術戦略に関する基本的な議論と理論モデルを理解する。 ・企業の競争優位性の獲得に向けた技術選択のあり方について、学び自ら考察できるようになる。			
2. 授業内容 【技術戦略の基本的考え方】 第 1 回 経営戦略と技術戦略 第 2 回 研究・技術開発のロードマップ 第 3 回 技術戦略における先駆者と後発者：マイクロン・テクノロジーの成長 【製品のモジュラー化と技術戦略】 第 4 回 製品アーキテクチャ論(1)自動車と PC 製品の経営技術的比較 第 5 回 製品アーキテクチャ論(2)Mac と Windows 第 6 回 製品アーキテクチャ論(3)iPhone と Pixel 第 7 回 オープンイノベーション論(1)富士フイルムの事業転換 第 8 回 オープンイノベーション論(2)4 つの戦略類型 【製品のシステム性と技術戦略】 第 9 回 バリューネットワーク論(1)急進的イノベーションと大企業 第 10 回 バリューネットワーク論(2)価値基準，プロセス，資源 第 11 回 バリューネットワーク論(3)家庭用ゲーム機における製品競争 第 12 回 エコシステム・ディスラプション：アップルと Spotify 第 13 回 プラットフォーム・リーダーシップ：インテルからアップルへ 【総括】 第 14 回 生成 AI と技術戦略			
3. 履修上の注意 初回の講義に出席し、授業内容や受講のルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動，社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことが重要である。 本講義では Oh-o! Meiji システムを頻繁に利用するので、Oh-o! Meiji のお知らせ転送機能を設定しておくこと。 本講義における公欠は、経営学部が正式に認めている理由に該当する場合に限り認めます。それ以外の理由による欠席については、理由の如何を問わず、公欠としては扱いませんので注意してください。なお、事務室から「教員の判断による」と案内された場合であっても、本講義では通常の欠席として扱います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎回，次回の講義で扱う内容について説明しますので，各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。 復習：知識定着のため，配布資料を見直すなど復習を重視してください。疑問点・分からなかった点はそのままにせず，積極的に質問してください。 ※予習・復習は各 120 分以上を想定しています。			
5. 教科書 教科書は特に指定せず，必要に応じてプリントを配布します。			

6. 参考書

クレイトン・クリステンセン（2001）『イノベーションのジレンマ 増補改訂版』翔泳社。
藤本隆宏編（2013）『「人工物」複雑化の時代：設計立国日本の産業競争力』有斐閣。

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う

8. 成績評価の方法

授業への貢献度・授業内課題・少テストなど「平常点：15 点」と「定期試験：85 点」の合計によって評価します。
授業内課題に対しては、授業内および Oh-o! Meiji システムを活用してフィードバックを行います。

9. その他

・「経営技術論」を履修していることが望ましい。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営文化論 A	
担当者		中畑 充弘	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 人間が営む組織の経営的側面をひろく文化的価値観に照らして理解する視座を養う。諸外国の様々な経営組織の通文化性や文化的多様性を認識し、それらの比較をつうじて、そこに通底するイデオロギーを抽出し、当該経営社会の行動様式や価値体系の考察を深めることにある。ここでいう文化とは人間が後天的に獲得した知識・信仰・技芸・道徳・法律・慣習その他あらゆる能力の複合的総体である。 経営文化論Aでは、「経営文化」について理論的に検討を加え、諸学説を紹介しながら理解を深める。 (到達目標) 大別して①経営文化の研究（宗教・神話等も含まれる）②組織行動・組織文化の研究③人間関係の研究に関する知識・理論・方法・技術を習得し、社風・企業風土、CI（コーポレート・アイデンティティ）について理解する。企業は「利益共同体」であるとともに「生活共同体」であることを理解する。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：経営文化とは何か？　〔対面授業〕 第2回：「経営」とは何か？「文化」とは何か― 社会学・史学・文化人類学・宗教学の援用　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：経営文化に関する知識・理論・方法・技術　― 比較の視点と解釈学、「経営人類学」　〔対面授業〕 第4回：文化論（言語論的転回・論理哲学論考・構造機能主義・ポストモダニズム他）　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：合理性モデル　― 利益追求・資本運用・合理効率性　〔対面授業〕 第6回：企業目的・企業目標・企業組織　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：官僚制モデル（bureaucracy, corpocracy）　〔対面授業〕 第8回：組織文化（新制度派組織論）　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：組織における非合理性　―倫理・良心・真実・正義　〔対面授業〕 第10回：宗教とビジネス倫理（キリスト教・イスラム教・儒教・仏教）　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：企業の組織類型　― チャンドラー、安部の論考を中心に　〔対面授業〕 第12回：「会社神話」（創業者神話・ブランド神話・英雄伝説）と「会社儀礼」（社葬・「洗礼」）　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：「信用」「信頼」と「リスク」「クライシス」　―「非条理」の条理，ビジネス・エシックス　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ（「価値」とは何か、「交換」とは何か、を視点に）　〔対面授業〕			
3. 履修上の注意 この授業は対面授業科目として開講されるが、授業は「対面授業」と「メディア授業」を隔週で交互に実施する。なお、メディア授業はその講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。 講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は翌日までの視聴を可能とする。なお、メディア授業の講義動画に対して、感想・コメント・意見・質問等の提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。提出は、Oh-o! Meiji クラスウェブの「アンケート」に設けることとする。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 経営文化論は、学際的・総合的・横断的な学問領域であるので、社会学・文化人類学・宗教学・心理学・歴史学ほか、複眼的視点をもって臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習する必要はないが授業の内容をしっかりと復習すること。随時、経営文化に関する身近な事例のコメントや意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない）。日頃からあらゆる社会事象、経営事象に対して自問自答し「思考を連続」させること。 ・適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。 ・日頃から、新聞（一般紙）の経済面の記事を読み、社風・商慣習・C I などの諸問題について考えを巡らせておくといよ。			
5. 教科書 『文化と営利 ―比較経営文化論』安部 悦生（有斐閣），2019			
6. 参考書 『経済史 ―いまを知り、未来を生きるために』小野塚 知二（有斐閣） 『制度と文化 ―組織を動かす見えない力』佐藤郁哉・山田真茂留（日本経済新聞出版社）2014 『多文化世界』第3版，ホフステード（有斐閣）2013 『Confianza ―Trust』（西語）フランシス・フクヤマ（Atlantida）1996 『テキスト経営人類学』中牧 弘允・日置 弘一郎・竹内恵行（東方出版）2019			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関して感想・コメント・意見・質問などを求める場合、oh-o meiji の「クラスウェブ」の「アンケート」に提出すること。 これを受けて「フィードバックコメント」を返信する。			

8. 成績評価の方法

定期試験 50%、レポート 20%、授業への意欲的参加・貢献度 30%

※対面形式での試験は行わない。

9. その他

キーワード： 合理性／非合理性、社会／宗教、制度、組織、慣習、価値

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営文化論B	
担当者		中畑 充弘	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 人間が営む組織の経営的側面をひろく文化的価値観に照らして理解する視座を養う。諸外国の様々な経営組織の通文化性や文化的多様性を認識し、それらの比較をつうじて、そこに通底するイデオロギーを抽出し、当該経営社会の行動様式や価値体系の考察を深めることにある。ここでいう文化とは人間が後天的に獲得した知識・信仰・技芸・道徳・法律・慣習その他あらゆる能力の複合的総体である。 経営文化論Bでは、マクロの視点で経営文化について検討し、特に諸外国の事例を挙げながら国際比較の観点から講義する。 （到達目標） 本講義を通して、経営文化の国際的相違と類似性、および企業文化や企業風土を形成する組織内部の文化的特性と、それを取り巻き外在する環境、制度ないしシステムとの関係について理解する。具体的には、英・米・中・伊・独・日の経営文化の構造的特質を捉え比較考察する。企業は、全て経済的合理性や利潤のみに動機づけられているわけではないことが「文化」の多様性から判読できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：経営文化とは何か？　〔対面授業〕 第2回：経営文化の構造　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：イギリスの経営文化　〔対面授業〕 第4回：アメリカの経営文化①　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：アメリカの経営文化②　〔対面授業〕 第6回：中国の経営文化　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：イタリアの経営文化　〔対面授業〕 第8回：ドイツの経営文化　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：日本の経営文化①　〔対面授業〕 第10回：日本の経営文化②　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：経営文化の国際比較　〔対面授業〕 第12回：文化衝突・グローバル化・「文化と営利」の共進化　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：経営人類学の系譜と宗教のもつ意味　〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ　一経営文化論の展望　〔対面授業〕			
3. 履修上の注意 この授業は対面授業科目として開講されるが、授業は「対面授業」と「メディア授業」を隔週で交互に実施する。 なお、メディア授業は、その講義動画を原則毎週水曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は翌日までの視聴を可能とする。なお、メディア授業の講義動画に対して、感想・コメント・意見・質問等の提出を求め、出席確認および理解度確認を行う。提出は、Oh-o! Meiji クラスウェブの「アンケート」に設けることとする。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 経営文化論は、学際的・総合的・横断的な学問領域であるので、社会学・文化人類学・宗教学・心理学・歴史学ほか、複眼的視点をもって臨むこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習する必要はないが授業の内容をしっかりと復習すること。随時、経営文化に関する身近な事例のコメントや意見、建設的かつ双方向的な議論を求めることもある（全くもって難解なものではない）。日頃からあらゆる社会事象、経営事象に対して自問自答し「思考を連続」させること。 ・適宜、板書・パワーポイントと視聴覚資料を図示、併用しながら授業を進めていく。 ・自身の生活を設計していこうとする「生活経営」(life management) を念頭に置いて思索する。世界史をさらしておくとう理解が深まる。 ・日頃から、新聞（一般紙）の経済面の記事を読み、社風・商慣習・C I などの諸問題について考えを巡らせておくとよい。			
5. 教科書 『文化と営利　一比較経営文化論』安部 悦生（有斐閣），2019			
6. 参考書 『経済史　いまを知り、未来を生きるために』小野塚 知二（有斐閣） 『制度と文化　一組織を動かす見えない力』佐藤郁哉・山田真茂留（日本経済新聞出版社）2014 『多文化世界』第3版，ホフステード（有斐閣）2013 『Confianza　—Trust』(西語) フランシス・フクヤマ (Atlantida) 1996 『テキスト経営人類学』中牧 弘允・日置 弘一郎・竹内恵行（東方出版）2019			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内容に関して感想・コメント・意見・質問などを求める場合、oh-o meiji の「クラスウェブ」の「アンケート」に提出すること。これを受けて「フィードバックコメント」を返信する。			

8. 成績評価の方法

定期試験 50%, レポート 20%, 授業への意欲的参加・貢献度 30%

※対面形式での試験は行わない

9. その他

キーワード： 合理性／非合理性、社会／宗教、制度、組織、慣習、価値

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN381J	
科目名		国際経営史 A	
担当者		近藤 光	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 本講義では、過去 2 世紀の間に、どのようにしてグローバル資本主義が進展してきたのかを、多国籍企業活動に焦点をあてて検討する。資本主義は世界経済を支える支柱としてグローバル化を果たした。その資本主義が各国で確立する過程において、多国籍企業は重要な役割を担った。グローバリゼーションの本質を理解するためには、多国籍企業の歴史的進化過程への理解を深めることが必要である。 国際経営史 A では、グローバル資本主義のなかで多国籍企業の果たす役割と歴史的文脈を確認する。そして、主に天然資源産業と製造業において、各企業がいかに国境を越えて投資を展開し、市場機会を見出し、価値創造を行ってきたのかを検討する。 (到達目標) 多国籍企業の歴史的進化過程に対する理解を深めることを通じて、グローバリゼーションの本質と動態を見定める視点を養い、今後の世界経済の動向を自ら考察できるようになることを目標とする。			
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション (講義の概要／グローバリゼーションに関する議論の整理) 第 2 回：多国籍企業概念と理論 第 3 回：多国籍企業とグローバリゼーション（1）グローバル経済の形成と発展 第 4 回：多国籍企業とグローバリゼーション（2）第 1 次グローバル経済期の多国籍企業 第 5 回：多国籍企業とグローバリゼーション（3）第 1 次グローバル経済の終焉 第 6 回：グローバル経済への復興過程と新グローバル経済 第 7 回：天然資源と多国籍企業（1）起源と成長 第 8 回：天然資源と多国籍企業（2）国際的共謀 第 9 回：天然資源と多国籍企業（3）統合の成長と衰退 第 10 回：製造業と多国籍企業（1）起源と成長 第 11 回：製造業と多国籍企業（2）カルテルと成長要因 第 12 回：製造業と多国籍企業（3）再生と成長 第 13 回：製造業と多国籍企業（4）グローバルネットワーク 第 14 回：多国籍企業活動の要点整理 ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 初回の講義に必ず出席し、授業内容および受講ルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動、社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことが重要である。 本講義では Oh-o! Meiji システムを頻繁に利用するため、Oh-o! Meiji のお知らせ転送機能を各自設定しておくこと。 本講義における公欠は、経営学部が正式に認めている理由に該当する場合に限り認めます。それ以外の理由による欠席については、理由の如何を問わず、公欠としては扱いませんので注意してください。なお、事務室から「教員の判断による」と案内された場合であっても、本講義では通常の欠席として扱います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎回、次の講義で扱う内容について説明しますので、各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。(目安：60 分以上) 復習：知識定着のため、配布資料を見直すなど、復習を重視してください。疑問点、分からなかった点はそのままにせず、積極的に質問してください。(目安：60 分以上)			
5. 教科書 講義の教科書は特に指定しないが、参考図書にあるジェフリー・ジョーンズによる『国際経営講義』は本授業の理解を深める上で重要なので、可能な限り目を通しておくこと。			
6. 参考書 ジェフリー・ジョーンズ著、安室憲一・梅野巨利訳（2007）『国際経営講義』有斐閣。 ジェフリー・ジョーンズ著、坂本恒夫・鳥居陽介・正田繁監訳（2018）『多国籍企業の歴史』中央経済社。 ロバート・フィッツジェラルド著、川邊信雄・小林啓志・竹之内玲子・竹内竜介訳（2020）『多国籍企業の世界史』早稲田大学出版部。 奥村皓一・夏目啓二・上田慧（2006）『テキスト多国籍企業論』ミネルヴァ書房。 経営史学会編（2005）『外国経営史の基礎知識』有斐閣。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については次の授業で解説を行います。			

8. 成績評価の方法

平常点および理解度確認テスト（15%），定期試験（85%）を合算し成績を評価する。

9. その他

授業の進行程度にもよるが，時間に余裕がある場合には，内容に関連する企業のケースを取り上げるほか，雑誌や新聞記事などから経営・経済関連のトピックを紹介する予定である。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN381J	
科目名		国際経営史 B	
担当者		近藤 光	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本講義のねらいは、グローバリゼーションの核心をなす多国籍企業の歴史的進化過程への理解を深めることにある。国際経営史 A では、グローバル資本主義のなかで多国籍企業の果たす役割と歴史的文脈を確認し、天然資源産業と製造業において、多国籍企業がいかに国境を越えて投資を展開し、市場機会を見出し、価値創造を行ってきたのか、そのやり方を検討した。 国際経営史 B では、国際経営史 A では取り扱わなかった産業における取り組みを詳細に検討する。さらに、多国籍企業の組織特性や政府との関わりについて学び、多国籍企業の経済的・社会的・政治的な影響力はどれほどのものであったのかといった点についても検討を行う。 （到達目標） 長期的視点から多国籍企業の活動について学ぶことで、グローバリゼーションの歴史過程への理解を深め、激動の時代といえる今日を、自ら見定める視座を得ることを目標とする。			
2. 授業内容 第 1 回：a のみ：イントロダクション （講義の概要／グローバリゼーションに関する議論の整理） 第 2 回：多国籍企業とサービス産業：起源と成長 第 3 回：政府介入のインパクト：規制環境下の所有・非所有戦略 第 4 回：サービス産業と第 2 次グローバル経済 第 5 回：新たなサービス産業：多国籍銀行業と多国籍小売業 第 6 回：組織の構築（1）：市場参入と退出 第 7 回：組織の構築（2）：提携と企業集団化 第 8 回：多国籍企業の経営（1）：第 1 次グローバル経済における階層 第 9 回：多国籍企業の経営（2）：第 2 次グローバル経済の進展と組織 第 10 回：多国籍企業の経営（3）：知識の創造と活用 第 11 回：政府との関わり（1）：受入れ国政府と本国政府 第 12 回：政府との関わり（2）：多国間規制とロビー活動 第 13 回：多国籍企業の影響力 第 14 回：まとめ：多国籍企業は成長のエンジンか？ ※講義の進行具合に応じて一部講義内容や順番を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 初回の講義に必ず出席し、授業内容および受講ルールについて確認すること。日頃から、世界の経済や企業活動、社会情勢に関するニュースや新聞記事などに目を通すことが重要である。 本講義では Oh-o! Meiji システムを頻繁に利用するため、Oh-o! Meiji のお知らせ転送機能を各自設定しておくこと。 本講義における公欠は、経営学部が正式に認めている理由に該当する場合に限り認めます。それ以外の理由による欠席については、理由の如何を問わず、公欠としては扱いませんので注意してください。なお、事務室から「教員の判断による」と案内された場合であっても、本講義では通常の欠席として扱います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：毎回、次の講義で扱う内容について説明しますので、各自関連する項目を調べるなど予習を行ってください。必要に応じて文献を紹介します。（目安：60 分以上） 復習：知識定着のため、配布資料を見直すなど、復習を重視してください。疑問点、分からなかった点はそのままにせず、積極的に質問してください。（目安：60 分以上）			
5. 教科書 講義の教科書は特に指定しないが、参考図書にあるジェフリー・ジョーンズによる『国際経営講義』は本授業の理解を深める上で重要なので、可能な限り目を通しておくこと。			
6. 参考書 ジェフリー・ジョーンズ著、安室憲一・梅野巨利訳（2007）『国際経営講義』有斐閣。 ジェフリー・ジョーンズ著、坂本恒夫・鳥居陽介・正田繁監訳（2018）『多国籍企業の歴史』中央経済社。 ロバート・フィッツジェラルド著、川邊信雄・小林啓志・竹之内玲子・竹内竜介訳（2020）『多国籍企業の世界史』早稲田大学出版部。 奥村皓一・夏目啓二・上田慧（2006）『テキスト多国籍企業論』ミネルヴァ書房。 経営史学会編（2005）『外国経営史の基礎知識』有斐閣。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については次の授業で解説を行います。			

8. 成績評価の方法

平常点および理解度確認テスト（15%）、定期試験（85%）を合算し成績を評価する。

9. その他

授業の進行程度にもよるが、時間に余裕がある場合には、内容に関連する企業のケースを取り上げるほか、雑誌や新聞記事などから経営・経済関連のトピックを紹介する予定である。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J	
科目名		日本経営論 A	
担当者		長谷部 弘道	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標			
<概要> 日本企業のありようを問う研究の多くには、その普遍性よりも特殊性に注目したもの、なによりその問題性、あるいは優位性を強調するものが多い。もちろんそれぞれの研究には多くの学びがあるわけだが、日本企業の国際競争力の停滞が顕著となりつつある現在、一体日本企業の何が問題で、何が優れているのか、あるいは別の観点からすれば、何が特殊で、何が普遍的なのかという点を、改めて考えるということが肝要である。 本講義では、「日本企業の特殊性、問題性と普遍性」と題して、日本を含め各国の企業史の研究成果も参照しながら、このテーマに対して考えていく。また、これらの確認作業を通じて、現在の日本企業のありようを事実ベースで捉えつつ、その特殊性と問題性、普遍性について、学生の皆さんとともに考えてみたい。 なお、春学期は、特に企業側の「特殊性」に焦点をあてて、これを考えてみたい。 <到達目標> ・現代日本社会において強大な影響力をもつ大企業の諸特徴と、その成立メカニズムについて理解したうえで、日本企業の特殊性、問題性と普遍性について自ら考察できるようになる。 ・経営学や経営管理論、組織論、日本経済史、社会学など、他科目で学ぶ知識を動員して、日本企業が持つ特殊性と問題性がいかなる時代的コンテクストの中で生起し、今日の我々の社会に影響を持つに至っているかを総合的に考える力を身につける。 ・日本経営史や国際経営史、比較経営論等、他の専門科目との横の連関を意識し、大局的な知識習得を目指す。			
2. 授業内容			
第1回 イントロダクション：本授業の問題意識、分析視角、到達点 第2回 経営主体（トップマネジメント）の「かつて」と「現在」 第3回 日本企業の事業構造 第4回 資金調達①：メインバンクシステムの成立 第5回 資金調達②：メインバンクシステムの衰退 第6回 資金調達③：メインバンクシステムの日独比較 第7回 コーポレート・ガバナンスのあり方の歴史①：従業員主権の成立過程 第8回 コーポレート・ガバナンスのあり方の歴史②：株主主権の浸透と制度化 第9回 コーポレート・ガバナンスのあり方の歴史③：日米独比較 第10回 企業間関係①：その特色と優位性 第11回 企業間関係②：日米独の比較 第12回 日本企業のものづくり①：生産管理の発展と普及 第13回 日本企業のものづくり②：日本企業の研究開発と技術者 第14回 春学期の総括：企業側からみた日本企業の特殊性、問題性と普遍性			
3. 履修上の注意			
・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・日本経営論Bをあわせて履修することを勧める。 ・また、経済史Aや経営史Aを履修することで、歴史的な背景知識をより深く得ることが可能となる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
◇予習（3時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。 ◇復習（2時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。 ・各回の講義で中心に議論された事項の因果関係や時系列的な流れについて、図式化してノートを作成する。			
5. 教科書			
『日本経営論』金容度（博英社）、2023年。			
6. 参考書			
『グラフィック経営史』佐々木聡（新世社）、2022年。 『ものづくり日本経営史』粕谷誠（名古屋大学出版会）、2012年。			
7. 課題に対するフィードバックの方法			
毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。			
8. 成績評価の方法			
授業内課題（20%）、期末試験（80%）により評価する。			

9. その他

質問等の面談希望者は、講義終了後に直接相談するか、もしくは hasebe.hiromichi@nihon-u.ac.jp まで連絡すること。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J		
科目名		日本経営論B		
担当者		長谷部 弘道		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
<概要> 日本企業のありようを問う研究の多くには、その普遍性よりも特殊性に注目したもの、なによりその問題性、あるいは優位性を強調するものが多い。もちろんそれぞれの研究には多くの学びがあるわけだが、日本企業の国際競争力の停滞が顕著となりつつある現在、一体日本企業の何が問題で、何が優れているのか、あるいは別の観点からすれば、何が特殊で、何が普遍的なのかという点を、改めて考えるということが肝要である。 本講義では、「日本企業の特殊性、問題性と普遍性」と題して、日本を含め各国の企業史の研究成果も参照しながら、このテーマに対して考えていく。また、これらの確認作業を通じて、現在の日本企業のありようを事実ベースで捉えつつ、その特殊性と問題性、普遍性について、学生の皆さんとともに考えてみたい。 なお、秋学期は、特に労働者側、そして地域社会の側に焦点をあて、これを考えてみたい。 <到達目標> ・現代日本社会において強大な影響力をもつ大企業の諸特徴と、その成立メカニズムについて理解したうえで、日本企業の特殊性、問題性と普遍性について自ら考察できるようになる。 ・経営学や経営管理論、組織論、日本経済史、社会学など、他科目で学ぶ知識を動員して、日本企業が持つ特殊性と問題性がいかなる時代的コンテクストの中で生じし、今日の我々の社会に影響を持つに至っているかを総合的に考える力を身につける。 ・日本経営史や国際経営史、比較経営論等、他の専門科目との横の連関を意識し、大局的な知識習得を目指す。				
2. 授業内容				
第1回 イントロダクション：本授業の問題意識、分析視角、到達点 第2回 「日本的経営」と「共同性」 第3回 労使関係①：日本の労働運動の変遷 第4回 労使関係②：アメリカの労働運動の変遷 第5回 内部昇進システムの歴史①：戦後直後から1980年代まで 第6回 内部昇進システムの歴史②：1990年代から現代まで 第7回 職場と共同性①：生産労働者のキャリアと生活 第8講 職場と共同性②：技術者のキャリアと生活 第9講 職場と共同性③：女性のキャリアと生活 第10講 福利厚生①：戦前から戦後の連続と断絶 第11講 福利厚生②：戦後直後から現代まで 第12講 地域社会との関係①：企業内の共同性と地域 第13講 地域社会との関係②：地域からグローバルへ 第14講 秋学期の総括：労働者・地域側からみた日本企業の特殊性、問題性と普遍性				
3. 履修上の注意				
・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・日本経営論Aをあわせて履修することを勧める。 ・また、経済史Bや経営史Bを履修することで、歴史的な背景知識をより深く得ることが可能となる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
◇予習（3時間） ・テキストの指定された部分、配布された資料を事前に読み、示された質問に対する自分なりの回答を考えておく。 ◇復習（2時間） ・授業で示された追加資料や議論をもとに、予習で理解が不十分だった点を復習すること。 ・各回の講義で中心に議論された事項の因果関係や時系列的な流れについて、図式化してノートを作成する。				
5. 教科書				
『日本経営論』金容度（博英社）、2023年。				
6. 参考書				
『グラフィック経営史』佐々木聡（新世社）、2022年。 『日本的雇用システムをつくる 1945-1995』梅崎修・南雲智映・島西智輝（東京大学出版会）、2023年。 『日本的雇用システム』仁田道夫・久本憲夫（ナカニシヤ出版）、2008年。 『<サラリーマン>の文化史 あるいは「家族」と「安定」の近現代史』鈴木貴宇（青弓社）、2022年。 『学歴と格差の経営史 新しい歴史像を求めて』若林幸男（日本経済評論社）、2018年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
毎回の対面授業で各課題に対するフィードバックをおこなう。				

8. 成績評価の方法

授業内課題（20%），期末試験（80%）により評価する。

9. その他

質問等の面談希望者は、講義終了後に直接相談するか、もしくは hasebe.hiromichi@nihon-u.ac.jp まで連絡すること。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN381J		
科目名		日本経営史		
担当者		佐々木 聡		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 江戸時代から現在にいたる日本の企業経営の展開を，企業間結合の変遷，経営構想と戦略の策定，戦略と組織，財務・生産・販売・購買のシステム，人事・労務，研究開発，政府と財界団体の機能などの諸側面に分けて，多面的に検討することにした。また国際比較史・国際関係史的な検証も進めたい。 〈到達目標〉 日本の経営発展の諸側面を学ぶことによって，現代日本の企業システムの生成過程についての理解を深めるとともに，その近未来のあり方を展望する洞察力を培うことを目的とする。				
2. 授業内容				
I 江戸期の商家経営（9～10 月） 第 1 回 a：行商から「定住商」へ，b：商家の所有と経営（三井の事例）〔対面授業〕 第 2 回 a：呉服商にみる経営革新，b：両替商の業務と内国為替〔対面授業〕 第 3 回 a：奉公人制度，b：江戸時代に創業した企業〔メディア授業（リアルタイム型）〕 II 会社制度の普及と近代企業の生成（10～11 月） 第 4 回 a：会社知識の導入と普及，b：会社制度の制定と企業の対応〔対面授業〕 第 5 回 a：国立銀行の設立と普及，b：工業化のスタートと技術導入〔対面授業〕 第 6 回 a：政府の役割と機能，b「近代産業の形成」（幕藩体制～1913）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 III 大企業体制の生成と展開（11～12 月） 第 7 回 a：「財閥」の定義とその形成，b：コンツェルン体制への展開〔対面授業〕 第 8 回 a：新興事業と新興コンツェルンの発展，b：財界団体の形成〔対面授業〕 第 9 回 a：金解禁と金輸出再禁止，b：大戦景気から統制経済へ（1914～1937）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 IV 戦後の企業発展と今日的課題（12～1 月） 第 10 回 a：財閥の転向と改組，b：戦時中の財閥〔対面授業〕 第 11 回 a：財閥解体，b：集中排除〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第 12 回 a：戦後復興と企業グループの再編，b：戦時経済から復興経済（1937～1954）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第 13 回 a：高度成長と「戦後型」企業，b：3 大メガ・バンク体制〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第 14 回 a：高度成長の時代（1955～1973），b：試験の予定（定期試験期間中の可能性もあり）〔対面授業〕				
3. 履修上の注意				
教室の事情によっては，履修者数制限を実施する。履修者選抜方法と成績評価の方法については，第 1 回の授業時に説明するので，受講希望者は初回授業に必ず出席すること。小テストや課題レポートなどの重要な通知は，授業中に行うので注意すること。これを知らなかったというのは，理由として受け付けない。課題レポートを所定の書式と内容で指示通りに提出しなかった場合は，理由のいかんにかかわらず，単位取得は不可とする。必要と認めた場合，出欠状況を確認する。 メディア授業は ZOOM によるオンラインのリアルタイム型で，6 回程度実施する。その実施予定日は，本授業のクラスウェブで示します。メディア授業の受講に際しては，必ず画面に氏名が表示されるようにし，必ず顔を見せて受講すること。対面授業とオンライン・リアルタイム型授業の日程については，授業の進行の都合上，変更することもあるので，授業中や Oh-o!Meiji のクラスウェブでの通知に注意すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業予定の内容を事前の配布資料（クラスウェブにアップの予定です）と『グラフィック経営史』と『マテリアル日本経営史』で十分に予習しておくこと。				
5. 教科書				
佐々木聡編『グラフィック経営史』（新世社，2022 年），宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史』（有斐閣，1999 年）⇒※授業時の説明で，毎回，使用するので，受講者は必ず購入してください。 佐々木聡『産業経営史シリーズ 10 石鹼・洗剤産業』（日本経営史研究所，2016 年）⇒※課題レポート＋小テストで使します。ただし，授業の進行の関係で実施しない場合もあります。ちなみに 2025 年度は実施しませんでした。 必ず授業に出席して，テキストと課題レポート＋小テストの実施要領を確認すること。欠席してい				
6. 参考書				
佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善，2001 年），佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善，2003 年），佐々木聡編『日本の戦後企業家史』（有斐閣，2001 年），宮本又郎他『日本経営史〔新版〕』（有斐閣，2007 年），森川英正『トップマネジメントの経営史』（有斐閣，1996 年），佐々木聡・藤井信幸編『情報と経営革新』（同文館，1997 年），宇田川勝・佐々木聡・四宮正親編『失敗と再生の経営史』（有斐閣，2005 年），佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣，1998 年），佐々木聡『日本的流通の経営史』				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
授業内あるいは Oh-o!Meiji を通じてフィードバックを行う。				

8. 成績評価の方法

小テスト+課題レポート(50%:いずれか1つを実施の場合も双方実施の場合も全体の50%, すなわち双方実施の場合はそれぞれで25%(計50%), 期末試験(50%)とする。なお, 小テスト+課題レポートは必要条件とするので, 小テストを受けなかった場合あるいは課題レポートを期限までに提出しない場合は, 前記の評価基準にかかわらず, 自動的に単位取得は不可とする。

9. その他

自習による補足が必要とされるので, 意欲的かつ自主的な学習姿勢が求められよう。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN381J	
科目名		日本企業者史	
担当者		佐々木 聡	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 日本企業者史では、日本の経営革新の担い手となった企業家に焦点をあてて、企業家としての資質形成、人的ネットワークの形成、「革新」を生み出すにいたるプロセスとその波及効果を検証する。その際、企業家の資質形成などの主体的側面はもとより、経営環境（当時の教育制度、国内外の政治・経済の動きなど）すなわち客体的条件も併せて考察することによって、評価の客観性・歴史性に配慮することにした。また必要に応じて、海外の企業家の事例も比較史的に紹介することにした。 （到達目標） 日本の経営風土のなかで生まれた企業家の特徴を理解できる能力を身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 Ⅰ 企業者史学の方法と課題（4月） 第1回 a：経営史学の生成 b：企業者史学の生成〔対面授業〕 第2回 a：企業者の客体的条件と主体的条件 b：企業家を観る見方〔対面授業〕 Ⅱ 幕末・維新期の企業者機会（4月）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第3回 安田善次郎・浅野総一郎・大倉喜八郎 第4回 渋沢栄一と岩崎弥太郎・弥之助（三菱）〔対面授業〕 Ⅲ 明治～昭和戦前期の新規事業（5～6月） 第5回 初代長瀬富郎（花王）と2代鈴木三郎助（味の素）〔対面授業〕 第6回 福原有信（資生堂）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第7回 鮎川義介（日産）と豊田喜一郎（トヨタ）〔対面授業〕 第8回 小林一三（阪急・東宝）と堤康次郎（西武）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 Ⅳ 戦後の企業家群像（6～7月） 第9回 本田宗一郎と藤沢武夫（ホンダ）〔対面授業〕 第10回 盛田昭夫と井深大（ソニー）〔対面授業〕 第11回 飯田亮（セコム）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第12回 小林宏治（NEC）と丸田芳郎（花王）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第13回 中内功（ダイエー）と鈴木敏文（セブン・イレブン）〔メディア授業（リアルタイム型）〕 第14回 a：まとめ、b：試験の予定（定期試験期間中の可能性もあり）〔対面授業〕			
3. 履修上の注意 履修者数制限を実施する可能性もある。履修者選抜方法と成績評価の方法について、第1回の授業時に説明するので受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。秋学期の「日本経営史」とあわせて受講することが望ましい。重要な通知は、授業中に行うので注意すること。これを知らなかったことは、理由として受け付けない。 メディア授業はZOOMによるオンラインのリアルタイム型で、6回程度、実施する。その受講に際しては、必ず画面に氏名が表示されるようにし、必ず顔を見せて受講すること。対面授業とオンライン・リアルタイム型授業の日程については、授業の進行の都合上、変更することもあるので、授業中やOh-o!Meijiのクラスウェブでの通知に注意すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業予定の内容を指定テキストで予習することが望ましい。			
5. 教科書 佐々木聡編『日本の企業家群像』（丸善、2001年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』（丸善、2003年）、佐々木聡編『日本の戦後企業家史』（有斐閣、2001年）、佐々木聡『暮らしを変えた美容と衛生―福原有信（資生堂）・小林富次郎（ライオン）・長瀬富郎（花王）』（芙蓉書房、2009年）、佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』（丸善、2011年）、佐々木聡『日本の企業家9 丸田芳郎』（PHP 研究所、2017年）			
6. 参考書 佐々木聡監修『すごい実業家のアカン話』（ナツメ社、2022年）、宮本又郎他編『日本経営史〔新版〕』（有斐閣、2007年）、森川英正『トップマネジメントの経営史』（有斐閣、1996年）、佐々木聡・藤井信幸編『情報と経営革新』（同文館、1997年）、宇田川勝・中村青志編『マテリアル日本経営史』（有斐閣、1999年）、佐々木聡『科学的管理法の日本的展開』（有斐閣、1998年）、月刊「ABC」編集部編『彼の人に学ぶ』（富山房インターナショナル、2005年）、佐々木聡『日本的流通の経営史』（有斐閣、2007年）、			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内あるいはOh-o!Meijiを通じてフィードバックを行う。			
8. 成績評価の方法 小テスト＋課題レポート（50％）、期末試験（50％）とする。なお、小テストの受験と課題レポートの提出は必要条件とするので、小テストを受けなかった場合や課題レポートを期限までに提出しなかった場合は、前記の評価基準や理由のいかんにかかわらず、自動的に不可とする。			

9. その他

自習による補足が必要とされるので、意欲的かつ自主的な学習姿勢が求められよう。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J	
科目名		比較経営論（西欧）A	
担当者		清水 一之	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） ●講義のテーマ；「欧州におけるイノベーションとテクノロジー—ESG 投資、Industrie 4.0、そしてブロックチェーン」 ●講義概要；本講義「比較経営論（西欧）」では、ヨーロッパの企業や経済の仕組みを、日本やアメリカと比較しながらわかりやすく学びます。まず、EU の成り立ちや経済統合の歴史を確認し、ヨーロッパ型の経営モデルの特徴を理解します。そのうえで、近年注目される ESG 投資（環境・社会・ガバナンス）、ドイツの Industrie 4.0（スマート工場やデジタル化）、ブロックチェーン技術が、企業や社会の仕組みをどのように変えているのかを考えます。 また、「なぜ企業は社会的責任を求められるのか」「デジタル化は本当に私たちを豊かにするのか」「ビットコインの仕組みは何が新しいのか」といった身近な問いを出発点に、データとテクノロジーが価値やガバナンスをどう変えているのかを具体例とともに学びます。将来、金融・メーカー・IT・政策分野で活躍するための基礎的な視点を身につけることを目指します。 （到達目標） 本講義は、日本企業と欧州企業の経営を比較研究し、それをグローバルな視点から理解することを目標とする。その為、講義は 14 回の内、半分は講義内で終わる英語の Short Paper・プレゼン資料を参考(Kazuyuki Shimizu, ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain, Springer, 2026)に進められる。			
2. 授業内容 本講義は、日本企業と欧州企業の経営を比較研究し、それをグローバルな視点から理解することを目標とする。その為、講義は 14 回の内、半分は講義内で終わる英語の Short Paper・プレゼン資料を参考に進められる。（授業内容は進捗状況により若干の変更もあります）。 （授業内容） 1. オリエンテーション 2. Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System 3. ヨーロッパ経営学の発展 4. EU の歴史・経済 5. Smart Factory or Smart Car?: The concept of IoT usability 6. EU の経済・通貨統合 7. A Cybernetic Approach to Corporate and Stakeholder Governance 8. EU の経済モデルと EU 企業ヨーロッパ企業論 9. EU 企業と同族企業 10. Governing “invisible hand” by cybernetics approach: Understanding Adam Smith’s legacy; How “Google” Create a New Way of Thinking by The Influence of Privacy. 11. Social Responsibility of Online Charge-Free Services Providers 12. “Strategic Governance in the United States of Europe（USE）：A Case Study of Volkswagen” 13. The socio-cybernetic approach into the triumvirate: stakeholder governance between management, shareholders and employees 14. まとめ （講義では、ビデオ等の視覚教材も使用します。）			
3. 履修上の注意 履修学生は、時間厳守の出席、並びに、西欧企業について特別な好奇心を持って、受講してもらいたい。このことから新しい発想を得ようという創造的な態度が生まれ、西欧における企業経営のエッセンスを日本の経営に適応し、皆さんが社会人となったときに一助になることを願いたい。加えて、適宜出席確認ならびに講義感想レポートを取るの、出席することが履修の前提となる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 EU に関する新聞記事やニュース等には各自目を通すようにして下さい。			
5. 教科書 Kazuyuki Shimizu, ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain, Springer, 2026 （図書館の推薦図書からダウンロード可）			
6. 参考書 1. ホースト・シュタインマン, ゲオルク・シュライエク, ヨッヘン・コッホ著, 清水一之訳 『ドイツのマネジメント学 概念－機能－事例研究』, SBI アクセス, 2019 年 2. 風間 信隆, 松田 健著『実践に学ぶ経営学』, 文眞堂, 2018 年 3. 風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』, ミネルヴァ書房, 2019 年 4. 久保広正, 海道ノブチカ著『EU 経済の進展と企業・経営』（シリーズ激動期の EU 第 2 巻）, 勁草書房, 2013 年。 5. 高橋俊夫監修『EU 企業論－体制・戦略・社			

7. 課題に対するフィードバックの方法

各講義内で議論する課題が提示される。この課題を講義内で編成するグループで議論（30 分程度）して、議論後に発表者（グループリーダー、議論点報告資料用の Word ファイル作成者等の担当割）が全員に報告・共有する。この内容は、Word 資料で Line の比較経営論グループで共有・報告され、議論点の資料となる。

8. 成績評価の方法

講義への出席 3 点、講義でのディスカッション 4 点、14 回×7 点＝98 点、講義内のディスカッションで採点、期末テストなし。

9. その他

講義は、特定のテキストに沿う形で行われるわけではないので、講義に出席することなしには単位の修得は期待できません。講義をきちんと聴き、そこで得られた問題関心を学習し、講義内での発言等で考えを深めるなかで、はじめて正確な知識と論理的思考能力を身に付けることができると考える。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J		
科目名		比較経営論（西欧）B		
担当者		清水 一之		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） ●講義のテーマ：『欧州におけるイノベーションとテクノロジー—ESG 投資、Industrie 4.0、そしてブロックチェーン』 ●講義概要；本講義では、ヨーロッパ企業を例に、テクノロジーの進化が企業や社会の仕組みをどう変えているかを学びます。まず EU の特徴や企業の社会的役割を理解し、そのうえで ESG 投資や Industrie 4.0、ブロックチェーンといった最新テーマを取り上げます。 ビットコインのマイニングは本当に価値があるのか、なぜドイツ企業は長く存続できるのか、といった具体的な問いを通じて、ガバナンスやデジタル化の影響を考えます。さらに AI や DAO など新しい組織の形にも触れ、これからの企業と社会のあり方をわかりやすく考察します。春学期「比較経営論（西欧）」の発展版としての位置付けでご理解ください。 （到達目標） 本講義は、日本企業と欧州企業の経営を比較研究し、それをグローバルな視点から理解することを目標とする。その為、講義は 14 回の内、半分は講義内で終わる英語の Short Paper・プレゼン資料を参考(Kazuyuki Shimizu, ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain, Springer, 2026)に進められる。				
2. 授業内容 本講義は、日本企業と欧州企業の経営を比較研究し、それをグローバルな視点から理解することを目標とする。その為、講義は 14 回の内、半分以上は講義内で終わる英語の Short Paper・プレゼン資料を参考に英語で進められる。 （秋学期） 1. オリエンテーション：本講義の概要 2. Value and Blockchain 3. EU と企業の社会性-化学産業を中心に- 4. BULLSHIT BLOCKCHAIN MINING? 5. Heterogeneity of Institutional Investors, Longevity and Corporate Governance: The Case of Merck KGaA and Merck & Co. 6. ドイツのコルポレート・ガバナンスと共同決定 7. Technological Development in Automotive Industry and Transformation in Corporate Governance System 8. Industrie4.0 9. Digital transformation of work and ESG: Perspectives on monopoly and fair trade, 10. DAO by AI 11. Pricing Game (12/16→cancellation) 12. Blockchain and Biometrics authorization; what we actually count truly counts? 13. Blockchain technology for sustainable corporate governance 14. まとめ （講義では、ビデオ等の視覚教材も使用します。）				
3. 履修上の注意 履修学生は、時間厳守の出席、並びに、西欧企業について特別な好奇心を持って、受講してもらいたい。このことから新しい発想を得ようという創造的な態度が生まれ、西欧における企業経営のエッセンスを日本の経営に適応し、皆さんが社会人となったときに一助になることを願いたい。加えて、適時出席カードならびに講義感想レポートを取るの、出席をすることが履修の前提となる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 評価は全 14 回の講義内で行われる議論が対象になるので講義前後の予習・復習が非常に重要となる。 （準備学習） 教科書と EU に関する新聞記事を毎講義前に読んでもらいたい。				
5. 教科書 Kazuyuki Shimizu, ESG Investment, German Industrie 4.0, and Blockchain, Springer, 2026 （図書館の推薦図書としてダウンロード可）				
6. 参考書 1. ホースト・シュタインマン, ゲオルク・シュライエク, ヨッヘン・コッホ著, 清水一之訳 『ドイツのマネジメント学 概念－機能－事例研究』, SBI アクセス, 2019 年 2. 風間 信隆, 松田 健著『実践に学ぶ経営学』, 文真堂, 2018 年 3. 風間信隆編著『よくわかるコーポレート・ガバナンス』, ミネルヴァ書房, 2019 年 4. 久保広正, 海道ノブチカ著『EU 経済の進展と企業・経営』(シリーズ激動期の EU 第 2 巻), 勁草書房, 2013 年。 5. 高橋俊夫監修『EU 企業論—体制・戦略・社				
7. 課題に対するフィードバックの方法				

まず、各講義で扱うテーマを提示します。このテーマについて講義内に編成されたグループで討論（約 30 分）し、討論後、発表者（グループリーダー、論点報告資料の Word ファイル作成者等）が講義出席者全員に論点を共有します。この内容は、LINE「比較経営管理班」で Word 文書として共有・報告され、討議評価の資料となります。

8. 成績評価の方法

講義への出席 3 点、講義でのディスカッション 4 点、14 回×7 点＝98 点、講義内のディスカッションで採点、期末テストなし。

9. その他

講義は、特定のテキストに沿う形で行われるわけではないので、講義に出席することなしには単位の修得は期待できません。講義をきちんと聴き、そこで得られた問題関心を自ら学習し深めるなかで、はじめて正確な知識と論理的思考能力を身に付けることができると考えられます。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J	
科目名		比較経営論（中国）A	
担当者		カク 燕書	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 中国経済と企業は、多くの懸念材料を抱えながらも近年成長している。中国はかつて社会主義計画経済体制をとっており徐々に市場経済に移行しつつある。この点は典型的な資本主義や市場経済とは異なる。本講義は、中国の独自の歴史や特徴を踏まえて、成長する中国を対象に、様々な経済と経営活動を歴史的に考察すると同時に、現在と今後の中国経済と企業に投げかける諸問題を検討し、中国経済と企業の諸特質を理解することを目的としている。 （到達目標） 中国経済と企業は急ピッチで成長し、かつ絶えざる構造変化をつづけている。中国の経済は今後も持続するのか。超大国に向かって歩む中で、中国の経済は国内にどのような軋みを抱え、国内外にいかなるインパクトを及ぼしているか。中国経済と企業の構造的諸特質に関する様々な見方を検討し、事例研究を通して中国経済に特有の不確実性とダイナミズムに注目し分析する。それによって、諸君の歴史の視野と国際感覚を培うことを目標とする。			
2. 授業内容 （1）講義概要の説明 中国経済・企業・経営に関する諸視点 （2）中国の政治と経済 中国の政治システムは経済にどう影響するのか、他の共産主義国の失敗から何を学んだか。 （3）農業と土地と地方経済 人民公社の解体が1980年代の中国の成長につながったのはなぜか。1980年代と1990年代前半に、郷鎮企業は中国の経済発展でどんな役割を果たしたか。 （4）工業と輸出経済の興隆 なぜ中国が巨大な工業国・輸出国になったのか。中国の産業開発戦略はどのようなものか。鄧小平の産業政策はどのようなものだったか。 （5）都市化とインフラ どのくらいの速度で中国は都市化してきたか。都市化は経済成長とどう関係しているか。なぜ中国人は都市化が「部分的だ」と言うのか。 （6）企業制度 国有企業と民間企業ではどちらがより重要か。国有企業改革では何を目指し、はどのような形で運営されているか。国有企業集団はどのような構造になっているか。 （7）財政システムと中央・地方政府の関係 地方政府は、どのくらいの力を持ち、分権化された政府は経済発展にどのような影響を及ぼし、今日の財政システムの最大の問題は何か。 （8）金融システム 銀行の役割はどう変わってきたか。中国が金融危機に陥るリスクはあるのか。「影の銀行」をどれほど警戒すべきか。中国はどのようにして金利を自由化したのか。 （9）エネルギーと環境 中国はどのくらいエネルギーを使っているのか。中国はどのようなエネルギーを使い、その構成はどう変化しているか。 （10）人工構成と労働市場 「人口ボーナス」とは。どんな影響を及ぼし、中国の「人口転換」はどう進むのか。国民の高齢化は労働力と経済成長にどんな影響を与えるか。 （11）興隆する消費者経済 中国の成長は「不均衡」か、中国経済の個人消費の割合がそれほど低いのはなぜか。中国の「セーフティネット」はどのくらい整備されているか。 （12）格差と腐敗 中国の格差はどの程度ひどいのか。格差の拡大が社会の混乱につながっていないのはなぜか。所得格差が縮む可能性はあるか。中国の汚職問題はどのくらいひどいのか。 （13）成長モデルを変える なぜ「中国は成長モデルを変えなければならない」と言われるのか。なぜ資本からのリターンが減少しているのか。経済改革の目標とはどのようなものか。 （14）中国と世界 中国経済が世界最大になったら何が起こるか。中国の経済面での強みは、政治的な影響力にどう結びつくか。アジア諸国はどう対応すべきか。			
3. 履修上の注意 積極的な発表と発言を求め、双方向で授業を進め活発の議論を行い問題の理解を深める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書の該当箇所を読み、次の授業内容に関する専門用語について辞典などで調べる。復習として教科書および参考書の該当箇所を読むこと。			
5. 教科書 Arthur・R・Kroeber 著 東方雅美〔訳〕 吉崎達彦〔解説〕 『チャイナ・エコノミー（China's Economy）』白桃書房、2018年2月			
6. 参考書 授業中に適宜指示する			

7. 課題に対するフィードバックの方法

中間レポートの解説については、Oh-o!Meijiを通じて配信するため、確認すること。

8. 成績評価の方法

授業参加（30%）、ミニレポート（20%）、最終テスト（50%）の配分で評価する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321J	
科目名		比較経営論（中国）B	
担当者		カク 燕書	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 世界の工場から世界の市場への変化の中に、中国に進出する日本企業の経営管理は、進化しつづけてきた。本講義では中国に進出する日本企業の経営管理に焦点を当て、事例研究を中心に、日系企業の中国での経営管理理論と実践を分析・把握することを目的とする。 〈到達目標〉 多国籍企業論、経営資源移転論、経営管理論、人材育成論等を勉強しながら、実際に中国に進出するに日系企業の事例を取り上げ、日系企業の中国での経営管理現場の実態を考察し、経営管理における競争優位の形成、組織の作り方、人材マネジメント等の事実の検討を通じて、多角的視点から日本企業の中国での事業展開についての見識を深め、その特質を理解しようとする。			
2. 授業内容 (1) 中国に進出する外資系企業の分析諸視点 (2) ハイブリッド型人材マネジメントシステム (3) 中国労働市場の特徴と離職問題 (4) 余剰人員の整理と対策 雇用管理の諸システム (5) 企業内教育訓練 新入社員教育 職能別教育 OJT 自己啓発 (6) 多能工の育成と課題 日中多能工の比較と異同点 (7) 日本的の現場力と改善活動の日系企業への移転 (8) 内部昇進制度 社内公募制度 中核社員の育成と人材形成 (9) 評価制度 業績評価 態度評価 補足評価 意義と目的 (10) 技術集約的職場の労務管理―自動車メーカーの製造現場の事例― (11) 女子労働者の雇用システム―大手電機メーカーの製造職場の事例― (12) 中小企業の技能形成―中小電機メーカーの日中比較― (13) 女子従業員の人事管理―大手電機メーカーのホワイトカラー職場の事例― (14) 「複線型人事労務管理」の課題と展望			
3. 履修上の注意 積極的な発表と発言を求め、双方向で授業を進め活発の議論を行い問題の理解を深める。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の授業内容に関する専門用語について辞典などで調べる。復習として教科書および参考書の該当箇所を読むこと。			
5. 教科書 李捷生等『日系企業の人事・労務管理―人材マネジメントの事例を中心に』白桃書房 2015 年 11 月 6 日発行			
6. 参考書 授業中に適宜指示する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートの解説については、Oh-o!Meiji を通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 授業参加（30%）、ミニレポート（20%）、最終テスト（50%）の配分で評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321E	
科目名		Transcultural Management A	
担当者		NAGAI HIROHISA	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to cultivate practical, MBA-style business competencies and mindset required for future global leaders. Moving beyond a traditional lecture-based format, the course adopts an interactive, participant-centered active learning approach. Through dynamic class discussions, hands-on activities, individual and team projects, and presentations, students engage in real-time decision-making within a truly multinational classroom environment. Each year, students from more than ten countries learn together, bringing diverse perspectives, values, and experiences into the learning process. The course explores the foundations of Transcultural Management and examines how cultural differences shape leadership, communication, and managerial decision-making across borders. Students do not simply learn theory—they apply it. Through structured analysis, debate, and reflection, they tackle complex global business issues that require sensitivity, adaptability, and strategic thinking. As a core learning experience, each student participates in an Individual Panel Presentation, introducing their own national culture and business practices using established cultural analysis frameworks. These presentations transform the classroom into a global dialogue space, where students compare perspectives, challenge assumptions, and deepen mutual understanding in the following week’s discussion. In the second half of the course, students work in diverse teams on a Team Presentation examining global companies’ human resource development and global talent management strategies. Drawing on real-world corporate cases, each team analyzes how organizations cultivate global leadership and manage cross-border talent. Subsequent discussions connect these insights to broader questions of global leadership and strategic decision-making. Through this iterative cycle of presentation, dialogue, critical reflection, and collaborative analysis, students develop the confidence and competence to lead in complex, culturally diverse business environments.			
2. 授業内容 Week1: Course Orientation (Mandatory for Course Credit) Week2: What Is Culture? Where Does It Come From? Week3: Cultural Context (Hall) Week4: The Culture Map (Meyer) Week5: Hofstede’s Cultural Dimensions Model (Hofstede) Week6: Individual Poster Session: Cultural Identity and Business Context Week7: Comparative Discussion and Reflection on Poster Insights Week8: Individual Feedback and Team Preparation Week9: The Role of a Global Manager Week10: The Global Manager as a Decision Maker Week11: The Global Manager as a Negotiator Week12: The Global Manager as a Leader Week13: Team Presentation: Developing Global Leaders in Multinational Corporations Week14: Panel Discussion: From Corporate Practice to Your Global Career Path			
3. 履修上の注意 a. Enrollment Limit Due to the interactive course style and the use of an active learning classroom, enrollment is limited to 36 students (10 Meiji University regular students and 26 exchange students). For exchange students, registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period. b. Attendance Policy Attendance at the first orientation session is mandatory for all students. Absences due to unavoidable and legitimate reasons will be considered only if official supporting documentation is submitted. Students who are absent from the first orientation session without such documentation will have their course registration canceled. As this is an experiential and participation-based course, students are required to attend at least 10 out of 14 classes (approximately 70%), including the orientation session to earn course credit. In addition, from the perspective of professional time management, late arrivals will result in point deductions. For reference, leading international business schools such as Harvard Business School, Stanford Graduate School of Business, INSEAD, and London Business School generally require an attendance policy of a minimum of 80-90% for course credit.			

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.

5. 教科書

There is no textbook. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or handed out in class.

6. 参考書

7. 課題に対するフィードバックの方法

The first half of the course progress will be reviewed in Week 8 during the individual feedback session. Feedback on other activities and exercises will be provided either in class or through Oh-o! Meiji.

8. 成績評価の方法

Active participation in class discussions and activities: 40%

Individual Poster Session: 15%

Discussion based on Poster Session: 10%

Team presentation: 20%

Discussion based on Team presentation: 15%

9. その他

Course Administration & Learning Policy

1. Language Policy

English is used as a shared professional working language in this course. This is not an English language training class.

Academic evaluation is based on analytical depth, managerial reasoning

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国書講読 A 【使用言語：中国語】	
担当者		カク 燕書	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本と中国の経済関係がますます強まっている時代に応じて、今現在の中国に関するビジネス事情——政治、経済、経営、文化、中国人の生活と考え方などを中国語で理解していただきたい。また、就職活動に役に立つだけでなく、社会人になってからも仕事で使える中国語を身につけることを目的にする。 〈到達目標〉 読解と作文の力をしっかりと身につけながら、現代中国の社会・文化、中国人の考え方・人情など中国のビジネス文化を理解してもらいたい。また、実用的な中国語も覚え、流暢かつ自然に中国語で内容のある会話ができることを目標とする。			
2. 授業内容 第 1 回 概要説明 中国人 中国文化 商务中国語 第 2 回 中国文化的特點 (1) 凝集性 第 3 回 中国文化的特點 (2) 包容性 第 4 回 中国文化的特點 (3) 多样性 第 5 回 中国人的特點体现 (1) 中国人的谦虚 第 6 回 中国人的特點体现 (2) 注重和谐和中庸 第 7 回 中国人的特點体现 (3) 集体主义 第 8 回 商务会谈 (1) 时间／姓名／称谓 第 9 回 商务会谈 (2) 介绍／名片／握手 第 10 回 商务会谈 (3) 着装／寒暄 第 11 回 建立业务关系 (1) 宴请／饮酒 第 12 回 建立业务关系 (2) 筷子／吸烟／送礼 第 13 回 跨文化交流 (1) 书信／电话 第 14 回 跨文化交流 (2) 体态语言 第 15 回 总结和考试			
3. 履修上の注意 1, 2 年次の中国語の履修経験者を限定とし、中国語の基礎知識が必要である。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習復習必須、課毎に重点的な所を指定し暗唱を課する ・中国語検定試験、漢語水平考試（HSK）が望ましい。			
5. 教科書 授業の時に指示する			
6. 参考書 授業の時に指定する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートと作文の解説については、Oh-o!Meiji を通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 小テスト：40％ 筆記試験：40％ 授業参加：20％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国語講読B 【使用言語：中国語】	
担当者		カク 燕書	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本と中国の経済関係がますます強まっている時代に応じて、今現在の中国に関するビジネス事情——政治、経済、経営、文化、中国人の生活と考え方などを中国語で理解していただきたい。また、就職活動に役に立つだけでなく、社会人になってからも仕事で使える中国語を身につけることを目的にする。 〈到達目標〉 読解と作文の力をしっかりと身につけながら、現代中国の社会・文化、中国人の考え方・人情など中国のビジネス文化を理解してもらいたい。また、実用的な中国語も覚え、流暢かつ自然に中国語で内容のある会話ができることを目標とする。			
2. 授業内容 第1回 人際関係 (1) 人情 第2回 人際関係 (2) 面子 第3回 人際関係 (3) 上下級関係 第4回 人際関係 (4) 同事関係 第5回 人際関係 (5) 商务关系 第6回 人際関係 (6) 与政府的关系 第7回 期中考试 中国电影欣赏 第8回 谈判 (1) 人选 第9回 谈判 (2) 价格 第10回 谈判 (3) 合同 第11回 管理 (1) 部门的权利和地位 第12回 管理 (2) 职员管理 第13回 管理 (3) 激励 第14回 管理 (4) 年龄 第15回 中国商务文化 发表 期末考试			
3. 履修上の注意 1, 2 年次の中国語の履修経験者を限定とし、中国語の基礎知識が必要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・予習復習必須、課毎に重点的な所を指定し暗唱を課する ・中国語検定試験、漢語水平考試（HSK）が望ましい。			
5. 教科書 授業の時に指示する			
6. 参考書 授業の時に指定する			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートのと作文の解説については、Oh-o!Meiji を通じて配信するため、確認すること。			
8. 成績評価の方法 小テスト：40％ 筆記試験：40％ 授業参加：20％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国書講読A【使用言語：ロシア語】		
担当者		カン ビクトリヤ		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
<概要> 本講義では、国際制裁という制約の下で、ロシア企業がどのように世界との関係を再構築しようとしているのかを、現代ロシア経営の具体的な姿から考える。 授業は輪読形式を基本とし、雑誌記事などのロシア語テキストを教材として用いながら、企業経営のみならず、政治・経済の動向、ロシア人の生活や価値観、社会文化的背景にも目を向ける。ロシア語を活用してロシアビジネスを理解し、その知見を通じて現代ロシア社会への立体的な理解を深めることを目標とする。 ロシア語の学習経験は望ましいが、未修者の履修も認める。 <到達目標> ロシア語文献を講読し、経済・経営分野に関する語彙や表現を身につけ、文章の意図や背景を的確に読み取る力を養う。あわせて、ロシア語を用いて現代ロシアの企業経営やビジネス環境を多面的に理解し、具体的な企業事例を踏まえて説明できる力を身につける。 現地語を用いることの意義を体感し、経営学的視点から外国ビジネスを考察する基礎的な研究能力の向上を目指す。				
2. 授業内容				
授業の内容および進度は、履修者のロシア語能力ならびに関心を踏まえ、適宜変更する場合がある。 第1回 イントロダクション 第2～5回 ロシアの文化や社会 ロシア語テキストを音読および訳出しつつ、ロシアの文化や社会について理解を深める。 第6～9講 ロシアの経済 ロシア語テキストを音読および訳出しつつ、ロシアの経済について理解を深める。 第10～13講 ロシアの企業経営 ロシア語テキストを音読および訳出しつつ、ロシアの企業経営について理解を深める。 第14講 a：試験 b：まとめ				
3. 履修上の注意				
本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は『経営学部履修の手引』を参照すること。 欠席回数上限などのルールが設けられている。詳細は初回のガイダンスで説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の前に、配布された資料に目を通してきてください。まずは全体の内容が分かるように読み、簡単でよいので概要をつかみましょう。あわせて、資料の翻訳にも取り組んでください。分からない単語や専門用語があれば、事前に辞書などで調べておきましょう。 読んでも理解しにくい部分があっても心配はいりません。授業中に説明しますので、遠慮せずに質問してください。 また、分からなかった点を整理したうえで、ロシアの企業経営に関係するテーマについて、学生同士で話し合えるよう準備してください。発表担当の人は、ポイントを簡単にまとめ、口頭で説明できるように準備しましょう。授業は、みなさんの報告・発表やディスカッションを中心に進めていきます（受講人数によって進め方が変わる場合があります）。				
5. 教科書				
教科書は未定です。開講後、履修者の関心や語学力に応じて選定します。 教材は担当教員が用意するため、雑誌等を各自で購入する必要はありません。 なお、ロシア語未修者は、基礎学習のため下記のテキストを購入しておくことが望ましいです。 『初級ロシア語 20 課 [音声 DL 版]』桑野隆（白水社）2025 年。				
6. 参考書				
『市場経済移行期のロシア企業』加藤志津子（文眞堂）2006 年。 『コメルサント』や『ヴェドモスチ』などの記事。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
各回の発表内容に対してフィードバックを行い、関連知識や背景について解説します。リアクションペーパーの全体講評は Oh-o!Meiji を通じて行います。 試験は最終授業日に実施し、試験後に解説を行います。				
8. 成績評価の方法				
報告内容（50 点） 授業参加（20％） 定期試験（30％）				
9. その他				
授業内容に関する質問は、講義中に受け付けます。 なお、上記に示したテーマ以外でも、ロシアに関して授業での取り上げを希望するトピックがある場合は、適宜対応しますので、希望者は申し出てください。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国語講読B【使用言語：ロシア語】		
担当者		カン ビクトリヤ		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 本講義では、国際制裁という制約の下で、ロシア企業がどのように世界との関係を再構築しようとしているのかを、現代ロシア経営の具体的な姿から考える。 授業は輪読形式を基本とし、雑誌記事などのロシア語テキストを教材として用いながら、企業経営のみならず、政治・経済の動向、ロシア人の生活や価値観、社会文化的背景にも目を向ける。ロシア語を活用してロシアビジネスを理解し、その知見を通じて現代ロシア社会への立体的な理解を深めることを目標とする。 ロシア語の学習経験は望ましいが、未修者の履修も認める。 ＜到達目標＞ ロシア語文献の講読を通じて、経済・経営分野に関する語彙や表現を身につけ、文章の意図や背景を的確に読み取る力を養う。あわせて、ロシア語を用いて現代ロシアの企業経営やビジネス環境を多面的に理解し、具体的な企業事例を踏まえて説明できる力を身につける。 現地語を用いることの意義を体感し、経営学的視点から外国ビジネスを考察する基礎的な研究能力の向上を目指す。				
2. 授業内容 授業の内容および進度は、履修者のロシア語能力ならびに関心を踏まえ、適宜変更する場合がある。 第1回 イントロダクション 第2～5回 ロシアの文化や社会 ロシア語テキストを音読および訳出しつつ、ロシアの文化や社会について理解を深める。 第6～9講 ロシアの経済 ロシア語テキストを音読および訳出しつつ、ロシアの経済について理解を深める。 第10～13講 ロシアの企業経営 ロシア語テキストを音読および訳出しつつ、ロシアの企業経営について理解を深める。 第14講 a：試験 b：まとめ				
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限がある。そのため、履修に際しては事前登録が必要である。詳細は『経営学部履修の手引』を参照すること。 欠席回数上限などのルールが設けられている。詳細は初回のガイダンスで説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の前に、配布された資料に目を通してきてください。まずは全体の内容が分かるように読み、簡単でよいので概要をつかみましょう。あわせて、資料の翻訳にも取り組んでください。分からない単語や専門用語があれば、事前に辞書などで調べておきましょう。 読んでも理解しにくい部分があっても心配はいりません。授業中に説明しますので、遠慮せずに質問してください。 また、分からなかった点を整理したうえで、ロシアの企業経営に関係するテーマについて、学生同士で話し合えるよう準備してください。発表担当の人は、ポイントを簡単にまとめ、口頭で説明できるように準備しましょう。授業は、みなさんの報告・発表やディスカッションを中心に進めていきます（受講人数によって進め方が変わる場合があります）。				
5. 教科書 教科書は未定です。開講後、履修者の関心や語学力に応じて選定します。 教材は担当教員が用意するため、雑誌等を各自で購入する必要はありません。 なお、ロシア語未修者は、基礎学習のため下記のテキストを購入しておくことが望ましいです。 『初級ロシア語 20 課 [音声 DL 版]』桑野隆（白水社）2025 年。				
6. 参考書 『市場経済移行期のロシア企業』加藤志津子（文真堂）2006 年。 『コメルサント』や『ヴェドモスチ』などの記事。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の発表内容に対してフィードバックを行い、関連知識や背景について解説します。リアクションペーパーの全体講評は Oh-o!Meiji を通じて行います。 試験は最終授業日に実施し、試験後に解説を行います。				
8. 成績評価の方法 報告内容（50 点） 授業参加（20％） 定期試験（30％）				
9. その他 授業内容に関する質問は、講義中に受け付けます。 なお、上記に示したテーマ以外でも、ロシアに関して授業での取り上げを希望するトピックがある場合は、適宜対応しますので、希望者は申し出てください。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国書講読 A 【使用言語：英語】		
担当者		徐 玉琴		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 近年、企業を取り巻く経営環境は技術革新、デジタル化、市場の不確実性の高まりなどにより急速に変化している。このような環境下で企業が持続的競争優位を構築するためには、環境変化を感知し、機会を捕捉し、組織資源やプロセスを再構成する能力、すなわちダイナミック・ケイパビリティが重要である。本授業の目的は、ダイナミック・ケイパビリティ論を講読し、理論的枠組みの理解および研究論文の批判的読解力を涵養することである。 （到達目標） ・英語文献の読解力を養い、著者の本意を理解すること。 ・ダイナミックケイパビリティの重要性を理解すること。				
2. 授業内容 講義は、指定教科書の講読・訳出、そしてトピックに対応した事例の紹介と絡めながら進める。具体的には、履修者の学籍番号に割当、指定範囲（1～2 センテンス）を音読し、訳出してもらう。発表後、その訳や内容について説明を加える。 第1回：イントロダクション 第2～6 回：講読と訳出 第7回：中間試験 第8～13 回：講読と訳出 第14 回 a：まとめ b：試験				
3. 履修上の注意 ・講義を 1/3 以上欠席しないこと。 ・本授業は 1 クラスあたりの受講人数制限があるため、履修に際しては事前登録が必要となる。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・配布された資料を事前に読んでおくこと。また、不明な単語は事前に必ず調べておくこと。専門用語などについても確認しておくこと。 ・事前に指定した範囲を和訳し、授業開始前に Oh-o ! Meiji から提出しておくこと。				
5. 教科書 Teece, D. J. (2007) "Explicating Dynamic Capabilities: The Nature and Microfoundations of (Sustainable) Enterprise Performance", Strategic Management Journal, 28 (13) : 1319-1350.（授業資料は Oh-o ! Meiji にアップロードする）				
6. 参考書 適宜紹介する				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に解説する				
8. 成績評価の方法 発表 30%、中間試験 30%、期末試験 40%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国書講読B【使用言語：英語】		
担当者		徐 玉琴		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (授業の概要) 近年、企業を取り巻く経営環境は技術革新、デジタル化、市場の不確実性の高まりなどにより急速に変化している。このような環境下で企業が持続的競争優位を構築するためには、環境変化を感知し、機会を捕捉し、組織資源やプロセスを再構成する能力、すなわちダイナミック・ケイパビリティが重要である。 「外国書講読 B」では引き続き、ダイナミック・ケイパビリティ論を講読し、現代企業経営の諸事象と関連付けながら、理論と実務の接点について理解を深めることを目的とする。 (到達目標) ・ 英語文献の読解力を養い、著者の本意を理解すること。 ・ ダイナミックケイパビリティの重要性を理解すること。				
2. 授業内容 講義は、指定教科書の講読・訳出、そしてトピックに対応した事例の紹介と絡めながら進める。具体的には、履修者の学籍番号に割当、指定範囲（1～2 センテンス）を音読し、訳出してもらう。発表後、その訳や内容について説明を加える。 第1回：イントロダクション 第2～6回：講読と訳出 第7回：中間試験 第8～13回：講読と訳出 第14回 a：まとめ b：試験				
3. 履修上の注意 ・ 講義を 1/3 以上欠席しないこと。 ・ 本授業は 1 クラスあたりの受講人数制限があるため、履修に際しては事前登録が必要となる。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ 配布された資料を事前に読んでおくこと。また、不明な単語は事前に必ず調べておくこと。専門用語などについても確認しておくこと。 ・ 事前に指定した範囲を和訳し、授業開始前に Oh-o ! Meiji から提出しておくこと。				
5. 教科書 Teece, D. J. (2007) "Explicating Dynamic Capabilities: The Nature and Microfoundations of (Sustainable) Enterprise Performance", Strategic Management Journal, 28 (13) : 1319-1350. (授業資料は Oh-o ! Meiji にアップロードする)				
6. 参考書 適宜紹介する				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に解説する				
8. 成績評価の方法 発表 30%、中間試験 30%、期末試験 40%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国語講読 A 【使用言語：ドイツ語】	
担当者		石塚 史樹	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 本講義はドイツの経済・経営・政治にかかわる題材を中心に、参加者による輪読形式を軸とするドイツ語による文献講読を行う。取り上げる題材は、ドイツの全体的な経済的な枠組みにかかわる政策である。主には、現在のドイツの雑誌の記事を教材として、文法上の構造および構文構造の正確な把握、経済・経営にかかわるドイツ語語彙の正確な理解、ドイツの視点に基づく文脈の把握ができるようになることを到達目標とする。 すでに和泉の一般教育課程における第二外国語の授業でドイツ語の単位を取得し、ドイツ語の基礎的な知識を身に付けていることが本講義参加の最低条件となるので注意すること。ドイツ語の基礎知識がないと、授業に参加するのは不可能であるので、注意すること。 また、授業の実際の進度は教室内の現実に応じてその都度決定する。このため、必ずしも「授業内容」で挙げた進度を強行することはないので、この点については、希望者は安心して参加すること。 記事は、参加者の都合を考え、できるだけ短いものを選ぶ予定である。			
2. 授業内容 第1講 イントロダクション・履修条件の説明 第2講 ドイツの経済成長にかかわる記事 第3講 ドイツの金融政策にかかわる記事 第4講 ドイツと EU にかかわる記事 第5講 ドイツの移民政策にかかわる記事 第6講 ドイツの農業政策にかかわる記事 第7講 ドイツの住宅事情にかかわる記事 第8講 ドイツの法律にかかわる記事① 第9講 ドイツの法律にかかわる記事 第10講 ドイツのエネルギー政策にかかわる記事 第11講 ドイツの安全保障にかかわる記事 第12講 ドイツの教育政策にかかわる記事 第13講 ドイツの環境政策にかかわる記事 第14講 ドイツの外交政策にかかわる記事			
3. 履修上の注意 すでに和泉の一般教育課程における第二外国語の授業でドイツ語の単位を取得し、ドイツ語の基礎的な知識を身に付けていることが本講義参加の最低条件となるので注意すること。ドイツ語の基礎知識がないと、授業に参加するのは不可能であるので、注意すること。 ・基本的に、無断欠席を三回繰り返した場合、単位認定は行わない。 ・公欠や就活などなど正当化できる欠席でも、必ず事前に連絡すること。この場合、証拠書類の提出を求めるので注意すること。 ・病欠は一回までは認めるが、それ以降は病欠した授業日に通院を署名できる証拠書類（通院のレシートなど）の提出を求めるので注意すること。 ・交通事情などで遅刻する場合もその旨連絡すること。 本講義は、1 クラス当たりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては、Web による事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修者は、配布した資料の指示した範囲をあらかじめ精読し、その概要を把握しておくこと。そのうえで、不明な個所をリストアップし、把握した内容とともに授業内で報告すること。また、Web 翻訳機能を使って和訳を作り参加してもほとんど学習意義はないので、愚直にアナログに辞書を使って調べて教材に書かれていることの意味を把握し、出来の良し悪しにかかわらず準備した内容を報告し、フィードバックを求めること。 この際、どんなに考えても分からない箇所があれば丁寧に説明するので、臆することなく質問すること。			
5. 教科書 必要な教材は、「Der Spiegel」である。教材として使用する記事は、当方で準備するので当該雑誌を購入する必要はない。			
6. 参考書 必要に従い、授業時にその都度指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内でその都度実施する。			

8. 成績評価の方法

授業への貢献度（50%）、報告内容（50%）。本講義において出席は絶対であるため、「履修上の注意」を参照すること。

9. その他

当授業は、ドイツの大学への留学やドイツ経済・印欧諸語の研究など、目的をもってドイツ語の学習を希望する参加者には極めて意義の多い授業である。また、上記に挙げたテーマ以外でも取り上げてほしい文献があればいくらかでも対応するので、希望者はその旨申し出ること。

ドイツの大学への留学希望者には、留學生活にかかわるドイツの国内事情も詳しく説明する予定である。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国語講読B【使用言語：ドイツ語】	
担当者		石塚 史樹	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 本講義はドイツの経済・経営にかかわる題材を中心に、参加者による輪読形式を軸とするドイツ語による文献講読を行う。取り上げる題材は、ドイツの産業と企業である。主には、現在のドイツの雑誌の記事を教材として、文法上の構造および構文構造の正確な把握、経済・経営にかかわるドイツ語語彙の正確な理解、ドイツの視点に基づく文脈の把握ができるようになることを到達目標とする。 すでに和泉の一般教育課程における第二外国語の授業でドイツ語の単位を取得し、ドイツ語の基礎的な知識を身に着けていることが本講義参加の最低条件となるので注意すること。ドイツ語の基礎知識がないと授業に参加するのは不可能であるので、注意すること。 また、授業の実際の進度は教室内の現実に応じてその都度決定する。このため、必ずしも「授業内容」で挙げた進度を強行することはないので、希望者は安心して参加すること。 記事は、参加者の都合を考え、できるだけ短いものを選ぶ予定である。			
2. 授業内容 第1講 イントロダクション・履修条件の説明 第2講 ドイツの自動車産業にかかわる記事① 第3講 ドイツの自動車産業にかかわる記事② 第4講 ドイツの化学産業にかかわる記事① 第5講 ドイツの化学産業にかかわる記事② 第6講 ドイツの工作機械産業にかかわる記事① 第7講 ドイツの工作機械産業にかかわる記事② 第8講 ドイツの銀行業界にかかわる記事① 第9講 ドイツの銀行業界にかかわる記事② 第10講 ドイツの小売業界にかかわる記事① 第11講 ドイツの小売業界にかかわる記事② 第12講 ドイツのデジタル産業にかかわる記事① 第13講 ドイツのデジタル産業にかかわる記事② 第14講 ドイツの中小零細企業に関する記事			
3. 履修上の注意 すでに和泉の一般教育課程における第二外国語の授業でドイツ語の単位を取得し、ドイツ語の基礎的な知識を身に着けていることが本講義参加の最低条件となるので注意すること。ドイツ語の基礎知識がないと、授業に参加するのは不可能であるので、注意すること。 ・基本的に、無断欠席を三回繰り返した場合、単位認定は行わない。 ・公欠や就活などなど正当化できる欠席でも、必ず事前に連絡すること。この場合、証拠書類の提出を求めるので注意すること。 ・病欠は一回までは認めるが、それ以降は病欠した授業日に通院を署名できる証拠書類（通院のレシートなど）の提出を求めるので注意すること。 ・交通事情などで遅刻する場合もその旨連絡すること。 本講義は、1クラス当たりの受講人数制限があります。そのため、履修に際しては、Webによる事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引き」を参照すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修者は、配布した資料の指示した範囲をあらかじめ精読し、その概要を把握しておくこと。そのうえで、不明な個所をリストアップし、把握した内容とともに授業内で報告すること。また、Web 翻訳機能を使って和訳を作り参加してもほとんど学習意義はないので、愚直にアナログに辞書を使って調べて教材に書かれていることの意味を把握し、出来の良し悪しにかかわらず準備した内容を報告し、フィードバックを求めること。 この際、どんなに考えても分からない箇所があれば、臆することなく質問すること。			
5. 教科書 必要な教材は、「Der Spiegel」である。教材として使用する記事は、当方で準備するので当該雑誌を購入する必要はない。			
6. 参考書 必要に従い、授業時にその都度指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内でその都度実施する。			

8. 成績評価の方法

授業への貢献度（50％），報告内容（50％）。本講義において出席は絶対であるため、「履修上の注意」を参照すること。

9. その他

当授業は、ドイツの大学への留学やドイツ経済・印欧諸語の研究など、目的をもってドイツ語の学習を希望する参加者には極めて意義の多い授業である。また、上記に挙げたテーマ以外でも取り上げてほしい文献があればいくらかでも対応するので、希望者はその旨申し出ること。

また、ドイツの大学への留学希望者に対しては、留學生活にかかわるドイツの国内事情も説明する予定である。

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国語講読 A 【使用言語：フランス語】	
担当者		関家 ちさと	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 同時通訳アプリや翻訳アプリ、海外とのオンライン会議が普及・発展し、言語を取り巻く環境はここ数年で様変わりしました。これによって異なる言語の人ともずいぶん簡単にコミュニケーションが取れるようになりました。しかし国や文化によって心地良いと感じるコミュニケーション方法は異なります。講師自身、日本とフランスで長年インタビュー調査を行っており、日本人とフランス人ではインタビュー方法にかなり異なる工夫が求められます。 本授業では、日本とフランスを例にとりながら、日々進化する言語ツールも駆使して海外の人と関わっていく方法を皆さんと模索したいと考えています。 生成 AI の誕生によって、人と人工知能の境界がどんどん曖昧になっている現代において、生身の人と直接言葉を交わし、関わる力が益々求められています。OECD 等、国際機関のテキストを中心に、クラス内でのディスカッションを通して、このような現代で私たち人間にどのような能力が求められているかについても考え、将来のキャリアプランに繋げてもらいたいと考えています。 フランス語を一度でも習ったことがある方、海外経験のある方、海外に興味のある方を歓迎します。 ＜到達目標＞ ・人の話を引き出す力（インタビュー力）を習得する。 ・異なる価値観や考えを聞くことを通して、自分の価値観や大切にしていることに気づく。 ・AI による技術革新が加速する現代において、どのようなスキルが求められているかを考え、キャリアに活かす視点を持つ。			
2. 授業内容 OECD 等の国際機関のテキストを中心に、グループディスカッションを行います 第1回 インTRODクシヨン 第2回 国際比較の面白さと意義 第3～14 回 インタビューの意義、現代の言語を取巻く環境、インタビューで心掛けること コミュニケーションを円滑にするフランス語 フランス語を通してフランスという国を理解する 生成 AI がもたらす変化、これからの労働者に求められるスキル等			
3. 履修上の注意 通年で履修することが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 クラス外でインタビューしてもらう予定です（日本語）			
5. 教科書 なし、授業内で配布します			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題レポート等へのフィードバックは、Oh-o!Meiji を通して行います			
8. 成績評価の方法 ・平常点 20%（欠席は3 回まで） ・授業への貢献度（ディスカッションへの参加度合い、コメントペーパーの提出） 40% ・課題レポート 40% ＊コロナやインフル等の感染症による欠席は考慮します。 ＊就活やゼミ活動等の学生活動での欠席は2 回までとし、代替課題の提出によって出席扱いとします。 ＊コメントペーパーは、3 回未提出で1 回欠席扱いとします。			
9. その他 なし			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国語講読B【使用言語：フランス語】		
担当者		関家 ちさと		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 本授業では、フランスと日本の働き方について学びます。フランス人、日本人はどんな働き方やキャリア形成の仕方をしているのでしょうか？講師自身がフランス企業と日本企業に行ったインタビュー調査によると、フランスは働き方やキャリア形成の方法において、日本企業と異なる点が多いです。 したがって両国を比較することで、多様な働き方を知るとともに、国際比較の視点を得ることが期待されます。様々な働き方を知ること、受講生の皆さんが自分自身のキャリアプランを描くためのアイディアを得られるのではないかと考えています。 さらに情報が溢れる現代において、イメージで語られることの多い国の違いを、正しい情報に基づいて知る力は、今後ますます重要となってきます。したがって日仏の働き方に関するテキストをもとにディスカッションしたり、身近な人にインタビューすることで、少しでもそうした視点を習得してもらいたいと考えています。 フランス語を一度でも学んだことがある方、海外経験のある方、海外に興味のある方を歓迎します。 ＜到達目標＞ ・フランスと日本の比較を通して、国際比較の視点をもつこと。 ・両国の働き方の特徴について理解を深めること。 ・自律的にキャリアを築いていく視点を得ること。				
2. 授業内容 日本とフランスの働き方やキャリアに関する最新記事やデータを日本語で輪読したのち、ディスカッションします。その後、講師から国際比較データの紹介や解説を行います。 第1回 イントロダクション、前期振り返り 第2回～14回 日仏の働き方に関する日本語テキストの輪読とディスカッション。 テキストに関連した国際比較データの紹介や解説。				
3. 履修上の注意 通年で履修することが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 なし。				
5. 教科書 なし。授業内で配布します。				
6. 参考書 関家ちさと（2021）『日本型人材育成の有効性を評価する：企業内養成訓練の日仏比較』中央経済社（該当ページを授業内で配布予定）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題レポート等へのフィードバックは、Oh-o!Meiji を通して行います。				
8. 成績評価の方法 ・平常点 20%（欠席は3回まで） ・授業への貢献度（ディスカッションへの参加度合い、コメントペーパーの提出） 40% ・課題レポート 40% ＊コロナやインフル等の感染症による欠席は考慮します。 ＊就活やゼミ活動等の学生活動での欠席は2回までとし、代替課題の提出によって出席扱いとします。 ＊コメントペーパーは、3回未提出で1回欠席扱いとします。				
9. その他 なし。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国書講読 A 【使用言語：英語】		
担当者		一小路 武安		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜授業の概要＞ 本講義では、経済・経営に関わる記事や論文を取り扱う。生成 AI 等の発達により、単に英文を読むという行為の意味が薄れてきている。本講義では、その場の読解を重視し、講義ごとに取り扱う英文のペーパーをその場で理解・発信し、参加者同士の議論で理解を深めることを目的とする。 ＜到達目標＞ 1. 馴染みのない英文をその場で自分なりの理解ができる。 2. 自分なりの理解を言葉にして発信できる。 3. 他者の理解を助けるための建設的なコメントができる。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：経営記事読解及び議論 第 3 回：経営記事読解及び議論 第 4 回：経営記事読解及び議論 第 5 回：経済記事読解及び議論 第 6 回：経済記事読解及び議論 第 7 回：経済記事読解及び議論 第 8 回：経営学論文読解及び議論 第 9 回：経営学論文読解及び議論 第 11 回：経営学論文読解及び議論 第 12 回：経営学論文読解及び議論 第 13 回：理解発表 第 14 回：総括				
3. 履修上の注意 講義中の英文読解において辞書等の使用はできず、あくまで自分の力で理解することが求められる。また、議論は基本的に日本語で行うが、進捗度合いに応じて英語も取り入れる可能性がある。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 演習で取り上げた文献について、読み返して確認し、自分の理解を発展させる。特に、英文については復習内容についてペーパーを作成する。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 適宜指定する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内において、議論に対するフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法 議論への参加（50％）と課題への取り組み（50％）によって評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国書講読 A 【使用言語：英語】	
担当者		多田 稔	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 前年度に引き続き Aravind Yelery 氏による『between state capitalism and economic statecraft China INC』を使用します。本書は国家資本主義体制としての中国において、国有企業の果たすその役割および内部の矛盾を解き明かす内容となっています。本講義においては、その中でも国家資本主義体制としての中国および国有企業の系譜を扱った章を講読していきます。 アジアにおける移行国は中国およびベトナムがその代表国ということになりますが、いずれも旧体制となりつつある社会主義体制下での様々なシステムをある意味“スターター”として活用することで目覚ましい経済発展を実現し、世界経済にあって米国に対峙する大国としての地位を獲得するに至っています。 本講義では、アジア移行国の代表たる中国について、その移行過程たる“改革・開放”政策、とりわけ株式制を中心とする国有企業改革を経てもなお、同国の経済発展において主要な役割を担い続ける同企業の存在意義を主たる課題として考えていきます。 （到達目標） 上記テキストの講読を通して語学力の向上を図ると同時に、アジア移行国の代表としての中国に対する見識を深め、経営学の研究能力向上に資することをその目的とします。			
2. 授業内容 講義は前週に予習箇所を指定の上、毎回ランダムに指名して音読、翻訳をして頂きます（下記カリキュラム参照）。その際、担当箇所から専門用語あるいは関連事項についての質問をします。その後、翻訳の修正、担当箇所の内容および関連事項についての解説、という流れで進めていきます。 第1回：イントロダクション（講義の進め方等） 第2回～第13回：The Rise of State Capitalism in China（p.7-29） Why Did China Not Collapse（p.30-50） 第14回：講義のまとめ 第15回：期間前試験 なお、音読および翻訳については、受講生指名機会に偏りが発生しないよう配慮します。			
3. 履修上の注意 広く「アジア」、少なくとも「中国」に何かしらの関心を持っている方の受講が望ましい。 補助的に参考資料を翻訳する場合があります。 （準備学習） 中国経済に関する入門書ないしは概説書を一読しておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義時に示した全訳および用語解説に関する PPT を振り返り、疑問点等あれば翌週講義時に質問してください。また、講義時はランダムに指名していきますので、翌週範囲については、必ず日本語訳等、予習を行った上で講義に参加してください。			
5. 教科書 Aravind Yelery『between state capitalism and economic statecraft China INC』Pentagon Press LLP、2021 年の原書はわが国でも入手可能ですが、必要箇所のコピーを準備する予定です。			
6. 参考書 『現代中国の経済改革』、呉敬璉 著、青木昌彦、日野正子 訳、NTT 出版 『中国の経済発展と制度変化』、嚴成男 著、京都大学出版会 『中国経済学入門』、加藤弘之 著、名古屋大学出版会			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義受講者全員、次週講義範囲について日本語訳の予習を行った上で講義に参加してください。講義時に予習範囲に関する日本語訳等の解説を進める形でフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 春学期末に実施する試験、授業時の翻訳点、平常点を加算して 100 点満点とし評価します。それぞれの点数配分は以下の通りです。 ①春学期末試験：70 点 ②翻訳点：20 点（質問に対する回答点＋翻訳点） ③平常点：10 点（受講態度等） なお、出席率が 70%未満の場合は、春学期末試験の受験資格を喪失するものとします。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国書講読B【使用言語：英語】	
担当者		多田 稔	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 前年度に引き続き Aravind Yelery 氏による『between state capitalism and economic statecraft China INC』を使用します。本書は国家資本主義体制としての中国において、国有企業の果たすその役割および内部の矛盾を解き明かす内容となっています。本講義においては、その中でも国家資本主義体制としての中国および国有企業の系譜を扱った章を講読していきます。 アジアにおける移行国は中国およびベトナムがその代表国ということになりますが、いずれも旧体制となりつつある社会主義体制下での様々なシステムをある意味“スターター”として活用することで目覚ましい経済発展を実現し、世界経済にあって米国に対峙する大国としての地位を獲得するに至っています。 本講義では、アジア移行国の代表たる中国について、その移行過程たる“改革・開放”政策、とりわけ株式制を中心とする国有企業改革を経てもなお、同国の経済発展において主要な役割を担い続ける同企業の存在意義を主たる課題として考えていきます。 (到達目標) 上記テキストの講読を通して語学力の向上を図ると同時に、アジア移行国の代表としての中国に対する見識を深め、経営学の研究能力向上に資することをその目的とします。			
2. 授業内容 講義は前週に予習箇所を指定の上、毎回ランダムに指名して音読、翻訳をして頂きます（下記カリキュラム参照）。その際、担当箇所から専門用語あるいは関連事項についての質問をします。その後、翻訳の修正、担当箇所の内容および関連事項についての解説、という流れで進めていきます。 第1回：イントロダクション（講義の進め方等） 第2回～第13回：Why Did China Not Collapse (p.30-50) Almanac of China’s State-owned Enterprises (p.51-84) 第14回：講義のまとめ 第15回：期間前試験 なお、音読および翻訳については、受講生指名機会に偏りが発生しないよう配慮します。			
3. 履修上の注意 広く「アジア」、少なくとも「中国」に何かしらの関心を持っている方の受講が望ましい。 補助的に参考資料を翻訳する場合があります。 (準備学習) 中国経済に関する入門書ないしは概説書を一読しておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 講義時に示した全訳および用語解説に関する PPT を振り返り、疑問点等あれば翌週講義時に質問してください。また、講義時はランダムに指名していきますので、翌週範囲については、必ず日本語訳等、予習を行った上で講義に参加してください。			
5. 教科書 Aravind Yelery『between state capitalism and economic statecraft China INC』Pentagon Press LLP、2021 年の原書はわが国でも入手可能ですが、必要箇所のコピーを準備する予定です。			
6. 参考書 『現代中国の経済改革』、呉敬璉 著、青木昌彦、日野正子 訳、NTT 出版 『中国の経済発展と制度変化』、厳成男 著、京都大学出版会 『中国経済学入門』、加藤弘之 著、名古屋大学出版会			
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義受講者全員、次週講義範囲について日本語訳の予習を行った上で講義に参加してください。講義時に予習範囲に関する日本語訳等の解説を進める形でフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 秋学期末に実施する試験、授業時の翻訳点、平常点を加算して 100 点満点とし評価します。それぞれの点数配分は以下の通りです。 ①秋学期末試験：70 点 ②翻訳点：20 点（質問に対する回答点＋翻訳点） ③平常点：10 点（受講態度等） なお、出席率が 70%未満の場合は、秋学期末試験の受験資格を喪失するものとします。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN321E		
科目名		Transcultural Management B		
担当者		NAGAI HIROHISA		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 1. Course Description This course aims to study comprehensive savvy and practical skills in transcultural management for next generation of the global leaders. It focuses on the current issues as well as the future challenges from global manager’ s perspectives. Based on the basic theories and knowledge studied in Transcultural Management (A), this course is intended to develop the student’ s advanced transcultural management skills through activities and exercises. A team interview project will be conducted to study the mindset and competencies are required for the global leaders. 2. Projects and Presentations a. Individual Project: Interview-based Presentation (Midterm Project) As a midterm assignment, students will conduct an individual interview with a real person who has overseas or cross-cultural experience. Students are free to choose the interviewee. Possible interviewees include family members, relatives, acquaintances, seniors, or colleagues, as long as they have actual international or cross-cultural experience. Fictional characters are not permitted. Students will analyze a critical incident related to cross-cultural or global management and present their findings in class. In the following session, the class will engage in a whole-class discussion based on the individual presentations. By comparing multiple cases, students will explore similarities and differences in interpretation, decision-making, communication styles, and underlying assumptions in transcultural management contexts. b. Team Project: Global Companies & Global Talent Development (Final Project) In the final two sessions, students will work in multinational groups to conduct a group project on global talent development in real global companies. Each group will: ・ Select an existing global company. ・ Research and analyze its approach to developing global human resources. ・ Evaluate strengths and challenges from a transcultural management perspective. ・ Connect their analysis with insights gained from the individual interview cases discussed earlier in the course. 2. Objectives of the Course 1. Understand practical managerial skills required for future global managers. 2. Learn how to conduct interview survey. 3. Experience a process of team building through the team project.				
2. 授業内容 Week1: Course Orientation (Mandatory for Course Credit) Week2: Global Mindset: Understand the differences and complexities among various cultures. Week3: Global Competency: Ability to achieve goals effectively. Week4: Interview Method: How to conduct a successful interview survey Week5: Single-loop learning vs. Double-loop learning for solving cross-cultural issues. Week6: Individual Presentation Week7: Whole Class Discussion Based on Individual Presentaiton Week8: Feedback session to review the progress Week9: Team Formation for Final Presentation Week10: Building Trust and Rapport with International Coworkers Week11: Managing Group Dynamics of Transcultural Team Week12:Coaching to Grow People in Your Team Week13: Team Presentation Week14: Final Class Discussion Based on Team Presentation				
3. 履修上の注意 a. Course Style This course focuses on developing practical, MBA-style business competencies through an interactive and participant-centered learning approach. Rather than traditional lectures, the course emphasizes class discussions, in-class activities, individual and group projects, and presentations. The course is conducted as an international collaborative learning class, bringing together students from diverse cultural and educational backgrounds. Through active engagement in a multinational classroom, students develop essential competencies for cross-cultural communication, collaboration, and managerial decision-making required in global business environments. b. Enrollment Limit				

Due to the interactive and practice-oriented classroom design, enrollment is limited to 36 students (10 Meiji University regular students and 26 exchange students). For exchange students, registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period. c. Attendance Policy Attendance at the first orientation session is mandatory for course credit. Students who are absent from this session without official documentation for unavoidable reasons will have their course registration canceled. As this is a participation-based, experiential course, students are required to attend at least 10 of the 14 sessions to receive course credit. Late arrivals will result in point deductions, reflecting professional standards of time management expected in global business settings.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.
5. 教科書 There is no textbook. Lecture materials will be uploaded on Oh-o! Meiji or handed out in class.
6. 参考書
7. 課題に対するフィードバックの方法 First half of the academic progress will be reviewed at the feedback session. Feedbacks of the other activities and exercises will be either handed out or returned through Oh-o! Meiji.
8. 成績評価の方法 Active Participation in Class Discussion: 60% Individual Presentation: 10% Discussion based on Individual Presentation: 10% Team Presentatio :10% Discussion based on Team Presentation: 10%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国書講読 A 【使用言語：英語】	
担当者		原木 英一	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 本講義では、グローバル・マーケティングに関わる英語の論文・著書を取り扱う。Kotabe, M and Helsen, K. (2020)を中心としつつ、トピックごとに指定する論文・著書（一部）を読み解き、グローバル・マーケティングへの理解を深めることを目的とする。本講義は、生産販売拠点を複数国に配置し規模の経済と現地適応のバランスをはかる多国籍企業で行われているグローバル・マーケティングを対象とする。社会文化・所得水準の異なる各地域の顧客が求める真のニーズを探索し、合致した製品と価値を創造し、なおかつ受け入れられる価格で提供することによりグローバル市場で競争優位を確立するマーケティングの考え方や戦略の展開について教授し、さらに競争優位の持続化に向けて取り組まなければならない課題について考察する。 本講義では、グローバル・マーケティングの基礎について事例を通して学ぶ。近年、企業のグローバル化は一層進展しているものの、海外市場の開拓については多くの課題がある。国内市場の開拓以上に困難である海外市場の開拓には、経済発展段階の違いを背景とした所得の違いや、文化が異なることによる消費行動の違い等、差異を踏まえて展開するグローバル・マーケティングの知識が不可欠である。本講義では、グローバル・マーケティングの基本的な概念や理論、現状を学修する。 (到達目標) グローバル・マーケティングの基本的な概念や理論を英語の文献（原典）から理解すること。そして具体的な企業の事例からそれを説明することができること。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2-3回：Globalization and National Differences (Economy) 第4-5回：Globalization and National Differences (Culture and Norm) 第6-7回：Global STP 第8-9回：International Market Entry Strategy 第10-11回：Standardization versus Adaptation of International Marketing 第12-13回：Global Brand Strategy 第14回 a：試験 第14回 b：解説 ※受講生の習熟度により内容や進度は変更になる場合がある。			
3. 履修上の注意 ・受講生の報告・発表及びディスカッションを中心として進める（受講生の人数によって方法は変更となる場合がある）。 ・講義を1/3以上欠席しないこと。 ・外国書購読Bとセットで履修することが望まれる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講生は配布した資料の指示した範囲を予め精読し、概要を理解すること。また、不明な点を明確にしておき、学生同士のディスカッションの準備をすること。発表担当者は要点をまとめ、口頭発表の準備を行うこと。 ※まとめる形式はレジュメ、PowerPoint を用いたスライドのいずれも可。			
5. 教科書 必要な箇所は履修者に配布予定。			
6. 参考書 ・Kotabe, M. and Helsen, K. (2020), Global Marketing Management 8th edition, Wiley. ・Leonidou, L. C., Katsikeas, C. S., Samiee, S., and Aykol, B. (Eds.) (2017), Advances in Global Marketing: Research Anthology, Springer. ・Hill, C. W. L. (2022), ISE Interna			
7. 課題に対するフィードバックの方法 平常時のディスカッションに関しては時間内にフィードバックを行い、期末試験については最終授業日に実施し、答案回収後に解説の時間を設ける。			
8. 成績評価の方法 ディスカッションへの貢献度（30%）、翻訳等の発表（30%）、期末試験（40%）を総合的に判断する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国書講読B【使用言語：英語】		
担当者		原木 英一		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 春学期に引き続き、本講義ではグローバル・マーケティングに関わる英語の論文・著書を取り扱う。Kotabe, M and Helsen, K. (2020)を中心としつつ、トピックごとに指定する論文・著書（一部）を読み解き、グローバル・マーケティングへの理解を深めることを目的とする。本講義は、生産販売拠点を複数国に配置し規模の経済と現地適応のバランスをはかる多国籍企業で行われているグローバル・マーケティングを対象とする。社会文化・所得水準の異なる各地域の顧客が求める真のニーズを探索し、合致した製品と価値を創造し、なおかつ受け入れられる価格で提供することによりグローバル市場で競争優位を確立するマーケティングの考え方や戦略の展開について教授し、さらに競争優位の持続化に向けて取り組まなければならない課題について考察する。 本講義では、グローバル・マーケティングの基礎について事例を通して学ぶ。近年、企業のグローバル化は一層進展しているものの、海外市場の開拓については多くの課題がある。国内市場の開拓以上に困難である海外市場の開拓には、経済発展段階の違いを背景とした所得の違いや、文化が異なることによる消費行動の違い等、差異を踏まえて展開するグローバル・マーケティングの知識が不可欠である。本講義では、グローバル・マーケティングの基本的な概念や理論、現状を学修する。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2-3回：Global Marketing and Organization 第4-5回：Global Marketing and Knowledge Transfer / Creation 第6-7回：Global Marketing and Innovation 第8-9回：Marketing in Emerging Countries 第10-11回：Marketing in Base of the Pyramid market 第12-13回：Global Marketing and Information Technology 第14回 a：試験 第14回 b：解説 ※受講生の習熟度により内容や進度は変更になる場合があります。				
3. 履修上の注意 ・受講生の報告・発表及びディスカッションを中心として進める（受講生の人数によって方法は変更となる場合がある）。 ・講義を1/3以上欠席しないこと。 ・「外国書購読A」で学習した内容を前提とするため、セットで履修することが望まれる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講生は配布した資料の指示した範囲を予め精読し、概要を理解すること。また、不明な点を明確にしておき、学生同士のディスカッションの準備をすること。発表担当者は要点をまとめ、口頭発表の準備を行うこと。 ※まとめる形式はレジュメ、PowerPointを用いたスライドのいずれも可。				
5. 教科書 必要な箇所は履修者に配布予定。				
6. 参考書 ・Kotabe, M. and Helsen, K. (2020), Global Marketing Management 8th edition, Wiley. ・Leonidou, L.C., Katsikeas, C.S., Samiee, S., and Aykol, B. (Eds.) (2017), Advances in Global Marketing: Research Anthology, Springer. ・Hill, C. W. L. (2022), ISE Interna				
7. 課題に対するフィードバックの方法 平常時のディスカッションに関しては時間内にフィードバックを行い、期末試験については最終授業日に実施し、答案回収後に解説の時間を設ける。				
8. 成績評価の方法 ディスカッションへの貢献度（30%）、翻訳等の発表（30%）、期末試験（40%）を総合的に判断する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国書講読 A 【使用言語：英語】	
担当者		山下 智佳	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 高齢化などの社会構造の変化によって、近年より困難の度合いを増している社会保障の問題の中から、医療を取り上げます。医療機関は医療費の抑制のため効率的な経営を求められるとともに、ともすると効率性と両立が難しい医療資源の公平な分配や、患者満足度を高めるよう、より手厚いサービス提供の努力が求められていて、大変苦しい立場にあるといえます。本授業では医療産業での経営戦略をテーマとした文献を取り上げ、どのような戦略が必要であるかを考えます。医療機関の経営は医療政策と関わりが深いため、国、政策が異なるとその経営への理解の仕方も異なることになります。そのため、背景となる医療政策を組み立てる基本的な考え方も同時に学習していきます。 （到達目標） テキストの講読を通じて、語学としての英語文献の読解力を身につけます。目標は卒業論文等に英語の文献を活用できる程度です。同時に、内容の理解を通じて、社会政策と企業経営の関係といった、規制産業の経営を考える際に必要な視点を身につけます。			
2. 授業内容 進捗状況や受講生の発言時間などによって調整しますが、以下を基本にテキストの講読とまとめを繰り返しながら進めます。 第1回 a インTRODakション b 担当者の決定と背景知識の解説 第2回～第4回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第5回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第6回～第8回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第9回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第10回～第12回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第13回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第14回 a 試験 b 試験の解説			
3. 履修上の注意 遅刻、欠席が所定回数以上になると期末試験を受験できないことを確認した上で履修して下さい。 医療制度についての基礎知識があるとテキストの理解が格段に深まります。普段から医療等の社会保障に関心を持って臨むようにしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、担当者でなくとも次回以降のテキストの音読、和訳を行ってください。段落ごとに内容を要約すること、疑問点をメモすることを具体的な目標としてください。 復習は、予習でわからなかった部分や誤訳した部分の確認を行ってください。			
5. 教科書 授業開始時に配布します。			
6. 参考書 特にありません。授業中に受講生の関心に合わせて紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 テキストの報告担当者には、事前に報告準備レポートを課題として提出していただきます。授業の報告ではそのレポートをもとに質疑応答を交えたフィードバックを行いながら、テキストを講読していきます。			
8. 成績評価の方法 期末試験 40％、平常点（受講態度、授業への参加度等）30％、課題、発表 30％の割合で総合的に評価します。なお、期末試験の受験には3分の2以上の出席が前提となります。			
9. その他 慣れるまでは発表は緊張を伴います。学習、発表しやすい環境を保てるよう、学生同士で尊重、協力しあうことを望みます。			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		経営学外国語講読B 【使用言語：英語】	
担当者		山下 智佳	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 高齢化などの社会構造の変化によって、近年より困難の度合いを増している社会保障の問題の中から、医療を取り上げます。医療機関は医療費の抑制のため効率的な経営と、同時に医療資源の公平な分配が求められています。そのために、医療機関は単体ではなく、地域内でネットワークを形成することで難しい課題に取り組むことが求められるようになっていきます。本授業ではアメリカでの医療ネットワーク形成の経験について学習し、日本への示唆を考えます。医療機関の経営は医療政策と関わりが深いため、国、政策が異なるとその経営への理解の仕方も異なることになります。そのため、背景となる医療政策を組み立てる基本的な考え方も同時に学習していきます。 (到達目標) テキストの講読を通じて、語学としての英語文献の読解力を身につけます。目標は卒業論文等に英語の文献を活用できる程度です。同時に、内容の理解を通じて、社会政策と企業経営の関係といった、規制産業の経営を考える際に必要な視点を身につけます。			
2. 授業内容 進捗状況や受講生の発言時間などによって調整しますが、以下を基本にテキストの講読とまとめを繰り返しながら進めます。 第1回 a インTRODakション b 担当者の決定と背景知識の解説 第2回～第4回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第5回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第6回～第8回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第9回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第10回～第12回 テキストの講読（和訳の発表）と解説 第13回 a テキストの講読（和訳の発表）と解説 b まとめ 第14回 a 試験 b 試験の解説			
3. 履修上の注意 遅刻、欠席が所定回数以上になると期末試験を受験できないことを確認した上で履修して下さい。 医療制度についての基礎知識があるとテキストの理解が格段に深まります。普段から医療等の社会保障に関心を持って臨むようにしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、担当者でなくとも次回以降のテキストの音読、和訳を行ってください。段落ごとに内容を要約すること、疑問点をメモすることを具体的な目標としてください。 復習は、予習でわからなかった部分や誤訳した部分の確認を行ってください。			
5. 教科書 授業開始時に配布します。			
6. 参考書 特にありません。授業中に受講生の関心に合わせて紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 テキストの報告担当者には、事前に報告準備レポートを課題として提出していただきます。授業の報告ではそのレポートをもとに質疑応答を交えたフィードバックを行いながら、テキストを講読していきます。			
8. 成績評価の方法 期末試験 40％、平常点（受講態度、授業への参加度等）30％、課題、発表 30％の割合で総合的に評価します。なお、期末試験の受験には3分の2以上の出席が前提となります。			
9. その他 慣れるまでは発表は緊張を伴います。学習、発表しやすい環境を保てるよう、学生同士で尊重、協力しあうことを望みます。			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国書講読 A 【使用言語：英語】		
担当者		李 熙明		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 「テーマ」 ラグジュアリーブランド 「授業の概要」 Bain & Company の調査によると、1996 年～2019 年までのラグジュアリー産業の年間平均成長率は 6%に達している。リーマンショックやコロナ禍の影響による一時的な市場規模の減少が見られるものの、その後は急速に回復を果たしている。同社によると、2022 年にはコロナ前と同じ水準に回復すると予測されている。 一方、原材料価格の高騰で、ラグジュアリー産業においても値上げが相次いでいる。Hermes や Chanel などは続々と価格改定されており、多くのブランドの値上率は 10%～25%に達している。ところが強気な値上げでも人気に陰りが見えない。若年層（ミレニアル世代、Z 世代）の支持と購買により、今後のラグジュアリー産業はさらなる成長が見込まれる。 製品の価格が上がり続けているのに、なぜ人気は衰えないのか。本講義ではラグジュアリー・ブランドに関する文献の講読を通じて、「高くても売れる仕組み」を解明していく。 「到達目標」 英語の読解力の向上を目指すと同時に、ラグジュアリー・ブランドのブランド戦略に対する理解を深めていくことが望ましい。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2～10 回：ラグジュアリー産業の特徴（Chapter 2） 第 10～13 回：主なラグジュアリーセクター（既製服、香水、コスメ、レザーグッズ）（Chapter 3A） 第 14 回：定期試験				
3. 履修上の注意 欠席回数上限などのルールが設けられている。詳細は初回のガイダンスで説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ラグジュアリーブランドやファッションブランドに関心も持っている方の受講が望ましい。				
5. 教科書 こちらでテキストを用意する。				
6. 参考書 必要に応じて授業中に紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回発表した内容に対するフィードバックを行い、関連知識についての解説を行う。				
8. 成績評価の方法 定期試験 50％、授業への貢献度 50％				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		経営学外国書講読B【使用言語：英語】		
担当者		李 熙明		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 「テーマ」 ラグジュアリーブランド 「授業の概要」 Bain & Company の調査によると、1996 年～2019 年までのラグジュアリー産業の年間平均成長率は 6%に達している。リーマンショックやコロナ禍の影響による一時的な市場規模の減少が見られるものの、その後は急速に回復を果たしている。同社によると、2022 年にはコロナ前と同じ水準に回復すると予測されている。 一方、原材料価格の高騰で、ラグジュアリー産業においても値上げが相次いでいる。Hermes や Chanel などは続々と価格改定されており、多くのブランドの値上率は 10%～25%に達している。ところが強気な値上げでも人気に陰りが見えない。若年層（ミレニアル世代、Z 世代）の支持と購買により、今後のラグジュアリー産業はさらなる成長が見込まれる。 製品の価格が上がり続けているのに、なぜ人気は衰えないのか。本講義ではラグジュアリー・ブランドに関する文献の講読を通じて、「高くても売れる仕組み」を解明していく。 「到達目標」 英語の読解力の向上を目指すと同時に、ラグジュアリー・ブランドのブランド戦略に対する理解を深めていくことが望ましい。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2～9 回：主なラグジュアリーセクター（既製服、香水、コスメ、レザーグッズ）(Chapter 3A) 第 10～13 回：ラグジュアリーブランドの消費者 (Chapter 4) 第 14 回：定期試験				
3. 履修上の注意 欠席回数上限などのルールが設けられている。詳細は初回のガイダンスで説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ラグジュアリーブランドやファッションブランドに関心も持っている方の受講が望ましい。				
5. 教科書 こちらでテキストを用意する。				
6. 参考書 必要に応じて授業中に紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回発表した内容に対するフィードバックを行い、関連知識についての解説を行う。				
8. 成績評価の方法 定期試験 50％、授業への貢献度 50％				
9. その他 特になし。				

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN991J	
科目名		経営学特別講義 A	
担当者		金野 索一	
2 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 テーマ： AI 革命 / Web3.0 時代の起業戦略 (概要) 今やビジネスにおける AI・IT 革命とは、IT 産業だけではなく、全ての産業・業種に及ぶ「××業種と AI・IT」＝「DX (デジタルトランスフォーメーション) 革命」のことである。パーソナルコンピュータが登場して 50 年以上、インターネットが普及を始めて 30 年以上、そして ChatGPT 等の生成 AI が登場して 3 年以上、AI・IT というツールを的確に使いこなさずして、ビジネスの隆盛は成し得ず、ブロックチェーン技術やビッグデータ等のキーワードを知っていても、起業や経営にどのように活かすかの知見なくして、企業のイノベーションや自身のビジネス・キャリアの深化は困難である。そして今、世界は、AI 革命本番となり、Web3.0 時代を迎えている。本科目は、現代のビジネスに不可欠な、業種、職種の枠を超えて、ビジネスセクター全体の“最新の AI・IT ビジネス原理と先端戦略の視点・ノウハウ＝”デジタルトランスフォーメーション (DX) と AI”を俯瞰し、体系化したものを学ぶ。そして、自身の目の前の就活やキャリア、仕事の創造や戦略の明確化を図り、AI・IT を駆使した事業イノベーションを実現できる理論と実践の知見を獲得する。 (到達目標) 新規事業創出で拓く自己キャリアの新たな地平～AI・IT を活用したビジネスの新規事業をプランニングし、最終的にその事業計画の提案を行い、その結果によっては、実際の起業に繋げる。まさに、日本の AI 革命と Web3.0 における最先端の理論と実践を往来し、自分自身のイノベーションを推進することを到達目標とする。なお、先端ビジネス分野は、既知のものがすぐに陳腐化してしまう高速変化が常であるので、最先端の学びのために、このシラバスの内容を一部変更して、実際の講義を行うことがあるので、了承いただきたい。			
2. 授業内容 第 1 回：AI 前提の社会とビジネス原理とは何か 第 2 回：新規事業、デジタルトランスフォーメーション、アントレプレナーシップ、Web3.0 その本質 第 3 回：AI・IT を活用した新規ビジネス事業計画をつくる 第 4 回：インターネットソリューション基本類型・原理 第 5 回：先端技術学習 I 人工知能、ブロックチェーン技術 第 6 回：先端技術学習 II ドローン、ロボティクス、メタバース 第 7 回：生成 AI、Web3.0 とは何か 第 8 回：X-Tech Timemachine (クロステック・タイムマシン) I 第 9 回：X-Tech Timemachine (クロステック・タイムマシン) II 第 10 回：事業計画案中間指導 第 1 回 第 11 回：事業計画案中間指導 第 2 回 第 12 回：破壊的な世界・日本の最先端スタートアップ企業のケーススタディ 第 13 回：新規事業計画 最終プレゼンテーション 第 1 回 第 14 回：新規事業計画 最終プレゼンテーション 第 2 回			
3. 履修上の注意 ノート PC を持参してください。(※お持ちでない方は、タブレット、スマホを持参してください。)			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自分自身が実現したい新規ビジネスを構想し、その市場や競合をリサーチすること			
5. 教科書 1)『普通の君でも起業できる』大前研一とアタッカーズビジネススクール（編著：金野索一）（ダイヤモンド社）購入は任意とする。購入を希望しない者は、必要内容を資料にて配布する。			
6. 参考書 ①『課題解決の新技術』炭谷俊樹（PHP） ②WEB「Forbes Japan」連載『テックで資本主義をアップデートする』（金野索一著） https://forbesjapan.com/author/detail/1810 ③WEB 日経 IT プロ連載『出でよ！Peace Tech イノベーター』（金野索一著/日経 BP 社） https://tech.nikkeibp.co.jp/it/atcl/column/17/030200062/ ④WEB 日経ビジネス・カンパネラ連載『トライセクター・リーダーの時代』			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 最後に提出する新規事業計画 50%、各自 1 回担当する講義テーマリサーチ 25%、授業への参加度 25%			

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN991J	
科目名		経営学特別講義B	
担当者		岡田 浩一	
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：中小企業支援と実践 (概要) 本講座は、中小企業診断士の資格をもつ明治大学卒業生によって組織される「中小企業診断士紫紺会」の協力によって実施する講座です。 日常的に中小企業に接し、中小企業の経営支援を実践している中小企業診断士によるオムニバス形式で、特にポイントとなるテーマをピックアップして事例を交えた実践的講義をおこなっていきます。 (到達目標) 中小企業診断士制度の概要や、中小企業診断士の活動を知ることによって、変化する経営環境のもとで常に厳しい経営を迫られている中小企業にたいする支援の在り方を学んでいきます。そのうえで、中小企業診断士の資格に関心をもった学生にたいして資格取得に向けてアドバイスもしていきます。			
2. 授業内容 以下の順で、それぞれのテーマを特に専門として活躍している中小企業診断士の先生による授業をおこないます。 第1回 本講義全体の説明 経営学部教授 岡田 浩一 第2回 中小企業診断士の意義について KCG コンサルティング(株) 代表取締役 柳 義久 第3回 中小企業の経営理念と経営戦略について 中郡久雄中小企業診断事務所代表 中郡 久雄 第4回 中小企業の事業計画書とその支援について 東京商工会議所文京支部 専門相談員 小暮 美喜 第5回 中小企業デジタル化相談の事例紹介 東京都よろず支援拠点コーディネータ 土田 哲 第6回 製造業の運営管理について 創発研究所代表 加藤 茂 第7回 流通業の運営管理について (株)トーハン経理部マネージャー 三上 友美恵 第8回 サービス業の運営管理について (株)アミューゼクスアライアンス 代表取締役 田守 順 第9回 中小企業のデジタルマーケティング 株アイコンテンツ 代表取締役 吉野 太佳子 第10回 中小企業の海外進出について 三好グローバル・コンサルティング代表 三好康司 第11回 創業と事業承継について 関口経営コンサルタント事務所 代表 関口 恒 第12回 中小企業の組織・人事について 中小企業診断士、社会保険労務士事務所代表 星 昌宏 第13回 中小企業施策と地域商店街支援について (株)エリア・パブリック・コンサルティング 代表取締役 鵜頭 誠 第14回 本講義全体のまとめ 経営学部教授 岡田 浩一			
3. 履修上の注意 日常的に中小企業経営や中小企業支援に興味関心を持ち、新聞や経済雑誌はもとより、経済産業省、中小企業庁、各種行政機関から提供される中小企業支援施策の情報を自ら収集しておくようにしてください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 『中小企業白書』に目を通しておいください。経済産業省、中小企業庁など行政機関の中小企業政策の情報を常に注意しておくようにしておくことを勧めます。			
5. 教科書 指定教科書はありません。 毎回、講師が作成した講義資料を提供します。			
6. 参考書 当該年版の『中小企業白書』 そのほか、各講師が随時紹介します			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対しての解説などは、主に Oh-o! Meiji を使って通知します。			
8. 成績評価の方法 授業への参加度とレポート評価での評価とします。 授業参加度 60％（第2回～第13回の講義で出席をとります。第1回と第14回は出席はとりません。） レポート評価 40％（第2回～第13回の講義でレポート課題が課されます。第1回と第14回はレポート課題はありません。）			
9. その他 特になし			

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN991J	
科目名		経営学特別講義 D	
担当者		宮田 憲一	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 [b]□大同生命保険株式会社寄付講座 スタートアップ起業家育成講座 2 (M-SET 2) □講義テーマ：「スタートアップ経営のメカニズムを体験する」[/b] <概要> 今、活力ある「新しい企業」が求められている。21 世紀に入り 20 年あまりが経過する中で、地球環境、日常生活、そして人々の意識が大きく変化し、持続可能な新たな社会の形や経済のあり方が模索されている。その実現や課題解決には、様々なイノベーションや新しいビジネスモデルが必要であり、それを牽引する存在として新たな価値観や考え方をもったアントレプレナー（起業家）によって創業される「新しい企業」に再び大きな注目が集まっている。それでは、どうすれば「自分のアイデア」を事業化して「新しい企業」を起業し、あるいは継承した事業を「新しい企業」として再起業と位置づけて、スタートアップ企業として経営していけばよいのだろうか。 本講義は、「基礎専門特別講義：起業のメカニズムを体験する（和泉キャンパス）」の続編となる講義となる。「起業のメカニズム」では「どのようにすれば起業できるのか？」というテーマのもとで実際の起業プロセスを疑似体験してもらい、起業の仕組みや会社の作り方について実践的に学んでもらった。本講義では、学術コーディネーターである担当講師（宮田憲一）に加えて、引き続き、実務コーディネーターとして川野正雄氏（東京コンテンツインキュベーションセンター／TCIC）のご協力を仰ぎ、現役の起業家、投資家、アクセラレーター等スタートアップ業界の豊富な実務経験をもつゲスト講師の方々を迎えながら、「起業」プロセスをより実践的に学んでいく。「起業後どう事業を経営すればよいのか？」という起業後の「スタートアップ経営」プロセスを学んでいく。具体的には、起業時のスキームから起業後の戦略、ナレッジなどを学びながら、実践的なプログラムも盛り込み、起業後の成長過程と課題を学ぶプログラムとなる。 大学にしながら、本格的なスタートアップ経営の考え方を実践的に学べる貴重な講義内容となっている。在学中に起業を考えている学生、明治ビジネスチャレンジに応募を考えている学生に加えて、卒業後一度就職したあとの選択肢を増やしたい学生、キャリア選択として起業を検討している学生、またビジネスのスキルやプレゼン能力を学びたい学生にも絶好の機会として活用してもらいたい。 <到達目標> ・起業後に直面する経営的課題への対応に必要な実践的な知識・技能を身につける。 ・これまで得た知識を活かして、それらをスタートアップ経営との関係から応用する能力を養う。 ・事業設計書、会社登記書類・定款の作り方など起業に関わるビジネススキルを理解する。			
2. 授業内容 【マインドセット】 第 01 回：「Program オリエンテーション：スタートアップ経営とは？」 □ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 第 02 回：「スタートアップ経営の実践①：マネジメント視点からの起業」 □ゲスト講師：株式会社ノーヴォ 代表取締役 宇田英男氏 第 03 回：「スタートアップ経営の実践②：起業からピボット展開まで」 □ゲスト講師：株式会社リフカム 代表取締役 清水巧氏（明大 OB） 【ビジネスモデルの構築】 第 04 回：「事業設計の考え方」 第 05 回：「事業設計を策定する」 □ゲスト講師：株式会社ツクリエ 代表取締役 鈴木英樹氏 【会社設計、資金調達、マーケティングのマネジメント】 第 06 回：「起業時の会社設計と定款の策定」 □ゲスト講師：合同事務所ジュリスター・インターナショナル 司法書士 山北悠介氏 第 07 回：「スタートアップの資金調達：デットとエクイティ、公的融資」 □ゲスト講師：日本政策金融公庫 上席所長代理／情報経営イノベーション専門職大学 客員教授 佐藤俊太氏 第 08 回：「起業のゴール設計：上場とパイアウト」 □ゲスト講師：松竹ベンチャーズ株式会社 取締役常務執行役員 森川朋彦氏 第 09 回：「ブランディングと市場：マーケティング視点から見る成長戦略」 □ゲスト講師：株式会社サニーサイドアップ 代表取締役社長 リュウ・シーチャウ氏 【IP、ヒト、法務、会計のマネジメント】 第 10 回：「スタートアップの IP 戦略：知財管理の視点から見る成長戦略」 □ゲスト講師：ボングゥー特許商標事務所 弁理士 堀越総明氏			

第 11 回：「組織運営と HR：人材マネジメントから見る経営戦略」 □ゲスト講師：バレットグループ株式会社 取締役 CHRO 後藤衛氏 第 12 回：「契約とリスクマネジメント：法務から見る経営」 □ゲスト講師：奥野総合法律事務所 弁護士 小林明日香氏 第 13 回：「決算や会計管理を知る：数値から見る経営指標」 □ゲスト講師：アクタス税理士法人 税理士 鈴木佑介氏 第 14 回：「スタートアップ経営について総括：事業設計の提出」 □ゲスト：大同生命保険株式会社代表者の方 ※毎回の授業は、実務コーディネーターや学術コーディネーターによって進行していきます。
3. 履修上の注意 ・本講義は、「基礎専門特別講義：起業のメカニズムを体験する」の単位を取得し、起業に興味関心がある 3, 4 年生の履修を推奨する。 ・履修登録期間中（4 月初旬）に、事前にオンライン課題を提出してもらうため、クラスウェブの情報を適宜確認すること。 ・履修希望者が多数に上った場合は、上記科目の単位取得の有無、事前提出課題の内容、ビジネスチャレンジの参加経験、起業への熱意などの基準から、履修者を選抜する。 ・本講義は、その性格から、履修者の積極的かつ主体的な授業への取り組みが求められるため、その点を理解して履修すること。 ・初回の講義に出席し、詳しい授業内容や受講のルールについて確認すること。 ・ゲスト講師による講義や課題発表などを頻繁に実施するため、遅刻は特別な事情がない限り認めない。
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 □予習（3 時間） ・ビジネスモデルや事業設計に関する課題がある際は、授業での配布資料だけでなく、参考書などを読み、また自分のビジネスアイデアに関連する情報をできるだけ調査し、受講の準備をすること。 □復習（2 時間） ・ゲスト講師の回では、それまでの授業で学んだことと、実際の話がどのようにつながるのかについて、ノートを作成しながら再確認してもらいたい。
5. 教科書 教科書は特に指定せず、適宜資料を配布する。
6. 参考書 『中小企業・スタートアップを読み解く』加藤厚海ほか著（有斐閣）、2023 年。 『起業の失敗大全』トム・アイゼンマン著（ダイヤモンド社）、2022 年。 『イノベーション』清水洋著（有斐閣）、2022 年。
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中でのコメントおよびクラスウェブを通じたフィードバックをおこなう。
8. 成績評価の方法 授業への貢献度 30%，各発表（プレゼン）30%，成果物（事業設計書）40%により評価する。
9. その他 □経営学部に限らず、全学部 3・4 年生で起業に興味がある学生、明治ビジネスチャレンジに応募を考えている明大生の履修を歓迎する。 □社会的状況により対面授業の実施が困難になった場合は、対面授業をリアルタイム配信に変更しての実施を予定している。その際は、Oh-o! Meiji のお知らせ機能から連絡するため、確認を忘れないように注意すること（転送設定を推奨）。 □関連科目としては次のようなものがある。経営学特別講義 B「中小企業支援と実践」では経営支援者側について学ぶことができる。また、経営学部 3・4 年次履修で

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN991E		
科目名		Special Lectures on Business MGT C		
担当者		NAGAI HIROHISA		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
Topic: Organizational Behavior to Manage People				
This course is designed to develop practical, MBA-style business skills.				
Rather than a traditional lecture-based format, it adopts an interactive, participant-centered, active learning approach, including class discussions, in-class activities, individual and group projects, and presentations.				
Organizational Behavior (OB) is a field of study that investigates the dynamics of interactions among individuals, groups, and structures within an organization. The purpose of this course is to acquire essential knowledge in OB to benefit both individuals (e.g., leadership, motivation, performance management) and organizations (e.g., group dynamics, organizational culture), and to prepare students to become future global leaders.				
Objectives of the course				
Acquire essential theories in organizational behavior.				
Develop practical knowledge and skills for future managerial roles.				
Enhance interpersonal and communication skills within organizational settings.				
Team Project				
Students will conduct two team project presentations (with different members) that applies the theories learned in class to real-world situations. Students will form teams, identify an organizational behavior issue in their surroundings, perform a theoretical analysis, and propose solutions.				
Midterm Presentation (20%)				
Topic: Cross-Cultural Comparison of Managerial Behavior				
Compare managerial behavior between your country and your partner' s country, and discuss implications for business collaboration.				
In the midterm presentation, students work in pairs composed of members from different cultural backgrounds. Each student interviews one real manager in their own cultural context (face-to-face or online) and identifies a managerial behavior issue using concepts studied in class.				
Each pair compares the two cases and examines how cultural context influences managerial behavior, communication style, decision-making, and leadership.				
The presentation focuses on identifying key differences, business challenges, and potential benefits in cross-cultural collaboration.				
The purpose of the midterm presentation is to assess students' ability to:				
Apply OB theories to real managerial situations Identify behavioral problems at the individual level Analyze cultural influences on leadership behavior Compare similarities and differences across contexts Propose evidence-based managerial improvements				
Presentation Format:				
Two managerial cases (one per student) Theoretical diagnosis using at least two OB concepts Cross-cultural comparison Managerial implications				
Evaluation Criteria:				
Clarity of problem identification Accuracy and depth of theoretical application Logical analysis of cultural influence Practical relevance of managerial recommendations Professional delivery and response to questions				
Final Presentation (20%)				
Topic: Global New Venture Team Design				
In the final presentation, students will form multicultural teams that ensure national diversity within each group.				
Each team will imagine that they are launching a new global business venture.				
The specific business field can be freely chosen and briefly introduced.				
Based on Organizational Behavior (OB) concepts, the team will:				
Analyze the leadership characteristics of each member in their own cultural context Design appropriate role assignments for the team Identify potential cross-cultural challenges Propose an effective management structure for operating as a global team				

The focus is not on the business idea itself, but on how to design and manage a multicultural team effectively.

Presentation Structure

1. Individual cultural leadership profile (each member speaks)
2. Brief introduction of the new business field
3. Role design and team structure based on OB concepts
4. Identification of possible behavioral or cultural challenges
5. Proposal of an adaptive global management strategy

2. 授業内容

Week 1

Introduction to Organizational Behavior (Mandatory for Course Credit)

- Definition and scope of Organizational Behavior at individual, group, and organizational levels
- Importance of OB for future global managers
- Course structure, expectations, and assessment overview

Students are required to submit a Student Information Sheet with a photo in Week 1 to facilitate effective course management. The photo will be used solely for identification and course management purposes.

Week 2

Perception and Attribution

- How perception is formed and why interpretations differ
- Attribution theory and common cognitive errors
- Implications of misperception in managerial contexts

Week 3

Personality and Values

- Major personality traits and individual differences
- MBTI personality types as a reflective framework
- Role of personal values in shaping workplace behavior

Week 4

Attitudes and Job Satisfaction

- Formation of work attitudes and job satisfaction
- Relationship between satisfaction, commitment, and performance
- Managerial implications of employee attitudes

Week 5

Emotional Intelligence

- Role of emotions in workplace behavior
- Components of emotional intelligence
- Importance of emotional regulation in leadership and teamwork

Week 6

Individual Decision Making

- Rational decision-making model
- Cognitive biases and decision-making pitfalls
- Managerial responsibility in improving decision quality

Week 7

Motivation

- Major motivation theories and their managerial application
- Intrinsic and extrinsic drivers of performance
- Cultural considerations in motivating employees

Week 8

Feedback Session (Midterm Preparation)

Students will receive individual feedback on their midterm progress through one-on-one consultation sessions. During the remaining time, students will prepare for the upcoming midterm presentation.

Week 9

Midterm Presentation

Students will work in multicultural teams to analyze leadership behavior using Organizational Behavior (OB) concepts.

Week 10

Work Teams

- Characteristics of effective teams
- Team roles and group development stages
- Behavioral challenges in team environments

Week 11

Communication

- Communication process and common barriers
- Interpersonal and organizational communication dynamics
- Cross-cultural communication considerations

Week 12

Leadership

- Major leadership theories and styles

- Contextual and cultural influences on leadership effectiveness - Leadership adaptation in global environments Week 13 Power and Politics - Sources of power in organizations - Organizational politics and influence strategies - Managerial navigation of power dynamics Week 14 Final Group Presentation - Integration of OB concepts across levels - Comparative analysis of national leadership characteristics - Design of an effective management style for a multicultural team
3. 履修上の注意 a. Enrollment Limit Due to the interactive course style and the use of an active learning classroom, enrollment is limited to 36 students (10 Meiji University regular students and 26 exchange students). For exchange students registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period. b. Attendance Policy Attendance at the first orientation session is mandatory for all students. Absences due to unavoidable and legitimate reasons will be considered only if official supporting documentation is submitted. Students who are absent from the first orientation session without such documentation will have their course registration canceled. As this is an experiential and participation-based course, students are required to attend at least 10 out of 14 classes (approximately 70%), including the orientation session to earn course credit. In addition, from the perspective of professional time management, late arrivals will result in point deductions. For reference, leading international business schools such as Harvard Business School, Stanford Graduate School of Business, INSEAD, and London Business School generally require an attendance policy of a minimum of 80-90% for course credit.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. All assignments should be submitted through the designated sections on Oh-o! Meiji.
5. 教科書 There is no textbook for this course. Lecture materials will be uploaded to Oh-o! Meiji or distributed in class.
6. 参考書
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback on other activities and exercises will be provided either in class or via Oh-o! Meiji.
8. 成績評価の方法 Individual active participation and engagement: 60% Midterm team presentation: 20% Final team presentation: 20%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN991E	
科目名		Special Lectures on Business MGT D	
担当者		NAGAI HIROHISA	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Course Description This course is designed provide the essential knowledge and skills necessary to manage team and people as the future professional manager. You'll experience various active training methods to become a skilled manager through hands-on activities including as follows. a. Skit project Teams will use drama, a popular method in U.S. business education, to work on real HR challenges. Your team will create scenarios, suggest solutions, film a video, and present product in class. You'll also individually develop your professional skills as future global manager. b. Elevator Pitch A great way to quickly introduce yourself in business or social situations. It helps people effectively communicate their strengths and value, capturing interest in short interactions like networking or professional opportunities. c. Impromptu Speech Improves the ability to respond to unexpected situations or topics in conversations. This skill builds flexibility and immediate communication skills, increasing confidence in different situations like work, academics, and social interactions."			
2. 授業内容 Week 1: Course Orientation (Mandatory for Course Credit) Introduction to the course objectives, learning methods, assessment criteria, and expectations for professional behavior. Week 2: RIASEC to Plan Your Future Career Self-assessment using the RIASEC model to explore career interests and identify potential career directions. Week 3: Career Anchors to Identify Abilities, Talents, and Motives Analysis of personal values, strengths, and motivations using the Career Anchor framework. Week 4: Leadership Styles Understanding different leadership styles and examining how they influence team performance and decision-making. Week 5: “Wheel of Life” to Plan Work-Life Balance (WLB) Reflection on life priorities and designing a balanced approach to work and personal life as a professional manager. Week 6: Building Good Working Relationships Developing practical skills for trust-building, communication, and effective collaboration in organizations. Week 7: Interim Feedback Mid-course reflection and feedback on learning progress, participation, and professional development. Week 8: Skit Project Presentation Team presentations of recorded skits illustrating organizational behavior issues and managerial solutions. Week 9: Business Communication for Managers Practicing clear, concise, and professional communication in managerial and workplace contexts. Week 10: Elevator Pitch Designing and delivering a short, persuasive self-presentation for professional situations. Week 11: Impromptu Speech Developing confidence and structure in spontaneous speaking as required in real business settings. Week 12: Introduction to Business Model You Learning the Business Model You framework and its application to personal career design. Week 13: Business Model You (Presentation) Individual presentations of personal career models using the Business Model You framework. Week 14: Business Model You (Panel Discussion) Panel-style discussion in which students exchange feedback and ideas to refine their career models.			
3. 履修上の注意 a. Course Style This course is designed to develop practical competencies required of professional managers in global business environments. The emphasis is on managerial thinking, decision-making, communication, and collaboration, rather than theoretical knowledge alone. Rather than a traditional lecture-based format, the course adopts an interactive, participant-centered active learning approach, including class discussions, in-class exercises, individual and group projects, case-based analysis, and presentations. b. Enrollment Limit			

Due to the interactive and practice-oriented course style and the use of an active learning classroom, enrollment is limited to 36 students (10 Meiji University regular students and 26 exchange students). For exchange students, registration will be accepted on a first-come, first-served basis during the designated registration period. c. Attendance Policy Attendance at the first orientation session is mandatory for all students. Students who are absent from the orientation session without unavoidable and legitimate reasons supported by official documentation will have their course registration canceled. As this is a practice-oriented, participation-based course designed to cultivate professional managers, students are required to attend at least 10 out of 14 classes (approximately 70%), including the orientation session, in order to earn course credit. Exceptions may be considered only in cases of valid reasons accompanied by appropriate official documentation. In addition, from the perspective of professional conduct and time management expected of managers, late arrivals will result in point deductions.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Reading and other assignments will be announced in class. Assignments should be submitted to the designated sections on Oh-o! Meiji.
5. 教科書 There is no textbook for this course. Lecture materials will be uploaded to Oh-o! Meiji or distributed in class.
6. 参考書
7. 課題に対するフィードバックの方法 First half of the academic progress will be reviewed at the feedback session. Feedbacks of the other activities and exercises will be either handed out or returned through Oh-o! Meiji.
8. 成績評価の方法 Grading Policy (Assessment Criteria) Grades will be determined based on continuous performance, professional engagement, and practical outputs, rather than written examinations. Students are evaluated as future professional managers. 1. Class Participation & Engagement:30% Active and consistent participation in class discussions, activities, and exercises throughout the course, including: Contribution to discussions and group work Professional attitude (preparation, punctuality, respect for others) Engagement in peer feedback and collaborative learning 2. Skit Project Presentation:20% Assessment of the Skit Project (Week 8), focusing on: Application of leadership, communication, and relationship-building concepts Clarity of message and practical relevance Team collaboration and delivery as professional managers 3. Individual Performance Tasks:25% Evaluation of individual practical performances conducted during the course, such as: Elevator Pitch Impromptu Speech Business communication exercises Assessment focuses on clarity, persuasiveness, structure, and professionalism. 4. Business Model You (BMY) Project:25% Comprehensive evaluation of the Business Model You project, including: a. Individual Presentation (Week 13) - Logical structure, self-analysis, and feasibility of the proposed career model b. Group Discussion Contribution (Week 14) - Ability to reflect on one's own model and provide constructive input to others This project serves as the capstone assignment, integrating learning from the entire course.
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN556E	
科目名		Information Ethics A〔M〕 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）	
担当者		ADAMS, ANDREW	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Information ethics is the study of the social impact of information flow enabled by technological computer and communication devices. A brief overview of ethical approaches will be given, together with studies of some of the key thinkers on these issues: Zittrain, Lessig, Castells, Bynum and Rogerson, Wiener. This is one of two modules on this issue which together provide a broad and deep examination of the subject.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information Ethics 2 : Ethical Theory for Information Ethics 3 : Copyfights 4 : Information Wants to be Free, People Want to be Paid 5 : Data Formats 6 : Digital Education 7 : Freedom of Expression 8 : Freedom to Tinker 9 : Freedom of Information 10 : Unwanted Electronic Attentions I: Spam 11 : Unwanted Electronic Attentions II: Harassment 12 : Unwanted Electronic Attentions III: Fraud in the Digital World 13 : Science Fiction and Information Ethics From 1984 to Ghost in the Shell 14 : Conclusions			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 Pandora's Box: Social and professional Issues of the Information Age. Andrew A. Adams and Rachel J. McCrindle.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			

8. 成績評価の方法

90%: S 80%: A 70%: B 60%: C Below 59%: Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN556E	
科目名		Information Ethics B〔M〕 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）	
担当者		ADAMS, ANDREW	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Information ethics is the study of the social impact of information flow enabled by technological computer and communication devices. A brief overview of ethical approaches will be given, together with studies of some of the key thinkers on these issues: Zittrain, Lessig, Castells, Bynum and Rogerson, Wiener. This is one of two modules on this issue which together provide a broad and deep examination of the subject.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information Ethics 2 : Ethical Theory for Information Ethics 3 : Privacy and Data Protection 4 : DNA 5 : Digital Health 6 : Information, Sex and Technology 7 : Online Crime 8 : Cyber-Warfare 9 : Artificial Intelligence 10 : (Anti-)Social Media 11 : Digital Entertainment 12 : Working in the Wired World 13 : Living in a Networked World 14 : Conclusions			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 Pandora's Box: Social and Professional Issues of the Information Age. Andrew A. Adams and Rachel J. McCrindle.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			

8. 成績評価の方法
90%: S 80%: A 70%: B 60%: C Below 59%: Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Reports (2): 50%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA) MAN556E		
科目名		Information Science A [M] 大学院経営学研究科共同設置科目 (GSBA)		
担当者		ADAMS, ANDREW		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 The Knowledge Economy is a key element of modern business. Information processing is the core technology which underpins the knowledge economy. Key concepts of information processing as part of a modern business will be presented in this course, together with links to the work of key thinkers in the role of information and knowledge in modern businesses. This is one of two courses which may be taken independently, but which together will add up to a broad understanding of the role of information and information technology in business. In this course the focus is on information within the organisation and the links between information technology, organisational structures and internal business processes. The lectures are arranged into three themes: Technology, Security, People.				
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information, Technology and Business Organisation 2 : Key Ideas: Place, Network, Interaction, Leverage 3 : Technology 1: Database Theory 4 : Technology 2: Information, Data, Knowledge 5 : Technology 3: Knowledge Management Theory 6 : Security 1: Information Security Concepts 7 : Security 2: Internal Information Security Policies 8 : People 1: Data Protection 9 : People 2: The Individual and the Role 10 : Security 3: Communication Technology and Strategy 11 : Technology 4: Communication Tools 12 : People 3: International Team-Working 13 : Principles of HCI Design 14 : Mobile HCI Design				
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.				
5. 教科書 See the module handout for a list of reference materials for each session.				
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.				

8. 成績評価の方法

90%: S 80%: A 70%: B 60%: C Below 59%: Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN556E	
科目名		Information Science B〔M〕 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）	
担当者		ADAMS, ANDREW	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 The Knowledge Economy is a key element of modern business. Information processing is the core technology which underpins the knowledge economy. Key concepts of information processing as part of a modern business will be presented in this course, together with links to the work of key thinkers in the role of information and knowledge in modern businesses. This is one of two courses which may be taken independently, but which together will add up to a broad understanding of the role of information and information technology in business. In this course the focus is on information flows into and out of the organisation, including legal requirements to provide information to regulators, customer and public relations, and inter-organisational information flow. The lectures are arranged into three themes: Technology, Security, People.			
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction: Information, Technology and Business Organisation 2 : Key Ideas: Place, Network, Interaction, Leverage 3 : Technology 1: External Communications: From the Letter to the Web Order 4 : Technology 2: The Internet and the Web 5 : Technology 3: Interfaces 6 : Security 1: Information Security Concepts 7 : Security 2: External Information Security Policies 8 : People 1: Game Theory 9 : People 2: Competition 10 : People 3: Cooperation 11 : Security 3: Mashup Corporations 12 : Security 4: Legal Requirements on Information 13 : Security 5: Social Engineering Tricks and Counter-Measures 14 : Conclusions: The Information Revolution and the Knowledge Economy			
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.			
5. 教科書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.			

8. 成績評価の方法

90%: S 80%: A 70%: B 60%: C Below 59%: Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Reports (2): 50%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／		
科目名		E Commerce A〔M〕 大学院経営学研究科共同設置科目（G S B A）		
担当者		ADAMS, ANDREW		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ECommerce is often represented as a new way of doing business. Commerce has been conducted electronically since the introduction of the telegraph system in the mid-19th century, however. Legal issues such as contracts, regulatory issues such as advertising control, and a broad range of other concepts have all gradually evolved as more and different modes of electronic commerce have become available. In this module, the development and implications of ecommerce involving general customers/consumers is presented, covering both business to customer (B2C) and customer to customer (C2C) ecommerce issues.				
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction to ECommerce 2 : Theories of ECommerce 3 : B2C Basics 4 : Infrastructure 1: Front Ends 5 : Infrastructure 2: Payment Systems 6 : Infrastructure 3: Fulfilment 7 : B2C Etail 8 : B2C Services 9 : Social Platforms and ECommerce 10 : C2C Basics 11 : Infrastructure 4: Reputation 12 : Case Study: Amazon 13 : Case Study: Rakuten 14 : Conclusions				
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week's topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.				
5. 教科書 E-commerce: Business Technology, Society (17th Edition). Laudon Traver. Pearson. 2021				
6. 参考書 See the module handout for a list of reference materials for each session.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email. Written feedback on essays will be provided by email.				

8. 成績評価の方法
90%: S 80%: A 70%: B 60%: C Below 59%: Fail Presentations (2): 50% Post-Presentation Reports (2): 50%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN526E	
科目名		Organizational Behavior A〔M〕 (G S B A)大学院経営学研究科共同設置科目	
担当者		DASSANAYAKE, MUDIYANSELAGE	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 Human behavior in an organization is a critical determinant of a) its profitability, growth, and survival as well as b) performance and holistic well-being of its employees. This micro-Organizational Behavior course aims to provide learning partners (students) with an opportunity to undertake an in-depth examination of individual and group/team behavior in organizations with related concepts, principles, theories, and practices. Furthermore, it builds a platform for these learning partners to appreciate an interdisciplinary behavioral science approach to understanding, predicting, and managing individual and group behavior in organizational settings. Consequently, this appreciation would enable them to view micro-Organizational Behavior as the foundation for managing human resource (human resource management) in an organization. At the end of this course, learning partners will be able to: a) describe concepts of individual and group behavior in organizations b) explain theories of individual and group behavior in organizations c) assemble conceptual and theoretical knowledge to understand a wide array of behavioral phenomena occurring in real world organizations. The learning environment this course will create may require and motivate learning partners to improve mindfully their reading, listening, speaking, and writing skills in English by interacting with others taking the course.			
2. 授業内容 [b]The first class meeting of this course [i]as well as[/i] guest speaking session ([i]tentative[/i]) will be conducted online (by using Zoom Video-conferencing Technology)[/b]. All other 12 sessions will be delivered in person (face-to-face). More details will be announced in the first class meeting. Session 1 The nature of human beings and human behavior in organizations: A cursory glance through fundamentals 1 Session 2 The nature of human beings and human behavior in organizations: A cursory glance through fundamentals 2 Session 3 Individual behavior, personality, and values 1 Session 4 Individual behavior, personality, and values (with role playing) 2 Session 5 Perceiving ourselves and others in organizations Session 6 Workplace emotions, empathy at work, attitudes, and stress Session 7 Case study analysis 1: Oral presentations Session 8 Foundations of employee motivation Session 9 Case study analysis 2: Oral presentations Session 10 Team dynamics Session 11 Communicating in teams and organizations Session 12 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry ([i]tentative[/i]) [b]or [/b]a lecture on a selected (and relevant) topic by the course facilitator ([i]as a[/i] [i]contingency plan[/i]) Session 13 Leadership in organizational settings Session 14 Case study analysis 3: Written assignment and oral presentations (and reflections and course wrap up)			
3. 履修上の注意 There is no pre-requisite course/s. Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. They are welcome to contributing considerably to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings. Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, role playing, chapter reading-based presentations by learning partners, case study analysis and presentations by learning partners, and online guest speaking by a practicing manager from the industry ([i]tentative[/i]) [b]Note[/b]: Chapter reading-based presentations and case study analysis and presentations in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Each learning partner is required to read relevant chapters in the course textbook as a preparatory exercise prior to attending each classroom meeting. Similarly, they are also encouraged to associate themselves with reputable journals (indexed in Social Sciences Citation Index〔SSCI〕) on Organizational Behavior/Organization Studies for understanding current issues of topics covered in this course.			

5. 教科書

[b]Course textbook[/b]:

McShane, S. L., & Von Glinow, M. A. (2021). [i]Organizational behavior: Emerging knowledge. Global reality [/i] (9th ed.). McGraw-Hill Education.

6. 参考書

Nicklin, M. (2024). [i]Empathy at work [/i] (1st ed.). Embassy Book Distributors.

Learning partners are motivated to read other relevant books too (the latest edition available) and journals on Organizational Behavior for broadening and deepening thei

7. 課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning wh

8. 成績評価の方法

- a) Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - b) Case study analysis, [i]i.e. [/i]written assignment and oral presentations—30%
- No final written examination given at the end of the semester

9. その他

Let us learn together about human beings and their behavior in organizations.

Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

This faculty member is reacha

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN526E	
科目名		Strategic Management A [M] 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）	
担当者		DASSANAYAKE, MUDIYANSELAGE	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This course, in the broadest sense, is about analyzing external and internal environments, strategy making, and strategy implementing in organizations operating in a competitive business environment. It aims to provide learning partners (students) with an overview of basic concepts, principles, tools, and related theories needed for understanding the process of analyzing environments for making business strategies and putting them into action. Furthermore, Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity (VUCA) that characterize collectively the nature of broader external environment has compelled business organizations and their strategic leaders to reflect broadly and deeply on what implications that extends for short-, medium-, and long-term profitability, growth, and survival of their organizations. The nature and scale of these implications vary across business organizations, so their resilience depends on, among others, choices these strategic leaders make in strategy formulation and execution. Thus, this course also purports to build a platform for learning partners to discuss and understand issues of managing strategy in business organizations in the context of implications of this “VUCA world”. At the end of this course, learning partners will be able to: a) explain the overall process of how business organizations formulate strategies and execute them b) examine practical issues of strategy formulation and strategy execution in business organizations c) appraise various business situations to visualize appropriate strategies for dealing with them. The learning environment this course will create may require and motivate learning partners to improve persistently their reading, listening, speaking, and writing skills in English by interacting with all others in the class whilst appreciating a friendly and relaxing ambience.			
2. 授業内容 [b]The first class meeting of this course [i]as well as[/i] guest speaking session ([i]tentative[/i]) will be conducted online [/b] [b](by using Zoom Video-conferencing Technology)[/b]. All other 12 sessions will be delivered in person (face-to-face). More details will be announced in the first class meeting. Session 1 What strategic management and the role of strategic leadership are all about: The nature and scope 1 Session 2 What strategic management and the role of strategic leadership are all about: The nature and scope 2 Session 3 External analysis: Industry structure, competitive forces, and strategic groups Session 4 Internal analysis: Resources, capabilities, and core competencies Session 5 Business strategy: Differentiation, cost leadership, innovation, entrepreneurship, and platforms Session 6 Corporate strategy: Vertical integration and diversification 1 Session 7 Corporate strategy: Mergers and acquisitions 2 Session 8 Analysis and presentation of minicase 1 Session 9 Global strategy: Competing around the world Session 10 Analysis and presentation of minicase 2 Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry ([i]tentative[/i]) [b]or [/b]a lecture on a selected (and relevant) topic by the course facilitator ([i]as a contingency plan[/i]) Session 12 Corporate governance and business ethics Session 13 Case (full-length case) study analysis: Written assignment and oral presentations Session 14 Reflections and course wrap up			
3. 履修上の注意 There is no pre-requisite course/s. Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. They are always welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings. Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, chapter reading-based presentations by learning partners, analysis and presentation of minicases (and a full-length case) by learning partners, and online guest speaking by a practicing manager from the industry ([i]tentative[/i]) [b]Note[/b]: Chapter reading-based presentations and analysis and presentation of minicases (and a full-length case) in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.			

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Each learning partner is required to read relevant chapters in the major course textbook as a preparatory exercise prior to attending each classroom meeting.

5. 教科書

[b]Course textbook[/b]:

Rothaermel, F. T. (2021). [i]Strategic management [/i] (5th ed.). McGraw-Hill Education.

[b]Additional reading[/b]:

Hitt, M. A., Ireland, R. D., & Hoskisson, R. E. (2017). [i]Strategic management: Competitiveness & globalization: C

6. 参考書

Learning partners are motivated to read and associate with other relevant books (the latest edition available), journals on Strategic Management, business magazines, and web sites, to name a few, for broadening and deepening their knowledge and understand

7. 課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst

8. 成績評価の方法

a) Active participation and engagement in classroom meetings—70%

b) Case study analysis, [i]i.e. [/i]written assignment and oral presentations—30%

No final written examination given at the end of the semester

9. その他

Let us learn together Strategic Management for developing a bird's-eye view of a business organization.

Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.

Thi

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN526E	
科目名		Strategic Management B〔M〕 大学院経営学研究科共同設置科目（G S B A）	
担当者		DASSANAYAKE, MUDIYANSELAGE	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This is a continuation of Strategic Management A. The aim of this course is to provide learning partners (students) with a learning environment for broadening and deepening their knowledge and understanding of strategy formulation and execution in business organizations functioning in a competitive environment. Predominantly, the emphasis is given to discussing research-based literature, [i]i.e. [/i]journal articles, so learning partners can develop an in-depth understanding of ongoing debates on topics of Strategic Management. The analysis and presentation of minicases and a full-length case will complement this. Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity (VUCA) that characterize collectively the nature of broader external environment has changed the competitive landscape of business organizations and the role carried out by their strategic leaders. Its implications for short-, medium-, and long-term profitability, growth, and survival of these organizations are worth studying in depth. Thus, this course also purports to build a platform for learning partners to discuss and understand issues of managing strategy in organizations in a “VUCA world”. At the end of this course, learning partners will be able to: a) recognize deeply practical issues/phenomena/scenarios of the process of strategy formulation and execution in business organizations b) examine major influences on and challenges of strategy formulation and execution in present day business organizations c) appraise the significance of strategic management as a discipline and practice (that draws upon all functional areas of management) for developing a bird’s-eye view of a business organization. The learning environment of this course will motivate learning partners to interact with each other in the class whilst appreciating a friendly and relaxing ambience.			
2. 授業内容 [b]The first class meeting of this course [i]as well as[/i] guest speaking session ([i]tentative[/i]) will be conducted online [/b] [b](by using Zoom Video-conferencing Technology)[/b]. All other 12 sessions will be delivered in person (face-to-face). More details will be announced in the first class meeting. Session 1 What strategic management and the role of strategic leaders are all about: A cursory glance through fundamentals 1 Session 2 What strategic management and the role of strategic leaders are all about: A cursory glance through fundamentals 2 Session 3 Chapter reading-based discussion on a selected topic 1 Session 4 Chapter reading-based discussion on a selected topic 2 Session 5 Chapter reading-based discussion on a selected topic 3 Session 6 Analysis and presentation of minicase 1 Session 7 Reading and discussing a journal article 1 Session 8 Reading and discussing a journal article 2 Session 9 Chapter reading-based discussion on a selected topic 4 Session 10 Reading and discussing a journal article 3 Session 11 Guest speaking (online) by a practicing manager from the industry ([i]tentative[/i]) [b]or [/b]a lecture on a selected (and relevant) topic by the course facilitator ([i]as a contingency plan[/i]) Session 12 Analysis and presentation of minicase 2 Session 13 Case study (full-length case) analysis: Written assignment and oral presentations Session 14 Reflections and course wrap up			
3. 履修上の注意 There is no pre-requisite course/s. Learning partners could select freely this course, depending on their learning needs and interests. All prospective learning partners are advised to be aware of what is covered in Strategic Management A course offered in the spring semester. They are welcome to contributing significantly to offering this course by participating and engaging actively in classroom meetings. Learning and teaching methods: Short lectures, interactive conversations, chapter reading-based discussions by learning partners, journal article reading-based presentations by learning partners, analysis and presentation of minicases and a full-length case by learning partners, and online guest speaking by a practicing manager from the industry ([i]tentative[/i])			

[b]Note[/b]: Chapter reading-based discussions, journal article-based presentations, and analysis and presentation of minicases and a full-length case in combination offers learning partners considerable opportunities for improving continuously their oral communication and public speaking skills with ambition and passion.

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

Course facilitator (lecturer) will communicate to learning partners during the first classroom meeting itself about minicases, full-length case, and journal articles chosen, so they will be able to prepare proactively themselves for navigating effectively respective discussions and presentations.

5. 教科書

[b]Course textbook[/b]:

Rothaermel, F. T. (2021). [i]Strategic management [/i] (5th ed.). McGraw-Hill Education.

[b]Additional reading[/b]:

Hitt, M. A., Ireland, R. D., & Hoskisson, R. E. (2017). [i]Strategic management: Competitiveness & globalization: C

6. 参考書

Learning partners are motivated to read and associate with other relevant books (the latest edition available), journals on Strategic Management, business magazines, and web sites, to name a few, for broadening and deepening their knowledge and understand

7. 課題に対するフィードバックの方法

Learning partners will be provided with a constructive feedback on their multiple presentations (oral and written) made in the class during the particular class meeting itself. This response intends to positively reinforce their reflective learning whilst

8. 成績評価の方法

- a) Active participation and engagement in classroom meetings—70%
 - b) Case study analysis, [i]i.e. [/i]written assignment and oral presentations—30%
- No final written examination given at the end of the semester

9. その他

Let us learn together Strategic Management for developing a bird's-eye view of a business organization.
Your suggestions and insights are always welcome for improving continuously the quality and the relevance of this course as we progress through.
Thi

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN561E		
科目名		Transnational Management A 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Outline: The globalization of a nation’s socio-economy exerts significant influence on corporations. A prominent characteristics of this phenomenon is the rise in cross-border trade and foreign direct investment. This trend is particularly evident in the recent strategic shift of many corporations. Previously focused on export-oriented, multi-domestic strategies targeting the internationalization of selected divisions, these corporations are now adopting a more globalized approach. This strategy emphasizes establishing profit centers worldwide. The complexity of global competition has increased, driven by the emergence of newly industrialized nations, such as the BRICs, alongside a growing focus on regionalization and regional economic alliances. These developments require corporations to adapt their managerial practices to navigate turbulent global environments effectively. In response to the shifting dynamics of today’s international political economy, Japanese corporations face the imperative to develop international human resources capable of addressing pressing global challenges. In contrast, foreign-affiliated companies in Japan have been recognized for their success in localizing their management practices. This course addresses these emerging challenges and issues in international management. It provides a comprehensive perspective on the subject, with a focus on theories of international management at a level beyond that of undergraduate studies. The course will feature English lectures and student presentations to enhance engagement and understanding. Objectives: Through the use of the English as a medium of instruction, students will develop a comprehensive understanding of globalization, international environments, and their impact on companies operating abroad. This course aims to equip students with the knowledge and skills necessary to navigate the complexities of global business effectively.				
2. 授業内容 Course Outline 1. Introduction ・ 1a. Course Introduction ・ 1b. What is International Management? 2. Globalization ・ 2. Globalization I ・ 3a. Globalization II ・ 3b. Discussion 3. National Differences in Political Economy ・ 4-5. National Differences in Political Economy I ・ 6a. National Differences in Political Economy II ・ 6b. Discussion 4. Political Economy and Economic Development ・ 7. Political Economy and Economic Development I ・ 8a. Political Economy and Economic Development II ・ 8b. Discussion 5. Cultural Differences ・ 9-11. Differences in Culture I ・ 12a. Differences in Culture II ・ 12b. Discussion 6. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability ・ 13. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability I ・ 14. Ethics, Corporate Social Responsibility, and Sustainability II				
3. 履修上の注意 Enrollment Requirements: Students interested in enrolling in this course must attend the first class, which covers the course introduction. A TOEIC score of approximately 730 is recommended for registration.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Delivery:				

The course facilitator (lecturer) intends to deliver this course primarily through face-to-face (in-person) classes. However, all participants are advised to regularly check the class web in the Oh-o! Meiji System for updates regarding any changes in instructional delivery, as mandated by the university for all schools and graduate programs.

5. 教科書

Course Textbook:

International Business: Competing in the Global Marketplace (14th Edition, 2022) by Charles W. L. Hill, McGraw-Hill Education.

・ ISBN-13: 978-1265038540

Students can access this textbook online via the ProQuest Ebook Central platform pro

6. 参考書

Additional Materials:

Supplementary materials will be introduced in class as needed.

7. 課題に対するフィードバックの方法

Communication:

The course facilitator will communicate with students via email regarding class presentations, paper topics, and the evaluation of research papers.

8. 成績評価の方法

Course Evaluation:

Student performance will be assessed based on the following criteria:

1. Oral Presentations (50%)

- ・ Each student will deliver 5 to 6 oral reports on assigned textbook sections throughout the semester.
- ・ Presentations should be accompanied by a brief summary and 2~3 discussion questions.

2. Case Report (50%)

- ・ Submit an English report (A4 size, 8-10 pages, 3200-4000 words). The details will be explained in the class.

9. その他

Engagement and Communication:

Students are encouraged to openly share ideas and insights during classroom discussions and to ask any questions to enhance their understanding of the course content. The course facilitator can be reached at 2025spring.classe

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN561E		
科目名		Transnational Management B 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）		
担当者		SUMI ATSUSHI		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Outline: The globalization of a nation’s socio-economy exerts significant influence on corporations. A prominent characteristic of this phenomenon is the rise in cross-border trade and foreign direct investment. This trend is particularly evident in the recent strategic shift of many corporations. Previously focused on export-oriented, multi-domestic strategies targeting the internationalization of selected divisions, these corporations are now adopting a more globalized approach. This strategy emphasizes establishing profit centers worldwide. The complexity of global competition has increased, driven by the emergence of newly industrialized nations, such as the BRICs, alongside a growing focus on regionalization and regional economic alliances. These developments require corporations to adapt their managerial practices to navigate turbulent global environments effectively. In response to the shifting dynamics of today’s international political economy, Japanese corporations face the imperative to develop international human resources capable of addressing pressing global challenges. In contrast, foreign-affiliated companies in Japan have been recognized for their success in localizing management practices. This course addresses these emerging challenges and issues in international management. It provides a comprehensive perspective on the subject, with a focus on theories of international management at a level beyond that of undergraduate studies. The course will feature English lectures and student presentations to enhance engagement and understanding.Objectives: Using the English language, students will gain a solid understanding of the fundamental theoretical issues in International Business.				
2. 授業内容 Course Outline 1. Introduction ・ 1a. Introduction ・ 1b. What is International Management? 2. Foreign Direct Investment ・ 2. Foreign Direct Investment 3. The Strategy of International Business ・ 3-4. The Strategy of International Business ・ 5a. The Strategy of International Business ・ 5b. Discussion 4. Entering Foreign Markets ・ 6. Entering Foreign Markets ・ 7a. Entering Foreign Markets ・ 7b. Discussion 5. Global Production, Outsourcing, and Logistics ・ 8. Global Production, Outsourcing, and Logistics ・ 9a. Global Production, Outsourcing, and Logistics ・ 9b. Discussion 6. Global Marketing and R&D ・ 10. Global Marketing and R&D 7. Global Human Resource Management ・ 11-12. Global Human Resource Management 8. Individual Presentations ・ 13. Individual Presentation (1) ・ 14. Individual Presentation (2)				
3. 履修上の注意 Enrollment Requirements: Students interested in enrolling in this course must attend the first class, which covers the course introduction. A TOEIC score of approximately 730 is recommended for registration.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Course Delivery:				

The course facilitator (lecturer) intends to deliver this course primarily through face-to-face (in-person) classes. However, all participants are advised to regularly check the Oh-o! Meiji System for updates regarding any changes in instructional delivery, as mandated by the university for all schools and graduate programs.

5. 教科書

Course Textbook:

International Business: Competing in the Global Marketplace (14th Edition, 2022) by Charles W. L. Hill, McGraw-Hill Education.

・ ISBN-13: 978-1265038540

Students can access this textbook online via the ProQuest Ebook Central platform pro

6. 参考書

Additional Materials:

Supplementary materials will be introduced in class as needed.

7. 課題に対するフィードバックの方法

Communication:

The course facilitator will communicate with students via email regarding class presentations, paper topics, and the evaluation of research papers.

8. 成績評価の方法

Course Evaluation:

Student performance will be assessed based on the following criteria:

1. Oral Presentations (50%)

- ・ Each student will deliver 5 to 6 oral reports on assigned textbook sections throughout the semester.
- ・ Presentations should be accompanied by a brief summary and a few discussion questions for the class.

2. Case Report (50%)

- ・ Submit an English report (A4 size, 8-10 pages, 2400-3200 words). The Details to be explained in class.

9. その他

Engagement and Communication:

Students are encouraged to openly share ideas and insights during classroom discussions and to ask any questions to enhance their understanding of the course content. The course facilitator can be reached at 2026classes.sumi@

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN561E	
科目名		Human Resource Management 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）	
担当者		HSU Yu-hsu	
2 単位	Year:3	秋前期	
1. 授業の概要・到達目標 Building upon the fundamental understanding of family business gained in the previous semester, in this module, topics regarding national culture and internationalisation are incorporated into our study of family businesses. Firstly, we explore family businesses in various cultural settings including the US, Europe and Asia. This provides students with opportunities to analyse critically differences and similarities in terms of management styles and practices generated by the national culture amongst those family businesses. Next, we move on to investigate issues in the context of international family businesses. These issues include entry mode strategies, international human resources, organisation structures and control mechanisms between headquarters and overseas affiliates. Case studies and discussion are the main methods utilised in this module. Course ILOs : 1. Understand the essential concepts and theories of multinational family firms. 2. Critically evaluate the challenges faced by multinational family firms. 3. Identify the problems associated with multinational family firms and offer sound advice.			
2. 授業内容 1 Introduction to the module internationalization and family businesses A brief review of the key concepts of family businesses. The basic concepts of internationalization of firms. 2 The challenges faced by multinational family businesses (I) How does national culture impact multinational family businesses? 3 The challenges faced by multinational family businesses (II) Except for the national culture, other elements which yield challenges to multinational family businesses will be discussed. 4 Group project presentation 5 Family business in the East 6 Family business in the West 7 Multinational family business and business ethics 8 Final presentation			
3. 履修上の注意 It would be extremely beneficial for students taking this module also to attend the module of ‘Family Business’ or ‘Family Business A’ . Participating in discussion is crucial. Please note that this course is provided as an online Media-based course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should read the material and cases assigned.			
5. 教科書 Details will be announced in the first lecture of the semester. Students may be asked to purchase cases if needed.			
6. 参考書 Casillas, J, Acedo, F. and Moreno, A. (2007) International Entrepreneurship in Family Businesses. Cheltenham: Edward Elgar Publishing. Gordon, G. and Nicholson, N. (2008) Family Wars: Classic Conflicts in Family Businesses and How to Deal with Them. Londo			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be offered either verbally or in a written form depending upon the style of assignments.			

8. 成績評価の方法

In class participation: 40%

Group Project Presentation: 10%

Individual Presentation: 10%

Final Report: 40%

9. その他

This syllabus/schedule is subject to change; any updates will be announced in class.

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN561E	
科目名		International Family Business 大学院経営学研究科共同設置科目 (G S B A)	
担当者		HSU Yu-hsu	
2 単位	Year:3	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 Building upon the fundamental understanding of family business gained in the previous semester, in this module, topics regarding national culture and internationalisation are incorporated into our study of family businesses. Firstly, we explore family businesses in various cultural settings including the US, Europe and Asia. This provides students with opportunities to analyse critically differences and similarities in terms of management styles and practices generated by the national culture amongst those family businesses. Next, we move on to investigate issues in the context of international family businesses. These issues include entry mode strategies, international human resources, organisation structures and control mechanisms between headquarters and overseas affiliates. Case studies and discussion are the main methods utilised in this module. Course ILOs : 1. Understand the essential concepts and theories of multinational family firms. 2. Critically evaluate the challenges faced by multinational family firms. 3. Identify the problems associated with multinational family firms and offer sound advice.			
2. 授業内容 1 Introduction to the module internationalization and family businesses A brief review of the key concepts of family businesses. The basic concepts of internationalization of firms. 2 The challenges faced by multinational family businesses (I) How does national culture impact multinational family businesses? 3 The challenges faced by multinational family businesses (II) Except for the national culture, other elements which yield challenges to multinational family businesses will be discussed. 4 Group project presentation 5 Family business in the East 6 Family business in the West 7 Multinational family business and business ethics 8 Final presentation			
3. 履修上の注意 It would be extremely beneficial for students taking this module also to attend the module of ‘Family Business’ or ‘Family Business A’ . Participating in discussion is crucial. Please note that this course is provided as an online Media-based course.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students should read the material and cases assigned.			
5. 教科書 Details will be announced in the first lecture of the semester. Students may be asked to purchase cases if needed.			
6. 参考書 Casillas, J, Acedo, F. and Moreno, A. (2007) International Entrepreneurship in Family Businesses. Cheltenham: Edward Elgar Publishing. Gordon, G. and Nicholson, N. (2008) Family Wars: Classic Conflicts in Family Businesses and How to Deal with Them. Londo			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be offered either verbally or in a written form depending upon the style of assignments.			

8. 成績評価の方法

In class participation: 40%

Group Project Presentation: 10%

Individual Presentation: 10%

Final Report: 40%

9. その他

This syllabus/schedule is subject to change; any updates will be announced in class.

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN566E		
科目名		International Marketing A [M] 大学院経営学研究科共同設置科目 (G S B A)		
担当者		CHANG CHIAO-YUN		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to explore key issues and current debates in the field of International Marketing. The main purpose of the module is to reflect both the theory and the application of the subject studied through the use of textbooks, case studies and journal articles. The module is structured as follows: (i) Theoretical concepts in the discipline of international marketing and the importance of how to think globally in business will be discussed. (ii) The impact of political, legal, economic and cultural factors on marketing activities across countries will be investigated. (iii) Students will learn to analyze marketing plans and consumer product strategy at the global level via case studies. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertake any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Upon completion of this International Marketing module, students will be able to: • Understand how the basic principles of marketing are applied in a variety of diverse cultural, political, legal and economic environments. • Be able to analyze foreign markets to determine their overall export potential. • Be able to explain the various methods of entering foreign markets, the degree of commitment required and the associated levels of risk. • Understand the concepts of product life cycle and the classification of goods and their importance for foreign market acceptance, product adaptation and overall marketing strategy decision making. • Apply basic and advanced marketing concepts to develop integrated marketing plans in global markets.				
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Introduction of the module Preview: syllabus Session 2 Globalization Preview: Chapter 1. Review: Chapter 1. Session 3 Economic Environment Preview: Chapter 2. Review: Chapter 2. Session 4 Financial Environment Preview: Chapter 3. Review: Chapter 3. Session 5 Global Cultural Environment and Buying Behavior I Preview: Chapter 4. Review: Preparing for Individual Presentation Session 6 Global Cultural Environment and Buying Behavior II Preview: Chapter 4. Review: Prepare for Individual Presentation Session 7 Political and Legal Environment Preview: Chapter 5. Review: Chapter 5 Session 8 Mid-term Presentation Session 9 Global Segmentation and Positioning Preview: Chapter 7. Review: Chapter 7. Session 10 Global Marketing Strategies Preview: Chapter 8. Session 11 Global Market Entry Strategies Preview: Chapter 9. Review: Chapter 9. Session 12 Case Study				

Preview: Case Review: Assignment Session 13 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 14 Final Presentation
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.
5. 教科書 Kotabe, Masaaki and Helsen, Kristiaan (2023), Global Marketing Management, 9th Edition, New York: John Wiley and Sons. *Students are able to download the ebook from our library.
6. 参考書 1. Jagdish, Bhagwati (2005), ``The Globalization Guru,’’ Finance & Development, 42, September 2005: 4-7 (Available at <a href="http://www.imf.org/external/pubs/ft/fandd/2005/09/people.htm">http://www.imf.org/external/pubs/ft/fandd/2005/09/people.htm</a>)</li> <li>2. Gwynne, Peter (2003), ``The Myth of Globalization?’’ Sloan Management Re
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided via a verbal or written form.
8. 成績評価の方法 Class Discussion and In-class Activities (30%) Presentation (30%) Case Study X2 (40%)
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN566E		
科目名		International Marketing B [M] 大学院経営学研究科共同設置科目 (G S B A)		
担当者		CHANG CHIAO-YUN		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 This course is designed to explore key issues and current debates in the field of International Marketing. The main purpose of the module is to reflect both the theory and the application of the subject studied through the use of textbooks, case studies and journal articles. The module is structured as follows: (i) Theoretical concepts in the discipline of international marketing and the importance of how to think globally in business will be discussed. (ii) The impact of political, legal, economic and cultural factors on marketing activities across countries will be investigated. (iii) Students will learn to analyze marketing plans and consumer product strategy at the global level via case studies. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expected to work independently, undertake any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Upon completion of this International Marketing module, students will be able to: • Understand how the basic principles of marketing are applied in a variety of diverse cultural, political, legal and economic environments. • Be able to analyze foreign markets to determine their overall export potential. • Be able to explain the various methods of entering foreign markets, the degree of commitment required and the associated levels of risk. • Understand the concepts of product life cycle and the classification of goods and their importance for foreign market acceptance, product adaptation and overall marketing strategy decision making. • Apply basic and advanced marketing concepts to develop integrated marketing plans in global markets.				
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Global Marketing Strategy Preview: Mini case Session 2 Global Market Entry Strategies Preview: Chapter 9. Session 3 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 4 Global Product Policy Decisions Preview: Chapter 10. Review: Chapter 10. Session 5 Global Pricing Preview: Chapter 12. Review: Chapter 12. Session 6 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 7 Communicating with the World Consumer Preview: Chapter 13. Review: Preparing for Individual Presentation Session 8 Mid-term Presentation Session 9 Global Logistics and Distribution Preview: Data collection: Ever Given Review: Chapter 15. Session 10 Individual Presentation Session 11 Export/Import Management Preview: Incoterms 2010 Review: Chapter 16. Session 12 Planning Organization, and Control of Global Marketing Operations Preview: Chapter 17. Review: Chapter 17.				

Session 13 Marketing in Emerging Markets Preview: Chapter 18. Review: Chapter 18. Session 14 Global Marketing and the Internet Preview: Chapter 19. Review: Chapter 19.
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.
5. 教科書 Kotabe, Masaaki and Helsen, Kristiaan (2023), Global Marketing Management, 9th Edition, New York: John Wiley and Sons.
6. 参考書 1. Craig, C. Samuel and Douglas, Susan P. (2005), International Marketing Research, 3rd Edition, Chichester, John Wiley and Sons. (Available at https://eclass.aueb.gr/modules/document/file.php/ME231/Books/C. %20Samuel %20Craig, %20Susan %20P. %20Douglas%20Inte)
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provide in either a verbal or written form.
8. 成績評価の方法 Class Discussion (30%) Presentation (30%) Case Study X2 (40%)
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA) MAN566E	
科目名		Service Marketing A [M] 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）	
担当者		CHANG CHIAO-YUN	
2 単位	Year:3	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 The rapid growth of the service industry has generated a significant number of job opportunities. As many graduates may seek jobs in the service industry, it is vital for students to acquire knowledge of this new field in addition to the traditional product-based models of marketing. Indeed, services marketing, which was once a small academic field, has become a thriving area of activity with equally flourishing research effort in both academia and business. This module aims, via attendance at lectures and case analysis seminars, to enable students to examine theoretical concepts surrounding service marketing and to be able to apply those concepts to a variety of service marketing situations. The unique nature of service marketing will be investigated with particular emphasis given to the service industry where customers are present at the site of production. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expect to work independently, undertaken any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Learning Goals Upon completion of this Services Marketing module, students will be able to: • how customer behavior and expectations play a role in the service environment • key considerations in selling and marketing services • branding, promoting and positioning of services • the complexities of managing demand and capacity in service organizations • distribution and pricing considerations • how to build customer loyalty and assess customer lifetime value • the importance of workforce development and organizational culture in delivering quality • customer research and survey design methods			
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Introduction of the module Preview: syllabus Session 2 Introduction to Services Preview: Chapter 1. Review: Chapter 1. Session 3 The Gap Model of Service Quality I Preview: Chapter 2. Review: Chapter 2. Session 4 The Gap Model of Service Quality II Preview: Chapter 2. Session 5 Customer Expectations of Service Preview: Chapter 3. Review: Chapter 3. Session 6 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 7 Customer Perception of Service Preview: Chapter 4. Review: Chapter 4. Session 8 Listening to Customers through Research Preview: Chapter 5. Session 9 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 10 Build Customer Relationships Preview: Chapter 6. Review: Chapter 6. Session 11 Case Study			

Preview: Case Review: Assignment Session 12 Service Recovery Preview: Chapter 7. Review: Chapter 7. Session 13 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 14 Case Study Preview: Case Review: Assignment
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.
5. 教科書 Zeithaml, Valarie A., Bitner Mary Jo and Gremler, Dwayne D. (2023), Services Marketing: Integrating Customer Focus Across the Firm, 8th Edition, McGraw-Hill.
6. 参考書 1. Levitt, T., (1981), "Marketing Intangible Products and Product Intangibles'', Harvard Business Review, May/June, pp. 94-102. 2. Lovelock, C.H., (1983), "Classifying Services to Gain Strategic Marketing Insights'', Journal of Marketing, Vol. 47, Summer,
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provide in either a verbal or written form.
8. 成績評価の方法 Class Discussion (20%) Case Study X4 (80%)
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN566E	
科目名		Service Marketing B [M] 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）	
担当者		CHANG CHIAO-YUN	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 The rapid growth of the service industry has generated a significant number of job opportunities. As many graduates may seek jobs in the service industry, it is vital for students to acquire knowledge of this new field in addition to the traditional product-based models of marketing. Indeed, services marketing, which was once a small academic field, has become a thriving area of activity with equally flourishing research effort in both academia and business. This module aims, via attendance at lectures and case analysis seminars, to enable students to examine theoretical concepts surrounding service marketing and to be able to apply those concepts to a variety of service marketing situations. The unique nature of service marketing will be investigated with particular emphasis given to the service industry where customers are present at the site of production. To complete the module successfully, attendance at all classes is advised. Students are also expect to work independently, undertaken any required background reading or practice exercises, and actively participate in discussions or small group work. Learning Goals Upon completion of this Services Marketing module, students will be able to: • how customer behavior and expectations play a role in the service environment • key considerations in selling and marketing services • branding, promoting and positioning of services • the complexities of managing demand and capacity in service organizations • distribution and pricing considerations • how to build customer loyalty and assess customer lifetime value • the importance of workforce development and organizational culture in delivering quality • customer research and survey design methods			
2. 授業内容 ***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the courses will be delivered via Zoom and students are required to attend the class every week.*** Session 1 Introduction of the module Preview: syllabus Session 2 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 3 Service Innovation and Design Preview: Chapter 8. Review: Chapter 8. Session 4 Customer-Defined Service Standards Preview: Chapter 9. Review: Chapter 9. Session 5 Physical Evidence and the Servicescape Preview: Chapter 10. Review: Chapter 10. Session 6 Employees’ Role in Service Delivery Preview: Chapter 11. Review: Chapter 11. Session 7 Customers’ Role in Service Delivery Preview: Chapter 12. Review: Chapter 12. Session 8 Delivering Service Through Intermediaries and Electronic Channels Preview: Handouts Session 9 Managing Demand and Capacity Preview: Chapter 13. Review: Chapter 13. Session 10 Integrated Services Marketing Communications Preview: Chapter 14. Review: Chapter 14.			

Session 11 Pricing of Services Preview: Chapter 15. Review: Chapter 15. Session 12 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 13 Case Study Preview: Case Review: Assignment Session 14 Case Study Preview: Case Review: Assignment
3. 履修上の注意 English is the language used in this module. All activities, including lectures, seminars, tutorials, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Passive learning is to be avoided in the module. Students are encouraged to preview and review material before and after each lecture in order to prepare themselves for class discussions. The aim is not only to equip students with a good degree of understanding of the subject, but also to help them to establish certain skills that can be applied to their future careers.
5. 教科書 Zeithaml, Valarie A., Bitner Mary Jo and Gremler, Dwayne D. (2023), Services Marketing: Integrating Customer Focus Across the Firm, 8th Edition, McGraw-Hill.
6. 参考書 1. Leonard L. Berry, "Services Marketing is Different", Business, May-June 1980. 2. W. Earl Sasser, R. Paul Olsen and D. Daryl Wyckoff, Management of Service Operations: Text, Cases, and Readings, Boston: Allyn & Bacon, 1978. 3. G. Lynn Shostack, "Breakin
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback will be provided in either a verbal or written form.
8. 成績評価の方法 Class Discussion (20%) Case Study X4 (80%)
9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN656E		
科目名		The Future of E Business A〔M〕 (G S B A)大学院経営学研究科共同設置科目		
担当者		ADAMS ANDREW ALEXANDER		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Digitisation has been happening in businesses for more than fifty years. The pace of change of technology and its impact on both society at large and businesses’ processes, business models, employment practices, markets, and (sometimes lack of) profitability are not letting up and may even be increasing. This module presents current technologies which are allowing or forcing businesses to change their approaches as well as updating, new and emerging technologies which will allow/force further change in the future. Technologies/issues covered include Artificial Intelligence; Virtual, Extended and Augmented Reality; Collaborative Robots (robots sharing space with human beings and physically working alongside them); mobile, wearable and implantable technologies; social impact of a growing further digitisation of the economy. This is one of two modules covering this topic which may be taken separately or in either order to give a broad and deep understanding of the Future of Business, which in most cases will involve adoption of EBusiness elements. This module focusses on non-industrial businesses, including office-work, the entertainment industry, the health sector, the finance sector and agriculture.				
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1 : Introduction 2 : The History and Present of IT in Business 3 : Virtual/Extended/Augmented Reality 4 : Remote Working 5 : Networking: Social Networking, Social Media, Professional Networking 6 : Entertainment: Static, music, books, video, fiction and fact 7 : Entertainment: Interactive fantasy (games) and reality (tourism) 8 : Healthcare 9 : Financial Markets 10 : Data: Privacy, Confidentiality and Security 11 : Agriculture 4.0 12 : Agriculture 5.0 13 : Knowledge Work 14 : Society 5.0				
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week’s topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.				
5. 教科書 Future Skills by Bernard Marr, Wiley, 2022				

6. 参考書

See the course handout for detailed references for each session.

7. 課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

8. 成績評価の方法

90%: S 80%: A 70%: B 60%: C Below 59%: Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		経営学科専門科目／(BA)MAN656E		
科目名		The Future of E Business B〔M〕 (G S B A)大学院経営学研究科共同設置科目		
担当者		ADAMS ANDREW ALEXANDER		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Digitisation has been happening in businesses for more than fifty years. The pace of change of technology and its impact on both society at large and businesses’ processes, business models, employment practices, markets, and (sometimes lack of) profitability are not letting up and may even be increasing. This module presents current technologies which are allowing or forcing businesses to change their approaches as well as updating, new and emerging technologies which will allow/force further change in the future. Technologies/issues covered include Artificial Intelligence; Virtual, Extended and Augmented Reality; Collaborative Robots (robots sharing space with human beings and physically working alongside them); mobile, wearable and implantable technologies; social impact of a growing further digitisation of the economy. This is one of two modules covering this topic which may be taken separately or in either order to give a broad and deep understanding of the Future of Business, which in most cases will involve adoption of EBusiness elements. This module focusses on the future of industrial activity, particularly large scale manufacturing, considering the current drive to implement Industry 4.0 and the discussions about what Industry 5.0 will look like.				
2. 授業内容 This course is provided as an online Media-based course (Real-time Delivery Type). Lectures will be delivered in Real-Time on the Zoom platform. 1: Introduction 2: The History and Present of IT in Business 3: Autonomous/Cooperative Robots and Cobots (IoT 1) 4: Industrial IoT (IoT 2) 5: Big Data and Analytics (Data-Driven Manufacturing 1) 6: AI for Manufacturing (Data-Driven Manufacturing 2) 7: Digital Twins (Data-Driven Manufacturing 3) 8: VR/AR/RX (New Workplaces 1) 9: 3-D Printing (New Workplaces 2) 10: Cloud Computing (Data-Driven Manufacturing 4/Structural Issues 1) 11: Horizontal/Vertical Integration (Structural Issues 2) 12: Cybersecurity (Structural Issues 3) 13: Energy and Climate (Structural Issues 4) 14: Social and Economic Implications (Structural Issues 5)				
3. 履修上の注意 The course will be given in English. Assessment will be via verbal presentation and written essay submission also in English. Advice on preparing presentations and writing essays is provided in written form at the beginning of the module.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 An extensive handout including pointers to expected reading (one book chapter, one academic article or up to three short online articles; and pointers to additional reading) for each week’s topic is provided on the Oh-o! Meiji system at the beginning of the semester. Students are expected to have read the handout and the expected reading material before the session. Some sessions will include one or more 5-10 minute student presentations at the beginning. The lecturer will then present details on the issue of the week. The final ten minutes of the session will be an open discussion on a topic set in advance. Students are expected to be prepared to contribute individually to these discussions. The list of topics is available at the beginning of the module. These discussion topics are also the subject of the student presentations and of follow-up essays on the same topic.				
5. 教科書 Business Trends in Practice by Bernard Marr, Wiley 2021				

6. 参考書

See the module handout for detailed references for each session.

7. 課題に対するフィードバックの方法

Verbal feedback on presentations will be given in lectures immediately following the presentation. More detailed written feedback will then be provided by email.

Written feedback on essays will be provided by email.

8. 成績評価の方法

90%: S 80%: A 70%: B 60%: C Below 59%: Fail

Presentations (2): 50%

Post-Presentation Essays (2): 50%

9. その他

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC231J		
科目名		財務会計総論 A		
担当者		石津 寿恵		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 授業形態は対面ですが、公務等の都合によりやむを得ずメディア授業を採り入れることもあり得ます。 (概要) 会計専門職を目指す者のみならず、社会人になるすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 ★初学者を対象にした授業です。日商簿記 2 級以上を取得した学生は一定程度進んだ内容の別授業(メディア授業)を受講することが出来ます。希望者は、メディア授業のクラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとメディア授業の登録はできません。 (到達目標) 初学者が会計の基礎を学ぶことにより、後年次で学習する財務諸表論、会計基準論、会計監査論、税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。				
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のように予定しています。 (1) ガイダンスー財務会計を学ぶにあたって (2) 会計と会計理論 (3) 企業会計法 (4) 企業会計原則 (5) 貸借対照表の概要 (6) 損益計算書の概要 (7) 財務諸表分析 (8) 中間まとめクイズ (9) キャッシュ・フロー計算書の概要 (10) 流動資産①有価証券 (11) 流動資産②棚卸資産 (12) 流動資産③固定資産 (13) :減損 (14) まとめクイズ ★項目は状況により変更することがあります。併せて、クラスウェブ「授業内容資料」欄の「タイムライン等」で確認してください。				
3. 履修上の注意 初学者を対象とした内容ですが、履修者は、日商簿記検定 3 級程度を理解していることが望ましいです。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論 I II や日商簿記検定 3 級などおさらいしておいてください。 授業はパワーポイントのスライドを用いて行います。テキストはありませんが、下記参考文献を読むことをお勧めします。 スライドでは、下記参考文献の該当箇所なども紹介しますので、併用することにより理解が深まります。				
5. 教科書 特定のテキストは用いません。パワーポイントのスライドを用いて授業を行いますが、下記参考文献を読むことにより理解が容易になると思います。				
6. 参考書 平井克彦、石津寿恵（2013）『損益計算と情報開示（八訂版）』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。（最新版） 田中健二『財務会計入門』中央経済社。（最新版） 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。（最新版） このほか、『会計法規集』（中央経済社）、『企業会計小六法』（中央経済社）いずれも最新版。 財務会計では、絶えず会計のルール(堀津、規則、基準など)を確認しながら学習する姿勢を身に付ける姿勢が重要です。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業では、毎回クイズを取り入れます。答え合わせ・解説をしますので、内容理解の確認ができます。				

8. 成績評価の方法

平常点（授業中のクイズへの解答など）60％，授業時間内経営分析レポート10%、中間まとめクイズ10％，まとめクイズ20％。
※期末試験中のテストはありません。状況により変更があった場合は，早急にシラバスの補足でお知らせしますので，必ず確認してください。

9. その他

上記授業内容は，履修生の理解程度等により変更することがあります。
また，社会情勢の変化による大学方針により，授業の進め方等に変更が生じる可能性もあります。変更点はクラスウェブでお知らせしますので，必ずチェックしてください。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC236J	
科目名		財務会計総論 A〔M〕（簿記 2 級以上限定）【CAP クラス】	
担当者		石津 寿恵	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 ★日商簿記 2 級以上を取得した学生が、一定程度進んだ内容の授業を受講するためのものです。希望者は、クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。対面授業による財務会計総論を履修するようにしてください。 授業はメディアで行います。 （概要） 会計専門職を目指す者には勿論のこと、企業人になろうとするすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 この授業は日商 2 級以上を取得した学生が履修します。したがって基礎的内容ですが、例題等は日商 2 級程度の内容を含みます。 （到達目標） 本講は後年次で学習する財務諸表論，国際会計論，会計基準論，会計監査論，税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。			
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のとおりである。 （1） 財務会計を学ぶにあたって 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （2） 財務会計の目的，方法論 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （3） 企業会計と関係法規 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （4） 企業会計原則 （5） レポート作成・提出（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （6） 貸借対照表の概要 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （7） 貸借対照表の概要 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （8） キャッシュ・フロー計算書の概要 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （9） レポート作成・提出（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （10） 流動資産①有価証券 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （11） 流動資産②棚卸資産 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （12） 固定資産①一般 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （13） 固定資産②減損 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （14） まとめクイズ			
3. 履修上の注意 日商簿記検定 2 級以上に合格した学生が履修する授業です。クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日商簿記検定 2 級レベルを復習しておいてください。 テキストは指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
5. 教科書 指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
6. 参考書 いずれも最新版を用いてください。 平井克彦，石津寿恵『損益計算と情報開示（八訂版）』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。 田中健二『財務会計入門』中央経済社。 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。 このほか、『会計法規集』（中央経済社），『企業会計小六法』（中央経済社）いずれも最新版。 財務会計では，絶えず会計のルール（堀津、規則、基準など）を確認しながら学習する姿勢を身に付ける姿勢が重要です。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回小テスト機能によるクイズを行います。解答を公開しますので、理解度を確かめながら受講することが出来ます。			

8. 成績評価の方法

毎回の、コンテンツ終了時の小テスト 50%

授業時間回数内のレポート(15%×2回)

最終回のまとめのクイズ 20%

★期末テストは行いません。

社会情勢等により変更が生じた場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。

9. その他

上記「授業内容」は、履修生の理解程度等(小テストの正解具合など)により変更することがあります。

また、社会情勢により、授業の進め方等に変更が生じる可能性もあります。変更点はクラスウェブでお知らせしますので、必ずチェックしてください。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC231J		
科目名		財務会計総論 B		
担当者		石津 寿恵		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 授業形態は対面ですが、公務等の都合によりやむを得ずメディア授業を採り入れることもあり得ます。 〈概要〉 会計専門職を目指す者のみならず、社会人になるすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 ★初学者を対象にした授業です。日商簿記 2 級以上を取得した学生は一定程度進んだ内容の別授業(メディア授業)を受講することが出来ます。希望者は、メディア授業のクラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとメディア授業の登録はできません。 〈到達目標〉 初学者が会計の基礎を学ぶことにより、後年次で学習する財務諸表論、国際会計論、会計基準論、会計監査論、税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。				
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のとおりである。 (1) ガイダンス・会計の基礎 (2) 固定資産①減損会計 (3) 固定資産②無形固定資産 (4) 繰延資産 (5) 負債 (6) 引当金 (7) 税務特別研究 (8) 中間まとめクイズ (9) 純資産 (10) 利益の計算方法 (11) 税務会計，税効果会計 (12) 国際会計入門 (13) 連結会計入門 (14) まとめクイズ				
3. 履修上の注意 初学者を対象とした内容ですが、履修者は、日商簿記検定 3 級程度を理解していることが望ましいです。 税務特別研究の回では、国税局局長から実務についての具体的なお話を聞くことにより多面的に会計を学ぶ予定です。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 簿記論 I II や日商簿記検定 3 級などおさらいしておいてください。 授業はパワーポイントのスライドを用いて行います。テキストはありませんが、下記参考文献を読むことにより理解が容易になると思います。				
5. 教科書 特定のテキストは用いません。パワーポイントのスライドを用いて授業を行います。下記参考文献を読むことにより理解が容易になると思います。				
6. 参考書 平井克彦，石津寿恵（2013）『損益計算と情報開示（八訂版）』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。（2023 年に 24 版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） 田中健二『財務会計入門』中央経済社。2021 年に 6 版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。2021 年に 4 版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） このほか、『会計法規集』（中央経済社），『企業会計小六法』（中央経済社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中のクイズは、解答・解説を行いますので、各自理解度を確認することが出来ます。				
8. 成績評価の方法 平常点（授業中のクイズへの解答など）60％，中間まとめクイズ 20％，最終まとめクイズ 20％。 ※期末試験中のテストはありません。 社会情勢等により評価配分などが変更になることがあり得ます。変更があった場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。				

9. その他

変更点は、適宜「シラバスの捕捉」でお知らせします。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC236J	
科目名		財務会計総論B〔M〕（簿記２級以上限定）【CAP クラス】	
担当者		石津 寿恵	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 ★日商簿記２級以上を取得した学生が、一定程度進んだ内容の授業を受講するためのものです。希望者は、クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。対面授業による財務会計総論を履修するようにしてください。 授業はメディアで行います。 〈概要〉 会計専門職を目指す者には勿論のこと、企業人になろうとするすべての人にとって、財務会計のスキルを身につけることは不可欠です。本講では財務会計の基礎的概念を多角的に学習するとともに、主要な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書）の概要と構成要素のうち「流動資産」までについて学習します。 この授業は日商２級以上を取得した学生が履修します。したがって基礎的内容ですが、例題等は日商２級程度の内容を含みます。 〈到達目標〉 本講は後年次で学習する財務諸表論、国際会計論、会計基準論、会計監査論、税務会計論などの財務会計科目の基礎を習得することを目的とする。			
2. 授業内容 具体的な講義展開は下記のとおりである。 （１） 固定資産①有形固定資産 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （２） 固定資産②減損会計 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （３） 固定資産③無形固定資産 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （４） 繰延資産 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （５） 負債 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （６） 引当金 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （７） 中間テスト 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （８） 純資産 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （９） 収益の認識方法 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （１０） 費用の認識方法 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （１１） 連結会計（連結貸借対照表） 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （１２） 連結会計（連結損益計算書） 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （１３） 税務会計、税効果会計 〔メディア授業（オンデマンド型）〕 （１４） 外貨換算会計 〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 日商簿記検定２級以上に合格した学生が履修する授業です。クラスウェブのアンケート機能にある「証明書類」のところから合格証を送ってください。期限は「履修本登録期間」です。期限が過ぎるとこのメディア授業の登録はできません。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 日商簿記検定２級レベルを復習しておいてください。 テキストは指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
5. 教科書 指定しません。授業はパワーポイントのスライドで行います。ただし、下記の参考書是非併せて学習してください。理解が深まります。			
6. 参考書 平井克彦、石津寿恵（2013）『損益計算と情報開示（八訂版）』白桃書房。 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。（2023 年に 24 版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） 田中健二『財務会計入門』中央経済社。2021 年に 6 版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） 藤井秀樹『入門財務会計』中央経済社。2021 年に 4 版が出ていますが、更に最新版が出ましたらそちらをご覧ください） このほか、『会計法規集』（中央経済社）、『企業会計小六法』（中央経済社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回小テスト機能によるクイズを行います。解答を公開しますので、理解度を確かめながら受講することが出来ます。			

8. 成績評価の方法

毎回の、コンテンツ終了時の小テスト 50%

授業時間内に作成するレポート 30%

最終回のまとめのクイズ 20%

★期末テストは行いません。

社会情勢等により変更が生じた場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。

9. その他

社会情勢等により変更が生じた場合は、早急にシラバスの補足でお知らせしますので、必ず確認してください。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC246J		
科目名		管理会計総論 A〔M〕		
担当者		大槻 晴海		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPO や NGO など）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、管理会計の中でも、組織体（主として企業）において日々繰り返される業務の管理とその業績の把握にかかわる「業績管理会計」についての理解を深めていきます。 （到達目標） 次のような管理会計に関する基礎的な知識や基本的な考え方の修得が目標です。 ・利益計画、予算管理、原価管理について学び、そこで用いられる「業績管理会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・必要とあれば自らそのような管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション〔対面授業〕 第2回：管理会計の特徴と体系〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：利益管理の意義〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：経営分析のグループワーク〔対面授業〕 第5回：短期利益計画（1）：CVP 分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：短期利益計画（2）：直接原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：短期利益計画のグループワーク〔対面授業〕 第8回：予算管理（1）：予算編成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：予算管理（2）：予算統制〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：予算管理のグループワーク〔対面授業〕 第11回：原価管理（1）：原価標準の設定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：原価管理（2）：原価差異分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：原価管理のグループワーク〔対面授業〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。				
3. 履修上の注意 ★この授業は、オンデマンド型オンライン授業と対面授業を組み合わせる【通常クラス】です。 ★グループワークへの参加が必須となりますので注意してください。 ※日商簿記検定 2 級以上を取得している者は、曜日時限の設定がない全回オンデマンド型オンライン授業の管理会計総論 A〔M〕（簿記 2 級以上限定）【CAP クラス】を履修することもできます（他学部生は履修できません）。 ・この授業はメディア授業科目として開講されます。ただし、授業は講義動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型の講義回とグループに分かれて課題に取り組む対面型のグループワーク回からなります。 ・Oh-o!Meiji クラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケート（「グループワークの評価」）などを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義回では原則として水曜日に Oh-o!Meiji システムを通じて講義動画を配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・グループワーク回では対面での出席が必要です（ノート PC を持参できることが望ましい）。また、場合により、授業時間外にグループで課題などに取り組む必要が生じることがあります。なお、グループワークについて、「振り返りシート」および「グループワークの評価」の提出と「グループワーク成果発表動画」の制作・提出を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・教員への質問・相談窓口として、Oh-o!Meiji クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を活用します。また、対面授業や Oh-o!Meiji クラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設けます。 ※ 詳細は第1回のイントロダクション〔対面授業〕で説明しますので必ず出席してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。 ・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答または「グループワーク成果発表動画」の制作に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。				

5. 教科書

『原価・管理会計の基礎』山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）

6. 参考書

- ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』崎 章浩編著（学文社）
 - ・『会計による経営管理』村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会）
 - ・『花王の経理パーソンになる』吉田栄介・花王株式会社社会計財務部門（中央経済社）
 - ・『ソニーの経理パーソンになる』潮 清孝・林 尚史・妹尾 剛好（中央経済社）
 - ・『基本原価計算用語辞典』山田庫平編著（白桃書房）
 - ・『経営管理会計ハンドブック』山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵
- その他必要に応じて授業の

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji クラスウェブでフィードバックします。

8. 成績評価の方法

「振り返りシート」（30%）, 「確認テスト」（40%）, 「グループワークの評価」・「グループワーク成果発表動画」（30%）
※ 定期試験は行いません。

9. その他

管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように、日頃から経営・経済関連の TV 番組, ニュース, 新聞記事, 雑誌記事, 書籍などに目を通すよう心掛けてください。
また, 日常生活に潜む“管理会計的なもの”を見つけ出す癖をつけてください。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC246J		
科目名		管理会計総論 A〔M〕（簿記 2 級以上限定）【CAP クラス】		
担当者		大槻 晴海		
2 単位	1 年次	春学期		
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPO や NGO など）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、管理会計の中でも、組織体（主として企業）において日々繰り返される業務の管理とその業績の把握にかかわる「業績管理会計」についての理解を深めていきます。 〈到達目標〉 次のような管理会計に関する基礎的な知識や基本的な考え方の修得が目標です。 ・利益計画、予算管理、原価管理について学び、そこで用いられる「業績管理会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・必要とあれば自らそのような管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。				
2. 授業内容				
第 1 回：イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 2 回：管理会計の特徴と体系〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 3 回：利益管理の意義〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 4 回：経営分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 5 回：短期利益計画（1）：CVP 分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 6 回：短期利益計画（2）：直接原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 7 回：短期利益計画（3）：短期利益計画の実際と課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 8 回：予算管理（1）：予算編成〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 9 回：予算管理（2）：予算統制〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 10 回：予算管理（3）：予算管理の実際と課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 11 回：原価管理（1）：原価標準の設定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 12 回：原価管理（2）：原価差異分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 13 回：原価管理（3）：原価管理の実際と課題〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第 14 回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。				
3. 履修上の注意				
★この授業は、日商簿記検定 2 級以上を取得した学生が、一定程度進んだ内容の授業を受講するための【CAP クラス】（日商簿記検定 2 級以上取得者限定）です。履修希望者は、履修登録期間内に合格証を提出する必要があります（詳細は「シラバスの補足」を確認のこと）。 なお、他学部生は履修できません。 ※日商簿記検定 2 級以上を取得していない者は、水曜日 3 時限の管理会計総論 A〔M〕【通常クラス】を履修してください。 ・この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。 ・Oh-o! Meiji クラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケートなどを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o!Meiji システムを通じて配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・教員への質問・相談窓口として、Oh-o!Meiji クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を活用します。また、ディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設けます。 ※ 詳細は第 1 回のイントロダクションで説明しますので必ず視聴してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。 ・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。				
5. 教科書				
『原価・管理会計の基礎』山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）				

6. 参考書

- ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』崎 章浩編著（学文社）
 - ・『会計による経営管理』村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会）
 - ・『花王の経理パーソンになる』吉田栄介・花王株式会社社会計財務部門（中央経済社）
 - ・『ソニーの経理パーソンになる』潮 清孝・林 尚史・妹尾 剛好（中央経済社）
 - ・『基本原価計算用語辞典』山田庫平編著（白桃書房）
 - ・『経営管理会計ハンドブック』山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵
- その他必要に応じて授業の

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji クラスウェブでフィードバックします。

8. 成績評価の方法

「振り返りシート」（30%），「確認テスト」（30%），期末レポート（40%）

9. その他

管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように，日頃から経営・経済関連の TV 番組，ニュース，新聞記事，雑誌記事，書籍などに目を通すよう心掛けてください。

また，日常生活に潜む“管理会計的なもの”を見つけ出す癖をつけてください。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC246J	
科目名		管理会計総論B〔M〕	
担当者		大槻 晴海	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報 を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPO や NGO など）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、組織体（主として企業）にとつての重要な局面でその都度行われる判断や決断にかかわる「意思決定会計」および経営戦略の形成・実現にかかわる「戦略管理会計」についての理解を深めていきます。 (到達目標) 次のような管理会計に関する基礎的な知識と基本的な考え方の修得が目標です。 ・意思決定会計について学び、そこで用いられる「意思決定会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・戦略管理会計について学び、そこで用いられる各種手法を理解し適用できる。 ・必要とあれば自ら管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション／経営管理の機能と管理会計〔対面授業〕 第2回：意思決定会計（1）：業務執行的意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：意思決定会計（2）：戦略的意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：企業環境の変化と戦略管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：事業環境分析（1）：3 C 分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：事業環境分析（2）：ABC/ABM〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：事業環境分析のグループワーク〔対面授業〕 第8回：事業戦略の形成と実現：BSC〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：BSCのグループワーク（1）：ビジョンの設定と戦略の策定〔対面授業〕 第10回：BSCのグループワーク（2）：戦略マップとスコアカードの作成〔対面授業〕 第11回：戦略的成本・マネジメント：原価企画〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：原価企画のグループワーク（1）：商品コンセプトの作成と機能定義〔対面授業〕 第13回：原価企画のグループワーク（2）：価値の評価〔対面授業〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。			
3. 履修上の注意 ★この授業は、オンデマンド型オンライン授業と対面授業を組み合わせ実施する【通常クラス】です。 ★グループワークへの参加が必須となりますので注意してください。 ※日商簿記検定 2 級以上を取得している者は、曜日時限の設定がない全回オンデマンド型オンライン授業の管理会計総論 B〔M〕（簿記 2 級以上限定）【CAP クラス】を履修することもできます（他学部生は履修できません）。 ・この授業はメディア授業科目として開講されます。ただし、授業は講義動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型の講義回とグループに分かれて課題に取り組む対面型のグループワーク回からなります。 ・Oh-o!Meiji クラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケート（「グループワークの評価」）などを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義回では原則として水曜日に Oh-o!Meiji システムを通じて講義動画を配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・グループワーク回では対面での出席が必要です（ノート PC を持参できることが望ましい）。また、場合により、授業時間外にグループで課題などに取り組む必要が生じることがあります。なお、グループワークについて、「振り返りシート」および「グループワークの評価」の提出と「グループワーク成果発表動画」の制作・提出を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・教員への質問・相談窓口として、Oh-o!Meiji クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を活用します。また、対面授業や Oh-o!Meiji クラスウェブのディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設けます。 ※ 詳細は第 1 回のイントロダクション〔対面授業〕で説明しますので必ず出席してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。			

・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答または「グループワーク成果発表動画」の制作に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。

5. 教科書

『原価・管理会計の基礎』山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）

6. 参考書

- ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』崎 章浩編著（学文社）
 - ・『会計による経営管理』村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会）
 - ・『花王の経理パーソンになる』吉田栄介・花王株式会社会計財務部門（中央経済社）
 - ・『ソニーの経理パーソンになる』潮 清孝・林 尚史・妹尾 剛好（中央経済社）
 - ・『基本原価計算用語辞典』山田庫平編著（白桃書房）
 - ・『経営管理会計ハンドブック』山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵
- その他必要に応じて授業の

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji クラスウェブでフィードバックします。

8. 成績評価の方法

「振り返りシート」（30%）、「確認テスト」（40%）、「グループワークの評価」・「グループワーク成果発表動画」（30%）
※ 定期試験は行いません。

9. その他

管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように、日頃から経営・経済関連の TV 番組、ニュース、新聞記事、雑誌記事、書籍などに目を通すよう心掛けてください。
また、日常生活に潜む“管理会計的なもの”を見つけ出す癖をつけてください。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC246J	
科目名		管理会計総論B〔M〕（簿記2級以上限定）【CAP クラス】	
担当者		大槻 晴海	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 <概要> この授業では、管理会計の基礎的な概念や仕組みなどを学びます。 管理会計は、企業（またはその他の組織体）を経営・管理する経営管理者が、意思決定や業績管理、業務管理などを行う際に役立つ財務的・非財務的情報を提供することを目的とする会計です。 現代では、いかなる組織のメンバーにも、組織内部で用いられる言語としての管理会計情報を理解でき、それにより業務上の様々な問題を特定でき、その問題を解決でき、そして関係者同士でコミュニケーションできる能力が求められています。 将来、企業人として活躍するにせよ、会計専門職（公認会計士や税理士など）やコンサルタントとして活躍するにせよ、あるいは非営利組織（学校、病院、行政機関、NPO や NGO など）の職員として活躍するにせよ、組織体の運営に携わる者またはその一員にとって、管理会計に関する知識やその実践能力を身につけることは、いまや必須とされてきています。 この授業では、管理会計の中でも、組織体（主として企業）にとっての重要な局面でその都度行われる判断や決断にかかわる「意思決定会計」（個別問題に対して将来とるべき行動を選択・決定するための会計）および経営戦略の形成・実現にかかわる「戦略管理会計」（戦略経営のための会計）についての理解を深めていきます。 <到達目標> 次のような管理会計に関する基礎的な知識や基本的な考え方の修得が目標です。 ・意思決定会計について学び、そこで用いられる「意思決定会計」情報を組織内部の言語として理解し利用できる。 ・戦略管理会計について学び、そこで用いられる各種手法を理解し適用できる。 ・必要とあれば自ら管理会計情報を適切な技法により作成し活用できる。 ・将来の管理会計の発展・変化にも柔軟に対応できる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション／経営管理の機能と管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：意思決定会計（1）：業務執行的意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：意思決定会計（2）：戦略的意思決定〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：企業環境の変化と戦略管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：事業環境分析（1）：3C分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：事業環境分析（2）：ABC/ABM〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：事業環境分析（3）：競合他社分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：事業戦略の形成と実現（1）：SWOT分析とPPM〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：事業戦略の形成と実現（2）：戦略マップ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：事業戦略の形成と実現（3）：BSC〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：戦略的成本・マネジメント（1）：原価企画〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：戦略的成本・マネジメント（2）：品質原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：戦略的成本・マネジメント（3）：環境管理会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕 ※ 授業の進捗状況等により変更が生じる場合があります。			
3. 履修上の注意 ★この授業は、日商簿記検定2級以上を取得した学生が、一定程度進んだ内容の授業を受講するための【CAP クラス】（日商簿記検定2級以上取得者限定）です。履修希望者は、履修登録期間内に合格証を提出する必要があります（詳細は「シラバスの補足」を確認のこと）。 なお、他学部生は履修できません。 ※日商簿記検定2級以上を取得していない者は、水曜日3時限の管理会計総論B〔M〕【通常クラス】を履修してください。 ・この授業はメディア授業科目として開講されます。授業はすべて、講義動画を Oh-o!Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行います。 ・Oh-o! Meiji クラスウェブに、お知らせ、授業資料、講義動画、小レポート（「振り返りシート」）、小テスト（「確認テスト」）、アンケートなどを掲載しますので、必ず確認してください。 ・講義動画は原則毎週水曜日に Oh-o!Meiji システムを通じて配信し、当該学期中の視聴を可能とします。なお、毎回の講義動画について、「振り返りシート」の提出と「確認テスト」の実施を求め、出席確認と理解度確認を行います。 ・教員への質問・相談窓口として、Oh-o!Meiji クラスウェブの「教員とのメッセージ」機能を活用します。また、ディスカッション機能等を活用し、意見交換の場を設けます。 ※ 詳細は第1回のイントロダクションで説明しますので必ず視聴してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業前に授業資料・テキスト・参考書を読んで、管理会計に関する自らの知識・スキルおよび疑問点を明確にしておいてください。 ・授業後に「振り返りシート」の作成と「確認テスト」への解答に取り組み、授業内容の理解度を確認してください。			

5. 教科書

『原価・管理会計の基礎』 山田庫平・吉村聡・飯島康道・大槻晴海編著（中央経済社）

6. 参考書

- ・『管理会計（マネジメント・アカウンティング）―業績管理会計と意思決定会計』 崎 章浩編著（学文社）
 - ・『会計による経営管理』 村田直樹・相川奈美編著（税務経理協会）
 - ・『花王の経理パーソンになる』 吉田栄介・花王株式会社社会計財務部門（中央経済社）
 - ・『ソニーの経理パーソンになる』 潮 清孝・林 尚史・妹尾 剛好（中央経済社）
 - ・『基本原価計算用語辞典』 山田庫平編著（白桃書房）
 - ・『経営管理会計ハンドブック』 山田庫平・崎 章浩・吉村 聡編著（東京経済情報出版）※図書館に所蔵
- その他必要に応じて授業の

7. 課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji クラスウェブでフィードバックします。

8. 成績評価の方法

「振り返りシート」（30%）、「確認テスト」（30%）、期末レポート（40%）

9. その他

管理会計は企業などの組織体の経営活動と密接に関連しています。理論を具体的に理解できるように、日頃から経営・経済関連のTV番組、ニュース、新聞記事、雑誌記事、書籍などに目を通すよう心掛けてください。また、日常生活に潜む“管理会計的なもの”を見つけ出す癖をつけてください。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC211J		
科目名		中級簿記論		
担当者		大塚 浩記		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 企業は様々な経済活動を行っている。その経済活動を記録し、報告することが簿記の役割である。本講義では、初級簿記論で学んだ企業の経済活動についての記録と報告を基礎として、いわゆる日本商工会議所簿記検定 商業簿記2級の範囲の一部を講義する。 ＜到達目標＞ 簿記論Ⅰ・Ⅱで学んだ範囲よりさらに多くの取引を理解し、記帳できるようになることを目標とする。また、授業内容は、取引の理解と仕訳が中心になるが、その結果として作成される財務諸表についても理解が深まるようになることも大切である。				
2. 授業内容 第1回 銀行勘定調整表 第2回 手形・電子記録債権債務 第3回 有価証券（基礎・端数利息） 第4回 有価証券（期末評価） 第5回 商品売買（売上原価対立法・履行義務） 第6回 商品売買（期末評価） 第7回 有形固定資産（割賦購入・買替等） 第8回 有形固定資産（減価償却） 第9回 引当金 第10回 純資産（株式発行・剰余金の処分） 第11回 純資産（株主資本等変動計算書） 第12回 決算（決算整理事項・精算表） 第13回 決算（損益計算書・貸借対照表の作成） 第14回 総復習 ※ 上記は目安であり、適宜、前後したり、内容を変えたりする。				
3. 履修上の注意 上記の授業内はテキストに沿って網羅的に示したが、時間的な制約などから論点を制限して取り扱うことがあることに留意されたい。 また、簿記は繰り返し学習することが大切であるため、復習する姿勢を大切にしてほしい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で予定している内容について、簿記論Ⅰ・Ⅱで学んだ範囲（日商簿記検定3級の範囲）を復習してくること。 授業後には、新たに学んだ内容について、テキスト（やワークブック）の練習問題を解答するなど複数回の演習を行うこと。				
5. 教科書 渡部裕亘他『検定簿記講義2級商業簿記』中央経済社。 なお、毎年改訂されるので、講義開始時点での最新版を用意すること。				
6. 参考書 必要に応じて紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくはOh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 定められた出席回数を満たしていることを前提に、原則として定期試験（100％）で評価する。 ただし、授業の進行上、課題を課すことがあった場合には、定期試験（80％）と課題（20％）で評価する。 評価の趣旨は、第1回目の授業の際にお話する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC311J		
科目名		上級簿記論		
担当者		大塚 浩記		
2 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 企業は様々な経済活動を行っている。その経済活動を記録し、報告することが簿記の役割である。本講義では、初級簿記論で学んだ企業の経済活動についての記録と報告を基礎として、いわゆる日本商工会議所簿記検定 商業簿記2級の範囲の一部を講義する。 ＜到達目標＞ 簿記論Ⅰ・Ⅱ、中級簿記論で学んだ範囲よりさらに多くの取引を理解し、記帳できるようになることを目標とする。また、決算整理についても、連結財務諸表を含む財務諸表について理解し、作成できるようになることを目標とする。				
2. 授業内容 第1回 リース会計 第2回 外貨換算会計 第3回 税効果会計 第4回 決算・財務諸表 第5回 財務諸表の作成演習 第6回 株主資本等変動計算書 第7回 本支店会計（取引の仕訳） 第8回 本支店会計（財務諸表の作成） 第9回 連結会計（資本連結） 第10回 連結会計（内部取引の相殺消去） 第11回 連結会計（連結精算表） 第12回 連結会計（連結財務諸表） 第13回 連結会計（段階取得・持分法など） 第14回 まとめ ※なお、上記は目安であり、授業の便宜上、内容が前後したり、変更したりする。				
3. 履修上の注意 上記の授業内容はテキストに沿って網羅的に示したが、時間的な制約などから論点を限定して取り扱う予定であることに留意されたい。なお、簿記論Ⅰ・Ⅱおよび中級簿記論の内容を習得していること。 簿記は繰り返し学習することが大切であるため、復習する姿勢を大切にしてほしい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で予定している内容について、あらかじめテキストを一読してくること。 授業後には、新たに学んだ内容について、テキスト（やワークブック）の練習問題を解答するなどの演習を行うこと。				
5. 教科書 渡部裕亘他『検定簿記講義2級商業簿記』中央経済社。 なお、毎年改訂されるので、講義開始時点での最新版を用意すること。				
6. 参考書 必要に応じて紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくはOh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 定められた出席回数を満たしていることを前提に、原則として定期試験（100％）で評価する。 ただし、授業の進行上、課題を課すことがあった場合には、定期試験（80％）と課題（20％）で評価する。 評価の趣旨は、第1回目の授業でお話する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC331J		
科目名		財務諸表論 A		
担当者		大倉 学		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概 要〉 財務諸表は、企業の経営活動の内容および結果やそれに係る様々な事象を会計的表現（勘定科目と金額）をもって企業外部の利害関係者に報告する書類であり、財務会計制度を支えるルールに基づいて作成されたうえで一定の様式に従って公表される。 財務諸表論 A は、情報開示（ディスクロージャー）の意義、会計情報開示の意義、制度における財務諸表の位置づけ等の解説をとおして、財務諸表が制度会計においてどのような役割を果たしているのかを学習する。 〈到達目標〉 わが国の財務諸表に係る制度的・体系的知識を習得すること。				
2. 授業内容 第 1 回 会計学にみる諸アプローチ 第 2 回 情報開示（ディスクロージャー）：情報の非対称性と、それに起因する諸問題 第 3 回 情報開示（ディスクロージャー）：上記諸問題に対する対応策 第 4 回 会計情報開示の諸類型：会社法および金融商品取引法における情報作成・開示要請 第 5 回 会計情報開示の諸類型：証券取引所規程、IR 等における情報作成・開示要請 第 6 回 ケース・スタディ、ディスカッション（1） 第 7 回 財務諸表の体系と構造（1）：ストック情報 第 8 回 財務諸表の体系と構造（2）：フロー情報 第 9 回 会計行為：認識・測定・記録・表示 第 10 回 会計主体論・会計公準論 第 11 回 会計基準：基準作成における諸アプローチ 第 12 回 会計基準：「企業会計原則」と各種「会計基準」 第 13 回 ケース・スタディ、ディスカッション（2） 第 14 回 春学期のまとめ				
3. 履修上の注意 講義では具体的事例を用いた説明をおこなうので、簿記の復習をされたい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義において次回のポイントを指摘するので関連事項・専門用語の整理・確認をしておくこと。 また、各講義において前回の要点整理をするので継続的な復習を必要とする。				
5. 教科書 特に定めない。レジュメ・資料を配布する。				
6. 参考書 『財務会計講義（最新版）』桜井久勝著（中央経済社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパー、課題レポートについては、Oh-o ! Meiji システムで全体講評および個別コメントにて対応する。				
8. 成績評価の方法 平常点（20％）、レポート 1 回（10％）、定期試験（70％） 講義内容に即した数回に 1 回のリアクション・ペーパー提出およびディスカッションにおける積極的姿勢を平常点の評価対象とする。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC331J		
科目名		財務諸表論 B		
担当者		大倉 学		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概 要〉 財務諸表は、企業の経営活動の内容および結果やそれに係る様々な事象を会計的表現（勘定科目と金額）をもって企業外部の利害関係者に報告する書類であり、財務会計制度を支えるルールに基づいて作成されたうえで一定の様式に従って公表される。 財務諸表論 B は、財務諸表作成・開示に係る基礎概念、会計基準、財務諸表項目に焦点をあてて解説する。ここでは、財務諸表の具体的な仕組と内容を理解することが求められる。各勘定科目の解説ではなく、会計行為の視点から 5 要素の特質を考究するという視点で展開する。 〈到達目標〉 わが国の財務諸表に係る具体的な仕組と内容を理解・習得すること。				
2. 授業内容 第 1 回 会計の 5 要素と会計行為の関係 第 2 回 資産の会計（1）：認識論 第 3 回 資産の会計（2）：伝統的な測定論 第 4 回 資産の会計（3）：近時の測定論 第 5 回 資産の会計（4）：重層的測定論 第 6 回 負債の会計：認識論・測定論 第 7 回 純資産の会計：認識論・測定論 第 8 回 貸借対照表の表示 第 9 回 収益・費用の会計：認識論・測定論 第 10 回 損益計算書の表示およびキャッシュ・フロー計算書：表示形式と内容 第 11 回 財務諸表を読む：A 社の事例（ディスカッションを含む） 第 12 回 財務諸表を読む：B 社の事例（ディスカッションを含む） 第 13 回 財務諸表の限界と情報開示の展望（統合報告書） 第 14 回 秋学期のまとめ				
3. 履修上の注意 講義では具体的事例を用いた説明をおこなうので、簿記の復習をされたい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義において次のポイントを指摘するので関連事項・専門用語の整理・確認をしておくこと。 また、各講義において前回の要点整理をするので継続的な復習を必要とする。				
5. 教科書 特に定めない。レジュメ・資料を配布する。				
6. 参考書 『財務会計講義（最新版）』桜井久勝著（中央経済社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパー、課題レポートについては、Oh-o! Meiji システムで全体講評および個別コメントにて対応する。				
8. 成績評価の方法 平常点（20%）、レポート 1 回（10%）、定期試験（70%） 講義内容に即した数回に 1 回のリアクション・ペーパー提出およびディスカッションにおける積極的姿勢を平常点の評価対象とする。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC331J		
科目名		現代会計基準論 A		
担当者		浅野 千鶴		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本講義では、会計制度や、これまでに設定・公表されてきた会計基準の根底にある基礎概念に焦点をあてて学習する。 （到達目標） 会計基準の基礎概念を学習することにより、会計基準そのものや基準の改訂・新設が行われた理由をより深く理解するための基礎的な知識を得ることを目標としている。				
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 財務会計の機能と目的 第3回 会計制度と会計基準 第4回 会計公準と会計主体 第5回 利益の役割と損益計算 第6回 利益観と業績観 第7回 資産評価の基本原則 第8回 企業のディスクロージャー（1） 第9回 企業のディスクロージャー（2） 第10回 概念フレームワーク（1）財務報告の目的 第11回 概念フレームワーク（2）会計情報の質的特性 第12回 概念フレームワーク（3）財務諸表の構成要素 第13回 概念フレームワーク（4）財務諸表における認識と測定 第14回 まとめ				
3. 履修上の注意 簿記・会計学の基礎的な知識を要する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 財務諸表論の入門書を用意し、その内容を把握しておくこと。				
5. 教科書 毎回レジュメを配布するため、教科書は使用しない。				
6. 参考書 適宜指示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎行行う小テストについてはその次の回の講義内で解説する。				
8. 成績評価の方法 定期試験および小テストの成績、授業中の態度等を総合的に判断して評価する。 目安としては、平常点 30％、定期テスト 70％。 小テスト用紙は授業開始時に配布するので、遅刻しないように注意すること。				
9. その他 レジュメと小テスト問題を Oh-o! meiji で公開するので、やむをえない理由で授業を欠席した場合には、メールで事情説明文・欠席した理由を証明できる文書を提出するとともに Oh-o!Meiji で小テストの解答を提出すること。提出がない場合にはいかなる理由であってもその回の平常点はゼロとなるので注意すること。				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC331J	
科目名		現代会計基準論 B	
担当者		浅野 千鶴	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義では、近年に改訂・新設された基準および ASBJ 等で審議中の論点を題材に、「なぜそのような改訂がなされたのか」「なぜ新しい基準が必要となったのか」という視点から、社会的な背景や具体的な事象を交えて学習する。 〈到達目標〉 基準の改訂・新設にあたり、その内容をより深く理解し、現行基準の問題点を抽出できるようになることを目標としている。			
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション 第 2 回 産業構造の変化と会計理論の変遷 第 3 回 公正価値会計 第 4 回 金融商品会計 第 5 回 デリバティブとヘッジ会計 第 6 回 退職給付会計 第 7 回 リース会計 第 8 回 連結会計 第 9 回 企業結合会計 第 10 回～第 13 回 業種別会計や、ASBJ 等で公表された論点整理・公開草案等を題材に最新のテーマについて改正点や論点などを学習する。 第 14 回 まとめ			
3. 履修上の注意 簿記・会計学の基礎的な知識を要する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 財務諸表論の入門書を用意し、その内容を把握しておくこと。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布するため、教科書は使用しない。			
6. 参考書 初回の講義で指示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回行う小テストについてはその次の回の講義内で解説する。			
8. 成績評価の方法 定期試験および毎回実施する小テストの成績、授業中の態度等を総合的に判断して評価する。 目安としては、平常点 30%、定期テスト 70%。 小テスト用紙は授業開始時に配布するので、遅刻しないように注意すること。			
9. その他 レジュメと小テスト問題を Oh-o! meiji で公開するので、やむをえない理由で授業を欠席した場合には、メールで事情説明文・欠席した理由を証明できる文書を提出するとともに Oh-o!Meiji で小テストの解答を提出すること。提出がない場合には、いかなる理由であってもその回の平常点はゼロとなるので注意すること。			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC361J	
科目名		監査論 A 2017 年度以前入学者 「会計監査論 A」	
担当者		小俣 光文	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 現代の経済社会の中心的な担い手となっているのは、広く一般の投資家から資金を調達する株式会社である。株式会社は、資金を提供する投資家等に対して、資金が適切に利用されていることを示すために、財務報告を行う必要がある。しかしながら、会社の経営者が行った財務報告は、会社に都合の良い情報しか示されていない可能性があり、そのままでは信用されないため、会社が示した情報が適切なものであるかどうかを判断できるようにするのが監査の役割である。そこで、本講義では、なぜ監査という行為が行われるのか、どのように監査が行われるのかについて学び、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎を学ぶ。そのため、監査に関する基本テキストの該当箇所を予習するとともに、常日頃から会計・監査に関する新聞記事やテレビニュースに関心を持って見ることも必要である。 （到達目標） 監査が現代の経済社会に、監査に対する社会的期待が非常に高まるとともに、各種の情報公開が進むにつれて監査に対するニーズも非常に大きくなっている。監査に対するニーズが高まるとともに、新聞やテレビのニュースで監査が扱われる事例が増えている。まず、監査についての基本的な理論を習得することによって、こうした監査に対するニーズが高まっている理由を理解できる能力を身につける。そして、監査に関する基礎知識を習得することによって、こうした新聞記事やニュースの内容を理解できる能力を身につけることを目標とする。			
2. 授業内容 第 1 回：監査論の考え方 第 2 回：ディスクロージャー制度と株式会社 第 3 回：コーポレートガバナンス 第 4 回：日本企業のガバナンス 第 5 回：財務諸表の見方 第 6 回：監査の経済的機能 第 7 回：監査のフレームワーク 第 8 回：監査規範と監査人の適格性 第 9 回：監査人の独立性 第 10 回：金融商品取引法監査 第 11 回：公認会計士の責任 第 12 回：不正・違法行為 第 13 回：保証業務 第 14 回 a のみ：まとめ			
3. 履修上の注意 直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義をするので会計関連科目を履修しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、該当する監査基準・実務指針等を読んでおくこと。			
5. 教科書 毎回レジュメを配布する			
6. 参考書 適宜指示する ・ 監査基準 ・ 監査基準委員会報告書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 毎回講義内でミニテストを行い、まとめの回に復習テストを行いこの 2 つの要素を基礎に成績を決定する。 （配点割合は概ね次のとおり） ①毎回のミニテスト（60％） ②復習テスト期末試験の成績（40％）			
9. その他			

監査は経済社会にとって必要不可欠な機能であるといわれます。監査を取り巻く様々な背景を学ぶことは、企業人としても投資家としても将来きっと役に立ってくれるでしょう。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC361J		
科目名		監査論B 2017 年度以前入学者 「会計監査論B」		
担当者		小俣 光文		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈概要〉 監査は、一つの社会的なコントロールシステムとして古代エジプトやメソポタミアでも行われていた。監査の中心である、財務諸表監査は、いまや、企業の健全な社会的発展を図るために必要不可欠な要具となっている。しかしながらエンロン事件のように経営破綻した企業が、それまで経営の不振を隠蔽するために不正な財務報告を行っていたことが明らかになることがある。このような事態が生じると監査に対する批判が高まり、その批判に答える形で、監査の実施方法も大きく変わることがある。そこで、本講義では、監査に対する批判が高まる原因となる不正な財務報告の事例等を概観しながら、財務諸表監査の基本となる監査基準がどのように監査を規定しているかを中心にして、企業の財務諸表監査が具体的にどのように行われているのかについて学ぶ。そのため、監査に関する基本テキストの該当箇所を予習するとともに、常日頃から会計・監査に関する新聞記事やテレビニュースに関心を持って見ることも必要である。				
〈到達目標〉 現代は監査に対するニーズが高まっており、公認会計士にならずとも多くの人が監査に関わる機会が増えている。こうした状況のなかで、監査がどのように行われているのか、また監査の結果がどのように利用者に伝達されるのかについて学び、自らが監査に関わる立場になったときに必要な知識を習得することを目標とする。 さらに、公認会計士になった場合はもちろんのこと、実際に内部監査部門に配属されたり、監査を受ける立場になったり、監査報告書を読む場合に必要な知識も身につけることを目標とする。				
2. 授業内容				
第1回：監査実施プロセスの全体像 第2回：リスクアプローチの概要 第3回：監査要点・監査計画・重要性 第4回：監査手続・監査証拠 第5回：ビジネスリスクアプローチ 第6回：内部統制 第7回：リスク評価 第8回：リスク対応手続 第9回：試査 第10回：監査報告 第11回：監査報告書 第12回：G C問題 第13回：追記情報とその他の記載内容 第14回 a のみ：まとめ試査				
3. 履修上の注意				
直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義をするので会計関連科目を履修しておくこと。また、監査論Aを履修しておくことが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
事前に参考書の該当箇所、該当する監査基準・実務指針等を読んでおくこと。				
5. 教科書				
毎回レジュメを配布する				
6. 参考書				
適宜指示する ・監査基準 ・監査基準委員会報告書				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
各授業回もしくは0h-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法				
毎回講義内でミニテストを行い、まとめの回到復習テストを行いこの2つの要素を基礎に成績を決定する。 (配点割合は概ね次のとおり) ①毎回のミニテスト（60％） ②復習テスト期末試験の成績（40％）				
9. その他				
公認会計士になって監査業務を行わなくとも、監査に関わる可能性が高くなっています。また、投資情報としての有価証券報告書を読む際に監査報告書は非常に有用です。企業人としても投資家としても監査論を勉強しておくことは将来きっと役に立ってくれるでしょう				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC291E		
科目名		Basic Accounting A 2016 年度以前入学者 「Basic Accounting」		
担当者		NAKASHIMA MASUMI		
2 単位	Year:1	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 <Outline> This course provides an introduction to the concepts and principles underlining financial accounting and reporting in English. The course covers fundamental financial accounting such as accounting cycles, adjusting entries, inventories, asset valuation, current liabilities, long-term liabilities, and the preparation and an analysis of financial statements. <Objectives> Students can develop: the knowledge of the principles of accounting, an understanding the procedures and terminology of accounting, and the applying the techniques to accounting problems in English.				
2. 授業内容 1. Introduction: Accounting in Action [Media-based class (Real-time delivery type)] 2. The Recording Process[Face-to-face class] 3. Adjusting the Accounts[Face-to-face class] 4. Completing the Accounting Cycle[Face-to-face class] 5. Accounting for Merchandising Operations[Face-to-face class] 6. Mid-Term Exam [Media-based class (Real-time delivery type)] 7. Database Learning [Media-based class (Real-time delivery type)] 8. Inventories[Face-to-face class] 9. Accounting for Information Systems[Face-to-face class] 10. Fraud, Internal Controls, and Cash[Face-to-face class] 11. Accounting for Receivables[Face-to-face class] 12. Plant Assets, Natural Resources, and Intangible Assets[Face-to-face class] 13. Review [Media-based class (Real-time delivery type)] 14. Final Exam [Media-based class (Real-time delivery type)]				
3. 履修上の注意 N/A				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The students should read each of the assigned chapter prior to class.				
5. 教科書 Jerry J. Weygandt, Paul D. Kimmel, Donald E. Kieso Accounting Principles 15edition, International Student Version Wiley 2024 eBook is available through library website(Maruzen eBook Library)				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.				
8. 成績評価の方法 Class Contribution 40% Assignments 40% Midterm Exam 10% Final Exam 10%				
9. その他 Accounting is referred as the language of business. Therefore, the students who want to pursue a career in business should obtain the knowledge of accounting and develop a skill and techniques for basic accounting. But, it is very important to enjoy the				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC291E		
科目名		Basic Accounting B		
担当者		NAKASHIMA MASUMI		
2 単位	Year:1	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) This course provides an introduction to the concepts and principles underlining financial accounting and reporting in English. The course covers fundamental financial accounting such as Stockholder’s Equity, Earnings Per Share and Share-Based Payment, Investments, Revenue Recognition and the analysis of financial statements. (Objectives) Students can develop: the knowledge of the principles of accounting, an understanding the procedures and terminology of accounting, and the applying the techniques to accounting problems in English.				
2. 授業内容 1. Intangible Assets [Media-based class (Real-time delivery type)] 2.. Current Liabilities and Payroll Accounting[Face-to-face class] 3. Long-Term Liabilities[Face-to-face class] 4. Corporations: Organization and Capital Stock Transactions[Face-to-face class] 5. Data Learning [Media-based class (Real-time delivery type)] 6. Revenue recognition [Face-to-face class] 7. Mid-Term Exam [Media-based class (Real-time delivery type)] 8. Corporations: Dividends, Retained Earnings, and Income Reporting[Face-to-face class]Investments[Face-to-face class] 9. Investments [Face-to-face class] 10. Statement of Cash Flows[Face-to-face class] 11. Full Disclosure in Financial Reporting [Face-to-face class] 12. Financial Analysis 2[Face-to-face class] 13. Fraud in Japan [Media-based class (Real-time delivery type)] 14. Final Exam [Media-based class (Real-time delivery type)]				
3. 履修上の注意 N/A				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The students should read each of the assigned chapter prior to class.				
5. 教科書 Jerry J. Weygandt, Paul D. Kimmel, Donald E. Kieso Accounting Principles 15th ed, International Student Version Wiley 2024 eBook is available through library website(Maruzen eBook Library)				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.				
8. 成績評価の方法 Class Contribution 40% Assignments 40% Midterm Exam 10% Final Exam 10%				
9. その他 Accounting is referred as the language of business. Therefore, the students who want to pursue a career in business should obtain the knowledge of accounting and develop a skill and techniques for basic accounting. But, it is very important to enjoy the				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC331E		
科目名		Financial Accounting A		
担当者		NAKASHIMA MASUMI		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) This course provides a comprehensive knowledge of financial accounting and reporting. For each topic covered, the theory and technical details of the U.S. Generally Accepted Accounting Principles (GAAP) are presented and after that, we discuss the differences between the U.S. GAAP and the International Financial reporting (IFRS). This course also provides the knowledges for analyzing a firm’ s financial performance by the financial statements information. (Objectives) The objectives are to enable students to develop: to acquire an in-depth understanding of financial accounting and reporting as accounting profession, and to obtain the knowledge for evaluating a firm’ s performance.				
2. 授業内容 1. Introduction: Financial Accounting and Accounting Standards[Media-based class (Real-time delivery type)] 2. Conceptual Framework for Financial Reporting[Face-to-face class] 3. The Accounting Information System[Face-to-face class] 4. Income Statement and Related Information[Face-to-face class] 5. Balance Sheet and Statement of Cash Flows[Face-to-face class] 6. Mid-Term Exam [Media-based class (Real-time delivery type)] 7. Database Learning [Media-based class (Real-time delivery type)] 8. Cash and Receivables[Face-to-face class] 9. Valuation of Inventories: A Cost-Basis Approach[Face-to-face class] 10. Inventories: Additional Valuation Issues[Face-to-face class] 11. Acquisition and Disposition of Property, Plant, and Equipment[Face-to-face class] 12. Depreciation, Impairments, and Depletion[Face-to-face class] 13. Review [Media-based class (Real-time delivery type)] 14. Final Exam [Media-based class (Real-time delivery type)]				
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (at least TOEIC 550) cannot take this course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the chapter before each class.				
5. 教科書 Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield. Intermediate Accounting, 18th Edition, ISBN: 978-1-119-77889-9, eBook is available through library website(Maruzen eBook Library), 2022.				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.				
8. 成績評価の方法 Class Contribution 40% Assignments 40% Mid-term Exam 10% Final Exam 10%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC331E		
科目名		Financial Accounting B		
担当者		NAKASHIMA MASUMI		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) This course extends a comprehensive knowledge of financial accounting to intermediate topics. For each topic covered, the differences in the theory and concepts of the U.S.GAAP and IFRS should be discussed. This course also provides the theory of accounting fraud and the basic knowledge of forensic accounting. This course also provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. (Objectives) The objectives are to enable students to develop: to acquire intermediate level of knowledges in financial accounting and reporting, to obtain the skills for interpreting financial information, and to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.				
2. 授業内容 1. Intangible Assets [Media-based class (Real-time delivery type)] 2. Current Liabilities and Contingencies[Face-to-face class] 3. Long-Term Liabilities[Face-to-face class] 4. Stockholders' Equity[Face-to-face class] 5. Data Learning[Media-based class (Real-time delivery type)] 6. Revenue Recognition[Face-to-face class] 7. Mid-Term Exam[Media-based class (Real-time delivery type)] 8. Accounting for Income Taxes[Face-to-face class] 9. Accounting for Pensions and Postretirement Benefits[Face-to-face class] 10. Statement of Cash Flows[Face-to-face class] 11. Accounting for Leases[Face-to-face class] 12. Full Disclosure in Financial Reporting[Face-to-face class] 13. Review[Media-based class (Real-time delivery type)] 14. Final exam[Media-based class (Real-time delivery type)]				
3. 履修上の注意 ※「履修のための英語要件」の基準点を満たさない場合、本科目の履修はできません。 Students who do not meet the English requirement for this course (at least TOEIC 550) cannot take this course.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 The students should read each of the assigned chapter prior to class.				
5. 教科書 Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield. Intermediate Accounting, 18th Edition. ISBN: ISBN: 978-1-119-77889-9 February 2022. eBook is available through library website(Maruzen eBook Library)				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.				
8. 成績評価の方法 Class Contribution 40% Assignments 40% Midterm Exam 10% Final Exam 10%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC321J	
科目名		原価計算論 I	
担当者		長野 史麻	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 原価計算とは、企業活動から発生する原価、利益などの財務的データを、企業給付とのかかわりから認識・測定・分類し、要約・解説する理論と技術です。これは、経営管理者にたいして企業活動の計画と統制および意思決定に必要な経済的情報を提供するためになされます。授業では、単に技術の解説にとどまるのではなく、そのような技術が生まれた背景から原価計算方法を考察していきます。さらに、実際原価計算が企業経営において果たしうる役割や限界についても考えていきます。 （到達目標） この授業では、原価計算の基礎知識を整理したうえで、原価計算方法の要である実際原価計算を取り上げます。具体的な方法として、費目別原価計算、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算を説明し、履修者が実際原価の計算を理解するだけでなく、自ら計算できるようにすることを目標としています。			
2. 授業内容 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の基礎 第2回 工業経営と工業簿記 第3回 材料費の計算 第4回 労務費の計算 第5回 経費の計算 第6回 製造間接費の計算 第7回 製造間接費の配賦差異の分析 第8回 a. 中間試験 b. 部門別原価計算（1） 第9回 部門別原価計算（2） 第10回 個別原価計算（1） 第11回 個別原価計算（2） 第12回 単純総合原価計算（1） 第13回 単純総合原価計算（2） 第14回 a. まとめ b. 期末試験 ＊履修者の学習をより深めるため、2回ほど、オンデマンドの週を設けます。			
3. 履修上の注意 原価計算論 I と II をセットで履修することが望ましいです。計算練習を行うので電卓を持参してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけでなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。			
5. 教科書 上埜 進 （編著）『工業簿記・原価計算の基礎－理論と計算－〔第4版〕』税務経理協会 2017 年			
6. 参考書 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社 2015 年 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版 2014 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行います。			
8. 成績評価の方法 授業中の課題（40％）、中間試験（30％）、期末試験（30％）により総合的に評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC321J		
科目名		原価計算論Ⅱ		
担当者		長野 史麻		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 原価計算の基本的な枠組みを理解したうえで、経営管理のための原価計算を主に扱っていきます。経営管理のための原価計算は、企業環境の変化とともに発展してきたものです。原価管理や利益管理、意思決定のための原価計算として、標準原価計算や原価予測、損益分岐点分析、営業費計算、直接原価計算、差額原価収益分析を取り上げます。また、原価計算における新しい流れについても考えていきます。 （到達目標） 原価計算の基本的な枠組みを理解するとともに、経営管理のための原価計算として、標準原価計算や直接原価計算、CVP 分析を理解し、自ら計算できるようになることを目標としています。				
2. 授業内容 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の基礎の確認 第2回 工程別総合原価計算 第3回 組別総合原価計算 第4回 等級別総合原価計算 第5回 工業経営における財務諸表 第6回 本社・工場会計 第7回 a. 中間試験 b. 標準原価計算（1） 第8回 標準原価計算（2） 第9回 標準原価計算（3） 第10回 直接原価計算（1） 第11回 直接原価計算（2） 第12回 CVP 分析（1） 第13回 CVP 分析（2） 第14回 a. まとめ b. 期末試験				
3. 履修上の注意 原価計算論ⅠとⅡをセットで履修することが望ましいです。計算練習を行うので電卓を持参してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけではなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。				
5. 教科書 上埜 進 （編著）『工業簿記・原価計算の基礎－理論と計算－〔第4版〕』税務経理協会 2017 年				
6. 参考書 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社 2015 年 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版 2014 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 授業中の課題（40％）、中間試験（30％）、期末試験（30％）により総合的に評価する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC326J	
科目名		原価計算論Ⅰ〔M〕CAP クラス	
担当者		長野 史麻	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈CAP クラスの授業の概要〉 原価計算とは、企業活動から発生する原価、利益などの財務的データを、企業給付とのかかわりから認識・測定・分類し、要約・解説する理論と技術です。これは、経営管理者にたいして企業活動の計画、コントロールおよび意思決定に必要な経済的情報を提供するためになされます。単に技術の解説にとどまるのではなく、そのような技術が生まれた背景から原価計算方法を考察するとともに、実際原価計算が企業経営において果たしうる役割や限界についても考えていきます。 〈到達目標〉 この授業では、原価計算の基礎知識を整理したうえで、原価計算方法の要である実際原価計算を取り上げます。具体的な方法として、費目別原価計算、部門別原価計算、個別原価計算、総合原価計算を説明し、履修者が実際原価の計算方法を理解するだけでなく、実際に計算できるようになることを目標としています。			
2. 授業内容 この授業は全回メディア授業（オンデマンド型）となります。毎回、講義動画を視聴し、小テストを受け、課題を提出してください。 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の意義と目的〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 原価計算総論（制度としての原価計算、工業簿記の勘定体系と勘定連絡図）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 材料費の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 労務費と経費の計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 製造間接費の計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 製造間接費の計算（2）、配賦差異の分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回 中間試験（オンライン） 第8回 部門別原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 部門別原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 個別原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 個別原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 部門別計算と活動基準原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 理論問題（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 期末試験（オンライン）			
3. 履修上の注意 この授業はすべてメディア授業（オンデマンド型）です。 授業動画は毎週月曜日の午前9：00に配信されます。 毎回、講義動画を視聴後に小テストを受け、課題を提出するようにしてください。履修生は各自でオンライン授業を受講するための環境を整えてください。 授業に関する質問・問合せ・トラブルなどは授業用のメールアドレス（第1回の授業資料で開示します）に連絡をしてください。 詳細については、初回の授業で説明します。 この授業は原価計算論ⅠとⅡをセットで履修することが望ましいです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけではなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。			
5. 教科書 上埜 進（編著）『工業簿記・原価計算演習－理論と計算－〔第4版〕』税務経理協会，2015			
6. 参考書 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版，2014 年 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社，2015 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を使ってフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 毎週の小テスト（30％）と課題（30％）、オンラインによる中間試験（20％）と期末試験（20％）により総合的に評価します。 詳しくは第1回目のガイダンスで説明しています。必ず確認してください。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC326J	
科目名		原価計算論Ⅱ〔M〕CAP クラス	
担当者		長野 史麻	
2 単位	1 年次	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 〈CAP クラスの授業の概要〉 原価計算の基本的な枠組みを理解したうえで、経営管理のための原価計算を扱っていきます。経営管理のための原価計算は、企業環境の変化とともに発展してきたものです。原価管理や利益管理、意思決定のための原価計算として、標準原価計算や原価予測、CVP 分析、直接原価計算、営業費計算、意思決定会計を取り上げます。また、原価計算における新しい流れについても考察していきます。 〈到達目標〉 経営管理のための原価計算として、標準原価計算や原価予測、CVP 分析、直接原価計算、営業費計算、意思決定会計を理解できるようになることを目標としています。			
2. 授業内容 この授業は全回メディア授業（オンデマンド型）となります。毎回、講義動画を視聴し、小テストを受け、課題を提出してください。 第1回 a. ガイダンス b. 原価計算の基礎の確認〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 総合原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 総合原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回 工程別総合原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回 総合原価計算（減損・仕損・副産物・連産品）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 中間試験（オンライン） 第7回 標準原価計算（1）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回 標準原価計算（2）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 標準原価計算（3）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回 製造業の会計〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回 工場会計の独立〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 直接原価計算〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回 原価予測の方法と CVP 分析〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 期末試験（オンライン）			
3. 履修上の注意 この授業はすべてメディア授業（オンデマンド型）です。 授業動画は毎週月曜日の午前 9：00 に配信されます。毎回、講義動画を視聴後に小テストを受け、課題を提出するようにしてください。 履修生は各自、オンライン授業を受講するための環境を整えてください。 授業に関する質問・問合せ・トラブルなどは、授業用のメールアドレスに連絡をしてください。 詳細は、初回の授業で説明します。 この授業は、原価計算論ⅠとⅡをセットで履修することが望ましいです。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業は、講義と計算から構成されます。授業のなかで履修者自らが計算し、確認する作業を繰り返すことは、単に原価計算方法を修得するだけではなく、原価計算により提供される情報の経営管理上の意義や限界を理解するのに役立つと期待されます。			
5. 教科書 上埜 進（編著）『工業簿記・原価計算演習－理論と計算－〔第4版〕』税務経理協会、2015 年			
6. 参考書 廣本敏郎・挽 文子『原価計算論〔第3版〕』中央経済社、2015 年 櫻井 通晴『原価計算』同文館出版、2014 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を使ってフィードバックします。			
8. 成績評価の方法 毎週の小テスト（30％）と課題（30％）、オンラインによる中間試験（20％）と期末試験（20％）により総合的に評価します。詳しくは第1回目のガイダンスで説明しています。必ず確認してください。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC341J		
科目名		原価管理論 A		
担当者		森光 高大		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 企業にとって利益とは、単体で発生する数字ではなく、あくまで収益から原価を控除して求められる計算結果である。そのため、利益獲得の確実性を高めるために、企業活動において原価管理は重要な意義を持つ。本講義ではこの原価管理について理解するために、まず会計の基本的な構造と様々な原価概念について講義を行う。またそれらを理解したうえで、伝統的な原価管理の方法について詳述する。 【到達目標】 基本的な会計の流れと財務諸表の仕組みを理解したうえで、原価管理，利益管理の伝統的な形態である標準原価管理や CVP 分析、ABC の活用方法について適切に理解することを目標とする。				
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション：原価を管理することの意義 第 2 回 会計の基本①：財務諸表の基本的な構造 第 3 回 会計の基本②：原価の諸概念 第 4 回 コスト・ドライバー 第 5 回 短期利益計画と CVP 分析 第 6 回 CVP 分析の応用 第 7 回 小テスト 第 8 回 原価の測定 第 9 回 標準原価管理①：標準原価とは 第 10 回 標準原価管理②：直接材料費、直接労務費の差異分析 第 11 回 標準原価管理③：製造間接費の差異分析 第 12 回 活動基準原価計算(ABC)①： 第 13 回 活動基準原価計算(ABC)②： 第 14 回 期末試験				
3. 履修上の注意 毎回、内容についての理解を促進するために講義内で設問に解答していただきます。こうした設問には計算問題も含まれますので、電卓を持参することを推奨します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は次の授業までに内容を復習し、講義内で扱った設問等もしっかり理解しておいてください。				
5. 教科書 講義でレジュメを配布するため、テキスト指定はなし。				
6. 参考書 谷武幸編著『エッセンシャル管理会計(第 4 版)』中央経済社				
7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内での設問は基本的に講義内で解説の時間を設けますが、別途、Oh-o! Meiji を用いて解説を公開する場合があります。				
8. 成績評価の方法 小テスト(20%)、講義内の設問やレポート等の平常点(20%)、最終回に実施する期末試験（60%）によって評価を行います。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC341J		
科目名		原価管理論B		
担当者		森光 高大		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
【概要】 企業にとって利益とは、単体で発生する数字ではなく、あくまで収益から原価を控除して求められる計算結果である。そのため、利益獲得の確実性を高めるために、企業活動において原価管理は重要な意義を持つ。本講義では原価のみならず、収益獲得の確実性を高める意思決定や戦略的な原価管理の在り方について講義する。また、原価や利益のみならず、資金管理の重要性についても詳述する。				
【到達目標】 原価の測定に基づく原価管理だけでなく、原価管理に影響する各種意思決定および在庫管理、戦略的原価管理の各種手法の活用方法について適切に理解することを目標とする。				
2. 授業内容				
第 1 回 イン트로ダクション：原価管理と収益管理の意義 第 2 回 資金管理とキャッシュフロー：経営活動における資金の重要性 第 3 回 業務的意思決定と原価管理①：差額原価、差額収益 第 4 回 業務的意思決定と原価管理②：埋没原価 第 5 回 設備投資の経済性計算①：資金の時間価値、複利計算、割引計算 第 6 回 設備投資の経済性計算②：回収期間法、正味現在価値法 第 7 回 設備投資の経済性計算③：内部利益率法、収益性指数法 第 8 回 小テスト 第 9 回 在庫管理と原価管理①：制約理論 第 10 回 在庫管理と原価管理②：ジャスト・イン・タイム 第 11 回 在庫管理と原価管理③：スループット 第 12 回 原価企画①：原価企画の基本的な思考 第 13 回 原価企画②：推進ツールとしての VE 第 14 回 期末試験				
3. 履修上の注意				
毎回、内容についての理解を促進するために講義内で設問に解答していただきます。こうした設問には計算問題も含まれますので、電卓を持参することを推奨します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業後は次の授業までに内容を復習し、講義内で扱った設問等もしっかり理解しておいてください。				
5. 教科書				
毎回講義でレジュメを配布するため、テキスト指定はなし。				
6. 参考書				
谷武幸編著『エッセンシャル管理会計(第4版)』中央経済社 櫻井通晴『管理会計〔第七版)』同文館出版 エリヤフ・ゴールドラット、三本木亮訳『ゴールドラット博士のコストに縛られるな!』ダイヤモンド社				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
講義内での設問や課題は基本的に講義内で解説の時間を設けますが、別途、Oh-o! Meiji を用いて解説を公開する場合もあります。				
8. 成績評価の方法				
小テスト(20%)、講義内の設問やレポート等の平常点(20%)、最終回に実施する期末試験（60%）によって評価を行います。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC346E	
科目名		Management Accounting A [M]	
担当者		SHIMA NAGANO	
2 単位	Year:3	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 Managerial accounting provides information to managers for use within the organization. It helps managers perform three vital activities - planning, controlling and decision making. Planning involves establishing goals and specifying how to achieve them. Controlling involves gathering feedback to ensure that the plan is being properly executed or modified as circumstances change. Decision making involves selecting a course of action from competing alternatives. Management Accounting A and B introduce the building blocks of management accounting. This includes managerial applications of technical and behavioral aspects of managerial accounting for budget planning, sensitivity analysis, performance management. Taking this course offers students an opportunity to develop their analytical skills and to learn essential management tools for the above-mentioned activities. Management Accounting A focuses on understanding the basic difference between financial and management accounting and the cost.			
2. 授業内容 Session 1 Course Introduction and Overview of Management Accounting A1.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 2 Overview of Management Accounting A1.2[Media-based class (On-demand type)] Session 3 Overview of Management Accounting A1.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 4 Overview of Management Accounting A1.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 5 Cost Term and Concept A2.1[Media-based class (On-demand type)] Session 6 Cost Term and Concept A2.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 7 Cost Term and Concept A2.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 8 Cost Term and Concept A2.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 9 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.1[Media-based class (On-demand type)] Session 10 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 11 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 12 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.4[Media-based class (On-demand type)] Session 13 Cost Behavior, cost drivers and cost estimation A3.5 [Media-based class (On-demand type)] Session 14 Revision [Media-based class (On-demand type)]			
3. 履修上の注意 Registration Requirement: Students are required to have completed foundation level Financial Accounting courses. The pre-recorded lecture videos will become available before Friday of the relevant week.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Pre-recorded lectures and the lecture slides are available for this course. They will become available via the course website. Students are expected to go through those materials during the relevant week. The sample solutions for the workshop questions will also become available so students are strongly encouraged to attempt those questions. In addition, students are welcome to make queries to the lecturer via email (rg00002@meiji.ac.jp).			
5. 教科書 NA.			
6. 参考書 Journal articles, Management Accounting: Information for Creating and Managing Value (ISBN: 0070997608)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 By email and other online tools.			
8. 成績評価の方法 Weekly assessment piece/s (50%) and exam/s (50%). Detailed information on the assessment pieces and the exam will be provided by the lecturer on the first week of the semester.			
9. その他 NA			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC346E	
科目名		Management Accounting B [M]	
担当者		SHIMA NAGANO	
2 単位	Year:3	秋学期	
1. 授業の概要・到達目標 Managerial accounting provides information to managers for use within the organization. It helps managers perform three vital activities - planning, controlling and decision making. Planning involves establishing goals and specifying how to achieve them. Controlling involves gathering feedback to ensure that the plan is being properly executed or modified as circumstances change. Decision making involves selecting a course of action from competing alternatives. Management Accounting A and B introduce the building blocks of management accounting. This includes managerial applications of technical and behavioral aspects of managerial accounting for budget planning, sensitivity analysis, performance management. Taking this course offers students an opportunity to develop their analytical skills and to learn essential management tools for the above-mentioned activities. Management Accounting B introduces budgeting to students.			
2. 授業内容 Session 1 Course Introduction and Reviewing Management Accounting A Session 2 Job Order Costing and Process Costing B1.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 3 Job Order Costing and Process Costing B1.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 4 Job Order Costing and Process Costing B1.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 5 Job Order Costing and Process Costing B1.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 6 Operating Budget B2.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 7 Operating Budget B2.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 8 Operating Budget B2.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 9 Operating Budget B2.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 10 Flexible Budget and Variance Analysis B3.1 [Media-based class (On-demand type)] Session 11 Flexible Budget and Variance Analysis B3.2 [Media-based class (On-demand type)] Session 12 Flexible Budget and Variance Analysis B3.3 [Media-based class (On-demand type)] Session 13 Flexible Budget and Variance Analysis B3.4 [Media-based class (On-demand type)] Session 14 Revision [Media-based class (On-demand type)]			
3. 履修上の注意 Registration Requirement: Students are required to have completed foundation courses for Financial Accounting and knowledge that has been acquired in Management Accounting A. The pre-recorded lecture videos will become available before Friday of the relevant week.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Pre-recorded lectures and the lecture slides are available for this course. They will become available via the course website. Students are expected to go through those materials during the relevant week. The sample solutions for the workshop questions will also become available so students are strongly encouraged to attempt those questions. In addition, students are welcome to make queries to the lecturer via email (rg00002@meiji.ac.jp).			
5. 教科書 NA.			
6. 参考書 Journal articles, Management Accounting: Information for Creating and Managing Value (ISBN: 0070997608)			
7. 課題に対するフィードバックの方法 By email and other online tools.			
8. 成績評価の方法 Weekly assessment piece/s (50%) and exam/s (50%). Detailed information on the assessment pieces and the exam will be provided by the lecturer on the first week of the semester.			
9. その他 NA			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC351J		
科目名		経営分析論 A		
担当者		平屋 伸洋		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
〈授業の概要〉 経営分析とは、株主・投資家、債権者、取引先などの企業外部の者と、経営管理者やそのスタッフなどの企業内部者が、主に財務諸表を資料として企業経営の状況について把握しようとするものである。本授業では、経営分析のうちで収益性分析の方法を修得することを目的とする。 〈到達目標〉 本授業の到達目標は、実際の財務諸表を用いて、当該企業の収益性に関する諸比率を計算し、それについて各自が所見を提示できるようになることである。またアクティブラーニングを通じて、所見をプレゼンテーションしたり、ディスカッションできるようになることである。				
2. 授業内容				
本授業の具体的な講義展開は下記のとおりである。 第1回 インTRODakション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 収益性①の分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 収益性①のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第4回 収益性①による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第5回 収益性②の分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 収益性②のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第7回 収益性②による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第8回 収益性③の分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 収益性③のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第10回 収益性③による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第11回 収益性④の分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 収益性④のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第13回 収益性④による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第14回 総括〔メディア授業（オンデマンド型）〕				
3. 履修上の注意				
日商簿記検定 3 級レベルが必須である。また、事前にあるいは同時に財務諸表論や現代会計基準論を履修することが望ましい。加えて、本授業はアクティブラーニングを取り入れる。履修者同士のチームを複数編成し、各チームごとにグループワークやディスカッション、プレゼンテーション、相互評価を行う予定である。そのため、履修者には積極的な授業参加と、所属するチームへの貢献や密接なコミュニケーションが強く求められる。詳細については第 1 回のイントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕にて説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
予習はとくに必要ないが、授業で取り上げた箇所の復習を 1 時間程度、丁寧に行うこと。なお、授業で取り上げた配布資料については Oh-o! Meiji にアップロードする。				
5. 教科書				
教科書の指定はない。毎週パワーポイントにより授業を進行する。なお、授業で取り上げたパワーポイント資料については Oh-o! Meiji にアップロードする。				
6. 参考書				
青木茂男『要説 経営分析〔五訂版〕』森山書店、2016 年。 桜井久勝『財務会計講義（第 26 版）』中央経済社、2025 年。 桜井久勝『財務諸表分析〔第 9 版〕』中央経済社、2024 年。 森久・関利恵子・長野史麻・徳山英邦・蔣飛鴻・平屋伸洋『財務分析からの会计学 第三版』森山書店、2015 年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
プレゼンテーションおよびディスカッションを行う授業回に、各チームのプレゼンテーションに対してコメントやフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法				
成績については以下の基準に従って評価する。なお、出席状況が芳しくない者や期末レポート未提出の者については、成績評価の対象としない。 ① 平常点（グループワークの参加状況・相対評価、プレゼンテーションおよびディスカッションの内容など）：80％ ② 期末レポート課題：20％				
9. その他				
とくになし。				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC351J		
科目名		経営分析論B		
担当者		平屋 伸洋		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
（授業の概要） 経営分析とは、株主・投資家、債権者、取引先などの企業外部の者と、経営管理者やそのスタッフなどの企業内部者が、主に財務諸表を資料として企業経営の状況について把握しようとするものである。本授業では、経営分析のうちで安全性分析の方法と企業価値の評価を修得することを目的とする。 （到達目標） 本授業の到達目標は、実際の財務諸表を用いて、当該企業の安全性や企業価値に関する諸比率を計算し、それについて各自が所見を提示できるようになることである。またアクティブラーニングを通じて、所見をプレゼンテーションしたり、ディスカッションできるようになることである。				
2. 授業内容				
本授業の具体的な講義展開は下記のとおりである。 第1回 イントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回 安全性①による分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回 安全性①のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第4回 安全性①による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第5回 安全性②による分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回 安全性②のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第7回 安全性②による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第8回 安全性③による分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回 安全性③のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第10回 安全性③による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第11回 企業価値評価指標による分析方法〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回 企業価値評価指標のアクティブラーニング〔対面授業（グループワーク）〕 第13回 企業価値評価指標による分析のプレゼンテーションおよびディスカッション〔対面授業〕 第14回 総括〔メディア授業（オンデマンド型）〕				
3. 履修上の注意				
日商簿記検定3級レベルが必須である。また、事前にあるいは同時に財務諸表論や現代会計基準論を履修することが望ましい。加えて、本授業はアクティブラーニングを取り入れる。履修者同士のチームを複数編成し、各チームごとにグループワークやディスカッション、プレゼンテーション、相互評価を行う予定である。そのため、履修者には積極的な授業参加と、所属するチームへの貢献や密接なコミュニケーションが強く求められる。詳細については第1回のイントロダクション〔メディア授業（オンデマンド型）〕にて説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
予習はとくに必要ないが、授業で取り上げた箇所の復習を1時間程度、丁寧に行うこと。なお、授業で取り上げた配布資料についてはOh-o! Meiji にアップロードする。				
5. 教科書				
教科書の指定はない。毎週パワーポイントにより授業を進行する。なお、授業で取り上げたパワーポイント資料についてはOh-o! Meiji にアップロードする。				
6. 参考書				
青木茂男『要説 経営分析〔五訂版〕』森山書店、2016年。 桜井久勝『財務会計講義〈第26版〉』中央経済社、2025年。 桜井久勝『財務諸表分析〔第9版〕』中央経済社、2024年。 森久・関利恵子・長野史麻・徳山英邦・蔣飛鴻・平屋伸洋『財務分析からの会計学 第三版』森山書店、2015年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
プレゼンテーションおよびディスカッションを行う授業回に、各チームのプレゼンテーションに対してコメントやフィードバックを行う。				
8. 成績評価の方法				
成績については以下の基準に従って評価する。なお、出席状況が芳しくない者や期末レポート未提出の者については、成績評価の対象としない。 ① 平常点（グループワークの参加状況・相対評価、プレゼンテーションおよびディスカッションの内容など）：80％ ② 期末レポート課題：20％				
9. その他				
とくになし。				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC391J		
科目名		環境会計論 A		
担当者		千葉 貴律		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 会計が環境問題をはじめとする社会的課題に取り組むことについての意義並びに手法、そこで期待される役割や克服すべき問題点などについて、環境会計・環境マネジメントへの取組みを中心に検討します。 2026 年改訂予定の ISO 環境マネジメントシステム規格では、ライフサイクルの視点にもとづく戦略的な方向性の強化など、規格要求事項の見直しに加えられ、各種経営管理ツールとの整合が必須となってきます。また情報開示の面では、国際統合報告＜IR＞プラットフォームにもとづく開示が進展するとともに、2025 年 3 月に発行された「SSBJ サステナビリティ開示基準（ユニバーサル基準、一般開示基準、気候関連開示基準）」の適用も始まり、財務及び非財務の両面にわたって制度化が進んできています。これらの検討を通じ、何が目指され、どのような会計的な貢献に結び付いていくのかを、実践的な観点から考察して欲しいと思います。 〈到達目標〉 環境会計の基本的仕組み・機能、企業の実践に関する基礎知識の修得を目標とします。				
2. 授業内容 第 1 回 序論—環境会計とは何か：環境と会計の接点 第 2 回 環境報告の意義と態様 第 3 回 環境報告の概念的基礎 第 4 回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ（1）：ガバナンス 第 5 回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ（2）：戦略 第 6 回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ（3）：リスク管理 第 7 回 サステナビリティ関連情報のコア・コンテンツ（4）：指標及び目標 第 8 回 サステナビリティ関連の財務情報 第 9 回 TCFD の概要 第 10 回 第三者保証の基礎 第 11 回 第三者保証の実務 第 12 回 Carbon Pricing（1）：環境税と排出量取引 第 13 回 Carbon Pricing（2）：カーボンクレジットとカーボンオフセット 第 14 回 まとめ				
3. 履修上の注意 環境問題に対しては、会計によるアプローチよりも先に、科学技術開発や社会イノベーション、経済理論・経済政策、社会制度や国内外の法規制・国際的スキームなどが試行され、先行して取り組まれています。会計はそれらの後追いの側面もあるので、まずは環境問題への取り組みについて関心を持ってください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業だけで環境問題のすべての内容を紹介・解説することは困難です。環境関連の課題や取組事項、概念等を事前・事後に文献等で調べてください。特に、気候変動枠組み条約等を巡る国際的な動向は、しばしばニュース報道されていますから、それらについてもチェックをしてください。参考となりそうなニュース記事や資料等については、Oh-o! Meiji を通じて紹介します。				
5. 教科書 特に指定しません。 授業で参照する資料については、その都度配布します。				
6. 参考書 ①SSBJ（2025）「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」 ②SSBJ（2025）「サステナビリティ開示テーマ別基準第 1 号 一般開示基準」 ③SSBJ（2025）「サステナビリティ開示テーマ別基準第 2 号 気候関連開示基準」 ④IFRS S1（2023）, “General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information”, ISSB. ⑤IFRS S2（2023）, “Climate-r				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。 定期試験については、授業終了後となるので、Oh-o! Meiji 等を通じた講評となります。				
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間 14 回のうち、10 回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC391J		
科目名		環境会計論 B		
担当者		千葉 貴律		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 環境会計は、企業等が行う環境保全活動や気候変動対応に関する情報を認識・測定・伝達するもので、環境問題という社会的課題へアプローチする手法として検討されてきました。その機能は、組織内部におけるマネジメントのためツールとして機能のほか、組織外部の多様な利害関係者の期待やニーズに応えるための手法にもなっています。 そこで、この授業では、環境会計の基本的特性にもとづき、国際的動向を参照しつつ、伝統的企業会計と環境会計の体系の異同、循環型経済社会と環境経営との関連性、さらにマネジメント・ツールとしての有用性などついて、実践的な観点から検討することとします。 〈到達目標〉 環境管理会計の基礎となる概念と具体的な手法を修得することを目標とします。				
2. 授業内容 第1回 序論：環境マネジメント会計入門 第2回 環境会計の歩み (Part1)：社会責任会計の展開 第3回 環境会計の歩み (Part1)：事例研究・水俣病 第4回 環境会計の歩み (Part2)：環境マネジメントと環境監査 第5回 環境会計の歩み (Part2)：WBCFD と国際標準化 第6回 環境会計の歩み (Part3)：USEPA のアプローチ 第7回 環境会計の歩み (Part3)：ライフサイクル思考 第8回 環境省環境会計ガイドラインのフレームワーク 第9回 環境省環境会計ガイドラインの演習 第10回 マテリアルフローコスト会計 (1)：原理と基本要素 第11回 マテリアルフローコスト会計 (2)：ケーススタディ 第12回 環境効率・ファクター指標 第13回 環境品質原価計算の基礎 第14回 まとめ				
3. 履修上の注意 環境問題に対しては、会計によるアプローチよりも先に、科学技術開発や社会イノベーション、経済理論・経済政策、社会制度や国内外の法規制・国際的スキームなどが試行され、先行して取り組まれています。 会計はそれらの後追いの側面もあるので、まずは環境問題への取り組みについて関心を持ってください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業だけで環境問題のすべての内容を紹介・解説することは困難です。環境関連の課題や取組事項、概念等を事前・事後に文献等で調べてください。 特に、気候変動枠組み条約等を巡る国際的な動向は、しばしばニュース報道されていますから、それらについてもチェックをしてください。参考となりそうなニュース記事や資料等については、Oh-o! Meiji を通じて紹介します。				
5. 教科書 特に指定しません。 授業で参照する資料については、その都度配布します。				
6. 参考書 ①SSBJ (2025)「サステナビリティ開示ユニバーサル基準」 ②SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第1号 一般開示基準」 ③SSBJ (2025)「サステナビリティ開示テーマ別基準第2号 気候関連開示基準」 ④IFRS S1 (2023), "General Requirement for Disclosure of Sustainability-related Financial Information", ISSB. ⑤IFRS S2 (2023), "Climate-r				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。 定期試験については、授業終了後となるので、Oh-o! Meiji 等を通じた講評となります。				
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間 14 回のうち、10 回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題 (50%) と、定期試験 (50%) で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC381J		
科目名		税務会計論 A		
担当者		金子 友裕		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 法人税法における課税所得計算は、確定決算主義に基づき企業会計の利益計算に基づくことから税務会計と呼ぶことがある。税務会計論基礎及び税務会計論応用を通じて、法人税法における課税所得計算の各項目を学習し、基本的な申告書の作成練習を行うことで、税務会計の理論的内容の理解及び実践的技術の習得を目的とする。 税務会計論基礎では、日本の税法を概観し、法人税における課税所得計算の基礎的な内容を学習する。 なお、法人税法に従った処理は、経理業務において必須のスキルとなると考えられるので、金融業界や経理職等への進路を考えている学生はしっかりと学習してもらいたい。 〈到達目標〉 1. 税務会計の概要について理解し、説明できる。 2. 日本の税法の種類と特徴を理解し、説明できる。 3. 法人税法における税務調整項目を理解し、正しく処理することができる。				
2. 授業内容 第1回 税務会計の概要及びイントロダクション 第2回 所得税法の概要 第3回 相続税法の概要 第4回 納税義務者、事業年度等 第5回 確定決算主義、青色申告制度等 第6回 法人税法における課税所得計算の概要 第7回 益金の額及び損金の額 第8回 交際費等 第9回 寄附金（一般寄附金） 第10回 寄附金（指定寄附金等） 第11回 同族会社 第12回 役員給与 第13回 課税所得計算の確認 第14回 別表四及び別表一の作成・期末試験 ※学生の要望や進捗等により変更する場合がある。				
3. 履修上の注意 内容の理解には、初歩的な簿記の知識（簡単な仕訳程度）が必要である。 本講義は、基本的に講義形式で行い、最終的に試験を行う予定である。本講義では、理論的学習のみならず、法人税法の申告書の作成に関する内容も含む。計算処理も含まれるため、電卓を持参すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当部分を予め読んでおくことを推奨するが、基本的に事後学習により講義内容を再確認してもらいたい。 事前学習及び事後学習の取組時間の目安は合わせて 60 分程度である。				
5. 教科書 金子友裕『法人税法入門講義』第 10 版，中央経済社（2026 年 3 月頃に出版予定，2,800 円程度）				
6. 参考書 全国経理教育協会『法人税法能力検定試験 2 級 最新過去問題集』（例年 7 月頃発刊予定，2,200 円程度）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業内容の復習となる内容とし、テキスト又は配布資料等を参照すれば各自で確認可能なものとする予定である。適宜、典型的な間違い等の指摘によりフィードバックを行う予定である。				
8. 成績評価の方法 平常点（課題・レポート等）：30%程度 期末試験：70%程度				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC381J	
科目名		税務会計論 B	
担当者		金子 友裕	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 法人税法における課税所得計算は、確定決算主義に基づき企業会計の利益計算を基礎とすることから税務会計と呼ぶことがある。法人税法における課税所得計算の各項目を学習し、基本的な申告書の作成練習を行うことで、税務会計の理論的内容の理解及び実践的技術の習得を目的とする。 税務会計論 B では、法人税における課税所得計算のプロセスを学習し、基本的な内容の申告書の作成を行う。 (到達目標) 1. 税務会計の概要について理解し、説明できる。 2. 法人税法における税務調整項目を理解し、正しく処理できる。 3. 法人税法における課税所得算定のプロセスを理解し、基本的な内容の申告書が作成できる。			
2. 授業内容 第1回 税務会計の概要及びイントロダクション 第2回 消費税法の概要 第3回 別表四・別表一の作成 第4回 租税公課 第5回 受取配当等の益金不算入、所得税額控除 第6回 有価証券 第7回 棚卸資産 第8回 減価償却（基礎的な計算） 第9回 減価償却（繰越償却超過額等の計算） 第10回 圧縮記帳 第11回 繰延資産 第12回 貸倒損失、貸倒引当金 第13回 その他の税務調整 第14回 法人税の申告書の作成・期末試験 ※学生の要望や進捗等により変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 内容の理解には、初歩的な簿記の知識（簡単な仕訳程度）が必要である。また、税務会計論 A から引き続く内容である。 本講義は、基本的に講義形式で行い、最終的に試験を行う予定である。本講義では、理論的学習のみならず、法人税法の申告書の作成に関する内容も含む。計算処理も含まれるため、電卓を持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキストの該当部分を予め読んでおくことを推奨するが、基本的に事後学習により講義内容を再確認してもらいたい。 事前学習及び事後学習の取組時間の目安は合わせて 60 分程度である。			
5. 教科書 金子友裕『法人税法入門講義』第 10 版、中央経済社（2026 年 3 月頃に出版予定、2,800 円程度）			
6. 参考書 全国経理教育協会『法人税法能力検定試験 2 級 最新過去問題集』（例年 7 月頃発刊予定、1,300 円程度）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業内容の復習となる内容とし、テキスト又は配布資料等を参照すれば各自で確認可能なものとする予定である。適宜、典型的な間違い等の指摘によりフィードバックを行う予定である。			
8. 成績評価の方法 平常点（課題・レポート等）：30%程度 期末試験：70%程度			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC391J	
科目名		公会計論 会計学科・公共経営学科共同設置	
担当者		東 信男	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 公会計とは、公的部門の会計のことである。本授業では、我が国における公会計の全体像を把握できるように、国及び地方公共団体に 加え、国の政策実施機関である独立行政法人と、地方公共団体が経営する地方公営企業を取り上げる。国及び地方公共団体の公会計制度 は、現金主義・単式簿記を採用しているが、説明責任の履行、財政活動の効率化等を図るうえで課題があることから、近年、公会計改革が 行われ、発生主義等の企業会計の手法が導入された。一方、独立行政法人及び地方公営企業の公会計制度は、発生主義・複式簿記を採用し ているが、企業会計とは異なる会計処理が行われている。 本授業では、国及び地方公共団体について、公会計の現行制度について解説するとともに、公会計改革の背景にある現行制度の課題を 論じる。そして、国及び地方公共団体で行われた公会計改革を取り上げ、新たに作成されるようになった財務書類について解説するととも に、発生主義会計情報の活用事例を紹介する。また、独立行政法人及び地方公営企業について、制度設計とともに、それを反映させた公会 計の現行制度について解説する。 (到達目標) 我が国の公会計制度、国及び地方公共団体の公会計改革について専門的知識を体系的に習得すること。また、発生主義会計情報を用い た財政分析を行い、実践的な問題発見・解決能力を習得すること。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション b：国の財政状況 第2回 公会計の枠組み 第3回 国の予算・決算制度 第4回 国の財産管理制度 第5回 国の政策評価制度 第6回 国の公会計改革（1） 第7回 国の公会計改革（2） 第8回 独立行政法人の公会計制度 第9回 地方公共団体の予算・決算制度と財産管理制度 第10回 地方公共団体の公会計改革（1） 第11回 地方公共団体の公会計改革（2） 第12回 地方公営企業の公会計制度 第13回 課題（財政分析）の発表と討論 第14回 a：定期試験 b：正答解説			
3. 履修上の注意 本授業は、対話型及び問題発見・解決型教育の手法を採用するので、受講生への質問、発表及び討論を実施する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第2回以降の授業は、テキストに沿って行うので、授業中の質疑応答に参加できるように、予習として該当章を読了するとともに、当該 章末にある演習の解答を作成すること。授業では、各章の内容を具体的に説明したり、演習の解答を解説したりするので、ノートを取り、 復習として演習とノートを照らし合わせながら試験対策を行うこと。			
5. 教科書 担当教員が作成したテキスト「公会計の理論と制度－公会計制度と国際公会計基準（IPSAS）－」を使用する。Oh-o! Meiji のクラスウェ ブにテキストをアップロードするので、ダウンロードして授業に持参すること。テキスト以外の資料も全てクラスウェブにアップロード するので、ダウンロードして授業に持参すること。			
6. 参考書 テキストの参考文献を参照すること。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、授業中に受講生の発表に対して講評を行うので、講評内容を反映させた最終報告を提出すること。定期試験については、 第14回のbモジュールで正答解説と講評を行う。			
8. 成績評価の方法 授業への貢献度（20%）、課題（20%）及び期末試験（60%）により評価する。			

9. その他

この授業は、担当教員の実務経験を活かした実践的な内容になっている。

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC391J		
科目名		N P O 会 計 論 会計学科・公共経営学科共同設置		
担当者		石津 寿恵		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 授業は対面で行いますが、公務等の関係で数度メディア授業を採り入れることもあり得ます。いずれの場合もクラスウェブでお知らせしますのでご確認をお願いします。 〈概要〉 「新しい資本主義」ということが言われていますが、様々な社会的課題解決のために民が取組む公益サービスは益々重要度を増しています。とりわけ非営利組織体の活動への期待は一層高まっています。 非営利組織（NPO）は、営利組織（株式会社等）とは異なり利益の獲得を主たる目的とする組織体ではありません。しかし、NPO も組織である以上、資金を適切に管理するとともに、資金提供者に対して説明責任を果たしていく必要があります。そのためのツールが会計となります。当講義では、NPO の活動をお金の面から理解するようにします。 NPO にはプライベートセクター（公益法人、学校法人、医療法人、特定非営利活動法人など）と、パブリックセクター（地方自治体など）がありますが、本講義はこのうちプライベートセクターを取り上げ、セクターの機能、会計の目的、会計基準などについて検討します。検討に当たっては、実際に存在する組織の情報をを用いていきます。 また、アメリカにおける NPO 会計なども比較考量していきます。 〈到達目標〉 様々な NPO の会計の基礎を修得することにより、社会的課題を解決す目ための NPO の活動を会計の面から理解する。				
2. 授業内容 第1回：講義の概要 第2回：情報開示と資金調達 第3回：公益法人制度・会計（概要） 第4回：公益法人会計（事例） 第5回：NPO 法人制度・会計（概要） 第6回：NPO 会計(事例) 第7回：授業時間内レポート作成 第8回：非営利法人の税務 第9回：学校法人制度・会計（概要） 第10回：学校法人会計(事例) 第11回：授業時間内レポート作成 第12回：社会福祉法人制度・会計（概要） 第13回：非営利組織会計の国際的動向 第14回：授業のまとめ				
3. 履修上の注意 NPO 会計の理解を深めるため、2 回のグループワークによるレポート作成を行います。グループでレポートを作成するので積極的に参加していただきたいと思います(ただし、教室での作成が基本ですが申請により個人による自宅作成も認めます)。 会計学科・公共経営学科、両学科の学科専門科目ですので、履修登録時は登録する科目区分に注意してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 NPO(公益法人、学校法人、社会福祉法人、特定非営利活動法人など)がどのような活動をしているのかについてイメージを持っておくと、授業にスムーズに入ることが出来ます。				
5. 教科書 石津寿恵他(2023)『非営利組織会計の基礎知識-寄付等の支援先を選ぶために-』（白桃書房）。				
6. 参考書 日本公認会計士協会編『非営利法人会計小六法』中央経済社 石崎忠司・黒川和美編著『公共性志向の会計学』中央経済社				
7. 課題に対するフィードバックの方法 クイズを取り入れますので、ご自分の理解度を確認しながら授業に取り組むことが出来ます。				
8. 成績評価の方法 平常点（40％）、授業時間内レポート作成（2 回）（各 30％）による。 期末試験はありません。				
9. その他 初回時に「授業の進め方」のプリントを配布するので熟読すること。 授業の進め方等に変更がある場合は、クラスウェブでお知らせしますので、確認をお願いします。				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC391J	
科目名		会計史 A	
担当者		森田 広大	
2 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 簿記（複式簿記）は、概ね 13 世紀～14 世紀頃、中世イタリア社会において商人たちによって生み出されたといわれている。中世イタリア社会を起源とする簿記システムは、商業の発展とともに世界各地へと伝播し、その地域の社会的特徴（産業、法制度など）を反映しながら発達してきた。各地で発達した簿記システムは、英米型（イギリスおよびアメリカで発達したもの）と大陸型（ヨーロッパ大陸で発達したもの）の 2 つに大別することができる。 会計史 A の授業では、主として英米型簿記システムの展開について、中世イタリアを出発点として、ネーデルラント、イギリスおよびアメリカを経て、我が国へ簿記システムがもたらされ、定着していく過程を講義する。 （到達目標） 中世イタリアにおいて誕生した簿記システムが、ネーデルラント、イギリスおよびアメリカを経て、我が国へもたらされるまでの過程について説明することができる。			
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション、重要用語の解説、英米ルートの概説 第 2 回 複式簿記の成立要件 第 3 回 中世イタリアにおける簿記 第 4 回 16 世紀～17 世紀のネーデルラントにおける簿記の展開 第 5 回 イギリスにおける簿記の摂取 ー16 世紀および 17 世紀前半のイギリス簿記書ー 第 6 回 イギリスにおける簿記の展開（1）ー17 世紀後半のイギリス簿記書ー 第 7 回 イギリスにおける荘園会計の展開 第 8 回 イギリスにおける簿記の展開（2）ー18 世紀イギリス簿記書ー 第 9 回 イギリスにおける簿記の展開（3）ー18 世紀における単式簿記の展開ー 第 10 回 アメリカにおける簿記の展開（1）ー19 世紀前半の簿記書ー 第 11 回 アメリカにおける簿記の展開（2）ー19 世紀後半の簿記書ー 第 12 回 我が国における英米型簿記システムの摂取 第 13 回 我が国における英米型簿記システムの展開（1）ー19 世紀後半～20 世紀前半の簿記書ー 第 14 回 我が国における英米型簿記システムの展開（2）ー20 世紀後半の簿記書ー			
3. 履修上の注意 簿記、財務会計および管理会計に関する基礎知識を身につけたうえで履修すること。また、授業内では計算する機会があるので、電卓を持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前に各回の授業内容のポイント（前提となる簿記、財務会計および管理会計の基礎知識ならびに歴史的背景）を説明するので、その内容を確認する。 復習：各回で配布されるレジュメを読み直し、内容をまとめる。			
5. 教科書 教科書は特に指定しない。授業内容をまとめたレジュメを配布する。			
6. 参考書 『アメリカ簿記史ーアメリカ会計史序説ー』久野光朗（同文館出版） 『近代会計史入門〔第 2 版〕』中野常男・清水泰洋編著（同文館出版） 『イギリス簿記史論 ー17 世紀イングランド簿記書の研究ー』森田広大（森山書店）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメントに関する総括を次の授業の冒頭で行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験 80％、リアクション・ペーパーの内容 20％により、総合的に評価する。			
9. その他 受講に際して、商業史や経済史の知識があると授業内容の理解が深まる。			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC391J	
科目名		会計史 B	
担当者		森田 広大	
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 簿記（複式簿記）は、概ね 13 世紀～14 世紀頃、中世イタリア社会において商人たちによって生み出されたといわれている。中世イタリア社会を起源とする簿記システムは、商業の発展とともに世界各地へと伝播し、その地域の社会的特徴（産業、法制度など）を反映しながら発達してきた。各地で発達した簿記システムは、英米型（イギリスおよびアメリカで発達したもの）と大陸型（ヨーロッパ大陸で発達したもの）の 2 つに大別することができる。 会計史 B の授業では、主として大陸型簿記システムの展開について、中世イタリアを出発点として、ネーデルラント、フランスおよびドイツを経て、我が国へ簿記システムおよび商法がもたらされ、定着していく過程を講義する。 （到達目標） 中世イタリアにおいて誕生した簿記システムが、ネーデルラント、フランスおよびドイツを経て、我が国へもたらされるまでの過程について説明することができる。			
2. 授業内容 第 1 回 オリエンテーション、重要用語の解説、大陸ルートの概説 第 2 回 16 世紀～17 世紀のフランスにおける簿記の展開 第 3 回 フランス商事王令とサヴァリーによる解説書 第 4 回 プロイセン一般国法成立前のドイツにおける簿記の展開（1） 第 5 回 プロイセン一般国法成立前のドイツにおける簿記の展開（2） 第 6 回 プロイセン一般国法の形成過程 第 7 回 プロイセン一般国法「商人の法」における会計規定 第 8 回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（単式簿記）の展開（1） 第 9 回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（単式簿記）の展開（2） 第 10 回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（複式簿記）の展開（1） 第 11 回 プロイセン一般国法成立後のドイツにおける簿記（複式簿記）の展開（2） 第 12 回 ドイツ商法と我が国における商法の導入 第 13 回 我が国における大陸型簿記システムの摂取 第 14 回 第二次世界大戦後の我が国における会計制度の展開			
3. 履修上の注意 簿記、財務会計および管理会計に関する基礎知識を身につけたうえで履修すること。また、授業内では計算する機会があるので、電卓を持参すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：事前に各回の授業内容のポイント（前提となる簿記，財務会計および管理会計の基礎知識ならびに歴史的背景）を説明するので、その内容を確認する。 復習：各回で配布されるレジュメを読み直し、内容をまとめる。			
5. 教科書 教科書は特に指定しない。授業内容をまとめたレジュメを配布する。			
6. 参考書 岸悦三（1975）『会計生成史－フランス商事王令会計規定研究－』同文館出版 百瀬房徳（1998）『貸借対照表法の生成史』森山書店			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメントに関する総括を次の授業の冒頭で行う。			
8. 成績評価の方法 期末試験 80％、リアクション・ペーパーの内容 20％により、総合的に評価する。			
9. その他 受講に際して、商業史や経済史の知識があると授業内容の理解が深まる。			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC381J		
科目名		法人税法 A		
担当者		加藤 友佳		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 租税は日常生活に深くかかわっていることから、その根拠法となる租税法は会計士や税理士等の専門職を目指す学生だけでなく、すべての納税者に必要な知識である。この講義では、法人税法について時事問題と関連する具体的事例を交えながら、法人税の基礎的概念を多角的に学習する。また、税理士職業紹介セミナーでは、複数の税理士をお招きし、税理士の資格取得方法や様々な働き方について知ることができる。 〈到達目標〉 本講義は、法人税法を企業側と課税庁側の双方の視点から学び、課税の法的理論を修得することを目標とする。				
2. 授業内容 第1回：国民の生活と租税 第2回：税理士職業紹介セミナー～税理士の生の声を聞こう 第3回：法人税と所得税 第4回：法人税の納税義務者 第5回：法人税法と企業会計 第6回：益金（1）有償譲渡と無償譲渡 第7回：益金（2）低額譲渡と別段の定め 第8回：中間テスト 第9回：損金（1）交際費 第10回：損金（2）役員給与 第11回：法人税額の計算 第12回：企業組織再編 第13回：同族会社と租税回避 第14回：a 講義全体のふりかえり b 試験				
3. 履修上の注意 私語厳禁。法律の前提知識がなくてもわかりやすいように、日常生活に結び付けながら法人税法を学習していきますが、法的思考を学ぶ姿勢を求めます。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第4版〕』（中央経済社、2025年）の該当箇所を予め一読しておき、前回までの授業内容との関連性を把握してください。				
5. 教科書 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第4版〕』（中央経済社、2025年）				
6. 参考書 授業中に適宜指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストの結果については次回授業中にコメントします。				
8. 成績評価の方法 中間テスト、期末テスト、税理士職業紹介セミナーでのリアクションペーパーの成績によって評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC381J		
科目名		法人税法 B		
担当者		加藤 友佳		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 経済のグローバル化やデジタル化に伴い、法人税法は最新の国際的取引への対応を求められており、有名企業に対する課税処分が新聞等で報道されることも少なくない。本講義では、租税法の花形といわれる法人の国際課税について、最新の話題を交えながら学習する。 〈到達目標〉 国際的な経済取引について法人税法の観点から理解し、時事問題と法人税の関係を考察できるようになることを目標とする。				
2. 授業内容 第1回：国際的な租税競争 第2回：租税の基本原則 第3回：実質所得者課税の原則 第4回：納税手続き 第5回：租税条約－国内ルールだけでは足りない？ 第6回：中間テスト 第7回：国内源泉所得 第8回：投資所得と源泉徴収－特許権に対する課税 第9回：国外事業所得－知らないうちに海外へネット注文！？ 第10回：タックスヘイブン対策税制 第11回：移転価格税制 第12回：課税権の確保 第13回：国際的企業再編 第14回：a 講義全体のふりかえり b 試験				
3. 履修上の注意 私語厳禁。法律の知識がなくてもわかりやすいように、日常生活に結び付けながら法人税法を学習していきますが、税法、法人税法 A の履修を前提とします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第4版〕』（中央経済社、2025年）の該当箇所を予め一読しておき、前回までの授業内容との関連性を把握してください。				
5. 教科書 水野忠恒編『テキストブック租税法〔第4版〕』（中央経済社、2025年）				
6. 参考書 授業中に適宜指示します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間テストの結果については次回授業中にコメントします。				
8. 成績評価の方法 中間テスト、期末テストの成績により評価します。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		会計学外国書講読 A 【使用言語：英語】		
担当者		千葉 貴律		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (授業の概要) 国際標準化機構（ISO）において国際規格（International Standard）として開発された「マテリアルフローコスト会計（MFCA）規格」（ISO14050s）を題材に、MFCA の手法の概要について習得するとともに、会計手法が国際規格化されるということがどのようなことなのかについて、考察します。 (到達目標) MFCA の概要についてマスターすることと、国際規格化を進めるプロセスについて理解することを目標とします。				
2. 授業内容 第 1 回 環境マネジメント国際規格の体系と経緯 第 2 回 MFCA の基本構造 第 3 回 Quick Reference to MFCA 第 4 回 MFCA 規格：Scope, Terms and Definitions 第 5 回 MFCA 規格：Objective and Principles 第 6 回 MFCA 規格：Fundamental Elements 第 7 回 MFCA 規格：Implementation Steps 第 8 回 Phased implementation in organizations (1) calculation phases 第 9 回 Phased implementation in organizations (2) MFCA summary sheet 第 10 回 Phased implementation in organizations (3) MFCA analiysis 第 11 回 Case Examples [1]: SME Food company 第 12 回 Case Examples [2]: SME agri-food sectoer 第 13 回 Case Examples [3]: NPO cost 第 14 回 まとめ				
3. 履修上の注意 MFCA についての事例紹介や実務解説は既に数多く公表されていますから、それらと国際規格との異同や実践することによって生じた成果に着目すると、国際規格を開発・策定する際のポイントに気づくことができます。 本授業は 1 クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。 詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ISO 規格の多くは、日本の国内規格（JIS）に採用され、国内規格としても適用されています。それゆえ、用語の訳語や使い方も統一されている点に留意してください。通常とは異なる定義や意味合いで用いられている場合もあります。				
5. 教科書 ① ISO14051：2011 Environmental Management - Material flow cost accounting — General framework ② ISO14052：2017 Environmental Management - Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain ③ ISO14053：2021 Environmental				
6. 参考書 MFCA に関する日本語文献はたくさん出版されており、事例紹介も少なくないので、特に指定はしません。 規格原文だけでわからないところは、それらを参照するのも学習の手助けになると思います。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。				
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間 14 回のうち、10 回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50％）と、定期試験（50％）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		会計学外国書講読B 【使用言語：英語】	
担当者		千葉 貴律	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (授業の概要) 国際標準化機構（ISO）において国際規格（International Standard）として開発された「マテリアルフローコスト会計（MFCA）規格」（ISO14051:2011）を題材に、MFCA のケーススタディを検討するとともに、それらの手法を運用するための環境マネジメント規格群（ISO14000s）の国際的動向について、考察します。 (到達目標) MFCA に関するケーススタディを掘り下げて理解することと、環境マネジメントの国際的な動向について、その方向性と手法について理解することを目標とします。			
2. 授業内容 第1回 MFCA の事例研究 第2回 MFCA 規格：MCA and Conventional Cost Accounting 第3回 MFCA 規格：Cost calculation and allocation 第4回 MFCA 規格：Material and efficiency in supply chain 第5回 MFCA 規格：Information-sharing on MFCA analysis 第6回 MFCA 規格：Steps for implementation of MFCA in a supply chain (1) 第7回 MFCA 規格：Steps for implementation of MFCA in a supply chain (2) 第8回 Case Examples [1]: lens manufacturing factory 第9回 Case Examples [2]: furniture manufacturing factory 第10回 Case Examples [3]: coffee bean manufacturing factory 第11回 Case Examples [4]: pharmaceutical industry 第12回 Case Examples [5]: peanut snack producer 第13回 EU 環境戦略 第14回 まとめ			
3. 履修上の注意 MFCA や EMS についての事例紹介や実務解説は既に数多く公表されていますから、それらと国際規格との異同や、運用事例相互の違いに留意してもらおうと、より深い理解につながると考えます。 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。 詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ISO 規格の多くは、日本の国内規格（JIS）に採用され、国内規格としても適用されています。それゆえ、用語の訳語や使い方も統一されている点に留意してください。通常とは異なる定義や意味合いで用いられている場合もあります。			
5. 教科書 ① ISO14051:2011 Environmental Management - Material flow cost accounting — General framework ② ISO14052:2017 Environmental Management - Material flow cost accounting — Guidance for practical implementation in a supply chain ③ ISO14053:2021 Environmental			
6. 参考書 MFCA に関する日本語文献はたくさん出版されており、事例紹介も少なくないので、特に指定はしません。 規格原文だけでわからないところは、それらを参照するのも学習の手助けになると思います。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業で行う小テストについては、次回授業で答え合わせやコメントを行います。			
8. 成績評価の方法 対面式授業であるので、全講義時間 14 回のうち、10 回以上の出席があることを評価の前提とします。 そのうえで、毎回の授業で行う小テスト・課題（50%）と、定期試験（50%）で評価します。 なお、定期試験では、電卓以外の資料その他の持ち込みは不可とします。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		会計学外国書講読 A 【使用言語：英語】	
担当者		森田 広大	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） 複式簿記は、中世イタリア社会で考案され、世界各地へと伝播した。複式簿記は、誕生から現代に至るまで、「取引の複式記録」という基本的な原理を貫いているものの、帳簿組織や記帳手続きについては改良が加えられている。 我が国は、明治期に西洋より簿記システムを導入した。当時の西洋における簿記教科書で解説された帳簿組織や記帳手続きについても現代日本における簿記教科書の記述とは異なる点が多数存在する。そこで、外国書講読 A では、我が国における複式簿記の導入に関係する英語文献のうち、『帳合之法』の原文である“Bryant And Stratton’s Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry”を精読し、現代簿記との比較を行う。また、明治期より約 150 年の間で、我が国（現代）で展開される複式簿記に加えられた改良点についても言及する。 （到達目標） 外国文献を翻訳し、その内容を理解したうえで、帳簿組織や記帳手続きについて、過去と現代の異同を説明できる。			
2. 授業内容 第 1 回 イン트로ダクション、講読対象となる文献が出版された時代背景の説明 第 2 回 複式簿記の用語 第 3 回 複式簿記の解説 第 4 回 記帳事例（SET I）の訳出 第 5 回 記帳事例（SET I）の考察 第 6 回 記帳事例（SET II）の訳出 第 7 回 記帳事例（SET II）の考察 第 8 回 記帳事例（SET III）の訳出 第 9 回 記帳事例（SET III）の考察 ー帳簿組織の考察を中心としてー 第 10 回 記帳事例（SET III）の考察 ー簿記処理および諸表の考察を中心としてー 第 11 回 記帳事例（SET IV）の訳出 第 12 回 記帳事例（SET IV）の考察 第 13 回 現代簿記との比較 第 14 回 a：試験 b：総まとめ			
3. 履修上の注意 本授業は 1 クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：指定された英文を和訳する。 復習：授業で扱った内容について現代日本の簿記テキストと比較し、その内容をまとめる。			
5. 教科書 “Bryant And Stratton’s Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry” by H.B.Bryant, H.D.Stratton and S.S.Packard (Iverson,Blakeman,Taylor & Company) ※授業で取り上げる箇所のコピーを配布する。			
6. 参考書 『アメリカ簿記史ーアメリカ会計史序説ー』久野光朗（同文館出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された和訳について、授業内でコメントする。			
8. 成績評価の方法 試験 50%、課題（翻訳）の取り組み 50%により、総合的に評価する。			
9. その他 履修者は第 1 回の授業に必ず出席し、受講のルールについて確認すること。			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)MAN391J	
科目名		会計学外国書講読B 【使用言語：英語】	
担当者		森田 広大	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈授業の概要〉 単式簿記から複式簿記へ展開したと認識されている傾向にあるが、歴史的には複式簿記が先行して生み出され、その簡略版として単式簿記が考案された。したがって、単式簿記は、簡便簿記（簡略化された複式簿記）として位置づけられる。現代の会計実務では、複式簿記による取引記録が主流であるものの、「簡易帳簿による記帳」として、単式簿記を採用している事業者もみられる。単式簿記による取引記録は様々な方法が想定されるため、この記録システムの基本的な考え方を理解しておくことが必要となる。また、単式簿記が複式簿記から派生したものであるため、単式簿記の仕組みを理解することは複式簿記の仕組みを理解するうえでも重要である。 そこで、我が国においては、明治期に西洋から複式簿記と同時に単式簿記の導入を試みている。この授業では、我が国における単式簿記の導入に関係する英語文献のうち、『帳合之法』の原文である“Bryant And Stratton’s Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry”を精読し、複式簿記と比較しつつ、単式簿記について検討を行うこととする。 〈到達目標〉 外国文献を翻訳し、その内容を理解したうえで、単式簿記の意義およびその記帳体系の多様性について説明することができる。			
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション、講読対象となる文献が出版された時代背景の説明 第2回 序文の訳出 第3回 序文の解説 第4回 記帳事例（SET I）の訳出 第5回 記帳事例（SET I）の考察 第6回 記帳事例（SET II）の訳出 第7回 記帳事例（SET II）の考察 第8回 記帳事例（SET III）の訳出 第9回 記帳事例（SET III）の考察 第10回 記帳事例（SET IV）の訳出 第11回 記帳事例（SET IV）の考察 第12回 単式簿記の多様性 第13回 単式簿記と複式簿記の比較 第14回 a：試験 b：総まとめ			
3. 履修上の注意 本授業は1クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：指定された英文を和訳する。 復習：授業で扱った内容を踏まえて、単式簿記と複式簿記の相違点をまとめる。			
5. 教科書 “Bryant And Stratton’s Common School Book-keeping Embracing Single And Double Entry” by H. B. Bryant, H. D. Stratton and S. S. Packard (Iverson, Blakeman, Taylor & Company) ※授業で取り上げる箇所のコピーを配布する。			
6. 参考書 『アメリカ簿記史ーアメリカ会計史序説ー』久野光朗（同文館出版）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された和訳について、授業内でコメントする。			
8. 成績評価の方法 試験 50%、課題（翻訳）の取り組み 50%により、総合的に評価する。			
9. その他 履修者は第1回の授業に必ず出席し、受講のルールについて確認すること。			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) MAN391J		
科目名		会計学外国書講読 A 【使用言語：英語】		
担当者		森光 高大		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 「概要」 本講義では管理会計についての英語の文献を購読します。内容としては基礎的な入門書ですが、ただ読んで翻訳するだけでなく、内容についての考察やディスカッションなどを通じた学習も併せて行います。 「到達目標」 管理会計に関する専門知識をある程度理解したうえで、基礎的な英文をスムーズに日本語訳できることを目標とします。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション 第2回 英文(1)の読解 第3回 英文(1)の考察と内容解説 第4回 英文(1)に関するディスカッション 第5回 英文(2)の読解 第6回 英文(2)の考察と内容解説 第7回 英文(2)に関するディスカッション 第8回 英文(3)の読解 第9回 英文(3)の考察と内容解説 第10回 英文(3)に関するディスカッション 第11回 英文(4)の読解 第12回 英文(4)の考察と内容解説 第13回 英文(4)に関するディスカッション 第14回 総まとめ				
3. 履修上の注意 講義内で課題等を提示することもあります。また、講義内で内容に関する設問を出題します。 本授業は1 クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に資料を配付いたしますので、あらかじめ次週の範囲の専門用語の意味等を調べてください。				
5. 教科書 英文は主に Hormgren et al. (2022) Introduction to Management Accounting, Global Edition のものを使用しますが、該当部分をコピーして講義内で配布いたします。				
6. 参考書 特に指定しません。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業で提示する設問については、次回の講義で解説やコメントを行います。また、oh!meiji を使用したフィードバックを行う場合もあります。				
8. 成績評価の方法 対面形式の講義ですので、一定以上の出席を単位認定の前提とします。 定期試験は実施しませんが、講義内での課題への取り組み 40%、ディスカッションへの参加 30%、設問への解答 30%をもって、総合的に成績評価(100%)を行います。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) MAN391J		
科目名		会計学外国書講読B【使用言語：英語】		
担当者		森光 高大		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 本講義では管理会計についての英語の文献を購読します。内容としては基礎的な入門書ですが、ただ読んで翻訳するだけでなく、輪読や、内容についてのディスカッションなどを通じた学習を行います。 「到達目標」 管理会計に関する専門知識をある程度理解したうえで、基礎的な英文をスムーズに日本語訳できることを目標とします。				
2. 授業内容 第1回 インTRODダクシヨN 第2回 英文(5)の読解 第3回 英文(5)の考察と設問解答 第4回 英文(5)の解説 第5回 英文(5)に関するディスカッション 第6回 英文(6)の読解 第7回 英文(6)の考察と設問解答 第8回 英文(6)の解説 第9回 英文(6)に関するディスカッション 第10回 英文(7)の読解 第11回 英文(7)の考察と設問解答 第12回 英文(7)の解説 第13回 英文(7)に関するディスカッション 第14回 総まとめ				
3. 履修上の注意 講義内で課題等を提示することもあります。また、講義内で内容に関する設問を出題します。 本授業は1 クラスあたりの受講人数制限があるので、履修に際しては事前登録が必要です。詳細は、「経営学部履修の手引」を参照してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に資料を配布いたしますので、次回講義までに該当範囲の専門用語の意味等を調べてください。				
5. 教科書 英文は主に Horngren et al. (2022) Introduction to Management Accounting, Global Edition のものを使用しますが、該当部分をコピーして配布いたします。				
6. 参考書 特に指定しません。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題や講義中の設問については次回講義で解説を行います。また、oh!meiji を使用したフィードバックを行うこともあります。				
8. 成績評価の方法 一定以上の出席があることを単位認定の要件とします。 期末試験は実施しませんが、課題への取組み(40%)、ディスカッションへの参加(30%)、設問への解答(30%)をもって、総合的に成績評価(100%)を行います。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC991J		
科目名		会計プロセミナーA		
担当者		浅見 透		
2 単位	1 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：初学者のための法人税入門講座 〈授業の概要〉 本授業は、税理士、公認会計士、経理部長、経理部員などの職業会計人を目指している人だけでなく、職業会計人とはどのような職業なのかに興味を持っている人も対象にした法人税初学者のための入門講座です。 職業会計人は、会計、税務、経営等の幅広い分野における知識を身につけ、企業経営の実務の中でそれを実践することを職務としています。 また、企業は目の前の利益目標の達成だけでなく、将来の設備投資や人材確保のために、中長期的な資金計画をたてる必要があります。 その資金計画の立案には、税務、特に法人税の知識が必要不可欠となります。 しかし、法人税の計算はとても複雑で、毎年の税制改正の対応が難しいといわれています。 そのため、本授業では、講師が本授業のために執筆した著書「はじめての法人税」をテキストとして使い、法人税法の基礎の基礎からわかりやすく授業を進めていきます。 加えて、現職の開業税理士である講師の経験を活かし、実務現場での法人税の事例を示しながら、具体的かつリアルに解説していきます。 これにより、初心者であっても法人税の基本構造と計算基礎を身につけることができます。 また、毎回の授業終了時に配布する授業内容をまとめたミニ課題を解くことによって、更に授業内容の理解が深まります。 (到達目標) 本授業の到達目標は、職業会計人にとって必要な法人税法の基礎知識を習得すること及び実務的な税務判断の基礎を理解することです。				
2. 授業内容 第 1 回 日本の租税の概要、公認会計士・税理士の違い 第 2 回 法人税の法体系、法人税等の分類 第 3 回 法人税の課税標準 第 4 回 法人税申告書と申告調整 第 5 回 法人税法の総則 第 6 回 収益の認識基準と益金の額の税務その 1 第 7 回 収益の認識基準と益金の額の税務その 2 第 8 回 受取配当等の益金不算入の税務 第 9 回 役員給与の税務 第 10 回 租税公課の税務・手続規定 第 11 回 寄附金の税務 第 12 回 交際費等の税務 第 13 回 税額控除と法人と税額計算 第 14 回 期末課題と授業のまとめ				
3. 履修上の注意 税法をはじめて学習する履修者を対象として、法人税の基礎の基礎から詳細に解説を行います。 ただし、日商簿記 3 級程度の簿記・会計学の知識を必要とします。 本授業用に講師が執筆したテキストを使って、最初の授業時に配布する「講義進行予定表」に従って授業を進めていきます。 授業中にテキストの重要箇所にマーカー等で色塗り等を指示しますので、電子書籍でなく紙の書籍の購入を推奨します。 ミニ課題は、毎回の授業終了時に配布し、原則として、翌々授業時に回収します。 また、ミニ課題は、各授業終了後に「oh-o!Meiji」にも掲載します。 テキストに沿って進められる授業内容が理解できれば、ミニ課題は必ず解答できる内容になっています。 なお、ミニ課題の提出により出欠の有無を管理します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「講義進行予定表」に記載している次の授業のテキストの範囲について、目を通しておくことで授業内容の理解がより深まります。 各授業の終了後に配布するミニ課題を、授業内容を思い出し、その範囲のテキストを参考にして解くことが復習となります。 ミニ課題は、原則として、翌々授業時に回収します。				
5. 教科書 『はじめての法人税』 税理士 浅見透 著 (日本法令) 各授業時に必要に応じて配布する講師作成のレジュメ（各授業終了後に「oh-o!Meiji」にも掲載します。）				
6. 参考書 なし				

7. 課題に対するフィードバックの方法

各授業終了後に配布（oh-o!Meiji にも掲載）するミニ課題を解いて、原則として、翌々授業までに提出してもらいます。提出されたミニ課題は採点、出欠の記録をした上で、模範解答を添えて一定期間ごとに返却します。

8. 成績評価の方法

出席を前提に、各講義の終了後に配布するミニ課題（85%）、期末課題（15%）によって評価します。

9. その他

なし

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC996J	
科目名		会計プロセミナーC〔M〕	
担当者		小俣 光文	
2 単位	1 年次	春学期	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：監査制度 (授業の概要) 本講は、わが国における公認会計士による監査制度について正しく理解することを目的とする。そのために、監査基準や実務指針に関する概説書の講読だけでなく、株式会社が財務報告に利用する財務諸表の監査についての基礎についても学ぶ。さらに、公認会計士監査制度に関する国家試験の問題を用いた演習も行う。 (到達目標) わが国の金融商品取引法の下における監査制度について正しく理解し、公認会計士試験の短答式問題を解答できる知識を習得する。			
2. 授業内容 第1回：監査基準〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第2回：監査人の適格性〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第3回：監査人の責任〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第4回：重要な虚偽の表示〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第5回：監査リスク〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第6回：監査計画〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第7回：不正リスク対応基準〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第8回：内部統制〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回：監査手続〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回：監査要点〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回：意見表明の基礎〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回：監査報告書〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回：内部統制監査〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回 a のみ：まとめ〔メディア授業（オンデマンド型）〕			
3. 履修上の注意 この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、講義動画を Oh-o! Meiji システムを通じて配信するオンデマンド型で行う。講義動画は原則毎週金曜日に Oh-o! Meiji システムを通じて配信し、授業動画は当該学期中の視聴を可能とする。なお、毎回の講義動画に対して、小テストを実施し出席確認及び理解度確認を行う。また、Oh-o! Meiji クラスウェブのディスカッション機能を活用し、意見交換の場を設ける。教員への質問・相談窓口として、専用メールアドレスを履修者に通知する。 また、直接仕訳等をするわけではないが、会計に関する知識があることを前提に講義をするので会計関連科目を履修しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 (事前学習) 事前に各単元の範囲の監査基準・実務指針に目を通して概要を把握しておくこと。 (事後学習) 今回受講した内容をまとめて復習し、関連する問題を解くこと。			
5. 教科書 各回レジュメを配布する			
6. 参考書 金融庁公表の以下の基準 ・監査基準 ・内部統制基準 日本公認会計士協会公表の以下の実務指針 ・監査基準委員会報告書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh! Meiji をとおしてコメントするとともに配信する動画において講評を行う。			
8. 成績評価の方法 毎回講義内でミニテストを実施し、毎回のミニテストの成績によって評価する。			
9. その他 監査基準の改訂等の状況に応じて各回のテーマを変更する場合がある。			

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC991J		
科目名		会計学特別講義 A		
担当者		苅米 裕		
2 単位	1 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
テーマ：税理士、公認会計士、税務職員、企業の財務経理担当等の職業に興味がある者に対する税法の基礎知識				
2. 授業内容				
第1回 税理士になるには、税理士会の組織、税理士の使命、税理士業務と税法の知識を生かす業務				
第2回 租税法の基礎知識				
第3回 消費税法1 消費税法の概要				
第4回 消費税法2 消費税法に関する身近な実務の話題				
第5回 消費税法3 消費税法に関する裁判例等の検討				
第6回 法人税法1 法人税法の概要（中間課題）				
第7回 法人税法2 法人税法に関する身近な実務の話題				
第8回 法人税法3 法人税法に関する裁判例等の検討				
第9回 所得税法1 所得税法の概要				
第10回 所得税法2 所得税法に関する身近な実務の話題				
第11回 所得税法3 所得税法に関する裁判例等の検討				
第12回 相続税法1 相続税法の概要（期末課題）				
第13回 相続税法2 相続税法に関する身近な実務の話題				
第14回 相続税法3 相続税法に関する裁判例等の検討				
3. 履修上の注意				
税法をはじめて学習する履修者向けに解説を行う。簿記及び会計学の知識がなくても理解はできるが、ある程度の知識があると法人税法および消費税法の理解が深まる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
予習は、授業で指定する教科書の該当ページに目を通しておくこと。授業のテーマによっては、次回の授業に対して事前の指示や資料の配布を行う。復習は、教科書、配布資料をよく読んで講義内容を理解すること。学習内容や自分の考えをまとめておくこと。				
5. 教科書				
講師作成のレジュメ				
国税庁「税大講本」 https://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm				
※「税大講本」は、税目ごとに国税庁ホームページから入手することができる。				
6. 参考書				
『租税法 第24版』金子宏〔2021〕弘文堂				
『租税判例百選 第7版』中里実ほか〔2021〕有斐閣・別冊ジュリスト No. 253				
※入手の要否は、講師の指示にしたがうこと。				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
第6回に中間課題，第12回に期末課題を提示する。解答解説は，授業中に行う。				
8. 成績評価の方法				
授業への貢献度（40%），中間課題レポート（30%），期末課題レポート（30%）				
9. その他				
オフィスアワーを希望する履修者は、講師と相談の上実施の有無を検討する。				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA) ACC991J		
科目名		会計学特別講義 D		
担当者		大倉 学		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 テーマ：会計ルールを「読む」 〈概 要〉 本講義は、制度会計としての「財務会計」を支える我が国の各種の「ルール」について、その構造的特質の理解を通して各種資格試験における理論問題に備えた基礎知識を学ぶものである。 〈到達目標〉 各種資格試験勉強の内容を、ルールの単なる「暗記」のようなものとするのではなく、そのルールの背景と基礎とする理論に基づいた知識をもって規定の解釈ができるものとすることを目標とする。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：法と基準：強制力と準強制力 第3回：ルール設定主体の性質とルールのあり方 第4回：ルールに関する基礎知識（1）：演繹法と帰納法等 第5回：ルールに関する基礎知識（2）：原則主義と細則主義等 第6回：現行会計基準の構成と特徴 第7回：会社法についての基礎知識 第8回：金融商品取引法についての基礎知識 第9回：企業会計原則についての基礎知識 第10回：現行会計基準についての基礎知識 第11回：具体的検討（1）（ディスカッションを含む） 第12回：具体的検討（2）（ディスカッションを含む） 第13回：具体的検討（3）（ディスカッションを含む） 第14回：ルール変更の功罪				
3. 履修上の注意 第11回から第13回のテーマは 履修生の皆さんと検討する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各講義において次回のポイントを指摘するので関連事項・専門用語の整理・確認をしておくこと。 また、各講義において前回の要点整理をするので継続的な復習を必要とする。				
5. 教科書 特に定めない。レジュメを配布する。				
6. 参考書 『会計基準の読み方Q&A』秋葉賢一著（中央経済社） その他適宜提示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクション・ペーパー、課題レポートについては、Oh-o! Meiji システムで全体講評および個別コメントにて対応する。				
8. 成績評価の方法 平常点（20%）、レポート（10%）、定期試験（70%） 平常点は数回に1度のリアクション・ペーパー提出およびディスカッションにおける積極的姿勢を対象とする。				
9. その他 特に無し。				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC536E		
科目名		Advanced Financial Accounting A [M] 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）		
担当者		NAKASHIMA MASUMI		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Forensic accounting is an accounting technique that assists companies in resolving disputes by investigating, calculating, analyzing, and reporting financial data before and after the dispute is brought to court. With the recent increase in litigation in organizations, more accounting expertise and credibility is required to calculate the amount of damage, etc. Forensic accountants investigate general accounting irregularities, whether civil or criminal, conduct investigations from a third-party perspective, and submit an investigation report after the investigation. If the subject of the investigation leads to litigation, the forensic accountant may testify in court as a witness. In addition, the forensic accountant learns how to speak persuasively in court as a key witness in a case and learns the relevant techniques in court.				
2. 授業内容 Class 1：Guidance: What is Forensic Accounting? Definition and History (Media Class Realtime Live) Class 2：Forensic Accounting Education (Media Class Realtime Live) Class 3：Forensic Accounting in the U.S. (Media Class Realtime Live) Class 4: Corporate Misconduct and Financial Statement Fraud (Financial Statement Data and Textual Information) (Media Class Realtime Live) Class 5：Fraud Detection Methodologies (Media Class Realtime Live) Class 6：Characteristics of Accounting Fraud in Japan (Media Class Realtime Live) Class 7: Forensic Investigation (Media Class Realtime Live) Class 8：Forensic Audit (Media Class Realtime Live) Class9：Forensic Services (Media Class Realtime Live) Class 10 :Forensic Accounting Techniques (Media Class Realtime Live) Class 11: Information Analysis (Media Class Realtime Live) Class 12 :Interviewing Practices (Media Class Realtime Live) Class 13:Governance (Media Class Realtime Live) Class 14: Summary (Media Class Realtime Live)				
3. 履修上の注意 N/A				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the content of each chapter before the class following the syllabus. After lecture, please work on the assignments for each chapter as the review.				
5. 教科書 Forensic Accounting: Investigation Services by Masumi Nakashima and Tomohiro Katayama, 2026.				
6. 参考書				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.				
8. 成績評価の方法 Class Contribution 15% Assignments 35% Final Exam 60% No face-to-face testing is conducted.				
9. その他 This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC536E		
科目名		Advanced Financial Accounting B [M] 大学院経営学研究科共同設置科目（GSBA）		
担当者		NAKASHIMA MASUMI		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Forensic accounting is an accounting technique that assists companies in resolving disputes by investigating, calculating, analyzing, and reporting financial data before and after the dispute is brought to court. With the recent increase in litigation in organizations, more accounting expertise and credibility is required to calculate the amount of damage, etc. Forensic accountants investigate general accounting irregularities, whether civil or criminal, conduct investigations from a third-party perspective, and submit an investigation report after the investigation. If the subject of the investigation leads to litigation, the forensic accountant may testify in court as a witness. In addition, the forensic accountant learns how to speak persuasively in court as a key witness in a case and learns the relevant techniques in court.				
2. 授業内容 Class 1: Guidance: Overview of Litigation for Damages (Media Class Realtime Live) Class 2 :Overview of the Litigation System (Media Class Realtime Live) Class 3: Subject of Proof (Media Class Realtime Live) Class 4: Rules of Evidence (Media Class Realtime Live) Class 5 :Rules for Datermining Facts (Media Class Realtime Live) Class 6: Evidence Collction and Examination (Media Class Realtime Live) Class 7:Accountants’ Involvement in Litigation (Media Class Realtime Live) Class 8: Litigation for Tort (Media Class Realtime Live) Class 9: Litigation for Neglect of Duties by Directors (Media Class Realtime Live) Class 10: General Provisions on Criminal Liabilities (Media Class Realtime Live) Class 11: Overview of Civil Damages (Media Class Realtime Live) Class 12: Business Damage 1 (Media Class Realtime Live) Classl3: Business Damage 2 (Media Class Realtime Live) Class 14: Summary (Media Class Realtime Live) (Media Class Realtime Live)				
3. 履修上の注意 N/A				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the content of each chapter following the syllabus. After class please work on the assingment for each chapter as a review.				
5. 教科書 Forensic Accounting: Litigation Services by Tomohiro Katayama, 2026				
6. 参考書 N/A				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.				
8. 成績評価の方法 Class Contribution 15% Assignments 35% Final Exam 60% No face-to-face testing is conducted.				
9. その他 This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC536E		
科目名		Financial Statement Analysis A [M] 大学院経営学研究科共同設置 科目（GSBA）		
担当者		NAKASHIMA MASUMI		
2 単位	Year:3	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
This course provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. The goal is to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.				
2. 授業内容				
Class 1: Introduction: Framework for Business Analysis and Valuation (Media Class Realtime Live) Class 2: Strategic Analysis (Media Class Realtime Live) Class 3: Database Learning (1) (Media Class Realtime Live) Class 4: Database Learning (2) (Media Class Realtime Live) Class 5: Accounting Analysis (1) (Media Class Realtime Live) Class 6: Accounting Analysis (2) (Media Class Realtime Live) Class 7: Financial Analysis: Ratio Analysis (Media Class Realtime Live) Class 8: Financial Analysis: Cash Flow Analysis (Media Class Realtime Live) Class 9: Prospective Analysis: Forecasting (Media Class Realtime Live) Class 10: Prospective Analysis: Valuation Theory and Concepts (Media Class Realtime Live) Class 11: Earnings quality: Accruals Management (Media Class Realtime Live) Class 12: Earnings quality: Real Management (Media Class Realtime Live) Class 13: Paper Presentation (1) (Media Class Realtime Live) Class 14: Paper Presentation (2) (Media Class Realtime Live)				
3. 履修上の注意				
Since every class proceeds using Power Point Slides.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
Please read the content of each chapter following the syllabus. After class, please work on the assignments for each chapter as a review.				
5. 教科書				
Business Analysis Valuation: Using Financial Statements, Krishna G. Palepu and Paul M. Healy 5th edition, 2013. South-Western College Publishing (ISBN-10: 1111972303 ISBN-13: 978-1111972302). Earnings Management and Earnings Quality: Evidence from Japan				
6. 参考書				
N/A				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.				
8. 成績評価の方法				
Contribution to class: 15%, Assignment: 15%, Presentation: 20%, and Paper: 50%. No face-to-face testing is conducted.				
9. その他				
This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.				

科目区分／科目ナンバー		会計学科専門科目／(BA)ACC536E	
科目名		Financial Statement Analysis B〔M〕 大学院経営学研究科共同設置 科目（GSBA）	
担当者		NAKASHIMA MASUMI	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This course provides a comprehensive framework for business analysis and valuation by using financial statement information. Students can learn not only the concepts and principles for evaluating a firm's financial performance and predicting its future economic condition but also tools for the financial statements analysis. Topics are covered: Strategy Analysis, Accounting Analysis, Financial Analysis, and Prospective Analysis. The goal is to understand the basic principles of fundamental analysis and to obtain skills and techniques to analyze the financial statements and determine the fundamental value.			
2. 授業内容 Class 1: Prospective analysis: Valuation Implementation (Media Class Realtime Live) Class 2: Database Learning (1) (Media Class Realtime Live) Class 3: Database Learning (2) (Media Class Realtime Live) Class 4: Equity Security Analysis (Media Class Realtime Live) Class 5: Credit Analysis and Distress Prediction (1) (Media Class Realtime Live) Class 6: Credit Analysis and Distress Prediction (2) (Media Class Realtime Live) Class 7: Merger and Acquisitions (1) (Media Class Realtime Live) Class 8: Merger and Acquisitions (2) (Media Class Realtime Live) Class 9: Communication and Governance (1) (Media Class Realtime Live) Class 10: Communication and Governance (2) (Media Class Realtime Live) Class 11: Case Study (1) (Media Class Realtime Live) Class 12: Case Study (2) (Media Class Realtime Live) Class 13: Paper Presentation (1) (Media Class Realtime Live) Class 14: Paper Presentation (2) (Media Class Realtime Live)			
3. 履修上の注意 Since every class proceeds using Power Point Slides.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Please read the content of each chapter following the syllabus. After class, please work on the assingment for each chapter as a review.			
5. 教科書 Business Analysis Valuation: Using Financial Statements, Krishna G. Palepu and Paul M. Healy 5th edition, 2013. South-Western College Publishing (ISBN-10: 1111972303 ISBN-13: 978-1111972301). Earnings Management and Earnings Quality: Evidence from Japan			
6. 参考書 N/A			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Assignments are conducted in class as part of active learning, so feedback are given in class or via email at a later date.			
8. 成績評価の方法 Contribution to class: 15%, Assignment: 15%, Presentation: 20%, and Paper: 50%. No face-to-face testing is conducted.			
9. その他 This course is offered as a media class course. All classes are conducted live in real time, and the ZOOM LINK and PW are delivered from Oh-o! Meiji. Class materials and assignments are uploaded from Oh-o! Meiji.			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN271J	
科目名		行政経営論 2021 年度以降入学対象	
担当者		菊地 端夫	
2 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 （概要） かつて、行政の活動とは民間企業の経営とは異なる原理で行われるものであるとし、行政の管理と民間の経営管理は厳密に区別をされ運用されてきました。しかし 20 世紀後半から、行政も積極的に民間の経営手法を摂取していこうという考え方が登場し、また「公共的なもの」がこれまでの政府や行政の独占物ではなく、民間企業や NPO、そして市民個人々々による参加と協働によって形成されるものであるという理念が広まるようになりました。今日、行政経営と民間企業経営の手法の垣根は、相対化しつつあります。 この授業では、まずは学習の対象となる行政がどういった構造や制度で運営されているかを把握した後に、行政経営の歴史的発展経緯やその原理を把握し、行政経営論の考え方がどのように具現化されているのかを考察していきます。 （到達目標） 行政の制度を理解したうえで、行政経営の原理と考え方、実践例を把握することを到達目標とします。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：行政経営の基礎理論：何を経営するのか・民間企業・非営利組織の経営との相違とは 第 3 回：行政経営の基礎理論：行政の守備範囲（行政の発達と概念） 第 4 回：行政経営の基礎理論：政治と行政の接点領域 第 5 回：行政経営の基礎理論：行政と市場の関係、New Public Management 他 第 6 回：行政の構造・制度：国際行政組織、中央省庁、独立行政法人、国営・国有企業他 第 7 回：行政の構造・制度：地方自治の制度・運営 第 8 回：行政の構造・制度：地方分権の歴史①分権改革 第 9 回：行政の構造・制度：地方分権の歴史②市町村合併 第 10 回：行政の構造・制度：財政・税制の仕組み 第 11 回：行政の構造・制度：公務員制度と HR 第 12 回：行政の構造・制度：公共政策の仕組み 第 13 回：行政の構造・制度：市民参加の理論と実践 第 14 回：講義全体の振り返り			
3. 履修上の注意 特になし。公共経営学科の学生のみならず、経営学科、会計学科、さらに他学部の学生で行政や幅広い公共のマネジメントに興味のある学生の履修をお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回講義で配布する資料や新聞記事等を精読し、復習を行うこと。不明な点があれば講義前後に質問をすること。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 特に定めない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートは学期中に講評を行う。			
8. 成績評価の方法 講義への貢献度 30%、レポート課題 30%、期末試験 40%			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN271J	
科目名		行政経営戦略論	
担当者		菊地 端夫	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 (概要) かつて、行政の活動とは民間企業の経営とは異なる原理で行われるものであるとし、行政の管理と民間の経営管理は厳密に区別をされ運用されてきました。しかし 20 世紀後半から、行政も積極的に民間の経営手法を摂取していこうという考え方が登場し、また「公共的なもの」がこれまでの政府や行政の独占物ではなく、民間企業や NPO、そして市民個人による参加と協働によって形成されるものであるという理念が広まるようになりました。今日、行政経営と民間企業経営の手法の垣根は、相対化しつつあります。 この授業では、こういった行政経営の歴史的発展経緯やその原理を把握した後、個々の実践例をみていくことにより、行政経営論の考え方がどのように具現化されているのかを考察していきます。なお、実際に行政経営改革に取り組んでいる方をゲストとして呼び、行政経営の醍醐味と難しさなどについてもお話いただく予定です。 (到達目標) 行政経営の各原理を理解し、具体的な実践例を把握・分析する能力を身に付けることを到達目標とする。			
2. 授業内容 第 1 講：イントロダクション 第 2 講：行政経営の理論とは何か 第 3 講：行政経営：マーケティングの理論 第 4 講：行政経営：マーケティングの実践 第 5 講：行政経営：行政における経営品質，戦略とは① 第 6 講：行政経営：行政における経営品質，戦略とは② 第 7 講：行政経営：法務マネジメント① 第 8 講：行政経営：法務マネジメント②（都市計画，景観） 第 9 講：行政経営：サービス戦略（民営化）① 第 10 講：行政経営：サービス戦略（PFI，指定管理者制度，アウトソーシング）② 第 11 講：行政経営に携わる民間組織：その市場規模と将来 第 12 講：行政経営：業績マネジメント，行政におけるパフォーマンスとは 第 13 講：行政経営：ゲスト講義（予定） 第 14 講：まとめ講義			
3. 履修上の注意 本講義は「行政経営論」の応用科目の位置づけですが、「行政経営論」の履修の有無に関係なく、どなたでも履修することができます。公共経営学科の学生のみならず、経営学科、会計学科、他学部の学生で行政や幅広い公共のマネジメントに興味のある学生の履修をお勧めします。また、「行政経営論」、「行政経営戦略論」の内容を英語で学ぶ「Introduction to Public Management」（秋学期水曜 3 時限目）の履修もお勧めします。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回講義で配布する資料や新聞記事等を精読し、復習を行うこと。不明な点があれば講義前後に質問をすること。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 特に定めない。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間レポートは学期中に講評を行う。			
8. 成績評価の方法 講義への貢献度 30％， レポート課題 30％， 期末試験 40％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Social Impact Investment	
担当者		TSUKAMOTO ICHIRO	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈Course Purpose〉 This course focuses on social impact investments as one form of sustainable investments. Through this course students will learn about theories, cases and business models regarding social impact investments which have been developing worldwide. Understanding impact investing will help students to design and propose alternative solutions for addressing social problems with using private capital and public-private partnership. 〈Learning Objectives〉 The goals of this course are for students to be able to (1)understand socioeconomic and environmental backgrounds and current social impact of social impact investing, (2) understand typical framework, key concepts and theories of social impact investing including social impact bonds (SIBs), (3)analyze potential and challenges of social impact investing as means of resolving social problems, (4)talk about alternative solutions for social problems with using social impact investing and partnership framework.			
2. 授業内容 〈Schedule〉 [1] Orientation/ Outline of the course [2] Overview of sustainable and impact investing [3] Overview of social impact investments and understanding key concepts and theories [4] Financing and social impact investments [5] Introduction to social impact bonds [6] Academic and practical perspective on social impact bonds [7] Global development of social impact bonds [8] Social Impact Bonds and outcome-based commissioning [9] Case studies on social impact bonds in the field of children and the youth support [10] Case studies on social impact bonds in the field of criminal justice [11] Case studies on social impact bonds in the field of homelessness [12] Case studies on social impact bonds in the field of healthcare. [13] Case studies on development impact bonds(DIBs) in the field of international Development [14] Impact evaluation and social impact investments			
3. 履修上の注意			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Through this course, except an introduction, summary of content of an each lecture is uploaded at Oh-o! Meiji in advance. Students are all expected to look through it as a preparation for the lecture. After an each lecture, students are all expected to review the essence and key concepts which were taught inthe lecture.			
5. 教科書			
6. 参考書 GSIA(2019) Sustainable Investor Poll on TCFD Implementation http://www.gsi-alliance.org/wp-content/uploads/2019/12/Global-Sustainable-Investment-Alliance-TCFD-Poll.pdf GIIN(2020) THE STATE OF IMPACT MEASUREMENT AND MANAGEMENT PRACTICE, 2nd ed. http			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Stundent can receive feedback on an each assignment via Oh-o! meiji Classweb.			
8. 成績評価の方法 This course will be composed of four topics -impact investing , overview of social impact bonds, case studies, impact evaluation and improvement of SIBs . In the end of each topic lecture, topic report should be uploaded to Oh-o! Meiji within a week after the scheduled lesson date. - 4 topic reports (more than 200 words per report), weighted 10% each - 40%			

- 8 reaction papers to specific questions posed at each lesson(8 lessons), weighted 5 % each-40%

Student who is absent at the class is not allowed to submit the reaction paper posed in the class. If the student does so, it is not evaluated.

- a final report, weighted 20 %

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN391E	
科目名		Business for Social Impact	
担当者		TSUKAMOTO ICHIRO	
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 This course deals with potential and challenges of generation of social impact and profit at the same time with using hybrid business model which social enterprises employ typically. Actually, in recent years, under rapid growing sustainable and impact investing market globally, interest in social value-oriented entrepreneurs such as social enterprises and B-Corporations has been radically increased among social impact-seeking investors (social investors or impact investors). In addition, public private partnerships and collaborative governances with the aim of creating social and public value have attracted world-wide interest increasingly, in which social enterprises tend to play vital roles as service providers. For this reason, through this course, students will learn theories, cases and business models with focusing on social entrepreneurship, social impact, value creation, collaborative governance, impact measurement and impact-weighted accounts. This course will help students to design and propose alternative solutions for addressing social problems with using hybrid business model, social value and co-creation perspective and collaborative governance including public-private partnership. <Learning Objectives> The goals of this course are for students to be able to (1)understand socioeconomic and environmental contexts and rationale of current growing “business for social impact” such as social enterprises and B-Corps (2) understand key concepts, theories and business models of social entrepreneurship, social Enterprise and B-Corp (3) understand key concepts and theories of social impact, value creation, co-creation and impact measurement (4) understand the potential and challenges of hybrid business model seeking social impact and profit at the same time with using multi-stakeholders’ partnership			
2. 授業内容 <Schedule> [1] Orientation/ Outline of the course [2] Transforming modern capitalism and economic and corporate value [3] Theories of corporarte social responsibilities(CSR), creating shared value (CSV) [4] Global trends of corporarte social responsiblities(CSR) : a guest speaker [5] Different approches to corporate value and reexamination of corporate valuation [6] Theories of business entrepreneurship and social entrepreneurship [7] Theories of social enterprise and hybrid enterprise such as B-Corp [8] Case study of social impact seeking business model in the policy sector of employment [9] Case study of social impact seeking business model in the policy sector of education [10] Case study of social impact seeking business model in the policy sector of healthcare [11] Case study of social impact seeking business model in the policy sector of local regeneration [12] Case study of social impact seeking business model in the policy sector of international development [13] Measuring and valuing social impact [14] Alternative approaches to accounting both social and economic value in integrated way			
3. 履修上の注意 Students are required to submit topic reports and reaction papers which are posed as assignments by an instructor. In addition to the assignments, students are expected to actively join the discussion during the class.			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Before an each lesson, students are expected to look through the teaching material uploaded in advance. Following the lesson, students will need to review lesson content and to further extend observations using materials that have been distributed via Oh-o! Meiji.			
5. 教科書 In this course, the specific textbook will not be used. Instead, in every lessons, teaching materials will be uploaded on the Oh-o! Meiji’s Classweb in advance, in the morning of the lesson date at the latest.			
6. 参考書 In this course, in every lessons, useful publications, statistics and websites will be shown within the references of the material. Following publications are also useful to you although you don’t need to purchase them. Carol, A.B. and Buchholtz,A.K			

7. 課題に対するフィードバックの方法

The comments on the assignments are delivered to students who submit them via Oh-o! Meiji.

8. 成績評価の方法

〈Methods of Evaluation and Grading Criteria〉

This course will be composed of four topics with regard to specified topics related to lectures.

Topic reports should be uploaded to Oh-o! Meiji within a week after the scheduled lesson date.

- 4 topic reports (more than 200 words per report), weighted 10% each - 40%

- 8 reaction papers to specific questions posed in each lesson(8 lessons), weighted 5 % each-40%

Student who is absent at the class is not allowed to submit the reaction paper posed in the class. If the student does so, it is not evaluated.

- a final report, weighted 20 %

(20-16 points)

-Very clear understanding of the topic which was taught

-Observes data correctly, and provides an analytic description of it

-Expression own opinions logically, developing what has been taught in class.

(15-11 points)

-Clear understanding of the topic which was taught.

-Observes data correctly, and provides an accurate description of it

-Express own opinions, based on what has been taught in class.

(10-6 points)

-Insufficient understanding of the topic which was taught

-Observes most data, and provides a reasonable description of it

-Provides a relevant summary of what has been taught in class

(5-1 points)

-Very poor understanding of the topic which was taught

-Observes some data, and provides a reasonable description of it

-Describe some of what has been taught in class

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN271E		
科目名		Introduction to Public Management		
担当者		KIKUCHI MASAO		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 (Outline) This course introduces students to the basic principles, issues and practices involved in the management of public organizations. The course is structured roughly into two modules. In the first module, the course focuses on topics related to the basics of public management and governance issues. In the second module, students are required to have group work on the comparative study of public management issues across countries, considering diversified students background. The course therefore draws heavily on student participation, toward the goal of building student capacity to prevent, diagnose, and remedy managerial challenges in complex organizational, social, economic, and political environments. (Objectives) By the end of this course, students should be able to have deep understanding of basic principles, issues, and practical knowledge involved in the management of public organizations. (Message for International Exchange Students) Your active participation in the class, and interaction with Meiji students are highly appreciated.				
2. 授業内容 Week 1 : Course Introduction Week 2 : Understanding Public Management and Governance Week 3 : Models of Public Administration and Management Week 4 : Models of Central Local Relations Week 5 : Public Participation and Involvement Week 6 : Financial Management in Public Sector Organizations Week 7 : Marketing and Quality Management in Public Sector Week 8 : Group Work: Team Building Week 9 : Group Work and Mentoring Week 10 : Group Work and Mentoring Week 11 : Group Work and Mentoring Week 12 : Group Work and Mentoring Week 13 : Group Work Presentation Week 14 : Group Work Presentation and Overview of the Course *Course contents and class order may change.				
3. 履修上の注意 ※本科目の履修に必要な英語力の目安は、TOEIC 500 程度である。 The TOEIC level necessary for registering for this course is around 500.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Students are required to make group presentations out of the classes. Active participation both in and out of classes is highly encouraged.				
5. 教科書 There is no required text book.				
6. 参考書 List of books and papers for references for further learning will be provided in the classes.				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Feedback from the instructor is given in the group working motoring sessions, and in the presentation QA session.				
8. 成績評価の方法 Active Class Participation: 30%, Group Work Presentation:30%, Term Paper: 40%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA)MAN371J	
科目名		公共思想論	
担当者		枝村 祥平	
2 単位	2 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 公共の場における個人にあるべき行動規範や、どのような公共の場を設定・提供していけばいいのかについて、さまざまな思索がこらされています。本講義では、過去の偉大な思想家たちの議論を参考にし、また現代の具体的な問題にも触れながら、行動規範などについて考えていきます。 〈到達目標〉 1. 増税・死刑・治療中止など現代の重要な問題について、具体的な事件や問題となる概念枠組みを理解した上で、自分の意見を形成する。 2. プラトン、アリストテレス、カント、ミルなど重要な思想家が書いた古典で、倫理にまつわるどのような議論が示されているのか、それらがなぜ現代に生きる私たちと関係があるのかを理解する。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス 第2回 功利主義 I 快楽主義の祖であるエピクロスの思想、功利主義の祖であるベンサムの思想を学ぶ。 第3回 功利主義 II 功利主義を折衷的に発展させたジョン・スチュアート・ミルの思想を、彼の表現の自由の基礎づけとともに学ぶ。 第4回 カントと義務論 I 結果を重視して行為を正当化する考え方や動機を重視して行為を正当化する考え方を対比して学び、そして後者の考え方を示した代表的な哲学者であるカントの思想も学ぶ。 第5回 カントと義務論 II 人格の尊厳、そしてルールの普遍的妥当性という観点から公共社会のあり方を考えたカントの思想を学ぶ。 第6回 リバタリアニズム 義務論のなかでもカント倫理学よりも広範な個人の「自由」を認めたリバタリアニズムを学ぶ。 第7回 アリストテレスと徳の倫理学 徳の倫理学をバーナード・ウィリアムズやアラスデア・マッキンタイヤーなどに言及しつつ学び、その思想的な縁源であるアリストテレスの哲学をも学ぶ。 第8回 平等と公平 アリストテレスやロールズを手がかりにあるべき平等な社会、公平な社会を模索する。 第9回 消費税 前回の平等や公平に関する議論を踏まえて日本における税制をどう評価するかを具体的に考える。 第10回 死刑の是非 I 西洋において過去に多数説であった死刑存置論を様々な思想的背景に基づいて学ぶとともに、日本の死刑存置論はどのような観点で主張されているのかも学ぶ。 第11回 死刑の是非 II 現代においてヨーロッパの多数説である死刑廃止論をその思想的背景に基づいて学び、さらに日本ではどのような観点から主張されているのかをも学ぶ。 第12回 同性婚 同性婚の法律での認可に関して、婚姻の定義や個人の尊厳や自由、また宗教的伝統において同性愛がどうとらえられていたかなどを視野に入れて考察する。 第13回 治療中止 医療倫理が抱えるジレンマを踏まえて、治療中止の問題を学ぶ。 第14回 積極的安楽死 治療中止とは区別される積極的安楽死の問題を学ぶ。			
3. 履修上の注意 リアクションペーパーが講義各回にあるので、出席は重要です。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 電子媒体なりで配布した資料に、速読でいいので目を通しておいください。			
5. 教科書 使用しません。資料は必要に応じ電子データを配布します。			
6. 参考書 講義中に適宜紹介していきます。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーを読んだ結果得た知見を、講義でお話します。			
8. 成績評価の方法 ・リアクションペーパー 2 x 14 = 28％ ・期末テスト 39％ ・期末レポート 33％ ・ボーナスポイント課題あり			

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA)MAN371J		
科目名		公共歴史論		
担当者		薩摩 秀登		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
（概要） 公共性という概念について、歴史的観点から考察する。 公共というと漠然と「皆に共通のもの」といったイメージが思い浮かぶかもしれない。しかし「いかにして共通点を求めるか」は単純な問題ではない。「すべての人々の利益や意見の集約点」をいかにして作り出すかについて、人間はさまざまな試みを繰り返してきた。 人間は、いつ頃から公共性の概念を持って生活するようになったのか。個人を離れた「公共の領域」があるとするならば、それはどのように作られ、誰が管理し、誰がそれについて責任を負うのか。「全体の意思」はどのように決定されるのか。国家の権力はそれとどのようにかわるのか。国家はいつ頃から、どのようにして公共性の概念をとりこんでいったのか。こうした問題点を、歴史のなかに現れた公共性という概念をたどりながら検証していく。 （到達目標） 現代の公共性の概念の成り立ちを、歴史にさかのぼって理解する。				
2. 授業内容				
公共性という概念に関する問題は歴史のなかに広く散在しており、体系的な議論として扱うことは非常に難しい。授業では、歴史のなかから公共性にかかわる問題を適宜とりあげながら、人間は公共性という概念をどのように考えつつ歴史をたどってきたのかを考えていくことになる。なるべく広範囲の歴史を考察の対象としたいが、論点を明確にするために、日本とヨーロッパに限定して議論を進める。 第1回 公共という概念について 第2回 日本の古代国家形成と、「おおやけ」の概念 第3回 律令国家の変遷と「おおやけ」の概念 第4回 中世社会の変遷と自治的世界の登場 第5回 中世社会の変遷と自治的世界の変化 第6回 江戸幕府の成立と「公儀」などの概念 第7回 江戸時代における「公共」についての議論 第8回 明治維新と「公共」についての議論 第9回 明治期から昭和初期にかけての「公共」についての議論 第10回 古代地中海世界における public という概念の形成 第11回 ヨーロッパ中世における自治的世界 第12回 宗教紛争期における「公共」の概念 第13回 絶対王政期の公共性概念 ―イギリス― 第14回 絶対王政期の公共性概念 ―フランス― 受講者は、こうした考察を通して、現代における公共性とは何かという問題を考えるヒントをつかんでほしい。				
3. 履修上の注意				
現代における公共性の問題に留意しつつ、歴史から学び取ろうとする態度が重要である。 また、日本史について、古代から現代まで全般にわたる基礎的知識は必要である。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
特に日本史について、基礎知識を得るためには、下記の参考文献などを参照しておくこと。				
5. 教科書				
指定しない。				
6. 参考書				
宮地正人編『日本史』山川出版社、2008 年 五味文彦、島海靖編『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009 年 木村茂光他編『大学でまなぶ日本の歴史』吉川弘文館、2016 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
その次の回の授業において行う。				
8. 成績評価の方法				
授業で出される課題：70％ 期末試験あるいは期末レポート：30％				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		公共表現行為論	
担当者		畑中 基紀	
2 単位	2 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 (概要) 「公共」とは、どういう意味でしょう。たとえば公共事業といえば、政府や自治体が行うことのように思えます。でも、公共マナーというと、すべての私人ひとりひとりの行為に関わることですね。比較的耳慣れたことばであるのに、いざその意味を説明しようとするとき難しい。少なくとも、個人や一定の集団を包み込む世界での、私または私たちと他者との関係の取り方をめぐる何かであるようです。 本講ではこの「公共（性）」とはいったいどういう意味なのかという問題を、具体的な表現の分析を通して考えていきます。なぜなら、「表現」というコミュニケーション行為のなかでは、私たち自身が、私と他者との関係をどうにか定めているはずだからです。表現されたものの中にそれを探ることで、私たちが、「公共（性）」をどう意味づけているかも見えてくるでしょう。 「表現」を私から他者に対する呼びかけとするなら、表現行為には私と他者とがいる世界が前提となっていることになりますが、この私と他者とで構成される世界とはまさに、「公共」が成立する場ですね。では、その「私」とは何者でしょうか。これを明らかにするには、けっきょく「私とは～である」という形の言葉で他者に向けて「表現」するしかありません。ということは、そもそも「私」自身が存在することや、あるいは、「私」がふだん、「私」というものをどうとらえているかという問題のなかにも、「公共（性）」が潜んでいそうです。こうしたことが、この授業を進めていく上での、基本的な問題意識となります。 テレビCMが視聴者に何かを買わせることを目的とし、実際にそれが達成されているなら、CMはその表現のなかに「私」を提示し、他のみんなも買っているその商品を生活のなかに取り入れることで、いまの「世界」から取り残されないようにしなさいと、観ている「私」にうたっていると思われます。つまり、成功したCMは、「私」にとっての、「私」と「世界」をうまく映しだす鏡として機能するのです。この鏡に映された「私」を探ることで、「公共（性）」の問題を考えていきます。 (到達目標) 自分自身が普段、話し、聞き、読み、書いている表現を通して、公共性について考えることができること。			
2. 授業内容 身近な分析対象の一例としてテレビ CM を分析し、グループ・ワークも含んだ精しい考察や討論を行いながらね私たちが日常生活のなかでふれている表現において、「公共性」がどのように意味づけられているかを考えていきます。そのことを通じて、コミュニケーション論の基本や、私たちをとりかこむ「世間」とは何かといった問題にも目を配りながら、「公共性」とはいったい何なのか、さまざまな場面でそれを実現するには何が必要なのかを考えていきます。キーワードは「みんな」です。私たちが日常使う「みんな」という語は、いったい誰を指し、また同時に、誰を排除しているのでしょうか。 予定されるトピック 第1回 イン트로ダクション 第2回 放送の公共性 第3回 公共と個人をめぐる問題 第4回 家（イエ・ウチ）の外と内 第5回 公の倫理的強制力 第6回 世間を生きる私 第7回 世間の表象 第8回 〈みんな〉のイメージ 第9回 〈みんな〉はどこにいるのか 第10回 広告としてのテレビ CM 第11回 テレビ CM の表現形式 第12回 テレビ CM の意味表出機構 第13回 コミュニケーション・メディアとしての CM 第14回 公共性を問いつづけること (状況により変更、入れ替えを行うこともあります)			
3. 履修上の注意 きわめて具体的、日常的な事例と、その背後にある、世界を構成する抽象的で見えない関係性との間を往還しながら考察を重ねていきます。したがって、ねばり強く考えることの出来ない、または苦手な人にとっては、受講をしても時間の無駄にしかならないでしょう。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教室で紹介する参考文献などを積極的に読み込み、不明な部分があれば授業で質問してください。また、次の回の内容についての参考書を提示する場合は、あらかじめ目を通しておくこと。			
5. 教科書 なし。			

6. 参考書

阿部謹也『「教養」とは何か』講談社現代新書。
その他、教室で随時紹介します。

7. 課題に対するフィードバックの方法

教室でねまたは Oh-o! Meiji を利用して。

8. 成績評価の方法

平常点（30%。授業中に課す小レポート，グループ・ワークや討論への参加度）＋期末レポート（70%）

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		地域文化と伝統産業		
担当者		森田 直美		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本各地の特徴的な地域文化や伝統産業を活かした地域振興・まちづくり・ものづくりに注目し、各回に個別のテーマを設けて講義します。 日本各地の地域文化や伝統産業の多くは、生活様式の変化や後継者不足によって存続が危ぶまれています。しかしこれらは、対内的にはシビックプライドや郷土への愛着形成のために有益であり、対外的には観光資源や地域の魅力発信に活用することも可能です。よって、産官学が連携して保護・継承・発展に努める必要があると考えられます。 本授業では、さまざまな地域の文化・産業に光を当て、これらをより良い形で継承・活用していく方法について受講生の皆さんと考えていきたいと思います。 〈到達目標〉 ・ 地域文化・伝統産業をいかしたまちづくり・ものづくり・地域振興について知見を広げる。 ・ 地域文化・伝統産業をどのように継承・活用できるのか、自分なりの意見や考えを述べられる。				
2. 授業内容 概ね以下の内容で進めますが、各回のテーマを入れ替える可能性があります。 第1回：導入 文化とまちづくり・ものづくり 第2回：長野県松本市 クラフトによる地域活性化 第3回：日本遺産① 山形県の紅花 第4回：日本遺産② 徳島の藍 第5回：日本遺産③ 徳島の藍と倉敷デニム 第6回：日本遺産④ 愛知県名古屋市有松の絞り染め 第7回：日本遺産⑥ 富山県高岡市の鋳物産業 第8回：東京都墨田区 地場産業による地域ブランディング 第9回：島根県松江市 和菓子文化による産学連携 PBL 第10回：京都府 京菓子の伝統と革新 第11回：滋賀県 菓子メーカーの地域貢献 第12回：静岡県静岡市 クラフトマンサポート事業 第13回：石川県金沢市 アートによる地域活性化 第14回：a:期末テスト b:テストの解説				
3. 履修上の注意 毎回授業終了時に、小課題を提出してもらいます。 小課題の内容は成績評価に反映されます。そのことを念頭に置き、集中して受講すること。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の予習：次回扱う内容について、WEB や書籍で下調べしておく。 各回の復習：ノートやプリントを整理し直し、不明な箇所は教員に質問するなどして明らかにする。				
5. 教科書 特定のテキストは使用しません。授業時に適宜資料を配布します。				
6. 参考書 富本真理子『固有価値の地域観光論』（水曜社、2011 年） 文化庁 日本遺産ポータルサイト https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/ 上記の他、適宜授業時に紹介します。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業冒頭で、前回の小課題に対する総評を伝えます。				
8. 成績評価の方法 授業への参加態度（毎回提出する小課題の内容を含む）50％， 期末テスト（持ち込み可の論述形式） 50％ 上記を目安として総合的に判断します。				
9. その他 ・ 授業中の私語・居眠り・遅刻・途中退出・授業に関係ない電子機器の使用、その他授業環境を悪くする行為は厳に慎むこと。 ・ 受講態度が目には余る場合は氏名を確認した上で退室していただき、その回は欠席扱いとします。 ・ 30 分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ・ 10 分程度までの交通遅延は考慮しないため、多少の遅延があっても間に合うように余裕をもって登校すること。				

- ・ 各回授業で指定した課題が未提出の場合、その回は欠席扱いとします。
- ・ 履修登録確定前に他の授業を履修し、その後に本授業の履修を決めた

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		生活文化論	
担当者		森田 直美	
2 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 日本各地の特徴的な歴史文化や伝統産業を活かした地域振興・まちづくり・ものづくりに注目し、各回に個別のテーマを設けて講義します。 日本各地の歴史文化や伝統産業の多くは、生活様式の変化や後継者不足によって存続が危ぶまれています。しかしこれらは、対内的にはシビックプライドや郷土への愛着形成のために有益であり、対外的には観光資源や地域の魅力発信に活用することも可能です。産官学が連携してこれらの保護・継承・活性化に努める必要があると考えられます。 本授業では、さまざまな地域に光を当て、その歴史文化・伝統産業をより良い形で継承・活用していく方法について、受講生の皆さんと考えていきたいと思います。 〈到達目標〉 - 日本各地の歴史文化や伝統産業をいかしたまちづくり・ものづくり・地域振興の利点や課題を理解し、自分の言葉で説明できる。 - 地域文化・伝統産業を現代においてどう活用できるのか、自分なりの意見や考えを述べられる。			
2. 授業内容 概ね以下の内容で進めますが、各回のテーマを入れ替える可能性があります。 第1回：導入 文化とまちづくり・ものづくり 第2回：長野県松本市 クラフトによる地域活性化 第3回：日本遺産① 山形県の紅花 第4回：日本遺産② 徳島の藍 第5回：日本遺産③ 徳島の藍と倉敷デニム 第6回：日本遺産④ 愛知県名古屋市の絞り染め 第7回：日本遺産⑥ 富山県高岡市の鋳物産業 第8回：東京都墨田区 地場産業による地域ブランディング 第9回：島根県松江市 和菓子文化による産学連携 PBL 第10回：京都府 京菓子の伝統と革新 第11回：滋賀県 菓子メーカーの地域貢献 第12回：静岡県静岡市 クラフトマンサポート事業 第13回：石川県金沢市 アートによる地域活性化 第14回：a:期末テスト b:テストの解説			
3. 履修上の注意 毎回授業終了時に、講義内容に関する小課題を提出してもらいます。 小課題の内容は成績評価に反映されます。そのことを念頭に置き、集中して受講すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の予習：次回扱う内容について、WEB や書籍で下調べしておく。 各回の復習：ノートやプリントを整理し直し、不明な箇所は教員に質問するなどして明らかにする。			
5. 教科書 特定のテキストは使用しません。授業時に適宜資料を配布します。			
6. 参考書 富本真理子『固有価値の地域観光論』（水曜社、2011 年） 文化庁 日本遺産ポータルサイト https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業冒頭で、前回の小課題に対する総評を伝えます。			
8. 成績評価の方法 授業への参加態度（毎回提出する小課題の内容を含む）50％， 期末テスト 50％ 上記を目安として総合的に判断します。			
9. その他 - 授業中の私語・居眠り・遅刻・途中退出・携帯電話やスマートフォン等の使用、その他授業環境を悪くする行為は厳に慎むこと。 - 受講態度が目に見え場合は氏名を確認した上で退室していただき、その回は欠席扱いとします。 30 分以上の遅刻は欠席扱いとします。 10 分程度までの交通遅延は考慮しないため、多少の遅延があっても間に合うように余裕をもって登校すること。			

- ・ 各回授業で指定した課題が未提出の場合、その回は欠席扱いとします。
- ・ 履修登録確定前に他の授業を履修し、その後に本授業の履修を決

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		現代健康論	
担当者		鈴木 正敏	
2 単位	2 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 現代社会における健康をはやっている病気の理解をとおして考えていきます。わたしたちのライフスタイルがどのように疾病に結びついているのか解説します。 がん，心臓病，脳血管障害をはじめ，晩婚化にともなう妊娠・出産障害ほか，糖尿病，高血圧症，動脈硬化症，うつ病，認知症，性感染症（HIV/エイズ）などについて解説します。また，新型コロナウイルスについても説明し，ヒトとウイルスや細菌の関係と免疫のはたらきについて理解します。病気はなにを起源としているのか，現代社会における病気を勉強することで，リスクとなる要素や要素間の関係，加齢による作用，ライフスタイルにおけるリスク及びライフスタイルによる予防法などについて考えていきます。各疾病について基本的に1 時限ずつ解説します。また，学期末には，授業で扱わなかった病気について各自一つ選んでプレゼンテーションを行います。毎回，授業の最後か，宿題として小レポートを作成します。 ライフスタイルに潜む病気のリスクを理解し，対処法について考えられるようになることを目標とします。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクションと新型コロナウイルス感染について 第 2 回：病気と健康（総論） 第 3 回：がん 第 4 回：動脈硬化症 第 5 回：心臓病 第 6 回：脳血管障害 第 7 回：妊娠・出産障害 第 8 回：高血圧症 第 9 回：糖尿病 第 10 回：うつ病 第 11 回：認知症 第 12 回：性感染症 第 13 回：プレゼンテーション 第 14 回：まとめ，期末試験			
3. 履修上の注意 授業毎に簡単なレポートを作成します。 第 13 回に実施するプレゼンテーションはパワーポイントを使用します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji に資料をアップしますので，授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払って下さい。専門用語は重要ですので，分からないところは質問したり，調べたりして理解するようにしてください。			
5. 教科書 使用しません			
6. 参考書 とくに定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 前の授業の課題について授業のはじめにコメントします。			
8. 成績評価の方法 レポート（60％）と期末試験（40％）により評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		公共セクター経済論	
担当者		松野 裕	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） ・市場経済における政府の必要性およびその役割の理論と現実を検討する。 （到達目標） ・上記概要に関連する経済学の諸概念の分析的および直感的な理解の両方を獲得することを目標とする。			
2. 授業内容 第1講：イントロダクション。 第2講：市場経済の効率性，理論と実際。 第3講：外部性。理論。 第4講：外部性。実際。 第5講：公共財。理論。 第6講：公共財。実際 第7講：独占。理論・実際。 第8講：情報の非対称性。理論・実際。 第9講：情報の非対称性。理論・実際。 第10講：再分配。理論。 第11講：再分配。実際。 第12講：集成的意思決定。理論・実際。 第13講：政府の失敗。理論。 第14講：政府の失敗。実際。			
3. 履修上の注意 ・特になし。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・授業と関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事を積極的に読むことが望ましい。 ・必修科目の「近代経済学」をよく復習することが望ましい。			
5. 教科書 特定の教科書は用いず，プリントを配布して授業を行う。			
6. 参考書 ・授業において随時言及する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 ・授業でコメントする。			
8. 成績評価の方法 ・成績は、出席点（14 点）とレポート点（42 点）、期末試験点（44 点）の合計により評価する。 ・出席点は授業で質問用紙に質問を記入することで授業 1 回につき 1 点が与えられる（大幅な遅刻は 0.5 点）。ただし、就職活動（インターンを含む）や体育会の試合、病気や怪我等など、やむを得ない理由で欠席する場合、それを証明する書類を写真に撮るなどして提出すれば不利にならぬように配慮する（クラスウェブを通じてファイルで提出すること。）。授業動画は対面授業終了後に履修者全員に対し公開され、欠席者も見ることができる。 ・レポート点は各授業のレポートを授業日の次の日曜の午後 11 時まで提出した場合、1 回につき 3 点が与えられる。昨期まで認めていた期限以降の提出は認めない。 ・レポートはワード等で作成したものを、クラスウェブを通じてファイルで提出すること。jpeg 等の画像ファイルは不可。 ・レポートは、授業の内容に対する感想・意見・考察を 300 字以上、書くこと。要約のみとみなされるものは不可。 ・レポートの字数を学生本人が数え、レポートに記入すること。 ・レポートは自分の経験と関係づけたものがより良いものと言える。 ・この授業を含む明治大学経営学部の授業で、生成 AI を用いてレポートを作成することは不正行為にあたる。これに対しては、今学期履修全科目 F 評価プラス停学処分、といった処分がなされる。絶対に行ってはならない。AI に、配布資料を要約させる、レポートの下書きを書かせる、授業の感想・意見・考察等を書かせる、といったことも不正行為とみなす。レポートは長期にわたり保存される。 レポート・論文の盗用等不正行為への注意 https://www.meiji.ac.jp/keiei/6t5h7p00000ivup3-att/6t5h7p00000ivviz.pdf			

9. その他

- ・ 不明な点は,
yu.matsuno@gmail.com
に問い合わせられたい。

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		公共マーケティング論		
担当者		小関 隆志		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：公共マーケティングとは、営利企業が行っているマーケティングの手法を公共のために活用することを意味します。たとえば、環境保護や貧困撲滅をテーマとした公共広告は、商品宣伝広告の手法を取り入れながら、公共目的の宣伝を行っています。また、自治体が住民へのサービスを改善して満足度を高めることも、公共マーケティングのひとつと言えます。 本講義は、公共マーケティングの基本的な特徴を整理したうえで、自治体や博物館、図書館、医療機関、教育機関、企業などで行われている多様な公共マーケティングの具体的な方法論を幅広く取り上げます。 到達目標：公共マーケティングの基礎を理解するとともに、自らの意見を述べるができる。				
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション、公共マーケティングの基礎 第2・3回 マーケティング計画 第4回 マーケティング・ミックス 第5・6回 ソーシャル・マーケティング 第7回 地域マーケティング 第8・9回 公共機関のマーケティング 第10回 博物館のマーケティング 第11回 マーケティング倫理 第12回 環境マーケティング 第13回 コーズ・リレイティッド・マーケティング 第14回 大学のマーケティング、まとめ (順序が若干入れ替わる可能性があります)				
3. 履修上の注意 本講義の履修にあたって特定の予備知識は不要で、試験に際しては知識の暗記も特に要求しません。ただし、自分でよく考え、調べることが求められます。 出席はとりませんが、グループ・ディスカッションで議論し、フィードバック（授業の質問・感想）やミニレポートを提出するなど、積極的に授業に参加してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 今回の授業資料や参考書に目を通しておいください。				
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。				
6. 参考書 フィリップ・コトラー、ナンシー・リー著／スカイライトコンサルティング訳『社会が変わるマーケティング：民間企業の知恵を公共サービスに活かす』英治出版、2020 年 瓜生原葉子『行動科学でより良い社会をつくる ―ソーシャルマーケティングによる社会課題の解決』2021 年 清水義次・岡崎正信・泉英明・馬場正尊『民間主導・行政支援の公民連携の教科書』日経 BP マーケティング、2019 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムを利用してフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 定期試験（32%）、レポート（32%）、グループ・ディスカッション（36%）の合計で成績評価します。定期試験を受験することが単位認定の前提となります。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		社会会計論		
担当者		櫻本 健		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 国民経済計算を中心にマクロの会計フレームを演習形式で学び，データの特性に応じた分析能力を身に着けます。演習形式の授業をこなすことで，専門と同時に Excel の主な利用も学ぶことができます。				
2. 授業内容 第1回：公的統計制度と統計の種類 第2回：生産統計の概念 第3回：経済統計における分類 第4回：企業の財務比率の比較 第5回：国内総生産（GDP）の概念と利用方法 第6回：OECD データベースに見る国内総生産の分布 第7回：物価統計とデフレーター 第8回：国民経済計算に見るマクロの主要指標の調べ方 第9回：RESAS、jSTATMAP の利活用 第10回：移動平均法，季節調整 第11回：成長会計 第12回：国際収支・付加価値貿易統計 第13回：経済波及効果分析 第14回：a 試験，b 試験の正答解説				
3. 履修上の注意 9 回目授業では可能であれば，e-Stat へのアカウント登録をします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業では演習形式で課題が多く出ます。授業 1 回に付き，復習を中心に 1-2 時間の勉強が求められます。				
5. 教科書 必要な情報は教員が配布します。				
6. 参考書 『入門 GDP 統計と経済波及効果分析』李潔著（大学教育出版），2023 年，第 3 版 『経済系のための情報リテラシー—統計データで学ぶ』櫻本健編著（実教出版）2025 年 『経済系のための統計データ分析』櫻本健編著（実教出版）2025 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業には定期的に課題が課されます。課題は正答率が低いため，解く努力を試みていることを評価していきます。多くの課題では解答がありますので，解答を示し，分かりにくいポイントがあれば授業で取り上げます。				
8. 成績評価の方法 平常点 70%，試験 30%で評価します。平常点は授業内提出物（Word や Excel での課題）に基づきます。				
9. その他 この授業は演習で授業を進めます。もし質問があれば，授業前後で聞いていただくか，メールでお寄せいただければと思います。アドレスは新年度に各自に案内いたします。				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA)MAN371J	
科目名		非営利組織論2014 年度以前入学者「公共経営学基礎 A」	
担当者		塚本 一郎	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 非営利組織は株式会社と対照的に、営利を目的とせず、公益目的の事業とする組織である。株主のような所有者は存在せず、利益分配も禁止されている。しかしながら、非営利組織のなかで完全なボランティアベースで経営されている組織は必ずしも主流ではなく、営利企業同様、持続的に事業を行い、政府や営利企業とも協働する組織も多い。本講義では、営利企業や政府と異なる特徴を有しつつ、共通点も多い非営利組織を中心に学びつつ、サステナビリティ関連の情報開示が求められている、近年の企業経営や金融システムの変化についても扱う。適宜、テーマを決めたグループディスカッションも交えつつ講義を行う。 非営利組織と営利企業・政府との相違・共通点、非営利組織の社会的インパクトと課題、そして、企業や金融機関の価値創造経営のありかたについて明確に論じることができることを到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 非営利組織（NPO）とは何か 第2回：サード・セクターとしての NPO 第3回：NPO と営利企業：営利と非営利の境界の曖昧化 第4回：NPO の法制・税制 第5回：NPO と政府 第6回：NPO と政府の協働をめぐる課題：NPM から NPG へ 第7回：企業の社会的責任（CSR）と CSV 第8回：企業と ESG・価値創造経営 第9回：企業と非財務情報開示：気候変動・人的資本関連情報開示など 第10回：企業と NPO との協働 第11回：ESG 投資・インパクト投資 第12回：インパクト投資と NPO 第13回：NPO とインパクト評価 第14回：NPO とサービスマーケティング・価値共創			
3. 履修上の注意 講義だけでなく、グループディスカッションも導入する。反転学習的に実施するので、前回の授業の復習にこころがけること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に講義資料を Oh-o! Meiji にアップするので、事前学習をすること。前回の講義を復習し、グループディスカッションに備える。			
5. 教科書 教科書は使用しない。講義資料を Oh-o! Meiji に事前にアップする。			
6. 参考書 課題レポートとして下記文献を使用する。 塚本一郎・関正雄・馬場英朗編著『インパクト評価と価値創造経営』第一法規。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji を通じて提出された課題、レポート等については、コメント機能を通じてフィードバックする。必要に応じて全体講評を Oh-o! Meiji の「お知らせ」を通じて、該当履修者に配信する。			
8. 成績評価の方法 グループディスカッション（4回）とレポート（1回）で評価する。グループディスカッション（75 点:15 点×5回）、レポート（25 点）の予定である。 正当な理由でグループディスカッションを欠席する学生については、代替レポートを提出してもらう。定期試験は実施しない。			
9. その他 特に無し			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		社会的企業論 2014 年度以前入学者 「公共経営学基礎 A」	
担当者		中島 智人	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 ますます多様化、複雑化する現代における社会課題に対して、営利と非営利との両者の性質を併せ持つ社会的企業は、従来にはない課題解決の主体として期待されている。しかしながら、社会的目的を達成するという本来的な特徴から、経済性と社会性との両立の困難に直面する社会的企業が、持続性を獲得することは容易ではない。この授業では、社会的企業の理解を通じて、事例を交えながら持続可能なビジネスモデルについて考察する。また、社会的企業を支える制度や政策を国際比較の点から考える。 社会的企業の特徴を、営利組織・非営利組織との関係から理解すること、社会的企業の持続可能性についてビジネスモデルの観点から考察できること、社会的企業を支える政策や制度のあり方について理解することを到達目標とする。			
2. 授業内容 第1回：社会的企業の理解 第2回：社会的企業と営利組織・非営利組織 第3回：ハイブリッド組織としての社会的企業 第4回：日本の社会的企業制度と政策 第5回：イギリスの社会的企業政策と制度（コミュニティ利益会社） 第6回：イギリスの社会的企業政策と制度（協同組合型社会的企業） 第7回：アメリカの社会的企業と制度 第8回：韓国の社会的企業と制度 第9回：社会的企業のビジネスモデル 第10回：サービス提供型社会的企業 第11回：労働統合型社会的企業 第12回：「まちづくり」と社会的企業 第13回：社会的企業と社会的インパクト評価 第14回：社会的企業の発展に向けて			
3. 履修上の注意 講義に加えて、受講同士のディスカッションを行う。また、授業後のフィードバックにもとづいた受講生と教員との質疑応答の時間も設けるため、受講生の授業への積極的な参加を期待する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あらかじめ提供される授業資料や参考図書を事前に確認し、授業に備えること。また、授業後は、授業中に配布資料を振り返り、内容を確認すること。不明な点があれば内容を整理し、質問すること。各回 100 分。 なお、各回の授業資料は、Oh-o! Meiji のクラスウェブに提供する。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 『社会的企業：雇用・福祉の EU サードセクター』C. ボルザガ, J. ドゥフルニ編 内山哲郎, 石塚秀雄, 柳沢敏勝訳（日本経済評論社） 『社会的企業の主流化』OECD 編 連合総合生活研究所訳（明石書店） 『闘う社会的企業』藤井敦史, 原田晃樹, 大高研道編（勁草書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業に対する受講生からのコメントや質問など、リアクションペーパーの内容に関するフィードバックを次の授業の冒頭で行う。また、レポートに対する解説を授業内で行う。			
8. 成績評価の方法 定期試験 50%、レポート 20%、授業への貢献度（授業への参加、リアクションペーパーの内容等） 30%			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		N P O経営戦略論		
担当者		小関 隆志		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：本講義は、非営利組織（Non-profit Organization; NPO）の経営課題を考察します。NPO は自らの社会的使命（ミッション）を達成するために、限られた資源を有効に活用することが求められます。NPO は営利企業と異なり、社会課題の解決を主目的としていること、有給職員だけでなくボランティアの協力を依存していること、事業収入だけでなく寄付金や補助金などの収入源を組み合わせていることなどから、独自の経営課題を抱えています。本講義では、NPO の経営に関する多様なテーマを取り上げ、事例をもとに検討します。 到達目標：NPO 経営の特質を理解するとともに、自らの意見を述べるができる。				
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション、NPO 経営の基礎 第2回 NPO の経営戦略 第3回 組織運営 第4回 人材育成 第5・6回 資金調達 第7回 アドヴォカシー 第8回 行政との協働 第9回 企業との協働 第10回 広報戦略 第11回 ブランド戦略 第12回 事業評価 第13回 情報公開と社会責任 第14回 中間支援組織の役割、まとめ (順序が若干入れ替わる可能性があります)				
3. 履修上の注意 本講義の履修にあたって特定の予備知識は不要で、試験に際しては知識の暗記も特に要求しません。ただし、自分でよく考え、調べることが求められます。 出席はとりませんが、グループ・ディスカッションで議論し、フィードバック（授業の質問・感想）やミニレポートを提出するなど、積極的に授業に参加してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 今回の授業資料や参考書に目を通しておいください。				
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。				
6. 参考書 リチャード・P. チェイト、ウィリアム・P. ライアン、バーバラ・E. テイラー著／山本美生、一般社団法人 WIT 訳『非営利組織のガバナンス：3つのモードを使いこなす理事会』英治出版、2020 年 富永一夫・永井祐子『NPO の後継者：僕らが主役になれる場所』水曜社、2015 年 坂本治也『日本の寄付を科学する』明石書店、2023 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムを利用してフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 定期試験（32%）、レポート（32%）、グループ・ディスカッション（36%）の合計で成績評価します。定期試験を受験することが単位認定の前提となります。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		サステナブル投資論		
担当者		鳥居 陽介		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 （授業の概要） サステナブル投資とは、経済的なパフォーマンスだけでなく環境、社会、ガバナンス（ESG）といった要素も考慮し、社会的責任に配慮していない銘柄を除外するだけでなく、「持続可能」という観点で社会や環境に影響を与えられる銘柄を選定し、投資を行なうものである。これまで機関投資家は、預かった資金を確実に運用することが求められていたため、株主利益を上げるよう投資先企業に求めている。それは時に短期的な利益を企業に求めることとなり、新規設備投資よりも株主還元に注力するような状況も見られるようになった。このような株主利益の追求のみを求める株主価値経営は、リーマンショック以降に見直されるようになり、機関投資家には投資先企業の中長期的成長に資する関わり方が求められるようになってきている。さらに、SDG s（持続可能な開発目標）や PRI（責任投資原則）が提唱される中で、ESG といった非財務情報も重視しながら投資先企業を選定するようになってきている。 本講義では、主に投資家の視点から、なぜサステナブル投資が注目されるようになったのかを歴史的に考察するとともに、現在の機関投資家の投資行動はどのように変化しているのかを検討する。また、それら機関投資家に株式を所有されている企業は、どのような経営行動をとっていくべきなのかについても併せて検討する。 （到達目標） 特に機関投資家がこれまでどのような投資を行ってきたのか、そして現在どのような投資手法へと変化しているのか、なぜそのような変化が起こったのかを理解することで、社会がどのような方向へ進んでいるのかを把握すること、そのうえで、持続可能な社会を構築していくために機関投資家や企業に求められるものは何かを理解することである。				
2. 授業内容 第1回 インTRODakション：サステナブル投資とは何か 第2回 英米機関投資家の受託者責任とコーポレート・ガバナンス 第3回 外国人機関投資家の台頭と株主価値経営：日本の株式所有構造の変遷 第4回 企業経営に対する考え方の変化（CSV、パーパス経営、B コーポレーション） 第5回 日本におけるコーポレート・ガバナンス改革 第6回 変化する日本の機関投資家—サイレント・パートナーから物言う株主へ 第7回 中間試験 第8回 非財務情報の開示に向けた取り組み 第9回 アセットオーナーとアセットマネージャー 第10回 責任投資レポートを読み解く 第11回 ESG 投資と投資リターンの関係 第12回 履修者による報告・ディスカッション① 第13回 履修者による報告・ディスカッション② 第14回 サステナブル投資を拡大させるためには何が求められるのか *第12回と13回は、履修者が課題に対する発表を行い、それに対して全員で議論を行う予定である。				
3. 履修上の注意 参加者に意見を求めることがあるので、積極的な参加が望まれる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内容に関する新聞記事等の情報を検索し、把握しておくこと。ただ講義を聴くだけでなく、事前学習によって得た知識や自身の意見と講義内容を照らし合わせることで、内容の深い本質的な理解を実現させる。				
5. 教科書 境陸、鳥居陽介、徐玉琴編『DX と人的資本』、税務経理協会、2023 年。				
6. 参考書 鳥居陽介『株式所有構造の変遷と経営財務』、中央経済社、2017 年。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に出題する課題については、当該授業中に解説を行う。				
8. 成績評価の方法 授業への参加姿勢（課題、発言等）30%、中間試験 30%、期末試験 40%の割合で総合的に評価する。				

9. その他

中間試験・期末試験ともに持ち込み可とする。

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		ソーシャル・ファイナンス論		
担当者		小関 隆志		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：皆さんは金融に対してどんなイメージを懐いているでしょうか。もしかすると、専門的で難しそうとか、冷徹に利益を計算して儲けているとか、自分は数字が苦手だから近寄りがたいとか、なじみがないといったネガティブなイメージかもしれません。しかし、金融は私たちの日常生活に非常に身近な存在であり、なくてはならないものですね。 金融は地域経済の中で循環する血液のような、公益性の高い要素でもあります。また、有効な環境対策を打ち、SDGs に対応するためにも、金融の側面支援が重要なのです。 私的な利益追求のためだけの金融ではなく、社会や環境にプラスになる金融。それがソーシャル・ファイナンスであり、日本に限らず世界中で取り組みが広がっています。受講にあたって、金融に関する基礎知識は全く不要ですので、他学部の方も含め、気軽に受講してみてください。 到達目標：ソーシャル・ファイナンスの基礎を理解するとともに、自らの意見を述べることができる。				
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、ソーシャル・ファイナンスの基礎 第2回 日本のソーシャル・ファイナンス (1) 歴史 第3回 日本のソーシャル・ファイナンス (2) 事業者の金融包摂 第4回 日本のソーシャル・ファイナンス (3) 消費者の金融包摂 第5回 日本のソーシャル・ファイナンス (4) サステナブル投資 第6回 日本のソーシャル・ファイナンス (5) クラウドファンディング 第7回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス (1) 歴史 第8回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス (2) 金融包摂 第9回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス (3) ソーシャル・バンク 第10回 ヨーロッパのソーシャル・ファイナンス (4) インパクト投資 第11・12回 アメリカのソーシャル・ファイナンス 第13回 途上国のソーシャル・ファイナンス (1) 金融包摂 第14回 途上国のソーシャル・ファイナンス (2) インパクト投資／まとめ (順序が若干入れ替わる可能性があります)				
3. 履修上の注意 本講義の履修にあたって特定の予備知識は不要で、試験に際しては知識の暗記も特に要求しません。ただし、自分でよく考え、調べることが求められます。 出席はとりませんが、グループ・ディスカッションで議論し、フィードバック（授業の質問・感想）やミニレポートを提出するなど、積極的に授業に参加してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業資料や参考書に目を通しておいってください。				
5. 教科書 講義の際に資料を配布します。				
6. 参考書 小関隆志『金融によるコミュニティ・エンパワーメント』（ミネルヴァ書房）、2011 年 林公則『新・贈与論：お金との付き合い方で社会が変わる』コモンズ、2017 年 新田信行・江上広行『誇りある金融：バリュー・ベース・バンキングの核心』近代セールス社、2020 年 ラジブ・プラバカル著、小関隆志訳『金融包摂とは何か：すべての人々のアクセスをどう保障するか』明石書店、2025 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムを利用してフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 定期試験（32％）、レポート（32％）、グループ・ディスカッション（36％）の合計で成績評価します。定期試験を受験することが単位認定の前提となります。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN971J		
科目名		公共経営学特別講義 C		
担当者		小関 隆志		
2 単位	1 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 授業概要：日本は社会課題先進国と言われ、SDGs の達成度も世界的にみて低く、他方で政府は多額の債務を抱えている。 協同組合は、会員制の共益組織であって、公益組織と区別して扱われてきた。しかし協同組合は社会課題を背景として生まれ、社会的弱者が集まって助けあうことを旨とし、営利を目的としない組織である。 協同組合はまた、単に会員間の相互利益を追求するのみならず、NPO や行政などと連携しながら、環境や平和、国際協力、食の安全、医療・福祉など、多様な社会課題に率先して取り組んできた。なかでも生協は、市民運動や NPO を生み出し、育てる重要な役割を果たしている。 明治時代以降、協同組合は日本社会に根付き、多様な発展をとげてきた。2024 年 6 月時点で、協同組合の延べ組合員数は 1 億 5 千万人と、日本の総人口 1 億 2 千万人を超える。しかし近年、協同組合の社会的役割が注目されることはあまり多くない。また、協同組合が市場での競合や、独自のアイデンティティをめぐって課題に直面していることも確かだ。 多様な協同組合に焦点を当て、協同組合が日本の地域課題にどう向き合い、公益を発揮しているのか、いま求められていることは何かを、本講義を通じて明らかにする。 この特別講義では、国内の各種協同組合の連絡調整機関である日本協同組合連携機構(JCA)の協力を得て、協同組合の現場を知る実践家を講師に招き、実践的な教育を行う。 到達目標：協同組合が地域課題の解決に向けて果たす役割を理解し、自分の意見を述べることができる。				
2. 授業内容 第 1 回 インTRODクシヨン（経営学部 専任教授 小関 隆志） 第 2 回 概論（JCA（日本協同組合連携機構）協同組合連携 2 部 松尾 賢） 第 3 回 エシカル消費視点の CO・OP 商品の役割と可能性（日本生協連 ブランド戦略本部 サステナビリティ戦略室 松島 学） 第 4 回 金融機関の役割と第一勧業信用組合の取組（第一勧業信用組合 連携企画推進部部长 篠崎 研一／調査部部长 境 裕治） 第 5 回 持続可能な地域づくりと生協の役割～大規模災害の教訓をふまえて～（日本生協連 組織推進本部 社会・地域活動推進部 地域コミュニティグループマネージャー 前田 昌宏） 第 6 回 労働金庫による金融包摂（全国労働金庫協会 経営企画部 山崎 勝） 第 7 回 東京農家が抱える課題と東京農業の魅力（J A 東京中央会 総合企画部 総務企画課 港 孔太） 第 8 回 東京農業を取り巻く環境と J A 東京グループの役割（J A 東京中央会 総合企画部 総務企画課 港 孔太） 第 9 回 持続可能な地域社会に向けた森林組合の役割（全国森林組合連合会 組織部 林政課 杉田 梨奈） 第 10 回 JA 共済連の概要と取組みの現状（J A 共済連 全国本部 経営企画部 事業連携・SDGs 推進室 協同組合連携グループ課長 松浦 竜也） 第 11 回 特定地域づくり事業協同組合について（全国中央会 政策推進部 副部長 矢田部 宏志） 第 12 回 協同労働を用いた地域課題の解決（WNJ（ワーカーズコレクティブ・ネットワーク・ジャパン）代表 藤井 恵里） 第 13 回 協同組合連携（JCA（日本協同組合連携機構）協同組合連携 2 部 松尾 賢） 第 14 回 社会的連帯経済・まとめ（経営学部 専任教授 小関 隆志）				
3. 履修上の注意 授業中は講師の話を聞くだけでなく、ディスカッションに参加し、質問や感想を述べるなど、積極的に授業に参加してください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業後は授業資料を再読し、意見・感想を書いて提出してください。				
5. 教科書 講義の際に資料を配信します。				
6. 参考書 中川雄一郎・杉本貴志編、全労済協会監修『協同組合を学ぶ』日本経済評論社、2012 年 一般社団法人日本協同組合連携機構『1 時間でよくわかる SDGs と協同組合』家の光協会、2019 年 一般社団法人日本協同組合連携機構『協同組合間連携に学ぶ地域づくり』全国共同出版、2023 年 一般社団法人日本協同組合連携機構『協同組合ハンドブック』https://www.japan.coop/wp/publication/12410 2023 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o! Meiji システムを利用してフィードバックを行います。				

8. 成績評価の方法

レポート 64％／グループ・ディスカッション 36％

授業内容に対するフィードバック（意見・感想）の提出（7回以上）が単位認定の前提条件となります。
授業中の挙手質問、および優れた意見・感想には別途加点します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／	
科目名		協同組合学	
担当者		大高 研道	
4 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 今日、世界的な金融・財政危機、環境問題、少子高齢化、不安定雇用、地域紛争など、私たちの経済・社会生活はその根幹をゆるがすさまざまな課題に直面している。いまこそ、地域における協同と連帯によってこれらの問題を解決することが求められている。19 世紀前半に英国において誕生した協同組合の取り組みは、その後、日本を含む世界中の国々に広がっていった。近年では、国連による国際協同組合年宣言（2012 年）、ユネスコ無形文化遺産登録（2016 年）、そして 2025 年には 2 度目の国連国際協同組合年が宣言されるなど、その存在意義と果たす役割への期待は高まっている。また、2020 年には 42 年ぶりの協同組合関連法である「労働者協同組合法」が成立し、2022 年 10 月に施行された。本講義では、社会的な事業体としての協同組合の歴史・現状・課題の考察を通して、新たな社会経済システム構築に果たす協同組合の役割と可能性について共に考えたい。 《到達目標》 商業的世界が日常生活の隅々を支配している今日、私たちは「消費者」として他者と接する場面が多い。身近な地域の暮らしの現実の中で生成するさまざまな問題（現代的課題）に対応している協同組合は、商品・サービスを媒介としながらも、単なる「消費者」を超えた「生活当事者」としての視点に立った事業・運動に取り組んできた。本講義では、地域社会を基盤とした協同組合の位置と役割について理解することを第一義的な目的とするが、その学びの先には、「閉じられた関係性」のなかに生きる現代人の生活や労働のあり方を含めた自らの生き方そのものについて、一定程度のビジョンを提示できるようになることをも目指している。			
2. 授業内容 本講義は「協同組合とは何か（基礎編）」（第 1 回～10 回）、「協同組合実践論」（第 11 回～18 回）、「現代社会経済システムと非営利・協同論」（第 19～28 回）の三部構成からなる。 第 1 回目 協同組合とは何か 第 2 回目 現代協同組合論の射程 第 3 回目 協同組合の歴史と思想（1） 第 4 回目 協同組合の歴史と思想（2） 第 5 回目 協同組合の国際的展開（1） 第 6 回目 協同組合の国際的展開（2） 第 7 回目 世界の協同組合の新潮流（1） 第 8 回目 世界の協同組合の新潮流（2） 第 9 回目 わが国の協同組合の歴史（1） 第 10 回目 わが国の協同組合の歴史（2） 第 11 回目 生産者協同組合の実践（1） 第 12 回目 生産者協同組合の実践（2） 第 13 回目 利用者協同組合の実践（1） 第 14 回目 利用者協同組合の実践（2） 第 15 回目 労働者協同組合の実践（1） 第 16 回目 労働者協同組合の実践（2） 第 17 回目 協同労働と協同組合（1） 第 18 回目 協同労働と協同組合（2） 第 19 回目 経済のグローバル化と非営利・協同経済 第 20 回目 福祉国家再編下における非営利・協同組織 第 21 回目 NPO の歴史と制度 第 22 回目 NPO から社会的企業へ 第 23 回目 社会的排除問題と社会的企業（1） 第 24 回目 社会的排除問題と社会的企業（2） 第 25 回目 変容するコミュニティと社会的企業（1） 第 26 回目 変容するコミュニティと社会的企業（2） 第 27 回目 社会的経済・連帯経済論と協同組合 第 28 回目 まとめ			
3. 履修上の注意 ・本講義ではグループ討論・報告を実施する。討論への参加姿勢も成績評価に含まれる。 ・講義資料は事前にクラスウェブにアップしておくので、各自印刷してくること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 《予習》 ・毎回の講義の最後に、次回講義のテーマおよびキーワードについて触れるので、最低限の言葉の意味と背景について調べておくこと。 《復習》			

・毎回の講義終了後、①「学んだこと」、②「疑問に思ったこと・さらに学びたいこと」の2点を整理しておくこと。これらについては、3部構成の各部の終わりに質疑応答・意見交換の時間を設ける。

5. 教科書

特になし。

6. 参考書

- ・中川雄一郎(2018)『協同組合のコモン・センス』日本経済評論社
- ・中川雄一郎・杉本貴志編著/全労済協会監修(2012)『協同組合を学ぶ』日本経済評論社
- ・藤井敦史・原田晃樹・大高研道編著(2013)『闘う社会的企業』勁草書房

7. 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義冒頭に、前週講義に対する質問・疑問点等について解説および意見交換を行う。

8. 成績評価の方法

試験 80%、平常点 20%（毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって加点されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる）。

9. その他

対話型の講義を重視する。グループ討議や質問・発言などを通して積極的に参加してほしい。

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		公益事業論		
担当者		大野 泰資		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 〈概要〉 本講義では、電力・ガス・電気通信・公共交通等のサービスについて、公共経済学的な観点から、なぜ一定の政府規制の下での事業展開や料金政策が必要とされるのか、という点について理解を深める。次に、これらの公益事業が、公共性を担保しつつ効率的な事業経営を行うために必要な事業環境や、公益事業を評価する際の視点を学ぶ。また、公益事業をめぐる近年の規制改革や競争自由化、民営化は、どのような根拠に基づいて実施されてきたのか、また、その成果をどのような評価軸で評価すべきなのかを把握する。さらに、感染症対策に伴うコスト増、テレワークの普及や急速に進む少子高齢化、技術革新の進展により、公益事業は今後どのように変化していくのかを考察する。 担当講師は実務家であるため、講義の中では伝統的な経済理論の解説に留まらず、現実の公益事業の現場で生じているトピックスを積極的に取り上げる予定である。 〈到達目標〉 日常的に利用している公益事業について、サービスの量・質と料金水準の関係や、事業運営の効率性を評価するための判断基準を養えるようにすることを目標とする。				
2. 授業内容 〈概論〉 第1回：aのみーイントロダクション（公益事業の特性と政策的対応の必要性） 第2回：公益事業の費用構造 第3回：公益事業の価格決定 第4回：公益事業の料金政策とインセンティブ 〈事業別各論〉 第5回：電力（その1）ー自由化とエネルギー政策ー 第6回：電力（その2）ー自由化とエネルギー政策ー 第7回：公共交通（その1）ー航空、鉄道、バス、タクシーなどー 第8回：公共交通（その2）ー航空、鉄道、バス、タクシーなどー 第9回：公共交通（その3）ー今後の公共交通の在り方ー需要縮小と技術革新ー 第10回：水道 第11回：情報通信ー固定電話、移動体通信ー 〈公益事業の改革〉 第12回：公営企業の民営化ー国鉄、郵政、道路公団ー 第13回：民が担う新しい公共ー社会的起業、NPOー 第14回：総復習とまとめ				
3. 履修上の注意 初級レベルのミクロ経済学の知識を持っていることが望ましい。知識が無くても理解できるように説明するが、受講生は、初級のミクロ経済学のテキストを参照できる状態にはしておくこと。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各回の授業では、冒頭で前回の復習、続いて本論、終了前に当日の復習を行う。毎回このサイクルを繰り返すので、授業の中だけでも復習ができるようにする。なお、適宜、参考文献も紹介するので、予復習に活用してもらいたい。				
5. 教科書 特に定めない				
6. 参考書 塩見英治編『現代公益事業』有斐閣ブックス、2011 年 木船久雄・西村陽・野村宗訓『エネルギー政策の新展開』晃洋書房、2017 年 橘川武郎『電力改革』講談社現代新書、2012 年 竹内健蔵『交通経済学入門』有斐閣ブックス、2008 年 公益事業学会編『公益事業の変容』関西学院大学出版会、2020 年 公益事業学会関西若手研究会編『公益事業の再構築』関西学院大学出版会、2023 年 大塚良治『新公益事業経営論』Kindle 版、2025 年 など 毎回の講義ノートの中で、適宜、官公庁				

7. 課題に対するフィードバックの方法

各回授業の冒頭で、前の回の授業で出題した「小テスト」および「ディスカッション」に対する担当講師からの解説および講評を行う。

8. 成績評価の方法

定期試験 70%、平常点として①授業へのディスカッションへの参加の程度 15%、②各回の小テスト 15%の割合で評価する。

9. その他

われわれは光熱水道や公共交通網を日常的に利用しているので、提供されるサービスに対して「便利である、不便である」「高い、安い」という感覚を持ち合わせているはずである。その感覚を取っ掛かりとして、これら公益事業のサービスと料金が提供される背後にある産業組織の構造を関連づけて考えてみよう。

【e-mail】 tai40no@gmail.com

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		公共ガバナンス論 A		
担当者		石渡 幹夫		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
概要 公共セクターが対処すべき社会課題は、グローバル化、デジタル化、気候変動等の影響により、かつてない速度で複雑化・多様化している。従来の政府主導による垂直的な統治システム（ガバメント）では、こうした課題に十分な対応が困難となっている。特に、環境問題、社会保障、地域活性化などの分野では、多様な関係者の関与、利害調整、協力が不可欠となっている。 政府・地方自治体・市民社会・民間企業・NPO など、多様な主体の協働による新しい統治形態としての「ガバナンス」が注目されている。トップダウン型の意思決定から、ネットワーク型の協調的な政策形成・実施へと、公共課題への対処方法を転換するものである。 本講義では、ガバナンスの理論的基礎から実践的な課題まで、体系的な理解を目指す。特に、水資源管理を主要な事例として取り上げ、環境保全と社会的ニーズの調和、多様なステークホルダーの合意形成、科学的知見の活用など、現代的な課題解決の実際を検討する。水資源管理は、上水道整備、治水、利水、環境保全など、多面的な要素を含む複合的な政策領域であり、ガバナンスの課題と可能性を考察する上で適した題材となる。 さらに、気候変動への適応策としての「グリーンインフラ」や、流域全体での統合的な水管理など、新しい概念や手法についても学ぶ。国内事例の詳細な検討に加え、先進的な取り組みを行う海外の事例も取り上げ、グローバルな視点からガバナンスの在り方を考察する。理論的理解と事例分析を組み合わせることで、実践的な問題解決能力の向上を図る。				
到達目標 ガバナンスの基礎理論と歴史的展開を理解し、説明できる 多様なステークホルダーの役割と、協働の意義を理解できる 水資源管理についての事例分析を通じて、ガバナンスの課題と可能性を考察できる グローバルな視点から公共課題の解決方法を構想できる				
2. 授業内容				
第 1 回 イントロダクション：ガバナンスとは何か？ ガバナンス論をめぐる概観や分析枠組みを理解する 第 2 回 市場と政府の役割：なぜ政府の介入が必要なのか？ 日本の NPM の事例として、航空産業、道路公団の事例を通じて、市場と政府の役割を学ぶ 第 3 回 コモンズのガバナンスへ：コモンズとは何か？ 共有資源の過剰利用を防ぐ仕組みとしてのガバナンスを理解し、カリフォルニア州の地下水管理の合意形成事例を学ぶ 第 4 回 日本のコモンズ：日本の共有資源を管理する仕組みとは？ 日本の伝統的な入会地や財産区の仕組みを学び、地域共同体による自主管理の現代的意義を考察する 第 5 回 熊本における地下水管理：先進事例熊本の地下水管理とは？ 百万市民の水源をすべて地下水で賄う熊本市での農業と連携などの管理手法、半導体工場進出に伴う新たな課題を考える 第 6 回 森林管理：国内外の課題は？ 国内外の森林の現状と課題を理解し、解決策を説明できる 第 7 回 水産資源管理：国内外の現状は？ 国内外の水産資源、水産業の現状と課題を理解し、国際的な管理、国内での取り組みを説明できる 第 8 回 水資源管理の歴史：現在の水の管理の仕組みはどのように出来上がってきたのか？ 律令時代から江戸時代、近代国家、戦後、と経済社会の変遷とともに変化してきた水管理システム、水利権やマネジメントの仕組みを学ぶ 第 9 回 水資源管理の発展：水資源はどのように成長を支えてきたか 近代化以降、時代ごとのニーズにこたえてきた、水ガバナ ンスの進化を議論できるようになる 第 10 回 統合水資源管理：様々な分野を統合して管理する方法は？ 琵琶湖総合開発などを事例とし、上下流での利害対立の調整や下流から上流への資金支援（感謝金）の仕組みを説明できるようになる 第 11 回 日本の水資源分野の途上国援助：日本はどのように支援しているのか？ 途上国支援を通じ、データに基づくマスタープラン策定とキャパシティ・ディベロップメントの重要性を学ぶ 第 12 回 水ガバナンス：どのように変遷してきたか？ ダムなど大規模開発をめぐる反対運動がおこった背景と、その後の政策変革について、長良川河口堰、ハッ場ダムなどを事例に理解する 第 13 回 グリーンインフラの可能性：自然の機能を使った手法とは？ 福岡県上西郷川、世田谷区二子玉川などの事例からグリーンインフラの機能や便益、協働による可能性を理解する 第 14 回 振り返りとまとめ：今後のあり方は？ 定期試験と、試験内容の解説と全体の振り返り				
3. 履修上の注意				
履修生の人数により定期試験を期間中試験に変更することがある。 授業の内容に関する課題を出します。				

4. 準備学習（予習・復習等）の内容

事前にキーワードなどを自分で調べる

課題の提出

授業と関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事から情報収集する

5. 教科書

講義資料はオンラインで提供する

6. 参考書

『公共政策学の基礎』 秋吉 貴雄, 伊藤 修一郎, 北山 俊哉 2020 有斐閣

『日本の水資源管理の経験』 2022 国際協力機構

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題について授業のはじめに全体講評する

期末試験については, 答案回収後に解説の時間を設ける

受講生からの質疑を踏まえ、授業で補足説明や追加資料を提供する

8. 成績評価の方法

平常点、授業への貢献 (30%)

課題 (40%)

期末試験 (30%)

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		公共ガバナンス論B	
担当者		石渡 幹夫	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 概要 環境管理・災害対策における公共ガバナンスについて、国内外の具体的事例を通じて体系的に学習する。ガバナンスの整備においては、各地域固有の地形や自然条件、社会文化的背景が大きく影響するため、画一的な解決策は存在しない。持続可能な社会の実現に向けては、地域の特性を活かした柔軟なガバナンスの構築が不可欠である。 近年、気候変動の影響により自然災害が激甚化・頻発化する中で、従来の行政主導による対応では十分な効果を上げることが困難になってきている。途上国では、特に、都市化の進展に伴い、水害や土砂災害のリスクが高まっている。復興においては、迅速な対応と地域社会の持続可能性の確保の両立が求められる。 行政、市民社会、民間企業など多様な主体の協働による新たなガバナンスの構築が世界各地で模索されている。各地で発展してきた伝統的な管理システムの特徴を理解した上で、近代化の過程でこれらがどのように制度化され、現代においてどのような変容を遂げているかを学ぶ。 到達目標 1 世界各地の防災・環境ガバナンスの特徴と課題を理解し、説明できる 2 地域性や社会文化がガバナンス整備に与える影響を分析できる 3 具体的な事例に基づき、効果的なガバナンス構築の方策を提案できる			
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション：防災・環境管理におけるガバナンスとは何か 防災・環境をめぐるガバナンスについて、世界の議論や取組みを理解し、ガバナンスについて学ぶ。 第 2 回 日本と世界の災害：災害の現状はどうなっているのか？ 国内外の災害の現状や被害、格差について理解する 第 3 回 東日本大震災（1）概要：東日本大震災はどのような災害であったか？ 防災のサイクルと、東日本大震災の被害概要について理解する 第 4 回 東日本大震災（2）対応と復旧：どのように対応し、復旧に取り組んだか？ 避難所の運営などの対応、復旧における、専門家、ボランティア、民間の役割を理解する。 第 5 回 東日本大震災（3）復興：どのように復興したか？ まちや住居などの復興についての進捗、課題について学ぶ 第 6 回 社会関係資本と能登半島地震：社会関係資本はどのように防災に貢献するか？ 社会関係資本（ソーシャルキャピタル）と防災の関連、能登半島地震の概要と復興について学ぶ 第 7 回 地域社会による防災と IT：地域社会や IT はどのように防災に役立つか？ 消防団など地域社会による取組と、ドローン・SNS など IT の利用について学ぶ 第 8 回 治水のガバナンス：洪水対策のガバナンスとは？ 洪水対策のガバナンスがどのように変遷してきたのか理解する 第 9 回 巴川の治水：静岡・巴川の取組みとは？ 巴川を事例に洪水対策のガバナンスについて学ぶ 第 10 回 気候変動：激化する災害への適応策は？ 気候変動リスクに対する公共経営について学ぶ 第 11 回 都市型災害：地震対策はどのように進められてきたのか？ 建築基準やまちづくりなど地震対策の変遷について理解する。また、自分や自分の家族を災害から守る方策を学ぶ 第 12 回 途上国援助：防災分野で途上国への援助はどのように行われているか？ 仙台防災枠組などの国際的な取組み、日本の途上国援助について学ぶ 第 13 回 インド洋大津波からの復興：大津波からどのように復興したのか？ インドネシアやスリランカなどで 20 万人以上の犠牲者を出した 2004 年の津波災害からの復興におけるガバナンスについて学ぶ 第 14 回 振り返りとまとめ：今後のあり方は？ 定期試験と、その解説			
3. 履修上の注意 履修生の人数により定期試験を期間中試験に変更することがある。 授業の内容に関する課題を出します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にキーワードなどを自分で調べること 課題の提出 授業と関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事から情報収集する。			

5. 教科書

毎回、教材を配布する

6. 参考書

『日本の防災、世界の災害：日本の経験と知恵を世界の防災に生かす』石渡幹夫（2016）鹿島出版会

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題については次の講義で解説します

定期試験は答案の回収後、解説します

受講生からの質疑を踏まえ、授業で補足説明をし、追加資料を提供します

8. 成績評価の方法

平常点（出席、授業への貢献）（30％）

課題（40％）

定期試験（30％）

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		公共データ分析論		
担当者		鶴田 靖人		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 政府や地方自治体などが収集・作成した公共データは、政策形成のために利活用されているだけでなく、オープンデータとして民間企業に活用されることで、市場分析、立地戦略、地域戦略、企業の社会的責任(CSR)・ESG（環境・社会・ガバナンス）経営など、幅広い経営上の意思決定にも活用されている。近年では、AI などの技術進化、個人情報の保護、データガバナンス、オープン化やビッグデータ化といった新たな課題への対応も求められており、公共データを適切に利活用するためには、単なるデータの可視化や分析にとどまらず、制度・社会的背景を含めた幅広い理解が不可欠である。 本授業の前半では、公共データの基本的な考え方、データガバナンス、プライバシー保護、EBPM（証拠に基づく政策立案）などについて学び、公共データの適切な利活用とは何かを公共経営・マネジメントの視点から考察する。後半では、公共データの利活用手法の一例として、地理情報システム（GIS）を用いた公共データの可視化・分析手法を学ぶ。演習を通じて、公共データを地図上に可視化し、地域や市場の特徴を整理・解釈し、地域課題や経営に関する示唆を説明できるようになることを目指す。本授業を通じて、公共データを「読む」「可視化する」「解釈して説明する」という一連のプロセスを身につけ、データに基づいて経営・公共分野の課題を考える基礎力を養う。 到達目標 1. 公共データの利活用、データガバナンス、EBPM に関する基本的な知識を説明することができる。 2. GIS を用いて公共データを地図上に可視化し、地域や市場の特徴を把握することができる。 3. 公共データ分析の結果を解釈し、公共経営・マネジメントに関する示唆を簡潔に説明することができる。				
2. 授業内容 第1回：公共データとは何か（公共データと公共経営分野の関係） 第2回：データガバナンスとプライバシー保護 第3回：データ主権、EU の GDPR、データコモンズ 第4回：公共データの種類と作成方法および入手先（総務省統計局、e-Stat など） 第5回：オープンデータ・ビッグデータ政策と活用事例 第6回：統計リテラシー：公共データの読み解き方 第7回：証拠に基づく政策立案（EBPM）の基本概念と公共データの役割 第8回：行政・企業におけるデータ活用の動向と今後の展望 第9回：AI と公共データ利活用（事例紹介を中心に） 第10回：データ分析の演習①（e-Stat、Excel 等を用いた分析） 第11回：データ分析の演習②（MANDARA 等の GIS ソフトを用いた分析） 第12回：データ分析の演習③ 公共データの地図化と地域（市場）特性の可視化 第13回：データ分析の演習④ GIS 分析結果の解釈と公共経営への応用 第14回：まとめ（公共データ利活用の未来とマネジメントへの展望）				
3. 履修上の注意 データ分析やプログラミングに関する高度な知識は前提としないが、基本的な PC 操作（ファイルの保存、表計算ソフトの基本操作等）ができることが望ましい。 演習や課題では、分析結果を文章で整理し、解釈・説明する作業を行うため、授業への継続的な参加が求められる。 データ分析の演習①～④の時間は PC を用いる。その他の授業でも PC を用いることがある（詳細は授業前に連絡する）。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、講義資料を読み、専門用語の意味を確認した上で自分なりの疑問点、問題点を整理すること。 復習として、公共データの利活用に関する基礎的な知識を整理し、公共データのマネジメントにおける重要な点・課題点を説明できるようにすること。				
5. 教科書 なし				
6. 参考書 授業回で適宜紹介する				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-o!Meiji を利用してフィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 期末試験（公共データの利活用、プライバシーの保護、データ主権とデータガバナンス、EBPM に関する基礎的理解を問う：40%）、課題（GIS を用いた公共データ分析と地域（市場）特性に関する考察：40%）、平常点（リアクションペーパー、授業への参加状況など：20%）				

9. その他

授業内では、Excel およ GIS ソフトを用いたデータ分析・可視化を行う。使用するソフトウェアやデータについては、授業内で指示する。

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／		
科目名		地方財政論		
担当者		星野 泉		
4 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 地方財政を論じる場合の「地方」とは、農村部、あるいはいわゆる田舎のことを意味するわけではない。駿河台のある東京中心部の千代田区を含む東京特別区や東京都、あるいはその他の都市部自治体をも含んだ概念であり（現在はその部分が圧倒的に大きい）、公共部門たる地方自治体を意味し、地方財政とはその財政活動のこととなる。 地方自治体は、予算、税制、財政調整、補助金、公債などで国との財政関係を強くもつ一方、公共サービスの供給及び地方税の課税主体として住民との財政関係をもつ。また、総体としての地方財政状況が、日本全国にある個別自治体の財政状況と同じでもない。市といっても、人口 400 万人近い横浜市から人口 2,000 人台の歌志内市まで様々。財政問題は全く異なる。本講義では、こうした二面性をおもに制度、歴史、国際比較の観点からみていく。 また、財政の国際化が進み、国際公共財や、財政や税制の国際調整が課題となるにつれ、地方財政の分野は大きく広がりつつある。EU の観点から見れば、EU に属するヨーロッパの一国は一地方であり、各地域に EU からの交付金もある。世界あるいは国連中心主義から見れば、日本財政も地方財政の一部となる。したがって、国の財政も地方財政の範疇といえる。これまでおもに国との関係で地方財政や地方分権論を語ってきたものがより複雑化してきたのである。分権論は、国からばかりでなく、国を超えた主体からの分権も議論しなくてはならない。 本年度は、国税を含めた税制を中心に日本の地方分権の現状、感染症や災害等の危機対応、そしてイギリスやスウェーデンとの国際比較に時間を割く予定である。また、少子高齢化との関わりなど、その時々々の課題についても盛り込んでいく予定であり、授業予定は前後することもある。起きている事象に対して、問題意識をもちたい、その方法を知りたい、という学生の受講を希望する。				
2. 授業内容 第 1 回 b のみ 講義の概要 第 2 回 地方財政今そこにある危機、地方自治と地方財政 第 3 回 経済、財政、地方財政の国際比較 第 4 回 公共部門と民間部門 第 5 回 スウェーデンの地方財政 第 6 回 イギリスの地方財政 第 7 回 国民経済と地方財政 第 8 回 日本の地方財政概要 第 9 回 日本の地方財源 第 10 回 所得税と個人住民税 第 11 回 法人税と地方法人 2 税（事業税・法人住民税） 第 12 回 消費税と地方消費税 第 13 回 固定資産税 第 14 回 自主課税権、法定外税、環境税 第 15 回 地方交付税と地域格差 第 16 回 公共事業、教育、福祉と国庫支出金 第 17 回 地方債 第 18 回 経費の分類 第 19 回 少子高齢化と地方財政 1 第 20 回 少子高齢化と地方財政 2 第 21 回 地方分権改革の動向 第 22 回 住んでいる自治体の財政分析をしてみよう 第 23 回 都道府県財政 第 24 回 大都市財政（政令指定都市と東京特別区） 第 25 回 都市財政 第 26 回 小規模町村財政 第 27 回 地方財政の今日的課題 第 28 回 a のみ 講義の整理				
3. 履修上の注意 関連科目として財政学、財政政策。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 テキスト、参考文献を読んで参加すること。 最低限、新聞を読んでくこと。				

5. 教科書

兼村・星野・稲田『自治体財政を読み解く』（イマジン出版）2022 年発行

6. 参考書

拙著『財政のかたちは国のかたち』（朝陽会）

拙著『スウェーデン高い税金と豊かな生活』（イマジン出版）

7. 課題に対するフィードバックの方法

対面、コメントカードなどで行う。

8. 成績評価の方法

授業への参加度 30%、小試験 30%、レポートおよび定期試験の成績 40%による

9. その他

特になし

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		地域活性化論（講義） A		
担当者		菊地 端夫		
2 単位	2 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 【講義テーマ】 「地域活性化の理論、フィールドワークの方法論、実践の取り組みについて学ぶ」 【講義概要】 本講義では、今日の日本社会が直面している構造的な課題を踏まえた上で、地域社会を持続可能な形で発展させるための理論と実践について学ぶことを目的としています。地域を経済的な側面だけでなく、社会、環境も含めた多面的な視点から理解し、地域活性化に関する理論、フィールドワークの方法論、実践の取り組みについて学習します。 講義では、観光振興、地域ブランド構築、商店街の取り組み、大学との連携、スポーツによるまちづくり、外国人材との共生などの具体的な事例分析とともに、内外の“成功”事例や“失敗”事例を多角的に検証し、複雑な地域課題に対する論理的な分析力と問題解決能力を養いたいと思います。 【到達目標】 本講義により、地域社会の構造と抱える課題の構造的把握能力と分析力、批判的な考察力、さらにフィールドワークの方法論について一定の知識と理解を身に着けることを目標とする。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション 第2回：フィールドワークの方法論 第3回：地域経済・社会の構造とその理解 第4回：グループ・ケーススタディ：地域ブランド・観光振興① 第5回：グループ・ケーススタディ：地域ブランド・観光振興② 第6回：グループ・ケーススタディ：スポーツ① 第7回：グループ・ケーススタディ：スポーツ② 第8回：グループ・ケーススタディ：商店街の取り組み① 第9回：グループ・ケーススタディ：商店街の取り組み② 第10回：フィールド調査の計画① 第11回：フィールド調査の計画② 第12回：都内巡検① 第13回：都内巡検② 第14回：まとめ講義				
3. 履修上の注意 「地域活性化論（実習）A」の履修学生は、本講義も履修すること（「実習」授業を履修していない学生も、本講義を単体で履修することは可能です）。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内ではグループ・ケーススタディを扱うので、授業時間外での学習・事前準備が必要となる。				
5. 教科書 授業中に提示する。				
6. 参考書 授業中に提示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 授業・グループ・ケーススタディへの参画：60%、フィールド調査計画案の提出：40%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN375J	
科目名		地域活性化論（実習） A	
担当者		菊地 端夫	
2 単位	2 年次	春学期集中	
1. 授業の概要・到達目標 【実習テーマ】 人と場所をつなぎ、まちをデザインする取り組みの実践を学ぶ：岡山市奉還町の事例から 【講義概要】 本講義では、地域活性化論 A（講義）と並行して、岡山県岡山市の中心商店街で展開されているまちづくりを題材に、フィールドワークを通じた知見や資料の収集と、それに基づくレポートの作成という一連のプロセスを経験する。+ 岡山市内の奉還町を拠点に人と人、人と場所をつなぎ、まちをデザインする取り組みを実践している民間組織（経営学部卒業生も中心にかかわっている企業）を訪問し、その取り組みや考え方について学ぶ予定である。 岡山市での実習は、春学期明けの夏休み期間当初に 3 泊 4 日で実施する。また、春学期期間中に実習の予行演習として都内での短期実習（日帰り）を行う。 【到達目標】 本実習により、地域社会の構造と抱える課題を整理し、地域の活性化に関わる実践的なビジネスプランを構想しまとめる力を身に付けることを目標とする。			
2. 授業内容 【実習の概要】 春学期期間中の日帰り実習（訪問先は都内の商店街を予定）、春学期期間終了後に 3 泊 4 日、岡山県岡山市及び周辺での実習（訪問先は岡山市奉還町をはじめとした市内の商店街、施設）。 ・募集人数：10 名以内 ・参加費用：約 5.5 万円（内訳：交通費・宿泊費他） ＊学部から実習終了後に旅費助成あり。 ・実習時期：春学期中 1 回（都内での日帰り）、8 月 1 日土曜～4 日水曜の 3 泊 4 日（岡山県岡山市）。岡山市訪問に伴う往復の交通や宿泊先の予約などについては、授業時間内に指示する。			
3. 履修上の注意 履修者を、レポートによる選考によって決定する。Oh-o!Meij「アンケート」にレポート提出の頁を設ける。「地域活性化論（講義及び実習）の志望動機」を 1000 字程度でまとめ、期日までに提出すること。提出時期、場所等の詳細は履修希望者ガイダンスで説明するので必ず出席・視聴すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 実習前のグループ学習では授業時間外での調査計画書の作成が必要となる。実習後は報告レポートの作成が必要となる。			
5. 教科書 授業中に提示する。			
6. 参考書 授業中に提示する。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 実習への参画：70%、報告レポートの提出：30%			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA)MAN371J		
科目名		地域活性化論（講義）B		
担当者		石澤 香哉子		
2 単位	2 年次	秋学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 ≪授業の概要≫ 敗戦後の日本が経済復興する過程で、大都市圏と地方の格差が拡大しました。そして現在、双方共に深刻な諸問題が表出しています。少子・超高齢化による人口減少社会の進展、地方および地域経済の衰退、貧困格差の拡大と固定化、20 年後 30 年後には都市部においても消滅都市が発生するという報告もあり、政府も地方公共団体も地方創生、地域活性化の政策を掲げています。住民（市民）によるまちづくり活動も行われていますが、一般になかなか有効な手立てがありません。 本講座では、社会における様々な課題を考える基礎的な内容を押さえたのちに、各論として「地域コミュニティの創出」「外国ルーツ人々のコミュニティ」「地域課題・社会課題の解決」の 3 つのテーマに取り組みながら地域を支え、活性化させる活動について学び、実習を通じて深めていきます。 ≪到達目標≫ 現代日本社会の諸問題はどんな変遷を経て（地域）社会へ表出しているのか。身近な問題から接近して多角的な知見を得て、自分なりの問いを立て、思考し、意見交換し、また自分の考えを深めるワークを繰り返すことで、問題に対して主体的かつ能動的に取り組む力を身に着けることを目標とします。				
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 「自分の視点」から始める地域活性化 第 2 回：基礎知識①敗戦後の日本人の暮らしと社会・経済の変遷 第 3 回：基礎知識②近代日本の社会問題とその背景 第 4 回：基礎知識③社会を支える多様な組織と“連帯”のしくみ 社会的連帯経済論 第 5 回：地域コミュニティの今 現状と課題 第 6 回：つながりを生み出す様々な実践事例 第 7 回：コミュニティ事業を考えてみよう①人々は何でつながるのか？ 第 8 回：外国ルーツの人々と地域社会 第 9 回：多文化共生の現場から学ぶ 第 10 回：コミュニティ事業を考えてみよう②共に生きるために足りないものは何か 第 11 回：地域社会が抱える課題の現状 第 12 回：地域課題・社会課題に挑む様々な取り組み 第 13 回：コミュニティ事業を考えてみよう③わたしたちだから見えること・できること 第 14 回：全体の振り返りとレポート課題				
3. 履修上の注意 本授業では、少人数でのグループワークやディスカッションを重視します。自分の考えや経験を共有する場面もあります。こうした形式の学習に心理的負担を感じる可能性がある場合は、履修前に十分検討してください。 なお、本科目は「地域活性化論（実習）B」と連動して設計されています。実習科目とあわせて履修することで、学習内容の理解がより深まります。また、実習との兼ね合いで講義の内容は前後する可能性もありますので、その点はご了承ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業時に参考論文や記事の配布や文献紹介を紹介します。また、グループディスカッションに備えて事前に設定したテーマについて資料調査をしてもらうこともあります。 また、授業の資料や課題レポートについては、Oh o! Meiji システムに掲載します。欠席の場合は該当回の資料をよく読んでおいてください。				
5. 教科書 使用しない。				
6. 参考書 使用しない。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh o! Meiji システムを利用して案内します。また、授業内で適宜フィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 課題成果物 20%、授業への貢献度 50%、期末レポート 30%				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN375J	
科目名		地域活性化論（実習）B	
担当者		福原 充	
2 単位	2 年次	秋学期集中	
1. 授業の概要・到達目標			
《授業概要》 地域活性化論 B（実習）では、地域コミュニティに関する取り組みが行われている現場に赴き、実際に活動されている地域の方々へのヒアリング、諸活動への参加などを通して地域活性化について考えていきます。「地域」は不変なものではなく、時代や社会状況によってその姿、あり方が変化します。地域活性化に具体的に取り組むためには、画一的な手法だけでなく、その地域特有の生活文化と歴史、人々の連携・連帯の構造などと向き合い、多様なあり方を思考しながら、地域ごとの「これから」を模索し、デザインしていく必要があります。 この授業では、地域活性化論 B（講義）の内容と関連させながら、自分たちの身近にある地域のあり方、地域における人々の連携・連帯について考究していきます。受講生は、本科目の授業の目的を意識しながら各自でテーマを定め、実習を通して自身が理想とする地域のあり方とその具体策（プランニング）について検討し、最終授業で発表をします。 《到達目標》 実習を通して、主体的に行動し、地域コミュニティの構造を理解し、地域活性化の具体策を考案する。			
2. 授業内容			
実習は以下の 4 つに大別されます。基本的に実習先は東京都内（主に豊島区）となります。都市部にて展開されている様々な取り組みについて、関係者へのヒアリングのほか、実際の地域活動に参加することなどを通して、地域コミュニティを立体的に捉えることを目指します。なお、実習の前後には、各自のテーマ設定のほか、事前・事後学習として実習先に関する講義と振り返りを実施します。 ＊実習の回数は実習先の状況によって増減する。 原則各テーマ 2 回以上の活動となります。 1) 地域デザインに取り組む企業及び団体での活動（豊島区） 豊島区は 2014 年に東京 23 区で唯一「消滅可能性都市」に選定されたことを契機に、官・民が連携したまちづくりが展開されています。豊島区の地域デザインに関する取り組みや諸活動に参加することを通して、地域デザインへのまなざしとそのあり方について学び、考えていきます。 2) 外国にルーツがある方々のコミュニティでの活動（豊島区） 豊島区は都内屈指の国際色豊かな地域の一つとして知られており、区内の外国人人口は総人口の約 12%、およそ 130 の国と地域に広がっているとされています（令和 7 年 3 月、豊島区策定基本構想より）。実際に外国にルーツがある方々のコミュニティを訪問し、ヒアリングとともに諸活動への参加などを通して外国にルーツがある方々からみた日本、地域コミュニティの姿を学ぶとともに、外国にルーツのある方々のコミュニティのあり方について学び、考えていきます。 3) 地域課題・社会課題の解決に取り組む企業・団体での活動（豊島区・新宿区） 近年民間企業や協同組合、NPO や一般社団法人が連携・連帯しながら地域課題・社会課題に取り組む動きが出てきています。これらの活動について、豊島区や新宿区を拠点に活動している団体を訪問し、諸活動への参加等を通して、地域課題・社会課題の解決に向けたアプローチ方法、その基盤にある活動理念、構造などの実態について学び、考えていきます。 4) 報告会 1) ～3) での実習終了後、大学キャンパス内で実習報告会（2 月）を行います。実習における活動内容や学んだことをまとめ、個々人が設定した地域活性化に関する具体策について発表します。			
3. 履修上の注意			
地域活性化論（実習）B とセットで履修すること。受入機関などのキャパシティから定員 10 名とします。本科目は地域の方々の協力のもとに実施するため、そのことに対する理解と意識、誠意をもって受講してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
実習に行く前に、それぞれの地域コミュニティに関する歴史や生活文化、社会的な背景等について講じます。その後、各自で実習先について調べ、実習先の諸活動に関する仮説を設定するなど、実習前に学んだことをまとめます。実習後は毎回振り返りを実施します。ヒアリングや諸活動への参加を通して得た学びや新たに出てきた疑問点、自身の「当たり前」がどのように揺さぶられたのかなどについてまとめます。			
5. 教科書			
特に定めません。授業中に適時文献や資料を紹介します。			
6. 参考書			
『生活史の方法－人生を開いて書く』岸政彦（2025/筑摩書房） 『地方消滅 2 加速する少子化と新たな人口ビジョン』人口戦略会議編著（2024/中央公論新社） 『関係人口の時代 「観光以上、定住未満」で地域とつながる』田中輝美（2025/中央公論新社） 『働くことの小さな革命 ルボ 日本の「社会的連帯経済」』工藤律子（2025/集英社）			

7. 課題に対するフィードバックの方法

リフレクションシートや最終レポート、最終プレゼンに関する発表資料などの提出ほか、Oh-o! Meiji を使用します。常時確認をするようにしてください。

8. 成績評価の方法

授業や実習での参加姿勢とリフレクションシートの提出（50%）、最終プレゼンと最終レポート（50%）

9. その他

原則として、実習にかかる費用は現地までの往復交通費及び実費（飲食代など）となります。

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		公共交通と地域社会	
担当者		大塚 良治	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 人口減少やモータリゼーションの進展に伴い、国内の多くの公共交通事業者の経営環境は厳しさを増しています。さらに、2020 年には新型コロナウイルスの感染が拡大し、公共交通機関の利用が大きく落ち込みました。公共交通の持続的運営方策の立案・実行が急務といえます。本講義では、公共交通活性化および公共交通を基盤とした地域活性化に関するプランを企画・立案・説明できる能力を身につけることを到達目標とし、国内の地域公共交通の運営と活性化のあり方についてを学ぶとともに、公共交通事業者と地域社会がともに発展する道筋について理解を深めます。なお、当授業は「メディア授業科目」です。14 回中 6 回を「オンデマンド授業」で実施します。 ＜到達目標＞ ・公共交通活性化プランを企画・立案・説明できる ・公共交通を基盤とした地域活性化プランを企画・立案・説明できる			
2. 授業内容 第1回： 都市問題解決手法としての自動車を前提としたまちづくりの是非〔対面授業〕 第2回： エベネザー・ハワードの「田園都市」・ル・コルビュジェの「輝く都市」と公共交通〔対面授業〕 第3回： 大手私鉄の沿線開発と地域社会①（総論・阪急・東急）〔対面授業〕 第4回： 大手私鉄の沿線開発と地域社会②（西武鉄道の不採算路線問題）〔対面授業〕 第5回： JR の経営多角化と地域社会〔対面授業〕 第6回： 地域住民による公共交通の運営①（川崎市麻生区他）〔対面授業〕 第7回： 地域住民による公共交通の運営②（千葉ニュータウン地域）〔対面授業〕 第8回： 鉄道事業者による着席通勤の取り組みとまちづくり〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第9回： 新幹線・有料特急通勤とまちづくり〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第10回： 地域鉄道の存続問題①（えちぜん鉄道他）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第11回： 地域鉄道の存続問題②（四日市あすなろ鉄道他）〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第12回： 観光まちづくりと公共交通①〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第13回： 観光まちづくりと公共交通②〔メディア授業（オンデマンド型）〕 第14回： 持続可能な地域づくりに向けた公共交通活性化の課題〔対面授業〕 ※受講生の理解や社会経済情勢の変化等によって内容を一部変更することがあります。			
3. 履修上の注意 特段の予備知識は不要です。ただし、一部の授業で交通事業者の財務諸表を利用することがあるため、会計学に関する基礎知識があると一層理解が深まります（会計学の知識は必須ではありません）。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：授業前の1週間に報道された公共交通に関するニュースに目を通す。 復習：授業で配布された資料に目を通す。			
5. 教科書 レジュメを配布します。			
6. 参考書 特に定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回出席確認のために実施する提出課題について、次回授業で講評を行います。小テストについては、Google フォームの採点結果のフィードバック機能を活用して結果および解説を通知します。			
8. 成績評価の方法 授業内小テスト 100% ※提出課題については、成績順位決定の判定材料として使用します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		観光事業論 A		
担当者		中島 恵		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
2003 年に小泉政権は日本の主要産業を製造業から観光業へシフトさせる方針を固め、ビジット・ジャパン・キャンペーンを開始し、訪日外国人観光客年間 1000 万人を目指すと発表した。2020 年の東京オリンピック時に訪日外国人 4000 万人を目指していたが新型コロナウイルス流行で計画が大幅に変更された。2025 年は初めて 4000 万人超えの 4268 万人に到達した。観光事業は世界的な問題の影響を強く受ける脆弱性がある。観光事業は地域経済を活性化させ、地域雇用を生むため地域振興につながる。第 3 セクター形式も多い。本講義では各事業の概要を中心に、観光事業論 B ではより詳細に学習する。 本講義には構造的な理論はない。実社会で具体的に起きている観光現象を中心に学習する。高校の現代社会に似ている。 担当者はディズニーランドやユニバーサルスタジオを中心にテーマパーク経営を研究している。本講義の前半では日米のディズニーランドとユニバーサルスタジオをはじめ世界のテーマパークの経営を詳しく説明する。後半ではテーマパーク事業と地域振興を詳しく説明する。具体的には、新日鉄のスペースワールド、トヨタ自動車のラグナシア、常磐炭鉱の常磐ハワイアンセンターなどである。本業の縮小に対するリスクヘッジとしてテーマパーク事業への多角化は活発に行われていた。 〈到達目標〉 本授業では、ものづくり立国から観光立国への転換がどのように行われていくか、どのような問題があるのか、今後どう進むのかなどを学習し、理解する。また各種観光事業はどのように経営されているのか、経営学的に学習し、理解する。観光事業による地域振興、地域活性化を学習し、理解する。				
2. 授業内容				
第 1 回：イントロダクション：観光事業とは何か 第 2 回：インバウンド観光とアウトバウンド観光とは何か 第 3 回：起業家ウォルト・ディズニーとアメリカのディズニーランド創業 第 4 回：ユダヤ人のメディア業界進出とユニバーサル・スタジオ創業 第 5 回：日本の高度成長とオリエンタルランドによるディズニーランド誘致 第 6 回：東京ディズニーランド大成功と東京ディズニーシー計画 第 7 回：東京ディズニーリゾートへの拡張とインバウンド 第 8 回：大阪市の第三セクターとしてのユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ） 第 9 回：USJ の低迷と V 字回復とクール・ジャパン 第 10 回：新日鉄のスペースワールドと地域振興 第 11 回：トヨタ自動車のラグナシアと地域振興 第 12 回：常磐炭鉱の常磐ハワイアンセンターと地域振興 第 12 回：三鷹の森ジブリ美術館と三鷹市 第 13 回：藤子・F・不二雄ミュージアムと川崎市 第 14 回：講義全体のまとめ				
3. 履修上の注意				
経営学の基礎科目を履修済みであることが望ましい。履修していなくても可能。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
予習として、観光事業や地域振興に関するニュース、ビジネス雑誌、新聞を見る。復習として、本日の部分の教科書を読み直す。				
5. 教科書				
中島 恵（2017）『なぜ日本だけディズニーランドと USJ が大成功したのか？』三恵社 中島 恵（2021）『テーマパーク事業と地域振興』三恵社				
6. 参考書				
中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 日本編』三恵社 中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 アジア編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 中国編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 ヨーロッパ編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 アメリカ編』三恵社 中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 ドバイ・中東編』三恵社 中島 恵（2025）『ミュージアム経営論』三恵社				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
質問を受けたら、次回の授業の最初に全体に向けて説明する。 個別相談ならメールか授業後などに時間を作って解説する。				

8. 成績評価の方法

出席点 0%、授業への貢献度 0%、期末レポート 100%。

欠席は 5 回まで。

6 回以上欠席したら期末レポートを提出することができません。

期末レポートは 2 冊の教科書の中から出題します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		観光事業論B		
担当者		中島 恵		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
2003 年に小泉政権は日本の主要産業を製造業から観光業へシフトさせる方針を固め、ビジット・ジャパン・キャンペーンを開始し，訪日外国人観光客年間 1000 万人を目指すを発表した。2020 年の東京オリンピック時に訪日外国人 4000 万人を目指していたが、新型コロナウイルス流行で計画が大幅に変更された。観光事業は世界的な問題の影響を強く受ける脆弱性がある。観光事業は地域経済を活性化させ、地域雇用を生むため地域振興につながる。第 3 セクター形式も多い。本講義では観光事業論 A を受け，各事業についてより詳細に学習する。観光事業論 A を受講していなくても理解できるように説明する。 本講義の後半では動物園経営について説明する。上野動物園、旭山動物園（北海道旭川市）、円山動物園（札幌市）、東山動物園（名古屋市）など、地域振興につなげているケースを中心に説明する。 なお、本講義には構造的な理論はない。実社会で具体的に起きている観光現象を中心に学習する。高校の現代社会に似ている。 〈到達目標〉 本授業では、ものづくり立国から観光立国への転換がどのように行われていくか，どのような問題があるのか，今後どう進むのかなどを学習し，理解する。また各種観光事業はどのように経営されているのか，経営学的に学習し，理解する。観光事業による地域振興，地域活性化を学習し，理解する。				
2. 授業内容				
第 1 回：イントロダクション：観光事業とは何か				
第 2 回：日本のインバウンド観光の成長と観光立国				
第 3 回：新型コロナウイルス流行と観光業のダメージ				
第 4 回：日本の観光誘致 ～ものづくり立国から観光立国へ～				
第 5 回：鉄道事業とバス事業				
第 6 回：空港事業とエアライン事業				
第 7 回：宿泊事業（ホテル・旅館等）				
第 8 回：上野動物園と地域振興				
第 9 回：旭山動物園と行動展示				
第 10 回：円山動物園と地域振興				
第 11 回：札幌市の「日本一危険な動物園」閉鎖命令				
第 12 回：世界の大規模観光開発における動物園				
第 13 回：動物園経営と動物福祉、法令と問題点、収益性				
第 14 回：講義全体のまとめ				
3. 履修上の注意				
経営学の基礎科目を履修済みであることが望ましい。観光事業論 A を履修済みであることが望ましいが，履修していなくても理解できるように説明する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
予習として，観光事業や地域振興に関するニュース，ビジネス雑誌，新聞を見る。復習として，本日の部分の教科書を読み直す。				
5. 教科書				
中島 恵（2026）『動物園経営論』三恵社				
6. 参考書				
中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 日本編』三恵社				
中島 恵（2022）『テーマパーク産業論 改訂版 アジア編』三恵社				
中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 中国編』三恵社				
中島 恵（2023）『テーマパーク産業論 改訂版 ヨーロッパ編』三恵社				
中島 恵（2024）『テーマパーク産業論 改訂版 アメリカ編』三恵社				
中島 恵（2024）『テーマパーク産業論 改訂版 ドバイ・中東編』三恵社				
中島 恵（2025）『ミュージアム経営論』三恵社				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
次回の授業の最初に全体に向けて説明する。				
個別指導が適しているなら，授業後などに時間をとって説明する。				
8. 成績評価の方法				
授業への貢献度 0%、出席点 0%、期末レポート 100%。				
欠席回数は 5 回まで。				

6 回欠席したら期末レポートを提出できません。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(GJ) TRS211J		
科目名		ツーリズム・マネジメントA		
担当者		佐藤 郁		
2 単位	2 年次	春学期	中野	
1. 授業の概要・到達目標 観光は多くの人々にとって身近な活動であるとともに、様々な利害関係者が関わる複合的な分野であり、その国や地域の文化や社会のシステムを理解し、国や文化の違いを超えて交流・相互理解を推進する最も身近なツールのひとつです。本科目は、まず前半で、世界や日本の観光史、観光政策、観光資源を中心に基本的なツーリズムの知識を学びます。後半では、ツーリズムをマネジメントするとはどういうことかについて、ツーリズム・マネジメントを理解する際に重要な「ツーリズムの役割とジレンマ」というテーマを通じて考え、グローバルレベル、ローカルレベルのツーリズム・マネジメントの課題について広く理解することを目的とします。				
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 世界の観光史 第3回 日本の観光史 第4回 日本の観光事情 (1) 観光政策と課題-1 第5回 日本の観光事情 (2) 観光政策と課題-2 第6回 日本の観光事情 (3) 自然観光資源 第7回 日本の観光事情 (4) 人文観光資源 第8回 日本の観光事情 (5) 複合型観光資源 第9回 日本の観光事情 (6) MICE 第10回 グローバルツーリズムの潮流と世界観光機関 第11回 ツーリズムの役割とジレンマ (1) 環境 第12回 ツーリズムの役割とジレンマ (2) 経済社会 第13回 ツーリズムの役割とジレンマ (3) 文化 第14回 振り返りとまとめ				
3. 履修上の注意 ・AとBは対になっているので、連続して履修することが望ましい。第1回で授業の進め方や注意点について説明するので、履修を希望する学生は必ず出席すること。 ・授業は日本語で行うが、内容を説明した上で、英語の動画やDVDを使用することがあります。 ・授業で扱ったテーマに基づき、授業内でグループディスカッションを行うことがあります。 ・5回以上欠席した場合は試験の受験を認めない(受験資格を喪失するものとする)。特別な事情(病気・忌引等)がある場合は、事前に連絡をした上で証明書類を提出すること。 ・遅刻3回で欠席1回分とします。				
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 対象が広範囲に及ぶので、授業内で指示した参考資料は各自で目を通して、理解を深めるよう努力してください。				
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じてその都度資料をアップロードする。				
6. 参考書 適宜授業内で提示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーのコメントを共有しながら、全体へのフィードバックと振り返りを行う。				
8. 成績評価の方法 ・平常点 (授業への参加度及びリアクションペーパー) : 50% ・試験 : 50% ※5回以上欠席した場合は試験の受験資格を喪失するものとする。遅刻3回で欠席1回分とします。				
9. その他 ・本授業では、生成AIを用いることを禁止します。生成AIによる出力結果の一部や全部を転用して課題に回答した場合、不正行為として扱うことがあります。				

・受講生の人数や進行状況等により、内容や順番を変更する場合があります。

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(GJ) TRS211J		
科目名		ツーリズム・マネジメントB		
担当者		佐藤 郁		
2 単位	2 年次	秋学期	中野	
1. 授業の概要・到達目標 ツーリズム・マネジメントBでは、観光事業経営（ツーリズムビジネスマネジメント）、観光地域経営（ツーリズムデスティネーションマネジメント）の視点から、広く日本や世界各地におけるツーリズム・マネジメントについて学びます。 観光事業経営（ツーリズムビジネスマネジメント）では、世界と日本の旅行業、航空業、宿泊業について学びながら、世界や日本のツーリズムビジネスの現状と課題を理解することを目的とします。 観光地域経営（ツーリズムデスティネーションマネジメント）では、主に観光受け入れ地域側での、競争力を高めるためのマネジメントと、持続可能性を高めるためのマネジメントの2つに分けて学びます。観光受け入れ地域で、ツーリズムがもたらす利益や弊害をマネジメントするための仕組みや主体について理解することを目的とします。 最後に、これまでの視点を統合しながら、持続可能なツーリズムのために、観光に関わる様々な利害を調整する適切なマネジメントと主体の必要性を総合的に理解することを目指します。				
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 ツーリズムビジネスマネジメント (1) 世界の旅行業 第3回 ツーリズムビジネスマネジメント (2) 日本の旅行業 第4回 ツーリズムビジネスマネジメント (3) 世界の航空業 第5回 ツーリズムビジネスマネジメント (4) 日本の航空業 第6回 ツーリズムビジネスマネジメント (5) 日本の航空業 第7回 ツーリズムビジネスマネジメント (6) 世界の宿泊業 第8回 ツーリズムビジネスマネジメント (7) 日本の宿泊業 第9回 ツーリズムデスティネーションマネジメント (1) 観光地の経営と管理 第10回 ツーリズムデスティネーションマネジメント (2) 競争力を高めるためのマネジメント 第11回 ツーリズムデスティネーションマネジメント (3) 世界と日本の観光地の取り組み 第12回 ツーリズムデスティネーションマネジメント (4) 持続可能性を高めるためのマネジメント 第13回 ツーリズムデスティネーションマネジメント (5) 世界と日本の観光地の取り組み 第14回 まとめ				
3. 履修上の注意 ・AとBは対になっているので、連続して履修することが望ましい。第1回で授業の進め方や注意点について説明するので、履修を希望する学生は必ず出席すること。 ・授業は日本語で行うが、内容を説明した上で、英語の動画やDVDを使用することがあります。 ・授業で扱ったテーマに基づき、授業内でグループディスカッションを行うことがあります。 ・5回以上欠席した場合は試験の受験を認めない（受験資格を喪失するものとする）。特別な事情（病気・忌引等）がある場合は、事前に連絡をした上で証明書類を提出すること。 ・遅刻3回で欠席1回分とします。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 対象が広範囲に及ぶので、授業内で指示した参考資料は各自で目を通して、理解を深めるよう努力してください。				
5. 教科書 特に指定しない。必要に応じてその都度資料をアップロードする。				
6. 参考書 適宜授業内で指示する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーのコメントを共有しながら、全体へのフィードバックと振り返りを行う。				
8. 成績評価の方法 ・平常点（授業への参加度及びリアクションペーパー）：50％ ・試験：50％ ＊5回以上欠席した場合は試験の受験資格を喪失するものとする。遅刻3回で欠席1回分とします。				

9. その他

- ・本授業では、生成 AI を用いることを禁止します。生成 AI による出力結果の一部や全部を転用して課題に回答した場合、不正行為として扱うことがあります。
- ・受講生の人数や進行状況等により、内容や順番を変更する場合があります。

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(GJ) TRS211E		
科目名		ツーリズム・マネジメントA（E）		
担当者		SATO IKU		
2 単位	Year:2	春学期	中野	
1. 授業の概要・到達目標 Tourism is a sizable global industry and complex activity which involves various actors and stakeholders. Also, Tourism is one of the most familiar tools to understand diverse culture and social system of a country and to foster global cross-cultural communications between different countries and regions. In the first half of the course, I will provide an overview of tourism in the world and in Japan. It includes basic concepts, policies, history and key trends etc. The latter half focuses on the issues of tourism management at global, regional and local levels and discusses on “the role of tourism and dilemma caused by tourism”. By the end of this course, students will have broadly understood the critical issues in tourism management today at various scales.				
2. 授業内容 Week 1：Introduction Week 2:History of tourism in the world Week 3:History of tourism in Japan Week 4:Understanding tourism in Japan (1):Tourism policies and issues-1 Week 5:Understanding tourism in Japan (2):Tourism policies and issues-2 Week 6:Understanding tourism in Japan (3):Natural tourism resources Week 7:Understanding tourism in Japan (4):Cultural tourism resources Week 8:Understanding tourism in Japan (5):Mixed tourism resources Week 9:Understanding tourism in Japan (6):MICE Week 10:UN Tourism and global tourism today Week 11:The role of tourism and dilemma (1):Environmental issues Week 12:The role of tourism and dilemma (2):Socio-economic issues Week 13:The role of tourism and dilemma (3):Cultural issues Week 14:Course review & summary				
3. 履修上の注意 As Tourism Management A & B are closely related, it is highly recommended to take both courses as possible. Basic information of the course requirements will be explained in the first class. If absent 5 times or more, you receive a FAIL grade except for documented emergencies. If absent due to documented emergencies, you must contact in advance to the class and then submit the document. If late 3 times, it will be counted as 1 absence. No required TOEFL scores but students are required to study tourism-related vocabularies and technical terms in prior or after class by themselves. Occasionally, students will be asked to discuss in a small group and present your ideas in class. Occasionally, short video clips / DVDs in Japanese will be used after explaining the outline in English.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course covers a wide range of topics. Students are required to read reference books individually to foster better understanding.				
5. 教科書 No required textbook. (Hand-outs will be uploaded as needed.)				
6. 参考書 To be introduced in the classes				
7. 課題に対するフィードバックの方法 At the beginning of the class, some students’ comments will be shared to summarize the previous lecture and give feedback.				
8. 成績評価の方法 Participation and Reaction papers: 50% Final test: 50% *If absent 5 times or more, you are not allowed to take the final test (you receive F grade). If late 3 times, it will be counted as 1 absence (3 lates=1 absence).				

9. その他

The use of generative AI (such as ChatGPT) is prohibited. Using part or all of the output generated by AI to complete class assignments will be regarded as academic misconduct.

The schedule and plan are subject to change due to class size, progress or

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(GJ) TRS211E		
科目名		ツーリズム・マネジメントB（E）		
担当者		SATO IKU		
2 単位	Year:2	秋学期	中野	
1. 授業の概要・到達目標 This course looks tourism management from two main perspectives: Tourism business management and Tourism destination management. By the end of this course, students will have understood the various mechanisms and actors in tourism business and destination management and how destinations can maximize benefits and minimize negative impacts by managing tourism appropriately in cooperation with tourism stakeholders. Each lecture will provide various concrete examples in Japan and in the world to deepen understanding tourism business and destination management issues.				
2. 授業内容 Week 1: Introduction Week 2: Tourism business management (1): Travel industry in the world Week 3: Tourism business management (2): Travel industry in Japan Week 4: Tourism business management (3): Airline industry in the world Week 5: Tourism business management (4): Airline industry in Japan Week 6: Tourism business management (5): Airline industry in Japan Week 7: Tourism business management (6): Hotel industry in the world Week 8: Tourism business management (7): Hotel industry in Japan Week 9: Tourism destination management (1): Managing destinations Week 10: Tourism destination management (2): Management to improve destination competitiveness Week 11: Tourism destination management (3): Cases in the world and in Japan Week 12: Tourism destination management (4): Management to improve destination sustainability Week 13: Tourism destination management (5): Cases in the world and in Japan Week 14: Course summary & review				
3. 履修上の注意 As Tourism Management A & B are closely related, it is highly recommended to take both courses as possible. Basic information of the course requirements will be explained in the first class. If absent 5 times or more, you receive a FAIL grade except for documented emergencies. If absent due to documented emergencies, you must contact in advance to the class and then submit the document. If late 3 times, it will be counted as 1 absence. No required TOEFL scores but students are required to study tourism-related vocabularies and technical terms in prior or after class by themselves. Occasionally, students will be asked to discuss in a small group and present your ideas in class. Occasionally, short video clips / DVDs in Japanese will be used after explaining the outline in English.				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 This course covers a wide range of topics. Students are required to read reference books individually to foster better understanding.				
5. 教科書 No required textbook.（Hand-outs will be uploaded as needed.）				
6. 参考書 To be introduced in the classes				
7. 課題に対するフィードバックの方法 At the beginning of the class, some students’ comments will be shared to summarize the previous lecture and give feedback.				
8. 成績評価の方法 Participation and Reaction papers: 50% Final test：50% *If absent 5 times or more, you are not allowed to take the final test (you receive F grade). If late 3 times, it will be counted as 1 absence (3 lates=1 absence).				

9. その他

The use of generative AI (such as ChatGPT) is prohibited. Using part or all of the output generated by AI to complete class assignments will be regarded as academic misconduct.

The schedule and plan are subject to change due to class size, progress or

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		国際開発論		
担当者		高柳 彰夫		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 2015 年に国連総会で採択された 2030 年までの世界の経済・社会・環境に関する目標である SDGs（持続可能な開発目標）は、2025 年は実施 10 年目となります。この科目では SDGs 時代の国際開発の諸問題と SDGs 達成のための国際開発協力のあり方について検討します。国際開発が歴史的にどう考えられてきたのか、次いで SDGs を踏まえながら国際開発の課題を考え、最後の政府や市民社会による国際開発協力のあり方を検討します。 到達目標 ・ SDGs についての理解を深める。 ・ SDGs を踏まえながら、現代の国際開発の諸課題（貧困・教育・保健・ジェンダー・気候変動など）を理解する。 ・ 多様なアクター（主体）による国際開発協力について、アクター間の相互関係も含めて理解しつつ、自分の意見を持てるようにする。				
2. 授業内容 第 1 回 インTRODakション 第 2 回 SDGs とは何か？（テキスト序章） 第 3 回 国際開発に関する考え方の変遷（1, 6, 10 章） 第 4 回 開発と貧困・飢餓（2 章） 第 5 回 開発と健康・保健（3 章） 第 6 回 開発と教育（4 章） 第 7 回 開発とジェンダー（5 章） 第 8 回 開発と気候変動（11 章） 第 9 回 ODA（政府開発援助）：世界の動向（15 章） 第 10 回 日本の ODA の特徴(15 章) 第 11 回 NGO/CSO（市民社会組織）の国際協力活動（15 章） 第 12 回 NGO/CSO の南北パートナーシップ 第 13 回 ODA 機関と NGO/CSO のパートナーシップ 第 14 回 SDGs と国際開発協力の将来				
3. 履修上の注意 この科目では講義だけでなく、時々グループワークを行います。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・ テキストの該当する章を読んでおいてください。 ・ できるだけ参考書に記載してある Sustainable Development Goals Report の該当箇所も、英語ですが、目を通してきてください。 ・ 国連の諸機関をはじめ関連するさまざまな組織のホームページを積極的に閲覧しましょう。				
5. 教科書 『入門 SDGs』高柳彰夫・須藤智徳・小坂真理編、法律文化社、2024 年				
6. 参考書 Sustainable Development Goals Report 2026（United Nations, 2026 年 7 月出版予定） 『CSO/NGO の国際開発協力―対等なパートナーシップへの挑戦』高柳彰夫、法律文化社、2025 年				
7. 課題に対するフィードバックの方法 担当者が兼任講師のため、大学に出るのは授業日だけです。Oh-0 Meiji のシステムを使って随時連絡が取れます。				
8. 成績評価の方法 期末試験，40 名未満の場合：レポート：100％ 出欠状況に応じて加減点。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371E		
科目名		International Development		
担当者		TAKAYANAGI AKIO		
2 単位	Year:3	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 Course Summary This course focuses on issues around international development and development cooperation with the Sustainable Development Goals (SDGs) in mind. First, we will quickly overview the history of international development theories. Then, we will examine various issues in international development with the SDGs in mind. Finally, we will look into international development cooperation by different actors, governments, NGOs/civil society organizations, and partnership between different actors. As the number of students taking this course is not expected to be large compared to the parallel course taught in Japanese, this course will emphasize in-class discussion, IN ENGLISH. Goals - To deepen understandings on SDGs. - To understand the current challenges in different international development agenda and international development cooperation - To enhance students' capacity to discuss global issues, especially those related to SDGs, in English				
2. 授業内容 Session 1: Introduction Session 2: Understanding sustainable development and SDG s Session 3 A quick overview of international development theories since the end of the WW II Session 4: Poverty and Hunger Session 5: Health Session 6: Quality Education Session 7: Gender and Development Session 8: Climate crisis and international development Session 9: Official Development Assistance (ODA):: Global trends Session 10: Japan' s aid program Session 11: Roles of NGOs/CSOs in international development Session 12: Redefining the roles of Northern and International NGOs/CSOs Session 13: "Partnership" between governments and CSOs in international development cooperation Session 14: The future of development cooperation				
3. 履修上の注意 - Students are required to actively participate in discussions. - 日本人学生向けに英語と日本語の概念の違いなどを日本語で説明する時間を設けることもあります。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 - To read the relevant chapters of the Sustainable Development Goals Report 2025 (listed as a reference below) and other resources. - To access websites of UN agencies, OECD-DAC and other organizations working on international development				
5. 教科書 No textbook				
6. 参考書 Sustainable Development Goals Report 2026, To be published by the UN in July 2026 Introduction to International Development, P. Haslm et al. eds. (Oxford Univ. Press, 2021 Poverty and Development in the 21st Century (Third Edition) , Tim Allen and Alan T				
7. 課題に対するフィードバックの方法 Will be announced at the first session				
8. 成績評価の方法 Final Essay 80%, In-class participation: 20%				
9. その他 期末レポートは英語・日本語どちらで提出してもよい。 Students can write their final essay either in English or Japanese. We will have breakouts in various sessions. Students are required to actively participate in them.				

日本人の学生の皆様へ。この授業は交換留学生が多く受講してきました。授業の目的ではありませんが、交換留学生とのディスカッ

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA)MAN371J		
科目名		国際協力NGO論		
担当者		重田 康博		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 本授業では、グローバル市民社会の中でも重要な担い手である国際 NGO について学びます。国際協力 NGO の意義・役割、定義、特徴、起源と歴史、発展の流れ、開発協力、参加型開発、緊急人道支援と平和構築、開発教育、キャンペーン、政策提言、NGO へのキャリア・パスについて論じ、国際 NGO の基礎知識を学びます。本授業の到達目標は、国際協力 NGO とは何か、なぜ必要なのか、どのような役割を果たしているのか、その基礎・実践・キャリア形成を学ぶことによってその全体像を把握し、グローバル・イシューとの相関関係、NGO の市民社会スペースについて考えます。				
2. 授業内容 第1回 イントロダクションー国際協力 NGO とは何か？ 第2回 国際協力 NGO の定義・意義・役割・チャリティ 第3回 欧米の NGO の変遷①19 世紀から第1 次世界大戦までの国際 NGO 活動 第4回 欧米の NGO の変遷②第2 次世界大戦前後における救援・復興活動 第5回 欧米の NGO の変遷③途上国への開発協力の開始 第6回 発展途上国（アジア）の NGO の変遷①貧困者への救済活動 第7回 発展途上国（アジア）の NGO の変遷②戦争・内戦などによる被災民・難民への救援活動 第8回 日本の NGO の変遷①第2 次世界大戦前までの NGO の活動 第9回 日本の NGO の変遷②第2 次世界大戦後から 1990 年代まで 第10回 国際協力 NGO のネットワーク 第11回 NGO の開発協力・参加型開発 第12回 NGO の緊急人道支援・平和構築 第13回 NGO の政策提言・開発教育・キャンペーン 第14回 NGO へのキャリア・パス				
3. 履修上の注意 教科書、ビデオ、DVD 鑑賞、Youtube など参加型学習の手法を取り入れて授業を行います。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に、教科書重田康博『激動するグローバル市民社会ー慈善から公正へ』を読み、授業中に出された宿題にコメントすること。レポートの課題が出された場合提出すること。				
5. 教科書 重田康博（2017）『激動するグローバル市民社会ー「慈善」から「公正」への発展と展開』明石書店				
6. 参考書 西あい・湯本浩之編著（2017）『グローバル時代の「開発」を考える』明石書店 重田康博・真崎克彦・阪本公美子編著（2019）『SDGs 時代のグローバル開発協力論』明石書店				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業のコメントは、毎回コメントシートに書いて授業終了後提出すること。課題レポート提出については、授業中に指示する。				
8. 成績評価の方法 出席・コメントシート提出 30％、レポートの提出 20％、定期試験 50％、授業は出席・コメントシート提出 9 回以上すること。				
9. その他 今後世界や日本において、国際協力 NGO の役割が大きくなっていきます。是非国際協力 NGO について学習して下さい。				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		ライフスタイル・マネジメント論	
担当者		鈴木 正敏	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 現代社会では生活習慣病やストレスが増加しています。これらは自分の性格や習慣，生活環境がリスクとなっており，個人の危機管理能力が求められています。つまり，自分自身のライフスタイルをマネジメントできることが社会人としての基本的な資質になることとなります。それぞれのテーマに応じた測定や実際のデータ作成を行い，評価方法を学習します。 運動，栄養，休養とストレス，悪習慣などのライフスタイルの要素について，解説とディスカッションを行います。運動と栄養については簡単な測定実習を行います。また，血圧測定の実習を行い，そのデータを利用して調査報告の方法を学びます。授業の後半には各自テーマを選択し，資料を集め，尺度化，評価について検討します。その調査結果をプレゼンテーションし，討議します。 健康に関する知識は実行が伴わなければ意味がないことを理解し，自分のライフスタイルの評価と改善方法について考えられるようになることを到達目標とします。			
2. 授業内容 第 1 回：イントロダクション 第 2 回：運動（健康のための運動について） 第 3 回：運動（運動強度と消費カロリーの計算） 第 4 回：運動（無酸素性作業閾値） 第 5 回：運動の実習（心拍数の測定とカロリー換算） 第 6 回：栄養（健康のための栄養について） 第 7 回：栄養の実習（摂取カロリーと栄養素バランス） 第 8 回：休養とストレス（ストレス マネジメント） 第 9 回：悪習慣（飲酒，喫煙と依存の理解） 第 10 回：調査テーマの選択と方法の決定 第 11 回：ライフステージ 第 12 回：測定実習（血圧の測定） 第 13 回：調査のプレゼンテーション 第 14 回：まとめ，期末試験			
3. 履修上の注意 授業毎に簡単なレポートを作成します。 授業ではエクセルを使ったデータ処理があります。自分の PC を持っていることが前提になります。 第 13 回に実施するプレゼンテーションはパワーポイントを使用します。 測定やプレゼンテーションは授業の最初からグループワークとなります。遅刻すると参加できなくなりますので，注意してください。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-o! Meiji に資料をアップしますので，授業前にダウンロードしてください。 ニュースや新聞で取り上げられた健康関連の話題に注意を払って下さい。専門用語や計算方法は重要ですので，分からないところは質問したり，調べたりして理解するようにして下さい。			
5. 教科書 使用しません。資料は Oh-o! Meiji にアップします。授業中に配布する場合があります。			
6. 参考書 とくに定めません。			
7. 課題に対するフィードバックの方法 前の授業の課題について授業のはじめにコメントします。			
8. 成績評価の方法 レポート（60％）と期末試験（40％）により評価します。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		福祉マネジメント論	
担当者		早川 佐知子	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 【講義の概要】 ・医療・年金・介護・福祉・労働の5つからなる社会保障制度のうち、最も早く誕生したのが福祉制度である。授業のイントロダクションとして、なぜ社会は他者を援助するための制度を作る必要があったのかということについて考えてもらう。・講義の前半では、福祉に関わる諸制度と体系について学習する。 ・これに続いて講義の中盤では、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、生活保護の4大分野について各論を学ぶ。応用として、これらの福祉制度とその他の社会保障制度との関わりについても視野に入れられるようにする。 ・これらを踏まえて後半では、福祉施設の内部のマネジメントについて、経営学をベースとして学習してゆく。 ・最後に、福祉マネジメントの現場から講師をお招きし、特別講義を実施する。多くの学生は、これまで福祉と深く関わった経験がなく、自分には縁のないものと考えているであろう。しかし、現場の話を聴くことで、福祉の意義を実感することができ、現実的な課題や矛盾について自らが実践できることは何かを考えるきっかけになるという狙いである。 【到達目標】 福祉制度、福祉施設の経営についての知識を習得する。 社会の中で福祉はどうあるべきかという自らの価値観を育てる。			
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：なぜ他者を援助する必要があるのか 第2回：社会福祉の意義と役割、制度と体系①：社会福祉の理念と概要、歴史的変遷 第3回：社会福祉の意義と役割、制度と体系②：社会福祉の法体系と制度、人権との関わり 第4回：社会福祉の意義と役割、制度と体系③：社会福祉行政、社会福祉の実施機関と専門職、社会福祉における相談援助と評価制度 第5回：社会福祉各論1：貧困と社会的排除、及びそのマネジメント 第6回：社会福祉各論1：高齢者福祉、及びそのマネジメント 第7回：社会福祉各論3：児童福祉、及びそのマネジメント 第8回：社会福祉各論4：障害者福祉、及びそのマネジメント 第9回：福祉と経営1：社会福祉経営の要件と基礎理論、質の管理 第10回：福祉と経営2：人材の育成とチームマネジメント、労務管理 第11回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ1 アクティブ・ラーニング 第12回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ2 アクティブ・ラーニング 第13回：ケーススタディとグループワーク：グループごとのプレゼンテーションとディスカッション 第14回：特別講義：外部有識者による特別講義			
3. 履修上の注意 グループワークを実施するため、協働作業に積極的な学生の履修を希望する。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業内で課した小レポートは次回にフィードバックし、さらなるディスカッションを行う。議論を深めるために、必ずテキスト及び配布資料を中心とした復習をしてくること。			
5. 教科書 『社会福祉概論（新・はじめて学ぶ社会福祉4）』（立花直樹・波田埜英治編著、ミネルヴァ書房）、『よくわかる社会福祉の「経営」』（小松理佐子編著、ミネルヴァ書房）			
6. 参考書 なし			
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくはOh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う			
8. 成績評価の方法 小レポート（50％）：授業の中で、ワークシートや小テストを実施する。 学期末試験（50％）：代替レポートを課す。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		医療マネジメント論		
担当者		早川 佐知子		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 【講義の概要】 ・医療機関は、人が生まれ死んでゆくという、唯一無二の場所である。そのため、長い歴史の中で、「人間の生死」に対する価値観が映し出されてきた場所であると言える。授業のイントロダクションとして、これまで人間や社会が医療をどのように捉えてきたのかを振り返り、自らと医療との関わりについて考えてもらう。 ・医療機関の経営には、民間企業の経営にはないさまざまな法規制が存在する。また、ひとつの病院の中で完結することではなく、介護施設や福祉施設、行政など、広く地域社会とも連携が必要である。このような意味で、病院の経営を学ぶには、前提としてさまざまな社会制度を理解する必要があると考える。そのため、講義の前半では、医療に関わる諸制度を学習する。 ・これらを踏まえた上で、講義の後半では、医療機関の内部のマネジメントについて、経営学をベースとして学習してゆく。 ・最後に、医療マネジメントの現場から講師をお招きし、特別講義を実施する。大学生の年齢では、医療と深く関わった経験のある学生は少数派であると思う。しかし、現場の話を聴くことで、医療をわがこととして捉えることができ、課題が山積した日本の医療について自らが実践できることは何かを考えるきっかけになるという狙いである。特に、医療とは誰かに与えられるもの、変えようのないものという姿勢に、疑問を持って欲しいと考えている。 【到達目標】 医療制度、医療機関の経営についての知識を習得する。 社会の中で医療はどうあるべきかという自らの価値観を育てる。				
2. 授業内容 第1回：イントロダクション：人間と医療のかかわり 第2回：医療と社会保障制度 1：国民医療費と医療保険制度 第3回：医療と社会保障制度 2：医療制度の概要、医療規制、医療提供体制 第4回：医療と社会保障制度 3：医療制度の国際比較、その他の社会保障制度と医療 第5回：医療と経営 1：医療経営の非営利性 第6回：医療と経営 2：医療機関の人事管理と組織 第7回：医療と経営 3：医療機関の財務管理と病院会計 第8回：医療と経営 4：医療機関の物品管理と施設管理、リスクマネジメント、医療機関の情報管理 第9回：医療と経営 5：医療機関の経営戦略とマーケティング 第10回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ 1 第11回：ケーススタディとグループワーク：ケーススタディ 2 アクティブ・ラーニング 第12回：ケーススタディとグループワーク：グループごとのプレゼンテーションとディスカッション 1 第13回：ケーススタディとグループワーク：グループごとのプレゼンテーションとディスカッション 2 第14回：特別講義：外部有識者による特別講義				
3. 履修上の注意 グループワークを実施するため、協働作業に積極的な学生の履修を希望する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業の中で、ワークシートや小テストを実施する。復習し、準備をしてくること。				
5. 教科書 テキストは特に指定しない。授業の際に配布する資料を使ってよく復習すること。				
6. 参考書 『はじめての社会保障 第15版』（棕野美智子・田中耕太郎著、有斐閣アルマ）、『病院の教科書』（今中雄一著、医学書院）を挙げる。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 各授業回もしくは Oh-o!Meiji クラスウェブを通じて適宜フィードバックを行う				
8. 成績評価の方法 小レポート（50％）：ワークシートと小テストを課す。 学期末試験（50％）：代替レポートを課す。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		自治体マネジメント論		
担当者		石渡 幹夫		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 概要 地方自治体は住民に最も身近な行政主体として、多様な公共サービスの提供を担っている。現在、日本の自治体は複雑かつ重大な課題に直面している。少子高齢化による人口構造の変化は、税収減少や社会保障費の増大をもたらし、行政サービスの提供や維持を困難にしかねない。また、人口減少は地域経済の衰退や商店街の空洞化、公共交通の維持困難性など、地域の存続に関わる問題を引き起こしている。気候変動の影響による自然災害の激甚化は、インフラ管理の見直しを迫っている。加えて、デジタル化やグローバル化の進展は、行政サービスのあり方や地域産業の構造を大きく変えつつある。 水資源管理、環境保全、気候変動対策、上下水道経営、インフラ整備などの具体的事例を通じて、地方自治体が直面する諸課題とその解決に向けたマネジメントの在り方を学ぶ。特に、先進的な取り組みを行う国内外の自治体の事例分析を通じて、政策立案と実施のための知識と視点を養う。理論的な理解だけでなく、実務的な観点も重視し、政策課題とその解決プロセスについての理解を深める。 到達目標 ・日本の地方自治制度の歴史的変遷と現状、および中央政府との関係性を理解し、説明できる。 ・自治体が直面する現代的課題（人口減少、インフラ老朽化等）について、具体的事例をもとに分析できる。 ・自治体マネジメントの理論と実践を理解し、官民連携など課題解決に向けた提案ができる				
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション：何を学ぶか？ 講義の目的と構成、評価方法を理解し、地方自治体が直面する課題の概要を理解する 第 2 回 地域経営の主体としての地方自治体：自治体の仕組みはどうなっているか？ 日本の地方自治が、制度上は分散しながらも実態として中央集権的である構造（垂直的行政統制モデル）を理解する 第 3 回 地方分権：どのように地方分権は進んできたか？ 地方分権一括法による「対等・協力関係」への転換と、効率化を目指した「平成の大合併」による自治体構造の変化を考察する 第 4 回 地方の財政：財政について地方と中央の分担はどうなっているのか？ 国と地方の税収・歳出の分担、地方交付税による財政調整の仕組みと、税源移譲などの改革「三位一体改革」について学ぶ 第 5 回 自治体の財政破綻：自治体が破綻するとはどういうことか？ 夕張市での過大投資や不適正な会計処理などの破綻原因と再建プロセスを学び、自治体の財政の課題を理解する 第 6 回 都市運営：都市の経営はどうあるべきか？ 神戸市「山、海へいく」という公共ディベロッパーの事例から、自治体のマネジメントの意義と重要性について考える 第 7 回 都市の水循環：都市化や発展により水循環はどう悪化する？ 開発と都市の水循環の課題（ヒートアイランド、洪水）を概観し、グリーンインフラや多自然川づくりによる回復、改善する方策について理解する 第 8 回 中間とりまとめ：小テストと振り返り ・小テスト：前半の制度・理論面の理解度を確認し、特定の政策課題に対するグループワークを行う ・前半の講義内容の総括 第 9 回 東京の上下水道：東京ではどのように水を供給し、処理してきたか？ 東京では上下水道がどのように市民生活と都市活動を支えてきたのか、経営、技術、環境の視点から考える。 第 10 回 上下水道の官民連携：官と民での役割分担はどうあるべきか？ 上下水道の現状と課題を理解し、解決策としての民間企業の経営ノウハウを活用する官民連携 PPP を学び、効率化と公的責任のバランスを議論する 第 11 回 都市経営（外部講師） 第 12 回 途上国の水道整備：途上国でどのような水道支援が行われているか？ 途上国の水道の課題を理解し、援助の在り方を理解する。 第 13 回 コンパクトシティ：コンパクトシティの整備方法は？ 人口減少、地域活性化の方策としてのコンパクトシティを議論する 第 14 回 振り返りとまとめ：期末テストと振り返り ・期末テスト ・テストの解説と講義全体の振り返り（これからの自治体マネジメントを考える）				
3. 履修上の注意 授業の内容に関する課題を出します。 受講生の人数により定期試験を期間中試験に変更することがある				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前にキーワードなどを自分で調べること 課題の提出				

授業と関連した事柄について書籍や新聞・雑誌の記事から情報収集する
5. 教科書 毎回、資料を配布する
6. 参考書 『人口減少時代の都市 - 成熟型のまちづくりへ』 諸富徹 2018 中公新書 『地方自治入門』 馬場 健, 南島 和久 2023 法律文化社
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については次の講義で解説する。 小テスト・定期試験は答案の回収後、解説する。 受講生からの質疑を踏まえ、授業で補足の説明や追加資料を提供する
8. 成績評価の方法 平常点（出席と授業への貢献）：30% 課題：40% 小テストと定期試験：30%
9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		スポーツ・マネジメント論	
担当者		田中 充洋	
2 単位	3 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 現在，わが国のスポーツ環境は大きな転換期を迎えている。スポーツ導入の担い手であった学校体育は，施設の維持・人材の確保・少子化・受験戦争の激化などの問題を抱え，思うような活動ができなくなっている。また，社員の士気高揚や広告・宣伝を主目的にしながら，長く日本のスポーツ界を支えてきた企業スポーツは，財政的問題に直面し，その多くが撤退の道を余儀なくされた。 しかし，これらの逆風は，むしろ既存のスポーツ環境や関連産業の再構築を促す機会を与え，住民とスポーツ組織が連携する地域貢献型の在り方を生み出した。 そこで本講では，わが国のスポーツの歴史・成長過程を振り返りながら，こうした社会的変化の中で成立する新しいスポーツ組織の効果的運営について考える。 （到達目標） 社会変動の中で必要とされるスポーツ組織の管理・運営法について習得する。			
2. 授業内容 第1回 a：イントロダクション（スポーツ・マネジメントとは） b：スポーツ・マネジメントの歴史 第2回～7回：スポーツ組織の歴史 ・学校：正課体育，部活動，少子化，指導者問題， ・企業：士気高揚，社会貢献，福利厚生，選手雇用，複数企業支援 ・地域：スポーツ愛好者組織，地域活性化プログラム，NPO， ・プロスポーツ：スポンサーシップ，ネットワーク，競技力向上 第8回：スポーツ組織の人材育成（コーチング，リーダーシップ，フォロワーシップ） 第9回：スポーツのリスクマネジメント 第10回：スポーツの制度（資格関連，行政，保険制度） 第11回：諸外国のスポーツ施策（競技力開発，ネットワーク，普及振興システム，スポーツセンター） 第12回：メガ・スポーツのマネジメント（オリンピック・W杯を中心に） 第13回：スポーツ・マネジメントの将来展望 第14回：a：試験 b：講義全体の振り返り			
3. 履修上の注意 授業には必ず出席し意見交換の際には積極的に発言すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 第1回 a で授業予定を指示するが，授業前に新聞やスポーツ関係誌で現状を把握しておくことが望ましい。 また，各回で配布する資料を振り返り，不明な部分があれば授業で質問すること。			
5. 教科書 特定のテキストは使用しない。毎回資料を配布する。			
6. 参考書 実践スポーツビジネスマネジメント（日本経済新聞出版社） スポーツ・マネジメント入門（東洋経済新報社）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 次回の授業で，課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案・レポート等を紹介する。			
8. 成績評価の方法 期末試験（80％）を実施します。また，授業への貢献度（10％）に加え，その時々話題となるスポーツ問題に関するミニレポート（10％）を加え総合的に評価します。			
9. その他 スポーツ・健康関連分野に興味を持つ学生であること。			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J		
科目名		スポーツマーケティング論		
担当者		大野 貴司		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 本講義では、スポーツ領域におけるマーケティング活動であるスポーツマーケティングについて講義する。「スポーツ領域におけるマーケティング活動」と一口に言ってもプロスポーツクラブやスポーツ用品メーカー、フィットネスクラブ、スポーツイベント等多岐に渡る。本講義では、できるだけ多くのスポーツ組織の事例を取り上げながらスポーツならではのマーケティング活動についてその特徴、留意点、課題などを明らかにしていきたい。なお、本講義は受講者確定後「指定座席制」で「アクティブラーニング（AL）方式」で講義を行うので注意されたい。 ＜到達目標＞ ・スポーツを取り巻く現状や課題についてマーケティングの視点から分析できるようになること。 ・スポーツ組織を分析するための理論的なフレームワークを習得すること。 ・自分でスポーツ領域のビジネスプランを作成できるようになること。				
2. 授業内容 第1回：スポーツマーケティングとは（座学） 第2回：スポーツマーケティングの基本原則（座学） 第3回：スポーツ製品開発・スポーツ価格戦略（座学） 第4回：スポーツプロモーション（座学） 第5回：スポーツ組織における製品開発戦略（座学） 第6回：スポーツ組織における流通戦略（座学） 第7回：グループワーク&プレゼン（マーケティングミックスの視点から自らのスポーツイベントプランを考える）（AL） 第8回：スポーツ消費者行動（座学） 第9回：CRM（座学） 第10回：グループワーク&プレゼン（消費者行動理論を活用したプロスポーツクラブのマーケティングプランを考える）（AL） 第11回：サービスマーケティング理論（座学） 第12回：グループワーク（スポーツマーケティングプランの作成）（AL） 第13回：グループワーク（スポーツマーケティングプランのアディアのまとめ）（AL） 第14回：期末プレゼン（AL）				
3. 履修上の注意 講義のルールについては初回講義時に提示する。履修者確定後、指定座席とする。前列着席を希望する学生のみに事前に申告すること。単位の取得にあたっては総講義回数の3分の2（10回）以上の出席を求める。3回部の対外試合などの公欠で休んだ、あるいは休む予定の学生には単位の取得に当たっては6000字以上のスポーツマーケティングをテーマにした小論文の提出を求める（参考文献2冊以上で、最低一度は教員による研究指導を受けること、チャットGPTの使用、コピペが判明した場合は即失格とする）。また本講義はグループワークを複数回実施するので遅刻をされると授業の運営に多大なる支障をきたすので遅刻は遅刻時間に応じた減点をする（就職関係、公共交通機関の遅延などやむを得ない場合もあると思うのでその場合は、教員に連絡すること。連絡先は初回講義時に開示する）。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 （予習） 事前に提示した資料（本，論文）を読み，その内容についてワード1枚程度（1,200字程度）で要点と自分の意見をまとめておくこと。 （復習） 講義内容を生かし，自分自身のスポーツマーケティングプランを作成すること。				
5. 教科書 『スポーツビジネス論—理論と実態—』大野貴司・齋藤れい編著（三恵社）				
6. 参考書 『スポーツ経営学入門—理論とケース—（第4版）』大野貴司（三恵社） 『スポーツマネジメント論序説—理論と実践の統合を可能とするマネジメント理論の構築—』大野貴司（三恵社） 『現代スポーツのマネジメント論—「経営学」としてのスポーツマネジメント序説—』大野貴司編著（三恵社） 『スポーツマーケティング入門—理論とケース—』大野貴司（三恵社）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 第7、10、14回目の講義に学生によるプレゼンを実施し，同日に教員からのフィードバックの時間を設ける。				
8. 成績評価の方法 ・小テスト 48%（8回×6点） ・リアクションペーパー 30%（6回×5点） ・3回課すプレゼンテーション（授業中にテーマを提示。第7回＝6点、第10回＝6点、第14回＝10点） 22%				

- ※ 期末試験、レポートは実施しない。
- ※ 成績は大学規定に準拠して認定する。
- ※ 5 回以上の欠席者は自動的に単位不認定とする（4 年生は 6 回以上）。
- ※ 3 回公欠で欠席した学生、する予定の学生は 6000 字以上のスポーツマーケティングをテーマにした小論文を提出することを単位認定の要件とする（提出にあたっては最低一度教員による研究指導を受けること）。例外は認めない。
- ※ グループワークを実施する関係上、理由のない遅刻は減点する（就職関係による遅刻は事前に連絡すること。公共交通機関の遅延による遅刻は遅延証明書を持参すること）。

9. その他

- ・スポーツに興味のある人、スポーツに興味はないがグループワーク形式の授業に興味のある人の受講を歓迎します。
- ・部の対外試合で数回欠席する予定の人は、それ以外で休まないようにしてください。本講義はグループワークも行いますので、あまり頻繁に休まれるとグループワークに支障が出て、他の受講者に迷惑となります。どうか本講義の趣旨をご理解いただき、慎重に受講するかどうかを決めてください。
- ・グループワークを数回実施しますので、遅刻をされるとグループワークに支障が出ますので、特別な理由のない遅刻は減点します。特別な

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN371J	
科目名		アウトドア組織マネジメント論	
担当者		吉松 梓	
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 （概要） 本授業は、まず自然体験活動・野外教育などの基本的な概念、アウトドアフィールドでの具体的なアクティビティについて学習する。その上で、学校教育や青少年教育施設等の社会教育、および NPO 団体等の組織において、社会的なニーズや課題といった背景を踏まえて、どのようなアウトドア事業が実施されているのか、その指導法やリスクマネジメントの方法と併せて理解する。最終的に、数人のグループで野外活動の企画（活動名、活動目的、対象、場所、プログラム、安全対策、指導者、予算、食料・装備・運輸計画、など）を作成し、プレゼンテーションを実施する。これによって、将来アウトドア関連組織で活躍するための実践的な知識を身に付ける。 （到達目標） 1. 自然体験活動・野外活動・野外教育の概念と具体的なアクティビティを説明できる。 2. 野外活動の組織や対象、指導およびリスクマネジメントの方法を理解できる。 3. 社会的なニーズや課題に則した実践的な野外活動の企画を作成することができる。			
2. 授業内容 第1回 a のみ：イントロダクション 第2回 自然体験活動・野外活動・野外教育とは？ 第3回 野外活動の組織と対象 第4回 アウトドアのフィールドとアクティビティ 1（組織キャンプと野外生活スキル） 第5回 アウトドアのフィールドとアクティビティ 2（冒険教育とアドベンチャープログラム） 第6回 アウトドアのフィールドとアクティビティ 3（環境教育と自然を感じるプログラム） 第7回 野外活動のリスクマネジメント 第8回 アウトドアの事例紹介 第9回 野外活動の企画と運営 1（理論） 第10回 野外活動の企画と運営 2（演習：ビジョン・目的・対象） 第11回 野外活動の企画と運営 3（演習：日程・フィールド・プログラム） 第12回 野外活動の企画と運営 4（演習：予算・交通・リスクマネジメント） 第13回 野外活動の企画と運営 5（演習：プレゼンテーション資料作成） 第14回 企画プレゼンテーション・全体のまとめ			
3. 履修上の注意 グループワークを用いたインタラクティブな手法を中心として授業を展開する。最終的にはグループで野外活動の企画およびプレゼンテーションを実施するため、主体的・協働的な姿勢で参加すること。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で配付する資料の予習・復習をすること。野外活動の企画作成およびプレゼンテーションにあたって、実際のフィールドやプログラム等について具体的に情報収集すること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用しない。毎回の授業で資料を配付する。			
6. 参考書 『野外教育入門シリーズ第 1 巻～第 5 巻』星野敏男・金子和正監修（杏林書院）2011～2014. 『野外教育入門』星野敏男・川嶋直・平野吉直・佐藤初雄編著（小学館）2001.			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業の冒頭に、リアクションシートの講評を行う。プレゼンテーションをコンテスト形式で実施し、学生相互審査の結果を集計してフィードバックする。			
8. 成績評価の方法 毎回の授業のリアクションシート（30%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（30%）を総合的に評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN391J		
科目名		公共経営学外国書講読 A 【使用言語：英語】		
担当者		石渡 幹夫		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 概要 『水資源管理の理論と実践』 水資源管理という現代の重要課題について、最新の国際的な知見を学びながら、英語の専門文献を読解する力も養成する実践的な科目である。水資源は、農業、電力、飲料水、交通、災害、汚染、生態系など、様々な分野に関わっている。水資源の適切な管理は成長や発展には不可欠である。しかしながら、気候変動、都市化、産業構造の変化など、水を取り巻く状況は深刻化している。 国際機関が発行する最新の英語文献を教材として、グローバルな視点から水資源管理の課題とその解決策について学ぶ。単なる文献の翻訳にとどまらず、世界各地の事例分析、政策評価、技術革新の動向など、多角的な視点から水資源管理を考察する。 到達目標 水に関する国際的な課題を理解し、問題解決に向けた最新のアプローチを説明できるようになる。 国際機関の報告書特有の英語表現や専門用語（金融・IT・開発）を理解し、必要な情報を入手し、理解、分析、議論できるようになる。				
2. 授業内容 第 1 回 イントロダクション・ガイダンス 第 2 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 3 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 4 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 5 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 6 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 7 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 8 回 中間まとめ 後半の説明 第 9 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 10 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 11 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 12 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 13 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論 第 14 回 振り返りとまとめ				
3. 履修上の注意 授業は履修生による文献の翻訳と、受講生の議論、担当教員による解説と質疑応答によって進める。 内容に関する設問を課題として出します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・履修生それぞれに割り当てられた章について、要約、論点整理、討論テーマを準備すること。 ・自分の担当でない部分も予習と復習が必要となる。指示した範囲をあらかじめ読んで概要を理解し、質問や意見を準備すること。 ・キーワードや不明な単語を調べ、関連する時事問題の情報収集をしておくこと。 ・授業に関する課題を提出すること				
5. 教科書 履修者や進捗に応じて決める。以下の文献を記載順に使用する予定である。ネット上よりダウンロードできる。 ” ASIAN WATER DEVELOPMENT OUTLOOK 2025: THE INDEX OF WATER SECURITY FOR ASIA AND THE PACIFIC” Asian Development Bank, ADB: Mandaluyong. ”Scaling up Finance for Water: A WBG Strategic Framework and Roa				
6. 参考書 関連する学術論文（授業内で適宜紹介） オンラインデータベース（授業内で使用方法を説明）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題については、次回の講義で解説やコメントします。 ディスカッションに関しては時間内にフィードバックします。				
8. 成績評価の方法 発表（30%）、平常点（出席、議論への参加・貢献）（30%）、課題（40%）				

9. その他

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN391J		
科目名		公共経営学外国書講読B【使用言語：英語】		
担当者		石渡 幹夫		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標				
概要				
『国際開発とデジタル変革』				
本講義では、デジタル変革（DX）をいかに開発に生かすかを分析した国際機関の最新報告書を講読する。モバイルマネーなどの技術を通じた金融アクセスの現状と金融包摂などの課題を統計的に理解し、また、DX を気候変動、エネルギー、都市、保健、食料などの SDGs 達成に結びつけるための戦略的なロードマップを学ぶ。				
到達目標				
1. デジタル技術が金融包摂や持続可能な発展に果たす役割を説明できる。				
2. 開発における貧困問題やデジタルトランスフォーメーションの重要性を理解し、問題解決に向けたアプローチを、統計データと政策フレームワークの双方から議論できる。				
3. 国際機関の報告書特有の英語表現や専門用語（金融・IT・開発）を理解し、必要な情報を入手、理解、分析、議論できるようになる。				
2. 授業内容				
第 1 回 イントロダクション・ガイダンス				
第 2 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 3 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 4 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 5 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 6 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 7 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 8 回 中間まとめ 後半の説明				
第 9 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 10 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 11 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 12 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 13 回 テキストの講読（和訳の発表）と解説、議論				
第 14 回 振り返りとまとめ				
3. 履修上の注意				
授業は受講生による文献の翻訳と、受講生の議論、担当教員による解説と質疑応答によって進める。				
内容に関する設問を課題として出します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
・受講生それぞれに割り当てられた章について、要約、論点整理、討論テーマを準備すること。				
・自分の担当でない部分も予習と復習が必要となる。配布された資料（指示した範囲）を予め読んで概要を理解し、質問や意見を準備すること。				
・キーワードや不明な単語を調べ、関連する時事問題の情報収集をしておくこと。				
・授業に関する課題を提出すること				
5. 教科書				
履修者や進捗に応じて決める。以下の文献等を使用する予定である。ネット上よりダウンロードできる。				
"The Global Findex Database 2025: Connectivity and Financial Inclusion in the Digital Economy." Klapper, Leora, Dorothe Singer, Laura Starita, and Alexandra Norris. 2025, Washington, DC: World Bank.				
6. 参考書				
関連する図書や学術論文（授業内で適宜紹介）				
オンラインデータベース（授業内で使用方法を説明）				
7. 課題に対するフィードバックの方法				
課題については、次回の講義で解説やコメントします。				
ディスカッションに関しては時間内にフィードバックします。				
8. 成績評価の方法				
発表（30%）、平常点（出席、議論への参加・貢献）（30%）、課題（40%）				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA)MAN391J		
科目名		公共経営学外国書講読A【使用言語：英語】		
担当者		生田 孝史		
2 単位	3 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 持続可能な社会の構築のためには人材・技術・資金を有する企業の貢献が不可欠であり、企業にとっても、社会課題の解決によって自らの企業価値を高め、競争力を維持・強化することが重要との認識が浸透してきている。本授業では、社会課題の解決と企業価値の向上の両立に関する理論に関する代表的な英語文献を精読する。これらの文献は多くの企業の経営戦略やサステナビリティ評価に影響を与えたものであり、本授業を通じて持続可能な社会構築における企業のあり方について考察する。 ＜到達目標＞ 英文読解の力をつけるとともに、持続可能な社会の構築と企業価値の向上に関する考え方についての理解を深める。				
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論① 第3回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論② 第4回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論③ 第5回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論④ 第6回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑤ 第7回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑥ 第8回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑦ 第9回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑧ 第10回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑨ 第11回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑩ 第12回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑪ 第13回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑫ 第14回 まとめ				
3. 履修上の注意 授業の進め方は第1回授業で説明する。履修者による和訳発表の担当箇所は事前に指定する。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 和訳発表者は、担当箇所についての要約と論点整理の準備を行なうこと。 発表担当以外の履修者は、各授業回の該当箇所を事前に読み、質問や意見の準備を行なうこと。				
5. 教科書 履修者に応じて、第1回授業時に決める。以下の文献等を使用する予定である。 Porter, M.E. and Kramer, M.R. (2011) “Creating Shared Value,” Harvard Business Review Press, 89, 62-77. Elkinton, J. (2020) Green Swans: The Coming Boom in Regenerative Capitalism, Fast Company Press. Paulman, P. and W				
6. 参考書 授業時に適宜紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 和訳発表に対するコメントは授業時に行なう。その他の質問など必要に応じて、Oh-o! Meiji を通じてフィードバックを行なう。				
8. 成績評価の方法 発表：40%、ディスカッションへの参加：30%、レポート：30%。詳細は第1回授業時に説明する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		公共経営学科専門科目／(BA) MAN391J		
科目名		公共経営学外国書講読B【使用言語：英語】		
担当者		生田 孝史		
2 単位	3 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 ＜概要＞ 持続可能な社会の構築のためには人材・技術・資金を有する企業の貢献が不可欠であり、企業にとっても、社会課題の解決によって自らの企業価値を高め、競争力を維持・強化することが重要との認識が浸透してきている。本授業では、社会課題の解決と企業価値の向上の両立に関する理論に関する代表的な英語文献を精読する。これらの文献は多くの企業の経営戦略やサステナビリティ評価に影響を与えたものであり、本授業を通じて持続可能な社会構築における企業のあり方について考察する。 ＜到達目標＞ 英文読解の力をつけるとともに、持続可能な社会の構築と企業価値の向上に関する考え方についての理解を深める				
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論① 第3回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論② 第4回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論③ 第5回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論④ 第6回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑤ 第7回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑥ 第8回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑦ 第9回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑧ 第10回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑨ 第11回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑩ 第12回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑪ 第13回 テキストの講読（和訳発表）と内容に関する議論⑫ 第14回 まとめ				
3. 履修上の注意 授業の進め方は第1回授業で説明する。履修者による和訳発表の担当箇所は事前に指定する。 「公共経営学外国書購読A」を履修していることが望ましい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 和訳発表者は、担当箇所についての要約と論点整理の準備を行なうこと。 発表担当以外の履修者は、各授業回の該当箇所を事前に読み、質問や意見の準備を行なうこと。				
5. 教科書 履修者や公共経営学外国書講読Aの進捗状況に応じて、第1回授業時に決める。以下の文献等を使用する予定である。 Elkinton, J. (2020) Green Swans: The Coming Boom in Regenerative Capitalism, Fast Company Press. Paulman, P. and Winston, A. (2021) Net Positive: How Courageous Companies Thrive by Giving More Than The				
6. 参考書 授業時に適宜紹介する。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 和訳発表に対するコメントは授業時に行なう。その他の質問など必要に応じて、Oh-o! Meiji を通じてフィードバックを行なう。				
8. 成績評価の方法 発表：40%、ディスカッションへの参加：30%、レポート：30%。詳細は第1回授業時に説明する。				
9. その他				

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(LA)HIS111J	
科目名		日本史概論	
担当者		長沼 秀明	
2 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 [b]教職課程「教科に関する科目」（「共通講座」）[/b]として、[u]日本史を教えるために必要な基礎的知識[/u>を実践的に学びます。 《授業の到達目標およびテーマ》 高等学校で[b]「歴史総合」および「日本史探究」[/b]の授業を担当することを想定し、ある学校の授業例を参考にしつつ、[u]日本の近現代史に関する基礎的な知識[/u>を学びます。中学校「社会」の授業を担当する際にも大いに役立つ内容です。			
2. 授業内容 第1回 ガイダンス、「歴史総合」および「日本史探究」の目標および内容 第2回 動揺する江戸幕府―内憂外患への対応― 第3回 開国 第4回 明治維新 第5回 自由民権運動、大日本帝国憲法（その1） 第6回 自由民権運動、大日本帝国憲法（その2） 第7回 条約改正、日清戦争（その1） 第8回 条約改正、日清戦争（その2） 第9回 日露戦争 第10回 第一次世界大戦 第11回 大正・昭和初期の経済と対外関係 第12回 昭和恐慌から二・二六事件へ、戦争の時代 第13回 敗戦と占領・戦後改革、講和から高度経済成長時代へ 第14回 a. まとめ b. 試験 *授業内容は必要に応じて変更することがあります。			
3. 履修上の注意 1) 教職課程認定科目であることを十分に認識してください。 2) いわゆる出席点はありません。 3) 授業時間は最大限に使います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎回、課題に真剣に取り組み、積極的に参加してください。			
5. 教科書 つぎの二つが教科書です。二つともに毎回の授業で使用します。 (1) 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 地理歴史編』 (2) 高等学校地理歴史科用文部科学省検定済教科書 ※[u]詳細は初回の授業で指示します[/u>（事前の購入は不要です）。			
6. 参考書 毎回の授業のなかで紹介し			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に授業の一環として伝			
8. 成績評価の方法 定期試験の得点および毎回の授業で提出してもら「解答票」を総合的に判定し、厳正に行ないます。具体的な割合は、試験の得点 55％、毎回の授業の成果 45％を原則と			
9. その他 「Oh-o! Meiji システム」の積極的な活用をはかり			

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(LA)HIS111J		
科目名		日本史概論		
担当者		清水 光明		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 近世日本における政治改革と出版統制の概要について、政治過程とメディア環境の双方に留意しながら通時的かつ多角的に考察する。この授業は、上記のテーマについて、具体的な史資料（論文や史料の一部）を通して検討することで、（１）史資料を自分で読み解く能力、（２）史資料から自分で問題をたてる能力、（３）その問題についてさらに自分で調べ考え抜く能力、（４）その調査や思索を他人にも共有可能な文章で的確に表現する能力を鍛えることを目的とする。 授業の運営方法については、おおよそ以下のように進める。〈基礎授業〉（１）主題の解説、（２）史資料の音読と簡単な質疑応答、（３）解説と講義。〈展開授業〉（１）主題の補足説明、（２）史資料の音読と簡単な質疑応答、（３）講義を聴き、史資料を読むなかで生じた自問自答をカード（700字程度）に書いて提出（なお、カードは教員が添削・採点した上で翌週の授業の際に返却する）。 （１）近世日本における政治改革と出版統制の概要について、基本的な知識や研究史、枠組み等を理解する。 （２）近世日本の政治史・思想史・文化史に関する史料の一部を実際に読んでみる機会を得る。 （３）近世日本の出版統制の変遷と機能を実証的に位置づけることを通して、新聞やニュース等で接する現代日本や世界の表現や検閲等に関する諸事象への認識を深める機会を得る。				
2. 授業内容 第1回：ガイダンス 第2回：主題1 基礎 政治と出版の歴史を考える（１）—日本近世史の研究動向から— 第3回：主題1 展開 政治と出版の歴史を考える（２） —中国史・フランス史の研究動向から— 第4回：主題2 基礎 享保改革と出版統制（１）—片島武矩と『赤穂義臣伝』— 第5回：主題2 展開 享保改革と出版統制（２）—並河誠所と『五畿内志』— 第6回：主題3 基礎 寛政改革と出版統制（１）—蔦屋重三郎と三俣中洲— 第7回：主題3 展開 寛政改革と出版統制（２）—幕府編纂事業の展開と林述斎・中井竹山— 第8回：主題4 基礎 天保改革と出版統制（１）—中西忠蔵活字版一件と古賀侗庵— 第9回：主題4 展開 天保改革と出版統制（２）—板倉勝明と『甘雨亭叢書』— 第10回：主題5 基礎 明治維新とメディア環境（１）—対外情報と風説留— 第11回：主題5 展開 明治維新とメディア環境（２）—公論と暴力— 第12回：主題6 基礎 比較史的考察（１）—中国史との対照— 第13回：主題6 展開 比較史的考察（２）—フランス史との対照— 第14回：まとめ				
3. 履修上の注意 剽窃・コピー、ChatGPTの使用は厳禁です。コメントを提出しても無効になりますので、御注意ください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に紹介した文献を積極的に読んでみること。				
5. 教科書 プリント史資料が基本。それ以外は、授業の際に適宜紹介する。				
6. 参考書 上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門——ようこそ研究の世界へ！』（勉誠社、2024年）を手にとると理解が深まるであろう。				
7. 課題に対するフィードバックの方法 2回に1回提出してもらったカードに点数とコメントを付して返却する。				
8. 成績評価の方法 6つの主題の展開授業の際のカードの計6回の記述内容を、1回20点満点で評価する。合計95点以上S、80点以上A、70～79点B、60～69点C。50点～59点の人には追加小レポートを課す。				

9. その他

配布する史資料には、現代日本語のみならず、候文等の和漢文や古文体・漢文体・漢文訓読体のものが含まれているので、事前に難語を辞書で調べ音読の予習をしっかりと行うこと。

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(LA)HIS111J	
科目名		日本史概論	
担当者		伊勢 弘志	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 《概要》 ・現在の日本社会の前提になっている近現代の国際環境・社会環境を講義する。 ・私たちの社会が世界の潮流と密接であることを理解するために、歴史学と国際政治学の両分野の視点から、近代～現代とはどのような時代であったのかを学習する。 ・現在の日本における社会問題・教育問題を自ら分析できるように日本近現代史を学習する。 《到達目標》 1. 近現代とはどのような時代であるのかを知り、その理解の上に現在の日本社会や東アジア情勢の前提が理解できる。 2. 現在の教育問題・歴史認識問題などについて多面的な分析ができる。 3. 「道具としての知識」を実社会や教育の現場で活用するために、「考える力」を訓練する。 その上で、「なぜ勉強をするのか？」について応えることができる。 4. 2022 年度より全国の高校で開始された「歴史総合」の課題と意義・留意点を理解できる。			
2. 授業内容 第 1 回： なぜ歴史を学ぶのか？ - 黒船来航から考える 第 2 回： 近代を迎える日本とアジア - 岩倉使節団は何を見たのか？ 第 3 回： 日清戦争とアジア情勢 - 日清戦争が世界に与えた影響とは何か？ 第 4 回： 世界史の中の日露戦争 - 日本が変えた世界史とは何か？ 第 5 回： 第一次世界大戦と国際連盟 - 「総力戦」から世界は何を学んだか？ 第 6 回： 「ワシントン体制」とは何か？ - 「戦争違法化」の世界 第 7 回： 満州事変と連盟脱退 世界秩序への挑戦 第 8 回： 日本はなぜ侵略国になったのか？ 第 9 回： なぜ原爆は2 発落とされたのか？ - 敗戦と聖断 第 10 回： 東京裁判は何を裁いたか？ - 日本社会の戦争観 第 11 回： 「戦後帝国主義」の登場 - 「55 年体制」と「日米安保」とは何か？ 第 12 回： 「近代化論」とは何か？ - 歴史小説で勉強してはダメなのか？ 第 13 回： 新自由主義の世界 - 自己責任論とは何か？ 第 14 回： 日本の社会と教育			
3. 履修上の注意 ◎ 初回の授業時に、成績評定の方法などを説明するので、必ず把握したうえで履修すること。 (理解のないまま履修した場合、成績評定に不利になる場合があります。) ・知識(内容知)を獲得するだけでなく、知るための調べ方・自身の関心や疑問を自ら解決するための知識(方法知)を獲得し、さらに「考える力」を訓練できるよう留意すること。 ＊ 教室では特別な理由のない限り PC・スマホは使用できません。必ず理解した上で履修すること。			
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ① 教科書は必ず用意すること。 ② 毎時の講義内容について、次の講義までに教科書を読んで理解を深めておくこと。 ③ なぜ勉強をするのか？必死に考えること。			
5. 教科書 伊勢弘志 『明日のための近代史 - 世界史と日本史が織りなす史実』〔増補新版〕 (芙蓉書房出版、2023 年)。 ＊ 「増補新版」を用意して下さい。誤って旧版を購入しないこと。買い直さねばなりません。			
6. 参考書 伊勢弘志 『明日のための現代史』〔上・下巻〕 (芙蓉書房出版、2021～2022 年)。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で対応する。

8. 成績評価の方法

レポート（およびプラスアルファとしてのリアクションペーパーによる平常点）

9. その他

初回の授業時に成績評定や単位認定についての詳細を説明します。必ずその内容を把握の上で履修すること。

本講義では日本の近代～現代を学習します。本講義の履修者で、他の時代を学習したい学生には以下の書籍をお薦めします。

「世界史リブレット」シリーズ（山川出版社）。

『大学の日本史』シリーズ・古代～近代（山川出版社）。

妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修訂（中央大学出版部、2021年）。

津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018年）。

『市民のための世界史』大阪大

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0)HIS121J		
科目名		東洋史概論		
担当者		石野 智大		
2 単位	1 年次	春学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 [b]【授業の概要】[/b] 本授業では、時間的・空間的な広がりをもつ中国の政治と社会について、周辺地域との関係も視野に入れながら概観する。また、それらを通して、受講生各自が中国史に関する基本的な知識を習得することを目的とする。 長きにわたる中国の歴史を理解する際には、その大きな流れを捉えることが重要な意味を持つ。そのため、教職課程科目である本授業でも、その部分に力点をおいて講義を進める。とくに本授業では、人びとの生活環境の違い、文明の多元性、領域統治の方法、人的結合のあり方、統一王朝の形成・崩壊過程、諸民族の躍動と自立化、大規模な環境変化の影響、対内・対外政策の連動性、宗教・文化と政治とのかかわりなどに注目しながら、中国文明の誕生から清末までの前近代中国の歴史的推移を追っていく。 [b]【到達目標】[/b] （１）中国史の大きな流れを理解し、それに関する基本的な知識を習得する。 （２）上記の点を踏まえ、中国史の推移を周辺の諸民族や諸国家との関わりも含めて説明できる。				
2. 授業内容 第1回：中国文明の誕生 第2回：初期王朝の形成 第3回：春秋戦国時代の政治と文化 第4回：秦漢帝国の成立と崩壊（１） 秦～前漢前半 第5回：秦漢帝国の成立と崩壊（２） 前漢後半～後漢 第6回：魏晉南北朝時代の政治と諸民族の動向 第7回：隋唐王朝の形成と変容（１） 隋 第8回：隋唐王朝の形成と変容（２） 唐 第9回：五代・北宋の展開 第10回：南宋時代の政治と文化 第11回：モンゴル帝国と元朝の中国支配 第12回：明代の国内政治と対外政策 第13回：清代の政治的展開と皇帝制度の終焉 第14回：a 本授業のまとめ b 期末試験				
3. 履修上の注意 高校で「世界史」前近代部分を十分に履修しなかった方も歓迎します。 授業では、中国史を含む東部ユーラシア地域の歴史的推移を理解するように心がけてください。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 履修前の事前学習としては、高校世界史教科書の中国史関連部分を一読しておくとういと思います。 授業開始後は、授業外学習として下記の「参考書」を積極的に読まれることを希望します。 また、授業で学習した内容は毎回復習し、理解を定着させることが大切です。				
5. 教科書 指定しません。授業時に適宜プリントを配布します。				
6. 参考書 青木敦・阿部幸信編『新視点 中国史』（山川出版社、2026 年） 津田資久・井ノ口哲也編『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018 年） より専門的な理解を深めるには、以下の概説書をおすすめします。 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997 年～2003 年） 『中国の歴史』全 12 巻（講談社、2004 年～2005 年、講談社学術文庫版あり）				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。				
8. 成績評価の方法 平常点（授業への取り組み、リアクションペーパーなど）30％ 期末試験（論述）70％				

9. その他

個別の質問・相談は随時お受けしますので、授業後にお願いします。

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(PE)HIS121J	
科目名		東洋史概論	
担当者		鈴木 直美	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 本授業では 7 世紀から 20 世紀末までの中国史の流れを概観し、中国の政治・経済・社会の動向を世界史的背景から理解できるよう説明する。中国史を講義の軸とするのは、農耕と遊牧という異質の社会システムや環境、生活・文化が接しながら新しい時代を育むという、日本にはない特色あるからである。 また、伝統的な華夷意識にもとづく「帝国」が、19 世紀以降いかにして近代国家へと変革を遂げたかを学ぶことは、地域によって異なる「近代化」のプロセスを比較する材料となる。そして、現在の多民族国家としての中国が形成されてきた過程を長期的視野からとらえることで、中国社会やアジアが抱える諸問題を深く理解できるだろう。本授業を通じて、アジアという広い地域の特質を歴史的な視点で考えるその手法を学んでほしい。 《到達目標》 1. 歴史学の思考方法を身につけ、様々な歴史的事象について多角的な視点から考察できる。 2. 現代中国やアジアをはじめとした国際関係を、歴史的な文脈から捉えることができるようになる。			
2. 授業内容 各回の授業内容は以下の通り。 1. 「中国」とは何か 2. 農耕社会と遊牧社会 3. 隋唐王朝と国際関係 4. 唐宋変革とは何か 5. モンゴル帝国とユーラシア 6. 明朝と大航海時代 7. 清朝の平和 / 小テスト 8. 清朝と近代世界 9. 中国ナショナリズムと辛亥革命 10. 第一次世界大戦と中国社会 11. 抗日戦争から中華人民共和国へ 12. 社会主義体制の構築 13. 現代中国の諸問題 14. a：まとめ／b：試験 授業の進行状況によって内容を変更する場合がある。			
3. 履修上の注意 1. 授業で使用する資料は事前にクラスウェブから PDF で配付する。感染防止のため授業時に紙媒体での配布をしないので[b]授業前に自分でダウンロードや印刷[/b]をしておくこと。 2. クラスウェブの出欠確認機能と小テスト機能を使用するので[b]スマートフォン・パソコンなどを持参[/b]のこと。 3. 授業内容への質問は授業中、およびクラスウェブアンケート機能から受け付ける。質問内容と回答は次週授業時に全員に共有する。 4. 教員への連絡方法は「シラバスの補足」記載のメールアドレス参照のこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 1. 高校時代の「歴史総合」や「世界史探究」などの教科書や下記書籍を読み返しておく。 『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編（大阪大学出版会、2014 年） 2. 事前に配付された資料に目を通し、授業内容と〔テーマ〕（講義のポイント）を理解する。 3. 講義内容をもとに、参考書の該当部分を読み知識の幅を広げる。			
5. 教科書 なし。クラスウェブから資料（PDF）を配布する。			
6. 参考書 1. 岸本美緒『中国の歴史』（ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015 年） 2. 岡本隆司『世界史とつなげて学ぶ中国全史』（東洋経済新報社、2019 年） 3. 津田資久・井ノ口哲也編『教養の中国史』（ミネルヴァ書房、2018 年） 4. 『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997 年～2003 年）			

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業時に全体の講評をするほか、必要に応じてクラスウェブのコメント機能を使用する。

8. 成績評価の方法

1. 小テスト（30％）・期末試験（70％）による。
 - （1）第7講終了後に小テストを行う。
 - （2）期末試験は記述式で行う。単語の羅列や意味の不明な文章は解答とみなさず、単位を認定しない。
2. 出席回数が7割未満の場合は単位を認定しない。

9. その他

本授業を補完する書籍は以下の通り。

- （1）世界史全体にかかわる書籍

妹尾達彦『グローバル・ヒストリー』2刷修訂（中央大学出版部、2021年）

川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016年）

世界史リブレットシリーズ（山川出版社）※歴史学の様々なテーマについてわかりやすく解説している。

- （2）中国史についての概説書

中西竜也・増田知之編著『よくわかる中国史』（ミネルヴァ書房、2023年）。

『世界歴史大系 中国史』1～5（山川出版社、1997年～2003年）。

『中国の歴

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0)HIS131J	
科目名		西洋史概論	
担当者		小野寺 利行	
2 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 ヨーロッパの中世から近代までの歴史を概観する。ヨーロッパの歴史を、国家の仕組みや政治に関与する人々の変化に焦点を当てて学んでいくことを目的とする。現代では国民のほぼ全員が政治に参加しているが、過去の歴史を見ると常にそうであったわけではない。そこで、ヨーロッパでは歴史的にどのような人々が政治に関わっていたのか、そして、どのようにして国民のほとんどが政治に関わるようになったのかをみていくことにする。それを通して、ヨーロッパという地域や現代の国家のありかたを歴史的な視点で考える手がかりをつかむことを目指したい。			
2. 授業内容 以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。 1. イントロダクション 2. 中世の社会 3. 中世の国家 4. 中世のキリスト教会 5. 中世の農村と都市 6. 近世の社会 7. 近世の国家 (1) 国家と諸身分 8. 近世の国家 (2) 国家と諸団体 9. 近世の国家 (3) 国家と諸地域 10. 近代のイギリス 11. 近代のフランス 12. 近代のアメリカ合衆国 13. 近代のドイツ 14. (a) まとめ／(b) 試験			
3. 履修上の注意 高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、後掲の参考書に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、参考書や授業で配付した資料を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用せず、資料を Oh-o! Meiji で配付する。			
6. 参考書 授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。 ・『新 もういちど読む山川世界史』『世界の歴史』編集委員会（山川出版社） ・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史 [近現代]』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは次回の授業中に行なう。			
8. 成績評価の方法 ・学期末試験：70％ ・課題：30％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(PE)HIS131J	
科目名		西洋史概論	
担当者		小野寺 利行	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 ヨーロッパの中世から近代までの歴史を概観する。ヨーロッパの歴史を、国家の仕組みや政治に関与する人々の変化に焦点を当てて学んでいくことを目的とする。現代では国民のほぼ全員が政治に参加しているが、過去の歴史を見ると常にそうであったわけではない。そこで、ヨーロッパでは歴史的にどのような人々が政治に関わっていたのか、そして、どのようにして国民のほとんどが政治に関わるようになったのかをみていくことにする。それを通して、ヨーロッパという地域や現代の国家のありかたを歴史的な視点で考える手がかりをつかむことを目指したい。			
2. 授業内容 以下のように授業を進めていく予定だが、状況に応じて変更することもある。 1. イントロダクション 2. 中世の国家と社会 3. 中世のフランス 4. 中世のドイツ 5. 中世のイングランド 6. 近世の国家と社会 7. 近世のフランス 8. 近世のイングランド 9. 近世のドイツ 10. 近代のイギリス 11. 近代のフランス 12. 近代のアメリカ合衆国 13. 近代のドイツ 14. (a) まとめ／(b) テスト			
3. 履修上の注意 高校世界史の教科書や参考書、後掲の参考書などに目を通して、ヨーロッパの中世から近代までの大まかな流れをおさえておくことが望ましい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習では、後掲の参考書に目を通して次回授業の内容を大まかにつかみ、自分なりの疑問点・課題をもって授業に臨むこと。復習では、参考書や授業で配付した資料を利用してノートのまとめ・整理・補足などを行ない、授業内容をまとめる課題や質問などを作成すること。			
5. 教科書 特定の教科書は使用せず、資料を Oh-o! Meiji で配付する。			
6. 参考書 授業中に随時紹介するが、さしあたり基本的な文献を挙げておく。 ・『新 もういちど読む山川世界史』『世界の歴史』編集委員会（山川出版社） ・『もういちど読む山川世界史 PLUS ヨーロッパ・アメリカ編』木村靖二ほか（山川出版社） ・『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』服部良久ほか（ミネルヴァ書房） ・『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』小山哲ほか（ミネルヴァ書房）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対するフィードバックは次回の授業中に行なう。			
8. 成績評価の方法 ・学期末試験：70％ ・課題：30％			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(PE)HIS131J	
科目名		西洋史概論	
担当者		渡辺 知	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 15 世紀のポルトガル、スペインのヨーロッパ外への進出に始まる世界の一体化の過程を世界システム論の観点から概観し、ヨーロッパ近代の歩みが世界の諸地域に与えた影響について考えてみたいと思います。ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在の社会といかに関係するのか、あるいは、一地域の動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。			
2. 授業内容 以下の通り授業を進める予定ですが、進行具合によって若干の変更を加えることもあります。 第 1 回 世界の一体化 この講義のテーマについて説明します。 第 2 回 大航海時代以前のヨーロッパ 1 11～13 世紀のヨーロッパの経済、社会について説明します。 第 3 回 大航海時代以前のヨーロッパ 2 14 世紀以降ヨーロッパで危機的状況が深まっていく過程を説明します。 第 4 回 ポルトガルとアジア ポルトガルがアフリカ、アジアに進出していく過程とその影響について説明します。 第 5 回 スペインとアメリカ 1 スペインのアメリカ進出の過程とアメリカに与えた影響について説明します。 第 6 回 スペインとアメリカ 2 スペインのアメリカ進出がスペインと世界の一体化に与えた影響について説明します。 第 7 回 17 世紀のヨーロッパ 「17 世紀の危機」論争を紹介しつつ、西ヨーロッパ諸国の台頭を説明します。 第 8 回 第一次イギリス帝国の形成 イギリスがオランダ、フランスと対立しながらその帝国を形成する過程を説明します。 第 9 回 イギリス商業革命 イギリスの帝国形成がイギリスの経済、社会に与えた影響について説明します。 第 10 回 西インド諸島と砂糖 イギリスの植民地支配が西インド諸島に与えた影響について説明します。 第 11 回 アフリカと大西洋奴隷貿易 イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国による大西洋奴隷貿易の展開とその影響について説明します。 第 12 回 フランス革命と環大西洋革命 1 フランス革命の展開について説明します。 第 13 回 フランス革命と環大西洋革命 2 フランス革命をその時期大西洋の両岸で起きた出来事と関連付けながらその意義を説明します。 第 14 回 a まとめ b 試験			
3. 履修上の注意 西洋の歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史になじみがなかった方の受講も歓迎します。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業で紹介した問題について参考文献等で調べてください。授業前に前回の授業ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。			
5. 教科書 特に定めません。			
6. 参考書 参考文献として以下の文献を紹介しておきます。授業で随時、紹介してきます。 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016 年）			
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業でコメントします。			
8. 成績評価の方法 授業の区切りに授業内容のまとめや感想を書いて頂き、これを平常点とします。学期末には試験を行い、成績はこれらの総合評価とします（学期末試験 80％、平常点 20％）。			
9. その他 オフィスアワーは最初の授業でお知らせします。			

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(LA)GE0131J		
科目名		地誌学概論		
担当者		内藤 芳宏		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標 教職課程におかれている「地誌学概論」であることを考慮し、中学・高等学校の教員に求められる地誌学の基礎・基本から専門領域に加えて、既存の概念から応用する授業事例も触れていきたい。地理は知らない土地の知らない人たちや自然に対する好奇心から成り立っている。とくに地誌学は特定地域における自然と人文の諸事象とその関係を考察し、地域的な特徴を究明すること、すなわち地域を知ることが目的とされる。地誌学の楽しみを得ることで、将来のあなたの教え子たちに還元するための糸口になることを目指したい。なお 2022 年度より高等学校で必修化された「地理総合」では地誌を扱わないが地図学習は入るため、それを意識した内容とした。また続く科目の「地理探究」で地誌的内容を扱うことを意識したい。				
2. 授業内容 第 1 回：オリエンテーション 地誌学を学ぶということ 第 2 回：地誌学の基礎①学校教育の地誌とは 第 3 回：地誌学の基礎②日本を扱う（都市近郊） 第 4 回：地誌学の基礎③日本を扱う（農山村部） 第 5 回：地誌学の展開①専門性を活かした地誌 地形図の活用（段彩図） 第 6 回：地誌学の展開②専門性を活かした地誌 地形図の活用（谷と尾根） 第 7 回：地誌学の展開③専門性を活かした地誌 地形図の活用（土地利用図） 第 8 回：地誌学の展開④専門性を活かした地誌 統計地図の活用 第 9 回：地誌学の展開⑤専門性を活かした地誌 フィールドワーク・校外学習 第 10 回：地誌の授業実践①旅をつくる 第 11 回：地誌の授業実践②空間認識と時差 第 12 回：地誌の授業実践③アルプス山脈の暮らしを事例とした授業展開例 第 13 回：地誌の授業実践④小さな国の環境大国 第 14 回：学期末試験 ※内容の順番を入れ替え場合がある。				
3. 履修上の注意 授業にきちんと出席し、学ぶ姿勢を示すこと。また毎回授業に関する「リアクションペーパー」の提出を求める。教職を目指す履修者の皆さんに求められるマナーは誠実であること。受講者は教員を目指すからには、揺るぎない自らに負けない真剣な姿勢を求めたい。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 復習を大切にすること。とくに地誌は地理的位置関係および付随する情報が講義で扱われる。今日の授業で何を学んだのか、確実に理解すること。そのためにはノートの整理が肝要である。				
5. 教科書 教科書はとくに指定しない。映像資料やプリントを教科書代わりに使用する。ただし地理は地名や位置をその都度確認するためにも、高校時代に地理の授業で使用した地図帳を用意しておくこと（高校時代に地理の授業を受けていない者は同等のものを用意しておくこと）。また 5 回目の講義から国土地理院発行の地形図(国土地理院発行 1/25000 地形図「赤穂」を各自で購入)を用いた作業も行う。作業の際は 12 色の色鉛筆(小中高時代に買ったもので十分)を一緒に用意すること。 ※地形図は予め各自で購入しておくこと。初回の授業を受け、履修				
6. 参考書 地理・地誌に関わる入門書として以下を紹介する。 大野新・竹内裕一編『世界をつなぐ地理総合の授業』大月書店 地理教育研究会編『地理で読み解く現代世界-授業のための世界地理』古今書院 今尾恵介『地図帳深読み』帝国書院 上杉和央 小野映介編『みわたす・つなげる地誌学』古今書院				
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内に指示する簡単な課題(例えば、自身の出身地を中高生の地理の授業で扱う場合のキーワード等)をその後の授業で紹介し、受講している学生諸君同士の参考にすべくフィードバックする。また地形図作業は終了後提出したものを評価し返却する。				
8. 成績評価の方法 毎回出席をとる。3 分の 1 を休んだ者には単位は与えられない。成績評価は学期末試験 60％、平常点（提出物および授業への貢献度）40％等を総合的に判断する。				

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0)GE0111J	
科目名		人文地理学概論	
担当者		高橋 珠州彦	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 人文地理学は人間活動の空間的諸相に関わる学問分野である。本授業科目は、人文地理学の見方・考え方を身につけてもらうことを狙いとする。今日、人文地理学の研究対象またはアプローチは多様性に満ちているが、本科目は地図の種類と活用法も学んだ上で、特に景観的視点、空間構造的視点を理解するために、人文地理学の知識体系及び地図やフィールドワーク、地理情報システムなどの地理学研究の基本的方法を講義する。 本授業を通して、受講者は人文地理学を構成する各々の研究分野の歴史や基本概念について、具体例をとして地理学がいかなる学問であるかを理解し、説明できるようになることを到達目標とする。また、人間の生活・活動・行動が展開する空間、場所、環境に対する深い認識と説明力を習得し、地理学の見方で身近な空間を理解できるようになることも求められる。			
2. 授業内容 第1回 地理学・人文地理学とは何か ～講義概要等について確認・説明～ 第2回 地図の歴史と地理学1 ～世界図の歴史～ 第3回 地図の歴史と地理学2 ～日本の絵図と地図～ 第4回 現代地理学の定義 ～研究分野の分け方～ 第5回 現代地理学の理論1 ～中心概念：空間、場所、環境～ 第6回 現代地理学の理論2 ～「立地」の考え方～ 第7回 現代地理学の課題と人文社会 ～人文地理学の諸分野と研究対象～ 第8回 様々な事象を結びつけて分析する地理学1 ～「生活文化」を地理学の視点で考える～ 第9回 様々な事象を結びつけて分析する地理学2 ～「生業」を地理学の視点で考える～ 第10回 地図の基本と応用・フィールドワーク ～地図学習の必要性和地域調査～ 第11回 地理情報システムの基本と利活用 ～空間情報・地理情報とは何か～ 第12回 地理学の視点で地域を考える（事例解説）1 ～東京大都市圏の現状と課題～ 第13回 地理学の視点で地域を考える（事例解説）2 ～近郊農業地域の現状と課題～ 第14回 課題レポートへの取り組み・全体の総括			
3. 履修上の注意 中学校や高等学校で学んだ「社会科地理的分野」「地理歴史科地理分野」の学習内容を、本科目の予備知識として持っていることが望ましい。高等学校で地理科目を履修していない場合や、中学校・高等学校での学習内容が予備知識として備わっていない場合は、必ず事前に復習しておく必要がある。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「2. 授業内容」記載の内容や、毎回の授業で行う次回授業の予告を参考に、関連する内容について自主的に「6. 参考書」掲載の書籍で予習を行う。また、高等学校までの学習内容も復習し、授業内容の理解に努める。授業終了後は、授業内で扱った事例や専門知識について、各自の理解度に応じて参考書等で内容を確認し、理解の定着を図る。			
5. 教科書 特に定めない。			
6. 参考書 高等学校で使用した、地理の教科書、地図帳を手元に用意し、必要に応じて参照する。 そのほか、以下の概説書に目を通し、理解を深めるよう努める。 『地理学入門（改訂版）』浮田典良、原書房。 『地理学概論（地理学基礎シリーズ1）』上野和彦ほか編、朝倉書店。 『自然地理学概論（地理学基礎シリーズ2）』矢ヶ崎典隆ほか編、朝倉書店。 『地誌学概論（地理学基礎シリーズ3）』高橋日出男ほか編、朝倉書店。 『ジオ・パル NEOー地理学・地域調査便利帖』野間晴雄・香川貴志ほか、海青社。 『人文地理学』竹内克行ほか編、ミネルヴァ書			
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の授業終了時にリアクションペーパーを兼ねた小レポートの提出を求める。この小レポートに記載された内容から、受講者の理解度を確認し、質問等を受け付ける。翌週の授業では、小レポートで提示された質問や疑問に対して、全体にフィードバックを行う時間を設定する。質問や疑問などを共有することで、受講者間の学習の共有を図る。各自の学習成果として取り組む最終回の課題レポートについては、必要に応じて質問等に応じるが、全体へのフィードバックは行わない。			

8. 成績評価の方法

最終の課題レポート：70%

毎回の小レポート：20%

授業への参画（授業内での活動やリアクションペーパー）：10%

最終の課題レポートの記述内容は、本科目の受講を通した最終的な成果として重視する。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0)GE0121J	
科目名		自然地理学概論	
担当者		若松 伸彦	
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 自然地理学はその地域の気候、地形、水文、植生等の自然環境を総合的に捉える学問分野である。地理というと、社会科の一科目であり、事象の暗記科目と思われがちである。しかし自然地理学は、実際には私たちの身のまわりにある自然環境がどのようなものを理解し、その仕組みや因果関係を学ぶことが非常に大切である。本講義は、自然環境に関する基礎的な知識を身に付け、総合的に自然環境を捉える能力を身に付けることが目標である。このような能力を身に付けることで、自然災害や地球環境問題に対しての正しい対処が可能になる。			
2. 授業内容 第1回 a：自然地理学の見方・考え方（ガイダンス） b：自然地理学の基本 第2回：惑星としての地球 第3回：地震の仕組み 第4回：火山 第5回：岩石と地層 第6回：地形の基本 第7回：平野の地形 第8回：山地の地形 第9回：河川の地形 第10回：氷河地形、周氷河地形と海岸の地形 第11回：地球のエネルギー収支と大気大循環 第12回：世界の気候と植生 第13回：日本の気候と植生 第14回 a：講義のまとめ b：試験			
3. 履修上の注意 積極的な授業の参加を望む。授業内容はいわゆる理系の地学の領域を含むが、文系学生でも理解できる内容である。自然地理の基本的な知識から最新の環境問題まで、講義では幅広く扱う。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に web システムによってプリントを配布するので、必ず印刷をして持参すること。 プリントは図表及び板書を補助するためのプリントであり、復習や授業後の整理を行うことが望ましい。			
5. 教科書 『新詳高等地図』（帝国書院）2019 年 高校時代に地図帳を購入している者は代用しても良い。 他に教科書は定めないが、参考書があると授業の理解が進む。			
6. 参考書 『みわたす・つなげる自然地理学』 小野映介・吉田圭一郎 編（古今書院）2021 年 『自然地理学概論』高橋日出男・小泉武栄編著（朝倉書店）2008 年 『上高地の自然誌』上高地自然史研究会編（東海大学出版会）2016 年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける			
8. 成績評価の方法 講義態度 10%，期末試験 90％で評価する。			
9. その他			

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0) LAW111J		
科目名		法律学概論		
担当者		市川 直子		
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台	
1. 授業の概要・到達目標 法（律）とは社会を統制する術の1つであり、無数の法（律）が様々な考え方や価値観を採用しながら「法的に」社会で発生する問題を解決してきました。法（律）は長い歴史と伝統を有するものですが、皆さんが正義に適った解決だと考えるものと現在の法（律）における考え方が一致していないことがあるかもしれません（例えば、皆さんの中には「人を殺害しておきながら心の病気を理由に無罪になるのはおかしい」、「悪いことをしたのだから罰としてまずは逮捕されるべきだ」と考えている人がいるかもしれませんが、これらの考え方は刑法、刑事訴訟法の原則や考え方と整合的とはいえません）。もちろん、現在の法律のあり方が絶対に正しいというわけではありませんが、皆さんがどのような考え方をするにせよ、法的な思考や議論をするために法律に関する現状を正しく理解することはとても重要です。そこで、本講義では、我が国において現在通用している代表的な法律に関する知識やその背後にある価値観等を根拠条文と現実の事件を題材にしながら学ぶことで、法律に関する基礎知識を獲得するとともに「法的」に物事を捉える力の一部を養ってもらいます。 具体的な到達目標としては 1. 各法律の基本概念の意義や根拠条文を理解していること（法律の基礎知識の習得） 2. 現実の事件ではどのように解決されてきたのかの理解していること（知識の現実の事件への適用） 3. 現在の解決策について自分がどのように考えるかを根拠とともに説得的に述べる能力の獲得すること（法的思考能力・法的コミュニケーション能力の習得） を掲げます。				
2. 授業内容 第1回 導入・法（律）とは何か 第2回 憲法（1） 日本国憲法の基本原理 第3回 憲法（2） 法の下での平等 第4回 憲法（3） 精神的自由 第5回 憲法（4） 経済的自由 第6回 憲法（5） 学校で起こった憲法事件 第7回 憲法（6） 統治 第8回 民法（1） 財産法 第9回 民法（2） 家族法 第10回 刑法（1） 刑法の基礎知識 第11回 刑法（2） 正当防衛と責任（無）能力 第12回 刑事訴訟法（1） 刑事訴訟法の基礎知識 第13回 刑事訴訟法（2） 捜査と証拠の基礎知識 第14回 総括・国際法 ※講義内容・順序は必要に応じて変更することがあります。				
3. 履修上の注意 教員がレジュメを用意し、講義を行います。レジュメは各回の講義前にWeb上にアップします。参加者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加して下さい。（PCやタブレットにダウンロードする形で構いません。） 講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合があります。変更する場合は事前にアナウンスします。 講義内容に関する質問は、基本的に講義前又は講義後の時間で対応します。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習としては、事前にレジュメを読み、気になったところや理解が難しいと感じたところを自分で分かるようにチェックしてください。可能であれば図書館等で各法律の教科書（なんでも構いません）の該当部分を確認しておいてください 復習としては、レジュメを参照しながら各テーマについて①意義、②具体的な事例、③現在の通説的な考え方などを整理・把握したうえで、自分はどのように考えるかについてもまとめておきましょう。				
5. 教科書 基本的には以下の本を基礎にレジュメを作成しますが、購入は必須ではありません。また、第1回の講義において学習する際の教科書等のおすすめについて説明する予定です。 大谷實編著『エッセンシャル法学〔第8版〕』（成文堂、2025）				
6. 参考書 参加者の理解の助けになるとと思われる参考文献等については、各回のレジュメに記載します。				

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題についてのフィードバックは、授業時もしくは Oh-o!Meiji を通じて行います。

8. 成績評価の方法

期末試験（80％）と中間レポート（20％）で評価します。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／	
科目名		法律学概論	
担当者		古島 靖也	
2 単位	1 年次	春学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 本講義では法ないし法律についての基本的な知識と考え方、および憲法・民法・刑法を中心とする基本的な法律に関する知識と考え方を学習することができる。 近代以降の国家社会は「法治国家」だといわれている。そこでは、憲法・民法・刑法などの法規を含む法体系が存在し、これを根拠に、そしてその範囲内で国家社会は機能し、また国民個人の生活も営まれている。したがって、我々の日常生活は出生から死亡まで法により規律されている。受講生には、そのような社会で強かに生きるための法的なものの見方、そのための基礎知識を身につけてもらう。また、本講義では常識的・一般的な知識を有する国民が陥りがちな法・法律（学）やこれに関する事情への誤解を払拭することも取り組まれる。 上記の知識と考え方を身につけること、社会的な規範が働く場面における、論理的・批判的思考能力を身につけること、実社会における法的な問題に対し、問題状況を理解し、自分なりの妥当な解決策を提示する力を身につけることが授業の目標である。さらなる究極的な目的としては、受講生が、法に満ち溢れる社会において、この社会に対する十分な知識と思想を持ち、独立した人格として思考・判断をなして力強く生き抜く能力を養うことが目指される。			
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 法学の意義、法学を学ぶ意義 - 「法律とは無縁の生活」？ 第2回 法と法律の基礎知識(1) 法分野、民事と刑事、紛争の処理 第3回 法と法律の基礎知識(2) 司法制度 第4回 法と法律の基礎知識(3) 法源、法解釈 - 「それってあなたの解釈ですよ」 第5回 法と法律の基礎知識(4) 法解釈、法と規範 第6回 法と法律の基礎知識(5) 日常・現代社会と法 第7回 法律の読み方(1) 条文の読み方 第8回 法律の読み方(2) わかりにくい・間違われる法律用語・表現 - 「言葉は正しく使いましょう」 第9回 法律の読み方(3) わかりにくい・間違われる法律用語・表現・コメント返し 第10回 憲法とは何か 第11回 民法とは何か 第12回 刑法とは何か 第13回 さまざまな法領域・国内法と国際法 第14回 授業のまとめ・コメント返し			
3. 履修上の注意 教員が各回のレジュメ・資料等を用意し、講義を行う。レジュメ等は各回の講義前に Web 上にアップロードする予定である。受講者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加すること。(印刷をして持参してもよいし、電子機器にダウンロードするのもよい。) 六法を持参するか、スマートフォン・PC 等の電子機器を持参し、授業中に法令を参照することができるようにすること。 各回の講義で取り扱う内容は上記の通りであるが、あくまで予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合がある。 受講生に対し発言を求めることがある。 毎回、またはときおり、ごく簡単な講義へのリアクションを含む簡易な課題を提示し、受講生に提出してもらう。課題類は基本的に電子データで提出してもらう予定である。その際、特に簡易なレポート形式の課題に際しては PC で当該課題を作成することが望ましいので、PC を扱えるようにしておくか、仮にスマートフォン・タブレット等で作成せざるを得ないとしても、PC で作成したものと見分けがつかないほどのものを提出できるように機器の扱いに習熟しておくこと。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習 レジュメや参考書類の講義該当箇所を少しでも読み、理解できないところを明確にしておくこと。さらに当日扱うテーマについて、他の資料があれば目を通しておくこと。 復習 講義資料、ノート等の見直し・整理、参考書類の理解確認を早期に行うこと。			
5. 教科書 教科書は指定しない。ただし、「法学」関係参考書類から 1 冊は選択し、所持して持参することが望ましい。各自の電子機器類で電子書籍を参照するのもよい。 版の古いものは推奨しない。			

6. 参考書

『ウォーミングアップ法学』石山文彦ほか編（ナカニシヤ出版）
-やや高価、厚めだがとても簡単。講義資料や講義の進行はこの本に基づく部分が多くなる予定。
『法学入門』宍戸常寿、石川博康編（有斐閣）
『法学入門』永井和之、森光編（中央経済社）
-やや安価で薄め。
『ゼロからはじめる法学入門』木俣由美（法律文化社）
-おもしろいので一人で読み進められる。はじめから見直したいときに。

7. 課題に対するフィードバックの方法

授業中に、採点後の講評またはいわゆる「コメント返し」の形で行うか、提出物に対する添削・コメントの形で行う。

8. 成績評価の方法

期末試験 90%、リアクション等課題 10%
ただし授業への貢献度や追加の課題の達成状況によってさらに加点することがある。

9. その他

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0) LAW111J	
科目名		法律学概論	
担当者		石居 圭	
2 単位	1 年次	春学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 本講義ではまず、憲法・民法・刑法を中心として、法の基本的な事項を知ってもらいます。しかし、法律学は「条文の丸暗記でよい」というような単純なものではありません。法律の文言は多くの事案に対応できるよう、意味に幅をもたせる形で表現されています。それゆえ、実際の事案では、異なる利害関係や価値観をもった者たちが条文の「解釈」をめぐる争うこととなります。そこで、実際の判例をみながら、法律の運用のされ方やその解釈も学びます。 法律学を学ぶ意義は、多様な考え方や価値観が対立する社会において、どのように秩序を与えるかを考えられるようになるという点にあり、本講義もそれを到達目標に掲げます。 具体的には、 ・公平なものの考え方（特定の者だけを優遇したり、不当な差別をすることなく、一定の基準に従って公平にものごとを処理する能力） ・論理的思考力（自分の考えを整理し、納得のいく根拠をもって、わかりやすく自身の見解を主張する能力） ・多面的な利益への視点（事件当事者だけでなく、将来の被害者や社会への影響など、様々な利益を考慮した上で自身の見解を形成する能力） といったものを得ることを到達目標とします。			
2. 授業内容 第1回： 法とは何か、法の学び方 第2回： 憲法の基本原理 第3回： 平等権 第4回： 精神的自由 第5回： 経済的自由 第6回： 人身の自由 第7回： 社会権 第8回： 国会 第9回： 内閣 第10回： 司法 第11回： 財産と法 第12回： 家族と法 第13回： 犯罪と法（1）——犯罪の「成立」について 第14回： 犯罪と法（2）——犯罪の「不成立」について			
3. 履修上の注意 毎回レジュメを配布します。授業には毎回出席し、教科書とレジュメを必ず持参してください。質問は授業中でも授業後でも受け付けます。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 法学の学習は、ある程度暗記の形で用語をインプットする必要があります。そこで予習においては、教科書を読みつつ、参考書や六法を用いて、専門用語の意味内容を条文と学説を参照しながら確認しましょう。 そして復習の際には、講義で示された設例を通して、得た知識を文章で表現する練習をしましょう。とくに条文や制度、概念の内容・目的・異同については、入念に復習し、定期試験の論述問題に備えましょう。 [b][u]*まだ教科書内で対応していない法改正や判例など、説明しておくべきことがいくつかあるので、教科書を読むだけでなく、必ず授業に出席してください。 また、中間と期末の出題では、教科書からだけでなく、授業中に説明した事項も範囲として含まれます。やはり、授業に必ず出席してください。[/u][b]			
5. 教科書 大谷實編著『エッセンシャル法学〔第8版〕』（成文堂、2025年）			
6. 参考書 本講義では多くの法領域を取り扱うため、ここで一括して参考文献を示すことはしませんが、法学学習において有用なものとしては、横田明美『カフェパウゼで法学を——対話で見つける〈学び方〉』（弘文堂、2018年） 田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&リポート 第2版』（有斐閣、2019年） 弥永真生『法律学習マニュアル 第4版』（有斐閣、2016年） 等があります。			

7. 課題に対するフィードバックの方法
8. 成績評価の方法 期末試験 5 0 %、中間課題 5 0 %
9. その他

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0)PHL111J	
科目名		哲学概論	
担当者		宇田川 尚人	
2 単位	1 年次	秋学期	和泉
1. 授業の概要・到達目標 《授業の概要》 この「哲学概論」は、今期は特に、同じ資格課程の「倫理学概論」の後半テーマと連動する設定になっている。 (もちろん単独履修は可能である) 両者で問われているのは「人格形成」に関わる問題であり、「倫理学概論」の後半の「新たな教育論の現場から」では、「SNS と生成 AI の利用が子供達の人格形成にどのような影響を及ぼすのか」という問題提起をしているが、こちらの「哲学概論」では、そもそも近代以降の哲学者・心理学者が「教育と人格形成の関係をどう考えてきたのか」という観点から3つの「人格形成論」を紹介するものである。 そこで、まずこの授業では「人格形成」をめぐる3つの歴史的に異なる考え方を紹介し、次にそれぞれの考え方が現代を生きる我々の生活に、どのように関わっているかを、具体例の考察を通して解説してゆきたい。 《到達目標》 目標は、1) 氾濫する情報と多様化する価値観の中で、(単なるトレンドに終わることのない) 真の時代の要請や社会のニーズを、受講者一人一人が読み解く能力を獲得することと、2) 歴史的[u]思想や理論の現代的有効射程距離を検証するという<練習>を通して[/u]、各自が「自己」と「社会」との関係を論理的に分析し考察する〈コツ〉を身につけることにある。			
2. 授業内容 1. 序 現代における教育と人格形成の諸問題 2. [u]カント — 自由意志に基づく人格形成[/u] 3. 悪はすべての人の心の内に？ — 良心と悪 4. 根源悪とは何か？ 5. 悪への自由と人格の自己実現への自由 6. 人格形成論と機械仕掛けのマリオネット (＝SNS 時代の「情報に流され思考停止する人々」) 7. [u]フロイト — 偶然と無意識に基づく人格形成[/u] 8. エス・自我・超自我 — 無意識の欲動って何？ 9. 偶然と環境が欲動を縫いあわせ人格を作る？ カント vs フロイト 10. 後期タナトス論 (自己破壊衝動と攻撃性) が突きつける課題 (何故人はネット社会でより攻撃的になるのか？) 11. [u]レヴィナス — 他者への責任によって形作られる人格形成[/u] 12. 他者理解の限界と (人には解ってもらえない) 私の心の「内部性」との非対称性 13. 新たな「哲学」と「倫理」の役割 — ネット社会における「同調圧力」と「承認欲求」から全体主義的な暴力 (戦争) まで— 14. 逆説的な「他者の為に」と私のアイデンティティー ＊ 今年度の資格課程の「哲学概論」は私の政経学部での「哲学概論」とは全く別テーマです。 また、この人格形成をめぐる考察は私の経営学部での「倫理思想 B」と一部内容が被ります。			
3. 履修上の注意 毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるがあるので、その旨注意すること。 その他の注意点は初回に述べる。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。 また、 3) 配付資料に書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。			
5. 教科書 プリントを必要に応じて配布または Web (Oh-o! Meiji) 上に UP する。			
6. 参考書 参考文献は授業の中で紹介する。			

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。

8. 成績評価の方法

この授業は、受講者が比較的少人数であることが予想される為、

[u]成績評価の方法は、学生との話し合いによって決めることにしているが、近年は例年平常点のみでの成績評価となっている[/u]。

但し、人数が多い場合は、(Oh-Meiji 上での) 課題提出 (40%) と学期末レポート (60%) で成績を評価する。

詳細は初回の授業で報告する。

9. その他

特になし。

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0)PHL121J		
科目名		倫理学概論		
担当者		宇田川 尚人		
2 単位	1 年次	春学期	和泉	
1. 授業の概要・到達目標				
《授業の概要》 主に倫理学＋心理学＋哲学の立場から、 1) 授業では、まず学校及び社会一般で、いじめ乃至ハラスメントが生じるに至る心理的背景を考察し、併せてそれらがもたらす「人格形成」への影響を解説する。 その際特に注目するのは、「いじめ」と「排除の論理」の関係である。 2) 次に「[u]情報化社会が突きつける諸問題[/u]」として、「同調圧力」や「承認欲求」の症例分析を通して、「同型性に基づく他者理解の本質とその限界」を明らかにする。そこでは、今の若者達が「いいね」(評価)を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく姿が目撃されるだろう。 その際の中心テーマは、ネットの中で増殖する「バーチャルな私」と欲望によって「侵食される自己及び他者の心」である。 3) そして最後は「[u]新たな教育論の現場から[/u]」と題して、従来型の倫理観が機能しずらくなっている現状を示し、SNS 時代における新しい「倫理」の役割と教育の在り方を、一つの試論として紹介する。 ここでの中心考察テーマは、近年子供達の間でも顕著になっている SNS と「生成 AI」の利用が子供達の「人格形成」にどのような影響を及ぼすのかという考察 である。 《到達目標》 この授業で学習した倫理的視点に基づき、今日の社会で起こっている様々な問題のいずれに対しても、自分なりの見解を持てるようになること。また授業での思考訓練を通して、具体的な状況の中で「自己」と「社会」との関係を倫理的に分析し考察する能力を身につけること。				
2. 授業内容				
1) [u]問題提起[/u]---〈道徳〉はあるが〈倫理〉のない日本？ 倫理的〈対話〉の 12 原則 2) エゴイズムの変形としての「やさしさ」vs 真のやさしさ？ 3) 社会に蔓延する「思いやり」という名の「思考停止」システムについて 4) 「いじめ」と排除の論理 5) 自分は関係ない・中立だと思っている「傍観者」に潜む「悪」について 6) [u]情報化社会が突きつける諸問題[/u] 7) 同型性に基づく他者理解とその限界---あるいは「同調圧力」と「承認欲求」 8) 「いいね」(評価)を必死で求めて、本当の自己を失ってゆく人々 9) 理解像の外に位置する「他者そのもの」と私の「内部性＝心」 10) [u]新たな教育論の現場から[/u] 11) AI と倫理 ― 便利だが、思考の「発達」を奪う「Attention Economy」と「生成 AI」 12) 人格なき「チャッピー」に恋する人々と私の「最高の理解者」？の AI の勧めに従って自殺する人々の「孤独」 13) その背景として考えられる、ネット社会での真の「他者」の不在あるいは「他者の喪失」がもたらす「人格形成」の歪み 14) SNS 時代あるいは AI 時代における新しい「倫理」の役割と教育 ＊ 11, 12&13 は私の講義「倫理思想 A」と一部内容が被ります。				
3. 履修上の注意				
毎回出席し、集中して聴いていないとついてゆけなくなる可能性があるため、その旨注意すること。 その他の注意点は初回に述べる。				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
配付資料はざっと読んだだけではわからないかもしれない。それでも必ず目を通し、 1) 自分の理解が正しいか自信のない箇所や、 2) 理解できていないと思われる箇所をあらかじめチェックしておくこと。 また、 3) 配付資料に書かれていないが授業内で理解の為に「重要」と説明された「概念」や「キーワード」は必ずメモを取り、 4) それらの「論理関係」を手掛かりとして、もう一度配布資料を復習の際に読み込むこと。				
5. 教科書				
プリントを必要に応じて、配布または Web（Oh-o! Meiji）上に UP する。				

6. 参考書

PHP 新書 中島義道「対話のない社会」
勁草書房 中島義道「悪への自由—カント倫理学の深層文法」
勁草書房 佐藤義之「レヴィナスの倫理」等
その他の参考文献は授業の中で紹介する。

7. 課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバック（質問への回答、間違いの指摘、優秀な考察例の紹介等）は、原則として翌週の授業内で行う。学期末レポートの返却は希望者に対してのみ行う。

8. 成績評価の方法

毎回の課題（Oh-Meiji 上に提出）（40%）と学期末のレポート（60%）で成績を評価する。
また[u]最低三分の二以上の出席と課題の提出[/u]を学期末レポート提出の[b]最低条件[/b]とする。
但し、駿河台校舎での授業は少人数を前提としている為、学生との話し合いによって平常点のみで評価する可能性がある。
詳細は初回の授業で報告する。

9. その他

特になし

科目区分／科目ナンバー		教職専門科目／(C0) CST111J	
科目名		職業指導	
担当者		阿部 英之助	
2 単位	1 年次	秋学期	駿河台
1. 授業の概要・到達目標 本講義では、現代社会における職業教育の意義と課題を学ぶとともに職業教育の現状について理解を深めます。 具体的には、①青年期における進路選択問題、②高等学校における職業指導および職業教育の実際、③職業指導および職業選択の課題、以上の3点を通じて、青年期における職業教育を理解します。 この講義の到達目標は、①現代社会における職業の役割と労働構造の変化について把握する。②学校教育における職業教育の意義と歴史について理解する。③青年期における職業指導および職業選択について理解し、進路指導の方法を修得することです。具体的な事例を通じて現代社会および学校教育の現状と、様々な視点から職業指導および職業教育の在り様を理解していきます。また同時に、受講生のキャリア意識やキャリアガイダンスも併せながら授業を展開していきます。			
2. 授業内容 第1回：a：イントロダクション（講義のねらい、職業指導の意義） b：現代社会における職業（1）～現代社会の現状とその理解～ 第2回：現代社会における職業（2）～働くことの意義を考える～ 第3回：現代社会における職業（3）～労働構造問題と格差社会～ 第4回：現代社会における職業（4）～労働基準法と労働環境問題～ 第5回：青年期の進路と進路指導（1）～高校生の進路動向と進路保障～ 第6回：青年期の進路と進路指導（2）～高校生の就職状況と就職問題～ 第7回：高等学校における職業指導（1）～普通教育と専門教育～ 第8回：高等学校における職業指導（2）～商業高校の現状と高度専門化の対応～ 第9回：高等学校における職業指導（3）～高等教育における職業教育～ 第10回：高等学校における職業指導（4）～商業教育の課題と職業指導の実際～ 第11回：新たな職業指導の問題と課題～障がい者雇用の現状と実際～ 第12回：諸外国の職業指導の実態（1）～諸外国の職業教育の現状～ 第13回：諸外国の職業指導の実態（2）～ドイツ・イギリスの事例から～ 第14回：a：講義全体ふりかえり b：試験			
3. 履修上の注意 この講義は、基本的には教員免許取得（高校商業免許等）を目指している学生及び教職志望向きの資格科目である。それ以外でも、授業内容に興味・関心があれば、履修は妨げません。 最初に新聞・雑誌や調査データなどの具体的な事例の紹介を通して、現代社会における職業世界の姿を知り、その背景にある理論的位置づけなどを学んでいきます。また、授業毎に簡単な「コメント」や「ワークシート」を通して、自分の見解・意見をまとめる作業を行い、授業内容の定着を図りたいと思います。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 事前に次の講義に使用する資料または内容によってはワークシートを配布しますので、事前に読み込んでおくか、関連事項のキーワード検索を行い、講義内容の理解を深めてください（必要時間としては30～1時間程度）。また、授業回数が半分を過ぎたら、中間まとめと中間チェック・テストを行いますので、配布した講義資料及びノートはしっかり復習しておいてください。			
5. 教科書 教科書は使用しませんが、教員が作成した講義資料を使用します。			
6. 参考書 『新時代のキャリア教育と職業指導』佐藤史人編（法律文化社）2018年 『職業教育・産業教育ハンドブック』日本産業教育学会編（大学教育出版）2013年 『日本と世界の職業教育』堀内達夫編（法律文化社）2013年 『キャリア教育のウソ』児美川孝一郎（筑摩書房）2013年 『夢があふれる社会に希望はあるのか』児美川孝一郎（ベストセラーズ）2016年			
7. 課題に対するフィードバックの方法 中間まとめと中間チェック・テストの解説については、Oh -o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。			

8. 成績評価の方法

成績評価は、平常点（授業への参加度・貢献度，発言など）15%、授業小レポート課題 15%、学期末試験 70%の合計 100%によって総合的に評価をします。試験は、対面で実施します。また，皆さんの積極的な関わりを期待しますが，授業に直接関係のない私語は厳禁とします。場合によっては，退席と評価対象外として処理させていただきます。

9. その他